

科目名	北河内を知る	科目名 (英文)	Introduction to Kita-kawachi Studies
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	増田 知也, 小林 基
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: A○, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL01453a1, L科: LL01355a1, D科・S科: IL01362a1, P科: YL01418a2, J科: JL01364a1, W科: WL01343a1, N科: NL01344a1		

授業概要・目的	<p>摂南大学と大学が立地する「北河内」に焦点をあて、この地域の市町村の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」から、地方自治体の現状と課題をグループディスカッションを行いながら学び、地域との関わり方を考える。</p> <p>授業では、自らが問題意識や疑問をもちながら地域の現状を分析し、多くの疑問点（質問）をだすこと。さらに疑問点（質問）に優先順位をつけ、それに基づいた学修・調査・研究を行うことのトレーニングを行う。</p> <p>またグループワークで互いに議論しながら、ひとつの方向性を見出す大切さを経験する。</p> <p>この授業は授業担当者として、北河内7市の「行政実務者」が担当する。</p>
到達目標	北河内地域の歴史、文化、産業、まちづくりを知り、地域に対する愛着を醸成し、社会の一員として地域とのかかわりの大切さを認識する。さらに地域における課題を発見し解決できる能力に必要な「考える力、判断する力、表現する力」を身につける。
授業方法と留意点	北河内地域の市町村の行政実務者をを学外講師とするオムニバス講義である。授業は、土曜日に集中的に実施し、毎回の授業で「自己学習・グループ学習」「質疑」「グループワーク・成果物のプレゼンテーション」を行う。
科目学習の効果（資格）	ソーシャルイノベーション副専攻の必須科目である。「北河内を知る」を通じて、地域の課題を発見して解決する能力を身につけることに努力する。さらに、外部講師の方々と交流を深め、地域貢献活動に参画し、自ら考え行動することで、生涯にわたり学習する基礎が培われる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 1限	授業の進め方、成績評価方法 グループワークの進め方等を学ぶ	事前課題: 北河内について調べる (30分) 事後課題: 授業の進め方について確認する (30分)
2	チームビルディング 2限	チームをつくり、相互理解を深める。	事前課題: チームでの取組が円滑に行くにはどのようなことが大切か考える。 事後課題: チームビルディングの成果をまとめる (30分)
3	北河内地域に関する講演 1限	北河内地域 (守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市) 行政実務者との質疑応答により、地域課題を発見する。	事前課題: 学修する市の総合戦略等について調べ、レポートを作成する (1時間)
4	北河内地域に関する講演 2限	北河内地域 (守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市) 行政実務者との質疑応答により、地域課題を発見する。	事前課題: 学修する市の総合戦略等について調べ、レポートを作成する (1時間)
5	グループワーク・プレゼンテーション 3限	北河内地域の活性化・課題解決の対応策を策定し、発表する	事後課題: 討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。グループワークの成果物をまとめる (30分)
6	北河内地域に関する講演 1限	北河内地域 (守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市) 行政実務者との質疑応答により、地域課題を発見する。	事前課題: 学修する市の総合戦略等について調べ、レポートを作成する (1時間)
7	北河内地域に関する講演 2限	北河内地域 (守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市) 行政実務者との質疑応答により、地域課題を発見する。	事前課題: 学修する市の総合戦略等について調べ、レポートを作成する (1時間)
8	グループワーク・プレゼンテーション 3限	北河内地域の活性化・課題解決の対応策を策定し、発表する	事後課題: 討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。グループワークの成果物をまとめる (30分)
9	北河内地域に関する講演 1限	北河内地域 (守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市) 行政実務者との質疑応答により、地域課題を発見する。	事前課題: 学修する市の総合戦略等について調べ、レポートを作成する (1時間)
10	北河内地域に関する講演 2限	北河内地域 (守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市) 行政実務者との質疑応答により、地域課題を発見する。	事後課題: 討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。グループワークの成果物をまとめる (30分)
11	グループワーク・プレゼンテーション 3限	北河内地域の活性化・課題解決の対応策を策定し、発表する。	事後課題: 討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。グループワークの成果物をまとめる (30分)
12	北河内地域に関する講演 1限	北河内地域 (守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市) 行政実務者との質疑応答により、地域課題を発見する。	事前課題: 学修する市の総合戦略等について調べ、レポートを作成する (1時間)
13	グループワーク・プレゼンテーション 最終発表会について 2限	北河内地域の活性化・課題解決の対応策を策定し、発表する。 また、最終発表会についての説明を行う。	事後課題: 討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。グループワークの成果物をまとめる (30分)
14	最終発表会 1限	アクションプランをプレゼンテーションし、意見交換により、より深い学びを行う	事後課題: 討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。グループワークの成果物をまとめる。また、プレゼンテーションの練習を十分に行う (10時間)
15	最終発表会 2限	アクションプランをプレゼンテーションし、意見交換により、より深い学びを行う	事後課題: 討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。グループワークの成果物をまとめる。また、プレゼンテーションの練習を十分に行う (10時間)

関連科目 ソーシャルイノベーション副専攻科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	個人レポートの評価 (40%)、グループごとの聴講および討議の態度のルーブリック評価 (30%)、グループワークの成果物 (30%)			
学生への メッセージ	地域創生の第一歩を踏み出してみませんか？			
担当者の 研究室等	増田知也 (法学部・法律学科) 11号館 10階			
備考	学外講師のご都合により、授業計画の内容や実施日、順序等を変更すること、学外の方が聴講すること、授業の様子をカメラ・ビデオで撮影することがあります。ご了解下さい。			

科目名	ソーシャル・イノベーション実務総論	科目名 (英文)	Social Innovation Studies
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	石井 三恵
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: A○, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL01454a1, L科: LL01356a1, D科・S科: IL01363a1, P科: YL01419a2, J科: JL01365a1, W科: WL01344a1, N科: NL01345a1		

授業概要・目的	<p>この授業を通じて学生には、以下の4点のようになることが期待される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) ICT部門が急速な発展を遂げているビジネス社会にあって、ビジネスパーソン自身のあり方も大きく変わってきていることを理解する。 2) ライフスタイルの変化は、単にキャリアパスを視野に入れるのではなく、個として生きる視点を組み込む必要性を意識せざるを得ないことを理解する。 3) グローバル社会において必要とされるビジネス実務ならびにビジネス実務能力とは何かを学ぶ。 4) 変化するビジネス環境の現状と課題について考察し、社会に貢献し、革新を起こすクリエイティビティを發揮する自らの職業観を確立する。 <p>なお、講義は担当講師の民間企業、自治体、NPO法人での業務及び高等教育での教育ならびに経営の経験を活かした内容も含まれる。</p> <p>SDGs-9</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) ビジネスに必要なビジネス実務能力を理解し、計画的に身につける必要性を学ぶ。 2) 社会に貢献するためのビジネスという概念から、「異世代・異文化 (多様性) を主体的に理解する力」、「地域社会の課題を主体的に発見する力」、「主体的に課題を解決し、新しい価値を生み出す力」(3つの力)を理解できる。 			
授業方法と留意点	<p>第一に学問的探究をもち、偏見なく学ぶ姿勢が必要であり、第二に積極的に参画する意識を持つことを求める。</p> <p>また、座学の後、グループワークを通して課題を議論し、もしくは事前に与えた課題に関してのプレゼンテーションを行うこともある。</p>			
科目学習の効果 (資格)	<p>2019年度以前の入学生においては、「ソーシャル・イノベーション副専攻課程」の「アドバンス科目」の「共通」分野に位置している科目である。</p>			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャル・イノベーション実務総論の概要を説明する。 ・グループワークならびにプレゼンテーションに関して説明する。 ・自己紹介後、グループ形成をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: 自己紹介の原案を考えること (2時間) ・事後学修: 「ビジネスのイメージは?」というテーマでルールを守って自由に書くこと (2時間)
	2	ビジネスの定義	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジネスとは何かを考察する。 ・イノベーションが繰り返し唱えられる理由について考察する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: テキストの指定箇所を熟読し、ノートにまとめること (2時間) ・事後学修: ソーシャルイノベーションカンパニーの実例を調べる (2時間)
	3	組織の種類 - 営利組織と非営利組織 -	<ul style="list-style-type: none"> ・阪神淡路大震災後、急速に進化したNPO組織について考える。 ・営利組織と非営利組織について、ディベートを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: NPOについて調べる (2時間) ・事後学修として、営利・非営利組織の対照表を作成すること (2時間)
	4	ビジネス環境をとらえる① - 経済のグローバル化と高度情報化 -	<ul style="list-style-type: none"> ・グローバル化の明暗について考察する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: グローバル化とは何か、新聞記事等の情報を集めること (2時間) ・事後学修: 日本のグローバル化に関する小レポートを作成すること (2時間)
	5	ビジネス環境をとらえる② - 地球環境問題と少子高齢社会 -	<ul style="list-style-type: none"> ・地球環境問題とジェンダーエンパワメント指数について考察する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: ジェンダーエンパワメント指数を調べ、そこから考えたことをまとめること (2時間) ・事後学修: 地球市民として考えたことをまとめること (2時間)
	6	ビジネス現場をとらえる - オフィスからワークプレイスへ -	<ul style="list-style-type: none"> ・「四角いオフィスから無限大の空間」というテーマで自由に考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: 将来の働き方をイメージし、まとめること (2時間) ・事後学修: グループで話し合ったことを主に、個人の意見をまとめたレポートを作成すること (2時間)
	7	ビジネス実務能力	<ul style="list-style-type: none"> ・「働くために必要な能力とは」、というテーマで考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: 働くために必要な知識・スキルはどのようなもので、どのように身につけるかを自身の優先順位、番号をつけた 1 個条書きにすること (2時間) ・事後学修: ・自分に必要な「ビジネス実務能力」をノートにまとめること (2時間)
	8	ビジネス実務の基本① - 仕事の進め方 -	<ul style="list-style-type: none"> ・企業等のビジネス組織で必要とされている「ビジネス実務能力」とは何かを理解する。 ・優先順位の付け方等、具体的な進め方や対応の科学的対処法を学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: 働くために必要な知識・スキルはどのようなもので、どのように身につけるかをまとめること。問題プリント①を解くこと (2時間) ・事後学修: 自分に必要な「ビジネス実務能力」をまとめること。問題プリント②を解くこと (2時間)
	9	ビジネス実務の基本② - ビジネスと諸活動 -	<ul style="list-style-type: none"> ・自己を取り巻く環境の中で、企業等のビジネス組織が展開している諸活動を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: CSRについて調べ、まとめること (2時間) ・事後学修: 一企業のCSRを選び、レポートを作成すること (2時間)
	10	ビジネス実務の基本③ - ビジネスと経営資源 -	<ul style="list-style-type: none"> ・経営資源としての人的資源を中心に学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: 男女共同参画社会に関して調べ、まとめること (2時間) ・事後学修: ・人的資源としてのヒト、あなたの目標を書いてみる (2時間)
	11	自己実現とキャリアプランニング - セルフマネジメントと自己啓発 -	<ul style="list-style-type: none"> ・自己啓発の必要性を理解し、ライフデザインの中のキャリアデザインを考える。 ・社会の中における自己を位置づける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: ・テキストの指定箇所 (pp. 164-174) を熟読し、ノートにまとめること (2時間) ・事後学修: 再度自己振り返りシートを作成し直し、職業を通じた自己意識をレポートにまとめる。 (2時間)

	12	ビジネス実務の基本④ービジネスと PDCA サイクル/マーケティング活動とコストパフォーマンスー	<ul style="list-style-type: none"> PDCA サイクルを理解する。 マーケティングとコストの関係について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修：業界内の 2 社の CM を比較し、その特徴をノートにまとめること（2 時間） 事後学修：次回のグループワークのために、3 つの NPO の資料（スライド 12～13）をしっかりと読み込むこと（2 時間）
	13	ビジネスプラン①ー起業への意識と「寄付の教室」ー	<ul style="list-style-type: none"> 寄付行為の意味を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修：寄付の意味を考え、まとめること（2 時間） 事後学修：寄付行為を行う基準を考えること（2 時間）
	14	ビジネスプラン②ープレゼンテーション	<ul style="list-style-type: none"> 作成したビジネスプランに基づいて発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修：各自がテーマを見つけ、企画書を作成し、発表練習すること（2 時間） 事後学修：ビジネスプランの再考をする（2 時間）
	15	ビジネスプラン②ープレゼンテーション発表と授業の総まとめ	<ul style="list-style-type: none"> イノベーションの意味を再考する。 VUCA の時代において、新たなビジネスの創出について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修：この授業の学びをまとめること（2 時間） 事後学修を：新たな発見をすること（2 時間）
関連科目	2019 年度以前の学生においては、「ソーシャル・イノベーション副専攻課程」の科目。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ビジネス実務総論	全国大学実務教育協会	紀伊国屋書店
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	20 歳のときに知っておきたかったこと	ティナ・シーリグ	阪急コミュニケーションズ
	2	イノベーションと企業家精神	P. F. ドラッカー	ダイヤモンド社
	3	「デザイン思考」を超えるデザイン思考	DIAMOND ハーバード・ビジネス・レビュー編集部	ダイヤモンド社
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> グループワーク（30%）、プレゼンテーション（30%）、レポート（40%）を総合的に評価する。 毎回、座学ののち、グループワークとプレゼンを繰り返す予定であるので、準備を怠ることがないように注意する。 			
学生への メッセージ	私たちが生きている社会を「ビジネス」という視点で見つめなおしたとき、異なったものが見えてきます。私たちの生活を豊かにしてくれる企業等のビジネス組織へただ何となく参加するのではなく、その実態を理解し、自ら参画することを選びませんか。さまざまな組織ではさまざまな働き方がありますが、基本はビジネス実務能力が求められています。それを理解したうえで、従来の社会の上に新しい視点を作り上げていきましょう。			
担当者の 研究室等	石井教授室（7 号館 5 階）			
備考	予習・復習に毎回 2 時間以上取り組むこと。ロールプレイ、プレゼンテーション、レポート作成のための学習時間を含め、総時間数で 60 時間程度を目安とする。			

科目名	日本語読解 F I	科目名 (英文)	Japanese Reading FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー (DP)	V 科: III○, IV○, R 科: A◎, A 科: C◎, M 科: B2◎, E 科: E○, C 科: III○, VI○, L 科: DP1◎, DP7△, DP8△, D 科: DP1◎, S 科: DP1◎, P 科: DP2△, DP4△, J 科: DP1◎, DP8◎, W 科: DP1◎, DP7◎, N 科: DP1◎, DP8△0 : DP8○		
科目ナンバリング	FF01314a1		

授業概要・目的	この授業では様々な分野の一般書を読み、内容を文章にまとめたり、口頭で説明したりすることを通して理解を深めながら読解力の向上を目指す。また、読解を通して語彙力アップを図るとともに、文章を音読することによって漢字の読みに強くなることを目指す。																																																																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・読んだ文章の内容をまとめて書く／話すことができる。 ・語彙力をつける。 ・一般書レベルの漢字が読める。 																																																																		
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・主に講義形式で行う。 ・授業では、各自で文章を読んだ後、音読し、漢字の読みを確認する。その後、内容を確認する。また、読んだ内容を要約したり、口頭で説明する練習を行う。 ・語彙力アップのため、語彙の小テストを行う。(発音テストに変更する可能性有) ・Teams を使用する場合、授業内プリントをパワーポイントに変更する。 ・小テストのFB に関しては、次週間違えた箇所を中心に説明を行う。 																																																																		
科目学習の効果 (資格)	専門分野の文章を読むための読解力の基礎が身につく																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち</td> <td>授業の進め方の説明 読解、内容理解</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>渡り鳥はなぜ迷わない？</td> <td>読解、内容理解、内容をまとめる練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>フリーズする脳</td> <td>読解、内容理解、内容をまとめる練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>「科学」の定義①</td> <td>読解、内容理解</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>「科学」の定義②</td> <td>語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>現代の若者のマナー①</td> <td>読解、内容理解</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>現代の若者のマナー②</td> <td>語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク</td> <td>語彙テストの内容確認</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>親孝行な男の子</td> <td>読解、内容理解、タスク</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>言語と文化①</td> <td>読解、内容理解</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>言語と文化②</td> <td>語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>ローソクの進化①</td> <td>読解、内容理解</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>ローソクの進化②</td> <td>語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク</td> <td>語彙テストの内容確認</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>「割り勘」は当然？①</td> <td>読解、内容理解</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>「割り勘」は当然？②</td> <td>語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>総復習</td> <td>総復習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち	授業の進め方の説明 読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	2	渡り鳥はなぜ迷わない？	読解、内容理解、内容をまとめる練習	授業内で使用したプリントを使い復習	3	フリーズする脳	読解、内容理解、内容をまとめる練習	授業内で使用したプリントを使い復習	4	「科学」の定義①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	5	「科学」の定義②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認	6	現代の若者のマナー①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	7	現代の若者のマナー②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	語彙テストの内容確認	8	親孝行な男の子	読解、内容理解、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習	9	言語と文化①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	10	言語と文化②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認	11	ローソクの進化①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	12	ローソクの進化②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	語彙テストの内容確認	13	「割り勘」は当然？①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	14	「割り勘」は当然？②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認	15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち	授業の進め方の説明 読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
2	渡り鳥はなぜ迷わない？	読解、内容理解、内容をまとめる練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
3	フリーズする脳	読解、内容理解、内容をまとめる練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
4	「科学」の定義①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
5	「科学」の定義②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認																																																																
6	現代の若者のマナー①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
7	現代の若者のマナー②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	語彙テストの内容確認																																																																
8	親孝行な男の子	読解、内容理解、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
9	言語と文化①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
10	言語と文化②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認																																																																
11	ローソクの進化①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
12	ローソクの進化②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	語彙テストの内容確認																																																																
13	「割り勘」は当然？①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
14	「割り勘」は当然？②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認																																																																
15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
関連科目	日本語読解 F II																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	授業内での取り組み (40%)、提出物 (30%)、小テスト (30%)																																																																		
学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。専門分野の文章を読むための基礎力を身につけましょう！																																																																		
担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室																																																																		
備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進捗や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。 (3) 新出語彙の確認など学習時間の目安は毎週 1 時間。																																																																		

科目名	日本語読解 F II	科目名 (英文)	Japanese Reading FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : III○, IV○, R 科 : A◎, A 科 : C◎, M 科 : B2◎, E 科 : E○, C 科 : III○, VI○, L 科 : DP1◎, DP7△, DP8△, D 科 : DP1◎, S 科 : DP1◎, P 科 : DP2△, DP4△, J 科 : DP1◎, DP8◎, W 科 : DP1◎, DP7◎, N 科 : DP1◎, DP8△○ : DP8○		
科目ナンバリング	FF02315a1		

授業概要・目的	この授業では様々な分野の一般書を読み、内容を文章にまとめたり、口頭で説明したりすることを通して理解を深めながら読解力の向上を目指す。また、読解を通して語彙力アップを図るとともに、文章を音読することによって漢字の読みに強くなることを目指す。																																																																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・読んだ文章の内容をまとめて書く／話すことができる。 ・語彙力をつける。 ・一般書レベルの漢字が読める。 																																																																		
授業方法及び留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・主に講義形式で行う。 ・授業では、各自で文章を読んだ後、音読し、漢字の読みを確認する。その後、内容を確認する。また、読んだ内容を要約したり、口頭で説明する練習を行う。 ・語彙力アップのため、語彙の小テストを行う。(発音テストに変更する可能性有) ・Teams を使用する場合、授業内プリントをパワーポイントに変更する。 ・小テストのFB に関しては、次週間違えた箇所を中心に説明を行う。 																																																																		
科目学習の効果 (資格)	専門分野の文章を読むための読解力の基礎が身につく																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション</td> <td>授業の進め方の説明 読解、内容理解</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>統計と数字①</td> <td>読解、内容理解、内容をまとめ (話す)</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>統計と数字②</td> <td>語彙テスト、内容まとめ (話す)</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>背理法①</td> <td>読解、内容理解</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>背理法②</td> <td>語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>「待つ」こと①</td> <td>読解、内容理解</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>「待つ」こと②</td> <td>語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク</td> <td>語彙テスト内容確認</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>ついでに何を？①</td> <td>読解、内容理解</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>ついでに何を？②</td> <td>語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク</td> <td>語彙テスト内容確認</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>ウイルス発見！①</td> <td>読解、内容理解</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>ウイルス発見！②</td> <td>語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>大学で学ぶこと①</td> <td>読解、内容理解</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>大学で学ぶこと②</td> <td>語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>何のために「学ぶ」のか</td> <td>読解、内容理解</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>総復習</td> <td>総復習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション	授業の進め方の説明 読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	2	統計と数字①	読解、内容理解、内容をまとめ (話す)	授業内で使用したプリントを使い復習	3	統計と数字②	語彙テスト、内容まとめ (話す)	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認	4	背理法①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	5	背理法②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認	6	「待つ」こと①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	7	「待つ」こと②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	語彙テスト内容確認	8	ついでに何を？①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	9	ついでに何を？②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	語彙テスト内容確認	10	ウイルス発見！①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	11	ウイルス発見！②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認	12	大学で学ぶこと①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	13	大学で学ぶこと②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認	14	何のために「学ぶ」のか	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション	授業の進め方の説明 読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
2	統計と数字①	読解、内容理解、内容をまとめ (話す)	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
3	統計と数字②	語彙テスト、内容まとめ (話す)	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認																																																																
4	背理法①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
5	背理法②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認																																																																
6	「待つ」こと①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
7	「待つ」こと②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	語彙テスト内容確認																																																																
8	ついでに何を？①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
9	ついでに何を？②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	語彙テスト内容確認																																																																
10	ウイルス発見！①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
11	ウイルス発見！②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認																																																																
12	大学で学ぶこと①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
13	大学で学ぶこと②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認																																																																
14	何のために「学ぶ」のか	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
関連科目	日本語読解 F I																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	授業内での取り組み (40%)、提出物 (30%)、小テスト (30%)																																																																		
学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。専門分野の文章を読むための基礎力を身につけましょう！																																																																		
担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室																																																																		
備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進捗や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。 (3) 新出語彙の確認など学習時間の目安は毎週 1 時間。																																																																		

科目名	日本語表現作文F I	科目名 (英文)	Japanese Reading and Writing FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: E○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, DP8◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△○: DP8○		
科目ナンバリング	FF01318a1		

授業概要・目的	この授業ではレポートや論文の基礎を学び、レポート・論文の文体と書き方を身につけることを目指す。																																																																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> レポート・論文の文体で書ける。 読んだ内容を要約できる。 段落分けして書ける。 経過説明、分類、定義など、書きたい内容に合う表現を使って書ける。 信頼性の高い資料を集め、ルールを守って引用できる。 																																																																		
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> 主に講義形式で行う。 授業では、レポートや論文の書き方について解説し、書く練習を行う。 Teamsを使用する場合、授業内プリントをパワーポイントに変更する。 提出物に関しては、提出物の内容を確認後説明を行う。 																																																																		
科目学習の効果 (資格)	レポートや論文を書くための基礎力を身につける。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション 日本語の文体</td> <td>授業についての説明 日本語の文体について学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>レポート・論文の文体</td> <td>レポート・論文に使われる文体を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>記号の使い方</td> <td>句読点、各種記号の使い方を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>段落①</td> <td>段落構成について学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>段落②</td> <td>実践練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>経過説明①</td> <td>経過説明の書き方を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>経過説明②</td> <td>実践練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>分類</td> <td>「分類」をする文の書き方を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>定義</td> <td>定義の書き方を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>分類・定義</td> <td>実践練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>引用</td> <td>引用の書き方を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>要約①</td> <td>要約の書き方を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>要約②</td> <td>実践練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>資料の利用</td> <td>資料の利用方法を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>総復習</td> <td>総復習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 日本語の文体	授業についての説明 日本語の文体について学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	2	レポート・論文の文体	レポート・論文に使われる文体を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	3	記号の使い方	句読点、各種記号の使い方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	4	段落①	段落構成について学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	5	段落②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題	6	経過説明①	経過説明の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	7	経過説明②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題	8	分類	「分類」をする文の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	9	定義	定義の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	10	分類・定義	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題	11	引用	引用の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	12	要約①	要約の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	13	要約②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題	14	資料の利用	資料の利用方法を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 日本語の文体	授業についての説明 日本語の文体について学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
2	レポート・論文の文体	レポート・論文に使われる文体を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
3	記号の使い方	句読点、各種記号の使い方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
4	段落①	段落構成について学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
5	段落②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題																																																																
6	経過説明①	経過説明の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
7	経過説明②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題																																																																
8	分類	「分類」をする文の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
9	定義	定義の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
10	分類・定義	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題																																																																
11	引用	引用の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
12	要約①	要約の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
13	要約②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題																																																																
14	資料の利用	資料の利用方法を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
関連科目	日本語表現作文F II																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	授業内での取り組み (40%)、提出物 (60%)																																																																		
学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。レポートや論文の書き方を一緒に勉強しましょう。																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室																																																																		
備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。 (3) 作文やレポートなどの書き方の形式の確認および文法など学習時間の目安は毎週1時間。																																																																		

科目名	日本語表現作文FⅡ	科目名(英文)	Japanese Reading and Writing FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー(DP)	V科:Ⅲ○,Ⅳ○,R科:A◎,A科:C◎,M科:B2◎,E科:EO,C科:Ⅲ○,Ⅵ○,L科:DP1◎,DP7△,DP8△,D科:DP1◎,S科:DP1◎,P科:DP2△,DP4△,J科:DP1◎,DP8◎,W科:DP1◎,DP7◎,N科:DP1◎,DP8△○:DP8○		
科目ナンバリング	FF02319a1		

授業概要・目的	この授業では、実際にレポートを作成することを通して、レポート・論文の書き方を守ってレポートが作成できるようになることを目指す。																																																																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート・論文の文体で書ける。 ・レポート・論文の書き方を守って書ける。 ・アウトラインに沿って書ける。 ・信頼性の高い資料を集められる。 																																																																		
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・主に講義形式で行う。 ・授業では、テーマを決め、実際にレポートを作成していく。 ・オンライン授業になった場合、プリントはパワーポイントに変更する。 ・提出物に関しては、提出物の内容を確認後説明を行う。 																																																																		
科目学習の効果(資格)	レポートが書けるようになる。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション 前期の復習</td> <td>授業についての説明 前期の学習内容についての復習</td> <td>前期で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>レポートの言葉と表現</td> <td>レポート・論文に使われる文、言葉、表現を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>レポートの構成</td> <td>レポートの構成を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>テーマ決め・資料収集</td> <td>テーマの決め方・絞り方、資料の集め方を学ぶ</td> <td>資料を集める</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>資料を整理する</td> <td>集めた資料を整理する</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>アウトライン</td> <td>レポートのアウトラインを作成する</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>序論①</td> <td>序論の内容と書き方(課題、目的の提示)を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>序論②</td> <td>序論を書く</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>本論①</td> <td>本論の内容と書き方(データ、意見提示)を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>本論②</td> <td>本論の内容と書き方(考察、結論提示)を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>本論③</td> <td>本論を書く</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>結論①</td> <td>結論の内容と書き方(全体のまとめ、今後の課題)を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>結論②</td> <td>結論を書く</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>まとめ①</td> <td>レポートを推敲し、完成稿を作成する</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめ②</td> <td>作成したレポートを元に発表を行う</td> <td>発表のFBを元に復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 前期の復習	授業についての説明 前期の学習内容についての復習	前期で使用したプリントを使い復習	2	レポートの言葉と表現	レポート・論文に使われる文、言葉、表現を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	3	レポートの構成	レポートの構成を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	4	テーマ決め・資料収集	テーマの決め方・絞り方、資料の集め方を学ぶ	資料を集める	5	資料を整理する	集めた資料を整理する	授業内で使用したプリントを使い復習	6	アウトライン	レポートのアウトラインを作成する	授業内で使用したプリントを使い復習	7	序論①	序論の内容と書き方(課題、目的の提示)を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	8	序論②	序論を書く	授業内で使用したプリントを使い復習	9	本論①	本論の内容と書き方(データ、意見提示)を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	10	本論②	本論の内容と書き方(考察、結論提示)を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	11	本論③	本論を書く	授業内で使用したプリントを使い復習	12	結論①	結論の内容と書き方(全体のまとめ、今後の課題)を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	13	結論②	結論を書く	授業内で使用したプリントを使い復習	14	まとめ①	レポートを推敲し、完成稿を作成する	授業内で使用したプリントを使い復習	15	まとめ②	作成したレポートを元に発表を行う	発表のFBを元に復習
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 前期の復習	授業についての説明 前期の学習内容についての復習	前期で使用したプリントを使い復習																																																																
2	レポートの言葉と表現	レポート・論文に使われる文、言葉、表現を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
3	レポートの構成	レポートの構成を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
4	テーマ決め・資料収集	テーマの決め方・絞り方、資料の集め方を学ぶ	資料を集める																																																																
5	資料を整理する	集めた資料を整理する	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
6	アウトライン	レポートのアウトラインを作成する	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
7	序論①	序論の内容と書き方(課題、目的の提示)を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
8	序論②	序論を書く	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
9	本論①	本論の内容と書き方(データ、意見提示)を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
10	本論②	本論の内容と書き方(考察、結論提示)を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
11	本論③	本論を書く	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
12	結論①	結論の内容と書き方(全体のまとめ、今後の課題)を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
13	結論②	結論を書く	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
14	まとめ①	レポートを推敲し、完成稿を作成する	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
15	まとめ②	作成したレポートを元に発表を行う	発表のFBを元に復習																																																																
関連科目	日本語表現作文FⅠ																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	授業内での取り組み(40%)、提出物(60%)																																																																		
学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。レポートや論文の書き方を一緒に勉強しましょう！																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室																																																																		
備考	(1)授業外の質問等には、メールで対応する。 (2)授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。 (3)作文やレポートなどの書き方の形式の確認および文法など学習時間の目安は毎週1時間。																																																																		

科目名	日本語文法 F I	科目名 (英文)	Japanese Grammar FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー (DP)	V 科: III○, IV○, R 科: A○, A 科: C○, M 科: B2○, E 科: E○, C 科: III○, VI○, L 科: DP1○, DP7△, DP8△, D 科: DP1○, S 科: DP1○, P 科: DP2△, DP4△, J 科: DP1○, DP8○, W 科: DP1○, DP7○, N 科: DP1○, DP8△0 : DP8○		
科目ナンバリング	FF01316a1		

授業概要・目的	この授業では、中上級～上級の文法項目を取り上げる。文法項目の用法を確認し、その文法項目が使われている会話を聞いたり、作文や会話をしたりすることを通して、適切に使えるようになることを目指す。随時、小テストを行う。																																																																		
到達目標	中上級～上級の文法項目が運用できる。																																																																		
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・主に講義形式で行う。教員による解説と練習を繰り返しながら進める。 ・Teams を使用する場合、授業内プリントはパワーポイントに変更する。 ・小テストのFB に関しては、次週間違えた箇所を中心に説明を行う。 																																																																		
科目学習の効果 (資格)	高度な日本語運用能力																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち</td> <td>授業の進め方の説明 文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>渡り鳥はなぜ迷わない?</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>フリーズする脳</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>「科学」の定義①</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>「科学」の定義②</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>現代の若者のマナー①</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>現代の若者のマナー②</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>親孝行な男の子</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>言語と文化①</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>言語と文化②</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>ローソクの進化①</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>ローソクの進化②</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>「割り勘」は当然?①</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>「割り勘」は当然?②</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>総復習</td> <td>総復習</td> <td>第1回～第14回までの文法を中心としたプリントを使い復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち	授業の進め方の説明 文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	2	渡り鳥はなぜ迷わない?	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	3	フリーズする脳	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	4	「科学」の定義①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	5	「科学」の定義②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	6	現代の若者のマナー①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	7	現代の若者のマナー②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	8	親孝行な男の子	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	9	言語と文化①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	10	言語と文化②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	11	ローソクの進化①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	12	ローソクの進化②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	13	「割り勘」は当然?①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	14	「割り勘」は当然?②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	15	総復習	総復習	第1回～第14回までの文法を中心としたプリントを使い復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち	授業の進め方の説明 文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
2	渡り鳥はなぜ迷わない?	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
3	フリーズする脳	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
4	「科学」の定義①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
5	「科学」の定義②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
6	現代の若者のマナー①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
7	現代の若者のマナー②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
8	親孝行な男の子	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
9	言語と文化①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
10	言語と文化②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
11	ローソクの進化①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
12	ローソクの進化②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
13	「割り勘」は当然?①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
14	「割り勘」は当然?②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
15	総復習	総復習	第1回～第14回までの文法を中心としたプリントを使い復習																																																																
関連科目	日本語文法 F II、日本語読解 F I																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	授業内での取り組み (40%)、提出物 (30%)、小テスト (30%)																																																																		
学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。日本語のレベルアップを目指して勉強しましょう!																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室																																																																		
備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。 (3) 授業内で使用したプリントを使い文法の確認 (復習)。目安は毎週 1 時間。																																																																		

科目名	日本語文法FⅡ	科目名(英文)	Japanese Grammar FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー(DP)	V科:Ⅲ○,Ⅳ○,R科:A◎,A科:C◎,M科:B2◎,E科:EO,C科:Ⅲ○,Ⅵ○,L科:DP1◎,DP7△,DP8△,D科:DP1◎,S科:DP1◎,P科:DP2△,DP4△,J科:DP1◎,DP8◎,W科:DP1◎,DP7◎,N科:DP1◎,DP8△0:DP8○		
科目ナンバリング	FF02317a1		

授業概要・目的	この授業では、中上級～上級の文法項目を取り上げる。文法項目の用法を確認し、その文法項目が使われている会話を聞いたり、作文や会話をしたりすることを通して、適切に使えるようになることを目指す。随時、小テストを行う。
到達目標	中上級～上級の文法項目が運用できる。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> 主に講義形式で行う。教員による解説と練習を繰り返しながら進める。 オンライン授業に変更になった場合、プリントの代わりにパワーポイントを使用する。 小テストのFBに関しては、次週間違えた箇所を中心に説明を行う。
科目学習の効果(資格)	高度な日本語運用能力

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 涙	授業の進め方の説明 文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	2	統計と数字①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	3	統計と数字②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	4	背理法①	文法項目の解説と練習	復習
	5	背理法②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	6	「待つ」こと①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	7	「待つ」こと②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	8	ついでに何を？①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	9	ついでに何を？②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	10	ウイルス発見！①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	11	ウイルス発見！②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	12	大学で学ぶこと①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	13	大学で学ぶこと②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	14	何のために「学ぶ」のか	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習

関連科目	日本語文法FⅠ、日本語読解FⅡ
------	-----------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業内での取り組み(40%)、提出物(30%)、小テスト(30%)
----------	-----------------------------------

学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。日本語のレベルアップを目指して勉強しましょう！
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。 (3) 授業内で使用したプリントを使い文法の確認(復習)。目安は毎週1時間。
----	---

科目名	日本事情 F I	科目名 (英文)	Japanese Culture and Society FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	門脇 薫
ディプロマポリシー(DP)	V科:III○,IV○,R科:A◎,A科:C◎,M科:B2◎,E科:EO,C科:III○,VI○,L科:DP1◎,DP7△,DP8△,D科:DP1◎,S科:DP1◎,P科:DP2△,DP4△,J科:DP1◎,DP8◎,W科:DP1◎,DP7◎,N科:DP1◎,DP8△0:DP8○		
科目ナンバリング	FF01312a1		

授業概要・目的	日本文化・社会について、日本映画を視聴して観察したり考察したりします。またテキストの講読、映画の台詞や使われている場面から日本語の文法や表現についても学びます。
到達目標	日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できることを目標とします
授業方法と留意点	各映画について次のように進めます。(1) 映画についての情報・その他背景知識について説明 (2) 映画の場面をいくつか視聴：内容理解・練習問題・その他の各種タスク問題 (3) テーマについてディスカッション (4) 「書く」練習 提出されたレポートについては次の授業時間にフィードバックする。
科目学習の効果 (資格)	自然な日本語の表現・文法事項の習得、異文化理解、異文化に対する見方・態度

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス・日本語レベルのチェック	授業の概要・進め方について・スピーチ	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (1.5 時間)
2	映画1：テーマ「大学生生活」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
3	映画1：テーマ「大学生生活」	内容理解、タスク	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
4	映画1：テーマ「大学生生活」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計2 時間)
5	映画2：テーマ「職業」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (計2 時間)
6	映画2：テーマ「職業」	内容理解、タスク	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
7	映画2：テーマ「職業」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備 テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) (計2 時間)
8	テーマ1・2に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計2 時間)
9	映画3：テーマ「子どもと社会」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (計2 時間)
10	映画3：テーマ「子どもと社会」	内容理解、タスク	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
11	映画3：テーマ「子どもと社会」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計2 時間)
12	映画について発表 (1)	発表、質疑応答	各自発表準備、フィードバック (計2 時間)
13	映画について発表 (2)	発表、質疑応答	各自発表準備、フィードバック (計2 時間) (計2 時間)
14	映画について発表 (3)	発表、質疑応答	原稿修正、レポート (計2 時間)
15	総まとめ	ディスカッション	サイトに投稿する (計2 時間)

関連科目 日本語読解、日本語文法、日本語表現作文、専門日本語、日本語会話

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	映画でジャパニーズ	窪田守弘編	南雲堂フェニックス
2	映画で日本文化を学ぶ人のために	窪田守弘編	世界思想社	
3				

評価方法 (基準)	各課題及びレポート (80%), 授業への参加度 (20%) により総合的に評価します。
学生への メッセージ	映画を見ながら楽しく日本語・日本文化について学びましょう！ 海外、日本国内の日本語教育機関で多様な外国人日本語学習者に教えた経験を生かし、具体的に解説をしながら、インタラクティブに授業を進めていきます。
担当者の 研究室等	7号館4階(門脇研究室)
備考	

科目名	日本事情F II	科目名 (英文)	Japanese Culture and Society FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	門脇 薫
ディプロマポリシー(DP)	V科:III○,IV○,R科:A◎,A科:C◎,M科:B2◎,E科:EO,C科:III○,VI○,L科:DP1◎,DP7△,DP8△,D科:DP1◎,S科:DP1◎,P科:DP2△,DP4△,J科:DP1◎,DP8◎,W科:DP1◎,DP7◎,N科:DP1◎,DP8△0:DP8○		
科目ナンバリング	FF02313a1		

授業概要・目的	日本文化・社会について、日本映画を視聴して観察したり考察したりします。またテキストの講読、映画の台詞や使われている場面から日本語の文法や表現についても学びます。
到達目標	日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できることを目標とします
授業方法と留意点	・各映画について次のように進めます。(1)映画についての情報・その他背景知識について説明 (2)映画の場面をいくつか視聴:内容理解・練習問題・その他の各種タスク問題 (3)テーマについてディスカッション (4)「書く」練習 提出されたレポートについては次の授業時間にフィードバックする。
科目学習の効果(資格)	自然な日本語の表現・文法事項の習得、異文化理解、異文化に対する見方・態度

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス・日本語レベルのチェック	授業の概要・進め方について・スピーチ	テキスト予習(2~3ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)(1.5時間)
2	映画1:テーマ「家族」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習(2~3ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題(1.5時間)
3	映画1:テーマ「家族」	内容理解、タスク	テキスト予習(2~3ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題(1.5時間)
4	映画1:テーマ「家族」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート(映像視聴、レポートを書く) テキスト予習(2~3ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)(計2時間)
5	映画2:テーマ「教育」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート(映像視聴、レポートを書く) テキスト予習(2~3ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題(計2時間)
6	映画2:テーマ「教育」	内容理解、タスク	テキスト予習(2~3ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題(1.5時間)
7	映画2:テーマ「教育」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備 テーマについてレポート(映像視聴、レポートを書く)(計2時間)
8	テーマ1・2に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート(映像視聴、レポートを書く) テキスト予習(2~3ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)(計2時間)
9	映画3:テーマ「言葉」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート(映像視聴、レポートを書く) テキスト予習(2~3ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題(計2時間)
10	映画3:テーマ「言葉」	内容理解、タスク	テキスト予習(2~3ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題(1.5時間)
11	映画3:テーマ「言葉」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート(映像視聴、レポートを書く) テキスト予習(2~3ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)(計2時間)
12	日本での経験	内容について検討	テーマを考える、内容について調べる(計1.5時間)
13	日本での経験	ディスカッション、文章作成	受講生の文章にコメントする(計1.5時間)
14	日本での経験	作文内容についてグループワーク、文章修正	文章修正、発表準備(計1.5時間)
15	発表(新聞に投稿する)	発表、質疑応答、	文章修正、投稿する(計1.5時間)

関連科目	日本語読解、日本語文法、日本語表現作文、専門日本語、日本語会話
------	---------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	映画でジャパニーズ	窪田守弘編	南雲堂フェニックス
	2	映画で日本文化を学ぶ人のために	窪田守弘編	世界思想社
	3			

評価方法 (基準)	各課題及びレポート (80%), 授業への参加度 (20%) により総合的に評価します。
学生への メッセージ	映画を見ながら楽しく日本語・日本文化について学びましょう！ 海外、日本国内の日本語教育機関での多様な外国人日本語学習者に教えた経験を生かし、具体的に解説しながらインタラクティブに授業を進めていきます。
担当者の 研究室等	7号館4階(門脇研究室)
備考	

科目名	日本語総合F I	科目名 (英文)	Comprehensive Japanese FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	鎌田 美保
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: E○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, DP8◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△0 : DP8○		
科目ナンバリング	FF01320a1		

授業概要・目的	講義を理解する際に役立つメモの取り方を学ぶと同時に、アカデミック場面における口頭発表のスキルを養う。			
到達目標	まとまりのある話を聞いて、適切にメモを取ることができる。 適切な表現を用いて、論理的かつわかりやすい発表ができる。			
授業方法と留意点	さまざまなテーマに関する話を聞き、聞きとった内容をメモした後、その内容について発表する。 課題のフィードバックは授業中に行う。			
科目学習の効果 (資格)				
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	授業概要説明 ウォーミングアップ	授業の進め方、自己紹介 メモの取り方を学ぶ	自己紹介での語彙や文体の選び方を復習する
	2	トピック 1-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
	3	トピック 1-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
	4	トピック 2-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
	5	トピック 2-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
	6	トピック 3-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
	7	トピック 3-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
	8	トピック 4-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
	9	トピック 4-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
	10	トピック 5-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
	11	トピック 5-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
	12	発表資料の作り方	発表資料の作り方について学ぶ	発表テーマを決めておく
	13	発表準備 1	発表資料の作成	発表資料の作成 (残り)
	14	発表準備 2	発表資料の修正	発表練習 (文体に気を付ける)
15	口頭発表	発表 質疑応答 振り返り	質疑応答の仕方について復習する	
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業において課される課題 30%、授業への取り組み 30%、口頭発表 40%で判断する。			
学生へのメッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。 これまでの日本語教育の経験を生かし、受講生の希望によって、適宜、授業内容を変更します。			
担当者の研究室等	鎌田講師室 (2号館2階)			
備考	事前事後学習時間の目安は毎週 1 時間。			

科目名	日本語総合FⅡ	科目名(英文)	Comprehensive Japanese FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	鎌田 美保
ディプロマポリシー(DP)	V科:Ⅲ○,Ⅳ○,R科:A◎,A科:C◎,M科:B2◎,E科:EO,C科:Ⅲ○,Ⅵ○,L科:DP1◎,DP7△,DP8△,D科:DP1◎,S科:DP1◎,P科:DP2△,DP4△,J科:DP1◎,DP8◎,W科:DP1◎,DP7◎,N科:DP1◎,DP8△0:DP8○		
科目ナンバリング	FF02321a1		

授業概要・目的	発表に適したレジユメの作成方法を学ぶ。 アカデミック場面における口頭発表のスキルを養う。
到達目標	資料を読み、内容を理解し、他者にわかりやすく発表できる。 発表に適した資料を作成することができる 適切な表現を用いて、論理的かつわかりやすい発表ができる。
授業方法と留意点	様々な文章を読み、その内容をレジユメにまとめ、口頭で発表する。 課題のフィードバックは授業中に行う。

科目学習の 効果(資格)																																																																	
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>授業概要説明 ウォーミングアップ</td> <td>授業の進め方、自己紹介 レジユメ作成について</td> <td>自己紹介での語彙や文体の選び方を復習する</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>トピック1</td> <td>他者にわかりやすいレジユメ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>トピック2-1</td> <td>文章を読み、レジユメを作成する</td> <td>レジユメ作成</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>トピック2-2</td> <td>作成したレジユメを用い、発表する</td> <td>発表の際の注意点(アイコンタクト、身振り、文体)を復習する</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>トピック2-3</td> <td>作成したレジユメの改善</td> <td>よりよい発表のために必要なことをまとめる</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>トピック3-1</td> <td>文章を読み、レジユメを作成する</td> <td>レジユメ作成</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>トピック3-2</td> <td>作成したレジユメを用い、発表する</td> <td>発表の際の注意点(アイコンタクト、身振り、文体)を復習する</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>トピック3-3</td> <td>作成したレジユメの改善</td> <td>よりよい発表のために必要なことをまとめる</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>トピック4-1</td> <td>ABDについて</td> <td></td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>トピック4-2</td> <td>本を読み、発表用資料を作成する</td> <td>授業で使用した語彙を復習し、覚える</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>トピック4-3</td> <td>資料を用い、発表する</td> <td>発表の際の注意点(アイコンタクト、身振り、文体)を復習する</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>トピック5-1</td> <td>文章を読み、レジユメを作成する</td> <td>レジユメ作成</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>トピック5-2</td> <td>作成したレジユメを用い、発表する</td> <td>発表の際の注意点(アイコンタクト、身振り、文体)を復習する</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>トピック5-3</td> <td>作成したレジユメの改善</td> <td>よりよい発表のために必要なことをまとめる</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめ</td> <td>これまでの授業のふりかえり、今後に向けて</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	授業概要説明 ウォーミングアップ	授業の進め方、自己紹介 レジユメ作成について	自己紹介での語彙や文体の選び方を復習する	2	トピック1	他者にわかりやすいレジユメ		3	トピック2-1	文章を読み、レジユメを作成する	レジユメ作成	4	トピック2-2	作成したレジユメを用い、発表する	発表の際の注意点(アイコンタクト、身振り、文体)を復習する	5	トピック2-3	作成したレジユメの改善	よりよい発表のために必要なことをまとめる	6	トピック3-1	文章を読み、レジユメを作成する	レジユメ作成	7	トピック3-2	作成したレジユメを用い、発表する	発表の際の注意点(アイコンタクト、身振り、文体)を復習する	8	トピック3-3	作成したレジユメの改善	よりよい発表のために必要なことをまとめる	9	トピック4-1	ABDについて		10	トピック4-2	本を読み、発表用資料を作成する	授業で使用した語彙を復習し、覚える	11	トピック4-3	資料を用い、発表する	発表の際の注意点(アイコンタクト、身振り、文体)を復習する	12	トピック5-1	文章を読み、レジユメを作成する	レジユメ作成	13	トピック5-2	作成したレジユメを用い、発表する	発表の際の注意点(アイコンタクト、身振り、文体)を復習する	14	トピック5-3	作成したレジユメの改善	よりよい発表のために必要なことをまとめる	15	まとめ	これまでの授業のふりかえり、今後に向けて	
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																														
1	授業概要説明 ウォーミングアップ	授業の進め方、自己紹介 レジユメ作成について	自己紹介での語彙や文体の選び方を復習する																																																														
2	トピック1	他者にわかりやすいレジユメ																																																															
3	トピック2-1	文章を読み、レジユメを作成する	レジユメ作成																																																														
4	トピック2-2	作成したレジユメを用い、発表する	発表の際の注意点(アイコンタクト、身振り、文体)を復習する																																																														
5	トピック2-3	作成したレジユメの改善	よりよい発表のために必要なことをまとめる																																																														
6	トピック3-1	文章を読み、レジユメを作成する	レジユメ作成																																																														
7	トピック3-2	作成したレジユメを用い、発表する	発表の際の注意点(アイコンタクト、身振り、文体)を復習する																																																														
8	トピック3-3	作成したレジユメの改善	よりよい発表のために必要なことをまとめる																																																														
9	トピック4-1	ABDについて																																																															
10	トピック4-2	本を読み、発表用資料を作成する	授業で使用した語彙を復習し、覚える																																																														
11	トピック4-3	資料を用い、発表する	発表の際の注意点(アイコンタクト、身振り、文体)を復習する																																																														
12	トピック5-1	文章を読み、レジユメを作成する	レジユメ作成																																																														
13	トピック5-2	作成したレジユメを用い、発表する	発表の際の注意点(アイコンタクト、身振り、文体)を復習する																																																														
14	トピック5-3	作成したレジユメの改善	よりよい発表のために必要なことをまとめる																																																														
15	まとめ	これまでの授業のふりかえり、今後に向けて																																																															

関連科目	
------	--

教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	

参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	

評価方法(基準)	授業において課される課題30%、授業への取り組み30%、発表40%で判断する。
学生へのメッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。 これまでの日本語教育の経験を生かし、受講生の希望によって、適宜、授業内容を変更します。
担当者の研究室等	鎌田講師室(2号館2階)
備考	事前事後学習時間の目安は毎週1時間。

科目名	専門日本語 F I	科目名 (英文)	Japanese for Specific Purposes FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	塩谷 尚子
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: E○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, DP8◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△0 : DP8○		
科目ナンバリング	FF01322a1		

授業概要・目的	相手との関係や話す／書く目的、使用する媒体に応じた適切な話し方／書き方ができるようになることを目指す。
到達目標	・相手との関係に応じて話せる／書ける。 ・使用媒体に応じた話し方／書き方ができる。
授業方法と留意点	授業では、Eメールの書き方、自己PRの書き方、話の展開のさせ方を扱い、解説と練習を中心に進める。 ハンドアウトを使用する。
科目学習の効果 (資格)	相手との関係、伝達内容、使用媒体に応じた適切な話し方／書き方ができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の説明、様々なコミュニケーションツールとその使用	様々なコミュニケーションの形式の復習
	2	Eメールの書き方1	Eメールの基本	Eメールで使われる形式、表現等の復習
	3	Eメールの書き方2	レポート提出のメール	レポート提出に必要な語彙、表現の復習
	4	Eメールの書き方3	依頼メール1	依頼メールに必要な語彙、表現の復習
	5	Eメールの書き方4	依頼メール2	依頼メールの書き方の復習
	6	Eメールの書き方5	問い合わせ／質問メール	問い合わせ、質問メールに必要な語彙、表現の復習
	7	話し方1	話題の変え方	話題を変える時に必要な語彙、表現の復習
	8	話し方2	話の終わらせ方	話の終わらせ方で必要な語彙、表現の復習
	9	話し方3	話の広げ方	話の広げ方で必要な語彙、表現の復習
	10	自己PR1	自己PRとは何か	自己PRで必要な項目を復習
	11	自己PR2	自己PR例の検討、修正1	自己PRで必要な語彙、表現の復習
	12	自己PR3	自己PR例の検討、修正2	自己PRで必要な語彙、表現の復習
	13	自己PR4	自分の自己PRを書く1	自己PRで必要な形式、書き方の復習
	14	自己PR5	自分の自己PRを書く2	自己PRの書き方の復習
	15	総復習	総復習	今学期で学んだことを振り返る。

関連科目	専門日本語 F II
------	------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業内での取り組み、課題の提出物等 (40%)、定期試験 (60%) により総合的に判断する。
-----------	---

学生へのメッセージ	相手、内容、媒体に応じた効果的な話し方／書き方を勉強しましょう。 またその際に必要な表現をしっかりと確認してください。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。 (3) 事前事後学習時間の目安は毎週1時間。
----	---

科目名	専門日本語 F II	科目名 (英文)	Japanese for Specific Purposes FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	乾 友紀
ディプロマポリシー (DP)	V 科: III○, IV○, R 科: A◎, A 科: C◎, M 科: B2◎, E 科: E○, C 科: III○, VI○, L 科: DP1◎, DP7△, DP8△, D 科: DP1◎, S 科: DP1◎, P 科: DP2△, DP4△, J 科: DP1◎, DP8◎, W 科: DP1◎, DP7◎, N 科: DP1◎, DP8△0 : DP8○		
科目ナンバリング	FF02323a1		

授業概要・目的	日本での就職活動及びビジネス場面において必要な表現・言葉遣いについて学び、メールやエントリーシート、電話応対、プレゼンテーションなどで求められる日本語力を身につける。外国人が日本で働く上で直面しそうな問題を想定してその対処について考える。
到達目標	就職活動やビジネス場面で必要な日本語表現を使用することができる。 異文化接触場面における課題に対処することができる。
授業方法と留意点	教師が準備した資料をもとに講義、ディスカッション、ロールプレイ等を行う。
科目学習の効果 (資格)	日本の就職活動及びビジネス日本語・ビジネスマナーについて知識を得ることによって、日本企業で働く上で求められる知識や日本語力を身につけることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	日本の就職活動の流れ 日本の企業文化	日本の就職活動について概観し、企業文化について学ぶ	授業で提示した課題
3	就職活動におけるメールの書き方	就職活動におけるメールの書き方を学ぶ	語彙、表現力の復習 授業で提示した課題
4	エントリーシート (履歴書、自己 PR、志望動機) の書き方	エントリーシートの書き方を学ぶ	語彙、表現の復習 授業で提示した課題
5	集団面接 (グループディスカッション)	グループディスカッション	語彙、表現の復習 授業で提示した課題
6	個人面接における日本語表現	面接での受け答えに使用する日本語を学ぶ	語彙、表現の復習 授業で提示した課題
7	ビジネスマナー	異文化ビジネスコミュニケーションについて学ぶ	語彙、表現の復習 授業で提示した課題
8	初対面での日本語表現	自己紹介をする	語彙、表現の復習 授業で提示した課題
9	電話応対における日本語表現	電話応対に使用する日本語を学ぶ	語彙、表現の復習 授業で提示した課題
10	アドバイスする / 受ける時の日本語表現	アドバイスをする / 受ける時の日本語を学ぶ	語彙、表現の復習 授業で提示した課題
11	会議に参加する (報告をする・自分の意見を述べる) 時の日本語表現	会議で使用する日本語を学ぶ	語彙、表現等の復習 授業で提示した課題
12	依頼をする時の日本語表現	依頼をする時の日本語表現を学ぶ	語彙、表現等の復習 授業で提示した課題
13	許可を求める時の日本語表現	許可を求める時の日本語表現を学ぶ	語彙、表現等の復習 授業で提示した課題
14	発表準備	資料作成	発表資料を作成する
15	発表	授業を通して学んだ知識やスキルについて発表する	今学期に学んだことを振り返る。

関連科目	専門日本語 F I
------	-----------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	授業内での取り組み、課題の提出物等 (50%)、発表 (20%)、期末レポート (30%) により総合的に判断する。
学生へのメッセージ	授業では積極的に発言することが求められます。
担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室
備考	(1) 事前事後学習時間の目安は毎週 1 時間。 (2) 受講生数や授業進度、参加学生のニーズによって授業内容を変更することがある。 (3) 授業外の質問等には、メールで対応する。

科目名	日本語会話 F I	科目名 (英文)	Japanese Conversation FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	原田 佳代子
ディプロマポリシー (DP)	V 科: III○, IV○, R 科: A◎, A 科: C◎, M 科: B2◎, E 科: E○, C 科: III○, VI○, L 科: DP1◎, DP7△, DP8△, D 科: DP1◎, S 科: DP1◎, P 科: DP2△, DP4△, J 科: DP1◎, DP8◎, W 科: DP1◎, DP7◎, N 科: DP1◎, DP8△0 : DP8○		
科目ナンバリング	FF01324a1		

授業概要・目的	<p>この授業は大学の授業や日常生活に必要な会話の能力を身につけることを目的としています。特に、「身近な話題についてディスカッションを行い、適切な結論が導けるようになること」を目指します。</p> <p>授業の概要は以下の通りです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生同士のディスカッションを行う。 ・身の回りのテーマを中心に扱う。 <p>主に留学生同士の会話になりますが、教員が適宜フィードバックを行い、他の授業で日本人を相手に日本語でディスカッションを行うことができるようになることを目指します。</p>																																																																		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 身近な話題について、根拠を示して説得力のある意見を述べるができる 2. 身近な話題について、自分とは異なる意見であっても尊重し、適切に理解することができる。また、必要に応じて質問をして、理解を補うことができる 3. 身近な話題について、グループで協力して、論点を整理し、適切に結論を導くことができる 4. ディスカッションの方法や姿勢、マナーを身につける 																																																																		
授業方法と留意点	<p>ペアワークなどを通して、受講生が「話す」ことを中心とする。</p> <p>教材はプリントを配布する。</p> <p>教員は適宜フィードバックを行う。</p>																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>授業概要説明 ウォーミングアップ ディスカッションの基本</td> <td>授業の進め方、自己紹介</td> <td>自己紹介の準備。(自分の興味関心について話せるようにしておく。)</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>ディスカッションの基本</td> <td>意見と根拠を言う</td> <td>授業中に配布したプリントを完成させる。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>ディスカッションの基本</td> <td>質問する</td> <td>授業中に配布したプリントを完成させる。</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>ディスカッション①</td> <td>自分の意見を整理する。</td> <td>授業中に配布したプリントを完成させる。</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>ディスカッション①</td> <td>意見を整理して報告する</td> <td>授業中に配布したプリントを完成させる。</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>ディスカッション①</td> <td>整理した意見をもとにディスカッションの練習を行う。</td> <td>授業中に配布したプリントを完成させる。</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>ディスカッション①</td> <td>ディスカッションの小テスト</td> <td>授業中に配布したプリントを完成させる。</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>ディスカッション②</td> <td>テーマについてメリット・デメリットを挙げる テーマについて意見と根拠をまとめる</td> <td>授業中に配布したプリントを完成させる。</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>ディスカッション②</td> <td>意見と根拠に対して質問する/質問に答える</td> <td>授業中に配布したプリントを完成させる。</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>ディスカッション②</td> <td>意見と根拠に対して反論する/再反論する</td> <td>授業中に配布したプリントを完成させる。</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>ディスカッション②</td> <td>結論を出す。</td> <td>授業中に配布したプリントを完成させる。</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>ディスカッション②</td> <td>ディスカッションにおける役割について学ぶ</td> <td>授業中に配布したプリントを完成させる。</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>ディスカッション②</td> <td>ディスカッションの練習</td> <td>授業中に配布したプリントを完成させる。</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>ディスカッション②</td> <td>ディスカッションの小テスト</td> <td>授業中に配布したプリントを完成させる。</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>ディスカッション②</td> <td>ディスカッションの振り返り</td> <td>授業中に配布したプリントを完成させる。</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	授業概要説明 ウォーミングアップ ディスカッションの基本	授業の進め方、自己紹介	自己紹介の準備。(自分の興味関心について話せるようにしておく。)	2	ディスカッションの基本	意見と根拠を言う	授業中に配布したプリントを完成させる。	3	ディスカッションの基本	質問する	授業中に配布したプリントを完成させる。	4	ディスカッション①	自分の意見を整理する。	授業中に配布したプリントを完成させる。	5	ディスカッション①	意見を整理して報告する	授業中に配布したプリントを完成させる。	6	ディスカッション①	整理した意見をもとにディスカッションの練習を行う。	授業中に配布したプリントを完成させる。	7	ディスカッション①	ディスカッションの小テスト	授業中に配布したプリントを完成させる。	8	ディスカッション②	テーマについてメリット・デメリットを挙げる テーマについて意見と根拠をまとめる	授業中に配布したプリントを完成させる。	9	ディスカッション②	意見と根拠に対して質問する/質問に答える	授業中に配布したプリントを完成させる。	10	ディスカッション②	意見と根拠に対して反論する/再反論する	授業中に配布したプリントを完成させる。	11	ディスカッション②	結論を出す。	授業中に配布したプリントを完成させる。	12	ディスカッション②	ディスカッションにおける役割について学ぶ	授業中に配布したプリントを完成させる。	13	ディスカッション②	ディスカッションの練習	授業中に配布したプリントを完成させる。	14	ディスカッション②	ディスカッションの小テスト	授業中に配布したプリントを完成させる。	15	ディスカッション②	ディスカッションの振り返り	授業中に配布したプリントを完成させる。
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	授業概要説明 ウォーミングアップ ディスカッションの基本	授業の進め方、自己紹介	自己紹介の準備。(自分の興味関心について話せるようにしておく。)																																																																
2	ディスカッションの基本	意見と根拠を言う	授業中に配布したプリントを完成させる。																																																																
3	ディスカッションの基本	質問する	授業中に配布したプリントを完成させる。																																																																
4	ディスカッション①	自分の意見を整理する。	授業中に配布したプリントを完成させる。																																																																
5	ディスカッション①	意見を整理して報告する	授業中に配布したプリントを完成させる。																																																																
6	ディスカッション①	整理した意見をもとにディスカッションの練習を行う。	授業中に配布したプリントを完成させる。																																																																
7	ディスカッション①	ディスカッションの小テスト	授業中に配布したプリントを完成させる。																																																																
8	ディスカッション②	テーマについてメリット・デメリットを挙げる テーマについて意見と根拠をまとめる	授業中に配布したプリントを完成させる。																																																																
9	ディスカッション②	意見と根拠に対して質問する/質問に答える	授業中に配布したプリントを完成させる。																																																																
10	ディスカッション②	意見と根拠に対して反論する/再反論する	授業中に配布したプリントを完成させる。																																																																
11	ディスカッション②	結論を出す。	授業中に配布したプリントを完成させる。																																																																
12	ディスカッション②	ディスカッションにおける役割について学ぶ	授業中に配布したプリントを完成させる。																																																																
13	ディスカッション②	ディスカッションの練習	授業中に配布したプリントを完成させる。																																																																
14	ディスカッション②	ディスカッションの小テスト	授業中に配布したプリントを完成させる。																																																																
15	ディスカッション②	ディスカッションの振り返り	授業中に配布したプリントを完成させる。																																																																
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>入社 1 年目から差がつくロジカル・シンキング練習帳</td> <td>グロービス</td> <td>東洋経済新報社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	入社 1 年目から差がつくロジカル・シンキング練習帳	グロービス	東洋経済新報社	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	入社 1 年目から差がつくロジカル・シンキング練習帳	グロービス	東洋経済新報社																																																																
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	課題 30%、授業への取り組み 30%、小テスト (2 回) 40%で判断する。																																																																		
学生へのメッセージ	<p>受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。</p> <p>参考書は、授業で習ったことが分からない時やもっと勉強したいときに読む本です。最初から買う必要はありません。</p>																																																																		
担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室																																																																		
備考	試験はディスカッション形式とし、適宜フィードバックを行なう。授業時間外の相談はメールにて行うが、必要に応じて別途指示する。																																																																		

科目名	日本語会話 F II	科目名 (英文)	Japanese Conversation FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	加藤 恵美子
ディプロマポリシー (DP)	V 科: III o, IV o, R 科: A o, A 科: C o, M 科: B2 o, E 科: E o, C 科: III o, VI o, L 科: DP1 o, DP7 Δ, DP8 Δ, D 科: DP1 o, S 科: DP1 o, P 科: DP2 Δ, DP4 Δ, J 科: DP1 o, DP8 o, W 科: DP1 o, DP7 o, N 科: DP1 o, DP8 Δ0 : DP8 o		
科目ナンバリング	FF02325a1		

授業概要・目的	講義を理解する際に役立つメモの取り方を学ぶと同時に、アカデミック場面における口頭発表のスキルを養う。
到達目標	まとまりのある話を聞いて、適切にメモを取ることができる。 適切な表現を用いて、論理的かつわかりやすい発表ができる。
授業方法と留意点	さまざまなテーマに関する話を聞き、聞きとった内容をメモした後、その内容について発表する。 オンライン授業になった場合は授業中はカメラを ON にすることを求めます。 カメラのない学生は、必ず事前に用意をしておくこと。 課題のフィードバックは授業中に行う。

科目学習の 効果 (資格)	
------------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	トピック 1-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
3	トピック 1-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する
4	トピック 2-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
5	トピック 2-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する
6	トピック 3-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
7	トピック 3-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する
8	トピック 4-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
9	トピック 4-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する
10	トピック 5-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
11	トピック 5-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する
12	発表資料の作り方	発表資料の作り方について学ぶ	発表テーマを決めておく
13	発表準備 1	発表資料の作成	発表資料の作成 (残り)
14	発表準備 2	発表資料の修正	発表練習 (文体に気を付ける)
15	口頭発表	発表 質疑応答 振り返り	質疑応答の仕方について復習する

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	授業において課される課題 30%、授業への取り組み 30%、口頭発表 40%で判断する。
-----------	--

学生へのメッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。 これまでの日本語教育の経験を生かし、受講生の希望によって、適宜、授業内容を変更します。
-----------	---

担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室
----------	-----------------

備考	事前事後学習時間の目安は毎週 1 時間。 口頭発表は、最終授業日に行なう。
----	--

科目名	日本語読解R	科目名 (英文)	Japanese Reading R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: E○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, DP8◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△0: DP8○		
科目ナンバリング	RRE1328a1		

授業概要・目的	この授業では様々な分野の一般書を読み、内容を文章にまとめたり、口頭で説明したりすることを通して理解を深めながら読解力の向上を目指す。また、読解を通して語彙力アップを図るとともに、文章を音読することによって漢字の読みに強くなることを目指す。																																																																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・読んだ文章の内容をまとめて書く／話すことができる。 ・語彙力をつける。 ・一般書レベルの漢字が読める。 																																																																		
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・主に講義形式で行う。 ・授業では、各自で文章を読んだ後、音読し、漢字の読みを確認する。その後、内容を確認する。また、読んだ内容を要約したり、口頭で説明する練習を行う。 ・語彙力アップのため、語彙の小テストを行う。(発音テストに変更する可能性有) ・Teamsを使用する場合、授業内プリントをパワーポイントに変更する。 ・小テストのFBに関しては、次週間違えた箇所を中心に説明を行う。 																																																																		
科目学習の効果 (資格)	専門分野の文章を読むための読解力の基礎が身につく																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち</td> <td>授業の進め方の説明 読解、内容理解</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>渡り鳥はなぜ迷わない?</td> <td>読解、内容理解、内容をまとめる練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>フリーズする脳</td> <td>読解、内容理解、内容をまとめる練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>「科学」の定義①</td> <td>読解、内容理解</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>「科学」の定義②</td> <td>語彙テスト、内容まとめ(書く)、タスク</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>現代の若者のマナー①</td> <td>読解、内容理解</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>現代の若者のマナー②</td> <td>語彙テスト、内容まとめ(話す)、タスク</td> <td>語彙テストの内容確認</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>親孝行な男の子</td> <td>読解、内容理解、タスク</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>言語と文化①</td> <td>読解、内容理解</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>言語と文化②</td> <td>語彙テスト、内容まとめ(書く)、タスク</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>ローソクの進化①</td> <td>読解、内容理解</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>ローソクの進化②</td> <td>語彙テスト、内容まとめ(話す)、タスク</td> <td>語彙テストの内容確認</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>「割り勘」は当然?①</td> <td>読解、内容理解</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>「割り勘」は当然?②</td> <td>語彙テスト、内容まとめ(書く)、タスク</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>総復習</td> <td>総復習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち	授業の進め方の説明 読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	2	渡り鳥はなぜ迷わない?	読解、内容理解、内容をまとめる練習	授業内で使用したプリントを使い復習	3	フリーズする脳	読解、内容理解、内容をまとめる練習	授業内で使用したプリントを使い復習	4	「科学」の定義①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	5	「科学」の定義②	語彙テスト、内容まとめ(書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認	6	現代の若者のマナー①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	7	現代の若者のマナー②	語彙テスト、内容まとめ(話す)、タスク	語彙テストの内容確認	8	親孝行な男の子	読解、内容理解、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習	9	言語と文化①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	10	言語と文化②	語彙テスト、内容まとめ(書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認	11	ローソクの進化①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	12	ローソクの進化②	語彙テスト、内容まとめ(話す)、タスク	語彙テストの内容確認	13	「割り勘」は当然?①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	14	「割り勘」は当然?②	語彙テスト、内容まとめ(書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認	15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち	授業の進め方の説明 読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
2	渡り鳥はなぜ迷わない?	読解、内容理解、内容をまとめる練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
3	フリーズする脳	読解、内容理解、内容をまとめる練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
4	「科学」の定義①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
5	「科学」の定義②	語彙テスト、内容まとめ(書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認																																																																
6	現代の若者のマナー①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
7	現代の若者のマナー②	語彙テスト、内容まとめ(話す)、タスク	語彙テストの内容確認																																																																
8	親孝行な男の子	読解、内容理解、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
9	言語と文化①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
10	言語と文化②	語彙テスト、内容まとめ(書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認																																																																
11	ローソクの進化①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
12	ローソクの進化②	語彙テスト、内容まとめ(話す)、タスク	語彙テストの内容確認																																																																
13	「割り勘」は当然?①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
14	「割り勘」は当然?②	語彙テスト、内容まとめ(書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認																																																																
15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
関連科目	日本語読解FII																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	授業内での取り組み (40%)、提出物 (30%)、小テスト (30%)																																																																		
学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。専門分野の文章を読むための基礎力を身につけましょう!																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室																																																																		
備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進捗や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。 (3) 新出語彙の確認など学習時間の目安は毎週1時間。																																																																		

科目名	日本語表現作文R	科目名 (英文)	Japanese Reading and Writing R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: E○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, DP8◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△○: DP8○		
科目ナンバリング	RRE1330a1		

授業概要・目的	この授業ではレポートや論文の基礎を学び、レポート・論文の文体と書き方を身につけることを目指す。																																																																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> レポート・論文の文体で書ける。 読んだ内容を要約できる。 段落分けして書ける。 経過説明、分類、定義など、書きたい内容に合う表現を使って書ける。 信頼性の高い資料を集め、ルールを守って引用できる。 																																																																		
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> 主に講義形式で行う。 授業では、レポートや論文の書き方について解説し、書く練習を行う。 Teamsを使用する場合、授業内プリントをパワーポイントに変更する。 提出物に関しては、提出物の内容を確認後説明を行う。 																																																																		
科目学習の効果 (資格)	レポートや論文を書くための基礎力を身につける。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション 日本語の文体</td> <td>授業についての説明 日本語の文体について学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>レポート・論文の文体</td> <td>レポート・論文に使われる文体を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>記号の使い方</td> <td>句読点、各種記号の使い方を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>段落①</td> <td>段落構成について学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>段落②</td> <td>実践練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>経過説明①</td> <td>経過説明の書き方を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>経過説明②</td> <td>実践練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>分類</td> <td>「分類」をする文の書き方を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>定義</td> <td>定義の書き方を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>分類・定義</td> <td>実践練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>引用</td> <td>引用の書き方を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>要約①</td> <td>要約の書き方を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>要約②</td> <td>実践練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>資料の利用</td> <td>資料の利用方法を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>総復習</td> <td>総復習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 日本語の文体	授業についての説明 日本語の文体について学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	2	レポート・論文の文体	レポート・論文に使われる文体を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	3	記号の使い方	句読点、各種記号の使い方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	4	段落①	段落構成について学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	5	段落②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題	6	経過説明①	経過説明の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	7	経過説明②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題	8	分類	「分類」をする文の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	9	定義	定義の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	10	分類・定義	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題	11	引用	引用の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	12	要約①	要約の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	13	要約②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題	14	資料の利用	資料の利用方法を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 日本語の文体	授業についての説明 日本語の文体について学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
2	レポート・論文の文体	レポート・論文に使われる文体を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
3	記号の使い方	句読点、各種記号の使い方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
4	段落①	段落構成について学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
5	段落②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題																																																																
6	経過説明①	経過説明の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
7	経過説明②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題																																																																
8	分類	「分類」をする文の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
9	定義	定義の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
10	分類・定義	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題																																																																
11	引用	引用の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
12	要約①	要約の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
13	要約②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題																																																																
14	資料の利用	資料の利用方法を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
関連科目	日本語表現作文FII																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	授業内での取り組み (40%)、提出物 (60%)																																																																		
学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。レポートや論文の書き方を一緒に勉強しましょう。																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室																																																																		
備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。 (3) 作文やレポートなどの書き方の形式の確認および文法など学習時間の目安は毎週1時間。																																																																		

科目名	日本語文法R	科目名 (英文)	Japanese Grammar R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: E○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, DP8◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△0: DP8○		
科目ナンバリング	RRE1329a1		

授業概要・目的	この授業では、中上級～上級の文法項目を取り上げる。文法項目の用法を確認し、その文法項目が使われている会話を聞いたり、作文や会話をしたりすることを通して、適切に使えるようになることを目指す。随時、小テストを行う。
到達目標	中上級～上級の文法項目が運用できる。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> 主に講義形式で行う。教員による解説と練習を繰り返しながら進める。 オンライン授業に変更になった場合、プリントの代わりにパワーポイントを使用する。 小テストのFBに関しては、次週間違えた箇所を中心に説明を行う。
科目学習の効果 (資格)	高度な日本語運用能力

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 涙	授業の進め方の説明 文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	2	統計と数字①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	3	統計と数字②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	4	背理法①	文法項目の解説と練習	復習
	5	背理法②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	6	「待つ」こと①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	7	「待つ」こと②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	8	ついでに何を？①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	9	ついでに何を？②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	10	ウイルス発見！①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	11	ウイルス発見！②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	12	大学で学ぶこと①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	13	大学で学ぶこと②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	14	何のために「学ぶ」のか	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習

関連科目	日本語文法 F I、日本語読解 F II
------	----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業内での取り組み (40%)、提出物 (30%)、小テスト (30%)
-----------	--------------------------------------

学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。日本語のレベルアップを目指して勉強しましょう！
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。 (3) 授業内で使用したプリントを使い文法の確認 (復習)。目安は毎週1時間。
----	--

科目名	日本事情 R I	科目名 (英文)	Japanese Culture and Society RI
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	門脇 薫
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: E○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, DP8◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△0 : DP8○		
科目ナンバリング	RRE1326a1		

授業概要・目的	日本文化・社会について、日本映画を視聴して観察したり考察したりします。またテキストの講読、映画の台詞や使われている場面から日本語の文法や表現についても学びます。
到達目標	日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できることを目標とします
授業方法と留意点	各映画について次のように進めます。(1) 映画についての情報・その他背景知識について説明 (2) 映画の場面をいくつか視聴：内容理解・練習問題・その他の各種タスク問題 (3) テーマについてディスカッション (4) 「書く」練習 提出されたレポートについては次の授業時間にフィードバックする。
科目学習の効果 (資格)	自然な日本語の表現・文法事項の習得、異文化理解、異文化に対する見方・態度

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス・日本語レベルのチェック	授業の概要・進め方について・スピーチ	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (1.5 時間)
2	映画 1 : テーマ「大学生生活」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
3	映画 1 : テーマ「大学生生活」	内容理解、タスク	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
4	映画 1 : テーマ「大学生生活」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計 2 時間)
5	映画 2 : テーマ「職業」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (計 2 時間)
6	映画 2 : テーマ「職業」	内容理解、タスク	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
7	映画 2 : テーマ「職業」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備 テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) (計 2 時間)
8	テーマ 1・2 に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計 2 時間)
9	映画 3 : テーマ「子どもと社会」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (計 2 時間)
10	映画 3 : テーマ「子どもと社会」	内容理解、タスク	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
11	映画 3 : テーマ「子どもと社会」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計 2 時間)
12	映画について発表 (1)	発表、質疑応答	各自発表準備、フィードバック (計 2 時間)
13	映画について発表 (2)	発表、質疑応答	各自発表準備、フィードバック (計 2 時間) (計 2 時間)
14	映画について発表 (3)	発表、質疑応答	原稿修正、レポート (計 2 時間)
15	総まとめ	ディスカッション	サイトに投稿する (計 2 時間)

関連科目 日本語読解、日本語文法、日本語表現作文、専門日本語、日本語会話

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	映画でジャパニーズ	窪田守弘編	南雲堂フェニックス
2	映画で日本文化を学ぶ人のために	窪田守弘編	世界思想社	
3				

評価方法 (基準)	各課題及びレポート (80%), 授業への参加度 (20%) により総合的に評価します。
学生への メッセージ	映画を見ながら楽しく日本語・日本文化について学びましょう! 海外、日本国内の日本語教育機関で多様な外国人日本語学習者に教えた経験を生かし、具体的に解説をしながら、インタラクティブに授業を進めていきます。
担当者の 研究室等	7号館4階(門脇研究室)
備考	

科目名	日本事情R II	科目名 (英文)	Japanese Culture and Society RII
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	門脇 薫
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: E○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, DP8◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△0 : DP8○		
科目ナンバリング	RRE2327a1		

授業概要・目的	日本文化・社会について、日本映画を視聴して観察したり考察したりします。またテキストの講読、映画の台詞や使われている場面から日本語の文法や表現についても学びます。
到達目標	日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できることを目標とします
授業方法と留意点	・各映画について次のように進めます。(1) 映画についての情報・その他背景知識について説明 (2) 映画の場面をいくつか視聴：内容理解・練習問題・その他の各種タスク問題 (3) テーマについてディスカッション (4) 「書く」練習 提出されたレポートについては次の授業時間にフィードバックする。
科目学習の効果 (資格)	自然な日本語の表現・文法事項の習得、異文化理解、異文化に対する見方・態度

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス・日本語レベルのチェック	授業の概要・進め方について・スピーチ	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (1.5 時間)
2	映画1：テーマ「家族」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
3	映画1：テーマ「家族」	内容理解、タスク	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
4	映画1：テーマ「家族」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計2 時間)
5	映画2：テーマ「教育」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (計2 時間)
6	映画2：テーマ「教育」	内容理解、タスク	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
7	映画2：テーマ「教育」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備 テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) (計2 時間)
8	テーマ1・2に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計2 時間)
9	映画3：テーマ「言葉」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (計2 時間)
10	映画3：テーマ「言葉」	内容理解、タスク	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
11	映画3：テーマ「言葉」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計2 時間)
12	日本での経験	内容について検討	テーマを考える、内容について調べる (計1.5 時間)
13	日本での経験	ディスカッション、文章作成	受講生の文章にコメントする (計1.5 時間)
14	日本での経験	作文内容についてグループワーク、文章修正	文章修正、発表準備 (計1.5 時間)
15	発表 (新聞に投稿する)	発表、質疑応答、	文章修正、投稿する (計1.5 時間)

関連科目	日本語読解、日本語文法、日本語表現作文、専門日本語、日本語会話
------	---------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	映画でジャパニーズ	窪田守弘編	南雲堂フェニックス
	2	映画で日本文化を学ぶ人のために	窪田守弘編	世界思想社
	3			

評価方法 (基準)	各課題及びレポート (80%), 授業への参加度 (20%) により総合的に評価します。
学生への メッセージ	映画を見ながら楽しく日本語・日本文化について学びましょう！ 海外、日本国内の日本語教育機関での多様な外国人日本語学習者に教えた経験を生かし、具体的に解説しながらインタラクティブに授業を進めていきます。
担当者の 研究室等	7号館4階(門脇研究室)
備考	

科目名	日本語総合R	科目名 (英文)	Comprehensive Japanese R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	鎌田 美保
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: E○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, DP8◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△0 : DP8○		
科目ナンバリング	RRE1331a1		

授業概要・目的	発表に適したレジユメの作成方法を学ぶ。 アカデミック場面における口頭発表のスキルを養う。
到達目標	資料を読み、内容を理解し、他者にわかりやすく発表できる。 発表に適した資料を作成することができる 適切な表現を用いて、論理的かつわかりやすい発表ができる。
授業方法と留意点	様々な文章を読み、その内容をレジユメにまとめ、口頭で発表する。 課題のフィードバックは授業中に行う。

科目学習の 効果 (資格)																																																																	
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>授業概要説明 ウォーミングアップ</td> <td>授業の進め方、自己紹介 レジユメ作成について</td> <td>自己紹介での語彙や文体の選び方を復習する</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>トピック 1</td> <td>他者にわかりやすいレジユメ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>トピック 2-1</td> <td>文章を読み、レジユメを作成する</td> <td>レジユメ作成</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>トピック 2-2</td> <td>作成したレジユメを用い、発表する</td> <td>発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>トピック 2-3</td> <td>作成したレジユメの改善</td> <td>よりよい発表のために必要なことをまとめる</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>トピック 3-1</td> <td>文章を読み、レジユメを作成する</td> <td>レジユメ作成</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>トピック 3-2</td> <td>作成したレジユメを用い、発表する</td> <td>発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>トピック 3-3</td> <td>作成したレジユメの改善</td> <td>よりよい発表のために必要なことをまとめる</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>トピック 4-1</td> <td>ABDについて</td> <td></td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>トピック 4-2</td> <td>本を読み、発表用資料を作成する</td> <td>授業で使用した語彙を復習し、覚える</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>トピック 4-3</td> <td>資料を用い、発表する</td> <td>発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>トピック 5-1</td> <td>文章を読み、レジユメを作成する</td> <td>レジユメ作成</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>トピック 5-2</td> <td>作成したレジユメを用い、発表する</td> <td>発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>トピック 5-3</td> <td>作成したレジユメの改善</td> <td>よりよい発表のために必要なことをまとめる</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめ</td> <td>これまでの授業のふりかえり、今後に向けて</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	授業概要説明 ウォーミングアップ	授業の進め方、自己紹介 レジユメ作成について	自己紹介での語彙や文体の選び方を復習する	2	トピック 1	他者にわかりやすいレジユメ		3	トピック 2-1	文章を読み、レジユメを作成する	レジユメ作成	4	トピック 2-2	作成したレジユメを用い、発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する	5	トピック 2-3	作成したレジユメの改善	よりよい発表のために必要なことをまとめる	6	トピック 3-1	文章を読み、レジユメを作成する	レジユメ作成	7	トピック 3-2	作成したレジユメを用い、発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する	8	トピック 3-3	作成したレジユメの改善	よりよい発表のために必要なことをまとめる	9	トピック 4-1	ABDについて		10	トピック 4-2	本を読み、発表用資料を作成する	授業で使用した語彙を復習し、覚える	11	トピック 4-3	資料を用い、発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する	12	トピック 5-1	文章を読み、レジユメを作成する	レジユメ作成	13	トピック 5-2	作成したレジユメを用い、発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する	14	トピック 5-3	作成したレジユメの改善	よりよい発表のために必要なことをまとめる	15	まとめ	これまでの授業のふりかえり、今後に向けて	
	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																													
	1	授業概要説明 ウォーミングアップ	授業の進め方、自己紹介 レジユメ作成について	自己紹介での語彙や文体の選び方を復習する																																																													
	2	トピック 1	他者にわかりやすいレジユメ																																																														
	3	トピック 2-1	文章を読み、レジユメを作成する	レジユメ作成																																																													
	4	トピック 2-2	作成したレジユメを用い、発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する																																																													
	5	トピック 2-3	作成したレジユメの改善	よりよい発表のために必要なことをまとめる																																																													
	6	トピック 3-1	文章を読み、レジユメを作成する	レジユメ作成																																																													
	7	トピック 3-2	作成したレジユメを用い、発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する																																																													
	8	トピック 3-3	作成したレジユメの改善	よりよい発表のために必要なことをまとめる																																																													
	9	トピック 4-1	ABDについて																																																														
	10	トピック 4-2	本を読み、発表用資料を作成する	授業で使用した語彙を復習し、覚える																																																													
	11	トピック 4-3	資料を用い、発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する																																																													
	12	トピック 5-1	文章を読み、レジユメを作成する	レジユメ作成																																																													
	13	トピック 5-2	作成したレジユメを用い、発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する																																																													
	14	トピック 5-3	作成したレジユメの改善	よりよい発表のために必要なことをまとめる																																																													
15	まとめ	これまでの授業のふりかえり、今後に向けて																																																															

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業において課される課題 30%、授業への取り組み 30%、発表 40%で判断する。
-----------	--

学生へのメッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。 これまでの日本語教育の経験を生かし、受講生の希望によって、適宜、授業内容を変更します。
-----------	---

担当者の研究室等	鎌田講師室 (2号館2階)
----------	---------------

備考	事前事後学習時間の目安は毎週 1時間。
----	---------------------

科目名	専門日本語R	科目名 (英文)	Japanese for Specific Purposes R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	塩谷 尚子
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: E○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, DP8◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△0 : DP8○		
科目ナンバリング	RRE1332a1		

授業概要・目的	相手との関係や話す／書く目的、使用する媒体に応じた適切な話し方／書き方ができるようになることを目指す。
到達目標	・相手との関係に応じて話せる／書ける。 ・使用媒体に応じた話し方／書き方ができる。
授業方法と留意点	授業では、Eメールの書き方、自己PRの書き方、話の展開のさせ方を扱い、解説と練習を中心に進める。 ハンドアウトを使用する。
科目学習の効果 (資格)	相手との関係、伝達内容、使用媒体に応じた適切な話し方／書き方ができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の説明、様々なコミュニケーションツールとその使用	様々なコミュニケーションの形式の復習
	2	Eメールの書き方1	Eメールの基本	Eメールで使われる形式、表現等の復習
	3	Eメールの書き方2	レポート提出のメール	レポート提出に必要な語彙、表現の復習
	4	Eメールの書き方3	依頼メール1	依頼メールに必要な語彙、表現の復習
	5	Eメールの書き方4	依頼メール2	依頼メールの書き方の復習
	6	Eメールの書き方5	問い合わせ／質問メール	問い合わせ、質問メールに必要な語彙、表現の復習
	7	話し方1	話題の変え方	話題を変える時に必要な語彙、表現の復習
	8	話し方2	話の終わらせ方	話の終わらせ方で必要な語彙、表現の復習
	9	話し方3	話の広げ方	話の広げ方で必要な語彙、表現の復習
	10	自己PR1	自己PRとは何か	自己PRに必要な項目を復習
	11	自己PR2	自己PR例の検討、修正1	自己PRに必要な語彙、表現の復習
	12	自己PR3	自己PR例の検討、修正2	自己PRに必要な語彙、表現の復習
	13	自己PR4	自分の自己PRを書く1	自己PRに必要な形式、書き方の復習
	14	自己PR5	自分の自己PRを書く2	自己PRの書き方の復習
	15	総復習	総復習	今学期で学んだことを振り返る。

関連科目	専門日本語FII
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業内での取り組み、課題の提出物等 (40%)、定期試験 (60%) により総合的に判断する。
-----------	---

学生へのメッセージ	相手、内容、媒体に応じた効果的な話し方／書き方を勉強しましょう。 またその際に必要な表現をしっかりと確認してください。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。 (3) 事前事後学習時間の目安は毎週1時間。
----	---

科目名	日本語会話R	科目名 (英文)	Japanese Conversation R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	加藤 恵美子
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: E○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, DP8○, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△0: DP8○		
科目ナンバリング	RRE1333a1		

授業概要・目的	講義を理解する際に役立つメモの取り方を学ぶと同時に、アカデミック場面における口頭発表のスキルを養う。
到達目標	まとまりのある話を聞いて、適切にメモを取ることができる。 適切な表現を用いて、論理的かつわかりやすい発表ができる。
授業方法と留意点	さまざまなテーマに関する話を聞き、聞きとった内容をメモした後、その内容について発表する。 オンライン授業になった場合は授業中はカメラをONにすることを求めます。 カメラのない学生は、必ず事前に用意をしておくこと。 課題のフィードバックは授業中に行う。

科目学習の 効果 (資格)	
------------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	トピック 1-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
3	トピック 1-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
4	トピック 2-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
5	トピック 2-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
6	トピック 3-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
7	トピック 3-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
8	トピック 4-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
9	トピック 4-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
10	トピック 5-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
11	トピック 5-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
12	発表資料の作り方	発表資料の作り方について学ぶ	発表テーマを決めておく
13	発表準備 1	発表資料の作成	発表資料の作成 (残り)
14	発表準備 2	発表資料の修正	発表練習 (文体に気を付ける)
15	口頭発表	発表 質疑応答 振り返り	質疑応答の仕方について復習する

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	授業において課される課題 30%、授業への取り組み 30%、口頭発表 40%で判断する。
-----------	--

学生へのメッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。 これまでの日本語教育の経験を生かし、受講生の希望によって、適宜、授業内容を変更します。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館 2階 非常勤講師室
----------	---------------

備考	事前事後学習時間の目安は毎週 1 時間。 口頭発表は、最終授業日に行なう。
----	--

科目名	教師論	科目名 (英文)	Teacher Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	朝日 素明
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	教職に関する理解を深め、自己の適性を見つめ直し、最終的に教職をめざすことについて主体的な進路選択を行うための判断材料を提供します。具体的には、「教職の意義とは何か」「教師の役割や求められる資質能力とは何か」「教職の専門性は何によって担保されるのか」「教師の職務とは何か」「教師の身分や身分保障はどのようにになっているのか」などについて基礎的な知識を講義し、これに基づき関連するテーマについて議論を通して理解を深めます。
到達目標	学生は、教職に関する基礎的な知識を獲得し、「自分は教師に向いているのか」「自分どのような教師をめざすのか」などについて判断できるようになります。また、グループワークを通じ、視野を広め、コミュニケーション力を向上させることができます。
授業方法と留意点	講義を中心に、テキスト・資料の事前学習に基づくディスカッション (LTD ; Learning Through Discussion) 等のグループワークも織り交ぜて授業を進めます。事前学習は必須です。「事前・事後学習課題」はすべて事前学習課題です。事後学習課題については別途、指示します。
科目学習の効果 (資格)	教員免許取得上必修 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎的理解に関する科目 各科目に含める必要事項：教職の意義及び教員の役割・職務内容 (チーム学校運営への対応を含む。)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 教職への道	科目概要について説明 自らの学校・生徒体験、心に残る教師等 についてのふりかえり 教職課程の履修動機 教師になることの意味	本科目のシラバスの熟読
2	教職の成立とその意義	公教育の成立 教職の誕生 戦前の教員養成	戦前の教員養成制度に関する配布資料
3	教師教育と教職の専門性 (1)	教員への道 戦後教員養成の原則と制度 教員免許制度の確立	戦後の教員養成制度に関する配布資料
4	教師教育と教職の専門性 (2)	教員免許制度の新たな展開 教員採用の動向と採用試験	教員免許制度に関する配布資料
5	教師教育と教職の専門性 (3)	教員の研修の意義 教員の研修の種類と体系	学び続ける教師に関する配布資料
6	教師教育と教職の専門性 (4)	法定研修 教員の自己研修	教員研修体系に関する配布資料
7	文献・映像に基づく教師像の探究 (1)	戦前・戦後の教師像 憧れの教師	教師像に関する配布資料
8	文献・映像に基づく教師像の探究 (2)	「不良教師」と「熱血教師」(文献・映像に基づく教師像の探究) レポートに基づくグループワーク	「不良教師」と「熱血教師」に関する配布資料を読みレポート提出
9	文献・映像に基づく教師像の探究 (3)	「人間教師」と「プロ教師」(文献・映像に基づく教師像の探究) レポートに基づくグループワーク	「人間教師」と「プロ教師」に関する配布資料を読みレポート提出
10	文献・映像に基づく教師像の探究 (4)	教師としての資質能力のあり方	教師に求められる資質能力についての議論に関する配布資料
11	教員の役割・職務 (1)	学校・教室における指導者の視点からみた教員の役割・職務	授業・カリキュラムと教師に関する配布資料
12	教員の役割・職務 (2)	学校組織の構成員の視点からみた教員の役割・職務	教職員構成と校務分掌に関する配布資料
13	教員の役割・職務 (3)	学校内外の連携の視点からみた教員の役割・職務 (チーム学校運営への対応を含む)	「チーム学校」の考え方と学校運営の実践に関する配布資料
14	教員の役割・職務 (4)	教員の任用と身分 教員の服務と身分保障	教員の任用・服務等に関する配布資料
15	教員の役割・職務 (5)	教員の勤務条件 教員のメンタルヘルス、バーンアウト	教員の勤務実態とメンタルヘルスに関する配布資料

関連科目 教職科目全般、とりわけ「教育原理」「教育経営論」「教育課程論」「教育方法論」「生徒指導論」に関連する事柄を含みます。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準) 定期試験 60%、レポート 30%、グループワークにおけるピアレビュー 10%。定期試験を受験しなかった場合は評定は出ません。

学生へのメッセージ 教職について考えることは教育について考えることであり、「教え」「学び」「育ち」を含む「生き方」について考えることになります。教養とともに、広い視野で物事を捉える習慣を身につけましょう。遅刻・早退等は厳禁です。教師を目指す者としての資質が問われます。

担当者の研究室等	7号館3階 朝日研究室
備考	ポータルシステムを通して講義連絡、学生呼出、資料配布、レポートの課題提示・提出受付を行うことがあるので、リマインダ設定と定期的なサイト確認を確実にしてください。 事前・事後学習総時間はおおよそ60時間程度です。

科目名	教育経営論	科目名 (英文)	Studies of Educational Administration
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	朝日 素明
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	本科目では、現代公教育制度の意義・原理・構造について、その法的・制度的仕組みに関する基礎的知識、および学校や教育行政の組織構造・機能・関係に関する基礎的知識を身につけ、経営の観点から理解するとともに、そこに内在する課題を理解します。そのために、公教育システムに関してなじみの深い事象を参照し、その原理や構造・機能、それに関する政策や法制度、理論や論争、実態や課題を検討していきます。
到達目標	私たちにとってはあたりまえで意識することもないうような、学校教育を中心とした公教育システムのあり方について視野が広がり、理解が深まります。例えば「学校では何を学ぶのか」「学校ではどのように教えられるのか」という内容・方法的な事柄についても、さまざまな制度やその運用によって規定されている様子がわかるなど、教育の環境や条件についての関心が高まり、直接的な行為だけに回収されない教育の奥行きや広がり理解できるようになります。
授業方法と留意点	プレゼンテーションソフトを用いた講義のほか、テキスト・資料の事前学習に基づくディスカッション (LTD ; Learning Through Discussion) 等のグループワークも織り交ぜて授業を進めます。事前学習は必須です。ウェブ上で資料配布、課題提示・レポート提出をすることがあります。「事前・事後学習課題」はすべて事前学習課題です。事後学習課題については別途、指示します。
科目学習の効果 (資格)	教員免許取得上選択必修であり、可能な限り修得することが望ましい科目 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎的理解に関する科目 各科目に含める必要事項：社会的、制度的又は経営的事項 (学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 公教育とは	授業概要、方法としての LTD について説明 教育における「公」と「私」 公教育の成立・展開	シラバス、テキスト第1章を読んでくる。
2	教育権の構造	「教育をする権利」「教育を受ける権利」 「学習する権利」	テキスト第6章を読んでくる。
3	教育を受ける権利の保障	教育権論争について簡単なグループワーク 公教育の制度原理	教育権についての配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。
4	学校体系のしくみ	段階性、系統性 学校体系の類型 学校の種類と設置者	テキスト第4章を読んでくる。
5	学校体系の現代的課題	「義務制」「無償制」にかかわって簡単なグループワーク 選別・分離と接続・統合	教育の制度原理についての配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。
6	教育条件整備の法制度と新しい動向	「選抜・選別」について簡単なグループワーク 公教育を支える諸条件とは 条件整備はどのようになされるか	学校の機能に関する配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。
7	中央教育行政の組織構造	各省庁・審議会	テキスト第8章を読んでくる。
8	地方教育行政の組織構造	教育行政の原則 教育委員会のしくみとはたらき 首長部局と教育委員会	テキスト第9章を読んでくる。
9	中央・地方教育行政の関係構造	教育委員会制度論の新動向に関して簡単なグループワーク 監督行政と指導行政 教育行政関係の新しい動向	教育委員会制度の動向に関する配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。
10	指導行政と教育内容行政	学習指導要領、研究指定・研究開発、教科書行政	テキスト第11章を読んでくる。
11	教育課程経営	学力低下論争をめぐる簡単なグループワーク カリキュラムマネジメント 学力論争と教育評価論	学力低下論争に関する配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。 テキスト第15章を読んでくる。
12	人事行政と教職員管理	教職員の資格・身分・服務管理、教育労働管理	テキスト第10章を読んでくる。
13	学校の組織管理と組織編制	教職員配置、学校・学級の「適正規模」「適正配置」 学校評議員制度、学校運営協議会制度	テキスト第16章、第19章を読んでくる。
14	学校経営の組織構造	学校の「適正規模」「適正配置」にかかわって簡単なグループワーク 学校の組織特性、学校経営の組織と過程 (学校と地域との連携含む)	学校統廃合に関する配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。 テキスト第14章を読んでくる。
15	学校の安全管理と安全教育	安全管理の領域 安全教育の方法	テキスト第18章を読んでくる。

関連科目	教職科目全般、とりわけ「教育原理」「教育社会学」「教師論」「教育課程論」に関連する事項を含みます。
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	公教育経営概説 (改訂版)	堀内孜	学術図書出版社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

	3		
評価方法 (基準)	定期試験 60%、レポート 30%、グループワークにおけるピアレビュー10%。定期試験を受験しなかった場合は評価をしません。		
学生への メッセージ	教員採用試験で頻出の教育法規については授業中に折に触れ解説しますが、採用試験ではそれを基本としてさらに幅広い知識、深い理解と応用力が要求されます。本科目は採用試験対策のための講義ではありませんので、各自が自主的に採用試験受験準備に取り組んでください。遅刻・早退等は厳禁です。専門職業人・教師としての資質が問われます。		
担当者の 研究室等	7号館3階 朝日研究室		
備考	ポータルシステムを通して講義連絡、学生呼出、資料配布、レポートの課題提示・提出受付を行うことがあるので、リマインダ設定と定期的なサイト確認を確実にしてください。 事前・事後学習総時間はおおよそ 60 時間程度です。		

科目名	教育社会学	科目名 (英文)	Sociology of Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	竹中 祐二
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	生物としてのヒトが社会の一員としての人間になる過程を理解する上で欠くことのできない、極めて重要な概念が「社会化」であるが、E.デュルケムは方法的社会化・系統的社会化作用として教育を位置付けている。人間にとって、「社会化としての教育」が本質的なものである一方、「制度としての教育」は、時代や文化による影響を色濃く受けるものでもある。この授業では、教育というものの、そもそも、あるいは今、「あるべき姿」というものについて、社会との関わりから捉え直すことを目的とする。
到達目標	①「近代化」との関わりから、「教育」とは何かという問いに対して、社会学の基礎理論や基本的概念を組み合わせた上で、文章によって解答することができる。 ②時代や文化を超えて普遍的である特徴を押さえて、「教育」とは何かという問いに対して、社会学の基礎理論や基本的概念を組み合わせた上で、文章によって解答することができる。 ③今日の特徴を押さえて、「教育」とは何かという問いに対して、社会学の基礎理論や基本的概念を組み合わせた上で、文章によって解答することができる。 ④教育制度の歴史の変遷や、今日の学校と地域
授業方法と留意点	・本授業では指定している教科書を購入し、事前に講義で扱うテーマに該当する部分(章)を読み、内容を理解した上で授業に臨んで下さい(教科書に記載のない事項の場合、別途資料を配付します)。 ・授業では、教科書(および配付資料)に記載のない事柄についての追加説明や、記載のある事柄を掘り下げる説明を行います。 ・授業後には、教科書に記載している問題を中心に、復習課題を配信します。 ・各回授業の初めに、復習課題と前回授業に対する振り返り・質疑応答を行います。 ・いずれかの回で、(予告した上で)収録済講義動画を
科目学習の効果(資格)	(1)高等学校教諭1種免許状 (2)中学校教諭1種免許状の取得に必要です。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎的理解に関する科目 各科目に含める必要事項：教育に関する社会的、制度的又は経営的事項

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	制度としての教育①	教育内容や教育方法の変遷を学び、それらが社会と深く関わっていることについて学習する。	事前課題：教科書(および配付資料)の該当頁を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめてくる。 事後課題：配信する復習課題に回答すると共に、授業内で気になった点について追加学習をする。
	2	制度としての教育②	階層再生産のメカニズムといった、近代化の所産と教育のあり方について学習する。	事前課題：教科書(および配付資料)の該当頁を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめてくる。 事後課題：配信する復習課題に回答すると共に、授業内で気になった点について追加学習をする。
	3	制度としての教育③	主に義務教育課程について、その概要について学ぶと共に、教育をめぐる平等について学習する。	事前課題：教科書(および配付資料)の該当頁を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめてくる。 事後課題：配信する復習課題に回答すると共に、授業内で気になった点について追加学習をする。
	4	制度としての教育④	高校ならびに大学への進学率上昇と、その背後に潜む諸問題について学習する。	事前課題：事前資料、教科書の該当する章を読み、その内容についてまとめてくる。事後、必ず授業内容について復習を行い、内容について要約する。
	5	社会における教育者の意義①	重要な他者/一般化された他者としての教育者の役割、あるいはそのオルタナティブについて学習する。	事前課題：教科書(および配付資料)の該当頁を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめてくる。 事後課題：配信する復習課題に回答すると共に、授業内で気になった点について追加学習をする。
	6	社会における教育者の意義②	今日の子どもの権利をめぐる諸議論に関わって教育が果たすべき役割について考察すると共に、非対称的な関係が構造的にもたらす教育の逆機能についても学習する。	事前課題：教科書(および配付資料)の該当頁を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめてくる。 事後課題：配信する復習課題に回答すると共に、授業内で気になった点について追加学習をする。
	7	社会における教育者の意義③	子どもにとっての学校が持つ意味を踏まえながら、教師と子どもの関係および学校現場における両者の相互作用について学習する。	事前課題：教科書(および配付資料)の該当頁を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめてくる。 事後課題：配信する復習課題に回答すると共に、授業内で気になった点について追加学習をする。
	8	日本における教育環境の変遷①	学校現場への理解から、非行・不登校・いじめ問題について学習する。	事前課題：教科書(および配付資料)の該当頁を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめてくる。 事後課題：配信する復習課題に回答すると共に、授業内で気になった点について追加学習をする。
	9	日本における教育環境の変遷②	トラッキングやメリトクラシーの問題から、日本におけるキャリア教育について学習する。	事前課題：教科書(および配付資料)の該当頁を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめてくる。 事後課題：配信する復習課題に回答すると共に、授業内で気になった点について追加学習をする。
	10	日本における教育環境の変遷③	特別活動や部活動の検討を通して、教師と子どもそれぞれが今日置かれている教育環境について学習する。	事前課題：教科書(および配付資料)の該当頁を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめてくる。 事後課題：配信する復習課題に回答すると共に、授業内で気になった点について追加学習をする。
11	日本における教育環境の変遷④	今日的な課題のうち、マイノリティ教育に対する教育の意義や実践例について	事前課題：教科書(および配付資料)の該当頁を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめて	

			考察する。	くる。 事後課題：配信する復習課題に回答すると共に、授業内で気になった点について追加学習をする。																
	12	日本における教育環境の変遷⑤	今日的な課題のうち、ジェンダー教育に対する教育の意義や実践例について考察する。	事前課題：教科書（および配付資料）の該当頁を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめる。 事後課題：配信する復習課題に回答すると共に、授業内で気になった点について追加学習をする。																
	13	学級経営における多機関連携①	「チーム学校」論の概要について学び、子どもが安全・安心に学ぶことのできる権利を多角的に保障することの意義と方向性、それらが提起されてきた今日の社会背景について学ぶ。	事前課題：教科書（および配付資料）の該当頁を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめる。 事後課題：配信する復習課題に回答すると共に、授業内で気になった点について追加学習をする。																
	14	学級経営における多機関連携②	スクールソーシャルワーク実践を軸とする「チーム学校」論の視点から、「登下校の見守り活動」等の具体例を通して、子どもの安全・安心を制度的に保障することの意義やポイントについて学ぶと共に、主体である子ども自身の関わり方について学ぶ。	事前課題：教科書（および配付資料）の該当頁を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめる。 事後課題：配信する復習課題に回答すると共に、授業内で気になった点について追加学習をする。																
	15	総括	総括②：本科目を通じて学習した内容について振り返り、専門職をはじめとするそれぞれの立場から社会の中で教育を達成することの意義について再考し、理解を深める。	事前課題：教科書（および配付資料）の該当頁を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめる。 事後課題：配信する復習課題に回答すると共に、授業内で気になった点について追加学習をする。																
関連科目	「教育原理」「教育社会学」「道徳教育の研究」「教育心理学」「生徒指導論」「教育相談」「教育経営論」「教育実習Ⅰ」「教職実践演習」「各教科教育法」																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>現場で使える教育社会学</td> <td>中村高康・松岡亮二</td> <td>ミネルヴァ書房</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	現場で使える教育社会学	中村高康・松岡亮二	ミネルヴァ書房	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	現場で使える教育社会学	中村高康・松岡亮二	ミネルヴァ書房																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>現代教育社会学</td> <td>岩井八郎、近藤博之</td> <td>有斐閣ブックス</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>よくわかる教育社会学</td> <td>酒井朗・中村高康・多賀太</td> <td>ミネルヴァ書房</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>教育の社会学〔新版〕</td> <td>荻谷剛彦・濱名陽子・木村涼子・酒井朗</td> <td>有斐閣</td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	現代教育社会学	岩井八郎、近藤博之	有斐閣ブックス	2	よくわかる教育社会学	酒井朗・中村高康・多賀太	ミネルヴァ書房	3	教育の社会学〔新版〕	荻谷剛彦・濱名陽子・木村涼子・酒井朗	有斐閣
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	現代教育社会学	岩井八郎、近藤博之	有斐閣ブックス																	
2	よくわかる教育社会学	酒井朗・中村高康・多賀太	ミネルヴァ書房																	
3	教育の社会学〔新版〕	荻谷剛彦・濱名陽子・木村涼子・酒井朗	有斐閣																	
評価方法（基準）	授業後課題（45%）・期末レポート課題（55%） ※試験は実施しない予定ではあるが状況により変更する場合がある。																			
学生へのメッセージ																				
担当者の研究室等	3号館3階・竹中研究室																			
備考	本授業は総授業時間（30時間）に加えて、各回の事前事後学習（課題・レポートの作成も含めて）に各2時間（全15回×4時間＝60時間）を要する。																			

科目名	教育心理学	科目名 (英文)	Educational Psychology
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	吉田 佐治子
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	学校での教育活動において教師の果たす役割は大きい。学習の質を高めるために、教師が学習者を理解し、さまざまな形で援助していくためにはどうすればよいのか。それを考えていくにあたって必要な基礎的な知識を身につけ、日常生活の中で行われている学習活動や学校等における問題について、心理学的に説明し、考えることができるようになることを目標とする。
到達目標	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について、基礎的な知識を身につけ、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解する。
授業方法と留意点	講義中心で行う。事前に資料を moodle 上で配付するので、各自入手しておくこと。 必要に応じて、簡易実験やグループディスカッション等を行う。
科目学習の効果 (資格)	教員免許取得上必修、免許法施行規則に定められた「教育の基礎的理解に関する科目」10単位のうち2単位を充足。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎的理解に関する科目 各科目に含める必要事項：幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	発達と教育と心理学と1	教育に対して心理学ができること、発達と教育	テキスト第0章1, 配付資料による本時の予習と復習
2	発達と教育と心理学と2	発達の要因, 主な発達理論の概観	テキスト第8章1, 配付資料による本時の予習と復習
3	こどもの発達1	乳幼児期.....運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達	テキスト第8章2・第9章, 配付資料による本時の予習と復習
4	こどもの発達2	児童期.....運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達	テキスト第8章2・第10章・第11章, 配付資料による本時の予習と復習
5	こどもの発達3	青年期.....運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達	テキスト第8章2・第10章・第11章・第12章, 配付資料による本時の予習と復習
6	学習を支える認知機能1	思考.....人間の思考の特徴, メタ認知の機能と発達	テキスト第7章1, 配付資料による本時の予習と復習
7	学習を支える認知機能2	言語.....言語の機能, 言語理解と言語産出とその発達	テキスト第11章, 配付資料による本時の予習と復習
8	学習を支える認知機能3	記憶.....記憶のメカニズムと発達	テキスト第4章・第5章, 配付資料による本時の予習と復習
9	こどもの学び1	さまざまな学習①.....学習とは何か, 主な学習理論の概観, 条件づけ	テキスト第1章, 配付資料による本時の予習と復習
10	こどもの学び2	さまざまな学習②.....観察学習, 自己制御学習	テキスト第1章・第6章, 配付資料による本時の予習と復習
11	学習を支える動機づけ1	意欲とは何か.....動機づけ過程, 動機づけ理論	テキスト第2章・第3章, 配付資料による本時の予習と復習
12	学習を支える動機づけ2	さまざまな意欲.....外発的動機づけ・内発的動機づけ, その他の視点, 意欲の発達	テキスト第2章・第3章, 配付資料による本時の予習と復習
13	学習を支える動機づけ3	意欲を育む.....こどもの発達と意欲, 意欲を育む教育のあり方, 学習と評価	テキスト第2章・第3章, 配付資料による本時の予習と復習
14	学校における人間関係	教師-生徒の関係, 生徒-生徒の関係, 教師-教師の関係, 集団としての学級	テキスト第0章2・第10章, 配付資料による本時の予習と復習
15	個に応じた教育	個人差の理解と教育.....ATI, 学習方略	テキスト第0章3・第6章・第7章2, 配付資料による本時の予習と復習

関連科目 教職課程におけるすべての科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	絶対役立つ教育心理学—実践の理論, 理論を实践—	藤田哲也 (編著)	ミネルヴァ書房
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準) 小テスト 30%, 期末試験 70%

学生へのメッセージ これまで受けてきた教育を思い出してください。また心理学の用語の中には、日常的に遣われているのとやや異なる意味で用いられるものがあることに留意してください。

担当者の研究室等 7号館3階 (吉田研究室)

備考	Teams コード 火曜 5 限: zjj0tqu 木曜 1 限: 2ykhkk8 木曜 5 限: 9lu9ly1 金曜 5 限: hiwxh3c Moodle コース名と登録キー 火曜 5 限: 2023 教育心理学 (火 5) あるいは 23 教心 (火 5) 2023EPTUE5 木曜 1 限: 2023 教育心理学 (木 1) あるいは 23 教心 (木 1) 2023EPTU1
----	--

	木曜 5 限：2023 教育心理学（木 5）あるいは 23 教心（木 5） 2023EPHU5 金曜 5 限：2023 教育心理学（金 5） あ
--	---

科目名	特別支援教育論	科目名 (英文)	Studies of Special Needs Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	松浦 正典
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	通常の学級にも在籍している発達障害や知的障害をはじめとする様々な障害者等により特別な支援を必要とする子ども達が授業において学習活動に参加している。学実感・達成感をもちながら学び、生きる力を身につけていけるよう、子どもの学習上または生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の職員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解する。
到達目標	①インクルーシブ教育システムにおける特別支援教育に関する理念や仕組みについて理解する。 ②視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱・発達障害を含むさまざまな障害のある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難について理解する。 ③発達障害や知的障害をはじめとする特別の支援を必要とする児童・生徒の心身の発達、心理的特性、障害の場合はその特性について理解する。 ④個別の教育支援計画及び個別の指導計画を作成する意義と方法について理解する。 ⑤管理職・特別支援教育コーディネーターをはじめとするチーム
授業方法と留意点	1 授業は対面式で行う。状況によってはオンラインで行うこともありうる。ICT ツールは Teams を使用する。 2 講義資料等は「ファイル」に各授業回別のフォルダをつくり、そこに掲載する。プリントアウトするなどして各自で管理すること。 3 Teams で「課題」の提出を求めるので遅滞なく提出すること。
科目学習の効果 (資格)	教職科目 特別支援教育論は、教員免許 (小学校・中学校・高等学校) 取得上必修科目である。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	特別支援教育を学ぶ意義と本授業のガイダンス	・なぜ特別支援教育学を学ばなければならないか理解する。・グループ学習のやり方について説明を聞き、グループ分けを行う。	・授業計画及び教科書第1章を読み、今後の学習について見通しを持つ (2時間)・グループでの役割に応じて4回目授業での発表準備を進める (2時間)
2	特別支援教育の歴史と現行制度について	・特殊教育・特別支援教育の歴史の概要を知る。 ・特別支援教育を支える仕組みについて理解する。	・教科書第2章をよく読み、質問をまとめておく。(2時間)・グループでの役割に応じて4回目の授業での発表準備を進める (2時間)
3	支援システムの構築と法的整備	・校内支援システムの構築や他職種等の連携を知り、チーム学校について理解する。	・教科書第3章をよく読み、質問をまとめておく。(2時間)・ペアでの役割に応じて、4回目の授業での発表の資料をA4一枚程度(両面可)にまとめる。(2時間)
4	視覚障害・聴覚障害について	・視覚障害・聴覚障害の概要・必要な支援・教育について教えあう。 ・見え方紹介アプリの活用	・教科書第11章をよく読むとともに、自分の担当部分をペアに説明する準備を行う。(2時間)・講義やペア学習、教科書を元に学習内容をまとめる。(2時間)
5	肢体不自由・病弱・身体虚弱・重度重複について	・肢体不自由・病弱・身体虚弱・重度重複の概要・必要な支援・教育について理解する。	・教科書第10章をよく読み、疑問点をまとめておく。(2時間)・グループでの役割に応じて、7回目の授業での発表資料をA4二枚以内(両面可)にまとめる。(2時間)
6	情緒障害・言語障害について	・情緒障害・言語障害の概要及びタイプ、指導・支援方法等について学ぶ。	・教科書第8章をよく読み、疑問点をまとめておく。(2時間)・講義や教科書を元に学習内容をまとめる (2時間)
7	知的障害・発達障害について (1)	・知的障害・発達障害についてグループで発表を行い、質疑応答をする。・障害別に担当者が集まり、お互いの内容を補完し、疑問点を解決する。	・教科書6・7・9章などを参考に自分の担当部分についてよく伝えるようにまとめておく。担当以外の部分についても教科書を読んで概要を理解しておく。(2時間) 授業で学んだことを整理し、発表資料を訂正しておく。(2時間)
8	知的障害・発達障害について (2)	・資料をもとにグループ発表を行う。代表者にまとめた発表をしてもらい、感想をまとめる。 ・学習支援アプリの操作・体験	・自分の発表部分について、よく伝えるように練習をしておく。教科書を読んで概要を理解しておく。(2時間) 授業で学んだことを整理し、教科書を再読する。(2時間)
9	LGBT 等特別な教育的支援が必要な子どもの理解と指導・支援	・学習困難・ギフテッド・LGBT・不登校・いじめなど教育的支援が必要な児童について学び、学級での支援の方法について理解する。	・教科書第12章をよく読み、疑問点をまとめておく。(2時間)・講義や教科書を元に学習内容をまとめる (2時間)
10	個別の指導計画と個別の教育支援計画	・ICFモデル・特別支援教育への転換について知る。 ・合理的配慮と個別の支援計画・個別の指導計画について理解し、実際に個別の指導計画を作成してみる。	・教科書第5章をよく読み、疑問点をまとめておく。(2時間)・講義や教科書を元に学習内容をまとめる (2時間)
11	通常学級での特別支援教育 (小・中学校)	・授業のユニバーサルデザインで目指すものとユニバーサルデザインの概要について理解する。	・第2回の授業内容について教科書やノートで復習しておく (2時間)・講義や教科書を元に学習内容をまとめる (2時間)
12	通常学級での特別支援教育 (高等学校)	・京都府や大阪府にある高等学校で行われている先進的な特別支援教育について理解する。	・京都府や大阪府にある高等学校で行われている先進的な特別支援教育についてネット等で調べる (2時間)・講義を元に学習内容をまとめる (2時間)
13	保護者との連携・専門機関・地域との連携	・特別な教育的支援を必要とする子どもや親を支える専門機関の種類と役割を理解する ・地域での生活を送るうえでの支援と課題を理解する。	・教科書第13章・14章をよく読み、疑問点をまとめておく。(2時間)・教科書と講義を元に学習内容をまとめる (2時間)
14	早期支援と就労支援	・早期発見システムについて学び、早期支援について考える。 ・進路支援・就労支援の実際を知り、問題点を明らかにする。	・教科書第15・第16章をよく読み、疑問点をまとめておく。(2時間)・講義や教科書を元に学習内容をまとめる (2時間)
15	発達障害等に対する指導技	・特別支援教育学の講義全体を見直し、	・配布した資料に目を通しておく。今まで学習した

	法 まとめ	課題と解決方法について、自分なりの考えを持つ。	内容を教科書やノートで振り返る。(2時間) ・今までの学修をふりかえる (2時間)・当日出題される課題に取り組み、提出する。																
関連科目	教職科目全般と関連性をもつ。特に、教師論、教育心理学、特別活動・総合的な学習の時間の理論と指導法、教育方法論、教育課程論、教育社会学、教育相談での学習内容と関連させて理解を深めることが大切である。																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>はじめての特別支援教育 教職を目指す大学生のために</td> <td>柘植雅義他</td> <td>有斐閣アルファ</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	はじめての特別支援教育 教職を目指す大学生のために	柘植雅義他	有斐閣アルファ	2				3					
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	はじめての特別支援教育 教職を目指す大学生のために	柘植雅義他	有斐閣アルファ																
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>みんなで考える特別支援教育</td> <td>梅永雄二他</td> <td>北樹出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>特別支援学校幼稚部教育要領小学校・中学部学習指導要領 平成29年4月告示</td> <td>文部科学省</td> <td>海文堂出版</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>中学校学習指導要領 (平成29年告示) 総則編</td> <td>文部科学省</td> <td>海文堂出版</td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	みんなで考える特別支援教育	梅永雄二他	北樹出版	2	特別支援学校幼稚部教育要領小学校・中学部学習指導要領 平成29年4月告示	文部科学省	海文堂出版	3	中学校学習指導要領 (平成29年告示) 総則編	文部科学省	海文堂出版		
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	みんなで考える特別支援教育	梅永雄二他	北樹出版																
2	特別支援学校幼稚部教育要領小学校・中学部学習指導要領 平成29年4月告示	文部科学省	海文堂出版																
3	中学校学習指導要領 (平成29年告示) 総則編	文部科学省	海文堂出版																
評価方法 (基準)	授業への参加状況【課題等】(40%)、中間レポート(30%)、最終レポート(30%)を総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ	本科目を受講することで、障害のある児童生徒をはじめ、特別な支援を必要とする児童生徒への理解が進み、1人ひとりの教育ニーズに応じた教育が展開できるようになってほしい。																		
担当者の研究室等	寝屋川キャンパス7号館3階松浦研究室																		
備考	授業外総学習時間を60時間とする。																		

科目名	教育課程論	科目名 (英文)	Studies of Curriculum Development
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	鎌田 祥輝
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	本講義では教育課程 (カリキュラム) とは何かについて考える。教育課程 (カリキュラム) はどのような目的から、どのような内容で編成されているのかについての歴史的経緯を考察する。同時に学校教育システムとの関わりから、その意義や役割を理解する。そして、日本における学習指導要領の変遷や戦前・戦後のカリキュラムの実践の開発を知るとともに、これからのカリキュラム開発の課題について考える。
到達目標	(1) 学校教育における教育課程の意義について理解する。 (2) 将来、教職に就いた際、適切な教育課程 (カリキュラム) を計画・編成し、かつ、実践、評価する力が身につく。
授業方法と留意点	テキストや資料を中心に授業を進める講義形式が基本となる。扱うテーマによってはグループワークを導入するなど、学生一人一人の授業への主体的な参加が求められる。 事後課題として、コメントカードの提出を毎回求める。各授業のはじめにコメント返し・フィードバックを行う。 現行学習指導要領 (本文・解説) は文部科学省 HP よりダウンロードすること。
科目学習の効果 (資格)	教員免許 (中学校・高等学校) 取得上必修科目である。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎的理解に関する科目 各科目に含める必要事項：教育課程の意義及び編成の方法 (カリキュラム・マネジメントを含む。)

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	教育課程とは何か	オリエンテーション 学校教育のもつ機能について	授業終了時に示す小課題・コメントカードを提出する (1時間)
2	日本における教育課程の歴史的変遷 (1)	戦前から戦後、経験主義～系統主義：高度経済成長期の教育課程変遷について	授業終了時に示す小課題・コメントカードを提出する (1時間)
3	日本における教育課程の歴史的変遷 (2)	1970年代以降、「ゆとり」への標榜から「生きる力」、そして現在までの教育課程変遷について	授業終了時に示す小課題・コメントカードを提出する (1時間)
4	教育課程 (カリキュラム) の概念と構造、および教育課程編成について	教育課程の編成要素 (内部要因と外部要因) について	授業終了時に示す小課題・コメントカードを提出する (1時間)
5	教育評価 (1)	子どもたちの発達段階にふさわしい評価の方法とその特質について	授業終了時に示す小課題・コメントカードを提出する (1時間)
6	教育評価 (2)	教育課程評価について	授業終了時に示す小課題・コメントカードを提出する (1時間)
7	「総合的な学習 (探究) の時間」について	導入の背景とそのねらいについて	授業終了時に示す小課題・コメントカードを提出する (1時間)
8	新しい教育課程 (1)	「キャリア教育」について事例分析と学生グループによるワーク、および発表を予定	授業終了時に示す小課題・コメントカードを提出する (1時間)
9	新しい教育課程 (2)	「アクティブラーニング」について、その意義・目的と実践事例について	授業終了時に示す小課題・コメントカードを提出する (1時間)
10	新しい教育課程 (3)	「社会に開かれた教育課程」と地域との連携について	授業終了時に示す小課題・コメントカードを提出する (1時間)
11	教育課程と教育改革 (1)	特色のある学校作り：小中高編 (学生グループによるワーク、および発表を予定)	授業終了時に示す小課題・コメントカードを提出する (1時間)
12	教育課程と教育改革 (2)	カリキュラム・マネジメントについて、その意義と目的	授業終了時に示す小課題・コメントカードを提出する (1時間)
13	教育課程と教育格差 (1)	学力格差と学力低下問題について (学生グループによるワーク、および発表を予定)	授業終了時に示す小課題・コメントカードを提出する (1時間)
14	教育課程と教育格差 (2)	教育格差に抗する学校の取り組みについて (学生グループによるワーク、および発表を予定)	授業終了時に示す小課題・コメントカードを提出する (1時間)
15	総括：教育課程をめぐる諸問題	海外の学校教育課程の動向、および、キー・コンピテンシー (OECD) について	授業終了時に示す小課題・コメントカードを提出する (1時間) 定期試験に向けた準備をする (45時間)

関連科目 教職科目全般と関連がある。他の教職科目と重なる点や特徴を整理していくことが重要。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新しい時代の教育課程 (第4版)	田中耕治ほか	有斐閣
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新しい教育評価入門 (増補版)	西岡加名恵ほか	有斐閣
2				
3				

評価方法 (基準) 定期試験 (60%)：教育課程にまつわる基礎的知識の修得、および教育課程計画・編成に関わる歴史・論点・現代的課題に関する理解を問う。
小課題・コメントカード (40%)：毎回の授業後に、授業内容のキーワードについて振り返り、考察する課題を提示する。
評価基準は講義内で提示する。

学生へのメッセージ コメントカード、期末課題等の提出物は期日までに提出すること。

担当者の 7号館3階 鎌田研究室

研究室等	
備考	2009 年度以前入学生は、(高校) 教免取得上選択 授業計画に記載している授業テーマは、授業の進捗状況や学生の関心に応じて変更することがある。 授業で用いる資料等については、適宜印刷し、配布する。 事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。

科目名	特別活動・総合的な学習の時間の理論と指導法	科目名 (英文)	Methodology of Special Activities and Integrated Studies
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	松浦 正典
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的
 特別活動の理論と指導法については、学校における様々な構成・場面での集団活動を通して、課題の発見や解決を行い、よりよい学級生活・学校生活の実現を目指す特別活動の意義、目標及び内容を理解し、特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身に付ける。
 総合的な学習（探求）の時間の理論と指導法については、探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を探究的な学びの過程を通して行い、よりよく課題を解決し、自己の生き方について考えていくための資質・能力の育成をめざし、指導計画の作成、学習指導や評価の考え方、留意点を理解する。

到達目標
 1 教育課程における特別活動の位置付けと各教科等との関連、学習指導要領における特別活動の目標及び主な内容を理解している。
 2 特別活動における取組の評価・改善活動の重要性、家庭・地域住民や関係機関との連携の在り方を理解している。
 3 合意形成に向けた学級での話し合い活動、意思決定につながる指導及び集団活動の意義や指導の在り方を例示することができる。
 4 総合的な学習（探求）の時間の意義と教育課程において果たす役割、目標並びに各学校において目標及び内容を定める際の考え方や留意点、年間指導計画を作成する

授業方法と留意点
 講義はテキストやプリント教材、視聴覚教材をもとにすすめるが、ソロワーク、グループワークを取り入れる。「為すことによって学ぶ」ことが求められる特別活動や自ら問いを見だし、課題を立て、情報を整理分析して、まとめ表現することが求められる総合的な学習の時間を指導しなければならない教員の立場に立って、集団をファシリテートできるよう、自身の「自己理解」「他者理解」「共感的な人間関係」の充実も図りながら、グループでのディスカッション・コーディネーション・プレゼンテーションへの積極的な参加を求める。

科目学習の効果 (資格)
 教職科目 特別活動・総合的な学習の時間の理論と指導法は、教員免許（中学校・高等学校）取得上必修科目である。

	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション・特別活動及び総合的な学習（探求）の時間の意義と課題	学校教育活動のなかでの特別活動の意義と課題、総合的な学習の時間の意義と教育課程の中で果たす役割、指導する上で教師に求められる力量	特別活動テキスト第1章、講義資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料を参考に復習をする（2時間）。
2	特別活動の目標・内容・方法	教科外活動としての位置づけ、特別活動の3つの内容、方法としての集団活動・体験活動	特別活動テキスト第2章、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料を参考に復習する（2時間）。	
3	学級活動・ホームルーム活動1	学級とは何か、特別活動の実践的基盤としての学級、教師と子どもの関係づくりワーク：学級活動の年間計画の作成	特別活動テキスト第3章第1節、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。	
4	学級活動・ホームルーム活動2	学級活動の実際と合意形成 グループワーク：学級開きと年間計画の作成	特別活動テキスト第3章第1節、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。	
5	生徒会活動・児童会活動	生徒会（児童会）活動の歴史・目標・内容。 学級経営に役立つワーク	特別活動テキスト第3章第2節、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料を参考に復習をするをする（2時間）。	
6	学校行事	学校行事の歴史・種類・内容・観点 グループワーク：学校行事の思い出	特別活動テキスト第3章第3節を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。	
7	特別活動の指導計画の作成にあたっての配慮事項	グループに分かれ、担当の箇所についてまとめ、プレゼンをする。（ABDによる）	教科書第4章第1節を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。	
8	特別活動の内容の取扱いについての配慮事項	グループに分かれ、担当の箇所についてまとめ、プレゼンをする。（ABDによる）	教科書第4章第2節を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。	
9	特別活動の歴史	学習指導要領における位置づけの変遷、課題の変化、目標の変化、時代背景のと関係 個別ワーク：戦後の特別活動の歴史をまとめる	講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。	
10	外国における特別活動 特別活動の指導を担当する教師	諸外国ではどのような特別活動が行われているか理解する。 個別ワーク：特別活動を指導する教師に必要な力	特別活動テキスト第4章第4節、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。	
11	総合的な学習（探求）の時間の目標・内容・原理	総合的な学習（探求）の時間の目標の構成、各学校において定める目標及び内容、方法的原理 グループワーク：総合的な学習の思い出	総合的な学習の時間のテキスト第1・2・3章、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。	
12	総合的な学習（探求）の時間の指導計画	全体計画、年間計画、単元計画の作成 グループワーク：総合的な学習の時間の年間計画作成 1	総合的な学習の時間のテキスト第5章、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。	
13	探究的な学習の過程について	生徒の主体性を重視した学習指導、探究的な学習の過程における主体的で対話的で深い学び グループワーク：総合的な学習の時間の年間計画作成 2	総合的な学習の時間のテキスト第2・7章、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。	
14	総合的な学習（探求）の時間の評価	カリキュラムマネジメントの考え方による全体計画、年間計画、単元計画の評価、生徒の学習状況の評価 グループワーク：総合的な学習の時間の年間計画について発表	総合的な学習の時間のテキスト第5・6・8章、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。	
15	補足とまとめ/最終レポートについて	補足を行うとともに全学習事項について再度振り返り整理する。 個別ワーク：総合的な学習の時間を指導する教師に必要な力	・第1回目から14回目までの配布資料に目を通して全体を復習しておく。 ・課題に沿ったレポートを作成する。	

関連科目
 すべての教職科目と関連するが、特に、教師論、教育心理学で学習したことと関連づけるとともに、教育方法論、生徒指導論、道徳教育論、教育

	社会学などの学習につなげることが大切である。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中学校学習指導要領解説 特別活動編 平成29年告示	文部科学省	東山書房
	2	中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編 平成29年告示	文部科学省	東山書房
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	高等学校学習指導要領解説 特別活動編 平成29年告示	文部科学省	東京書籍
	2	高等学校学習指導要領 総合的な探求の時間編 平成29年告示	文部科学省	学校図書
	3			
評価方法 (基準)	授業への参加状況及び課題 (40%)、中間レポート (30%)、最終レポート (30%) を総合的に評価する。			
学生への メッセージ	学級はもともと「ある」ものではなく、つくって「なる」ものだと言われる。子どもどうしがつながりあって、心地よい関係の中で育つことができる環境をつくり、維持するために努力するという事に尽きる。それは、どのような時代にあっても教師であることの醍醐味である。			
担当者の 研究室等	寝屋川キャンパス7号館3F松浦研究室			
備考	授業外学習総時間を60時間とする。			

科目名	教育方法論	科目名 (英文)	Studies of Educational Method
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	松浦 正典
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	<p>教職課程「教育の方法及び技術」に対応する科目である。教師に求められる教育の方法と技術に関する基礎的・基本的な知識と技能を身につけていくことを目指して授業を行う。内容としては、教育の方法と技術に関する歴史の変遷に触れ、現代求められている「主体的・対話的で深い学び」についての理解を深める。この授業を通してそれぞれが理想とする授業像・教師像を持ち、教員採用試験を突破できる基礎力を築く。</p> <p>また、授業形態としては、講義のほかにペア学習・グループに分かれてのアクティブラーニングを取り入れ、教える側にも立ち、学修を進める。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 教育方法の基礎的理論と実践について理解している 2 これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するための教育方法の在り方（主体的・対話的で深い学びの実現など）を理解する。 3 授業を行う上での基礎的な技術を身につける。 4 子供たちの情報活用能力（情報モラルを含む）を育成するための指導法を理解する。 5 実物投影機やプレゼンテーションソフト等を活用し、模擬授業を行う。
授業方法及び留意点	<ol style="list-style-type: none"> 1 授業は対面式で行う。ICTツールはTeamsを使用する。 2 講義資料等は「ファイル」により各授業回別のフォルダを作り、そこに掲載する。電子ファイルとして、もしくはプリントアウトして各自で管理すること。 3 Teamsで「課題」の提出を求めるので遅滞なく提出すること。なお、発表資料は発表の1週間前までに提出すること。
科目学習の効果(資格)	教職科目 教育方法論は、教員免許（小学校・中学校・高等学校）取得上必修科目である。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション、教職科目「教育方法論」について・授業経験の振り返り	授業のオリエンテーション 講義：今、なぜ教育方法の学なのか・教育方法学の論点と課題 記憶に残る教師・授業について体験を発表する	教科書序章・第3章、講義資料をよく読んで、疑問点をまとめておく。(2時間) 教科書・講義資料を参考に学習内容を整理する。(2時間)
2	学習とは何か(学習論)	講義：学習をめぐる3つの理論、学習理論にもとづく学習方法、学習における他者の役割・アクティブラーニングについて理解する。 個人学習：担当する教育学者を決める(海外1・日本1 計2名)	教科書第5章、講義資料をよく読んで、疑問点をまとめておく。(2時間) 教科書・講義資料を参考に学習内容を整理する(2時間)。	
3	子どもたちは何を学ぶのか(教育目標・内容論)	講義：教育目標に関する基本的な考え方、教育目標と内容、教材・教具の違いについて理解する。 個人学習：担当する教育学者について教科書の内容他をまとめる	教科書第4章、講義資料をよく読んで、疑問点をまとめておく(2時間)。教科書・講義資料を参考に学習内容を整理する。(2時間)	
4	欧米における授業の歴史(教授論の歴史①)	講義：近代以前の教育、近代教育思想と教授学の成立、教育学の体系化と授業の組織化、カリキュラム研究の成立と展開について理解する。 グループ学習：情報交換をする。	教科書第1章、講義資料をよく読んで、疑問点をまとめておく。(2時間) 教科書・講義資料を参考に学習内容を整理する。情報交換の準備を進める。(2時間)	
5	日本における授業の歴史(教授論の歴史②)	講義：古代から近世の教育、近代学校制度と授業の成立、授業の定型化、授業改造の試みについて理解する。 グループ学習：情報交換をする。	教科書第2章、講義資料をよく読んで、疑問点をまとめておく。(2時間) 発表の準備を進める。教科書・講義資料を参考に学習内容を整理する。(2時間)	
6	学力をどう高めるか(学力論)	・講義：学力をどうとらえるか、「できる学力」を高める、「分かる学力」を高めるについて理解する。	教科書第6章をよく読んで、疑問点をまとめておく。(2時間) 教科書・発表資料を参考に学習内容を整理する。(2時間)	
7	授業をどうデザインするか(設計・デザイン論)	グループ発表・講義：授業のデザイン、教科書内容と子どもの学び、対話的・協同的な学び合い、学びのための指導・支援について理解する。 グループ学習：グループに分かれ担当する模擬授業の内容を決める。	教科書第7章をよく読んで、疑問点をまとめておく。(2時間) 教科書・発表資料を参考に学習内容を整理する。(2時間)	
8	8 教育の道具・素材・環境(教材論)	講義：教材づくりの発想、メディアとしての教材、教材概念の拡張、学習環境としての時空間について理解する。 グループ学習：模擬授業の準備をする	教科書第8章をよく読んでおく。(2時間) 教科書・発表資料を参考に学習内容を整理する。(2時間)	
9	何をどう評価するか(評価論)	グループ発表・講義：指導要録における教育評価観の変遷、目標に準拠した評価の意義と展開、形成的評価と自己評価、パフォーマンス評価とポートフォリオ評価、教育評価論としての「実践記録」について理解する。 グループ学習：模擬授業の準備をする	教科書第9章をよく読んでおく。(2時間) 教科書・発表資料を参考に学習内容を整理する。(2時間)	
10	教科外教育活動を構想する	グループ発表・講義：教科外活動の分野と方法、教科外活動の今日的な課題について理解する。 グループ学習：模擬授業を行う	教科書10章をよく読んで、疑問点をまとめておく(2時間)。教科書・発表資料を参考に学習内容を整理する。(2時間)	
11	教育におけるICTの活用について考える	講義：令和の日本型教育、GIGAスクール構想について理解することでICTを活用した学びの意義・実践を知る。 グループ学習：模擬授業を行う	講義資料をよく読んで、疑問点をまとめておく。(2時間) 講義資料を参考に学習内容を整理する。(2時間)。	

	12	インクルーシブな授業をつくる（インクルーシブ教育論）	講義：ICF への転換と特殊教育から特別支援教育への転換、特別支援教育の理念と合理的配慮の考え方、授業における合理的配慮について理解する。 グループ学習：模擬授業を行う	講義資料をよく読んで、疑問点をまとめておく。(2時間) 講義資料を参考に学習内容を整理する。(2時間)																
	13	今求められている学力を育てるために (1)	・なぜフィンランドの教育は世界中から注目されたかを理解する。 ・学習指導と学級経営の関係を理解する。	講義資料をよく読んで、疑問点をまとめておく。(2時間) 講義資料を参考に学習内容を整理する。(2時間)																
	14	今求められている学力を育てるために (2)	PISA の問題を実際に解くことにより、今求められている学力を体験的に知る。	講義資料をよく読んで、疑問点をまとめておく。(2時間) 講義資料を参考に学習内容を整理する。(2時間)																
	15	まとめ～学び続ける教員像をめぐって	講義：すぐれた教師・理想の教師になるために何をしていけばよいか2つの教師モデル等から理解する。	教科書第11章、講義資料をよく読んで、疑問点をまとめておく。(2時間) 教科書・講義資料を参考に学習内容を整理し、最終レポートを作成・提出する。(2時間)																
関連科目	教職科目全般と関連性をもつ。特に、「教師論」「教育原理」「教育心理学」での既習内容と関連させて理解を深めることが大切である。																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>新しい時代の教育方法 改訂版</td> <td>田中耕治他</td> <td>有斐閣</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	新しい時代の教育方法 改訂版	田中耕治他	有斐閣	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	新しい時代の教育方法 改訂版	田中耕治他	有斐閣																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>中学校学習指導要領（平成29年度版）解説 総則編</td> <td>文部科学省</td> <td>東山書房</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	中学校学習指導要領（平成29年度版）解説 総則編	文部科学省	東山書房	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	中学校学習指導要領（平成29年度版）解説 総則編	文部科学省	東山書房																	
2																				
3																				
評価方法 (基準)	授業への参加状況【課題等】(40%)、レポート(30%)、最終レポート(30%)により総合的に評価する。																			
学生へのメッセージ	「授業に参加するだけ」という受動的な構えを取るのではなく、教育諸課題に敏感に反応し、教育の方法的視点でどのように対処すべきかを常に考える癖をつけるようにしてください。																			
担当者の研究室等	7号館3階(松浦研究室)																			
備考	授業外総学習時間を60時間とする。																			

科目名	生徒指導論（進路指導を含む）	科目名（英文）	Studies of Guidance and Counseling
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	西村 晃一
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	生徒指導、進路指導は、学校教育をすすめるうえで重要な役割を占めています。非行、いじめ、不登校、学級崩壊、受験競争、進路のミスマッチなど、生徒指導・進路指導上の諸問題については、その解決の重要性が認識されています。本科目では、生徒指導・進路指導・キャリア教育の意義について理解を深め、実践を進める方法原理について基礎的な知識を獲得し、教職員や関係機関と協力して解決・改善を目指すようとする素養を養います。
到達目標	学生は、生徒指導、進路指導、キャリア教育の意義と原理を理解し、学校の教育活動の核にこれを据え、全ての教職員および関係機関等と協力し、組織的に実践を進めていくために必要な知識やスキルを学び、さまざまな問題事象を適切に捉え対処する基礎力を身につけることができます。
授業方法と留意点	対面授業で、プレゼンテーションソフトを用いた講義を中心に進めます。また時折、レポートを課します。Teamsを通してテキスト・資料の配布や、レポート課題の提示等を行います。 「事前・事後学習課題」はすべて事前課題です。事後課題については別途、指示します。
科目学習の効果（資格）	教員免許取得上必修 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 各科目に含める必要事項：生徒指導の理論及び方法、進路指導及びキャリア教育の理論及び方法

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 教育課程と生徒指導・進路指導	科目概要について説明 自分の生徒指導上の体験のふりかえり	テキスト pp. 3-6、pp. 25-32、pp. 80-100
2	生徒指導の目標と意義	生徒指導の目標と意義	テキスト pp. 6-17
3	生徒指導の実践	生徒指導の実践課題と領域	テキスト pp. 17-24
4	生徒指導の理論	発達に関する理論 生徒指導における治療的支援に関する理論 相談理論など	テキスト pp. 32-42
5	生徒理解の進め方（1）	生徒理解の意義と目的 生徒理解の方法	テキスト pp. 43-52
6	生徒理解の進め方（2）	生徒の自己理解の支援 教師の生徒認知のありよう	テキスト pp. 52-62
7	学級経営の進め方（1）	学級経営の意義 学級集団の役割・機能	テキスト pp. 63-68
8	学級経営の進め方（2）	学級集団の力学 学級経営の方法	テキスト pp. 68-79
9	生徒指導上の諸問題の理解と対応	生徒指導上の諸問題とは 最近の諸問題の動向 諸問題にどう対応するか	生徒指導上の諸問題に関する配布資料
10	学校の生徒指導・進路指導体制と連携・協力	学校における指導体制 家庭との連携 専門機関との連携	テキスト pp. 116-131
11	生徒の進路・キャリアに関する実態と課題	進路選択の実態と課題 キャリア適応 青少年の勤労観・職業観 勤労観・職業観の形成と変容	テキスト pp. 176-195
12	進路指導・キャリア教育の目標と意義	進路指導・キャリア教育の意義 進路指導・キャリア教育の現代社会的課題	テキスト pp. 135-159
13	進路指導・キャリア教育の理論	キャリア発達に関する諸理論 キャリアカウンセリングに関する理論	キャリア発達理論に関する配布資料
14	進路指導における「ガイダンスの機能」	ガイダンスを活かした指導	テキスト pp. 220-223
15	学校教育における進路指導の実践展開	進路指導実践の展開モデル	テキスト pp. 196-220、pp. 223-234

関連科目	教職科目全般、とりわけ「教育原理」「教師論」「教育心理学」「特別活動の理論と方法」「教育経営論」に関連する事柄を含みます。
------	---

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	生徒指導提要	文部科学省	東洋館出版社
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中学校学習指導要領（平成 29 年告示）	文部科学省	
2	高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）	文部科学省	
3	生徒指導提要	文部科学省	

評価方法（基準）	定期試験 60%、レポート 40%。定期試験を受験しなかった場合、評価はしません。
----------	---

学生へのメッセージ	生徒指導、進路指導を学ぶ原資になる自らの体験は大事です。さらに自らの体験を対象化して考える習慣をつけましょう。そのために、基礎的な知識をしっかりと身につけてください。 授業への遅刻、無断欠席・早退等は厳禁です。生徒指導を行おうとする者としての適格性が問われます。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館3階 西村研究室
----------	-------------

備考	<p>必ず自分が履修登録をした曜日時限の Teams コード登録をしてください。自分が履修登録した曜日時限以外の Teams コード登録をしたものは成績評価対象外です（全欠席扱いとし、単位認定しません）。</p> <p>事前・事後学習総時間はおおよそ 60 時間程度です。</p>
----	--

科目名	地域連携教育活動Ⅰ	科目名(英文)	Communitiy-Based Education Support ActivitiesⅠ
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	吉田 佐治子, 朝日 素明, 鎌田 祥輝, 谷口 雄一, 西村 晃一, 松浦 正典
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	本科目はサービスマーケティングの授業であり、実践型学習プログラムである。大学近隣の小学校・中学校で教育現場の教育補助、課外活動を幅広く体験し、自己の適性を把握する機会を持ち、人間的成長や社会意識の向上を目指す。活動内容は、授業運営補助、「総合的な学習の時間」の補助、学校行事運営補助、クラブ・サークル活動の補助、図書室運営の補助、放課後学習の補助などを組み合わせ年間を通じた活動を大学授業の空き時間を利用して週1回90分行う。
到達目標	実際の教育現場を知ること、物事を多面的に考察できること、社会的倫理観の確立、相手に理解できるように論理的かつ確かなコミュニケーション能力を持つこと。
授業方法と留意点	原則として、はじめて「地域連携教育活動Ⅰ」を履修する学生を対象とする。
科目学習の効果(資格)	教職課程における「大学が独自に設定する科目」 実際の学校現場で学ぶことは、教員免許状を取得するのに大いに資する。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	事前指導1	活動についての心構え、内容の徹底周知、年間活動計画作成準備	活動のための準備
	2	事前指導2	マナー講座・小中学校の教育現場について	活動のための準備
	3	事前指導3	「守秘義務」の意味とその内容について	活動のための準備
	4	活動準備	受け入れ校と協議し、年間活動計画を作成する	活動のための準備
	5	活動1～25	受け入れ校にて活動(活動業務日報・活動時間票の提出)	各種活動の事前準備および活動後の報告書(日報等)の作成
	6	最終報告会	活動報告会	報告のための準備
	7			
	8			
	9			
	10			
	11			
	12			
	13			
	14			
	15			

関連科目	すべての科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	①年間活動計画書 ②出席簿 ③日誌 ④レポートの全てを提出し、最終報告会で ⑤活動報告 した場合のみ、評価する。なお、評価割合はそれぞれ20%である。
学生へのメッセージ	大学の授業と授業の合間を有効利用して、大学近隣の小・中学校の教育現場の教師をサポートしながら、責任感・忍耐力・協調性・創造力を養うことで、自分のかけがえない財産形成を行ってください。
担当者の研究室等	7号館3階(朝日研究室)、7号館3階(鎌田研究室)、7号館4階(谷口研究室)、7号館3階(西村研究室)、7号館3階(松浦研究室)、7号館3階(吉田研究室)
備考	事前指導・最終報告会の日程等については、別途連絡します。 必ず出席してください。 受け入れ校での活動に際し、事前の準備・事後のまとめ等かなりの時間を要します。1回の活動に対して、それぞれ1、2時間は必要です。

科目名	地域連携教育活動Ⅱ	科目名(英文)	Communitiy-Based Education Support Activities II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	吉田 佐治子, 朝日 素明, 鎌田 祥輝, 谷口 雄一, 西村 晃一, 松浦 正典
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	本科目はサービスマナーの授業であり、実践型学習プログラムである。大学近隣の小学校・中学校で教育現場の教育補助、課外活動を幅広く体験し、自己の適性を把握する機会を持ち、人間的成長や社会意識の向上を目指す。活動内容は、授業運営補助、「総合的な学習の時間」の補助、学校行事運営補助、クラブ・サークル活動の補助、図書室運営の補助、放課後学習の補助などを組み合わせ年間を通じた活動を大学授業の空き時間を利用して週1回90分行う。
到達目標	実際の教育現場を知ること、物事を多面的に考察できること、社会的倫理観の確立、相手に理解できるように論理的かつ的確なコミュニケーション能力を持つこと。
授業方法と留意点	原則として、「地域連携教育活動Ⅰ」を履修した学生を対象とする。
科目学習の効果(資格)	教職課程における「大学が独自に設定する科目」 実際の学校現場で学ぶことは、教員免許状を取得するのに大いに資する。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	事前指導1	活動についての心構え、内容の徹底周知、年間活動計画作成準備	活動のための準備
	2	事前指導2	マナー講座・小中学校の教育現場について	活動のための準備
	3	事前指導3	「守秘義務」の意味とその内容について	活動のための準備
	4	活動準備	受け入れ校と協議し、年間活動計画を作成する	活動のための準備
	5	活動1～25	受け入れ校にて活動(活動業務日報・活動時間票の提出)	各種活動の事前準備および活動後の報告書(日報等)の作成
	6	最終報告会	活動報告会	報告のための準備
	7			
	8			
	9			
	10			
	11			
	12			
	13			
	14			
	15			

関連科目	すべての科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	①年間活動計画書 ②出席簿 ③日誌 ④レポートの全てを提出し、最終報告会で ⑤活動報告 した場合のみ、評価する。なお、評価割合はそれぞれ20%である。
学生へのメッセージ	大学の授業と授業の合間を有効利用して、大学近隣の小・中学校の教育現場の教師をサポートしながら、責任感・忍耐力・協調性・創造力を養うことで、自分のかけがえのない財産形成を行ってください。
担当者の研究室等	7号館3階(朝日研究室)、7号館3階(鎌田研究室)、7号館4階(谷口研究室)、7号館3階(西村研究室)、7号館3階(松浦研究室)、7号館3階(吉田研究室)
備考	事前指導・最終報告会の日程等については、別途連絡します。 必ず出席してください。 受け入れ校での活動に際し、事前の準備・事後のまとめ等かなりの時間を要します。1回の活動に対して、それぞれ1、2時間は必要です。

科目名	教育原理	科目名 (英文)	Educational Principles
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	谷口 雄一
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	<p>教育は誰もが経験していて、誰でも教育について語るすることができます。しかし、「教育とは一体何だろう？」と問われるとどうでしょうか。答えに困ってしまう人が多いのではないのでしょうか。</p> <p>この授業では、「教育とは一体何だろう？」という問いを念頭に置きながら、教育について歴史的・思想的に考察します。そして、これまでの教育や学校の営みがどのように理解され、変わってきたのかを考えていきます。</p> <p>これらの学習を通して、受講者一人一人が教育について自分なりの考えを深められるようにします。</p> <p>授業担当者は小学校での約15年の教諭経験を有しています。経験を活かした実践的な授業を行いますので、授業を「受ける」立場からではなく、生徒と一緒に「創る」立場からの能動的な学びを期待します。</p>
到達目標	<p>教育の基本概念を歴史的・思想的に理解することや教育の現状と課題について理解することを通して、受講者が教育について自分なりの考えを深めることができることを目標とします。</p>
授業方法と留意点	<p>本授業は「教育とは何か？」という本質的な問いについて受講者のみなさん一人一人が考え、自身の教育観を再構築していけるようにします。</p> <p>具体的には、毎回、ペアや小グループ、全体での対話やグループワークなどを通して教育についての学びを進めていきます。</p> <p>そして、毎回の授業の終わりに受講者にコメントペーパーを書いてもらいます。その中からいくつかを次の授業の最初に紹介することで、自分とは異なる他の人の考えも参考にしながら、教育について多面的・多角的に考えることができるように配慮します。</p>
科目学習の効果 (資格)	<p>(1) 高等学校教諭1種免許状 (2) 中学校教諭1種免許状 の取得 (3) 学芸員資格 の取得に必要です。</p> <p>【免許法施行規則に定める科目区分】</p> <p>科目：教育の基礎的理解に関する科目</p> <p>各項目に含める必要事項：教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想</p>

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス：教育について考える	本科目の位置づけについて考えるとともに、教育の基本概念を考えることの意味を考える。	(事前) テキストP.3を精読しておく。 (事後) 「教育とは一体何だろう」という問いについて自分の考えをまとめておく。
2	教育の基礎理論①：教育の必要性	なぜ、人間だけが教育を行うのか考える。	(事前) テキストP.59～63を精読しておく。 (事後) 教育の必要性について自分の考えを整理しておく。
3	教育の基礎理論②：教育の目的	前回の授業をふまえ、「人間が人間になるために」とはどういうことか、教育の目的について考える。	(事前) テキストP.59～63を精読しておく。 (事後) 教育の目的について自分の考えを整理しておく。
4	教育の基礎理論③：子どもの発見	「子ども」という言葉の意味や子どもをめぐる問題について考える。	(事前) テキストP.76～85を精読しておく。 (事後) 子ども観や子どもをめぐる問題について自分の考えを整理しておく。
5	教育の基礎理論④：教師とは何か	教師という職業や、その教育的役割について考える。	(事前) テキストP.69～73を精読しておく。 (事後) 教師の教育的役割について自分の考えを整理しておく。
6	教育の基礎理論⑤：近代の学校の誕生	近代の学校はどのように誕生し、普及してきたのかを概観する。	(事前) テキストP.93～97を精読しておく。 (事後) 近代の学校や学校教育の広がりについて整理しておく。
7	教育の基礎理論⑥：家庭と教育	家庭において子どもはどのように扱われてきたのか、家庭における教育は子どもの成長にどのような影響を与えるのかについて概説する。	(事前) テキストP.86～90を精読しておく。 (事後) 家庭における教育について整理しておく。
8	西洋の教育思想①：コメニウス・ロック・ルソー・ペスタロッチ その1	「教育とは何か」について、コメニウス・ロック・ルソー・ペスタロッチの教育思想から考察する。	(事前) コメニウス・ロック・ルソー・ペスタロッチの人物像について調べる。 (事後) 4名の教育思想について整理しておく。
9	西洋の教育思想①：コメニウス・ロック・ルソー・ペスタロッチ その2	前回取り上げた教育思想家4名の中で最も感銘を受けた人物について意見交流することを通して、「教育とは何か」について考察を加える。	(事前) 第8回で取り上げた4名の教育思想家の中から最も感銘を受けた人物1名を取り上げ、「その人物の思想」や「感銘を受けた理由」、「教員になった際にどのように生かすか」等について発表する準備をしておく。 (事後) 授業で取り上げた西洋の教育思想について再度整理しておく。
10	西洋の教育思想②：フレーベル・デューイ・モンテッソーリ その1	「教育とは何か」について、フレーベル・デューイ・モンテッソーリの教育思想から考察する。	(事前) フレーベル・デューイ・モンテッソーリの人物像について調べる。 (事後) 3名の教育思想について整理しておく。
11	西洋の教育思想②：フレーベル・デューイ・モンテッソーリ その2	前回取り上げた教育思想家4名の中で最も感銘を受けた人物について意見交流することを通して、「教育とは何か」について考察を加える。	(事前) 第10回で取り上げた3名の教育思想家の中から最も感銘を受けた人物1名を取り上げ、「その人物の思想」や「感銘を受けた理由」、「教員になった際にどのように生かすか」等について発表する準備をしておく。 (事後) 授業で取り上げた西洋の教育思想について再度整理しておく。
12	現代の教育理論：20世紀の教育理論	20世紀の教育についての諸理論について概観し、考察を加える。	(事前) テキストP.29～32を精読しておく。 (事後) 授業で取り上げた現代の教育思想について整理しておく。
13	現在の教育課題①：学力問題	現在の教育課題の一つである学力をめぐる問題について概観し、考察を加える。	(事前) テキストP.50～54を精読しておく。 (事後) 学力問題について整理しておく。
14	現在の教育課題②：生涯学習の思想	現在の教育課題の一つである生涯学習について概観し、考察を加える。	(事前) テキストP.147～151を精読しておく。 (事後) 生涯学習の思想について整理しておく。
15	まとめ：今後の教育について考える	教育についてまとめるとともに、今後の教育について考える。	(事前) テキストP.169～178を精読しておく。 (事後) 「どのような教員になりたいのか」について自分の考えをまとめる。

関連科目	教職科目全体と関連がありますので、他の科目の学習内容と関連付けながら考えてみる大切です。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	哲学する教育原理	伊藤潔志 編著	教育情報出版
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中学校学習指導要領（平成 29 年告示）	文部科学省	東山書房
	2	高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）	文部科学省	東山書房
	3	哲学する学校経営	伊藤潔志 編著	教育情報出版
評価方法 （基準）	<p>毎回の授業の終わりに書いてもらう OPP シート（One Page Portfolio シート）の内容や授業中の学習の様子（60%）や学期末試験の結果（40%）等をもとに総合的に評価します。</p> <p>また、授業に参加するにあたって不適切な態度を取る方に対しては厳正に対処します。教職を志す人間としての自覚を胸に授業に参加してください。</p>			
学生への メッセージ	授業の中でペアや小グループでの話し合い、グループワーク等を適宜取り入れます。受講者の皆さんの積極的な参加を期待しています。			
担当者の 研究室等	寝屋川キャンパス 7 号館 4 階（谷口研究室）			
備考	事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。			

科目名	教育における情報通信技術の活用	科目名 (英文)	
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	橋本 はる美, 栢木 紀哉
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	教育現場における情報通信技術の活用について、その歴史的経緯と今後のあり方について理解し、情報モラルと情報活用能力を活用した指導方法、評価方法などについて学修することで、担当教員に必要となる基礎的知識や資質を養う。また、情報通信技術を用いて模擬授業を行い、授業を展開できる能力を身につけることを目指す。
到達目標	教育現場における情報通信技術の活用と意義を理解し、教員に求められる幅広い知識を身につけるとともに、情報通信技術を活用した教育指導技術の向上を図る。また、授業研究、教材設計、指導計画の作成を通して、授業での情報通信技術の活用や授業準備、学習評価などで必要となる技能について身につける。さらに、ディスカッションや模擬授業などを通して実践的な指導方法を修得する。
授業方法と留意点	授業研究、教材設計、指導計画の作成を通して、授業での情報通信技術の活用や授業準備、学習評価などで必要となる技能について身につける。さらに、ディスカッションや模擬授業などを通して実践的な指導方法を修得する。
科目学習の効果 (資格)	【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 各科目に含める必要事項：情報通信技術を活用した教育の理論及び方法

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	情報通信技術の歴史的経緯 教育現場における情報通信技術の活用のあり方	事前：情報通信技術とは何かを調べる (120分) 事後：これまでに受けた授業で情報通信技術を使った例と簡単な説明を考える (120分)
2	教育分野で情報通信技術を活用するための意義と役割	デジタル教材や遠隔授業などの活用事例の紹介 情報セキュリティとデータの活用、校務の活用への推進	事前：情報通信技術を活用した授業事例のメリットと課題を書き出す (120分) 事後：デジタル教材や遠隔授業についてまとめる (120分)
3	情報セキュリティ、情報モラル、情報活用能力の内容	ICT環境と情報セキュリティ 情報モラルの教育 オフィスソフトの活用	事前：大学のICT環境と教育ツールについてまとめる (120分) 事後：授業で出された課題の取り組み (120分)
4	ICT環境の整備と教育データの活用	学習者の多様性に対応するためのツールや機能の活用 教育データ等を使った指導や学習評価への活用	事前：アクセシビリティについて調べる (120分) 事後：授業で出された課題の取り組み (120分)
5	デジタル教材と遠隔授業の研究	情報通信技術を活用した教材と指導法の作成 遠隔授業への活用	事前：デジタル教材の内容を計画する (120分) 事後：作成したデジタル教材の修正をする (120分)
6	デジタル教材の研究 (グループ)	情報通信技術を活用した教材と指導法の検討	事前：指導法を作成する (120分) 事後：作成した指導法の見直しをする (120分)
7	模擬授業 (グループ)	情報通信技術を活用した指導の実践	事前：模擬授業の練習をする (120分) 事後：模擬授業を振り返る (120分)
8	模擬授業の振り返り	情報通信技術を活用した教材と模擬授業の評価	事前：模擬授業の課題を考える (120分) 事後：模擬授業の振り返りと課題 (120分)
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目	情報リテラシー科目
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	改訂4版 情報モラル&情報セキュリティ	株式会社通ラーニングメディア	FOM出版
2	ICT活用指導力アップ 教育の情報化 教員になるための情報教育入門	梅田恭子他	実教出版	
3	ICT活用の理論と実践 DX時代の教師をめざして	稲垣忠・佐藤和紀	北大路書房	

評価方法 (基準)	授業中の課題とレポート (60%)、授業中に作成した教材と模擬授業 (40%) をもとに総合して評価する
-----------	--

学生へのメッセージ	各自のITスキルを使って教育にどれだけ活用するかが重要ですので、主体的に学習に取り組んでください。
-----------	---

担当者の研究室等	橋本はる美 (11号館8階橋本研究室) 栢木紀哉 (11号館6階非常勤講師室)
----------	--

備考	Moodle コース [登録キー] 金曜日2限目： 2023教育における情報通信技術の活用 (金2) [kin2] 金曜日3限目： 2023教育における情報通信技術の活用 (金3) [kin3]
----	---

科目名	身近な犯罪から自分、家族、まちを守る	科目名 (英文)	Neighborhood Crime Prevention
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中沼 丈晃
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01374a1~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	私は、地域における防犯を研究し、自分自身も、研究室の学生とともに、青パト（青色回転灯をつけた自主防犯パトロールカー）で毎日、子どもの見守り活動を行っている。そうした研究者として、普段一番接する学生に、犯罪の実態を知ってもらい、少しの注意と手間で犯罪から身を守れることをわかってほしくて、この講義を開講することとした。加えて、それほど気負わなくても、防犯ボランティアとして社会貢献できる方法があることも紹介したいと考えている。 学科の学習・教育目標との対応: 工学部 [A], 理工学部 [II]
到達目標	この授業を通じて学生には、自分と家族の身近でどんな犯罪が起きているか知り、どのような対策が必要かわかるようになることが期待される。防犯ボランティアへの参加の動機づけが大きくなればなおよい。
授業方法と留意点	とにかく実際の事件を取り上げて、加害者の視点、被害者の視野、発生した場所・時間の特徴、警察や行政、学校、ボランティアの動きを具体的に説明する。そして、いま推奨されている防犯対策を紹介する。
科目学習の効果 (資格)	各自が自分で、家庭で防犯対策をして、犯罪から身を守るようになってもらうのが第一である。防犯ボランティア参加の動機づけにもなるだろう。職業では、当然、警察官の仕事の視点がわかる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	昨年起きた犯罪はどのような特徴があったのか?	昨年起きた具体的な犯罪例を取り上げて、どのような人・物が、どういう理由でねらわれているのか探る。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
2	犯罪にはどのような種類があり、どうやって数えるのか?	刑法上は同じ窃盗でも、ひったくり、自転車盗、車上ねらいなどさまざまな手口がある。1件の窃盗でも、起きた数、警察に届けられた数、検挙された数がある。こうした手口の分け方や数の数え方を説明する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
3	犯罪はなぜ起こるのか? どうやって減らすのか?	悪い人がいるから犯罪が起こるのか、すきがある人がいるから犯罪が起こるのか、犯罪が起きやすい場所・時間があるから犯罪が起こるのか、それぞれの理屈を確かめてみる。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
4	大阪の治安はどのくらい悪いのか? どのように防犯対策を進めているのか?	大阪府は、他の都道府県に比べてどのような犯罪が多いのか、人口の多さを考慮するとどうなのか説明する。「オール大阪」で街頭犯罪ワースト1を返上する取り組みを紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
5	街頭犯罪—ひったくり、自転車盗、車上・部品ねらいを中心に	一番身近な街頭犯罪について、どういう人・物が、どういった状況でねらわれているのか、どういう人が犯罪を行っているのか説明する。ついで、ひったくり防止カバー、シリンダー錠などの防犯対策の効果について紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
6	住宅への空き巣、忍び込み、居空き	泥棒は、空き巣に入る家をどのように物色し、どうやって侵入し、何を盗んでいくのか解説する。最近の防犯住宅、防犯マンションの取り組みを紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
7	性犯罪—街頭での強制わいせつ、痴漢、公然わいせつ	大阪府は性犯罪が深刻な自治体である。犯罪者は、どんな人・場所をねらって性犯罪に及ぶのか説明する。女性の学生が今日からすべき防犯対策を紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
8	子どもをねらった犯罪	子どもに対する犯罪について、過去に大きな社会問題になった殺傷事件から、日常的に起きているわいせつ、声かけ、つきまといまで、実態を具体的に説明する。そして、子どもの安全を守るために各地で行われている取り組みを紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
9	ストーカー、DV (配偶者からの暴力)	ストーカーやDVは、個人間の問題に関わるので、対応の判断が難しい。しかし、大きな事件につながれば、対応の遅さ、まづさが批判されやすい。過去の事件の経緯を紹介して、深刻な問題への展開を防ぐために現在行われている対策を説明する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
10	詐欺—高齢者をねらった振り込め、オレオレ、リフォーム詐欺など	昨年、急激に増え、手口が次々と変わる高齢者をねらった詐欺を取り上げる。背景にどのような組織があるのか、どうして防犯が難しいのか、実例に即して説明する。若い私たちにできる協力も紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
11	サイバー犯罪—子どもや学生が巻き込まれるネット犯罪	子どもが巻き込まれる出会い系サイトやネットゲームでのなりすまし、大学生も被害を受けている偽サイトでのショッピング詐欺、ネットバンクでのID、パスワード盗難など、身近なサイバー犯罪を取り上げる。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)

	12	違法ドラッグの実態と対策	違法ドラッグについて、その危険性、販売の実態、取締の方法を紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見える。(約1時間)
	13	防犯カメラの普及と効果	急速に普及した防犯カメラについて、普及の背景と経緯、技術の進歩、個人情報・プライバシーとの関係、防犯効果の考え方を説明する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見える。(約1時間)
	14	防犯ボランティアの活動	近年の犯罪対策の最大の特徴は、民間のボランティア団体の活性化である。地域での子ども見守り隊、青バト活動、学生防犯ボランティアなど、最近の各地、各世代の防犯ボランティアの活動を紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見える。(約1時間)
	15	まとめ	全体のまとめを通じて、身近な犯罪を未然に防ぐには何が必要か結論を探る。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見える。(約1時間)
関連科目	法学部「刑事政策」「経済刑法」「地域防犯政策」			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	期末課題(70%)、講義毎回の確認ペーパー(30%)の合計によって評価する。			
学生へのメッセージ	勉強以前に、自分、家族、まちを身近な犯罪から守るために、ぜひこの講義を受講してほしいと願っている。そして、できるところからでよいので、講義で知った防犯対策をしてもらいたい。警察官志望者には、近年、警察でも人気の仕事になりつつある防犯の実務がわかるという意味で、興味を持ってもらえると思う。			
担当者の研究室等	11号館9階 中沼研究室			
備考	講義毎回の課題正解の提示などは Teams を通じて行う。			

科目名	マーケティングと歴史	科目名 (英文)	Marketing and History
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	武居 奈緒子
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01374a1~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	この講義では、マーケティングを歴史的に考察することを目的としています。特にマーケティングの発想を踏まえ、呉服商の経営活動について説明していきます。
到達目標	マーケティングと歴史に関する基本的知識を修得し、活用できることを目指します。
授業方法と留意点	講義形式、出席率80%以上を成績評価の対象とする。
科目学習の効果 (資格)	マーケティングの発想で社会を見る眼が養えます。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	マーケティングについて解説していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、マーケティングに関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
2	製品政策	ヒット商品はどのようにして作られるのかについて考えます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、製品政策に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
3	価格政策	価格の設定方法について考えます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、価格政策に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
4	流通チャネル政策	商品はどのような経路をたどって販売されるのかについて考えます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、流通チャネル政策に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
5	販売促進政策	商品のアピールの仕方について考えます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、販売促進政策に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
6	マーケティングのSTPアプローチ	市場細分化について考えます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、STPアプローチに関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
7	消費行動	消費者の購買意思決定過程について考えます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、消費行動に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
8	マーケティングの歴史的研究と三井越後屋	マーケティングにおける歴史的研究と三井越後屋の商法について説明していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、三井越後屋に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
9	呉服商の流通機構	呉服商の流通機構について、概説していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、呉服商の流通機構に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
10	越後屋の仕入機構 (1)	三井越後屋の絹の仕入機構について、説明していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、越後屋の仕入機構に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
11	越後屋の仕入機構 (2)	三井越後屋の木綿の仕入機構について、説明していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、越後屋の仕入機構に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
12	いとう松坂屋、大丸屋の仕入機構	いとう松坂屋や大丸屋の仕入機構について、概説していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、いとう松坂屋・大丸屋の仕入機構に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
13	呉服商から百貨店へ	呉服商から百貨店への変遷について概説します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、百貨店化に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
14	百貨店業態の成立	百貨店について、説明していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、百貨店業態に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
15	まとめ	全体のまとめをします。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、マーケティングと歴史の総復習をしておきましょう。(所要時間1時間)

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大規模呉服商の流通革新と進化—三井越後屋における商品仕入れ体制の変遷—	武居 奈緒子	千倉書房
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	史料が語る三井のあゆみ	三井文庫編	吉川弘文館
2	消費行動 新版	武居 奈緒子	晃洋書房	
3				

評価方法 期末レポート (80%)、中間レポート (20%)

(基準)	
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	11号館8階 武居教授室
備考	

科目名	全学部生のための刑事法	科目名 (英文)	Introduction to Criminal Law
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小野 晃正
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1～TT01465a1, L科: LT01366a1～LT01370a1, D科・S科: IT01371a1～IT01375a1, J科: JT01374a1～JT01378a1, W科: WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・全国的にみて大学生活を通じて学生による犯罪現象が散見される。 ・たとえば、保護責任者遺棄致死事案（サークル仲間の酩酊学生放置）、あるいは、未成年者誘拐や児童福祉法違反（SNS上での出会い）、職業安定法違反（バイトでの風俗あっせん）、ストーカー行為規制法違反（25通程度のメッセージ送信）、偽造と詐欺（定期券改ざん・闇バイトを通じた各種犯罪への関与）、偽計業務妨害（カンニング・飲食店備品に対する悪戯・バズリを狙う悪質動画作成）の事案など枚挙にいとまがない。 ・これらの犯罪は、おそらく大学生本人は犯罪だと思って実行したものでないであろう。しかし、こうした犯罪知識を身につけておかなければ知らぬ間に罪人とされ、実名報道により学生本人の将来の芽を摘み取ることになりかねない。 ・他方、これらの犯罪の被害者になりかねない学生も相当数いるであろう。犯罪被害者になったとき、迅速な対処法が被害を軽減するが、こうした知識を身につける機会が全学生にあまりない。 <p>本講座では、「転ばぬ先の杖」として学生時代に身につけておくべき犯罪とその被害対処法を提供し、全学生に安全な学生生活と社会人となった後も有用な刑事法教育を提供することを目的とする。</p>
---------	--

到達目標	<p>この授業を通じて学生には、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・刑法の謙抑性、罪刑法定主義、犯罪の成立要件および刑罰制度について説明できる ・薬物犯罪をはじめとする学生にとくに身近な犯罪現象の内容について説明できる ・犯罪被害者となった場合の対処方法について説明できる <p>ようになることが期待される。</p>
------	--

授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・講義形式で行う（社会情勢上、その変更が必要な場合は遅滞なく連絡する）。 ・本講義は、ICTツールとしてMicrosoft社のteamsを用いる。 ・課題提示や資料配布などはMicrosoft社teamsを通じて行う。 ・教員からの一方通行的な講義にならないよう、学生との質疑応答を交えつつ、教員と受講者による双方向理解につとめたい。 ・近時、刑事法の改正が相次いでいるので、最新の六法（有斐閣『ポケット六法』や『判例六法』、または、三省堂『デイリー六法』もしくは『模範小六法』の最新版がのぞましい）を
----------	---

科目学習の効果（資格）	<ul style="list-style-type: none"> ・「刑法総論」および「刑法各論」をしっかり受講すれば、法学検定、地方公務員上級職採用試験、労働基準監督官採用試験（大卒）、裁判所事務官採用試験、および、司法書士試験で出題される「刑法総論」の問題を確実に処理することができるようになる。
-------------	---

	授業計画			
	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス 刑法とは何か	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の進め方と文献紹介 ・刑法の意義 ・刑法の機能 ・刑法学とは何か 	<p>事前：授業テーマの予習（2時間）</p> <p>事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）</p>
	2	刑法の基礎	<ul style="list-style-type: none"> ・古典学派と近代学派 ・わが国の刑法思想 ・刑罰の正当化根拠（なぜ国家による死刑をはじめとする刑罰執行は正当化されるのか） 	<p>事前：授業テーマの予習（2時間）</p> <p>事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）</p>
	3	刑法の解釈	<ul style="list-style-type: none"> ・罪刑法定主義 ・刑法の法源 ・刑法の解釈 	<p>事前：授業テーマの予習（2時間）</p> <p>事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）</p>
	4	犯罪の基本概念	<ul style="list-style-type: none"> ・犯罪の成立要件 	<p>事前：授業テーマの予習（2時間）</p> <p>事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）</p>
	5	薬物犯罪	<ul style="list-style-type: none"> ・覚せい剤取締法 ・大麻取締法 ・向精神薬取締法 	<p>事前：授業テーマの予習（2時間）</p> <p>事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）</p>
	6	カンニング行為と偽計業務妨害	<ul style="list-style-type: none"> ・阪大入試問題漏洩事件 ・明治大学替え玉入試事件 ・京大2次試験問題ヤフー知恵袋漏洩事件 ・大学入試共通テスト問題漏洩事件 	<p>事前：授業テーマの予習（2時間）</p> <p>事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）</p>
	7	飲み会と保護責任者遺棄罪	<ul style="list-style-type: none"> ・飲み会において生じうる犯罪現象 	<p>事前：授業テーマの予習（2時間）</p> <p>事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）</p>
	8	定期券の偽造と詐欺罪	<ul style="list-style-type: none"> ・有価証券偽造罪と詐欺罪の関係 	<p>事前：授業テーマの予習（2時間）</p> <p>事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）</p>
	9	ストーカー行為規制法	<ul style="list-style-type: none"> ・ストーカーにならないために ・ストーカーの被害者にならないために 	<p>事前：授業テーマの予習（2時間）</p> <p>事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）</p>
	10	DVとデートDV	<ul style="list-style-type: none"> ・違法性とは何か ・正当行為と正当業務行為 	<p>事前：授業テーマの予習（2時間）</p> <p>事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）</p>
	11	性犯罪、家出と未成年者誘拐罪および児童福祉法違反	<ul style="list-style-type: none"> ・各種性犯罪 ・家出と誘拐の関連 	<p>事前：授業テーマの予習（2時間）</p> <p>事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）</p>
	12	少年犯罪と「特定少年」制度の発足	<ul style="list-style-type: none"> ・少年法の厳罰化 ・20歳未満の実名報道 	<p>事前：授業テーマの予習（2時間）</p> <p>事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）</p>
	13	犯罪被害者救済①	<ul style="list-style-type: none"> ・告訴と被害届 ・証拠保全の重要性 	<p>事前：授業テーマの予習（2時間）</p> <p>事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）</p>
	14	犯罪被害者救済②	<ul style="list-style-type: none"> ・被害者に対する種々の救済制度 ・被害者の実名報道と被害者バッシング問題 	<p>事前：授業テーマの予習（2時間）</p> <p>事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）</p>

	15	まとめ	これまでの講義内容の総復習	事前：授業テーマの予習（2時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）
関連科目	刑事法概論、刑法各論、経済刑法、現代社会と刑事法、刑法応用講義Ⅰ・Ⅱ、刑事訴訟法、刑事訴訟法応用講義、刑事政策			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	入門刑事法（第8版）	三井誠	有斐閣
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	開講時に各種判例・補助教材を紹介する		
	2			
	3			
評価方法 （基準）	<ul style="list-style-type: none"> ・形成的評価を行うため、各回講義後に、Microsoft 社 teams を通じて Microsoft forms から課題を配信する。各回の課題の得点を合算して評価対象とする（講義の理解度 5%＋課題の得点 95%）。定期試験は実施しない。 			
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・法律学の学習は予習よりも問題演習を中心とした復習が効果的です。 ・刑事事件に関心なる人はぜひ受講してください。 ・新聞、テレビ、ラジオ、ネットなど媒体は問いませんが、刑法に関する面白いネタがたくさん落ちていきますので、なるべくニュースに接するようにしましょう。 			
担当者の 研究室等	11号館10階 小野教授室			
備考				

科目名	現代韓国論	科目名 (英文)	Contemporary Korean Society
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	田中 悟
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01374a1~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	日本社会に生きる者にとって、似通っているようで異なる、また異なっているようで似通っている、そんな存在である韓国。本授業では、日韓関係の変遷を手がかりとし、現代の韓国社会における変化を中長期的な視点から理解することを目指す。
到達目標	本授業を通じて、現代韓国社会についての理解を深めていく。具体的には、次の各項目を目標とする。 ・韓国現代史について、とりわけポスト冷戦時代の日韓関係史を軸として、概観できるようになる。 ・ポスト「バブル経済」時代における日本社会についての理解を踏まえて、ポスト「民主化」の時代における韓国社会についての理解を深める。
授業方法と留意点	1. 韓国現代史の基礎的事実関係を踏まえつつ、基本的には教科書に基づいて授業を進める。 2. 授業は、①講義、②Moodleを通じたレジュメの配信および課題等の提出、という2つの手段を適宜組み合わせで行なう。 3. 授業進捗の調整によって、授業の進行スケジュールに変更が生じる可能性がある。 4. 本授業に関するフィードバックは、必要に応じて授業内で行なうこととする。
科目学習の効果 (資格)	韓国現代史および現代の日韓関係に関する基礎的な理解

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の目指すところ、テキストの内容について概説する。 (「まえがき」「プロローグ」についてはここで取り上げる。)	テキストについて指示するので、次回講義までに入手しておくこと
2	第I部 相互信頼から相互不信へ	第1章 盧泰愚来日と天皇訪韓構想 (1)	[事前学習] 配布レジュメの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
3	第I部 相互信頼から相互不信へ	第1章 盧泰愚来日と天皇訪韓構想 (2)	[事前学習] 配布レジュメの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
4	第I部 相互信頼から相互不信へ	第2章 慰安婦問題の展開 (1)	[事前学習] テキストの関連部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
5	第I部 相互信頼から相互不信へ	第2章 慰安婦問題の展開 (2)	[事前学習] テキストの関連部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
6	第I部 相互信頼から相互不信へ	第3章 村山談話と靖国問題 (1)	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
7	第I部 相互信頼から相互不信へ	第3章 村山談話と靖国問題 (2)	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
8	第I部 相互信頼から相互不信へ	第4章 「小春日和」の時代	[事前学習] テキストの関連部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
9	第II部 対立激化への展開	第5章 領土問題の相克と定着化 (1)	[事前学習] テキストの関連部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
10	第II部 対立激化への展開	第5章 領土問題の相克と定着化 (2)	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
11	第II部 対立激化への展開	第6章 民主党政権と李明博政権 (1)	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
12	第II部 対立激化への展開	第6章 民主党政権と李明博政権 (2) 第7章 外交争点としての「慰安婦」問題 (1)	[事前学習] テキストの関連部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
13	第II部 対立激化への展開	第7章 外交争点としての「慰安婦」問題 (2)	[事前学習] テキストの関連部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
14	第II部 対立激化への展開	第8章 文在寅政権の転換	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
15	「平成時代の日韓関係」から何が見えるのか	韓国現代史と現代韓国社会 (講義のまとめと補遺)	[事前学習] 提示する資料を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 提示した資料を参照しながら、テキス

				トを読み返しておくこと（目安時間：60分）
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	平成時代の日韓関係―楽観から悲観への三〇年―	木村幹・田中悟・金容民〔編著〕	ミネルヴァ書房
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	韓国愛憎	木村幹	中公新書
	2	日韓歴史認識問題とは何か	木村幹	ミネルヴァ書房
	3			
評価方法 （基準）	定期試験は実施せず、授業内で提示する課題に対する提出物に基づく総合評価（100%）を実施する。 （課題の提示および提出は、Moodleを通じて行なう。）			
学生への メッセージ	韓国語の能力は不要です。			
担当者の 研究室等	7号館4階 田中研究室			
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・授業のスケジュール・進行形式については、出席者の状況によって調整する可能性もある。 ・なお、2019年度まで開講していた「現代韓国事情」を履修し、単位を取得済みの者は、本講義を履修することはできない。 			

科目名	役立つ金融知力	科目名 (英文)	Financial Literacy
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	大西 史一
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01374a1~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	<p>自分が歩みたい人生の実現を、人生100年にも迫り長期化する老後を、お金の面から支えるには、早くから長期的な資産形成に取り組み、単に「貯める (貯蓄)」だけではなく、貯めたお金を上手に「殖やす (投資)」ことが必要です。また、投資は「自己責任」が原則であり、取引にかかわるリスクやトラブルから自己防衛するための知識も重要です。</p> <p>早ければ社会人になってすぐ、自分で自分の年金 (確定拠出年金) の運用を始めなければなりません。何で、どのように運用するか...決められますか? 若年層の長期的資産形成を促すため、NISA 制度も改正されるなど政府の取り組みも本格化しています。経済的に自立し、将来安定した生活を送るためにも、金融に関する知識や情報を正しく理解し、各自の生活設計に合う適切な取引を選択、実践するスキルや判断力 (=金融リテラシー) を若いうちから身につけておくことが必要です。</p> <p>本講義では、社会人としても知っておくべき金融・経済に関する理解を深めるとともに、資産形成に最低限必要な基礎知識の習得を目指します。</p>
到達目標	<p>ライフステージの重要な意思決定の場面で、的確な行動やより良い判断へと導くリテラシーを養うことを目標に、金融やその背景となる経済知識について、基礎的な内容から実務の入口までをわかりやすく解説します。</p> <p>具体的には</p> <p>①金融や市場のさまざまな働きを知り、社会や自分との関わりについて理解を深めることができる</p> <p>②金融リテラシーを習得し、自ら主体的に判断し活用していく能力が身につく</p> <p>③自己のライフプランに基づく資金計画を作成し、課題を発見して適切な解決策を考えることができる</p> <p>以上を到達目標とします。</p>
授業方法と留意点	<p>基本的に対面による講義形式で授業を進めます。各回のテーマ毎にレジュメを配布します。</p> <p>授業では、重要と思われるところを積極的に聴き取りメモをとり、「なぜ」と自分の頭で考える訓練をしてください。</p> <p>また、日頃から、経済や金融に関する新聞記事・報道等に関心を持って頂きたい。</p> <p>課題への参加や提出物は期限を厳守してください。</p>
科目学習の効果 (資格)	<p>日々、刻々と変わるマーケットを理解し、中長期の経済トレンドを理解することができる可能性があります。</p> <p>金融商品の基礎知識を取得することにより、少なからず将来の資産形成に役立つことでしょう。</p> <p>また、ファイナンシャルプランナー資格 (民間資格) や、ファイナンシャル・プランニング技能士 (国家資格) の資格にも役立つでしょう。</p>

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 金融知力リテラシーの必要性	講義内容と成績評価等について説明した後、これからの時代、「金融リテラシー (知力)」を身につけなければならない必要性について説明します。	経済や金融に関する新聞記事・報道等に関心を持って頂きたい。
2	金融・経済の基礎①	是非とも知っておいていただきたい金融と経済の基本について説明します。また、マーケットの視点で注目度の高い経済統計などの話もします。	経済や金融に関する新聞記事・報道等に関心を持って頂きたい。
3	金融・経済の基礎②	物価と金利の関係や、金融政策や財政政策など経済と金融のかかわり、そして世界経済・日本経済の実情とその将来を解説します。	経済や金融に関する新聞記事・報道等に関心を持って頂きたい。
4	ライフプランニング①	ライフプラン上の夢や希望をかなえるには、お金の問題が常に関わります。ライフイベント表・キャッシュフロー表作成の重要性を解説します。	自分の夢、今後の人生における最優先課題を考えてみる。
5	ライフプランニング②	人生に不可欠な「三大資金」を理解し、ライフプラン実現のために必要な資金計画の大切さを解説します	課題①として、大学卒業後のライフイベントを設定し、キャッシュフロー表を作成してもらいます。
6	金融商品の基礎/貯蓄型商品	金融商品の特性について説明した後、預貯金などの貯蓄型商品の種類、特徴とリスク、金利について解説します。	経済や金融に関する新聞記事・報道等に関心を持って頂きたい。
7	リスクとリターン	投資は利益 (リターン) をあげることを目的とする行為ですが、必ずリスクを伴います。このリスクとリターンの関係や、リスクの低減手法、いわゆるリスクマネジメントについて解説します。	経済や金融に関する新聞記事・報道等に関心を持って頂きたい。
8	株式の基礎①	株式投資の魅力とリスクについて説明します。また、実際の取引の仕組みや、株式投資を行う際に留意点などについて解説します。 ※アセットクラス: 資産クラス、資産の種類のこと	課題②として、株式投資ゲームに参加してもらいます。
9	株式の基礎②	株価の要因について説明します。また、株価のファンダメンタルズ分析手法や、株価チャート、テクニカル分析の基礎についても紹介します。	経済や金融に関する新聞記事・報道等に関心を持って頂きたい。
10	債券の基礎①	債券とは何かから始め、多岐にわたる種類や特徴・リスクを説明します。また、利回りや「格付け」についても学びます。	財務省のHPで20年度予算の概要を確認
11	債券の基礎②	債券の利率と利回り、債券価格と金利の関係について学びます。合わせて、現在のわが国の財政構造などの時事問題を理解してもらいます。	経済や金融に関する新聞記事・報道等に関心を持って頂きたい。
12	投資信託について	皆さんにとって最も身近になる金融商品です。投資信託の仕組みや特長、メリットとリスク、効率的な商品選択を紹介	経済や金融に関する新聞記事・報道等に関心を持って頂きたい。

			します。																	
	13	外為市場・外貨建て商品について	外国為替市場の仕組みや取引について解説した後、代表的な外貨建て商品をリスクも併せて紹介します。	日経済や金融に関する新聞記事・報道等に関心を持って頂きたい。																
	14	証券化商・デリバティブ/セーフティネット	派生商品の概要について紹介します。そのあと、預金者および投資家を保護するための法令等について説明します。	経済や金融に関する新聞記事・報道等に関心を持って頂きたい。																
	15	講義のまとめ	これまでの講義を振り返り、ポイントを整理します。定期試験対策としての位置づけでもあります。	必ずレジュメを復習し、理解できるようにしてください。																
関連科目	民法、会社法、経済学、国際経済、経営学、経営戦略、会計学 など																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>金融経済と資産運用の基礎</td> <td>日興リサーチセンター</td> <td>ブイツーソリューション</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	金融経済と資産運用の基礎	日興リサーチセンター	ブイツーソリューション	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	金融経済と資産運用の基礎	日興リサーチセンター	ブイツーソリューション																	
2																				
3																				
評価方法 (基準)	定期試験 : 60% 課題①キャッシュフロー表 : 25% 課題②株式投資ゲーム参加 : 10% 講義への取り組み姿勢 : 5%																			
学生への メッセージ	長年の実務経験をベースに、より実践的かつ現実的な話を、体験談も踏まえて分かりやすくお伝えしたいと思っています。 皆さんのこれからの時代は、金融・経済の知識、そして金融商品の知識があるのとないのでは、将来の人生設計が大きく変わる可能性があります。是非、資産形成について一緒に学んでいきましょう。 なお、授業計画は変更される場合があります																			
担当者の 研究室等	11号館1階(教務課)																			
備考	オフィスアワー : 授業の前後に対応します。 その他、質問等は onishi_fumikazu3@nrc.nikko.co.jp までメールをしてください。 この講義は、SMB C日興証券グループによる「寄附講座」です。																			

科目名	SDGs で読み解く淀川流域	科目名 (英文)	The Yodo-gawa river region and SDGs
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	石田 裕子, 赤澤 春彦, 朝田 康禎, 郭 進, 加嶋 章博, 小林 健治, 後藤 和子, 鳥谷部 壤, 中塚 華奈, 増田 知也
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : II◎, R 科 : A◎, A 科 : A◎, M 科 : A1◎, E 科 : B△, C 科 : II◎, L 科 : DP2◎, D 科 : DP1◎, S 科 : DP1◎, J 科 : DP1◎, W 科 : DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科 : TT01461a1~TT01465a1, L 科 : LT01366a1~LT01370a1, D 科・S 科 : IT01371a1~IT01375a1, J 科 : JT01374a1~JT01378a1, W 科 : WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的
この科目は、琵琶湖の源流域から大阪湾までの淀川流域に着目し、人々の多様な暮らしや経済・文化・環境等について、SDGs の視点から学びを深め、淀川流域の多様性と持続可能な発展を考える教養科目です。本科目は、今、多くの企業からも注目を集めている SDGs について、淀川流域を素材としながら、グローバルに考え行動するという社会人・企業人として必要な教養を身に付けることを目的とします。

到達目標
(1) 大阪をはじめとする関西地域の暮らしと密接な関わりを持つ淀川流域について、いかなる社会的課題が存在するかを、第三者に分かりやすく説明できる。
(2) SDGs について理解を深め、上記 (1) の社会的課題について、SDGs との関連性を説明できる。
(3) 地域のニーズや社会的課題を発見し、本講義で得られた知見を基に、その解決策を検討することができる。

授業方法と留意点
この授業では、摂南大学の近傍を流れる「淀川」の社会・歴史・文化・経済・環境等について、SDGs (2030 年までの世界の目標) との関連性を意識しながら、学部の垣根を越えて、地域の課題を学びます。毎回の授業は、基本的に教科書に沿って行われます。なお、理解促進のために、必要に応じて、レジュメあるいは補足資料を配布します。

科目学習の効果 (資格)
大学生に必要な教養の知識が身につく、それを基に地域の社会的課題について討議できる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	
			事前	事後
1	ガイダンス—淀川流域のいま・過去・未来とSDGs	科目全体のガイダンス (担当: 朝田康禎)	事前: 教科書[序章]を読んでおくこと	事後: 講義内容の確認
2	巨椋池遊水地化構想による淀川流域の治水と環境保全	将来の淀川流域の洪水対策としてできることは何か? [関連 SDGs 13・6] (担当: 石田裕子)	事前: 教科書[第 1 章]を読んでおくこと	事後: 講義内容の確認
3	淀川左岸地域を中心とした水辺整備と流域連携活動	水辺を楽しく利用するためにはどうすればいいか? [関連 SDGs 9・17] (担当: 石田裕子)	事前: 教科書[第 2 章]を読んでおくこと	事後: 講義内容の確認
4	淀川流域の洪水対策	淀川上流に新たなダムは必要なのか? [関連 SDGs 7・16] (担当: 鳥谷部壤)	事前: 教科書[第 4 章]を読んでおくこと	事後: 講義内容の確認
5	些細なことでも豊かになる淀川流域の生活	なぜ人は水辺に集まるのか? [関連 SDG 15] (担当: 小林健治)	事前: 教科書[第 7 章]を読んでおくこと	事後: 講義内容の確認
6	淀川水系にみる文化と観光の経済学	文化と経済の相乗効果とは? [関連 SDGs 3・12] (担当: 後藤和子)	事前: 教科書[第 6 章]を読んでおくこと	事後: 講義内容の確認
7	地域資源としての淀川の記憶	淀川の風景遺産とは何だろうか? [関連 SDG 11] (担当: 加嶋章博)	事前: 教科書[第 8 章]を読んでおくこと	事後: 講義内容の確認
8	文化の「みち」としての淀川	淀川流域の歴史的・文化的背景について考える [関連 SDG4, 11] (担当: 赤澤春彦)	事前: 教科書[第 9 章]を読んでおくこと	事後: 講義内容の確認
9	淀川流域の地域文化財	淀川流域の文化遺産をいかに活用すべきか? [関連 SDG4, 11] (担当: 赤澤春彦)	事前: 教科書[第 9 章]を読んでおくこと	事後: 講義内容の確認
10	所得格差と教育問題	淀川の左岸と右岸とでどう違う? [関連 SDGs 1・4・11] (担当: 八木紀一郎)	事前: 教科書[第 11 章]を読んでおくこと	事後: 講義内容の確認
11	都市農業の歴史的遺産と公益的機能	淀川流域の都市農業の特徴とは? [関連 SDG 2] (担当: 中塚華奈)	事前: 教科書[第 10 章]を読んでおくこと	事後: 講義内容の確認
12	人口移動や通勤流動でみる地域経済	淀川は人の流れや経済にどのような影響を与えるのか? [関連 SDG 5] (担当: 朝田康禎)	事前: 教科書[第 12 章]を読んでおくこと	事後: 講義内容の確認
13	産業連関分析	淀川流域における 3 市 (門真市・寝屋川市・枚方市) の経済・産業構造はどう違うのか? [関連 SDGs 8・9] (担当: 郭進)	事前: 教科書[第 13 章]を読んでおくこと	事後: 講義内容の確認
14	住民が主役の広報戦略	淀川流域の魅力を発信するにはどうすればいいか? [関連 SDG 17] (担当: 増田知也)	事前: 教科書[第 14 章]を読んでおくこと	事後: 講義内容の確認
15	プラスチックごみの発生源抑制対策	大阪湾はお魚よりもプラスチックごみのほうが多いって本当? [関連 SDGs 14・12] (担当: 鳥谷部壤)	事前: 教科書[第 15 章]を読んでおくこと	事後: 講義内容の総復習・レポート課題に取り組む

関連科目 摂南大学で開講されている科目のすべて

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	SDGs で読み解く淀川流域—近畿の水源地から地球の未来を考えよう	後藤和子・鳥谷部壤編著	昭和堂
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 第 2 回目～15 回目までの授業内で実施される理解度確認 (クイズ or 簡単な小レポートなど) (いずれも 5 点満点、14 回分で計 70 点) と、期末の

(基準)	レポート (30点) の合計 100 点満点で評価する。なお、期末のレポートは、最終回の授業時に各担当教員によって提示される課題一覧の中から、いずれか1つを選択し、A4 2枚程度のレポート作成に取り組む。
学生へのメッセージ	今、企業や地方自治体からも注目を集め、全世界で取り組んでいる SDGs について、身近な地域を素材と一緒に考えましょう。就活や社会人となってからも、この経験はきっと役に立つはず。他学部の教員から、多様な視点を学べるのも魅力です。
担当者の研究室等	1号館3階 都市環境工学科 石田研究室 1号館7階 経済学部 後藤研究室、郭研究室、朝田研究室
備考	SDGs の 17 の目標とその内容は次の通り。SDG1 (貧困をなくそう)、SDG2 (飢餓をゼロに)、SDG3 (すべての人に健康と福祉を)、SDG4 (質の高い教育をみんなに)、SDG5 (ジェンダー平等を実現しよう)、SDG6 (安全な水とトイレを世界中に)、SDG7 (エネルギーをみんなに そしてクリーンに)、SDG8 (働きがいも経済成長も)、SDG9 (産業と技術革新の基盤をつくろう)、SDG10 (人や国の不平等をなくそう)、SDG11 (住み続けられるまちづくりを)、SDG12 (つくる責任 つかう責任)、SDG13

科目名	使えるデータサイエンス	科目名 (英文)	Useful Data Science
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	久保 貞也, 朝田 康禎, 植杉 大, 片田 喜章, 橋本 はる美, 牧野 幸志
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01374a1~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的
 これからの社会では実務のさまざまな場面でデータを適切に扱い、分析するデータサイエンスのスキルが重視される。データサイエンスのスキルはどの分野でも重要視されている「情報を扱う力」であり、すべての学生が対象となる。ビジネスの現場では顧客情報の分析による、商品開発やサービスの提案などにおける意思決定プロセスなどでも大きな力を発揮する。これからの進路を決めたり、日常の行動で判断にも役立つものとなる。本科目では理系・文系に関わらず大学生から社会人において役立つデータ収集と分析スキルを基礎から学べる状況を作り、さらに AI を含む実践的な応用についても多方面の事例を通じてわかりやすく学ぶ。

到達目標
 この講義の到達目標は以下の通りである。
 (1) 現代社会でのデータサイエンスの重要性と限界を説明できる
 (2) データサイエンスのために必要な EXCEL 等汎用ソフトの基礎的な操作法を身に付けている
 (3) インターンシップや卒業研究レベルのデータ分析の手順が設計できる

授業方法と留意点
 本科目ではすべての学部学生が興味を持てるように、心理学、経済学、工学、教育学などの多方面の教員によるオムニバス形式で講義、演習を行う。実際に PC を操作してデータ収集、データ分析を行うため、毎回の出席が必要である。

科目学習の効果 (資格)
 社会で役立つ実践的なデータ処理能力、AI を活用する力、卒業研究、調査報告書作成、分析ソフトウェアの操作

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	データサイエンスが必要とされる理由 (オリエンテーション)	開講にあたってのポイント説明、受講生の期待調査、Society 5.0 時代のデータの価値について S科 久保准教授	事前の学修進捗度 学修ノートの作成
2	データ活用の最新事例	データサイエンスを学ぶためのハード、ソフト両面の説明、AI を前提とした社会のあり方 S科 久保准教授	データサイエンスの事例を調べる 学修ノートの作成
3	データ分析の準備	Excel によるデータ整理、基本統計量からわかる事柄 S科 牧野准教授	Excel の操作に関する復習 学修ノートの作成
4	Excel でできるデータ分析	ピボットテーブルの有効活用 S科 橋本講師	Excel の操作に関する復習 学修ノートの作成
5	Excel でできる統計分析	データの関係がわかる関数 S科 橋本講師	Excel の操作に関する復習 学修ノートの作成
6	オープンデータの収集と活用	RESAS (地域経済分析システム) によるオープンデータの分析 W科 植杉教授	RESAS の操作 学修ノートの作成
7	Excel で行える高度な分析	Excel によるオープンデータの研究活動への活用方法 W科 朝田准教授	オープンデータの事例を調べる 学修ノートの作成
8	商品企画につながる分析実習	統計分析ソフトウェア (SPSS) によるデータ整理 S科 牧野准教授	統計学に関する予習・復習 学修ノートの作成
9	優良顧客を見つける方法	SPSS による統計分析の実習 S科 牧野准教授	学修ノートの作成
10	データから相性を評価する	ビジネスデータ分析の実際 S科 牧野准教授	学修ノートの作成
11	スマホでできるアンケート調査	GoogleForms の便利な使い方 S科 牧野准教授	GoogleForms について調べる 学修ノートの作成
12	データの整理から分析までの連動	オープンデータから FileMaker Pro での整理、R での統計分析の実習 S科 久保准教授	FileMaker の事例について調べる 学修ノートの作成
13	ロボティクスで利用されるデータ	ロボットを動かすデータ処理 E科 片田准教授	学修ノートの作成
14	広告効果のデータ分析	FileMaker Pro によるフィールドワークノートづくり S科 久保准教授	学修ノートの作成
15	データサイエンスの知識を今後に活かす	スモールグループディスカッション (ELSI、データの活用、人間中心の新しい社会) S科 久保准教授	ELSI について調べる 学修ノートの整理 事後の学修進捗度

関連科目 データサイエンス展開

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				

	3		
評価方法 (基準)	授業での課題 70%、事前事後の学修進展度 (アンケート) 15%、学修ノート 15%、以上を総合して 60%以上を合格とする。なお、無断欠席が 20%以上の場合は成績評価の対象外とするので注意すること。		
学生への メッセージ	商品企画や心理テスト、世論調査などわたしたちの普通の生活でデータは分析され、活用されています。みなさんが「自分の専門」プラス「データサイエンス」の力をつけると大きな可能性が拓けます。日常生活から研究活動、ビジネスの現場でも活用できるデータサイエンスを総合大学ならではの環境で学びましょう。 授業への遅刻は実習参加の妨げになるため十分注意してください。		
担当者の 研究室等 備考	11 号館 7 階 久保准教授室、牧野准教授室、11 号館 8 階 橋本講師室、1 号館 7 階 植杉教授室、朝田准教授室、1 号館 4 階 片田准教授室		

科目名	ダイバーシティとコミュニケーション	科目名 (英文)	Diversity and Communication
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	石井 三恵
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01374a1~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	<p>この授業を通じて学生には、以下の4点を理解することが期待される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) グローバル社会では、日本人の従来の常識では予測のつかない疑問点が溢れていることを知り、ジェンダー視点で俯瞰する。 2) 「境界線」も一つの視野では理解できないことから、ジェンダーの基本的理解はもちろん、主な思潮を通して社会を読む。 3) さまざまな差異を理解するためには、ダイバーシティ (多様性) を尊重し、受け入れ、積極的に活かすことが大切であることを事例を通して学ぶ。 4) 日常生活やビジネスの場面でのコミュニケーションの必要性を理解し、アサーティブコミュニケーションの理論を知る。 <p>なお、講義は担当講師の民間企業社員、自治体職員として業務経験及び、NPO 法人の理事、高等教育での教育ならびに経営の経験を活かした内容も含まれる。</p> <p>SDGs-5</p>
---------	--

到達目標	ダイバーシティ理解に欠かせないコミュニケーション手法の一つであるアサーティブネス理論を中心に理解を促進させ、そのスキルを学ぶことによって社会生活に活かすことを目標とする。
------	---

授業方法と留意点	第一に学問的探究をもち、偏見なく学ぶ姿勢が必要であり、第二に積極的に参画する意識を持つことを求める。
----------	--

科目学習の効果 (資格)	<ul style="list-style-type: none"> ・ダイバーシティマネジメントにおける社員教育の在り方を理解することができる。 ・2019年度までの入学生で「ソーシャル・イノベーション副専攻課程」を取得希望者にとっては、「アドバンスト科目」の「共通」分野に位置している科目である。
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・ダイバーシティの世界へようこそ ・政策提言へ向けて 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: ダイバーシティに関して、調べる (1時間) ・事後学修: 身近なダイバーシティに対する気づきに関してレポートを作成すること (3時間)
2	ダイバーシティと境界線	<ul style="list-style-type: none"> ・ウチとソトの感覚 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: 私たちの周りにおける伝統や習慣について箇条書きにしておくこと (2時間) ・事後学修: SDGs # 5 がなぜ日本に問われているのか、その理由について、具体的数字を入れてレポートを書くこと (2時間)
3	ジェンダー視点	<ul style="list-style-type: none"> ・フェミニズム×女性学+男性学=人間学 ・ジェンダーギャップ指数 ・シモース・ド・ボーボワール ・性別役割分業観 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: フェミニズムの歴史的背景を理解し、近年話題のエコフェミニズムについて調べる (2時間) ・事後学修: 日本が抱える問題 について、具体的数字を入れてレポートを書くこと (2時間)
4	日本の近代化	<ul style="list-style-type: none"> ・大正期の白樺派と女権拡張運動 ・明治の落とし物 ・第5次男女共同参画基本計画 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: 明治・大正・昭和の歴史年表を作成すること (2時間) ・事後学修: 第五次男女共同参画基本計画を読み、興味関心をもった項目についてレポートを書くこと (2時間)
5	国際統計比較	<ul style="list-style-type: none"> ・ジェンダーギャップ、ジェンダーエンパワーメント指数などのデータから日本をみる 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: 国際的統計から、日本の置かれた位置を確認し、何が問題であるか考えること (2時間) ・事後学修: 国際的統計から理解できたことに関してレポートを作成すること (2時間)
6	性役割の形成①	<ul style="list-style-type: none"> ・性役割と発達段階における「刷り込み」 ・性自認 ・GID と SOGI と人権 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: 性役割を理解し、幼児期から振り返ること (2時間) ・事後学修: テキスト P40~52 と、授業を受けて理解できたことなどをまとめたレポートを作成 (2時間)
7	性役割の形成②	<ul style="list-style-type: none"> ・性自認と家族 ・親役割 ・性的指向 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: ハラスメントの事例の一つ探し、具体的内容をレポートする 準備をすること (2時間) ・事後学修: 結婚と母性信仰に関して、レポートを作成 (2時間)
8	「らしさ」とセクシャル・ポリティクス	<ul style="list-style-type: none"> ・6名の女性に関するグループワークとプレゼン ・セクシュアリティ 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: 6名の女性に関するプレゼン (2時間) ・事後学修: 6名の女性から学んだことのレポート作成 (2時間)
9	ワークライフバランスとビジネス組織	<ul style="list-style-type: none"> ・ジェンダーマネジメント ・働き方改革 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: 日本と世界を比較しながら、女性労働について考えること (2時間) ・事後学修: M字型労働力率曲線の底を上げるための提言レポートを作成すること (2時間)
10	アサーティブコミュニケーション①	<ul style="list-style-type: none"> ・アサーティブとは何か ・世界中でアサーティブネスが用いられる理由 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: アサーティブネスについて調べる (2時間) ・事後学修: アサーティブネススキルを用いて問題解決事例を考える (2時間)
11	アサーティブコミュニケーション②	<ul style="list-style-type: none"> ・スキルの必要性を理解し、身に付けることを試みる 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: アサーティブネス理論を実生活に活かす事例を考えること (2時間) ・事後学修: ワークシート#11 (2時間)
12	リプロダクティブ・ヘルス&ライツ	<ul style="list-style-type: none"> ・リプロの正しい意味を理解する ・リプロの歴史と現状の課題を確認する ・DV、デート DV について現状を理解す 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: リプロの意味と現状を調べる (2時間) ・事後学修: ワークシート#12 (2時間)

			る	
	13	DV とデート DV	・企業比較から政策提言へ	・事前学修：DV とデート DV に関してレポートを作成（2 時間） ・事後学修：ワークシート#13（2 時間）
	14	プレゼンテーション	・政策提言プレゼンテーション ・自由討議	・事前学修：事例研究した内容をプレゼンテーションできるよう練習すること（2 時間） ・事後学修各プレゼンテーションについての報告書作成（2 時間）
	15	まとめ	・まとめ	・事前学修：まとめのワークシート（2 時間） ・事後学修：ダイバーシティ・マネジメントが必要である理由について述べられるようまとめること（2 時間）
関連科目	2019 年度以前入学生の「ソーシャル・イノベーション副専攻課程」の「アドバンス科目」の「共通」分野に位置している科目である。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	共に学ぶ女性学	石井三恵	泉文堂
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ジェンダーで学ぶ社会学	伊藤公男	世界思想社
	2	よくわかるジェンダー・スタディーズ	木村 涼子 他	ミネルヴァ書房
	3	性と法律	角田 由紀子	岩波新書
評価方法 (基準)	ロールプレイ（20%）、プレゼンテーション（30%）、レポート（50%）を総合的に評価する。			
学生への メッセージ	みなさんの身近に存在している不思議を解き明かすカギが女性学、フェミニズム、ジェンダー論、そしてダイバーシティにあります。私たちは生まれも育ちも異なることから考え方も異なるように、外国の方にもそれが当てはまり、みな同じ問題を抱えています。社会的弱者と呼ばれる私たちの身近な事例を通して、人としての生きる権利とは何かを考えてみませんか。			
担当者の 研究室等	石井教授室（7 号館 5 階）			
備考	予習・復習に毎回 2 時間以上取り組むこと。ロールプレイ、プレゼンテーション、レポート作成のための学習時間を含め、総時間数で 60 時間程度を目安とする。			

科目名	データサイエンス展開	科目名 (英文)	Data Science Applications
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	伊藤 謙、諏訪 晴彦、石井 三恵、新居 英志
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01374a1~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	IT・インターネットの利用が日常化し人とのつながりが増えるとともに、デジタル情報やデータの影響を受ける場面が飛躍的に増加している。今後のデジタル駆動社会においては情報化・デジタル化の特徴を理解した上で、生活を豊かにしていく「データリテラシー」を身に付けていることが必要となっている。本科目では、政策、衣食住、ものづくり、イベント広告、まちづくりの広範な分野における数理・データサイエンス・AIとデジタル技術の実践例を通じて、これらが社会や産業、日常生活の基盤になりつつあることを学ぶ。また、高度情報社会において、データを駆使し諸問題を解決する、また価値を創造する人材の素養を涵養する。
到達目標	(1) 数理・データサイエンス・AIが、Society5.0 (データ駆動型社会) やインダストリー4.0の基盤となっていること、それが自らの生活と密接に結びつくことを理解し説明できる。 (2) 数理・データサイエンス・AIが対象とする「データの活用領域」は広範にわたり「社会で活用されているデータ」が社会や日常生活の課題解決に不可欠であることを理解し説明できる。 (3) 数理・データサイエンス・AIは様々な適用領域の知見と組み合わせることにより、価値創出するものであることを理解し説明できる。 (4)
授業方法と留意点	・産官学のさまざまな分野の講師によるオムニバス形式である (12 回分)。 (外部から講師を招聘するため、日程やテーマが変更となることがある。) ・事前学習として、関連動画を視聴 (もしくは資料を精読) し興味や関心、講師への質問をレポートとしてまとめる。 ・事後学修では授業で理解したことをまとめ、到達目標の(1)から(4)の達成度を自己分析・評価する。 ・事前事後学習のレポートはすべて ICT ツールを利用する。
科目学習の効果 (資格)	・AI・データサイエンスの実際を様々な分野の実務家や研究者から学ぶことで、視野を広め、今後の自身のキャリア形成や就職活動に役立てることができ。 ・数理・データサイエンス・AIの関連資格への興味を拡大することができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	大学人としてのデータサイエンス	本講義の目的と概要 オリエンテーション グループワークの概説	事後学修: レポート (1 時間)
2	データ駆動社会	・ Society5.0 概論 ・ オープンデータ活用 ・ デジタルトランスフォーメーション (DX)	事前学習: 動画視聴/資料精読, 課題レポート (1 時間) 事後学修: レポート (1 時間)
3	サイバーセキュリティ	サイバー攻撃と防御の最前線、データ駆動や AI による最先端のセキュリティ技術を学ぶ。	事前学習: 動画視聴/資料精読, 課題レポート (1 時間) 事後学修: レポート (1 時間)
4	食サービス×データサイエンス	食品産業におけるデータ分析やデータサイエンスの利活用を学ぶ。	事前学習: 動画視聴/資料精読, 課題レポート (1 時間) 事後学修: レポート (1 時間)
5	ものづくり×データサイエンス	ものづくりの設計や製造現場におけるデータサイエンスや AI 技術の利活用を学ぶ。	事前学習: 動画視聴/資料精読, 課題レポート (1 時間) 事後学修: レポート (1 時間)
6	イベント×データサイエンス	イベント企画におけるデジタル技術の利活用を学ぶ。	事前学習: 動画視聴/資料精読, 課題レポート (1 時間) 事後学修: レポート (1 時間)
7	数理・データサイエンス・AIを知る	・数理・データサイエンス・AI のメリット・デメリットをグループワークで学ぶ。	事前学習: 動画視聴/資料精読, 課題レポート (1 時間) 事後学修: レポート (1 時間)
8	広告×データサイエンス	広告業界における SNS マーケティングなどデジタル技術・データサイエンスの利活用を学ぶ。	事前学習: 動画視聴/資料精読, 課題レポート (1 時間) 事後学修: レポート (1 時間)
9	言語×データサイエンス	言語とデータ化、テキストマイニングの仕組みと技術を学ぶ。	事前学習: 動画視聴/資料精読, 課題レポート (1 時間) 事後学修: レポート (1 時間)
10	まちづくり×データサイエンス	地方創生など新たなまちづくりにおけるデータ分析の利活用を学ぶ。	事前学習: 動画視聴/資料精読, 課題レポート (1 時間) 事後学修: レポート (1 時間)
11	ヘルスケア×データサイエンス	医薬品開発やヘルスケアにおけるデータサイエンスの利活用を学ぶ。	事前学習: 動画視聴/資料精読, 課題レポート (1 時間) 事後学修: レポート (1 時間)
12	スポーツ×データサイエンス	選手のコンディションや戦況分析などスポーツ科学におけるデータ分析の利活用を学ぶ。	事前学習: 動画視聴/資料精読, 課題レポート (1 時間) 事後学修: レポート (1 時間)
13	衣料×データサイエンス	顧客のニーズに即応する衣料品開発と製造におけるデータサイエンスの利活用を学ぶ。	事前学習: 動画視聴/資料精読, 課題レポート (1 時間) 事後学修: レポート (1 時間)
14	政策×データサイエンス	サイバー空間における大規模人工知能シミュレーション技術を用いた選挙や年金などの制度設計を学ぶ。	事前学習: 動画視聴/資料精読, 課題レポート (1 時間) 事後学修: レポート (1 時間)
15	社会人としてのデータサイエンス	社会人として身につけておくべき DX 思考、情報倫理、協働姿勢などをグループワークで学ぶ。	事前学習: 動画視聴/資料精読, 課題レポート (1 時間) 事後学修: レポート (1 時間)

関連科目	情報系科目すべて			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・事前課題レポート 30%、事後課題レポート 60%、受講態度（質問や意見を述べる）10%で評価する。 ・なお「出席率 80%以上」を成績評価の前提とする。 			
学生への メッセージ	<p>社会で注目されている AI・データサイエンス活用の最前線で活躍している講師陣から学んでください。社会に対する視野を広げることができ、就職活動においても選択肢を増やすことになり有利です。</p>			
担当者の 研究室等	7号館 2F 非常勤講師室			
備考	1号館 4F 諏訪教授室、7号館 3F 石井教授室、1号館 3F 伊藤教授室			

科目名	コンピュータビジョン入門	科目名 (英文)	Introduction to Computer Vision
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	寺内 睦博
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01374a1~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	われわれの視覚機能をコンピュータを使って実現する分野がコンピュータビジョンである。外界から入力される画像や映像から物体認識をしたり、状況を理解させたりすることをプログラムで実現するものである。このためにプログラミングの基礎から始めて、各種の画像処理の手法をプログラム作成を通じて学ぶ。さらに機械学習の初歩的な課題に取り組み、その仕組みを知ることを目的とする。
到達目標	プログラミングの基礎スキルを獲得し、それに基づいて各種の画像処理手法や機械学習の仕組みを学び、自分でプログラミングする素養を身につけること。
授業方法と留意点	毎回、パソコンを使用してプログラムを作成します。初歩的なプログラムの作成から始めて、徐々にステップアップします。欠席した場合には自分でフォローアップしないといけないので注意が必要です。
科目学習の効果 (資格)	基本的なプログラムの作成を通してプログラミングを学び、基本情報処理試験の基礎技能を養います。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	python 入門 (1)	式、配列、データ構造、プログラム構造	授業内容の予習 課題の完成
3	python 入門 (2)	制御構造	授業内容の予習 課題の完成
4	python 入門 (3)	関数	授業内容の予習 課題の完成
5	python 入門 (4)	アルゴリズム	授業内容の予習 課題の完成
6	OpenCV プラグラミング (1)	画像入力装置と静止画・動画フォーマット デジタル画像と配列	授業内容の予習 課題の完成
7	OpenCV プラグラミング (2)	色空間 濃淡変換	授業内容の予習 課題の完成
8	OpenCV プラグラミング (3)	フィルタ処理	授業内容の予習 課題の完成
9	OpenCV プラグラミング (4)	2値画像とモルフォロジ演算	授業内容の予習 課題の完成
10	OpenCV プラグラミング (5)	形状特徴の抽出	授業内容の予習 課題の完成
11	OpenCV プラグラミング (6)	画像の合成	授業内容の予習 課題の完成
12	OpenCV プラグラミング (7)	画像の差分	授業内容の予習 課題の完成
13	OpenCV プラグラミング (8)	幾何学変換	授業内容の予習 課題の完成
14	機械学習プログラミング (1)	ディープラーニング結果の利用 (1)	授業内容の予習 課題の完成
15	機械学習プログラミング (2)	ディープラーニング結果の利用 (2)	授業内容の予習 課題の完成

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	OpenCVによる画像処理入門 (改訂第3版)	小枝、上田、中村	講談社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	授業内課題 (80%)、プロジェクト課題 (20%)
学生へのメッセージ	われわれの視覚情報処理を知ることは、脳のしくみを知ることにつながります。プログラミングは創造的な活動のひとつです。文系理系に関わらず、興味のある人の参加を待っています。
担当者の研究室等備考	寺内准教授室 (11号館10階)

科目名	SDGs に学ぶ世界の課題	科目名 (英文)	Learning Global Issues from SDGs
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	伊藤 譲, 大川 謙蔵, 大塚 正人, 喜多 大三, 佐藤 大 作, 白鳥 武
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01374a1~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	この科目は、学部の枠を越えた教養応用科目で、大学教養入門・実践のステップアップの講座としての位置づけられています。科目のテーマである SDGs (持続可能な開発目標) とは、国連が定めた 2030 年までに達成を目指す 17 の目標で、わが国でもビジネス界のキーワードのひとつになっています。つまり、この科目は SDGs の全体像を主体的に学ぶ、本格的なアクティブラーニング型教養科目です。反転学習により獲得した基礎知識をグループワーク、ABD と振り返りにより生きた知識として定着させます。さらに、法学、経済学、環境工学、建築学、農学のその分野の第一人者の講義・問題提起から討議を深め、獲得した知識を生きた教養として身に付けることができます。このような流れを通じて、大学生として必要な、SDGs を理解するための教養 (特に、社会、経済、環境等) を身につけ、その知識をもとに考え、自分の意見を持ち、討議ができるようになります。
到達目標	(1) 世界の目標 SDGs (2030 年までの世界の目標) について知り、説明と討議をすることができる。 (2) 現代世界の課題について知り、SDGs との関係の説明をすることができる。 (3) 課題に対して、自ら主体的に取り組むことができる。 (4) 自分やチームの考えが効果的に伝わるプレゼンテーションをすることができる。
授業方法と留意点	ABD 読書法と様々な ICT ツールを活用するなど、アクティブラーニングの手法を駆使するので、極めて密度の高い授業となります。授業開始時には、事前学習における知識の定着を確認するため、ICT ツールによるクイズ、ミニプレゼンを行い、中盤から後半部で各テーマをとりあげます。学生は解説時にはメモをとり、主としてグループワークにより課題に取り組みます。授業最後には、振り返りシートに授業のふりかえりをまとめます。また、授業資料の管理状態も評価対象です。
科目学習の効果 (資格)	社会課題を議論するための教養として SDGs (2030 年までの世界の目標) を知る。自分たちが未来を創る主体であると感じられるようになる。ABD による SDGs の主体的学び、各分野における第一人者によるテーマの解説、多様なメンバーとの討論により、自分の考えを持ち、討論ができるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション、授業の進め方	事前アンケート 科目の特徴、どのような力が身につくのかを知る CHAP1 を協働でサマリ作成体験 リレープレゼン 振り返りシート	事後: CHAP1 を復習して、復習シートを作成する
2	SDGs とは何か①	理解度確認テスト CHAP2 リレープレゼン、対話 理解度確認テスト、振り返りシート	事前: CHAP2 を学び、ABD サマリを作成する
3	SDGs とは何か②	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題提示 理解度確認テスト、振り返りシート	事前: Moodle に掲載の資料を読み、ABD サマリを作成しておくこと
4	SDGs とは何か③	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題解決 理解度確認テスト、振り返りシート	事前: Moodle に掲載の資料を読み、ABD サマリを作成しておくこと
5	気候変動に関する諸問題 1	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題提示 理解度確認テスト、振り返りシート	事前 1: 目標 13 を学び、ABD サマリを作成する 事前 2: 下記動画を視聴し、関連する話題に関して説明できるようにしておくこと。 ・気候変動とは https://www.youtube.com/watch?v=WVLDtd5nviw
6	気候変動に関する諸問題 2	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題解決 理解度確認テスト、振り返りシート	事前 1: 目標 16、10 (特に 10.2, 10.3)、4 (特に 4.5, 4.7)、6 (特に 6.3, 6.6)、11 (11.1, 11.2) を学び、ADB サマリを作成する 事前 2: 以下の動画、資料等から複雑に絡み合った「負の連鎖」を理解し、複数の阻害問題の相互関係を俯瞰し、図にまとめてみる。 https://www.ff-ainu.or.jp/web/learn/culture/history/files/syougakusei.pdf
7	日本の食文化 1	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題解決 振り返りシート	事前 1: 目標 2、3 を学び、ABD サマリを作成する。 事前 2: 日本の食文化 1 の動画を視聴し、要点を 300 字程度にまとめる。
8	日本の食文化 2	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題提示 振り返りシート	事前 1: CHAP3 を学び、ABD サマリを作成する。 事前 2: 日本の食文化 2 の動画を視聴し、要点を 300 字程度にまとめる。 事後: 第 1 回レポート
9	地球共生デザインを考える I: 少数民族を巡る地球共生阻害問題群を考える～その 1	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題提示 振り返りシート	事前 1: 16、10 (特に 10.2, 10.3)、5 (特に 5.1, 5.2)、6 (特に 6.3, 6.6)、11 (11.1, 11.2) の ABD サマリを作成する。 事前 2: 【資料 S】で相關図の導き方を学び、【地球共生デザイン予習課題書 A-カナダ】の動画、資料複数から複雑に絡み合った「負の連鎖」を理解し、複数の阻害問題の相互関係を俯瞰し、相關図にまとめてみる。その上で阻害問題を解決するプロジェクト提案を考えて PPT1 枚にまとめること。
10	地球共生デザインを考える II: 少数民族を巡る地球共生阻害問題群を考える～その 2	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題提示 振り返りシート	事前 1: 目標 16、10 (特に 10.2, 10.3)、4 (特に 4.5, 4.7)、6 (特に 6.3, 6.6)、11 (11.1, 11.2) の ABD サマリを作成する 事前 2: 前回も使った【資料 S】で相關図の導き方を学び、

		の2		【地球共生デザイン予習課題書 B-日本のアイヌ】の動画、資料複数から複雑に絡み合った「負の連鎖」を理解し、複数の阻害問題の相互関係を俯瞰し、相関図にまとめてみる。その上で阻害問題を解決するプロジェクト提案を考えて PPT1 枚にまとめること。
11	日本の国際貢献と法整備支援 1	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題提示 振り返りシート		事前1：目標 6、9、13 を学び、ABD サマリを作成する。 事前2：以下の Web 記事を読み、法制度と法整備の必要性について、の概要を把握しておくこと。 https://www.moj.go.jp/housouken/houso_lta_lta.html
12	日本の国際貢献と法整備支援 2	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題解決 振り返りシート		事前1：目標 16、11、10 を学び、ABD サマリを作成する。 事前2：以下の Web 記事の初めの段落と第三の「私見」を読み、当時の社会状況を理解しておくこと。 https://www.moj.go.jp/content/001311759.pdf
13	SDGs と ESG 投資 1	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題解決 振り返りシート		事前1：目標:8, 9, 12, 17 を学び、ABD サマリを作成する 事前2：ESG 投資とは何かを理解する。 https://www.youtube.com/watch?v=IZJSFYtfCFE https://www.youtube.com/watch?v=9oIVX_sD76c
14	SDGs と ESG 投資 1	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題提示 振り返りシート		事前1：CHAP5 を学び、ABD サマリを作成する 事前2：SDGs 達成のために ESG 投資が果たす役割について理解する。 https://www.youtube.com/watch?v=VnCeFZYVPY8&t=436s https://www.youtube.com/watch?v=f71tA61EpUc 事後：第2回レポート
15	成果発表	理解度確認テスト 全体を通しての学びの整理、共有、 プレゼンテーション、振り返り 事後アンケート		事前：SDGs1-17 の復習 事後：第2回レポート

関連科目 摂南大学で開講されている科目のすべて

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	「SDGs の考え方と取り組みが、これ一冊でしっかりわかる教科書」(1680 円+税)	バウンド	技術評論社
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> 理解度確認クイズ (個人：10%) 事前・事後学習課題・ABD サマリ (個人：15%) 取組み姿勢 (チーム：20%) 成果発表・プレゼンテーション 1 回 (チーム：10%) 振り返りシート (個人：20%)、レポート 2 回 (個人：20%)、授業資料管理 (個人：5%) ※以上の合計で 60%以上の学生を合格とする。また、出席率 80%未満は成績評価の対象としない。期末試験は実施しない。
学生への メッセージ	この授業では、摂南大学のすべての学生が、学部・学科の垣根を越えたグループをつくり協働学習を行います。この授業を履修することで、大学生として SDGs 実現のために必要な幅広い教養、コミュニケーション力、ファシリテーション力、学習方法が身に付き、さらに学部、学科を超えたたくさんの友人をつくることもできるでしょう。
担当者の 研究室等	大塚教授 (薬学部 11 号館 5F)、久保教授・学事顧問 (7 号館 8F)、伊藤教授 (1 号館 3F)、喜多教授 (農学部 1 8 号館 2F)、白鳥准教授 (1 2 号館 7 階)、佐藤准教授 (1 号館 3F)、田中准教授 (1 号館 7F)、大川准教授 (11 号館 9F)
備考	この科目はアクティブラーニング入学式～キックオフセミナー～大学教養入門～大学教養実践からつながる科目で、教養を身につけながら学習法を修得することを目指しています。

科目名	SDGs に学ぶ世界の課題	科目名 (英文)	Learning Global Issues from SDGs
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	伊藤 譲, 大川 謙蔵, 大塚 正人, 喜多 大三, 佐藤 大 作, 白鳥 武
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01374a1~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	この科目は、学部の枠を越えた教養応用科目で、大学教養入門・実践のステップアップの講座としての位置づけられています。科目のテーマである SDGs (持続可能な開発目標) とは、国連が定めた 2030 年までに達成を目指す 17 の目標で、わが国でもビジネス界のキーワードのひとつになっています。つまり、この科目は SDGs の全体像を主体的に学ぶ、本格的なアクティブラーニング型教養科目です。反転学習により獲得した基礎知識をグループワーク、ABD と振り返りにより生きた知識として定着させます。さらに、法学、経済学、環境工学、建築学、農学のその分野の第一人者の講義・問題提起から討議を深め、獲得した知識を生きた教養として身に付けることができます。このような流れを通じて、大学生として必要な、SDGs を理解するための教養 (特に、社会、経済、環境等) を身につけ、その知識をもとに考え、自分の意見を持ち、討議ができるようになります。
到達目標	(1) 世界の目標 SDGs (2030 年までの世界の目標) について知り、説明と討議をすることができる。 (2) 現代世界の課題について知り、SDGs との関係の説明をすることができる。 (3) 課題に対して、自ら主体的に取り組むことができる。 (4) 自分やチームの考えが効果的に伝わるプレゼンテーションをすることができる。
授業方法と留意点	ABD 読書法と様々な ICT ツールを活用するなど、アクティブラーニングの手法を駆使するので、極めて密度の高い授業となります。授業開始時には、事前学習における知識の定着を確認するため、ICT ツールによるクイズ、ミニプレゼンを行い、中盤から後半部で各テーマをとりあげます。学生は解説時にはメモをとり、主としてグループワークにより課題に取り組みます。授業最後には、振り返りシートに授業のふりかえりをまとめます。また、授業資料の管理状態も評価対象です。
科目学習の効果 (資格)	社会課題を議論するための教養として SDGs (2030 年までの世界の目標) を知る。自分たちが未来を創る主体であると感じられるようになる。ABD による SDGs の主体的学び、各分野における第一人者によるテーマの解説、多様なメンバーとの討論により、自分の考えを持ち、討論ができるようになる。

	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション、授業の進め方	事前アンケート 科目の特徴、どのような力が身につくのかを知る CHAP 1 を協働でサマリ作成体験 リレープレゼン 振り返りシート	事後: CHAP 1 を復習して、復習シートを作成する
2	SDGs とは何か	理解度確認テスト CHAP2 リレープレゼン、対話 理解度確認テスト、振り返りシート	事前: CHAP2 を学び、ABD サマリを作成する	
3	気候変動に関する諸問題 1	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題提示 理解度確認テスト、振り返りシート	事前 1: 目標 13 を学び、ABD サマリを作成する 事前 2: 下記動画を視聴し、関連する話題に関して説明できるようになっておくこと。 ・気候変動とは https://www.youtube.com/watch?v=WVLDtd5nviw	
4	気候変動に関する諸問題 2	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題解決 理解度確認テスト、振り返りシート	事前 1: 目標 14, 15 を学び、ADB サマリを作成する 事前 2: 下記動画を視聴し、関連する話題に関して説明できるようになっておくこと。 ・適応と緩和 https://www.youtube.com/watch?v=dTF9YoQPzjE	
5	地球共生デザインを考える I: 少数民族を巡る地球共生阻害問題群を考える~その 1	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題提示 理解度確認テスト、振り返りシート	事前 1: 16, 10 (特に 10.2, 10.3)、5 (特に 5.1, 5.2)、6 (特に 6.3, 6.6)、11 (11.1, 11.2) の ABD サマリを作成する。 事前 2: 【資料 S】で相関図の導き方を学び、【地球共生デザイン予習課題書 B-日本のアイヌ】の動画、資料複数から複雑に絡み合った「負の連鎖」を理解し、複数の阻害問題の相互関係を俯瞰し、相関図にまとめてみる。その上で阻害問題を解決するプロジェクト提案を考えて PPT1 枚にまとめること。	
6	地球共生デザインを考える II: 少数民族を巡る地球共生阻害問題群を考える~その 2	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題解決 理解度確認テスト、振り返りシート	事前 1: 目標: 16, 10 (特に 10.2, 10.3)、4 (特に 4.5, 4.7)、6 (特に 6.3, 6.6)、11 (11.1, 11.2) の ADB サマリを作成する 事前 2: 前回も使った【資料 S】で相関図の導き方を学び、【地球共生デザイン予習課題書 B-日本のアイヌ】の動画、資料複数から複雑に絡み合った「負の連鎖」を理解し、複数の阻害問題の相互関係を俯瞰し、相関図にまとめてみる。その上で阻害問題を解決するプロジェクト提案を考えて PPT1 枚にまとめること。	
7	日本の食文化 1	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題解決 振り返りシート	事前 1: 目標 2, 3 を学び、ABD サマリを作成する。 事前 2: 日本の食文化 1 の動画を視聴し、要点を 300 字程度にまとめる。	
8	日本の食文化 2	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題提示 振り返りシート	事前 1: CHAP3 を学び、ABD サマリを作成する。 事前 2: 日本の食文化 2 の動画を視聴し、要点を 300 字程度にまとめる。 事後: 第 1 回レポート	
9	日本の国際貢献と法整備支援 1	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題提示 振り返りシート	事前 1: 目標 16, 11, 10 を学び、ABD サマリを作成する。 事前 2: 以下の Web 記事の初めの段落と第三の「私見」を読み、当時の社会状況を理解しておくこと。 https://www.moj.go.jp/content/001311759.pdf	
10	日本の国際貢献と法整備支援 2	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題提示 振り返りシート	事前 1: 目標 16, 11, 10 を学び、ABD サマリを作成する。 事前 2: 以下の Web 記事の初めの段落と第三の「私見」を読み、当時の社会状況を理解しておくこと。 https://www.moj.go.jp/content/001311759.pdf	

	11	食糧安全保障 1	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題提示 振り返りシート	事前1：目標2(2.4,2.c)を学び、ABDサマリを作成する 事前2：食料安全保障とバイオ燃料の関連性を理解する。(※日本語字幕を選択する。) The State of Food Security and Nutrition in the World 2020 : https://www.youtube.com/watch?v=64KLuGzGxEQ&ab_channel=FoodandAgricultureOrganizationoftheUnitedNations Introduction t																
	12	食糧安全保障 2	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題解決 振り返りシート	事前1：目標2(2.4,2.c)を学び、ABDサマリを作成する 事前2：フードロスとその日本の現状について理解する。 (※日本語字幕を選択する。) REDUCE THE FOOD LOSS : https://www.youtube.com/watch?v=60rb07dGHNQ&ab_channel=Cauz.jp , London's rubbish problem : https://www.youtube.com/watch?v=ccR2zK6yn8o&ab_channel=BBCLondon																
	13	SDGs と ESG 投資 1	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題解決 振り返りシート	事前1：目標8,9,12,17を学び、ABDサマリを作成する 事前2：ESG投資とは何かを理解する。 https://www.youtube.com/watch?v=IZJSFYtfcFE https://www.youtube.com/watch?v=9oIVX_sd76c																
	14	SDGs と ESG 投資 1	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題提示 振り返りシート	事前1：CHAP5を学び、ABDサマリを作成する 事前2：SDGs達成のためにESG投資が果たす役割について理解する。 https://www.youtube.com/watch?v=VnCeFZYVPY8&t=436s https://www.youtube.com/watch?v=f71tA61EpUc 事後：第2回レポート																
	15	成果発表	理解度確認テスト 全体を通しての学びの整理、共有、 プレゼンテーション、振り返り 事後アンケート	事前：SDGs1-17の復習 事後：第2回レポート																
関連科目	摂南大学で開講されている科目のすべて																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>「SDGsの考え方と取り組みが、これ一冊でしっかりわかる教科書」(1680円+税)</td> <td>バウンド</td> <td>技術評論社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	「SDGsの考え方と取り組みが、これ一冊でしっかりわかる教科書」(1680円+税)	バウンド	技術評論社	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	「SDGsの考え方と取り組みが、これ一冊でしっかりわかる教科書」(1680円+税)	バウンド	技術評論社																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・理解度確認クイズ(個人:10%) ・事前・事後学習課題・ABDサマリ(個人:15%) ・取組み姿勢(チーム:20%) ・成果発表・プレゼンテーション1回(チーム:10%) ・振り返りシート(個人:20%)、・レポート2回(個人:20%)、・授業資料管理(個人:5%) ※以上の合計で60%以上の学生を合格とする。また、出席率80%未満は成績評価の対象としない。期末試験は実施しない。																			
学生への メッセージ	この授業では、摂南大学のすべての学生が、学部・学科の垣根を越えたグループをつくり協働学習を行います。この授業を履修することで、大学生としてSDGs実現のために必要な幅広い教養、コミュニケーション力、ファシリテーション力、学習方法が身に付き、さらに学部、学科を超えたたくさんの友人をつくることもできるでしょう。																			
担当者の 研究室等	大塚教授(薬学部11号館5F)、久保教授・学事顧問(7号館8F)、伊藤教授(1号館3F)、喜多教授(農学部18号館2F)、白鳥准教授(12号館7階)、佐藤准教授(1号館3F)、田中准教授(1号館7F)、大川准教授(11号館9F)																			
備考	この科目はアクティブラーニング入学式〜キックオフセミナー〜大学教養入門〜大学教養実践からつながる科目で、教養を身につけながら学習法を修得することを目指しています。																			

科目名	まちづくり入門	科目名 (英文)	introduction to Urban Planning
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	熊谷 樹一郎, 池内 淳子, 石田 裕子, 伊藤 謙, 稲地 秀介, 上野山 裕士, 久保 貞也, 中塚 華奈, 野長瀬 裕二, 野村 佳子, 増田 知也
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1◎, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01374a1~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	これからの社会において「まち」の役割は重要になっている。まちを発展、維持していくために行政、団体、民間企業などさまざまな主体が計画を立て、課題を克服する活動を行っている。さらに今後は市民、学生が新たな担い手として期待されている。本講義では文理それぞれの観点から講演者を招き実践的な活動について知るとともに、大学の幅広い学術的知見を活用して摂南大学生が貢献するまちづくりの在り方を学び、検討を行う。
到達目標	(1) まちづくりの課題を多面的に理解できる (2) 大学生が行えるまちづくりの可能性と限界を理解する (3) 主体性と責任を持ってまちづくりに参加する知識と意識を持っている
授業方法と留意点	本授業ではまちづくりに関係する多様な講師によって構成される。行政経験者、民間での実務経験、コンサルティング経験者、および、市民活動の主催や支援、社会貢献の実行者などがそれぞれの専門的知見から「まちづくりとはなにか」を講義する。毎回の授業に予習と復習のための主体的な学びを設定する。
科目学習の効果 (資格)	学生として大学の知識、技術を総動員して地域問題解決に当たる姿勢を理解する。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	大学がまちづくりに関わる意義 国や自治体、公益性の強い団体のまちづくり (1)	オリエンテーション 都市計画とまちづくり 理工学部都市環境工学科 熊谷教授	事前: シラバスを読み、自分にとっての学修ポイントを検討する 事後: 授業担当者から指示する
2	国や自治体、公益性の強い団体のまちづくり (2)	交通とまちづくり 京阪ホールディングス枚方市駅周辺開発室 部長 大浅田 寛 氏 他	授業担当者から指示する
3	国や自治体、公益性の強い団体のまちづくり (3)	都心とまちづくり 大阪市立大学大学院都市経営研究科 佐藤 道彦 教授 (元堺市副市長、元大阪市都市調整局長)	授業担当者から指示する
4	国や自治体、公益性の強い団体のまちづくり (4)	グループ発表、討論会 理工学部都市環境工学科 熊谷教授	授業担当者から指示する
5	民間団体が関わるまちづくり (1)	産業とまちづくり 経済学部 野長瀬教授	授業担当者から指示する
6	民間団体が関わるまちづくり (2)	商業とまちづくり 経営学部 久保准教授	授業担当者から指示する
7	民間団体が関わるまちづくり (3)	空き家とまちづくり 理工学部住環境デザイン学科 稲地准教授	授業担当者から指示する
8	民間団体が関わるまちづくり (4)	観光とまちづくり 経済学部 野村教授	授業担当者から指示する
9	民間団体が関わるまちづくり (5)	グループ発表、討論会 理工学部都市環境工学科 熊谷教授	授業担当者から指示する
10	市民 (大学生) が関わるまちづくり (1)	まちづくりの担い手としての市民 法学部 増田講師	授業担当者から指示する
11	市民 (大学生) が関わるまちづくり (2)	福祉とまちづくり 現代社会学部 上野山講師	授業担当者から指示する
12	市民 (大学生) が関わるまちづくり (3)	都市農業とまちづくり 農学部 中塚准教授	授業担当者から指示する
13	市民 (大学生) が関わるまちづくり (4)	親水活動とまちづくり 理工学部都市環境工学科 石田教授	授業担当者から指示する
14	市民 (大学生) が関わるまちづくり (5)	防災とまちづくり 理工学部建築学科 池内教授	授業担当者から指示する
15	大学生がまちづくりで担う役割	グループ発表、討論会 C科 熊谷教授	事前: これまでの講義の振り返り 事後: 振り返りレポート

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準) 原則として、80%以上の授業参加が評価の対象となります。加えて、各回の事後レポートがすべて提出されていることも評価の前提条件となります。提出された事後レポートの採点結果を100%とした上で、総合評価されます。

学生へのメッセージ ソーシャル・イノベーションを成立させるためには広い視野と深い洞察が必要となります。受講生による総合大学の社会貢献活動が実践的なものになるように多面的に学修してください。

担当者の 研究室等	1号館4階 熊谷教授室 1号館7階 野長瀬教授室（経済学部） 野村教授室（経済学部）
備考	

科目名	グローバル・シチズンシップ海外実習 (入門)	科目名 (英文)	Overseas Study for Global Citizenship(Introductory)
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	鎌田 美保
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01374a1~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	<p>本科目はグローバル・シチズンシップ副専攻課程(GCMP)の必修科目の一つである。GCMPは、国内外の多様な社会と人々に敬意と思いやりをもち、地域の課題と地球規模の課題に等しく当事者として向き合い、課題解決に向けて積極的に行動できるグローバル・シチズン(地球市民)の育成を目指す副専攻である。GCMPは、国連が定める持続可能な開発目標(SDGs)目標4.7「2030年までに、持続可能な開発と持続可能なライフスタイル、人権、ジェンダー平等、平和と非暴力の文化、グローバル市民、および文化的多様性と文化が持続可能な開発にもたらす貢献の理解などの教育を通じて、すべての学習者が持続可能な開発を推進するための知識とスキルを獲得できるようにする」に資するものである。</p> <p>本科目の受講生は、グローバル教育センターが主催する入門レベルの海外派遣プログラムのいずれかに参加する。派遣先により現地での実習内容は異なるが、「グローバル・シチズンシップ」を共通のテーマとし、良き地球市民として行動するために必要な知識、態度、技能を体験的に学ぶ。受講生には、この授業で得られた反省点を帰国後の各学部での学び、副専攻課程での学び、特に後の海外実習(応用)での学びに生かすことが期待される。</p> <p>なお、本科目は単独で履修することもできるが、主としてグローバル・シチズンシップ副専攻課程(GCMP)の履修者を想定し、GCMPの必修科目「グローバル・シチズンシップ海外実習(入門)」と「海外語学研修」は目標や学習内容を共有する。</p>																																																																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・派遣先の国または地域の地理、歴史、文化について基本的な知識を有している。 ・派遣先の主要な社会課題について、課題の概要、解決への取り組み、また日本の社会課題との共通点や繋がりについて、具体的に例を挙げて説明できる。 ・派遣先の人々と、英語、現地言語、易しい日本語などの共通言語やジェスチャーを用いて意思疎通し、「一定の相互理解と信頼関係を築くことができた」という成功体験を得る。成功体験を自身の言葉で説明できる。 ・事前・事後授業等を含めた訓練により、外国語運用能力を向上させる。派遣先の人々と、英語、 																																																																		
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・事前授業、現地派遣、事後授業の3つの部分から構成される。事前授業、事後授業は一部を除いて全学部、全派遣地域の全ての学生を対象に合同で行われる。昼休み、5限以降、土曜日、補講日など、全ての学生が参加しやすい時間に授業がスケジュールされ、受講生は全日程に出席することが求められる。私事都合(アルバイト、旅行等)による欠席は認められない。やむを得ない理由により出席できないときは速やかに欠席届を出し、教員やスタッフと連絡を密にし、指示を受けた課題に取り組むことが求められる。 ・グローバル・シチズンシップ副専攻課 																																																																		
科目学習の効果(資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>事前授業①</td><td>留学に向けての動機付け</td><td>なし</td></tr> <tr><td>2</td><td>事前授業②</td><td>参加者間で仲間意識を作る</td><td>レポート提出</td></tr> <tr><td>3</td><td>現地実習</td><td>詳細は説明会、事前授業時に提示</td><td>現地講師の指示により</td></tr> <tr><td>4</td><td>事後授業</td><td>留学での学びのふりかえり</td><td>レポート提出</td></tr> <tr><td>5</td><td>成果報告会</td><td>留学での成果を披露</td><td></td></tr> <tr><td>6</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>7</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>8</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>9</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>10</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>11</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>12</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>13</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>14</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>15</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	事前授業①	留学に向けての動機付け	なし	2	事前授業②	参加者間で仲間意識を作る	レポート提出	3	現地実習	詳細は説明会、事前授業時に提示	現地講師の指示により	4	事後授業	留学での学びのふりかえり	レポート提出	5	成果報告会	留学での成果を披露		6				7				8				9				10				11				12				13				14				15			
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	事前授業①	留学に向けての動機付け	なし																																																																
2	事前授業②	参加者間で仲間意識を作る	レポート提出																																																																
3	現地実習	詳細は説明会、事前授業時に提示	現地講師の指示により																																																																
4	事後授業	留学での学びのふりかえり	レポート提出																																																																
5	成果報告会	留学での成果を披露																																																																	
6																																																																			
7																																																																			
8																																																																			
9																																																																			
10																																																																			
11																																																																			
12																																																																			
13																																																																			
14																																																																			
15																																																																			
関連科目	グローバル・シチズンシップ論(入門)、グローバル・シチズンシップ論(応用)、グローバル・シチズンシップ海外実習(応用)、Topics in Global Citizenship(EMI)、摂南大学PBLプロジェクトIなど																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	事前授業評価 30% (規律の順守、課題への取り組み状況、提出物の評価を総合) 現地活動評価 40% (現地教員、引率者、受け入れ機関等による評価、テストスコア等の評価を総合) 事後授業評価 30% (成果報告のレポートやプレゼンテーションを作成過程を含めて評価)																																																																		
学生へのメッセージ	在学中に一度は海外に行きましょう。いけるなら二度行きましょう。二度行けるなら、グローバル・シチズンシップ副専攻の入門、応用の実習で二度行きましょう。																																																																		
担当者の研究室等	鎌田講師室(2号館2階)																																																																		
備考																																																																			

科目名	グローバル・シチズンシップ論 (入門)	科目名 (英文)	Global Citizenship (Introductory)
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	大塚 正人、鎌田 美保
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科: R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01374a1~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	<p>一つの地球社会に対して、未来を創る担い手として参画する市民、これからの多様化する社会において主体的に活動する市民を育成するという取組みをグローバル・シチズンシップ教育 (GCED) という。これは、地球社会という国の枠組みを超えた概念であり、近年は日本だけではなく、他国においても注目され、徐々に基礎教育等に導入され始めている。</p> <p>この科目は、グローバル・シチズンシップ副専攻課程修了のための必修科目である。当該副専攻課程を履修する最初の学期に履修することが望ましい。</p> <p>受講者は、グローバル・シチズンシップ (GC) および GCE) の基礎的な概念を理解し、これらの概念が必要とされるに至ったグローバルな歴史的背景と、現在まで続く課題について、基礎的な知識を獲得する。また獲得した知識と理解について、説明できるようになることを目的とする。</p> <p>この講義は、GC と GCED にくついでにの授業であると同時に、授業自体が GCED の一環である。GCED では、一方的な講義ではなく、受講生の主体的な学習と対話による学びが重視される。受講生には、この講義を通じて GCED を体験的に学びつつ、自らが GCED のファシリテーターとなり、この授業の内外で GCED の実践者となってゆく姿勢が求められる。</p>
到達目標	<p>到達目標は以下の通りである</p> <ul style="list-style-type: none"> ●グローバル時代に必要な知識が習得されている ●グローバルな環境下で成功できるスキルを身につけている ●世界とつながっている <p>具体的には以下のようなコンピテンシーが求められる</p> <ul style="list-style-type: none"> ●異なる文化、地域にいる人々への共感、深い共感 ●人的、制度的、規範的相互依存への理解 ●自分の行動が他者に影響しているという意識 (ローカルがグローバルに与える影響) ●世界を知り、探求していく力 ●様々な視点を咀嚼する力 ●行動力 ●アイデアを共有していくこと ●グ
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ●いわゆる「実習」ではなく、知識と理解を身につけることを主目標とする授業であるが、アクティブ・ラーニングは GCED の根幹である。 ●教員からの一方向の情報伝達は最小限に留め、受講する学生が自ら資料を読み、考え、他の学生および教員と対話しながら知識をつけ、理解を深めてゆく。 ●反転授業を授業方法として採用しているため、毎回の講義の事前学習は必須である。 ●学生には、自律的な予習・事前課題の遂行と復習、情報検索やファクトチェック、ディスカッションと質疑への積極的な参加が求められる。 ●教員によるファシ
科目学習の効果 (資格)	

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション (1)	オリエンテーション、受講上の注意、スケジュール確認ほか チーム・ビルディング	指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行う
2	イントロダクション (2)	チーム・ビルディング	指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行う	
3	「グローバル・シチズンシップ」の概念 (1) 5つのPの1つ目: People 人間、貧困問題、飢餓問題について、(その1)	事前に ABD 読書法でテキストを読んで要約しサマリーシートを作成してくる (事前課題)。講義では相互にプレゼンテーションして内容共有・理解する。。	【事前課題】指定された教材の割り当てられた部分を ABD 読書法にて読み、サマリーを B5 用紙 5 枚に作成してくる。	
4	「グローバル・シチズンシップ」の概念 (1) 5つのPの1つ目—People 人間、貧困問題、飢餓問題について、(その2)	与えられた課題に関して自ら資料を情報検索し、ファクトチェック、それらをまとめ、考察し、発表、討論する。 課題に関するグローバル・シチズンシップを身につけて、自らの具体的な行動変容について考察する。	【事後課題】講義内で配られるプリントをその日のうちに仕上げて、Moodle に写真をアップロードする。	
5	「グローバル・シチズンシップ」の概念 (2) 5つのPの1つ目: People 人間、ジェンダー問題について、多様性とは?、水の問題について (その1)	事前に ABD 読書法でテキストを読んで要約しサマリーシートを作成してくる (事前課題)。講義では相互にプレゼンテーションして内容共有・理解する。。	【事前課題】指定された教材の割り当てられた部分を ABD 読書法にて読み、サマリーを B5 用紙 5 枚に作成してくる。	
6	「グローバル・シチズンシップ」の概念 (2) 5つのPの1つ目: People 人間、ジェンダー問題について、多様性とは?、水の問題について (その2)	与えられた課題に関して自ら資料を情報検索し、ファクトチェック、それらをまとめ、考察し、発表、討論する。 課題に関するグローバル・シチズンシップを身につけて、自らの具体的な行動変容について考察する。	【事後課題】講義内で配られるプリントをその日のうちに仕上げて、Moodle に写真をアップロードする。	
7	「グローバル・シチズンシップ」の概念 (3) 5つのPの2つ目: Prosperity 豊かさ、まち (都市) の抱える問題について、持続可能な消費と生産について (その1)	事前に ABD 読書法でテキストを読んで要約しサマリーシートを作成してくる (事前課題)。講義では相互にプレゼンテーションして内容共有・理解する。。	【事前課題】指定された教材の割り当てられた部分を ABD 読書法にて読み、サマリーを B5 用紙 5 枚に作成してくる。	
8	「グローバル・シチズンシップ」の概念 (3)	与えられた課題に関して自ら資料を情報検索し、ファクトチェック、それらを	【事後課題】講義内で配られるプリントをその日のうちに仕上げて、Moodle に写真をアップロードする。	

		5つのPの2つ目: Prosperity 豊かさ、まち(都市)の抱える問題について、持続可能な消費と生産について (その2)	まとめ、考察し、発表、討論する。課題に関するグローバル・シチズンシップを身につけて、自らの具体的な行動変容について考察する。	る。																
	9	「グローバル・シチズンシップ」の概念(4) 5つのPの2つ目: Prosperity 豊かさ、社会基盤の問題について、人権等の不平等に関する問題について (その1)	事前に ABD 読書法でテキストを読んで要約しサマリーシートを作成してくる(事前課題)。講義では相互にプレゼンテーションして内容共有・理解する。	【事前課題】指定された教材の割り当てられた部分を ABD 読書法にて読み、サマリーを B5 用紙 5 枚に作成してくる。																
	10	「グローバル・シチズンシップ」の概念(4) 5つのPの2つ目: Prosperity 豊かさ、社会基盤の問題について、人権等の不平等に関する問題について (その2)	与えられた課題に関して自ら資料を情報検索し、ファクトチェック、それらをまとめ、考察し、発表、討論する。課題に関するグローバル・シチズンシップを身につけて、自らの具体的な行動変容について考察する。	【事後課題】講義内で配られるプリントをその日のうちに仕上げて、Moodle に写真をアップロードする。																
	11	「グローバル・シチズンシップ」の概念(5) 5つのPの3つ目: Planet 地球、気候変動の問題について、水産資源の問題について (その1)	事前に ABD 読書法でテキストを読んで要約しサマリーシートを作成してくる(事前課題)。講義では相互にプレゼンテーションして内容共有・理解する。	【事前課題】指定された教材の割り当てられた部分を ABD 読書法にて読み、サマリーを B5 用紙 5 枚に作成してくる。																
	12	「グローバル・シチズンシップ」の概念(5) 5つのPの3つ目: Planet 地球、気候変動の問題について、水産資源の問題について (その2)	与えられた課題に関して自ら資料を情報検索し、ファクトチェック、それらをまとめ、考察し、発表、討論する。課題に関するグローバル・シチズンシップを身につけて、自らの具体的な行動変容について考察する。	【事後課題】講義内で配られるプリントをその日のうちに仕上げて、Moodle に写真をアップロードする。																
	13	「グローバル・シチズンシップ」の概念(6) 5つのPの4,5番目: Peace 平和と、Partnership パートナシップ、争いのない平和を知ることといろいろな形で、みんなが協力し合う大切さを知ること (その1)	事前に ABD 読書法でテキストを読んで要約しサマリーシートを作成してくる(事前課題)。講義では相互にプレゼンテーションして内容共有・理解する。	【事前課題】指定された教材の割り当てられた部分を ABD 読書法にて読み、サマリーを B5 用紙 5 枚に作成してくる。																
	14	「グローバル・シチズンシップ」の概念(6) 5つのPの4,5番目: Peace 平和と、Partnership パートナシップ、争いのない平和を知ることといろいろな形で、みんなが協力し合う大切さを知ること (その2)	与えられた課題に関して自ら資料を情報検索し、ファクトチェック、それらをまとめ、考察し、発表、討論する。課題に関するグローバル・シチズンシップを身につけて、自らの具体的な行動変容について考察する。	【事後課題】講義内で配られるプリントをその日のうちに仕上げて、Moodle に写真をアップロードする。																
	15	総括	授業全体の振り返りワーク	【事後課題】講義内で配られるプリントをその日のうちに仕上げて、Moodle に写真をアップロードする。																
関連科目	SDGs で学ぶ世界の課題、グローバル・シチズンシップ論(応用)、グローバル・シチズンシップ海外実習(入門)、グローバル・シチズンシップ海外実習(応用)、Topics in Global Citizenship (EMI)、摂南大学 PBL プロジェクト I など																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>知っていますか?SDGs ユニセフとめざす2030年のゴール</td> <td>日本ユニセフ協会</td> <td>さ・え・ら書房</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	知っていますか?SDGs ユニセフとめざす2030年のゴール	日本ユニセフ協会	さ・え・ら書房	2				3						
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	知っていますか?SDGs ユニセフとめざす2030年のゴール	日本ユニセフ協会	さ・え・ら書房																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>SDGs 時代の教育</td> <td>北村友人他</td> <td>学文社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>SDGs 時代の学びづくり</td> <td>かながわ開発教育センター</td> <td>明石書店</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>貧しい人を助ける理由</td> <td>デイビッド・ヒューム</td> <td>日本評論社</td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	SDGs 時代の教育	北村友人他	学文社	2	SDGs 時代の学びづくり	かながわ開発教育センター	明石書店	3	貧しい人を助ける理由	デイビッド・ヒューム	日本評論社			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	SDGs 時代の教育	北村友人他	学文社																	
2	SDGs 時代の学びづくり	かながわ開発教育センター	明石書店																	
3	貧しい人を助ける理由	デイビッド・ヒューム	日本評論社																	
評価方法(基準)	平常評価 80% (小テスト、平常の提出物、グループワークや質疑への貢献を総合的に評価する) プレゼンテーション課題 20% (作成過程を含む)																			
学生へのメッセージ	グローバル・シチズンシップ副専攻で価値ある学びの場を一緒につくりましょう。																			
担当者の研究室等	摂南大学枚方キャンパス薬学部 I 号館 5 階生命融合化学分野																			
備考	指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行い、情報検索、ファクトチェックにかかる時間、自発的な英語のトレーニングや、グローバル教育センター主催の学習イベントに参加する時間等も全て合算し、週平均で4時間程度、総計で60時間程度の授業外学修時間を確保すること。																			

科目名	グローバル・シチズンシップ論 (応用)	科目名 (英文)	Global Citizenship (Advanced)
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期集中	授業担当者	大塚 正人、鎌田 美保
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01374a1~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	グローバル・シチズンシップ副専攻課程修了のための必修科目である。グローバル・シチズンシップ論 (入門) 履修後に履修することが望ましい。本科目はグローバル・シチズンシップ論 (入門) で学んだ知識や概念等をもとに、世界や日本国内における社会課題に目を向け、課題解決のために必要なことを学び、解決に向けて実践していく科目である。授業自体がグローバル・シチズンシップ教育の一環であり、受講者自身が授業を通じ体験的に学び、実践者として行動していく姿勢が求められる。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 世界や日本国内に存在する社会課題について、歴史的背景、現状等が理解できる さまざまな分野での実践者の経験から学び、実践上の留意点を理解できる 関心ある社会課題について分析し、課題解決の方策の提案ができる
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> いわゆる一方的な講義ではなく、学んだことをもとにグループでディスカッションしたり、関心のある課題について調査、発表するなど、主体的に取り組む形式が多い。 取り扱う課題により、外部講師を招聘し、実践に関する講義やワークショップ等も実施する。 本科目は2023年度後期90分授業x2・3コマの集中講義で実施される予定である。授業予定日は9月30日、10月7日、10月14日、10月21日、11月4日、11月11日、11月18日、11月26日。(変更する場合はポータルサイト等で連絡する) 初回授業以降は
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	イントロダクション②	日本におけるグローバルシチズンシップ、SDGs	指定された教材の読解、課題を行う
3	グローバルシチズンシップと地球 (Planet) 気候変動と自然の豊かさを守る①	ゲストレクチャー	指定された教材の読解、課題を行う
4	グローバルシチズンシップと地球 (Planet) 気候変動と自然の豊かさを守る②	ゲストレクチャーから学んだことをまとめ、日々の生活を振り返る、日常の中で実践できることを考え、アクションプランを作成する	指定された教材の読解、課題を行う
5	グローバルシチズンシップと地球 (Planet) エシカル消費①	ゲストレクチャー	指定された教材の読解、課題を行う
6	グローバルシチズンシップと地球 (Planet) エシカル消費②	ゲストレクチャーから学んだことをまとめ、日々の生活を振り返る、日常の中で実践できることを考え、アクションプランを作成する	指定された教材の読解、課題を行う
7	グローバルシチズンシップと人間 (People) ジェンダー平等と多様性①	ゲストレクチャー	指定された教材の読解、課題を行う
8	グローバルシチズンシップと人間 (People) ジェンダー平等と多様性②	ゲストレクチャーから学んだことをまとめ、日々の生活を振り返る、日常の中で実践できることを考え、アクションプランを作成する	指定された教材の読解、課題を行う
9	グローバルシチズンシップと人間 (People) 貧困①	ゲストレクチャー	指定された教材の読解、課題を行う
10	グローバルシチズンシップと人間 (People) 貧困②	ゲストレクチャーから学んだことをまとめ、日々の生活を振り返る、日常の中で実践できることを考え、アクションプランを作成する	指定された教材の読解、課題を行う
11	グローバルシチズンシップと繁栄 (Prosperity) 働きがいと経済成長①	ゲストレクチャー	指定された教材の読解、課題を行う
12	グローバルシチズンシップと繁栄 (Prosperity) 働きがいと経済成長②	ゲストレクチャーから学んだことをまとめ、日々の生活を振り返る、日常の中で実践できることを考え、アクションプランを作成する	指定された教材の読解、課題を行う
13	事業アイデアを考える①	これまでの学びを生かし、自ら課題と感じたことの解決に向けてグループで活動を行う	指定された教材の読解、課題を行う
14	事業アイデアを考える②	同上	指定された教材の読解、課題を行う
15	まとめ	全体のまとめ、ふりかえり	指定された教材の読解、課題を行う

関連科目	グローバル・シチズンシップ論 (入門)、グローバル・シチズンシップ海外実習、摂南大学 PBL プロジェクトなど
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	知っていますか? SDGs ユニセフとめざす2030	日本ユニセフ協会	さ・え・ら書房

		年のゴール		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	平常点 40%、発表 30%、期末レポート 30%			
学生への メッセージ	身近な場所で自ら行動が起こせるきっかけになればと思っています。受講生同士の関わりからも多くのことも学んでもらいたいと思いますので、積極的に参加してください。			
担当者の 研究室等	摂南大学枚方キャンパス薬学部 I 号館 5 階生命融合化学分野			
備考				

科目名	Topics in Global Citizenship (EMI)	科目名 (英文)	Topics in Global Citizenship (EMI)
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期集中	授業担当者	カーティス チュウ
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01374a1~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的

This course is compulsory for those who are taking the Global Citizenship Minor Program. The main goal of this course is for students to understand the necessary knowledge, skills, and attitudes to become a global citizen. Students are expected to have learned basic concepts of global citizenship in グローバル・シチズンシップ論 (入門). This course discusses several specific topics on SDGs, human rights and equality, war and peace, politics and citizenship, economic justice, global environment, and cultural rights. Students will also be empowered and encouraged to take on the responsibilities of global citizenship. Through a problem posing approach, students will be challenged to rethink about dominant ideologies and how they contradict with the ideas of global citizenship. Additionally, there will be opportunities to engage in discussions with students in a foreign country, which will allow students to learn perspectives from those who have with different cultural values. This course will also be using collaborative online international learning (COIL) to learn together with students in different countries.

- 到達目標**
1. Increase intercultural communicative competency with opportunities to communicate across cultures.
 2. Increase knowledge of both historical and recent global events.
 3. Acquire necessary skills and behaviors to become a global citizen.
 4. Acquire pr

授業方法と留意点

This course will be taught entirely in English, and the reading materials will also be in English. Students are often required to research for information to expand their knowledge, so that discussions in class will be more informative and in depth. The c

科目学習の効果 (資格)

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	Course introduction.	Introduction to course outline and materials	
2	Global citizenship and Sustainable Development Goals (SDGs)	Lecture, pair work, group work	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of global citizenship
3	Global citizenship and Sustainable Development Goals (SDGs)	Lecture, pair work, group work	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of SDGs
4	Human rights and equality	Lecture, pair work, group work	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of human rights
5	War and peace Collaboration with students at Fayetteville State University (date might change)	Lecture, pair work, group work, Collaborative Online International Learning	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of the role of politicians 3. Prepare for online/offline communication with students abroad (date might change)
6	War and peace Collaboration with students at Fayetteville State University (date might change)	Lecture, pair work, group work, Collaborative Online International Learning	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of the role of politicians 3. Prepare for online/offline communication with students abroad (date might change)
7	War and peace Collaboration with students at Fayetteville State University (date might change)	Lecture, pair work, group work Collaborative Online International Learning	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of the role of politicians 3. Prepare for online/offline communication with students abroad (date might change)
8	War and peace Collaboration with students at Fayetteville State University (date might change)	Lecture, pair work, group work Collaborative Online International Learning	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of the role of politicians 3. Prepare for online/offline communication with students abroad (date might change)
9	Politics and the role of citizens	Lecture, pair work, group work	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of the role of citizens participating in politics 3. Prepare for online/offline communication with students abroad (date might change)
10	Economic justice	Lecture, pair work, group work	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of economic justice 3. Prepare for online/offline communication with students abroad (date might change)

	11	Global environment	Lecture, pair work, group work	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of local environmental issues																
	12	Collaboration with Australian and Indonesian students (date might change)	Lecture, pair work, group work Collaborative Online International Learning	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of the role of politicians 3. Prepare for online/offline communication with students abroad (date might change)																
	13	Collaboration with Australian and Indonesian students (date might change)	Lecture, pair work, group work Collaborative Online International Learning	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of the role of politicians 3. Prepare for online/offline communication with students abroad (date might change)																
	14	Collaboration with Australian and Indonesian students (date might change)	Lecture, pair work, group work Collaborative Online International Learning	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of the role of politicians 3. Prepare for online/offline communication with students abroad (date might change)																
	15	Collaboration with Australian and Indonesian students (date might change)	Lecture, pair work, group work Collaborative Online International Learning	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of the role of politicians 3. Prepare for online/offline communication with students abroad (date might change)																
関連科目	グローバル・シチズンシップ論 (入門)																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Global Citizenship: Engage in the Politics of a Changing World 【※注意 この教科書は大学のブックセンターで取扱いません。担当教員の指示する方法で購入して下さい。不明の時は教員まで連絡して下さい】</td> <td>Julie Knutson</td> <td>Nomad Press</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Global Citizenship: Engage in the Politics of a Changing World 【※注意 この教科書は大学のブックセンターで取扱いません。担当教員の指示する方法で購入して下さい。不明の時は教員まで連絡して下さい】	Julie Knutson	Nomad Press	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	Global Citizenship: Engage in the Politics of a Changing World 【※注意 この教科書は大学のブックセンターで取扱いません。担当教員の指示する方法で購入して下さい。不明の時は教員まで連絡して下さい】	Julie Knutson	Nomad Press																	
2																				
3																				
評価方法 (基準)	Attendance and participation: 30% Completion of assignments: 30% Presentations: 40%																			
学生へのメッセージ	Students are encouraged to use English in the classroom to share your ideas with each other. We will be doing online exchanges with students in different countries in this course. This will be an interesting collaboration, so let's look forward to learn																			
担当者の研究室等	カーティス講師室 (2号館2階)																			
備考																				

科目名	グローバル・シチズンシップ海外実習 (応用)	科目名 (英文)	Overseas Study for Global Citizenship (Advanced)
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	鎌田 美保
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01374a1~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	<p>本科目はグローバル・シチズンシップ副専攻課程 (GCMP) の必修科目の一つである。GCMP は、国内外の多様な社会と人々に敬意と思いやりをもち、地域の課題と地球規模の課題に等しく当事者として向き合い、課題解決に向けて積極的に行動できるグローバル・シチズン (地球市民) の育成を目指す副専攻である。GCMP は、国連が定める持続可能な開発目標 (SDGs) 目標 4.7 「2030 年までに、持続可能な開発と持続可能なライフスタイル、人権、ジェンダー平等、平和と非暴力の文化、グローバル市民、および文化的多様性と文化が持続可能な開発にもたらす貢献の理解などの教育を通じて、すべての学習者が持続可能な開発を推進するための知識とスキルを獲得できるようにする」に資するものである。</p> <p>本科目を履修する学生は「グローバル・シチズンシップ海外実習 (入門)」または同等の科目を履修済でなければならない。履修者は、グローバル教育センターが主催する海外派遣プログラムのいずれかに参加し、これまでの副専攻および各学部での学びを生かした応用レベルの活動を行う。派遣先により現地での実習内容は異なるが、「グローバル・シチズンシップ」を共通のテーマとし、良き地球市民として行動するために必要な知識、態度、技能を体験的に学ぶ。受講生には、この科目での学びを GCMP の集大成とする成果報告を行い、各学部での卒業研究や進路決定に活用することが期待される。</p> <p>なお、事前に承認された活動 (例: 協定校への長期留学を利用した社会貢献プロジェクト) の成果報告をもって本科目の単位を認定する場合がある。</p>
---------	--

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 派遣先の国または地域の地理、歴史、文化について基本的な知識を有し、当該の派遣プログラムの主題となる社会課題との関連を説明できる。 当該の派遣プログラムの主題となる社会課題について、課題の概要と解決への取り組みを実体験に基づいて説明できる。また、日本の社会課題との共通点や繋がりについて、具体的に例を挙げて説明できる。 派遣先の人々と、英語、現地言語、易しい日本語などの共通言語やジェスチャーを用いて意思疎通を行い、相互理解と信頼関係を築く。 異なる言語、文化が混在するチームで課題に取り組み、必要
------	---

授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> 事前授業、現地派遣、事後授業の3つの部分から構成される。事前授業、事後授業は一部を除いて全学部、全派遣地域の全ての学生を対象に合同で行われる。昼休み、5限以降、土曜日、補講日など、全ての学生が参加しやすい時間に授業がスケジュールされ、受講生は全日程に出席することが求められる。私事都合 (アルバイト、旅行等) による欠席は認められない。やむを得ない理由により出席できないときは速やかに欠席届を出し、教員やスタッフと連絡を密にし、指示を受けた課題に取り組むことが求められる。 年度末にあたる2~3月に現地派遣さ
----------	---

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	事前授業評価 30% (規律の順守、課題への取り組み状況、提出物の評価を総合) 現地活動評価 40% (現地教員、引率者、受け入れ機関等による評価、テストスコア等の評価を総合) 事後授業評価 30% (成果報告のレポートやプレゼンテーションを作成過程を含めて評価)			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	鎌田講師室 (2号館2階)			
備考				

科目名	大学教養基礎 I	科目名 (英文)	
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期集中	授業担当者	上野山 裕士、フーパー トッド、増田 知也、若城 康伸
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : II◎, R 科 : A◎, A 科 : A◎, M 科 : A1○, E 科 : B△, C 科 : II◎, L 科 : DP2◎, D 科 : DP1◎, S 科 : DP1◎, J 科 : DP1◎, W 科 : DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科 : TT01461a1~TT01465a1, L 科 : LT01366a1~LT01370a1, D 科・S 科 : IT01371a1~IT01375a1, J 科 : JT01374a1~JT01378a1, W 科 : WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	摂南大学のなかでもとくに文系学科における学びについて、対話、グループワーク、プレゼンテーションなどのアクティブ・ラーニング手法を用いて理解を深める。大学教養基礎 I では、法学部、経済学部、国際学部における学びを取り上げる。この講義を通じて履修者は、摂南大学における学修方法を体得するとともに、学修者自身の関心事を明確にすることが期待される。
到達目標	①摂南大学法学部、経済学部、国際学部における学びの概要を理解し、その特徴を説明することができる。 ②アクティブ・ラーニング手法の体験を通じて、摂南大学における主体的な学びの手法を理解し、実践することができる。 ③自らの学術的な関心事を口頭および文章を用いて表現することができる。
授業方法と留意点	PC・文献・その他の資料を用いた情報収集、グループでの対話、プレゼンテーション、ふりかえりなどのアクティブ・ラーニング手法を積極的に取り入れた授業を実施する。受講生には、それらに主体的に参画することを求める。
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	
			事前	事後
1	オリエンテーション	授業の進め方についての説明、グループの決定、本講義における学びの方法について対話的に考える	【事前】 事前配布資料を熟読する	【事後】 本講義における学びの方法を復習する
2	法学部における学びについて (オンデマンド)	法学部教員による学部および講義担当者の専門領域を中心とした学部における学びについての紹介	【事前】 法学部について調べる	【事後】 講義内容のポイント、自身の関心事を整理し、事前学修シートを作成する
3	経済学部における学びについて (オンデマンド)	経済学部教員による学部および講義担当者の専門領域を中心とした学部における学びについての紹介	【事前】 経済学部について調べる	【事後】 講義内容のポイント、自身の関心事を整理し、事前学修シートを作成する
4	国際学部における学びについて (オンデマンド)	国際学部教員による学部および講義担当者の専門領域を中心とした学部における学びについての紹介	【事前】 国際学部について調べる	【事後】 講義内容のポイント、自身の関心事を整理し、事前学修シートを作成する
5	法学部における学びについてグループで考える①	教員からの話題提供 (問いかけ) とグループでの調査および対話	【事前】 オンデマンド教材での事後学修内容をふりかえる	【事後】 調査および対話内容の整理
6	法学部における学びについてグループで考える②	教員からの話題提供 (問いかけ) とグループでの調査および対話	【事前】 オンデマンド教材での事後学修内容をふりかえる	【事後】 調査および対話内容の整理
7	経済学部における学びについてグループで考える①	教員からの話題提供 (問いかけ) とグループでの調査および対話	【事前】 オンデマンド教材での事後学修内容をふりかえる	【事後】 調査および対話内容の整理
8	経済学部における学びについてグループで考える②	教員からの話題提供 (問いかけ) とグループでの調査および対話	【事前】 オンデマンド教材での事後学修内容をふりかえる	【事後】 調査および対話内容の整理
9	国際学部における学びについてグループで考える①	教員からの話題提供 (問いかけ) とグループでの調査および対話	【事前】 オンデマンド教材での事後学修内容をふりかえる	【事後】 調査および対話内容の整理
10	国際学部における学びについてグループで考える②	教員からの話題提供 (問いかけ) とグループでの調査および対話	【事前】 オンデマンド教材での事後学修内容をふりかえる	【事後】 調査および対話内容の整理
11	プレゼンテーションに向けたポスター作成	グループとして学びのテーマを1つ選定し、発表用のポスターを作成する	【事前】 ポスター作成に向けた準備	【事後】 ポスター発表会に向けた準備
12	ポスター発表会、ふりかえり①	グループごとに選定したテーマについて発表、教室全体で対話を行い、ここまでの授業のふりかえりを行う	【事前】 成果報告会の準備	【事後】 成果報告会の内容を踏まえたふりかえり
13	ポスター発表会、ふりかえり②	グループごとに選定したテーマについて発表、教室全体で対話を行い、ここまでの授業のふりかえりを行う	【事前】 成果報告会の準備	【事後】 成果報告会の内容を踏まえたふりかえり
14	学びレポートの作成 (オンデマンド)	グループで取り上げたテーマのなかからさらに学術的関心事を絞り込み、文献等を用いてレポートを作成する	【事前】 レポート作成に向けた情報収集	【事後】 レポート記載内容のふりかえり
15	レポートに対するフィードバック (オンデマンド)	受講生から提出された学びレポートを踏まえた総括的講義	【事前】 各学部における学びの内容の復習	【事後】 授業全体のふりかえり

関連科目	大学教養基礎 II
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	グループワークおよびポスター発表会への参画度合い (ピア評価; 15%)、グループで作成するポスター (25%) のほか、個人で作成する事前学修シート (30%)、学びレポート (20%)、ふりかえりシート (10%) の内容を総合的に評価し、60%以上を合格とする。評価にあたっては、成果物の内容に加えて、ルーブリック表などを用いた担当教員による評価、プロジェクトメンバーによるピア評価を積極的に取り入れる。
-----------	---

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	3号館3階 上野山研究室 1号館7階 若城研究室
----------	-----------------------------

備考	・本講義ではオンデマンド授業と対面授業を実施します。対面授業は、2023年9月5日(火)、6日(水)の1限~5限に開講し、履修者はこの
----	---

	<p>対面授業にすべての時間、出席することが必須となります。</p> <ul style="list-style-type: none">・本講義は、教養科目「大学教養入門」(1年次開講)を履修または修得済の1、2年次学生(農学部生は修得済の2年次)のみ履修することができます。・講義の性質上、履修者は、ファシリテーターとしての基礎的な素養を身につけていることが期待されます。
--	---

科目名	大学教養入門	科目名 (英文)	Introduction to Liberal Arts
学部	学部共通	学科	
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	寺内 睦博, 石井 三恵, 坂口 有崇, 堀田 裕子
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TKY1458a1, L科: LKY1360a1, D科・S科: IKY1367a1, J科: JKY1369a1, W科: WKY1348a1		

授業概要・目的	本科目は学部の枠を越えた教養入門科目です。本科目の目的は、大学生としての教養を身につけるスタートラインに立つことにあり、自らが主体的に知識を獲得し、対話を通して理解を深め、表現するための技術等を修得することです。授業では教養の入門書を用いて ABD (アクティブ・ブック・ダイアログ) 読書法や協働学習の習慣を身につけるとともに、チームワーク能力、コミュニケーション能力等を身につけることを目指します。
到達目標	(1)大学生に必要な教養の基礎知識を身につけている。 (2)ABDによる読書法を身につけている。 (3)チームワーク能力を身につけ、対話を通じた協働学習をすることができる。 (4)SDGsとUNAIについて基礎的な知識を身につけている。 (5)読書が好きで、意義を理解して読書習慣を身につけている。 (6)コミュニケーション能力を身につけ、自分の考えを相手に伝え、相手の考えを理解することができる。 (7)自主的、計画的に学ぶ学習習慣を身につけている。
授業方法及び留意点	授業では教養を学ぶ過程で、自ら主体的に、仲間と対話を通して理解を深め、表現するための技術を修得します。教養の入門書として一般書を教材として、ABD (アクティブ・ブック・ダイアログ) 読書法や ICT ツールを活用して、読書、対話、発表等の協働学習による学びを体験します。この科目では、これまでの授業とは異なり、教員が知識を一方的に伝えるのではなく、チームの一員として協働学習により自ら知識や考え方を身につけることが特徴です。したがって、諸君が積極的に参加することが大切です。
科目学習の効果 (資格)	大学生に必要な教養の基礎知識、ABD法等のアクティブ・ラーニングによる協働学習の方法、自主学習の習慣などが身につく。学習における ICT ツールの活用方法を知ることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 『おとなの教養』序章 私たちはどこから来て、何処へ行くのか	アイスブレイク 事前アンケート 本科目で、どのような力が身につくのか 「教養とは何か?」、理解度確認クイズ、振り返り ABDの体験	事前学習:『おとなの教養』序章を読む(1.5時間以上)
2	教養入門:第一章 宗教	教科書の紹介、概要 チーム作り、授業の約束事 ABDによる学習の進め方の説明 ABD法に挑戦「第一章 宗教」 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習:教科書 第一章を読む(1.5時間以上)
3	教養入門:第三章 人類の旅程	解説 協働学習、対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習:教科書 第三章を読む(1.5時間以上)
4	教養入門:第四章 人間と病気	解説 協働学習、対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習:教科書 第四章を読み事前学習シートを作成する(1.5時間以上)
5	教養入門:第五章 経済	解説 協働学習、対話 理解度確認クイズ、振り返り 中間発表テーマの決定	事前学習:教科書 第五章を読事前学習シートを作成する(1.5時間以上)
6	教養入門:中間成果発表	ポスター作成の説明 プレゼン、質疑応答 振り返り	事前学習:中間発表の下調べ、図書館の探索、ポスターの案(3時間以上) 事後学習:第1回レポート
7	世界を知る教養:国連サステイナブルディベロップメントゴールズ	SDGsの概要 SDGsとは何か 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習:SDGsとは何か、指定した資料を調べる(3時間以上)
8	世界を知る教養:国連サステイナブルディベロップメントゴールズ	SDGsを考える ワールドカフェ方式対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習:SDGsとは何か、図書館、ネット等で調べる。自分の意見を持つ。(1.5時間以上)
9	世界を知る教養:国連アカデミックインパクト	国連の役割と歴史 本学の取り組み 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習:UNAIとは何かを調べる 事後学習:第2回レポート
10	自分を知る教養:岸見著『アドラー性格を変える心理学』序章「性格は変わらない」は本当か? 第一章 虚栄心・嫉妬・憎しみ	教科書の紹介、はじめに 解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習:『アドラー性格を変える心理学』序章・第一章を読み事前学習シートを作成する(1.5時間以上)
11	自分を知る教養:第二章 控え目・不安・臆病	解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習:教科書 第二章を読み事前学習シートを作成する(1.5時間以上)
12	自分を知る教養:第三章 快活・かたくな・気分屋	解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習:教科書 第三章を読み事前学習シートを作成する(1.5時間以上)
13	自分を知る教養:第四章 怒り・悲しみ・羞恥心	解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ、振り返り 中間発表テーマの決定	事前学習:教科書 第四章を読み事前学習シートを作成する(1.5時間以上)
14	自分を知る教養:中間成果発表	ポスター作成 発表・質疑応答 振り返り	事前学習:中間発表の下調べ、図書館の探索、ポスターの案(3時間以上) 事後学習:第3回レポート

	15	大学教養入門：まとめ	グループワーク「教養とは何か？」 事後アンケート	(2時間以上) 事後学習：第4回レポート (2時間以上)
関連科目	摂南大学で開講されている科目のすべて			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	おとなの教養	池上彰	NHK 出版
	2	アドラー性格を変える心理学	岸見一郎	NHK 出版
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への取り組み 15% ・プレゼン 15% ・レポート 20% ・振り返りシート 15% ・クイズ 15% ・事前学習シート 15% ・ファイリング 15% <p>以上の評価点の合計で60%以上を合格とする。期末試験は実施しない。 なお、原則として出席率80%以上の学生を合格者の対象とする。</p>			
学生への メッセージ	この科目は摂南大学独自の教養科目です。授業では、すべての学部の学生が、学部・学科の垣根を越えたグループをつくり協働学習を行います。この授業を履修することで、大学生としてふさわしい教養の基礎と学習方法が身に付き、さらに学部、学科を超えたたくさんの友人をつくることもできるでしょう。			
担当者の 研究室等	寺内睦博（11号館10F）、石井三恵（7号館5F）、坂口有芸（7号館5F）、堀田裕子（3号館3F）			
備考	この科目は、入学式～キックオフセミナーからつながる科目です。教養を身につけながら学習法を身につけることを目指しています。また、学部や学科を超えた多くの友人を見つけることもできます。			

科目名	大学教養入門	科目名 (英文)	Introduction to Liberal Arts
学部	学部共通	学科	
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	寺内 睦博, 落合 知子, 新居 英志, 堀田 裕子
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TKY1458a1, L科: LKY1360a1, D科・S科: IKY1367a1, J科: JKY1369a1, W科: WKY1348a1		

授業概要・目的	本科目は学部の枠を越えた教養入門科目です。本科目の目的は、大学生としての教養を身につけるスタートラインに立つことにあり、自らが主体的に知識を獲得し、対話を通して理解を深め、表現するための技術等を修得することです。授業では教養の入門書を用いて ABD (アクティブ・ブック・ダイアログ) 読書法や協働学習の習慣を身につけるとともに、チームワーク能力、コミュニケーション能力等を身につけることを目指します。
到達目標	(1)大学生に必要な教養の基礎知識を身につけている。 (2)ABDによる読書法を身につけている。 (3)チームワーク能力を身につけ、対話を通じた協働学習をすることができる。 (4)SDGsとUNAIについて基礎的な知識を身につけている。 (5)読書が好きで、意義を理解して読書習慣を身につけている。 (6)コミュニケーション能力を身につけ、自分の考えを相手に伝え、相手の考えを理解することができる。 (7)自主的、計画的に学ぶ学習習慣を身につけている。
授業方法及び留意点	授業では教養を学ぶ過程で、自ら主体的に、仲間と対話を通して理解を深め、表現するための技術を修得します。教養の入門書として一般書を教材として、ABD (アクティブ・ブック・ダイアログ) 読書法や ICT ツールを活用して、読書、対話、発表等の協働学習による学びを体験します。この科目では、これまでの授業とは異なり、教員が知識を一方的に伝えるのではなく、チームの一員として協働学習により自ら知識や考え方を身につけることが特徴です。したがって、諸君が積極的に参加することが大切です。
科目学習の効果 (資格)	大学生に必要な教養の基礎知識、ABD法等のアクティブ・ラーニングによる協働学習の方法、自主学習の習慣などが身につく。学習における ICT ツールの活用方法を知ることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 『おとなの教養』序章 私たちはどこから来て、何処へ行くのか	アイスブレイク 事前アンケート 本科目で、どのような力が身につくのか 「教養とは何か?」、理解度確認クイズ、振り返り ABDの体験	事前学習:『おとなの教養』序章を読む(1.5時間以上)
2	教養入門:第一章 宗教	教科書の紹介、概要 チーム作り、授業の約束事 ABDによる学習の進め方の説明 ABD法に挑戦「第一章 宗教」 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習:教科書 第一章を読む(1.5時間以上)
3	教養入門:第三章 人類の旅程	解説 協働学習、対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習:教科書 第三章を読む(1.5時間以上)
4	教養入門:第四章 人間と病気	解説 協働学習、対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習:教科書 第四章を読み事前学習シートを作成する(1.5時間以上)
5	教養入門:第五章 経済	解説 協働学習、対話 理解度確認クイズ、振り返り 中間発表テーマの決定	事前学習:教科書 第五章を読事前学習シートを作成する(1.5時間以上)
6	教養入門:中間成果発表	ポスター作成の説明 プレゼン、質疑応答 振り返り	事前学習:中間発表の下調べ、図書館の探索、ポスターの案(3時間以上) 事後学習:第1回レポート
7	世界を知る教養:国連サステイナブルディベロップメントゴールズ	SDGsの概要 SDGsとは何か 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習:SDGsとは何か、指定した資料を調べる(3時間以上)
8	世界を知る教養:国連サステイナブルディベロップメントゴールズ	SDGsを考える ワールドカフェ方式対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習:SDGsとは何か、図書館、ネット等で調べる。自分の意見を持つ。(1.5時間以上)
9	世界を知る教養:国連アカデミックインパクト	国連の役割と歴史 本学の取り組み 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習:UNAIとは何かを調べる 事後学習:第2回レポート
10	自分を知る教養:岸見著『アドラー性格を変える心理学』序章「性格は変わらない」は本当か? 第一章 虚栄心・嫉妬・憎しみ	教科書の紹介、はじめに 解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習:『アドラー性格を変える心理学』序章・第一章を読み事前学習シートを作成する(1.5時間以上)
11	自分を知る教養:第二章 控え目・不安・臆病	解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習:教科書 第二章を読み事前学習シートを作成する(1.5時間以上)
12	自分を知る教養:第三章 快活・かたくな・気分屋	解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習:教科書 第三章を読み事前学習シートを作成する(1.5時間以上)
13	自分を知る教養:第四章 怒り・悲しみ・羞恥心	解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ、振り返り 中間発表テーマの決定	事前学習:教科書 第四章を読み事前学習シートを作成する(1.5時間以上)
14	自分を知る教養:中間成果発表	ポスター作成 発表・質疑応答 振り返り	事前学習:中間発表の下調べ、図書館の探索、ポスターの案(3時間以上) 事後学習:第3回レポート

	15	大学教養入門：まとめ	グループワーク「教養とは何か？」 事後アンケート	(2時間以上) 事後学習：第4回レポート (2時間以上)
関連科目	摂南大学で開講されている科目のすべて			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	おとなの教養	池上彰	NHK 出版
	2	アドラー性格を変える心理学	岸見一郎	NHK 出版
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への取り組み 15% ・プレゼン 15% ・レポート 20% ・振り返りシート 15% ・クイズ 15% ・事前学習シート 15% ・ファイリング 15% <p>以上の評価点の合計で60%以上を合格とする。期末試験は実施しない。 なお、原則として出席率80%以上の学生を合格者の対象とする。</p>			
学生への メッセージ	この科目は摂南大学独自の教養科目です。授業では、すべての学部の学生が、学部・学科の垣根を越えたグループをつくり協働学習を行います。この授業を履修することで、大学生としてふさわしい教養の基礎と学習方法が身に付き、さらに学部、学科を超えたたくさんの友人をつくることもできるでしょう。			
担当者の 研究室等	寺内睦博（11号館10F）、石井三恵（7館5F）、新居英志（7号館5F）、堀田裕子（3号館3F）、落合裕子（3号館3F）			
備考	この科目は、入学式～キックオフセミナーからつながる科目です。教養を身につけながら学習法を身につけることを目指しています。また、学部や学科を超えた多くの友人を見つけることもできます。			

科目名	大学教養入門	科目名 (英文)	Introduction to Liberal Arts
学部	学部共通	学科	
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	寺内 睦博.大橋 巧.島田 良一.中島 直嗣.新居 英志.若城 康伸
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TKY1458a1, L科: LKY1360a1, D科・S科: IKY1367a1, J科: JKY1369a1, W科: WKY1348a1		

授業概要・目的	本科目は学部の枠を越えた教養入門科目です。本科目の目的は、大学生としての教養を身につけるスタートラインに立つことにあり、自らが主体的に知識を獲得し、対話を通して理解を深め、表現するための技術等を修得することです。授業では教養の入門書を用いて ABD (アクティブ・ブック・ダイアログ) 読書法や協働学習の習慣を身につけるとともに、チームワーク能力、コミュニケーション能力等を身につけることを目指します。
到達目標	(1)大学生に必要な教養の基礎知識を身につけている。 (2)ABDによる読書法を身につけている。 (3)チームワーク能力を身につけ、対話を通じた協働学習をすることができる。 (4)SDGsとUNAIについて基礎的な知識を身につけている。 (5)読書が好きで、意義を理解して読書習慣を身につけている。 (6)コミュニケーション能力を身につけ、自分の考えを相手に伝え、相手の考えを理解することができる。 (7)自主的、計画的に学ぶ学習習慣を身につけている。
授業方法と留意点	授業では教養を学ぶ過程で、自ら主体的に、仲間と対話を通して理解を深め、表現するための技術を修得します。教養の入門書として一般書を教材として、ABD (アクティブ・ブック・ダイアログ) 読書法や ICT ツールを活用して、読書、対話、発表等の協働学習による学びを体験します。この科目では、これまでの授業とは異なり、教員が知識を一方向的に伝えるのではなく、チームの一員として協働学習により自ら知識や考え方を身につけることが特徴です。したがって、諸君が積極的に参加することが大切です。
科目学習の効果 (資格)	大学生に必要な教養の基礎知識、ABD 法等のアクティブ・ラーニングによる協働学習の方法、自主学習の習慣などが身につく。学習における ICT ツールの活用方法を知ることができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス 『おとなの教養』序章 私たちはどこから来て、何処へ行くのか	アイスブレイク 事前アンケート 本科目で、どのような力が身につくのか 「教養とは何か?」、理解度確認クイズ、振り返り ABDの体験	事前学習:『おとなの教養』 序章を読む(1.5時間以上)
2	教養入門:第一章 宗教	教科書の紹介、概要 チーム作り、授業の約束事 ABDによる学習の進め方の説明 ABD法に挑戦「第一章 宗教」 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習:教科書 第一章を読む(1.5時間以上)	
3	教養入門:第三章 人類の旅路	解説 協働学習、対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習:教科書 第三章を読む(1.5時間以上)	
4	教養入門:第四章 人間と病気	解説 協働学習、対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習:教科書 第四章を読み事前学習シートを作成する(1.5時間以上)	
5	教養入門:第五章 経済	解説 協働学習、対話 理解度確認クイズ、振り返り 中間発表テーマの決定	事前学習:教科書 第五章を読事前学習シートを作成する(1.5時間以上)	
6	教養入門:中間成果発表	ポスター作成の説明 プレゼン、質疑応答 振り返り	事前学習:中間発表の下調べ、図書館の探索、ポスターの案(3時間以上) 事後学習:第1回レポート	
7	世界を知る教養:国連サステイナブルディベロップメントゴールズ	SDGsの概要 SDGsとは何か 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習:SDGsとは何か、指定した資料を調べる(3時間以上)	
8	世界を知る教養:国連サステイナブルディベロップメントゴールズ	SDGsを考える ワールドカフェ方式対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習:SDGsとは何か、図書館、ネット等で調べる。自分の意見を持つ。(1.5時間以上)	
9	世界を知る教養:国連アカデミックインパクト	国連の役割と歴史 本学の取り組み 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習:UNAIとは何かを調べる 事後学習:第2回レポート	
10	自分を知る教養:岸見著『アドラー性格を変える心理学』序章 「性格は変わらない」は本当か? 第一章 虚栄心・嫉妬・憎しみ	教科書の紹介、はじめに 解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習:『アドラー性格を変える心理学』序章・第一章を読み事前学習シートを作成する(1.5時間以上)	
11	自分を知る教養:第二章 控え目・不安・臆病	解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習:教科書 第二章を読み事前学習シートを作成する(1.5時間以上)	
12	自分を知る教養:第三章 快活・かたくな・気分屋	解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習:教科書 第三章を読み事前学習シートを作成する(1.5時間以上)	
13	自分を知る教養:第四章 怒り・悲しみ・羞恥心	解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ、振り返り 中間発表テーマの決定	事前学習:教科書 第四章を読み事前学習シートを作成する(1.5時間以上)	
14	自分を知る教養:中間成果発表	ポスター作成 発表・質疑応答 振り返り	事前学習:中間発表の下調べ、図書館の探索、ポスターの案(3時間以上)	

			事後学習：第3回レポート (2時間以上)	
15	大学教養入門：まとめ	グループワーク「教養とは何か？」 事後アンケート	事後学習：第4回レポート (2時間以上)	
関連科目	摂南大学で開講されている科目のすべて			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	おとなの教養	池上彰	NHK 出版
	2	アドラー性格を変える心理学	岸見一郎	NHK 出版
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への取り組み 15% ・プレゼン 15% ・レポート 20% ・振り返りシート 15% ・クイズ 15% ・事前学習シート 15% ・ファイリング 15% <p>以上の評価点の合計で60%以上を合格とする。期末試験は実施しない。 なお、原則として出席率80%以上の学生を合格者の対象とする。</p>			
学生への メッセージ	この科目は摂南大学独自の教養科目です。授業では、すべての学部、学科の垣根を越えたグループをつくり協働学習を行います。この授業を履修することで、大学生としてふさわしい教養の基礎と学習方法が身に付き、さらに学部、学科を超えたたくさんの友人をつくることもできるでしょう。			
担当者の 研究室等	寺内睦博（11号館10F）、石井三恵（7号館5F）、新居英二（7号館5F）、大橋巧（12号館7F）、中島直嗣（7号館4F）、島田良一（11号館9F）、岩城康伸（1号館7F）			
備考	この科目は、入学式～キックオフセミナーからつながる科目です。教養を身につけながら学習法を身につけることを目指しています。また、学部や学科を超えた多くの友人を見つけることもできます。			

科目名	大学教養実践	科目名 (英文)	Practical Learning of Liberal Arts
学部	学部共通	学科	
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	寺内 睦博, 石井 三恵, 鎌田 美保, 坂口 有芸, 新居 英志, 森 亜貴
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TKY1458a1, L科: LKY1360a1, D科・S科: IKY1367a1, J科: JKY1369a1, W科: WKY1348a1		

授業概要・目的	この科目は、チームで協働して読書を行い、プレゼンテーションと対話を通じて、学びを深める形式で学ぶ学部の枠を越えた教養実践科目です。前期開講の大学教養入門のステップアップの講座としての位置づけです。 本科目の目的は、大学生として必要な教養として、文学、社会学や経済学の入門的知識を身につけ、その知識をもとに協働学習により社会課題の解決を体験します。そして、知識としての教養を実社会での実践にむすびつけることを目指します。
到達目標	(1)大学生として必要な教養レベルを身につけ、実践的に討議することができる。 (2)ABDによる読書法の基礎(要約、プレゼンテーション、対話)を身につけている。 (3)自分が知りたいと思うことのテーマ設定ができる。 (4)チームワーク能力やリーダーシップを身につけている。 (5)わかりやすいプレゼンテーションを行うことができる。 (6)テーマにそった対話(感想、質疑応答)を行うことができる。 (7)自主学習の習慣を身につけている。
授業方法と留意点	授業では教養を学ぶ過程で、自ら主体的に、仲間と対話を通して理解を深め、表現するための技術等を修得します。大学生として必要な教養を身につけ、身につけた教養、知識をもとに、社会課題の解決策を協働学習により検討します。この科目では、これまでの授業とは異なり、教員が知識を伝えるのではなく、チームの一員として協働学習により自ら知識や考え方を身につけることにあるので、諸君が積極的に参加することが大切です。
科目学習の効果(資格)	大学生に必要な教養の知識が身につく、それを元に社会課題について討議できる。ABDやQFT等の協働学習の方法が身につく。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス 私たちはいま、どこにいるのか?	アイスブレイク 事前アンケート 授業のルール 解説(教科書、ABDとは) 協働学習(p.18-47:要約、プレゼン、対話)、振り返りシート	『おとなの教養2』序章を読み、事前学習シートを作成する。
	2	私たちはいま、どこにいるのか? 第一章「AIとビッグデータ」	チーム分け、役割分担、確認試験 解説(振り返りシート) 要約・プレゼン・対話の要点を説明 協働学習(要約、プレゼン、対話) 振り返りシート	教科書第一章を読み、事前学習シートを作成する。
	3	私たちはいま、どこにいるのか? 第二章「キャッシュレス社会と仮想通貨」	解説(事前学習シート)、確認試験 協働学習(要約、プレゼン、対話) 振り返りシート	教科書第二章を読み、事前学習シートを作成する。
	4	私たちはいま、どこにいるのか? 第三章「想像の共同体」	解説(事前学習シート)、確認試験 協働学習(要約、プレゼン、対話) 投票と表彰、振り返りシート	教科書第三章を読み、事前学習シートを作成する。 ポスター・プレゼンの準備を行う(2時間程度)
	5	私たちはいま、どこにいるのか? 中間発表1回目、振り返り	ポスター作成 発表・質疑応答、評価 振り返りシート	教科書第四章～第六章を読み、事前学習シートを作成する。 事後学習:第1回レポート
	6	このパンデミックで人類の未来はどう変わるのか?: 第一章「独裁国家はパンデミックに強いのか」	解説、確認試験 要約・プレゼン・対話の要点を説明 協働学習(要約・プレゼン・対話) 振り返りシート	『コロナ後の世界』第一章を読み、事前学習シートを作成する。
	7	このパンデミックで人類の未来はどう変わるのか?: 第二章「AIで人類はレジリエントになれる」	QFT(質問づくり) 協働学習(要約・プレゼン・対話) 振り返りシート	教科書第二章を読み、事前学習シートを作成する。
	8	このパンデミックで人類の未来はどう変わるのか?: 第三章「ロックダウンで生まれた新しい働き方」	解説、確認試験 要約・プレゼン・対話の要点を説明 協働学習(要約・プレゼン・対話) 振り返りシート	教科書第三章を読み、事前学習シートを作成する。
	9	このパンデミックで人類の未来はどう変わるのか?: 第四章「認知バイアスが感染症対策を遅らせた」	解説、確認試験 要約・プレゼン・対話の要点を説明 協働学習(要約・プレゼン・対話) 振り返りシート	教科書第四章を読み、事前学習シートを作成する。
	10	このパンデミックで人類の未来はどう変わるのか? 中間発表2回目、振り返り	ポスター作成 発表・質疑応答、評価 振り返りシート	ポスター・プレゼンの準備を行う(2時間程度) 事後学習:第2回レポート
	11	教養として文学作品に触れる:『星の王子さま』	解説、確認試験 要約・プレゼン・対話の要点を説明 協働学習(要約、プレゼン、対話) 振り返りシート	『星の王子さま』1~10章を読み、事前学習シート(要約、感想)を作成する(2時間程度)
	12	教養として文学作品に触れる:『星の王子さま』	解説、確認試験 要約・プレゼン・対話の要点を説明 協働学習(要約、プレゼン、対話) 振り返りシート	教科書11~20章を読み、事前学習シートを作成する
	13	教養として文学作品に触れる:『星の王子さま』	解説、確認試験 協働学習(要約、プレゼン、対話)	教科書21~27章を読み、事前学習シートを作成する

			振り返りシート																	
	14	教養として文学作品に触れる：『星の王子さま』	解説、確認試験 協働学習（要約、プレゼン、対話） QFT（中間発表のテーマ出し） 振り返りシート	教科書あとがきを読み、事前学習シートを作成する																
	15	教養として文学作品に触れる：中間発表3回目、振り返り	ポスター作成 発表・質疑応答、評価 振り返りシート 事後アンケート	ポスター・プレゼンの準備を行う（2時間程度） 事後学習：第3回レポート																
関連科目	摂南大学で開講されている科目のすべて																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>おとなの教養2</td> <td>池上彰</td> <td>NHK 出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>星の王子さま</td> <td>サン＝テグジュペリ</td> <td>新潮文庫</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>コロナ後の世界</td> <td>大野和基（編）</td> <td>文春新書</td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	おとなの教養2	池上彰	NHK 出版	2	星の王子さま	サン＝テグジュペリ	新潮文庫	3	コロナ後の世界	大野和基（編）	文春新書
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	おとなの教養2	池上彰	NHK 出版																	
2	星の王子さま	サン＝テグジュペリ	新潮文庫																	
3	コロナ後の世界	大野和基（編）	文春新書																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への取り組み 15% ・プレゼン 15% ・レポート 20% ・振り返りシート 15% ・クイズ 15% ・事前学習シート 15% ・ファイリング 15% <p>以上の評価点の合計で60%以上を合格とする。期末試験は実施しない。 なお、成績評価の対象は原則として出席率80%以上の学生とする。</p>																			
学生への メッセージ	この授業では、すべての学部の学生が、学部・学科の垣根を越えたグループをつくり協働学習を行います。この授業を履修することで、大学生としてふさわしい教養の基礎、コミュニケーション力、ファシリテーション力、と学習方法が身に付き、さらに学部、学科を超えたたくさんの友人をつくることもできるでしょう。																			
担当者の 研究室等	寺内睦博（11号館10F）、石井三恵（7号館5F）、鎌田美保（2号館2F）、坂口有芸（7号館5F）、新居英志（7号館5F）、森亜貴（ラーニングセンター）																			
備考	この科目は前期の大学教養入門と同じスタイルの教養を学びながら学習法を身につけることを期待した科目です。また、学部や学科を超えた多くの友人を見つけてください。この授業は原則的に対面で実施します。やむを得ず、遠隔授業やハイブリッドで実施する場合も顔が見えることを出席の条件とします。																			

科目名	就職実践基礎	科目名 (英文)	Practical Math for Employment Exams
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	山岡 亮太
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科: R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01374a~1JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	社会人となってから必要となる基礎学力を総合的に学習します。数的能力・言語能力・一般常識といった各項目は、社会人として仕事をする上で必須のもので、大学時代から取り組むことが重要です。この授業では、数的能力・言語能力・一般常識について、幅広く学習していきます。特に、日常生活・仕事での活用頻度が多い数的能力の開発をメインに取り組みます。講師は広告出版業界・教育業界での実務経験を持ち、実務で数学を活用してきました。そういう経験も活かして、社会で使える数的能力を身につけていきます。
到達目標	数的能力について、社会人に求められる最低限のレベルに達していること。 数的思考を活用する必要性や面白さを体感すること。
授業方法と留意点	授業は基本的に数的能力をメインに学習します。授業は基本的に実践形式で、様々な問題を解いていきます。Input量が多いので、予習・復習が大切です。
科目学習の効果 (資格)	社会で必要とされる数的能力・言語能力・一般常識を獲得する

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション・実力テスト	講座の目的・意義の確認、実力テスト	シラバスを熟読しておくこと(目安:30分)・実力テストを復習しておくこと(目安:30分)
	2	数的思考①	割合の活用①	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	3	数的思考②	割合の活用②	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	4	数的思考③	速度算	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	5	数的思考④	集合	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	6	数的思考⑤	場合の数と確率①	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	7	数的思考⑥	場合の数と確率②	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	8	中間テスト	中間テスト	今まで学習した問題全てを事前に復習
	9	資料解釈①	表の読み取り①	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	10	資料解釈②	表の読み取り②	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	11	資料解釈③	表の読み取り③	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	12	論理推論①	命題・順序・位置関係	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	13	論理推論②	金銭問題・内訳・平均・対応関係	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	14	論理推論③	濃度と密度・複数選択・整数問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	15	総復習	今までの問題の復習	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2.5時間)

関連科目	コミュニケーション能力開発、数的能力開発
------	----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	厳選! 数学的リテラシー問題集	PS 出版事業部	PS 出版事業部
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	小テスト (30%)、中間テスト (20%)、期末テスト (40%)、SmartSPI (10%)
-----------	---

学生へのメッセージ	数的能力を社会で活かすことができるようになってもらえればと思います。同時に学ぶ楽しさも体感してください。また、受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して着実に知識・能力を習得していきましょう。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館3階 教育イノベーションセンター
----------	---------------------

備考	
----	--

科目名	就職実践基礎	科目名 (英文)	Practical Math for Employment Exams
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	津村 忠・森 亜貴
ディプロマポリシー(DP)	V科：II◎, R科：A◎, A科：A◎, M科：A1○, E科：B△, C科：II◎, L科：DP2◎, D科：DP1◎, S科：DP1◎, J科：DP1◎, W科：DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科：TT01461a1～TT01465a1, L科：LT01366a1～LT01370a1, D科・S科：IT01371a1～IT01375a1, J科：JT01374a～1JT01378a1, W科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	社会人に必要とされる基礎学力の修得を目指し総合的に学習します。基礎学力の中でも数的能力・言語能力は社会人として仕事をする上で必須のもので、早めに取り組むことを推奨します。この授業では、数的能力・言語能力を幅広く扱いますが、特に日常生活・仕事での活用頻度が高く、かつ採用試験での高いハードルとなる「数的能力の強化」をメインに取り組みます。講師は広告出版業界・教育業界での実務経験を持ち、実務で数学を活用してきました。そういう経験も活かして、社会で使える数的能力を身につけていきます。
到達目標	数的能力について、社会人に求められる最低限のレベルに達すること。 数的思考を活用する必要性や面白さを体感すること。
授業方法と留意点	基礎数学をメインに学習します。授業は実践形式で、様々な問題にチャレンジした上で解説を聴講し理解を深めます。採用試験（SPI や玉手箱等の総合適性検査）対応力をつけるために、予習・復習を確実にを行い疑問を残さないよう心がけてください。
科目学習の効果（資格）	社会で必要とされる数的能力・言語能力を獲得する。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション・実力テスト	講座の目的・意義の確認、実力テスト	シラバスを熟読しておくこと(目安:30分)・実力テストを復習しておくこと(目安:30分)
	2	数的思考①	割合の活用①	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	3	数的思考②	割合の活用②	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	4	数的思考③	速度算	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	5	数的思考④	集合	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	6	数的思考⑤	場合の数と確率①	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	7	数的思考⑥	場合の数と確率②	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	8	中間テスト	中間テスト	今まで学習した問題全てを事前に復習
	9	資料解釈①	言語理解 表の読み取り①	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	10	資料解釈②	表の読み取り②	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	11	資料解釈③	表の読み取り③	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	12	論理推論①	命題・順序・位置関係	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	13	論理推論②	金銭問題・内訳・平均・対応関係	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	14	論理推論③	濃度と密度・複数選択・整数問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	15	総復習	今までの問題の復習	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2.5時間)

関連科目	コミュニケーション能力開発、数的能力開発
------	----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	厳選！数学的リテラシー問題集	PS 出版事業部	PS 出版事業部
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	小テスト（30%）、中間テスト（20%）、期末テスト（40%）、SmartSPI（10%）
----------	---

学生へのメッセージ	数的能力を社会で活かすことができるようになってもらえればと思います。同時に学ぶ楽しさも体感してください。また、受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して着実に知識・能力を習得していきましょう。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館3階 教育イノベーションセンター
----------	---------------------

備考	
----	--

科目名	就職実践基礎	科目名 (英文)	Practical Math for Employment Exams
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	津村 忠
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	社会人に必要とされる基礎学力の修得を目指し総合的に学習します。基礎学力の中でも数的能力・言語能力は社会人として仕事をする上で必須のもので、早めに取り組むことを推奨します。この授業では、数的能力・言語能力を幅広く扱いますが、特に日常生活・仕事での活用頻度が高く、かつ採用試験での高いハードルとなる「数的能力の強化」をメインに取り組みます。講師は広告出版業界・教育業界での実務経験を持ち、実務で数学を活用してきました。そういう経験も活かして、社会で使える数的能力を身につけていきます。
到達目標	数的能力について、社会人に求められる最低限のレベルに達すること。 数的思考を活用する必要性や面白さを体感すること。
授業方法と留意点	基礎数学をメインに学習します。授業は実践形式で、様々な問題にチャレンジした上で解説を聴講し理解を深めます。採用試験 (SPI や玉手箱等の総合適性検査) 対応力をつけるために、予習・復習を確実にに行い疑問を残さないよう心がけてください。
科目学習の効果 (資格)	社会で必要とされる数的能力・言語能力を獲得する。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション・実力テスト	講座の目的・意義の確認、実力テスト	シラバスを熟読しておくこと (目安: 30分)・実力テストを復習しておくこと (目安: 30分)
	2	数的思考①	割合の活用①	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	3	数的思考②	割合の活用②	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	4	数的思考③	速度算	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	5	数的思考④	集合	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	6	数的思考⑤	場合の数と確率①	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	7	数的思考⑥	場合の数と確率②	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	8	中間テスト	中間テスト	今まで学習した問題全てを事前に復習
	9	資料解釈①	言語理解 表の読み取り①	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	10	資料解釈②	表の読み取り②	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	11	資料解釈③	表の読み取り③	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	12	論理推論①	命題・順序・位置関係	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	13	論理推論②	金銭問題・内訳・平均・対応関係	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	14	論理推論③	濃度と密度・複数選択・整数問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	15	総復習	今までの問題の復習	全ての範囲を事前に勉強しておくこと (目安: 2.5時間)

関連科目	コミュニケーション能力開発、数的能力開発
------	----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	厳選! 数学的リテラシー問題集	PS 出版事業部	PS 出版事業部
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	小テスト (30%)、中間テスト (20%)、期末テスト (40%)、SmartSPI (10%)
-----------	---

学生へのメッセージ	数的能力を社会で活かすことができるようになってもらえればと思います。同時に学ぶ楽しさも体感してください。また、受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して着実に知識・能力を習得していきましょう。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館3階 教育イノベーションセンター
----------	---------------------

備考	
----	--

科目名	エリアスタディーズ 北アメリカ	科目名 (英文)	Area Studies: North America
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	鳥居 祐介
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1568a0		

授業概要・目的	<p>アメリカ合衆国とカナダが位置する北アメリカ地域の歴史、政治経済、社会文化について多角的、学際的に学ぶ授業です。国際学部のディプロマ・ポリシーのうち、主として「国際社会の多様性を理解するとともに、世界と日本の関係について人文・社会学的研究を行うための専門知識を身につけている」の部分の基礎をつくる科目であり、教職課程における「異文化理解」区分の選択科目でもあります。</p> <p>人種問題、移民問題、銃規制問題、同性婚問題、医療問題など、日本語によるニュース報道も多く比較的身近なアメリカ合衆国の時事問題を取りあげ、それら諸問題の背景を深く掘り下げる形で、まずはアメリカ合衆国の歴史、政治経済、社会文化についての知識と理解を身につけます。続いて、カナダとの対比や日本との関係を視野にいれた学びを進めます。学期終盤には、特定のトピックをより深く掘り下げながら学習内容を振り返る総合演習を行います。</p>
到達目標	<p>(1) アメリカ合衆国とカナダの歴史、政治経済、社会文化の特徴について、具体例を挙げて対比しながら説明することができる。</p> <p>(2) 北アメリカ地域の事例を通じて、多様な文化背景と価値観を持つ人々の共生について批判的に思考し、日本社会における多文化共生についても当事者意識を持ち、事実に基づいた意見を交換できるようになる。</p>
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> 受講生があらかじめ指示された動画や文献資料を参照しておき、教室では講義ではなく、グループワークや質疑応答、内容確認の小テスト等を行う授業形式、いわゆる「反転授業」を取り入れた授業を行います。15回すべて反転授業をするわけではありませんが、毎週、十分な予習・復習時間とインターネットにつながったPCが使用できる環境を確保すること、準備をした上で授業に出席し、積極的な発言（文字投稿による発言を含む）をすることが必要です。 予習、復習時はもちろん、授業時間中もTeamsとMoodleを常時活用します。これら
科目学習の効果 (資格)	海外での研修や留学に際して、また国内での異文化交流に際して必要となる時事問題知識、一般常識、国際感覚。高度な英語力を身につけるための基盤となる英語圏の社会についての基礎知識。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	授業内容・方法説明	電子配布される資料を入手して目を通し、指定の予習・復習課題を次回授業までに済ませる。(3時間程度)
	2	アメリカの歴史1 建国期	あれほど乱射事件が起きているのにアメリカで銃規制が難しいのはなぜ?: 植民地時代、独立戦争までさかのぼって考える。	電子配布される資料を入手して目を通し、指定の予習・復習課題を次回授業までに済ませる。(3時間程度)
	3	アメリカの歴史2 領土拡張と奴隷制	アメリカで銃規制が難しいのはなぜか? その2: 領土拡張、奴隷制、南北戦争	電子配布される資料を入手して目を通し、指定の予習・復習課題を次回授業までに済ませる。(3時間程度)
	4	アメリカの歴史3 南北戦争の原因と結果	アメリカの人種問題の原点: 民主主義の拡大と領土拡張、奴隷制、南北戦争	電子配布される資料を入手して目を通し、指定の予習・復習課題を次回授業までに済ませる。(3時間程度)
	5	アメリカの地理1 北部・南部	「アメリカ南部」とは? アメリカの南のほう?	電子配布される資料を入手して目を通し、指定の予習・復習課題を次回授業までに済ませる。(3時間程度)
	6	アメリカの地理2 中西部	ニュースでよく見る「アメリカ中西部のラストベルト」とは?	電子配布される資料を入手して目を通し、指定の予習・復習課題を次回授業までに済ませる。(3時間程度)
	7	アメリカの歴史4 第二次世界大戦	今のアメリカ人は「昔、日本に原爆落とされたのは悪かった」と思っているのか?: 日米における戦争と原爆の記憶	電子配布される資料を入手して目を通し、指定の予習・復習課題を次回授業までに済ませる。(3時間程度)
	8	アメリカの民族1 ヨーロッパ系	WASP? ユダヤ系? イタリア系? みんな「白人」じゃないの?	電子配布される資料を入手して目を通し、指定の予習・復習課題を次回授業までに済ませる。(3時間程度)
	9	アメリカの民族2 アジア系	日本人も差別される? アジア系はみんな成功している? 「モデルマイノリティ」とは?	電子配布される資料を入手して目を通し、指定の予習・復習課題を次回授業までに済ませる。(2時間程度)
	10	アメリカの民族3 ラティノ/ヒスパニック	中南米系、「ラティンクス」といった呼ばれ方もする移民グループ。	電子配布される資料を入手して目を通し、指定の予習・復習課題を次回授業までに済ませる。(3時間程度)
	11	アメリカの宗教	個人の自由を大切にしているはずのアメリカで、妊娠中絶や同性愛がなぜそれほど大きな政治問題なのか	電子配布される資料を入手して目を通し、指定の予習・復習課題を次回授業までに済ませる。(3時間程度)
	12	アメリカとカナダ	カナダはアメリカと同じような国か? 実は、けっこう違います。	電子配布される資料を入手して目を通し、指定の予習・復習課題を次回授業までに済ませる。(2時間程度)
	13	日米関係	日米安保破棄という可能性を真面目に考えてみましょう。→「日米における原爆投下の歴史記憶」にテーマ変更の可能性あり。	電子配布される資料を入手して目を通し、指定の予習・復習課題を次回授業までに済ませる。(3時間程度)
	14	まとめ1 アメリカの進歩と分断	「進歩」と「分断」のキーワードでこれまで学んだ内容を整理してみましょう。	ここまでの全ての資料やノートにあらためて目を通し、まとめ課題に取り組み始める。(5時間程度)
	15	まとめ2	まとめ課題についての質疑応答を通じ、全体を振り返ります。	もしも質疑の時間が足りなければアポイントをとって研究室へ

関連科目 英語圏比較文化論、グローバルスタディーズ(英語と諸地域)、地域研究プロジェクト(英語と諸地域) ほか

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	平常点70% (平常のMoodle小テスト、Teams投稿、グループ課題、口頭での質疑参加による評価の合計) まとめ&振り返りフォーム課題30% (平常の自身のTeams投稿、小レポートや小テスト、グループワーク課題を見直し、ファクトチェックをして整理したものを学期末に提出)			
学生への メッセージ	アメリカ合衆国やカナダは実に面白い国です。決して「楽」な授業にはしませんが、アメリカ、北米地域のことを知りたい学生には「楽しい」授業にしたいです。一緒にがんばりましょう。			
担当者の 研究室等	7号館3階鳥居研究室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ60時間程度とする。予習、復習、宿題、レポート等に関する質問やフィードバックはスチューデントアワーまたはアポイントにより研究室にて対応する。			

科目名	エリアスタディーズ ラテンアメリカ	科目名 (英文)	Area Studies: Latin America
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	北條 ゆかり
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1569a0		

授業概要・目的
 ラテンアメリカは古来、先住民の文化的伝統を有しながらも、15世紀末以降ヨーロッパ諸国による征服と植民地支配を3世紀以上にわたって経験した地域です。その間に文化的混濁と都市部では生活の欧化が進行しました。その後19世紀初頭にアジアやアフリカ諸国に比べて150年ほど早く植民地支配からの独立を遂げますが、欧米による政治経済的介入を受け続けることになりました。この地域がたどった歴史的独自性を知るだけでなく、隣接する北米のアンゴロアメリカとの歴史的關係と今後の共存のゆくえや日本とのより深い関係構築について展望できるようになることをめざします。6つのサブ・リージョンに分け、視覚教材を適宜用いることで具体像を持てるよう、各回の授業テーマの中に織り込みます。
 地理的に日本からは遠隔地に位置していますが、ラテンアメリカ諸国と日本との関係はますます緊密化しています。親日的な国々と人びとについて知り、世界観を広げてください。

到達目標
 ラテンアメリカとは、北米大陸から南米大陸にかけて、カリブ海地域を含めた33の独立国と13の非独立領土から構成される広大な地域の総称です。この地域を多角的な視野から学際的かつ総合的に学ぶことによって、異文化理解を深めるための一助とすること。

授業方法と留意点
 ・履修生は毎週、リアクションペーパーに授業の中で最も興味を持った部分についての理解の概要や疑問点を書いてWebFolderに提出する。教員は次の授業で質問に対する解説を行う。これにより、双方向のフィードバックを可能にする。
 ・大学内でオンライン授業を受講する場合、配当されている教室での受講が可能。
 理解度確認のための課題に関するフィードバックは15回目のなかで実施する。

科目学習の効果 (資格)
 日本ではあまり知られていないラテンアメリカという地域の持つ固有の文化に親しむことで、グローバル社会の中で複眼的思考のできる観点を養う。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ラテンアメリカの地理 (1)	地域名称の由来 域内諸国の名称と位置の学習	地域を構成する33ヶ国・13非独立領を地図上で確認する
2	ラテンアメリカの地理 (2)	地域の歴史的概要 産業と特産品	基礎統計資料一覧を読み解く ラテンアメリカ原産作物と資源について調べる
3	ラテンアメリカの地理 (3)	世界文化遺産を通して見る多民族・多文化社会	ラテンアメリカの世界遺産について調べる
4	ラテンアメリカの歴史 (1)	先住民古代文明	マヤ、アステカ、インカ文明のいずれかについて調べる
5	ラテンアメリカの歴史 (2)	征服と植民地支配	前回の配布資料を読み直し、講義後は知識を整理し、疑問点を探る。
6	ラテンアメリカの歴史 (3)	独立とその後の近代化と従属化	前回の配布資料を読み直し、講義後は知識を整理し、疑問点を探る。
7	ラテンアメリカの歴史 (4)	20世紀の革命と民主化過程	前回の配布資料を読み直し、講義後は知識を整理し、疑問点を探る。
8	ラテンアメリカの文化 (1)	美術・音楽	前回の配布資料を読み直し、講義後は知識を整理し、疑問点を探る。
9	ラテンアメリカの文化 (2)	文学・映画	前回の配布資料を読み直し、講義後は知識を整理し、疑問点を探る。
10	ラテンアメリカの文化 (3)	食文化	前回の配布資料を読み直し、講義後は知識を整理し、疑問点を探る。
11	ラテンアメリカの社会	階層社会の構造、民族文化と国民社会	前回の配布資料を読み直し、講義後は知識を整理し、疑問点を探る。
12	ラテンアメリカの政治経済	政治体制の変遷 ラテンアメリカ経済の歴史の変容、現状と課題、地域統合	前回の配布資料を読み直し、講義後は知識を整理し、疑問点を探る。
13	現代世界の中のラテンアメリカ	国際政治・経済の中のラテンアメリカの位置づけ ラテンアメリカ域内の地域統合と対米関係	前回の配布資料を読み直し、講義後は知識を整理し、疑問点を探る。提示された理解度確認のための課題を指定された期限までに提出する。
14	ラテンアメリカと日本の関係	移住と日系社会、政治・外交関係におけるラテンアメリカと日本	前回の配布資料を読み直し、講義後は知識を整理し、疑問点を探る。
15	総括	総括の後、アメリカ合衆国への移民および「ライアーノス」がもたらす影響 理解度確認のための課題についてのフィードバック	広く西半球(米州)の相互関係に対して目を向ける。

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ラテンアメリカー地球規模課題の実践	畑恵子・浦部宏之編	新評論
2	ラテン・アメリカ社会科学ハンドブック	ラテン・アメリカ政経学会編	新評論
3	ラテンアメリカはどこへ行く	後藤政子・山崎圭一	ミネルヴァ書房

評価方法 (基準)
 リアクション・ペーパー 50% + 理解度確認の課題 50%

学生へのメッセージ
 ラテンアメリカは日本から遠く離れた地域ですが、日本との親密なつながりもあり、不思議な魅力にあふれる混沌とした世界です。そこへと分け入ることで、自分自身のこれまでのものの見方を相対化するきっかけとなるでしょう。

担当者の
 7号館5階 北條研究室

研究室等	
備考	事前・事後学習に要する総時間数は約 60 時間。

科目名	エリアスタディーズ 東アジア	科目名 (英文)	Area Studies: East Asia
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小都 晶子, 田中 悟
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1570a0		

授業概要・目的	中国と韓国の社会と文化の概要を学び、東アジア地域への理解を深める。
到達目標	中国と韓国を中心とした東アジアの歴史・文化の概要を理解することができる。
授業方法と留意点	講義中心で行う。 第1、3、5、6、8、9、11、12、14回は中国、第2、4、7、10、13、15回は韓国を対象とし、レジュメ・資料を配布し、映像資料も用います。 課題やテストに対する評価は、次回以降の授業または ICT ツール等において、口頭もしくは書面でフィードバックします。
科目学習の効果 (資格)	日本を含む東アジア地域に対する理解が深まる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	【韓国】韓国新聞についての基礎知識 (田中)	韓国マスメディアの日本語版サイトを紹介します、実際にアクセスしてみる。	関連諸サイトにアクセスし、内容に目を通しておく。(事後) (1時間)
3	【中国】華北 (小都)	北京を取り上げて、華北地域の社会と文化を学ぶ。また中国政治の特徴について考える。	配布資料の予習・復習 (事前および事後) (各1時間)
4	【韓国】韓国の新聞記事に基づいて読み解く韓国社会 (1) (田中)	記事の輪読と解説:現代社会の諸相 (1)	関連諸サイトにアクセスし、内容に目を通しておく。(事前および事後) (各1時間)
5	【中国】華東 (小都)	上海を取り上げて、華東地域の社会と文化を学ぶ。また中国社会の特徴について考える。	配布資料の予習・復習 (事前および事後) (各1時間)
6	【中国】華中 (小都)	中原の歴史や中華思想について学び、漢民族社会の特徴について考える。	配布資料の予習・復習 (事前および事後) (各1時間)
7	【韓国】韓国の新聞記事に基づいて読み解く韓国社会 (2) (田中)	記事の輪読と解説:現代社会の諸相 (2)	関連諸サイトにアクセスし、内容に目を通しておく。(事前および事後) (各1時間)
8	【中国】西南・西北 (小都)	中国の少数民族地域の社会と文化について学び、その特徴について考える。	配布資料の予習・復習 (事前および事後) (各1時間)
9	【中国】華南 (小都)	広州を取り上げて、華南地域の社会と文化を学ぶ。また香港・マカオの社会と文化を学び、一国二制度について考える。	配布資料の予習・復習 (事前および事後) (各1時間)
10	【韓国】韓国の新聞記事に基づいて読み解く韓国社会 (3) (田中)	記事の輪読と解説:「今」を生きる若者 (1)	関連諸サイトにアクセスし、内容に目を通しておく。(事前および事後) (各1時間)
11	【中国】台湾 (小都)	台湾の社会と文化を学び、中国・台湾と日本の関係を考える。	配布資料の予習・復習 (事前および事後) (各1時間)
12	【中国】華僑・華人 (小都)	世界と日本の華僑・華人について学ぶ。	配布資料の予習・復習 (事前および事後) (各1時間)
13	【韓国】韓国の新聞記事に基づいて読み解く韓国社会 (4) (田中)	記事の輪読と解説:「今」を生きる若者 (2)	関連諸サイトにアクセスし、内容に目を通しておく。(事前および事後) (各1時間)
14	【中国】中国パートのまとめと確認テスト (小都)	これまでの中国パートの内容のまとめと確認テスト	中国パートの内容を復習して、確認テストに備える (事前) (4時間)
15	【韓国】韓国社会を読み解くための補助線 (田中)	映像作品の鑑賞と解説	関連諸サイトにアクセスし、内容に目を通しておく。(事前および事後) (各1時間)

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	中国パート (60%)、韓国パート (40%) を合算して評価します。 中国パート (第1第1、3、5、6、8、9、11、12、14回) については、授業内で実施する課題および確認テストによって評価します。 韓国パート (第2、4、7、10、13、15回) については、授業内で指示する課題への取り組み (提出状況および内容) に基づいて評価します。
-----------	---

学生へのメッセージ	東アジアに関する基礎的な知識を身につけ、自分が暮らす世界への理解を広げてください。
-----------	---

担当者の研究室等	小都研究室 (7号館3階)・田中研究室 (7号館4階)
----------	-----------------------------

備考	授業の進行スケジュールについては、出席者の状況に応じて調整する可能性があります。
----	--

科目名	エリアスタディーズ 西アジア・南アジア	科目名 (英文)	Area Studies: West and South Asia
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	竹村 嘉晃
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1571a0		

授業概要・目的	南アジア地域の国々（インド、パキスタン、バングラデシュ、スリランカ、ネパール、ブータン、マルディブなど）は、インドの王朝による支配を受け、その後はイギリス植民地（インド帝国）として支配されるという歴史的・文化的経験を共有していることから、インド世界と称されることがしばしばある。本講義では、インドに基軸をおきながら、その複合的社会における人びとの暮らしや社会変容の動態を歴史的かつ多面的に捉え、現代の南アジア地域に対する理解を深めることを目的とする。
到達目標	1) われわれが生きる同時代の問題として、南アジア地域の諸相とグローバル世界との接合をとらえ、政治・経済・社会・文化・宗教・生活世界といった多様な側面と関連づけながら、その特性を総合的に理解することを目指す。 2) 授業内での発言や質疑および小論文などの課題を通じて、複眼的かつ論理的に思考・解明する力や情報リテラシー能力、ならびに発進力を養う。
授業方法及び留意点	本授業は講義形式で行い、授業の理解を助けるためにスライドや音響・映像資料を用いる。 受講者には毎回リアクションペーパーの提出を課し、コメントや質問を求める。リアクション・ペーパーのフィードバックや内容の確認は、次の授業時に冒頭で取り上げて解説する。 受講者には積極的な参加姿勢を求め、質問や意見を頻繁に尋ねる。各講義の中で取り上げた問題や事象について、自ら問いや疑問を立て、批判的思考を学び、自らの意見をまとめてノートにとる訓練をしてもらいたい。
科目学習の効果（資格）	

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	講義の目的、内容、授業の進め方などについて説明する。	シラバスを読んでおくこと
	2	南アジアの暮らしと社会:多民族・多宗教・多言語	多様性と変化	毎回の授業時に平易な課題論文や資料を紹介するので、授業後に参照すること。
	3	南アジアの暮らしと食:ファスト・フードとスーパー・フード	ファスト・フード、ストリート・フード、アーユルヴェーダ、菜食主義	毎回の授業時に平易な課題論文や資料を紹介するので、授業後に参照すること。
	4	南アジアの暮らしと食:宗教と食	食のタブー	毎回の授業時に平易な課題論文や資料を紹介するので、授業後に参照すること。
	5	南アジアの暮らしと衣:サリーとジェンダー	ファッションがつくるインド	毎回の授業時に平易な課題論文や資料を紹介するので、授業後に参照すること。
	6	南アジアの暮らしと衣:ファスト・ファッションと労働環境	「ラナ・プラザの悲劇」	毎回の授業時に平易な課題論文や資料を紹介するので、授業後に参照すること。
	7	南アジアの暮らしと信仰:ヒンドゥー教とカースト制度	多宗教社会のなかのヒンドゥー教	毎回の授業時に平易な課題論文や資料を紹介するので、授業後に参照すること。
	8	南アジアの暮らしと信仰:不可触民と留保政策	差別と優遇をめぐる問題	毎回の授業時に平易な課題論文や資料を紹介するので、授業後に参照すること。
	9	学外演習 国立民族学博物館の南アジア展示を巡る	モノからみる南アジア世界	学外演習の課題を事前に配布するので予習しておくこと
	10	学外演習 国立民族学博物館の西アジア展示を巡る	モノからみる西アジア世界	学外演習の課題を事前に配布するので予習しておくこと
	11	南アジアの暮らしとつながり:婚姻・家族・親族の多様性	現代社会における家族形態の変容	毎回の授業時に平易な課題論文や資料を紹介するので、授業後に参照すること。
	12	南アジアの暮らしとつながり:生殖と科学技術	生まれることをめぐる問題	毎回の授業時に平易な課題論文や資料を紹介するので、授業後に参照すること。
	13	グローバリゼーションと南アジア文化:逆輸入したヨーガ	ヨーガの隆盛とソフト・パワー	毎回の授業時に平易な課題論文や資料を紹介するので、授業後に参照すること。
	14	グローバリゼーションと南アジア文化:移民とインド芸能	シンガポールのインド人コミュニティとインド芸能	毎回の授業時に平易な課題論文や資料を紹介するので、授業後に参照すること。
	15	まとめと授業内試験	学習到達度の確認と論述試験	毎回の授業時に平易な課題論文や資料を紹介するので、授業後に参照すること。

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	現代インドを知るための60章	広瀬崇子・近藤正規・井上恭子・南竺猛編	明石書店
	2	ようこそ南アジア世界へ	石坂晋哉・宇根義己・舟橋健太編	昭和堂
	3	新版インドを知る事典	山下博司・岡光信子	東京堂出版

評価方法（基準）	平常点で総合的に評価する。 平常点の内訳は、授業への参加姿勢が40%（2/3以上の出席とリアクション・ペーパーの提出、質問・コメントなど積極的な発言）、課題の提出が30%（授業内容に関連した小論文の提出、南アジアに関する小説の書評または映画評）、授業内試験が30%（学期末に複数の設問から選択による
----------	--

	論述) で評価する。
学生への メッセージ	日頃からニュース、新聞、ネットなどで南アジアや西アジアに関する記事に目を向け、現在の社会情勢に触れてもらいたい。
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	事前事後の学習時間の目安は計60時間。

科目名	エリアスタディーズ 東南アジア	科目名 (英文)	Area Studies: Southeast Asia
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	上田 達、伊藤 まり子
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1572a0		

授業概要・目的	東南アジアを大陸部と島嶼部に大別して、それぞれの地域における各国の文化、社会、歴史、経済、政治についての基礎的な知識を習得し、そのうえで各地域における人びとの生活の多様性と共通性について考える。大陸部を伊藤、島嶼部を上田が担当する。			
到達目標	* 東南アジアについての基礎的な知識を習得する。 * 東南アジアに関する報道に対して、地理的・歴史的な背景を踏まえたうえでの深い考察ができるようになる。			
授業方法と留意点	* 講義形式で行う。授業の理解を助けるために映像資料を使用する。 * 受講者にはペーパー等で適宜コメントや質問を求める。次回授業冒頭で取り上げて解説する。 * 話をただ聞きながらではなく、自分で考えながらノートをとること。			
科目学習の効果 (資格)				
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	講義の目的、内容、進め方について説明する。(上田・伊藤)	紹介する資料を参照すること。
	2	東南アジア (大陸部) の国々	自然環境、民族、宗教 (伊藤)	紹介する資料を参照すること。
	3	東南アジア (大陸部) の宗教	仏教の広がりとその受容・発展 (伊藤)	紹介する資料を参照すること。
	4	東南アジア (大陸部) の歴史	植民地支配と独立 (伊藤)	紹介する資料を参照すること。
	5	東南アジア (大陸部) の国々 —ベトナム	ベトナム ベトナム戦争と日本 (伊藤)	紹介する資料を参照すること。
	6	東南アジア (大陸部) の国々 —タイ	タイ 観光、多民族 (伊藤)	紹介する資料を参照すること。
	7	東南アジア (大陸部) の国々 —ミャンマー	ミャンマー 宗教、多民族 (伊藤)	紹介する資料を参照すること。
	8	東南アジア (大陸部) のまとめ	前半部の学習到達度を確認する課題に取り組む。(伊藤)	到達度の確認課題のために学修事項を復習すること。
	9	東南アジア (島嶼部) の国々	自然環境、民族、宗教 (上田)	紹介する資料を参照すること。
	10	東南アジア (島嶼部) の宗教	イスラームとキリスト教の広がり (上田)	紹介する資料を参照すること。
	11	東南アジア (島嶼部) の歴史	植民地支配と独立 (上田)	紹介する資料を参照すること。
	12	東南アジア (島嶼部) の国々 —マレーシア	マレーシア (上田)	紹介する資料を参照すること。
	13	東南アジア (島嶼部) の国々 —インドネシア	インドネシア (上田)	紹介する資料を参照すること。
	14	東南アジア (島嶼部) の国々 —東ティモール	東ティモール (上田)	紹介する資料を参照すること。
	15	東南アジア (島嶼部) のまとめ	後半部の学習到達度を確認する課題に取り組む。(上田)	到達度の確認課題のために学修事項を復習すること。
関連科目	東南アジアに関連するすべての講義科目 他地域のエリアスタディーズ科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	東南アジアを知る事典	桃木至朗他編	平凡社
	2	入門 東南アジア近現代史	岩崎育夫	講談社
	3	東南アジア文化事典	信田敏宏編	丸善出版
評価方法 (基準)	前半と後半のそれぞれについて、次の観点から評価する。 * 平常点 40% (授業への参加・貢献度を、コメント・感想などから総合的に判断する) * 到達度の確認を問う課題 60% (授業期間中に行う)			
学生へのメッセージ	東南アジアのことをともに学びましょう!			
担当者の研究室等	7号館5階上田研究室 7号館2階 (非常勤講師室)			
備考	* 受講者数等によって、評価方法を変更することがある。初回授業時に指示するので必ず出席すること。 * 質問は原則として授業中に受け付ける。 * 事前事後学習時間は、60時間以上とする。			

科目名	エリアスタディーズ アフリカ	科目名 (英文)	Area Studies: Africa
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	川口 博子
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1573a0		

授業概要・目的

アフリカについてまったく何も知らないという人はいないと思います。みなさんはそれぞれに、アフリカにかんして何らかのイメージや知識をもっています。では、みなさんがもっているアフリカについてのイメージや知識とは、どのようなものでしょうか。それらはどこでどのように得られたものでしょうか。

本授業では、アフリカのさまざまなトピック（自然、歴史、文化、言語、現代的問題）について、実際に現地へ人びとがどんな暮らしをしているのか、どんな問題に直面しているのか、具体的に学んでいきます。一般にわたしたちがよく知っているアフリカ（たとえば紛争や貧困、開発支援など）の問題を、より具体的に、現地の人たちの視点から見ていくと、わたしたちのあまり知らないアフリカ（伝統の変化、紛争の現実、仕事の仕方、助け合いの方法など）が見えてきます。

本授業では、アフリカの外からアフリカの問題を考えるのではなく、アフリカの中からアフリカの問題や世界の問題を考えることを目指します。

到達目標

- 自分が知っているアフリカのイメージや知識について理解する。
- アフリカの人びとの実際の生活や現地の実態について理解する。
- 以上を踏まえたうえで、「アフリカとどのように関わることができるか」について考え、自分なりの答えを出す。
- 「アフリカから世界を見ると、どのような問題が見えてくるのか」考え、自分なりの答えを出す。

授業方法と留意点

- 課題論文を講読しながら授業をすすめます。課題論文を必ず読んで授業に臨んでください。
- 課題論文は、Web上で閲覧可能なものを授業中に紹介します。
- 受講者に発表などの課題を課すことがあります。
- 授業前・授業後に、学習課題を課します。
- 履修者の人数、関心、理解度などに応じて、シラバスの内容を一部修正する場合があります。

科目学習の効果 (資格)

- 異文化理解に役立つ

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	今後の授業内容の概要 履修者の興味関心の確認 講師の紹介	【事後】授業中に指示する課題に取り組むこと
2	アフリカのイメージ	日本で入手できるアフリカの情報（ニュース、文化、モノなど）を紹介しながら、アフリカに対するイメージ、自分との距離などを考える。	【事前・事後】授業中に指示する課題に取り組むこと
3	自然環境 (1)	アフリカ大陸にみられる各地の自然環境の特徴を学ぶ。	【事前・事後】授業中に指示する課題に取り組むこと
4	自然環境 (2)	生業（おもに農耕と牧畜）をとおして、自然環境に根差した人びとの文化について学ぶ。	【事前・事後】授業中に指示する課題に取り組むこと
5	アフリカの歴史 (1)	アフリカで勃興した王国と、その繁栄を支えた交易について学ぶ。	【事前・事後】授業中に指示する課題に取り組むこと
6	アフリカの歴史 (2)	太平洋奴隷交易と植民地支配について学ぶ。	【事前・事後】授業中に指示する課題に取り組むこと
7	アフリカの歴史 (3)	独立後の政治・社会的混迷と、その後の成長について学ぶ。	【事前・事後】授業中に指示する課題に取り組むこと
8	小テスト	第1回～第7回までの内容に関する確認をおこなう。	【事前・事後】授業中に指示する課題に取り組むこと
9	食文化	各地の特色をまとめるとともに、食文化について学ぶ。	【事前・事後】授業中に指示する課題に取り組むこと
10	言語と国家	言語の多様性ととともに、国家のなかにいる民族の関係について考える。	【事前・事後】授業中に指示する課題に取り組むこと
11	複数の宗教	キリスト教やイスラム教だけでなく、それらと在来宗教が共存している状況を学ぶ。	【事前・事後】授業中に指示する課題に取り組むこと
12	都市の経済	アフリカの都市部における小規模ビジネスとお金の使い方について学ぶ。	【事前・事後】授業中に指示する課題に取り組むこと
13	農村の経済	農村開発について、どうすれば人びとの生活の向上に貢献できるかを考える。	【事前・事後】授業中に指示する課題に取り組むこと
14	ビジネスパートナー	日本がアフリカで実施している支援事業や経済協力について学ぶ。	【事前・事後】これまでの授業内容を振り返り、試験勉強をすること。
15	総括	前回の試験の解説をもとに、これまでの授業を振り返り総括する。	【事前・事後】試験の結果をもとに、復習をすること。

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	アフリカ社会を学ぶ人のために	松田素二 編	世界思想社
2	ようこそアフリカ世界へ	遠藤貢・阪本拓人 編	昭和堂	
3	アフリカで学ぶ文化人類学	石田慎一郎・橋本茉莉ほか編	昭和堂	

評価方法 (基準)	①コメントシート・・・30% ②小テスト・・・30% ③学習の到達度を測る課題・・・40%
学生への メッセージ	授業前後に参考文献に目を通し、講義内容の理解を深めるようにしてください。
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	参考文献は上記のほか、適宜授業中に紹介します。 授業時間外に質問等をする場合は、授業時間の前後に7号館2階（非常勤講師室）に来てください。 事前事後の総学習時間の目安は60時間。

科目名	エリアスタディーズ ユーロッパ	科目名 (英文)	Area Studies: Europe
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	加来 奈奈
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1574a0		

授業概要・目的	現代のヨーロッパを理解するために、3つの地域（フランス、イギリス、ドイツ）に焦点をあて、多角的な観点からそれぞれの地域が抱える特徴的な問題を考察する。フランスにおいては、フランス革命から始まる共和政について理解し、ナショナリズムと政教分離（ライシテ）の問題から、国家における多様性と共存のあり方について検討する。イギリスについては、産業革命による社会の近代化、そしてヴィクトリア時代の文化の形成を踏まえたうえで、ジェンダーについて検討する。そして、ドイツについては、ナチス・ドイツをめぐる問題から、人種や戦争、戦後の記憶などについて検討する。今日にも関わる重要な問題を、歴史の視点を含めて考察することで、グローバルな視点で国際社会の多様性を理解し、人文・社会的知識を習得し、思考力と判断力に基づいて問題を発見する力を養う。
到達目標	フランス、イギリス、ドイツの歴史やそれぞれの地域が抱える諸問題を理解するとともに、そうしたことが現代社会にどのような影響を与えているかを説明することができる。
授業方法と留意点	講義中心で行う。 パワーポイントによる授業を行い、それに関する資料を配布する。また、適宜、その他参考となる資料も配布する。 フィードバックは、適宜、授業資料に組み込んで実施する。
科目学習の効果 (資格)	フランス、イギリス、ドイツの歴史と地域の特徴をめぐる学習を通じて、現代のヨーロッパ世界を深部から理解できるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	現代のヨーロッパ	・現代のヨーロッパ ・フランス、イギリス、ドイツの特徴	事前に、現代ヨーロッパを地図で確認するとともに、フランス、イギリス、ドイツのイメージについて書きだす。授業後は、それぞれの地域の特徴について整理する。
2	ヨーロッパの君主国と共和国	・ヨーロッパの国々の特徴を知る	事前：ヨーロッパの各国が君主国か、共和国かを調べる 事後：情報を整理する
3	イングランドの宗教と君主の歴史	イギリスにおける女性君主	事前に、イギリス人女性について思い浮かぶ人を調べる 事後：授業後はそれに関して考察する。
4	イギリスの君主と政治	・イギリスの政治の基本 ・王室の存在	事前：現在のイギリスについて、イメージすることを考えてくる。
5	帝国としてのイギリス	・イギリスの発展 ・コモンウェルス	事前：イギリスの旧植民地について調べてくる 事後：情報を整理する
6	イギリスの諸問題	・イギリスと移民 ・スコットランドやアイルランドとの関係	事前：アイルランドについて調べてくる 事後：これまでの授業をふりかえる
7	フランスの旧体制	・フランスの歴史 ・フランスの君主	事前：フランスの歴史について調べてくる 事後：フランスの歴史の特徴を整理する
8	共和国フランス	・啓蒙思想 ・フランス革命	事前：フランス革命について調べてくる 事後：“共和国”とは何かについて考える
9	フランスにおける政教分離	・第三共和政期のフランスの政策	事後：政治と宗教の在り方について考える
10	フランスの移民	・フランスの移民の歴史	事前：現在のフランスのナショナルチームについて調べてくる
11	現在フランスの諸問題	・フランスにおける公共 ・スカーフ問題	事後：これまでのフランスの内容を整理する
12	ドイツの歴史	・ドイツ民族 ・ドイツの統一	事前：ドイツのイメージを書き出す
13	ナチスドイツの支配	・プロパガンダと人種主義	事前：“プロパガンダ”と「優生思想」という言葉を調べてくる
14	ドイツにおける世界大戦とその後	・戦後ドイツにおける過去の克服	事後：これまでのドイツに関する内容をふりかえる
15	総括	・これまでの授業をまとめ、現代ヨーロッパの諸問題について考察する。	事前：授業で扱った内容全体を復習する。 事後：現代のヨーロッパないし日本が抱える問題とも比較する。

関連科目	ヨーロッパ史学
------	---------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学で学ぶ西洋史 [近現代]	小山哲ほか	ミネルヴァ書房
2				
3				

評価方法 (基準)	授業中の課題と小レポート (40%)、中間テスト (10%)、最終テスト (50%)
-----------	--

学生へのメッセージ	ヨーロッパのフランス、イギリス、ドイツについて見ていきます。それぞれ特徴的なこともあれば、共通することもあり、こうした地域の持つ問題の多くは、現代の日本社会ともかかわってきます。日々の世界のニュースにも関心を持ち、授業に取り組んでください。 授業の後半においては、グループワークと発表を予定している。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館4階加来研究室
----------	------------

備考	事前、事後学習に要する総時間は約60時間である。
----	--------------------------

科目名	エリアスタディーズ オセアニア	科目名 (英文)	Area Studies: Oceania
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	田浦 アマンダ
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1575a0		

授業概要・目的	オセアニア地域の中でも、特にオーストラリアとニュージーランドについて、その歴史、文化、生活習慣、教育事情、先住民、多文化主義、移民政策など様々な観点から理解を深めることを目的とする。授業は100%英語で行われます。 Classes conducted 100% in English. The content covers Oceania and the two largest countries in the area, Australia and New Zealand focusing on the history, culture, lifestyle, education, people, multiculturalism and government policies. The goals of this course are to improve students' English skills (speaking, listening, reading, writing) in a content-based format. English note-taking will be undertaken.
到達目標	・オセアニアという地域の特徴を把握できる ・オーストラリア、ニュージーランドについて幅広い知識を得る
授業方法と留意点	This class is a mini-lecture on the topic, note-taking during class, quiz on the content, readings in English, and discussion. Students need to prepare for a final group powerpoint presentation on various Pacific Islands that are part of Oceania in English.
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	Orientation	Introduction to the course, Online platforms (Line, Moodle, Zoom), Texts	About yourself and your experience/ knowledge of Oceania
2	Overview of Oceania	HW share with partner, lecture, quiz	Comment, notetaking, textbook reading
3	History of Australia & New Zealand	HW share with partner, lecture, quiz	Comment & notetaking, textbook reading Preparing for your final presentation
4	Geography of Australia & New Zealand	HW share with partner, lecture, quiz	Comment & notetaking, textbook reading Preparing for your final presentation
5	Lifestyle of Australia & New Zealand	HW share with partner, lecture, quiz	Comment & notetaking, textbook reading Preparing for your final presentation
6	Lifestyle (2) of Australia & New Zealand	HW share with partner, lecture, quiz	Comment & notetaking, textbook reading Preparing for your final presentation
7	Australia & New Zealand English	HW share with partner, lecture, quiz	Comment & notetaking, textbook reading Preparing for your final presentation
8	Education in Australia & New Zealand	HW share with partner, lecture, quiz	Comment & notetaking, textbook reading Preparing for your final presentation
9	Education (2) in Australia & New Zealand	HW share with partner, lecture, quiz	Comment & notetaking, textbook reading Preparing for your final presentation
10	Indigenous peoples in Australia & New Zealand	HW share with partner, lecture, quiz	Comment & notetaking, textbook reading Preparing for your final presentation
11	Minority Policies in Australia & New Zealand	HW share with partner, lecture, quiz	Comment & notetaking, textbook reading Preparing for your final presentation
12	Multiculturalism and Immigration in Australia & New Zealand	HW share with partner, lecture, quiz	Comment & notetaking, textbook reading Preparing for your final presentation
13	Final explanation and practice for your presentation & final report	HW share of comment with partner,	notetaking, sending your powerpoint file, preparing your script in English (in your own words, not a copy paste from the Internet) Practicing for your final presentation
14	Pair/Group Presentations	Final presentations, evaluations, and questions	Comment & notetaking
15	Pair/Group Presentations	Final presentations, evaluations, and questions	Comment & notetaking

関連科目	英語圏概論など
------	---------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	The Seven Continents Australia and Oceania	B. Somervill	Scholastic
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	B5 Notebook for writing		
	2			
	3			

評価方法 (基準)	Weekly English note-taking in a notebook (in-class note-taking & opinion on the content) 30%, Final pair or group powerpoint presentation 30%, Quizzes (Readings & Mini-Lectures) 20%, Attitude 20% (100% English, enthusiastic, on time, focused).
-----------	---

学生へのメッセージ	A notebook is required for taking notes. Please prepare and be ready to talk only in English.
-----------	---

担当者の研究室等	Amanda's office, Building 7, 5th floor
----------	--

備考	講義、学生発表、リーディング、レポートは全部100%英語で行うので一生懸命英語で頑張る学生に大歓迎です。 事前事後の総学修時間は60時間を目安とします。
----	---

科目名	共同体論	科目名 (英文)	Theory of Community
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	加来 奈奈
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL1576a0		

授業概要・目的	この授業では様々な共同体のあり方を検討するために、ハプスブルク家の支配地域を題材とする。中世後期から第一次世界大戦までに多様な地域を支配したハプスブルク家の所領は、現在では、オーストリア、ハンガリー、スペイン、ベルギー、チェコ、スロヴァキアなどに相当し、言語、文化、法など様々な地域を内包している。このハプスブルク家の歴史を通して、中世都市内の共同体、近世の政治的共同体と宗派による共同体、近代国家における少数民族のための共同体、さらにヨーロッパ連合など多様な共同体のあり方や、共同体間の繋がり、そして共同体とそこに属する人との関係を検討する。共同体の多様性と、そこに属することはどういうことなのかを見ていくことで、グローバルな視点で国際社会の多様性を理解するとともに、人文・社会学的研究を行うための専門知識を身につける。
到達目標	共同体を、個人や地域・国家とのかかわり、さらにトランスナショナルなかかわりの中で多層的にとらえる視点を身につける。また、さまざまな共同体の仕組みを説明できる。
授業方法と留意点	パワーポイントを用いて授業を行い、資料を配布する。 フィードバックは、適宜、授業資料に組み込んで実施する。
科目学習の効果 (資格)	グローバル社会のなかで共同体 (コミュニティ) がもつ意味について広く学ぶことができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	共同体 (コミュニティ) についての考察	授業の概要説明をおこなった後、多文化主義の観点から「共同体がもつ意味」について考える。	「共同体」という言葉から連想する事柄を列挙してくる。ハプスブルクと聞いて思いつくものを確認する。
2	ハプスブルク家の支配	・ハプスブルク家の歴史の概要	ハプスブルク家の人物について調べる。
3	ハプスブルク家の拡大	・ハプスブルク家の支配領域の拡大 ・地域の自立性と国家的統合 ・国家間の紐帯	神聖ローマ皇帝カール5世について調べてくる。地図で所領を確認する。
4	近世前半のオーストリア (宗派対立)	・ヨーロッパの宗派対立 ・オーストリアでの宗派争い	カトリックとプロテスタントの違いについて調べてくる。
5	近世前半のネーデルラント (統一と分離)	・都市・領邦の自治とネーデルラントの統一 ・ネーデルラントの反乱と南北分離	オランダ独立戦争について調べてくる。カルヴェン派とイエズス会について調べてくる。
6	近世前半のスペイン	・スペインにおける集権化 ・異端審問	フェリペ2世について調べてくる。スペインにおけるユダヤ人とイスラームについて確認する。
7	近世後半の概要と啓蒙について	・17世紀初めにおける所領の変化 ・近世の社団と啓蒙思想	これまでの授業のポイントを整理する。啓蒙という言葉について調べてくる。
8	マリア・テレジア (1)	・マリア・テレジアの即位 ・マリア・テレジアの啓蒙に対する態度	オーストリア継承戦争とマリア・テレジアについて調べてくる。
9	マリア・テレジア (2)	・マリア・テレジアの啓蒙改革 ・農村や教育への国家介入	啓蒙改革の一つの「脱宗教化」について、この時代宗教の影響が強かったと思われるものを書きだす。
10	ヨーゼフ2世 (1)	・ヨーゼフ2世の改革 ・集権化と地方自治 ・自由と保護	ヨーゼフ2世について調べてくる。
11	ヨーゼフ2世 (2)	・ヨーゼフ2世の改革 ・民族運動	ハンガリーの歴史について調べてくる。
12	アウスグライヒ (1)	・フランツ・ヨーゼフの改革 ・オーストリアとハンガリー	フランツ・ヨーゼフについて調べてくる。民族の定義について考える。
13	アウスグライヒ (2)	・多民族国家における試み	・サラエボ事件について調べてくる。
14	ポスト・ハプスブルク	・現代社会における公用語の問題 ・国家におけるマイノリティ	・チェコとスロヴァキアの歴史について調べる。
15	総括	・ハプスブルク家の支配のまとめと共同体について	これまでの授業を振り返り、論点をまとめる。

関連科目	社会文化史
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ハプスブルク史研究入門	大津留厚ほか	昭和堂
	2	ハプスブルクの実験	大津留厚	春風社
	3			

評価方法 (基準)	授業中に課す課題 (20%)、期末テスト (80%)
-----------	----------------------------

学生へのメッセージ	ハプスブルク家はヨーロッパにおいて広大な領域を支配しました。その領域は、バラバラの文化や政治体制があり、最終的にはそうした伝統が維持され、今では様々な国ができています。そうしたできた国では、連邦制であったり、公用語が複数あったりと、さらに国内の地域に高い自立性が認められているケースが多いです。こうした多様性があり、多層な共同体がくっついたり、離れたりはどういうことなのかを、ハプスブルク家の歴史を通して考えていきます。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館4階 加来研究室
----------	-------------

備考	事前、事後学習に要する総時間は約60時間である。
----	--------------------------

科目名	多文化共生論	科目名 (英文)	Multiculturalism
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小林 基
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL1577a0		

授業概要・目的	<p>人類は共同生活をおくる集団の中で進化してきたといわれます。しかしながら、他の人と共に生きることは必ずしも容易ではなく、しばしば苦痛をとまいます。共生することはどうして難しいのでしょうか。その困難を克服する道はないのでしょうか。</p> <p>この授業では、主に「暴力」をキーワードに、生物人類学や社会学をはじめ、さまざまな研究成果を学びつつ、人と人が共生することの難しさを考えます。また、現代社会において残存する暴力の具体的事例について向き合い、克服に向けて努力する方法を考えます。</p> <p>※本授業は、「国際教養」プログラム対応科目である。(外国語学部)</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 主に生物人類学や社会学等における暴力の説明方法について理解し、自分なりに説明できる。 学んだ知識を具体的事例の解釈に応用することができる。 既往の科学的成果について批判的に考えることができる。
授業方法及び留意点	<p>講義を聴いて既往研究の知見を理解し、小テスト (理解度チェック) や小課題を通じて応用力と批判的思考を養います。また、学期末に関連テーマのレポートを提出してもらいます。</p> <p>・コメントシートやレポートへのフィードバック (提出物へのコメントや質問への回答) は、基本的に授業時間内に行う。それが困難な場合にはオフィスアワーに教員の研究室、またはメールにて行う。</p>
科目学習の効果 (資格)	<p>この授業により、共生、暴力、理性、制度といった抽象的な概念について議論するための、一つのフレームワークを習得することができると思います。</p> <p>もちろんこの授業で紹介する考えは万能ではなく、欠陥さえあるはずですが、しかし、今後の人生の中でこれを自分なりに磨き上げたり、場合によっては別のものと取り換えたりしながら、自分なりの「共生」観を育ててゆくためのきっかけとなるでしょう。</p>

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション: 多文化共生へのアプローチ	多文化共生についてどのようにアプローチすればよいか、この授業の基本的立場を理解する。	講義内容についての資料やノートを見直し、復習する (事後学習)。
2	世界の真理を求めて: 近代啓蒙主義	近代啓蒙主義の基本的な特徴について学ぶ。	講義内容についての資料やノートを見直し、復習する (事後学習)。
3	文化は客観的に記述できない?: 啓蒙主義批判	啓蒙主義への批判的立場について学ぶ。	講義内容についての資料やノートを見直し、復習する (事後学習)。
4	自然主義的アプローチの紹介	自然主義的アプローチの基本的な考え方について学ぶ。	講義内容についての資料やノートを見直し、復習する (事後学習)。
5	人類の進化史 (1)	人類進化の歴史に関する基本的知識について学ぶ。	講義内容についての資料やノートを見直し、復習する (事後学習)。
6	人類の進化史 (2)	人類進化の歴史に関する基本的知識について学ぶ。	講義内容についての資料やノートを見直し、復習する (事後学習)。
7	暴力の進化的起源 (1)	ヒトがなぜ暴力を行使するのかを進化的起源から検討する。	講義内容についての資料やノートを見直し、復習する (事後学習)。
8	暴力の進化的起源 (2)	ヒトがなぜ暴力を行使するのかを進化的起源から検討する。	講義内容についての資料やノートを見直し、復習する (事後学習)。
9	道徳の進化的起源	道徳の進化的起源についての仮説について学ぶ。	講義内容についての資料やノートを見直し、復習する (事後学習)。
10	理性の効力	理性が暴力の減少にいかんにかに貢献したかについて考える。	講義内容についての資料やノートを見直し、復習する (事後学習)。
11	信頼と安心: 制度の持つ力	信頼についての研究成果をもとに社会の慣習や諸制度の役割の重要性について理解する。	講義内容についての資料やノートを見直し、復習する (事後学習)。
12	いじめの構造	いじめに関する社会学的研究から、その発生条件や予防策について検討する。	講義内容についての資料やノートを見直し、復習する (事後学習)。
13	日本の女性差別	女性差別が温存される要因について検討する。	講義内容についての資料やノートを見直し、復習する (事後学習)。
14	家族の地域的多様性と文化接触	家族の地域的・歴史的多様性と異文化理解の難しさについて理解する。	講義内容についての資料やノートを見直し、復習する (事後学習)。
15	総括: 共生に向けて	授業の振り返りと総括を行う。	講義内容についての資料やノートを見直し、復習する (事後学習)。

関連科目 「暮らしの中の文化」「グローバル社会と日本」「共同体論」など

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暴力の人類史 上・下	ピンカー、S.	青土社
	2	世界の多様性: 家族構造と近代性	トッド、E.	藤原書店
	3			

評価方法 (基準) 最終レポート 70%、授業への取り組み (課題、理解度チェック、コメント・質疑) 30%

学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	寝屋川キャンパス7号館5階小林特任講師室。 ※用事がある場合には、事前に必ずメールで伝えること (hajime.kobayashi@setsunan.ac.jp)
備考	・事前・事後学習は60時間を目安とする。

科目名	風土と地理	科目名 (英文)	Climate and Geography
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小林 基
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL1578a0		

この授業では現代社会における諸問題について、地理学という学問分野の視点・切り口から学びます。

地理学とは、空間・地域・環境といった視点から、私たち人類が住む世界の成り立ちを理解し、説明しようとする学問です。様々な学問分野の間の境界領域に位置し、研究対象も方法も多岐にわたっているという特徴を持ちます。

本講義では、地理学を通じて「通りいっぺんの社会評論」ではない、社会課題の捉え方・視点・考え方を養います。

到達目標

- ・地理学の基本となる考え方について説明できること。
- ・特定の社会問題について地理学的な視点から捉えることができること。

授業方法と留意点

- ・主に ①地理学がカバーする諸領域、②現代社会を理解するうえで重要と考えられる理論・学説、③地理学の歴史と現代的諸課題について講義します。
- ・学生の皆さんには、理解度を問うための小課題（理解度チェック）とレポートに取り組んでもらいます。
- ・提出物へのコメントや質問への回答などのフィードバックは、基本的に授業時間内に行う。それが困難な場合には休み時間や教員オフィスアワー等に、教員の研究室、またはメール等にて行う。

科目学習の効果（資格）

担当教員は、地理学を学ぶことに以下のような利点があると考えています。少し難しいですが、授業を最後まで受講することで理解できるでしょう。

- (1) 一つの見方や方法論に縛られない複眼的思考が身につく。
- (2) さまざまな事象が地域・場所によって異なることを理解し、比較する視点を持つことができる。
- (3) 個人、地域社会、都市、国家、世界とスケールを変えて物事をみることができる。
- (4) 距離や空間の広がり／狭まりが社会にどんな影響を及ぼすか考えることができる。
- (5) 人と人、

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	地理学とはどのような学問か？	この授業の概要を理解し、地理学という分野の範囲と見方の特徴について学びます。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。
2	地図の発達史	地図の歴史、地図の製作・利用等について学びます。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。
3	自然環境と人類	自然環境と人類との関係を捉える視点について学びます。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。
4	人口動態を捉える	人口の増減や人口移動のメカニズムについて学びます。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。
5	家族形態の地域的多様性	家族が地域的に多様であり、歴史的にも変動してきたことを学びます。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。
6	都市空間の発達と構造	都市の発達と構造をとらえる視点について学びます。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。
7	産業からみた都市の変遷	産業の変化に伴い、都市がどのように変遷してきたかを学びます。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。
8	人口減少と日本の地域課題	人口減少、経済停滞期において日本の諸地域が抱える問題について学びます。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。
9	農と食をめぐる諸問題	世界の農業および食料供給の多様性と課題について学びます。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。
10	日本の農村と社会	日本の農村とその社会について学びます。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。
11	グローバル化とモビリティ	グローバル化時代における社会変動やリスクについて学びます。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。
12	国際貿易について	国際貿易の発展とその理由、そしてリスクについて理解します。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。
13	ツーリズムの発展と課題	地域・空間の視点から観光を捉えるための方法やその成果について学びます。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。
14	これからのツーリズム	コロナ以後の観光のあり方について考えます。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。
15	今後の社会を考える：地理学の活用	授業の総括と、今後の社会を考えるうえで必要な視点について考えます。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2時間）。

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	現代人文地理学	佐藤廉也・宮澤仁編	放送大学教育振興会
2			

	3		
評価方法 (基準)	レポート 70%、小テストおよびコメント 30%		
学生への メッセージ	<p>大学の地理学は、以下の点で高校までの地理とはまったく違います。</p> <p>(1) 扱うテーマが多岐に及ぶこと。さらに他分野との相互交流があること。</p> <p>(2) 試験のための勉強ではなく、自分の関心事について探索したり、深めるための学問であること。</p> <p>この授業をみなさん自身の学びのために活用してもらえんことを切に願います。</p>		
担当者の 研究室等	<p>寝屋川キャンパス 7号館 5階 小林研究室。</p> <p>※用事がある場合は、かならず先にメールで用件を伝えてください (hajime.kobayashi@setsunan.ac.jp)。</p>		
備考			

科目名	国際関係論	科目名 (英文)	International Relations
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	浅野 英一
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL1579a0		

授業概要・目的	国際協力は、開発途上国に対する援助供与という観点で捉えられがちだが、開発途上国、開発援助国を問わず、互いが抱える問題にパートナーとして協力していくことが国際協力の本来のあり方である。本講座では国際協力や国際援助の歴史、意義、効果と限界、南北問題、日本外交と対外援助、日本のODAやNGOの現状と課題について、開発援助国と開発途上国との間で起こった事実を踏まえて学ぶ。 SDGs- 1, 2, 4, 17
到達目標	国際協力の必要性・重要性、開発途上国の実情・現状や課題について理解を深め、国際協力のありかたについて自らの考えを持つ。
授業方法と留意点	基本的には対面授業とするが、オンライン授業になった場合は、ICT ツールを活用した遠隔授業（非同期・非対面式）の教材・課題提供型授業とする。授業担当者がパワーポイントやPDF ファイル、事前に録画した動画などの教材を「WebFolder」、「Moodle」、「Microsoft Teams」上に提示し、学生が随時アクセスして、学修指示に基づき学修を進める。
科目学習の効果 (資格)	将来的に、国際分野に進むために学んでおかなければならない国際協力の基礎

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクションと授業内容概要	国際協力論ではどんなことを、どのように学ぶのか	_____
2	国際協力とは何か	国際協力の意味	国際協力がなぜ必要なのかを考える
3	日本の国際協力	日本が行ってきた国際協力について	国際協力の意味とな何だったのか、これからどうなるのかを考える
4	非政府組織 (NGO)	NGO の得意な分野と苦手な分野	民間でできる国際協力はあるのかを探る
5	草の根組織・地方自治体	普通の人が出来る国際協力	様々な民間団体が補助金を利用していることを調べる
6	国際連合	様々な組織とその役割	国際機関の活動について調べる
7	国際協力を受ける国々 (1)	開発途上国 (アジア) について (過去・現在・将来)	世界でアジア地域の問題とは何かを考える
8	国際協力を受ける国々 (2)	開発途上国 (アフリカ) について (過去・現在・将来)	世界でアフリカ地域の問題とは何かを考える
9	国際協力を受ける国々 (3)	開発途上国 (アジア・アフリカ以外の国) について (過去・現在・将来)	アジア・アフリカ以外での問題は、何かを考える
10	国際協力の仕組み	国際協力の仕組みを解明する	誰が・誰に・何を・どうするのか理解する
11	人・物・金	国際協力にまつわるキーワード	先進国にあって、開発途上国にないものを考察する
12	国際協力の課題	主要援助国が抱える国際協力問題について	いつの時代にも貧困が根本にあることを理解する
13	開発教育	開発教育とはなにか、どうして必要なのかを紐解く	貧困を解く鍵は「教育」であることを理解する
14	国際協力の課題	今後、国際協力はどうあるべきかを考える	人類が将来的に向き合わなければならないことは何かを考える
15	総括的確認 (必ず出席すること)	これまでに学んできたことについて総合的判断を行う	世界中の人々が平等に平和に過ごすための条件を考える

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	記述式小テストの総計(100%)により評価する。記述式小テストは、3週間に一度程度行います。これは、学期末に詰め込み式で理解するのではなく、ある程度まとまった形で、「理解し考える」ことを目的としています。
-----------	--

学生へのメッセージ	国際協力機関・国際ボランティア・青年海外協力隊など、将来この方面に進みたい学生には入門講座的として役割を果たします。この講義を受けて国際協力に興味を持った摂南大学の現役学生が青年海外協力隊員として、世界の国際協力現場の最前線で活躍しています。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階非常勤講師室
----------	-------------

備考	この授業の担当教員は、国際協力機構 (JICA) の国際協力専門家として、アフリカ・ケニアにおいて10年間の勤務経験があり、摂南大学の現役学生を33名、JICA ボランティア (青年海外協力隊) に合格させた実績がある。現役学生の合格者数は、日本国内の大学でトップクラスとなっている。授業時間外での質問等に対する対応方法は、初回授業時にメールアドレスを周知。
----	---

科目名	音声学	科目名 (英文)	Phonetics
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中島 直嗣
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL1589a0		

授業概要・目的	英語の音韻体系に基づいた調音音声学を中心とし、日本語や他の言語とも比較しながら、次のような内容について演習も交えて理解を深めていく。 ①母音や子音の発音記号とその音声的特徴、②音連続における連結・脱落・同化現象及び強勢やイントネーション、③語順、品詞、分詞と動名詞などの文法と音声の関連性、④中英語から現代英語へ至る音韻の歴史の変遷、⑤英国から北米・オセアニア・アジアにも広がる国際共通語としての英語の変種などについて具体例とともに学ぶ。
到達目標	この科目は、主として1年次の学生を対象とし、言語の音声の特徴について、英語を軸にし、必要に応じて日本語や他の言語とも比較しながら学んでいく。英語の音声の仕組み、英語の文法と音声の関連性、英語の歴史の変遷、国際共通語としての英語の実態などについて理解することをテーマ及び目標とする。
授業方法及び留意点	・授業は主に講義形式で行うが、授業の後半にはグループワークも取り入れる。 ・レポートを（中間と期末の）計2回作成し、提出する。 ・音声学は学問の一分野であり、単なる発音練習ではないので、誤解のないようにしてほしい。 ・提出物（レポート）や発表については、その都度授業中にフィードバックを行う。
科目学習の効果（資格）	TOEIC などのリスニング力（聴解力）の向上が期待できる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション (調音) 音声学について	(調音) 音声学とは何かについて、英語と日本語の例を比較しながら、その概要を理解する。	・授業時に示された課題の下調べをしておくこと (2時間)。 ・授業内容の要点を整理し、重要な音声現象や用語についてさらに調べてみること (2時間)。
2	母音について (1) —英語の単母音を中心に	英語の単母音について、日本語やその他の言語と比較しながら、その特徴を理解する。	・授業時に示された課題の下調べをしておくこと (2時間)。 ・授業内容の要点を整理し、重要な音声現象や用語についてさらに調べてみること (2時間)。
3	母音について (2) —英語の二重母音を中心に	英語の二重母音について、日本語やその他の言語と比較しながら、その特徴を理解する。	・授業時に示された課題の下調べをしておくこと (2時間)。 ・授業内容の要点を整理し、重要な音声現象や用語についてさらに調べてみること (2時間)。
4	母音からみた英語の変種 (方言) について	母音からみた英国・北米・オセアニア・アジアなどの英語の変種について理解する。	・授業時に示された課題の下調べをしておくこと (2時間)。 ・授業内容の要点を整理し、重要な音声現象や用語についてさらに調べてみること (2時間)。
5	子音について (1) —英語の閉鎖音や摩擦音を中心に	英語の閉鎖音や摩擦音などの子音について、日本語と比較しながら、その特徴を理解する。	・授業時に示された課題の下調べをしておくこと (2時間)。 ・授業内容の要点を整理し、重要な音声現象や用語についてさらに調べてみること (2時間)。
6	子音について (2) —英語の鼻音や破擦音を中心に	英語の鼻音や破擦音などの子音について、日本語と比較しながら、その特徴を理解する。	・授業時に示された課題の下調べをしておくこと (2時間)。 ・授業内容の要点を整理し、重要な音声現象や用語についてさらに調べてみること (2時間)。
7	子音と半母音 (接近音) について	子音と半母音 (接近音) について、日英語を比較しながら、その特徴を理解する。	・授業時に示された課題の下調べをしておくこと (2時間)。 ・授業内容の要点を整理し、重要な音声現象や用語についてさらに調べてみること (2時間)。
8	音 (音韻) の単位について—分節音と異音、音節とモーラなどレポートの提出	分節音と異音、音節とモーラなどの概念について、音韻構造の観点から理解する。	・授業時に示された課題の下調べをしておくこと (2時間)。 ・授業内容の要点を整理し、重要な音声現象や用語についてさらに調べてみること (2時間)。
9	音韻論と形態論の接点について レポートのフィードバック	・音韻論と形態論のインターフェイスの観点から、日英語の現象について考察する。 ・レポートの解答 (模範) 例を示しながら、内容や書き方について総評する。	・授業時に示された課題の下調べをしておくこと (2時間)。 ・授業内容の要点を整理し、重要な音声現象や用語についてさらに調べてみること (2時間)。
10	音の変化について—連結・脱落・同化など	音連続における連結・脱落・同化などの現象について、具体例とともに理解する。	・授業時に示された課題の下調べをしておくこと (2時間)。 ・授業内容の要点を整理し、重要な音声現象や用語についてさらに調べてみること (2時間)。
11	強勢 (アクセント) について	英語の強勢 (アクセント) の特徴について、体系的に理解する。	・授業時に示された課題の下調べをしておくこと (2時間)。 ・授業内容の要点を整理し、重要な音声現象や用語についてさらに調べてみること (2時間)。
12	文法と音声の関連性について	英語の語順、品詞、分詞と動名詞などの文法と音声の関連性について理解する。	・授業時に示された課題の下調べをしておくこと (2時間)。 ・授業内容の要点を整理し、重要な音声現象や用語についてさらに調べてみること (2時間)。
13	リズムとイントネーションについて	英語のリズムやイントネーションについて、体系的に理解する。	・授業時に示された課題の下調べをしておくこと (2時間)。 ・授業内容の要点を整理し、重要な音声現象や用語についてさらに調べてみること (2時間)。
14	音韻の歴史の変遷について レポートの提出	中英語から現代英語へ至る音韻の歴史の変遷について理解する。	・授業時に示された課題の下調べをしておくこと (2時間)。 ・授業内容の要点を整理し、重要な音声現象や用語についてさらに調べてみること (2時間)。
15	総括	・これまでの学習内容を総括する。	これまでの授業で学んだ内容の要点を整理し、重要

	レポートのフィードバック	・レポートの解答（模範）例を示しながら、内容や書き方について総評する。	な音声現象や用語についてさらに調べてみること（4時間）。	
関連科目	他の語学科目など			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	プリント・音声教材を利用する		
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	英語教師のための音声指導 Q&A	内田洋子、杉本淳子	研究社
	2	辞書		
	3			
評価方法 （基準）	レポート 60%、授業中の発言・討論、宿題・提出物等 40% ※ただし、原則として授業への出席率が 80%（12/15 回出席）以上であることを条件とする。			
学生への メッセージ	やや難しい内容ですが、その分、知的好奇心を持っている人には向いている科目といえるでしょう。			
担当者の 研究室等	7号館4階 中島研究室			
備考	・事前・事後学習総時間数は（2単位の科目であるため）60時間を目安とする。			

科目名	英語学概論	科目名 (英文)	Introduction to English Linguistics
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	船本 弘史
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL1590a0		

授業概要・目的	世界で使用される様々な英語 (World Englishes)、母語英語の歴史や諸特徴、英語の音声・音韻、英語の語彙の形成過程、英文法・構文の理論 (特に形式主義と機能主義による文法観の違い) など、英語に係る様々な研究分野について学ぶ。授業は講義形式で行うが、学生諸君には授業で身に着けた概念や考え方をを用いて、英語のさまざまな現象やデータを自分の力で分析し考察することが求められる。英語が今ある姿で世界中の人々に使われるようになるまでには様々な出来事があり、それを深く追究することによって英語の「なぜ？」に答えられるようになることがこの授業の大きな目的である。																																																																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・国際共通語としての英語の多様性について理解を深めることができる。 ・英語学研究の様々な分野について、基本的な考え方や分析・記述方法について理解することができる。 ・英語の文法、音声を含め、コミュニケーションにおける英語使用の様々な側面について、基本的な知識、考え方をを用いて説明することができる。 																																																																		
授業方法と留意点	教科書は指定せず、板書、スライド、映像、配布物等を用いて授業を行うため、出席することが重要である。もちろん、ただそういった教材を得るためにただ教室にいるのではなく、授業への積極的な参加がきわめて重要である。授業中には課題や小テスト等を随時行い、それらのパフォーマンスも成績評価の対象とする。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	教職課程 (英語) の必修科目																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション、英語学は何を研究するか?</td> <td>レクチャー、グループ学習、演習</td> <td>(予習) (2時間)</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>国際語としての英語</td> <td>レクチャー、グループ学習、演習</td> <td>(予習) (2時間)</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>英語の歴史①</td> <td>レクチャー、グループ学習、演習</td> <td>(予習) (2時間)</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>英語の歴史②</td> <td>レクチャー、グループ学習、演習</td> <td>(予習) (2時間)</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>英語音声学</td> <td>レクチャー、グループ学習、演習</td> <td>(予習) (2時間)</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>英語音韻論</td> <td>レクチャー、グループ学習、演習</td> <td>(予習) (2時間)</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>形態論①</td> <td>確認小テスト</td> <td>(予習) (2時間)</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>形態論②</td> <td>レクチャー、グループ学習、演習</td> <td>(予習) (2時間)</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>形態論③</td> <td>レクチャー、グループ学習、演習</td> <td>(予習) (2時間)</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>文法論</td> <td>レクチャー、グループ学習、演習</td> <td>(予習) (2時間)</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>形式文法①</td> <td>レクチャー、グループ学習、演習</td> <td>(予習) (2時間)</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>形式文法②</td> <td>レクチャー、グループ学習、演習</td> <td>(予習) (2時間)</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>機能文法①</td> <td>レクチャー、グループ学習、演習</td> <td>(予習) (2時間)</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>機能文法②</td> <td>レクチャー、グループ学習、演習</td> <td>(予習) (2時間)</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめテスト</td> <td></td> <td>総復習 (3時間)</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション、英語学は何を研究するか?	レクチャー、グループ学習、演習	(予習) (2時間)	2	国際語としての英語	レクチャー、グループ学習、演習	(予習) (2時間)	3	英語の歴史①	レクチャー、グループ学習、演習	(予習) (2時間)	4	英語の歴史②	レクチャー、グループ学習、演習	(予習) (2時間)	5	英語音声学	レクチャー、グループ学習、演習	(予習) (2時間)	6	英語音韻論	レクチャー、グループ学習、演習	(予習) (2時間)	7	形態論①	確認小テスト	(予習) (2時間)	8	形態論②	レクチャー、グループ学習、演習	(予習) (2時間)	9	形態論③	レクチャー、グループ学習、演習	(予習) (2時間)	10	文法論	レクチャー、グループ学習、演習	(予習) (2時間)	11	形式文法①	レクチャー、グループ学習、演習	(予習) (2時間)	12	形式文法②	レクチャー、グループ学習、演習	(予習) (2時間)	13	機能文法①	レクチャー、グループ学習、演習	(予習) (2時間)	14	機能文法②	レクチャー、グループ学習、演習	(予習) (2時間)	15	まとめテスト		総復習 (3時間)
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション、英語学は何を研究するか?	レクチャー、グループ学習、演習	(予習) (2時間)																																																																
2	国際語としての英語	レクチャー、グループ学習、演習	(予習) (2時間)																																																																
3	英語の歴史①	レクチャー、グループ学習、演習	(予習) (2時間)																																																																
4	英語の歴史②	レクチャー、グループ学習、演習	(予習) (2時間)																																																																
5	英語音声学	レクチャー、グループ学習、演習	(予習) (2時間)																																																																
6	英語音韻論	レクチャー、グループ学習、演習	(予習) (2時間)																																																																
7	形態論①	確認小テスト	(予習) (2時間)																																																																
8	形態論②	レクチャー、グループ学習、演習	(予習) (2時間)																																																																
9	形態論③	レクチャー、グループ学習、演習	(予習) (2時間)																																																																
10	文法論	レクチャー、グループ学習、演習	(予習) (2時間)																																																																
11	形式文法①	レクチャー、グループ学習、演習	(予習) (2時間)																																																																
12	形式文法②	レクチャー、グループ学習、演習	(予習) (2時間)																																																																
13	機能文法①	レクチャー、グループ学習、演習	(予習) (2時間)																																																																
14	機能文法②	レクチャー、グループ学習、演習	(予習) (2時間)																																																																
15	まとめテスト		総復習 (3時間)																																																																
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>授業中に指示する。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	授業中に指示する。			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	授業中に指示する。																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	期末テスト: 40% 授業での取り組み (課題、小テスト、その他提出物等): 60%																																																																		
学生へのメッセージ	英語学は英語という言葉の研究する学問であるが、英語学の中には、実に様々な領域やアプローチがある。学問的な概念ををただ知るのではなく、常に疑問と批判の精神をもって授業に臨んでほしい。																																																																		
担当者の研究室等	7号館5階 船本研究室																																																																		
備考																																																																			

科目名	言語学	科目名 (英文)	Linguistics
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	船本 弘史
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL1591a0		

授業概要・目的	この授業の目的は「言語」とは何かを理解し、また「言語」に対する基本的な知識を身につけ、多面的で複雑な言語を幅広い視野に立って観察することである。世界で使用される言語には多様性と共通性の両面があり、それらを科学的な方法によって理解することは、外国語学習のためにも必要であり有用でもある。
到達目標	(1) 言語の一般的特徴 (普遍性および固有性) に関する基本的な特徴を理解し、説明することができる。 (2) 言語がもつ多面的な性質を知り、具体的なデータを様々な観点から分析することができる。 (3) 自分の母語を他の言語と相対的に見ることによってふだん何気なく使用している母語の特徴に気づき、それを言語学的な概念を用いて記述・説明することができる。
授業方法と留意点	教科書は指定せず、板書、スライド、映像、配布物等を用いて授業を行うため、出席することが重要である。もちろん、ただそういった教材を得るためにただ教室にいるのではなく、授業への積極的な参加がきわめて重要である。授業中には課題や小テスト等を随時行い、それらのパフォーマンスも成績評価の対象とする。
科目学習の効果 (資格)	言語の関する一般的な知識を得ることができる。言語が人間に固有の「プロパティ」であると見なし、動物も含めた「コミュニケーション」の在り方を見直すことで、ことばによって人が関わり合い、人間社会を形成する過程まで見通す力が身につく。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	本授業の目的、授業の進め方等について説明する。	充分時間をかけ、事前にシラバスを読んでくること。(2時間)
2	言語の基本的特徴	人間が使用する言語の基本的な特性について学ぶ	授業内容について充分復習すること。次週の内容について予習をすること。(2時間)
3	人間の言語、動物のコミュニケーション	人間の使う言語と動物が行うコミュニケーションの違いについて学ぶ	授業内容について充分復習すること。次週の内容について予習をすること。(2時間)
4	世界のことば①: 言語の系統	世界に分布する諸言語の数え方や分類法にまつわる問題を考察する	授業内容について充分復習すること。次週までに各自が学んでいる言語について系統を確認しておくこと。(2時間)
5	世界のことば②: ピジンとクレオール	人や文化の接触によって生まれる言語について知る	授業内容について充分復習すること。次週の内容について予習をすること。(2時間)
6	文字①	人間が発明した文字の歴史や特徴について学ぶ	授業内容について充分復習すること。次週の内容について予習をすること。(2時間)
7	文字②	人間が発明した文字の歴史や特徴について学ぶ	授業内容について充分復習すること。次週までに各自が学んでいる言語の発音について確認しておくこと。(2時間)
8	中間まとめ	第1回から第7回の内容について復習する。	授業内容について充分復習すること。次週の内容について予習をすること。(2時間)
9	ことばと社会①: バリエーション	社会的変種について学ぶ	授業内容について充分復習すること。次週の内容について予習をすること。(2時間)
10	ことばと社会②: 言語政策	社会において言語をめぐる諸問題を取り上げ、国家が取り組む言語政策について学ぶ	授業内容について充分復習すること。次週の内容について予習をすること。(2時間)
11	ことばと心理①: 認識と分節	人が言語を通じて世界を認識し分節化する仕組みについて学ぶ	授業内容について充分復習すること。次週の内容について予習をすること。(2時間)
12	ことばと心理②: サビア・ウオーフの仮説	言語の普遍性と相対性について学ぶ	授業内容について充分復習すること。次週の内容について予習をすること。(2時間)
13	ワークショップ: 言語分析	具体的な言語資料を提示し、分析を行う	授業内容について充分復習すること。次週の内容について予習をすること。(2時間)
14	ふりかえり	この授業絶対をとおして学んだことを振り返り、ポイントを整理する	これまでに学んだことについて復習し、理解できた点や理解が不十分な点を整理しておくこと。(2時間)
15	まとめテスト	この授業で学んだことの総復習として理解度を確認する	これまでに学んだことの総復習をしておくこと。(2時間)

関連科目 音声学、英語学概論、各言語科目等。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	適宜教室で指示する。		
2				
3				

評価方法 (基準) 授業での取り組み、課題、小テスト、その他の提出物等: 60%
定期試験: 40%

学生へのメッセージ この授業は言語一般についてできるだけ幅広い視野に立って学ぶ。授業は講義形式で行い、非常に学術的な内容を扱うため、集中を切らさずに臨んでほしい。学問的な概念ををただ知るのではなく、常に疑問と批判の精神をもって授業に臨んでほしい。

担当者の研究室等 7号館5階 船本研究室

備考 事前・事後学習に要する総時間数は約60時間を目安とする。

科目名	日本語史概説	科目名 (英文)	History of Japanese Language
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	橋本 正俊
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL1592a0		

授業概要・目的	全部で四科目開設している日本語学関係の授業では日本語の体系を考える。 「日本語史概説」では日本語の諸問題について歴史的に学ぶ。 日本語の歴史を知ることが、現在の日本語を考察することにつながる。日本語は、文献が残されている時代からでも、発音も文字も文法も、ずいぶんと変化している。どう変化したのか、なぜ変化したのか、という視点で、古代を中心に各時代の日本語の変化を考察する。
到達目標	日本語の文字、読み、言葉遣い、発音の特徴について、歴史的背景をもとに正確に説明することができる。
授業方法と留意点	スライドおよび配布するプリントに沿って講義する。授業終了時に、ペーパー（コメントや課題）を提出する。 コメントペーパー、小テストについては次の回にフィードバックします。
科目学習の効果（資格）	日本語の歴史の理解を通して、言葉に対する関心、理解が深まる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	はじめに	授業の進め方、概説 日本の時代区分	日本史の流れを復習する
	2	3つの文字体系の背景1	漢字の受容について学ぶ	万葉仮名について調べる
	3	3つの文字体系の背景2	ひらがなの成立について学ぶ	ひらがなの用法について整理する
	4	3つの文字体系の背景3	カタカナの成立について学ぶ	カタカナの用法について整理する
	5	3つの文字体系の背景4 縦書きと横書き	様々な文体について学ぶ 縦書き横書き混用の背景	3つの文字体系の用法についてまとめる
	6	《確認小テスト》 読みの背景1	様々な音読みについて学ぶ	音読みについて整理する
	7	読みの背景2	様々な訓読みについて学ぶ	訓読みについて整理する
	8	方言の背景1	標準語と方言の関係について学ぶ 標準語の成立	標準語という概念について調べる
	9	方言の背景2	方言の分布・文法について学ぶ	様々な方言の分布について調べる
	10	方言の背景3	方言の拡大と現代語について学ぶ	様々な方言や流行語の広がりについて調べる
	11	方言の背景4	様々な言葉遣いと方言の関係について学ぶ	様々な言葉遣いの特徴と背景について考察する
	12	《確認小テスト》 発音の変化の背景1	古代の発音について学ぶ	古代の発音を整理する
	13	発音の変化の背景2	発音と表記の乖離について学ぶ	発音と表記について調べる
	14	発音の変化の背景3	外来語の日本語化について学ぶ	日本語の発音について復習する
	15	《最終確認テスト》 まとめ	これまでの復習の解説と「最終確認テスト」を行う	事前：これまでの復習

関連科目	日本語音韻論、日本語語彙論、日本語文法論、ことばに関する授業すべて
------	-----------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	最終確認テスト（60%）、確認小テスト（10%）、毎回のペーパー（30%）。 最終週の《最終確認テスト》の受験を必須とする。 ※オンライン授業となった場合 最終確認テスト（50%）、確認小テスト（10%）、毎回のペーパー（40%）。
----------	---

学生へのメッセージ	日本語の歴史を知ること、現代の日本語の新たな一面が見えてくるはずです。
-----------	-------------------------------------

担当者の研究室等	7号館4階（橋本研究室）
----------	--------------

備考	事前・事後学習に要する総時間数は、約60時間。
----	-------------------------

科目名	ミュージアムへの招待	科目名 (英文)	Introduction to Museum Studies
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	杉山 博昭
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL1606a0		

授業概要・目的	<p>【そもそも博物館とはなにか】</p> <p>全国で5,700館を数える「博物館」だが、じつは歴史系博物館以外にも、美術館・文学館・記念館・民芸館・動物園・水族館といった施設が含まれる。この授業では、そのなかでもとくに注目すべき成功を収めている「ベネッセハウス」ならびに「ベネッセアートサイト直島」を取り上げ、なぜこの施設・場所・展示が世界的に高い評価を受けているのかを考察する。さらに、同地で展示されている現代美術の具体的な作品を確認し、モダンアートはどこがおもしろく、いかに多くの人びとに影響を及ぼし続けるのかを検討する。この考察・確認・検討は、博物館がどこから来て、なにをするのか、そしてどこへ向かうのかという大きな問題と向かい合う機会となるだろう。</p>
到達目標	<p>【以下の3点を自分の言葉で説明できるようになること】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 良い博物館の条件とはなにか。 2. 良い博物館資料の条件とはなにか。 3. 博物館を運営することのむずかしさと大切さとはなにか。
授業方法と留意点	<p>【授業をふまえたクイズへの応答】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 講義に出席する。 2. 講義後の制限時間内に、提示されたクイズへの応答をMoodle経由で入力する。 3. 講義前に配布されるフィードバックシートを確認し、講義で解説を聞く。 4. 校外実習を進める。

科目学習の効果 (資格)	学芸員資格の取得 (必修科目)
--------------	-----------------

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	導入	授業の概要と資格取得の条件・諸注意について解説する。	事前:Moodleから資料をダウンロードする。レジюме掲載情報を検索して確認する(60分)。 事後:クイズの内容を振り返り、自分の回答がどこまで適切であったかを確認し、採点してみる(90分)。
2	拠点	ベネッセアートサイト直島の起源と展開を解説する。	事前:Moodleから資料をダウンロードする。前回答へのコメント内容を確認する。レジюме掲載情報を検索して確認する(90分)。 事後:クイズの内容を振り返り、自分の回答がどこまで適切であったかを確認し、採点してみる(90分)。	
3	地域	ベネッセアートサイト直島と瀬戸内国際芸術祭について解説する。	事前:Moodleから資料をダウンロードする。前回答へのコメント内容を確認する。レジюме掲載情報を検索して確認する(90分)。 事後:クイズの内容を振り返り、自分の回答がどこまで適切であったかを確認し、採点してみる(90分)。	
4	素材	ヤニス・クネリス作品の由来と魅力について確認する。	事前:Moodleから資料をダウンロードする。前回答へのコメント内容を確認する。レジюме掲載情報を検索して確認する(90分)。 事後:クイズの内容を振り返り、自分の回答がどこまで適切であったかを確認し、採点してみる(90分)。	
5	緊張	李禹煥作品の由来と魅力について確認する。	事前:Moodleから資料をダウンロードする。前回答へのコメント内容を確認する。レジюме掲載情報を検索して確認する(90分)。 事後:クイズの内容を振り返り、自分の回答がどこまで適切であったかを確認し、採点してみる(90分)。	
6	光線	ジェームズ・タレル作品の由来と魅力について確認する。	事前:Moodleから資料をダウンロードする。前回答へのコメント内容を確認する。レジюме掲載情報を検索して確認する(90分)。 事後:クイズの内容を振り返り、自分の回答がどこまで適切であったかを確認し、採点してみる(90分)。	
7	空間	安藤忠雄建築の由来と魅力について確認する。	事前:Moodleから資料をダウンロードする。前回答へのコメント内容を確認する。レジюме掲載情報を検索して確認する(90分)。 事後:クイズの内容を振り返り、自分の回答がどこまで適切であったかを確認し、採点してみる(90分)。	
8	普遍	ウォルター・デ・マリア作品の由来と魅力について確認する。	事前:Moodleから資料をダウンロードする。前回答へのコメント内容を確認する。レジюме掲載情報を検索して確認する(90分)。 事後:クイズの内容を振り返り、自分の回答がどこまで適切であったかを確認し、採点してみる(90分)。	
9	写実	須田悦弘作品の由来と魅力について確認する。	事前:Moodleから資料をダウンロードする。前回答へのコメント内容を確認する。レジюме掲載情報を検索して確認する(90分)。 事後:クイズの内容を振り返り、自分の回答がどこまで適切であったかを確認し、採点してみる(90分)。	

	10	記憶	クリスチャン・ボルタンスキー作品の由来と魅力について確認する。	分)。 事前:Moodle から資料をダウンロードする。前回回答へのコメント内容を確認する。レジュメ掲載情報を検索して確認する (90 分)。 事後:クイズの内容を振り返り、自分の回答がどこまで適切であったかを確認し、採点してみる (90 分)。																
	11	世界	内藤礼作品の由来と魅力について確認する。	事前:Moodle から資料をダウンロードする。前回回答へのコメント内容を確認する。レジュメ掲載情報を検索して確認する (90 分)。 事後:クイズの内容を振り返り、自分の回答がどこまで適切であったかを確認し、採点してみる (90 分)。																
	12	夢幻	維新派舞台の由来と魅力について確認する。	事前:Moodle から資料をダウンロードする。前回回答へのコメント内容を確認する。レジュメ掲載情報を検索して確認する (90 分)。 事後:クイズの内容を振り返り、自分の回答がどこまで適切であったかを確認し、採点してみる (90 分)。																
	13	博物館見学	指定された博物館に行き、ワークシート上の設問に回答する。日程・場所・展示については講義のなかで指示する。	事前:対象博物館のサイトと展示内容を確認する (90 分)。 事後:現地での経験をふまえつつ、関連情報も参照しながらワークシート上の設問に回答する (120 分)。																
	14	博物館見学	指定された博物館に行き、ワークシート上の設問に回答する。日程・場所・展示については講義のなかで指示する。	事前:対象博物館のサイトと展示内容を確認する (90 分)。 事後:現地での経験をふまえつつ、関連情報も参照しながらワークシート上の設問に回答する (120 分)。																
	15	総括	実習課題の振り返りと授業内容を総括する。	事前:Moodle から資料をダウンロードする。前回回答へのコメント内容を確認する。レジュメ掲載情報を検索して確認する (90 分)。 事後:博物館の役割と見学の経験を照らし合わせて自分にとっての博物館の意味を考えつつ、別の博物館を見学しに行ってみる (240 分)。																
関連科目	「他の学芸員課程の科目」/表象と感性プロジェクト/表象文化論/暮らしの中の文化																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>直島誕生 過疎化する島で目撃した「現代アートの挑戦」全記録</td> <td>秋元雄史</td> <td>ディスカヴァー・トゥエンティワン</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	直島誕生 過疎化する島で目撃した「現代アートの挑戦」全記録	秋元雄史	ディスカヴァー・トゥエンティワン	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	直島誕生 過疎化する島で目撃した「現代アートの挑戦」全記録	秋元雄史	ディスカヴァー・トゥエンティワン																	
2																				
3																				
評価方法 (基準)	【クイズの回答による評価】 1. 毎回の回答 [80%] 2. ワークシート [20%] 3. いずれも「好奇心」と「論理性」を基準とする。																			
学生へのメッセージ	【コンディションを整えること】 1. 資格取得の要件であるため、当然、出席は大切にす。 2. さらに、より良い回答をするために、講義に集中できるコンディションを整える。 3. 校外実習は貴重な機会なので、かならず参加する。																			
担当者の研究室等	7号館5階 杉山研究室																			
備考	【自分の回答を自分で採点すること】 1. 事前・事後学習は総時間 60 時間が目安となる。 2. 図書館やウェブ、その他の手段を使ってみずからの回答の採点を試みる。																			

科目名	Speaking & Writing a	科目名 (英文)	Speaking & Writing a
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	①
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	田浦 アマンダ
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1619c0		

授業概要・目的	共通教材『Setsunan Freshman Speaking & Writing a』を用いて、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J[A1.1-A1.2]を目標とし、よく使われる日常的表現（自分の住んでいるところ、自己紹介、挨拶など）や基本的な言い回しを用いて、単純なやりとりができ、短い文章やメモなどが書けるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に 50 words 程度の英文が書けるようになる。
授業方法と留意点	共通テキスト『Setsunan Freshman Speaking & Writing a』を用いて、日常的な表現や基本的な言い回しを英語で発話できるように反復練習を行う。また、50 words 程度の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	コメントすることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
3	関連質問をするための表現	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
4	関連質問をすることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
5	詳細に説明するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
6	詳細に説明するための実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
7	学習事項の確認と振り返り活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
8	確認(繰り返し)を要求するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
9	確認(繰り返し)を要求することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
10	説明を求めるための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
11	説明を求めることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
12	会話の開始と終結のための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
13	会話の開始と終結することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
14	学習内容の確認と総合的活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
15	まとめ/夏休みについて語る	プレゼンテーション演習	総復習 (1時間)

関連科目	Communicative English Grammar, Speaking & Writing b
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	B5 Notebook for writing		
	2			
	3			

評価方法 (基準)	発音テスト 10% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 90%
-----------	---

学生へのメッセージ	We will do a lot of speaking in this class. Be ready to share your ideas with your classmates.
-----------	--

担当者の研究室等	Amanda Taura Building 7, 5th floor office
----------	---

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表 やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に研究室にて対応する。
----	---

科目名	Speaking & Writing a	科目名 (英文)	Speaking & Writing a
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	②
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	フーバー トッド
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1619c0		

授業概要・目的	共通教材『Setsunan Freshman Speaking & Writing』を用いて、英語で発信するための基礎づくりをする。
到達目標	CEFR-J[A1.1-A1.2]を目標とし、よく使われる日常的表現(自分の住んでいるところ、自己紹介、挨拶など)や基本的な言い回しを用いて、単純なやりとりができ、短い文章でもメモなどが書けるようになる。絵や写真を見て、与えられた時間内に50 words程度の英文が書けるようになる。
授業方法と留意点	共通テキスト『Setsunan Freshman Speaking & Writing』を用いて、日常的な表現や基本的な言い回しを英語で発話できるように反復練習を行う。また、50 words程度の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	コメントすることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
3	関連質問をするための表現	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
4	関連質問をすることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
5	詳細に説明するための表現	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
6	詳細に説明するための実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
7	学習事項の確認と振り返り活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
8	確認(振り返り)を要求するための表現	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
9	確認(振り返り)を要求することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
10	説明を求めるための表現	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
11	説明を求めることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
12	会話の開始と終結のための表現	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
13	会話の開始と終結することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
14	学習内容の確認と総合的活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
15	まとめ/夏休みについて語る	プレゼンテーション演習	総復習(1時間)

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1																
	2																
3																	

参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1																
	2																
3																	

評価方法(基準)	発音テスト 10% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 90%
学生へのメッセージ	In this course, we will be focusing on speaking in class and writing for homework. The writing will be in the form of a journal. The ideas that you write in the journal will be used for the speaking activities in the next class, so it is important to keep
担当者の研究室等	7号館3階 フーバー研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はチューデントアワーにて対応する。

科目名	Speaking & Writing a	科目名 (英文)	Speaking & Writing a
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	③
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ジェフリー ベル
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1619c0		

授業概要・目的	共通教材『Setsunan Freshman Speaking & Writing』を用いて、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J[A1.1-A1.2]を目標とし、よく使われる日常的表現(自分の住んでいるところ、自己紹介、挨拶など)や基本的な言い回しを用いて、単純なやりとりができ、短い文章やメモなどが書けるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に 50 words 程度の英文が書けるようになる。
授業方法と留意点	共通テキスト『Setsunan Freshman Speaking & Writing』を用いて、日常的な表現や基本的な言い回しを英語で発話できるように反復練習を行う。また、50 words 程度の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。
科目学習の効果(資格)	TOEIC、英検

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	コメントすることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
3	関連質問をするための表現	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
4	関連質問をすることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
5	詳細に説明するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
6	詳細に説明するための実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
7	学習事項の確認と振り返り活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
8	確認(繰り返し)を要求するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
9	確認(繰り返し)を要求することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
10	説明を求めるための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
11	説明を求めることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
12	会話の開始と終結のための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
13	会話の開始と終結することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
14	学習内容の確認と総合的活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
15	まとめ/夏休みについて語る	プレゼンテーション演習	総復習 (1時間)

関連科目	Communicative English Grammar, Speaking & Writing b
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	発音テスト 10% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 90%
----------	---

学生へのメッセージ	We will do a lot of speaking in this class. Be ready to share your ideas with your classmates.
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	Speaking & Writing a	科目名 (英文)	Speaking & Writing a
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	④
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	グランド パーシム
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1619c0		

授業概要・目的	共通教材『Setsunan Freshman Speaking & Writing』を用いて、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J[A1.1-A1.2]を目標とし、よく使われる日常的表現（自分の住んでいるところ、自己紹介、挨拶など）や基本的な言い回しを用いて、単純なやりとりができ、短い文章やメモなどが書けるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に 50 words 程度の英文が書けるようになる。
授業方法と留意点	共通テキスト『Setsunan Freshman Speaking & Writing』を用いて、日常的な表現や基本的な言い回しを英語で発話できるように反復練習を行う。また、50 words 程度の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	コメントすることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
3	関連質問をするための表現	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
4	関連質問をすることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
5	詳細に説明するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
6	詳細に説明するための実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
7	学習事項の確認と振り返り活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
8	確認(繰り返し)を要求するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
9	確認(繰り返し)を要求することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
10	説明を求めするための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
11	説明を求めることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
12	会話の開始と終結のための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
13	会話の開始と終結することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
14	学習内容の確認と総合的活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
15	まとめ/夏休みについて語る	プレゼンテーション演習	総復習 (1時間)

関連科目	Communicative English Grammar, Speaking & Writing b
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	発音テスト 10% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 90%
-----------	---

学生へのメッセージ	このクラスは英語でのコミュニケーションクラスです。英語を使う努力をし、積極的に授業に参加することが期待されます。また、出席率も高いことが期待されます。This is an English communication class. Students are expected make an effort to use English and actively participate in class activities. Good attendance is also expected.
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表 やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	--

科目名	Speaking & Writing a	科目名 (英文)	Speaking & Writing a
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	⑤
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ブライアン スレーター
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1619c0		

授業概要・目的	共通教材『Setsunan Freshman Speaking & Writing』を用いて、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J[A1.1-A1.2]を目標とし、よく使われる日常的表現（自分の住んでいるところ、自己紹介、挨拶など）や基本的な言い回しを用いて、単純なやりとりができ、短い文章やメモなどが書けるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に 50 words 程度の英文が書けるようになる。
授業方法と留意点	共通テキスト『Setsunan Freshman Speaking & Writing』を用いて、日常的な表現や基本的な言い回しを英語で発話できるように反復練習を行う。また、50 words 程度の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	コメントすることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
3	関連質問をするための表現	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
4	関連質問をすることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
5	詳細に説明するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
6	詳細に説明するための実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
7	学習事項の確認と振り返り活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
8	確認(繰り返し)を要求するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
9	確認(繰り返し)を要求することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
10	説明を求めるための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
11	説明を求めることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
12	会話の開始と終結のための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
13	会話の開始と終結することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
14	学習内容の確認と総合的活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
15	まとめ/夏休みについて語る	プレゼンテーション演習	総復習 (1時間)

関連科目 Communicative English Grammar, Speaking & Writing b

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	発音テスト 10% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 90%
学生へのメッセージ	Students who engage enthusiastically in activities, preview and review lessons, do their homework assignments will achieve most from this course. Pair and group work will form the core of each class.
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	Speaking & Writing a	科目名 (英文)	Speaking & Writing a
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	⑥
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	バナム マシュー
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1619c0		

授業概要・目的	共通教材『Setsunan Freshman Speaking & Writing』を用いて、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J[A1.1-A1.2]を目標とし、よく使われる日常的表現(自分の住んでいるところ、自己紹介、挨拶など)や基本的な言い回しを用いて、単純なやりとりができ、短い文章やメモなどが書けるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に 50 words 程度の英文が書けるようになる。
授業方法と留意点	共通テキスト『Setsunan Freshman Speaking & Writing』を用いて、日常的な表現や基本的な言い回しを英語で発話できるように反復練習を行う。また、50 words 程度の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。
科目学習の効果(資格)	TOEIC、英検

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	コメントすることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
3	関連質問をするための表現	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
4	関連質問をすることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
5	詳細に説明するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
6	詳細に説明するための実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
7	学習事項の確認と振り返り活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
8	確認(繰り返し)を要求するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
9	確認(繰り返し)を要求することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
10	説明を求めるための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
11	説明を求めることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
12	会話の開始と終結のための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
13	会話の開始と終結することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
14	学習内容の確認と総合的活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
15	まとめ/夏休みについて語る	プレゼンテーション演習	総復習(1時間)

関連科目	Communicative English Grammar, Speaking & Writing b
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	発音テスト 10% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 90%
----------	---

学生へのメッセージ	We will do a lot of speaking in this class. Be ready to share your ideas with your classmates. Don't be afraid to make mistakes because that is how you learn. Do your best and you will enjoy this class.
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	Speaking & Writing a	科目名 (英文)	Speaking & Writing a
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	⑦
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ニール カー
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1619c0		

授業概要・目的	共通教材『Setsunan Freshman Speaking & Writing』を用いて、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J[A1.1-A1.2]を目標とし、よく使われる日常的表現(自分の住んでいるところ、自己紹介、挨拶など)や基本的な言い回しを用いて、単純なやりとりができ、短い文章やメモなどが書けるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に 50 words 程度の英文が書けるようになる。
授業方法と留意点	共通テキスト『Setsunan Freshman Speaking & Writing』を用いて、日常的な表現や基本的な言い回しを英語で発話できるように反復練習を行う。また、50 words 程度の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。
科目学習の効果(資格)	TOEIC、英検

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション、コメントするための表現	本科目の目標・テーマや授業内容などについて。例文のインプット演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
2	コメントすることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
3	関連質問をするための表現	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
4	関連質問をすることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
5	詳細に説明するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
6	詳細に説明するための実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
7	学習事項の確認と振り返り活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
8	確認(繰り返し)を要求するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
9	確認(繰り返し)を要求することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
10	説明を求めるための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
11	説明を求めることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
12	会話の開始と終結のための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
13	会話の開始と終結することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
14	学習内容の確認と総合的活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
15	まとめ/夏休みについて語る	プレゼンテーション演習	総復習(1時間)

関連科目	Communicative English Grammar, Speaking & Writing b
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	発音テスト 10% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 90%
学生へのメッセージ	Students who engage enthusiastically in activities, preview and review lessons, and do their homework assignments will achieve the most from this course. Pair and group work will form the core of each class.
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	Speaking & Writing a	科目名 (英文)	Speaking & Writing a
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1 年	クラス	⑧
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	松吉 翔也
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1619c0		

授業概要・目的	共通教材『Setsunan Freshman Speaking & Writing』を用いて、英語で発信するための基礎作りをする。 ※初回授業時に詳しいことは説明します。
到達目標	CEFR-J[A1.1-A1.2]を目標とし、よく使われる日常的表現（自分の住んでいるところ、自己紹介、挨拶など）や基本的な言い回しを用いて、単純なやりとりができ、短い文章やメモなどが書けるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に 50 words 程度の英文が書けるようになる。 ※初回授業時に詳しいことは説明します。
授業方法と留意点	共通テキスト『Setsunan Freshman Speaking & Writing』を用いて、日常的な表現や基本的な言い回しを英語で発話できるように反復練習を行う。また、50 words 程度の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。 ※初回授業時に詳しいことは説明します。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション、コメントするための表現	本科目の目標・テーマや授業内容などについて。例文のインプット演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
2	コメントすることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
3	関連質問をするための表現	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
4	関連質問をすることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
5	詳細に説明するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
6	詳細に説明するための実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
7	学習事項の確認と振り返り活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
8	確認(繰り返し)を要求するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
9	確認(繰り返し)を要求することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
10	説明を求めるための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
11	説明を求めることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
12	会話の開始と終結のための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
13	会話の開始と終結することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
14	学習内容の確認と総合的活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
15	まとめ/夏休みについて語る	プレゼンテーション演習	総復習 (1 時間)

関連科目 Communicative English Grammar, Speaking & Writing b

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	WORLD LINK ③	James R. Morgan	National Geographic Learning
2			
3			

評価方法 (基準) 発音テスト 10%
授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 90%
※初回授業時に詳しいことは説明します。

学生へのメッセージ 英語を使って「話す」「書く」ことはとても難しいと感じるかもしれません。この授業では皆さんが主体的に活動に参加し、英語学習の不安を少しでも軽減できるような環境を整えます。その中で、自分の意見を相手に伝えたり、相手の意見を尊重しコミュニケーションを図れるように楽しみながら練習をしていきましょう！ I'm looking forward to talking with you all !

担当者の研究室等 7 号館 2 階 非常勤講師室

備考 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表 やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	Speaking & Writing a	科目名 (英文)	Speaking & Writing a
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	⑨
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	オチエ クリスティン
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1619c0		

授業概要・目的	共通教材『Setsunan Freshman Speaking & Writing』を用いて、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J[A1.1-A1.2]を目標とし、よく使われる日常的表現(自分の住んでいるところ、自己紹介、挨拶など)や基本的な言い回しを用いて、単純なやりとりができ、短い文章やメモなどが書けるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に 50 words 程度の英文が書けるようになる。
授業方法と留意点	共通テキスト『Setsunan Freshman Speaking & Writing』を用いて、日常的な表現や基本的な言い回しを英語で発話できるように反復練習を行う。また、50 words 程度の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。
科目学習の効果(資格)	TOEIC、英検

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	コメントすることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
3	関連質問をするための表現	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
4	関連質問をすることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
5	詳細に説明するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
6	詳細に説明するための実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
7	学習事項の確認と振り返り活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
8	確認(繰り返し)を要求するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
9	確認(繰り返し)を要求することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
10	説明を求めるための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
11	説明を求めることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
12	会話の開始と終結のための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
13	会話の開始と終結することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
14	学習内容の確認と総合的活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
15	まとめ/夏休みについて語る	プレゼンテーション演習	総復習(1時間)

関連科目	Communicative English Grammar, Speaking & Writing b
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	発音テスト 10% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 90%
----------	---

学生へのメッセージ	We will do a lot of speaking in this class. Please try your best and don't be afraid to make mistakes.
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	Speaking & Writing a	科目名 (英文)	Speaking & Writing a
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	⑩
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	バックリア マチ
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1619c0		

授業概要・目的	共通教材『Setsunan Freshman Speaking & Writing』を用いて、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J[A1.1-A1.2]を目標とし、よく使われる日常的表現（自分の住んでいるところ、自己紹介、挨拶など）や基本的な言い回しを用いて、単純なやりとりができ、短い文章やメモなどが書けるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に 50 words 程度の英文が書けるようになる。
授業方法と留意点	共通テキスト『Setsunan Freshman Speaking & Writing』を用いて、日常的な表現や基本的な言い回しを英語で発話できるように反復練習を行う。また、50 words 程度の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	コメントすることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
3	関連質問をするための表現	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
4	関連質問をすることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
5	詳細に説明するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
6	詳細に説明するための実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
7	学習事項の確認と振り返り活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
8	確認(繰り返し)を要求するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
9	確認(繰り返し)を要求することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
10	説明を求めるための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
11	説明を求めることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
12	会話の開始と終結のための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
13	会話の開始と終結することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
14	学習内容の確認と総合的活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
15	まとめ/夏休みについて語る	プレゼンテーション演習	総復習 (1時間)

関連科目	Communicative English Grammar, Speaking & Writing b
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	発音テスト 10% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 90%
-----------	---

学生へのメッセージ	We will do a lot of speaking in this class. Be ready to share your ideas with your classmates. Don't be afraid. Making mistakes helps you to remember and improve.
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に研究室にて対応する。
----	--

科目名	Reading a	科目名 (英文)	Reading a
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	イ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	西川 眞由美
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1620c0		

授業概要・目的	文学作品を取り扱った多読活動を行い、文学的表現（隠喩・暗喩など）などにも慣れ親しむことを目標とする。多読活動において、数多くの文学作品を読解する。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。また英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)を行い、大量の英文をインプットする。さらには、難解な英文でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。また同時に、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。
到達目標	CEFR-J[A2-2]を目標とし、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。
授業方法と留意点	精読・速読・多読の3つの活動に取り組む。
科目学習の効果（資格）	TOEIC、英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	文学における比喩表現について理解を深める（1）直喩	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
3	英文の速読および精読活動を通じて、読解スキル（スキヤニング）の定着を図り、英語で書かれた文学作品を読解するための読解力の素地を養う	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
4	文学における比喩表現について理解を深める（2）暗喩	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
5	英文の速読および精読活動を通じて、読解スキル（スキミング）の定着を図り、英語で書かれた文学作品を読解するための読解力の素地を養う	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
6	文学における比喩表現について理解を深める（3）換喩	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
7	英文の速読および精読活動を通じて、読解スキル（予測）の定着を図り、英語で書かれた文学作品を読解するための読解力の素地を養う	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
8	文学における比喩表現について理解を深める（4）比喩複合	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
9	英文の速読および精読活動を通じて、読解スキル（推測）の定着を図り、英語で書かれた文学作品を読解するための読解力の素地を養う	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
10	擬人法について理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
11	英文の速読および精読活動を通じて、読解スキル（参照）の定着を図り、英語で書かれた文学作品を読解するための読解力の素地を養う	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
12	倒置法について理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
13	英文の速読および精読活動を通じて、読解スキル（メインアイデア）の定着を図り、英語で書かれた文学作品を読解するための読解力の素地を養う	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
14	反復法について理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
15	総括およびまとめの確認テストを行う	総括 確認テスト 振り返り	多読課題 テキストの復習（1時間）

関連科目	Communicative Grammar, Speaking & Writing
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Reading Upgrade for the TOEIC Test	Tomoko Yabukoshi, Ryan Smithers	金星堂
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Graded Readers シリーズ (Pearson Readers, Oxford Bookworms Library, Macmillan Readers, Cambridge English Readers など)、洋楽の歌詞、英米の短編小説、英語圏のライトノベル		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	速読・多読活動 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%			
学生への メッセージ	たくさん読んで、楽しく英語の読解力を養いましょう。			
担当者の 研究室等	7号館4階西川研究室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。そのほかの質問等は出講時に研究室にて対応する。			

科目名	Reading a	科目名 (英文)	Reading a
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	ハ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	天野 貴史
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1620c0		

授業概要・目的	文学作品を取り扱った多読活動を行い、文学的表現（隠喩・暗喩など）などにも慣れ親しむことを目標とする。多読活動において、数多くの文学作品を読解する。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。また英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)を行い、大量の英文をインプットする。さらには、難解な英文でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。また同時に、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。
到達目標	CEFR-J[A2-2]を目標とし、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。
授業方法と留意点	精読・速読・多読の3つの活動に取り組む。
科目学習の効果（資格）	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	文学における比喩表現について理解を深める（1）直喩	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
3	英文の速読および精読活動を通じて、読解スキル（スキヤニング）の定着を図り、英語で書かれた文学作品を読解するための読解力の素地を養う	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
4	文学における比喩表現について理解を深める（2）暗喩	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
5	英文の速読および精読活動を通じて、読解スキル（スキミング）の定着を図り、英語で書かれた文学作品を読解するための読解力の素地を養う	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
6	文学における比喩表現について理解を深める（3）換喩	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
7	英文の速読および精読活動を通じて、読解スキル（予測）の定着を図り、英語で書かれた文学作品を読解するための読解力の素地を養う	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
8	文学における比喩表現について理解を深める（4）比喩複合	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
9	英文の速読および精読活動を通じて、読解スキル（推測）の定着を図り、英語で書かれた文学作品を読解するための読解力の素地を養う	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
10	擬人法について理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
11	英文の速読および精読活動を通じて、読解スキル（参照）の定着を図り、英語で書かれた文学作品を読解するための読解力の素地を養う	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
12	倒置法について理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
13	英文の速読および精読活動を通じて、読解スキル（メインアイデア）の定着を図り、英語で書かれた文学作品を読解するための読解力の素地を養う	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
14	反復法について理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
15	総括およびまとめの確認テストを行う	総括 確認テスト 振り返り	多読課題 テキストの復習（1時間）

関連科目	Communicative Grammar, Speaking & Writing
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	The Truman Show 【New Format Edition】 /映画総合教材『トゥルーマン・ショー』【新装版】	(著者) Andrew Niccol (編著) Kim R. Kanel 神谷久美子	松柏社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Graded Readers シリーズ (Pearson Readers, Oxford Bookworms Library, Macmillan Readers, Cambridge English Readers など)、洋楽の歌詞、英米の短編小説、英語圏のライトノベル		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	速読・多読活動 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%			
学生へのメッセージ	精読・速読・多読を通じて、英語を読む楽しさを体験して下さい。			
担当者の研究室等	7号館3階 天野研究室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。そのほかの質問等は出講時に研究室にて対応する。			

科目名	Reading a	科目名 (英文)	Reading a
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	ホ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	鳥居 祐介
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1620c0		

授業概要・目的	文学作品を取り扱った多読活動を行い、文学的表現（隠喩・暗喩など）などにも慣れ親しむことを目標とする。多読活動において、数多くの文学作品を読解する。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。また英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)を行い、大量の英文をインプットする。さらには、難解な英文でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。また同時に、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。
到達目標	CEFR-J[A2-2]を目標とし、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。
授業方法と留意点	精読・速読・多読の3つの活動に取り組む。
科目学習の効果（資格）	TOEIC、英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	文学における比喩表現について理解を深める（1）直喩	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
3	英文の速読および精読活動を通じて、読解スキル（スキヤニング）の定着を図り、英語で書かれた文学作品を読解するための読解力の素地を養う	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
4	文学における比喩表現について理解を深める（2）暗喩	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
5	英文の速読および精読活動を通じて、読解スキル（スキミング）の定着を図り、英語で書かれた文学作品を読解するための読解力の素地を養う	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
6	文学における比喩表現について理解を深める（3）換喩	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
7	英文の速読および精読活動を通じて、読解スキル（予測）の定着を図り、英語で書かれた文学作品を読解するための読解力の素地を養う	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
8	文学における比喩表現について理解を深める（4）比喩複合	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
9	英文の速読および精読活動を通じて、読解スキル（推測）の定着を図り、英語で書かれた文学作品を読解するための読解力の素地を養う	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
10	擬人法について理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
11	英文の速読および精読活動を通じて、読解スキル（参照）の定着を図り、英語で書かれた文学作品を読解するための読解力の素地を養う	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
12	倒置法について理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
13	英文の速読および精読活動を通じて、読解スキル（メインアイデア）の定着を図り、英語で書かれた文学作品を読解するための読解力の素地を養う	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
14	反復法について理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
15	総括およびまとめの確認テストを行う	総括 確認テスト 振り返り	多読課題 テキストの復習（1時間）

関連科目	Communicative Grammar, Speaking & Writing
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Graded Readers シリーズ(Pearson Readers, Oxford Bookworms Library, Macmillan Readers, Cambridge English Readers など)、洋楽の歌詞、英米の短編小説、英語圏のライトノベル		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	速読・多読活動 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%			
学生への メッセージ	情報通信技術と人工知能の発達で語学習得の意義も方法も大きく変化しています。新しい学習法をいろいろと経験し、自分に合うものを見つけましょう。			
担当者の 研究室等	7号館3階 鳥居研究室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。そのほかの質問等は出講時に研究室にて対応する。			

科目名	Reading a	科目名 (英文)	Reading a
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	ト
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	齋藤 安以子
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1620c0		

授業概要・目的	文学作品を取り扱った多読活動を行い、文学的表現（隠喩・暗喩など）などにも慣れ親しむことを目標とする。多読活動において、数多くの文学作品を読解する。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。また英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)を行い、大量の英文をインプットする。さらには、難解な英文でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。また同時に、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。
到達目標	CEFR-J[A2-2]を目標とし、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。
授業方法と留意点	精読・速読・多読の3つの活動に取り組む。
科目学習の効果（資格）	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	文学における比喩表現について理解を深める（1）直喩	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
3	英文の速読および精読活動を通じて、読解スキル（スキヤニング）の定着を図り、英語で書かれた文学作品を読解するための読解力の素地を養う	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
4	文学における比喩表現について理解を深める（2）暗喩	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
5	英文の速読および精読活動を通じて、読解スキル（スキミング）の定着を図り、英語で書かれた文学作品を読解するための読解力の素地を養う	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
6	文学における比喩表現について理解を深める（3）換喩	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
7	英文の速読および精読活動を通じて、読解スキル（予測）の定着を図り、英語で書かれた文学作品を読解するための読解力の素地を養う	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
8	文学における比喩表現について理解を深める（4）比喩複合	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
9	英文の速読および精読活動を通じて、読解スキル（推測）の定着を図り、英語で書かれた文学作品を読解するための読解力の素地を養う	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
10	擬人法について理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
11	英文の速読および精読活動を通じて、読解スキル（参照）の定着を図り、英語で書かれた文学作品を読解するための読解力の素地を養う	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
12	倒置法について理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
13	英文の速読および精読活動を通じて、読解スキル（メインアイデア）の定着を図り、英語で書かれた文学作品を読解するための読解力の素地を養う	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
14	反復法について理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
15	総括およびまとめの確認テストを行う	総括 確認テスト 振り返り	多読課題 テキストの復習（1時間）

関連科目	Communicative Grammar, Speaking & Writing
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Timed Reading for Fluency 1	Paul Nation & Casey Malarcher	Seed Learning
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Graded Readers シリーズ (Pearson Readers, Oxford Bookworms Library, Macmillan Readers, Cambridge English Readers など)、洋楽の歌詞、英米の短編小説、英語圏のライトノベル		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	速読・多読活動 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%			
学生へのメッセージ	いろいろなタイプの英語で書かれた文章に触れながら、教養を身につけましょう。 入試問題の英文や法律の文章のように、意味が一通りになるように書かれた英語もあれば、歌詞や物語のように読者の側の経験やその時の気持ちによって意味が変わって読み取れる英語もあります。同じ文章から、以前よりたくさん情報を引き出せるようになるって、お得です！			
担当者の研究室等	7号館4階 齋藤研究室			
備考	毎回の授業のためのテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。そのほかの質問等は出講時に研究室にて対応する。			

科目名	Reading a	科目名 (英文)	Reading a
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	ロ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	西川 眞由美
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1620c0		

授業概要・目的	文学作品を取り扱った多読活動を行い、文学的表現（隠喩・暗喩など）などにも慣れ親しむことを目標とする。多読活動において、数多くの文学作品を読解する。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。また英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)を行い、大量の英文をインプットする。さらには、難解な英文でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。また同時に、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。
到達目標	CEFR-J[A2-2]を目標とし、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。
授業方法と留意点	精読・速読・多読の3つの活動に取り組む。
科目学習の効果（資格）	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	文学的表現とは？日常的な表現との違いについて	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
2	文学における比喩表現について理解を深める（1）直喩	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
3	英文の速読および精読活動を通じて、読解スキル（スキヤニング）の定着を図り、英語で書かれた文学作品を読解するための読解力の素地を養う	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
4	文学における比喩表現について理解を深める（2）暗喩	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
5	英文の速読および精読活動を通じて、読解スキル（スキミング）の定着を図り、英語で書かれた文学作品を読解するための読解力の素地を養う	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
6	文学における比喩表現について理解を深める（3）換喩	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
7	英文の速読および精読活動を通じて、読解スキル（予測）の定着を図り、英語で書かれた文学作品を読解するための読解力の素地を養う	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
8	文学における比喩表現について理解を深める（4）比喩複合	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
9	英文の速読および精読活動を通じて、読解スキル（推測）の定着を図り、英語で書かれた文学作品を読解するための読解力の素地を養う	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
10	擬人法について理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
11	英文の速読および精読活動を通じて、読解スキル（参照）の定着を図り、英語で書かれた文学作品を読解するための読解力の素地を養う	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
12	倒置法について理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
13	英文の速読および精読活動を通じて、読解スキル（メインアイデア）の定着を図り、英語で書かれた文学作品を読解するための読解力の素地を養う	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
14	反復法について理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
15	総括およびまとめの確認テストを行う	総括 確認テスト 振り返り	多読課題 テキストの復習（1時間）

関連科目	Communicative Grammar, Speaking & Writing
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Reading Upgrade for the TOEIC Test	Tomoko Yabukoshi, Ryan Smithers	金星堂
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Graded Readers シリーズ (Pearson Readers, Oxford Bookworms Library, Macmillan Readers, Cambridge English Readers など)、洋楽の歌詞、英米の短編小説、英語圏のライトノベル		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	速読・多読活動 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%			
学生への メッセージ	たくさん読んで、楽しく英語の読解力をつけましょう。			
担当者の 研究室等	7号館4階西川研究室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。そのほかの質問等は出講時に研究室にて対応する。			

科目名	Reading a	科目名 (英文)	Reading a
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	ニ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	天野 貴史
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1620c0		

授業概要・目的	文学作品を取り扱った多読活動を行い、文学的表現（隠喩・暗喩など）などにも慣れ親しむことを目標とする。多読活動において、数多くの文学作品を読解する。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。また英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)を行い、大量の英文をインプットする。さらには、難解な英文でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。また同時に、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。
到達目標	CEFR-J[A2-2]を目標とし、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。
授業方法と留意点	精読・速読・多読の3つの活動に取り組む。

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	文学における比喩表現について理解を深める(1)直喩	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習 (1時間)
3	英文の速読および精読活動を通じて、読解スキル(スキヤニング)の定着を図り、英語で書かれた文学作品を読解するための読解力の素地を養う	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習 (1時間)
4	文学における比喩表現について理解を深める(2)暗喩	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習 (1時間)
5	英文の速読および精読活動を通じて、読解スキル(スキミング)の定着を図り、英語で書かれた文学作品を読解するための読解力の素地を養う	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習 (1時間)
6	文学における比喩表現について理解を深める(3)換喩	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習 (1時間)
7	英文の速読および精読活動を通じて、読解スキル(予測)の定着を図り、英語で書かれた文学作品を読解するための読解力の素地を養う	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習 (1時間)
8	文学における比喩表現について理解を深める(4)比喩複合	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習 (1時間)
9	英文の速読および精読活動を通じて、読解スキル(推測)の定着を図り、英語で書かれた文学作品を読解するための読解力の素地を養う	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習 (1時間)
10	擬人法について理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習 (1時間)
11	英文の速読および精読活動を通じて、読解スキル(参照)の定着を図り、英語で書かれた文学作品を読解するための読解力の素地を養う	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習 (1時間)
12	倒置法について理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習 (1時間)
13	英文の速読および精読活動を通じて、読解スキル(メインアイデア)の定着を図り、英語で書かれた文学作品を読解するための読解力の素地を養う	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習 (1時間)
14	反復法について理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習 (1時間)
15	総括およびまとめの確認テストを行う	総括 確認テスト 振り返り	多読課題 テキストの復習 (1時間)

関連科目	Communicative Grammar, Speaking & Writing
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	The Truman Show 【New Format Edition】 /映画総合教材『トウルーマン・ショー』【新装版】	(著者) Andrew Niccol (編著) Kim R. Kanel 神谷久美子	松柏社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Graded Readers シリーズ (Pearson Readers, Oxford Bookworms Library, Macmillan Readers, Cambridge English Readers など)、洋楽の歌詞、英米の短編小説、英語圏のライトノベル		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	速読・多読活動 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%			
学生へのメッセージ	精読・速読・多読を通じて、英語を読む楽しさを体験して下さい。			
担当者の研究室等	7号館3階 天野研究室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。そのほかの質問等は出講時に研究室にて対応する。			

科目名	Reading a	科目名 (英文)	Reading a
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	へ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	柏原 郁子
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1620c0		

授業概要・目的	文学作品を取り扱った多読活動を行い、文学的表現（隠喩・暗喩など）などにも慣れ親しむことを目標とする。多読活動において、数多くの文学作品を読解する。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。また英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)を行い、大量の英文をインプットする。さらには、難解な英文でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。また同時に、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。
到達目標	CEFR-J[A2-2]を目標とし、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。
授業方法と留意点	精読・速読・多読の3つの活動に取り組む。
科目学習の効果（資格）	TOEIC、英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	文学における比喩表現について理解を深める（1）直喩	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
3	英文の速読および精読活動を通じて、読解スキル（スキヤニング）の定着を図り、英語で書かれた文学作品を読解するための読解力の素地を養う	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
4	文学における比喩表現について理解を深める（2）暗喩	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
5	英文の速読および精読活動を通じて、読解スキル（スキミング）の定着を図り、英語で書かれた文学作品を読解するための読解力の素地を養う	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
6	文学における比喩表現について理解を深める（3）換喩	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
7	英文の速読および精読活動を通じて、読解スキル（予測）の定着を図り、英語で書かれた文学作品を読解するための読解力の素地を養う	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
8	文学における比喩表現について理解を深める（4）比喩複合	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
9	英文の速読および精読活動を通じて、読解スキル（推測）の定着を図り、英語で書かれた文学作品を読解するための読解力の素地を養う	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
10	擬人法について理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
11	英文の速読および精読活動を通じて、読解スキル（参照）の定着を図り、英語で書かれた文学作品を読解するための読解力の素地を養う	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
12	倒置法について理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
13	英文の速読および精読活動を通じて、読解スキル（メインアイデア）の定着を図り、英語で書かれた文学作品を読解するための読解力の素地を養う	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
14	反復法について理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
15	総括およびまとめの確認テストを行う	総括 確認テスト 振り返り	多読課題 テキストの復習（1時間）

関連科目	Communicative Grammar, Speaking & Writing
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Timed Reading for Fluency 1	Paul Nation, Casey Malarcher	Seed Learning
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	速読・多読活動 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%			
学生への メッセージ	精読・速読・多読を通じて、英語を読む楽しさを体験して下さい。			
担当者の 研究室等	7号館4階 柏原研究室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。そのほかの質問等は出講時に研究室にて対応する。			

科目名	Reading a	科目名 (英文)	Reading a
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	チ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	藤原 崇
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1620c0		

授業概要・目的	文学作品を取り扱った多読活動を行い、文学的表現（隠喩・暗喩など）などにも慣れ親しむことを目標とする。多読活動において、数多くの文学作品を読解する。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。また英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)を行い、大量の英文をインプットする。さらには、難解な英文でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。また同時に、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。
到達目標	CEFR-J[A2-2]を目標とし、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。
授業方法と留意点	精読・速読・多読の3つの活動に取り組む。
科目学習の効果（資格）	TOEIC、英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	文学における比喩表現について理解を深める（1）直喩	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
3	英文の速読および精読活動を通じて、読解スキル（スキヤニング）の定着を図り、英語で書かれた文学作品を読解するための読解力の素地を養う	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
4	文学における比喩表現について理解を深める（2）暗喩	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
5	英文の速読および精読活動を通じて、読解スキル（スキミング）の定着を図り、英語で書かれた文学作品を読解するための読解力の素地を養う	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
6	文学における比喩表現について理解を深める（3）換喩	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
7	英文の速読および精読活動を通じて、読解スキル（予測）の定着を図り、英語で書かれた文学作品を読解するための読解力の素地を養う	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
8	文学における比喩表現について理解を深める（4）比喩複合	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
9	英文の速読および精読活動を通じて、読解スキル（推測）の定着を図り、英語で書かれた文学作品を読解するための読解力の素地を養う	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
10	擬人法について理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
11	英文の速読および精読活動を通じて、読解スキル（参照）の定着を図り、英語で書かれた文学作品を読解するための読解力の素地を養う	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
12	倒置法について理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
13	英文の速読および精読活動を通じて、読解スキル（メインアイデア）の定着を図り、英語で書かれた文学作品を読解するための読解力の素地を養う	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
14	反復法について理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
15	総括およびまとめの確認テストを行う	総括 確認テスト 振り返り	多読課題 テキストの復習（1時間）

関連科目	Communicative Grammar, Speaking & Writing
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Solve the Mystery 3 and Improve Your English Skills	吉村俊子／時岡ゆかり／Susan E. Jones／平田 三樹子／Jennifer Teeter／伊藤 佳世子	英宝社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	速読・多読活動 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%			
学生への メッセージ	語彙・文法を基盤とした読解力を身につけていきましょう。			
担当者の 研究室等	7号館 4階藤原研究室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。そのほかの質問等は出講時に研究室にて対応する。			

科目名	Reading a	科目名 (英文)	Reading a
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	再
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	藤原 崇
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1620c0		

授業概要・目的	文学作品を取り扱った多読活動を行い、文学的表現（隠喩・暗喩など）などにも慣れ親しむことを目標とする。多読活動において、数多くの文学作品を読解する。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。また英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)を行い、大量の英文をインプットする。さらには、難解な英文でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。また同時に、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。
到達目標	CEFR-J[A2-2]を目標とし、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。
授業方法と留意点	精読・速読・多読の3つの活動に取り組む。
科目学習の効果（資格）	TOEIC、英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	文学における比喩表現について理解を深める（1）直喩	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
3	英文の速読および精読活動を通じて、読解スキル（スキヤニング）の定着を図り、英語で書かれた文学作品を読解するための読解力の素地を養う	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
4	文学における比喩表現について理解を深める（2）暗喩	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
5	英文の速読および精読活動を通じて、読解スキル（スキミング）の定着を図り、英語で書かれた文学作品を読解するための読解力の素地を養う	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
6	文学における比喩表現について理解を深める（3）換喩	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
7	英文の速読および精読活動を通じて、読解スキル（予測）の定着を図り、英語で書かれた文学作品を読解するための読解力の素地を養う	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
8	文学における比喩表現について理解を深める（4）比喩複合	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
9	英文の速読および精読活動を通じて、読解スキル（推測）の定着を図り、英語で書かれた文学作品を読解するための読解力の素地を養う	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
10	擬人法について理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
11	英文の速読および精読活動を通じて、読解スキル（参照）の定着を図り、英語で書かれた文学作品を読解するための読解力の素地を養う	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
12	倒置法について理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
13	英文の速読および精読活動を通じて、読解スキル（メインアイデア）の定着を図り、英語で書かれた文学作品を読解するための読解力の素地を養う	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
14	反復法について理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 テキストの予習・復習（1時間）
15	総括およびまとめの確認テストを行う	総括 確認テスト 振り返り	多読課題 テキストの復習（1時間）

関連科目	Communicative Grammar, Speaking & Writing
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Solve the Mystery 3 and Improve Your English Skills	吉村俊子／時岡ゆかり／ Susan E. Jones / 平田 三樹子 / Jennifer Teeter / 伊藤 佳世子	英宝社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	速読・多読活動 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%			
学生への メッセージ	語彙・文法を基盤とした読解力を身につけていきましょう。			
担当者の 研究室等	7号館4階藤原研究室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。そのほかの質問等は出講時に研究室にて対応する。			

科目名	TOEIC a	科目名 (英文)	TOEIC a
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	イ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	内山 知美
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1621c0		

授業概要・目的	TOEICの問題を学修することにより、語彙力、文法力を高め、会話を正確に聞き取る能力を身に付けることを目指す。 さまざまなビジネスの場面で用いられる英会話を聞き取り、ビジネスレターやメール形式の文章を読み、その内容がすばやく理解できる能力を身に付ける。数多くの演習問題を通して限られた時間内で正確に英文を読み取る能力と、情報を聞き取る能力を養うことを目的とする。
到達目標	(1) 簡単な会話を聞き、会話内容を問う問題に解答できる。 (2) 品詞、動詞、代名詞を問う文法問題を正確に解答できる。 (3) ビジネスレターやメール形式の英文を読み、その内容を理解できる。 (4) PCやスマートフォンを用いた e-Learning による自律的英語学習に取り組む。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。 e-learning 課題は、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。 3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読んでくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (1時間)
2	Unit 1 Shopping	Part1:写真問題 Part2:応答問題 Part5: 短文穴埋め問題	事前学習：Unit1の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (1時間)
3	Unit 1 Shopping	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit1の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (1時間)
4	Unit 2 Office Work	Part1:写真問題 Part2:応答問題 Part5: 短文穴埋め問題	事前学習：Unit2の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (1時間)
5	Unit 2 Office Work	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit2の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (1時間)
6	Unit 3 Transportation	Part1:写真問題 Part2:応答問題 Part5: 短文穴埋め問題	事前学習：Unit3の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (1時間)
7	Unit 3 Transportation	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit3の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (1時間)
8	Unit 4 Travel & Eating Out	Part1:写真問題 Part2:応答問題 Part5: 短文穴埋め問題	事前学習：Unit4の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (1時間)
9	Unit 4 Travel & Eating Out	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit4の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (1時間)
10	Unit 5 Meetings	Part1:写真問題 Part2:応答問題 Part5: 短文穴埋め問題	事前学習：Unit5の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (1時間)
11	Unit 5 Meetings	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit5の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (1時間)
12	Unit 6 Web Sites	Part2:応答問題 Part3:会話問題	事前学習：Unit6の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (1時間)
13	Unit 6 Web Sites	Part5:短文穴埋め問題 Part7: 読解問題 精読タイム	事前学習：Unit6の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (1時間)
14	Unit 7 Advertising	Part2:応答問題 Part4:トーク問題 Part5:短文穴埋め問題	事前学習：Unit7の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (1時間)
15	まとめ & 復習テスト	Unit 1 から Unit 7 の総復習	事前学習:Unit1 から Unit7 の内容を復習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)

				の課題学習 (1 時間)
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	SMART ROUTE TO THE TOEIC(R) L&R TEST	古澤弘美/Braven Smillie	セнгеージラーニング株式会社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	e-Learning (ATR CALL BRIX: TOEIC GO (1)) 10% 学期途中や学期末に行う復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表 90%			
学生への メッセージ	TOEIC(R)の形式を知り、多くの例題を繰り返し解くことで、TOEIC (R)の得点アップを目指しましょう。e-Learning 教材も積極的に活用して下さい。本学で行われる TOEIC(R)試験を積極的に受験し、目標得点に向かってチャレンジして下さい。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	TOEIC a	科目名 (英文)	TOEIC a
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	ハ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	加藤 恭子
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1621c0		

授業概要・目的	TOEICの問題を学修することにより、語彙力、文法力を高め、会話を正確に聞き取る能力を身に付けることを目指す。さまざまなビジネスの場面で用いられる英会話を聞き取り、ビジネスライターやメール形式の文章を読み、その内容がすばやく理解できる能力を身に付ける。数多くの演習問題を通して限られた時間内で正確に英文を読み取る能力と、情報を聞き取る能力を養うことを目的とする。
到達目標	(1) 簡単な会話を聞き、会話内容を問う問題に解答できる。 (2) 品詞、動詞、代名詞を問う文法問題を正確に解答できる。 (3) ビジネスライターやメール形式の英文を読み、その内容を理解できる。 (4) PCやスマートフォンを用いた e-Learning による自律的英語学習に取り組む。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題は、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読んでくること。 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC G0(1)の課題学習 (1時間)
2	Unit 1 Shopping	Part1: 写真問題 Part2: 応答問題 Part5: 短文穴埋め問題	事前学習：Unit1の内容を予習してくる事。 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC G0(1)の課題学習 (1時間)
3	Unit 1 Shopping	Part7: 読解問題 精読タイム	事前学習：Unit1の内容を予習してくる事。 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC G0(1)の課題学習 (1時間)
4	Unit 2 Office Work	Part1: 写真問題 Part2: 応答問題 Part5: 短文穴埋め問題	事前学習：Unit2の内容を予習してくる事。 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC G0(1)の課題学習 (1時間)
5	Unit 2 Office Work	Part7: 読解問題 精読タイム	事前学習：Unit2の内容を予習してくる事。 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC G0(1)の課題学習 (1時間)
6	Unit 3 Transportation	Part1: 写真問題 Part2: 応答問題 Part5: 短文穴埋め問題	事前学習：Unit3の内容を予習してくる事。 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC G0(1)の課題学習 (1時間)
7	Unit 3 Transportation	Part7: 読解問題 精読タイム	事前学習：Unit3の内容を予習してくる事。 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC G0(1)の課題学習 (1時間)
8	Unit 4 Travel & Eating Out	Part1: 写真問題 Part2: 応答問題 Part5: 短文穴埋め問題	事前学習：Unit4の内容を予習してくる事。 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC G0(1)の課題学習 (1時間)
9	Unit 4 Travel & Eating Out	Part7: 読解問題 精読タイム	事前学習：Unit4の内容を予習してくる事。 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC G0(1)の課題学習 (1時間)
10	Unit 5 Meetings	Part1: 写真問題 Part2: 応答問題 Part5: 短文穴埋め問題	事前学習：Unit5の内容を予習してくる事。 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC G0(1)の課題学習 (1時間)
11	Unit 5 Meetings	Part7: 読解問題 精読タイム	事前学習：Unit5の内容を予習してくる事。 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC G0(1)の課題学習 (1時間)
12	Unit 6 Web Sites	Part2: 応答問題 Part3: 会話問題	事前学習：Unit6の内容を予習してくる事。 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC G0(1)の課題学習 (1時間)
13	Unit 6 Web Sites	Part5: 短文穴埋め問題 Part7: 読解問題 精読タイム	事前学習：Unit6の内容を予習してくる事。 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC G0(1)の課題学習 (1時間)
14	Unit 7 Advertising	Part2: 応答問題 Part4: トーク問題 Part5: 短文穴埋め問題	事前学習：Unit7の内容を予習してくる事。 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC G0(1)の課題学習 (1時間)
15	まとめ & 復習テスト	Unit 1 から Unit 7 の総復習	事前学習：Unit1-7の内容を予習してくる事。 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC G0(1)の課題学習 (1時間)

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	SMART ROUTE TO THE TOEIC L&R TEST	古澤弘美/Braven Smillie	セングージラーニング株式会社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	e-Learning (ATR CALL BRIX: TOEIC GO (1)) 10% 学期途中や学期末に行う復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表 90%			
学生への メッセージ	スコアの目標を立てて、達成に向け頑張らしましょう。 積極的な参加を期待しています。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	TOEIC a	科目名 (英文)	TOEIC a
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	ホ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	西谷 継治
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1621c0		

授業概要・目的	TOEICの問題を学修することにより、語彙力、文法力を高め、会話を正確に聞き取る能力を身に付けることを目指す。さまざまなビジネスの場面で用いられる英会話を聞き取り、ビジネスレターやメール形式の文章を読み、その内容がすばやく理解できる能力を身に付ける。数多くの演習問題を通して限られた時間内で正確に英文を読み取る能力と、情報を聞き取る能力を養うことを目的とする。
到達目標	(1) 簡単な会話を聞き、会話内容を問う問題に解答できる。 (2) 品詞、動詞、代名詞を問う文法問題を正確に解答できる。 (3) ビジネスレターやメール形式の英文を読み、その内容を理解できる。 (4) PCやスマートフォンを用いた e-Learning による自律的英語学習に取り組む。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。 e-learning 課題は、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。 3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読んでくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (1時間)
2	Unit 1 Shopping	Part1:写真問題 Part2:応答問題 Part5: 短文穴埋め問題	事前学習：Unit1の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (1時間)
3	Unit 1 Shopping	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit1の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (1時間)
4	Unit 2 Office Work	Part1:写真問題 Part2:応答問題 Part5: 短文穴埋め問題	事前学習：Unit2の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (1時間)
5	Unit 2 Office Work	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit2の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (1時間)
6	Unit 3 Transportation	Part1:写真問題 Part2:応答問題 Part5: 短文穴埋め問題	事前学習：Unit3の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (1時間)
7	Unit 3 Transportation	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit3の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (1時間)
8	Unit 4 Travel & Eating Out	Part1:写真問題 Part2:応答問題 Part5: 短文穴埋め問題	事前学習：Unit4の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (1時間)
9	Unit 4 Travel & Eating Out	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit4の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (1時間)
10	Unit 5 Meetings	Part1:写真問題 Part2:応答問題 Part5: 短文穴埋め問題	事前学習：Unit5の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (1時間)
11	Unit 5 Meetings	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit5の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (1時間)
12	Unit 6 Web Sites	Part2:応答問題 Part3:会話問題	事前学習：Unit6の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (1時間)
13	Unit 6 Web Sites	Part5:短文穴埋め問題 Part7: 読解問題 精読タイム	事前学習：Unit6の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (1時間)
14	Unit 7 Advertising	Part2:応答問題 Part4:トーク問題 Part5:短文穴埋め問題	事前学習：Unit7の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (1時間)
15	まとめ & 復習テスト	Unit 1 から Unit 7 の総復習	事前学習:Unit1 から Unit7 の内容を復習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)

				の課題学習 (1 時間)
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	SMART ROUTE TO THE TOEIC(R) L&R TEST	古澤弘美/Braven Smillie	セングージラーニング株式会社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	e-Learning (ATR CALL BRIX: TOEIC GO (1)) 10% 学期途中や学期末に行う復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表 90%			
学生への メッセージ	授業はマナーを守り、積極的かつ集中して参加してください。 評価方法等の詳しい内容は第 1 回目の授業でハンドアウトを配布し説明します。			
担当者の 研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	TOEIC a	科目名 (英文)	TOEIC a
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	ト
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	森田 真
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1621c0		

授業概要・目的	TOEICの問題を学修することにより、語彙力、文法力を高め、会話を正確に聞き取る能力を身に付けることを目指す。 さまざまなビジネスの場面で用いられる英会話を聞き取り、ビジネスレターやメール形式の文章を読み、その内容がすばやく理解できる能力を身に付ける。 数多くの演習問題を通して限られた時間内で正確に英文を読み取る能力と、情報を聞き取る能力を養うことを目的とする。
到達目標	(1) 簡単な会話を聞き、会話内容を問う問題に解答できる。 (2) 品詞、動詞、代名詞を問う文法問題を正確に解答できる。 (3) ビジネスレターやメール形式の英文を読み、その内容を理解できる。 (4) PCやスマートフォンを用いた e-Learning による自立的英語学習に取り組む。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。 e-learning 課題は、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。 3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読んでくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (1時間)
	2	Unit 1 Shopping	Part1:写真問題 Part2:応答問題 Part5:短文穴埋め問題	事前学習：Unit1の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (1時間)
	3	Unit 1 Shopping	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit1の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (1時間)
	4	Unit 2 Office Work	Part1:写真問題 Part2:応答問題 Part5:短文穴埋め問題	事前学習：Unit2の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (1時間)
	5	Unit 2 Office Work	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit2の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (1時間)
	6	Unit 3 Transportation	Part1:写真問題 Part2:応答問題 Part5:短文穴埋め問題	事前学習：Unit3の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (1時間)
	7	Unit 3 Transportation	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit3の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (1時間)
	8	Unit 4 Travel & Eating Out	Part1:写真問題 Part2:応答問題 Part5:短文穴埋め問題	事前学習：Unit4の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (1時間)
	9	Unit 4 Travel & Eating Out	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit4の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (1時間)
	10	Unit 5 Meetings	Part1:写真問題 Part2:応答問題 Part5:短文穴埋め問題	事前学習：Unit5の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (1時間)
	11	Unit 5 Meetings	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit5の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (1時間)
	12	Unit 6 Web Sites	Part2:応答問題 Part3:会話問題	事前学習：Unit6の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (1時間)
	13	Unit 6 Web Sites	Part5:短文穴埋め問題 Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit6の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (1時間)
	14	Unit 7 Advertising	Part2:応答問題 Part4:トーク問題 Part5:短文穴埋め問題	事前学習：Unit7の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (1時間)
	15	まとめ & 復習テスト	Unit 1 から Unit 7 の総復習	事前学習：Unit1 から Unit7 の内容を復習してくること。(1時間)

				事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習（1時間）
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	SMART ROUTE TO THE TOEIC L&R TEST	古澤弘美/Braven Smillie	センゲージラーニング株式会社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	e-Learning (ATR CALL BRIX: TOEIC GO (1)) 10% 学期途中や学期末に行う復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表 90%			
学生への メッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 1. マナー、エチケットを守り、積極的な授業への参加を求めます。 2. 予習をしていることを前提として授業を行います。 3. 「わからない」ことは、そのままにせずに質問しましょう。 4. その他、詳細については第1回目の授業で説明します。 			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	TOEIC a	科目名 (英文)	TOEIC a
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	ロ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	湊 由妃子
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1621c0		

授業概要・目的	TOEICの問題を学修することにより、語彙力、文法力を高め、会話を正確に聞き取る能力を身に付けることを目指す。さまざまなビジネスの場面で用いられる英会話を聞き取り、ビジネスレターやメール形式の文章を読み、その内容がすばやく理解できる能力を身に付ける。数多くの演習問題を通して限られた時間内で正確に英文を読み取る能力と、情報を聞き取る能力を養うことを目的とする。
到達目標	(1) 簡単な会話を聞き、会話内容を問う問題に解答できる。 (2) 品詞、動詞、代名詞を問う文法問題を正確に解答できる。 (3) ビジネスレターやメール形式の英文を読み、その内容を理解できる。 (4) PCやスマートフォンを用いた e-Learning による自律的英語学習に取り組む。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。 e-learning 課題は、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。 3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読んでくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (1時間)
2	Unit 1 Shopping	Part1:写真問題 Part2:応答問題 Part5: 短文穴埋め問題	事前学習：Unit1の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (1時間)
3	Unit 1 Shopping	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit1の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (1時間)
4	Unit 2 Office Work	Part1:写真問題 Part2:応答問題 Part5: 短文穴埋め問題	事前学習：Unit2の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (1時間)
5	Unit 2 Office Work	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit2の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (1時間)
6	Unit 3 Transportation	Part1:写真問題 Part2:応答問題 Part5: 短文穴埋め問題	事前学習：Unit3の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (1時間)
7	Unit 3 Transportation	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit3の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (1時間)
8	Unit 4 Travel & Eating Out	Part1:写真問題 Part2:応答問題 Part5: 短文穴埋め問題	事前学習：Unit4の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (1時間)
9	Unit 4 Travel & Eating Out	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit4の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (1時間)
10	Unit 5 Meetings	Part1:写真問題 Part2:応答問題 Part5: 短文穴埋め問題	事前学習：Unit5の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (1時間)
11	Unit 5 Meetings	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit5の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (1時間)
12	Unit 6 Web Sites	Part2:応答問題 Part3:会話問題	事前学習：Unit6の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (1時間)
13	Unit 6 Web Sites	Part5:短文穴埋め問題 Part7: 読解問題 精読タイム	事前学習：Unit6の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (1時間)
14	Unit 7 Advertising	Part2:応答問題 Part4:トーク問題 Part5:短文穴埋め問題	事前学習：Unit7の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (1時間)
15	まとめ & 復習テスト	Unit 1 から Unit 7 の総復習	事前学習:Unit1 から Unit7 の内容を復習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)

				の課題学習 (1 時間)
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	SMART ROUTE TO THE TOEIC(R) L&R TEST	古澤弘美/Braven Smillie	センテージラーニング株式会社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	e-Learning (ATR CALL BRIX: TOEIC GO (1)) 10% 学期途中や学期末に行う復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表 90%			
学生への メッセージ	TOEIC L&R テストで高いスコアをとるためには、英語力だけでなく、日常生活における幅広い知識が要求されます。 このコースにおいては、テストの解答のしかたを主に学習しますが、それ以外に日頃からさまざまなものごとに関心をもち、それを探求する習慣をつけるようにしましょう。 基本的なことですが、この授業に出席するときは、毎回必ず自分の教科書を持参してください。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	TOEIC a	科目名 (英文)	TOEIC a
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	二
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	柏原 郁子
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1621c0		

授業概要・目的	TOEICの問題を学修することにより、語彙力、文法力を高め、会話を正確に聞き取る能力を身に付けることを目指す。 さまざまなビジネスの場面で用いられる英会話を聞き取り、ビジネスレターやメール形式の文章を読み、その内容がすばやく理解できる能力を身に付ける。数多くの演習問題を通して限られた時間内で正確に英文を読み取る能力と、情報を聞き取る能力を養うことを目的とする。
到達目標	(1) 簡単な会話を聞き、会話内容を問う問題に解答できる。 (2) 品詞、動詞、代名詞を問う文法問題を正確に解答できる。 (3) ビジネスレターやメール形式の英文を読み、その内容を理解できる。 (4) PCやスマートフォンを用いた e-Learning による自立的英語学習に取り組む。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。 e-learning 課題は、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。 3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読んでくること。(0.5時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習(0.5時間)
2	Unit 1 Shopping	Part1:写真問題 Part2:応答問題 Part5:短文穴埋め問題	事前学習：Unit1の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習(0.5時間)
3	Unit 1 Shopping	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit1の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習(0.5時間)
4	Unit 2 Office Work	Part1:写真問題 Part2:応答問題 Part5:短文穴埋め問題	事前学習：Unit2の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習(0.5時間)
5	Unit 2 Office Work	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit2の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習(0.5時間)
6	Unit 3 Transportation	Part1:写真問題 Part2:応答問題 Part5:短文穴埋め問題	事前学習：Unit3の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習(0.5時間)
7	Unit 3 Transportation	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit3の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習(0.5時間)
8	Unit 4 Travel & Eating Out	Part1:写真問題 Part2:応答問題 Part5:短文穴埋め問題	事前学習：Unit4の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習(0.5時間)
9	Unit 4 Travel & Eating Out	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit4の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習(0.5時間)
10	Unit 5 Meetings	Part1:写真問題 Part2:応答問題 Part5:短文穴埋め問題	事前学習：Unit5の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習(0.5時間)
11	Unit 5 Meetings	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit5の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習(0.5時間)
12	Unit 6 Web Sites	Part2:応答問題 Part3:会話問題	事前学習：Unit6の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習(0.5時間)
13	Unit 6 Web Sites	Part5:短文穴埋め問題 Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit6の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習(0.5時間)
14	Unit 7 Advertising	Part2:応答問題 Part4:トーク問題 Part5:短文穴埋め問題	事前学習：Unit7の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習(0.5時間)
15	まとめ & 復習テスト	Unit 1 から Unit 7 の総復習	事前学習:Unit1 から Unit7 の内容を復習してくる。(0.5時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)

				の課題学習 (0.5 時間)
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	SMART ROUTE TO THE TOEIC(R) L&R TEST	古澤弘美/Braven Smillie	センゲージラーニング株式会社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	e-Learning (ATR CALL BRIX: TOEIC GO (1)) 10% 学期途中や学期末に行う復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表 90%			
学生への メッセージ	TOEIC(R)の形式を知り、多くの例題を繰り返し解くことで、TOEIC (R)の得点アップを目指しましょう。e-Learning 教材も積極的に活用して下さい。本学で行われる TOEIC(R)試験を積極的に受験し、目標得点に向かってチャレンジして下さい。			
担当者の 研究室等	7号館4階 柏原研究室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。			

科目名	TOEIC a	科目名 (英文)	TOEIC a
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	へ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	松木園 久子
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1621c0		

授業概要・目的	TOEICの問題を学修することにより、語彙力、文法力を高め、会話を正確に聞き取る能力を身に付けることを目指す。さまざまなビジネスの場面で用いられる英会話を聞き取り、ビジネスレターやメール形式の文章を読み、その内容がすばやく理解できる能力を身に付ける。数多くの演習問題を通して限られた時間内で正確に英文を読み取る能力と、情報を聞き取る能力を養うことを目的とする。
到達目標	(1) 簡単な会話を聞き、会話内容を問う問題に解答できる。 (2) 品詞、動詞、代名詞を問う文法問題を正確に解答できる。 (3) ビジネスレターやメール形式の英文を読み、その内容を理解できる。 (4) PCやスマートフォンを用いた e-Learning による自律的英語学習に取り組む。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。 e-learning 課題は、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。 3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読んでくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (1時間)
2	Unit 1 Shopping	Part1:写真問題 Part2:応答問題 Part5: 短文穴埋め問題	事前学習：Unit1の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (1時間)
3	Unit 1 Shopping	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit1の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (1時間)
4	Unit 2 Office Work	Part1:写真問題 Part2:応答問題 Part5: 短文穴埋め問題	事前学習：Unit2の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (1時間)
5	Unit 2 Office Work	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit2の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (1時間)
6	Unit 3 Transportation	Part1:写真問題 Part2:応答問題 Part5: 短文穴埋め問題	事前学習：Unit3の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (1時間)
7	Unit 3 Transportation	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit3の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (1時間)
8	Unit 4 Travel & Eating Out	Part1:写真問題 Part2:応答問題 Part5: 短文穴埋め問題	事前学習：Unit4の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (1時間)
9	Unit 4 Travel & Eating Out	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit4の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (1時間)
10	Unit 5 Meetings	Part1:写真問題 Part2:応答問題 Part5: 短文穴埋め問題	事前学習：Unit5の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (1時間)
11	Unit 5 Meetings	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit5の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (1時間)
12	Unit 6 Web Sites	Part2:応答問題 Part3:会話問題	事前学習：Unit6の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (1時間)
13	Unit 6 Web Sites	Part5:短文穴埋め問題 Part7: 読解問題 精読タイム	事前学習：Unit6の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (1時間)
14	Unit 7 Advertising	Part2:応答問題 Part4:トーク問題 Part5:短文穴埋め問題	事前学習：Unit7の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (1時間)
15	まとめ & 復習テスト	Unit 1 から Unit 7 の総復習	事前学習:Unit1 から Unit7 の内容を復習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)

				の課題学習 (1 時間)
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	SMART ROUTE TO THE TOEIC(R) L&R TEST	古澤弘美/Braven Smillie	セングージラーニング株式会社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	e-Learning (ATR CALL BRIX: TOEIC GO (1)) 10% 学期途中や学期末に行う復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表 90%			
学生への メッセージ	スコアの目標を立てて、達成に向け頑張りましょう。 積極的な参加を期待しています。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	TOEIC a	科目名 (英文)	TOEIC a
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	チ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	山川 温
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1621c0		

授業概要・目的	TOEICの問題を学修することにより、語彙力、文法力を高め、会話を正確に聞き取る能力を身に付けることを目指す。さまざまなビジネスの場面で用いられる英会話を聞き取り、ビジネスレターやメール形式の文章を読み、その内容がすばやく理解できる能力を身に付ける。数多くの演習問題を通して限られた時間内で正確に英文を読み取る能力と、情報を聞き取る能力を養うことを目的とする。
到達目標	(1) 簡単な会話を聞き、会話内容を問う問題に解答できる。 (2) 品詞、動詞、代名詞を問う文法問題を正確に解答できる。 (3) ビジネスレターやメール形式の英文を読み、その内容を理解できる。 (4) PCやスマートフォンを用いた e-Learning による自律的英語学習に取り組む。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。 e-learning 課題は、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。 3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読んでくること。(0.5時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (0.5時間)
2	Unit 1 Shopping	Part1:写真問題 Part2:応答問題 Part5: 短文穴埋め問題	事前学習：Unit1の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (0.5時間)
3	Unit 1 Shopping	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit1の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (0.5時間)
4	Unit 2 Office Work	Part1:写真問題 Part2:応答問題 Part5: 短文穴埋め問題	事前学習：Unit2の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (0.5時間)
5	Unit 2 Office Work	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit2の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (0.5時間)
6	Unit 3 Transportation	Part1:写真問題 Part2:応答問題 Part5: 短文穴埋め問題	事前学習：Unit3の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (0.5時間)
7	Unit 3 Transportation	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit3の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (0.5時間)
8	Unit 4 Travel & Eating Out	Part1:写真問題 Part2:応答問題 Part5: 短文穴埋め問題	事前学習：Unit4の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (0.5時間)
9	Unit 4 Travel & Eating Out	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit4の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (0.5時間)
10	Unit 5 Meetings	Part1:写真問題 Part2:応答問題 Part5: 短文穴埋め問題	事前学習：Unit5の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (0.5時間)
11	Unit 5 Meetings	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit5の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (0.5時間)
12	Unit 6 Web Sites	Part2:応答問題 Part3:会話問題	事前学習：Unit6の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (0.5時間)
13	Unit 6 Web Sites	Part5:短文穴埋め問題 Part7: 読解問題 精読タイム	事前学習：Unit6の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (0.5時間)
14	Unit 7 Advertising	Part2:応答問題 Part4:トーク問題 Part5:短文穴埋め問題	事前学習：Unit7の内容を予習してくる。(0.5時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)の課題学習 (0.5時間)
15	まとめ & 復習テスト	Unit 1 から Unit 7 の総復習	事前学習:Unit1 から Unit7 の内容を復習してくる。(0.5時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(1)

				の課題学習 (0.5 時間)
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	SMART ROUTE TO THE TOEIC(R) L&R TEST	古澤弘美/Braven Smillie	セングージラーニング株式会社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	e-Learning (ATR CALL BRIX: TOEIC GO (1)) 10% 学期途中や学期末に行う復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表 90%			
学生への メッセージ	TOEIC(R)の形式を知り、多くの例題を繰り返し解くことで、TOEIC (R)の得点アップを目指しましょう。e-Learning 教材も積極的に活用して下さい。本学で行われる TOEIC(R)試験を積極的に受験し、目標得点に向かってチャレンジして下さい。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	Communicative English Grammar	科目名 (英文)	Communicative English Grammar
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1 年	クラス	ロ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	関山 博久
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1622c0		

授業概要・目的	中高で学んだ英文法を網羅的に復習するのではなく、英語を実用的に使用するために特に必要な基礎文法項目を反復練習し、4 技能（読む・書く・聞く・話すこと）への応用力を養う。構文研究に加え、それらが実際に使用される様々な話題、場面、状況を想定し、必要な表現等も含めて、統合的に学習する。さらに、学生の自発的かつ計画的な語彙学習への取り組みを促し、平常の小テスト等でのチェックの他、語彙力テストによって最終的な習熟度を測る。
到達目標	この科目は、国際学部の1年次の学生を対象とし、英文法の体系的な理解と、英語の語彙の習得を軸としながら、英語を聞く、読む、話す、書くという4つの領域を統合した言語活動を行うことができるようになることを目標及びテーマとする。
授業方法と留意点	文法事項を学習し、例文を反復練習する。また定着を図るために授業時に小テスト等を行う。必ず辞書を持参してください。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	導入	本科目の目標・テーマや授業内容などについて説明する。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1時間)
	2	考えを文にして伝える： 英語の基本五文型	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1時間)
	3	自分の立場を表明する： 肯定文と否定文	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1時間)
	4	相手に質問する： 疑問文	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1時間)
	5	知りたい内容を求める： 疑問詞	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1時間)
	6	存在を知らせる： 存在文	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1時間)
	7	事象を客観的に表現する： 非人称の it	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1時間)
	8	基本動詞を活用する： have と get	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1時間)
	9	視点を変える： 受動態	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1時間)
	10	時系列に即して述べる： 時制	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1時間)
	11	文の内容を評価・判断する： 助動詞	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1時間)
	12	文のつながりを意識する： 代名詞	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1時間)
	13	時間や空間を指定する： 前置詞	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1時間)
	14	語彙力テスト	語彙力テストを実施する。終了後、同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイスをを行う。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1時間)
	15	総括	これまでに学んだ内容を総括する。	総復習 (1時間)

関連科目 Speaking & Writing a b, Reading a b, TOEIC a b, Drama

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ポップスでスタート！基礎英語	角山 照彦/Timothy F. Hawthorne	成美堂
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業中のテスト・発言・討論、宿題・課題・提出物等 (100%)
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	Communicative English Grammar	科目名 (英文)	Communicative English Grammar
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	二
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	山川 温
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1622c0		

授業概要・目的	中高で学んだ英文法を網羅的に復習するのではなく、英語を実用的に使用するために特に必要な基礎文法項目を反復練習し、4技能(読む・書く・聞く・話すこと)への応用力を養う。構文研究に加え、それらが実際に使用される様々な話題、場面、状況を想定し、必要な表現等も含めて、統合的に学習する。さらに、学生の自発的かつ計画的な語彙学習への取り組みを促し、平常の小テスト等でのチェックの他、語彙力テストによって最終的な習熟度を測る。
到達目標	この科目は、国際学部の1年次学生を対象とし、英文法の体系的な理解と、英語の語彙の習得を軸としながら、英語を聞く、読む、話す、書くという4つの領域を統合した言語活動を行うことができるようになることを目標及びテーマとする。
授業方法と留意点	文法事項を学習し、例文を反復練習する。また定着を図るために授業時に小テスト等を行う。必ず辞書を持参してください。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	導入	本科目の目標・テーマや授業内容などについて説明する。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1時間)
2	考えを文にして伝える： 英語の基本五文型	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1時間)
3	自分の立場を表明する： 肯定文と否定文	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1時間)
4	相手に質問する： 疑問文	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1時間)
5	知りたい内容を求める： 疑問詞	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1時間)
6	存在を知らせる： 存在文	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1時間)
7	事象を客観的に表現する： 非人称の it	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1時間)
8	基本動詞を活用する： have と get	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1時間)
9	視点を変える： 受動態	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1時間)
10	時系列に即して述べる： 時制	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1時間)
11	文の内容を評価・判断する： 助動詞	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1時間)
12	文のつながりを意識する： 代名詞	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1時間)
13	時間や空間を指定する： 前置詞	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1時間)
14	語彙力テスト	語彙力テストを実施する。終了後、同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイスを行う。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1時間)
15	総括	これまでに学んだ内容を総括する。	総復習 (1時間)

関連科目 Speaking & Writing a b, Reading a b, TOEIC a b, Drama

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	GRAMMAR CLINIC	佐藤 誠司	南雲堂
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部(編)	
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test (改訂新版)	西谷 恒志	成美堂
3			

評価方法(基準)	語彙テスト (30%) 授業中のテスト・発言・討論、宿題・提出物等 (70%)
学生へのメッセージ	英語力は日々の学習の積み重ねです。近道はありませんので、一日一日を大切に頑張ってください。
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	Communicative English Grammar	科目名 (英文)	Communicative English Grammar
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	へ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	オチエ クリスティン
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1622c0		

授業概要・目的	中高で学んだ英文法を網羅的に復習するのではなく、英語を実用的に使用するために特に必要な基礎文法項目を反復練習し、4技能（読む・書く・聞く・話すこと）への応用力を養う。構文研究に加え、それらが実際に使用される様々な話題、場面、状況を想定し、必要な表現等も含めて、統合的に学習する。さらに、学生の自発的かつ計画的な語彙学習への取り組みを促し、平常の小テスト等でのチェックの他、語彙力テストによって最終的な習熟度を測る。
到達目標	この科目は、国際学部の1年次学生を対象とし、英文法の体系的な理解と、英語の語彙の習得を軸としながら、英語を聞く、読む、話す、書くという4つの領域を統合した言語活動を行うことができるようになることをテーマ及び目標とする。
授業方法と留意点	文法事項を学習し、例文を反復練習する。また定着を図るために授業時に小テスト等を行う。必ず辞書を持参してください。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	導入	本科目の目標・テーマや授業内容などについて説明する。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1時間)
2	考えを文にして伝える： 英語の基本五文型	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1時間)
3	自分の立場を表明する： 肯定文と否定文	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1時間)
4	相手に質問する： 疑問文	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1時間)
5	知りたい内容を求める： 疑問詞	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1時間)
6	存在を知らせる： 存在文	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1時間)
7	事象を客観的に表現する： 非人称の it	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1時間)
8	基本動詞を活用する： have と get	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1時間)
9	視点を変える： 受動態	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1時間)
10	時系列に即して述べる： 時制	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1時間)
11	文の内容を評価・判断する： 助動詞	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1時間)
12	文のつながりを意識する： 代名詞	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1時間)
13	時間や空間を指定する： 前置詞	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1時間)
14	語彙力テスト	語彙力テストを実施する。終了後、同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイスを行う。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1時間)
15	総括	これまでに学んだ内容を総括する。	総復習 (1時間)

関連科目 Speaking & Writing a b, Reading a b, TOEIC a b, Drama

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Four Corners Level 1A Student's Book with Online Self-study 2nd Edition	Jack C. Richards, David Bohlke	Cambridge University Press
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部(編)	
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test (改訂新版)	西谷 恒志	成美堂	
3				

評価方法 (基準)	語彙テスト (30%) 授業中のテスト・発言・討論、宿題・提出物等 (70%)
学生へのメッセージ	語彙力・文法力は英語力の基本です。この授業を通して、しっかり力をつけていきましょう。This course will be given in English. Please try your best and don't be afraid to make mistakes.
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは週週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	Communicative English Grammar	科目名 (英文)	Communicative English Grammar
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	チ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	松木園 久子
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1622c0		

授業概要・目的	中高で学んだ英文法を網羅的に復習するのではなく、英語を実用的に使用するために特に必要な基礎文法項目を反復練習し、4技能(読む・書く・聞く・話すこと)への応用力を養う。構文研究に加え、それらが実際に使用される様々な話題、場面、状況を想定し、必要な表現等も含めて、統合的に学習する。さらに、学生の自発的かつ計画的な語彙学習への取り組みを促し、平常の小テスト等でのチェックの他、語彙力テストによって最終的な習熟度を測る。
到達目標	この科目は、国際学部の1年次の学生を対象とし、英文法の体系的な理解と、英語の語彙の習得を軸としながら、英語を聞く、読む、話す、書くという4つの領域を統合した言語活動を行うことができるようになることを目標及びテーマとする。
授業方法と留意点	文法事項を学習し、例文を反復練習する。また定着を図るために授業時に小テスト等を行う。必ず辞書を持参してください。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	導入	本科目の目標・テーマや授業内容などについて説明する。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1時間)
2	考えを文にして伝える： 英語の基本五文型	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1時間)
3	自分の立場を表明する： 肯定文と否定文	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1時間)
4	相手に質問する： 疑問文	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1時間)
5	知りたい内容を求める： 疑問詞	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1時間)
6	存在を知らせる： 存在文	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1時間)
7	事象を客観的に表現する： 非人称の it	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1時間)
8	基本動詞を活用する： have と get	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1時間)
9	視点を変える： 受動態	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1時間)
10	時系列に即して述べる： 時制	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1時間)
11	文の内容を評価・判断する： 助動詞	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1時間)
12	文のつながりを意識する： 代名詞	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1時間)
13	時間や空間を指定する： 前置詞	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1時間)
14	語彙力テスト	語彙力テストを実施する。終了後、同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイスを行う。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1時間)
15	総括	これまでに学んだ内容を総括する。	総復習 (1時間)

関連科目 Speaking & Writing a b, Reading a b, TOEIC a b, Drama

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Creative Ideas for Products & Services	竹内 理、新原由希恵(編著)	松柏社
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部(編)	
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test (改訂新版)	西谷 恒志	成美堂
3			

評価方法(基準)	語彙テスト (30%) 授業中のテスト・発言・討論、宿題・提出物等 (70%)
学生へのメッセージ	正しく読むためには、文法と語彙は不可欠です。授業を通して、これからの学びの土台作りをしていきましょう。
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	Communicative English Grammar	科目名 (英文)	Communicative English Grammar
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	イ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	田儀 勇樹
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1622c0		

授業概要・目的	中高で学んだ英文法を網羅的に復習するのではなく、英語を実用的に使用するために特に必要な基礎文法項目を反復練習し、4技能（読む・書く・聞く・話すこと）への応用力を養う。構文研究に加え、それらが実際に使用される様々な話題、場面、状況を想定し、必要な表現等も含めて、統合的に学習する。さらに、学生の自発的かつ計画的な語彙学習への取り組みを促し、平常の小テスト等でのチェックの他、語彙力テストによって最終的な習熟度を測る。
到達目標	この科目は、国際学部の1年次学生を対象とし、英文法の体系的な理解と、英語の語彙の習得を軸としながら、英語を聞く、読む、話す、書くという4つの領域を統合した言語活動を行うことができるようになることを目標及びテーマとする。
授業方法と留意点	文法事項を学習し、例文を反復練習する。また定着を図るために授業時に小テスト等を行う。必ず辞書を持参してください。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	導入	本科目の目標・テーマや授業内容などについて説明する。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1時間)
2	考えを文にして伝える： 英語の基本五文型	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1時間)
3	自分の立場を表明する： 肯定文と否定文	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1時間)
4	相手に質問する： 疑問文	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1時間)
5	知りたい内容を求める： 疑問詞	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1時間)
6	存在を知らせる： 存在文	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1時間)
7	事象を客観的に表現する： 非人称の it	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1時間)
8	基本動詞を活用する： have と get	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1時間)
9	視点を変える： 受動態	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1時間)
10	時系列に即して述べる： 時制	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1時間)
11	文の内容を評価・判断する： 助動詞	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1時間)
12	文のつながりを意識する： 代名詞	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1時間)
13	時間や空間を指定する： 前置詞	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1時間)
14	語彙力テスト	語彙力テストを実施する。終了後、同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイスを行う。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1時間)
15	総括	これまでに学んだ内容を総括する。	総復習 (1時間)

関連科目 Speaking & Writing a b, Reading a b, TOEIC a b, Drama

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部(編)	
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test (改訂新版)	西谷 恒志	成美堂
3			

評価方法 (基準)	授業中のテスト・発言・討論、宿題・課題・提出物等 (100%)
学生へのメッセージ	文法・語彙は英語学習の基本ですので、これまでに学習した内容を復習しながらしっかり身につけていきましょう。
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内または Teams を通して行う。そのほかの質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	Communicative English Grammar	科目名 (英文)	Communicative English Grammar
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	ハ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	船本 弘史
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1622c0		

授業概要・目的	中高で学んだ英文法を網羅的に復習するのではなく、英語を実用的に使用するために特に必要な基礎文法項目を反復練習し、4技能（読む・書く・聞く・話すこと）への応用力を養う。構文研究に加え、それらが実際に使用される様々な話題、場面、状況を想定し、必要な表現等も含めて、統合的に学習する。さらに、学生の自発的かつ計画的な語彙学習への取り組みを促し、平常の小テスト等でのチェックの他、語彙力テストによって最終的な習熟度を測る。
到達目標	この科目は、国際学部の1年次学生を対象とし、英文法の体系的な理解と、英語の語彙の習得を軸としながら、英語を聞く、読む、話す、書くという4つの領域を統合した言語活動を行うことができるようになることを目標及びテーマとする。
授業方法と留意点	文法事項を学習し、例文を反復練習する。また定着を図るために授業時に小テスト等を行う。必ず辞書を持参してください。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	導入	本科目の目標・テーマや授業内容などについて説明する。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1時間)
	2	考えを文にして伝える： 英語の基本五文型	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1時間)
	3	自分の立場を表明する： 肯定文と否定文	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1時間)
	4	相手に質問する： 疑問文	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1時間)
	5	知りたい内容を求める： 疑問詞	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1時間)
	6	存在を知らせる： 存在文	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1時間)
	7	事象を客観的に表現する： 非人称の it	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1時間)
	8	基本動詞を活用する： have と get	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1時間)
	9	視点を変える： 受動態	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1時間)
	10	時系列に即して述べる： 時制	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1時間)
	11	文の内容を評価・判断する： 助動詞	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1時間)
	12	文のつながりを意識する： 代名詞	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1時間)
	13	時間や空間を指定する： 前置詞	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1時間)
	14	語彙力テスト	語彙力テストを実施する。終了後、同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイスを行う。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1時間)
	15	総括	これまでに学んだ内容を総括する。	総復習 (1時間)

関連科目 Speaking & Writing a b, Reading a b, TOEIC a b, Drama

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部(編)	
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test (改訂新版)	西谷 恒志	成美堂
	3			

評価方法 (基準)	授業中のテスト・発言・討論、宿題・課題・提出物等 (100%)
学生へのメッセージ	文法・語彙は英語学習の基本ですので、これまでに学習した内容を復習しながらしっかり身につけていきましょう。
担当者の研究室等	7号館5階 船本研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。そのほかの質問等は出講時に研究室にて対応する。

科目名	Communicative English Grammar	科目名 (英文)	Communicative English Grammar
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	ホ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	村田 幸一
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1622c0		

授業概要・目的	中高で学んだ英文法を網羅的に復習するのではなく、英語を実用的に使用するために特に必要な基礎文法項目を反復練習し、4技能（読む・書く・聞く・話すこと）への応用力を養う。構文研究に加え、それらが実際に使用される様々な話題、場面、状況を想定し、必要な表現等も含めて、統合的に学習する。さらに、学生の自発的かつ計画的な語彙学習への取り組みを促し、平常の小テスト等でのチェックの他、語彙力テストによって最終的な習熟度を測る。
到達目標	この科目は、国際学部の1年次の学生を対象とし、英文法の体系的な理解と、英語の語彙の習得を軸としながら、英語を聞く、読む、話す、書くという4つの領域を統合した言語活動を行うことができるようになることを目標及びテーマとする。
授業方法と留意点	文法事項を学習し、例文を反復練習する。また定着を図るために授業時に小テスト等を行う。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	導入	本科目の目標・テーマや授業内容などについて説明する。	文法の理解と小テストの準備、また授業中に扱った単語表現の暗記。(1時間)
2	Unit1 Speaking About Yourself	文法は主に配布資料を使い理解を深める。適宜テキストのアクティビティを通してアウトプットによる定着を図る。	文法の理解と小テストの準備、また授業中に扱った単語表現の暗記。(1時間)
3	Unit2 What Do You Do?	文法は主に配布資料を使い理解を深める。適宜テキストのアクティビティを通してアウトプットによる定着を図る。	文法の理解と小テストの準備、また授業中に扱った単語表現の暗記。(1時間)
4	Unit3 What Does He Look Like?	文法は主に配布資料を使い理解を深める。適宜テキストのアクティビティを通してアウトプットによる定着を図る。	文法の理解と小テストの準備、また授業中に扱った単語表現の暗記。(1時間)
5	Unit4 Where Are You From?	文法は主に配布資料を使い理解を深める。適宜テキストのアクティビティを通してアウトプットによる定着を図る。	文法の理解と小テストの準備、また授業中に扱った単語表現の暗記。(1時間)
6	Unit5 Likes and Dislikes.	文法は主に配布資料を使い理解を深める。適宜テキストのアクティビティを通してアウトプットによる定着を図る。	文法の理解と小テストの準備、また授業中に扱った単語表現の暗記。(1時間)
7	Unit6 What's She Like?	文法は主に配布資料を使い理解を深める。適宜テキストのアクティビティを通してアウトプットによる定着を図る。	文法の理解と小テストの準備、また授業中に扱った単語表現の暗記。(1時間)
8	Units1~6 Review	これまでに学んだ内容を総括する。	文法の理解と小テストの準備、また授業中に扱った単語表現の暗記。(1時間)
9	Unit7 Tell Me About Your Family?	文法は主に配布資料を使い理解を深める。適宜テキストのアクティビティを通してアウトプットによる定着を図る。	文法の理解と小テストの準備、また授業中に扱った単語表現の暗記。(1時間)
10	Unit8 Communication	文法は主に配布資料を使い理解を深める。適宜テキストのアクティビティを通してアウトプットによる定着を図る。	文法の理解と小テストの準備、また授業中に扱った単語表現の暗記。(1時間)
11	Unit9 How Are You Feeling?	文法は主に配布資料を使い理解を深める。適宜テキストのアクティビティを通してアウトプットによる定着を図る。	文法の理解と小テストの準備、また授業中に扱った単語表現の暗記。(1時間)
12	Unit10 Memories	文法は主に配布資料を使い理解を深める。適宜テキストのアクティビティを通してアウトプットによる定着を図る。	文法の理解と小テストの準備、また授業中に扱った単語表現の暗記。(1時間)
13	Unit11 How Healthy Are You?	文法は主に配布資料を使い理解を深める。適宜テキストのアクティビティを通してアウトプットによる定着を図る。	文法の理解と小テストの準備、また授業中に扱った単語表現の暗記。(1時間)
14	Unit12 You can Fly!	語彙力テストを実施する。終了後、同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイスをを行う。	文法の理解と小テストの準備、また授業中に扱った単語表現の暗記。(1時間)
15	Units7~12 Review	これまでに学んだ内容を総括する。	文法の理解と小テストの準備、また授業中に扱った単語表現の暗記。(1時間)

関連科目 Speaking & Writing a b, Reading a b, TOEIC a b, Drama

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Speaking of People	Peter Vincent 他	南雲堂
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	授業中の小テスト (2点 (7回目、15回目以外) ×5回 + 5点 (7回目、15回目) ×2回) 20% 発言・討論、宿題・課題・提出物等 40% 定期テスト 40%
-----------	---

学生への 文法・語彙は英語学習の基本ですので、これまでに学習した内容を復習しながらしっかり身につけていきましょう。

メッセージ	
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	

科目名	Communicative English Grammar	科目名 (英文)	Communicative English Grammar
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1 年	クラス	ト
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	西谷 継治
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1622c0		

授業概要・目的	中高で学んだ英文法を網羅的に復習するのではなく、英語を実用的に使用するために特に必要な基礎文法項目を反復練習し、4 技能（読む・書く・聞く・話すこと）への応用力を養う。構文研究に加え、それらが実際に使用される様々な話題、場面、状況を想定し、必要な表現等も含めて、統合的に学習する。さらに、学生の自発的かつ計画的な語彙学習への取り組みを促し、平常の小テスト等でのチェックの他、語彙力テストによって最終的な習熟度を測る。
到達目標	この科目は、国際学部の1年次学生を対象とし、英文法の体系的な理解と、英語の語彙の習得を軸としながら、英語を聞く、読む、話す、書くという4つの領域を統合した言語活動を行うことができるようになることを目標及びテーマとする。
授業方法と留意点	文法事項を学習し、例文を反復練習する。また定着を図るために授業時に小テスト等を行う。必ず辞書を持参してください。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	導入	本科目の目標・テーマや授業内容などについて説明する。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1 時間)
2	考えを文にして伝える：英語の基本五文型	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1 時間)
3	自分の立場を表明する：肯定文と否定文	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1 時間)
4	相手に質問する：疑問文	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1 時間)
5	知りたい内容を求める：疑問詞	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1 時間)
6	存在を知らせる：存在文	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1 時間)
7	事象を客観的に表現する：非人称の it	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1 時間)
8	基本動詞を活用する：have と get	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1 時間)
9	視点を変える：受動態	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1 時間)
10	時系列に即して述べる：時制	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1 時間)
11	文の内容を評価・判断する：助動詞	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1 時間)
12	文のつながりを意識する：代名詞	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1 時間)
13	時間や空間を指定する：前置詞	例文・語彙とともに学ぶ。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1 時間)
14	語彙力テスト	語彙力テストを実施する。終了後、同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイスを行う。	文法の理解と例文の暗唱練習を通じた学習、指示された範囲の単語と例文の学習 (1 時間)
15	総括	これまでに学んだ内容を総括する。	総復習 (1 時間)

関連科目 Speaking & Writing a b, Reading a b, TOEIC a b, Drama

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Slow & Steady	Tatsuzo Sato et al.	南雲堂
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部(編)	
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test (改訂新版)	西谷 恒志	成美堂
3			

評価方法 (基準)	授業中のテスト・発言・討論、宿題・課題・提出物等 (100%)
学生へのメッセージ	文法・語彙は英語学習の基本ですので、これまでに学習した内容を復習しながらしっかり身につけていきましょう。
担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。そのほかの質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	Speaking & Writing b	科目名 (英文)	Speaking & Writing b
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	①
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ニール カー
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1623c0		

授業概要・目的	共通教材『Setsunan Freshman Speaking & Writing』を用いて、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3] を目標とし、自分に関連する情報 (個人情報・家族情報)、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができ、趣味や好き嫌いについて、複数の文を用いて表現できるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に 50 words 以上の英文が書けるようになる。
授業方法と留意点	共通テキスト『Setsunan Freshman Speaking & Writing』を用いて、日常的な表現や基本的な言い回しを英語で発話できるように反復練習を行う。また、50 words 程度の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	日常のルーティンを説明することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
3	意見を表明するための表現	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
4	意見を表明することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
5	相手の意見に賛成・反対するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
6	相手の意見に賛成・反対することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
7	学習内容の確認と振り返り活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
8	説明を一般化するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
9	説明を一般化することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
10	提案するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
11	提案することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
12	推測に係る表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
13	推測することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
14	学習内容の確認と総合的活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
15	新年の抱負について英語で語る	プレゼンテーション演習	総復習 (1 時間)

関連科目 Communicative English Grammar, Speaking & Writing b

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	発音テスト 10% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 90%
学生へのメッセージ	Students who engage enthusiastically in activities, preview and review lessons, and do their homework assignments will achieve the most from this course. Pair and group work will form the core of each class.
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表 やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	Speaking & Writing b	科目名 (英文)	Speaking & Writing b
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	③
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	グランド パーシム
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1623c0		

授業概要・目的	共通教材『Setsunan Freshman Speaking & Writing』を用いて、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR J[A1.3]を目標とし、自分に関連する情報 (個人情報・家族情報)、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができ、趣味や好き嫌いについて、複数の文を用いて表現できるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に 50 words 以上の英文が書けるようになる。
授業方法と留意点	共通テキスト『Setsunan Freshman Speaking & Writing』を用いて、日常的な表現や基本的な言い回しを英語で発話できるように反復練習を行う。また、50 words 程度の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	日常のルーティンを説明することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
3	意見を表明するための表現	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
4	意見を表明することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
5	相手の意見に賛成・反対するための表現	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
6	相手の意見に賛成・反対することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
7	学習内容の確認と振り返り活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
8	説明を一般化するための表現	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
9	説明を一般化することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
10	提案するための表現	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
11	提案することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
12	推測に係る表現	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
13	推測することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
14	学習内容の確認と総合的活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
15	新年の抱負について英語で語る	プレゼンテーション演習	総復習 (1 時間)

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準) 発音テスト 10%
授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 90%.

学生へのメッセージ
頑張ってください。質問があれば、いつでも来てください。
授業はマナーを守って受けてください。
実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法により、単文にとどまらず複数の文を発話できるようになります。
演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目です。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了してください。

担当者の研究室等 7号館 2階 非常勤講師室

備考 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	Speaking & Writing b	科目名 (英文)	Speaking & Writing b
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	⑤
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ジェフリー ベル
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1623c0		

授業概要・目的	共通教材『Setsunan Freshman Speaking & Writing』を用いて、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3] を目標とし、自分に関連する情報 (個人情報・家族情報)、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができ、趣味や好き嫌いについて、複数の文を用いて表現できるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に 50 words 以上の英文が書けるようになる。
授業方法と留意点	共通テキスト『Setsunan Freshman Speaking & Writing』を用いて、日常的な表現や基本的な言い回しを英語で発話できるように反復練習を行う。また、50 words 程度の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	日常のルーティンを説明することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
3	意見を表明するための表現	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
4	意見を表明することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
5	相手の意見に賛成・反対するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
6	相手の意見に賛成・反対することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
7	学習内容の確認と振り返り活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
8	説明を一般化するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
9	説明を一般化することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
10	提案するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
11	提案することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
12	推測に係る表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
13	推測することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
14	学習内容の確認と総合的活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
15	新年の抱負について英語で語る	プレゼンテーション演習	総復習 (1 時間)

関連科目 Communicative English Grammar, Speaking & Writing b

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準) 発音テスト 10%
授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 90%

学生へのメッセージ We will do a lot of speaking in this class. Be ready to share your ideas with your classmates.

担当者の研究室等 7 号館 2 階 非常勤講師室

備考 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表 やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	Speaking & Writing b	科目名 (英文)	Speaking & Writing b
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	⑦
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ブライアン スレーター
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1623c0		

授業概要・目的	共通教材『Setsunan Freshman Speaking & Writing』を用いて、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3] を目標とし、自分に関連する情報 (個人情報・家族情報)、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができ、趣味や好き嫌いについて、複数の文を用いて表現できるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に 50 words 以上の英文が書けるようになる。
授業方法と留意点	共通テキスト『Setsunan Freshman Speaking & Writing』を用いて、日常的な表現や基本的な言い回しを英語で発話できるように反復練習を行う。また、50 words 程度の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	日常のルーティンを説明することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
3	意見を表明するための表現	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
4	意見を表明することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
5	相手の意見に賛成・反対するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
6	相手の意見に賛成・反対することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
7	学習内容の確認と振り返り活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
8	説明を一般化するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
9	説明を一般化することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
10	提案するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
11	提案することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
12	推測に係る表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
13	推測することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
14	学習内容の確認と総合的活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
15	新年の抱負について英語で語る	プレゼンテーション演習	総復習 (1 時間)

関連科目 Communicative English Grammar, Speaking & Writing b

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準) 発音テスト 10%
授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 90%

学生へのメッセージ このクラスは英語でのコミュニケーションクラスです。英語を使う努力をし、積極的に授業に参加することが期待されます。また、出席率が高いことが期待されます。This is an English communication class. Students are expected make an effort to use English and actively participate in class activities. Good attendance is also expected.

担当者の研究室等 7号館2階 非常勤講師室

備考 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表 やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	Speaking & Writing b	科目名 (英文)	Speaking & Writing b
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	⑨
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	バナム マシュー
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1623c0		

授業概要・目的	共通教材『Setsunan Freshman Speaking & Writing』を用いて、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3]を目標とし、自分に関連する情報(個人情報・家族情報)、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができ、趣味や好き嫌いについて、複数の文を用いて表現できるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に 50 words 以上の英文が書けるようになる。
授業方法と留意点	共通テキスト『Setsunan Freshman Speaking & Writing』を用いて、日常的な表現や基本的な言い回しを英語で発話できるように反復練習を行う。また、50 words 程度の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。
科目学習の効果(資格)	TOEIC、英検

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	日常のルーティンを説明することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
3	意見を表明するための表現	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
4	意見を表明することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
5	相手の意見に賛成・反対するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
6	相手の意見に賛成・反対することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
7	学習内容の確認と振り返り活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
8	説明を一般化するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
9	説明を一般化することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
10	提案するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
11	提案することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
12	推測に係る表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
13	推測することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
14	学習内容の確認と総合的活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱(1時間)
15	新年の抱負について英語で語る	プレゼンテーション演習	総復習(1時間)

関連科目 Communicative English Grammar, Speaking & Writing b

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)	発音テスト 10% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 90%
学生へのメッセージ	Students who engage enthusiastically in activities, preview and review lessons, do their homework assignments will achieve most from this course. Pair and group work will form the core of each class.
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	Speaking & Writing b	科目名 (英文)	Speaking & Writing b
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	②
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	グランド パーシム
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1623c0		

授業概要・目的	共通教材『Setsunan Freshman Speaking & Writing』を用いて、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3] を目標とし、自分に関連する情報 (個人情報・家族情報)、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができ、趣味や好き嫌いについて、複数の文を用いて表現できるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に 50 words 以上の英文が書けるようになる。
授業方法と留意点	共通テキスト『Setsunan Freshman Speaking & Writing』を用いて、日常的な表現や基本的な言い回しを英語で発話できるように反復練習を行う。また、50 words 程度の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	日常のルーティンを説明することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
3	意見を表明するための表現	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
4	意見を表明することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
5	相手の意見に賛成・反対するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
6	相手の意見に賛成・反対することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
7	学習内容の確認と振り返り活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
8	説明を一般化するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
9	説明を一般化することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
10	提案するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
11	提案することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
12	推測に係る表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
13	推測することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
14	学習内容の確認と総合的活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
15	新年の抱負について英語で語る	プレゼンテーション演習	総復習 (1 時間)

関連科目 Communicative English Grammar, Speaking & Writing a

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	発音テスト 10% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 90%
学生へのメッセージ	We will do a lot of speaking in this class. Be ready to share your ideas with your classmates. Please make sure to submit your journals, and other work, on time.
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表 やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	Speaking & Writing b	科目名 (英文)	Speaking & Writing b
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	④
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ジェフリー ベル
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1623c0		

授業概要・目的	共通教材『Setsunan Freshman Speaking & Writing』を用いて、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3]を目標とし、自分に関連する情報（個人情報・家族情報）、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができ、趣味や好き嫌いについて、複数の文を用いて表現できるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に 50 words 以上の英文が書けるようになる。
授業方法と留意点	共通テキスト『Setsunan Freshman Speaking & Writing』を用いて、日常的な表現や基本的な言い回しを英語で発話できるように反復練習を行う。また、50 words 程度の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	日常のルーティンを説明することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
3	意見を表明するための表現	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
4	意見を表明することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
5	相手の意見に賛成・反対するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
6	相手の意見に賛成・反対することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
7	学習内容の確認と振り返り活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
8	説明を一般化するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
9	説明を一般化することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
10	提案するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
11	提案することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
12	推測に係る表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
13	推測することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
14	学習内容の確認と総合的活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
15	新年の抱負について英語で語る	プレゼンテーション演習	総復習 (1時間)

関連科目 Communicative English Grammar, Speaking & Writing a

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準) 発音テスト 10%
授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 90%

学生へのメッセージ We will do a lot of speaking in this class. Be ready to share your ideas with your classmates.

担当者の研究室等 7号館2階 非常勤講師室

備考 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表 やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	Speaking & Writing b	科目名 (英文)	Speaking & Writing b
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	⑥
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ブライアン スレーター
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1623c0		

授業概要・目的	共通教材『Setsunan Freshman Speaking & Writing』を用いて、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3] を目標とし、自分に関連する情報 (個人情報・家族情報)、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができ、趣味や好き嫌いについて、複数の文を用いて表現できるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に 50 words 以上の英文が書けるようになる。
授業方法と留意点	共通テキスト『Setsunan Freshman Speaking & Writing』を用いて、日常的な表現や基本的な言い回しを英語で発話できるように反復練習を行う。また、50 words 程度の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	日常のルーティンを説明することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
3	意見を表明するための表現	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
4	意見を表明することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
5	相手の意見に賛成・反対するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
6	相手の意見に賛成・反対することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
7	学習内容の確認と振り返り活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
8	説明を一般化するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
9	説明を一般化することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
10	提案するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
11	提案することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
12	推測に係る表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
13	推測することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
14	学習内容の確認と総合的活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
15	新年の抱負について英語で語る	プレゼンテーション演習	総復習 (1 時間)

関連科目 Communicative English Grammar, Speaking & Writing a

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準) 発音テスト 10%
授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 90%

学生へのメッセージ このクラスは英語でのコミュニケーションクラスです。英語を使う努力をし、積極的に授業に参加することが期待されます。また、出席率が高いことが期待されます。This is an English communication class. Students are expected make an effort to use English and actively participate in class activities. Good attendance is also expected.

担当者の研究室等 7号館2階 非常勤講師室

備考 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表 やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	Speaking & Writing b	科目名 (英文)	Speaking & Writing b
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	⑧
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ニール カー
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1623c0		

授業概要・目的	共通教材『Setsunan Freshman Speaking & Writing』を用いて、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3] を目標とし、自分に関連する情報 (個人情報・家族情報)、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができ、趣味や好き嫌いについて、複数の文を用いて表現できるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に 50 words 以上の英文が書けるようになる。
授業方法と留意点	共通テキスト『Setsunan Freshman Speaking & Writing』を用いて、日常的な表現や基本的な言い回しを英語で発話できるように反復練習を行う。また、50 words 程度の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	日常のルーティンを説明することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
3	意見を表明するための表現	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
4	意見を表明することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
5	相手の意見に賛成・反対するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
6	相手の意見に賛成・反対することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
7	学習内容の確認と振り返り活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
8	説明を一般化するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
9	説明を一般化することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
10	提案するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
11	提案することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
12	推測に係る表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
13	推測することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
14	学習内容の確認と総合的活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
15	新年の抱負について英語で語る	プレゼンテーション演習	総復習 (1 時間)

関連科目 Communicative English Grammar, Speaking & Writing b

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	発音テスト 10% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 90%
学生へのメッセージ	Students who engage enthusiastically in activities, preview and review lessons, and do their homework assignments will achieve the most from this course. Pair and group work will form the core of each class.
担当者の研究室等	7号館 2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表 やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	Speaking & Writing b	科目名 (英文)	Speaking & Writing b
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	⑩
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	バナム マシュー
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1623c0		

授業概要・目的	共通教材『Setsunan Freshman Speaking & Writing』を用いて、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3] を目標とし、自分に関連する情報 (個人情報・家族情報)、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができ、趣味や好き嫌いについて、複数の文を用いて表現できるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に 50 words 以上の英文が書けるようになる。
授業方法と留意点	共通テキスト『Setsunan Freshman Speaking & Writing』を用いて、日常的な表現や基本的な言い回しを英語で発話できるように反復練習を行う。また、50 words 程度の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	日常のルーティンを説明することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
3	意見を表明するための表現	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
4	意見を表明することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
5	相手の意見に賛成・反対するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
6	相手の意見に賛成・反対することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
7	学習内容の確認と振り返り活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
8	説明を一般化するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
9	説明を一般化することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
10	提案するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
11	提案することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
12	推測に係る表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
13	推測することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
14	学習内容の確認と総合的活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
15	新年の抱負について英語で語る	プレゼンテーション演習	総復習 (1 時間)

関連科目 Communicative English Grammar, Speaking & Writing b

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準) 発音テスト 10%
授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 90%

学生へのメッセージ We will do a lot of speaking in this class. Be ready to share your ideas with your classmates. The more you try in 1st year, the better your English will be. Improving your language skills takes a lot of effort. Be ready.

担当者の研究室等 7号館2階 非常勤講師室

備考 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表 やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	Reading b	科目名 (英文)	Reading b
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	イ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	柏原 郁子
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1624c0		

授業概要・目的	大量の情報から必要なものを正確に選び取り、また会話に必要な語彙や多様な表現を習得するために、読解能力は欠かせない。英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)を実施する。毎回の授業で、読解時間を測って速読し(目標 150WPM)、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。また多読活動が行われることがある。速読や多読を通じてパラグラフリーディングなどの読解技術を学ぶ。
到達目標	この授業では、Reading aより語彙数も多く、文章の構造もやや複雑な英文を読み、ある程度長いまとまりをもつ英文を読みこなす力を育成することを目的とする。
授業方法と留意点	速読・精読・多読の3つの活動に取り組む。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	英文の速読および精読活動を通じて、スキル(サポーティングアイデア)の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習 (1時間)
3	省略について理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習 (1時間)
4	英文の速読および精読活動を通じて、スキル(文章構成:時系列)の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習 (1時間)
5	韻について理解を深める(1)頭韻	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習 (1時間)
6	英文の速読および精読活動を通じて、スキル(文章構成:比較)の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習 (1時間)
7	韻について理解を深める(2)脚韻	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習 (1時間)
8	英文の速読および精読活動を通じて、スキル(文章構成:原因結果)の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習 (1時間)
9	韻について理解を深める(3)押韻	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習 (1時間)
10	英文の速読および精読活動を通じて、スキル(文章構成:プロセス)の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習 (1時間)
11	パロディについて理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習 (1時間)
12	英文の速読および精読活動を通じて、スキル(サマリー)の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習 (1時間)
13	レトリックについて理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習 (1時間)
14	英文の速読および精読活動を通じて、スキル(復習)の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習 (1時間)
15	リーディングスキルについての総括を行い、確認テストを実施する	まとめ 確認テスト 振り返り	多読課題 総復習 (1時間)

関連科目	Speaking & Writing b
------	----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Q:Skills for Success Reading and Writing 1A	Sarah Lynn	Oxford University Press
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	速読・多読活動 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
学生への メッセージ	精読・速読・多読を通じて、英語を読む楽しさを体験して下さい。
担当者の 研究室等	7号館4階 柏原研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。そのほかの質問等は出講時に研究室にて対応する。

科目名	Reading b	科目名 (英文)	Reading b
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	ハ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	齋藤 安以子
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1624c0		

授業概要・目的	大量の情報から必要なものを正確に選び取り、また会話に必要な語彙や多様な表現を習得するために、読解能力は欠かせない。英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)を実施する。毎回の授業で、読解時間を測って速読し(目標 150WPM)、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。また多読活動が行われることがある。速読や多読を通じてパラグラフリーディングなどの読解技術を学ぶ。
到達目標	この授業では、Reading aより語彙数も多く、文章の構造もやや複雑な英文を読み、ある程度長いまとまりをもつ英文を読みこなす力を育成することを目的とする。
授業方法と留意点	速読・精読・多読の3つの活動に取り組む。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	英文の速読および精読活動を通じて、スキル(サポーティングアイデア)の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習(1時間)
3	省略について理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習(1時間)
4	英文の速読および精読活動を通じて、スキル(文章構成:時系列)の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習(1時間)
5	韻について理解を深める(1)頭韻	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習(1時間)
6	英文の速読および精読活動を通じて、スキル(文章構成:比較)の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習(1時間)
7	韻について理解を深める(2)脚韻	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習(1時間)
8	英文の速読および精読活動を通じて、スキル(文章構成:原因結果)の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習(1時間)
9	韻について理解を深める(3)押韻	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習(1時間)
10	英文の速読および精読活動を通じて、スキル(文章構成:プロセス)の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習(1時間)
11	パロディについて理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習(1時間)
12	英文の速読および精読活動を通じて、スキル(サマリー)の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習(1時間)
13	レトリックについて理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習(1時間)
14	英文の速読および精読活動を通じて、スキル(復習)の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習(1時間)
15	リーディングスキルについての総括を行い、確認テストを実施する	まとめ 確認テスト 振り返り	多読課題 総復習(1時間)

関連科目	Speaking & Writing b
------	----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Timed Reading for Fluency 1	Paul Nation & Casey Malarcher	Seed Learning
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Graded Readers シリーズ(Pearson Readers, Oxford Bookworms Library, Macmillan Readers, Cambridge English Readers など)、洋楽の歌詞、英米の短編小説、英語圏のライトノベル		

	2			
	3			
評価方法 (基準)	速読・多読活動 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%			
学生への メッセージ	いろいろなタイプの英語で書かれた文章に触れながら、教養を身につけましょう。 検定試験の英文や法律の文章のように、意味が一通りになるように書かれた英語もあれば、歌詞や物語のように読者の側の経験やその時の気持ちによって意味が変わって読み取れる英語もあります。同じ文章から、以前よりたくさん情報を引き出せるようになるって、お得です！			
担当者の 研究室等	7号館 4階 齋藤研究室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。そのほかの質問等は出講時に研究室にて対応する。			

科目名	Reading b	科目名 (英文)	Reading b
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	ホ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	西川 眞由美
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1624c0		

授業概要・目的	大量の情報から必要なものを正確に選び取り、また会話に必要な語彙や多様な表現を習得するために、読解能力は欠かせない。英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)を実施する。毎回の授業で、読解時間を測って速読し(目標 150WPM)、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。また多読活動が行われることがある。速読や多読を通じてパラグラフリーディングなどの読解技術を学ぶ。
到達目標	この授業では、Reading aより語彙数も多く、文章の構造もやや複雑な英文を読み、ある程度長いまとまりをもつ英文を読みこなす力を育成することを目的とする。
授業方法と留意点	速読・精読・多読の3つの活動に取り組む。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	同語反復について理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習(1時間)
2	英文の速読および精読活動を通じて、スキル(サポーティングアイデア)の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習(1時間)
3	省略について理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習(1時間)
4	英文の速読および精読活動を通じて、スキル(文章構成:時系列)の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習(1時間)
5	韻について理解を深める(1)頭韻	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習(1時間)
6	英文の速読および精読活動を通じて、スキル(文章構成:比較)の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習(1時間)
7	韻について理解を深める(2)脚韻	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習(1時間)
8	英文の速読および精読活動を通じて、スキル(文章構成:原因結果)の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習(1時間)
9	韻について理解を深める(3)押韻	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習(1時間)
10	英文の速読および精読活動を通じて、スキル(文章構成:プロセス)の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習(1時間)
11	パロディについて理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習(1時間)
12	英文の速読および精読活動を通じて、スキル(サマリー)の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習(1時間)
13	レトリックについて理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習(1時間)
14	英文の速読および精読活動を通じて、スキル(復習)の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習(1時間)
15	リーディングスキルについての総括を行い、確認テストを実施する	まとめ 確認テスト 振り返り	多読課題 総復習(1時間)

関連科目	Speaking & Writing b
------	----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Reading Upgrade for the TOEIC Test	Tomoko Yabukoshi, Ryan Smithers	金星堂
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Graded Readers シリーズ(Pearson Readers, Oxford Bookworms Library, Macmillan Readers, Cambridge English Readers など)、洋楽の歌詞、英米の短編小説、英語圏のライトノベル		

	2			
	3			
評価方法 (基準)	速読・多読活動 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%			
学生への メッセージ	たくさんの英文を読んで、読解力を養います。同時に資格試験にも対応できるスキルも学びましょう。			
担当者の 研究室等	7号館4階西川研究室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。そのほかの質問等は出講時に研究室にて対応する。			

科目名	Reading b	科目名 (英文)	Reading b
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	ト
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	藤原 崇
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1624c0		

授業概要・目的	大量の情報から必要なものを正確に選び取り、また会話に必要な語彙や多様な表現を習得するために、読解能力は欠かせない。英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)を実施する。毎回の授業で、読解時間を測って速読し(目標 150WPM)、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。また多読活動が行われることがある。速読や多読を通じてパラグラフリーディングなどの読解技術を学ぶ。
到達目標	この授業では、Reading aより語彙数も多く、文章の構造もやや複雑な英文を読み、ある程度長いまとまりをもつ英文を読みこなす力を育成することを目的とする。
授業方法と留意点	速読・精読・多読の3つの活動に取り組む。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	英文の速読および精読活動を通じて、スキル(サポーティングアイデア)の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習(1時間)
3	省略について理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習(1時間)
4	英文の速読および精読活動を通じて、スキル(文章構成:時系列)の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習(1時間)
5	韻について理解を深める(1)頭韻	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習(1時間)
6	英文の速読および精読活動を通じて、スキル(文章構成:比較)の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習(1時間)
7	韻について理解を深める(2)脚韻	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習(1時間)
8	英文の速読および精読活動を通じて、スキル(文章構成:原因結果)の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習(1時間)
9	韻について理解を深める(3)押韻	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習(1時間)
10	英文の速読および精読活動を通じて、スキル(文章構成:プロセス)の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習(1時間)
11	パロディについて理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習(1時間)
12	英文の速読および精読活動を通じて、スキル(サマリー)の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習(1時間)
13	レトリックについて理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習(1時間)
14	英文の速読および精読活動を通じて、スキル(復習)の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習(1時間)
15	リーディングスキルについての総括を行い、確認テストを実施する	まとめ 確認テスト 振り返り	多読課題 総復習(1時間)

関連科目	Speaking & Writing b
------	----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Timed Reading for Fluency 1	Paul Nation & Casey Malarcher	Seed Learning
2	リーディング力アップのための7つの方略 Book 1	池田 真生子 / 清水 綾香 / Michelle Witte / Zachary Fillingham / Gregory John Bahlmann	成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Graded Readers シリーズ(Pearson Readers, Oxford)		

		Bookworms Library, Macmillan Readers, Cambridge English Readers など)、洋楽の歌詞、英米の短編小説、英語圏のライトノベル		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	速読・多読活動 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%			
学生への メッセージ	精読・速読・多読を通じて、英語を読む習慣を身につけて下さい。一冊でも多く、英語書籍を読んで、英語を読む楽しみを経験して下さい。			
担当者の 研究室等	7号館4階 藤原研究室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。そのほかの質問等は出講時に研究室にて対応する。			

科目名	Reading b	科目名 (英文)	Reading b
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	ロ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	藤原 崇
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1624c0		

授業概要・目的	大量の情報から必要なものを正確に選び取り、また会話に必要な語彙や多様な表現を習得するために、読解能力は欠かせない。英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)を実施する。毎回の授業で、読解時間を測って速読し(目標 150WPM)、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。また多読活動が行われることがある。速読や多読を通じてパラグラフリーディングなどの読解技術を学ぶ。
到達目標	この授業では、Reading aより語彙数も多く、文章の構造もやや複雑な英文を読み、ある程度長いまとまりをもつ英文を読みこなす力を育成することを目的とする。
授業方法と留意点	速読・精読・多読の3つの活動に取り組む。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	同語反復について理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習 (1時間)
2	英文の速読および精読活動を通じて、スキル(サポーティングアイデア)の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習 (1時間)
3	省略について理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習 (1時間)
4	英文の速読および精読活動を通じて、スキル(文章構成:時系列)の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習 (1時間)
5	韻について理解を深める(1)頭韻	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習 (1時間)
6	英文の速読および精読活動を通じて、スキル(文章構成:比較)の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習 (1時間)
7	韻について理解を深める(2)脚韻	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習 (1時間)
8	英文の速読および精読活動を通じて、スキル(文章構成:原因結果)の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習 (1時間)
9	韻について理解を深める(3)押韻	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習 (1時間)
10	英文の速読および精読活動を通じて、スキル(文章構成:プロセス)の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習 (1時間)
11	パロディについて理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習 (1時間)
12	英文の速読および精読活動を通じて、スキル(サマリー)の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習 (1時間)
13	レトリックについて理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習 (1時間)
14	英文の速読および精読活動を通じて、スキル(復習)の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習 (1時間)
15	リーディングスキルについての総括を行い、確認テストを実施する	まとめ 確認テスト 振り返り	多読課題 総復習 (1時間)

関連科目	Speaking & Writing b
------	----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Solve the Mystery and Improve Your English Reading Skills	Donald J. Sobol 吉村俊子/安田 優/川畑 彰/奥村真紀/杉村醇子/S. ジョーンズ	英宝社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				

	3		
評価方法 (基準)	速読・多読活動 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%		
学生への メッセージ	語彙・文法を基盤とした読解力を身につけていきましょう。		
担当者の 研究室等	7号館4階藤原研究室		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。そのほかの質問等は出講時に研究室にて対応する。		

科目名	Reading b	科目名 (英文)	Reading b
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	二
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	西川 眞由美
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1624c0		

授業概要・目的	大量の情報から必要なものを正確に選び取り、また会話に必要な語彙や多様な表現を習得するために、読解能力は欠かせない。英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)を実施する。毎回の授業で、読解時間を測って速読し(目標 150WPM)、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。また多読活動が行われることがある。速読や多読を通じてパラグラフリーディングなどの読解技術を学ぶ。
到達目標	この授業では、Reading aより語彙数も多く、文章の構造もやや複雑な英文を読み、ある程度長いまとまりをもつ英文を読みこなす力を育成することを目的とする。
授業方法と留意点	速読・精読・多読の3つの活動に取り組む。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	英文の速読および精読活動を通じて、スキル(サポーティングアイデア)の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習 (1時間)
3	省略について理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習 (1時間)
4	英文の速読および精読活動を通じて、スキル(文章構成:時系列)の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習 (1時間)
5	韻について理解を深める(1)頭韻	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習 (1時間)
6	英文の速読および精読活動を通じて、スキル(文章構成:比較)の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習 (1時間)
7	韻について理解を深める(2)脚韻	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習 (1時間)
8	英文の速読および精読活動を通じて、スキル(文章構成:原因結果)の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習 (1時間)
9	韻について理解を深める(3)押韻	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習 (1時間)
10	英文の速読および精読活動を通じて、スキル(文章構成:プロセス)の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習 (1時間)
11	パロディについて理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習 (1時間)
12	英文の速読および精読活動を通じて、スキル(サマリー)の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習 (1時間)
13	レトリックについて理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習 (1時間)
14	英文の速読および精読活動を通じて、スキル(復習)の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習 (1時間)
15	リーディングスキルについての総括を行い、確認テストを実施する	まとめ 確認テスト 振り返り	多読課題 総復習 (1時間)

関連科目	Speaking & Writing b
------	----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Reading Upgrade for the TOEIC Test	Tomoko Yabukoshi, Ryan Smithers	金星堂
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Graded Readers シリーズ(Pearson Readers, Oxford Bookworms Library, Macmillan Readers, Cambridge English Readers など)、洋楽の歌詞、英米の短編小説、英語圏のライトノベル		

	2			
	3			
評価方法 (基準)	速読・多読活動 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%			
学生への メッセージ	たくさんの英文を読んで読解力を養います。同時に資格試験にも対応できるスキルも学びましょう。			
担当者の 研究室等	7号館4階西川研究室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。そのほかの質問等は出講時に研究室にて対応する。			

科目名	Reading b	科目名 (英文)	Reading b
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	へ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	天野 貴史
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1624c0		

授業概要・目的	大量の情報から必要なものを正確に選び取り、また会話に必要な語彙や多様な表現を習得するために、読解能力は欠かせない。英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)を実施する。毎回の授業で、読解時間を測って速読し(目標 150WPM)、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。また多読活動が行われることがある。速読や多読を通じてパラグラフリーディングなどの読解技術を学ぶ。
到達目標	この授業では、Reading aより語彙数も多く、文章の構造もやや複雑な英文を読み、ある程度長いまとまりをもつ英文を読みこなす力を育成することを目的とする。
授業方法と留意点	速読・精読・多読の3つの活動に取り組む。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	同語反復について理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習 (1時間)
2	英文の速読および精読活動を通じて、スキル(サポーティングアイデア)の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習 (1時間)
3	省略について理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習 (1時間)
4	英文の速読および精読活動を通じて、スキル(文章構成:時系列)の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習 (1時間)
5	韻について理解を深める(1)頭韻	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習 (1時間)
6	英文の速読および精読活動を通じて、スキル(文章構成:比較)の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習 (1時間)
7	韻について理解を深める(2)脚韻	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習 (1時間)
8	英文の速読および精読活動を通じて、スキル(文章構成:原因結果)の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習 (1時間)
9	韻について理解を深める(3)押韻	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習 (1時間)
10	英文の速読および精読活動を通じて、スキル(文章構成:プロセス)の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習 (1時間)
11	パロディについて理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習 (1時間)
12	英文の速読および精読活動を通じて、スキル(サマリー)の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習 (1時間)
13	レトリックについて理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習 (1時間)
14	英文の速読および精読活動を通じて、スキル(復習)の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習 (1時間)
15	リーディングスキルについての総括を行い、確認テストを実施する	まとめ 確認テスト 振り返り	多読課題 総復習 (1時間)

関連科目	Speaking & Writing b
------	----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Night at the Museum/映画総合教材「ナイト ミュージアム」	(著者) Robert Ben Garant Thomas Lennon (編著) Kim R. Kanel 神谷久美子	松柏社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Graded Readers シリーズ(Pearson Readers, Oxford Bookworms Library, Macmillan Readers, Cambridge English Readers など)、洋楽の歌詞、英		

		米の短編小説、英語圏のライトノベル		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	速読・多読活動 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	7号館3階天野研究室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。そのほかの質問等は出講時に研究室にて対応する。			

科目名	Reading b	科目名 (英文)	Reading b
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	チ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	柏原 郁子
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1624c0		

授業概要・目的	大量の情報から必要なものを正確に選び取り、また会話に必要な語彙や多様な表現を習得するために、読解能力は欠かせない。英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)を実施する。毎回の授業で、読解時間を測って速読し(目標 150WPM)、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。また多読活動が行われることがある。速読や多読を通じてパラグラフリーディングなどの読解技術を学ぶ。
到達目標	この授業では、Reading aより語彙数も多く、文章の構造もやや複雑な英文を読み、ある程度長いまとまりをもつ英文を読みこなす力を育成することを目的とする。
授業方法と留意点	速読・精読・多読の3つの活動に取り組む。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	同語反復について理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習 (1時間)
2	英文の速読および精読活動を通じて、スキル(サポーティングアイデア)の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習 (1時間)
3	省略について理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習 (1時間)
4	英文の速読および精読活動を通じて、スキル(文章構成:時系列)の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習 (1時間)
5	韻について理解を深める(1)頭韻	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習 (1時間)
6	英文の速読および精読活動を通じて、スキル(文章構成:比較)の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習 (1時間)
7	韻について理解を深める(2)脚韻	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習 (1時間)
8	英文の速読および精読活動を通じて、スキル(文章構成:原因結果)の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習 (1時間)
9	韻について理解を深める(3)押韻	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習 (1時間)
10	英文の速読および精読活動を通じて、スキル(文章構成:プロセス)の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習 (1時間)
11	パロディについて理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習 (1時間)
12	英文の速読および精読活動を通じて、スキル(サマリー)の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習 (1時間)
13	レトリックについて理解を深める	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習 (1時間)
14	英文の速読および精読活動を通じて、スキル(復習)の定着を図る	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習・復習 (1時間)
15	リーディングスキルについての総括を行い、確認テストを実施する	まとめ 確認テスト 振り返り	多読課題 総復習 (1時間)

関連科目	Speaking & Writing b
------	----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Let's Learn English with Pop Hits!	Teruhiko Kadoyama, Timothy F. Hawthorne	成美堂
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	速読・多読活動 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
学生への メッセージ	精読・速読・多読を通じて、英語を読む楽しさを体験して下さい。
担当者の 研究室等	7号館4階 柏原研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。そのほかの質問等は出講時に研究室にて対応する。

科目名	Reading b	科目名 (英文)	Reading b
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	再
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	後藤 一章
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1624c0		

授業概要・目的	大量の英文から必要な情報を正確に選び取り、また会話に必要な語彙や多様な表現を習得するために、読解能力は欠かせない。英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)を実施する。毎回の授業で、読解時間を測って速読し(目標 150WPM)、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。また多読活動が行われることがある。速読や多読を通じてパラグラフリーディングなどの読解技術を学ぶ。
到達目標	この授業では、Reading aより語彙数も多く、文章の構造もやや複雑な英文を読み、ある程度長いまとまりをもつ英文を読みこなす力を育成することを目的とする。
授業方法と留意点	速読、精読、多読の3つの活動に取り組む。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習、復習(1時間)
2	英語の文	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習、復習(1時間)
3	品詞と働き	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習、復習(1時間)
4	名詞と冠詞	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習、復習(1時間)
5	代名詞	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習、復習(1時間)
6	形容詞・比較	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習、復習(1時間)
7	動詞	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習、復習(1時間)
8	5文型と前置詞	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習、復習(1時間)
9	助動詞	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習、復習(1時間)
10	分詞	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習、復習(1時間)
11	不定詞	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習、復習(1時間)
12	動名詞	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習、復習(1時間)
13	時制	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習、復習(1時間)
14	仮定法	速読活動 精読活動 多読活動	多読課題 授業の予習、復習(1時間)
15	総復習	まとめ 確認テスト 振り返り	多読課題 総復習(1時間)

関連科目	Speaking & Writing b
------	----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Stories of Pioneers: Paths to Reading through Grammar/文法と読解の相互学習	Kumi Yamada	松柏社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	速読、多読活動 20% 授業中の小テスト、発言、討論、宿題、提出物等 80%
学生への メッセージ	学問に王道なしです。毎日コツコツ頑張りましょう。
担当者の 研究室等	7号館5階 後藤研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に研究室にて対応する。

科目名	TOEIC b	科目名 (英文)	TOEIC b
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	イ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	松木園 久子
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1625c0		

授業概要・目的	TOEICの問題を学修することにより、語彙力、文法力を高め、複数名による会話を正確に聞き取る能力を身に付けることを目指す。 さまざまなビジネスの場面で用いられる、ビジネスレター、メール形式の文章、求人広告等を読み、その内容がすばやく理解できる能力を身に付ける。 数多くの演習問題を通して限られた時間内で正確に英文を読み取る能力と、情報を聞き取る能力を養うことを目的とする。
到達目標	(1) 電話での会話を聞き、会話内容を問う問題に解答できる。 (2) 関係代名詞・接続詞・前置詞を問う文法問題を正確に解答できる。 (3) ビジネスレター、メール、広告等の英文を読み、その内容を理解できる。 (4) PCやスマートフォンを用いた e-Learning による自立的英語学習に取り組む。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。 e-learning 課題は、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。 3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読んでくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2)の課題学習 (1時間)
	2	Unit 8 Information Technology	Part3&4:会話問題&トーク問題 Part5: 短文穴埋め問題	事前学習：Unit8の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2)の課題学習 (1時間)
	3	Unit 8 Information Technology	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit8の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2)の課題学習 (1時間)
	4	Unit 9 Phone Calls	Part3&4:会話問題&トーク問題 Part5: 短文穴埋め問題	事前学習：Unit9の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2)の課題学習 (1時間)
	5	Unit 9 Phone Calls	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit9の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2)の課題学習 (1時間)
	6	Unit 10 Construction & Landscaping	Part1:写真問題 Part3:会話問題 Part5: 短文穴埋め問題	事前学習：Unit10の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2)の課題学習 (1時間)
	7	Unit 10 Construction & Landscaping	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit10の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2)の課題学習 (1時間)
	8	Unit 11 Personnel	Part2:応答問題 Part4:トーク問題	事前学習：Unit11の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2)の課題学習 (1時間)
	9	Unit 11 Personnel	Part6:長文穴埋め問題 Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit11の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2)の課題学習 (1時間)
	10	Unit 12 Business Ventures	Part3&4: 会話問題&トーク問題 Part5: 短文穴埋め問題	事前学習：Unit12の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2)の課題学習 (1時間)
	11	Unit 12 Business Ventures	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit12の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2)の課題学習 (1時間)
	12	Unit 13 Media	Part2:応答問題 Part4:トーク問題	事前学習：Unit13の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2)の課題学習 (1時間)
	13	Unit 13 Media	Part5:長文穴埋め問題 Part7: 読解問題 精読タイム	事前学習：Unit13の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2)の課題学習 (1時間)
	14	Unit 14 Entertainment	Part2:応答問題 Part3:会話問題 Part5:短文穴埋め問題	事前学習：Unit14の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2)の課題学習 (1時間)
	15	まとめ & 復習テスト	Unit 8 から Unit 14 の総復習	事前学習：Unit8からUnit14の内容を復習してくること。(1時間)

				事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2)の課題学習（1時間）
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	SMART ROUTE TO THE TOEIC L&R TEST	古澤弘美/Braven Smillie	センゲージラーニング株式会社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	e-Learning (ATR CALL BRIX: TOEIC GO (2)) 10% 学期途中や学期末に行う復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表 90%			
学生への メッセージ	スコアの目標を立てて、達成に向け頑張りましょう。 積極的な参加を期待しています。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	TOEIC b	科目名 (英文)	TOEIC b
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	ハ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	湊 由妃子
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1625c0		

授業概要・目的	TOEICの問題を学修することにより、語彙力、文法力を高め、複数名による会話を正確に聞き取る能力を身に付けることを目指す。さまざまなビジネスの場面で用いられる、ビジネスライター、メール形式の文章、求人広告等を読み、その内容がすばやく理解できる能力を身に付ける。数多くの演習問題を通して限られた時間内で正確に英文を読み取る能力と、情報を聞き取る能力を養うことを目的とする。
到達目標	(1) 電話での会話を聞き、会話内容を問う問題に解答できる。 (2) 関係代名詞・接続詞・前置詞を問う文法問題を正確に解答できる。 (3) ビジネスライター、メール、広告等の英文を読み、その内容を理解できる。 (4) PCやスマートフォンを用いた e-Learning による自立的英語学習に取り組む。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。 e-learning 課題は、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。 3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読んでくること。 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC G0(2)の課題学習 (1時間)
2	Unit 8 Information Technology	Part3&4:会話問題&トーク問題 Part5:短文穴埋め問題	事前学習：Unit8の内容を予習してくる事。 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC G0(2)の課題学習 (1時間)
3	Unit 8 Information Technology	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit8の内容を予習してくる事。 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC G0(2)の課題学習 (1時間)
4	Unit 9 Phone Calls	Part3&4:会話問題&トーク問題 Part5:短文穴埋め問題	事前学習：Unit9の内容を予習してくる事。 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC G0(2)の課題学習 (1時間)
5	Unit 9 Phone Calls	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit9の内容を予習してくる事。 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC G0(2)の課題学習 (1時間)
6	Unit 10 Construction & Landscaping	Part1:写真問題 Part3:会話問題 Part5:短文穴埋め問題	事前学習：Unit10の内容を予習してくる事。 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC G0(2)の課題学習 (1時間)
7	Unit 10 Construction & Landscaping	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit10の内容を予習してくる事。 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC G0(2)の課題学習 (1時間)
8	Unit 11 Personnel	Part2:応答問題 Part4:トーク問題	事前学習：Unit11の内容を予習してくる事。 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC G0(2)の課題学習 (1時間)
9	Unit 11 Personnel	Part6:長文穴埋め問題 Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit11の内容を予習してくる事。 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC G0(2)の課題学習 (1時間)
10	Unit 12 Business Ventures	Part3&4: 会話問題&トーク問題 Part5:短文穴埋め問題	事前学習：Unit12の内容を予習してくる事。 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC G0(2)の課題学習 (1時間)
11	Unit 12 Business Ventures	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit12の内容を予習してくる事。 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC G0(2)の課題学習 (1時間)
12	Unit 13 Media	Part2:応答問題 Part4:トーク問題	事前学習：Unit13の内容を予習してくる事。 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC G0(2)の課題学習 (1時間)
13	Unit 13 Media	Part5:長文穴埋め問題 Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit13の内容を予習してくる事。 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC G0(2)の課題学習 (1時間)
14	Unit 14 Entertainment	Part2:応答問題 Part3:会話問題 Part5:短文穴埋め問題	事前学習：Unit14の内容を予習してくる事。 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC G0(2)の課題学習 (1時間)
15	まとめ & 復習テスト	Unit 8 から Unit 14 の総復習	事前学習:Unit8 から Unit14 の内容を復習してくる事。 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC G0(2)

				の課題学習 (1時間)
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	SMART ROUTE TO THE TOEIC L&R TEST	古澤弘美/Braven Smillie	セнгеージラーニング株式会社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	e-Learning (ATR CALL BRIX: TOEIC GO (2)) 10% 学期途中や学期末に行う復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表 90%			
学生への メッセージ	具体的に目標を立てて、達成に向けて頑張りましょう。 積極的な参加を期待しています。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。 テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	TOEIC b	科目名 (英文)	TOEIC b
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	ホ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	森田 真
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1625c0		

授業概要・目的	TOEICの問題を学修することにより、語彙力、文法力を高め、複数名による会話を正確に聞き取る能力を身に付けることを目指す。 さまざまなビジネスの場面で用いられる、ビジネスレター、メール形式の文章、求人広告等を読み、その内容がすばやく理解できる能力を身に付ける。 数多くの演習問題を通して限られた時間内で正確に英文を読み取る能力と、情報を聞き取る能力を養うことを目的とする。
到達目標	(1) 電話での会話を聞き、会話内容を問う問題に解答できる。 (2) 関係代名詞・接続詞・前置詞を問う文法問題を正確に解答できる。 (3) ビジネスレター、メール、広告等の英文を読み、その内容を理解できる。 (4) PCやスマートフォンを用いたe-Learningによる自立的英語学習に取り組む。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。 e-learning課題は、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。 3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読んでくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC G0(2)の課題学習(1時間)
	2	Unit 8 Information Technology	Part3&4:会話問題&トーク問題 Part5:短文穴埋め問題	事前学習：Unit8の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC G0(2)の課題学習(1時間)
	3	Unit 8 Information Technology	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit8の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC G0(2)の課題学習(1時間)
	4	Unit 9 Phone Calls	Part3&4:会話問題&トーク問題 Part5:短文穴埋め問題	事前学習：Unit9の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC G0(2)の課題学習(1時間)
	5	Unit 9 Phone Calls	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit9の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC G0(2)の課題学習(1時間)
	6	Unit 10 Construction & Landscaping	Part1:写真問題 Part3:会話問題 Part5:短文穴埋め問題	事前学習：Unit10の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC G0(2)の課題学習(1時間)
	7	Unit 10 Construction & Landscaping	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit10の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC G0(2)の課題学習(1時間)
	8	Unit 11 Personnel	Part2:応答問題 Part4:トーク問題	事前学習：Unit11の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC G0(2)の課題学習(1時間)
	9	Unit 11 Personnel	Part6:長文穴埋め問題 Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit11の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC G0(2)の課題学習(1時間)
	10	Unit 12 Business Ventures	Part3&4:会話問題&トーク問題 Part5:短文穴埋め問題	事前学習：Unit12の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC G0(2)の課題学習(1時間)
	11	Unit 12 Business Ventures	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit12の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC G0(2)の課題学習(1時間)
	12	Unit 13 Media	Part2:応答問題 Part4:トーク問題	事前学習：Unit13の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC G0(2)の課題学習(1時間)
	13	Unit 13 Media	Part5:長文穴埋め問題 Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit13の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC G0(2)の課題学習(1時間)
	14	Unit 14 Entertainment	Part2:応答問題 Part3:会話問題 Part5:短文穴埋め問題	事前学習：Unit14の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC G0(2)の課題学習(1時間)
	15	まとめ & 復習テスト	Unit 8 から Unit 14 の総復習	事前学習：Unit8からUnit14の内容を復習してくること。(1時間)

				事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2)の課題学習（1時間）
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	SMART ROUTE TO THE TOEIC L&R TEST	古澤弘美/Braven Smillie	センゲージラーニング株式会社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	e-Learning (ATR CALL BRIX: TOEIC GO (2)) 10% 学期途中や学期末に行う復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表 90%			
学生への メッセージ	授業はマナーを守り、積極的かつ集中して参加してください。 評価方法等の詳しい内容は第1回目にハンドアウトを配布し説明します。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	TOEIC b	科目名 (英文)	TOEIC b
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	ト
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	山川 温
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1625c0		

授業概要・目的	TOEICの問題を学修することにより、語彙力、文法力を高め、複数名による会話を正確に聞き取る能力を身に付けることを目指す。さまざまなビジネスの場面で用いられる、ビジネスライター、メール形式の文章、求人広告等を読み、その内容がすばやく理解できる能力を身に付ける。数多くの演習問題を通して限られた時間内で正確に英文を読み取る能力と、情報を聞き取る能力を養うことを目的とする。
到達目標	(1) 電話での会話を聞き、会話内容を問う問題に解答できる。 (2) 関係代名詞・接続詞・前置詞を問う文法問題を正確に解答できる。 (3) ビジネスライター、メール、広告等の英文を読み、その内容を理解できる。 (4) PCやスマートフォンを用いた e-Learning による自立的英語学習に取り組む。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。 e-learning 課題は、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。 3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読んでくること。 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC G0(2)の課題学習 (1時間)
2	Unit 8 Information Technology	Part3&4:会話問題&トーク問題 Part5:短文穴埋め問題	事前学習：Unit8の内容を予習してくる事。 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC G0(2)の課題学習 (1時間)
3	Unit 8 Information Technology	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit8の内容を予習してくる事。 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC G0(2)の課題学習 (1時間)
4	Unit 9 Phone Calls	Part3&4:会話問題&トーク問題 Part5:短文穴埋め問題	事前学習：Unit9の内容を予習してくる事。 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC G0(2)の課題学習 (1時間)
5	Unit 9 Phone Calls	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit9の内容を予習してくる事。 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC G0(2)の課題学習 (1時間)
6	Unit 10 Construction & Landscaping	Part1:写真問題 Part3:会話問題 Part5:短文穴埋め問題	事前学習：Unit10の内容を予習してくる事。 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC G0(2)の課題学習 (1時間)
7	Unit 10 Construction & Landscaping	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit10の内容を予習してくる事。 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC G0(2)の課題学習 (1時間)
8	Unit 11 Personnel	Part2:応答問題 Part4:トーク問題	事前学習：Unit11の内容を予習してくる事。 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC G0(2)の課題学習 (1時間)
9	Unit 11 Personnel	Part6:長文穴埋め問題 Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit11の内容を予習してくる事。 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC G0(2)の課題学習 (1時間)
10	Unit 12 Business Ventures	Part3&4: 会話問題&トーク問題 Part5: 短文穴埋め問題	事前学習：Unit12の内容を予習してくる事。 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC G0(2)の課題学習 (1時間)
11	Unit 12 Business Ventures	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit12の内容を予習してくる事。 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC G0(2)の課題学習 (1時間)
12	Unit 13 Media	Part2:応答問題 Part4:トーク問題	事前学習：Unit13の内容を予習してくる事。 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC G0(2)の課題学習 (1時間)
13	Unit 13 Media	Part5:長文穴埋め問題 Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit13の内容を予習してくる事。 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC G0(2)の課題学習 (1時間)
14	Unit 14 Entertainment	Part2:応答問題 Part3:会話問題 Part5:短文穴埋め問題	事前学習：Unit14の内容を予習してくる事。 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC G0(2)の課題学習 (1時間)
15	まとめ & 復習テスト	Unit 8 から Unit 14 の総復習	事前学習:Unit8 から Unit14 の内容を復習してくる事。 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC G0(2)

				の課題学習 (1時間)
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	SMART ROUTE TO THE TOEIC L&R TEST	古澤弘美/Braven Smillie	セнгеージラーニング株式会社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	e-Learning (ATR CALL BRIX: TOEIC GO (2)) 10% 学期途中や学期末に行う復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表 90%			
学生への メッセージ	具体的に目標を立てて、達成に向けて頑張りましょう。 積極的な参加を期待しています。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。 テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	TOEIC b	科目名 (英文)	TOEIC b
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	ロ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	関山 博久
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1625c0		

授業概要・目的	TOEICの問題を学修することにより、語彙力、文法力を高め、複数名による会話を正確に聞き取る能力を身に付けることを目指す。 さまざまなビジネスの場面で用いられる、ビジネスレター、メール形式の文章、求人広告等を読み、その内容がすばやく理解できる能力を身に付ける。 数多くの演習問題を通して限られた時間内で正確に英文を読み取る能力と、情報を聞き取る能力を養うことを目的とする。
到達目標	(1) 電話での会話を聞き、会話内容を問う問題に解答できる。 (2) 関係代名詞・接続詞・前置詞を問う文法問題を正確に解答できる。 (3) ビジネスレター、メール、広告等の英文を読み、その内容を理解できる。 (4) PCやスマートフォンを用いた e-Learning による自立的英語学習に取り組む。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。 e-learning 課題は、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。 3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読んでくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC G0(2)の課題学習 (1時間)
	2	Unit 8 Information Technology	Part3&4:会話問題&トーク問題 Part5: 短文穴埋め問題	事前学習：Unit8の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC G0(2)の課題学習 (1時間)
	3	Unit 8 Information Technology	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit8の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC G0(2)の課題学習 (1時間)
	4	Unit 9 Phone Calls	Part3&4:会話問題&トーク問題 Part5: 短文穴埋め問題	事前学習：Unit9の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC G0(2)の課題学習 (1時間)
	5	Unit 9 Phone Calls	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit9の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC G0(2)の課題学習 (1時間)
	6	Unit 10 Construction & Landscaping	Part1:写真問題 Part3:会話問題 Part5: 短文穴埋め問題	事前学習：Unit10の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC G0(2)の課題学習 (1時間)
	7	Unit 10 Construction & Landscaping	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit10の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC G0(2)の課題学習 (1時間)
	8	Unit 11 Personnel	Part2:応答問題 Part4:トーク問題	事前学習：Unit11の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC G0(2)の課題学習 (1時間)
	9	Unit 11 Personnel	Part6:長文穴埋め問題 Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit11の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC G0(2)の課題学習 (1時間)
	10	Unit 12 Business Ventures	Part3&4: 会話問題&トーク問題 Part5: 短文穴埋め問題	事前学習：Unit12の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC G0(2)の課題学習 (1時間)
	11	Unit 12 Business Ventures	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit12の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC G0(2)の課題学習 (1時間)
	12	Unit 13 Media	Part2:応答問題 Part4:トーク問題	事前学習：Unit13の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC G0(2)の課題学習 (1時間)
	13	Unit 13 Media	Part5:長文穴埋め問題 Part7: 読解問題 精読タイム	事前学習：Unit13の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC G0(2)の課題学習 (1時間)
	14	Unit 14 Entertainment	Part2:応答問題 Part3:会話問題 Part5:短文穴埋め問題	事前学習：Unit14の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC G0(2)の課題学習 (1時間)
15	まとめ & 復習テスト	Unit 8 から Unit 14 の総復習	事前学習：Unit8からUnit14の内容を復習してくること。(1時間)	

				事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2)の課題学習（1時間）
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	SMART ROUTE TO THE TOEIC L&R TEST	古澤弘美/Braven Smillie	センゲージラーニング株式会社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	e-Learning (ATR CALL BRIX: TOEIC GO (2)) 10% 学期途中や学期末に行う復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表 90%			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	TOEIC b	科目名 (英文)	TOEIC b
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	ニ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	山川 温
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1625c0		

授業概要・目的	TOEICの問題を学修することにより、語彙力、文法力を高め、複数名による会話を正確に聞き取る能力を身に付けることを目指す。さまざまなビジネスの場面で用いられる、ビジネスレター、メール形式の文章、求人広告等を読み、その内容がすばやく理解できる能力を身に付ける。数多くの演習問題を通して限られた時間内で正確に英文を読み取る能力と、情報を聞き取る能力を養うことを目的とする。
到達目標	(1) 電話での会話を聞き、会話内容を問う問題に解答できる。 (2) 関係代名詞・接続詞・前置詞を問う文法問題を正確に解答できる。 (3) ビジネスレター、メール、広告等の英文を読み、その内容を理解できる。 (4) PCやスマートフォンを用いた e-Learning による自立的英語学習に取り組む。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。 e-learning 課題は、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。 3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読んでくること。 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC G0(2)の課題学習 (1時間)
2	Unit 8 Information Technology	Part3&4:会話問題&トーク問題 Part5:短文穴埋め問題	事前学習：Unit8の内容を予習してくる。 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC G0(2)の課題学習 (1時間)
3	Unit 8 Information Technology	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit8の内容を予習してくる。 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC G0(2)の課題学習 (1時間)
4	Unit 9 Phone Calls	Part3&4:会話問題&トーク問題 Part5:短文穴埋め問題	事前学習：Unit9の内容を予習してくる。 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC G0(2)の課題学習 (1時間)
5	Unit 9 Phone Calls	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit9の内容を予習してくる。 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC G0(2)の課題学習 (1時間)
6	Unit 10 Construction & Landscaping	Part1:写真問題 Part3:会話問題 Part5:短文穴埋め問題	事前学習：Unit10の内容を予習してくる。 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC G0(2)の課題学習 (1時間)
7	Unit 10 Construction & Landscaping	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit10の内容を予習してくる。 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC G0(2)の課題学習 (1時間)
8	Unit 11 Personnel	Part2:応答問題 Part4:トーク問題	事前学習：Unit11の内容を予習してくる。 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC G0(2)の課題学習 (1時間)
9	Unit 11 Personnel	Part6:長文穴埋め問題 Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit11の内容を予習してくる。 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC G0(2)の課題学習 (1時間)
10	Unit 12 Business Ventures	Part3&4: 会話問題&トーク問題 Part5: 短文穴埋め問題	事前学習：Unit12の内容を予習してくる。 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC G0(2)の課題学習 (1時間)
11	Unit 12 Business Ventures	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit12の内容を予習してくる。 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC G0(2)の課題学習 (1時間)
12	Unit 13 Media	Part2:応答問題 Part4:トーク問題	事前学習：Unit13の内容を予習してくる。 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC G0(2)の課題学習 (1時間)
13	Unit 13 Media	Part5:長文穴埋め問題 Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit13の内容を予習してくる。 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC G0(2)の課題学習 (1時間)
14	Unit 14 Entertainment	Part2:応答問題 Part3:会話問題 Part5:短文穴埋め問題	事前学習：Unit14の内容を予習してくる。 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC G0(2)の課題学習 (1時間)
15	まとめ & 復習テスト	Unit 8 から Unit 14 の総復習	事前学習:Unit8からUnit14の内容を復習してくる。 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC G0(2)

				の課題学習 (1時間)
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	SMART ROUTE TO THE TOEIC L&R TEST	古澤弘美/Braven Smillie	センゲージラーニング株式会社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	e-Learning (ATR CALL BRIX: TOEIC GO (2)) 10% 学期途中や学期末に行う復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表 90%			
学生への メッセージ	具体的に目標を立てて、達成に向けて頑張りましょう。 積極的な参加を期待しています。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。 テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	TOEIC b	科目名 (英文)	TOEIC b
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	へ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	湊 由妃子
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1625c0		

授業概要・目的	TOEICの問題を学修することにより、語彙力、文法力を高め、複数名による会話を正確に聞き取る能力を身に付けることを目指す。 さまざまなビジネスの場面で用いられる、ビジネスレター、メール形式の文章、求人広告等を読み、その内容がすばやく理解できる能力を身に付ける。 数多くの演習問題を通して限られた時間内で正確に英文を読み取る能力と、情報を聞き取る能力を養うことを目的とする。
到達目標	(1) 電話での会話を聞き、会話内容を問う問題に解答できる。 (2) 関係代名詞・接続詞・前置詞を問う文法問題を正確に解答できる。 (3) ビジネスレター、メール、広告等の英文を読み、その内容を理解できる。 (4) PCやスマートフォンを用いた e-Learning による自立的英語学習に取り組む。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。 e-learning 課題は、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。 3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読んでくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC G0(2)の課題学習 (1時間)
2	Unit 8 Information Technology	Part3&4:会話問題&トーク問題 Part5: 短文穴埋め問題	事前学習：Unit8の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC G0(2)の課題学習 (1時間)
3	Unit 8 Information Technology	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit8の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC G0(2)の課題学習 (1時間)
4	Unit 9 Phone Calls	Part3&4:会話問題&トーク問題 Part5: 短文穴埋め問題	事前学習：Unit9の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC G0(2)の課題学習 (1時間)
5	Unit 9 Phone Calls	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit9の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC G0(2)の課題学習 (1時間)
6	Unit 10 Construction & Landscaping	Part1:写真問題 Part3:会話問題 Part5: 短文穴埋め問題	事前学習：Unit10の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC G0(2)の課題学習 (1時間)
7	Unit 10 Construction & Landscaping	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit10の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC G0(2)の課題学習 (1時間)
8	Unit 11 Personnel	Part2:応答問題 Part4:トーク問題	事前学習：Unit11の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC G0(2)の課題学習 (1時間)
9	Unit 11 Personnel	Part6:長文穴埋め問題 Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit11の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC G0(2)の課題学習 (1時間)
10	Unit 12 Business Ventures	Part3&4: 会話問題&トーク問題 Part5: 短文穴埋め問題	事前学習：Unit12の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC G0(2)の課題学習 (1時間)
11	Unit 12 Business Ventures	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit12の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC G0(2)の課題学習 (1時間)
12	Unit 13 Media	Part2:応答問題 Part4:トーク問題	事前学習：Unit13の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC G0(2)の課題学習 (1時間)
13	Unit 13 Media	Part5:長文穴埋め問題 Part7: 読解問題 精読タイム	事前学習：Unit13の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC G0(2)の課題学習 (1時間)
14	Unit 14 Entertainment	Part2:応答問題 Part3:会話問題 Part5:短文穴埋め問題	事前学習：Unit14の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC G0(2)の課題学習 (1時間)
15	まとめ & 復習テスト	Unit 8 から Unit 14 の総復習	事前学習：Unit8からUnit14の内容を復習してくること。(1時間)

				事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2)の課題学習(1時間)
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	SMART ROUTE TO THE TOEIC L&R TEST	古澤弘美/Braven Smillie	セングージラーニング株式会社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	e-Learning (ATR CALL BRIX: TOEIC GO (2)) 10% 学期途中や学期末に行う復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表 90%			
学生への メッセージ	欠席した場合は、その日の授業内容等は自己責任で教員やクラスメートに聞くこと。「先週休んでいたの」は言い訳になりません。なお授業時には必ず辞書(電子辞書可)を持参すること。教科書や辞書を持参していない場合は減点します。また、授業に取り組む姿勢が消極的な場合や内職、授業に関係のない私語など、減点の対象となります。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	TOEIC b	科目名 (英文)	TOEIC b
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	チ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	西谷 継治
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1625c0		

授業概要・目的	TOEICの問題を学修することにより、語彙力、文法力を高め、複数名による会話を正確に聞き取る能力を身に付けることを目指す。 さまざまなビジネスの場面で用いられる、ビジネスレター、メール形式の文章、求人広告等を読み、その内容がすばやく理解できる能力を身に付ける。 数多くの演習問題を通して限られた時間内で正確に英文を読み取る能力と、情報を聞き取る能力を養うことを目的とする。
到達目標	(1) 電話での会話を聞き、会話内容を問う問題に解答できる。 (2) 関係代名詞・接続詞・前置詞を問う文法問題を正確に解答できる。 (3) ビジネスレター、メール、広告等の英文を読み、その内容を理解できる。 (4) PCやスマートフォンを用いた e-Learning による自立的英語学習に取り組む。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。 e-learning 課題は、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。 3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業内容・方法・評価方法についての説明	事前学習：本科目のシラバスを読んでくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2)の課題学習 (1時間)
	2	Unit 8 Information Technology	Part3&4:会話問題&トーク問題 Part5: 短文穴埋め問題	事前学習：Unit8の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2)の課題学習 (1時間)
	3	Unit 8 Information Technology	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit8の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2)の課題学習 (1時間)
	4	Unit 9 Phone Calls	Part3&4:会話問題&トーク問題 Part5: 短文穴埋め問題	事前学習：Unit9の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2)の課題学習 (1時間)
	5	Unit 9 Phone Calls	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit9の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2)の課題学習 (1時間)
	6	Unit 10 Construction & Landscaping	Part1:写真問題 Part3:会話問題 Part5: 短文穴埋め問題	事前学習：Unit10の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2)の課題学習 (1時間)
	7	Unit 10 Construction & Landscaping	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit10の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2)の課題学習 (1時間)
	8	Unit 11 Personnel	Part2:応答問題 Part4:トーク問題	事前学習：Unit11の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2)の課題学習 (1時間)
	9	Unit 11 Personnel	Part6:長文穴埋め問題 Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit11の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2)の課題学習 (1時間)
	10	Unit 12 Business Ventures	Part3&4: 会話問題&トーク問題 Part5: 短文穴埋め問題	事前学習：Unit12の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2)の課題学習 (1時間)
	11	Unit 12 Business Ventures	Part7:読解問題 精読タイム	事前学習：Unit12の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2)の課題学習 (1時間)
	12	Unit 13 Media	Part2:応答問題 Part4:トーク問題	事前学習：Unit13の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2)の課題学習 (1時間)
	13	Unit 13 Media	Part5:長文穴埋め問題 Part7: 読解問題 精読タイム	事前学習：Unit13の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2)の課題学習 (1時間)
	14	Unit 14 Entertainment	Part2:応答問題 Part3:会話問題 Part5:短文穴埋め問題	事前学習：Unit14の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2)の課題学習 (1時間)
	15	まとめ & 復習テスト	Unit 8 から Unit 14 の総復習	事前学習：Unit8からUnit14の内容を復習してくること。(1時間)

				事後学習：e-Learning:ATR CALL BRIX TOEIC GO(2)の課題学習(1時間)
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	SMART ROUTE TO THE TOEIC L&R TEST	古澤弘美/Braven Smillie	セングージラーニング株式会社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	e-Learning (ATR CALL BRIX: TOEIC GO (2)) 10% 学期途中や学期末に行う復習テスト・課題・提出物・クラスへの参加及び貢献度・発表 90%			
学生への メッセージ	欠席した場合は、その日の授業内容等は自己責任で教員やクラスメートに聞くこと。「先週休んでいたの」は言い訳になりません。なお授業時には必ず辞書(電子辞書可)を持参すること。教科書や辞書を持参していない場合は減点します。また、授業に取り組む姿勢が消極的な場合や内職、授業に関係のない私語など、減点の対象となります。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	Drama	科目名 (英文)	Drama
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1 年	クラス	イ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	松吉 翔也
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1626c0		

授業概要・目的	<p>言語によるやりとりを、目的や話し手同士の社会的な関係といった側面から捉え、アイコンタクトやジェスチャーなど非言語表現が言語表現の意味を強化したり変えたりすることを、演劇を応用した演習形式で学習する。言葉のやりとりと対人関係の仕組みを分析する力を高める。国際社会の多様性と表現の選択肢を意識し、協調関係をはぐむコミュニケーションを英語で行う知識とスキルを実践的に学ぶ。</p> <p>※詳しくは初回授業で授業計画等と合わせて説明します。</p>			
到達目標	<p>国際学部の1年次の学生を対象とし、英語の脚本や演劇制作の手法を用いて、言語と非言語による明示的・暗示的表現やコミュニケーションの多様性を体験する。状況と目的に応じたやりとりによって適切な対人関係を構築できることを実践的に学ぶ。自分と異なる文化背景や行動様式の人とも協力して課題にとり組み、各々が役割を柔軟に果たして作品を完成することをテーマおよび目標とする。</p> <p>※詳しくは初回授業で授業計画等と合わせて説明します。</p>			
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・演劇を応用した演習方式で学ぶ。自分の身体を動かし、音声を使って、表現の可動域を広げる。 ・同級生との練習を通して、生活環境や所属してきた文化背景、個性に基づく多様性を理解し、互いの共通点や相違点を受け入れる。 			
科目学習の効果 (資格)				
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	Orientation オリエンテーション	英語で書かれた脚本の読解と、ドラマ手法の練習(場面ごとの抜き出し上演)方法を学ぶ	Students should study the content of the day's lesson. (1hour)
	2	Politeness ポライトネス (1)	文法の正しさ以外に、コミュニケーションの適切さという指標があることを学ぶ。対人関係や状況、発話の目的における適切さに叶うかどうかで、礼儀・無礼・挑発といった差が生まれることを、脚本の読解から学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)
	3	Politeness ポライトネス (2)	コミュニケーションが対人関係や状況、発話の目的における適切さに叶うかどうかとその影響を、場面の抜き出し上演を通して学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)
	4	Question and reply 問いかけと返答 (1)	問いかけと返答は、対人コミュニケーションでは必ずしも疑問文と答えの形式で行われない。それにもかかわらず、相互に理解し、字句としては正しく答えても満足させられない場合があることを、脚本の読解から学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)
	5	Question and reply 問いかけと返答 (2)	様々なバリエーションの問いかけと返答を、場面の抜き出し上演を通して学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)
	6	Negotiate and persuade 交渉と説得 (1)	一方的な情報発信ではなく、相手の同意を得たり行動を促したりするための効果的なコミュニケーションについて、脚本の読解から学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)
	7	Negotiate and persuade 交渉と説得 (2)	相手の同意や行動を促すためのコミュニケーションを、交渉と説得を描く場面の抜き出し上演を通して学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)
	8	Poetic language 詩的表現 (1)	英語の押韻や比喩表現がもたらす効果をも、脚本の読解から学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)
	9	Poetic language 詩的表現 (2)	英語の押韻や比喩表現がもたらす効果をも、上演を通して学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)
	10	Miscommunication and repair ミスコミュニケーションと修復 (1)	意思伝達が話者の意図通りにならなかった場合と、誤解や間違いを修復するやりとりについて、脚本の読解から学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)
	11	Miscommunication and repair ミスコミュニケーションと修復 (2)	意思伝達が話者の意図通りにならなかった場合と、誤解や間違いを協力的に修復するやりとりを、上演を通して学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)
	12	Script writing 脚本制作 (1)	既製の演劇作品や映像作品の脚本を短く編集し、抜粋場面を作る作業を通して、全体として意味の連続性があるやりとりを再構成することを学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)
	13	Script writing 脚本制作 (2)	クラスでオリジナルの英語脚本を書き、抜き出し上演を通して脚本の質や効果を学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)
	14	Stage production 劇作品の制作と発表 (1)	同級生と協力して劇作品を制作し、上演発表する。観客からのフィードバックや自身の振り返りを通して、脚本や演出を改訂する。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)
15	Stage production 劇作品の制作と発表 (2)	改訂版の劇作品上演発表を行い、また、今学期に学んだことを言語化して総括する。	Students should review the content of the term's lessons. (1 hour)	
関連科目	英語科目一般、教職課程			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1	『随時プリントを配布』		
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	『随時プリントを配布』		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業中の発表や取り組む姿勢など(70%) 課題やレポートなどの提出物(30%) ※詳しくは初回授業で授業計画等と合わせて説明します。			
学生への メッセージ	コミュニケーションは文字にできる言語以外の要素で大きく変わります。読み取り方(受信)と表現方法(発信)の両方を、世界的人気作を題材に学んでいきましょう。言葉を使って表現する/言葉を使わずに表現することの面白さを楽しく元気に体験しましょう！			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	Drama	科目名 (英文)	Drama
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	ハ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ジェフリー ベル
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1626c0		

授業概要・目的	言語によるやりとりを、目的や話し手同士の社会的な関係といった側面から捉え、アイコンタクトやジェスチャーなど非言語表現が言語表現の意味を強化したり変えたりすることを、演劇を応用した演習形式で学習する。言葉のやりとりと対人関係の仕組みを分析する力を高める。国際社会の多様性と表現の選択肢を意識し、協調関係をはぐくむコミュニケーションを英語で行う知識とスキルを実践的に学ぶ。
到達目標	国際学部の1年次の学生を対象とし、英語の脚本や演劇制作の手法を用いて、言語と非言語による明示的・暗示的表現やコミュニケーションの多様性を体験する。状況と目的に応じたやりとりによって適切な対人関係を構築できることを実践的に学ぶ。自分と異なる文化背景や行動様式の人とも協力して課題にとり組み、各々が役割を柔軟に果たして作品を完成することをテーマおよび目標とする。
授業方法と留意点	・演劇を応用した演習方式で学ぶ。自分の身体を動かし、音声を使って、表現の可動域を広げる。 ・同級生との練習を通して、生活環境や所属してきた文化背景、個性に基づく多様性を理解し、互いの共通点や相違点を受け入れる。

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	Politeness ポライトネス (1)	文法の正しさ以外に、コミュニケーションの適切さという指標があることを学ぶ。対人関係や状況、発話の目的における適切さに叶うかどうかで、礼儀・無礼・挑発といった差が生まれることを、脚本の読解から学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)
3	Politeness ポライトネス (2)	コミュニケーションが対人関係や状況、発話の目的における適切さに叶うかどうかとその影響を、場面の抜き出し上演を通して学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)
4	Question and reply 問いかけと返答 (1)	問いかけと返答は、対人コミュニケーションでは必ずしも疑問文と答えの形式で行われない。それにもかかわらず、相互に理解し、字句としては正しく答えても満足させられない場合があることを、脚本の読解から学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)
5	Question and reply 問いかけと返答 (2)	様々なバリエーションの問いかけと返答を、場面の抜き出し上演を通して学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)
6	Negotiate and persuade 交渉と説得 (1)	一方的な情報発信ではなく、相手の同意を得たり行動を促したりするための効果的なコミュニケーションについて、脚本の読解から学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)
7	Negotiate and persuade 交渉と説得 (2)	相手の同意や行動を促すためのコミュニケーションを、交渉と説得を描く場面の抜き出し上演を通して学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)
8	Poetic language 詩的表現 (1)	英語の押韻や比喩表現がもたらす効果を、脚本の読解から学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)
9	Poetic language 詩的表現 (2)	英語の押韻や比喩表現がもたらす効果を、上演を通して学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)
10	Miscommunication and repair ミスコミュニケーションと修復 (1)	意思伝達が話者の意図通りにならなかった場合と、誤解や間違いを修復するやりとりについて、脚本の読解から学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)
11	Miscommunication and repair ミスコミュニケーションと修復 (2)	意思伝達が話者の意図通りにならなかった場合と、誤解や間違いを協力的に修復するやりとりを、上演を通して学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)
12	Script writing 脚本制作 (1)	既製の演劇作品や映像作品の脚本を短く編集し、抜粋場面を作る作業を通して、全体として意味の連続性があるやりとりを再構成することを学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)
13	Script writing 脚本制作 (2)	クラスでオリジナルの英語脚本を書き、抜き出し上演を通して脚本の質や効果を学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)
14	Stage production 劇作品の制作と発表 (1)	同級生と協力して劇作品を制作し、上演発表する。観客からのフィードバックや自身のふりかえりを通して、脚本や演出を改訂する。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)
15	Stage production 劇作品の制作と発表 (2)	改訂版の劇作品上演発表を行い、また、今学期に学んだことを言語化して総括する。	Students should review the content of the term's lessons. (1 hour)

関連科目	英語科目一般、教職課程
------	-------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Romeo and Juliet	Derek Sellen	Black Cat
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業中の発表や取り組む姿勢など(70%) 課題やレポートなどの提出物(30%)			
学生への メッセージ	We will be performing 'Romeo and Juliet' along with other dramatic skits based on student's preference. Enjoy making friends, doing some fun activities, moving around the classroom, practicing in English, and making a performance together. An enjoyable wa			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	Drama	科目名 (英文)	Drama
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	ホ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	齋藤 安以子
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1626c0		

授業概要・目的	言語によるやりとりを、目的や話し手同士の社会的な関係といった側面から捉え、アイコンタクトやジェスチャーなど非言語表現が言語表現の意味を強化したり変えたりすることを、演劇を応用した演習形式で学習する。言葉のやりとりと対人関係の仕組みを分析する力を高める。国際社会の多様性と表現の選択肢を意識し、協調関係をはぐくむコミュニケーションを英語で行う知識とスキルを実践的に学ぶ。
到達目標	国際学部の1年次の学生を対象とし、英語の脚本や演劇制作の手法を用いて、言語と非言語による明示的・暗示的表現やコミュニケーションの多様性を体験する。状況と目的に応じたやりとりによって適切な対人関係を構築できることを実践的に学ぶ。自分と異なる文化背景や行動様式の人とも協力して課題にとり組み、各々が役割を柔軟に果たして作品を完成することをテーマおよび目標とする。
授業方法と留意点	・演劇を応用した演習方式で学ぶ。自分の身体を動かし、音声を使って、表現の可動域を広げる。 ・同級生との練習を通して、生活環境や所属してきた文化背景、個性に基づく多様性を理解し、互いの共通点や相違点を受け入れる。

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	Orientation オリエンテーション	英語で書かれた脚本の読解と、ドラマ手法の練習 (場面ごとの抜き出し上演) 方法を学ぶ	Students should study the content of the day's lesson. (1時間)
	2	Politeness ポライトネス (1)	文法の正しさ以外に、コミュニケーションの適切さという指標があることを学ぶ。対人関係や状況、発話の目的における適切さに叶うかどうかで、礼儀・無礼・挑発といった差が生まれることを、脚本の読解から学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1時間)
	3	Politeness ポライトネス (2)	コミュニケーションが対人関係や状況、発話の目的における適切さに叶うかどうかとその影響を、場面の抜き出し上演を通して学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1時間)
	4	Question and reply 問いかげと返答 (1)	問いかげと返答は、対人コミュニケーションでは必ずしも疑問文と答えの形式で行われない。それにもかかわらず、相互に理解し、字句としては正しく答えても満足させられない場合があることを、脚本の読解から学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1時間)
	5	Question and reply 問いかげと返答 (2)	様々なバリエーションの問いかげと返答を、場面の抜き出し上演を通して学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1時間)
	6	Negotiate and persuade 交渉と説得 (1)	一方的な情報発信ではなく、相手の同意を得たり行動を促したりするための効果的なコミュニケーションについて、脚本の読解から学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1時間)
	7	Negotiate and persuade 交渉と説得 (2)	相手の同意や行動を促すためのコミュニケーションを、交渉と説得を描く場面の抜き出し上演を通して学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1時間)
	8	Poetic language 詩的表現 (1)	英語の押韻や比喩表現がもたらす効果を、脚本の読解から学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1時間)
	9	Poetic language 詩的表現 (2)	英語の押韻や比喩表現がもたらす効果を、上演を通して学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1時間)
	10	Miscommunication and repair ミスコミュニケーションと修復 (1)	意思伝達が話者の意図通りにならなかった場合と、誤解や間違いを修復するやりとりについて、脚本の読解から学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1時間)
	11	Miscommunication and repair ミスコミュニケーションと修復 (2)	意思伝達が話者の意図通りにならなかった場合と、誤解や間違いを協力的に修復するやりとりを、上演を通して学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1時間)
	12	Script writing 脚本制作 (1)	既製の演劇作品や映像作品の脚本を短く編集し、抜粋場面を作る作業を通して、全体として意味の連続性があるやりとりを再構成することを学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1時間)
	13	Script writing 脚本制作 (2)	クラスでオリジナルの英語脚本を書き、抜き出し上演を通して脚本の質や効果を学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1時間)
	14	Stage production 劇作品の制作と発表 (1)	同級生と協力して劇作品を制作し、上演発表する。観客からのフィードバックや自身のふりかえりを通して、脚本や演出を改訂する。	Students should study the content of the day's lesson. (1時間)
	15	Stage production 劇作品の制作と発表 (2)	改訂版の劇作品上演発表を行い、また、今学期に学んだことを言語化して総括する。	Students should review the content of the term's lessons. (1時間)

関連科目	英語科目一般、教職課程
------	-------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Romeo and Juliet	Derek Sellen (翻案・再話)・William Shakespeare (原作)	Black Cat
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業中の発表や取り組み姿勢など(70%) 課題やレポートなどの提出物(30%)			
学生への メッセージ	演劇は、自分が思っている自分と違う役を通して、予想もしなかった視点や感じ方に気づく体験です。演技の経験は必要ありません。自分の中を映す鏡を覗き込んでみましょう。			
担当者の 研究室等	7号館4階 齋藤研究室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。そのほかの質問等は出講時に研究室にて対応する。			

科目名	Drama	科目名 (英文)	Drama
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	ト
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	コンデン ロバート
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1626c0		

授業概要・目的	言語によるやりとりを、目的や話し手同士の社会的な関係といった側面から捉え、アイコンタクトやジェスチャーなど非言語表現が言語表現の意味を強化したり変えたりすることを、演劇を応用した演習形式で学習する。言葉のやりとりと対人関係の仕組みを分析する力を高める。国際社会の多様性と表現の選択肢を意識し、協調関係をはぐくむコミュニケーションを英語で行う知識とスキルを実践的に学ぶ。
到達目標	国際学部の1年次の学生を対象とし、英語の脚本や演劇制作の手法を用いて、言語と非言語による明示的・暗示的表現やコミュニケーションの多様性を体験する。状況と目的に応じたやりとりによって適切な対人関係を構築できることを実践的に学ぶ。自分と異なる文化背景や行動様式の人とも協力して課題にとり組み、各々が役割を柔軟に果たして作品を完成することをテーマおよび目標とする。
授業方法と留意点	・演劇を応用した演習方式で学ぶ。自分の身体を動かし、音声を使って、表現の可動域を広げる。 ・同級生との練習を通して、生活環境や所属してきた文化背景、個性に基づく多様性を理解し、互いの共通点や相違点を受け入れる。

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	Orientation オリエンテーション	英語で書かれた脚本の読解と、ドラマ手法の練習(場面ごとの抜き出し上演)方法を学ぶ	Students should study the content of the day's lesson. 1 hour
2	Politeness ポライトネス (1)	文法の正しさ以外に、コミュニケーションの適切さという指標があることを学ぶ。対人関係や状況、発話の目的における適切さに叶うかどうかで、礼儀・無礼・挑発といった差が生まれることを、脚本の読解から学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. 1 hour
3	Politeness ポライトネス (2)	コミュニケーションが対人関係や状況、発話の目的における適切さに叶うかどうかとその影響を、場面の抜き出し上演を通して学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. 1 hour
4	Question and reply 問いかけと返答 (1)	問いかけと返答は、対人コミュニケーションでは必ずしも疑問文と答えの形式で行われない。それにもかかわらず、相互に理解し、字句としては正しく答えても満足させられない場合があることを、脚本の読解から学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. 1 hour
5	Question and reply 問いかけと返答 (2)	様々なバリエーションの問いかけと返答を、場面の抜き出し上演を通して学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. 1 hour
6	Negotiate and persuade 交渉と説得 (1)	一方的な情報発信ではなく、相手の同意を得たり行動を促したりするための効果的なコミュニケーションについて、脚本の読解から学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. 1 hour
7	Negotiate and persuade 交渉と説得 (2)	相手の同意や行動を促すためのコミュニケーションを、交渉と説得を描く場面の抜き出し上演を通して学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. 1 hour
8	Poetic language 詩的表現 (1)	英語の押韻や比喩表現がもたらす効果を、脚本の読解から学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. 1 hour
9	Poetic language 詩的表現 (2)	英語の押韻や比喩表現がもたらす効果を、上演を通して学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. 1 hour
10	Miscommunication and repair ミスコミュニケーションと修復 (1)	意思伝達が話者の意図通りにならなかった場合と、誤解や間違いを修復するやりとりについて、脚本の読解から学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. 1 hour
11	Miscommunication and repair ミスコミュニケーションと修復 (2)	意思伝達が話者の意図通りにならなかった場合と、誤解や間違いを協力的に修復するやりとりを、上演を通して学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. 1 hour
12	Script writing 脚本制作 (1)	既製の演劇作品や映像作品の脚本を短く編集し、抜粋場面を作る作業を通して、全体として意味の連続性があるやりとりを再構成することを学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. 1 hour
13	Script writing 脚本制作 (2)	クラスでオリジナルの英語脚本を書き、抜き出し上演を通して脚本の質や効果を学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. 1 hour
14	Stage production 劇作品の制作と発表 (1)	同級生と協力して劇作品を制作し、上演発表する。観客からのフィードバックや自身のふりかえりを通して、脚本や演出を改訂する。	Students should study the content of the day's lesson. 1 hour
15	Stage production 劇作品の制作と発表 (2)	改訂版の劇作品上演発表を行い、また、今学期に学んだことを言語化して総括する。	Students should review the content of the term's lessons. 1 hour

関連科目	英語科目一般、教職課程
------	-------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	プリントを配布する		
	2			

	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1	William Shakespeare 原作、Derek Sellen 翻案再話 『Romeo and Juliet』 (Graded Readers B1.2 レベル) (Black Cat、2008)	
	2		
	3		
評価方法 (基準)	授業中の発表や取り組む姿勢など(70%) 課題やレポートなどの提出物(30%)		
学生への メッセージ	同じ言葉でもそれを発するときの表情、ジェスチャー、強調する単語、イントネーションなどで、相手に伝わるメッセージは全く変わってきます。この授業では、英語特有の韻やリズムを楽しみつつ、様々な状況に合わせた自然で表情豊かな表現ができるように練習をしましょう。		
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。		

科目名	Drama	科目名 (英文)	Drama
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1 年	クラス	ロ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ニール カー
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1626c0		

授業概要・目的	言語によるやりとりを、目的や話し手同士の社会的な関係といった側面から捉え、アイコンタクトやジェスチャーなど非言語表現が言語表現の意味を強化したり変えたりすることを、演劇を応用した演習形式で学習する。言葉のやりとりと対人関係の仕組みを分析する力を高める。国際社会の多様性と表現の選択肢を意識し、協調関係をはぐくむコミュニケーションを英語で行う知識とスキルを実践的に学ぶ。
到達目標	国際学部の1年次の学生を対象とし、英語の脚本や演劇制作の手法を用いて、言語と非言語による明示的・暗示的表現やコミュニケーションの多様性を体験する。状況と目的に応じたやりとりによって適切な対人関係を構築できることを実践的に学ぶ。自分と異なる文化背景や行動様式の人とも協力して課題にとり組み、各々が役割を柔軟に果たして作品を完成することをテーマおよび目標とする。
授業方法と留意点	・演劇を応用した演習方式で学ぶ。自分の身体を動かし、音声を使って、表現の可動域を広げる。 ・同級生との練習を通して、生活環境や所属してきた文化背景、個性に基づく多様性を理解し、互いの共通点や相違点を受け入れる。

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	Orientation オリエンテーション	英語で書かれた脚本の読解と、ドラマ手法の練習 (場面ごとの抜き出し上演) 方法を学ぶ	Students should study the content of the day's lesson. 1 hour
2	Politeness ポライトネス (1)	文法の正しさ以外に、コミュニケーションの適切さという指標があることを学ぶ。対人関係や状況、発話の目的における適切さに叶うかどうかで、礼儀・無礼・挑発といった差が生まれることを、脚本の読解から学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. 1 hour
3	Politeness ポライトネス (2)	コミュニケーションが対人関係や状況、発話の目的における適切さに叶うかどうかとその影響を、場面の抜き出し上演を通して学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. 1 hour
4	Question and reply 問いかけと返答 (1)	問いかけと返答は、対人コミュニケーションでは必ずしも疑問文と答えの形式で行われない。それにもかかわらず、相互に理解し、字句としては正しく答えても満足させられない場合があることを、脚本の読解から学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. 1 hour
5	Question and reply 問いかけと返答 (2)	様々なバリエーションの問いかけと返答を、場面の抜き出し上演を通して学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. 1 hour
6	Negotiate and persuade 交渉と説得 (1)	一方的な情報発信ではなく、相手の同意を得たり行動を促したりするための効果的なコミュニケーションについて、脚本の読解から学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. 1 hour
7	Negotiate and persuade 交渉と説得 (2)	相手の同意や行動を促すためのコミュニケーションを、交渉と説得を描く場面の抜き出し上演を通して学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. 1 hour
8	Poetic language 詩的表現 (1)	英語の押韻や比喩表現がもたらす効果を、脚本の読解から学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. 1 hour
9	Poetic language 詩的表現 (2)	英語の押韻や比喩表現がもたらす効果を、上演を通して学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. 1 hour
10	Miscommunication and repair ミスコミュニケーションと修復 (1)	意思伝達が話者の意図通りにならなかった場合と、誤解や間違いを修復するやりとりについて、脚本の読解から学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. 1 hour
11	Miscommunication and repair ミスコミュニケーションと修復 (2)	意思伝達が話者の意図通りにならなかった場合と、誤解や間違いを協力的に修復するやりとりを、上演を通して学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. 1 hour
12	Script writing 脚本制作 (1)	既製の演劇作品や映像作品の脚本を短く編集し、抜粋場面を作る作業を通して、全体として意味の連続性があるやりとりを再構成することを学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. 1 hour
13	Script writing 脚本制作 (2)	クラスでオリジナルの英語脚本を書き、抜き出し上演を通して脚本の質や効果を学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. 1 hour
14	Stage production 劇作品の制作と発表 (1)	同級生と協力して劇作品を制作し、上演発表する。観客からのフィードバックや自身のふりかえりを通して、脚本や演出を改訂する。	Students should study the content of the day's lesson. 1 hour
15	Stage production 劇作品の制作と発表 (2)	改訂版の劇作品上演発表を行い、また、今学期に学んだことを言語化して総括する。	Students should review the content of the term's lessons. 1 hour

関連科目	英語科目一般、教職課程
------	-------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	プリントを配布する		
	2			

	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1	William Shakespeare 原作、Derek Sellen 翻案再話 『Romeo and Juliet』 (Graded Readers B1.2 レベル) (Black Cat、2008)	
	2		
	3		
評価方法 (基準)	授業中の発表や取り組む姿勢など(70%) 課題やレポートなどの提出物(30%)		
学生への メッセージ	同じ言葉でもそれを発するときの表情、ジェスチャー、強調する単語、イントネーションなどで、相手に伝わるメッセージは全く変わってきます。この授業では、英語特有の韻やリズムを楽しみつつ、様々な状況に合わせた自然で表情豊かな表現ができるように練習をしましょう。		
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。		

科目名	Drama	科目名 (英文)	Drama
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	二
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	高橋 真理子
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1626c0		

授業概要・目的	言語によるやりとりを、目的や話し手同士の社会的な関係といった側面から捉え、アイコンタクトやジェスチャーなど非言語表現が言語表現の意味を強化したり変えたりすることを、演劇を応用した演習形式で学習する。言葉のやりとりと対人関係の仕組みを分析する力を高める。国際社会の多様性と表現の選択肢を意識し、協調関係をはぐくむコミュニケーションを英語で行う知識とスキルを実践的に学ぶ。
到達目標	国際学部の1年次の学生を対象とし、英語の脚本や演劇制作の手法を用いて、言語と非言語による明示的・暗示的表現やコミュニケーションの多様性を体験する。状況と目的に応じたやりとりによって適切な対人関係を構築できることを実践的に学ぶ。自分と異なる文化背景や行動様式の人とも協力して課題にとり組み、各々が役割を柔軟に果たして作品を完成することをテーマおよび目標とする。
授業方法と留意点	・演劇を応用した演習方式で学ぶ。自分の身体を動かし、音声を使って、表現の可動域を広げる。 ・同級生との練習を通して、生活環境や所属してきた文化背景、個性に基づく多様性を理解し、互いの共通点や相違点を受け入れる。

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	Politeness ポライトネス (1)	文法の正しさ以外に、コミュニケーションの適切さという指標があることを学ぶ。対人関係や状況、発話の目的における適切さに叶うかどうかで、礼儀・無礼・挑発といった差が生まれることを、脚本の読解から学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)
3	Politeness ポライトネス (2)	コミュニケーションが対人関係や状況、発話の目的における適切さに叶うかどうかとその影響を、場面の抜き出し上演を通して学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)
4	Question and reply 問いかけと返答 (1)	問いかけと返答は、対人コミュニケーションでは必ずしも疑問文と答えの形式で行われない。それにもかかわらず、相互に理解し、字句としては正しく答えても満足させられない場合があることを、脚本の読解から学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)
5	Question and reply 問いかけと返答 (2)	様々なバリエーションの問いかけと返答を、場面の抜き出し上演を通して学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)
6	Negotiate and persuade 交渉と説得 (1)	一方的な情報発信ではなく、相手の同意を得たり行動を促したりするための効果的なコミュニケーションについて、脚本の読解から学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)
7	Negotiate and persuade 交渉と説得 (2)	相手の同意や行動を促すためのコミュニケーションを、交渉と説得を描く場面の抜き出し上演を通して学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)
8	Poetic language 詩的表現 (1)	英語の押韻や比喩表現がもたらす効果を、脚本の読解から学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)
9	Poetic language 詩的表現 (2)	英語の押韻や比喩表現がもたらす効果を、上演を通して学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)
10	Miscommunication and repair ミスコミュニケーションと修復 (1)	意思伝達が話者の意図通りにならなかった場合と、誤解や間違いを修復するやりとりについて、脚本の読解から学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)
11	Miscommunication and repair ミスコミュニケーションと修復 (2)	意思伝達が話者の意図通りにならなかった場合と、誤解や間違いを協力的に修復するやりとりを、上演を通して学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)
12	Script writing 脚本制作 (1)	既製の演劇作品や映像作品の脚本を短く編集し、抜粋場面を作る作業を通して、全体として意味の連続性があるやりとりを再構成することを学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)
13	Script writing 脚本制作 (2)	クラスでオリジナルの英語脚本を書き、抜き出し上演を通して脚本の質や効果を学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)
14	Stage production 劇作品の制作と発表 (1)	同級生と協力して劇作品を制作し、上演発表する。観客からのフィードバックや自身のふりかえりを通して、脚本や演出を改訂する。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)
15	Stage production 劇作品の制作と発表 (2)	改訂版の劇作品上演発表を行い、また、今学期に学んだことを言語化して総括する。	Students should review the content of the term's lessons. (1 hour)

関連科目	英語科目一般、教職課程
------	-------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Harry Potter and the Philosopher's Stone	J. K. Rowling	Bloomsbury Childrens Books
	2	ハリー・ポッターと賢者の石 (DVD/Blu-ray)		
	3	William Shakespeare 原作、Derek Sellen 翻案再話 『Romeo and Juliet』 (Graded Readers B1.2 レベル) (Black Cat、2008)		
評価方法 (基準)	授業中の発表や取り組み姿勢など(70%) 課題やレポートなどの提出物(30%)			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	7号館4階 高橋研究室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。そのほかの質問等は出講時に研究室で対応する。			

科目名	Drama	科目名 (英文)	Drama
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	へ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	田浦 アマンダ
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1626c0		

授業概要・目的	言語によるやりとりを、目的や話し手同士の社会的な関係といった側面から捉え、アイコンタクトやジェスチャーなど非言語表現が言語表現の意味を強化したり変えたりすることを、演劇を応用した演習形式で学習する。言葉のやりとりと対人関係の仕組みを分析する力を高める。国際社会の多様性と表現の選択肢を意識し、協調関係をはぐくむコミュニケーションを英語で行う知識とスキルを実践的に学ぶ。
到達目標	国際学部の1年次の学生を対象とし、英語の脚本や演劇制作の手法を用いて、言語と非言語による明示的・暗示的表現やコミュニケーションの多様性を体験する。状況と目的に応じたやりとりによって適切な対人関係を構築できることを実践的に学ぶ。自分と異なる文化背景や行動様式の人とも協力して課題にとり組み、各々が役割を柔軟に果たして作品を完成することをテーマおよび目標とする。
授業方法と留意点	・演劇を応用した演習方式で学ぶ。自分の身体を動かし、音声を使って、表現の可動域を広げる。 ・同級生との練習を通して、生活環境や所属してきた文化背景、個性に基づく多様性を理解し、互いの共通点や相違点を受け入れる。

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	Politeness ポライトネス (1)	文法の正しさ以外に、コミュニケーションの適切さという指標があることを学ぶ。対人関係や状況、発話の目的における適切さに叶うかどうかで、礼儀・無礼・挑発といった差が生まれることを、脚本の読解から学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)
3	Politeness ポライトネス (2)	コミュニケーションが対人関係や状況、発話の目的における適切さに叶うかどうかとその影響を、場面の抜き出し上演を通して学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)
4	Question and reply 問いかけと返答 (1)	問いかけと返答は、対人コミュニケーションでは必ずしも疑問文と答えの形式で行われない。それにもかかわらず、相互に理解し、字句としては正しく答えても満足させられない場合があることを、脚本の読解から学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)
5	Question and reply 問いかけと返答 (2)	様々なバリエーションの問いかけと返答を、場面の抜き出し上演を通して学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)
6	Negotiate and persuade 交渉と説得 (1)	一方的な情報発信ではなく、相手の同意を得たり行動を促したりするための効果的なコミュニケーションについて、脚本の読解から学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)
7	Negotiate and persuade 交渉と説得 (2)	相手の同意や行動を促すためのコミュニケーションを、交渉と説得を描く場面の抜き出し上演を通して学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)
8	Poetic language 詩的表現 (1)	英語の押韻や比喩表現がもたらす効果を、脚本の読解から学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)
9	Poetic language 詩的表現 (2)	英語の押韻や比喩表現がもたらす効果を、上演を通して学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)
10	Miscommunication and repair ミスコミュニケーションと修復 (1)	意思伝達が話者の意図通りにならなかった場合と、誤解や間違いを修復するやりとりについて、脚本の読解から学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)
11	Miscommunication and repair ミスコミュニケーションと修復 (2)	意思伝達が話者の意図通りにならなかった場合と、誤解や間違いを協力的に修復するやりとりを、上演を通して学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)
12	Script writing 脚本制作 (1)	既製の演劇作品や映像作品の脚本を短く編集し、抜粋場面を作る作業を通して、全体として意味の連続性があるやりとりを再構成することを学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)
13	Script writing 脚本制作 (2)	クラスでオリジナルの英語脚本を書き、抜き出し上演を通して脚本の質や効果を学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)
14	Stage production 劇作品の制作と発表 (1)	同級生と協力して劇作品を制作し、上演発表する。観客からのフィードバックや自身の振り返りを通して、脚本や演出を改訂する。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)
15	Stage production 劇作品の制作と発表 (2)	改訂版の劇作品上演発表を行い、また、今学期に学んだことを言語化して総括する。	Students should review the content of the term's lessons. (1 hour)

関連科目	英語科目一般、教職課程
------	-------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Popstars		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業中の発表や取り組む姿勢など(70%) 課題やレポートなどの提出物(30%)			
学生への メッセージ	The drama is about a Japanese musician Nobu who falls in love with a young singer, Janet in New York. Learn conversational English in these drama scenes that you will practice, and then perform at the end of the term. It is a good way to make friends, spe			
担当者の 研究室等	Amanda Taura's office, Building 7, 5th floor			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に研究室にて対応する。			

科目名	Drama	科目名 (英文)	Drama
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	チ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	松吉 翔也
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1626c0		

授業概要・目的
 言語によるやりとりを、目的や話し手同士の社会的な関係といった側面から捉え、アイコンタクトやジェスチャーなど非言語表現が言語表現の意味を強化したり変えたりすることを、演劇を応用した演習形式で学習する。言葉のやりとりと対人関係の仕組みを分析する力を高める。国際社会の多様性と表現の選択肢を意識し、協調関係をはぐむコミュニケーションを英語で行う知識とスキルを実践的に学ぶ。

到達目標
 国際学部の1年次の学生を対象とし、英語の脚本や演劇制作の手法を用いて、言語と非言語による明示的・暗示的表現やコミュニケーションの多様性を体験する。状況と目的に応じたやりとりによって適切な対人関係を構築できることを実践的に学ぶ。自分と異なる文化背景や行動様式の人とも協力して課題にとりくみ、各々が役割を柔軟に果たして作品を完成することをテーマおよび目標とする。

授業方法と留意点
 ・演劇を応用した演習方式で学ぶ。自分の身体を動かし、音声を使って、表現の可動域を広げる。
 ・同級生との練習を通して、生活環境や所属してきた文化背景、個性に基づく多様性を理解し、互いの共通点や相違点を受け入れる。

科目学習の効果(資格)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	
			事前	事後
1	Orientation オリエンテーション	英語で書かれた脚本の読解と、ドラマ手法の練習(場面ごとの抜き出し上演)方法を学ぶ	Students should study the content of the day's lesson. (1hour)	
2	Politeness ポライトネス (1)	文法の正しさ以外に、コミュニケーションの適切さという指標があることを学ぶ。対人関係や状況、発話の目的における適切さに叶うかどうかで、礼儀・無礼・挑発といった差が生まれることを、脚本の読解から学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)	
3	Politeness ポライトネス (2)	コミュニケーションが対人関係や状況、発話の目的における適切さに叶うかどうかとその影響を、場面の抜き出し上演を通して学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)	
4	Question and reply 問いかげと返答 (1)	問いかげと返答は、対人コミュニケーションでは必ずしも疑問文と答えの形式で行われない。それにもかかわらず、相互に理解し、字句としては正しく答えても満足させられない場合があることを、脚本の読解から学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)	
5	Question and reply 問いかげと返答 (2)	様々なバリエーションの問いかげと返答を、場面の抜き出し上演を通して学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)	
6	Negotiate and persuade 交渉と説得 (1)	一方的な情報発信ではなく、相手の同意を得たり行動を促したりするための効果的なコミュニケーションについて、脚本の読解から学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)	
7	Negotiate and persuade 交渉と説得 (2)	相手の同意や行動を促すためのコミュニケーションを、交渉と説得を描く場面の抜き出し上演を通して学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)	
8	Poetic language 詩的表現 (1)	英語の押韻や比喩表現がもたらす効果を、脚本の読解から学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)	
9	Poetic language 詩的表現 (2)	英語の押韻や比喩表現がもたらす効果を、上演を通して学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)	
10	Miscommunication and repair ミスコミュニケーションと修復 (1)	意思伝達が話者の意図通りにならなかった場合と、誤解や間違いを修復するやりとりについて、脚本の読解から学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)	
11	Miscommunication and repair ミスコミュニケーションと修復 (2)	意思伝達が話者の意図通りにならなかった場合と、誤解や間違いを協力的に修復するやりとりを、上演を通して学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)	
12	Script writing 脚本制作 (1)	既製の演劇作品や映像作品の脚本を短く編集し、抜粋場面を作る作業を通して、全体として意味の連続性があるやりとりを再構成することを学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)	
13	Script writing 脚本制作 (2)	クラスでオリジナルの英語脚本を書き、抜き出し上演を通して脚本の質や効果を学ぶ。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)	
14	Stage production 劇作品の制作と発表 (1)	同級生と協力して劇作品を制作し、上演発表する。観客からのフィードバックや自身の振り返りを通して、脚本や演出を改訂する。	Students should study the content of the day's lesson. (1 hour)	
15	Stage production 劇作品の制作と発表 (2)	改訂版の劇作品上演発表を行い、また、今学期に学んだことを言語化して総括する。	Students should review the content of the term's lessons. (1 hour)	

関連科目 英語科目一般、教職課程

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
-----	----	-----	-----	------

	1	『随時プリントを配布』		
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	『随時プリントを配布』		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業中の発表や取り組む姿勢など(70%) 課題やレポートなどの提出物(30%) ※詳しくは初回授業で授業計画等と合わせて説明します。			
学生への メッセージ	コミュニケーションは文字にできる言語以外の要素で大きく変わります。読み取り方(受信)と表現方法(発信)の両方を、世界的人気作を題材に学んでいきましょう。言葉を使って表現する/言葉を使わずに表現することの面白さを楽しく元気に体験しましょう！			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	Topic Studies I a	科目名 (英文)	Topic Studies Ia
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	天野 貴史
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	LDL1632c0		

授業概要・目的	SDGsの17の国際目標の中から、日本では実感しにくい問題や、学ぶ機会の少ない問題を取り上げ、リーディングと動画の視聴を通してリスニングや語彙の強化を図る。また、テーマに沿った会話学習をおこなうペアワークも行う。
到達目標	開発途上国のリサイクル、プランクトンと環境、気候変動、ダムとプラゴミ、児童労働などの深刻な課題から、リサイクルアート、リサイクル制服など、エネルギーと環境問題を中心に、持続可能な取り組みを英語で読む・書く・話す・聞くことができる。
授業方法と留意点	ペアやグループでの発表を多く取り入れるので、十分な用意をして授業に参加してください。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業日程・内容・評価などの説明	テキストの予習復習 (1時間)
2	Clean Energy Transition 1	クリーンエネルギーへの移行について英語で話す・書く・聞く・読む。	テキストの予習復習 (1時間)
3	Clean Energy Transition 2	クリーンエネルギーへの移行について英語で話す・書く・聞く・読む。	テキストの予習復習 (1時間)
4	Recycling Issues in Developing Countries	開発途上国のリサイクル問題について英語で話す・書く・聞く・読む。	テキストの予習復習 (1時間)
5	Hair Recycling	髪の毛で環境を救うことについて英語で話す・書く・聞く・読む。	テキストの予習復習 (1時間)
6	Zero Waste Grocery Store	ごみを出さない買い物について英語で話す・書く・聞く・読む。	テキストの予習復習 (1時間)
7	Planktons with a Global Impact	プランクトンと環境問題について英語で話す・書く・聞く・読む。	テキストの予習復習 (1時間)
8	Climate Frontline: Sink or Swim	後がない気候変動問題について英語で話す・書く・聞く・読む。	テキストの予習復習 (1時間)
9	The Energy Revolution 1	エネルギー革命について英語で話す・書く・聞く・読む。	テキストの予習復習 (1時間)
10	The Energy Revolution 2	エネルギー革命について英語で話す・書く・聞く・読む。	テキストの予習復習 (1時間)
11	Bed Linen Recycled into School Shirts	リサイクル制服について英語で話す・書く・聞く・読む。	テキストの予習復習 (1時間)
12	Agriculture in a Developing Country	開発途上国の農業について英語で話す・書く・聞く・読む。	テキストの予習復習 (1時間)
13	Dam and Plastic Waste	ダムとプラスチックごみについて英語で話す・書く・聞く・読む。	テキストの予習復習 (1時間)
14	Child Labor Issues	児童労働問題について英語で話す・書く・聞く・読む。	テキストの予習復習 (1時間)
15	Used Phones Recycled into Works of Art	リサイクルアートについて英語で話す・書く・聞く・読む。	テキストの予習復習 (1時間)

関連科目	Topic Studies I b			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	SDGs and Challenges We Face/映像メディアで考えるSDGs	(編著) 山本五郎 Jonathan D. Brown Jaime Selwood	松柏社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	振り返りテスト 30% 授業中の取り組み 50% まとめテスト 20%
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	7号館3階 天野研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。そのほかの質問等は出講時に研究室にて対応する。

科目名	Topic Studies Ia	科目名 (英文)	Topic Studies Ia
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	奥田 梨絵
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	LDL1632c0		

授業概要・目的	<p>本授業のトピックは、「Global Issues (地球規模の問題)」。身の回りの様々な身近な社会問題を知り、自分の意見を英語で考えることを目的とする。</p> <p>The topic of this course is "Global Issues". The goal of the course is to learn about various familiar social issues around you and to think about your own opinions in English.</p>
到達目標	<p>(1) それぞれのテーマに関する問題の背景や状況を理解する。 (2) テーマについて自分の意見を考え、英語で表現できるようになる。 (3) 役に立つ表現や語彙を増やす。</p> <p>(1) Understand the background and situations of issues related to each theme. (2) To be able to think and express your opinions on the theme in English. (3) Increase</p>
授業方法と留意点	<p>(1) 教科書で、問題の背景を理解するとともに、リーディングやペアワーク、ディスカッションなどを通して英語で表現する。 (2) 各Unitに対する予習(文章の大意把握、単語の把握)が求められる。 (3) 辞書を必ず持参すること。</p> <p>(1) Students will use the textbook to understand the background of the issues and express themselves in English through reading, pair work</p>

科目学習の 効果(資格)	<p>(1) 英語の4技能の向上。 (2) グローバルイシューに関する知識の向上</p> <p>(1) Improvement of 4 skills of English. (2) Improvement of knowledge on global issues.</p>
-----------------	--

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	Introduction	Explanation of class procedures, grading, and learning methods	Checking vocabulary and understanding the content of the reading part (preparation for the next class)
	2	Smart Phones Deserve Smart Users①	Reading Pair Work Activity	Preparation of assignments (speech or writing) on the topic
	3	Smart Phones Deserve Smart Users②	Quiz Listening Speech or writing	Review and preparation for next class
	4	Reforming Japan's Education System①	Reading Pair Work Activity	Preparation of assignments (speech or writing) on the topic
	5	Reforming Japan's Education System②	Quiz Listening Speech or writing	Review and preparation for next class
	6	Keeping Mothers on the Payroll①	Reading Pair Work Activity	Preparation of assignments (speech or writing) on the topic
	7	Keeping Mothers on the Payroll②	Quiz Listening Speech or writing	Review and preparation for next class
	8	Slow Life①	Reading Pair Work Activity	Preparation of assignments (speech or writing) on the topic
	9	Slow Life②	Quiz Listening Speech or writing	Review and preparation for next class
	10	Green Transportation①	Reading Pair Work Activity	Preparation of assignments (speech or writing) on the topic
	11	Green Transportation②	Quiz Listening Speech or writing	Review and preparation for next class
	12	A Dollar a Day①	Reading Pair Work Activity	Preparation of assignments (speech or writing) on the topic
	13	A Dollar a Day②	Quiz Listening Speech or writing	Review and preparation for next class
	14	Review and Preparation for the final presentation	Explanation of preparation	presentation preparation
15	Course Wrap-up Presentation	Presentation	Review the course	

関連科目	「トピックスタディーズ Ib」など
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	What's Going On in the World?	David Peaty, Kahori Kobayashi	成美堂

	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	Class Participation 10% Class Activities 20% Quiz 20% Assignments 20% Final Presentation 30%			
学生への メッセージ	<p>グローバルイシューと聞くと難しいと構えてしまうかもしれませんが、皆さんの周りには想像以上に様々な問題が潜んでいます。そうした身近な問題に気づき、自分のこととして考えてみましょう。トピックは難しく感じるかもしれませんが、予習、復習をすれば大丈夫です。ぜひ積極的に参加してください。皆さんに会えるのを楽しみにしています。</p> <p>Although you might feel global issues are difficult to deal with, there are many problems hid</p>			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	Topic Studies Ia	科目名 (英文)	Topic Studies Ia
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	松吉 翔也
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	LDL1632c0		

授業概要・目的	本講義のトピックは「映画を通して学ぶ外国文化」である。映画では言語、文化、社会的背景など様々な要因が異なる視点から描かれている。異なる視点から物事をみることで、自身の視野を広げ、異文化を身近なものとする。外国語（特に英語）や外国文化を映画を通して楽しみながらその奥深さを学んでいきましょう。（※必要に応じて海外ドラマ、アニメ、漫画などの題材も扱います。）
到達目標	本講義を通して学生は： (1) 映画というメディアを通して、これまでとは異なる視点から言語や文化を捉えることができる。 (2) 外国文化をより近くに感じ、日本文化や自分たちについてより多角的に見つめ直すことができる。 (3) 映画の楽しみ方を深め、外国文化や言語により一層興味を持つことができる。
授業方法と留意点	教員が一方向的に話すのではなく、「映画」という映像メディアを楽しみながら外国文化などを学生が主体となり学んでいく。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・目的、評価などについて説明を行います。	講義の復習・課題など (1時間)
2	「映画」や映像メディア	・普段何気に観ている「映画」などは自分たちにとってどのような存在なのだろうか？ ・どのような「映画」に魅力を感じるのか？実際の映画予告などを視聴してみましょう。	講義の復習・課題など (1時間)
3	映画と外国文化 (1)	・映画鑑賞 ・映画の中で興味深い「外国文化」を探し、なぜその場面が描かれているか？その場面から何が分かるのだろうか？	講義の復習・課題など (1時間)
4	映画と外国文化 (2)	・映画鑑賞 ・映画の中で興味深い「外国文化」を探し、なぜその場面が描かれているか？その場面から何が分かるのだろうか？	講義の復習・課題など (1時間)
5	映画と外国文化 (3)	・映画鑑賞 ・映画の中で興味深い「外国文化」を探し、なぜその場面が描かれているか？その場面から何が分かるのだろうか？	講義の復習・課題など (1時間)
6	日本人視点から見た外国映画 (1)	・映画鑑賞 ・日本人は外国映画をどのように観ているのだろうか？自分たちが何気なく観ている外国映画について理解を深めましょう。日本人だけの視点があるのか？	講義の復習・課題など (1時間)
7	日本人視点から見た外国映画 (2)	・映画鑑賞 ・日本人は外国映画をどのように観ているのだろうか？自分たちが何気なく観ている外国映画について理解を深めましょう。日本人だけの視点があるのか？	講義の復習・課題など (1時間)
8	グループ発表	・グループで1本映画を選び、それについて簡単な紹介を行う。	講義の復習・課題など (1時間)
9	海外から見た日本映画/日本文化 (1)	・映画鑑賞 ・異なる文化的背景を持つ外国人の人々は「日本の映画」や「日本文化 (漫画やアニメなど)」をどのような視点でみているのだろうか？	講義の復習・課題など (1時間)
10	海外から見た日本映画/日本文化 (2)	・映画鑑賞 ・異なる文化的背景を持つ外国人の人々は「日本の映画」や「日本文化 (漫画やアニメなど)」をどのような視点でみているのだろうか？	講義の復習・課題など (1時間)
11	映画の多様性 (1)	・映画鑑賞 ・映画には様々なジャンルがあり、それぞれの役割や文化の描かれ方の違いなどを考えてみましょう。	講義の復習・課題など (1時間)
12	映画の多様性 (2)	・映画鑑賞 ・映画には様々なジャンルがあり、それぞれの役割や文化の描かれ方の違いなどを考えてみましょう。	講義の復習・課題など (1時間)
13	Short Films (1)	・短編映画 (Short films) 視聴 ・短編映画の楽しみ方やその限られた時間の中での文化や人間の描かれ方について考えましょう。	講義の復習・課題など (1時間)
14	Short Films (2)	・短編映画 (Short films) 視聴 ・短編映画の楽しみ方やその限られた時間の中での文化や人間の描かれ方について考えましょう。	講義の復習・課題など (1時間)
15	まとめ・振り返り	・これまで学んだことを振り返りましょう。	講義の復習・課題など (1時間)

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	『随時プリントを配布』		
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	『随時プリントを配布』		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	出席・アティチュード 30% 授業内・授業外課題等 70% ※詳細は初回授業で説明します。			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	Topic Studies Ia	科目名 (英文)	Topic Studies Ia
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ニール カー
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	LDL1632c0		

授業概要・目的	This is a topic-based course focusing on the development of critical thinking skills. Through problem-solving activities, students will be encouraged to form and exchange opinions.
到達目標	Participation in this course will lead to an improvement in analytical and debating skills.
授業方法と留意点	Students will analyse and debate many critical social issues, taken from areas such as crime, sport, food, smoking, bullying, driving and so on.
科目学習の効果 (資格)	An improvement in analytical and debating skills.

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction	Orientation and self introduction	Students should preview the unit for the next class. (1 hour)
	2	Unit exercises - Crime	Individual, pair and group work exercises.	Students should preview the unit for the next class. (1 hour)
	3	Unit exercises - Mobile phones	Individual, pair and group work exercises.	Students should preview the unit for the next class. (1 hour)
	4	Unit exercises - Smoking	Individual, pair and group work exercises.	Students should preview the unit for the next class. (1 hour)
	5	Unit exercises - Junk food	Individual, pair and group work exercises.	Students should preview the unit for the next class. (1 hour)
	6	Unit exercises - Celebrity marriage	Individual, pair and group work exercises.	Students should preview the unit for the next class. (1 hour)
	7	Unit exercises - Sport	Individual, pair and group work exercises.	Students should preview the unit for the next class. (1 hour)
	8	Unit exercises - Sport	Individual, pair and group work exercises.	Students should preview the unit for the next class. (1 hour)
	9	Unit exercises - Driving	Individual, pair and group work exercises.	Students should preview the unit for the next class. (1 hour)
	10	Unit exercises - Driving	Individual, pair and group work exercises.	Students should preview the unit for the next class. (1 hour)
	11	Unit exercises - Bullying	Individual, pair and group work exercises.	Students should preview the unit for the next class. (1 hour)
	12	Unit exercises - Bullying	Individual, pair and group work exercises.	Students should rehearse their presentations and prepare for the follow up debate. (1 hour)
	13	Presentations and follow up debates.	self/peer/teacher evaluation	Students should rehearse their presentations and prepare for the follow up debate. (1 hour)
	14	Presentations and follow up debates.	self/peer/teacher evaluation	Students should reflect on the course for the course review and feedback session. (1 hour)
15	Course review.	Feedback session	Students should reflect on the course for the course review and feedback session. (1 hour)	

関連科目	トピックスタディーズIIなど
------	----------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Provoke a Response! Critical Thinking though Data Analysis	Stuart Gale and Shunpei Fukuhara	NAN' UN-DO
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	作文課題 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
-----------	--

学生へのメッセージ	Regular attendance and active participation are the two basic requirements for success in this course. Students who engage wholeheartedly in classroom activities, read up on lessons, and do their homework will achieve the most.
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	Topic Studies Ia	科目名 (英文)	Topic Studies Ia
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	グランド パーシム
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	LDL1632c0		

授業概要・目的	Living as a global citizen. An introduction Sustainable Development Goals (SDGs) This course will tour through different film genres and the movies that best or most famously typify them. Students will learn the characteristics of genres like documentary, melodrama, science fiction, horror and romance and how to recognize those elements in famous movies. Students will be able to do their own film analysis in a final project.
到達目標	Weekly lectures, readings and discussions. There will also be student presentations.
授業方法と留意点	Answering questions in class, completion of class tasks, quizzes, cooperation and bearing 80%. Presentation 20%. Weekly sessions include lecture, reading, discussion.

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	Introduction	Introduction to the course and to each other.	Make sure you get the textbook.
2	Global Perspectives. What are SDGs?	Lecture, readings and discussion.	Review the materials of the week. 1 hour
3	Climate Change	Lecture, readings and discussion.	Review the materials of the week. 1 hour
4	Water	Lecture, readings and discussion.	Review the materials of the week. 1 hour
5	Clean energy	Lecture, readings and discussion and student presentation.	Review the materials of the week. 1 hour
6	Poverty	Lecture, readings and discussion and student presentation.	Review the materials of the week. 1 hour
7	Hunger	Lecture, readings and discussion and student presentation.	Review the materials of the week. 1 hour
8	Children	Lecture, readings and discussion and student presentation.	Review the materials of the week. 1 hour
9	Gender	Lecture, readings and discussion and student presentation.	Review the materials of the week. 1 hour
10	Refugees/ Reduced Inequalities	Lecture, readings and discussion and student presentation.	Review the materials of the week. 1 hour
11	Life on land	Lecture, readings and discussion and student presentation.	Review the materials of the week. 1 hour
12	Good Health and Well-being	Lecture, readings and discussion and student presentation.	Review the materials of the week. 1 hour
13	Life below the water	Lecture, readings and discussion and student presentation.	Review the materials of the week. 1 hour
14	Responsible Consumption Patterns	Lecture, readings and discussion and student presentation.	Review the materials of the week. 1 hour
15	Global Partnerships.	Lecture, readings and discussion and student presentation.	Review the materials of the week. 1 hour.

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Living as Global Citizens	K Oseki & K.M. McManus	Nan'un-do
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	Grades will be determined by, answering questions in class, tasks done in class and for homework, small quizzes, cooperation, teamwork, and bearing. 80% Presentation, 20%.
-----------	--

学生へのメッセージ	The future of the world depends on you.
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	Topic Studies Ia	科目名 (英文)	Topic Studies Ia
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ジェフリー ベル
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	LDL1632c0		

授業概要・目的	This course introduces a variety of topics both national and international for students to learn about and discuss. Students will think about and give their opinion on subjects such as the importance of English, The Internet, Travel, Aliens, Music, etc.
到達目標	The purpose of the course is to promote English fluency by having students think about and give their opinions in English.
授業方法と留意点	Students will do pair work, small group work, practice conversations and do listening exercises.
科目学習の効果 (資格)	The objective of the course is for students improve their fluency by considering topics and discussing their opinions about them with others in class.

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	Ch 2: History of the Hamburger	U.S. Fast Food	Students should review the vocabulary and grammar for the lesson (1 hour)
3	Ch 3: Importance of English	Why English is Important	Students should review the vocabulary and grammar for the lesson (1 hour)
4	Ch 4: How the Internet Evolved	History of Google, YouTube, etc.	Students should review the vocabulary and grammar for the lesson (1 hour)
5	Ch 5: Liquid Candy	Sodas	Students should review the vocabulary and grammar for the lesson (1 hour)
6	Ch 6: Travel in Japan	Japanese Travel	Students should review the vocabulary and grammar for the lesson (1 hour)
7	Ch 7: The Secret of Happiness	Becoming Happy	Students should review the vocabulary and grammar for the lesson (1 hour)
8	Ch 8: Shopping on the Internet	Net Shopping	Students should review the vocabulary and grammar for the lesson (1 hour)
9	Ch 9: Do Aliens & UFOs Exist?	UFO Stories	Students should review the vocabulary and grammar for the lesson (1 hour)
10	Ch 10: Happiest Country in the World	Denmark	Students should review the vocabulary and grammar for the lesson (1 hour)
11	Ch 11: Secondhand Smoke	Dangers of Smoking	Students should review the vocabulary and grammar for the lesson (1 hour)
12	Ch 12: Plastic Surgery	Changing Appearances	Students should review the vocabulary and grammar for the lesson (1 hour)
13	Ch 14: Free Music	Ideas about Downloading	Students should review the vocabulary and grammar for the lesson (1 hour)
14	Ch 15: Ghosts	Death & The Afterlife	Students should review the vocabulary and grammar for the lesson (1 hour)
15	End of Semester Test.	End of Semester Test Summary	Study for test. (1 hour)

関連科目	トピックスタディーズIIなど
------	----------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Life Topics	Takashi Shimaoka & Jonathan Berman	Nan'un-do
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	辞書(Dictionary)		
2				
3				

評価方法 (基準)	50% of Grade on participation and class activities 50% of Grade on end-of-semester test
-----------	--

学生へのメッセージ	To get a good grade, active participation, a positive attitude towards learning and regular attendance is important.
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	Topic Studies Ia	科目名 (英文)	Topic Studies Ia
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	北川 朗子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	LDL1632c0		

授業概要・目的	雑誌の記事、ウェブサイトやインタビューなどの様々なスタイルの文章を読み、演習を通じて読解力やリスニング力の強化を図る。 また扱ったトピックについて、学習した表現を使って自分の考えを英語で発信する基礎づくりをする。
到達目標	(1) 内容を正しく理解しながら、必要な情報を抜き出す。 (2) 音読を通して英語のリズムに慣れる。 (3) 学習した英語表現を使って、自分の考えを英語で発信する。
授業方法と留意点	事前にテキストの単語を調べ内容を読んでくることを課題とします。これをもとに質問形式で内容を確認しながら演習型で授業を行います。予習である課題は授業への取り組みに大きく影響します。必ず準備をして授業に臨んでください。 *紙の辞書または電子辞書を持ってきてください。

科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検等
--------------	-----------

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション Unit1: Living Online	・授業目的、進め方、成績評価方法、自己学習の方法などの説明 ・Meeting Friends Online (P.13)	事後：授業で扱った内容を再読し理解を深める (1時間)
2	Unit1: Living Online	・小テスト ・Active Gaming (P.17)	事前：該当ページ内容を読み単語を調べてくる 事後：授業で扱った内容を再読し理解を深める (1時間)
3	Unit2: Study and Education	・小テスト ・Doing Something Different (P.23)	事前：該当ページ内容を読み単語を調べてくる 事後：授業で扱った内容を再読し理解を深める (1時間)
4	Unit3: Work Choices	・小テスト ・One Man, 52 Jobs (P.33)	事前：該当ページ内容を読み単語を調べてくる 事後：授業で扱った内容を再読し理解を深める (1時間)
5	Unit4: The World of Sports	・小テスト ・Are Sports Important? (P.55)	事前：該当ページ内容を読み単語を調べてくる 事後：授業で扱った内容を再読し理解を深める (1時間)
6	Unit5: Travel	・小テスト ・Destination: Singapore (P.65)	事前：該当ページ内容を読み単語を調べてくる 事後：授業で扱った内容を再読し理解を深める (1時間)
7	Unit6: Comparing Cultures	・小テスト ・My Homestay Diary (P.75)	事前：該当ページ内容を読み単語を調べてくる 事後：授業で扱った内容を再読し理解を深める (1時間)
8	確認テスト	確認テスト(Unit1~6)、解答解説、音読練習	事前：授業内で扱った範囲内の文章をよく読んで内容理解を深めておく。(1時間)
9	Unit7: Listening to Advice	・小テスト ・Peer Pressure (P.93) "	事前：該当ページ内容を読み単語を調べてくる 事後：授業で扱った内容を再読し理解を深める (1時間)
10	Unit8: Remarkable People	・小テスト ・A Real Life Superhero (P.99) "	事前：該当ページ内容を読み単語を調べてくる 事後：授業で扱った内容を再読し理解を深める (1時間)
11	Unit9: That's Entertainment	・小テスト ・Artists in Two Languages (P.109) "	事前：該当ページ内容を読み単語を調べてくる 事後：授業で扱った内容を再読し理解を深める (1時間)
12	Unit10: Fashion and Trends	・小テスト ・Fashion Focus: Street Style (P.127) "	事前：該当ページ内容を読み単語を調べてくる 事後：授業で扱った内容を再読し理解を深める (1時間)
13	Unit11: A Mysterious World	・小テスト ・Into the Night Sky (P.141) "	事前：該当ページ内容を読み単語を調べてくる 事後：授業で扱った内容を再読し理解を深める (1時間)
14	Unit12: True Life Stories	・小テスト ・Face to Face with a Chupacabra (P.147) "	事前：該当ページ内容を読み単語を調べてくる 事後：授業で扱った内容を再読し理解を深める (1時間)
15	確認テスト	確認テスト(Unit7~12)、解答解説、音読練習	事前：授業内で扱った範囲内の文章をよく読んで内容理解を深めておく。(1時間)

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ACTIVE Skills for Reading Intro, Third Edition	Neil J. Anderson	Cengage
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	小テスト：10% 確認テスト：30% 授業への取り組み(課題、投げかける質問に対する発言、呼応状態、積極性など)：60%
-----------	--

	(3回を超える欠席は単位不可とします。遅刻は3回で1回の欠席とみなします。)
学生へのメッセージ	間違いを恐れずに積極的に発言できるクラスづくりを目指していきたいと思います。ペアワークやグループワークではみなさん一人ひとりの姿勢がパートナーに影響を与えます。誰かがやってくれるという受け身ではなく、自ら「Active」な姿勢で参加してください。そのために必ず毎回課題を済ませ授業に参加しましょう。 ※授業内容は進度によって変更する場合があります。その場合は事前に授業内でお知らせします。
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	Topic Studies Ia	科目名 (英文)	Topic Studies Ia
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	高橋 侑里
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	LDL1632c0		

授業概要・目的	本講座では、英文法、新しい語彙を学び、習得します。言語、文化、社会的背景など様々な要因が異なる視点から物事をみることで、自身の視野を広げ、異文化を身近なものとするを目的とする。英語や外国文化（とくにアメリカ文化）を楽しみながら学んでいきましょう。
到達目標	1) 基礎英語と日常英語の知識と使い方を向上させます。 2) 様々なトピックに関する専門的な文章をよりよく理解できるようになります。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業内容・目的、評価などについて説明を行います。	教科書の予習、復習 Students will need to read the Topic Preview and Vocabulary Preview pages in the coursebook about the week's topic before each class and review the vocabulary discussed in class as homework.
2	基礎英語と異文化理解	教科書演習、クイズ、異文化理解を深めます。 be 動詞	教科書の予習、復習
3	基礎英語と異文化理解	教科書演習、クイズ、異文化理解を深めます。 可算名詞/不可算名詞	教科書の予習、復習
4	基礎英語と異文化理解	教科書演習、クイズ、異文化理解を深めます。 一般動詞(現在時制)	教科書の予習、復習
5	基礎英語と異文化理解	教科書演習、クイズ、異文化理解を深めます。 代名詞	教科書の予習、復習
6	基礎英語と異文化理解	教科書演習、クイズ、異文化理解を深めます。 一般動詞(過去時制)	教科書の予習、復習
7	基礎英語と異文化理解	教科書演習、クイズ、異文化理解を深めます。 進行形	教科書の予習、復習
8	基礎英語と異文化理解	教科書演習、クイズ、異文化理解を深めます。 未来形	教科書の予習、復習
9	基礎英語と異文化理解	教科書演習、クイズ、異文化理解を深めます。 助動詞	教科書の予習、復習
10	基礎英語と異文化理解	教科書演習、クイズ、異文化理解を深めます。 前置詞	教科書の予習、復習
11	基礎英語と異文化理解	教科書演習、クイズ、異文化理解を深めます。 現在完了	教科書の予習、復習
12	基礎英語と異文化理解	教科書演習、クイズ、異文化理解を深めます。 比較	教科書の予習、復習
13	基礎英語と異文化理解	教科書演習、クイズ、異文化理解を深めます。 WH 疑問文	教科書の予習、復習
14	基礎英語と異文化理解	教科書演習、クイズ、異文化理解を深めます。 動名詞/不定詞	教科書の予習、復習
15	まとめ・振り返り	全体のまとめ・振り返りを行います。	教科書の予習、復習

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	L.A. イングリッシュ・ライフ～映像で学ぶ大学基礎英語～ - We Love L.A.!	Robert Hickling/臼倉美里	金星堂
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	Class participation and attitude = 30% In-class quizzes = 40%
-----------	--

	Class attendance = 30%
学生への メッセージ	Students who engage wholeheartedly in class activities, read up on lessons, and do their homework will get the most from this course. Pair and group work will form the core of each lesson.
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	Topic Studies Ib	科目名 (英文)	Topic Studies Ib
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	柏原 郁子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	LDL1633c0		

授業概要・目的	ナショナルジオグラフィックからさまざまなトピックについて、最新のコンテンツを「聞き」内容を理解し(Listening)、その内容を要約し、自分の意見を加えて「話す」こと (Speaking)、またトピックに関するエッセイを「読み」内容を理解し(Reading)、自分の意見を英語でまとめながら書き (Writing)、4技能を高めることを目的とする。
到達目標	さまざまなトピックに関連する映像を視聴し、写真を見ながら、斬新なアイデアに触れ、自らも発信する表現方法を身に付ける。
授業方法と留意点	ICTを活用し、音声・映像を活用した演習を通して4技能の力を高めます。無料でアクセスできるコンテンツも紹介しながら、さまざまな英語学習方法を試します。Online教材も備えたテキストですので、積極的にActivityに取り組んで下さい。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	授業オリエンテーション	授業運営について 成績・評価方法などの説明 テキストの構成説明 Inspire Onlineの説明	事前学習：シラバスの内容を読んでくること (0.5時間) 事後学習：Unit1の予習を行うこと。新出単語は辞書で確認してくること (0.5時間)
2	Unit 1 Identity	Lesson A Listening / Conversation Lesson B Reading	事前学習：Unit1LesA/Bの内容を予習すること(0.5時間) 事後学習：Inspire Onlineの課題に取り組む。(0.5時間)
3	Unit 1 Identity	Video: The Global Village Discussion: Asking for personal information	事前学習：Unit1Videoの内容を予習すること(0.5時間) 事後学習：Inspire Onlineの課題に取り組む。(0.5時間)
4	Unit 2 Sports	Lesson A Listening / Conversation Lesson B Reading	事前学習：Unit2 A/Bの内容を予習すること(0.5時間) 事後学習：Inspire Onlineの課題に取り組む。(0.5時間)
5	Unit 2 Sports	Video: Mongolian Horse Race Discussion: Making a suggestion	事前学習：Unit2 Video内容を予習すること(0.5時間) 事後学習：Inspire Onlineの課題に取り組む。(0.5時間)
6	Unit 3 The Night	Lesson A Listening / Conversation Lesson B Reading	事前学習：Unit3 A/Bの内容を予習すること(0.5時間) 事後学習：Inspire Onlineの課題に取り組む。(0.5時間)
7	Unit 3 The Night	Video: Sleepwalking Discussion: Talking about how often you do things	事前学習：Unit3 Videoの内容を予習すること(0.5時間) 事後学習：Inspire Onlineの課題に取り組む。(0.5時間)
8	Unit 4 Fashion	Lesson A Listening / Conversation Lesson B Reading	事前学習：Unit4 A/Bの内容を予習すること(0.5時間) 事後学習：Inspire Onlineの課題に取り組む。(0.5時間)
9	Unit 4 Fashion	Video: Brass Rings Discussion: Talking about clothing styles	事前学習：Unit 4 Videoの内容を予習すること(0.5時間) 事後学習：Inspire Onlineの課題に取り組む。(0.5時間)
10	Unit 5 Homes	Lesson A Listening / Conversation Lesson B Reading	事前学習：Unit 5 A/Bの内容を予習すること(0.5時間) 事後学習：Inspire Onlineの課題に取り組む。(0.5時間)
11	Unit 5 Homes	Video: Eco-Friendly Home Discussion: Giving an opinion	事前学習：Unit 5 Videoの内容を予習すること(0.5時間) 事後学習：Inspire Onlineの課題に取り組む。(0.5時間)
12	Unit 6 Buying & Selling	Lesson A Listening / Conversation Lesson B Reading	事前学習：Unit 6 A/Bの内容を予習すること(0.5時間) 事後学習：Inspire Onlineの課題に取り組む。(0.5時間)
13	Unit 6 Buying & Selling	Video: The Fez Souk Discussion: Asking about shopping habits	事前学習：Unit 6 Videoの内容を予習すること(0.5時間) 事後学習：Inspire Onlineの課題に取り組む。(v時間)
14	Unit 7 Weather	Video: Deadly Heatwave	事前学習：Unit 7 Videoを前もって視聴すること(0.5時間) 事後学習：Inspire Onlineの課題に取り組む。(0.5時間)
15	Review Test	既習内容の到達度確認問題	事前学習：これまでの既習内容を総復習すること(0.5時間) 事後学習：Inspire Onlineの課題に取り組む。(0.5時間)

関連科目	トピックスタディーズ
教科書	

	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Inspire 1</td> <td>Nancy Douglas, Andrew Boon</td> <td>National Geographic Learning</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Inspire 1	Nancy Douglas, Andrew Boon	National Geographic Learning	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	Inspire 1	Nancy Douglas, Andrew Boon	National Geographic Learning														
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	Review Test 40% 提出課題、クラスでの貢献度や発表 50% Inspire Online 進捗度 10%																
学生への メッセージ	ICTを積極的に活用したさまざまな英語学習法を授業内で紹介して行きます。無料でアクセスできるコンテンツも紹介して行きますので、是非試してみてください。自分にあった学習法が見つければ、自然と英語学習時間が増え、自信につながります。																
担当者の 研究室等	7号館 4階 柏原研究室																
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はチューデントアワーにて対応する。																

科目名	Topic Studies Ib	科目名 (英文)	Topic Studies Ib
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	フーバー トッド
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	LDL1633c0		

授業概要・目的	This course covers creative writing and graphic design. For creative writing, students will write poems that explore their own experiences and the experiences of others. Students will then use the graphic design skills that they learn in this course to self-publish and present the poetry that they have written. The final project of this course is the production of a zine, a self-published handmade magazine, which students will share with their classmates.
到達目標	These are the goals for this course: 1. Students will learn how to use English creatively. Some of the techniques that students will use include rhythm, rhyme, alliteration, repetition, simile, metaphor, and onomatopoeia. 2. Students will learn some
授業方法と留意点	Students will have opportunities to work in pairs and small groups during this course. Classes in this course will build on what students have learned and done in past classes, so regular attendance is very important in order to successfully complete
科目学習の効果 (資格)	Students will use PowerPoint in this course. What they learn in this course could help them to complete a PowerPoint qualification in the future.

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction and Class Overview	Syllabus overview and introduction activities	Review activities. 1 hour
	2	Creative Writing: Japanese Culture	Write on the theme of Japanese culture.	Preview and review activities. 1 hour
	3	Design: Fonts	Activities that explore how fonts are used in design.	Preview and review activities. 1 hour
	4	Unit Project	A project that combines students' work from weeks 2 and 3.	Review materials from weeks 2 and 3 before class. 1 hour
	5	Creative Writing: Memorable Places	Write on the theme of memorable places.	Preview and review activities. 1 hour
	6	Design: Colors	Activities that explore how colors are used in design.	Preview and review activities. 1 hour
	7	Unit Project	A project that combines students' work from weeks 5 and 6.	Review materials from weeks 5 and 6 before class. 1 hour
	8	Creative Writing: Personal Experiences	Write on the theme of personal experiences.	Preview and review activities. 1 hour
	9	Design: Shapes	Activities that explore how shapes are used in design.	Preview and review activities. 1 hour
	10	Unit Project	A project that combines students' work from weeks 8 and 9.	Review materials from weeks 8 and 9 before class. 1 hour
	11	Design: Grid	Activities that explore how grids are used in design.	Preview and review activities. 1 hour
	12	Unit Project	A project that combines students' work from weeks 11 and the poetry they have written in previous classes.	Review materials from weeks 11 before class. 1 hour
	13	Publication Project	Plan a zine (a small self-published magazine) to share your creative writing and to demonstrate your design skills.	Select materials from your work this semester to include in your zine. 1 hour
	14	Publication Project	Make a zine.	Finalize the zine plan. Prepare the materials that you will need to make your zine. 1 hour
15	Publication Project	Share your zine in class and discuss the contents.	Complete your zine before class. 1 hour	

関連科目	Topic Studies Ia
------	------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	Unit Projects 52% Participation 30% Publication Project 18%
-----------	---

学生へのメッセージ	Come to class with an open mind and be ready to express yourself in creative writing. We will be doing a lot of design projects using PowerPoint, so if you have your own computer, you can bring it to class with you.
担当者の	7号館3階 フーバー研究室

研究室等	
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。

科目名	Topic Studies Ib	科目名 (英文)	Topic Studies Ib
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	松吉 翔也
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	LDL1633c0		

授業概要・目的	本講義のトピックは「映画を通じた異文化理解」と「外国語学習者」である。映画では言語、文化、社会的背景など様々な要因が異なる視点から描かれている。異なる視点から物事をみることで、自身の視野を広げ、異文化を身近なものとして捉えることを目的とする。外国語（特に英語）や外国文化を映画を通して楽しみながらその奥深さを学んでいきましょう。また、外国語学習や異文化理解をより客観的に見つめ直し、言語・文化を学んでいるみなさん「外国語学習者」について理解を深めます。
到達目標	この講義を通して学生は： (1) 「映画を通して外国語や文化を学ぶ」ことについて、より開かれた視野からものごとを考えることができる。 (2) 外国語や文化を学習している自分たち「学習者」について理解を深めることができる。
授業方法と留意点	教員が一方向的に話す講義形式ではなく、学生のみなさんが積極的に授業に参加するインターアクティブな授業を心がけます。
科目学習の効果(資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容、授業の進め方、評価などについて説明を行います。	講義の復習・課題など(1時間)
2	映像メディアと外国文化 ①	・映画鑑賞(前半) ・映画に描かれる異文化/外国文化 ・Worksheet	講義の復習・課題など(1時間)
3	映像メディアと外国文化 ①	・映画鑑賞(後半) ・映画に描かれる異文化/外国文化 ・Worksheet	講義の復習・課題など(1時間)
4	外国語学習者と様々な要因	・外国語や外国文化を学ぶ皆さん自身について考えます。 ・「年齢、性格、動機、不安、方略」など言葉の学習に影響をする様々な要因について簡単に学習をします。	講義の復習・課題など(1時間)
5	映像メディアと外国文化 ②	・映画鑑賞(前半) ・映画に描かれる異文化/外国文化 ・Worksheet	講義の復習・課題など(1時間)
6	映像メディアと外国文化 ②	・映画鑑賞(後半) ・映画に描かれる異文化/外国文化 ・Worksheet	講義の復習・課題など(1時間)
7	デジタルメディアと外国語学習	・実際に翻訳アプリなどを使用して、外国語学習での問題点や活用方法を見つけより効果的な活用方法を考えましょう。 ・スマホや様々なサブスクで簡単に外国語や異文化に触れることができます。それをもっとうまく活用できないのかを考えましょう。	講義の復習・課題など(1時間)
8	前半と復習と振り返り	・前半の講義で学んだことの振り返りを行い、映画を通して学んだ異文化/外国文化についてより理解を深めます。	講義の復習・課題など(1時間)
9	映像メディアと外国文化 ③	・映画鑑賞(前半) ・映画に描かれる異文化/外国文化 ・Worksheet	講義の復習・課題など(1時間)
10	映像メディアと外国文化 ③	・映画鑑賞(後半) ・映画に描かれる異文化/外国文化 ・Worksheet	講義の復習・課題など(1時間)
11	短編映画と外国文化	・短編映画鑑賞(2~3本) ・短編映画に描かれる異文化/外国文化 ・短編映画は時間も短く、皆さんが気軽にどこでも視聴できます。長編映画とはまた違った楽しみ方や学び方を考えましょう。	講義の復習・課題など(1時間)
12	映像メディアと外国文化 ④	・映画鑑賞(前半) ・映画に描かれる異文化/外国文化 ・Worksheet	講義の復習・課題など(1時間)
13	映像メディアと外国文化 ④	・映画鑑賞(後半) ・映画に描かれる異文化/外国文化 ・Worksheet	講義の復習・課題など(1時間)
14	短編映画と外国文化	・短編映画鑑賞(2~3本) ・短編映画に描かれる異文化/外国文化 ・Worksheet	講義の復習・課題など(1時間)
15	総括	後期講義で取り上げた事柄を総復習します。	講義の復習・課題など(1時間)

関連科目	トピックスタディーズⅡなど
------	---------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	『随時プリントを配布』		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	『随時プリントを配布』		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	出席・授業内・授業外課題など 100% ※詳細は初回授業で説明をします。			
学生への メッセージ	「映画」には自分たちが知らない世界が描かれています。 言葉、文化、国民性、考え方など、いろんなことが映画の中に登場します。 映画を通して異文化や外国文化に触れ、これまで以上に映画を含めた映像メディア活用の幅を広げ、映画の楽しみ方を深めましょう！			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	Topic Studies I b	科目名 (英文)	Topic Studies Ib
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	奥田 梨絵
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	LDL1633c0		

授業概要・目的	<p>本授業のトピックは、「Global Issues (地球規模の問題)」。身の回りの様々な身近な社会問題を知り、自分の意見を英語で考えることを目的とする。</p> <p>The topic of this course is "Global Issues". The goal of the course is to learn about various familiar social issues around you and to think about your own opinions in English.</p>
到達目標	<p>(1) それぞれのテーマに関する問題の背景や状況を理解する。 (2) テーマについて自分の意見を考え、英語で表現できるようになる。 (3) 役に立つ表現や語彙を増やす。</p> <p>(1) Understand the background and situations of issues related to each theme. (2) To be able to think and express your opinion on the theme in English. (3) Increase</p>
授業方法と留意点	<p>(1) 教科書で、問題の背景を理解するとともに、リーディングやペアワーク、ディスカッションなどを通して英語で表現する。 (2) 各 Unit に対する予習 (文章の大意把握、単語の把握) が求められる。 (3) 辞書を必ず持参すること。</p> <p>(1) Students will use the textbook to understand the background of the issues and express themselves in English through reading, pair work</p>

科目学習の効果 (資格)	<p>(1) 英語の4技能の向上。 (2) グローバルイシューに関する知識の向上</p> <p>(1) Improvement of 4 skills of English. (2) Improvement of knowledge on global issues.</p>
--------------	--

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction	Explanation of class procedures, grading, and learning methods	Checking vocabulary and understanding the content of the reading part (preparation for the next class)
	2	A Hungry Future①	Reading Pair Work Activity	Preparation of assignments (speech or writing) on the topic
	3	A Hungry Future②	Quiz Listening Speech or writing	Review and preparation for next class
	4	Volunteering①	Reading Pair Work Activity	Preparation of assignments (speech or writing) on the topic
	5	Volunteering②	Quiz Listening Speech or writing	Review and preparation for next class
	6	Japan's Future Energy Supply①	Reading Pair Work Activity	Preparation of assignments (speech or writing) on the topic
	7	Japan's Future Energy Supply②	Quiz Listening Speech or writing	Review and preparation for next class
	8	Business Can Be Green①	Reading Pair Work Activity	Preparation of assignments (speech or writing) on the topic
	9	Business Can Be Green②	Quiz Listening Speech or writing	Review and preparation for next class
	10	Beyond Fair Trade①	Reading Pair Work Activity	Preparation of assignments (speech or writing) on the topic
	11	Beyond Fair Trade②	Quiz Listening Speech or writing	Review and preparation for next class
	12	Shrink the Economy, Not the Earth①	Reading Pair Work Activity	Preparation of assignments (speech or writing) on the topic
	13	Shrink the Economy, Not the Earth②	Quiz Listening Speech or writing	Review and preparation for next class
	14	Review and Preparation for the final presentation	Explanation of preparation	presentation preparation
15	Course Wrap-up Presentation	Presentation	Review the course	

関連科目	「トピックスタディーズ II a」「トピックスタディーズ II b」など
------	--------------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	What's Going On in the World?	David Peaty, Kahori Kobayashi	成美堂

	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	Class Participation 10% Class Activities 20% Quiz 20% Assignment 20% Final Presentation 30%			
学生への メッセージ	グローバルイシューと聞くと難しいと構えてしまうかもしれませんが、皆さんの周りには想像以上に様々な問題が潜んでいます。そうした身近な問題に気づき、自分のこととして考えてみましょう。トピックは難しく感じるかもしれませんが、予習、復習をすれば大丈夫です。ぜひ積極的に参加してください。皆さんに会えるのを楽しみにしています。 Although you might feel global issues are difficult to deal with, there are many problems hid			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	Topic Studies Ib	科目名 (英文)	Topic Studies Ib
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ニール カー
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	LDL1633c0		

授業概要・目的	This is a topic-based course focusing on the development of critical thinking skills. Through problem-solving activities, students will be encouraged to form and exchange opinions.
到達目標	Participation in this course will lead to an improvement in analytical and debating skills.
授業方法と留意点	Students will analyse and debate many critical social issues, taken from areas such as crime, sport, food, smoking, bullying, driving and so on.
科目学習の効果 (資格)	An improvement in analytical and debating skills.

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	Introduction	Orientation and self introduction	Students should preview the unit for the next class. (1 hour)
2	Unit exercises - Smoking	Individual, pair and group work exercises.	Students should preview the unit for the next class. (1 hour)
3	Unit exercises - Sport	Individual, pair and group work exercises.	Students should preview the unit for the next class. (1 hour)
4	Unit exercises - Driving	Individual, pair and group work exercises.	Students should preview the unit for the next class. (1 hour)
5	Unit exercises - Bullying	Individual, pair and group work exercises.	Students should preview the unit for the next class. (1 hour)
6	Unit exercises - Japan's LGBTs	Individual, pair and group work exercises.	Students should preview the unit for the next class. (1 hour)
7	Unit exercises - Sexism and gender roles	Individual, pair and group work exercises.	Students should preview the unit for the next class. (1 hour)
8	Unit exercises - Sleeping	Individual, pair and group work exercises.	Students should preview the unit for the next class. (1 hour)
9	Unit exercises - Japan's population crisis	Individual, pair and group work exercises.	Students should preview the unit for the next class. (1 hour)
10	Unit exercises - Parasite singles	Individual, pair and group work exercises.	Students should preview the unit for the next class. (1 hour)
11	Unit exercises - J-pop	Individual, pair and group work exercises.	Students should preview the unit for the next class. (1 hour)
12	Unit exercises - Cosmetic surgery and physical appearance	Individual, pair and group work exercises.	Students should rehearse their presentations and prepare for the follow up debate. (1 hour)
13	Presentations and follow up debates.	self/peer/teacher evaluation	Students should rehearse their presentations and prepare for the follow up debate. (1 hour)
14	Presentations and follow up debates.	self/peer/teacher evaluation	Students should reflect on the course for the course review and feedback session. (1 hour)
15	Course review.	Feedback session	Students should reflect on the course for the course review and feedback session. (1 hour)

関連科目	トピックスタディーズIIなど
------	----------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Provoke a Response! Critical Thinking though Data Analysis	Stuart Gale and Shunpei Fukuhara	NAN' UN-DO
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	作文課題 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
学生へのメッセージ	Regular attendance and active participation are the two basic requirements for success in this course. Students who engage wholeheartedly in classroom activities, read up on lessons, and do their homework will achieve the most.
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	Topic Studies Ib	科目名 (英文)	Topic Studies Ib
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	オチエ クリスティン
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	LDL1633c0		

授業概要・目的	英語で書かれた文章を読んで、読解力を身に付けながら、異文化への理解を深める。世界の共通語としての英語を意識しつつ、この授業では、特に北欧の「フィンランド」という国の事例を通して、生活・教育・言語・ジェンダーなどへの理解を深める。
到達目標	(1) 英語で書かれた文章を読み、内容を正しく理解しながら、必要な情報を抜き出すことができる。 (2) 世界に目を向け、英語で様々なトピックに触れることで、多角的視点を身に付けることができる。 (3) 自分の文化と異文化を比較して、自分なりの意見を持ち、それを発信できる。
授業方法と留意点	課題として事前に読んできたテキストの内容をもとに、理解確認を行う。また、適宜追加の資料を用いて考えを深めたり、ディスカッションやプレゼンテーションを通して、自分の意見を発信する機会を持つ。ペアやグループでの活動を中心に授業を行うので、積極的な授業参加が期待される。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	文化 (1)	テキストの内容確認	テキストに目を通して、分からない単語を調べておく (事前学習) 単語や表現の復習、内容を振り返り、自分なりの考えをまとめる (事後学習) (1時間)
3	文化 (2)	テキストの内容確認	テキストに目を通して、分からない単語を調べておく (事前学習) 単語や表現の復習、内容を振り返り、自分なりの考えをまとめる (事後学習) (1時間)
4	文化 (3)	追加資料の検討とディスカッション	テキストに目を通して、分からない単語を調べておく (事前学習) 単語や表現の復習、内容を振り返り、自分なりの考えをまとめる (事後学習) (1時間)
5	言語 (1)	テキストの内容確認	テキストに目を通して、分からない単語を調べておく (事前学習) 単語や表現の復習、内容を振り返り、自分なりの考えをまとめる (事後学習) (1時間)
6	言語 (2)	テキストの内容確認	テキストに目を通して、分からない単語を調べておく (事前学習) 単語や表現の復習、内容を振り返り、自分なりの考えをまとめる (事後学習) (1時間)
7	言語 (3)	追加資料の検討とディスカッション	テキストに目を通して、分からない単語を調べておく (事前学習) 単語や表現の復習、内容を振り返り、自分なりの考えをまとめる (事後学習) (1時間)
8	単語テスト・プレゼンテーション (1)	前半のまとめとして、単語テストとプレゼンテーションを行う。	プレゼンテーションの準備 (1時間)
9	教育 (1)	テキストの内容確認	テキストに目を通して、分からない単語を調べておく (事前学習) 単語や表現の復習、内容を振り返り、自分なりの考えをまとめる (事後学習) (1時間)
10	教育 (2)	テキストの内容確認	テキストに目を通して、分からない単語を調べておく (事前学習) 単語や表現の復習、内容を振り返り、自分なりの考えをまとめる (事後学習) (1時間)
11	教育 (3)	追加資料の検討とディスカッション	テキストに目を通して、分からない単語を調べておく (事前学習) 単語や表現の復習、内容を振り返り、自分なりの考えをまとめる (事後学習) (1時間)
12	ジェンダー (1)	テキストの内容確認	テキストに目を通して、分からない単語を調べておく (事前学習) 単語や表現の復習、内容を振り返り、自分なりの考えをまとめる (事後学習) (1時間)
13	ジェンダー (2)	テキストの内容確認	テキストに目を通して、分からない単語を調べておく (事前学習) 単語や表現の復習、内容を振り返り、自分なりの考えをまとめる (事後学習) (1時間)
14	ジェンダー (3)	追加資料の検討とディスカッション	テキストに目を通して、分からない単語を調べておく (事前学習) 単語や表現の復習、内容を振り返り、自分なりの考えをまとめる (事後学習) (1時間)
15	単語テスト・プレゼンテーション (2)	後半のまとめとして、単語テストとプレゼンテーションを行う。	プレゼンテーションの準備 (1時間)

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	アクロス・カルチャーズ 異文化間コミュニケーションのための総合英語	本名信行, Andy Kirkpatrick, 竹下裕子	三修社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	積極的授業参加 40%、プレゼンテーション 40%、単語テスト 20%			
学生への メッセージ	英語を用いて異文化を理解し、自分の文化について考えを深め、表現することは、留学やビジネスなどの場面で必要な要素となります。英語を通して世界を理解する楽しさをぜひ実感してもらいたいです。This class will be taught in English. Please try your best and don't be afraid to make mistakes.			
担当者の 研究室等	7号館 2階 非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	Topic Studies Ib	科目名 (英文)	Topic Studies Ib
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	藤原 崇
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	LDL1633c0		

授業概要・目的	言語と文化はそれぞれが互いを知るための「窓」である。言語をとおして見える文化の様相、文化をとおして見える言語の様相というものがある。そしてこの両者を結びつけるのが人間の心 (mind) である。この授業では、指定されたテキストの文章を精読し、言語、文化、そして心のはたらきを相互に絡めながら学ぶ。授業は演習形式で行い、学生諸君が主体的に発表し、議論し、それを踏まえて自分が考えたことを英文にまとめることが求められる。したがって、(1) 予習が必須であること、(2) 授業でのアクティビティに積極的に取り組むこと、および (3) コンピュータを使用すること—スマートフォンではなくノートパソコンの使用が強く推奨されることを念頭においてほしい。																																																																		
到達目標	(1) 授業で扱われるトピックに関して学んだ概念を理解し、自分の言葉で説明することができる。 (2) 予習した内容や疑問点を整理し、積極的に授業に参加することができる。 (3) 他者の発表や意見を聞き、自分の考えに照らして議論を深めることができる。 (4) 授業で学んだ概念や表現を適切に用いて自分の考えを英文で書くことができる。																																																																		
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。必ず予習をして授業に臨むこと。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Introduction</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Chapter 1</td> <td>Culture and Identity</td> <td>予習: Chapter 1 [Reading Passage]</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>Chapter 2</td> <td>Hidden Culture</td> <td>予習: Chapter 2 [Reading Passage]</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>Chapter 3</td> <td>Stereotypes</td> <td>予習: Chapter 3 [Reading Passage]</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>Chapter 4</td> <td>Words, Words, Words</td> <td>予習: Chapter 4 [Reading Passage]</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>Chapter 5</td> <td>Communication without Words</td> <td>予習: Chapter 5 [Reading Passage]</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>Chapter 6</td> <td>Diversity</td> <td>予習: Chapter 6 [Reading Passage]</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>Chapter 7</td> <td>Perception</td> <td>予習: Chapter 7 [Reading Passage]</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>Chapter 8</td> <td>Communication Style (1)</td> <td>予習: Chapter 8 [Reading Passage]</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>Chapter 9</td> <td>Communication Style (2)</td> <td>予習: Chapter 9 [Reading Passage]</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>Chapter 10</td> <td>Values</td> <td>予習: Chapter 10 [Reading Passage]</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>Chapter 11</td> <td>Deep Culture (Beliefs and Values)</td> <td>予習: Chapter 11 [Reading Passage]</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>Chapter 12</td> <td>Culture Shock</td> <td>予習: Chapter 12 [Reading Passage]</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>Workshop</td> <td>Reviewing Topics for Writing</td> <td>予習: Choosing a topic for the term assignment</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>Conclusion</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	Introduction			2	Chapter 1	Culture and Identity	予習: Chapter 1 [Reading Passage]	3	Chapter 2	Hidden Culture	予習: Chapter 2 [Reading Passage]	4	Chapter 3	Stereotypes	予習: Chapter 3 [Reading Passage]	5	Chapter 4	Words, Words, Words	予習: Chapter 4 [Reading Passage]	6	Chapter 5	Communication without Words	予習: Chapter 5 [Reading Passage]	7	Chapter 6	Diversity	予習: Chapter 6 [Reading Passage]	8	Chapter 7	Perception	予習: Chapter 7 [Reading Passage]	9	Chapter 8	Communication Style (1)	予習: Chapter 8 [Reading Passage]	10	Chapter 9	Communication Style (2)	予習: Chapter 9 [Reading Passage]	11	Chapter 10	Values	予習: Chapter 10 [Reading Passage]	12	Chapter 11	Deep Culture (Beliefs and Values)	予習: Chapter 11 [Reading Passage]	13	Chapter 12	Culture Shock	予習: Chapter 12 [Reading Passage]	14	Workshop	Reviewing Topics for Writing	予習: Choosing a topic for the term assignment	15	Conclusion		
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	Introduction																																																																		
2	Chapter 1	Culture and Identity	予習: Chapter 1 [Reading Passage]																																																																
3	Chapter 2	Hidden Culture	予習: Chapter 2 [Reading Passage]																																																																
4	Chapter 3	Stereotypes	予習: Chapter 3 [Reading Passage]																																																																
5	Chapter 4	Words, Words, Words	予習: Chapter 4 [Reading Passage]																																																																
6	Chapter 5	Communication without Words	予習: Chapter 5 [Reading Passage]																																																																
7	Chapter 6	Diversity	予習: Chapter 6 [Reading Passage]																																																																
8	Chapter 7	Perception	予習: Chapter 7 [Reading Passage]																																																																
9	Chapter 8	Communication Style (1)	予習: Chapter 8 [Reading Passage]																																																																
10	Chapter 9	Communication Style (2)	予習: Chapter 9 [Reading Passage]																																																																
11	Chapter 10	Values	予習: Chapter 10 [Reading Passage]																																																																
12	Chapter 11	Deep Culture (Beliefs and Values)	予習: Chapter 11 [Reading Passage]																																																																
13	Chapter 12	Culture Shock	予習: Chapter 12 [Reading Passage]																																																																
14	Workshop	Reviewing Topics for Writing	予習: Choosing a topic for the term assignment																																																																
15	Conclusion																																																																		
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Different Realities 異文化コミュニケーション—己を知る、相手を知る—</td> <td>Joseph Shaules、阿部珠理</td> <td>南雲堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Different Realities 異文化コミュニケーション—己を知る、相手を知る—	Joseph Shaules、阿部珠理	南雲堂	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	Different Realities 異文化コミュニケーション—己を知る、相手を知る—	Joseph Shaules、阿部珠理	南雲堂																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	授業での取り組み、課題、提出物 60%、期末レポート 40%																																																																		
学生へのメッセージ																																																																			
担当者の研究室等	船本研究室 (7 号館 5 階)																																																																		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はチュードントアワーにて対応する。																																																																		

科目名	Topic Studies Ib	科目名 (英文)	Topic Studies Ib
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	藤原 久仁子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	LDL1633c0		

授業概要・目的	毎回、ひとつのトピック（旅行や健康、ファッションや経済等）を立て、それらについて自分の意見を英語で表現するためのトレーニングを行います。学術的な議論の組み立て方や、何が論点になるか、大切な点は何かなど、自分の主張を明確に分かりやすく相手に提示する方法を学びます。
到達目標	自分の意見を表現するために必要な語彙力、文法知識、構文を把握する力を身につける。同じ意味でもこの場面ではこの単語を用いて表現するのがふさわしいと判断でき、また、フォーマル/カジュアル度を意識して自分の主張したい内容を適切に表現する力を身につける。
授業方法と留意点	授業は演習＋解説をセットにして、毎回8ページ進みます。知らない単語は調べておきましょう。
科目学習の効果 (資格)	TOEICを受験する人は個別に相談してください（金のフレーズ、公式問題集、推奨する動画、本授業を合わせて勉強してくれば700点までは順調に上がります。そこから先は、スピードUPとリスニング強化等のトレーニングを（だいぶ）頑張れば800点になります。400点と600点は英語の実力的にはそれほど差がありません。600点と800点台はかなりの差があります。800点台と900点台はさらにもっと差があって、900点台になるには毎日英語に触れ、シャドイングし、リピーティングをし、英語学習をやりこむ必要があります

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	第2章 健康 紅茶とコーヒー、どちらの方が健康によいと思うか、根拠を挙げながら意見を述べる練習をする	問題演習・グループディスカッション・フィードバック・解説・まとめのテスト	事前：知らない単語・熟語を調べておく 事後：授業で扱った範囲の文章を音声に合わせてシャドイング、リピーティングする。
3	第3章 教育 対面授業とオンライン授業、どちらの学習効果が高いと思うか。pros and cons（是非）を考え、自分の意見を説得的に述べる練習をする	問題演習・グループディスカッション・フィードバック・解説・まとめのテスト	事前：知らない単語・熟語を調べておく 事後：授業で扱った範囲の文章を音声に合わせてシャドイング、リピーティングする。
4	第4章 ファッション 服は買った方がよいか、レンタルした方がよいか、意見を述べ合う	問題演習・グループディスカッション・フィードバック・解説・まとめのテスト	事前：知らない単語・熟語を調べておく 事後：授業で扱った範囲の文章を音声に合わせてシャドイング、リピーティングする。
5	第5章 スポーツ eスポーツについてどう思うか、意見を述べ合う	問題演習・グループディスカッション・フィードバック・解説・まとめのテスト	事前：知らない単語・熟語を調べておく 事後：授業で扱った範囲の文章を音声に合わせてシャドイング、リピーティングする。
6	第6章 食品 食品ロスを削減するために私たちがすべきことは何か、また賞味期限の表示について考え、意見を述べ合う	問題演習・グループディスカッション・フィードバック・解説・まとめのテスト	事前：知らない単語・熟語を調べておく 事後：授業で扱った範囲の文章を音声に合わせてシャドイング、リピーティングする。
7	第7章 娯楽 多様な娯楽が生まれるなかで、映画製作はどうなると思うか、今後について考え、意見を述べ合う	問題演習・グループディスカッション・フィードバック・解説・まとめのテスト	事前：知らない単語・熟語を調べておく 事後：授業で扱った範囲の文章を音声に合わせてシャドイング、リピーティングする。
8	第8章 エネルギー 個人宅にもソーラーパネルを設置すべきか。環境問題とエネルギーについて考え、意見を述べ合う	問題演習・グループディスカッション・フィードバック・解説・まとめのテスト	事前：知らない単語・熟語を調べておく 事後：授業で扱った範囲の文章を音声に合わせてシャドイング、リピーティングする。
9	第9章 動物 ペットショップと命の売買について考え、意見を述べ合う	問題演習・グループディスカッション・フィードバック・解説・まとめのテスト	事前：知らない単語・熟語を調べておく 事後：授業で扱った範囲の文章を音声に合わせてシャドイング、リピーティングする。
10	第10章 仕事 週休2日と週休3日どちらが良いか、労働と生産性について考え、意見を述べ合う	問題演習・グループディスカッション・フィードバック・解説・まとめのテスト	事前：知らない単語・熟語を調べておく 事後：授業で扱った範囲の文章を音声に合わせてシャドイング、リピーティングする。
11	第11章 社会 ゲーム時間に関する法規制の是非について考え、意見を述べ合う	問題演習・グループディスカッション・フィードバック・解説・まとめのテスト	事前：知らない単語・熟語を調べておく 事後：授業で扱った範囲の文章を音声に合わせてシャドイング、リピーティングする。
12	第12章 経済 キャッシュレス経済の是非について考え、今後の社会の在り方について意見を述べ合う	問題演習・グループディスカッション・フィードバック・解説・まとめのテスト	事前：知らない単語・熟語を調べておく 事後：授業で扱った範囲の文章を音声に合わせてシャドイング、リピーティングする。
13	第13章 SNS	問題演習・グループディスカッション・	事前：知らない単語・熟語を調べておく

		誹謗中傷に対する検閲と言論の自由の制限の関係を考え、意見を述べ合う	フィードバック・解説・まとめのテスト	事後：授業で扱った範囲の文章を音声に合わせてシャドイング、リピーティングする。
	14	第14章 科学 科学の進歩と社会の関係、また、宇宙開発の今後の方向性について予測し、意見を述べ合う	問題演習・グループディスカッション・フィードバック・解説・まとめのテスト	事前：知らない単語・熟語を調べておく 事後：授業で扱った範囲の文章を音声に合わせてシャドイング、リピーティングする。
	15	全体の総括 ディスカッションを振り返る。ひとつのトピックを選び、レポートを作成する	レポートを書く	事前：推奨された動画を観ておく。 事後：推奨された教材で問題演習をする。
関連科目	なし			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Voice Your Opinion	Atsushi lino et al.	金星堂
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	グループディスカッションやまとめの小テスト等毎回の授業で実施する課題に対する評価(50%)とレポート(50%)をもとに、総合的に判断する。			
学生への メッセージ	一緒に楽しく英語を学んでいきましょう。英語に触れる時間が長ければ長いほど英語脳が発達すると信じて、片づけをしながら TED Talk、料理しながら MSNBC News や CNN を聞きながらシャドイングをして、耳と口の筋肉を鍛えましょう。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	中国語で読み解く I	科目名 (英文)	Chinese Reading I
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	中西 正樹
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1650e0		

授業概要・目的	中国語の基礎的な文法と発音を学び、読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく習得する。この学期で中国語の全体像を理解することが可能だが、2年次以降も中国語を引き続き学ぶことを前提に、より実践的なコミュニケーションや資格取得のための基礎力をつけることも目指す。
到達目標	中国語検定試験 4 級に出題される文法項目をひと通り修得することができる。また同検定のリスニング試験で 6 割以上正解できるだけの聞き取り能力を身につけることができる。また中国語を使って初歩的な会話ができるレベルに到達することができる。
授業方法と留意点	1 年次後期の中国語科目「中国語で読み解く I」「中国語で表現する I」「中国語で会話する I」は 1 冊の教科書を 3 科目共同で使いながら学ぶ。具体的には「読み解く I」で奇数課、「表現する I」で偶数課を学び、これら二つの授業で学んだ文法や単語を使ったコミュニケーションを「会話する I」で学ぶ。学期中の授業は常にこのローテーションで 3 科目が連携しながら進行する。授業は講義形式。テストはそれぞれの科目で学んだ範囲で実施し、それぞれの基準で成績を評価する。しかし、実質上 3 科目を 1 つの科目として学ぶことに留意する必要がある。単
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験準 4 級および 4 級受験可能。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	第一課 発音編 1	声調/単母音/複母音	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
2	第六課 お名前は (1)	姓名の言い方/“ne”/呼びかけのことば/“ba”	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
3	第六課 お名前は (2)	本文・会話練習 p 48~49 (氏名と職業の紹介)	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
4	第九課 おいくつ (1)	数詞/年齢の言い方/量詞/“有”	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
5	第九課 おいくつ (2)	新出単語・本文	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
6	第九課 おいくつ (3)	会話練習 p 66~67 (親族の言い方・数え方)	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
7	第十四課 中秋節 (1)	年月日・曜日の言い方/“快~了”/“了” (文末の了)/前置詞の“跟”/“一边~一边”	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
8	第十四課 中秋節 (2)	新出単語・本文	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
9	第十四課 中秋節 (3)	会話練習 p 96~97 (カレンダー・中国の伝統祝日)	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
10	第十六課 手作り料理 (1)	助動詞の“会”/結果補語/“不”と“没”/方位詞	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
11	第十六課 手作り料理 (2)	新出単語・本文	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
12	第十六課 手作り料理 (3)	会話練習 p 108~109 (いろいろなスポーツ)	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
13	第十九課 おみやげ (1)	“有点儿”と“一点儿”/進行の表し方/“是~的”	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
14	第十九課 おみやげ (2)	新出単語・本文	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
15	第十九課 おみやげ (3)	会話練習 p126~127 (リビングルーム・各種動作その 2)	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。

関連科目	「中国語で表現する I」「中国語で会話する I」
------	--------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	日中いぶこみ交差点	相原茂・陳淑梅	朝日出版社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%
学生への メッセージ	みんなで楽しく言葉を交わしながら、分かることや伝わることを一つ一つ増やしていきましょう。これまで見えなかったものが見えてくるはずで す。
担当者の 研究室等	中西 (7号館3階中西研究室) 夔・左 (7号館2階非常勤控室)
備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日の休み時間などに研究室を訪ねること。

科目名	中国語で読み解く I	科目名 (英文)	Chinese Reading I
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	藥 玉璽
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1650e0		

授業概要・目的	中国語の基礎的な文法と発音を学び、読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく習得する。この学期で中国語の全体像を理解することが可能だが、2 年次以降も中国語を引き続き学ぶことを前提に、より実践的なコミュニケーションや資格取得のための基礎力をつけることも目指す。
到達目標	中国語検定試験 4 級に出題される文法項目をひと通り修得することができる。また同検定のリスニング試験で 6 割以上正解できるだけの聞き取り能力を身につけることができる。また中国語を使って初歩的な会話ができるレベルに到達することができる。
授業方法と留意点	1 年次後期の中国語科目「中国語で読み解く I」「中国語で表現する I」「中国語で会話する I」は 1 冊の教科書を 3 科目共同で使いながら学ぶ。具体的には「読み解く I」で奇数課、「表現する I」で偶数課を学び、これら二つの授業で学んだ文法や単語を使ったコミュニケーションを「会話する I」で学ぶ。学期中の授業は常にこのローテーションで 3 科目が連携しながら進行する。授業は講義形式。テストはそれぞれの科目で学んだ範囲で実施し、それぞれの基準で成績を評価する。しかし、実質上 3 科目を 1 つの科目として学ぶことに留意する必要がある。単
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験準 4 級および 4 級受験可能。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	第一課 発音編 1	声調/単母音/複母音	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
2	第六課 お名前は (1)	姓名の言い方/“ne”/呼びかけのことば/“ba”	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
3	第六課 お名前は (2)	本文・会話練習 p 48~49 (氏名と職業の紹介)	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
4	第九課 おいくつ (1)	数詞/年齢の言い方/量詞/“有”	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
5	第九課 おいくつ (2)	新出単語・本文	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
6	第九課 おいくつ (3)	会話練習 p 66~67 (親族の言い方・数え方)	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
7	第十四課 中秋節 (1)	年月日・曜日の言い方/“快~了”/“了” (文末の了)/前置詞の“跟”/“一边~一边”	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
8	第十四課 中秋節 (2)	新出単語・本文	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
9	第十四課 中秋節 (3)	会話練習 p 96~97 (カレンダー・中国の伝統祝日)	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
10	第十六課 手作り料理 (1)	助動詞の“会”/結果補語/“不”と“没”/方位詞	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
11	第十六課 手作り料理 (2)	新出単語・本文	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
12	第十六課 手作り料理 (3)	会話練習 p 108~109 (いろいろなスポーツ)	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
13	第十九課 おみやげ (1)	“有点儿”と“一点儿”/進行の表し方/“是~的”	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
14	第十九課 おみやげ (2)	新出単語・本文	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
15	第十九課 おみやげ (3)	会話練習 p126~127 (リビングルーム・各種動作その 2)	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。

関連科目	「中国語で表現する I」「中国語で会話する I」
------	--------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	日中いぶこみ交差点	相原茂・陳淑梅	朝日出版社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%
学生への メッセージ	みんなで楽しく言葉を交わしながら、分かることや伝わることを一つ一つ増やしていきましょう。これまで見えなかったものが見えてくるはずで す。
担当者の 研究室等	中西 (7号館3階中西研究室) 夔・左 (7号館2階非常勤控室)
備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日の休み時間などに研究室を訪ねること。

科目名	中国語で読み解く I	科目名 (英文)	Chinese Reading I
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	左 虹
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1650e0		

授業概要・目的	中国語の基礎的な文法と発音を学び、読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく習得する。この学期で中国語の全体像を理解することが可能だが、2 年次以降も中国語を引き続き学ぶことを前提に、より実践的なコミュニケーションや資格取得のための基礎力をつけることも目指す。
到達目標	中国語検定試験 4 級に出題される文法項目をひと通り修得することができる。また同検定のリスニング試験で 6 割以上正解できるだけの聞き取り能力を身につけることができる。また中国語を使って初歩的な会話ができるレベルに到達することができる。
授業方法と留意点	1 年次後期の中国語科目「中国語で読み解く I」「中国語で表現する I」「中国語で会話する I」は 1 冊の教科書を 3 科目共同で使いながら学ぶ。具体的には「読み解く I」で奇数課、「表現する I」で偶数課を学び、これら二つの授業で学んだ文法や単語を使ったコミュニケーションを「会話する I」で学ぶ。学期中の授業は常にこのローテーションで 3 科目が連携しながら進行する。授業は講義形式。テストはそれぞれの科目で学んだ範囲で実施し、それぞれの基準で成績を評価する。しかし、実質上 3 科目を 1 つの科目として学ぶことに留意する必要がある。単
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験準 4 級および 4 級受験可能。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	第一課 発音編 1	声調/単母音/複母音	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
2	第六課 お名前は (1)	姓名の言い方/“ne”/呼びかけのことば/“ba”	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
3	第六課 お名前は (2)	本文・会話練習 p 48~49 (氏名と職業の紹介)	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
4	第九課 おいくつ (1)	数詞/年齢の言い方/量詞/“有”	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
5	第九課 おいくつ (2)	新出単語・本文	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
6	第九課 おいくつ (3)	会話練習 p 66~67 (親族の言い方・数え方)	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
7	第十四課 中秋節 (1)	年月日・曜日の言い方/“快~了”/“了” (文末の了)/前置詞の“跟”/“一边~一边”	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
8	第十四課 中秋節 (2)	新出単語・本文	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
9	第十四課 中秋節 (3)	会話練習 p 96~97 (カレンダー・中国の伝統祝日)	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
10	第十六課 手作り料理 (1)	助動詞の“会”/結果補語/“不”と“没”/方位詞	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
11	第十六課 手作り料理 (2)	新出単語・本文	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
12	第十六課 手作り料理 (3)	会話練習 p 108~109 (いろいろなスポーツ)	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
13	第十九課 おみやげ (1)	“有点儿”と“一点儿”/進行の表し方/“是~的”	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
14	第十九課 おみやげ (2)	新出単語・本文	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
15	第十九課 おみやげ (3)	会話練習 p126~127 (リビングルーム・各種動作その 2)	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。

関連科目	「中国語で表現する I」「中国語で会話する I」
------	--------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	日中いぶこみ交差点	相原茂・陳淑梅	朝日出版社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%
学生への メッセージ	みんなで楽しく言葉を交わしながら、分かることや伝わることを一つ一つ増やしていきましょう。これまで見えなかったものが見えてくるはずで す。
担当者の 研究室等	中西 (7号館3階中西研究室) 夔・左 (7号館2階非常勤控室)
備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日の休み時間などに研究室を訪ねること。

科目名	中国語で表現する I	科目名 (英文)	Chinese Expressions I
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	中西 正樹
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1651e0		

授業概要・目的	中国語の基礎的な文法と発音を学び、読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく習得する。この学期で中国語の全体像を理解することが可能だが、2年次以降も中国語を引き続き学ぶことを前提に、より実践的なコミュニケーションや資格取得のための基礎力をつけることも目指す。
到達目標	中国語検定試験 4 級に出題される文法項目をひと通り修得することができる。また同検定のリスニング試験で 6 割以上正解できるだけの聞き取り能力を身につけることができる。また中国語を使って初歩的な会話ができるレベルに到達することができる。
授業方法と留意点	1 年次後期の中国語科目「中国語で読み解く I」「中国語で表現する I」「中国語で会話する I」は 1 冊の教科書を 3 科目共同で使いながら学ぶ。具体的には「読み解く I」で奇数課、「表現する I」で偶数課を学び、これら二つの授業で学んだ文法や単語を使ったコミュニケーションを「会話する I」で学ぶ。学期中の授業は常にこのローテーションで 3 科目が連携しながら進行する。授業は講義形式。テストはそれぞれの科目で学んだ範囲で実施し、それぞれの基準で成績を評価する。しかし、実質上 3 科目を 1 つの科目として学ぶことに留意する必要がある。単
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験準 4 級および 4 級受験可能。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	第二課 発音編 2	声母表/無気音と有気音/そり舌音/消える o と e/同じ i でも違う音	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
2	第四課 発音編 4	第 3 声+第 3 声→第 2 声+第 3 声/不の声調変化/一の声調変化/軽声/声調の組み合わせ/隔音マーク/r 化	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
3	第七課 ご出身は (1)	指示代名詞「こそあど」/“的”/“都”と“也”/動詞述語文	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
4	第七課 ご出身は (2)	本文・会話練習 p54~55 (各種動作その 1)	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
5	第十課 和食はいかが (1)	“過”guo/“請”qing/“還是”haishi/形容詞述語文	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
6	第十課 和食はいかが (2)	本文・会話練習 p 72~73 (いろいろな食べ物・形容表現その 1)	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
7	第十二課 買い物 (1)	助動詞“可以”/動詞の重ね型/方向補語/連動文/お金の言い方	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
8	第十二課 買い物 (2)	新出単語・本文	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
9	第十二課 買い物 (3)	会話練習 p 84~85 (衣服と値段)	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
10	第十五課 食事の前は (1)	時刻の言い方/時間量の言い方/禁止表現“別”/“挺”	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
11	第十五課 食事の前は (2)	新出単語・本文	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
12	第十五課 食事の前は (3)	会話練習 p 102~103 (一日の日程)	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
13	第十八課 スキー場で (1)	前置詞の“用”/“一下”/二重目的語をとる動詞	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
14	第十八課 スキー場で (2)	新出単語・本文	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
15	第十八課 スキー場で (3)	会話練習 p 120~121 (身体部位・各種症状)	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。

関連科目	「中国語で読み解く I」「中国語で会話する I」
------	--------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	日中いぶこみ交差点	相原茂・陳淑梅	朝日出版社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%”
学生への メッセージ	みんなで楽しく言葉を交わしながら，分かることや伝わることを一つ一つ増やしていきましょう。これまで見えなかったものが見えてくるはずで す。
担当者の 研究室等	中西 (7号館3階研究室) 大西・曹 (7号館2階非常勤講師控室)
備考	授業時間外に質問したい場合，担当教員の授業曜日の休み時間などに研究室を訪ねること。

科目名	中国語で表現する I	科目名 (英文)	Chinese Expressions I
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	大西 紀
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1651e0		

授業概要・目的	中国語の基礎的な文法と発音を学び、読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく習得する。この学期で中国語の全体像を理解することが可能だが、2 年次以降も中国語を引き続き学ぶことを前提に、より実践的なコミュニケーションや資格取得のための基礎力をつけることも目指す。
到達目標	中国語検定試験 4 級に出題される文法項目をひと通り修得することができる。また同検定のリスニング試験で 6 割以上正解できるだけの聞き取り能力を身につけることができる。また中国語を使って初歩的な会話ができるレベルに到達することができる。
授業方法と留意点	1 年次後期の中国語科目「中国語で読み解く I」「中国語で表現する I」「中国語で会話する I」は 1 冊の教科書を 3 科目共同で使いながら学ぶ。具体的には「読み解く I」で奇数課、「表現する I」で偶数課を学び、これら二つの授業で学んだ文法や単語を使ったコミュニケーションを「会話する I」で学ぶ。学期中の授業は常にこのローテーションで 3 科目が連携しながら進行する。授業は講義形式。テストはそれぞれの科目で学んだ範囲で実施し、それぞれの基準で成績を評価する。しかし、実質上 3 科目を 1 つの科目として学ぶことに留意する必要がある。単
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験準 4 級および 4 級受験可能。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	第二課 発音編 2	声母表/無気音と有気音/そり舌音/消える o と e/同じ i でも違う音	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
2	第四課 発音編 4	第 3 声+第 3 声→第 2 声+第 3 声/不の声調変化/一の声調変化/軽声/声調の組み合わせ/隔音マーク/r 化	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
3	第七課 ご出身は (1)	指示代名詞「こそあど」/“的”/“都”と“也”/動詞述語文	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
4	第七課 ご出身は (2)	本文・会話練習 p54~55 (各種動作その 1)	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
5	第十課 和食はいかが (1)	“過”guo/“請”qing/“還是”haishi/形容詞述語文	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
6	第十課 和食はいかが (2)	本文・会話練習 p 72~73 (いろいろな食べ物・形容表現その 1)	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
7	第十二課 買い物 (1)	助動詞“可以”/動詞の重ね型/方向補語/連動文/お金の言い方	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
8	第十二課 買い物 (2)	新出単語・本文	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
9	第十二課 買い物 (3)	会話練習 p 84~85 (衣服と値段)	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
10	第十五課 食事の前は (1)	時刻の言い方/時間量の言い方/禁止表現“別”/“挺”	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
11	第十五課 食事の前は (2)	新出単語・本文	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
12	第十五課 食事の前は (3)	会話練習 p 102~103 (一日の日程)	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
13	第十八課 スキー場で (1)	前置詞の“用”/“一下”/二重目的語をとる動詞	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
14	第十八課 スキー場で (2)	新出単語・本文	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
15	第十八課 スキー場で (3)	会話練習 p 120~121 (身体部位・各種症状)	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。

関連科目	「中国語で読み解く I」「中国語で会話する I」
------	--------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	日中いぶこみ交差点	相原茂・陳淑梅	朝日出版社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%”
学生への メッセージ	みんなで楽しく言葉を交わしながら、分かることや伝わることを一つ一つ増やしていきましょう。これまで見えなかったものが見えてくるはずで す。
担当者の 研究室等	中西 (7号館3階研究室) 大西・曹 (7号館2階非常勤講師控室)
備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日の休み時間などに研究室を訪ねること。

科目名	中国語で表現する I	科目名 (英文)	Chinese Expressions I
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	曹 櫻
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1651e0		

授業概要・目的	中国語の基礎的な文法と発音を学び、読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく習得する。この学期で中国語の全体像を理解することが可能だが、2 年次以降も中国語を引き続き学ぶことを前提に、より実践的なコミュニケーションや資格取得のための基礎力をつけることも目指す。
到達目標	中国語検定試験 4 級に出題される文法項目をひと通り修得することができる。また同検定のリスニング試験で 6 割以上正解できるだけの聞き取り能力を身につけることができる。また中国語を使って初歩的な会話ができるレベルに到達することができる。
授業方法と留意点	1 年次後期の中国語科目「中国語で読み解く I」「中国語で表現する I」「中国語で会話する I」は 1 冊の教科書を 3 科目共同で使いながら学ぶ。具体的には「読み解く I」で奇数課、「表現する I」で偶数課を学び、これら二つの授業で学んだ文法や単語を使ったコミュニケーションを「会話する I」で学ぶ。学期中の授業は常にこのローテーションで 3 科目が連携しながら進行する。授業は講義形式。テストはそれぞれの科目で学んだ範囲で実施し、それぞれの基準で成績を評価する。しかし、実質上 3 科目を 1 つの科目として学ぶことに留意する必要がある。単
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験準 4 級および 4 級受験可能。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	第二課 発音編 2	声母表/無気音と有気音/そり舌音/消える o と e/同じ i でも違う音	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
2	第四課 発音編 4	第 3 声+第 3 声→第 2 声+第 3 声/不の声調変化/一の声調変化/軽声/声調の組み合わせ/隔音マーク/r 化	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
3	第七課 ご出身は (1)	指示代名詞「こそあど」/“的”/“都”と“也”/動詞述語文	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
4	第七課 ご出身は (2)	本文・会話練習 p54~55 (各種動作その 1)	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
5	第十課 和食はいかが (1)	“過”guo/“請”qing/“還是”haishi/形容詞述語文	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
6	第十課 和食はいかが (2)	本文・会話練習 p 72~73 (いろいろな食べ物・形容表現その 1)	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
7	第十二課 買い物 (1)	助動詞“可以”/動詞の重ね型/方向補語/連動文/お金の言い方	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
8	第十二課 買い物 (2)	新出単語・本文	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
9	第十二課 買い物 (3)	会話練習 p 84~85 (衣服と値段)	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
10	第十五課 食事の前は (1)	時刻の言い方/時間量の言い方/禁止表現“別”/“挺”	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
11	第十五課 食事の前は (2)	新出単語・本文	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
12	第十五課 食事の前は (3)	会話練習 p 102~103 (一日の日程)	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
13	第十八課 スキー場で (1)	前置詞の“用”/“一下”/二重目的語をとる動詞	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
14	第十八課 スキー場で (2)	新出単語・本文	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
15	第十八課 スキー場で (3)	会話練習 p 120~121 (身体部位・各種症状)	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。

関連科目	「中国語で読み解く I」「中国語で会話する I」
------	--------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	日中いぶこみ交差点	相原茂・陳淑梅	朝日出版社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%”
学生への メッセージ	みんなで楽しく言葉を交わしながら，分かることや伝わることを一つ一つ増やしていきましょう。これまで見えなかったものが見えてくるはずで す。
担当者の 研究室等	中西 (7号館3階研究室) 大西・曹 (7号館2階非常勤講師控室)
備考	授業時間外に質問したい場合，担当教員の授業曜日の休み時間などに研究室を訪ねること。

科目名	中国語で会話する I	科目名 (英文)	Chinese Conversation I
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	左 虹
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1652e0		

授業概要・目的	中国語の基礎的な文法と発音を学び、読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく習得する。この学期で中国語の全体像を理解することが可能だが、2 年次以降も中国語を引き続き学ぶことを前提に、より実践的なコミュニケーションや資格取得のための基礎力をつけることも目指す。
到達目標	中国語検定試験 4 級に出題される文法項目をひと通り修得することができる。また同検定のリスニング試験で 6 割以上正解できるだけの聞き取り能力を身につけることができる。また中国語を使って初歩的な会話ができるレベルに到達することができる。
授業方法と留意点	1 年次後期の中国語科目「中国語で読み解く I」「中国語で表現する I」「中国語で会話する I」は 1 冊の教科書を 3 科目共同で使いながら学ぶ。具体的には「読み解く I」で奇数課、「表現する I」で偶数課を学び、これら二つの授業で学んだ文法や単語を使ったコミュニケーションを「会話する I」で学ぶ。学期中の授業は常にこのローテーションで 3 科目が連携しながら進行する。授業は講義形式。テストはそれぞれの科目で学んだ範囲で実施し、それぞれの基準で成績を評価する。しかし、実質上 3 科目を 1 つの科目として学ぶことに留意する必要がある。単
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験準 4 級および 4 級受験可能。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	第三課 発音編 3	鼻音 (-n, -ng) を伴う母音/またしても消える e/e のヴァリエーション	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
2	第五課 どうぞよろしく (1)	人称代名詞/挨拶ことば/“是”/“ma”	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
3	第五課 どうぞよろしく (2)	本文・会話練習 p 42~43 (国名、紹介)	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
4	第八課 飲み物は (1)	疑問詞/助動詞の“想”/反復疑問文/“喜歡”xihuan	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
5	第八課 飲み物は (2)	本文・会話練習 p 60~61 (喫茶店の飲み物と食べ物)	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
6	第十一課 家庭訪問 (1)	助動詞の“要”/主述述語文/比較の言い方/前置詞の“給”gei	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
7	第十一課 家庭訪問 (2)	本文・会話練習 p 78~78 (形容表現その 2)	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
8	第十三課 道案内 (1)	“怎麼”/前置詞の“離”“从”“往”/“得” (助動詞) /動詞の“在”/動詞のあとの“了”	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
9	第十三課 道案内 (2)	本文・会話練習 p 90~91 (乗り物と駅前の建物)	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
10	第十七課 カニの季節 (1)	助動詞“能”/前置詞の“在”/“再”	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
11	第十七課 カニの季節 (2)	新出単語・本文	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
12	第十七課 カニの季節 (3)	会話練習 p 114~115 (禁止マーク・いろいろな会社)	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
13	第二十課 空港まで (1)	“把”構文/“被”構文/存現文/“祝”祈る言葉	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
14	第二十課 空港まで (2)	新出単語・本文	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
15	第二十課 空港まで (3)	会話練習 p 132~133 (各種動作その 3・自然現象)	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。

関連科目	「中国語で読み解く I」「中国語で表現する I」
------	--------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	日中いぶこみ交差点	相原茂・陳淑梅	朝日出版社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	授業への参加度と小テスト：50% 単元テスト：50%
学生への メッセージ	みんなで楽しく言葉を交わしながら、分かることや伝わることを一つ一つ増やしていきましょう。これまで見えなかったものが見えてくるはずで す。
担当者の 研究室等	左・欒（7号館2階非常勤講師控室）
備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日の休み時間などに研究室を訪ねること。

科目名	中国語で会話する I	科目名 (英文)	Chinese Conversation I
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	薬 玉璽
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1652e0		

授業概要・目的	中国語の基礎的な文法と発音を学び、読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく習得する。この学期で中国語の全体像を理解することが可能だが、2 年次以降も中国語を引き続き学ぶことを前提に、より実践的なコミュニケーションや資格取得のための基礎力をつけることも目指す。
到達目標	中国語検定試験 4 級に出題される文法項目をひと通り修得することができる。また同検定のリスニング試験で 6 割以上正解できるだけの聞き取り能力を身につけることができる。また中国語を使って初歩的な会話ができるレベルに到達することができる。
授業方法と留意点	1 年次後期の中国語科目「中国語で読み解く I」「中国語で表現する I」「中国語で会話する I」は 1 冊の教科書を 3 科目共同で使いながら学ぶ。具体的には「読み解く I」で奇数課、「表現する I」で偶数課を学び、これら二つの授業で学んだ文法や単語を使ったコミュニケーションを「会話する I」で学ぶ。学期中の授業は常にこのローテーションで 3 科目が連携しながら進行する。授業は講義形式。テストはそれぞれの科目で学んだ範囲で実施し、それぞれの基準で成績を評価する。しかし、実質上 3 科目を 1 つの科目として学ぶことに留意する必要がある。単
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験準 4 級および 4 級受験可能。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	第三課 発音編 3	鼻音 (-n, -ng) を伴う母音/またしても消える e/e のヴァリエーション	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
2	第五課 どうぞよろしく (1)	人称代名詞/挨拶ことば/“是”/“ma”	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
3	第五課 どうぞよろしく (2)	本文・会話練習 p 42~43 (国名、紹介)	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
4	第八課 飲み物は (1)	疑問詞/助動詞の“想”/反復疑問文/“喜歡”xihuan	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
5	第八課 飲み物は (2)	本文・会話練習 p 60~61 (喫茶店の飲み物と食べ物)	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
6	第十一課 家庭訪問 (1)	助動詞の“要”/主述述語文/比較の言い方/前置詞の“給”gei	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
7	第十一課 家庭訪問 (2)	本文・会話練習 p 78~78 (形容表現その 2)	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
8	第十三課 道案内 (1)	“怎麼”/前置詞の“離”“从”“往”/“得” (助動詞) /動詞の“在”/動詞のあとの“了”	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
9	第十三課 道案内 (2)	本文・会話練習 p 90~91 (乗り物と駅前の建物)	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
10	第十七課 カニの季節 (1)	助動詞“能”/前置詞の“在”/“再”	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
11	第十七課 カニの季節 (2)	新出単語・本文	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
12	第十七課 カニの季節 (3)	会話練習 p 114~115 (禁止マーク・いろいろな会社)	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
13	第二十課 空港まで (1)	“把”構文/“被”構文/存現文/“祝”祈る言葉	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
14	第二十課 空港まで (2)	新出単語・本文	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。
15	第二十課 空港まで (3)	会話練習 p 132~133 (各種動作その 3・自然現象)	指定した教科書 (該当ページ) を事前に読んでおくこと (1 時間)。授業後は指示された課題に取り組みながら授業内容を振り返ること (1 時間)。

関連科目 「中国語で読み解く I」「中国語で表現する I」

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	日中いぶこみ交差点	相原茂・陳淑梅	朝日出版社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	授業への参加度と小テスト：50% 単元テスト：50%
学生への メッセージ	みんなで楽しく言葉を交わしながら、分かることや伝わることを一つ一つ増やしていきましょう。これまで見えなかったものが見えてくるはずで す。
担当者の 研究室等	左・欒（7号館2階非常勤講師控室）
備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日の休み時間などに研究室を訪ねること。

科目名	スペイン語文法 I	科目名 (英文)	Spanish Grammar I
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	北條 ゆかり
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1660e0		

授業概要・目的	スペイン語は、スペインやラテンアメリカを中心に、4 億人を超える人びとが使い、20 カ国の公用語となっている国際語です。国連の公用語でもあります。同じスペイン語圏でも歴史、文化、暮らしぶりは多様で、地域差のある文化に親しんだり経験したりできる点は、スペイン語学習の醍醐味の一つといえます。この授業ではスペイン語の基礎文法を学びます。アルファベットと発音から始め、直説法現在の動詞の活用を中心に、基本的な文の構造を理解し、短文を正確に読み書きできる力を養います。
到達目標	スペイン語の基礎的な文法事項のうち、名詞の性・数に基づいて冠詞や形容詞を正しく用いることができるようになること、および動詞の直説法現在の活用を正確に身につけ、用法を理解したうえで適切に肯定文、否定文、疑問文を作ることができるようになることを目標とします。そうして、スペイン語の 4 技能を徐々に身につけていきます。
授業方法と留意点	教科書の第 5 課までを学習範囲とし、練習問題を通じてスペイン語文法の基礎的理解を図る。 ・毎回予習したうえで授業に臨み、予習段階での疑問点をまとめておくこと。 ・各課の最初のページに掲載されている対話文を暗唱すること。
科目学習の効果 (資格)	・スペイン語の文法、語彙、発音の基礎を修得し、基本的な運用能力が身につく。 ・辞書の使用を含めて外国語の学習方法が身につく。 ・スペイン語検定 6 級

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	第 1 課 オリエンテーション; 発音とアクセントの規則	アルファベット、母音と子音の発音、音節の分け方とアクセントの規則	教科書 2～4 ページを読み、音声を聴く。授業後には配布された語彙を実際に発音してみる。(1 時間)
2	第 1 課	あいさつ表現、主語の人称代名詞、動詞 ser (～である) の現在形	教科書第 1 課の 4～6 ページを読みながら音声聴き、意味を調べ、暗記しておく。授業後には練習問題を解く(1 時間)
3	第 2 課	動詞 estar の現在形、ser と estar の違い、名詞の性と数	教科書第 2 課の 8～9 ページを読みながら音声聴き、意味を調べておく。授業後には練習問題を解く、動詞 ser と estar の活用を暗記する。(1 時間)
4	第 2 課	名詞の性・数に合わせた冠詞の形、形容詞の語尾変化、文の種類(肯定文、否定文、疑問文、付加疑問文、感嘆文)、基数詞 (1～10)	教科書 8 ページの対話文を暗記する。第 2 課の 10 ページを読みながら音声聴き、11 ページの練習問題を解いておき提出する。授業後には第 1～2 課を総復習し小テストに備える。(1 時間)
5	第 1～2 課の小テスト①と解説	重要ポイント: 名詞の性・数に応じた冠詞と形容詞の使い方、動詞 ser と estar の使い分けと主語の人称代名詞に対応した活用	テスト後の見直し。授業後には教科書第 3 課の 12～14 ページを読みながら音声聴き、意味を調べて置く。(1 時間)
6	第 3 課	-ar 動詞、-er 動詞、-ir 動詞の現在形規則活用	教科書第 3 課の文法説明に基づき、-ar, -er, -ir 動詞すべての現在時制の規則活用を正確に習得しておく。授業後には 15 ページの練習問題を解く。(1 時間)
7	第 3 課	動詞の現在形のはたらきと規則活用の習得、国・国民・言語の名称	教科書 12 ページの対話文を暗記する。第 3 課の 14 ページに掲載の国・国民・言語の名称を発音し覚えておく。授業後には配布する練習問題を解く。(1 時間)
8	第 4 課	動詞 tener, ir, venir の現在形: 活用と意味	教科書第 4 課の 16～17 ページを読みながら音声聴き、意味を調べておく。授業後には動詞 tener, ir, venir の活用を例文とともに定着させる。(1 時間)
9	第 4 課	tener, ir, venir の不規則活用の習得、基数詞 (11～100)	16 ページの対話文を暗記する。配布される動詞 tener, ir, venir の練習問題を解き、授業で提出する。授業後は 19 ページの練習問題を解いて次週に提出する。(1 時間)
10	第 4 課	時刻の表現、接続詞、前置詞	教科書の冒頭から 18 ページまでで学んだ事項を見直し、疑問点や未習得部分を洗い出しておく。授業後は時刻の表現と数字に慣れるための練習問題を解く。(1 時間)
11	第 3～4 課の小テスト②と解説	重要ポイント: 動詞 tener, ir, venir の活用と意味・用法、時刻の表現	テスト範囲の復習とテスト後の見直し。授業後は教科書第 5 課の 20～21 ページを読みながら音声聴き、意味を調べておく。(1 時間)
12	第 5 課	語幹母音変化動詞、不規則活用の動詞 (decir, saber, conocer)	20 ページの対話文を暗記しておく。授業後は語幹母音変化動詞とその他の不規則動詞の活用を習得するための練習問題を解く。(1 時間)
13	第 5 課	目的語の人称代名詞、動詞 gustar の用法	教科書第 5 課の 22 ページをよく読み、23 ページの練習問題を解き、次週に提出する。(1 時間)
14	第 5 課 総復習と質疑応答	学習範囲を丁寧に見直し、疑問点をすべて明らかにする。	学習した文法項目の総復習を行い、理解度確認試験に備える。(1 時間)
15	理解度確認試験と解説	理解度確認試験の実施と解説。学期を通じた理解度の確認と要点の復習	全学習範囲の総復習を行い、「スペイン語文法 II」での継続学習に繋げる。(1 時間)

関連科目	スペイン語表現 スペイン語会話 I
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	動く! スペイン語	福嶋 教隆	朝日出版社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1	ポケット・プログレッシブ西和・和西辞典	高垣敏博ほか	小学館
	2	西和中辞典	高垣敏博ほか	小学館
	3			
評価方法 (基準)	臨時試験 (小テストと期末の理解度確認試験) 80%、課題 20%			
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・まず辞書 (中古で結構です) を入手し使いこなす姿勢が必要です。最初は参考書欄の1に挙げたコンパクトな辞書で十分です。スペイン語を継続学修しようと決めたら、2に挙げた本格的な辞書に切り替えるといいでしょう (始めからこちらを使用するのが最善策ですが)。 ・最初から間違えずにできる人はいません。何度もつまづき失敗から学ぶ姿勢が大切です。単語ひとつ、活用ひとつを大切に地道に修得していきましょう。 ・予習、復習、自習 (授業時間以外での取り組み) が大事です。自分の学習ペースを身につけるように心掛けてください。 			
担当者の 研究室等	7号館5階 北條研究室			
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・事前・事後学習に要する総時間数は約15時間。 ・授業内で行う試験についてはすべて、返却後、解答の提示と解説を受ける。 ・毎回の授業の始めに、前回の学習内容に関する質問を準備しておき、解説を受ける。 			

科目名	スペイン語文法 I	科目名 (英文)	Spanish Grammar I
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	磯野 吉美
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1660e0		

授業概要・目的	スペイン語は、スペインやラテンアメリカを中心に、4 億人を超える人びとが使い、20 カ国の公用語となっている国際語です。国連の公用語でもあります。同じスペイン語圏でも歴史、文化、暮らしぶりは多様で、地域差のある文化に親しんだり経験したりできる点は、スペイン語学習の醍醐味の一つといえます。この授業ではスペイン語の基礎文法を学びます。アルファベットと発音から始め、直説法現在の動詞の活用を中心に、基本的な文の構造を理解し、短文を正確に読み書きできる力を養います。
到達目標	スペイン語の基礎的な文法事項のうち、名詞の性・数に基づいて冠詞や形容詞を正しく用いることができるようになること、および動詞の直説法現在の活用を正確に身につけ、用法を理解したうえで適切に肯定文、否定文、疑問文を作ることができるようになることを目標とします。そうして、スペイン語の 4 技能を徐々に身につけていきます。
授業方法と留意点	教科書の第 5 課までを学習範囲とし、練習問題を通じてスペイン語文法の基礎的理解を図る。 ・毎回予習したうえで授業に臨み、予習段階での疑問点をまとめておくこと。 ・各課の最初のページに掲載されている対話文を暗唱すること。
科目学習の効果 (資格)	・スペイン語の文法、語彙、発音の基礎を修得し、基本的な運用能力が身につく。 ・辞書の使用を含めて外国語の学習方法が身につく。 ・スペイン語検定 6 級

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	第 1 課 オリエンテーション; 発音とアクセントの規則	アルファベット、母音と子音の発音、音節の分け方とアクセントの規則	教科書 2～4 ページを読み、音声を聴く。授業後には配布された語彙を実際に発音してみる。(1 時間)
2	第 1 課	あいさつ表現、主語の人称代名詞、動詞 ser (～である) の現在形	教科書第 1 課の 4～6 ページを読みながら音声聴き、意味を調べ、暗記しておく。授業後には練習問題を解く (1 時間)
3	第 2 課	動詞 estar の現在形、ser と estar の違い、名詞の性と数	教科書第 2 課の 8～9 ページを読みながら音声聴き、意味を調べておく。授業後には練習問題を解く、動詞 ser と estar の活用を暗記する。(1 時間)
4	第 2 課	名詞の性・数に合わせた冠詞の形、形容詞の語尾変化、文の種類 (肯定文、否定文、疑問文、付加疑問文、感嘆文)、基数詞 (1～10)	教科書 8 ページの対話文を暗記する。第 2 課の 10 ページを読みながら音声聴き、11 ページの練習問題を解いておき提出する。授業後には第 1～2 課を総復習し小テストに備える。(1 時間)
5	第 1～2 課の小テスト①と解説	重要ポイント: 名詞の性・数に応じた冠詞と形容詞の使い方、動詞 ser と estar の使い分けと主語の人称代名詞に対応した活用	テスト後の見直し。授業後には教科書第 3 課の 12～14 ページを読みながら音声聴き、意味を調べて置く。(1 時間)
6	第 3 課	-ar 動詞、-er 動詞、-ir 動詞の現在形規則活用	教科書第 3 課の文法説明に基づき、-ar, -er, -ir 動詞すべての現在時制の規則活用を正確に習得しておく。授業後には 15 ページの練習問題を解く。(1 時間)
7	第 3 課	動詞の現在形のはたらきと規則活用の習得、国・国民・言語の名称	教科書 12 ページの対話文を暗記する。第 3 課の 14 ページに掲載の国・国民・言語の名称を発音し覚えておく。授業後には配布する練習問題を解く。(1 時間)
8	第 4 課	動詞 tener, ir, venir の現在形: 活用と意味	教科書第 4 課の 16～17 ページを読みながら音声聴き、意味を調べておく。授業後には動詞 tener, ir, venir の活用を例文とともに定着させる。(1 時間)
9	第 4 課	tener, ir, venir の不規則活用の習得、基数詞 (11～100)	16 ページの対話文を暗記する。配布される動詞 tener, ir, venir の練習問題を解き、授業で提出する。授業後は 19 ページの練習問題を解いて次週に提出する。(1 時間)
10	第 4 課	時刻の表現、接続詞、前置詞	教科書の冒頭から 18 ページまでで学んだ事項を見直し、疑問点や未習得部分を洗い出しておく。授業後は時刻の表現と数字に慣れるための練習問題を解く。(1 時間)
11	第 3～4 課の小テスト②と解説	重要ポイント: 動詞 tener, ir, venir の活用と意味・用法、時刻の表現	テスト範囲の復習とテスト後の見直し。授業後は教科書第 5 課の 20～21 ページを読みながら音声聴き、意味を調べておく。(1 時間)
12	第 5 課	語幹母音変化動詞、不規則活用の動詞 (decir, saber, conocer)	20 ページの対話文を暗記しておく。授業後は語幹母音変化動詞とその他の不規則動詞の活用を習得するための練習問題を解く。(1 時間)
13	第 5 課	目的語の人称代名詞、動詞 gustar の用法	教科書第 5 課の 22 ページをよく読み、23 ページの練習問題を解き、次週に提出する。(1 時間)
14	第 5 課 総復習と質疑応答	学習範囲を丁寧に見直し、疑問点をすべて明らかにする。	学習した文法項目の総復習を行い、理解度確認試験に備える。(1 時間)
15	理解度確認試験と解説	理解度確認試験の実施と解説。学期を通じた理解度の確認と要点の復習	全学習範囲の総復習を行い、「スペイン語文法 II」での継続学習に繋げる。(1 時間)

関連科目	スペイン語表現 スペイン語会話 I
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	動く! スペイン語	福嶋 教隆	朝日出版社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1	ポケット・プログレッシブ西和・和西辞典	高垣敏博ほか	小学館
	2	西和中辞典	高垣敏博ほか	小学館
	3			
評価方法 (基準)	臨時試験 (小テストと期末の理解度確認試験) 80%、課題 20%			
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・まず辞書 (中古で結構です) を入手し使いこなす姿勢が必要です。最初は参考書欄の1に挙げたコンパクトな辞書で十分です。スペイン語を継続学修しようと決めたら、2に挙げた本格的な辞書に切り替えるとよいでしょう (始めからこちらを使用するのが最善策ですが)。 ・最初から間違えずにできる人はいません。何度もつまずき失敗から学ぶ姿勢が大切です。単語ひとつ、活用ひとつを大切に地道に修得していきましょう。 ・予習、復習、自習 (授業時間以外での取り組み) が大事です。自分の学習ペースを身につけるように心掛けてください。 			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・事前・事後学習に要する総時間数は約15時間。 ・授業内で行う試験についてはすべて、返却後、解答の提示と解説を受ける。 ・毎回の授業の始めに、前回の学習内容に関する質問を準備しておき、解説を受ける。 			

科目名	スペイン語表現	科目名 (英文)	Spanish Expressions
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	安達 直樹
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1661e0		

授業概要・目的	スペイン語の発音および語彙を集中的に学ぶ。いわゆる素読は、外国語教育・学修において根幹をなす。毎回の暗記・暗唱を通して、スペイン語の基礎文法を体得する。語彙も正確に適切に使えるよう、ニュアンスを含めた語義解釈を文章理解を通して行う。
到達目標	文字レベルの正確な発音と語レベルの強勢、および文の抑揚への意識を高める。モデルとなる文をしっかりと記憶し、語彙を変えるなどして、異なる文を作れるようになる。
授業方法と留意点	しっかりと発声し筆記すること、文や語彙を正確に覚えて（声でも文字でも）再現することを目指すため、毎回きちんと予習・暗記した状態で授業に臨むこと。毎課、暗記・暗唱テストを実施する。
科目学習の効果 (資格)	すべての学習の基礎たる暗記・暗唱、予習・自習・復習を徹底すること。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	講義の説明 簡単な語彙とその発音	テキストを購入しておくこと 語句・文の意味を辞書で調べ覚える
2	はじめに アルファベット	簡単な語彙とその発音	語句・文の意味を辞書で調べ覚える
3	はじめに 発音	簡単な語彙とその発音 母音、子音、音節、アクセント	語句・文の意味を辞書で調べ覚える
4	第1課 名詞	名詞の性・数、定冠詞、不定冠詞	語句・文の意味を辞書で調べ覚える
5	第2課 動詞 ser	主語人称代名詞、ser、国籍・出身の言い方、疑問文・否定文	語句・文の意味を辞書で調べ覚える
6	第3課 動詞 estar	estar、所有形容詞、前置詞+定冠詞、直説法現在規則活用動詞	語句・文の意味を辞書で調べ覚える
7	第1～3課 復習	第1～3課の内容	語句・文の意味を辞書で調べ覚える
8	筆記テスト	第1～3課の学習内容	語句・文の意味を辞書で調べ覚える
9	第4課 形容詞	形容詞、ser/estar+形容詞、直接目的語と前置詞 a、ir と venir、ir a +不定詞	語句・文の意味を辞書で調べ覚える
10	第5課 不規則活用動詞	不規則活用動詞 conocer/saber、hacer、指示形容詞、指示代名詞	語句・文の意味を辞書で調べ覚える
11	第6課 tener 型動詞	tener、tener que +不定詞、前置詞格人称代名詞、中性指示代名詞、基数、mente 副詞	語句・文の意味を辞書で調べ覚える
12	第4～6課 復習	第4～6課の学習内容	語句・文の意味を辞書で調べ覚える
13	第4～6課 復習	第4～6課の学習内容	語句・文の意味を辞書で調べ覚える
14	筆記テスト	第4～6課までの学習内容	語句・文の意味を辞書で調べ覚える
15	テストの解説 本科目の振り返り	何がどこまで覚えられたか、できるようになったかを考える	語句・文の意味を辞書で調べ覚える

関連科目	スペイン語の科目すべて
------	-------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	スペイン語パスポート	西川喬	弘学社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	(ポケット) プロGRESSIVE西和・和西辞典		小学館
	2			
	3			

評価方法 (基準)	暗記・暗唱の小テスト30% + 中間・期末の筆記テスト70%
-----------	--------------------------------

学生へのメッセージ	言語は文字である以前に音声です。この事実を思い出してください。チャットやメールなどの視覚媒体に偏ったコミュニケーションのありように気づくことが、おそらく語学の第一歩です。本科目は、よく聴き、よく覚え、よく唱えることを基礎にします。
-----------	---

担当者の研究室等	安達研究室 (7号館5階)
----------	---------------

備考	授業内容および進捗は、あくまでも計画です。クラスの規模や理解度に応じて、随時計画を修正・変更します。事前・事後学習の総時間数は、15時間以上を要する。辞書を用意すること (ここに挙げたものをはじめ、初回授業時にいくつか紹介する)。
----	---

科目名	スペイン語表現	科目名 (英文)	Spanish Expressions
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	林 安紀子
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1661e0		

授業概要・目的	スペイン語の発音および語彙を集中的に学ぶ。いわゆる素読は、外国語教育・学修において根幹をなす。毎回の暗記・暗唱を通して、スペイン語の基礎文法を体得する。語彙も正確に適切に使えるよう、ニュアンスを含めた語義解釈を文章理解を通して行う。
到達目標	文字レベルの正確な発音と語レベルの強勢、および文の抑揚への意識を高める。モデルとなる文をしっかり記憶し、語彙を変えるなどして、異なる文を作れるようになる。
授業方法と留意点	しっかりと発声し筆記すること、文や語彙を正確に覚えて（声でも文字でも）再現することを目指すため、毎回きちんと予習・暗記した状態で授業に臨むこと。毎課、暗記・暗唱テストを実施する。
科目学習の効果 (資格)	すべての学習の基礎たる暗記・暗唱、予習・自習・復習を徹底すること。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	講義の説明 簡単な語彙とその発音	テキストを購入しておくこと 語句・文の意味を辞書で調べ覚える
2	はじめに アルファベット	簡単な語彙とその発音	語句・文の意味を辞書で調べ覚える
3	はじめに 発音	簡単な語彙とその発音 母音、子音、音節、アクセント	語句・文の意味を辞書で調べ覚える
4	第1課 名詞	名詞の性・数、定冠詞、不定冠詞	語句・文の意味を辞書で調べ覚える
5	第2課 動詞 ser	主語人称代名詞、ser、国籍・出身の言い方、疑問文・否定文	語句・文の意味を辞書で調べ覚える
6	第3課 動詞 estar	estar、所有形容詞、前置詞+定冠詞、直説法現在規則活用動詞	語句・文の意味を辞書で調べ覚える
7	第1～3課 復習	第1～3課の内容	語句・文の意味を辞書で調べ覚える
8	筆記テスト	第1～3課の学習内容	語句・文の意味を辞書で調べ覚える
9	第4課 形容詞	形容詞、ser/estar+形容詞、直接目的語と前置詞 a、ir と venir、ir a +不定詞	語句・文の意味を辞書で調べ覚える
10	第5課 不規則活用動詞	不規則活用動詞 conocer/saber、hacer、指示形容詞、指示代名詞	語句・文の意味を辞書で調べ覚える
11	第6課 tener 型動詞	tener、tener que +不定詞、前置詞格人称代名詞、中性指示代名詞、基数、mente 副詞	語句・文の意味を辞書で調べ覚える
12	第4～6課 復習	第4～6課の学習内容	語句・文の意味を辞書で調べ覚える
13	第4～6課 復習	第4～6課の学習内容	語句・文の意味を辞書で調べ覚える
14	筆記テスト	第4～6課までの学習内容	語句・文の意味を辞書で調べ覚える
15	テストの解説 本科目の振り返り	何がどこまで覚えられたか、できるようになったかを考える	語句・文の意味を辞書で調べ覚える

関連科目	スペイン語の科目すべて
------	-------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	スペイン語パスポート	西川喬	弘学社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	(ポケット) プログレッシブ西和・和西辞典		小学館
	2			
	3			

評価方法 (基準)	暗記・暗唱の小テスト30% + 中間・期末の筆記テスト70%
-----------	--------------------------------

学生へのメッセージ	言語は文字である以前に音声です。この事実を思い出してください。チャットやメールなどの視覚媒体に偏ったコミュニケーションのありように気づくことが、おそらく語学の第一歩です。本科目は、よく聴き、よく覚え、よく唱えることを基礎にします。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	授業内容および進捗は、あくまでも計画です。クラスの規模や理解度に応じて、随時計画を修正・変更します。事前・事後学習の総時間数は、15時間以上を要する。辞書を用意すること (ここに挙げたものをはじめ、初回授業時にいくつか紹介する)。
----	---

科目名	スペイン語会話 I	科目名 (英文)	Spanish Conversation I
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	オラシオ ゴメス
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1662e0		

授業概要・目的	スペイン語は、大西洋の両岸にまたがる広域かつ多様な文化圏の公用語であり、かつ米国における話者が飛躍的に増加していることでも知られている。「スペイン語文法 I」で学びつつある文法の知識を活かしながら、日常的によく使う表現をまずは身につける。スペイン語を聞きとり、自分から積極的に話しかけることを実践する。
到達目標	スペイン語独特のリズムに慣れ、基本的な動詞を適切に活用させて簡単な問いかけや応答ができるようになることをめざす。
授業方法と留意点	授業中は間違いを恐れず、スペイン語で積極的に発言すること。疑問点があれば何なりと質問し、理解できるまで説明を求めること。必要に応じて小テストを実施する。以下に示す授業計画は目安であり、履修生の理解度によって進度を調整することがある。
科目学習の効果 (資格)	スペイン語検定 6 級

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	Unidad 1: Hola, como te llamas?	授業の進め方についての説明 アルファベットと文字の発音 あいさつ表現；クラスで使う表現	スペイン語のアルファベットや発音について、入門の教科書でその説明部分を読んでおく。
2	Unidad 1: Hola, como te llamas?	アクセントのルール 単語の発音練習 級友とあいさつを交わす。	第1課の前半5ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
3	Unidad 1: Hola, como te llamas?	地図を見ながらスペイン語圏を確認：イ スパノアメリカ諸国の国名と位置およ びスペインの17自治州 pp. 6-10の活動	第1課の後半5ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
4	Unidad 2: Soy japones, de Tokio	主語になる人称代名詞 国籍・職業を表す語 疑問詞、指示詞	第2課の前半5ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
5	Unidad 2: Soy japones, de Tokio	pp. 16-20の活動	第2課の後半5ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
6	Unidad 3: Mi universidad	定冠詞と不定冠詞 所有詞 動詞 ser, estar	第3課の前半5ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
7	Unidad 3: Mi universidad	pp. 26-30の活動	第3課の後半5ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
8	Repaso y presentacion ここまでの復習と理解度確認	復習と理解度確認中間テストまたはプ レゼンテーション	第3課までで学習したことを声に出して反復練習し、既出の語彙の意味を再確認する。プレゼンの準備をする。
9	Unidad 4: Estudio en la Universidad de Salamanca	動詞の現在形 Presente de indicativo 疑問詞	第4課の前半5ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
10	Unidad 4: Estudio en la Universidad de Salamanca	数字 (11-30) 時刻の表現 前置詞 pp. 34-36の活動	第4課の後半5ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
11	Unidad 4: Estudio en la Universidad de Salamanca	pp. 37-40の活動	第4課全般で学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
12	Unidad 5: La familia	指示詞 所有詞 pp. 41-43の活動	第5課の後半5ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
13	Unidad 5: La familia	動詞 tener 数字 (30-100) pp. 44-46の活動	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
14	Unidad 5: La familia	人の記述 pp. 47-50の活動	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
15	Repaso y examen oral final 理解度確認テスト	これまでの総復習と目標達成度確認 これまでに学習した事項や表現の復習	これまでに学習した事項や表現の復習

関連科目	スペイン語文法 I、スペイン語表現
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Muy Bien! 1 (いいね! スペイン語)	Juan Carlos Moyano Lopez, Carlos Garcia Ruiz-Castillo, Yoshimi Hiroyasu	朝日出版社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法	課題への取り組み姿勢、スペイン語の課題の質および語彙力によって総合的に評価する。
------	--

(基準)	授業における課題 (50%) 期末試験 (50%)から総合的に評価する。 Tareas y participacion (50%) Examen oral final (50%)
学生へのメッセージ	スペイン語は日本語話者にとって聞き取りも発話もとても簡単な言語です。教員とも同級生とも積極的に対話してください。
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	事前・事後学習の総時間数として15時間以上を要する。 毎回の授業の始めに、前回の学習内容に関する質問を受け付けフィードバックを行う。 試験の後、時間中に解説を行う。

科目名	スペイン語会話 I	科目名 (英文)	Spanish Conversation I
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	ヘスス マルティン
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1662e0		

授業概要・目的	スペイン語は、大西洋の両岸にまたがる広域かつ多様な文化圏の公用語であり、かつ米国における話者が飛躍的に増加していることでも知られている。「スペイン語文法 I」で学びつつある文法の知識を活かしながら、日常的によく使う表現をまずは身につける。スペイン語を聞きとり、自分から積極的に話しかけることを実践する。
到達目標	スペイン語独特のリズムに慣れ、基本的な動詞を適切に活用させて簡単な問いかげや応答ができるようになることをめざす。
授業方法と留意点	授業中は間違いを恐れず、スペイン語で積極的に発言すること。疑問点があれば何なりと質問し、理解できるまで説明を求めること。必要に応じて小テストを実施する。以下に示す授業計画は目安であり、履修生の理解度によって進度を調整することがある。
科目学習の効果 (資格)	スペイン語検定 6 級

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	Unidad 1: Hola, como te llamas?	授業の進め方についての説明 アルファベットと文字の発音 あいさつ表現；クラスで使う表現	スペイン語のアルファベットや発音について、入門の教科書でその説明部分を読んでおく。
2	Unidad 1: Hola, como te llamas?	アクセントのルール 単語の発音練習 級友とあいさつを交わす。	第1課の前半5ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
3	Unidad 1: Hola, como te llamas?	地図を見ながらスペイン語圏を確認：イ スパノアメリカ諸国の国名と位置およ びスペインの17自治州 pp. 6-10の活動	第1課の後半5ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
4	Unidad 2: Soy japones, de Tokio	主語になる人称代名詞 国籍・職業を表す語 疑問詞、指示詞	第2課の前半5ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
5	Unidad 2: Soy japones, de Tokio	pp. 16-20の活動	第2課の後半5ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
6	Unidad 3: Mi universidad	定冠詞と不定冠詞 所有詞 動詞 ser, estar	第3課の前半5ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
7	Unidad 3: Mi universidad	pp. 26-30の活動	第3課の後半5ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
8	Repaso y presentacion ここまでの復習と理解度確認	復習と理解度確認中間テストまたはプ レゼンテーション	第3課までで学習したことを声に出して反復練習し、既出の語彙の意味を再確認する。プレゼンの準備をする。
9	Unidad 4: Estudio en la Universidad de Salamanca	動詞の現在形 Presente de indicativo 疑問詞	第4課の前半5ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
10	Unidad 4: Estudio en la Universidad de Salamanca	数字 (11-30) 時刻の表現 前置詞 pp. 34-36の活動	第4課の後半5ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
11	Unidad 4: Estudio en la Universidad de Salamanca	pp. 37-40の活動	第4課全般で学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
12	Unidad 5: La familia	指示詞 所有詞 pp. 41-43の活動	第5課の後半5ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
13	Unidad 5: La familia	動詞 tener 数字 (30-100) pp. 44-46の活動	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
14	Unidad 5: La familia	人の記述 pp. 47-50の活動	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
15	Repaso y examen oral final 理解度確認テスト	これまでの総復習と目標達成度確認 これまでに学習した事項や表現の復習	これまでに学習した事項や表現の復習

関連科目	スペイン語文法 I、スペイン語表現
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Muy Bien! 1 (いいね! スペイン語)	Juan Carlos Moyano Lopez, Carlos Garcia Ruiz-Castillo, Yoshimi Hiroyasu	朝日出版社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法	課題への取り組み姿勢、スペイン語の課題の質および語彙力によって総合的に評価する。
------	--

(基準)	授業における課題 (50%) 期末試験 (50%)から総合的に評価する。 Tareas y participacion (50%) Examen oral final (50%)
学生へのメッセージ	スペイン語は日本語話者にとって聞き取りも発話もとても簡単な言語です。教員とも同級生とも積極的に対話してください。
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	事前・事後学習の総時間数として15時間以上を要する。 毎回の授業の始めに、前回の学習内容に関する質問を受け付けフィードバックを行う。 試験の後、時間中に解説を行う。

科目名	インドネシア語文法	科目名 (英文)	Indonesian Grammar
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	浦野 崇央
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1670e0		

授業概要・目的	人口2億人以上を擁するインドネシア共和国の国語であるインドネシア語 (Bahasa Indonesia) の基礎的な運用能力の向上を目指す。インドネシア語を初めて学ぶにあたっては基礎的な文法を把握し、単語力を増強することが求められる。そこで、本授業では特にインドネシア語の基本文法を学び、読む力と書く力を養っていくことを目的とし、持続的なインドネシア語運用能力の向上を図る。
到達目標	基本的なインドネシア語運用能力を高めることができるようになる。 特に文法能力を高めることができ、インドネシア語で表現する方法の基礎をマスターすることができる。
授業方法と留意点	本授業は、「インドネシア語会話 I」および「インドネシア語表現 I」と同じ教科書を用います。授業には必ず持参してください。なお、インドネシア語の運用能力をより高めたい場合は、参考書欄に挙げた単語集や辞書の購入をお勧めします。 定期試験期間中の期末試験は行わず、授業最終回に復習を兼ねての最終試験を実施します。
科目学習の効果 (資格)	インドネシア語技能検定試験

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	第3課 第4課	否定語、呼びかけの語、前置詞句、助動詞を学ぶ。	学んだことの再確認 (第3課・第4課)
3	第5課 第6課	助動詞、疑問詞、比較の表現、接辞法を学ぶ。	学んだことの再確認 (第5課・第6課)
4	第7課	接頭辞 meN-を学ぶ。	学んだことの再確認 (第7課)
5	第8課	疑問詞、助数詞、重複を学ぶ。	学んだことの再確認 (第8課)
6	第9課	時刻や時間の長さ、時の表現で使われる前置詞を学ぶ。	学んだことの再確認 (第9課)
7	第10課	日付や曜日の言い方、前置詞 untuk や atas の使い方を学ぶ。	学んだことの再確認 (第10課)
8	第11課 第12課	経験や回数、期間を表す表現、接尾辞-iを伴う動詞の形、接尾辞-kan について学ぶ。	学んだことの再確認 (第11課・第12課)
9	第13課	他動詞の3つの語形、他動詞文の文型を学ぶ。	学んだことの再確認 (第13課)
10	第14課	接頭辞 di-を用いる文型、丁寧な否定語として使われる kurang について学ぶ。	学んだことの再確認 (第14課)
11	第15課 第16課	命令・依頼・勧誘・禁止の表現、理由の尋ね方とその答え方、感情の表現を学ぶ。	学んだことの再確認 (第15課・第16課)
12	第17課 第18課	yang 節内での他動詞の語形、前置詞としての dalam の使い方、条件や譲歩などの接続詞、-nya を伴う副詞句を学ぶ。	学んだことの再確認 (第17課・第18課)
13	第19課	疑問文、疑問詞を接続詞のように用いる表現を学ぶ。	学んだことの再確認 (第19課)
14	第20課	会話文「それほど簡単ではありません」、接頭辞 se-を用いた同等比較、接続詞 bahwa を学ぶ。	学んだことの再確認 (第20課)
15	総まとめ	これまでに学んだことについての理解度確認テスト (臨時試験) を実施し、総復習を行う。	これまでに学んだことの再確認

関連科目	インドネシア語会話 I、インドネシア語表現 I
------	-------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ニューエクスプレスプラスインドネシア語	降幡正志・原真由子	白水社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ニューエクスプレスインドネシア語単語集	原真由子	白水社
2	プログレッシブインドネシア語辞典	舟田京子・高殿良博・左藤正範編	小学館	
3				

評価方法 (基準)	最終回の「理解度確認テスト」70%、「積極的な授業参加」の度合い30% 詳細は、第1回目の授業で伝える。
学生へのメッセージ	インドネシア語はとても学びやすい言語です。是非、楽しんで学んでいきましょう。 質問があれば、いつでも研究室に来てください。積極的な姿勢が大切です。
担当者の研究室等	7号館4階 浦野研究室
備考	基本的には予習は必要ないが、授業内容を確実に理解するために事後学習は必ず行うこと。事後学習の総時間数は15時間程度を目安とする。

科目名	インドネシア語文法	科目名 (英文)	Indonesian Grammar
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	大坪 紀子
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1670e0		

授業概要・目的	人口2億人以上を擁するインドネシア共和国の国語であるインドネシア語 (Bahasa Indonesia) の基礎的な運用能力の向上を目指す。インドネシア語を初めて学ぶにあたっては基礎的な文法を把握し、単語力を増強することが求められる。そこで、本授業では特にインドネシア語の基本文法を学び、読む力と書く力を養っていくことを目的とし、持続的なインドネシア語運用能力の向上を図る。
到達目標	基本的なインドネシア語運用能力を高めることができる。 授業では、特に文法能力を高めることを目標とし、インドネシア語で表現する方法の基礎をマスターする。
授業方法と留意点	本授業は、「インドネシア語会話 I」と同じ教科書を用います。授業には必ず持参してください。 授業内で課した課題や演習には口頭と板書でフィードバックをおこなうため、受講者はかならずメモやノートをとること。 なお、インドネシア語の運用能力をより高めたい場合は、参考書欄に挙げた単語集や辞書の購入をお勧めします。 定期試験期間中の期末試験は行わず、授業最終回に復習を兼ねての最終試験を実施します。 授業時に課した課題については授業内でフィードバックを行う。
科目学習の効果 (資格)	インドネシア語技能検定試験

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	第1課 第2課	修飾の関係を表す語順、「AはBです」という表現、場所や方向、移動などの表現、指示代名詞や複数の人称代名詞を学ぶ。	学んだことの再確認 (第1課・第2課)
2	第3課 第4課	否定語、呼びかけの語、前置詞句、助動詞を学ぶ。	学んだことの再確認 (第3課・第4課)
3	第5課 第6課	助動詞、疑問詞、比較の表現、接辞法を学ぶ。	学んだことの再確認 (第5課・第6課)
4	第7課	接頭辞 meN- を学ぶ。	学んだことの再確認 (第7課)
5	第8課	助数詞、重複を学ぶ。	学んだことの再確認 (第8課)
6	第9課	時刻や時間の長さ、時の表現で使われる前置詞を学ぶ。	学んだことの再確認 (第9課)
7	第10課	日付や曜日の言い方、前置詞 untuk や atas の使い方を学ぶ。	学んだことの再確認 (第10課)
8	第11課 第12課	経験や回数、期間を表す表現、接尾辞 -i を伴う動詞の形、接尾辞 -kan について学ぶ。	学んだことの再確認 (第11課・第12課)
9	第13課	他動詞の3つの語形、他動詞文の文型を学ぶ。	学んだことの再確認 (第13課)
10	第14課	接頭辞 di- を用いる文型、丁寧な否定語として使われる kurang について学ぶ。	学んだことの再確認 (第14課)
11	第15課 第16課	命令・依頼・勧誘・禁止の表現、理由の尋ね方とその答え方、感情の表現を学ぶ。	学んだことの再確認 (第15課・第16課)
12	第17課 第18課	yang 節内での他動詞の語形、前置詞としての dalam の使い方、条件や譲歩などの接続詞、-nya を伴う副詞句を学ぶ。	学んだことの再確認 (第17課・第18課)
13	第19課	会話文「誰が手伝ってくれるのですか?」、疑問文、疑問詞を接続詞のように用いる表現を学ぶ。	学んだことの再確認 (第19課)
14	第20課	会話文「それほど簡単ではありません」、接頭辞 se- を用いた同等比較、接続詞 bahwa を学ぶ。	学んだことの再確認 (第20課)
15	総まとめ	これまでに学んだことについての理解度確認テストを実施し、総復習を行う。	これまでに学んだことの再確認

関連科目	インドネシア語会話 I、インドネシア語表現 I
------	-------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ニューエクスプレスプラスインドネシア語	降幡正志・原真由子	白水社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ニューエクスプレスインドネシア語単語集	原真由子	白水社
	2	プログレッシブインドネシア語辞典	舟田京子・高殿良博・左藤正範編	小学館
	3			

評価方法 (基準)	最終回の「理解度確認テスト」70%、「積極的な授業参加」の度合い30% 詳細は、第1回目の授業で伝える。
-----------	---

学生へのメッセージ	1. インドネシア語は学びやすい言語です。外国語学習が苦手な人でも勉強すればするほど能力がどんどん伸びます。最初は中学・高校で親しんできた英語との違いにとまどうかもしれませんが、必ず身につきます。いっしょに頑張りましょう。 2. インドネシア語は、シンガポールやマレーシア、ブルネイなどで話されているマレー語とほぼ同一の言語です。オランダ、東ティモールへ旅行する際にもインドネシア語が役立つことがあります。インドネシア語を学んでどんどん世界を広げてください。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	基本的に予習は必要ありませんが、授業内容を確実に理解するためにも事後学習は必ず行うこと。事後学習の総時間数は、最低でも15時間程
----	--

	度が必要です。 連絡方法は初回授業時に通知する。
--	-----------------------------

科目名	インドネシア語表現 I	科目名 (英文)	Indonesian Expressions I
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	ティウク イテアリ
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1671e0		

授業概要・目的	インドネシア語 (Bahasa Indonesia) は、東南アジア最大の人口を抱え、日本との友好関係が強いインドネシア共和国の国語である。本授業は、インドネシア語を初めて学ぶ学生を対象とし、基礎的な文法を学ぶ「インドネシア語文法」および、日常会話を主とする「インドネシア語会話 I」と連動しつつ、インドネシア語の基礎的な運用能力の修得を学修の到達目標として、基礎的な表現 (単語・慣用表現等) を重点的に教授する。
到達目標	インドネシア語の基礎的な文法知識を得る。 インドネシア語の日常レベルの多様な単語を覚える。 インドネシア語の社会と文化について基礎的な知識を得る。
授業方法と留意点	基本的には講義形式で行うが、都度グループワークをすることで学習内容の定着を図る。 本講義は、教科書に基づく内容と、独自教材による内容がある。 「インドネシア語文法」および「インドネシア語会話 I」と連動する科目なので、それぞれの学習内容をしっかりと復習すること。 授業時に課した課題については授業内でフィードバックを行う。
科目学習の効果 (資格)	インドネシア語技能検定試験 E 級に合格可能な知識を得る。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	インドネシア語とインドネシアについて	授業の進め方について説明する。合わせて、インドネシア語の特徴と、インドネシア語を国語とするインドネシア共和国の概要について説明する。	事後に学習内容を復習する。
2	「人」に関わる単語と表現	インドネシアで社会的な関係の核となっている親族を中心に、人に関わる単語および日常のあいさつに代表されるような、人と人をつなぐ表現を学ぶ。	事前に教科書の該当箇所の内容を確認する。 事後に当日の学習内容を復習する。
3	「家」に関わる単語と表現	インドネシアの人々の日常的な暮らしに関わる単語および表現を学ぶ。	事前に前回の学習内容を復習する。 事後に当日の学習内容を復習する。
4	「色」「形」「大きさ」「におい」に関わる単語と表現	「色」「形」「大きさ」「におい」に関わる単語と表現により、形容詞の用い方を学ぶ。合わせて数詞と通貨について学ぶ。	事前に教科書の該当箇所の内容を確認する。 事後に当日の学習内容を復習する。
5	「食」に関わる単語と表現	「食」に関わる単語や代表的な料理名、表現を学ぶ。	事前に教科書の該当箇所の内容を確認する。 事後に当日の学習内容を復習する。
6	「時間」と「空間」に関わる単語と表現	英語や日本語とも比較しながら、季節や年・月・週など「時間」に関わる単語と表現および、上下、方角、州や市などの行政区分のように、「空間」に関する単語と表現を学ぶ。	事前に教科書の該当箇所の内容を確認する。 事後に当日の学習内容を復習する。
7	「学校」と「教育」に関わる単語と表現	学校制度や塾など、現代のインドネシアにおける「学校」と「教育」に関する単語と表現を学ぶ。	事前にこれまでの学習内容を復習する。 事後に当日の学習内容を復習する。
8	「文化」「習慣」「宗教」に関わる単語と表現	慣習や有形・無形の文化遺産、公定宗教など、「文化」「習慣」「宗教」に関わる単語と表現を学ぶ	事前に教科書の該当箇所の内容を確認する。 事後に当日の学習内容を復習する。
9	短編ドキュメンタリーを見る	インドネシア語で制作された短編ドキュメンタリーを見ながら、単語と表現を学ぶ	事後に当日の学習内容を復習する。小レポートを提出する。
10	短文読解	これまで学んだ内容を活かしながら、日常生活に関する短文読解に挑戦する	事前にこれまでの学習内容を復習する。 事後に当日の学習内容を復習する。
11	「自然」と「アウトドア」に関わる単語と表現	山、川、湖、雨、風、宇宙、天候など「自然」に関わる単語と表現、および「アウトドア」に関わる単語と表現を学ぶ。	事前にこれまでの学習内容を復習する。 事後に当日の学習内容を復習する。
12	「都市生活」に関わる単語と表現	道案内や多様な乗り物に関わる単語と表現、および禁止表現、許可表現を学ぶ。	事前に教科書の該当箇所の内容を確認する。 事後に当日の学習内容を復習する。
13	「身体」と「病気」に関わる単語と表現	「身体」と「病気」に関わる単語と表現を学ぶ	事前に教科書の該当箇所の内容を確認する。 事後に当日の学習内容を復習する。
14	長文読解	これまで学んだ内容を活かしながら、インドネシアの伝統文化に関わる長文読解に挑戦する。	事前にこれまで学んだ単語を復習する。 事後に当日の学習内容を復習する。
15	まとめとテスト	これまでの学習の総合的な振り返りを行う。 到達度確認テストを行う。	事後にこれまでの学習内容を復習する。

関連科目	「諸言語論議」(1 年次前期)、「インドネシア語文法」(1 年次後期)、「インドネシア語会話 I」(1 年次後期)、「インドネシア語表現 II」(2 年次前期)、「インドネシア語会話 II」(2 年次前期)、「総合インドネシア語」(2 年次前期)、「総合マレー語」(2 年次後期)
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ニューエクスプレス+インドネシア語	降幡正志・原真由子	白水社
	2			

	3		
評価方法 (基準)	平常点 20%、課題 30%、到達度確認テスト 50% 詳細は初回授業で指示する。		
学生への メッセージ	インドネシア語を学ぶと、世の中の動きをさらに別の角度から読み解いていくことができます。学びやすい言語でもあるのでぜひ楽しみながら学んでください。		
担当者の 研究室等	7号館 2階 非常勤講師室		
備考	予習・復習は「授業計画」の「事前・事後学習課題」に従い、計 15 時間以上行うこと。 「インドネシア語文法」および「インドネシア語会話 I」と 3 科目共通の教科書を用いるので、重複して購入しないよう注意すること。 連絡方法は初回授業時に通知する。		

科目名	インドネシア語表現 I	科目名 (英文)	Indonesian Expressions I
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	金子 正徳
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1671e0		

授業概要・目的	インドネシア語 (Bahasa Indonesia) は、東南アジア最大の人口を抱え、日本との友好関係が強いインドネシア共和国の国語である。本授業は、インドネシア語を初めて学ぶ学生を対象とし、基礎的な文法を学ぶ「インドネシア語文法」および、日常会話を主とする「インドネシア語会話 I」と連動しつつ、インドネシア語の基礎的な運用能力の修得を学修の到達目標として、基礎的な表現 (単語・慣用表現等) を重点的に教授する。
到達目標	インドネシア語の基礎的な文法知識を得る。 インドネシア語の日常レベルの多様な単語を覚える。 インドネシア語の社会と文化について基礎的な知識を得る。
授業方法と留意点	基本的には講義形式で行うが、都度グループワークをすることで学習内容の定着を図る。 本講義は、教科書に基づく内容と、独自教材による内容がある。 「インドネシア語文法」および「インドネシア語会話 I」と連動する科目なので、それぞれの学習内容をしっかりと復習すること。 授業時に課した課題については授業内でフィードバックを行う。
科目学習の効果 (資格)	インドネシア語技能検定試験 E 級に合格可能な知識を得る。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	インドネシア語とインドネシアについて	授業の進め方について説明する。合わせて、インドネシア語の特徴と、インドネシア語を国語とするインドネシア共和国の概要について説明する。	事後に学習内容を復習する。
2	「人」に関わる単語と表現	インドネシアで社会的な関係の核となっている親族を中心に、人に関わる単語および日常のあいさつに代表されるような、人と人をつなぐ表現を学ぶ。	事前に教科書の該当箇所の内容を確認する。 事後に当日の学習内容を復習する。
3	「家」に関わる単語と表現	インドネシアの人々の日常的な暮らしに関わる単語および表現を学ぶ。	事前に前回の学習内容を復習する。 事後に当日の学習内容を復習する。
4	「色」「形」「大きさ」「におい」に関わる単語と表現	「色」「形」「大きさ」「におい」に関わる単語と表現により、形容詞の用い方を学ぶ。合わせて数詞と通貨について学ぶ。	事前に教科書の該当箇所の内容を確認する。 事後に当日の学習内容を復習する。
5	「食」に関わる単語と表現	「食」に関わる単語や代表的な料理名、表現を学ぶ。	事前に教科書の該当箇所の内容を確認する。 事後に当日の学習内容を復習する。
6	「時間」と「空間」に関わる単語と表現	英語や日本語とも比較しながら、季節や年・月・週など「時間」に関わる単語と表現および、上下、方角、州や市などの行政区分のように、「空間」に関する単語と表現を学ぶ。	事前に教科書の該当箇所の内容を確認する。 事後に当日の学習内容を復習する。
7	「学校」と「教育」に関わる単語と表現	学校制度や塾など、現代のインドネシアにおける「学校」と「教育」に関する単語と表現を学ぶ。	事前にこれまでの学習内容を復習する。 事後に当日の学習内容を復習する。
8	「文化」「習慣」「宗教」に関わる単語と表現	慣習や有形・無形の文化遺産、公定宗教など、「文化」「習慣」「宗教」に関わる単語と表現を学ぶ	事前に教科書の該当箇所の内容を確認する。 事後に当日の学習内容を復習する。
9	短編ドキュメンタリーを見る	インドネシア語で制作された短編ドキュメンタリーを見ながら、単語と表現を学ぶ	事後に当日の学習内容を復習する。小レポートを提出する。
10	短文読解	これまで学んだ内容を活かしながら、日常生活に関する短文読解に挑戦する	事前にこれまでの学習内容を復習する。 事後に当日の学習内容を復習する。
11	「自然」と「アウトドア」に関わる単語と表現	山、川、湖、雨、風、宇宙、天候など「自然」に関わる単語と表現、および「アウトドア」に関わる単語と表現を学ぶ。	事前にこれまでの学習内容を復習する。 事後に当日の学習内容を復習する。
12	「都市生活」に関わる単語と表現	道案内や多様な乗り物に関わる単語と表現、および禁止表現、許可表現を学ぶ。	事前に教科書の該当箇所の内容を確認する。 事後に当日の学習内容を復習する。
13	「身体」と「病気」に関わる単語と表現	「身体」と「病気」に関わる単語と表現を学ぶ	事前に教科書の該当箇所の内容を確認する。 事後に当日の学習内容を復習する。
14	長文読解	これまで学んだ内容を活かしながら、インドネシアの伝統文化に関わる長文読解に挑戦する。	事前にこれまで学んだ単語を復習する。 事後に当日の学習内容を復習する。
15	まとめとテスト	これまでの学習の総合的な振り返りを行う。 到達度確認テストを行う。	事後にこれまでの学習内容を復習する。

関連科目	「諸言語輪講」(1 年次前期)、「インドネシア語文法」(1 年次後期)、「インドネシア語会話 I」(1 年次後期)、「インドネシア語表現 II」(2 年次前期)、「インドネシア語会話 II」(2 年次前期)、「総合インドネシア語」(2 年次前期)、「総合マレー語」(2 年次後期)
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ニューエクスプレス+インドネシア語	降幡正志・原真由子	白水社
	2			

	3		
評価方法 (基準)	平常点 20%、課題 30%、到達度確認テスト 50% 詳細は初回授業で指示する。		
学生への メッセージ	インドネシア語を学ぶと、世の中の動きをさらに別の角度から読み解いていくことができます。学びやすい言語でもあるのでぜひ楽しみながら学んでください。		
担当者の 研究室等	金子研究室 (7号館 5階)		
備考	予習・復習は「授業計画」の「事前・事後学習課題」に従い、計 15 時間以上行うこと。 「インドネシア語文法」および「インドネシア語会話 I」と 3 科目共通の教科書を用いるので、重複して購入しないよう注意すること。		

科目名	インドネシア語会話 I	科目名 (英文)	Indonesian Conversation I
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	エニ レスタリ
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1672e0		

授業概要・目的	人口 2 億以上を擁するインドネシア共和国の国語であるインドネシア語 (Bahasa Indonesia) の基礎的な運用能力の向上を目指す。特に初めてインドネシア語を学ぶことを前提としてボキャブラリーを増やしなが、発音と基本文法を踏まえ、日常会話を話す事が出来るようになることを目的とする。なお、本授業は「インドネシア語表現 I」と運動させて行っていく。
到達目標	インドネシア語で日常会話を話す事が出来る。
授業方法と留意点	各会話文を学んで、関連授業に学んだを加えて、新しい会話文の作成と会話練習を行う。 授業時に課した課題については授業内でフィードバックを行う。
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	文字と発音	インドネシア語の文字と発音について・聞き取り・会話学習	学習内容を覚えるための復習。
2	会話 1・会話 2	会話文「私の名前は健治です」「どこに住んでいますか？」を聞き取り・会話学習	新しい会話文を作成と会話練習
3	会話 3・会話 4	会話文「こちらは作文のクラスではありません」「ヒダヤット先生は今いません」を聞き取り・会話学習	新しい会話文を作成と会話練習
4	会話 5・会話 6	会話文「もうインドネシア語が上手ですね」「もっと大きいのはありますか？」を聞き取り・会話学習	新しい会話文を作成と会話練習
5	会話 7	会話文「この小包を送りたいのですが」を聞き取り・会話学習	新しい会話文を作成と会話練習
6	会話 8	会話文「州がいくつあるかわかりますか？」を聞き取り・会話学習	新しい会話文を作成と会話練習
7	会話 9	会話文「9時半にここで会いましょう」を聞き取り・会話学習	新しい会話文を作成と会話練習
8	会話 10	会話文「7月16日です」を聞き取り・会話学習	新しい会話文を作成と会話練習
9	会話 11	会話文「バリ島に行ったことがありますか？」を聞き取り・会話学習	新しい会話文を作成と会話練習
10	会話 12	会話文「これはペンベックというんです」を聞き取り・会話学習	新しい会話文を作成と会話練習
11	会話 13	会話文「招待状はもう受け取りました」を聞き取り・会話学習	新しい会話文を作成と会話練習
12	会話 14	会話文「アジア・アフリカ会議が行われました」を聞き取り・会話学習	新しい会話文を作成と会話練習
13	会話 15・会話 16	会話文「どうぞお入りください」「なぜインドネシアが好きですか？」を聞き取り・会話学習	新しい会話文を作成と会話練習
14	会話 17・会話 18	会話文「与えられたテーマは...」「乾季でも雨がよく降ります」を聞き取り・会話学習	新しい会話文を作成と会話練習
15	理解度確認テスト	これまでに学んだことの復習臨時試験「ペーパーテスト」	これまでに学んだことの復習

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ニューエクスプレスプラスインドネシア語	降幡正志・原真由子	白水社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ニューエクスプレスインドネシア語単語集	原真由子	白水社
2	プログレッシブインドネシア語辞典	舟田京子・高殿良博・佐藤正範編	小学館	
3				

評価方法 (基準) クラス活動参加及び会話学習：70%
理解度確認テスト 30%
詳細は初回授業で指示する。

学生へのメッセージ 新しい言語を学ぶには、あらゆる進歩を楽しむことができるように、興味と好奇心が必要です。

担当者の研究室等 7号館 2階：非常勤講師室 (水曜日・金曜日)

備考 事前事後学修総時間数の目安は 15 時間以上とします。
連絡方法は初回授業時に通知する。

科目名	インドネシア語会話 I	科目名 (英文)	Indonesian Conversation I
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	ティウ イティリ
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1672e0		

授業概要・目的	人口 2 億以上を擁するインドネシア共和国の国語であるインドネシア語 (Bahasa Indonesia) の基礎的な運用能力の向上を目指す。特に初めてインドネシア語を学ぶことを前提としてボキャブラリーを増やしなが、発音と基本文法を踏まえ、日常会話を話す事が出来るようになることを目的とする。なお、本授業は「インドネシア語表現 I」と運動させて行っていく。
到達目標	インドネシア語で日常会話を話す事が出来る。
授業方法と留意点	各会話文を学んで、関連授業に学んだを加えて、新しい会話文の作成と会話練習を行う。 授業時に課した課題については授業内でフィードバックを行う。
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	会話 1・会話 2	会話文「私の名前は健治です」「どこに住んでいますか？」を聞き取り・会話学習	新しい会話文を作成と会話練習
3	会話 3・会話 4	会話文「こちらは作文のクラスではありません」「ヒダヤット先生は今いません」を聞き取り・会話学習	新しい会話文を作成と会話練習
4	会話 5・会話 6	会話文「もうインドネシア語が上手ですね」「もっと大きいのはありますか？」を聞き取り・会話学習	新しい会話文を作成と会話練習
5	会話 7	会話文「この小包を送りたいのですが」を聞き取り・会話学習	新しい会話文を作成と会話練習
6	会話 8	会話文「州がいくつあるかわかりますか？」を聞き取り・会話学習	新しい会話文を作成と会話練習
7	会話 9	会話文「9時半にここで会いましょう」を聞き取り・会話学習	新しい会話文を作成と会話練習
8	会話 10	会話文「7月16日です」を聞き取り・会話学習	新しい会話文を作成と会話練習
9	会話 11	会話文「バリ島に行ったことがありますか？」を聞き取り・会話学習	新しい会話文を作成と会話練習
10	会話 12	会話文「これはペンベックというんです」を聞き取り・会話学習	新しい会話文を作成と会話練習
11	会話 13	会話文「招待状はもう受け取りました」を聞き取り・会話学習	新しい会話文を作成と会話練習
12	会話 14	会話文「アジア・アフリカ会議が行われました」を聞き取り・会話学習	新しい会話文を作成と会話練習
13	会話 15・会話 16	会話文「どうぞお入りください」「なぜインドネシアが好きですか？」を聞き取り・会話学習	新しい会話文を作成と会話練習
14	会話 17・会話 18	会話文「与えられたテーマは...」「乾季でも雨がよく降ります」を聞き取り・会話学習	新しい会話文を作成と会話練習
15	理解度確認テスト	これまでに学んだことの復習臨時試験「ペーパーテスト」	これまでに学んだことの復習

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ニューエクスプレスプラスインドネシア語	降幡正志・原真由子	白水社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ニューエクスプレスインドネシア語単語集	原真由子	白水社
	2	プログレッシブインドネシア語辞典	舟田京子・高殿良博・佐藤正範編	小学館
	3			

評価方法 (基準)	クラス活動参加及び会話学習：70% 理解度確認テスト 30% 詳細は初回授業で指示する。
-----------	--

学生へのメッセージ	新しい言語を学ぶには、あらゆる進歩を楽しむことができるように、興味と好奇心が必要です。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	事前事後学修総時間数の目安は15時間以上とします。 連絡方法は初回授業時に通知する。
----	---

科目名	人間の探究	科目名 (英文)	Study on Humanities
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	貫井 隆
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	LHU1801a1		

授業概要・目的	<p>本授業は、近現代の西洋哲学史の主要な流れを概観することを通して、人間についての様々な捉え方を学ぶ。その際に、20世紀ドイツの哲学者マルティン・ハイデガー (1889-1987) の思想を視座とする。</p> <p>哲学は、自分自身で森に分け入って探索することとして捉えられることがある。そうであるとすれば、哲学史はそのような探索の先人の記録である。哲学史を学ぶことは、自分自身で探索することとは異なるかもしれない。しかし、それらの知は自分自身で探索する際の豊かな道標となるはずである。</p>
到達目標	<p>授業で扱う西洋哲学史上の人物について、</p> <p>①時代背景 ②考えの要点 ③後の時代に与えた影響</p> <p>の3点を理解すること。 そうすることで、人間とその世界についての、多様な見方を身につけること。</p>
授業方法と留意点	<p>Teams を使用して、配布したテキストを読み進めます (毎回、ある程度の読書量があります)。定期的に Google Form 等を利用して、授業内容に関する小テストに答えてもらいます。 小テストについては授業でフィードバックします。</p>
科目学習の効果 (資格)	<p>西洋哲学史における代表的な議論の幾つかを学ぶことによって、ものごとに対する多義的な見方を身につけ、複雑な現実を単純化せずに捉えられるようになる。</p>

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業全体の概要	予習：特になし 復習：読書課題を読むこと (予習と復習合わせて、2時間程度の作業時間を想定しています)
2	近代から現代へ (1)	デカルト、カント、ヘーゲル	予習：配布資料を読み、授業に持参すること 復習：読書課題を読むこと (予習と復習合わせて、2時間程度の作業時間を想定しています)
3	近代から現代へ (2)	キルケゴール、ニーチェ、フロイト	予習：配布資料を読み、授業に持参すること 復習：読書課題を読むこと (予習と復習合わせて、2時間程度の作業時間を想定しています)
4	ハイデガーの前期思想 (1)	『存在と時間』を中心に (1)	予習：配布資料を読み、授業に持参すること 復習：読書課題を読むこと (予習と復習合わせて、2時間程度の作業時間を想定しています)
5	ハイデガーの前期思想 (2)	『存在と時間』を中心に (2)	予習：配布資料を読み、授業に持参すること 復習：読書課題を読むこと (予習と復習合わせて、2時間程度の作業時間を想定しています)
6	ハイデガーの中期思想 (1)	「芸術作品の根源」を中心に (1)	予習：配布資料を読み、授業に持参すること 復習：読書課題を読むこと (予習と復習合わせて、2時間程度の作業時間を想定しています)
7	ハイデガーの中期思想 (2)	「芸術作品の根源」を中心に (2)	予習：配布資料を読み、授業に持参すること 復習：読書課題を読むこと (予習と復習合わせて、2時間程度の作業時間を想定しています)
8	ハイデガーの後期思想 (1)	「物」講演を中心に (1)	予習：配布資料を読み、授業に持参すること 復習：読書課題を読むこと (予習と復習合わせて、2時間程度の作業時間を想定しています)
9	ハイデガーの後期思想 (2)	「物」講演を中心に (2)	予習：配布資料を読み、授業に持参すること 復習：読書課題を読むこと (予習と復習合わせて、2時間程度の作業時間を想定しています)
10	フランス現代思想 (1)	デリダ、ドゥルーズ、フーコー、レヴィナス (1)	予習：配布資料を読み、授業に持参すること 復習：読書課題を読むこと (予習と復習合わせて、2時間程度の作業時間を想定しています)
11	フランス現代思想 (2)	デリダ、ドゥルーズ、フーコー、レヴィナス (2)	予習：配布資料を読み、授業に持参すること 復習：読書課題を読むこと (予習と復習合わせて、2時間程度の作業時間を想定しています)
12	フランス現代思想 (3)	デリダ、ドゥルーズ、フーコー、レヴィナス (3)	予習：配布資料を読み、授業に持参すること 復習：読書課題を読むこと (予習と復習合わせて、2時間程度の作業時間を想定しています)
13	思弁的实在論 (1)	グレアム・ハーマンを中心に (1)	予習：配布資料を読み、授業に持参すること 復習：読書課題を読むこと (予習と復習合わせて、2時間程度の作業時間を想定しています)
14	思弁的实在論 (2)	グレアム・ハーマンを中心に (2)	予習：配布資料を読み、授業に持参すること 復習：読書課題を読むこと (予習と復習合わせて、2時間程度の作業時間を想定しています)

				定しています) 予習：配布資料を読み、授業に持参すること 復習：読書課題を読むこと (予習と復習合わせて、2時間程度の作業時間を想定しています)
	15	まとめ	授業全体の内容の復習	
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	現代思想入門	千葉雅也	講談社
	2	A New History of Western Philosophy	Anthony Kenny	Oxford University Press
	3	ハイデガー事典	ハイデガー・フォーラム	昭和堂
評価方法 (基準)	Google Form 等によって提出する課題で評価する (100%)			
学生への メッセージ	毎回の授業ごとに、一定量の読書課題と授業後の課題があります。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	授業時間外での質問方法については、授業で指示します。			

科目名	文学から学ぶ	科目名 (英文)	Introduction to Literature
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	橋本 正俊, 杉山 博昭, 古矢 篤史
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	LHU1802a1		

授業概要・目的	我々は文学作品を通して、人間を、自然を、社会を、そして自分自身を見つめ直すことが可能となる。この授業では、①韻文②散文③演劇の3つのテーマを設定し、人間は何をどのように表現してきたのか読み解いていく。知識を得るだけでなく、物事の見方や考え方を身につけることを目的とする。
到達目標	文学作品の楽しみ方がわかる 人間の思想や文化についての見識を深めることができる
授業方法と留意点	講義を中心としますが、3つのテーマそれぞれで課題にもとづいたプレゼンテーションをしていただくことがあります。授業内にフィードバックします。
科目学習の効果 (資格)	素敵な出会いがあるかも

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	①韻文から学ぶ (橋本)	言葉と意味の関係について学ぶ	課題に向けて調べる、考える
	2	①韻文から学ぶ (橋本)	和歌と歌ことばについて学ぶ	課題に向けて調べる、考える
	3	①韻文から学ぶ (橋本)	俳句と季語について学ぶ	課題に向けて調べる、考える
	4	①韻文から学ぶ (橋本)	流行歌の背景について学ぶ	課題の準備をする
	5	①小括 (橋本)	まとめ・補足 課題のプレゼンテーションをする	プレゼンテーションの準備をする
	6	②散文から学ぶ (古矢)	リアリズムの語りについて学ぶ	課題に向けて調べる、考える
	7	②散文から学ぶ (古矢)	ミステリーの語りについて学ぶ	課題に向けて調べる、考える
	8	②散文から学ぶ (古矢)	心理の語りについて学ぶ	課題に向けて調べる、考える
	9	②散文から学ぶ (古矢)	散文と語りについて学ぶ ここまでのまとめ	課題の準備をする
	10	②小括 (古矢)	課題のプレゼンテーションをする	プレゼンテーションの準備をする
	11	③演劇から学ぶ (杉山)	80年代の小劇場演劇について学ぶ	課題に向けて調べる、考える
	12	③演劇から学ぶ (杉山)	90年代前半の小劇場演劇について学ぶ	プレゼンテーションの準備をする
	13	③演劇から学ぶ (杉山)	90年代後半の小劇場演劇について学ぶ	プレゼンテーションの準備をする
	14	③演劇から学ぶ (杉山)	00年代の小劇場演劇について学ぶ	プレゼンテーションの準備をする
	15	③小括 (杉山)	時代と演劇の相関について学ぶ	プレゼンテーションの準備をする

関連科目	日本の文学、中国の文学、英語圏の文学
------	--------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	平常点 (授業参加度) 40%、課題 60% (20%×3回)
-----------	---------------------------------

学生へのメッセージ	小説を読むだけが文学ではない! 「表現する」ことの可能性を探ろう。
-----------	-----------------------------------

担当者の研究室等	7号館4階 (橋本、古矢)、7号館5階 (杉山)
----------	--------------------------

備考	事前事後学習時間の目安は60時間。
----	-------------------

科目名	歴史に学ぶ	科目名 (英文)	Introduction to History
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	村上 司樹
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	LHU1803a1		

授業概要・目的	講義するのは、歴史から見たヨーロッパ論です。なお歴史 (の学び) とは、年代や事件の、単なる暗記ではありません (もちろん知識は、ないより、あった方がいいですが)。本質的には、昔を知ることで、今を知る。つまり異文化理解です (異文化理解≠自文化理解)。大学は、知性や教養を磨くには、このうえなくすばらしい場。ただ、それも自分しだい。せっかく受講するのなら、単位以上の何かを手に入れてほしいと思います。
到達目標	歴史という視点からヨーロッパとは何か説明できるようになる。歴史的視野をもって、現在を見たり、未来を考えたりできるようになる。具体的・論理的な考え方、語り方を身につける。
授業方法と留意点	教科書は使わない。プリントを配布し、パワーポイントを使って講義する。単位を取る方法は2つ。第1は、こつこつ授業に出てノートを取り (プリントにメモして)、毎回のレスポンス・ペーパーで点数を稼ぐ方法。第2は、一発勝負の、レポートにすべてを賭ける方法。(この授業では出席を取らないから) 第2の方法にも可能性はある、が、全15回の授業内容に匹敵するレポートの材料を集めるには、それなりの本を何冊も、自分で読まなければならない (なお、ネットからのコピペは、やめたほうがいい。大学教員にはすぐに見抜かれるし、カンニング扱い)
科目学習の効果 (資格)	歴史という視点からヨーロッパとは何か説明できるようになる。歴史的視野をもって、現在を見たり、未来を考えたりできるようになる。具体的・論理的な考え方、語り方を身につける。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	歴史を学ぶにあたって	歴史は異文化理解 / 手で食べる文化は劣っている? / 知らないうちは否定から入るな	プリントの読み返しと先読み / レスポンス・ペーパー
2	歴史を学ぶにあたって	なぜ昔は恋愛結婚がめずらしかったのか? / 乳幼児のおよそ半分が死んでしまう / 戦争と出産は命がけの仕事	プリントの読み返しと先読み / レスポンス・ペーパー
3	歴史を学ぶにあたって	政略結婚にも親心 / 就活や通勤がない世界 / 家は職場、家族はチーム	プリントの読み返しと先読み / レスポンス・ペーパー
4	歴史を学ぶにあたって	結婚は仕事 / 恋愛結婚させるのは「言語道断、残忍な親」 / Love is blind (恋は盲目)	プリントの読み返しと先読み / レスポンス・ペーパー
5	歴史を学ぶにあたって	「長靴をはいた猫」は結婚できない男の夢 / 男尊女卑になる社会構造 / それでも、勝ち負けははっきりした結婚 (または人生) などない	プリントの読み返しと先読み / レスポンス・ペーパー
6	3つの源流	ローマの遺産+ゲルマン人+キリスト教=ヨーロッパ (文明・文化) / 例えば洋食 (ヨーロッパ的食文化) / パンとワインはローマから	プリントの読み返しと先読み / レスポンス・ペーパー
7	3つの源流	大量の肉食 (とビール) はゲルマンから / 大量の肉食は必ずしも「豊かさ」に由来しない / ローマとゲルマンを仲立ちしたキリスト教	プリントの読み返しと先読み / レスポンス・ペーパー
8	3つの源流	移民・難民と混血・文化融合がヨーロッパを生んだ / 宗教は、ものの考え方、生活習慣に関わる / キリスト教と共に広がったパンとワイン	プリントの読み返しと先読み / レスポンス・ペーパー
9	ローマの遺産	偉大な文明のお手本 / 文明の三点セット、都市・文字・国家 / ローマがヨーロッパに町づくりを教えた	プリントの読み返しと先読み / レスポンス・ペーパー
10	ローマの遺産	話す言語は20以上もあるが、書く文字はただ1つ / ローマがヨーロッパに読み書きを教えた / 政治的にはバラバラなヨーロッパが、文化的にはひとつであり続けてきた秘密	プリントの読み返しと先読み
11	ローマの遺産	ローマがヨーロッパに国づくりを教えた / 独裁者も民主国家もローマを引き合いに出す / それでも、ローマだけがヨーロッパをつくったのではない	プリントの読み返しと先読み / レスポンス・ペーパー
12	ゲルマン人	素朴な文化の源 / 例えば洋服 (ヨーロッパ的服飾文化) / 洋服 (西洋服) の原点は西洋 (ヨーロッパ) にあらず	プリントの読み返しと先読み / レスポンス・ペーパー
13	ゲルマン人	イギリスもフランスもゲルマン人が建てた国 / 王侯貴族が受け継ぐゲルマンの戦士の文化 / それでも、ゲルマン人だけがヨーロッパをつくったのではない	プリントの読み返しと先読み / レスポンス・ペーパー
14	キリスト教	ローマとゲルマンの仲立ち、もしくはヨーロッパをプロデュース / 魚料理・たまご料理・洋菓子を発展させたキリスト教 / 書物 (または文字) の宗教キリスト教	プリントの読み返しと先読み / レスポンス・ペーパー
15	キリスト教	欧米の個人名 (パーソナル・ネーム) は、ほとんどキリスト教から / 日曜を休日にしたのはキリスト教 / 政教分離や教会離れが進んだ今も	プリントの読み返し / レスポンス・ペーパー

関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
----	-----	-----	------

	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	レスポンス・ペーパー (50%)、レポート (50%)。レポートは授業内容から出題 (だから、授業のプリントとノートがあれば書ける問題で、あらかじめ文献を読む必要はない)。授業に出ているだけでは1点も付けない (出席点はない) が、やる気がある人には最大限チャンスを与える (この点は、これまでの受講生にも定評がある)。			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	事前事後学習時間の目安は計60時間。 授業時間外の質問等は、授業の前後に対応する。			

科目名	法学入門	科目名 (英文)	Introduction to Jurisprudence
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小野 晃正
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	LS01805a1		

授業概要・目的	<p>・法は、多様な人々が共同生活を営むための相互尊重のルールであり、我々の生活を豊かにするための制度である。</p> <p>・このような法の特徴と目的を踏まえつつ、現代社会の中で生じている紛争に対して、法がどのような役割を果たし、かつ、いかに争いを解決しているかについて、個別の法領域ごとに具体的な事件を参照しながら理解することを主な目標とする。</p>
到達目標	<p>この授業を通じて学生には、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「法」と「道徳＝倫理」の違いや法令の種類について説明できる ・婚約、婚姻、内縁、離婚、相続をめぐる論点について説明できる ・民法の財産法や刑事法の諸原理について説明ができる <p>ようになることが期待される。</p>
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・講義形式で行う（社会情勢上、その変更が必要な場合は遅滞なく連絡する）。 ・本講義は、ICT ツールとして Microsoft 社の teams を用いる。 ・課題提示や資料配布などは Microsoft 社 teams を通じて行う。 ・教員からの一方通行的な講義にならないよう、学生との質疑応答を交えつつ、教員と受講者による双方向理解につとめたい。 ・課題に対するコメントは次回講義または teams を通じて行う。
科目学習の効果（資格）	<ul style="list-style-type: none"> ・公務員試験や各種資格試験に必要とされる法学の基礎的知識を身につけることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 法とは何か	<ul style="list-style-type: none"> ・講義内容と文献の紹介 ・法と道徳の違い ・法の強制力 ・法の分類 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の入手 配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）
2	憲法と法律（法令の種類）	<ul style="list-style-type: none"> ・法治国家と法の支配 ・国際社会と法 	<ul style="list-style-type: none"> 事前：授業テーマの予習（2時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）
3	民法①（不法行為法①）	学校における「いじめ」問題と法の役割	<ul style="list-style-type: none"> 事前：授業テーマの予習（2時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）
4	労働法①	・ブラック企業問題と労働者保護	<ul style="list-style-type: none"> 事前：授業テーマの予習（2時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）
5	刑事法①	<ul style="list-style-type: none"> ・裁判員裁判の仕組みとその問題点 ・悪質動画貼り付けと器物損壊および偽計業務妨害罪 ・アルバイトを通じた犯罪関与 	<ul style="list-style-type: none"> 事前：授業テーマの予習（2時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）
6	刑事法②	<ul style="list-style-type: none"> ・犯罪の成立要件 ・・ ストーカー行為規制法の最前線 	<ul style="list-style-type: none"> 事前：授業テーマの予習（2時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）
7	労働法②	<ul style="list-style-type: none"> ・採用内定と法的規制 ・正規雇用と非正規雇用 	<ul style="list-style-type: none"> 事前：授業テーマの予習（2時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）
8	民法②（家族法①）	・家族の範囲	<ul style="list-style-type: none"> 事前：授業テーマの予習（2時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）
9	民法③（家族法②）	<ul style="list-style-type: none"> ・家族法の基本原則 ・婚約の法的効果ほか ・婚姻（結婚）の法的要件・効果 ・夫婦の財産関係 	<ul style="list-style-type: none"> 事前：授業テーマの予習（2時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）
10	民法④（家族法③）	・離婚の法的効果	<ul style="list-style-type: none"> 事前：授業テーマの予習（2時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）
11	民法⑤（家族法④）	・離婚の手続き・親子関係と親権	<ul style="list-style-type: none"> 事前：授業テーマの予習（2時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）
12	民法⑥（不法行為法②）	<ul style="list-style-type: none"> ・各種ハラスメントと法 ・不法行為と損害賠償 	<ul style="list-style-type: none"> 事前：授業テーマの予習（2時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）
13	民法⑦（財産法①）	・賃貸住宅をめぐるトラブルー敷金と敷引特約	<ul style="list-style-type: none"> 事前：授業テーマの予習（2時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）
14	民法⑧（財産法②）	・被災と住宅ローン減免の可否	<ul style="list-style-type: none"> 事前：授業テーマの予習（2時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）
15	刑事法②＋行政法＋民法⑨	・ドメスティック・バイオレンス（DV）とデートDV	<ul style="list-style-type: none"> 事前：授業テーマの予習（2時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）

関連科目 日本国憲法、行政法、刑法、民法、国際法ほか

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	1	新入生のためのリーガル・トピック 50	阿部昌樹・和田仁孝
2	2			
3	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	法学入門（第6版補訂版）（有斐閣双書）	末川 博/編著	有斐閣
	2	現代法学入門（第4版）（有斐閣双書）	伊藤 正己=加藤一郎/編著	有斐閣
	3	判例法学（第5版）	西村 健一郎=西井 正弘=初宿 正典/編著	有斐閣
評価方法 （基準）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 形成的評価を行うため、各回講義後に、Microsoft 社 teams を通じて Microsoft forms から課題を配信する。各回の課題の得点を合算して評価対象とする（講義の理解度 5%+課題の得点 95%）。定期試験は実施しない。 			
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 法律系の番組が好きな方、あるいは、公務員試験受験や法学系資格取得を念頭に置いている方は、ぜひ受講してみてください。 			
担当者の 研究室等 備考	11 号館 10 階 小野教授室			

科目名	世界の政治	科目名 (英文)	World Politics
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	田中 悟
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	LS01806a1		

授業概要・目的	本講義は、比較政治学の基礎的な議論に触れるとともに、グローバル化した現代世界における政治制度の問題に注目するものである。
到達目標	比較政治学の基本的な考え方や方法論に親しむことで、それらの観点からなされる「世界の政治」に関する諸議論の意味するところを理解した上で、自らの思考を組み立てることができるようになること。 本講義を、自らが暮らす現代社会の諸問題を比較政治の視点から受講者自身が考えていくための一つのきっかけ、手がかりとすることが目指される。
授業方法と留意点	1. 原則として講義形式をとり、内容に即したレジュメを配布する。また、指示された課題にも各自取り組むものとする。 2. 授業は、①講義、②Moodleを通じたレジュメの配信・課題等の提出、という2つの手段を適宜組み合わせで行なう。 3. 基本的には教科書の章立てに沿って各回完結方式で進めていく予定であるが、その内容や進行状況等によって多少の調整がありうる。 4. 本授業に関するフィードバックは、必要に応じて授業内で行なうこととする。
科目学習の効果 (資格)	現代社会をめぐる社会科学的な議論についての基礎的な理解力

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	講義の進め方およびテキストについて導入を行なう。	テキストについて指示するので、次回講義までに入手しておくこと
2	社会科学の方法 (1)	第1章 比較政治学とは何か	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
3	社会科学の方法 (2)	第1章 比較政治学とは何か 第2章 制度論	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
4	社会科学の方法 (3)	第2章 制度論	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
5	政治制度 (1)	第3章 選挙制度	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
6	政治制度 (2)	第4章 執政制度	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
7	政治制度 (3)	第5章 政党制度	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
8	政治制度 (4)	第6章 議会制度	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
9	政治制度 (5)	第7章 官僚制	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
10	政治制度 (6)	第8章 司法制度	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
11	政治制度 (7)	第9章 中央銀行制度	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
12	政治制度 (8)	第10章 中央・地方関係制度	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
13	日本の政治制度 (1)	第3章 選挙制度 第4章 執政制度 第5章 政党制度	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
14	日本の政治制度 (2)	第6章 議会制度 第7章 官僚制 第8章 司法制度	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
15	日本の政治制度 (3) まとめと補遺	第9章 中央銀行制度 第10章 中央・地方関係制度	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	比較政治制度論	建林正彦ほか	有斐閣
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<p>・定期試験は実施せず、授業内で提示する課題に対する提出物に基づく総合評価（100%）を実施する。 (課題の提示および提出は、Moodle を通じて行なう。)</p>			
学生への メッセージ	<p>毎回の授業だけでなく、課題への取り組みに際して教科書は必携なので、必ず購入すること。</p>			
担当者の 研究室等	<p>7号館4階 田中研究室</p>			
備考	<p>授業のスケジュールについては、出席者の状況に応じて調整される可能性がある。</p>			

科目名	日本国憲法	科目名 (英文)	Japanese Constitution
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小野 晃正
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	LS01807a1		

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> 憲法は、専断的になりがちな公権力に制限を加え、国民の基本的な人権を広く保障しようとする国家の基礎法である。 日本国憲法は、主に基本的な人権とそれを担保するための統治機構の規定から構成される。 こうした憲法上の規定をめぐる争われる、国民と国家機関ないし国家類似団体間での法的紛争をめぐる諸問題について、身近な事例を取り上げながら、わかりやすく解説を加える。 また、講義を通じて、事例から憲法上の争点を抽出する能力、争点に対する考え方(判例や学説)を理解する能力、および、争点に対する結論とその論拠についてコンパクトにまとめて提示できる能力の養成を目的とする。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 「立憲主義」とはどのようなものを説明できるようになる。 日本国憲法上の論点(問題の争点)を抽出し、それに対する判例や通説の見解を説明できる。 公務員試験に出題される憲法に関する問題を素早く解けるようになる。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> 原則として講義形式で行うが、質疑応答を通じて受講生との双方向理解につとめたい。 課題に対するコメントは次回講義またはteamsを通じて行う。
科目学習の効果(資格)	<ul style="list-style-type: none"> 各種の公務員試験(行政職、警察官、消防官など)では、必ず、憲法やそれに関連する問題が出題されます。 これらの試験を受けようとする人は十分に理解してください。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
			教科書の入手 事前：授業テーマの予習(2時間) 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと(約2時間)
1	憲法と立憲主義	<ul style="list-style-type: none"> 憲法と法律 立憲主義 権力分立と法の支配 	事前：授業テーマの予習(2時間) 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと(約2時間)
2	日本国憲法の制定過程	<ul style="list-style-type: none"> マッカーサー・ノート 大日本帝国憲法改正限界論 日本国憲法の正当性 	事前：授業テーマの予習(2時間) 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと(約2時間)
3	平和主義	<ul style="list-style-type: none"> 日本国憲法9条1項の解釈 日本国憲法9条2項の解釈 自衛隊の海外活動 集団的自衛権 	事前：授業テーマの予習(2時間) 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと(約2時間)
4	人権総論①	<ul style="list-style-type: none"> 人権とは何か 近代自然法と社会契約説 夜警国家と福祉国家 公共の福祉 プログラム規定 	事前：授業テーマの予習(2時間) 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと(約2時間)
5	人権総論②	<ul style="list-style-type: none"> 天皇の人権享有主体性 外国人の人権享有主体性 子どもの人権とその制約 憲法の私人間効力(直接適用説と間接適用説) 法の下での平等 	事前：授業テーマの予習(2時間) 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと(約2時間)
6	人権各論①精神的自由権(1)	<ul style="list-style-type: none"> 思想良心の自由 信教の自由とその限界 政教分離の原則と違憲審査基準 	事前：授業テーマの予習(2時間) 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと(約2時間)
7	人権各論②精神的自由権(2)	<ul style="list-style-type: none"> 表現の自由とその類型 表現の自由に対する規制類型 報道の自由と限界 学問の自由と最先端科学研究 	事前：授業テーマの予習(2時間) 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと(約2時間)
8	人権各論③経済的自由権(1)	<ul style="list-style-type: none"> 職業選択と営業の自由 居住と移転の自由 	事前：授業テーマの予習(2時間) 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと(約2時間)
9	人権各論③経済的自由権(2)	<ul style="list-style-type: none"> 財産権の保障 財産権の限界 私有財産に対する正当な補償 	事前：授業テーマの予習(2時間) 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと(約2時間)
10	人権各論④人身の自由	<ul style="list-style-type: none"> 適正手続の保障 罪刑法定主義 令状主義とその例外 接見交通権 黙秘権と拷問の禁止 残虐な刑罰と死刑制度 刑事補償請求権 	事前：授業テーマの予習(2時間) 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと(約2時間)
11	人権各論⑤社会権	<ul style="list-style-type: none"> 生存権の保障 教育を受ける権利 労働基本権 	事前：授業テーマの予習(2時間) 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと(約2時間)
12	人権各論⑥包括的基本権	<ul style="list-style-type: none"> 幸福追求権 新しい人権 	事前：授業テーマの予習(2時間) 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと(約2時間)
13	統治機構①国会	<ul style="list-style-type: none"> 国権の最高機関性と「政治的美称説」 二院制 委員会中心主義 議員の免責特権 	事前：授業テーマの予習(2時間) 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと(約2時間)
14	統治機構②内閣と裁判所	<ul style="list-style-type: none"> 議院内閣制 独立行政委員会 内閣不信任決議と衆議院の解散 司法権の独立と「児島惟謙」 違憲審査制 	事前：授業テーマの予習(2時間) 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと(約2時間)

	15	統治機構③財政、地方自治、 憲法の保障	<ul style="list-style-type: none"> ・違憲判決の効果 ・財政民主主義 ・地方自治の本旨 ・憲法改正の手續と限界 	事前：授業テーマの予習（2時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）
関連科目	行政法、民法及び刑法その他諸法と密接に関連しています。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生のための憲法	君塚正臣ほか	法律文化社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	憲法（第7版）	芦部 信喜＝高橋 和之（補訂）	岩波書店
	2	憲法の時間（第2版）	浮田徹ほか	有斐閣
	3			
評価方法 （基準）	・形式的評価を行うため、各回講義後に、Microsoft 社 teams を通じて Microsoft forms から課題を配信する。各回の課題の得点を合算して評価対象とする（講義の理解度 5%＋課題の得点 95%）。定期試験は実施しない。			
学生への メッセージ	・各種国家試験や資格試験、および、公務員試験受験予定者は、この講義そのものが試験対策になり得ますので、積極的に受講してください。			
担当者の 研究室等	11 号館 10 階 小野教授室			
備考	課題に対するコメントは次回講義または teams を通じて行う。			

科目名	住まいとデザイン	科目名 (英文)	Design and Living Environment
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	岩波 由佳
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	LNA1810a1		

授業概要・目的	住まいは人間の生活と深くかかわっている。原初は身の安全をはかる場所として、心の拠り所として作られ、さらには快適に過ごせる美しい空間を求めて発達してきた。また住まいの成立には自然環境の他に社会的背景や文化、風俗習慣なども深くかかわってくる。この講義では、住宅、建築、インテリア、都市について、形態やデザイン様式の移り変わりを映像資料などを用いて多様な角度から学び、基礎的知識を習得する。そして様々な時代で求められたデザインを感じとり、現代のよりよい住宅、住生活を創造する感性を身に付けることを目的とする。
到達目標	日常生活において、住まいやインテリアの選定などの際に、授業で学んだ内容や優れたデザインを参照して快適で豊かな生活空間を創造できる感覚を身に付けることができる。 日本文化の基本である住宅や建築についての知識を教養として身に付けることで、留学などの海外生活や国内での留学生との交流の際に、正しく自国の文化を論じる能力を培うことができる。
授業方法と留意点	講義形式で行う。適宜プリントを配布し、パワーポイント等映像資料を用いて理解の一助とする。授業終了後、授業内容に対する質問を提出すること。質問内容に応じて加点の対象とする。フィードバックは授業時に行う。
科目学習の効果 (資格)	住まい環境に関するデザインの知識と手法が身につく。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	日本の住まいの移り変わり (1) たてにあなを掘ると... ～洞窟を出て堅穴を	人類最古の住まいおよび日本での原始の住まいはどのようなものであったかを学ぶ。	授業で知った事柄を身近な生活の中で発見する。 気になった単語やフレーズを調べてみる。
3	日本の住まいの移り変わり (2) 貴族の優雅、武士の剛健 ～寝殿造・書院造...	日本文化の基盤が形成された時期の住まいやしつらい、生活環境、美的感覚を学ぶ。	授業で知った事柄を身近な生活の中で発見する。 気になった単語やフレーズを調べてみる。
4	日本の住まいの移り変わり (3) デザインの極みは何処に ～美をめぐる闘い 秀吉・利休・後水尾上皇	爛熟期の文化の中での書院造の完成と茶室の成立、数寄屋まで成熟から洗練を加えてゆく過程の美意識を学ぶ。現代の和風住宅につながる流れを学ぶ。	授業で知った事柄を身近な生活の中で発見する。 気になった単語やフレーズを調べてみる。
5	住まいの成り立ち 気候風土文化 白夜の過ごし方 ～厳寒の森の国	日本と同様に木造の文化を持つが気候の厳しいフィンランドの住宅、住生活、および快適な生活を創る北欧デザインについて学ぶ。	授業で知った事柄を身近な生活の中で発見する。 気になった単語やフレーズを調べてみる。
6	住まいのデザインを構成するもの 光 採光・照明 ～あたたかい光、クールな光	光の特徴や種類、扱い方を学び、効果的な照明による快適な空間を考える。	授業で知った事柄を身近な生活の中で発見する。 気になった単語やフレーズを調べてみる。
7	住まいのデザインを構成するもの 家具・ファブリックス ～くつろぐ、あつまる、ぼんやりする	家具やファブリックス、アクセサリの種類や効果的な使い方を事例を通して学ぶ	授業で知った事柄を身近な生活の中で発見する。 気になった単語やフレーズを調べてみる。
8	住まいの成り立ち 気候風土文化 月の砂漠 ～乾燥とオアシスの国	湿潤な日本と対照的な乾燥地帯であるエジプトの住宅、住生活および厳しい環境下での快適な生活を創る工夫と持続可能な取り組みについて学ぶ。	授業で知った事柄を身近な生活の中で発見する。 気になった単語やフレーズを調べてみる。
9	住まいのデザインを構成するもの 涼しさの演出 ～色彩・水・風	色彩や視覚、触覚によって感じる温度感覚の違いや効果的な使い方を学ぶ。	授業で知った事柄を身近な生活の中で発見する。 気になった単語やフレーズを調べてみる。
10	住まいの成り立ち 気候風土文化 石積みの壁 ～自然を征服、永遠のモニュメント	西洋の気候風土に応じて発達した組積造の住まいの構造や特質について学ぶ。	授業で知った事柄を身近な生活の中で発見する。 気になった単語やフレーズを調べてみる。
11	西洋の住まいの移り変わり (1) 荘厳なる様式 ～華麗なる宮廷生活へようこそ	近代以前のヨーロッパの成熟した宮殿・邸宅の建築、室内デザインについて学ぶ。	授業で知った事柄を身近な生活の中で発見する。 気になった単語やフレーズを調べてみる。
12	西洋の住まいの移り変わり・世界 (2) あたらしい人と生活のデザイン ～鉄、ガラス、コンクリート アート・アンド・クラフツ運動からアールヌーヴォー、ゼセッション、グラスゴー派、モダニズム	社会の変革により出てきた新しいデザイン運動であるイギリスのアーツアンドクラフツ運動、フランス・ベルギーのアールヌーヴォー、ヨーロッパ各地で展開したウィーンのゼセッション、マッキントッシュによるグラスゴー派、ガウディによるモダニズムについて学ぶ。	授業で知った事柄を身近な生活の中で発見する。 気になった単語やフレーズを調べてみる。
13	西洋の住まいの移り変わり	民衆のための合理的なデザインの追求と	授業で知った事柄を身近な生活の中で発見する。

		り・世界(3) あたらしい人と生活のデザイン ～普遍的なものへの旅 バウハウス、そして三大巨匠の時代へ	モダニズムへ至る軌跡を学ぶ。そして三大巨匠とされるライト、ミース、コルビュジェの住宅デザインについて学ぶ。	気になった単語やフレーズを調べてみる。																
	14	現代の住まい 最先端デザインと生活スタイル ～現在に生きて暮らす	現代に展開する住宅や建築の事例を通して、現在とこれからの環境や生活空間を考える。	授業で知った事柄を身近な生活の中で発見する。 気になった単語やフレーズを調べてみる。																
	15	住宅をデザインする わたしの住みたい住まい ～とにかくイメージ、そして描いてみよう	自分にとって快適な空間を考え、表現する。	住宅、建築、インテリア雑誌などに目を通して自分の好みを考えておく。																
関連科目	特になし																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ロングセラー・デザイン 文房具から椅子まで</td> <td>コロナブックス編集部</td> <td>平凡社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>アパートメント 世界の夢の集合住宅</td> <td>上田実・平地勲</td> <td>平凡社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>FURNITURE DESIGN 20世紀の家具のデザイン</td> <td>ゼンバツハ&ロイトホイザー&ゲッセル</td> <td>タッシェン・ジャパン</td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	ロングセラー・デザイン 文房具から椅子まで	コロナブックス編集部	平凡社	2	アパートメント 世界の夢の集合住宅	上田実・平地勲	平凡社	3	FURNITURE DESIGN 20世紀の家具のデザイン	ゼンバツハ&ロイトホイザー&ゲッセル	タッシェン・ジャパン
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	ロングセラー・デザイン 文房具から椅子まで	コロナブックス編集部	平凡社																	
2	アパートメント 世界の夢の集合住宅	上田実・平地勲	平凡社																	
3	FURNITURE DESIGN 20世紀の家具のデザイン	ゼンバツハ&ロイトホイザー&ゲッセル	タッシェン・ジャパン																	
評価方法 (基準)	定期試験 90%授業への質問、授業への取り組み姿勢 10%。 合格ラインは定期試験の点数 60 点。																			
学生への メッセージ	テレビや雑誌、インターネットなどのメディアで目にする住宅、建築に関するニュースに興味をもって見てみよう。ドラマや映画、音楽PVで使われている場所、漫画や小説に出てくる場所など空間に対しても注目する。また自宅や友人の家、カフェやショップなどで心地よさを感じたらそれはなぜかを考えてみよう。																			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室																			
備考	試験は自筆ノート持ち込み可であるので、授業の板書、話の内容を毎回整理してまとめておく和良好的。 授業時間外の対応（メール等）については授業時に指示する。 事前事後の総学習時間の目安は 60 時間程度。																			

科目名	住まいとデザイン	科目名 (英文)	Design and Living Environment
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	奥川 あかり
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	LNA1810a1		

授業概要・目的	住まいには安全かつ健康で快適な環境が求められる。本講義では、気候風土や社会的・文化的背景、風俗習慣から住まいを理解し、住居の歴史の変遷や家族と住まい、住空間の構成、地域との関係など住居と住生活の全般について学習し、基本的な知識を習得する。これらを基に、様々な時代で求められたデザインを捉え、持続可能な社会の構築を目指した現代のよりよい住生活を創造する感性を身に付けることを目的とする。
到達目標	1. 日本と世界の住生活の多様性と歴史の変遷を生活文化に即して理解する 2. 住まいや居住地の環境と管理、防災の重要性について理解する 3. 住まいに関する基本的な知識を習得し、快適で豊かな生活空間を創造できる感覚を身に付ける 4. 日本の住宅や建築を踏まえて自国の文化について世界の人々とコミュニケーションがとれる 5. 良好なコミュニティの形成につながるまちづくりに参画する重要性を理解する 6. 持続可能な社会の構築を目指して真に豊かな住生活とは何かについて主体的に考えられる
授業方法と留意点	適宜プリントを配布し、教科書やスライド、映像資料、板書による講義を基本とする。 課題のフィードバックは授業中に行う。
科目学習の効果 (資格)	身近な住まいと暮らし、環境に関するデザインの知識と手法が身につく。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	気候風土と住まい	気候や風土(災害)と暮らし(住まいやライフスタイル)との関係について学ぶ	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
3	世界の住まい(1)	世界の住まいの歴史や住生活文化について、原始から古代までの時系列的な住まいの流れを学ぶ	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
4	世界の住まい(2)	世界の住まいの歴史や文化、生活様式について、中世から近世までの時系列的な住まいの流れを学ぶ	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
5	世界の住まい(3)	世界の住まいの歴史や文化、生活様式について、近代から現代までの時系列的な住まいの流れを学ぶ	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
6	日本の住まい(1)	住まいの歴史や住生活文化について、先史時代から奈良(堅穴住居、高床建物、平地住居)、平安貴族(寝殿造)までの時系列的な住まいの流れを学ぶ	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
7	日本の住まい(2)	住まいの歴史や住生活文化について、中世の支配階層(主殿造、書院造)から近世(武家住宅、町家、農家)までの時系列的な住まいの流れを学ぶ	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
8	日本の住まい(3)	近代(サラリーマン住宅、田園都市、集合住宅)の住まいの間取りや洋風化など、近代から現代の住生活文化を学ぶ	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
9	住まいと環境	温熱、光、音、空気、都市環境や色彩について学び、良好な住環境を実現するための手法について考えていく	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
10	住まいの管理	住まいの維持や管理として定期的なメンテナンス、管理と収納、家計や住居費について学ぶ	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
11	住まいの材料と構造	住まいの材料(土・石・木・コンクリート・鉄)とそれぞれの構造・工法について学ぶ	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
12	住まいと福祉	高齢者や子どもを含む自立支援のための住まいづくりやユニバーサルデザインについて学ぶ	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
13	住まいの安全	住まいの安全と安心、住まいを取り巻く様々な住宅問題や公共的な住宅政策について学ぶ	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
14	住まいのデザイン	住まいのインテリアやエクステリアと設計について学び、AI化が進む情報化社会での暮らしやエコについて考えていく	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
15	総括	住まいとデザインのまとめと現代の住生活に関する課題や理解度の確認	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。

関連科目	特になし
------	------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	精選 住居学	後藤 久	実教出版

	2	図説 西洋建築史	陣内 秀信 他	彰国社
	3			
評価方法 (基準)	試験：60%・課題の提出（小テストが行われる場合もある）：40% これらを合わせて総合的に評価を行う			
学生への メッセージ	建物や住宅に興味や関心をもち、街並みや空間にも目を向けてください。疑問があれば授業前後や授業中に質問してください。その他、参考文献や関連書籍は授業で適宜紹介します。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	事前事後学習の総時間の目安は60時間。 教員との連絡方法（メール等）については授業中に指示する。			

科目名	食品機能学	科目名 (英文)	Functional Food Science
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	大橋 貴生
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	LNA1811a1		

授業概要・目的	食生活と健康とのかかわりを理解し、免疫系、内分泌系 (体調リズム)、神経系 (精神の高揚や鎮静) などの生体機能の調節に関与する機能性食品の特性についての知識を習得する。本講義では、食品の一次機能 (栄養素)、二次機能 (味、触感など) および三次機能 (生体機能の調節などの新規機能) について学び、保健機能食品制度、特定保健用食品、栄養機能食品など新しい食品の形態を理解する。また、がんや老化に加え、肥満、高血圧、脂質異常症 (高脂血症)、糖尿病などの生活習慣病を取り上げ、食生活とヒトの健康のかかわりについて習得することを目的とする。SGDs-2, 3
到達目標	食品に含まれる栄養・機能成分が列挙でき、それぞれ生体調節機能と、ヒトの健康との係わりについて説明できる。 食品に関わるニュースを理解できるようになり、自分なりの意見を持てるようになる。 また、得られた知識を日々の食生活に活かすことができるようになる。
授業方法及び留意点	配布資料に沿って、希望する学生は対面での受講可能な動画配信型授業 (ハイフレックス方式) を行う。 中間試験および総合試験 (筆記) に代わるまとめ課題を課す。 1 回目の講義で、授業の進め方や成績評価の方法について説明する。 受講生の理解を効果的に引き出すために、シラバス記載の順序が前後する場合がある。 毎回の講義に Moodle 上で課題を課し、翌週に解説する。
科目学習の効果 (資格)	食品成分の機能についての知識が得られ、健康と食生活とのかかわりが理解できるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	食品機能学とは	食品の特性、一次機能 (栄養素)、二次機能 (味、食感など) および三次機能 (生体機能の調節などの新規機能) について解説する。	事前に配布資料を学習し、講義後、復習する。(1 時間)
2	機能性食品	保健機能食品、特別用途食品および健康食品など、新しい食品の形態や制度について解説する。	事前に配布資料を学習し、講義後、復習する。(1 時間)
3	遺伝子組換え食品	遺伝子組換えの基礎的な概念を解説した後、実際にどのように利用されているかを、関連する法令とともに紹介する。	事前に配布資料を学習し、講義後、復習する。(1 時間)
4	活性酸素	活性酸素と疾病、がん、および老化などとの関連について解説する。	事前に配布資料を学習し、講義後、復習する。(1 時間)
5	抗酸化機能食品	ポリフェノールなど抗酸化物質と、それら含む抗酸化機能性食品らについて解説する。	事前に配布資料を学習し、講義後、復習する。(1 時間)
6	ミネラルとビタミンの機能性	ヒトの健康な生活に不可欠なミネラルとビタミンを含む食品について解説する。	事前に配布資料を学習し、講義後、復習する。(1 時間)
7	炭水化物	ヒトを含む全ての生物のエネルギー源である炭水化物 (糖) について、解説する。	事前に配布資料を学習し、講義後、復習する。(1 時間)
8	難消化性食品成分	難消化性炭水化物、食物繊維機能食品および乳酸菌類について解説する。	事前に配布資料を学習し、講義後、復習する。(1 時間)
9	中間試験	第 1 回から第 8 回までのまとめを行い、その習得状況を確認する。	第 1 回から第 8 回までの内容を復習しておく。(1 時間)
10	脂質と肥満	食品に含まれる脂質成分、および脂質と肥満との関係性について解説する。	事前に配布資料を学習し、講義後、復習する。(1 時間)
11	機能性脂質食品成分	肥満の解消に有効な機能性食品について解説する。	事前に配布資料を学習し、講義後、復習する。(1 時間)
12	高血圧と血圧降下作用がある食品成分	ヒトはなぜ高血圧になるのか、について簡単に説明した後、高血圧を解消するための食品について解説する。	事前に配布資料を学習し、講義後、復習する。(1 時間)
13	糖尿病	糖尿病になるメカニズムを解説し、その後には糖尿病にならないための食生活について、解説する。	事前に配布資料を学習し、講義後、復習する。(1 時間)
14	免疫機能を活性化する食品	免疫について、簡単に説明した後、免疫機能を活性化する食品成分について解説する。免疫と深く関わりがあるアレルギーについても解説する。	事前に配布資料を学習し、講義後、復習する。(1 時間)
15	総合試験 (筆記)	第 10 回から第 14 回までのまとめを行い、その習得状況を確認する。その後、内容について解説する。	第 10 回から第 14 回までの内容を復習しておく。(1 時間)

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	改訂 食品機能学第 4 版	青柳 康夫 編	建帛社
2	わかりやすい食品機能学第 2 版	森田英利・田辺創一 編著	東京化学同人	
3	食べ物と健康 食品の科学	太田英昭 他	南江堂	

評価方法 (基準)	講義毎の課題 (30%)、中間試験 (35%) および総合試験(筆記)に代わるまとめの課題 (35%) を総合的に判断して、評価を行う。
学生への メッセージ	本講義により、日常的に頻繁に触れる食品、健康とのかかわりについての知識が得られます。 食品にまつわるニュースなどが理解でき、食品に関する蘊蓄を語れるようになり、自分の意見を持てるようになることが目標です。 1 回目の講義で、授業の進め方や成績評価の方法について説明します。履修する場合は、必ず、出席 (またはオンラインによる受講) をしてください。
担当者の 研究室等	理工学部・生命科学科 1号館8階 大橋准教授室
備考	授業時の出席管理 (出席および欠席) は、大学の規則に従って行います。 毎回必ず出席してください。 事前事後学習には、毎回 1 時間以上かけてください (総時間の目安は 30 時間)。

科目名	基礎英語 I a	科目名 (英文)	Basic English Ia
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	イ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	土田 智佳子
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LEN1815c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス	授業の進め方、注意事項の説明	事前：シラバスの確認。教科書に目を通しておく。
	2	Unit 1 Electronic Devices	Listening, Reading, 会話、文法を通し Unit 1 を学習する。	事前：該当 Unit を予習。分からない語彙、フレーズを調べておく 事後：復習・課題
	3	Unit 1 Electronic Devices	Listening, Reading, 会話、文法を通し Unit 1 を学習する。	事前：該当 Unit を予習。分からない語彙、フレーズを調べておく 事後：復習・課題
	4	Unit 2 Health and Fitness	Listening, Reading, 会話、文法を通し Unit 2 を学習する。	事前：該当 Unit を予習。分からない語彙、フレーズを調べておく 事後：復習・課題
	5	Unit 2 Health and Fitness	Listening, Reading, 会話、文法を通し Unit 2 を学習する。	事前：該当 Unit を予習。分からない語彙、フレーズを調べておく 事後：復習・課題
	6	Unit 3 On the Phone	Listening, Reading, 会話、文法を通し Unit 3 を学習する。	事前：該当 Unit を予習。分からない語彙、フレーズを調べておく 事後：復習・課題
	7	Unit 3 On the Phone	Listening, Reading, 会話、文法を通し Unit 3 を学習する。	事前：該当 Unit を予習。分からない語彙、フレーズを調べておく 事後：復習・課題
	8	中間テスト	Unit 1-3	事前：中間テスト勉強
	9	Unit 4 Household Chores	Listening, Reading, 会話、文法を通し Unit 4 を学習する。	事前：該当 Unit を予習。分からない語彙、フレーズを調べておく 事後：復習・課題
	10	Unit 4 Household Chores	Listening, Reading, 会話、文法を通し Unit 4 を学習する。	事前：該当 Unit を予習。分からない語彙、フレーズを調べておく 事後：復習・課題
	11	Unit 5 Environment Protection	Listening, Reading, 会話、文法を通し Unit 5 を学習する。	事前：該当 Unit を予習。分からない語彙、フレーズを調べておく 事後：復習・課題
	12	Unit 5 Environment Protection	Listening, Reading, 会話、文法を通し Unit 5 を学習する。	事前：該当 Unit を予習。分からない語彙、フレーズを調べておく 事後：復習・課題
	13	Unit 6 Bargaining for Fun	Listening, Reading, 会話、文法を通し Unit 6 を学習する。	事前：該当 Unit を予習。分からない語彙、フレーズを調べておく 事後：復習・課題
	14	Unit 6 Bargaining for Fun	Listening, Reading, 会話、文法を通し Unit 6 を学習する。	事前：該当 Unit を予習。分からない語彙、フレーズを調べておく 事後：復習・課題
15	まとめテスト	Unit 4-6	事前：まとめテストの勉強	

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Live Escalate Book3: Summit	角山 照彦 他	成美堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test - Revised Edition (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	<table border="0"> <tr> <td>全学共通英語課題</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等も含む)</td> <td>80%</td> </tr> </table>	全学共通英語課題	20%	授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等も含む)	80%
全学共通英語課題	20%				
授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等も含む)	80%				
学生へのメッセージ	皆さんが社会に旅立つ頃には世界はさらに多様化が進み、海外で働くことや英語を話す同僚と仕事をする機会が増えるでしょう。TOEICを学習することでビジネスシーンで使われる語彙や表現、取引の仕組みなどを学ぶ事ができます。さあ未来への準備を始めましょう!				

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	基礎英語 I a	科目名 (英文)	Basic English Ia
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	ハ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	高橋 章夫
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LEN1815c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業の進め方、注意事項の説明	事前：シラバスの確認。教科書に目を通しておく。
2	Unit 1 Making introductions	復習課題の解説 教科書の問題に取り組み 教科書の内容を応用し、様々な場面で英語を発信する訓練を行う	事前：指定された箇所の課題に取り組み 事後：復習課題に取り組み
3	Unit 2 Describing someone's appearance and personal traits	復習課題の解説 教科書の問題に取り組み 教科書の内容を応用し、様々な場面で英語を発信する訓練を行う	事前：指定された箇所の課題に取り組み 事後：復習課題に取り組み
4	Unit 3 Talking about music preferences	復習課題の解説 教科書の問題に取り組み 教科書の内容を応用し、様々な場面で英語を発信する訓練を行う	事前：指定された箇所の課題に取り組み 事後：復習課題に取り組み
5	Unit 4 Describing what places are like	復習課題の解説 教科書の問題に取り組み 教科書の内容を応用し、様々な場面で英語を発信する訓練を行う	事前：指定された箇所の課題に取り組み 事後：復習課題に取り組み
6	Unit 5 Asking and answering job interview questions	復習課題の解説 教科書の問題に取り組み 教科書の内容を応用し、様々な場面で英語を発信する訓練を行う	事前：指定された箇所の課題に取り組み 事後：復習課題に取り組み
7	Unit 6 Asking for directions and describing locations	復習課題の解説 教科書の問題に取り組み 教科書の内容を応用し、様々な場面で英語を発信する訓練を行う	事前：指定された箇所の課題に取り組み 事後：復習課題に取り組み
8	Unit 7 Talking about locations in a store	復習課題の解説 教科書の問題に取り組み 教科書の内容を応用し、様々な場面で英語を発信する訓練を行う	事前：指定された箇所の課題に取り組み 事後：復習課題に取り組み
9	Unit 8 Giving and understanding instructions	復習課題の解説 教科書の問題に取り組み 教科書の内容を応用し、様々な場面で英語を発信する訓練を行う	事前：指定された箇所の課題に取り組み 事後：復習課題に取り組み
10	Unit 9 Talking about your daily routine	復習課題の解説 教科書の問題に取り組み 教科書の内容を応用し、様々な場面で英語を発信する訓練を行う	事前：指定された箇所の課題に取り組み 事後：復習課題に取り組み
11	Unit 10 Ordering food and taking orders	復習課題の解説 教科書の問題に取り組み 教科書の内容を応用し、様々な場面で英語を発信する訓練を行う	事前：指定された箇所の課題に取り組み 事後：復習課題に取り組み
12	Unit 11 Talking about sports	復習課題の解説 教科書の問題に取り組み 教科書の内容を応用し、様々な場面で英語を発信する訓練を行う	事前：指定された箇所の課題に取り組み 事後：復習課題に取り組み
13	Unit 12 Talking about the weather	復習課題の解説 教科書の問題に取り組み 教科書の内容を応用し、様々な場面で英語を発信する訓練を行う	事前：指定された箇所の課題に取り組み 事後：これまで学習した内容を復習する。
14	復習、およびまとめテスト	まとめテスト 復習	事前：まとめテストの準備をする。 事後：わからなかった箇所を復習する。
15	復習2	まとめテストの返却、および解説	事前：特になし 事後：テストで間違った箇所を復習する

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Hear Me Out 1	角山 照彦 他	Cengage Learning
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -	西谷 恒志	成美堂

		Revised Edition (指定の単語集)		
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 20%			
学生への メッセージ	授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 80%			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	基礎英語 I a	科目名 (英文)	Basic English Ia
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	ホ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	松吉 翔也
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LEN1815c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方、評価方法、出欠の扱いなどを説明します。	教科書予習や課題(1時間程度)
2	Public and Private	映像教材視聴、リスニング、リーディングなど	教科書予習や課題、小テストに向けた学習(1時間程度)
3	外国文化紹介/身近な英語表現(1)	興味深い外国文化や習慣、日常で使えるような英語表現(必要に応じて映画、海外ドラマ、アニメなどを用います)	教科書予習や課題(1時間程度)
4	Getting Information	映像教材視聴、リスニング、リーディングなど	教科書予習や課題、小テストに向けた学習(1時間程度)
5	外国文化紹介/身近な英語表現(2)	興味深い外国文化や習慣、日常で使えるような英語表現(必要に応じて映画、海外ドラマ、アニメなどを用います)	教科書予習や課題(1時間程度)
6	Milestones	映像教材視聴、リスニング、リーディングなど	教科書予習や課題、小テストに向けた学習(1時間程度)
7	Presentation Project 準備	グループでトピックを決めそれについての簡単なプレゼンテーションをします	教科書予習や課題(1時間程度)
8	Presentation Project 発表	グループでトピックを決めそれについての簡単なプレゼンテーションをします	教科書予習や課題(1時間程度)
9	Men and Women	映像教材視聴、リスニング、リーディングなど	教科書予習や課題、小テストに向けた学習(1時間程度)
10	外国文化紹介/身近な英語表現(3)	興味深い外国文化や習慣、日常で使えるような英語表現(必要に応じて映画、海外ドラマ、アニメなどを用います)	教科書予習や課題(1時間程度)
11	Across Cultures	映像教材視聴、リスニング、リーディングなど	教科書予習や課題、小テストに向けた学習(1時間程度)
12	外国文化紹介/身近な英語表現(4)	興味深い外国文化や習慣、日常で使えるような英語表現(必要に応じて映画、海外ドラマ、アニメなどを用います)	教科書予習や課題(1時間程度)
13	Business and Marketing	映像教材視聴、リスニング、リーディングなど	教科書予習や課題、小テストに向けた学習(1時間程度)
14	外国文化紹介/身近な英語表現(5)	興味深い外国文化や習慣、日常で使えるような英語表現(必要に応じて映画、海外ドラマ、アニメなどを用います)	教科書予習や課題(1時間程度)
15	まとめと振り返り	前期で学んだことについて一人一人が振り返り共有をしていきます	まとめテストに向けて勉強

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	World Link 3 (4th Edition)	James R. Morgan; Nancy Douglas	National Geographic Learning
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	全学共通英語課題 (English Central) 20% 授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等も含む) 80%
学生へのメッセージ	外国語や外国文化を知ることで、今までとは異なる視点からものごとが見えるようになります。より一層広い視野を持つように頑張ってくださいね!
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	基礎英語 I a	科目名 (英文)	Basic English Ia
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1 年	クラス	ト
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	金原 真由美
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LEN1815c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行う。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超えて課題を提出しなかった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション Chapter 1 を始める	授業の進め方、出欠の扱い、評価方法等の説明	事前学習: Chapter 1 を予習する。文法解説を読み、Exercises をしておく。 事後学習: 要点の書き出しとまとめ
2	1 5 つの基本文型	文法解説 Exercises (語彙選択、並べ替え、英作文、英文読解)	事前学習: 文法解説を読み、Exercises をしておく。 英文読解は文意の流れを考えながら分からない単語やフレーズを調べること。 事後学習: 要点の書き出しとまとめ
3	2 動詞	文法解説 Exercises (語彙選択、並べ替え、英作文、英文読解)	事前学習: 文法解説を読み、Exercises をしておく。 英文読解は文意の流れを考えながら分からない単語やフレーズを調べること。 事後学習: 要点の書き出しとまとめ
4	3 進行形・未来形・助動詞	文法解説 Exercises (語彙選択、並べ替え、英作文、英文読解)	事前学習: 文法解説を読み、Exercises をしておく。 英文読解は文意の流れを考えながら分からない単語やフレーズを調べること。 事後学習: 要点の書き出しとまとめ
5	5 前置詞・接続詞 (1)	文法解説 Exercises (語彙選択、並べ替え、英作文、英文読解)	事前学習: 文法解説を読み、Exercises をしておく。 英文読解は文意の流れを考えながら分からない単語やフレーズを調べること。 事後学習: 要点の書き出しとまとめ
6	6 形容詞・副詞と比較級	文法解説 Exercises (語彙選択、並べ替え、英作文、英文読解)	事前学習: 文法解説を読み、Exercises をしておく。 英文読解は文意の流れを考えながら分からない単語やフレーズを調べること。 事後学習: 要点の書き出しとまとめ
7	1 5 関係詞	文法解説 Exercises (語彙選択、並べ替え、英作文、英文読解)	事前学習: 文法解説を読み、Exercises をしておく。 英文読解は文意の流れを考えながら分からない単語やフレーズを調べること。 事後学習: 要点の書き出しとまとめ
8	授業後、中間テスト	Exercises (語彙選択、並べ替え、英作文、英文読解)	指示した箇所の予習 中間テストの勉強
9	8 不定詞	文法解説 Exercises (語彙選択、並べ替え、英作文、英文読解)	事前学習: 文法解説を読み、Exercises をしておく。 英文読解は文意の流れを考えながら分からない単語やフレーズを調べること。 事後学習: 要点の書き出しとまとめ
10	9 動名詞と分詞	文法解説 Exercises (語彙選択、並べ替え、英作文、英文読解)	事前学習: 文法解説を読み、Exercises をしておく。 英文読解は文意の流れを考えながら分からない単語やフレーズを調べること。 事後学習: 要点の書き出しとまとめ
11	1 0 各種疑問文・It の特別用法	文法解説 Exercises (語彙選択、並べ替え、英作文、英文読解)	事前学習: 文法解説を読み、Exercises をしておく。 英文読解は文意の流れを考えながら分からない単語やフレーズを調べること。 事後学習: 要点の書き出しとまとめ
12	1 2 完了形	文法解説 Exercises (語彙選択、並べ替え、英作文、英文読解)	事前学習: 文法解説を読み、Exercises をしておく。 英文読解は文意の流れを考えながら分からない単語やフレーズを調べること。 事後学習: 要点の書き出しとまとめ
13	1 3 接続詞 (11) (時制の一致を含む)	文法解説 Exercises (語彙選択、並べ替え、英作文、英文読解)	事前学習: 文法解説を読み、Exercises をしておく。 英文読解は文意の流れを考えながら分からない単語やフレーズを調べること。 事後学習: 要点の書き出しとまとめ
14	1 4 仮定法	文法解説 Exercises (語彙選択、並べ替え、英作文、英文読解)	事前学習: 文法解説を読み、Exercises をしておく。 英文読解は文意の流れを考えながら分からない単語やフレーズを調べること。 事後学習: 要点の書き出しとまとめ
15	まとめ (期末) テスト	期末テスト (後半の学習内容の確認)	まとめテストに向けての勉強

関連科目	他の英語科目		
教科書	番号	書籍名	著者名 出版社名

	1	Elementary English—Reading & Writing	佐藤哲三/ 伊藤真紀	南雲堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- (指定の単語帳)	西谷 恒志	成美堂
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 20% 授業への参加、貢献 (質問に対する発言、板書、小テスト、中間・期末テストなど) 80%			
学生への メッセージ	授業には毎回辞書を持参すること。 伝えてある箇所の予習が出来ていることを前提に授業をします。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは随時行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。 理解度によっては、進むChapterの順序を変える場合があります。			

科目名	基礎英語 I a	科目名 (英文)	Basic English Ia
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	ロ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	勝井 典子
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LEN1815c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の進め方、評価の仕方、予習・復習の仕方など	予習: テキストUnit1-10ににぎっと目を通す 復習: 自習用音声の使用に慣れる
2	Unit 1 Dissolving Bags	インドネシア発のニュース映像の内容を理解する。語彙、語法、表現、文法を学ぶ	予習: Web 動画や音声ファイルを視聴し、スクリプト内のわからない語彙を辞書で調べておく 復習: 授業で解説した文の構造や表現を確認する
3	Unit 2 Farm beneath the Streets	イギリス発のニュース映像の内容を理解する。語彙、語法、表現、文法を学ぶ	予習: Web 動画や音声ファイルを視聴し、スクリプト内のわからない語彙を辞書で調べておく 復習: 授業で解説した文の構造や表現を確認する
4	Unit 3 Mechanics are Men - Think Again!	アメリカ発のニュース映像の内容を理解する。語彙、語法、表現、文法を学ぶ	予習: Web 動画や音声ファイルを視聴し、スクリプト内のわからない語彙を辞書で調べておく 復習: 授業で解説した文の構造や表現を確認する
5	Unit 4 Pets Get High- class Health Care	アメリカ発のニュース映像の内容を理解する。語彙、語法、表現、文法を学ぶ	予習: Web 動画や音声ファイルを視聴し、スクリプト内のわからない語彙を辞書で調べておく 復習: 授業で解説した文の構造や表現を確認する
6	Unit 5 Life with the Iron Lady	フランス発のニュース映像の内容を理解する。語彙、語法、表現、文法を学ぶ	予習: Web 動画や音声ファイルを視聴し、スクリプト内のわからない語彙を辞書で調べておく 復習: 授業で解説した文の構造や表現を確認する
7	Unit 1-5 の復習テスト	復習テストを行う	予習: Unit 1-5 の Web 動画や音声ファイルの視聴及びテキストの問題の復習で、理解を完全にしておくこと 復習: テストの模範解答を確認する
8	Unit 6 Drone for the Disabled	アルゼンチン発のニュース映像の内容を理解する。語彙、語法、表現、文法を学ぶ	予習: Web 動画や音声ファイルを視聴し、スクリプト内のわからない語彙を辞書で調べておく 復習: 授業で解説した文の構造や表現を確認する
9	Unit 7 Crucial Minutes	アメリカ発のニュース映像の内容を理解する。語彙、語法、表現、文法を学ぶ	予習: Web 動画や音声ファイルを視聴し、スクリプト内のわからない語彙を辞書で調べておく 復習: 授業で解説した文の構造や表現を確認する
10	Unit 8 Mites vs Parasites	スペイン発のニュース映像の内容を理解する。語彙、語法、表現、文法を学ぶ	予習: Web 動画や音声ファイルを視聴し、スクリプト内のわからない語彙を辞書で調べておく 復習: 授業で解説した文の構造や表現を確認する
11	Unit 9 Gearing up for a New Top Speed	南アフリカ発のニュース映像の内容を理解する。語彙、語法、表現、文法を学ぶ	予習: Web 動画や音声ファイルを視聴し、スクリプト内のわからない語彙を辞書で調べておく 復習: 授業で解説した文の構造や表現を確認する
12	Unit 10 New Skin from a Printer	フランス発のニュース映像の内容を理解する。語彙、語法、表現、文法を学ぶ	予習: Web 動画や音声ファイルを視聴し、スクリプト内のわからない語彙を辞書で調べておく 復習: 授業で解説した文の構造や表現を確認する
13	研究発表	与えられたテーマでプレゼンテーションを行い、学生同士でも評価し合う	予習: プレゼンテーションの準備 復習: プレゼンテーション内容の振り返り
14	研究発表	与えられたテーマでプレゼンテーションを行い、学生同士でも評価し合う	予習: プレゼンテーションの準備 復習: プレゼンテーション内容の振り返り
15	まとめテスト	Unit1-10のまとめテストを行う	予習: 前期全体の復習 復習: テスト後に掲示される解答をもとに復習

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	AFP SciTech Futures	AFP で学ぶ世界の科学	椋 1 平 淳
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition		西谷 恒志	成美堂
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	辞書		
2				
3				

評価方法 全学共通英語課題 20%

(基準)	授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等も含む） 80%
学生へのメッセージ	フランスを拠点とする報道機関 AFP 通信が有する映像ニュースから科学・技術に関する最新映像を視聴し、刻々と変容する世界の事象を生きた英語で学びましょう。また、発展的に自ら調べ、発表する課題をこなすことにより、プレゼンテーションの形式に慣れてください。
担当者の研究室等	7号館 2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	基礎英語 I a	科目名 (英文)	Basic English Ia
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	二
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	松吉 翔也
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LEN1815c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方、評価方法、出欠の扱いなどを説明します。	教科書予習や課題(1時間程度)
2	Public and Private	映像教材視聴、リスニング、リーディングなど	教科書予習や課題、小テストに向けた学習(1時間程度)
3	外国文化紹介/身近な英語表現(1)	興味深い外国文化や習慣、日常で使えるような英語表現(必要に応じて映画、海外ドラマ、アニメなどを用います)	教科書予習や課題(1時間程度)
4	Getting Information	映像教材視聴、リスニング、リーディングなど	教科書予習や課題、小テストに向けた学習(1時間程度)
5	外国文化紹介/身近な英語表現(2)	興味深い外国文化や習慣、日常で使えるような英語表現(必要に応じて映画、海外ドラマ、アニメなどを用います)	教科書予習や課題(1時間程度)
6	Milestones	映像教材視聴、リスニング、リーディングなど	教科書予習や課題、小テストに向けた学習(1時間程度)
7	Presentation Project 準備	グループでトピックを決めそれについての簡単なプレゼンテーションをします	教科書予習や課題(1時間程度)
8	Presentation Project 発表	グループでトピックを決めそれについての簡単なプレゼンテーションをします	教科書予習や課題(1時間程度)
9	Men and Women	映像教材視聴、リスニング、リーディングなど	教科書予習や課題、小テストに向けた学習(1時間程度)
10	外国文化紹介/身近な英語表現(3)	興味深い外国文化や習慣、日常で使えるような英語表現(必要に応じて映画、海外ドラマ、アニメなどを用います)	教科書予習や課題(1時間程度)
11	Across Cultures	映像教材視聴、リスニング、リーディングなど	教科書予習や課題、小テストに向けた学習(1時間程度)
12	外国文化紹介/身近な英語表現(4)	興味深い外国文化や習慣、日常で使えるような英語表現(必要に応じて映画、海外ドラマ、アニメなどを用います)	教科書予習や課題(1時間程度)
13	Business and Marketing	映像教材視聴、リスニング、リーディングなど	教科書予習や課題、小テストに向けた学習(1時間程度)
14	外国文化紹介/身近な英語表現(5)	興味深い外国文化や習慣、日常で使えるような英語表現(必要に応じて映画、海外ドラマ、アニメなどを用います)	教科書予習や課題(1時間程度)
15	まとめと振り返り	前期で学んだことについて一人一人が振り返り共有をしていきます	まとめテストに向けて勉強

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	World Link 3 (4th Edition)	James R. Morgan; Nancy Douglas	National Geographic Learning
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	全学共通英語課題 (English Central) 20% 授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等も含む) 80%
学生へのメッセージ	外国語や外国文化を知ることで、今までとは異なる視点からものごとが見えるようになります。より一層広い視野を持つように頑張ってくださいね!
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	基礎英語 I a	科目名 (英文)	Basic English Ia
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1 年	クラス	へ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ヴァンティ/ ミトシユエ
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LEN1815c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。 小テストなどのフィードバックは次の授業で行う。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	自己紹介 授業の進め方や成績評価についての説明 Checklink の登録	Unit1 の課題
	2	Unit 1	お礼を伝える 現在形 自己紹介をする	Unit2 の課題
	3	Unit2	感想を述べる 代名詞 友人を紹介する	Unit3 の課題
	4	Unit 3	勤務時間について述べる 前置詞 行動予定について書く	Unit4 の課題
	5	Unit4	週末にしたことを述べる 過去形 ある 1 日を振り返る	Unit5 の課題
	6	Unit5	相手を励ます 可算・不可算名詞 必要なものについて書く	Unit6 の課題
	7	Unit6	提案する 進行形 健康状態について書く	Unit7 の課題
	8	Unit7	助けを求める WH 疑問文 人物を紹介する	Unit8 の課題
	9	Unit8	パーティに誘う 動名詞・不定詞 好きなことについて書く	Unit9 の課題
	10	Unit9	約束する 未来形 未来の自分について書く	Unit10 の課題
	11	Unit10	好みを伝える 比較 自分の価値観について書く	Unit11 の課題
	12	Unit11	確認する 助動詞 大学の規則について書く	Unit12 の課題
	13	Unit12	喜びを伝える 現在完了形 最近したことについて書く	Unit13 の課題
	14	Unit 13	感想を述べる 関係詞 人物について書く	Unit14・15 の課題
	15	Unit14・15 の課題	観光名所の案内 受動態・接続詞 大学について書く	復習

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- (指定の単語集)</td> <td>西谷 恒志</td> <td>成美堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>English Missions! Basic</td> <td>Robert Hickling, Misato Usukura</td> <td>金星堂</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂	2	English Missions! Basic	Robert Hickling, Misato Usukura	金星堂	3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂													
	2	English Missions! Basic	Robert Hickling, Misato Usukura	金星堂													
3																	
参考書																	

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 (EnglishCentral) ...20% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) ...80%			
学生への メッセージ	ストーリーを通じて楽しく英語の4技能を学びましょう。			
担当者の 研究室等	7号館4階 西川研究室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はチュードントアワーにて対応する。			

科目名	基礎英語 I a	科目名 (英文)	Basic English Ia
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	チ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	清水 京香
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LEN1815c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の進め方、評価方法、予習の方法などの説明	
2	Unit 1 Resellers - Good or Bad?	単語テスト、テキストの読解、文法・リスニング・スピーキング	単語学習、本文に目を通して、内容を把握する(分からない単語は調べておく)
3	Unit 2 About Earphones	単語テスト、テキストの読解、文法・リスニング・スピーキング	単語学習、本文に目を通して、内容を把握する(分からない単語は調べておく)
4	Unit 3 Cash Registers	単語テスト、テキストの読解、文法・リスニング・スピーキング	単語学習、本文に目を通して、内容を把握する(分からない単語は調べておく)
5	Unit 4 Funny Happening During Online Lessons	単語テスト、テキストの読解、文法・リスニング・スピーキング	単語学習、本文に目を通して、内容を把握する(分からない単語は調べておく)
6	Unit 5 Loose-Fitting Clothing	単語テスト、テキストの読解、文法・リスニング・スピーキング	単語学習、本文に目を通して、内容を把握する(分からない単語は調べておく)
7	Unit 6 Shrinkflation	単語テスト、テキストの読解、文法・リスニング・スピーキング	単語学習、本文に目を通して、内容を把握する(分からない単語は調べておく)
8	前半まとめテスト	Unit 1-6 の内容に関するまとめテスト	Unit 1-6 の復習
9	Unit 7 Living in the Countryside	単語テスト、テキストの読解、文法・リスニング・スピーキング	単語学習、本文に目を通して、内容を把握する(分からない単語は調べておく)
10	Unit 8 Hanging Out in Streets and Parks	単語テスト、テキストの読解、文法・リスニング・スピーキング	単語学習、本文に目を通して、内容を把握する(分からない単語は調べておく)
11	Unit 9 Plant Burgers Are Popular in America	単語テスト、テキストの読解、文法・リスニング・スピーキング	単語学習、本文に目を通して、内容を把握する(分からない単語は調べておく)
12	Unit 10 South Korean Culture Is Popular Worldwide	単語テスト、テキストの読解、文法・リスニング・スピーキング	単語学習、本文に目を通して、内容を把握する(分からない単語は調べておく)
13	Unit 11 Doxing	単語テスト、テキストの読解、文法・リスニング・スピーキング	単語学習、本文に目を通して、内容を把握する(分からない単語は調べておく)
14	Unit 12 Fast Movies	単語テスト、テキストの読解、文法・リスニング・スピーキング	単語学習、本文に目を通して、内容を把握する(分からない単語は調べておく)
15	後半まとめテスト	Unit 7-12 の内容に関するまとめテスト	Unit 7-12 の復習

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Trend Scope</td> <td>Jonathan Lynch, Kotaro Shitori</td> <td>成美堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition</td> <td>西谷 恒志</td> <td>成美堂</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Trend Scope	Jonathan Lynch, Kotaro Shitori	成美堂	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition	西谷 恒志	成美堂	3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1	Trend Scope	Jonathan Lynch, Kotaro Shitori	成美堂													
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition	西谷 恒志	成美堂													
3																	

参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1																
	2																
3																	

評価方法(基準)	全学共通英語課題 20% 授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等も含む) 80%
学生へのメッセージ	英語で様々なトピックに触れ、様々な活動を通して英語力を鍛えていきましょう! 英語力が上がれば世界が広がります。
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	基礎英語 I a	科目名 (英文)	Basic English Ia
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	再
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	植田 弘子
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LEN1815c1		

授業概要・目的

比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めることで、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。

The content of this course is concerned with the language to express a variety of situations in daily life, such as: student life, hometowns, shopping, leisure time, travel, etc. Upon the completion of the course, students should have the basic knowledge or ability to talk about the above topics in basic daily conversation. このコースの内容は、学生生活、故郷、買い物、余暇、旅行など、日常生活における様々な状況を表現するための言葉に関するものです。コース修了時には、上記のようなトピックについて、基本的な日常会話ができる基礎知識または能力を身につけていることが必要です。

到達目標

(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)さえれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。
(2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。
(3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。

授業方法と留意点

演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。

科目学習の効果(資格)

TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	Introduction オリエンテーション	Introduction オリエンテーション	No preparation required. 準備は必要ありません。
2	Unit 1 Lifestyles.	Asking people about themselves. Telling about yourself.	Pages 4 - 5.
3	Unit 1 Lifestyles continued.	Exchanging personal information.	Pages 6 - 8.
4	Unit 2 Student Life.	Describing your student life.	Pages 10 - 11.
5	Unit 2 Student Life continued.	Describing daily routines.	Pages 12 - 14.
6	Unit 3 Hobbies and interests.	Talking about people's interests.	Pages 16 - 17.
7	Unit 3 Leisure time and abilities.	How you spend your free time.	Pages 18 - 20.
8	Test of units 1-3. Special topic.	Test of units 1-3. Special topic.	Review of grammar and vocabulary of units 1 - 3.
9	Unit 4 Neighborhoods.	Talking about your hometown.	Pages 24 - 25.
10	Unit 4 Neighborhoods continued.	Neighborhood facilities.	Pages 26 - 28.
11	Unit 5 Directions and travel	How to describe where things are.	Pages 30 - 31.
12	Unit 5 Direction and travel continued.	Finding places when you travel.	Pages 32 - 34.
13	Unit 6 Shopping and money.	Expressions for money and travel.	Pages 36 - 37.
14	Unit 6 Shopping and money continued.	Talking about shopping.	Pages 38 - 39.
15	Test of units 4 - 6. Summary of the term	Test of units 4 - 6.	Review of grammar and vocabulary of units 4 - 6.

関連科目

なし

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Breakthrough Plus 1 (2nd edition)	Miles Craven	MacMillan
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)

全学共通英語課題(EnglishCentral) 20%
授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等も含む) 80%
良い成績を取るためには、参加することと良い授業態度が大切です。

学生へのメッセージ

英語を使いこなし、上達するために、ペアワーク、スモールグループワークなどのコミュニケーション活動に積極的に参加することが期待されます。参加と授業に取り組む姿勢は成績の重要な一部となります。
This is course in English communication. Aside from simply attending class and passing tests, students are expected to activ

担当者の

7号館2階 非常勤講師室

研究室等	
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間数をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降行う。

科目名	基礎英語Ⅱ a	科目名 (英文)	Basic English IIa
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	イ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	土田 智佳子
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LEN1816c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業の進め方、注意事項の説明	事前：シラバスの確認。教科書に目を通しておく。
2	Unit 7 Affinity	Listening、Reading、会話、文法を通し Unit 7 を学習する。	事前：単語テストの勉強 事後：復習・課題
3	Unit 7 Affinity	Listening、Reading、会話、文法を通し Unit 7 を学習する。	事前：単語テストの勉強 事後：復習・課題
4	Unit 8 Culture Shock	Listening、Reading、会話、文法を通し Unit 8 を学習する。	事前：単語テストの勉強 事後：復習・課題
5	Unit 8 Culture Shock	Listening、Reading、会話、文法を通し Unit 8 を学習する。	事前：単語テストの勉強 事後：復習・課題
6	Unit 9 School Activities	Listening、Reading、会話、文法を通し Unit 9 を学習する。	事前：単語テストの勉強 事後：復習・課題
7	Unit 9 School Activities	Listening、Reading、会話、文法を通し Unit 9 を学習する。	事前：単語テストの勉強 事後：復習・課題・中間テスト勉強
8	中間テスト	Unit 7-9	事後：復習・課題
9	Unit 10 Asking for Directions	Listening、Reading、会話、文法を通し Unit 10 を学習する。	事前：単語テストの勉強 事後：復習・課題
10	Unit 10 Asking for Directions	Listening、Reading、会話、文法を通し Unit 10 を学習する。	事前：単語テストの勉強 事後：復習・課題
11	Unit 11 Tourist Spots	Listening、Reading、会話、文法を通し Unit 11 を学習する。	事前：単語テストの勉強 事後：復習・課題
12	Unit 11 Tourist Spots	Listening、Reading、会話、文法を通し Unit 11 を学習する。	事前：単語テストの勉強 事後：復習・課題
13	Unit 12 Studying Abroad	Listening、Reading、会話、文法を通し Unit 12 を学習する。	事前：単語テストの勉強 事後：復習・課題
14	Unit 12 Studying Abroad	Listening、Reading、会話、文法を通し Unit 12 を学習する。	事前：単語テストの勉強 事後：復習・課題
15	まとめテスト	Unit 10-12	事前：まとめテストの勉強

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Live Escalate Book3: Summit</td> <td>角山 照彦 他</td> <td>成美堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test - Revised Edition (指定の単語集)</td> <td>西谷 恒志</td> <td>成美堂</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Live Escalate Book3: Summit	角山 照彦 他	成美堂	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test - Revised Edition (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂	3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1	Live Escalate Book3: Summit	角山 照彦 他	成美堂													
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test - Revised Edition (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂													
3																	

参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1																
	2																
3																	

評価方法 (基準)	全学共通英語課題 20% TOEIC Bridge のスコア 10% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 70%
学生へのメッセージ	皆さんが社会に旅立つ頃には世界はさらに多様化が進み、海外で働くことや英語を話す同僚と仕事をする機会が増えるでしょう。TOEICを学習することでビジネスシーンで使われる語彙や表現、取引の仕組みなどを学ぶ事ができます。さあ未来への準備を始めましょう！
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	基礎英語 II a	科目名 (英文)	Basic English IIa
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1 年	クラス	ハ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ダンカン ホワイト
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LEN1816c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Units 15 & 16	Advice	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	2	Unit 17	Comparison	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	3	Unit 18	Invention	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	4	Unit 19	Opinions: the best	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	5	Unit 20	Opinions: good or bad	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	6	Unit 21	Opinions: true or false	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	7	Unit 22	Explanations	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	8	Unit 23	Tall tales	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	9	Unit 24	Advertising	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	10	Unit 25	News	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	11	Unit 26	Evaluation	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	12	Unit 27	Research	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	13	Unit 28	Rethinking history	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	14	Unit 29	Future concepts	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	15	Evaluation and review	Evaluation and review	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	SCD Revised	Richard Rowat	Weissman Press
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- (指定の単語集)	西谷恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	全学共通英語課題 (EnglishCentral) ... 20% TOEIC Bridge ... 10% 授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等も含む) ... 70%
-----------	---

学生へのメッセージ
Students who engage wholeheartedly in class activities, who read up on lessons and do their homework, will achieve most from this course. Pair and group work will form the core of each lesson.

担当者の研究室等
7 号館 2 階 非常勤講師室

備考
毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	基礎英語Ⅱ a	科目名 (英文)	Basic English IIa
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	ホ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	松吉 翔也
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LEN1816c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方、評価方法、出欠の扱いなどを説明します。	教科書予習や課題(1時間程度)
2	Wellbing	映像教材視聴、リスニング、リーディングなど	教科書予習や課題、小テストに向けた学習(1時間程度)
3	外国文化紹介/身近な英語表現(1)	興味深い外国文化や習慣、日常で使えるような英語表現(必要に応じて映画、海外ドラマ、アニメなどを用います)	教科書予習や課題(1時間程度)
4	What Are you Into?	映像教材視聴、リスニング、リーディングなど	教科書予習や課題、小テストに向けた学習(1時間程度)
5	外国文化紹介/身近な英語表現(2)	興味深い外国文化や習慣、日常で使えるような英語表現(必要に応じて映画、海外ドラマ、アニメなどを用います)	教科書予習や課題(1時間程度)
6	Society	映像教材視聴、リスニング、リーディングなど	教科書予習や課題、小テストに向けた学習(1時間程度)
7	Presentation Project 準備	グループでトピックを決めそれについての簡単なプレゼンテーションをします	教科書予習や課題(1時間程度)
8	Presentation Project 発表	グループでトピックを決めそれについての簡単なプレゼンテーションをします	教科書予習や課題(1時間程度)
9	Money	映像教材視聴、リスニング、リーディングなど	教科書予習や課題、小テストに向けた学習(1時間程度)
10	外国文化紹介/身近な英語表現(3)	興味深い外国文化や習慣、日常で使えるような英語表現(必要に応じて映画、海外ドラマ、アニメなどを用います)	教科書予習や課題(1時間程度)
11	Trust	映像教材視聴、リスニング、リーディングなど	教科書予習や課題、小テストに向けた学習(1時間程度)
12	外国文化紹介/身近な英語表現(4)	興味深い外国文化や習慣、日常で使えるような英語表現(必要に応じて映画、海外ドラマ、アニメなどを用います)	教科書予習や課題(1時間程度)
13	Our World	映像教材視聴、リスニング、リーディングなど	教科書予習や課題、小テストに向けた学習(1時間程度)
14	外国文化紹介/身近な英語表現(5)	興味深い外国文化や習慣、日常で使えるような英語表現(必要に応じて映画、海外ドラマ、アニメなどを用います)	教科書予習や課題(1時間程度)
15	まとめと振り返り	前期で学んだことについて一人一人が振り返り共有をしていきます	まとめテストに向けて勉強

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	World Link 3 (4th Edition)	James R. Morgan; Nancy Douglas	National Geographic Learning
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	全学共通英語課題 (English Central) 20% TOEIC Bridge のスコア 10% 授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等も含む) 70%
----------	---

学生へのメッセージ	外国語や外国文化を知ること、今までとは異なる視点からものごとが見えるようになります。より一層広い視野を持てるように頑張ってくださいね!
担当者の	7号館2階 非常勤講師室

研究室等	
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	基礎英語Ⅱ a	科目名 (英文)	Basic English IIa
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	ト
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	金原 真由美
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LEN1816c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法及び留意点	演習型の授業を行う。e-learning課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超えて課題を提出しなかった者には原則として単位を認めない。 後期は、語彙の増強とより長い英文を読み読解力をつけることを目的とします。現在世界で起きている様々な問題について、日本の外では人々はどう考えて対処しようとしているのかを知り考える幅を広げたい。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス Unit 1を始める	授業の進め方、出欠の扱い、評価方法などの説明	事前学習:短文中の語彙の意味を調べる。'Reading'は必ず音声を聴いて、意味を取り内容把握すること。
2	1 Resourcefulness	語彙の意味をチェック 英文の内容把握と exercises (Correct or Incorrect, Listening 問題、key phrase) を使って自分の意見を述べるなど)	事前学習:短文中の語彙の意味を調べる。'Reading'は必ず音声を聴いて、意味を取り内容把握すること。
3	2 Women's Rights	語彙の意味をチェック 英文の内容把握と exercises (Correct or Incorrect, Listening 問題、key phrase) を使って自分の意見を述べるなど)	事前学習:短文中の語彙の意味を調べる。'Reading'は必ず音声を聴いて、意味を取り内容把握すること。
4	3 Emotional Support	語彙の意味をチェック 英文の内容把握と exercises (Correct or Incorrect, Listening 問題、key phrase) を使って自分の意見を述べるなど)	事前学習:短文中の語彙の意味を調べる。'Reading'は必ず音声を聴いて、意味を取り内容把握すること。
5	4 Poaching	語彙の意味をチェック 英文の内容把握と exercises (Correct or Incorrect, Listening 問題、key phrase) を使って自分の意見を述べるなど)	事前学習:短文中の語彙の意味を調べる。'Reading'は必ず音声を聴いて、意味を取り内容把握すること。
6	5 Reforestation	語彙の意味をチェック 英文の内容把握と exercises (Correct or Incorrect, Listening 問題、key phrase) を使って自分の意見を述べるなど)	事前学習:短文中の語彙の意味を調べる。'Reading'は必ず音声を聴いて、意味を取り内容把握すること。
7	6 Bullying	語彙の意味をチェック 英文の内容把握と exercises (Correct or Incorrect, Listening 問題、key phrase) を使って自分の意見を述べるなど)	事前学習:短文中の語彙の意味を調べる。'Reading'は必ず音声を聴いて、意味を取り内容把握すること。
8	授業後、中間テスト	前半の学習内容の確認	中間テストの勉強
9	7 Food Wasye	語彙の意味をチェック 英文の内容把握と exercises (Correct or Incorrect, Listening 問題、key phrase) を使って自分の意見を述べるなど)	事前学習:短文中の語彙の意味を調べる。'Reading'は必ず音声を聴いて、意味を取り内容把握すること。
10	8 Climate Change	語彙の意味をチェック 英文の内容把握と exercises (Correct or Incorrect, Listening 問題、key phrase) を使って自分の意見を述べるなど)	事前学習:短文中の語彙の意味を調べる。'Reading'は必ず音声を聴いて、意味を取り内容把握すること。
11	9 Hair Donation	語彙の意味をチェック 英文の内容把握と exercises (Correct or Incorrect, Listening 問題、key phrase) を使って自分の意見を述べるなど)	事前学習:短文中の語彙の意味を調べる。'Reading'は必ず音声を聴いて、意味を取り内容把握すること。
12	10 Homeless People	語彙の意味をチェック 英文の内容把握と exercises (Correct or Incorrect, Listening 問題、key phrase) を使って自分の意見を述べるなど)	事前学習:短文中の語彙の意味を調べる。'Reading'は必ず音声を聴いて、意味を取り内容把握すること。
13	11 Cleaner Places	語彙の意味をチェック 英文の内容把握と exercises (Correct	事前学習:短文中の語彙の意味を調べる。'Reading'は必ず音声を聴いて、意味を取り内容把握すること。

			or Incorrect, Listening 問題、key phrase を使って自分の意見を述べるなど)	と。																
	14	12 Artworks	語彙の意味をチェック 英文の内容把握と exercises (Correct or Incorrect, Listening 問題、key phrase を使って自分の意見を述べるなど)	事前学習: 短文中の語彙の意味を調べる。'Reading' は必ず音声聴いて、意味を取り内容把握すること。																
	15	まとめ (期末) テスト	後半の学習内容の確認	期末テストに向けての勉強																
関連科目	他の英語科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Positive Action--People Making the World a Better Place--</td> <td>Greg Goodmacher</td> <td>センゲージラーニング (株)</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition-</td> <td>西谷 恒志</td> <td>成美堂</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Positive Action--People Making the World a Better Place--	Greg Goodmacher	センゲージラーニング (株)	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition-	西谷 恒志	成美堂	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	Positive Action--People Making the World a Better Place--	Greg Goodmacher	センゲージラーニング (株)																	
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition-	西谷 恒志	成美堂																	
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 (English Central) ... 20% TOEIC Bridge ... 10% 授業への参加、貢献 (問いに対する発言、単語小テスト、中間・期末テスト等も含む) ... 70%																			
学生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・予習時に必ず音声を聴いて発音を身に付けるよう努めて下さい。直ぐ後を追いかける感じでシャドウイングしましょう。教室でも出来るだけ英語で読んだり答えて貰う機会を多くしたいと思います。 ・単語はまず、英和辞典を引き日本語の意味を確実にしておくこと。 ・授業には辞書を持参すること。 ・予習してあることを前提に授業します。 																			
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室																			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。																			

科目名	基礎英語Ⅱ a	科目名 (英文)	Basic English IIa
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	ロ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	勝井 典子
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LEN1816c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の進め方、評価の仕方、予習・復習の仕方など	予習: テキストUnit1-10にざっと目を通す 復習: 自習用音声の使用に慣れる
2	Unit 11 Caring for Strays	トルコ発のニュース映像の内容を理解する。語彙、語法、表現、文法を学ぶ	予習: Web 動画や音声ファイルを視聴し、スクリプト内のわからない語彙を辞書で調べておく 復習: 授業で解説した文の構造や表現を確認する
3	Unit 12 Coal before Comfort	モザンビーク発のニュース映像の内容を理解する。語彙、語法、表現、文法を学ぶ	予習: Web 動画や音声ファイルを視聴し、スクリプト内のわからない語彙を辞書で調べておく 復習: 授業で解説した文の構造や表現を確認する
4	Unit 13 Lifesaving Lake	コンゴ発のニュース映像の内容を理解する。語彙、語法、表現、文法を学ぶ	予習: Web 動画や音声ファイルを視聴し、スクリプト内のわからない語彙を辞書で調べておく 復習: 授業で解説した文の構造や表現を確認する
5	Unit 14 Saving a Wooden Giant	トルコ発のニュース映像の内容を理解する。語彙、語法、表現、文法を学ぶ	予習: Web 動画や音声ファイルを視聴し、スクリプト内のわからない語彙を辞書で調べておく 復習: 授業で解説した文の構造や表現を確認する
6	Unit 15 Protecting an Ancient City	バキスタン発のニュース映像の内容を理解する。語彙、語法、表現、文法を学ぶ	予習: Web 動画や音声ファイルを視聴し、スクリプト内のわからない語彙を辞書で調べておく 復習: 授業で解説した文の構造や表現を確認する
7	Unit 11-15 の復習テスト	復習テストを行う	予習: Unit 11-15 の Web 動画や音声ファイルの視聴及びテキストの問題の復習で、理解を完全にしておくこと 復習: テストの模範解答を確認する
8	Unit 16 Disappearing Island	アメリカ発のニュース映像の内容を理解する。語彙、語法、表現、文法を学ぶ	予習: Web 動画や音声ファイルを視聴し、スクリプト内のわからない語彙を辞書で調べておく 復習: 授業で解説した文の構造や表現を確認する
9	Unit 17 Lots and Lots of Lithium	ポルトガル発のニュース映像の内容を理解する。語彙、語法、表現、文法を学ぶ	予習: Web 動画や音声ファイルを視聴し、スクリプト内のわからない語彙を辞書で調べておく 復習: 授業で解説した文の構造や表現を確認する
10	Unit 18 High-tech Telescope, Low-tech Environment	アメリカ発のニュース映像の内容を理解する。語彙、語法、表現、文法を学ぶ	予習: Web 動画や音声ファイルを視聴し、スクリプト内のわからない語彙を辞書で調べておく 復習: 授業で解説した文の構造や表現を確認する
11	Unit 19 Monitoring the Melting Ice	チリ発のニュース映像の内容を理解する。語彙、語法、表現、文法を学ぶ	予習: Web 動画や音声ファイルを視聴し、スクリプト内のわからない語彙を辞書で調べておく 復習: 授業で解説した文の構造や表現を確認する
12	Unit 20 Creating Mars in the Desert	オマーン発のニュース映像の内容を理解する。語彙、語法、表現、文法を学ぶ	予習: Web 動画や音声ファイルを視聴し、スクリプト内のわからない語彙を辞書で調べておく 復習: 授業で解説した文の構造や表現を確認する
13	研究発表	与えられたテーマでプレゼンテーションを行い、学生同士でも評価し合う	予習: プレゼンテーションの準備 復習: プレゼンテーション内容の振り返り
14	研究発表	与えられたテーマでプレゼンテーションを行い、学生同士でも評価し合う	予習: プレゼンテーションの準備 復習: プレゼンテーション内容の振り返り
15	まとめテスト	Unit11-20のまとめテストを行う	予習: 前期全体の復習 復習: テスト後に掲示される解答をもとに復習

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	AFP SciTech Futures	AFP で学ぶ世界の科学	椋 1 平 淳
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition		西谷 恒志	成美堂
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	辞書		
2				
3				

評価方法	全学共通英語課題 20%
------	--------------

(基準)	TOEIC Bridge のスコア 10% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 70%
学生へのメッセージ	フランスを拠点とする報道機関 AFP 通信が有する映像ニュースから科学・技術に関する最新映像を視聴し、刻々と変容する世界の事象を生きた英語で学びましょう。また、発展的に自ら調べ、発表する課題をこなすことにより、プレゼンテーションの形式に慣れてください。
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	基礎英語Ⅱ a	科目名 (英文)	Basic English IIa
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	二
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	松吉 翔也
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LEN1816c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方、評価方法、出欠の扱いなどを説明します。	教科書予習や課題 (1時間程度)
2	Wellbing	映像教材視聴、リスニング、リーディングなど	教科書予習や課題、小テストに向けた学習 (1時間程度)
3	外国文化紹介/身近な英語表現(1)	興味深い外国文化や習慣、日常で使えるような英語表現 (必要に応じて映画、海外ドラマ、アニメなどを用います)	教科書予習や課題 (1時間程度)
4	What Are you Into?	映像教材視聴、リスニング、リーディングなど	教科書予習や課題、小テストに向けた学習 (1時間程度)
5	外国文化紹介/身近な英語表現(2)	興味深い外国文化や習慣、日常で使えるような英語表現 (必要に応じて映画、海外ドラマ、アニメなどを用います)	教科書予習や課題 (1時間程度)
6	Society	映像教材視聴、リスニング、リーディングなど	教科書予習や課題、小テストに向けた学習 (1時間程度)
7	Presentation Project 準備	グループでトピックを決めそれについての簡単なプレゼンテーションをします	教科書予習や課題 (1時間程度)
8	Presentation Project 発表	グループでトピックを決めそれについての簡単なプレゼンテーションをします	教科書予習や課題 (1時間程度)
9	Money	映像教材視聴、リスニング、リーディングなど	教科書予習や課題、小テストに向けた学習 (1時間程度)
10	外国文化紹介/身近な英語表現(3)	興味深い外国文化や習慣、日常で使えるような英語表現 (必要に応じて映画、海外ドラマ、アニメなどを用います)	教科書予習や課題 (1時間程度)
11	Trust	映像教材視聴、リスニング、リーディングなど	教科書予習や課題、小テストに向けた学習 (1時間程度)
12	外国文化紹介/身近な英語表現(4)	興味深い外国文化や習慣、日常で使えるような英語表現 (必要に応じて映画、海外ドラマ、アニメなどを用います)	教科書予習や課題 (1時間程度)
13	Our World	映像教材視聴、リスニング、リーディングなど	教科書予習や課題、小テストに向けた学習 (1時間程度)
14	外国文化紹介/身近な英語表現(5)	興味深い外国文化や習慣、日常で使えるような英語表現 (必要に応じて映画、海外ドラマ、アニメなどを用います)	教科書予習や課題 (1時間程度)
15	まとめと振り返り	前期で学んだことについて一人一人が振り返り共有をしていきます	まとめテストに向けて勉強

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	World Link 3 (4th Edition)	James R. Morgan; Nancy Douglas	National Geographic Learning
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	全学共通英語課題 (English Central) 20% TOEIC Bridge のスコア 10% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 70%
----------	--

学生へのメッセージ	外国語や外国文化を知ること、今までとは異なる視点からものごとが見えるようになります。より一層広い視野を持てるように頑張ってくださいね!
担当者の	7号館2階 非常勤講師室

研究室等	
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	基礎英語 II a	科目名 (英文)	Basic English IIa
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	へ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ヴァンティ/ミルトン・ジュニア
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LEN1816c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自立的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自立的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	自己紹介 授業の進め方、成績評価の説明 Checklinkの登録	Unit1の課題
	2	Unit1	Welcome to L.A. be動詞	Unit2の課題
	3	Unit2	I Love Fruits! 可算・不可算名詞	Unit3の課題
	4	Unit3	Campus Life 一般動詞	Unit4の課題
	5	Unit4	Lunchitime 代名詞	Unit5の課題
	6	Unit5	First Date 過去時制	Unit6の課題
	7	Unit6	Where's Linda? 進行形	Unit7の課題
	8	Unit7	Andy's News 未来表現	Unit8の課題
	9	Unit8	Shopping in Santa Monica 助動詞	Unit9の課題
	10	Unit9	Moving Day 前置詞	Unit10の課題
	11	Unit10	A Beautiful View 現在完了	Unit11の課題
	12	Unit11	Sunday Fun 比較	Unit12の課題
	13	Unit12	Seeing Stars WH疑問文	Unit13の課題
	14	Unit13	Buying Food for a BBQ 動名詞・不定詞	Unit14・15の課題
	15	Unit14・15	Putting on a New Face New Surprise 接続詞・受動態	総復習

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	We Love L.A.!	Robert Hickling, Misato Usukura	金星
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	全学共通英語課題 (EnglishCentral) ...20% TOEIC Bridge ...10% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) ...70%
----------	---

学生へのメッセージ
L.A.に行った気分になって、楽しく英語の4技能を学びましょう。

担当者の研究室等
7号館4階 西川研究室

備考
毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はチュードントアワーにて対応する。

科目名	基礎英語 II a	科目名 (英文)	Basic English IIa
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1 年	クラス	チ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	清水 京香
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LEN1816c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	Chapter 1 Smokey Bear: A Mascot with a Message	単語テスト、テキストの読解、文法・リスニング・スピーキング	単語学習、本文に目を通して、内容を把握する (分からない単語は調べておく)
3	Chapter 2 Overtourism is a Problem!	単語テスト、テキストの読解、文法・リスニング・スピーキング	単語学習、本文に目を通して、内容を把握する (分からない単語は調べておく)
4	Chapter 3 Gender Equality in the Workplace	単語テスト、テキストの読解、文法・リスニング・スピーキング	単語学習、本文に目を通して、内容を把握する (分からない単語は調べておく)
5	Chapter 4 Changing Definitions of Beauty	単語テスト、テキストの読解、文法・リスニング・スピーキング	単語学習、本文に目を通して、内容を把握する (分からない単語は調べておく)
6	Chapter 5 Romeo and Juliet: A Tragic Story about Intolerance	単語テスト、テキストの読解、文法・リスニング・スピーキング	単語学習、本文に目を通して、内容を把握する (分からない単語は調べておく)
7	Chapter 6 Nature and Health	単語テスト、テキストの読解、文法・リスニング・スピーキング	単語学習、本文に目を通して、内容を把握する (分からない単語は調べておく)
8	前半まとめテスト	Chapter 1-6 の内容に関するまとめテスト	Chapter 1-6 の復習
9	Chapter 7 Golden Years and Silver Divorces	単語テスト、テキストの読解、文法・リスニング・スピーキング	単語学習、本文に目を通して、内容を把握する (分からない単語は調べておく)
10	Chapter 8 Trees: A Gift from Nature	単語テスト、テキストの読解、文法・リスニング・スピーキング	単語学習、本文に目を通して、内容を把握する (分からない単語は調べておく)
11	Chapter 9 Tattoos	単語テスト、テキストの読解、文法・リスニング・スピーキング	単語学習、本文に目を通して、内容を把握する (分からない単語は調べておく)
12	Chapter 10 Redefining Gender and Marriage	単語テスト、テキストの読解、文法・リスニング・スピーキング	単語学習、本文に目を通して、内容を把握する (分からない単語は調べておく)
13	Chapter 11 All the Lonely People	単語テスト、テキストの読解、文法・リスニング・スピーキング	単語学習、本文に目を通して、内容を把握する (分からない単語は調べておく)
14	Chapter 12 Think Before You Talk, Text, or Tweet	単語テスト、テキストの読解、文法・リスニング・スピーキング	単語学習、本文に目を通して、内容を把握する (分からない単語は調べておく)
15	後半まとめテスト	Chapter 7-12 の内容に関するまとめテスト	Chapter 7-12 の復習

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Changing Times, Changing Worlds</td> <td>Joan McConnell, Kiyoshi Yamauchi</td> <td>成美堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition</td> <td>西谷 恒志</td> <td>成美堂</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Changing Times, Changing Worlds	Joan McConnell, Kiyoshi Yamauchi	成美堂	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition	西谷 恒志	成美堂	3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1	Changing Times, Changing Worlds	Joan McConnell, Kiyoshi Yamauchi	成美堂													
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition	西谷 恒志	成美堂													
3																	

参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1																
	2																
3																	

評価方法 (基準)	全学共通英語課題 (English Central) 20% TOEIC Bridge のスコア 10% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 70%
学生へのメッセージ	英語で様々なトピックに触れ、様々な活動を通して英語力を鍛えていきましょう! 英語力が上がれば世界が広がります。
担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	基礎英語 II a	科目名 (英文)	Basic English IIa
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	再
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	植田 弘子
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LEN1816c1		

授業概要・目的	<p>比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自立的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。</p> <p>The content of this course is concerned with the language to express a variety of situations in daily life, such as: life experiences, describing people, vacations, dreams, your future, etc. Upon the completion of the course, students should have the basic knowledge or ability to talk about the above topics in basic daily conversation. このコースの内容は、学生生活、故郷、買い物、余暇、旅行など、日常生活における様々な状況を表現するための言葉に関するものです。コース修了時には、上記のようなトピックについて、基本的な日常会話ができる基礎知識または能力を身につけていることが必要です。</p>
---------	--

到達目標	<p>(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。</p> <p>(2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自立的英語学習法に親しむ。</p> <p>(3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。</p>
------	---

授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
----------	---

科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等
--------------	------------

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Special topic.	Special topic.	No preparation required. 1 hour
	2	Unit 7 Your Life.	Describing daily routines. Describing daily routines.	Pages 44 - 45. 1 hour
	3	Unit 7 Your Life continued.	Talking about what you do. Asking what others do.	Pages 46 - 48. 1 hour
	4	Unit 8 Describing People.	Words and expressions for describing people.	Pages 50 - 51. 1 hour
	5	Unit 8 Describing People continued.	Asking others about people in their lives.	Pages 52 - 54. 1 hour
	6	Unit 9 Future plans.	Talking about what you will do in the future.	Pages 56 - 57. 1 hour
	7	Unit 9 Future plans continued.	How you spend your free time.	Pages 58 - 60. 1 hour
	8	Test of units 7 - 9. Special topic.	Test of units 7 - 9. Special topic.	Review of words and grammar of units 7 - 9. 1 hour
	9	Unit 10 Vacations.	Words to describe travel.	Pages 64 - 65. 1 hour
	10	Unit 10 Vacations continued.	Where you like to go on vacation and what you like to do.	Pages 66 - 68. 1 hour
	11	Unit 11 Early Memories.	Describing events in your life.	Pages 70 - 71. 1 hour
	12	Unit 11 Early Memories continued.	Asking about people's lives.	Pages 72 - 74. 1 hour
	13	Unit 12 Hopes and Dreams.	What you would like to do in the future.	Pages 76 - 77. 1 hour
	14	Unit 12 Hopes and dreams continued.	Asking others about their dreams.	Pages 78 - 80. 1 hour
15	Test of units 10 - 12. Summary of the term	Test of units 10 - 12.	Review of words and grammar of units 10 - 12. 1 hour	

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Breakthrough Plus 1 (2nd edition)	Miles Craven	MacMillan
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	<p>全学共通英語課題 (EnglishCentral) 20%</p> <p>授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 80%</p>
-----------	---

学生へのメッセージ	<p>良い成績を取るためには、参加することと良い授業態度が大切です。</p> <p>英語を使いこなし、上達するために、ペアワーク、スモールグループワークなどのコミュニケーション活動に積極的に参加することが期待されます。参加と授業に取り組む姿勢は成績の重要な一部となります。 This is course in English communication. Aside from simply attending class and passing tests, students are expected to actively</p>
-----------	--

担当者の	7 号館 2 階 非常勤講師室
------	-----------------

研究室等	
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降行う。

科目名	韓国語 I	科目名 (英文)	Korean I
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	森 類臣
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LK01817e1		

授業概要・目的	この授業では、ハングル能力検定 5 級もしくは韓国語能力試験 (TOPIK) 1 級合格に対応できるための「基礎力」を養成することを目的とする (本授業「韓国語 I」で基礎力を養成し、「韓国語 II a」でハングル能力検定 5 級もしくは TOPIK1 級合格水準に達する実力をつける)。教科書は『チュクチュク チャラネ ぐんぐん伸びる韓国語 初級』(朴恩珠・森類臣・権世美著、白帝社、2021 年)を使用する。教科書に沿って授業を進めていく。 語学としての韓国語の学習はもちろんだが、教科書の内容に関連する文化的な背景もできる限り紹介するようにする。
---------	---

到達目標	ハングル能力検定 5 級もしくは韓国語能力試験 (TOPIK) 1 級合格に向けた基礎力を養成する。 ①文法事項・単語力 (基本的な文法と表現、単語数約 250 語程度) ②読解力と作文能力 ③リスニング力 ④発話力 (決まり文句としてのあいさつやあいづち、簡単な意思表示)
------	---

授業方法と留意点	1) 文法事項・語彙の復習の時間をとって着実に学習を重ねること。 2) 進度については、受講学生の理解度を鑑みながら多少調整する可能性がある。 3) 受講学生の理解を助けるため、適宜プリントを配布することもある。 4) フィードバックは基本的に授業内で行う。
----------	--

科目学習の効果 (資格)	ハングル能力検定 5 級もしくは韓国語能力試験 (TOPIK) 1 級合格に向けた基礎力養成
--------------	--

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	1) ガイダンス 2) I. ハングルの習おう! 第 1 課 母音字 1	・授業の進め方、成績評価、学習方法 ・母音字 1	文字・語彙の復習 (60 分)
	2	I. ハングルの習おう! 第 2 課 子音字 1	平音 1 (初声) 平音 2 (終声)	文字・語彙の予習・復習 (120 分)
	3	I. ハングルの習おう! 第 3 課 母音字 2	母音字 2	文字・語彙の予習・復習 (120 分)
	4	I. ハングルの習おう! 第 4 課 子音字 2	平音 2 (初声) 激音 2 (初声)	文字・語彙の予習・復習 (120 分)
	5	I. ハングルの習おう! 第 5 課 パッチム	終声 (パッチム)	文字・語彙の予習・復習 (120 分)
	6	I. ハングルの習おう! 第 6 課 母音字 3	母音字 3	文字・語彙の予習・復習 (120 分)
	7	I. ハングルの習おう! 第 7 課 子音字 3	濃音 (初声) 濃音 (終声) 日本語のハングル表記	文字・語彙の予習・復習 (120 分)
	8	第 8 課 知っておこう	教室でよく使う表現 分かち書き 発音規則	表現・発音の予習・復習 (120 分)
	9	II 話してみよう! 第 1 課 こんにちは	丁寧語尾~です、ます (へヨ体)	文法事項・語彙の予習・復習 (120 分)
	10	II 話してみよう! 第 1 課 こんにちは	助詞 (〜は)	文字・文法事項・語彙の予習・復習 (120 分)
	11	II 話してみよう! 第 2 課 これは何ですか。	指示詞 (この、その、あの)	文法事項・語彙の予習・復習 (120 分)
	12	II 話してみよう! 第 2 課 これは何ですか。	助詞 (〜が) 助詞 (だけ、のみ)	文法事項・語彙の予習・復習 (120 分)
	13	II 話してみよう! 第 3 課 アメリカンコーヒー ありますか。	存在詞 ~です、ます (ハムニダ体)	文法事項・語彙の予習・復習 (120 分)
	14	II 話してみよう! 第 3 課 アメリカンコーヒー ありますか。	リウル脱落 助詞 (〜と)	文法事項・語彙の予習・復習 (120 分)
	15	期末のまとめと理解度確認 テスト (期末評価)	期末の総まとめ	文法事項・語彙の復習 (120 分)

関連科目	「韓国語 II a」「韓国語 II b」など韓国語関連科目
------	-------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	チュクチュク チャラネ ぐんぐん伸びる韓国語 初級	朴恩珠・森類臣・権世美	白帝社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典 第 2 版	油谷幸利ほか編	小学館
	2			
	3			

評価方法 (基準)	課題の遂行 20% 小テスト 40%
-----------	-----------------------

	期末の理解度確認テスト 40%
学生への メッセージ	特段の事情なく授業回数の3分の1以上を欠席した学生は、基本的に評価の対象としない。
担当者の 研究室等	7号館5階 森研究室
備考	質問は授業の前後の時間やオフィスアワーに受け付ける。Teams やメールで質問してくれてもかまわない。

科目名	韓国語 I	科目名 (英文)	Korean I
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	北島 由紀子
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LK01817e1		

授業概要・目的	この授業では、ハングル能力検定5級もしくは韓国語能力試験 (TOPIK) 1級合格に対応できるための「基礎力」を養成することを目的とする。 (本授業「韓国語 I」で基礎力を養成し、「韓国語 II a」でハングル能力検定5級もしくは TOPIK 1級合格水準に達する実力をつける。) 教科書は『チュクチュク チャラネ ぐんぐん伸びる韓国語 初級』(朴恩珠・森類臣・権世美著、白帝社、2021年)を使用する。教科書に沿って授業を進めていく。語学としての韓国語の学習はもちろんだが、教科書の内容に関連する文化的な背景もできる限り紹介するようにする。																																																																		
到達目標	ハングル能力検定5級もしくは韓国語能力試験 (TOPIK) 1級合格に向けた基礎力を養成する。 ①文法事項・単語力 (基本的な文法と表現、単語数約 250 語程度) ②読解力と作文能力 ③リスニング力 ④発話力 (決まり文句としてのあいさつやあいづち、簡単な意思表示)																																																																		
授業方法と留意点	1) 文法事項・語彙の復習の時間をとって着実に学習を重ねること。 2) 進捗については、受講学生の理解度を鑑みながら多少調整する可能性がある。 3) 受講学生の理解を助けるため、適宜プリントを配布することもある。 4) フィードバックは基本的に授業内に行う。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	ハングル能力検定5級もしくは韓国語能力試験 (TOPIK) 1級合格に向けた基礎力養成																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ガイダンス I. ハングルの習おう! 第1課 母音字 1</td> <td>授業の進め方、成績評価、学習方法 母音字 1</td> <td>文字・語彙の復習 (60分)</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>I. ハングルの習おう! 第2課 子音字 1</td> <td>平音 1 (初声) 平音 2 (終声)</td> <td>文字・語彙の予習・復習 (120分)</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>I. ハングルの習おう! 第3課 母音字 2</td> <td>母音字 2</td> <td>文字・語彙の予習・復習 (120分)</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>I. ハングルの習おう! 第4課 子音字 2</td> <td>平音 2 (初声) 激音 2 (初声)</td> <td>文字・語彙の予習・復習 (120分)</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>I. ハングルの習おう! 第5課 パッチム</td> <td>終声 (パッチム)</td> <td>文字・語彙の予習・復習 (120分)</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>I. ハングルの習おう! 第6課 母音字 3</td> <td>母音字 3</td> <td>文字・語彙の予習・復習 (120分)</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>I. ハングルの習おう! 第7課 子音字 3</td> <td>濃音 2 (初声) 濃音 2 (終声) 日本語のハングル表記</td> <td>文字・語彙の予習・復習 (120分)</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>I. ハングルの習おう! 第8課 知っておこう</td> <td>教室でよく使う表現 分かち書き 発音規則</td> <td>表現・発音の予習・復習 (120分)</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>II. 話してみよう! 第1課 こんにちは</td> <td>丁寧語尾～です、～ます (へヨ体)</td> <td>文法事項・語彙の予習・復習 (120分)</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>II. 話してみよう! 第1課 こんにちは</td> <td>助詞 (～は)</td> <td>文字・文法事項・語彙の予習・復習 (120分)</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>II. 話してみよう! 第2課 これは何ですか?</td> <td>指示詞 (この、その、あの)</td> <td>文字・文法事項・語彙の予習・復習 (120分)</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>II. 話してみよう! 第2課 これは何ですか?</td> <td>助詞 (～が) 助詞 (だけ、のみ)</td> <td>文字・文法事項・語彙の予習・復習 (120分)</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>II. 話してみよう! 第3課 アメリカンコーヒーありますか?</td> <td>存在詞「へヨ体」 「ハムニダ体」</td> <td>文字・文法事項・語彙の予習・復習 (120分)</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>II. 話してみよう! 第3課 アメリカンコーヒーありますか?</td> <td>助詞 (～と)</td> <td>文字・文法事項・語彙の予習・復習 (120分)</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>後半のまとめと理解度確認 テスト (期末評価)</td> <td></td> <td>理解度確認テストの準備 (120分)</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス I. ハングルの習おう! 第1課 母音字 1	授業の進め方、成績評価、学習方法 母音字 1	文字・語彙の復習 (60分)	2	I. ハングルの習おう! 第2課 子音字 1	平音 1 (初声) 平音 2 (終声)	文字・語彙の予習・復習 (120分)	3	I. ハングルの習おう! 第3課 母音字 2	母音字 2	文字・語彙の予習・復習 (120分)	4	I. ハングルの習おう! 第4課 子音字 2	平音 2 (初声) 激音 2 (初声)	文字・語彙の予習・復習 (120分)	5	I. ハングルの習おう! 第5課 パッチム	終声 (パッチム)	文字・語彙の予習・復習 (120分)	6	I. ハングルの習おう! 第6課 母音字 3	母音字 3	文字・語彙の予習・復習 (120分)	7	I. ハングルの習おう! 第7課 子音字 3	濃音 2 (初声) 濃音 2 (終声) 日本語のハングル表記	文字・語彙の予習・復習 (120分)	8	I. ハングルの習おう! 第8課 知っておこう	教室でよく使う表現 分かち書き 発音規則	表現・発音の予習・復習 (120分)	9	II. 話してみよう! 第1課 こんにちは	丁寧語尾～です、～ます (へヨ体)	文法事項・語彙の予習・復習 (120分)	10	II. 話してみよう! 第1課 こんにちは	助詞 (～は)	文字・文法事項・語彙の予習・復習 (120分)	11	II. 話してみよう! 第2課 これは何ですか?	指示詞 (この、その、あの)	文字・文法事項・語彙の予習・復習 (120分)	12	II. 話してみよう! 第2課 これは何ですか?	助詞 (～が) 助詞 (だけ、のみ)	文字・文法事項・語彙の予習・復習 (120分)	13	II. 話してみよう! 第3課 アメリカンコーヒーありますか?	存在詞「へヨ体」 「ハムニダ体」	文字・文法事項・語彙の予習・復習 (120分)	14	II. 話してみよう! 第3課 アメリカンコーヒーありますか?	助詞 (～と)	文字・文法事項・語彙の予習・復習 (120分)	15	後半のまとめと理解度確認 テスト (期末評価)		理解度確認テストの準備 (120分)
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	ガイダンス I. ハングルの習おう! 第1課 母音字 1	授業の進め方、成績評価、学習方法 母音字 1	文字・語彙の復習 (60分)																																																																
2	I. ハングルの習おう! 第2課 子音字 1	平音 1 (初声) 平音 2 (終声)	文字・語彙の予習・復習 (120分)																																																																
3	I. ハングルの習おう! 第3課 母音字 2	母音字 2	文字・語彙の予習・復習 (120分)																																																																
4	I. ハングルの習おう! 第4課 子音字 2	平音 2 (初声) 激音 2 (初声)	文字・語彙の予習・復習 (120分)																																																																
5	I. ハングルの習おう! 第5課 パッチム	終声 (パッチム)	文字・語彙の予習・復習 (120分)																																																																
6	I. ハングルの習おう! 第6課 母音字 3	母音字 3	文字・語彙の予習・復習 (120分)																																																																
7	I. ハングルの習おう! 第7課 子音字 3	濃音 2 (初声) 濃音 2 (終声) 日本語のハングル表記	文字・語彙の予習・復習 (120分)																																																																
8	I. ハングルの習おう! 第8課 知っておこう	教室でよく使う表現 分かち書き 発音規則	表現・発音の予習・復習 (120分)																																																																
9	II. 話してみよう! 第1課 こんにちは	丁寧語尾～です、～ます (へヨ体)	文法事項・語彙の予習・復習 (120分)																																																																
10	II. 話してみよう! 第1課 こんにちは	助詞 (～は)	文字・文法事項・語彙の予習・復習 (120分)																																																																
11	II. 話してみよう! 第2課 これは何ですか?	指示詞 (この、その、あの)	文字・文法事項・語彙の予習・復習 (120分)																																																																
12	II. 話してみよう! 第2課 これは何ですか?	助詞 (～が) 助詞 (だけ、のみ)	文字・文法事項・語彙の予習・復習 (120分)																																																																
13	II. 話してみよう! 第3課 アメリカンコーヒーありますか?	存在詞「へヨ体」 「ハムニダ体」	文字・文法事項・語彙の予習・復習 (120分)																																																																
14	II. 話してみよう! 第3課 アメリカンコーヒーありますか?	助詞 (～と)	文字・文法事項・語彙の予習・復習 (120分)																																																																
15	後半のまとめと理解度確認 テスト (期末評価)		理解度確認テストの準備 (120分)																																																																
関連科目	「韓国語 II a」「韓国語 II b」など韓国語関連科目																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>チュクチュク チャラネ ぐんぐん伸びる韓国語 初級</td> <td>朴恩珠・森類臣・権世美</td> <td>白帝社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	チュクチュク チャラネ ぐんぐん伸びる韓国語 初級	朴恩珠・森類臣・権世美	白帝社	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	チュクチュク チャラネ ぐんぐん伸びる韓国語 初級	朴恩珠・森類臣・権世美	白帝社																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典 第2版</td> <td>油谷幸利ほか編</td> <td>小学館</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典 第2版	油谷幸利ほか編	小学館	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典 第2版	油谷幸利ほか編	小学館																																																																
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	課題の遂行 20% 小テスト 40% 期末の理解度確認テスト 40%																																																																		
学生へのメッセージ	特段の事情なく授業の3分の1以上を欠席した学生は、基本的に評価の対象としない。																																																																		

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	質問がある場合は、授業の前後の時間に受け付ける。

科目名	韓国語 I	科目名 (英文)	Korean I
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	沈 明姫
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LK01817e1		

授業概要・目的
この授業では、ハングル能力検定 5 級もしくは韓国語能力試験 (TOPIK) 1 級合格に対応できるための「基礎力」を養成することを目的とします (本授業「韓国語 I」で基礎力を養成し、「韓国語 II a」でハングル能力検定 5 級もしくは TOPIK1 級合格水準に達する実力をつけます)。教科書は『チュクチュク チャラネ ぐんぐん伸びる韓国語 初級』(朴恩珠・森類臣・権世美著、白帝社、2021 年)を使用します。教科書に沿って授業を進めていきます。語学としての韓国語の学習はもちろんですが、教科書の内容に関連する文化的な背景もできる限り紹介するようにします。

到達目標
ハングル能力検定 5 級もしくは韓国語能力試験 (TOPIK) 1 級合格に向けた基礎力を養成する。
①文法事項・単語力 (基本的な文法と表現、単語数約 250 語程度)
②読解力と作文能力
③リスニング力
④発話力 (決まり文句としてのあいさつやあいづち、簡単な質疑応答)

授業方法と留意点
1) 文法事項・語彙の復習の時間をとって着実に学習を重ねてください。
2) 進捗については、受講学生の理解度を鑑みながら多少調整する可能性があります。
3) 適宜プリントを配布します。
4) フィードバックは基本的に授業内に行います。

科目学習の効果 (資格)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス I. ハングルの習おう! 第 1 課 母音字 1	授業の進め方、成績評価、学習方法 母音字 1	文字・語彙の復習 (60 分)
2	I. ハングルの習おう! 第 2 課 子音字 1	平音 1 (初声) 平音 2 (終声)	文字・語彙の予習・復習 (120 分)
3	I. ハングルの習おう! 第 3 課 母音字 2	母音字 2	文字・語彙の予習・復習 (120 分)
4	I. ハングルの習おう! 第 4 課 子音字 2	平音 2 (初声) 激音 2 (初声)	文字・語彙の予習・復習 (120 分)
5	I. ハングルの習おう! 第 5 課 パッチム	終声 (パッチム)	文字・語彙の予習・復習 (120 分)
6	I. ハングルの習おう! 第 6 課 母音字 3	母音字 3	文字・語彙の予習・復習 (120 分)
7	I. ハングルの習おう! 第 7 課 子音字 3	濃音 (初声) 濃音 (終声) 日本語のハングル表記	文字・語彙の予習・復習 (120 分)
8	中間の理解度確認テスト 第 8 課 知っておこう	「I. ハングルの習おう! 第 1 課~7 課」の内容 教室でよく使う表現 分かち書き 発音規則	理解度確認テストの準備 (120 分)
9	II 話してみよう! 第 1 課 こんにちは	丁寧語尾~です、ます (へヨ体)	文法事項・語彙の予習・復習 (120 分)
10	II 話してみよう! 第 1 課 こんにちは	助詞 (〜は)	文字・文法事項・語彙の予習・復習 (120 分)
11	II 話してみよう! 第 2 課 これは何ですか。	指示詞 (この、その、あの)	文法事項・語彙の予習・復習 (120 分)
12	II 話してみよう! 第 2 課 これは何ですか。	助詞 (〜が) 助詞 (だけ、のみ)	文法事項・語彙の予習・復習 (120 分)
13	II 話してみよう! 第 3 課 アメリカンコーヒー ありますか。	存在詞 ~です、ます (ハムニダ体)	文法事項・語彙の予習・復習 (120 分)
14	II 話してみよう! 第 3 課 アメリカンコーヒー ありますか。	リウル脱落 助詞 (〜と)	文法事項・語彙の予習・復習 (120 分)
15	期末のまとめ (総まとめと理解度確認)	既習文法事項の総確認	文法事項・語彙の復習と理解度確認の準備 (120 分)

関連科目 「韓国語 II a」「韓国語 II b」など韓国語関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	チュクチュク チャラネ ぐんぐん伸びる韓国語 初級	朴恩珠・森類臣・権世美	白帝社
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典 第 2 版	油谷幸利ほか編	小学館
2			

	3		
評価方法 (基準)	小テスト 25% 中間の理解度確認テスト 25% 期末の理解度確認テスト 50%		
学生への メッセージ	1. 特段の事情なく授業を3回以上を欠席した学生は、基本的に評価の対象としない。 2. 当然のことですが、基礎が重要です。文字・語彙・文法事項を確実に予習・復習しながら授業を受けるようにしてください。		
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室		
備考	質問は授業の前後の時間に受け付ける。		

科目名	日本語表現 I	科目名 (英文)	Japanese Expression I
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	人形寺 英利子
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LJA1822a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な力を養成することに重点を置く。 事実を客観的に説明する方法、引用の方法、意見を論理的に記述する方法、考えをまとめる方法などを学び、わかりやすい文章の書き方を実践的にトレーニングする。
到達目標	他者に伝えることを意識して、1000 字程度の論理的な文章を書くことができる。
授業方法と留意点	文章表現の基本を身につけた上で、文章作成を行う。 数回の課題を提出し、最後にはレポート課題を提出する。 ほぼ毎回、語彙力・表現力を養成する小テストを行う。 提出課題については、授業中にフィードバックをします。
科目学習の効果 (資格)	文章作成の能力が身につく。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	導入 文章の書き方 1	授業の目的、進め方の説明 レポート・論文の基本事項を学ぶ	復習：プリント
2	文章の書き方 2	わかりやすい文章の書き方を学ぶ	復習：教科書の「はじめに」「第 1 回」「第 2 回」、 プリント
3	メールの書き方	メールの書き方を学ぶ	配布資料 復習：メールを送る
4	事実と意見	事実と意見の書き分け、論理的に説明する 方法を学ぶ 課題 1 にむけて説明文を書く練習をする	復習：教科書の「第 3 回」、プリント
5	【課題 1】説明文	ある事物について、論理的に説明する文章 を書く	復習：教科書「はじめに」「第 1 回」「第 2 回」「第 3 回」、プリント
6	構成 要約	レポートなどの文章構成を学ぶ 要旨の要約の作成方法を学ぶ	復習：教科書「第 5 回」「第 6 回」、プリント
7	フィードバック 構成や要約の復習	課題 1 のフィードバック	課題 1 を見直す 教科書「第 5 回」「第 6 回」
8	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ	復習：教科書「第 7 回」
9	図表を引用する	図表を引用する方法を学ぶ	復習：教科書「第 8 回」、プリント
10	意見を述べる 構成・要約・引用の復習	考察に基づいて意見を述べる方法を学 ぶ 課題 2 に向けてこれまでの復習	復習：教科書「第 5 回」～「第 9 回」、プリント
11	【課題 2】論説文	資料を引用して意見を述べる文章を書 く	復習：教科書「はじめに」～「第 10 回」
12	レポートの書き方 1・2 資料収集の方法 フィードバック	レポートの体裁について学ぶ レポート課題の説明 文献の探索について学ぶ 課題 2 のフィードバック	復習：教科書「第 11 回」～「第 13 回」
13	レポートの作成 フィードバック	レポートの作成 分からない点を質問する	復習：教科書、課題 2 を踏まえて、最終レポートの 作成に生かす
14	【課題 3】レポート 提出	レポートを提出する	予習復習：これまでの小テストを見直し、復習テス トに備える
15	レポートの講評 小テストの復習テスト	レポートについて講評する 小テストの復習テスト	これまでの復習 小テストの復習

関連科目 セミ、卒業研究など

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセ ンター編	
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準) 課題 3 点 (70%)、授業に取り組む姿勢・小テストの復習テスト (30%) により評価する。
課題 3 点を一度でも提出しない場合は不合格となる。
出席・宿題もチェックして加点。
コピーアンドペースト (いわゆるコピペ) は禁止。

学生へのメッセージ 日常会話で使っている日本語 (話し言葉) と、レポートなどで書く日本語 (書き言葉) を使い分けましょう。
これからの大学生活、社会生活のためにも、自分が普段何気なく使っている言葉や自分の考えていることに向き合ってみてください。
宿題が多くて面倒かもしれませんが、取り組んだだけで力が付きます。

担当者の研究室等 7 号館 2 階 非常勤講師室

備考 総学習時間の目安は 15 時間。

科目名	日本語表現 I	科目名 (英文)	Japanese Expression I
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	澤野 加奈
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LJA1822a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する力」を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	適切な方法を用いて、1000 字程度の論理的な文章を書くことができる。
授業方法と留意点	講義にもとづいて、練習問題や課題に取り組む。 提出課題については、個別にフィードバックをします。
科目学習の効果 (資格)	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	文章の書き方 2	わかりやすい文章の書き方を学ぶ	1 時間の事前事後学習を目安とする
3	事実と意見	事実と意見の書き分け、論理的に説明する方法を学ぶ	1 時間の事前学習を目安とする
4	【課題 1】 説明文	ある事物について、論理的に説明する文章を書く	1 時間の事前学習を目安とする
5	構成・要約	レポートなどの文章構成・要約を学ぶ	1 時間の事前学習を目安とする
6	フィードバック	課題 1 のフィードバック	課題 1 を見直す 1 時間の事前学習を目安とする
7	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ	1 時間の事前学習を目安とする
8	文章の引用を練習する	文章の引用を練習する	1 時間の事前学習を目安とする
9	図表を引用する	図表を引用する方法を学ぶ	1 時間の事前学習を目安とする
10	引用の復習 意見を述べる	考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ	1 時間の事前学習を目安とする
11	【課題 2】 論説文	資料を引用して意見を述べる文章を書く	これまでの復習 1 時間の事前学習を目安とする
12	レポートの書き方 1・2	レポートの体裁について学ぶ レポート課題の説明	1 時間の事前学習を目安とする
13	フィードバック	課題 2 のフィードバック	課題 2 を見直す 1 時間の事前学習を目安とする
14	【 レポート 】	レポートを提出する	レポートを作成する 1 時間の事前学習を目安とする
15	レポートの講評 小テストの復習	レポートについて講評する 小テストの復習テスト	これまでの復習 1 時間の事前学習を目安とする

関連科目	キャリアデザイン
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学 日本語文章表現の会	和泉書院
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	課題 2 回 (20%×2)、レポート (30%)、授業に取り組む姿勢・小テスト (30%) により総合的に評価する。 課題、レポートを一度でも提出しない場合は不合格となる。
学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。これからの大学生活、社会生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。
担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室
備考	事前・事後学習の総時間の目安は、1 5 時間。 メール等での教員との連絡方法については授業で指示する。

科目名	日本語表現 I	科目名 (英文)	Japanese Expression I
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	八島 由香
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LJA1822a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くかなど、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	適切な方法を用いて、1000 字程度の論理的な文章を書くことができる。
授業方法と留意点	授業にもとづいて、練習問題や課題に取り組む。教科書に沿って授業を進めるため、教科書は毎回持参すること。また、事前・事後学習課題を確認し、毎回しっかりと取り組むこと。 第2～11回の授業内で、語彙力などの基本的な学力を養成する小テストを行う。テストに関するプリントは、初回に配布する。
科目学習の効果 (資格)	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 文章の書き方 1	本授業の目的、進め方の説明 レポート・論文の基本事項を学ぶ	事前課題：シラバスを確認し、教科書の目次に目を通す。 事後課題：教科書「はじめに 文章で伝える」、「第1回 文章の書き方 1」を読み、授業内容の復習をする。
2	文章の書き方 2	わかりやすい文章の書き方を学ぶ ※小テスト①の実施	事前課題：教科書「第2回 文章の書き方 2」を読み、練習問題を解く。小テストに向けた学習をする。 事後課題：授業内容の復習をする。
3	事実と意見	事実の意見のかき分けを学ぶ ※小テスト②の実施	事前課題：教科書「第3回 事実と意見」を読み、練習問題 1～3 を解く。小テストに向けた学習をする。 事後課題：授業内容・返却された小テストの復習をする。
4	構成	レポートなどの文章構成を学ぶ 【課題①】の概要を知り、構成を考える ※小テスト③の実施	事前課題：教科書「第5回 構成」を読み、練習問題 1～3 を解く。小テストに向けた学習をする。 事後課題：授業内容・返却された小テストの復習をする。
5	説明文を書く【課題①】	必要なことをわかりやすく説明する文章を書く (第6回までに提出) ※小テスト④の実施	事前課題：本授業、第1～5回の内容を復習する。小テストに向けた学習をする。 事後課題：授業内容・返却された小テストの復習をする。課題に取り組む。
6	要約	文章の要旨を要約する方法を学ぶ 【課題①】を提出する ※小テスト⑤の実施	事前課題：教科書「第6回 要約」を読み、練習問題 1～6 を解く。小テストに向けた学習をする。 事後課題：授業内容・返却された小テストの復習をする。
7	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ ※小テスト⑥の実施	事前課題：教科書「第7回 文章を引用する」を読み、練習問題 1～4 を解く。小テストに向けた学習をする。 事後課題：授業内容・返却された小テストの復習をする。
8	【課題①】フィードバック	【課題①】の見直しをする ※小テスト⑦の実施	事前課題：本授業、第5～7回の内容を復習する。小テストに向けた学習をする。 事後課題：授業内容・返却された課題、小テストの復習をする。
9	図表を引用する	図表を引用する方法を学ぶ ※小テスト⑧の実施	事前課題：教科書「第8回 図表を引用する」を読み、練習問題 1・2 を解く。小テストに向けた学習をする。 事後課題：授業内容・返却された小テストの復習をする。
10	意見を述べる 論説文を書く【課題②】	考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ 資料を引用して意見を述べる文章を書く (第12回までに提出) ※小テスト⑨の実施	事前課題：教科書「第9回 意見を述べる」を読み、練習問題を解く。教科書「第10回 課題②論説文」を読む。小テストに向けた学習をする。 事後課題：授業内容・返却された小テストの復習をする。課題に取り組む。
11	論説文を書く【課題②】	【課題②】に取り組む (第12回までに提出) ※小テスト⑩の実施	事前課題：小テストに向けた学習をする。 事後課題：授業内容・返却された小テストの復習をする。課題に取り組む。
12	レポートの書き方 1・2	レポートの体裁について学ぶ レポート作成の注意点を教える 【課題③】の概要を知り、構成を考える 【課題②】の提出をする	事前課題：【課題②】に取り組む、完成させる。教科書「第11回 レポートの書き方 1」、「第12回 レポートの書き方 2」を読む。 事後課題：授業内容・返却された小テストの復習をする。課題に取り組む。
13	レポートを書く【課題③】	【課題③】に取り組む (第14回までに提出)	事前課題：教科書「第11回 レポートの書き方 1」、「第12回 レポートの書き方 2」を復習しておく。 事後課題：授業内容の復習をする。課題に取り組む。
14	【課題②】フィードバック	【課題②】の見直しをする 【課題③】の提出をする	事前課題：【課題③】に取り組む。本授業、第8～12回の内容を復習する。 事後課題：授業内容・返却された課題の復習をする。
15	【課題③】フィードバック	【課題③】の見直しをする	事前課題：本授業、第11・12回の内容を復習する。

				事後課題：授業内容・返却された課題の復習をする。
関連科目	すべての授業の日本語による課題作成			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	(摂南大学教育イノベーションセンター編)	
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	課題2回(20%×2)、レポート(30%)、授業に取り組む姿勢・小テスト(30%)により評価する。 課題、レポートを一度でも提出しない場合は、不合格となる。			
学生への メッセージ	事前・事後学習や課題が多く、そのうえ小テストも実施される、非常に大変な授業です。けれども、しっかりと取り組めば、読み手を意識したわかりやすい文章を書くスキルが身につくはず。積極的に授業に臨んでください。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	事前・事後学習課題には、しっかりと取り組むこと。なお、事前・事後学習課題の総時間の目安は、15時間である。 提出された課題へのフィードバックは、授業内で行う。また、授業に関する情報や配布資料は、Moodleに掲載する。初回の授業(ガイダンス)で、Moodleの授業ページへの登録方法などの説明をする。			

科目名	日本語表現 I	科目名 (英文)	Japanese Expression I
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1 年	クラス	再
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	細川 知佐子
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LJA1822a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	適切な方法を用いて、1000 字程度の論理的な文章を書くことができる。
授業方法と留意点	講義にもとづいて、練習問題や課題に取り組む。 大学生活、社会人生活において求められる文章表現の基本を確認し、身につけた上で、文章作成を行う。 説明文・論説文・レポートの3つの課題を提出する。 不定期に日本語の基礎的語彙力などの小テストを行う。 フィードバックは授業中に行う。
科目学習の効果 (資格)	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	導入 教科書第1回「文章の書き方1」	授業の目的、進め方の説明 レポート・論文の基本事項を学ぶ	—————
2	教科書第2回「文章の書き方2」	わかりやすい文章の書き方を学ぶ	前回の復習
3	教科書第3回「事実と意見」	事実と意見の書き分け、論理的に説明する方法を学ぶ	前回の復習
4	教科書第4回【課題1】説明文	ある事物について、論理的に説明する文章を書く	課題を書く
5	教科書第5「構成」	レポートなどの文章構成を学ぶ	これまでの復習
6	教科書第6回「要約」	要旨の要約の作成方法を学ぶ	これまでの復習
7	課題1のフィードバック これまでの復習科書	課題1の反省 ここまでの復習問題を解く	課題1を見直す これまでの復習
8	教科書第7回「文章を引用する」	文章を引用する方法を学ぶ	前回の復習
9	教科書第8回「図表を引用する」	図表を引用する方法を学ぶ	前回の復習
10	引用の復習 教科書第9回「意見の述べ方」	文章と図表資料の引用の復習 考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ	引用の復習
11	教科書第10回【課題2】論説文	資料を引用して意見を述べる文章を書く	課題を書く
12	教科書第11回 「レポートの書き方1」 レポート課題の説明	レポートの体裁について学ぶ レポート課題の告知と説明	レポートを作成の準備をする
13	教科書第12回 「レポートの書き方2」 レポートの作成準備	レポート作成の注意点を学ぶ レポートの作成準備	レポートを作成する
14	課題2のフィードバック	課題2の反省	課題2を見直す レポートを作成する
15	レポート提出 小テストの復習テスト	レポートを提出する 小テストの復習テスト	レポート提出 小テストの復習

関連科目	すべての授業の日本語による課題作成
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学日本語教育イノベーションセンター編	
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	課題2回 (20%×2)・レポート (30%)、授業に取り組む姿勢・小テスト・復習テスト (30%) により評価する。 課題、レポートがリ評価の場合、再提出となる。 課題とレポートの提出と再提出は、単位取得の必須条件。
-----------	---

学生への	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。これからの大学生活、社会生活のためにも、真面目に
------	---

メッセージ	日本語と向き合ってください。
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	総学習時間の目安は60時間

科目名	日本語表現Ⅱ	科目名 (英文)	Japanese Expression II
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	人形寺 英利子
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LJA1823a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生生活、就職活動、社会人生活に必要な表現力を身に付ける。考えや経験のまとめ方、他人に読んでもらう文章の書き方、他人に納得してもらう話し方などについて学び、実践する。
到達目標	適切な表現を用いて、論理的な文章を書くことができる。 グループで話し合い、発表した内容を整理して、論理的に表現することができる。
授業方法と留意点	文章表現の基本を身につけた上で、ディスカッションやプレゼンテーション、文章作成を行う。グループワークを通して、論理的に話し合う力を養う。 後半はグループワークが主となるため、出席し、能動的に参加することが必要である。 提出課題については、授業中にフィードバックをします。
科目学習の効果 (資格)	大学生生活、社会人生活に必要な書く・話す能力が身につく。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	導入 メールの書き方 (前期に実施しなかった場合)	授業の目的、進め方の説明 メールの書式・用語・マナーを学ぶ	教員にメールを送る レポートの復習プリント
2	レポートの書き方	レポートの構成、資料の引用と考察、意見の述べ方を確認する	レポートの書き方の復習
3	【課題1】レポート	資料を引用して、意見を述べる文章を書く	これまでの復習
4	敬意を表す言葉	敬語の種類と方法を学ぶ	敬語の復習プリント
5	ディスカッション1 (準備) 課題1のフィードバック	・ディスカッションの資料配付・事前準備 ・課題1の復習	テーマの下調べ 課題1を見直す
6	ディスカッション2 (説明)	・グループ分けとディスカッションの説明・資料配付 ・事前準備・練習	テーマの下調べ
7	ディスカッション3 (実践)	・グループでディスカッションを行う ・ディスカッションの報告文を書く	足りない資料を探す
8	レジュメの書き方	レジュメ (配付資料) の書き方を学ぶ・練習	これまでの復習
9	【課題2】レジュメ作成	ディスカッションの経過をレジュメにまとめる	資料作成の準備
10	プレゼンテーション1 (説明・準備) 課題2のフィードバック	・プレゼンテーションの説明 ・課題②のフィードバックを元にグループレジュメ作成	発表の準備
11	プレゼンテーション2 (準備)	プレゼンテーションの準備 ・読み原稿を作成 ・リハーサルを行う	発表の準備
12	プレゼンテーション3 (本番1)	資料を用いて、プレゼンテーションを行う・聴く	発表の見直し・質疑応答の確かめ・自己評価表提出
13	プレゼンテーション4 (本番2)	資料を用いて、プレゼンテーションを行う・聴く	発表の見直し・質疑応答の確かめ・自己評価表・レポート (報告文) の準備
14	【課題3】報告文	プレゼンテーションの内容をレポート (報告文) にまとめる	レポートの復習
15	課題3の総評 小テストの復習テスト	課題3のフィードバック 小テストの復習テスト	小テストの復習

関連科目	ゼミ、卒業研究など
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編	
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	課題3回 (70%)、授業に取り組む姿勢・小テスト (30%) により評価する。 課題を一度でも提出しない場合は不合格とする。 グループワークを全て欠席した場合は単位の認定ができない (事情により対応する)。 コピーアンドペースト (いわゆるコピペ) は禁止。
-----------	---

学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語 (話し言葉) と、レポートなどで書く日本語 (書き言葉) を区別する必要があります。また、人前で話す日本語と日常の話し言葉も異なります。これからの大学生生活、就職活動、社会人生活のためにも、自分が何気なく使っている言葉に向き合ってください。
-----------	--

担当者の研究室等備考	7号館2階 非常勤講師室
------------	--------------

科目名	日本語表現Ⅱ	科目名 (英文)	Japanese Expression II
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	澤野 加奈
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LJA1823a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生活、就職活動、社会人生活に必要な文章力を身に付ける。すなわち、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切か、などについて実践的に取り組む。
到達目標	適切な方法を用いて、論理的な文章を書くことができる。 グループで話し合い、まとめた内容を整理して、論理的に表現することができる。
授業方法と留意点	講義にもとづいて、グループワーク、プレゼンテーションなどの課題に取り組む。 フィードバックは、授業内で行う。
科目学習の効果 (資格)	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	レポートの書き方 (2)	資料引用の復習 (文章の引用) 考察・意見の述べ方を確認する	1時間の事前事後学習を目安とする。
3	レポートの書き方 (3)	資料引用の復習 (図表の引用)	1時間の事前事後学習を目安とする。
4	【課題1】レポート	資料を引用して意見を述べる文章を書く	1時間の事前事後学習を目安とする。
5	課題1のフィードバック ディスカッションの準備	課題1のフィードバック ディスカッション資料の要約や問題点の整理を行う。	ディスカッションの準備。 1時間の事前事後学習を目安とする。
6	ディスカッション (1)	グループ分けをしてディスカッションを行う	ディスカッションの準備。 1時間の事前事後学習を目安とする。
7	ディスカッション (2)	グループでディスカッションを行う	ディスカッションの準備。 1時間の事前事後学習を目安とする。
8	課題2 中間報告文	ディスカッションした内容を報告文にまとめる。	報告文の準備。 1時間の事前事後学習を目安とする。
9	フィードバック レジュメの作成	報告文のフィードバック レジュメの作成を行なう	1時間の事前事後学習を目安とする。
10	リハーサル	グループごとにリハーサルを行う	1時間の事前事後学習を目安とする。
11	プレゼンテーション (1)	グループ単位でプレゼンテーションを行う	1時間の事前事後学習を目安とする。
12	プレゼンテーション (2)	グループ単位でプレゼンテーションを行う	1時間の事前事後学習を目安とする。
13	課題3 報告文	発表内容を報告文にまとめる	1時間の事前事後学習を目安とする。
14	課題3のフィードバック メールの書き方	課題3のフィードバック メールの書き方の練習	1時間の事前事後学習を目安とする。
15	【復習テスト】	小テストの復習テスト	1時間の事前事後学習を目安とする。小テストの復習

関連科目 すべての授業の日本語による課題作成

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	大学生の日本語文章表現	摂南大学 日本語文章表現の会	和泉書院
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準) 課題3回 (20%、20%、30%)、授業に取り組む姿勢・小テスト (30%) により総合的に評価する。課題を一度でも提出しない場合は不合格となる。

学生へのメッセージ 日常会話で使っている日本語 (話し言葉) と、レポートなどで書く日本語 (書き言葉) は区別しなくてはなりません。また、人前で話す日本語と日常の話し言葉も異なります。これからの大学生活、就職活動、社会人生活のためにも、真面目に日本語 (話し言葉、書き言葉) と向き合ってください。

担当者の研究室等 7号館2階 非常勤講師室

備考 事前・事後学習は、配布プリントの予習・復習を中心に、毎回1時間程度はかけること。
教員との連絡方法 (メール等) については授業中に指示する。

科目名	日本語表現Ⅱ	科目名 (英文)	Japanese Expression II
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	八島 由香
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LJA1823a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生活、就職活動、社会生活に必要な表現力を身に付ける。すなわち、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切かなどについて、実践的に取り組む。
到達目標	適切な方法を用いて、論理的な文章を書くことができる。 グループで話し合い発表した内容を整理して、論理的に表現することができる。
授業方法と留意点	授業にもとづいて、グループワーク、プレゼンテーション等の課題に取り組む。はじめのうちは教科書に沿って授業を進めるため、教科書を持参すること。また、事前・事後学習課題を確認し、毎回しっかりと取り組むこと。 第2～10回の授業内で、語彙力などの基本的な学力を養成する小テストを行う。テストに関するプリントは、初回に配布する。
科目学習の効果 (資格)	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 文章の書き方	本授業の目的、進め方の説明 わかりやすい文章の書き方を確認する	事前課題：シラバスを確認し、教科書の第1～4回に目を通す。 事後課題：授業内容の復習をする。
2	文章の書き方 論説文の書き方	わかりやすい文章の書き方を確認する 論説文を書くための構成や引用などを確認する 【課題①】の概要を知り、構成を考える。 ※小テスト①の実施	事前課題：教科書の第5～10回に目を通す。小テストに向けた学習をする。 事後課題：授業内容の復習をする。
3	論説文を書く【課題①】	資料を引用して意見を述べる文章を書く（この回で提出） ※小テスト②の実施	事前課題：本授業、第1・2回の内容を復習する。 小テストに向けた学習をする。 事後課題：授業内容・返却された小テストの復習をする。課題に取り組む。
4	ディスカッションとは ディスカッション 1-1	ディスカッションの方法を学ぶ 本授業におけるディスカッションのやり方の説明 ※小テスト③の実施	事前課題：小テストに向けた学習をする。 事後課題：授業内容・返却された小テストの復習をする。
5	ディスカッション 1-2 【課題①】フィードバック	グループディスカッションを行う 【課題①】の見直しをする ※小テスト④の実施	事前課題：ディスカッションの準備をする。小テストに向けた学習をする。 事後課題：ディスカッションの内容をまとめておく。返却された課題・小テストの復習をする。
6	ディスカッション 2-1	グループディスカッションを行う 【課題②】に関する説明 ※小テスト⑤の実施	事前課題：ディスカッションの準備をする。小テストに向けた学習をする。 事後課題：ディスカッションの内容をまとめておく。返却された小テストの復習をする。
7	ディスカッション 2-2	グループディスカッションを行う ※小テスト⑥の実施	事前課題：ディスカッションの準備をする。小テストに向けた学習をする。 事後課題：ディスカッションの内容をまとめておく。返却された小テストの復習をする。
8	ディスカッションの報告【課題②】	グループディスカッションの報告をレポートにする（この回で提出） ※小テスト⑦の実施	事前課題：自分のグループのディスカッションの内容を振り返っておく。 事後課題：返却された小テストの復習をする。
9	プレゼンテーションとは	プレゼンテーションの方法を学ぶ 本授業におけるプレゼンテーション、資料作成の方法 【課題③】に関する説明 ※小テスト⑧の実施	事前課題：小テストに向けた学習をする。 事後課題：授業内容・返却された小テストの復習をする。
10	プレゼンテーションの資料作成と準備 1 【課題②】フィードバック	プレゼンテーション資料の作成をする 【課題②】の見直しをする ※小テスト⑨の実施	事前課題：プレゼンテーション資料の作成方法を確認する。小テストに向けた学習をする。 事後課題：プレゼンテーション資料を完成させる。返却された課題・小テストの復習をする。
11	プレゼンテーション資料作成と準備 2	プレゼンテーション資料の作成と準備をする	事前課題：発表グループは、プレゼンテーションの準備をする。 事後課題：発表グループは、プレゼンテーションの内容をまとめておく。返却された小テストの復習をする。
12	プレゼンテーション 1	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う	事前課題：発表グループは、プレゼンテーションの準備をする。 事後課題：発表グループは、プレゼンテーションの内容をまとめておく。
13	プレゼンテーション 2	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う	事前課題：発表グループは、プレゼンテーションの準備をする。 事後課題：発表グループは、プレゼンテーションの内容をまとめておく。
14	プレゼンテーションの報告【課題③】	プレゼンテーションの内容を文章化する（この回で提出）	事前課題：自分のグループのプレゼンテーションの内容を見返しておく。 事後課題：今までの授業内容を振り返る。
15	【課題③】フィードバック	【課題③】の見直しをする 授業を振り返る	事前課題：今までの授業内容を振り返る。 事後課題：授業内容・返却された課題の復習をする。

関連科目	すべての授業の日本語による課題作成
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	(摂南大学教育イノベーションセンター編)	
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	課題3回(20%、20%、30%)、授業に取り組む姿勢・小テスト(30%)により評価する。([課題③] 30%のうちの10%は、プレゼンテーションの資料などにあてる。) 課題を一度でも提出しない場合は不合格となる。			
学生への メッセージ	事前・事後学習や課題が多く、そのうえ小テストも実施される、非常に大変な授業です。けれども、しっかりと取り組めば、ディスカッションやプレゼンテーションのスキルが身につくはず。積極的に授業に臨んでください。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	事前・事後学習課題には、しっかりと取り組むこと。なお、事前・事後学習課題の総時間の目安は、15時間である。 提出された課題へのフィードバックは、授業内で行う。また、授業に関する情報や配布資料は、Moodleに掲載する。初回の授業(ガイダンス)で、Moodleの授業ページへの登録方法などの説明をする。			

科目名	日本語表現Ⅱ	科目名 (英文)	Japanese Expression II
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	再
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	細川 知佐子
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎		
科目ナンバリング	LJA1823a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生活、就職活動、社会人生活に必要な表現力を身に付ける。すなわち、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切か、などについて実践的に取り組む。
到達目標	適切な方法を用いて、論理的な文章を書くことができる。 グループで話し合い発表した内容を整理して、論理的に表現することができる。
授業方法と留意点	文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、グループディスカッションやプレゼンテーション、文章作成を行う。3回の課題を提出する。D評価は再提出。3回の課題提出、あるいは再提出は単位取得の必須条件。 語彙力・表現力を養成する小テストを行う。フィードバックは授業中に行う。
科目学習の効果 (資格)	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 導入	授業の目的、進め方の説明	———
2	レポートの書き方1	レポートの構成、資料の引用と考察、意見の述べ方を確認する 小テスト1	前回の復習
3	レポートの書き方2	レポートの構成、資料の引用と考察、意見の述べ方を確認する 小テスト2	前回の復習
4	【課題1】レポート 資料を引用して、意見を述べる	資料を引用して、意見を述べる文章を書く	これまでの復習
5	敬意を表す言葉	敬語の種類と用法を学ぶ	敬語の復習
6	課題1フィードバック 8回目以後の授業の説明 ディスカッション準備	課題1のフィードバック ディスカッションの前に個人の意見をまとめる 小テスト3	ディスカッションの準備テーマの下調べ 課題1を見直す
7	ディスカッション1	グループ分けとディスカッションを行う 小テスト4	ディスカッションの復習と予習
8	ディスカッション2	ディスカッションを行う 小テスト5	ディスカッションの復習と予習
9	課題2ディスカッションの 報告文1	ディスカッションの報告文を作成する 小テスト6	報告文の準備
10	プレゼンテーション準備	プレゼンテーションの資料作成 小テスト7	プレゼンテーション資料の準備
11	プレゼンテーション1	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う	プレゼンテーションの準備
12	プレゼンテーション2	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う	プレゼンテーションの準備
13	【課題3】報告文2	グループワークの報告文を作成する	グループワークの復習 グループワーク報告文の準備
14	メールの書き方	メールの書き方やマナーを学ぶ	メールの書き方の復習
15	小テストの復習テスト	小テストの復習テスト	小テストの復習

関連科目 すべての授業の日本語による課題作成

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編	
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準) 課題 (20%、20%、30%)、授業への取り組み姿勢・小テスト・復習テスト (30%) により評価する。
課題提出と課題D評価の再提出は単位取得の必須条件となる。

学生へのメッセージ 日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。また、人前で話す日本語と日常の話し言葉も異なります。これからの大学生活、就職活動、社会人生活のために、真面目に日本語と向き合ってください。

担当者の研究室等 7号館2階 非常勤講師室

備考 事前・事後学習は、配布プリントの予習・復習を中心に、毎回1時間程度はかけること。

科目名	情報リテラシー I	科目名 (英文)	Information Literacy I
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1 年	クラス	2
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	星山 幸子
ディプロマポリシー (DP)	DP8◎		
科目ナンバリング	LMA1825a1		

授業概要・目的	大学生活および卒業後の生活において要求される情報やデータを取り扱うための基礎的なリテラシー能力養成を目的とする。
到達目標	情報システムに関心を寄せ、その可能性を論じる態度を持つこと。アプリケーションの機能の最低限の使い方と、それらの連携作業を実行できるようになること。データサイエンスに関するエントリーレベルの知識を有すること。
授業方法と留意点	大学の ICT 環境を利用して、アプリケーションツールの使い方を実践的課題を通して演習形式で学ぶ。また、データサイエンスの基礎レベルを e-learning による自主学習とミニ講義、演習形式で学ぶ。e-learning は、空き時間を見つけて、なるべく毎日少しづつ均等に学修するように心がけてください。
科目学習の効果 (資格)	今後の諸活動において情報リテラシー能力を活用できること。マイクロソフトオフィススペシャリスト(MOS)等の資格取得出題範囲の約 40% を学ぶ。データサイエンスのエントリーレベルの知識が身につく。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 摂南大学の ICT 環境 コンピュータの基礎 関連資格の紹介 データサイエンス	出欠管理システム メールシステム ポータルサイト Moodle への登録 OneDrive の使い方 用語解説 IT パスポートの紹介 メールへのファイル添付 e-learning の方法	事前：シラバスの確認 (30 分) 事後：大学の ICT 環境の確認 (60 分)
2	データサイエンスとは 【Word】 Word の基礎スキル	1 データサイエンスとは (イントロ) 文書の新規作成と保存 表示モード・倍率の変更 Window の分割と利用 文字列の削除、コピー、貼付け 文字列の書式設定 段落の書式設定 文書の書式 (テーマ等) 文字列の検索、編集記号の表示、隠し文字	事前：授業内容の確認 (10 分) 事後：演習課題の完成・提出 (20 分) E-第 1 回 (60 分) 視聴・テスト
3	社会で起きている変化 【Word】 文書の管理 文字、段落の挿入と書式設定	2 社会で起きている変化 (イントロ) 文書のページ設定を行う スタイルセットを適用する ヘッダーやフッターを挿入する、変更する 印刷の設定を変更する 記号や特殊文字を挿入する 文字列を検索する、置換する 文字の効果を適用する 行間、段落間隔、インデントを設定する 書式のコピー/貼付け	事前：授業内容の確認 (10 分) 事後：演習課題の完成・提出 (20 分) E-第 2 回 (60 分) 視聴・テスト
4	社会で活用されてるデータ 【Word】 セクションの挿入と設定 表やリストの作成と設定	3 社会で活用されているデータ (イントロ) ページ区切りを挿入する 段組みを設定する セクション区切りを設定する 行や列を指定して表を作成する 表のデータを並べ替える セルの余白と間隔を設定する セルを結合する、分割する 列の幅を設定する 箇条書きや段落番号を設定する リストのレベルを変更する 開始する番号の値を設定する	事前：授業内容の確認 (10 分) 事後：演習課題の完成・提出 (20 分) E-第 3 回 (60 分) 視聴・テスト
5	データ・AI の活用領域 【Word】 グラフィック要素の挿入と書式	4 データ・AI の活用領域 (イントロ) 図形を挿入する 図を挿入する テキストボックスを挿入する SmartArt グラフィックを挿入する 3D モデルを挿入する スクリーンショットや画面の領域を挿入する テキストボックスにテキストを追加・変更する 図形にテキストを追加・変更する オブジェクトの周囲の文字列を折り返す オブジェクトを配置する	事前：授業内容の確認 (10 分) 事後：演習課題の完成・提出 (20 分) E-第 4 回 (60 分) 視聴・テスト
6	【Word】 テスト課題演習	Word 演習テスト	事前：Word の復習 事後：Word の振り返り (30 分)
7	【PowerPoint】 スライドの作成	スライドの作成 テキスト 図形作成 グラフィック要素の挿入と書式設定	事前：PowerPoint の機能を調べる (30 分) 事後：事後課題の完成・提出 (60 分)

8	【PowerPoint】 グループ内での発表	アニメーションの設定 スライドの切り替え 発表者ツールの設定 相互発表 ループリック評価	事前：発表準備（60分） 事後：PowerPoint 機能の振り返り（30分）
9	データ・AI 利活用のための 技術 【Excel】 Excel の基礎スキル	5 データ・AI 利活用のための技術（イントロ） ブックの作成とテーマの適用 表示倍率の設定 データの移動、コピー、検索、置換 列や行の挿入、削除、コピー、表示設定 ワークシートの編集（追加、削除、移動、コピー、名称、見出し色） ブック内のデータを検索する ページ設定を変更する 行の高さや列の幅を調整する	事前：授業内容の確認（10分） 事後：演習課題の完成・提出（20分） E-第5回（60分）視聴・テスト
10	【Excel】 ワークシートやブックの管理 シート上のデータを操作する	ブックの表示を変更する ワークシートの行や列を固定する 印刷設定を行う 印刷範囲を設定する オートフィル機能でセルにデータを入力する 形式を選択してデータを貼り付ける 複数の列や行を挿入する、削除する セルを挿入する、削除する	事前：授業テーマの予習（40分） 事後：演習課題の完成・提出（50分）
11	【Excel】 セルやセル範囲の表示と操作 データを視覚的にまとめる	セルの配置、文字の方向、インデントの変更 セル内のテキストを折り返して表示する セルを結合する、セルの結合を解除する 数値の書式を適用する 書式のコピー/貼り付け スパークラインを挿入する 組み込みの条件付き書式を適用する 条件付き書式を削除する	事前：授業テーマの予習（40分） 事後：演習課題の完成・提出（50分）
12	【Excel】 数式や関数を使用した演算の実行	セルの相対参照、絶対参照、複合参照 SUM、AVERAGE、MAX、MIN 関数の利用 COUNT、COUNTA、COUNTBLANK 関数の利用 IF 関数を使用して条件付きの計算を実行する RIGHT、LEFT、MID 関数の利用 UPPER、LOWER 関数の利用 CONCAT 関数の利用	事前：授業テーマの予習（40分） 事後：演習課題の完成・提出（50分）
13	【Excel】 グラフの管理	グラフの種類と用途 グラフを作成する ソースデータの行と列を切り替える グラフにデータ範囲（系列）を追加する グラフの要素を追加する、変更する	事前：授業テーマの予習（40分） 事後：演習課題の完成・提出（50分）
14	【Excel】 テスト課題演習	Excel 演習テスト	事前：Excel の復習（60分）
15	データサイエンス・AI 演習	9 データを読む（1） データの代表値 データのばらつき 10 データを読む（2） 相関と因果 母集団と抽出 統計情報の正しい理解	事前：E-第9回（60分）視聴・テスト E-第10回（60分）視聴・テスト

関連科目

情報リテラシーII

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	よくわかるマスター Microsoft Office Specialist MOS Word 365 & 2019 対策テキスト&問題集 (FPT1913)	富士通 FOM	FOM 出版
2	よくわかるマスター Microsoft Office Specialist MOS Excel 365 & 2019 対策テキスト&問題集 (FPT1912)	富士通 FOM	FOM 出版
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準） 授業中の実習課題（40%）、模擬試験や総合課題などの演習（40%）、プレゼンテーション（10%）、e-learning(10%)を総合的に評価する。この授業は演習中心のため、出席（課題提出）が単位取得の必要条件となる。

学生へのメッセージ 使いこなすには多くの練習時間が必要ですが、多くの先輩が受講の後に独学でMOS（Microsoft Office Specialist：マイクロソフト オフィス スペシャリスト）に合格しています。就活時のアピールの為に頑張ってください。さらに IT パスポート資格の取得も視野に入れましょう。疑問は放置せず何でも質問してください。

担当者の 7号館2階 非常勤講師室

研究室等	
備考	授業時間外における質問は Teams チャット または学内メールで対応します。即日の返信が無理な場合でもできるだけ迅速な対応を心がけます。必修演習課題の点数はメールにて連絡を行う予定をしています。

科目名	情報リテラシー I	科目名 (英文)	Information Literacy I
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1 年	クラス	2
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	藤木 健史
ディプロマポリシー (DP)	DP8◎		
科目ナンバリング	LMA1825a1		

授業概要・目的	大学生活および卒業後の生活において要求される情報やデータを取り扱うための基礎的なリテラシー能力養成を目的とする。
到達目標	情報システムに関心を寄せ、その可能性を論じる態度を持つこと。アプリケーションの機能の最低限の使い方と、それらの連携作業を実行できるようになること。データサイエンスに関するエントリーレベルの知識を有すること。
授業方法と留意点	大学の ICT 環境を利用して、アプリケーションツールの使い方を実践的課題を通して演習形式で学ぶ。また、データサイエンスの基礎レベルを e-learning による自主学習とミニ講義、演習形式で学ぶ。e-learning は、空き時間を見つけて、なるべく毎日少しづつ均等に学修するように心がけてください。
科目学習の効果 (資格)	今後の諸活動において情報リテラシー能力を活用できること。マイクロソフトオフィススペシャリスト(MOS)等の資格取得出題範囲の約 40% を学ぶ。データサイエンスのエントリーレベルの知識が身につく。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 摂南大学の ICT 環境 コンピュータの基礎 関連資格の紹介 データサイエンス	出欠管理システム メールシステム ポータルサイト Moodle への登録 OneDrive の使い方 用語解説 IT パスポートの紹介 メールへのファイル添付 e-learning の方法	事前：シラバスの確認 (30 分) 事後：大学の ICT 環境の確認 (60 分)
2	データサイエンスとは 【Word】 Word の基礎スキル	1 データサイエンスとは (イントロ) 文書の新規作成と保存 表示モード・倍率の変更 Window の分割と利用 文字列の削除、コピー、貼付け 文字列の書式設定 段落の書式設定 文書の書式 (テーマ等) 文字列の検索、編集記号の表示、隠し文字	事前：授業内容の確認 (10 分) 事後：演習課題の完成・提出 (20 分) E-第 1 回 (60 分) 視聴・テスト
3	社会で起きている変化 【Word】 文書の管理 文字、段落の挿入と書式設定	2 社会で起きている変化 (イントロ) 文書のページ設定を行う スタイルセットを適用する ヘッダーやフッターを挿入する、変更する 印刷の設定を変更する 記号や特殊文字を挿入する 文字列を検索する、置換する 文字の効果を適用する 行間、段落間隔、インデントを設定する 書式のコピー/貼付け	事前：授業内容の確認 (10 分) 事後：演習課題の完成・提出 (20 分) E-第 2 回 (60 分) 視聴・テスト
4	社会で活用されてるデータ 【Word】 セクションの挿入と設定 表やリストの作成と設定	3 社会で活用されているデータ (イントロ) ページ区切りを挿入する 段組みを設定する セクション区切りを設定する 行や列を指定して表を作成する 表のデータを並べ替える セルの余白と間隔を設定する セルを結合する、分割する 列の幅を設定する 箇条書きや段落番号を設定する リストのレベルを変更する 開始する番号の値を設定する	事前：授業内容の確認 (10 分) 事後：演習課題の完成・提出 (20 分) E-第 3 回 (60 分) 視聴・テスト
5	データ・AI の活用領域 【Word】 グラフィック要素の挿入と書式	4 データ・AI の活用領域 (イントロ) 図形を挿入する 図を挿入する テキストボックスを挿入する SmartArt グラフィックを挿入する 3D モデルを挿入する スクリーンショットや画面の領域を挿入する テキストボックスにテキストを追加・変更する 図形にテキストを追加・変更する オブジェクトの周囲の文字列を折り返す オブジェクトを配置する	事前：授業内容の確認 (10 分) 事後：演習課題の完成・提出 (20 分) E-第 4 回 (60 分) 視聴・テスト
6	【Word】 テスト課題演習	Word 演習テスト	事前：Word の復習 事後：Word の振り返り (30 分)
7	【PowerPoint】 スライドの作成	スライドの作成 テキスト 図形作成 グラフィック要素の挿入と書式設定	事前：PowerPoint の機能を調べる (30 分) 事後：事後課題の完成・提出 (60 分)

	8	【PowerPoint】 グループ内での発表	アニメーションの設定 スライドの切り替え 発表者ツールの設定 相互発表 ループリック評価	事前：発表準備（60分） 事後：PowerPoint 機能の振り返り（30分）
	9	データ・AI 利活用のための 技術 【Excel】 Excel の基礎スキル	5 データ・AI 利活用のための技術（イントロ） ブックの作成とテーマの適用 表示倍率の設定 データの移動、コピー、検索、置換 列や行の挿入、削除、コピー、表示設定 ワークシートの編集（追加、削除、移動、コピー、名称、見出し色） ブック内のデータを検索する ページ設定を変更する 行の高さや列の幅を調整する	事前：授業内容の確認（10分） 事後：演習課題の完成・提出（20分） E-第5回（60分）視聴・テスト
	10	【Excel】 ワークシートやブックの管理 シート上のデータを操作する	ブックの表示を変更する ワークシートの行や列を固定する 印刷設定を行う 印刷範囲を設定する オートフィル機能でセルにデータを入力する 形式を選択してデータを貼り付ける 複数の列や行を挿入する、削除する セルを挿入する、削除する	事前：授業テーマの予習（40分） 事後：演習課題の完成・提出（50分）
	11	【Excel】 セルやセル範囲の表示と操作 データを視覚的にまとめる	セルの配置、文字の方向、インデントの変更 セル内のテキストを折り返して表示する セルを結合する、セルの結合を解除する 数値の書式を適用する 書式のコピー/貼り付け スパークラインを挿入する 組み込みの条件付き書式を適用する 条件付き書式を削除する	事前：授業テーマの予習（40分） 事後：演習課題の完成・提出（50分）
	12	【Excel】 数式や関数を使用した演算の実行	セルの相対参照、絶対参照、複合参照 SUM、AVERAGE、MAX、MIN 関数の利用 COUNT、COUNTA、COUNTBLANK 関数の利用 IF 関数を使用して条件付きの計算を実行する RIGHT、LEFT、MID 関数の利用 UPPER、LOWER 関数の利用 CONCAT 関数の利用	事前：授業テーマの予習（40分） 事後：演習課題の完成・提出（50分）
	13	【Excel】 グラフの管理	グラフの種類と用途 グラフを作成する ソースデータの行と列を切り替える グラフにデータ範囲（系列）を追加する グラフの要素を追加する、変更する	事前：授業テーマの予習（40分） 事後：演習課題の完成・提出（50分）
	14	【Excel】 テスト課題演習	Excel 演習テスト	事前：Excel の復習（60分）
	15	データサイエンス・AI 演習	9 データを読む（1） データの代表値 データのばらつき 10 データを読む（2） 相関と因果 母集団と抽出 統計情報の正しい理解	事前：E-第9回（60分）視聴・テスト E-第10回（60分）視聴・テスト

関連科目

情報リテラシーII

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	よくわかるマスター Microsoft Office Specialist MOS Word 365 & 2019 対策テキスト&問題集 (FPT1913)	富士通 FOM	FOM 出版
2	よくわかるマスター Microsoft Office Specialist MOS Excel 365 & 2019 対策テキスト&問題集 (FPT1912)	富士通 FOM	FOM 出版
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準） 授業中の実習課題（40%）、模擬試験や総合課題などの演習（40%）、プレゼンテーション（10%）、e-learning(10%)を総合的に評価する。この授業は演習中心のため、出席（課題提出）が単位取得の必要条件となる。

学生へのメッセージ 使いこなすには多くの練習時間が必要ですが、多くの先輩が受講の後に独学でMOS（Microsoft Office Specialist：マイクロソフト オフィス スペシャリスト）に合格しています。就活時のアピールの為に頑張ってください。さらに IT パスポート資格の取得も視野に入れましょう。疑問は放置せず何でも質問してください。

担当者の 7号館2階 非常勤講師室

研究室等	
備考	授業時間外での質問等： 本講義は Microsoft Office を活用します。スムーズな質疑応答ができる Microsoft Teams のチャット機能にて問い合わせください。 課題等のフィードバック： 講義の当日、あるいは次回の講義内で解説する予定です。

科目名	情報リテラシー I	科目名 (英文)	Information Literacy I
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1 年	クラス	1
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	星山 幸子
ディプロマポリシー (DP)	DP8◎		
科目ナンバリング	LMA1825a1		

授業概要・目的	大学生活および卒業後の生活において要求される情報やデータを取り扱うための基礎的なリテラシー能力養成を目的とする。
到達目標	情報システムに関心を寄せ、その可能性を論じる態度を持つこと。アプリケーションの機能の最低限の使い方と、それらの連携作業を実行できるようになること。データサイエンスに関するエントリーレベルの知識を有すること。
授業方法と留意点	大学の ICT 環境を利用して、アプリケーションツールの使い方を実践的課題を通して演習形式で学ぶ。また、データサイエンスの基礎レベルを e-learning による自主学習とミニ講義、演習形式で学ぶ。e-learning は、空き時間を見つけて、なるべく毎日少しづつ均等に学修するように心がけてください。
科目学習の効果 (資格)	今後の諸活動において情報リテラシー能力を活用できること。マイクロソフトオフィススペシャリスト(MOS)等の資格取得出題範囲の約 40% を学ぶ。データサイエンスのエントリーレベルの知識が身につく。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 摂南大学の ICT 環境 コンピュータの基礎 関連資格の紹介 データサイエンス	出欠管理システム メールシステム ポータルサイト Moodle への登録 OneDrive の使い方 用語解説 IT パスポートの紹介 メールへのファイル添付 e-learning の方法	事前：シラバスの確認 (30 分) 事後：大学の ICT 環境の確認 (60 分)
2	データサイエンスとは 【Word】 Word の基礎スキル	1 データサイエンスとは (イントロ) 文書の新規作成と保存 表示モード・倍率の変更 Window の分割と利用 文字列の削除、コピー、貼付け 文字列の書式設定 段落の書式設定 文書の書式 (テーマ等) 文字列の検索、編集記号の表示、隠し文字	事前：授業内容の確認 (10 分) 事後：演習課題の完成・提出 (20 分) E-第 1 回 (60 分) 視聴・テスト
3	社会で起きている変化 【Word】 文書の管理 文字、段落の挿入と書式設定	2 社会で起きている変化 (イントロ) 文書のページ設定を行う スタイルセットを適用する ヘッダーやフッターを挿入する、変更する 印刷の設定を変更する 記号や特殊文字を挿入する 文字列を検索する、置換する 文字の効果を適用する 行間、段落間隔、インデントを設定する 書式のコピー/貼付け	事前：授業内容の確認 (10 分) 事後：演習課題の完成・提出 (20 分) E-第 2 回 (60 分) 視聴・テスト
4	社会で活用されてるデータ 【Word】 セクションの挿入と設定 表やリストの作成と設定	3 社会で活用されているデータ (イントロ) ページ区切りを挿入する 段組みを設定する セクション区切りを設定する 行や列を指定して表を作成する 表のデータを並べ替える セルの余白と間隔を設定する セルを結合する、分割する 列の幅を設定する 箇条書きや段落番号を設定する リストのレベルを変更する 開始する番号の値を設定する	事前：授業内容の確認 (10 分) 事後：演習課題の完成・提出 (20 分) E-第 3 回 (60 分) 視聴・テスト
5	データ・AI の活用領域 【Word】 グラフィック要素の挿入と書式	4 データ・AI の活用領域 (イントロ) 図形を挿入する 図を挿入する テキストボックスを挿入する SmartArt グラフィックを挿入する 3D モデルを挿入する スクリーンショットや画面の領域を挿入する テキストボックスにテキストを追加・変更する 図形にテキストを追加・変更する オブジェクトの周囲の文字列を折り返す オブジェクトを配置する	事前：授業内容の確認 (10 分) 事後：演習課題の完成・提出 (20 分) E-第 4 回 (60 分) 視聴・テスト
6	【Word】 テスト課題演習	Word 演習テスト	事前：Word の復習 事後：Word の振り返り (30 分)
7	【PowerPoint】 スライドの作成	スライドの作成 テキスト 図形作成 グラフィック要素の挿入と書式設定	事前：PowerPoint の機能を調べる (30 分) 事後：事後課題の完成・提出 (60 分)

8	【PowerPoint】 グループ内での発表	アニメーションの設定 スライドの切り替え 発表者ツールの設定 相互発表 ループリック評価	事前：発表準備（60分） 事後：PowerPoint 機能の振り返り（30分）
9	データ・AI 利活用のための 技術 【Excel】 Excel の基礎スキル	5 データ・AI 利活用のための技術（イントロ） ブックの作成とテーマの適用 表示倍率の設定 データの移動、コピー、検索、置換 列や行の挿入、削除、コピー、表示設定 ワークシートの編集（追加、削除、移動、コピー、名称、見出し色） ブック内のデータを検索する ページ設定を変更する 行の高さや列の幅を調整する	事前：授業内容の確認（10分） 事後：演習課題の完成・提出（20分） E-第5回（60分）視聴・テスト
10	【Excel】 ワークシートやブックの管理 シート上のデータを操作する	ブックの表示を変更する ワークシートの行や列を固定する 印刷設定を行う 印刷範囲を設定する オートフィル機能でセルにデータを入力する 形式を選択してデータを貼り付ける 複数の列や行を挿入する、削除する セルを挿入する、削除する	事前：授業テーマの予習（40分） 事後：演習課題の完成・提出（50分）
11	【Excel】 セルやセル範囲の表示と操作 データを視覚的にまとめる	セルの配置、文字の方向、インデントの変更 セル内のテキストを折り返して表示する セルを結合する、セルの結合を解除する 数値の書式を適用する 書式のコピー/貼り付け スパークラインを挿入する 組み込みの条件付き書式を適用する 条件付き書式を削除する	事前：授業テーマの予習（40分） 事後：演習課題の完成・提出（50分）
12	【Excel】 数式や関数を使用した演算の実行	セルの相対参照、絶対参照、複合参照 SUM、AVERAGE、MAX、MIN 関数の利用 COUNT、COUNTA、COUNTBLANK 関数の利用 IF 関数を使用して条件付きの計算を実行する RIGHT、LEFT、MID 関数の利用 UPPER、LOWER 関数の利用 CONCAT 関数の利用	事前：授業テーマの予習（40分） 事後：演習課題の完成・提出（50分）
13	【Excel】 グラフの管理	グラフの種類と用途 グラフを作成する ソースデータの行と列を切り替える グラフにデータ範囲（系列）を追加する グラフの要素を追加する、変更する	事前：授業テーマの予習（40分） 事後：演習課題の完成・提出（50分）
14	【Excel】 テスト課題演習	Excel 演習テスト	事前：Excel の復習（60分）
15	データサイエンス・AI 演習	9 データを読む（1） データの代表値 データのばらつき 10 データを読む（2） 相関と因果 母集団と抽出 統計情報の正しい理解	事前：E-第9回（60分）視聴・テスト E-第10回（60分）視聴・テスト

関連科目

情報リテラシーII

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	よくわかるマスター Microsoft Office Specialist MOS Word 365 & 2019 対策テキスト&問題集 (FPT1913)	富士通 FOM	FOM 出版
2	よくわかるマスター Microsoft Office Specialist MOS Excel 365 & 2019 対策テキスト&問題集 (FPT1912)	富士通 FOM	FOM 出版
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準） 授業中の実習課題（40%）、模擬試験や総合課題などの演習（40%）、プレゼンテーション（10%）、e-learning(10%)を総合的に評価する。この授業は演習中心のため、出席（課題提出）が単位取得の必要条件となる。

学生へのメッセージ 使いこなすには多くの練習時間が必要ですが、多くの先輩が受講の後に独学でMOS（Microsoft Office Specialist：マイクロソフト オフィス スペシャリスト）に合格しています。就活時のアピールの為に頑張ってください。さらに IT パスポート資格の取得も視野に入れましょう。疑問は放置せず何でも質問してください。

担当者の 7号館2階 非常勤講師室

研究室等	
備考	授業時間外における質問は Teams チャット または学内メールで対応します。即日の返信が無理な場合でもできるだけ迅速な対応を心がけます。必修演習課題の点数はメールにて連絡を行う予定をしています。

科目名	情報リテラシー I	科目名 (英文)	Information Literacy I
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1 年	クラス	1
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	藤木 健史
ディプロマポリシー (DP)	DP8◎		
科目ナンバリング	LMA1825a1		

授業概要・目的	大学生活および卒業後の生活において要求される情報やデータを取り扱うための基礎的なリテラシー能力養成を目的とする。
到達目標	情報システムに関心を寄せ、その可能性を論じる態度を持つこと。アプリケーションの機能の最低限の使い方と、それらの連携作業を実行できるようになること。データサイエンスに関するエントリーレベルの知識を有すること。
授業方法と留意点	大学の ICT 環境を利用して、アプリケーションツールの使い方を実践的課題を通して演習形式で学ぶ。また、データサイエンスの基礎レベルを e-learning による自主学習とミニ講義、演習形式で学ぶ。e-learning は、空き時間を見つけて、なるべく毎日少しづつ均等に学修するように心がけてください。
科目学習の効果 (資格)	今後の諸活動において情報リテラシー能力を活用できること。マイクロソフトオフィススペシャリスト(MOS)等の資格取得出題範囲の約 40%を学ぶ。データサイエンスのエントリーレベルの知識が身につく。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 摂南大学の ICT 環境 コンピュータの基礎 関連資格の紹介 データサイエンス	出欠管理システム メールシステム ポータルサイト Moodle への登録 OneDrive の使い方 用語解説 IT パスポートの紹介 メールへのファイル添付 e-learning の方法	事前：シラバスの確認 (30 分) 事後：大学の ICT 環境の確認 (60 分)
2	データサイエンスとは 【Word】 Word の基礎スキル	1 データサイエンスとは (イントロ) 文書の新規作成と保存 表示モード・倍率の変更 Window の分割と利用 文字列の削除、コピー、貼付け 文字列の書式設定 段落の書式設定 文書の書式 (テーマ等) 文字列の検索、編集記号の表示、隠し文字	事前：授業内容の確認 (10 分) 事後：演習課題の完成・提出 (20 分) E-第 1 回 (60 分) 視聴・テスト
3	社会で起きている変化 【Word】 文書の管理 文字、段落の挿入と書式設定	2 社会で起きている変化 (イントロ) 文書のページ設定を行う スタイルセットを適用する ヘッダーやフッターを挿入する、変更する 印刷の設定を変更する 記号や特殊文字を挿入する 文字列を検索する、置換する 文字の効果を適用する 行間、段落間隔、インデントを設定する 書式のコピー/貼付け	事前：授業内容の確認 (10 分) 事後：演習課題の完成・提出 (20 分) E-第 2 回 (60 分) 視聴・テスト
4	社会で活用されてるデータ 【Word】 セクションの挿入と設定 表やリストの作成と設定	3 社会で活用されているデータ (イントロ) ページ区切りを挿入する 段組みを設定する セクション区切りを設定する 行や列を指定して表を作成する 表のデータを並べ替える セルの余白と間隔を設定する セルを結合する、分割する 列の幅を設定する 箇条書きや段落番号を設定する リストのレベルを変更する 開始する番号の値を設定する	事前：授業内容の確認 (10 分) 事後：演習課題の完成・提出 (20 分) E-第 3 回 (60 分) 視聴・テスト
5	データ・AI の活用領域 【Word】 グラフィック要素の挿入と書式	4 データ・AI の活用領域 (イントロ) 図形を挿入する 図を挿入する テキストボックスを挿入する SmartArt グラフィックを挿入する 3D モデルを挿入する スクリーンショットや画面の領域を挿入する テキストボックスにテキストを追加・変更する 図形にテキストを追加・変更する オブジェクトの周囲の文字列を折り返す オブジェクトを配置する	事前：授業内容の確認 (10 分) 事後：演習課題の完成・提出 (20 分) E-第 4 回 (60 分) 視聴・テスト
6	【Word】 テスト課題演習	Word 演習テスト	事前：Word の復習 事後：Word の振り返り (30 分)
7	【PowerPoint】 スライドの作成	スライドの作成 テキスト 図形作成 グラフィック要素の挿入と書式設定	事前：PowerPoint の機能を調べる (30 分) 事後：事後課題の完成・提出 (60 分)

	8	【PowerPoint】 グループ内での発表	アニメーションの設定 スライドの切り替え 発表者ツールの設定 相互発表 ループリック評価	事前：発表準備（60分） 事後：PowerPoint 機能の振り返り（30分）
	9	データ・AI 利活用のための 技術 【Excel】 Excel の基礎スキル	5 データ・AI 利活用のための技術（イントロ） ブックの作成とテーマの適用 表示倍率の設定 データの移動、コピー、検索、置換 列や行の挿入、削除、コピー、表示設定 ワークシートの編集（追加、削除、移動、コピー、名称、見出し色） ブック内のデータを検索する ページ設定を変更する 行の高さや列の幅を調整する	事前：授業内容の確認（10分） 事後：演習課題の完成・提出（20分） E-第5回（60分）視聴・テスト
	10	【Excel】 ワークシートやブックの管理 シート上のデータを操作する	ブックの表示を変更する ワークシートの行や列を固定する 印刷設定を行う 印刷範囲を設定する オートフィル機能でセルにデータを入力する 形式を選択してデータを貼り付ける 複数の列や行を挿入する、削除する セルを挿入する、削除する	事前：授業テーマの予習（40分） 事後：演習課題の完成・提出（50分）
	11	【Excel】 セルやセル範囲の表示と操作 データを視覚的にまとめる	セルの配置、文字の方向、インデントの変更 セル内のテキストを折り返して表示する セルを結合する、セルの結合を解除する 数値の書式を適用する 書式のコピー/貼り付け スパークラインを挿入する 組み込みの条件付き書式を適用する 条件付き書式を削除する	事前：授業テーマの予習（40分） 事後：演習課題の完成・提出（50分）
	12	【Excel】 数式や関数を使用した演算の実行	セルの相対参照、絶対参照、複合参照 SUM、AVERAGE、MAX、MIN 関数の利用 COUNT、COUNTA、COUNTBLANK 関数の利用 IF 関数を使用して条件付きの計算を実行する RIGHT、LEFT、MID 関数の利用 UPPER、LOWER 関数の利用 CONCAT 関数の利用	事前：授業テーマの予習（40分） 事後：演習課題の完成・提出（50分）
	13	【Excel】 グラフの管理	グラフの種類と用途 グラフを作成する ソースデータの行と列を切り替える グラフにデータ範囲（系列）を追加する グラフの要素を追加する、変更する	事前：授業テーマの予習（40分） 事後：演習課題の完成・提出（50分）
	14	【Excel】 テスト課題演習	Excel 演習テスト	事前：Excel の復習（60分）
	15	データサイエンス・AI 演習	9 データを読む（1） データの代表値 データのばらつき 10 データを読む（2） 相関と因果 母集団と抽出 統計情報の正しい理解	事前：E-第9回（60分）視聴・テスト E-第10回（60分）視聴・テスト

関連科目

情報リテラシーII

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	よくわかるマスター Microsoft Office Specialist MOS Word 365 & 2019 対策テキスト&問題集 (FPT1913)	富士通 FOM	FOM 出版
2	よくわかるマスター Microsoft Office Specialist MOS Excel 365 & 2019 対策テキスト&問題集 (FPT1912)	富士通 FOM	FOM 出版
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準） 授業中の実習課題（40%）、模擬試験や総合課題などの演習（40%）、プレゼンテーション（10%）、e-learning(10%)を総合的に評価する。この授業は演習中心のため、出席（課題提出）が単位取得の必要条件となる。

学生へのメッセージ 使いこなすには多くの練習時間が必要ですが、多くの先輩が受講の後に独学でMOS（Microsoft Office Specialist：マイクロソフト オフィス スペシャリスト）に合格しています。就活時のアピールの為に頑張ってください。さらに IT パスポート資格の取得も視野に入れましょう。疑問は放置せず何でも質問してください。

担当者の 7号館2階 非常勤講師室

研究室等	
備考	授業時間外での質問等： 本講義は Microsoft Office を活用します。スムーズな質疑応答ができる Microsoft Teams のチャット機能にて問い合わせください。 課題等のフィードバック： 講義の当日、あるいは次回の講義内で解説する予定です。

科目名	情報リテラシーⅡ	科目名 (英文)	Information Literacy II
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	2
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	星山 幸子
ディプロマポリシー (DP)	DP8◎		
科目ナンバリング	LMA1826a1		

授業概要・目的	大学生生活および、卒業後の社会人生活において効率的に資料収集、作成およびデータの取り扱いを行い、基礎的な分析も実施できる能力の養成を目的とする。
到達目標	Microsoft Office を用いて大学での授業のレポート課題を作成できること。情報システムに関心を寄せ、その可能性を論じる態度を持つこと。アプリケーションの機能の応用的な使い方と、それらの連携作業を実施できるようになること。 データサイエンスの次ステップにつながる知識を有すること。
授業方法と留意点	大学の ICT 環境を利用して、アプリケーションツールの使い方を実践的課題を通して演習形式で学ぶ。また、データサイエンスの基礎レベルを e-learning による自主学習とミニ講義、演習形式で学ぶ。e-learning は、空き時間を見つけて、なるべく毎日少しづつ均等に学修するように心がけてください。
科目学習の効果 (資格)	Microsoft Office Specialist Word、Excel が取得できるレベル。 データサイエンスの基礎的な知識が身につく。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーションと復習	ICT 学習環境の確認 社会人としての情報モラル Word と Excel の連携	事前：情報リテラシーⅠの復習 (50 分) 事後：演習課題の完成・提出 (40 分)
2	データ活用とは 【Word 応用】 効率的な文書の作成と管理 文書の共有と検査	6 データ活用とは (イントロ) 文書内の他の場所にリンクする 文書内の特定の場所やオブジェクトに移動する ページの背景要素を設定する 別のファイル形式で文書を保存する 基本的な文書プロパティを変更する ページの背景色を印刷する 電子文書を共有する 文書を検査する	事前：授業テーマの予習 (10 分) 事後：演習課題の完成・提出 (20 分) E-第 6 回 (60 分) 視聴・テスト
3	データ・AI 利活用の現場 【Word 応用】 表やリストの変換と調整	7 データ・AI 利活用の現場 (イントロ) 文字列に組み込みスタイルを適用する 書式をクリアする 文字列を表に変換する 表を文字列に変換する 表全体のサイズを設定する 表を分割する タイトル行の繰返しを設定する 新しい行頭文字や番号書式を定義する アウトラインレベルに応じた番号書式を設定する リストのレベルごとに行頭文字や番号書式を変更する リストの番号を振り直す、自動的に振る	事前：授業テーマの予習 (10 分) 事後：演習課題の完成・提出 (20 分) E-第 7 回 (60 分) 視聴・テスト
4	データ・AI 利活用の最新動向 【Word 応用】 参考資料の作成と管理	8 データ・AI 利活用の最新動向 (イントロ) 脚注や文末脚注を挿入する 脚注や文末脚注のプロパティを変更する 資料文献を作成する、変更する 引用文献を挿入する 参考文献一覧を挿入する 目次を挿入する ユーザー設定の目次を作成する	事前：授業テーマの予習 (10 分) 事後：演習課題の完成・提出 (20 分) E-第 8 回 (60 分) 視聴・テスト
5	データ・AI を扱う上での留意事項 (1) 【Word 応用】 グラフィック要素の変更と設定	13 データ・AI を扱う上での留意事項 (1) (イントロ) アート効果を適用する 図の背景を削除する 図の効果やスタイルを適用する グラフィック要素を書式設定する SmartArt グラフィックを書式設定する 3D モデルを書式設定する SmartArt グラフィックの内容を追加する、変更する オブジェクトに代替テキストを追加する	事前：授業テーマの予習 (10 分) 事後：演習課題の完成・提出 (20 分) E-第 13 回 (60 分) 視聴・テスト
6	【Word 応用】 文書の共同作業の管理	コメントを追加する コメントを閲覧する コメントに返答する、対処する コメントを削除する 変更履歴を記録する、削除する 変更履歴を閲覧する 変更履歴を承諾する、元に戻す 変更履歴を設定する	事前：授業テーマの予習 (60 分) 事後：演習課題の完成・提出 (30 分)
7	【Word 応用】 テスト応用課題演習	Word 応用演習テスト	事前：Word の復習 (90 分)
8	データ・AI を扱う上での留意事項 (2) 【Excel 応用】	14 データ・AI を扱う上での留意事項 (2) (イントロ) 名前付き範囲を定義する	事前：授業テーマの予習 (10 分) 事後：演習課題の完成・提出 (20 分) E-第 14 回 (60 分) 視聴・テスト

	名前の定義 テーブルとデータの管理	テーブルに名前を付ける セル範囲から Excel のテーブルを作成する テーブルにスタイルを適用する テーブルをセル範囲に変換する テーブルに行や列を追加する、削除する テーブルスタイルのオプションを設定する 集計行を挿入する、設定する 複数の列でデータを並べ替える レコードをフィルタする	
9	【Excel 応用】 数式における名前の利用 グラフの書式設定	数式の中で名前付き範囲やテーブル名を参照する LEN、RIGHT 関数を利用する TEXTJOIN 関数を利用する グラフシートを作成する グラフのレイアウトを適用する グラフのスタイルを適用する アクセシビリティ向上のため、グラフに代替テキストを追加する	事前：授業テーマの予習 (30 分) 事後：演習課題の完成・提出 (60 分)
10	データを説明する	11 データを説明する データを比較するためのグラフ 時間の推移を見せるためのグラフ データ相互の関係を示すためのグラフ データの偏りを示すためのグラフ データの比較 適切なグラフ表現 優れた可視化事例	事前：授業テーマの予習 (30 分) 事後：E-第 11 回 (60 分) 視聴・テスト
11	データを扱う	12 データを扱う 売り上げを予測する 顧客層を分析する 顧客満足度を把握する 顧客の不満の要因を探る	事前：授業テーマの予習 (30 分) 事後：E-第 12 回 (60 分) 視聴・テスト
12	データを守る上での留意事項とまとめ 【Excel 応用】 名前の利用と表示のカスタマイズ	15 データを守る上での留意事項とまとめ (イントロ) 名前付きのセル、セル範囲、ブックの要素へ移動する ハイパーリンクを挿入する、削除する ヘッダーやフッターをカスタマイズする ウィンドウの表示を変更する ブックの基本的なプロパティを変更する 数式を表示する クイックアクセスツールバーをカスタマイズする	事前：授業テーマの予習 (10 分) 事後：演習課題の完成・提出 (20 分) E-第 15 回 (60 分) 視聴・テスト
13	【Excel 応用】 共同作業のための設定 セルのスタイルや書式設定	別のファイル形式でブックを保存する ブック内の問題を検査する ブック内のアクセシビリティの問題を検査する テキストファイルからデータをインポートする .csv ファイルからデータをインポートする セル内文字方向の傾き設定 セルの書式設定ダイアログボックスから設定する セルのスタイルを適用する セルの書式設定をクリアする	事前：授業テーマの予習 (30 分) 事後：演習課題の完成・提出 (60 分)
14	【Word/Excel 応用】 アウトライン文書作成 Excel データの文書利用	スタイルの適用と設定 アウトラインの表示と利用 文書への Excel 表や Excel グラフの挿入と設定	事前：授業テーマの予習 (30 分) 事後：演習課題の完成・提出 (60 分)
15	【Excel 応用】 テスト応用課題演習	Excel 応用演習テスト	事前：出題範囲の復習 (90 分)

関連科目

情報リテラシー I

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	よくわかるマスター Microsoft Office Specialist MOS Word 365 & 2019 対策テキスト&問題集 (FPT1913) 【前期のテキストと同じ (再購入不要)】	富士通 FOM	FOM 出版
	2	よくわかるマスター Microsoft Office Specialist MOS Excel 365 & 2019 対策テキスト&問題集 (FPT1912) 【前期のテキストと同じ (再購入不要)】	富士通 FOM	FOM 出版
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

	3		
評価方法 (基準)	授業中の実習課題 (40%)、模擬試験や総合課題などの演習 (40%)、e-learning(20%)を総合的に評価する。 この授業は演習中心のため、出席 (課題提出) が単位取得の必要条件となる。		
学生への メッセージ	使いこなすには多くの練習時間が必要ですが、多くの先輩が受講の後に独学でMOS (Microsoft Office Specialist : マイクロソフト オフィス スペシャリスト) に合格しています。就活時のアピールの為にも頑張ってください。さらに IT パスポート資格の取得も視野に入れましょう。疑問は放置せず何でも質問してください。		
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室		
備考	授業時間外の質問は Teams のメッセージ機能またはメールをお願いします。すぐに返信ができない場合がありますが、できるだけ早くご連絡するようにします。		

科目名	情報リテラシーⅡ	科目名 (英文)	Information Literacy II
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	2
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	藤木 健史
ディプロマポリシー (DP)	DP8◎		
科目ナンバリング	LMA1826a1		

授業概要・目的	大学生生活および、卒業後の社会人生活において効率的に資料収集、作成およびデータの取り扱いを行い、基礎的な分析も実施できる能力の養成を目的とする。
到達目標	Microsoft Office を用いて大学での授業のレポート課題を作成できること。情報システムに関心を寄せ、その可能性を論じる態度を持つこと。アプリケーションの機能の応用的な使い方と、それらの連携作業を実施できるようになること。 データサイエンスの次ステップにつながる知識を有すること。
授業方法と留意点	大学の ICT 環境を利用して、アプリケーションツールの使い方を実践的課題を通して演習形式で学ぶ。また、データサイエンスの基礎レベルを e-learning による自主学習とミニ講義、演習形式で学ぶ。e-learning は、空き時間を見つけて、なるべく毎日少しづつ均等に学修するように心がけてください。
科目学習の効果 (資格)	Microsoft Office Specialist Word、Excel が取得できるレベル。 データサイエンスの基礎的な知識が身につく。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーションと復習	ICT 学習環境の確認 社会人としての情報モラル Word と Excel の連携	事前：情報リテラシーⅠの復習 (50 分) 事後：演習課題の完成・提出 (40 分)
2	データ活用とは 【Word 応用】 効率的な文書の作成と管理 文書の共有と検査	6 データ活用とは (イントロ) 文書内の他の場所にリンクする 文書内の特定の場所やオブジェクトに移動する ページの背景要素を設定する 別のファイル形式で文書を保存する 基本的な文書プロパティを変更する ページの背景色を印刷する 電子文書を共有する 文書を検査する	事前：授業テーマの予習 (10 分) 事後：演習課題の完成・提出 (20 分) E-第 6 回 (60 分) 視聴・テスト
3	データ・AI 利活用の現場 【Word 応用】 表やリストの変換と調整	7 データ・AI 利活用の現場 (イントロ) 文字列に組み込みスタイルを適用する 書式をクリアする 文字列を表に変換する 表を文字列に変換する 表全体のサイズを設定する 表を分割する タイトル行の繰返しを設定する 新しい行頭文字や番号書式を定義する アウトラインレベルに応じた番号書式を設定する リストのレベルごとに行頭文字や番号書式を変更する リストの番号を振り直す、自動的に振る	事前：授業テーマの予習 (10 分) 事後：演習課題の完成・提出 (20 分) E-第 7 回 (60 分) 視聴・テスト
4	データ・AI 利活用の最新動向 【Word 応用】 参考資料の作成と管理	8 データ・AI 利活用の最新動向 (イントロ) 脚注や文末脚注を挿入する 脚注や文末脚注のプロパティを変更する 資料文献を作成する、変更する 引用文献を挿入する 参考文献一覧を挿入する 目次を挿入する ユーザー設定の目次を作成する	事前：授業テーマの予習 (10 分) 事後：演習課題の完成・提出 (20 分) E-第 8 回 (60 分) 視聴・テスト
5	データ・AI を扱う上での留意事項 (1) 【Word 応用】 グラフィック要素の変更と設定	13 データ・AI を扱う上での留意事項 (1) (イントロ) アート効果を適用する 図の背景を削除する 図の効果やスタイルを適用する グラフィック要素を書式設定する SmartArt グラフィックを書式設定する 3D モデルを書式設定する SmartArt グラフィックの内容を追加する、変更する オブジェクトに代替テキストを追加する	事前：授業テーマの予習 (10 分) 事後：演習課題の完成・提出 (20 分) E-第 13 回 (60 分) 視聴・テスト
6	【Word 応用】 文書の共同作業の管理	コメントを追加する コメントを閲覧する コメントに返答する、対処する コメントを削除する 変更履歴を記録する、削除する 変更履歴を閲覧する 変更履歴を承諾する、元に戻す 変更履歴を設定する	事前：授業テーマの予習 (60 分) 事後：演習課題の完成・提出 (30 分)
7	【Word 応用】 テスト応用課題演習	Word 応用演習テスト	事前：Word の復習 (90 分)
8	データ・AI を扱う上での留意事項 (2) 【Excel 応用】	14 データ・AI を扱う上での留意事項 (2) (イントロ) 名前付き範囲を定義する	事前：授業テーマの予習 (10 分) 事後：演習課題の完成・提出 (20 分) E-第 14 回 (60 分) 視聴・テスト

	名前の定義 テーブルとデータの管理	テーブルに名前を付ける セル範囲から Excel のテーブルを作成する テーブルにスタイルを適用する テーブルをセル範囲に変換する テーブルに行や列を追加する、削除する テーブルスタイルのオプションを設定する 集計行を挿入する、設定する 複数の列でデータを並べ替える レコードをフィルタする	
9	【Excel 応用】 数式における名前の利用 グラフの書式設定	数式の中で名前付き範囲やテーブル名を参照する LEN、RIGHT 関数を利用する TEXTJOIN 関数を利用する グラフシートを作成する グラフのレイアウトを適用する グラフのスタイルを適用する アクセシビリティ向上のため、グラフに代替テキストを追加する	事前：授業テーマの予習 (30 分) 事後：演習課題の完成・提出 (60 分)
10	データを説明する	11 データを説明する データを比較するためのグラフ 時間の推移を見せるためのグラフ データ相互の関係を示すためのグラフ データの偏りを示すためのグラフ データの比較 適切なグラフ表現 優れた可視化事例	事前：授業テーマの予習 (30 分) 事後：E-第 11 回 (60 分) 視聴・テスト
11	データを扱う	12 データを扱う 売り上げを予測する 顧客層を分析する 顧客満足度を把握する 顧客の不満の要因を探る	事前：授業テーマの予習 (30 分) 事後：E-第 12 回 (60 分) 視聴・テスト
12	データを守る上での留意事項とまとめ 【Excel 応用】 名前の利用と表示のカスタマイズ	15 データを守る上での留意事項とまとめ (イントロ) 名前付きのセル、セル範囲、ブックの要素へ移動する ハイパーリンクを挿入する、削除する ヘッダーやフッターをカスタマイズする ウィンドウの表示を変更する ブックの基本的なプロパティを変更する 数式を表示する クイックアクセスツールバーをカスタマイズする	事前：授業テーマの予習 (10 分) 事後：演習課題の完成・提出 (20 分) E-第 15 回 (60 分) 視聴・テスト
13	【Excel 応用】 共同作業のための設定 セルのスタイルや書式設定	別のファイル形式でブックを保存する ブック内の問題を検査する ブック内のアクセシビリティの問題を検査する テキストファイルからデータをインポートする .csv ファイルからデータをインポートする セル内文字方向の傾き設定 セルの書式設定ダイアログボックスから設定する セルのスタイルを適用する セルの書式設定をクリアする	事前：授業テーマの予習 (30 分) 事後：演習課題の完成・提出 (60 分)
14	【Word/Excel 応用】 アウトライン文書作成 Excel データの文書利用	スタイルの適用と設定 アウトラインの表示と利用 文書への Excel 表や Excel グラフの挿入と設定	事前：授業テーマの予習 (30 分) 事後：演習課題の完成・提出 (60 分)
15	【Excel 応用】 テスト応用課題演習	Excel 応用演習テスト	事前：出題範囲の復習 (90 分)

関連科目

情報リテラシー I

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	よくわかるマスター Microsoft Office Specialist MOS Word 365 & 2019 対策テキスト&問題集 (FPT1913) 【前期のテキストと同じ (再購入不要)】	富士通 FOM	FOM 出版
	2	よくわかるマスター Microsoft Office Specialist MOS Excel 365 & 2019 対策テキスト&問題集 (FPT1912) 【前期のテキストと同じ (再購入不要)】	富士通 FOM	FOM 出版
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

	3		
評価方法 (基準)	授業中の実習課題 (40%)、模擬試験や総合課題などの演習 (40%)、e-learning(20%)を総合的に評価する。 この授業は演習中心のため、出席 (課題提出) が単位取得の必要条件となる。		
学生への メッセージ	使いこなすには多くの練習時間が必要です。情報処理演習室の空き時間を使って復習することをお勧めします。 多くの先輩が、受講の後に独学で MOS (Microsoft Office Specialist (マイクロソフト オフィス スペシャリスト) に合格していますので、就活時のアピールの為に頑張ってください。さらに IT パスポート資格の取得も視野に入れましょう。		
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室		
備考	授業時間外に質問したい場合、Teams のチャット機能で対応します		

科目名	情報リテラシーⅡ	科目名 (英文)	Information Literacy II
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	1
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	星山 幸子
ディプロマポリシー (DP)	DP8◎		
科目ナンバリング	LMA1826a1		

授業概要・目的	大学生活および、卒業後の社会人生活において効率的に資料収集、作成およびデータの取り扱いを行い、基礎的な分析も実施できる能力の養成を目的とする。
到達目標	Microsoft Office を用いて大学での授業のレポート課題を作成できること。情報システムに関心を寄せ、その可能性を論じる態度を持つこと。アプリケーションの機能の応用的な使い方と、それらの連携作業を実施できるようになること。 データサイエンスの次ステップにつながる知識を有すること。
授業方法と留意点	大学の ICT 環境を利用して、アプリケーションツールの使い方を実践的課題を通して演習形式で学ぶ。また、データサイエンスの基礎レベルを e-learning による自主学習とミニ講義、演習形式で学ぶ。e-learning は、空き時間を見つけて、なるべく毎日少しづつ均等に学修するように心がけてください。
科目学習の効果 (資格)	Microsoft Office Specialist Word、Excel が取得できるレベル。 データサイエンスの基礎的な知識が身につく。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーションと復習	ICT 学習環境の確認 社会人としての情報モラル Word と Excel の連携	事前：情報リテラシーⅠの復習 (50 分) 事後：演習課題の完成・提出 (40 分)
2	データ活用とは 【Word 応用】 効率的な文書の作成と管理 文書の共有と検査	6 データ活用とは (イントロ) 文書内の他の場所にリンクする 文書内の特定の場所やオブジェクトに移動する ページの背景要素を設定する 別のファイル形式で文書を保存する 基本的な文書プロパティを変更する ページの背景色を印刷する 電子文書を共有する 文書を検査する	事前：授業テーマの予習 (10 分) 事後：演習課題の完成・提出 (20 分) E-第 6 回 (60 分) 視聴・テスト
3	データ・AI 利活用の現場 【Word 応用】 表やリストの変換と調整	7 データ・AI 利活用の現場 (イントロ) 文字列に組み込みスタイルを適用する 書式をクリアする 文字列を表に変換する 表を文字列に変換する 表全体のサイズを設定する 表を分割する タイトル行の繰返しを設定する 新しい行頭文字や番号書式を定義する アウトラインレベルに応じた番号書式を設定する リストのレベルごとに行頭文字や番号書式を変更する リストの番号を振り直す、自動的に振る	事前：授業テーマの予習 (10 分) 事後：演習課題の完成・提出 (20 分) E-第 7 回 (60 分) 視聴・テスト
4	データ・AI 利活用の最新動向 【Word 応用】 参考資料の作成と管理	8 データ・AI 利活用の最新動向 (イントロ) 脚注や文末脚注を挿入する 脚注や文末脚注のプロパティを変更する 資料文献を作成する、変更する 引用文献を挿入する 参考文献一覧を挿入する 目次を挿入する ユーザー設定の目次を作成する	事前：授業テーマの予習 (10 分) 事後：演習課題の完成・提出 (20 分) E-第 8 回 (60 分) 視聴・テスト
5	データ・AI を扱う上での留意事項 (1) 【Word 応用】 グラフィック要素の変更と設定	13 データ・AI を扱う上での留意事項 (1) (イントロ) アート効果を適用する 図の背景を削除する 図の効果やスタイルを適用する グラフィック要素を書式設定する SmartArt グラフィックを書式設定する 3D モデルを書式設定する SmartArt グラフィックの内容を追加する、変更する オブジェクトに代替テキストを追加する	事前：授業テーマの予習 (10 分) 事後：演習課題の完成・提出 (20 分) E-第 13 回 (60 分) 視聴・テスト
6	【Word 応用】 文書の共同作業の管理	コメントを追加する コメントを閲覧する コメントに返答する、対処する コメントを削除する 変更履歴を記録する、削除する 変更履歴を閲覧する 変更履歴を承諾する、元に戻す 変更履歴を設定する	事前：授業テーマの予習 (60 分) 事後：演習課題の完成・提出 (30 分)
7	【Word 応用】 テスト応用課題演習	Word 応用演習テスト	事前：Word の復習 (90 分)
8	データ・AI を扱う上での留意事項 (2) 【Excel 応用】	14 データ・AI を扱う上での留意事項 (2) (イントロ) 名前付き範囲を定義する	事前：授業テーマの予習 (10 分) 事後：演習課題の完成・提出 (20 分) E-第 14 回 (60 分) 視聴・テスト

	名前の定義 テーブルとデータの管理	テーブルに名前を付ける セル範囲から Excel のテーブルを作成する テーブルにスタイルを適用する テーブルをセル範囲に変換する テーブルに行や列を追加する、削除する テーブルスタイルのオプションを設定する 集計行を挿入する、設定する 複数の列でデータを並べ替える レコードをフィルタする	
9	【Excel 応用】 数式における名前の利用 グラフの書式設定	数式の中で名前付き範囲やテーブル名を参照する LEN、RIGHT 関数を利用する TEXTJOIN 関数を利用する グラフシートを作成する グラフのレイアウトを適用する グラフのスタイルを適用する アクセシビリティ向上のため、グラフに代替テキストを追加する	事前：授業テーマの予習 (30 分) 事後：演習課題の完成・提出 (60 分)
10	データを説明する	11 データを説明する データを比較するためのグラフ 時間の推移を見せるためのグラフ データ相互の関係を示すためのグラフ データの偏りを示すためのグラフ データの比較 適切なグラフ表現 優れた可視化事例	事前：授業テーマの予習 (30 分) 事後：E-第 11 回 (60 分) 視聴・テスト
11	データを扱う	12 データを扱う 売り上げを予測する 顧客層を分析する 顧客満足度を把握する 顧客の不満の要因を探る	事前：授業テーマの予習 (30 分) 事後：E-第 12 回 (60 分) 視聴・テスト
12	データを守る上での留意事項とまとめ 【Excel 応用】 名前の利用と表示のカスタマイズ	15 データを守る上での留意事項とまとめ (イントロ) 名前付きのセル、セル範囲、ブックの要素へ移動する ハイパーリンクを挿入する、削除する ヘッダーやフッターをカスタマイズする ウィンドウの表示を変更する ブックの基本的なプロパティを変更する 数式を表示する クイックアクセスツールバーをカスタマイズする	事前：授業テーマの予習 (10 分) 事後：演習課題の完成・提出 (20 分) E-第 15 回 (60 分) 視聴・テスト
13	【Excel 応用】 共同作業のための設定 セルのスタイルや書式設定	別のファイル形式でブックを保存する ブック内の問題を検査する ブック内のアクセシビリティの問題を検査する テキストファイルからデータをインポートする .csv ファイルからデータをインポートする セル内文字方向の傾き設定 セルの書式設定ダイアログボックスから設定する セルのスタイルを適用する セルの書式設定をクリアする	事前：授業テーマの予習 (30 分) 事後：演習課題の完成・提出 (60 分)
14	【Word/Excel 応用】 アウトライン文書作成 Excel データの文書利用	スタイルの適用と設定 アウトラインの表示と利用 文書への Excel 表や Excel グラフの挿入と設定	事前：授業テーマの予習 (30 分) 事後：演習課題の完成・提出 (60 分)
15	【Excel 応用】 テスト応用課題演習	Excel 応用演習テスト	事前：出題範囲の復習 (90 分)

関連科目

情報リテラシー I

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	よくわかるマスター Microsoft Office Specialist MOS Word 365 & 2019 対策テキスト&問題集 (FPT1913) 【前期のテキストと同じ (再購入不要)】	富士通 FOM	FOM 出版
	2	よくわかるマスター Microsoft Office Specialist MOS Excel 365 & 2019 対策テキスト&問題集 (FPT1912) 【前期のテキストと同じ (再購入不要)】	富士通 FOM	FOM 出版
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

	3		
評価方法 (基準)	授業中の実習課題 (40%)、模擬試験や総合課題などの演習 (40%)、e-learning(20%)を総合的に評価する。 この授業は演習中心のため、出席 (課題提出) が単位取得の必要条件となる。		
学生への メッセージ	使いこなすには多くの練習時間が必要ですが、多くの先輩が受講の後に独学でMOS (Microsoft Office Specialist : マイクロソフト オフィス スペシャリスト) に合格しています。就活時のアピールの為に頑張ってください。さらに IT パスポート資格の取得も視野に入れましょう。疑問は放置せず何でも質問してください。		
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室		
備考	授業時間外の質問は Teams のメッセージ機能またはメールをお願いします。すぐに返信ができない場合がありますが、できるだけ早くご連絡するようにします。		

科目名	情報リテラシーⅡ	科目名 (英文)	Information Literacy II
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	1
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	藤木 健史
ディプロマポリシー (DP)	DP8◎		
科目ナンバリング	LMA1826a1		

授業概要・目的	大学生活および、卒業後の社会人生活において効率的に資料収集、作成およびデータの取り扱いを行い、基礎的な分析も実施できる能力の養成を目的とする。
到達目標	Microsoft Office を用いて大学での授業のレポート課題を作成できること。情報システムに関心を寄せ、その可能性を論じる態度を持つこと。アプリケーションの機能の応用的な使い方と、それらの連携作業を実施できるようになること。 データサイエンスの次ステップにつながる知識を有すること。
授業方法と留意点	大学の ICT 環境を利用して、アプリケーションツールの使い方を実践的課題を通して演習形式で学ぶ。また、データサイエンスの基礎レベルを e-learning による自主学習とミニ講義、演習形式で学ぶ。e-learning は、空き時間を見つけて、なるべく毎日少しづつ均等に学修するように心がけてください。
科目学習の効果 (資格)	Microsoft Office Specialist Word、Excel が取得できるレベル。 データサイエンスの基礎的な知識が身につく。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーションと復習	ICT 学習環境の確認 社会人としての情報モラル Word と Excel の連携	事前：情報リテラシーⅠの復習 (50 分) 事後：演習課題の完成・提出 (40 分)
2	データ活用とは 【Word 応用】 効率的な文書の作成と管理 文書の共有と検査	6 データ活用とは (イントロ) 文書内の他の場所にリンクする 文書内の特定の場所やオブジェクトに移動する ページの背景要素を設定する 別のファイル形式で文書を保存する 基本的な文書プロパティを変更する ページの背景色を印刷する 電子文書を共有する 文書を検査する	事前：授業テーマの予習 (10 分) 事後：演習課題の完成・提出 (20 分) E-第 6 回 (60 分) 視聴・テスト
3	データ・AI 利活用の現場 【Word 応用】 表やリストの変換と調整	7 データ・AI 利活用の現場 (イントロ) 文字列に組み込みスタイルを適用する 書式をクリアする 文字列を表に変換する 表を文字列に変換する 表全体のサイズを設定する 表を分割する タイトル行の繰返しを設定する 新しい行頭文字や番号書式を定義する アウトラインレベルに応じた番号書式を設定する リストのレベルごとに行頭文字や番号書式を変更する リストの番号を振り直す、自動的に振る	事前：授業テーマの予習 (10 分) 事後：演習課題の完成・提出 (20 分) E-第 7 回 (60 分) 視聴・テスト
4	データ・AI 利活用の最新動向 【Word 応用】 参考資料の作成と管理	8 データ・AI 利活用の最新動向 (イントロ) 脚注や文末脚注を挿入する 脚注や文末脚注のプロパティを変更する 資料文献を作成する、変更する 引用文献を挿入する 参考文献一覧を挿入する 目次を挿入する ユーザー設定の目次を作成する	事前：授業テーマの予習 (10 分) 事後：演習課題の完成・提出 (20 分) E-第 8 回 (60 分) 視聴・テスト
5	データ・AI を扱う上での留意事項 (1) 【Word 応用】 グラフィック要素の変更と設定	13 データ・AI を扱う上での留意事項 (1) (イントロ) アート効果を適用する 図の背景を削除する 図の効果やスタイルを適用する グラフィック要素を書式設定する SmartArt グラフィックを書式設定する 3D モデルを書式設定する SmartArt グラフィックの内容を追加する、変更する オブジェクトに代替テキストを追加する	事前：授業テーマの予習 (10 分) 事後：演習課題の完成・提出 (20 分) E-第 13 回 (60 分) 視聴・テスト
6	【Word 応用】 文書の共同作業の管理	コメントを追加する コメントを閲覧する コメントに返答する、対処する コメントを削除する 変更履歴を記録する、削除する 変更履歴を閲覧する 変更履歴を承諾する、元に戻す 変更履歴を設定する	事前：授業テーマの予習 (60 分) 事後：演習課題の完成・提出 (30 分)
7	【Word 応用】 テスト応用課題演習	Word 応用演習テスト	事前：Word の復習 (90 分)
8	データ・AI を扱う上での留意事項 (2) 【Excel 応用】	14 データ・AI を扱う上での留意事項 (2) (イントロ) 名前付き範囲を定義する	事前：授業テーマの予習 (10 分) 事後：演習課題の完成・提出 (20 分) E-第 14 回 (60 分) 視聴・テスト

	名前の定義 テーブルとデータの管理	テーブルに名前を付ける セル範囲から Excel のテーブルを作成する テーブルにスタイルを適用する テーブルをセル範囲に変換する テーブルに行や列を追加する、削除する テーブルスタイルのオプションを設定する 集計行を挿入する、設定する 複数の列でデータを並べ替える レコードをフィルタする	
9	【Excel 応用】 数式における名前の利用 グラフの書式設定	数式の中で名前付き範囲やテーブル名を参照する LEN、RIGHT 関数を利用する TEXTJOIN 関数を利用する グラフシートを作成する グラフのレイアウトを適用する グラフのスタイルを適用する アクセシビリティ向上のため、グラフに代替テキストを追加する	事前：授業テーマの予習 (30 分) 事後：演習課題の完成・提出 (60 分)
10	データを説明する	11 データを説明する データを比較するためのグラフ 時間の推移を見せるためのグラフ データ相互の関係を示すためのグラフ データの偏りを示すためのグラフ データの比較 適切なグラフ表現 優れた可視化事例	事前：授業テーマの予習 (30 分) 事後：E-第 11 回 (60 分) 視聴・テスト
11	データを扱う	12 データを扱う 売り上げを予測する 顧客層を分析する 顧客満足度を把握する 顧客の不満の要因を探る	事前：授業テーマの予習 (30 分) 事後：E-第 12 回 (60 分) 視聴・テスト
12	データを守る上での留意事項とまとめ 【Excel 応用】 名前の利用と表示のカスタマイズ	15 データを守る上での留意事項とまとめ (イントロ) 名前付きのセル、セル範囲、ブックの要素へ移動する ハイパーリンクを挿入する、削除する ヘッダーやフッターをカスタマイズする ウィンドウの表示を変更する ブックの基本的なプロパティを変更する 数式を表示する クイックアクセスツールバーをカスタマイズする	事前：授業テーマの予習 (10 分) 事後：演習課題の完成・提出 (20 分) E-第 15 回 (60 分) 視聴・テスト
13	【Excel 応用】 共同作業のための設定 セルのスタイルや書式設定	別のファイル形式でブックを保存する ブック内の問題を検査する ブック内のアクセシビリティの問題を検査する テキストファイルからデータをインポートする .csv ファイルからデータをインポートする セル内文字方向の傾き設定 セルの書式設定ダイアログボックスから設定する セルのスタイルを適用する セルの書式設定をクリアする	事前：授業テーマの予習 (30 分) 事後：演習課題の完成・提出 (60 分)
14	【Word/Excel 応用】 アウトライン文書作成 Excel データの文書利用	スタイルの適用と設定 アウトラインの表示と利用 文書への Excel 表や Excel グラフの挿入と設定	事前：授業テーマの予習 (30 分) 事後：演習課題の完成・提出 (60 分)
15	【Excel 応用】 テスト応用課題演習	Excel 応用演習テスト	事前：出題範囲の復習 (90 分)

関連科目

情報リテラシー I

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	よくわかるマスター Microsoft Office Specialist MOS Word 365 & 2019 対策テキスト&問題集 (FPT1913) 【前期のテキストと同じ (再購入不要)】	富士通 FOM	FOM 出版
	2	よくわかるマスター Microsoft Office Specialist MOS Excel 365 & 2019 対策テキスト&問題集 (FPT1912) 【前期のテキストと同じ (再購入不要)】	富士通 FOM	FOM 出版
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

	3		
評価方法 (基準)	授業中の実習課題 (40%)、模擬試験や総合課題などの演習 (40%)、e-learning(20%)を総合的に評価する。 この授業は演習中心のため、出席 (課題提出) が単位取得の必要条件となる。		
学生への メッセージ	使いこなすには多くの練習時間が必要です。情報処理演習室の空き時間を使って復習することをお勧めします。 多くの先輩が、受講の後に独学で MOS (Microsoft Office Specialist (マイクロソフト オフィス スペシャリスト) に合格していますので、就活時のアピールの為に頑張ってください。さらに IT パスポート資格の取得も視野に入れましょう。		
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室		
備考	授業時間外に質問したい場合、Teams のチャット機能で対応します		

科目名	キャリアデザイン I	科目名 (英文)	Career Planning I
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	水野 武
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	LCA1827a1		

授業概要・目的	<p>この授業を通じて学生には</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 就職や人生設計の前提として、「大学生」として大学生活をプランニングする。 2) 基礎ゼミと連携しつつ、「摂南大学」の学生として必要な知識や技能を習得する。 3) 専門の学びとの接続となるよう基本的なスタディスキルを習得する。 4) 講義と並行して、グループワークを実施し、課題やメンバー構成などの所与の条件に対してグループとして処していく力を養成する。 <p>ようになることが期待される。 なお、講義は担当講師の人材業界での業務及び起業経験を活かした内容も含まれる。</p> <p>SDGs. 4-4 SDGs. 8-6</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 摂南大学への理解を深め、自らの大学生活を充実させる方法を考えられるようになる。 2) 社会の変化を知り、これから身につけたい力について考えられるようになる。 3) 調べる・考える・発表するための技能についての理解を深めることを講義目標とする。
授業方法と留意点	<p>講義には積極的な態度で受講すること。 なお、学籍番号により担当教員が異なるため、各自自身の担当教員・クラスを確認すること。 また、教員により課題の提出方法が異なることもあるので注意すること。 課題については授業内にフィードバックする。 ※2022年度以前の入学生は再履修クラスで受講すること</p>
科目学習の効果 (資格)	<p>社会と自分の接点を考えるきっかけとなる。 「大学生活を充実させる」きっかけになる。</p>

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ようこそ、摂南大学へ	<ul style="list-style-type: none"> ・授業のオリエンテーション ・キャリアデザインとは何か? 何故必要なのか? ・公と私について考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分にとって“キャリアデザイン”とは何かを考えると(事前: 0.5 時間)
2	さあ始めよう! 大学生活を	<ul style="list-style-type: none"> ・大学で学ぶということを理解する ・「学修」の意味を学ぶ ・ノートの取り方、学ぶためのスキルを身につける 	<ul style="list-style-type: none"> ・大学で学ぶ意味について考えること(事前: 0.5 時間)
3	摂南大学	<ul style="list-style-type: none"> ・摂南大学の建学の精神と教育理念を理解する ・摂南大学の中にある「機会」について知る ・学生生活における目標を考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・摂南大生として、建学の精神と教育理念を理解すること(0.5 時間) ・大学の中にある「機会」の活用の仕方について考えること(事後: 0.5 時間) ・大学生活での目標を考えること(0.5 時間)
4	自己効力感を高めよう	<ul style="list-style-type: none"> ・学生生活において目標とすることを考える ・自己効力感を高めることの意味を知る ・個人ワークのインストラクション 	<ul style="list-style-type: none"> ・設定された個人ワークに取り組むこと(事後: 2 時間)
5	SDGs について考えよう グループ課題の設定	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGs に対する理解を深める ・グループワーク ・グループで工程管理を考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGs とは何かについて予習をしておくこと(事前: 0/5 時間) ・グループで課題に取り組むこと(2 時間)
6	社会は君を待っている	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の労働事情の推移を知る ・社会で求められている力について考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会で求められる人材について考えること(事後: 0.5 時間)
7	社会の仕組み①	<ul style="list-style-type: none"> ・GDP から見る社会の仕組み ・労働と貨幣 ・税金について考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・経済・金融と私たちの生活の結びつきを考えると(事後: 0.5 時間)
8	社会の仕組み②	<ul style="list-style-type: none"> ・税金について考える ・社会の問題についてディスカッション 	<ul style="list-style-type: none"> ・配布資料を熟読し、社会の仕組みについて考えること(事後: 0.5 時間)
9	自分づくり①	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の良いところを 20 個挙げる ・ペアワーク 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の長所や短所について考え、周囲の人にも聴くこと(事前: 0.5 時間)
10	自分づくり②	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート記入 ・ペアワーク ・大学 4 年間の目標設定 	<ul style="list-style-type: none"> ・大学へ入学した目的と学生としての自分の目標を再確認すること(事後: 0.5 時間)
11	スケジューリング術	<ul style="list-style-type: none"> ・社会人基礎力を理解する ・PDCA サイクルを身につける ・入学から今までの大学生活を振り返る ・未来履歴書を書いてみる 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会人基礎力を実践する方法を考えること(事後: 0.5 時間)
12	ビブリオバトル	<ul style="list-style-type: none"> ・ビブリオバトルで発表をする準備 ・グループ内で発表する 	<ul style="list-style-type: none"> ・他者に紹介したい本を選び、発表の準備を行うこと(事前: 1 時間)
13	グループ課題の発表会	グループ課題の発表会	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションの準備をすること(事前: 0.5 時間) ・他グループのプレゼンテーションの内容を復習すること(事後: 0.5 時間)
14	グループ課題の発表会	・グループごとのプレゼンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションの準備をすること(0.5 時間) ・他グループのプレゼンテーションの内容を復習すること(事後: 0.5 時間)
15	講義のおさらい	<ul style="list-style-type: none"> ・講義 4 で行った個人ワークの振り返り ・講義の振り返り 	<ul style="list-style-type: none"> ・夏休み以降の大学生活の目標を考えること(0.5 時間) ・期末レポートを作成すること(1.5 時間)

関連科目	キャリアデザインⅡ、キャリアデザインⅢ、インターンシップ エンプロイメントデザインⅠ、エンプロイメントデザインⅡ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	平常点(30%)、グループ課題(20%)、最終レポート(50%)で総合的に評価する。			
学生への メッセージ	自分の将来を考える授業であると認識し、能動的に参加すること。			
担当者の 研究室等	水野講師室(7号館3階)			
備考	必要に応じて授業内でレジュメを配布する。 なお、課題の提出方法は教員により異なる(MoodleかWebフォルダー等)ので各教員の指示に従うこと。			

科目名	キャリアデザイン I	科目名 (英文)	Career Planning I
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	石井 三恵
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	LCA1827a1		

授業概要・目的	<p>この授業を通じて学生には</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 就職や人生設計の前提として、「大学生」として大学生活をプランニングする。 2) 基礎ゼミと連携しつつ、「摂南大学」の学生として必要な知識や技能を習得する。 3) 専門の学びとの接続となるよう基本的なスタディスキルを習得する。 4) 講義と並行して、グループワークを実施し、課題やメンバー構成などの所与の条件に対してグループとして処していく力を養成する。 <p>よくなることが期待される。</p> <p>なお、講義は担当講師の民間企業、自治体、NPO 法人での業務及び海外を含む高等教育での教育ならびに経営の経験を活かした内容も含まれる。</p> <p>SDGs. 4-4 SDGs. 8-6</p>
---------	---

到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 摂南大学への理解を深め、自らの大学生活を充実させる方法を考えられるようになる。 2) 社会の変化を知り、これから身につけたい力について考えられるようになる。 3) 調べる・考える・発表するための技能についての理解を深めることを講義目標とする。
------	--

授業方法と留意点	<p>講義では資料を熟読した上で課題に挑まなければならないので、積極的な態度で受講すること。</p> <p>課題については授業内にフィードバックする。</p>
----------	---

科目学習の効果 (資格)	<p>社会と自分の接点を考えるきっかけとなる。</p> <p>「大学生活を充実させる」きっかけになる。</p>
--------------	---

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ようこそ、摂南大学へ	<ul style="list-style-type: none"> ・授業のオリエンテーション ・キャリアデザインとは何か？何故必要なのか？ ・公と私について考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：自分にとって“キャリアデザイン”とは何かを考えること (0.5 時間)
2	さあ始めよう！大学生活を	<ul style="list-style-type: none"> ・大学で学ぶということを理解する ・「学修」の意味を学ぶ ・ノートの取り方、学ぶためのスキルを身につける 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：大学で学ぶ意味について考えること (0.5 時間)
3	摂南大学	<ul style="list-style-type: none"> ・摂南大学の建学の精神と教育理念を理解する ・摂南大学の中にある「機会」について知る ・学生生活において目標を考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：摂南大生として、建学の精神と教育理念を理解すること (0.5 時間) ・事後学修：大学の中にある「機会」の活用の仕方について考えること (0.5 時間)/講義で課された課題に取り組むこと (0.5 時間/継続)
4	自己効力感を高めよう	<ul style="list-style-type: none"> ・学生生活において目標とすることを考える ・自己効力感を高めることの意味を知る ・個人ワークのインストラクション 	<ul style="list-style-type: none"> ・事後学修：設定された個人ワークに取り組むこと (2 時間)
5	SDGs について考えよう グループ課題の設定	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGs に対する理解を深める ・グループワーク ・グループで工程管理を考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：SDGs とは何かについて予習しておくこと (0.5 時間) ・事後学修：グループで課題に取り組むこと (2 時間)
6	社会は君を待っている	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の労働事情の推移を知る ・社会で求められている力について考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・事後学修：社会で求められる人材について考えること (0.5 時間)
7	社会の仕組み①	<ul style="list-style-type: none"> ・GDP から見る社会の仕組み ・労働と貨幣 ・税金について考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・事後学修：経済・金融と私たちの生活の結びつきを考えること (0.5 時間)
8	社会の仕組み②	<ul style="list-style-type: none"> ・税金について考える ・社会の問題についてディスカッション 	<ul style="list-style-type: none"> ・事後学修：配布資料を熟読し、社会の仕組みについて考えること (0.5 時間)
9	自分づくり①	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の良いところを 20 個挙げる ・ペアワーク 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：自分の長所や短所について考え、周囲の人にも聴くこと (0.5 時間)
10	自分づくり②	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート記入 ・ペアワーク ・大学 4 年間の目標設定 	<ul style="list-style-type: none"> ・事後学修：大学へ入学した目的と学生としての自分の目標を再確認すること (0.5 時間)
11	スケジューリング術	<ul style="list-style-type: none"> ・社会人基礎力を理解する ・PDCA サイクルを身につける ・入学から今までの大学生活を振り返る ・未来履歴書を書いてみる 	<ul style="list-style-type: none"> ・事後学修：社会人基礎力を実践する方法を考えること (0.5 時間)
12	ビブリオバトル	<ul style="list-style-type: none"> ・ビブリオバトルで発表をする準備 ・グループ内で発表する 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：他者に紹介したい本を選び、発表の準備を行うこと (1 時間)
13	グループ課題の発表会	グループ課題の発表会	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：プレゼンテーションの準備をすること (0.5 時間) ・事後学修：他グループのプレゼンテーションの内容を復習すること (0.5 時間)
14	グループ課題の発表会	・グループごとのプレゼンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：プレゼンテーションの準備をすること (0.5 時間) ・事後学修：他グループのプレゼンテーションの内容を復習すること (0.5 時間)
15	講義のおさらい	<ul style="list-style-type: none"> ・講義 4 で行った個人ワークの振り返り ・講義の振り返り 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：夏休み以降の大学生活の目標を考えること (0.5 時間) ・事後学修：期末レポートを作成すること (1.5 時間)

関連科目	キャリアデザインⅡ、キャリアデザインⅢ、インターンシップ エンプロイメントデザインⅠ、エンプロイメントデザインⅡ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業内活動(30%)、グループ課題(20%)、最終レポート(50%)で総合的に評価する。			
学生への メッセージ	自分の将来を考える授業であると認識し、能動的に参加すること。			
担当者の 研究室等	石井教授室(7号館5階)			
備考	1. 2022年度以前入学の再履修者はこの教室で実施する。 2. 必要に応じて授業内でレジュメを配布する。 3. ミニレポートは採点した後に返却する。			

科目名	キャリアデザインⅡ	科目名 (英文)	Career Planning II
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	石井 三恵
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	LCA1828a1		

授業概要・目的	この授業を通じて学生には、現代社会で生じているさまざまな事象を氾濫する情報からの確にとらえ、それらを起点に思考し、自らの活かし方、伸ばすべきポイントについて考えるようになることが期待される。 講義は担当者の実務経験を元に議論を進行することもある。 SDGs. 4-4 SDGs. 8-6
到達目標	将来、就きたい職業を模索し、そのために今何を行うべきかを自ら考え、宣言できるようになることである。
授業方法と留意点	講義だけでなく、グループワークや個人で考えるワークを織り交ぜて進行するので、能動的な態度で受講すること。 受講クラスは学籍番号によって異なるので注意すること。 ※2021年度以前の学生は再履修クラスで受講すること。
科目学習の効果(資格)	来るべき就職活動に向けて、自分に必要な能力を自覚し、計画的に実行に移すことができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・講義の目的・内容の解説 ・評価の方法	・大学生生活1年目で経験したことを思い出しておくこと(事前:1時間) ・配布したレジユメを見直すこと(事後:0.5時間)
2	社会を知る①	・なぜ仕事をするのか ・仕事観について考える ・仕事の成果とは他者への貢献であることを学ぶ	・人はなぜ働くのかについて仕事をしている一にインタビューしてまとめ、グループ討議の準備をしておくこと(事後:2時間)
3	社会を知る②	・課題「働く人を取材してレポート」のグループ討議とプレゼンテーション	・グループ討議の内容を振り返ること(0.5時間)
4	社会を知る③	・視点/視座/視野の使い方事例を知る ・業種・職種概念を理解する ・川上～川下の概念の理解	・配布資料を読み返し、どのような業種・業界があるか調べる(事後:0.5時間)
5	社会を知る④	・会社・業種・職種を理解する ・付加価値について考える	・配布資料を見直し、どのような職種・会社があるのか調べる(0.5時間)
6	自分を知る①	・特性と心がけ、自己PRの組み立て方を学ぶ	・自身の特性について考えること(事前:0.5時間) ・配布資料を見直し、自らの強みについて考えること(事後1時間)
7	自分を知る②	・学生生活を振り返る ・学生生活で自分を高めるための方法を考える	・自身の学生生活を振り返ること(事前:0.5時間) ・配布資料を見直し、今後の学生生活の過ごし方を考えること(0.5時間)
8	自分を高める①	・今までの習慣を見直し、自分を高める必要性を認識する	・講義を踏まえ、これからの大学生活における自身の習慣について振り返ること(事後:0.5時間)
9	自分を高める②	・今までの習慣を見直し、自分を高める必要性を認識する	・講義を踏まえ、これからの大学生活における自身の取り組むべきことについて考えること(事後:0.5時間)
10	自分を高める③	・リーダーシップ開発 ・リーダーシップのタイプを知る ・リーダーシップコミュニケーションを学ぶ	・講義の内容を日常生活で実践すること(1.5時間)
11	自分を知る③	・モチベーションについて理解する ・自身のやる気の源泉を理解する	・自身の「やる気が出る時と出ない時」の差について考える(事前:0.5時間) ・自身の「やる気の源泉」を言語化すること(0.5時間)
12	社会を知る⑤	・ライフイベントを考える ・ライフイベントにかかる費用を知る。	・配付資料を見直し、自らの将来について考えること(0.5時間)
13	自分を高める⑤	・講義⑨⑩⑪の実践報告の共有と発表	・発表及びグループ討議の準備をしておくこと(事前:1時間)
14	社会を知る⑥	・ニッポンの課題について考える ・未来の働き方を考える	・日本を取り巻く課題について調べる(事前:0.5時間)
15	授業のおさらい	・講義のおさらい	・課題の出し忘れ等がないか確認しておくこと(0.5時間)

関連科目 キャリアデザインⅠ・Ⅲ、インターンシップ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準) グループワーク(20%)、授業参加度(30%)、レポート(50%)を総合的に評価する。

学生への 来たるべき就職活動に向けて日々の生活を振り返り、準備することを第一とし授業を行うので、卒業後の「あなた」になるために積極的に参加す

メッセージ	ること。
担当者の 研究室等	石井教授室（7号館5階）
備考	

科目名	エンプロイメントデザイン I	科目名 (英文)	Employment Design I
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	坂口 有芸, 横山 孝文
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	LCA1829a1		

授業概要・目的	この科目は学生が「協働作業」「意思決定」「創造的志向」「探求」など、エンプロイアビリティ（将来社会に出て仕事をする際に必要な能力）の獲得の必要性を認識するための科目である。 また、大教室での多くの学生と共に話を聴き、理解しようとする態度を養い、グループに分かれて他者との意見の交換を行うことで、自分には思いつかなかった考え方に気づくようになることが期待される。
到達目標	講義、個人ワーク、グループワークを通じて、目標と手段、意思決定や探求に向けて試行錯誤することができるようになることが目標である。
授業方法と留意点	「学びを通じて学び方を学ぶ」姿勢をもつことを心がける。また、講義で出た課題を実践し、振り返ることが課題となることもあるため、メモを取る習慣を身に付ける。 課題については授業内にフィードバックする。 この科目は1年生向けの科目で、2023年度入学生のみ履修ができる。

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	私が NO.1 プロジェクト①	・今、自分が属しているコミュニティにおいて、何かで「NO.1 になる」ための計画を立て、実践する	・設定した課題を実践すること (2 時間)
3	私が NO.1 プロジェクト②	・講義 3 で設定した個別の課題の経過、結果をグループで共有する	・グループワークでメンバーから得た知見を振り返ること (0.5 時間)
4	私が NO.1 プロジェクト③最終振り返り	・講義 3 で設定した個別の課題の結果の振り返り、共有する	・グループワークでメンバーから得た知見を振り返ること (0.5 時間) ・第一回課題「NO.1 プロジェクトの振り返り」レポートを作成すること (2 時間)
5	自身の意見を発信することを学ぶ	・意見と他者に同意する・反対することのみとの違いを理解する ・自分の意見を発信するためのスキルを学ぶ	・講義の内容を振り返り、日常生活で活かせる場面を考えること (0.5 時間)
6	議論を進めるファシリテーションの基本①	・グループで議論する際の基本的なスキルを学ぶ	・講義の内容を振り返り、学生生活で活かす場面を考えること (0.5 時間)
7	議論を進めるファシリテーションの基本②	・グループで議論する際の基本的なスキルを学ぶ	・講義の内容を振り返り、学生生活で活かす場面を考えること (0.5 時間)
8	就職活動の現状を知る①ー就職部	・昨今の就職活動の事情について知る	・講義内容を振り返ること (0.5 時間)
9	就職活動の現状を知る②ー就職部	・昨今の就職活動の事情について知る	・講義内容を振り返ること (0.5 時間) ・就職活動を想定して、自身が今取り組まなければならないことをレポートにまとめる (1 時間)
10	グループでリサーチプロポーザル (研究計画書) を作ろう	・グループワーク「グループで課題研究のためのリサーチプロポーザル (研究計画書)」の作成	・グループで課題に取り組むこと (2 時間)
11	担当講師のキャリアについて①	・担当講師の研究内容、仕事の経歴などについての話をきく	・講義の内容を振り返ること (0.5 時間)
12	担当講師のキャリアについて②	・担当講師の研究内容、仕事の経歴などについての話をきく	・講義の内容を振り返ること (0.5 時間)
13	自身の履歴について考える	・自身のこれまでの人生を振り返り「節目になった出来事」について考える	・講義全体を振り返ること ・第二回課題「人生すごろく」を作成すること (2 時間)
14	グループで研究計画書を発表	・講義 11 で取り組んだ課題をグループごとに発表する	・自グループ、及び他グループの発表内容を振り返ること ・第三回課題「グループレポート」提出 (0.5 時間)
15	講義のまとめ	・エンプロイメントデザイン I の振り返り	・講義を振り返ること (0.5 時間)

関連科目	キャリアデザイン I ・ キャリアデザイン II ・ エンプロイメントデザイン II
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	毎回のミニツペーパー (30%)、グループ課題 (20%)、個人レポート 3 回 (50%) を総合的に判断する。
学生への	自身の将来の職業選択を考えるために、様々な課題を真摯な態度で聴いてほしい。

メッセージ	また、自ら考え、選択し、決定していくプロセスを大切にし、行動へ繋ぐ大切を学んでほしい。
担当者の研究室等	坂口有芸（7号館5F） 横山孝文（3号館3F）
備考	教科書：各回、必要に応じ、プリント配布。 参考書：各回、必要に応じ、授業中に示す。 講師・内容は都合により変更することもある。 中間課題の評価基準・書き方に関する注意事項は講義内またはポータルサイト/Teams で伝達する。

科目名	スポーツ科学実習 I	科目名 (英文)	Practicum in Sports Science I
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1 年	クラス	1
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	横山 喬之・廣崎 小夜
ディプロマポリシー (DP)	DP1Δ, DP6Δ		
科目ナンバリング	LPH1833a1		

授業概要・目的
生涯を通じて明るく活力のある生活を営むために、スポーツ・身体運動は極めて重要な役割を果たす。本科目では、スポーツ活動を通じて基礎的な運動技術の修得を目指し、規律・規範を重んじる心を修養し、スポーツの楽しさを理解することを目的としている。
本科目担当者は、学内外において性別や年代を問わず、一般的な指導から専門的な指導の実務経験を有し、基本から応用まで幅広い指導を学生に提供する。
SDGs-3、4、5

到達目標
この授業を通じて学生には、①健康・体力の維持増進、②技能を向上させることができる、③スポーツのルールやマナーを理解することができる、④コミュニケーション能力やリーダーシップを培うことができるようになることが期待される。

授業方法と留意点
実技形式で行う。
開講種目は、以下のとおりである。
・屋内種目 (バドミントン、バレーボール、バスケットボール、卓球、ニュースポーツなど)
・屋外種目 (サッカー、ミニサッカー、ソフトボール、テニス、タグラグビー、ニュースポーツなど)
※1 各種目の人数が多過ぎる場合や少な過ぎる場合は、他の種目に移動もしくは開講しないことがある。
※2 第1回目の授業はガイダンスの他、各種目のコース分けを行なうので必ず出席すること。
※3 悪天候の場合は、授業計画とは異なる内容になる場合がある

科目学習の効果 (資格)
基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術を修得できる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	
			事前	事後
1	・ガイダンス	・履修上の注意やコース種目分け	事前：授業概要・目的などを学習する (30分)	事後：本実習の理解を深める (30分)
2	・体力測定①	・屋外種目	事前：運動を行い体力測定に備える (30分)	事後：自身の体力についての振り返り (30分)
3	・体力測定②	・屋内種目	事前：運動を行い体力測定に備える (30分)	事後：自身の体力についての振り返り (30分)
4	・種目の概要 ・基礎知識について ・体力測定 (予備日)	・種目の概要、基礎知識の説明 ・未実施の測定項目がある場合はその項目を行う	事前：基礎知識を学習しておく (30分)	事後：新しく学んだ基礎知識について振り返る (30分)
5	・基本技術 (導入編) ・簡易ゲーム	・種目におけるルール・マナーの説明 ・種目の導入につながる運動 ・簡易ゲーム	事前：ルールについて学習しておく (30分)	事後：内容の振り返り (30分)
6	・基本技術 (基礎編 1) ・簡易ゲーム	・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする (30分)	事後：内容の振り返り (30分)
7	・基本技術 (基礎編 2) ・簡易ゲーム	・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする (30分)	事後：内容の振り返り (30分)
8	・基本技術 (応用編 1) ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする (30分)	事後：内容の振り返り (30分)
9	・基本技術 (応用編 2) ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする (30分)	事後：内容の振り返り (30分)
10	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分)	事後：内容の振り返り (30分)
11	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分)	事後：内容の振り返り (30分)
12	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分)	事後：内容の振り返り (30分)
13	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分)	事後：内容の振り返り (30分)
14	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分)	事後：内容の振り返り (30分)
15	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分)	事後：全授業の総括 (30分)

関連科目
生涯スポーツ実習、スポーツと健康、健康論、スポーツ科学概論、保健論、スポーツ指導者入門、スポーツ文化論、スポーツプログラミング、発育発達論、ヘルスエクスササイズの理論と実際、スポーツ教育学、スポーツの歴史、スポーツトレーニングの基礎、フィットネストレーニングの理論と実際、スポーツ医学の基礎、体力測定とスポーツ相談、スポーツ栄養学、スポーツ医学の理論と実際

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)
対面授業：活動点50%、技能点25%、態度点25%
※ なお活動点とは授業への参加意欲とする。態度点とは積極性・集中度を示し、授業態度が悪い場合は減点する。

学生へのメッセージ
授業1回目 (ガイダンス) は、総合体育館2階アリーナに集合してください。(更衣不要)
実習の際は、必ず健康保険証を持参してください。(コピー不可)

担当者の 研究室等	総合体育館 1F 体育館事務室
備考	トレーニングウェア、スポーツシューズ（コースに適したもの）を準備する

科目名	スポーツ科学実習 I	科目名 (英文)	Practicum in Sports Science I
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1 年	クラス	2
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	横山 喬之・廣崎 小夜
ディプロマポリシー (DP)	DP1Δ, DP6Δ		
科目ナンバリング	LPH1833a1		

授業概要・目的
生涯を通じて明るく活力のある生活を営むために、スポーツ・身体運動は極めて重要な役割を果たす。本科目では、スポーツ活動を通じて基礎的な運動技術の修得を目指し、規律・規範を重んじる心を修養し、スポーツの楽しさを理解することを目的としている。
本科目担当者は、学内外において性別や年代を問わず、一般的な指導から専門的な指導の実務経験を有し、基本から応用まで幅広い指導を学生に提供する。
SDGs-3、4、5

到達目標
この授業を通じて学生には、①健康・体力の維持増進、②技能を向上させることができる、③スポーツのルールやマナーを理解することができる、④コミュニケーション能力やリーダーシップを培うことができるようになることが期待される。

授業方法と留意点
実技形式で行う。
開講種目は、以下のとおりである。
・屋内種目 (バドミントン、バレーボール、バスケットボール、卓球、ニュースポーツなど)
・屋外種目 (サッカー、ミニサッカー、ソフトボール、テニス、タグラグビー、ニュースポーツなど)
※1 各種目の人数が多過ぎる場合や少な過ぎる場合は、他の種目に移動もしくは開講しないことがある。
※2 第1回目の授業はガイダンスの他、各種目のコース分けを行なうので必ず出席すること。
※3 悪天候の場合は、授業計画とは異なる内容になる場合がある

科目学習の効果 (資格)
基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術を修得できる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	
			事前	事後
1	・ガイダンス	・履修上の注意やコース種目分け	事前：授業概要・目的などを学習する (30分)	事後：本実習の理解を深める (30分)
2	・体力測定①	・屋外種目	事前：運動を行い体力測定に備える (30分)	事後：自身の体力についての振り返り (30分)
3	・体力測定②	・屋内種目	事前：運動を行い体力測定に備える (30分)	事後：自身の体力についての振り返り (30分)
4	・種目の概要 ・基礎知識について ・体力測定 (予備日)	・種目の概要、基礎知識の説明 ・未実施の測定項目がある場合はその項目を行う	事前：基礎知識を学習しておく (30分)	事後：新しく学んだ基礎知識について振り返る (30分)
5	・基本技術 (導入編) ・簡易ゲーム	・種目におけるルール・マナーの説明 ・種目の導入につながる運動 ・簡易ゲーム	事前：ルールについて学習しておく (30分)	事後：内容の振り返り (30分)
6	・基本技術 (基礎編 1) ・簡易ゲーム	・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする (30分)	事後：内容の振り返り (30分)
7	・基本技術 (基礎編 2) ・簡易ゲーム	・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする (30分)	事後：内容の振り返り (30分)
8	・基本技術 (応用編 1) ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする (30分)	事後：内容の振り返り (30分)
9	・基本技術 (応用編 2) ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする (30分)	事後：内容の振り返り (30分)
10	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分)	事後：内容の振り返り (30分)
11	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分)	事後：内容の振り返り (30分)
12	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分)	事後：内容の振り返り (30分)
13	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分)	事後：内容の振り返り (30分)
14	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分)	事後：内容の振り返り (30分)
15	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分)	事後：全授業の総括 (30分)

関連科目
生涯スポーツ実習、スポーツと健康、健康論、スポーツ科学概論、保健論、スポーツ指導者入門、スポーツ文化論、スポーツプログラミング、発育発達論、ヘルスエクスサイズ理論と実際、スポーツ教育学、スポーツの歴史、スポーツトレーニングの基礎、フィットネストレーニングの理論と実際、スポーツ医学の基礎、体力測定とスポーツ相談、スポーツ栄養学、スポーツ医学の理論と実際

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)
対面授業：活動点50%、技能点25%、態度点25%
※ なお活動点とは授業への参加意欲とする。態度点とは積極性・集中度を示し、授業態度が悪い場合は減点する。

学生へのメッセージ
授業1回目 (ガイダンス) は、総合体育館2階アリーナに集合してください。(更衣不要)
実習の際は、必ず健康保険証を持参してください。(コピー不可)

担当者の 研究室等	総合体育館 1F 体育館事務室
備考	トレーニングウェア、スポーツシューズ（コースに適したもの）を準備する

科目名	スポーツ科学実習Ⅱ	科目名 (英文)	Practicum in Sports Science II
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	1
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	横山 喬之・廣崎 小夜
ディプロマポリシー(DP)	DP1Δ, DP6Δ		
科目ナンバリング	LPH1834a1		

授業概要・目的	本科目では、スポーツ科学実習Ⅰで培った基礎的な技術を応用し、高度なスポーツ技術の獲得を目指す。またスポーツを通じてさらなる人間力の向上を目指し、自らの生活行動の中にスポーツ・身体運動を実践する能力を育成することを目的としている。 本科目担当者は、学内外において性別や年代を問わず、一般的な指導から専門的な指導の実務経験を有し、基本から応用まで幅広い指導を学生に提供する。
到達目標	この授業を通じて学生には、①健康・体力の維持増進、②技能を向上させることができる、③スポーツのルールやマナーを理解することができる、④コミュニケーション能力やリーダーシップを培うことができるようになることが期待される。

授業方法と留意点	実技形式で行う。 開講種目は、以下のとおりである。 ・屋内種目 (バドミントン、バレーボール、バスケットボール、卓球、ニュースポーツなど) ・屋外種目 (サッカー、ミニサッカー、ソフトボール、テニス、タグラグビー、ニュースポーツなど) ※1 各種目の人数が多過ぎる場合や少な過ぎる場合は、他の種目に移動もしくは開講しないことがある。 ※2 第1回目の授業はガイダンスの他、各種目のコース分けを行なうので必ず出席すること。 ※3 悪天候の場合は、授業計画とは異なる内容になる場合がある。
----------	--

科目学習の効果 (資格)	基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術を修得できる。
--------------	--------------------------------

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	・ガイダンス	・ガイダンス (履修上の注意やコース種目分け)	事前：授業概要・目的などを学習する (30分) 事後：本実習の理解を深める (30分)
2	・種目の概要 ・基礎知識について	・種目の概要、基礎知識の説明	事前：基礎知識を学習しておく (30分) 事後：新しく学んだ基礎知識について振り返る (30分)
3	・基本技術 (導入編) ・簡易ゲーム	・種目におけるルール・マナーの説明 ・種目の導入につながる運動 ・簡易ゲーム	事前：ルールについて学習しておく (30分) 事後：内容の振り返り (30分)
4	・基本技術 (基礎編1) ・簡易ゲーム	・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする (30分) 事後：内容の振り返り (30分)
5	・基本技術 (基礎編2) ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする (30分) 事後：内容の振り返り (30分)
6	・基本技術 (応用編1) ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする (30分) 事後：内容の振り返り (30分)
7	・基本技術 (応用編2) ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする (30分) 事後：内容の振り返り (30分)
8	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分) 事後：内容の振り返り (30分)
9	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分) 事後：内容の振り返り (30分)
10	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分) 事後：内容の振り返り (30分)
11	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分) 事後：内容の振り返り (30分)
12	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分) 事後：内容の振り返り (30分)
13	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分) 事後：内容の振り返り (30分)
14	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分) 事後：内容の振り返り (30分)
15	・ゲーム ・2年次ガイダンス等	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む ・2年次ガイダンス等を行う	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分) 事後：全授業の総括 (30分)

関連科目	生涯スポーツ実習、健康論、スポーツ科学概論、保健論、スポーツ指導者入門、スポーツ文化論、スポーツプログラミング、発育発達論、ヘルスエクササイズの実論と実際、スポーツ教育学、スポーツの歴史、スポーツトレーニングの基礎、フィットネストレーニングの実論と実際、スポーツ医学の基礎、体力測定とスポーツ相談、スポーツ栄養学、スポーツ医学の実論と実際
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	対面授業：活動点50%、技能点25%、態度点25% ※ なお、活動点とは授業への参加意欲とする。態度点とは積極性・集中度を示し、授業態度が悪い場合は減点する。
-----------	--

学生への	授業1回目 (ガイダンス) は、総合体育館2階アリーナに集合してください。(更衣不要)
------	---

メッセージ	実習の際は、必ず健康保険証を持参してください。(コピー不可)
担当者の 研究室等	総合体育館 1F 体育館事務室
備考	トレーニングウェア、スポーツシューズ(コースに適したもの)を準備する

科目名	スポーツ科学実習Ⅱ	科目名 (英文)	Practicum in Sports Science II
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	2
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	横山 喬之・廣崎 小夜
ディプロマポリシー (DP)	DP1Δ, DP6Δ		
科目ナンバリング	LPH1834a1		

授業概要・目的	本科目では、スポーツ科学実習Ⅰで培った基礎的な技術を応用し、高度なスポーツ技術の獲得を目指す。またスポーツを通じてさらなる人間力の向上を目指し、自らの生活行動の中にスポーツ・身体運動を実践する能力を育成することを目的としている。 本科目担当者は、学内外において性別や年代を問わず、一般的な指導から専門的な指導の実務経験を有し、基本から応用まで幅広い指導を学生に提供する。
到達目標	この授業を通じて学生には、①健康・体力の維持増進、②技能を向上させることができる、③スポーツのルールやマナーを理解することができる、④コミュニケーション能力やリーダーシップを培うことができるようになることが期待される。

授業方法と留意点	実技形式で行う。 開講種目は、以下のとおりである。 ・屋内種目 (バドミントン、バレーボール、バスケットボール、卓球、ニュースポーツなど) ・屋外種目 (サッカー、ミニサッカー、ソフトボール、テニス、タグラグビー、ニュースポーツなど) ※1 各種目の人数が多過ぎる場合や少な過ぎる場合は、他の種目に移動もしくは開講しないことがある。 ※2 第1回目の授業はガイダンスの他、各種目のコース分けを行なうので必ず出席すること。 ※3 悪天候の場合は、授業計画とは異なる内容になる場合がある。
----------	--

科目学習の効果 (資格)	基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術を修得できる。
--------------	--------------------------------

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	・ガイダンス	・ガイダンス (履修上の注意やコース種目分け)	事前：授業概要・目的などを学習する (30分) 事後：本実習の理解を深める (30分)
2	・種目の概要 ・基礎知識について	・種目の概要、基礎知識の説明	事前：基礎知識を学習しておく (30分) 事後：新しく学んだ基礎知識について振り返る (30分)
3	・基本技術 (導入編) ・簡易ゲーム	・種目におけるルール・マナーの説明 ・種目の導入につながる運動 ・簡易ゲーム	事前：ルールについて学習しておく (30分) 事後：内容の振り返り (30分)
4	・基本技術 (基礎編1) ・簡易ゲーム	・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする (30分) 事後：内容の振り返り (30分)
5	・基本技術 (基礎編2) ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする (30分) 事後：内容の振り返り (30分)
6	・基本技術 (応用編1) ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする (30分) 事後：内容の振り返り (30分)
7	・基本技術 (応用編2) ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする (30分) 事後：内容の振り返り (30分)
8	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分) 事後：内容の振り返り (30分)
9	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分) 事後：内容の振り返り (30分)
10	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分) 事後：内容の振り返り (30分)
11	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分) 事後：内容の振り返り (30分)
12	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分) 事後：内容の振り返り (30分)
13	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分) 事後：内容の振り返り (30分)
14	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分) 事後：内容の振り返り (30分)
15	・ゲーム ・2年次ガイダンス等	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む ・2年次ガイダンス等を行う	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分) 事後：全授業の総括 (30分)

関連科目	生涯スポーツ実習、健康論、スポーツ科学概論、保健論、スポーツ指導者入門、スポーツ文化論、スポーツプログラミング、発育発達論、ヘルスエクササイズの実論と実際、スポーツ教育学、スポーツの歴史、スポーツトレーニングの基礎、フィットネストレーニングの実論と実際、スポーツ医学の基礎、体力測定とスポーツ相談、スポーツ栄養学、スポーツ医学の実論と実際
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	対面授業：活動点50%、技能点25%、態度点25% ※ なお、活動点とは授業への参加意欲とする。態度点とは積極性・集中度を示し、授業態度が悪い場合は減点する。
学生への	授業1回目 (ガイダンス) は、総合体育館2階アリーナに集合してください。(更衣不要)

メッセージ	実習の際は、必ず健康保険証を持参してください。(コピー不可)
担当者の 研究室等	総合体育館 1F 体育館事務室
備考	トレーニングウェア、スポーツシューズ(コースに適したもの)を準備する

科目名	表象文化論	科目名 (英文)	Studies of Culture and Representation
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	杉山 博昭
ディプロマポリシー (DP)	DP1Δ, DP6Δ		
科目ナンバリング	LDL2508a0		

授業概要・目的	<p>【イメージはいかに見て語られてきたのか】</p> <p>美術史と美術批評の方法を学び、作品の「見方」と「語り方」を知る。毎回、重要な美術史家や美術批評家をひとりピックアップし、その代表的な著作と具体的な分析をふまえて、作品の「記述」と「評価」がいかに移り変わってきたのかを確認する。このプロセスをとおして、有名な画家の名前や代表的な作品をただ覚えて満足してしまうレベルを超え、自分の眼で作品を見て自分の言葉で作品を語ることのむずかしさとおもしろさを体感する。</p> <p>※この科目は、「表象と感性プロジェクト」の対応科目です。</p>
到達目標	<p>【以下の2点を自分の言葉で説明できるようになること】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. イメージを「見て語る」方法が多岐にわたることの理由 2. イメージの前で自分だけの眼と言葉を持つことがむずかしい理由
授業方法と留意点	<p>【授業をふまえたクイズへの応答】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 講義を受ける。 2. 講義後の制限時間内に、提示されたクイズの応答を Moodle 経由で入力する。 3. 講義前に配布のフィードバックシートを確認し、講義で解説を聞く。 4. 校外実習を進める。

科目学習の効果 (資格)	芸術作品を鑑賞する方法の理解
--------------	----------------

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	導入	授業概要の説明と歴史叙述について解説する。	事前:Moodle から資料をダウンロードする。レジュメ掲載作品を検索して確認する (60分)。 事後:クイズの内容を振り返り、自分の回答がどこまで適切であったかを確認し、採点してみる (90分)。
2	伝記	「ジョージョ・ヴァザーリ」の方法、つまり、作家の人生を基準にする見方と語り方を確認する。	事前:Moodle から資料をダウンロードする。前回答へのコメント内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90分)。 事後:クイズの内容を振り返り、自分の回答がどこまで適切であったかを確認し、採点してみる (90分)。
3	考古学	「ヨハン・ヴィンケルマン」の方法、つまり、古代の精神を基準にする見方と語り方を確認する。	事前:Moodle から資料をダウンロードする。前回答へのコメント内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90分)。 事後:クイズの内容を振り返り、自分の回答がどこまで適切であったかを確認し、採点してみる (90分)。
4	解剖学	「ジョヴァンニ・モレッリ」の方法、つまり、骨格のカタチを基準にする見方と語り方を確認する。	事前:Moodle から資料をダウンロードする。前回答へのコメント内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90分)。 事後:クイズの内容を振り返り、自分の回答がどこまで適切であったかを確認し、採点してみる (90分)。
5	様式論	「アロイス・リーグル」の方法、つまり、カタチの進化を基準にする見方と語り方を確認する。	事前:Moodle から資料をダウンロードする。前回答へのコメント内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90分)。 事後:クイズの内容を振り返り、自分の回答がどこまで適切であったかを確認し、採点してみる (90分)。
6	美術史	「ハインリヒ・ヴェルフリン」の方法、つまり、カタチの比較を基準にする見方と語り方を確認する。	事前:Moodle から資料をダウンロードする。前回答へのコメント内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90分)。 事後:クイズの内容を振り返り、自分の回答がどこまで適切であったかを確認し、採点してみる (90分)。
7	イコノロジー	「エルヴィン・パノフスキー」の方法、つまり、カタチの記憶を基準にする見方と語り方を確認する。	事前:Moodle から資料をダウンロードする。前回答へのコメント内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90分)。 事後:クイズの内容を振り返り、自分の回答がどこまで適切であったかを確認し、採点してみる (90分)。
8	知覚心理学	「エルンスト・ゴンブリッチ」の方法、つまり、眼差しの記憶を基準にする見方と語り方を確認する。	事前:Moodle から資料をダウンロードする。前回答へのコメント内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90分)。 事後:クイズの内容を振り返り、自分の回答がどこまで適切であったかを確認し、採点してみる (90分)。
9	フォーマリズム#1	「クレメント・グリーンバーグ」の方法、つまり、カタチの新しさを基準にする見方と語り方を確認する。	事前:Moodle から資料をダウンロードする。前回答へのコメント内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90分)。 事後:クイズの内容を振り返り、自分の回答がどこまで適切であったかを確認し、採点してみる (90分)。

				分)。
10	フォーマリズム#2	「マイケル・フリード」の方法、つまり、カタチの価値を基準にする見方と語り方を確認する。	事前:Moodleから資料をダウンロードする。前回答へのコメント内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する(90分)。 事後:クイズの内容を振り返り、自分の回答がどこまで適切であったかを確認し、採点してみる(90分)。	
11	脱構築	「ロザリンド・クラウス」の方法、つまり、価値の相対化を基準にする見方と語り方を確認する。	事前:Moodleから資料をダウンロードする。前回答へのコメント内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する(90分)。 事後:クイズの内容を振り返り、自分の回答がどこまで適切であったかを確認し、採点してみる(90分)。	
12	フェミニズム	「グリゼルダ・ポロック」の方法、つまり、ジェンダーの非対称を基準にする見方と語り方を確認する。	事前:Moodleから資料をダウンロードする。前回答へのコメント内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する(90分)。 事後:クイズの内容を振り返り、自分の回答がどこまで適切であったかを確認し、採点してみる(90分)。	
13	美術展鑑賞	指定された美術展を鑑賞し、ワークシート上の設問に回答する。日程・場所・展示については講義のなかで指示する。	事前:対象美術展のサイトを確認する。展示テーマや特徴について確認する(90分)。 事後:実地の経験をふまえて、関連情報も参考にしながら、ワークシート上の設問に回答する(120分)。	
14	美術展鑑賞	指定された美術展を鑑賞し、ワークシート上の設問に回答する。日程・場所・展示については講義のなかで指示する。	事前:対象美術展のサイトを確認する。展示テーマや特徴について確認する(90分)。 事後:実地の経験をふまえて、関連情報も参考にしながら、ワークシート上の設問に回答する(120分)。	
15	総括	実習課題を振り返り、授業を総括する	事前:Moodleから資料をダウンロードする。前回答へのコメント内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する(90分)。 事後:芸術作品の見方と語り方の種類を再認識しつつ、それぞれの方法を自分なりに使いこなせるよう、知識を補いつつさらに美術鑑賞を続けていく(240分)。	

関連科目 表象と感性プロジェクト／暮らしの中の文化／「学芸員課程の科目」

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	西洋美術史ハンドブック	(編)高階秀爾・三浦篤	新書館
	2	モダニズムのハード・コア 現代美術批評の地平	(編)浅田彰・岡崎乾二郎・松浦寿夫	太田出版
	3	美術史学の系譜	加藤哲弘	中央公論美術出版

評価方法 (基準) 【クイズの回答による評価】
 1. 毎回の回答 [80%]
 2. ワークシート [20%]
 3. いずれも「好奇心」と「論理性」を基準とする。

学生へのメッセージ 【コンディションを整えること】
 1. より良い回答をするために、講義に集中できるコンディションを整える。
 2. 校外実習は貴重な機会なので、かならず進める。

担当者の研究室等 7号館5階 杉山研究室

備考 【自分の回答を自分で採点すること】
 1. 事前・事後学習は総時間60時間が目安となる。
 2. 図書館やウェブ、その他の手段を使ってみずからの回答の採点を試みる。

科目名	地域と歴史	科目名 (英文)	Regions and Their History
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	赤澤 春彦
ディプロマポリシー (DP)	DP1Δ, DP6Δ		
科目ナンバリング	LDL2509a0		

授業概要・目的	<p>本講義では日本の文化について理解を深めることを目的とします。 取り上げるテーマは、 ①宮崎駿監督の映画『もののけ姫』からみる日本の中世社会 ②『ゴールデンカムイ』からみる日本の「周縁」 ③日本における占いと呪術 の3つを題材に日本の歴史や文化の相対化を試みます。 本講義を通して日本の歴史や文化、思想に関する理解を深め、現在の私たちの暮らしや世界の国々と比較するさいに役立ててください。</p> <p>※国際学部では、この科目は「歴史学プロジェクト」の対応科目です。</p>
到達目標	日本の歴史や文化の特質を理解し、人々と地域の関係を深く理解し、自らの言葉で解説できる能力を習得できます。
授業方法と留意点	<p>対面授業で行います。 教材を Teams にアップしますので、授業が始まるまでに各自印刷して用意しておいてください。 授業で課した課題については、整理して講義で紹介、講評する。</p>
科目学習の効果 (資格)	これから社会の中で生きていくためには人と人、人と集団の関係を理解することが求められます。また、異文化コミュニケーションをはかる際も日本の歴史や文化の特徴について知っておくことで、他の国の文化に触れるときにも深く理解することができるでしょう。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	講義の目的や進め方について説明します。歴史学とはどのような学問か解説します。	もののけ姫について web や書籍で調べておく
2	日本の周縁社会 ～『もののけ姫』にみるエミシの世界～	単一民族国家ではない「日本」の領域と周縁について考えます。	蝦夷について調べておく
3	日本中世の村と町 ～『もののけ姫』の中の「日本」～	中世における村と町の成立と実態について解説します。	講義で説明した町と村の特質についてまとめておく
4	製鉄と身分社会 ～タタラ場の世界～	製鉄を通して、日本中世の生業、身分について考えます。	タタラ製鉄について web や書籍で調べておく
5	日本における自然界と神の世界 ～シシガミの世界～	日本の地理的環境や日本人の信仰について考えます。	web を用いて日本の神社で祀られる獣神の事例をまとめる
6	『もののけ姫』が描く「日本」とは？	『もののけ姫』を通して見える「日本」について受講者がそれぞれ考え、議論します。	もののけ姫を題材にレポートを作成する。
7	アイヌ民族の起源	アイヌ民族を含めた北方民族の起源と展開について考えます。	「アイヌ」「北方民族」について調べておく。
8	アイヌの人々の暮らしと生業	アイヌの人々の暮らし (集落、住居、衣服、食) や生業について解説します。	授業で紹介した事例の他にどのようなものがあるのかインターネットを使って調べる。
9	アイヌの人々の信仰と言語	アイヌの人々の信仰世界や言語について解説します。	自然を信仰する他の文化を調べ、まとめる。
10	アイヌの人々と和人	アイヌの人々と和人 (本州のヤマト民族) との交流、対立、支配の歴史について考えます。	現代におけるアイヌの人々の活動について調査し、まとめる。
11	陰陽道、陰陽師とは何か？	日本における陰陽道の展開について解説します。	陰陽道の歴史について整理しておく。
12	占いと日本人	日本における様々な占いを紹介し、人々にとって「占うこと」とはどのような意味を持つのか考えます。	現代における様々な占いについてインターネットを使って調べる。
13	呪術と祭祀	陰陽道や密教、修験道の呪術について解説し、「おまじない」について考えます。	現代に残る様々な「おまじない」についてインターネットや身の回りの人々に聞いて調べる。
14	人々にとっての「信仰」	人々がなぜ占いや「おまじない」を信じるのかについて考えます。	自分にとって「信じるもの」とは何かについて考え、整理する。
15	確認テストと授業のまとめ	講義の総括を行います	今までのノートをまとめておく

関連科目 歴史学プロジェクト

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	課題1 (10%)、課題2 (10%)、課題3 (10%)、確認テスト (70%) 詳しくは初回に説明します。
学生へのメッセージ	本講義で日本の文化や歴史がすべてわかるわけではありません。講義を通じて興味を持ったことがありましたら、Web や図書などで積極的に調べるとよいでしょう。
担当者の	7号館4階 (赤澤研究室)

研究室等	
備考	事前・事後学習は総時間 60 時間を目安とする。

科目名	環境と社会	科目名 (英文)	Environment and Society
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	大谷 侑也
ディプロマポリシー (DP)	DP1Δ, DP6Δ		
科目ナンバリング	LDL2510a0		

授業概要・目的	<p>環境問題はしばしばグローバルな問題として着目されますが、実際に私たちに影響を与える環境に関わる「問題」は、地域単位で現出します。そのため、環境問題について考えるためには、何よりも地域を知り、地域固有の文脈に沿った解決策を考えていくことが重要なステップとなります。本講義では、国内外のさまざまな地域の環境や環境問題等について学びます。また、地域の自然環境と深く関わって発生する自然災害も扱います。これらを学ぶことで幅広い教養を身につけ、多角的な視野を獲得することを目指します。</p> <p>※国際学部では、この科目は「地理学プロジェクト」の対応科目です。 ※外国語学部では、この科目は「国際教養」プログラム対応科目です。 SDGs-13</p>
---------	---

到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 環境とは何か、環境問題とは何かについて具体例をもとに説明できる幅広い知識を身につける 2. 私達が暮らしている大阪・関西の特徴や身近に起こる災害について理解する 3. 多角的な視野で国内外の多様な環境や環境問題を把握することができる
------	---

授業方法と留意点	<p>講義を中心とするが、ディスカッションやグループワーク、プレゼンテーション等を実施する時間を設ける。また、講義時間内に質疑応答時間を設ける他、授業内で課された課題に対しては解説を行う。また、Moodle等のオンラインツールを授業時間・授業外学習時に利用するためスマートフォンやタブレット、PC等を各自用意すること。</p> <p>リアクションペーパーやレポート等の提出物に対してはコメントや質問回答といったフィードバックを行います。</p>
----------	--

科目学習の効果 (資格)	環境問題への意識向上、情報リテラシーの向上
--------------	-----------------------

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	授業の概要、目的、授業の進め方、テキスト、採点方法等について理解する	環境に関わる情報を収集する; 授業内で紹介した参考文献等を読む
	2	環境を学ぶための基礎知識 1	環境を学ぶ上で必要な地形・気候・植生などに関する基礎知識を学ぶ	環境に関わる情報を収集する; 授業内で紹介した参考文献等を読む
	3	環境を学ぶための基礎知識 2	環境を学ぶ上で必要な地形・気候・植生などに関する基礎知識を学ぶ	環境に関わる情報を収集する; 授業内で紹介した参考文献等を読む
	4	環境を学ぶための基礎知識 3	環境を学ぶ上で必要な地形・気候・植生などに関する基礎知識を学ぶ	環境に関わる情報を収集する; 授業内で紹介した参考文献等を読む
	5	環境を学ぶための基礎知識 4	環境を学ぶ上で必要な地形・気候・植生などに関する基礎知識を学ぶ	環境に関わる情報を収集する; 授業内で紹介した参考文献等を読む
	6	環境と自然災害 1	地域の環境と密接に関わって発生する災害を知る	環境に関わる情報を収集する; 授業内で紹介した参考文献等を読む
	7	環境と自然災害 2	地域の環境と密接に関わって発生する災害を知る	環境に関わる情報を収集する; 授業内で紹介した参考文献等を読む
	8	環境と自然災害 3	地域の環境と密接に関わって発生する災害を知る	環境に関わる情報を収集する; 授業内で紹介した参考文献等を読む
	9	環境と自然災害 4	地域の環境と密接に関わって発生する災害を知る	環境に関わる情報を収集する; 授業内で紹介した参考文献等を読む
	10	地球環境問題 1	地球温暖化や砂漠化といった世界の環境問題について知る	環境に関わる情報を収集する; 授業内で紹介した参考文献等を読む
	11	地球環境問題 2	地球温暖化や砂漠化といった世界の環境問題について知る	環境に関わる情報を収集する; 授業内で紹介した参考文献等を読む
	12	地球環境問題 3	地球温暖化や砂漠化といった世界の環境問題について知る	環境に関わる情報を収集する; 授業内で紹介した参考文献等を読む
	13	身近な地域の環境 1	身近な地域の環境の特徴、人びとの暮らしと自然の関わり等について理解する	環境に関わる情報を収集する; 授業内で紹介した参考文献等を読む
	14	身近な地域の環境 2	身近な地域の環境の特徴、人びとの暮らしと自然の関わり等について理解する	環境に関わる情報を収集する; 授業内で紹介した参考文献等を読む
	15	身近な地域の環境 3・授業のまとめ	全体のまとめ	環境に関わる情報を収集する; 授業内で紹介した参考文献等を読む

関連科目	国際教養プログラム関連科目 (暮らしの中の文化、多文化共生論等)
------	----------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業への取り組み (リアクションペーパーの内容、受講態度、議論やグループワークへの参加状況等) (60%) とレポート (40%) で評価します。
-----------	---

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	7号館5階 (大谷研究室)
----------	---------------

備考	事前・事後の学習は、全体で60時間を目安とします。
----	---------------------------

科目名	思想と文化	科目名 (英文)	Ideas and Cultures
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	橋本 正俊
ディプロマポリシー (DP)	DP1△, DP6△		
科目ナンバリング	LDL2511a0		

授業概要・目的

皆さんが日本で暮らそうが、海外に飛び出そうが、思想と文化に対する理解が欠かせない。この授業では、日本、そして世界の思想と文化について考える。これは限られた授業時間で扱うには、あまりにも大きなテーマである。そこでいくつかの視点を設けて考察を試みたい。授業は大きく2部に分ける。第1部では、日本の思想と文化の本質について考えたい。一方で、その多様性にも目配りしたい。第2部では世界に目を向け、大雑把にはあるが思想や文化の普遍性、特殊性について見ていきたい。全体を通してキーワードとしてあげるのは、神話・信仰・宗教である。これらに無関心では思想や文化について学ぶことはできない。※この科目は「比較文化プロジェクト」の対応科目です。

到達目標

日本、あるいは世界の思想と文化について、大雑把であっても自分なりに説明し、考えることができる。信仰や宗教の多様性について理解できる。

授業方法と留意点

講義が中心。ただし一部プレゼンテーションを求める。事前に与えた課題には目を通すこと。フィードバックは授業内で適宜行う。

科目学習の効果 (資格)

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	はじめに	授業の説明 思想と文化を学ぶことの意義	—
2	第1部 文化の基底 宗教	世界の三大宗教を中心に、基礎的な事柄を学ぶ	指摘された事柄について予習しておく。
3	日本の神仏	古くからの神仏観や、日本の神国思想について学ぶ	指摘された事柄について予習しておく。
4	日本の対外観	三国世界観や粟散辺土観について学ぶ	指摘された事柄について予習しておく。
5	鬼・妖怪・自然	目に見えないものへの畏れ、信仰について考える	指摘された事柄について予習しておく。
6	北と南	日本文化の多様性について、北海道や沖縄を例に考える	指摘された事柄について予習しておく。
7	第1部まとめ	課題をもとにプレゼンテーションをする	第1部の課題に取り組む。
8	第1部まとめ	課題をもとにプレゼンテーションをする	第1部の課題に取り組む。
9	第2部 宗教と文化	第1部を踏まえて、さらに世界の宗教について考察する	指摘された事柄について予習しておく。
10	世界の起源と終末	神話をもとに、世界の起源と終末のイメージを探る	指摘された事柄について予習しておく。
11	死と火と	神話をもとに、人類が死や文明とどのように向き合ってきたのか考える	指摘された事柄について予習しておく。
12	英雄伝説	神話をもとに、英雄とは何か、なぜ英雄を求めるのか考える	指摘された事柄について予習しておく。
13	世界から見た日本	世界が日本をどのように見てきたのか、イメージと現実との差異について考える	指摘された事柄について予習しておく。
14	第2部まとめ	課題をもとにプレゼンテーションをする	第2部の課題に取り組む。
15	第2部まとめ	課題をもとにプレゼンテーションをする	第2部の課題の取り組み。

関連科目 比較文化プロジェクト

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準) 課題 (レポートまたはプレゼンテーション) 2回60%、平常点 (コメントペーパーなど) 40%

学生へのメッセージ

担当者の研究室等 7号館4階 橋本研究室

備考 事前事後学習に必要な総時間数の目安は、60時間。

科目名	テクノロジーと人間	科目名 (英文)	Technology and Human
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	有馬 善一
ディプロマポリシー (DP)	DP1Δ, DP6Δ		
科目ナンバリング	LDL2512a0		

授業概要・目的	今日のテクノロジーの急速な進歩は、人間の思考、判断までも「代行」し、最終的には、人間自身を社会から不要なものとして追放する可能性までも見え隠れしているように思われる。例えば、AI の進歩が人間の制御・理解を超える「シンギュラリティ」の可能性とそれがもたらす危機については、現実的な問題として真剣に議論がなされているところである。 本講義では、テクノロジーと人間の関わりについて、その根本にまでさかのぼりながら、現代のテクノロジーが人間とその社会に何をもたらしているのかについて、哲学的な考察を進めていく。 ※国際学部では、この科目は「人間存在論プロジェクト」の対応科目です。
到達目標	哲学的に考えるとどのようなことであるかを理解する。 授業で取り上げる個々のテーマに関して、自分なりによく考える。さらに、それを論理的に文章にまとめる力をつける。
授業方法と留意点	授業は講義形式で行うが、受講者同士のディスカッションの時間も組み込む予定。必要に応じて動画資料も利用する。参考資料は Moodle にアップする。 レポートは Moodle を通じて提出してもらい、これにフィードバックをする。
科目学習の効果 (資格)	哲学的に考えることとはどのようなことであるかを理解し、これを実践することは、学問的に必要であるばかりではなく、人生の様々な局面においても求められるものである。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	講義へのイントロダクション	人間とは何か 技術とは何か 人間と技術の関係について	テクノロジーと人間というテーマに対する自分なりのイメージをまとめておく。
2	人間について	人間をめぐる哲学的な問い 理性/本能という対立軸 世界内存在としての人間 生と身体	人間とは何かという問題について、グループディスカッションをした上で考える。
3	技術について	人類史から見た人間と技術 道具の使用 文明の誕生・発展と技術 産業の発展段階と技術 農業・工業・情報産業	人間にとって技術がどういう意味を持っているのかをグループディスカッションをした上で考える。
4	技術の進歩と人間の変容 (1)	人間の〈能力〉の拡張としてのテクノロジー？ 技術と人間の生/死をめぐる問題 不老不死 臓器移植 遺伝子工学と生命操作をめぐる技術的問題と倫理的問題	技術は人間の〈能力〉を拡張するという主張の問題点を考える。
5	技術の進歩と人間の変容 (2)	脳と機械 ロボット・AI・人間 生命機械としての人間 脳はコンピュータに置き換えられるか？	脳とコンピュータ・AI は同じものか、違うものかについて、グループディスカッションをした上で、自分なりの考えをまとめる。
6	技術の進歩と人間の変容 (3)	コンピュータ・AI と人間の対立 シンギュラリティとは何か シンギュラリティをめぐる論争 AI と人間との共生は可能か	シンギュラリティをめぐる論争に対して、自分の立場を明らかにし、グループディスカッションを行う。
7	ハイデガーの技術論	技術の支配と人間 世界の構造としての技術=テクネー 技術の支配と主体としての人間の〈喪失〉 主体としての企業・国家の台頭	授業で解説をしたハイデガーの技術論をふまえた上で、技術支配について自分の考えをまとめる。
8	テクノロジーと社会 (1)	技術のもたらす未来 ユートピアとディストピア 産業革命が社会にもたらした影響 工場での大量生産と人間の疎外 モータリゼーションとは何であったのか	技術のもたらす未来をどう描くか、グループディスカッションをした上で、自分の考えをまとめる。
9	テクノロジーと社会 (2)	情報化の進展と社会の変質 テクノロジーとコミュニケーション 20 世紀における新しいメディアの登場 マスメディアが社会に与えた影響	20 世紀のマスメディアの発展の意義はどこにあるのかについて自分の考えをまとめる。
10	テクノロジーと社会 (3)	消費化社会と情報化社会 消費化と情報化 資本主義と消費社会 広告と流行	消費化社会の問題点について、具体例を挙げて、グループディスカッションをした上で、自分の考えをまとめる。
11	テクノロジーと社会 (4)	インターネットの発展の光と影 インターネットの歴史 SNS の〈爆発〉 ポスト・トゥルースの社会 国家の介入とプロパガンダ	インターネットと SNS について、ディスカッションをした上で、その問題点を自分の経験に即してまとめる。
12	テクノロジーと社会 (5)	リアルとヴァーチャルの葛藤 世界の成立とリアリティ	メタバースについてどう評価するかについて、グループディスカッションをした上で、自分の考えをまとめる。

			ヴァーチャルな世界？ メタバースがもたらす未来	とめる。
	13	テクノロジーと地球環境	人新世と地球の生態系の危機 人類史における大型哺乳類の絶滅 産業革命以降の環境問題 気候変動と地球温暖化 テクノロジーは環境問題を解決するか	テクノロジーによって環境問題を解決できるかどうかについて、ディスカッションをした上で、自分の考えをまとめる。
	14	巨大科学をめぐって	危険社会とは何か 原子力をめぐる技術と危険（リスク） 原発事故はどうして起きたのか 医療技術とリスク	原子力の利用を社会はこれからどうすべきかについて、グループディスカッションをした上で、自分の考えをまとめる。
	15	まとめ	講義を通じてテクノロジーと人間をめぐる諸問題を振り返る	授業全体をまとめておくこと。
関連科目	人間存在論プロジェクト			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	サピエンス全史（上）（下）	ハラリ	河出書房新社
	2	ホモ・デウス（上）（下）	ハラリ	河出書房新社
	3			
評価方法 （基準）	授業内でのレポート・平常点（40%）とセクション毎にレポート課題（60%）			
学生への メッセージ	我々は、テクノロジーの「進歩」を無反省に受け入れてしまいがちですが、人間の本质への問いかけ、また、人類史の全体から見直すことで、その問題点が見えてきます。			
担当者の 研究室等	7号館4階 有馬研究室			
備考	適宜参考資料を紹介する。 事前事後学習に60時間必要。			

科目名	異文化の理解	科目名 (英文)	Cross-Cultural Understanding
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	上田 達
ディプロマポリシー (DP)	DP1Δ, DP6Δ		
科目ナンバリング	LDL2513a0		

授業概要・目的	<p>文化人類学は異文化理解の学問であり、自分たちとは異なる社会に生きる人々の営みについての理解をもたらしてきた。同時に、他者との邂逅において自分たちの考え方や価値観の自明性について再考する機会を提供してきた。本講義では、こうした文化人類学の考え方について、いくつかのトピックを事例としてとりあげ、それぞれ文化人類学者の著作に触れながら解説する。</p> <p>※国際学部では、この科目は「都市と周縁プロジェクト」の対応科目です。</p>																																																																		
到達目標	<p>文化や社会について新たな視座で捉えられるようになる。 自分たちとは異なる暮らしをする人々についての理解を得る。</p>																																																																		
授業方法と留意点	<p>講義形式で行う。必要な資料についてはプリントして配布する。映像資料を適宜用いて理解の一助としたい。 授業内でコメントや質問を書く機会を設けるので、授業への主体的な参加を求める。</p>																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>イントロダクション</td> <td></td> <td>配布した資料を読むこと。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>文化人類学の歴史</td> <td>文化人類学が成立した時代状況について解説する。</td> <td>配布した資料を読むこと。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>文化概念の展開</td> <td>19世紀末から20世紀初頭にかけての文化概念の展開について概説する。</td> <td>配布した資料を読むこと。</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>文化人類学の考え方</td> <td>歴史的な解説を踏まえて、文化人類学の視座について解説する。</td> <td>配布した資料を読むこと。</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>贈与と交換①</td> <td>事例研究としてクラ交換を取り上げて解説する。</td> <td>配布した資料を読むこと。</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>贈与と交換②</td> <td>贈与交換をとらえる視点について解説する。</td> <td>配布した資料を読むこと。</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>国家なき社会①</td> <td>事例研究としてヌアー族の民族誌を取り上げる。</td> <td>配布した資料を読むこと。</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>国家なき社会②</td> <td>国家なき社会についての学びが示唆することについて解説する。</td> <td>配布した資料を読むこと。</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>聖と俗①</td> <td>宗教や信仰をめぐってなされてきた諸研究を概観する。</td> <td>配布した資料を読むこと。</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>聖と俗②</td> <td>宗教概念の広がりについて概説する。</td> <td>配布した資料を読むこと。</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>民族とエスニシティ①</td> <td>東南アジア地域の事例をもとに民族やエスニシティに関する理解を深める。</td> <td>配布した資料を読むこと。</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>民族とエスニシティ②</td> <td>東アジア地域の事例をもとに、民族やエスニシティに関する理解を深める。</td> <td>配布した資料を読むこと。</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>観光①</td> <td>東南アジア地域の事例をもとに、文化という概念の広がりについて解説する。</td> <td>配布した資料を読むこと。</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>観光②</td> <td>観光と文化の関わりから学びうることについて解説する。</td> <td>配布した資料を読むこと。</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめ</td> <td>授業全体の振り返りと総括を行う。到達度の確認課題を実施する。</td> <td>到達度の課題課題に備えること。</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	イントロダクション		配布した資料を読むこと。	2	文化人類学の歴史	文化人類学が成立した時代状況について解説する。	配布した資料を読むこと。	3	文化概念の展開	19世紀末から20世紀初頭にかけての文化概念の展開について概説する。	配布した資料を読むこと。	4	文化人類学の考え方	歴史的な解説を踏まえて、文化人類学の視座について解説する。	配布した資料を読むこと。	5	贈与と交換①	事例研究としてクラ交換を取り上げて解説する。	配布した資料を読むこと。	6	贈与と交換②	贈与交換をとらえる視点について解説する。	配布した資料を読むこと。	7	国家なき社会①	事例研究としてヌアー族の民族誌を取り上げる。	配布した資料を読むこと。	8	国家なき社会②	国家なき社会についての学びが示唆することについて解説する。	配布した資料を読むこと。	9	聖と俗①	宗教や信仰をめぐってなされてきた諸研究を概観する。	配布した資料を読むこと。	10	聖と俗②	宗教概念の広がりについて概説する。	配布した資料を読むこと。	11	民族とエスニシティ①	東南アジア地域の事例をもとに民族やエスニシティに関する理解を深める。	配布した資料を読むこと。	12	民族とエスニシティ②	東アジア地域の事例をもとに、民族やエスニシティに関する理解を深める。	配布した資料を読むこと。	13	観光①	東南アジア地域の事例をもとに、文化という概念の広がりについて解説する。	配布した資料を読むこと。	14	観光②	観光と文化の関わりから学びうることについて解説する。	配布した資料を読むこと。	15	まとめ	授業全体の振り返りと総括を行う。到達度の確認課題を実施する。	到達度の課題課題に備えること。
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	イントロダクション		配布した資料を読むこと。																																																																
2	文化人類学の歴史	文化人類学が成立した時代状況について解説する。	配布した資料を読むこと。																																																																
3	文化概念の展開	19世紀末から20世紀初頭にかけての文化概念の展開について概説する。	配布した資料を読むこと。																																																																
4	文化人類学の考え方	歴史的な解説を踏まえて、文化人類学の視座について解説する。	配布した資料を読むこと。																																																																
5	贈与と交換①	事例研究としてクラ交換を取り上げて解説する。	配布した資料を読むこと。																																																																
6	贈与と交換②	贈与交換をとらえる視点について解説する。	配布した資料を読むこと。																																																																
7	国家なき社会①	事例研究としてヌアー族の民族誌を取り上げる。	配布した資料を読むこと。																																																																
8	国家なき社会②	国家なき社会についての学びが示唆することについて解説する。	配布した資料を読むこと。																																																																
9	聖と俗①	宗教や信仰をめぐってなされてきた諸研究を概観する。	配布した資料を読むこと。																																																																
10	聖と俗②	宗教概念の広がりについて概説する。	配布した資料を読むこと。																																																																
11	民族とエスニシティ①	東南アジア地域の事例をもとに民族やエスニシティに関する理解を深める。	配布した資料を読むこと。																																																																
12	民族とエスニシティ②	東アジア地域の事例をもとに、民族やエスニシティに関する理解を深める。	配布した資料を読むこと。																																																																
13	観光①	東南アジア地域の事例をもとに、文化という概念の広がりについて解説する。	配布した資料を読むこと。																																																																
14	観光②	観光と文化の関わりから学びうることについて解説する。	配布した資料を読むこと。																																																																
15	まとめ	授業全体の振り返りと総括を行う。到達度の確認課題を実施する。	到達度の課題課題に備えること。																																																																
関連科目	「都市と周縁プロジェクト」																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>文化人類学の思考法</td> <td>松村圭一郎ほか編</td> <td>世界思想社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>文化人類学キーワード 改訂版</td> <td>山下晋司&船曳建夫編</td> <td>有斐閣</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>人類学のコンセンサス—文化人類学入門</td> <td>浜本満&浜本まり子編</td> <td>学術図書出版社</td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	文化人類学の思考法	松村圭一郎ほか編	世界思想社	2	文化人類学キーワード 改訂版	山下晋司&船曳建夫編	有斐閣	3	人類学のコンセンサス—文化人類学入門	浜本満&浜本まり子編	学術図書出版社																																																
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	文化人類学の思考法	松村圭一郎ほか編	世界思想社																																																																
2	文化人類学キーワード 改訂版	山下晋司&船曳建夫編	有斐閣																																																																
3	人類学のコンセンサス—文化人類学入門	浜本満&浜本まり子編	学術図書出版社																																																																
評価方法 (基準)	平常点 (40%) と到達度の確認課題 (60%) から総合的に評価する																																																																		
学生へのメッセージ																																																																			
担当者の研究室等	七号館五階上田研究室																																																																		
備考																																																																			

科目名	多文化社会と日本語	科目名 (英文)	Multicultural Society and Japanese Language
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	宮崎 玲子
ディプロマポリシー (DP)	DP1Δ, DP6Δ		
科目ナンバリング	LDL2514a0		

授業概要・目的	<p>・現代の日本には、多様な民族的・文化背景を持つ人々が暮らしています。また、今後皆さんが海外に出て行くこともあるでしょう。この授業では、多文化共生社会で生きるために、文化の多様性を受け入れること、価値観の違いを乗り越えて意志疎通を図ることの意義を考えます。グループディスカッションなどを通して、自文化を振り返りながら、異文化理解のために必要な知識やコミュニケーションスキルを学び、それらを身に付けるトレーニングをします。</p> <p>※国際学部では、この科目は「国際社会と日本語プロジェクト」の対応科目です。 ※外国語学部では、この科目は「外国語専門職」プログラム・「国際教養」プログラム対応科目です。</p>																																																																		
到達目標	<p>・多文化共生や異文化コミュニケーションに関する専門用語を理解し、基礎的な知識を得る。 ・多文化共生や異文化経験の具体的な事例について、観察・分析し、考察することができる。 ・異文化コミュニケーションスキルについて学び、身に付ける。</p>																																																																		
授業方法と留意点	<p>・講義 プリント資料の内容を熟読する。 ・タスク 多文化共生や異文化コミュニケーションについて考えるタスク・活動を行う。授業外の課題として行うものもある。ペアワーク、グループワーク、発表も含まれる。 (授業の進行状況により、授業テーマの順番や内容が多少変更することがあります)</p>																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション</td> <td>授業の概要・進め方・評価について・学習にあたっての留意事項</td> <td>シラバスを読んでおく</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>異文化理解とは</td> <td>講義、タスク、グループワーク</td> <td>授業で出された課題 (1.5H)</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>異文化コミュニケーションのために (1)</td> <td>講義、タスク、グループワーク</td> <td>授業で出された課題 (1.5H)</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>異文化コミュニケーションのために (2)</td> <td>講義、タスク、グループワーク</td> <td>授業で出された課題 (1.5H)</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>異文化適応</td> <td>講義、タスク、グループワーク</td> <td>レポート作成 (1.5H)</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>コミュニケーション・スタイル</td> <td>講義、タスク、グループワーク</td> <td>授業で出された課題 (1.5H)</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>言語コミュニケーション (1)</td> <td>講義、タスク、グループワーク</td> <td>授業で出された課題 (1.5H)</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>言語コミュニケーション (2)</td> <td>講義、タスク、グループワーク</td> <td>授業で出された課題 (1.5H)</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>非言語コミュニケーション (1)</td> <td>講義、タスク、グループワーク</td> <td>授業で出された課題 (1.5H)</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>非言語コミュニケーション (2)</td> <td>講義、タスク、グループワーク</td> <td>授業で出された課題 (1.5H)</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>自分を知る</td> <td>講義、タスク、グループワーク</td> <td>レポート作成 (1.5H)</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>多文化共生と日本語教育 (1)</td> <td>講義、タスク、グループワーク</td> <td>授業で出された課題 (1.5H)</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>多文化共生と日本語教育 (2)</td> <td>講義、タスク、グループワーク</td> <td>授業で出された課題 (1.5H)</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>異文化コミュニケーションスキル・トレーニング</td> <td>講義、タスク、グループワーク</td> <td>総復習 (2H)</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>確認テスト</td> <td>テスト、フィードバック</td> <td>総復習 (2H)</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション	授業の概要・進め方・評価について・学習にあたっての留意事項	シラバスを読んでおく	2	異文化理解とは	講義、タスク、グループワーク	授業で出された課題 (1.5H)	3	異文化コミュニケーションのために (1)	講義、タスク、グループワーク	授業で出された課題 (1.5H)	4	異文化コミュニケーションのために (2)	講義、タスク、グループワーク	授業で出された課題 (1.5H)	5	異文化適応	講義、タスク、グループワーク	レポート作成 (1.5H)	6	コミュニケーション・スタイル	講義、タスク、グループワーク	授業で出された課題 (1.5H)	7	言語コミュニケーション (1)	講義、タスク、グループワーク	授業で出された課題 (1.5H)	8	言語コミュニケーション (2)	講義、タスク、グループワーク	授業で出された課題 (1.5H)	9	非言語コミュニケーション (1)	講義、タスク、グループワーク	授業で出された課題 (1.5H)	10	非言語コミュニケーション (2)	講義、タスク、グループワーク	授業で出された課題 (1.5H)	11	自分を知る	講義、タスク、グループワーク	レポート作成 (1.5H)	12	多文化共生と日本語教育 (1)	講義、タスク、グループワーク	授業で出された課題 (1.5H)	13	多文化共生と日本語教育 (2)	講義、タスク、グループワーク	授業で出された課題 (1.5H)	14	異文化コミュニケーションスキル・トレーニング	講義、タスク、グループワーク	総復習 (2H)	15	確認テスト	テスト、フィードバック	総復習 (2H)
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション	授業の概要・進め方・評価について・学習にあたっての留意事項	シラバスを読んでおく																																																																
2	異文化理解とは	講義、タスク、グループワーク	授業で出された課題 (1.5H)																																																																
3	異文化コミュニケーションのために (1)	講義、タスク、グループワーク	授業で出された課題 (1.5H)																																																																
4	異文化コミュニケーションのために (2)	講義、タスク、グループワーク	授業で出された課題 (1.5H)																																																																
5	異文化適応	講義、タスク、グループワーク	レポート作成 (1.5H)																																																																
6	コミュニケーション・スタイル	講義、タスク、グループワーク	授業で出された課題 (1.5H)																																																																
7	言語コミュニケーション (1)	講義、タスク、グループワーク	授業で出された課題 (1.5H)																																																																
8	言語コミュニケーション (2)	講義、タスク、グループワーク	授業で出された課題 (1.5H)																																																																
9	非言語コミュニケーション (1)	講義、タスク、グループワーク	授業で出された課題 (1.5H)																																																																
10	非言語コミュニケーション (2)	講義、タスク、グループワーク	授業で出された課題 (1.5H)																																																																
11	自分を知る	講義、タスク、グループワーク	レポート作成 (1.5H)																																																																
12	多文化共生と日本語教育 (1)	講義、タスク、グループワーク	授業で出された課題 (1.5H)																																																																
13	多文化共生と日本語教育 (2)	講義、タスク、グループワーク	授業で出された課題 (1.5H)																																																																
14	異文化コミュニケーションスキル・トレーニング	講義、タスク、グループワーク	総復習 (2H)																																																																
15	確認テスト	テスト、フィードバック	総復習 (2H)																																																																
関連科目	国際社会と日本語プロジェクト																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>日本語教師のための異文化理解とコミュニケーション</td> <td>八代京子・世良時子</td> <td>三修社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>多文化共生のための異文化コミュニケーション</td> <td>原澤伊都夫</td> <td>明石書店</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>その他は授業で指示する</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	日本語教師のための異文化理解とコミュニケーション	八代京子・世良時子	三修社	2	多文化共生のための異文化コミュニケーション	原澤伊都夫	明石書店	3	その他は授業で指示する																																																		
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	日本語教師のための異文化理解とコミュニケーション	八代京子・世良時子	三修社																																																																
2	多文化共生のための異文化コミュニケーション	原澤伊都夫	明石書店																																																																
3	その他は授業で指示する																																																																		
評価方法 (基準)	課題及びレポート (30%)・授業への参加度(10%)・テスト (60%)により総合的に評価する。																																																																		
学生へのメッセージ	外国語を学習している皆さんにとって、「異文化コミュニケーション」について学ぶことは非常に大切なことです。授業を通して多くの「気づき」が生じると思います。授業では、異文化コミュニケーションスキルを習得するためのタスク、個人ワークやグループワークも行うので、積極的に授業に参加してください。																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室																																																																		
備考	テスト終了後に、テスト内容についてのフィードバックを行う。 なお、事前・事後学習は総時間 60 時間を目安とする。																																																																		

科目名	英語圏異文化交流論	科目名 (英文)	Cross-Cultural Communication in the English-Speaking World
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	福田 祐司
ディプロマポリシー (DP)	DP1Δ, DP6Δ		
科目ナンバリング	LDL2515c0		

授業概要・目的

この授業では、近代以降のアメリカやイギリスを中心に、英語圏のさまざまな民族的アイデンティティを持つ人びとが営んできた国際的な文化交流のあゆみを、その歴史および社会の動態に注目しながら学んでいきます。とくに20世紀以降の時代はマス・メディアがおおいに発展し、多様なエスニック・アイデンティティの在り方が民衆のあいだで模索された時代です。本授業では、そうした大小さまざまな実践（たとえばアメリカにおける公民権運動の世界的な広がりなど）に注目し、こんにちのグローバル社会で課題となっている事柄について考えるための力を養うことを目的とします。同時に、そうした文化交流史における日本の位置付けについて、どのような課題や解決策があるかという点についても考えてもらいたいと思います。

本科目は、国際学部カリキュラムにおける「文化構想領域」の「接続科目」の一つです。国際学部のディプロマ・ポリシーのうち、主に「世界の国と地域の歴史、社会、文化についての個別的知識とともに、国と地域間の関係性等について学際的に理解できる」の項目を担う科目です。英語教職課程を履修する学生にとっては、「異文化理解」区分の必修科目になります。

- 到達目標**
1. さまざまな背景をもつ他者の存在を尊重し、文化交流について主体的に考えることができる。
 2. アメリカやイギリスといった英語圏諸国の歴史や社会および文化を把握し、多文化共存社会の実態や展望について意見することができる。
 3. 国際社会における日本の立場について考察し、文化発信のあり様を議論することができる。
 4. 英語文献を通じて異文化の事情について調べる習慣を身につける。

授業方法と留意点

PowerPoint スライド、配布資料、映像・写真・音声資料など（英語文献含む）を用いて講義する。
適宜、受講者同士でディスカッションを行なう。

科目学習の効果（資格）

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	国際社会における英語圏文化の位置付け	授業の概要と論点を確認する。（2時間）
2	英語圏における国民国家の形成（1）活字メディアと国家概念	18-19世紀の英語圏におけるナショナリズムの創生と展開について確認する。	授業内容について文献等で調べながら理解を深める。（2時間）
3	英語圏における国民国家の形成（2）国家エリートの経験	18-19世紀の英語圏におけるナショナリズムの創生と展開について確認する。	授業内容について文献等で調べながら理解を深める。（2時間）
4	英語圏における国民国家の形成（3）植民地支配の諸相	18-19世紀の英語圏におけるナショナリズムの創生と展開について確認する。	授業内容について文献等で調べながら理解を深める。（2時間）
5	近現代の英語圏文化と社会（1）戦争と生活	20世紀アメリカ・イギリスを中心に、文化の営みをさまざまな観点（階級／格差・ジェンダー・民族など）から分析する。	授業内容について文献等で調べながら理解を深める。（2時間）
6	近現代の英語圏文化と社会（2）総力戦の諸相	20世紀アメリカ・イギリスを中心に、文化の営みをさまざまな観点（階級／格差・ジェンダー・民族など）から分析する。	授業内容について文献等で調べながら理解を深める。（2時間）
7	近現代の英語圏文化と社会（3）冷戦の時代	20世紀アメリカ・イギリスを中心に、文化の営みをさまざまな観点（階級／格差・ジェンダー・民族など）から分析する。	これまでの授業内容を復習し、要点を整理する。（2時間）
8	近現代の英語圏文化と社会（4）ジェンダー・人種・エスニシティ	20世紀アメリカ・イギリスを中心に、文化の営みをさまざまな観点（階級／格差・ジェンダー・民族など）から分析する。	授業内容について文献等で調べながら理解を深める。（2時間）
9	近現代の英語圏文化と社会（5）娯楽文化の切りとる社会	20世紀アメリカ・イギリスを中心に、文化の営みをさまざまな観点（階級／格差・ジェンダー・民族など）から分析する。	授業内容について文献等で調べながら理解を深める。（2時間）
10	近現代英語圏文化の流通と展開（1）文化の習合と模倣	英語圏で生まれた文化の他地域（アジア・アフリカ・南米など）への伝搬や土着化について検討する。	授業内容について文献等で調べながら理解を深める。（2時間）
11	近現代英語圏文化の流通と展開（2）文化の土着化	英語圏で生まれた文化の他地域（アジア・アフリカ・南米など）への伝搬や土着化について検討する。	授業内容について文献等で調べながら理解を深める。（2時間）
12	近現代英語圏文化の流通と展開（3）外交とソフトパワー	英語圏で生まれた文化の他地域（アジア・アフリカ・南米など）への伝搬や土着化について検討する。	授業内容について文献等で調べながら理解を深める。（2時間）
13	英語圏文化と戦後日本（1）民主化政策の諸相	GHQ/SCAP による占領政策を軸に、戦後日本における英語圏文化の広がりについて検討する。	授業内容について文献等で調べながら理解を深める。（2時間）
14	英語圏文化と戦後日本（2）アメリカと戦後民主主義	GHQ/SCAP による占領政策を軸に、戦後日本における英語圏文化の広がりについて検討する。	授業内容について文献等で調べながら理解を深める。（2時間）
15	国際社会における英語圏文化の現在	こんにちの国際社会における英語圏文化の位置付けについて議論する。	これまでの授業内容を総復習し、要点を整理する。（2時間）

関連科目 エリアスタディーズ(北アメリカ)、地域研究プロジェクト（英語と諸地域）ほか

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	プリント教材		
	2			

	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ブラック・アトランティック：近代性と二重意識	ポール・ギルロイ	月曜社
	2	想像の共同体：ナショナリズムの起源と流行	ベネディクト・アンダーソン	書籍工房早山
	3	〈民主〉と〈愛国〉：戦後日本のナショナリズムと公共性	大熊英二	新曜社
評価方法 (基準)	平常点（授業への参加度、レスポンスペーパー、宿題） 40% 課題レポート 60%			
学生への メッセージ	アメリカやイギリスを中心に英語圏の近現代史を捉え直しつつ、異なる文化的背景（民族的アイデンティティや国家との関係性など）を持つ人びとが交流し、あたらしい文化を紡いでいくことの意義を学んでください。また、そのうえでグローバル化が進む現代日本社会における問題点を発見し、みずから考えていく力をいっしょに養っていただきたいと思います。 授業の進捗については、学生の理解度に応じて適宜調整していく予定です。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ60時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	英語圏比較文化論	科目名 (英文)	Comparative Cultural Studies in the English-Speaking World
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	鳥居 祐介
ディプロマポリシー (DP)	DP1Δ, DP6Δ		
科目ナンバリング	LDL2516c0		

授業概要・目的

20世紀初頭から現在にかけて、アメリカ、イギリス、カナダ、オーストラリアなど英語圏の主要各国の人々は、ヨーロッパにルーツを持つキリスト教徒の白人男性が権力を持つことが当然とされる社会から、マイノリティの人権が重視される多文化主義社会への長期的な変化と、変化への主流社会からの反発、再調整を経験してきました。また、こうした歴史的経験を反映する英語圏の大衆文化、なかでもアメリカ合衆国を拠点とするハリウッド映画とポピュラー音楽は、日本を含む世界の文化、社会に多大な影響を与えてきました。この授業では、20世紀～21世紀の英語圏の映像表現と音楽表現が過去100年の間にどのように変化してきたのか、そして日本社会がどのような影響を受けて来たのかを、いくつかの具体的な事例を取り上げて考察します。各事例について、英語文献を含む解説記事や、映像や音源の一次資料を読解する訓練も行います。

本科目は、国際学部カリキュラムにおける「文化構想領域」の「接続科目」の一つです。国際学部のディプロマ・ポリシーのうち、主に「世界の国と地域の歴史、社会、文化についての個別的知識とともに、国と地域間の関係性等について学際的に理解できる」の項目を担う科目です。英語教職課程を履修する学生にとっては、「異文化理解」区分の必修科目になります。

到達目標

(1) 英語圏の歴史、文化、社会について、特に多文化の共生や異文化理解に関わる事象について、基礎的な知識と理解を身につけている。
(2) 上記のうちいくつかの概念や事象について、日本語だけでなく英語でも理解し、準備をすれば英語で説明することができる。
(3) 英語圏の社会事情と日本社会との関係について当事者意識を持ち、事実検証と批判的思考を行い、意見交換をすることができる。
(4) テーマに基づいて資料を読解し、質疑と作文を行う学修方法、学修習慣を身につけている。
(5) PCやスマートフォンなどの情報端末

授業方法と留意点

・いわゆる「反転授業」を取り入れた授業方法をとりますので、授業時間外の予習・復習時間の確保が必須です。学生が一人でもできる講義の聴講、作品映像の視聴、文字資料の閲覧・読解は大部分、オンデマンドで利用できる動画、電子資料、リンクされたインターネット上の資料を使って行っていただきます。授業時間はそのぶん、質疑、クイズ、グループワーク、その場で可能なコメントや課題の作成に用います。
・Teams, Moodleを中心にICTを活用した授業になりますので、予習復習時はもちろん、授業時間にも可能な限りノートPCを

科目学習の効果 (資格)

海外研修や留学、異文化交流に必要で、英語力向上の基盤にもなる国際教養、国際常識、ICT技能の獲得。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション: 英語圏の映画、音楽と多様性	授業で取り上げるトピックの概要だけでなく、受講に関する重要な説明と指示を初回授業でまとめて行います	配付した資料の予習を開始。(2時間程度)
2	現代日本の「多文化共生」と人種表象	事例研究: インターネットで「炎上」するブラックフェイス、ほか	板書や資料の復習、指示された予習資料の読解、オンライン小テストへの回答、質問コメント投稿など(合計3時間程度)
3	アメリカ・ハリウッド映画の黒人表象(1)	事例研究: 『国民の創生』(1915)ほか	板書や資料の復習、指示された予習資料の読解、オンライン小テストへの回答、質問コメント投稿など(合計3時間程度)
4	アメリカ・ハリウッド映画のアジア人表象	事例研究 『チート』(1915)ほか	板書や資料の復習、指示された予習資料の読解、オンライン小テストへの回答、質問コメント投稿など(合計3時間程度)
5	アメリカ・ハリウッド映画の先住民表象	事例研究: 20世紀の西部劇映画作品群	板書や資料の復習、指示された予習資料の読解、オンライン小テストへの回答、質問コメント投稿など(合計3時間程度)
6	アメリカ・ハリウッド映画の黒人表象(2)	公民権運動以降の黒人表象の概観	板書や資料の復習、指示された予習資料の読解、オンライン小テストへの回答、質問コメント投稿など(合計3時間程度)
7	アメリカ・ポピュラー音楽の人種表象(1)	事例研究: 戦前ジャズ、戦後ジャズ	板書や資料の復習、指示された予習資料の読解、オンライン小テストへの回答、質問コメント投稿など(合計3時間程度)
8	「アメリカ・ポピュラー音楽の人種表象(2)」	事例研究: ロック、カウンターカルチャー	板書や資料の復習、指示された予習資料の読解、オンライン小テストへの回答、質問コメント投稿など(合計3時間程度)
9	アメリカ・ポピュラー音楽の人種表象(3)	事例研究: ソウル、ヒップホップ	板書や資料の復習、指示された予習資料の読解、オンライン小テストへの回答、質問コメント投稿など(合計3時間程度)
10	日本におけるアメリカ映画、音楽受容の歴史と現在	事例研究: 日本の「黒人音楽」	板書や資料の復習、指示された予習資料の読解、オンライン小テストへの回答、質問コメント投稿など(合計3時間程度)
11	イギリスの映像・音楽における多文化主義の現在	事例研究: UK グライム、リナ・サワヤマほか	板書や資料の復習、指示された予習資料の読解、オンライン小テストへの回答、質問コメント投稿など(合計3時間程度)
12	カナダの映像・音楽における多文化主義の現在	事例研究: TVドラマ『大草原の小さなモスク』(2007～2012)ほか	板書や資料の復習、指示された予習資料の読解、オンライン小テストへの回答、質問コメント投稿など(合計3時間程度)
13	オーストラリアの映像・音楽における多文化主義の現在	事例研究: 『ソウルガールズ』(2012)ほか	板書や資料の復習、指示された予習資料の読解、オンライン小テストへの回答、質問コメント投稿など(合計3時間程度)
14	英語圏の多文化主義の経験	ここまでの事例を総合して議論する	板書や資料の復習、指示された予習資料の読解、オンライン小テストへの回答、質問コメント投稿など(合計3時間程度)
15	まとめ	学期末まとめ課題作成のための総合演習	最終課題に使う可能性のある全ての資料やメモを用意して(2時間程度)持ち込む。授業後、まとめ課題を作成する。(5時間程度)

関連科目

エリアスタディーズ(北アメリカ)、地域研究プロジェクト(英語と諸地域)ほか

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
		1		

	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	Teams 投稿を主とした平常の質疑への貢献 40% 平常のミニレポート 30% 学期末のまとめ課題 30%			
学生への メッセージ	この授業で扱うトピックは、比較的高度なものです。誰でもわかるような易しい内容を習って暗記する授業ではなく、英語圏の大学でも扱っているようなトピックを扱い、皆さんが分からないことを調べる力、分からないことを言葉にして、質問できる力を鍛える授業です。心配し過ぎず、とにかく食らいついていく気持ちでやりましょう。一人で取り組むには高度過ぎる内容を背伸びをして読み、分からないことは何でも質問する、今まで考えたことのないことを考える、今まで知らなかった言葉を使って文章を書く、そうやって自分の技能を上げる、自分の可能性			
担当者の 研究室等	7号館3階 鳥居研究室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ60時間程度とする。レポート、その他課題に関する質問等はスチューデントアワーまたは電子メールによるアポイントメントにて対応する。			

科目名	中国語と生活文化	科目名 (英文)	Chinese Language and Cultures of Daily Life
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	兪 鳴蒙
ディプロマポリシー (DP)	DP1△, DP6△		
科目ナンバリング	LDL2517e0		

授業概要・目的	日本は古来より中国の文化を取り入れることに熱心であり、漢字はもちろん、仏教、茶、祝日など、中国起源を示しているものも少なくない。この授業では、中国の生活文化を題材とした中国語文を読みながら、同時に日本の文化と対照し、議論を通じて日中の共通点と互いの独自性について理解する。
到達目標	中国語文を通じて、中国の社会と文化の諸相に触れ、日中両国の共通点と互いの独自性について考え、客観的な視点から日本と中国の相互理解を深めることができる。
授業方法と留意点	この科目は「地域言語科目」のうち、1年後期、及び2年前期開講の中国語の授業を履修している学生を対象とする。授業方法として、学習資料を輪読し、授業によりグループワークやグループ発表を行う。授業内で課した課題に対して当日または次週に必ずフィードバックを行う。
科目学習の効果 (資格)	中国語の能力の向上、中国語検定試験の合格などに役立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	伝統習慣 (1)	中国人はどうして赤が好きなの？	学習資料を読み、日本との相違を考える。予習に1時間、復習に1時間を要する。
2	伝統習慣 (2)	中国人はどうして偶数が好きなの？	学習資料を読み、日本との相違を考える。予習に1時間、復習に1時間を要する。
3	伝統習慣 (3)	中国人はなぜおごりたがるの？	学習資料を読み、日本との相違を考える。予習に1時間、復習に1時間を要する。
4	伝統習慣 (4)	爆竹はいつ鳴らすの？	学習資料を読み、日本との相違を考える。予習に1時間、復習に1時間を要する。
5	伝統習慣 (5)	「福」が来た！	学習資料を読み、日本との相違を考える。予習に1時間、復習に1時間を要する。
6	社会生活 (1)	「熱いうちに」にこだわるのはなぜ？	学習資料を読み、日本との相違を考える。予習に1時間、復習に1時間を要する。
7	社会生活 (2)	なぜ「丈夫」は夫という意味なの？	学習資料を読み、日本との相違を考える。予習に1時間、復習に1時間を要する。
8	グループ発表 (1)	プレゼンをするか、朗読をするかを選んで発表する。	発表の準備をする。予習に1時間、復習に1時間を要する。
9	社会生活 (3)	婚礼の独特の風習	学習資料を読み、日本との相違を考える。予習に1時間、復習に1時間を要する。
10	社会生活 (4)	「6」と「8」を好むのはなぜ？	学習資料を読み、日本との相違を考える。予習に1時間、復習に1時間を要する。
11	社会生活 (5)	贈り物のタブー	学習資料を読み、日本との相違を考える。予習に1時間、復習に1時間を要する。
12	歴史文化 (1)	「中国」の別名は？	学習資料を読み、日本との相違を考える。予習に1時間、復習に1時間を要する。
13	歴史文化 (2)	古代聖賢の名前の後ろにはなぜ「子」がついているの？	学習資料を読み、日本との相違を考える。予習に1時間、復習に1時間を要する。
14	歴史文化 (3)	龍のトーテムの由来	学習資料を読み、日本との相違を考える。予習に1時間、復習に1時間を要する。
15	グループ発表 (2)	プレゼンをするか、朗読をするかを選んで発表する。	発表の準備をする。予習に1時間、復習に1時間を要する。

関連科目 中国語圏とその言語文化、中国語圏での地域と共生

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	プリント配布		
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	日本人が知りたい中国人の当たり前	林松濤 他	三修社
2			
3			

評価方法 (基準) 小テスト 50%、グループワークやグループ発表 50%。

学生へのメッセージ 中国に対する関心をより高め、中国に対する理解をより深めましょう。

担当者の研究室等 7号館2階 非常勤講師室

備考

科目名	中国語圏の言語文化	科目名 (英文)	Languages and Cultures in the Chinese-speaking World
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	中西 正樹
ディプロマポリシー (DP)	DP1Δ, DP6Δ		
科目ナンバリング	LDL2518e0		

授業概要・目的	中国語圏を形成する中国、台湾、香港、シンガポールでは多様な方言が話されるが、その文字＝漢字は共通であり、漢字によって中国語圏は強固にまとまっている。中国語圏の周辺でも日本や朝鮮、ベトナムの言語もそれぞれ中国語からの借用語＝漢字語の割合が高いことから、東アジア全体として漢字文化圏を形成していると言える。そして漢字は基本的には表意文字であるため、あらゆる漢字は、その部品が担う役割を理解することでその意味を説明することができる。本講義では『常用漢字コアイメージ辞典』に述べられている意味のイメージに関する記述を参考にしながら、古代中国語の音韻体系と古代文字の形を手がかりに、古代人のものの見方や発想法、そして現代の中国語や日本語で使われる漢字との繋がりについて考える。
到達目標	日常使用する漢字について、それを構成する部品が何の象形なのか、どのような意味を担っているのか、それらを組み合わせることでも何を表現しているのかを説明できるようになる。また、未知の漢字に接した時その意味や読み音を推測できるようになる。
授業方法と留意点	この科目は「地域言語科目」のうち、1年後期、及び2年前期開講の中国語の授業を履修している学生を対象とする。講義形式で授業を行う。一回の授業で4～5の漢字家族をとりあげ、その本来の意味や漢字の構成を考える。CALL教室の機能を利用することで、各学生の手元の作業状況を全員で共有しながら演習の要素も取り入れて授業を進める。試験や課題に対して用紙上または次回授業で必ずフィードバックを行う。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験4級。漢字能力検定2級。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	身体部位1	頭・毛・目・耳・口... 小テスト。	教材フォルダの講義資料のうち該当部分を印刷し、事前に1時間をかけて予習する。この授業で学習した内容は1時間をかけて復習する。
3	身体部位2	手・足... 小テスト。	教材フォルダの講義資料のうち該当部分を印刷し、事前に1時間をかけて予習する。この授業で学習した内容は1時間をかけて復習する。
4	動物1	牛・馬・羊... 小テスト。	教材フォルダの講義資料のうち該当部分を印刷し、事前に1時間をかけて予習する。この授業で学習した内容は1時間をかけて復習する。
5	動物2	犬・鹿・豚... 小テスト。	教材フォルダの講義資料のうち該当部分を印刷し、事前に1時間をかけて予習する。この授業で学習した内容は1時間をかけて復習する。
6	単元テスト1 動物3	第1回～第5回の理解度を確認する。 鳥・虫・蛇... 小テスト。	教材フォルダの講義資料のうち該当部分を印刷し、事前に1時間をかけて予習する。この授業で学習した内容は1時間をかけて復習する。
7	天体・気象	日・月・水... 小テスト。	教材フォルダの講義資料のうち該当部分を印刷し、事前に1時間をかけて予習する。この授業で学習した内容は1時間をかけて復習する。
8	鉱物	土・火・金... 小テスト。	教材フォルダの講義資料のうち該当部分を印刷し、事前に1時間をかけて予習する。この授業で学習した内容は1時間をかけて復習する。
9	人工物	高・示... 小テスト。	教材フォルダの講義資料のうち該当部分を印刷し、事前に1時間をかけて予習する。この授業で学習した内容は1時間をかけて復習する。
10	単元テスト2 器具1	第6回～第10回の理解度を確認する。 方・網・工... 小テスト。	教材フォルダの講義資料のうち該当部分を印刷し、事前に1時間をかけて予習する。この授業で学習した内容は1時間をかけて復習する。
11	器具2	玉・父・車... 小テスト。	教材フォルダの講義資料のうち該当部分を印刷し、事前に1時間をかけて予習する。この授業で学習した内容は1時間をかけて復習する。
12	器具3	刀・辛・戈... 小テスト。	教材フォルダの講義資料のうち該当部分を印刷し、事前に1時間をかけて予習する。この授業で学習した内容は1時間をかけて復習する。
13	動作	又・口・之... 小テスト。	教材フォルダの講義資料のうち該当部分を印刷し、事前に1時間をかけて予習する。この授業で学習した内容は1時間をかけて復習する。
14	状態	束・阜・変... 小テスト。	教材フォルダの講義資料のうち該当部分を印刷し、事前に1時間をかけて予習する。この授業で学習した内容は1時間をかけて復習する。
15	単元テスト3 形状	第10回～第14回の理解度を確認する。 宇・王・弗... 小テスト。	この授業で学習した内容は1時間をかけて復習する。

関連科目	「中国語で読み解くⅡ」「中国語で表現するⅡ」「中国語で会話するⅡ」
------	-----------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	常用漢字コアイメージ辞典	加納喜光	中央公論社
	2			

	3		
評価方法 (基準)	小テスト 80% 授業参加度や提出物 20%		
学生への メッセージ	講義の内容をノートする必要は言うまでもないが、試験では複数の語から1つの共通性を帰納する能力を評価する。語の音と意味がいかに密接に結びついているかを授業を通して理解してほしい。		
担当者の 研究室等	7号館3階(中西研究室)		
備考	教材として、プリントを授業中に配布する。		

科目名	スペインの言語と文化	科目名 (英文)	Language & Culture Studies: Spain
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	安達 直樹
ディプロマポリシー (DP)	DP1△, DP6△		
科目ナンバリング	LDL2519e0		

授業概要・目的	スペイン語の基礎文法の学習を通して、スペインの諸地域の言語、文化、歴史について学ぶ。また、言語と社会つまり人間との関わりを考察する。
到達目標	初級文法の基礎が分かるようになる。簡単な文章を正確に読み理解するとともに、スペインの文化を知ることができる。
授業方法と留意点	*この科目は「地域言語科目」のうち、1年後期、及び2年前期開講のスペイン語の授業を履修している学生を対象とします。

科目学習の効果 (資格)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	第1課	名詞の性・数、冠詞、形容詞 「これは何ですか」	授業内容の予習復習
3	第2課	主語の代名詞、ser, estar、指示詞、前置詞	授業内容の予習復習
4	1, 2課まとめと応用	文法のまとめ 世界遺産の映像とそのテキスト読解: パルセロナ、バンブローナ	授業内容の予習復習
5	第3課	規則動詞現在形、国籍・言語の言い方、都市や住宅に関する語彙、文の種類	授業内容の予習復習
6	第4課	tener, ir, venir, querer, poder, ほか 不規則活用動詞、食事・あいさつの表現	授業内容の予習復習
7	3, 4課まとめと応用	世界遺産の映像とそのテキスト読解: オビエド、サンティアゴ・デ・コンポステラ	授業内容の予習復習
8	中間テスト	第1～4課までの内容	授業内容の予習復習
9	第5課	基数詞、時刻表現、比較級・最上級、家族・知人に関する表現	授業内容の予習復習
10	第6課	目的語の代名詞、gustar 型動詞、身体部位、hay	授業内容の予習復習
11	5, 6課まとめと応用	世界遺産の映像とそのテキスト読解: サラマンカ、アビラ	授業内容の予習復習
12	第7課	再帰動詞、天候などの表現、季節・月・曜日の表現、所有詞	授業内容の予習復習
13	7課まとめと応用	世界遺産の映像とそのテキスト読解: セゴビア	授業内容の予習復習
14	期末テスト	5～7課までの内容	授業内容の予習復習
15	前期内容まとめ テストのフィードバック	学習事項および学習内容について質疑応答	授業内容の予習復習

関連科目: スペイン語の科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	世界遺産で学ぶスペイン語	福嶋教隆ほか	朝日出版社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	臨時試験および中間テスト 70%、受講態度・授業中の受け答え 30%
学生へのメッセージ	予習復習自習を必ず行うこと。特に辞書を用いてテキストの文の意味を調べて授業に臨むこと。
担当者の研究室等	7号館5階 安達研究室
備考	クラスの規模や習熟度に応じて授業計画を適宜修正しうる。 事前・事後学習の総時間数として30時間以上を要す。

科目名	ラテンアメリカの言語と文化	科目名 (英文)	Language & Culture Studies: Latin America
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	北條 ゆかり
ディプロマポリシー (DP)	DP1Δ, DP6Δ		
科目ナンバリング	LDL2520e0		

授業概要・目的	スペイン語の基礎文法を学びながら、5億人規模のスペイン語話者を擁す広大なラテンアメリカの多様な文化と歴史について学ぶ。
到達目標	ラテンアメリカの言語と文化について学ぶことを通じて、なぜスペイン語がこれほどまでに広域言語となったのか、いかに格差の大きな多民族社会であるかを理解できるようになる。
授業方法と留意点	※この科目は「地域言語科目」のうち、1年後期、および2年前期開講のスペイン語の授業を履修している学生を対象とします。音声再生アプリ「リスニング・トレーナー」またはWebストリーミング音声をダウンロードし、事前・事後学習で活用してください。事前に予習すべき教科書部分は、第9課までは1年後期に「スペイン語文法Ⅰ」で学んだ範囲に当たるため、ちょうどよい復習と定着になります。第10課以降の理解も、2年前期前半に「スペイン語文法Ⅱ」で学ぶ内容に当たり、確認できます。
科目学習の効果 (資格)	スペイン語という国連公用語でもある広域言語の運用力を基礎固めし、同時にスペイン語圏の大部分を占めるラテンアメリカについて知る。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション:ラテンアメリカ地域とは?	スペイン語とはどんな言語か? :スペイン語圏、スペイン語のバリエーション、ラテンアメリカの諸文明と先住民言語、ラテンアメリカ起源の食べ物	事前:教科書 pp. 1-4 を読む 事後:マヤ、インカ、アステカの先住民文明について調べる
2	第1課:スペイン語で友だちになろう	米国のヒスパニック (=ラティーノ) (スペイン語のアクセントのルール)	事前:教科書 pp. 5-7 の予習 事後:米国にあるスペイン語に地名を探し、なぜスペイン語の地名が多いのかを調べる
3	第2課:慣用句を便利に使う	米国とメキシコの国境地帯 (名詞の性・数と冠詞、指示詞)	事前:教科書 pp. 9-11 の予習 事後:ラテンアメリカの市場 (メルカード) に溢れる民芸品について調べる
4	第3課:感動を伝えよう	メキシコの音楽 (動詞 ser、形容詞の語尾変化、感嘆文)	事前:教科書 pp. 13-15 の予習 事後:世界無形文化遺産メキシコ料理について調べる
5	第4課:いろいろな動詞を使う	メキシコの文化的多様性 (規則活用動詞、疑問詞、所有詞)	事前:教科書 pp. 17-19 の予習 事後:メキシコの観光地について調べる
6	第5課:お願いしたり、指示を理解しよう	グアテマラのアンティグア (tu と usted に対する肯定命令、動詞 estar)	事前:教科書 pp. 21-23 の予習 事後:ラテンアメリカの通貨事情について調べる
7	第6課:どこにいるか、何があるかを確認しよう	「中米のスイス」コスタリカ (動詞 estar と hay の使い分け、位置関係を表す語句、疑問詞)	事前:教科書 pp. 25-27 の予習 事後:コスタリカの教育制度について調べる
8	前半の振り返りと中間テスト	オリエンテーションで学習した基礎知識~第6課までの文法内容及び各テーマについて問われる	事前:第6課までの復習 事後:中間テストの添削
9	第7課:表現「しなければならぬ」「するつもり」	キューバの首都ハバナ (yo のみ不規則活用する動詞、tener、ir、天候の表現)	事前:教科書 pp. 29-31 の予習 事後:キューバの名所や音楽について調べる
10	第8課:許可を求めたり、相手の希望を訊ねたりしよう	キューバの歴史と現在 (不規則動詞 querer, poder, venir, oír, ver, dar、頻度の表現)	事前:教科書 pp. 17-19 の予習 事後:緯度と高度によるラテンアメリカ各地域の気候の多様性について調べる
11	第9課:好きなものを伝えよう	コロンビアのコーヒー産業 (目的格人称代名詞、動詞 gustar、前置格人称代名詞)	事前:教科書 pp. 37-39 の予習 事後:コロンビアの食文化について調べる
12	第10課:日常生活について話そう	黄金郷 El Dorado の伝説 (再帰動詞、時刻の表現、日付と曜日の表現)	事前:教科書 pp. 41-43 の予習 事後:ラテンアメリカの人びとの生活リズム
13	第11課:今していることや、これまでの経験の話そう	南米に渡った日本人 (現在分詞、進行形、過去分詞、現在完了、不定語・否定語)	事前:教科書 pp. 45-47 の予習 事後:ラテンアメリカと日本の関係について調べる
14	第12課:過去の出来事を伝えよう	インカ帝国の遺跡や街並み (点過去 (規則活用)、比較表現)	事前:教科書 pp. 49-51 の予習 事後:高地にある都市について調べる
15	総まとめ	既習項目の理解度確認	事前:総復習 事後:解答・解説の確認

関連科目	スペイン語の科目
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ラテアメ! スペイン語-ラテンアメリカ縦断-	柳田玲奈・吉野達也	朝日出版社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ポケット・プログレッシブ西和・和西辞典	高垣敏博ほか	小学館
2				
3				

評価方法 (基準)	臨時試験と中間テスト 60%、授業内の受け答えと調べもの課題への取組み 40%
学生への	

メッセージ	
担当者の研究室等	7号館5階 北條研究室
備考	事前・事後学習の総時間数として30時間以上を要す。

科目名	インドネシア語と生活文化	科目名 (英文)	Indonesian Language and Cultures of Daily Life
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	金子 正徳
ディプロマポリシー (DP)	DP1△, DP6△		
科目ナンバリング	LDL2521e0		

授業概要・目的	本講義は、インドネシア（及び東南アジア世界）に関心を持つ学生を対象に、インドネシアにおける衣・食・住および伝統文化や伝統芸能、宗教をとりあげ、これらの現代的な変化や将来的な課題について理解することを学修の到達目標とする。講義においては、ことわざや所作など生活に関わるインドネシア語の短いフレーズや語彙を合わせて学ぶ言語的な視点も含めて多角的な理解に取り組むことで、異文化を理解し、多文化の中で生きるための思考力を養成する。
到達目標	インドネシアにおける衣・食・住および伝統文化や伝統芸能、宗教をとりあげ、これらの現代的な変化や将来的な課題について理解する。
授業方法と留意点	※この科目は「地域言語科目」のうち、1年後期、及び2年前期のインドネシア語の授業を履修している学生を対象とします。

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	衣・食・住その①：都市	インドネシアの生活世界における衣・食・住について、都市に注目しながら、画像や映像などをもとにしながら学ぶ。	事前学習：インドネシアの都市について調べる。 事後学習：講義の内容について関心を持った点について、関連するインドネシア語の言葉を調べる。
3	衣・食・住その②：村落	インドネシアの生活世界における衣・食・住について、村落に注目しながら、画像や映像などをもとにしながら学ぶ。	事前学習：インドネシアの農村について調べる。 事後学習：講義の内容について関心を持った点について関連するインドネシア語の言葉を調べる。
4	生業（農林水産）その①	インドネシアの生業、特に農林水産業に関わる言葉や表現を、配布資料のほか、画像や映像などをもとにしながら学ぶ。	事前学習：インドネシアの農林水産業について調べる。 事後学習：講義の内容について関心を持った点について関連するインドネシア語の言葉を調べる。
5	生業（農林水産）その②	引き続き、インドネシアの生業、特に農林水産業に関わる言葉や表現を、配布資料のほか、画像や映像などをもとにしながら学ぶ。	事前学習：インドネシアの農林水産業について調べる。 事後学習：講義の内容について関心を持った点について関連するインドネシア語の言葉を調べる。
6	エネルギーと生活文化	インドネシアの人々の生活の中で、近年劇的な変化が続いている「エネルギー」の問題と、生活文化の変化を学ぶ。	事前学習：インドネシアの人々がこれまで使ってきた「燃料」について調べる。 事後学習：講義の内容について関心を持った点について関連するインドネシア語の言葉を調べる。
7	衛生・水・疾病	インドネシアの人々の生活の中で重要度が増している「衛生・水・疾病」の問題と、生活文化の変化を学ぶ。	事前学習：インドネシアにおける「水」や「疾病」の問題について調べる。 事後学習：講義の内容について関心を持った点について関連するインドネシア語の言葉を調べる。
8	伝統文化と世界観①	インドネシアにおける伝統文化と世界観について、いくつかの民族集団を取り上げながら紹介する。	事前学習：インドネシアにおける「慣習 (adat)」について調べる。 事後学習：講義の内容について関心を持った点について関連するインドネシア語の言葉を調べる。
9	伝統文化と世界観②	インドネシアにおける伝統文化の中でも特に舞踊・武術などの「身体表現」について学ぶ。	事前学習：インドネシアにおける伝統武術「puncak silat」について調べる。 事後学習：講義の内容について関心を持った点について関連するインドネシア語の言葉を調べる。
10	映像の中のインドネシア	インドネシアに関する短編のドキュメンタリー映画もしくは研究映像を見ることで、日本との世界観や生き方の違いを考える。	事前学習：インドネシア人の「人生観」について調べる。 事後学習：講義の内容について関心を持った点について関連するインドネシア語の言葉を調べる。
11	学校経験を比較する	インドネシアと日本の学校経験を比較しながら、それぞれが抱える課題や特徴を考える。	事前学習：インドネシアの「学校制度」について調べる。 事後学習：講義の内容について関心を持った点について関連するインドネシア語の言葉を調べる。
12	インドネシア人の国内移動（観光・就労・就学・移住）	インドネシア人の国内移動（観光・就労・就学・移住）にはどのような特徴があるのかを学ぶ。	事前学習：インドネシア人の「国内観光」について調べる。 事後学習：講義の内容について関心を持った点について関連するインドネシア語の言葉を調べる。
13	インドネシア人の海外移動（観光・就労・就学・移住）	インドネシア人の海外移動（観光・就労・就学・移住）にはどのような特徴があるのかを学ぶ。	事前学習：インドネシア人の「訪日観光」について調べる。 事後学習：講義の内容について関心を持った点について関連するインドネシア語の言葉を調べる。
14	宗教と生活文化	インドネシアの人々の生活のリズムを理解するために、日常の中の宗教の位置づけを学ぶ。	事前学習：インドネシアの「公定宗教」について調べる。 事後学習：講義の内容について関心を持った点について関連するインドネシア語の言葉を調べる。
15	まとめ	全体のまとめ	

関連科目	1年次・2年次の各インドネシア語科目、2年次・3年次の各接続科目（インドネシア・マレーシア関連）
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1	現代インドネシアを知るための60章	村井吉敬、間瀬朋子、佐伯奈津子 (編著)	明石書店
	2	インドネシアの基礎知識	加納啓良	めこん
	3			
評価方法 (基準)	平常点 (30%) 課題 (30%) 最終課題のレポート (40%) で評価する。			
学生への メッセージ	1年後期で身につけた初歩のインドネシア語をもとに、ちょっとずつインドネシアの人びとの生活文化を読み解いていきます。 語学の授業ではなかなか用いることができなかった多様な映像も取り入れつつ、東南アジアから多様に世界を捉え直すきっかけとなるような授業 になればいいなと思っています。			
担当者の 研究室等	金子研究室 (7号館5階)			
備考				

科目名	インドネシア語と現代文化	科目名 (英文)	Indonesian Language and Contemporary Cultures
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	浦野 崇央, 大坪 紀子
ディプロマポリシー (DP)	DP1Δ, DP6Δ		
科目ナンバリング	LDL2522e0		

授業概要・目的
われわれの生きる基盤ともいえる「文化」は、現代においては人々の行動を考える上での重要な要素となっている。グローバル化の真ただちにある今、現代文化の多様性と画一性を考えることは十分に意義のあることと言える。そこで、本授業においては現代文化を象徴するモノ、すなわち、SNS、ポピュラーミュージック、マンガ、アニメ、ゲーム等といったモノを題材に、インドネシアの現代文化の様相を考察する。考察にあたってはインドネシア語で書かれた一次資料を活用し、語学運用能力の向上に結びつけていく。

到達目標
インドネシア語運用能力を向上させることができ、さらにインドネシアの生の姿を知ることができる。

授業方法と留意点
本授業は、教員側からの講義も行うが、受講生もテーマに合わせて作業を行う。テーマに応じてディスカッション、グループワーク等を行う。授業時には辞書を必ず携行すること。
授業で課した課題等のフィードバックは翌週以後の授業時間中に行う。

※この科目は、「地域言語科目」のうち、1年後期および2年前期開講のインドネシア語の授業を履修している学生を対象とします。

科目学習の効果 (資格)
インドネシア語技能検定試験

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス [浦野・大坪]	授業の進め方を説明する。 インドネシアにかんする基礎知識を確認する。	インドネシアはどういった特徴をもつ国なのか、事前に調べておきましょう。
2	インドネシアの音楽① [浦野]	インドネシアの音楽事情を把握し、歌詞を翻訳することを通じて、インドネシア文化に触れる。	インドネシアの音楽事情について、事前に調べておきましょう。
3	インドネシアの音楽② [浦野]	インドネシアの音楽事情を把握し、歌詞を翻訳することを通じて、インドネシア文化に触れる。	翻訳するとはどういったことなのかを事前に把握しておきましょう。
4	インドネシアの音楽③ [浦野]	インドネシアの音楽事情を把握し、歌詞を翻訳することを通じて、インドネシア文化に触れる。	翻訳することになっているインドネシア語の歌詞を自然な日本語表現にするにはどのような工夫が必要かを考えてみましょう。
5	インドネシアのテレビ [浦野]	インドネシアのテレビ事情を把握し、人びとの日常を理解する。	配布プリント (インドネシアのテレビ番組表) を事前に目を通し、特徴を見つけ出してみましょう。
6	インドネシアのマンガ① [浦野]	インドネシア語で書かれたマンガ作品を読み、表現法について学ぶと同時に人びとの感性に触れてみる。	配布プリント (マンガ作品) を事前に読み込み、日本語に訳してみましょう。
7	インドネシアのマンガ② [浦野]	インドネシア語で書かれたマンガ作品を読み、表現法について学ぶと同時に人びとの感性に触れてみる。	配布プリント (マンガ作品) を事前に読み込み、日本語に訳してみましょう。
8	まとめ [浦野]	これまでに学んだことを再確認する。	これまでに学んだことを復習しましょう。
9	インドネシアのユーチューバーとインスタグラマー① [大坪]	インドネシアのユーチューバーやインスタグラマーたちを紹介し、それぞれが得意とする分野と背景を概観します。かなり早いテンポの日常会話を聞きながらシャドーイングとディクテーションも実施します。	聞き取れた表現や学んだ表現を復習しながら、日本語へ翻訳してみましょう。短いフレーズを覚えましょう。
10	インドネシアのユーチューバーとインスタグラマー② [大坪]	前回到引き続き、かなり早いテンポの日常会話を聞きながら、シャドーイングとディクテーションを実施します。K-POPや韓国のユースカルチャーが好きなインドネシアのユーチューバーが書いた韓国旅行記も読みます。	配布プリント (旅行記) を音読し、わからない単語や表現は調べたり、質問できるようにマークしておくこと。事後学習では、もう1度いぬいに翻訳してみましょう。
11	インドネシアのユーチューバーとインスタグラマー③ [大坪]	前回到引き続き、K-POPや韓国のユースカルチャーが好きなユーチューバーが書いた韓国旅行記を読みます。インドネシア出身の K-POP メンバーによる「自己紹介」に触れます。	旅行記については事前に、自然な日本語表現をいくつか考えてみましょう。自己紹介は、表情や身振りを加えて何度も練習してみましょう。
12	インドネシアのビデオゲーム① [大坪]	90年代後半のインドネシアを舞台とするビデオゲームのシーンを見ながら、表現法について学びます。またインドネシアの人びとの日常やジャワ島での慣習などについても知識を得ます。	配布プリントを事前に読み、何度も発音を練習しましょう。短いフレーズの表現を覚えましょう。
13	インドネシアのビデオゲーム② [大坪]	前回到引き続き、ビデオゲームの代表的シーンを見ながら表現を学びます。またゲーム実況者の動画を見ながら、日常の感情表現についても学びます。	配布プリントを事前に読み、何度も発音を練習しましょう。短いフレーズの表現を翻訳しましょう。
14	インドネシアのビデオゲーム③ [大坪]	前回到引き続き、ビデオゲームの各シーンで引用されたインドネシアの歴史や音楽ジャンルなどについてとりあげ、知識を深めます。	配布プリントを事前に読み、何度も発音を練習しましょう。短いフレーズの表現を覚えましょう。どのシーンが気になったのか覚えておきましょう。
15	まとめ [大坪]	これまでに学んだことを確認し、受講生のみなさんそれぞれが関心をもったことを共有しましょう。	これまでに学んだことを復習しつつ、自分が関心を持ったことを説明できるようにしましょう。

関連科目
インドネシア語科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
-----	----	-----	-----	------

	1	プログレッシブインドネシア語辞典	舟田京子・高殿良博・左藤正範編	小学館
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業への積極的な参加度合い (40%) および到達度の確認を測る課題 (60%) 詳細は1回目の授業で伝える。			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	7号館4階 浦野研究室 7号館2階 非常勤講師室 (大坪)			
備考	事前事後学習時間の目安は、60時間以上とする。 質問は原則として授業時間中に受け付けることとする。			

科目名	グローバルスタディーズ (英語と諸地域)	科目名 (英文)	Global Studies (English-Speaking World)
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	高橋 真理子
ディプロマポリシー (DP)	DP1Δ, DP6Δ		
科目ナンバリング	LDL2528c0		

授業概要・目的	本授業では、世界に広がる英語と関連する文化について概観し、学ぶことを目的とする。 ※この科目は「地域研究プロジェクト (英語と諸地域)」の対応科目です。
到達目標	英語の世界各地における特徴および役割について、文化と合わせて理解を深める。
授業方法と留意点	テーマに応じて、視聴覚教材も用いながら授業を進める。グループディスカッションへの貢献など、積極的な参加を求める。 テストやプレゼンテーションに関するフィードバックは随時、授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。

科目学習の 効果 (資格)	<ul style="list-style-type: none"> ・教員養成 ・異文化理解 ・教養
------------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	イギリスの英語と文化	英語の起源、イングランド地域における英語の諸相、イギリスの文化	イギリスの英語と文化についての予習・復習 (4時間)
3	アメリカの英語と文化	アメリカ英語の歴史と現状、アメリカの文化	アメリカの英語と文化についての予習・復習 (4時間)
4	カナダの英語と文化	カナダ英語の歴史と現状、カナダの文化	カナダの英語と文化についての予習・復習 (4時間)
5	オーストラリアの英語と文化	オーストラリア英語の歴史と現状、オーストラリアの文化	オーストラリアの英語と文化についての予習・復習 (4時間)
6	ニュージーランドの英語と文化	ニュージーランド英語の歴史と現状、ニュージーランドの文化	ニュージーランドの英語と文化についての予習・復習 (4時間)
7	南アジアの英語と文化	南アジアへの英語の広まり、インドにおける英語の役割、インドの文化	南アジアの英語と文化についての予習・復習 (4時間)
8	東南アジアの英語と文化	東南アジアへの英語の広まり、フィリピン、シンガポール、マレーシアにおける英語の役割と文化	東南アジアの英語と文化についての予習・復習 (4時間)
9	アフリカの英語と文化	アフリカへの英語の広まり、南アフリカとガーナにおける英語の役割と文化	アフリカの英語と文化についての予習・復習 (4時間)
10	j 授業内テスト	前週までの内容に関する授業内テスト、解説、フィードバック	授業内テストに備えた予習・授業内テストの振り返り (4時間)
11	カリブ海諸国の英語と文化	カリブ海諸国への英語の広まり、ジャマイカの英語と文化	カリブ海諸国の英語と文化についての予習・復習 (4時間)
12	ヨーロッパと中東における英語と文化	大陸ヨーロッパおよび中東における英語の役割、英語に関連する文化	ヨーロッパと中東における英語と文化についての予習・復習 (4時間)
13	東アジアにおける英語と文化①	日本と韓国における英語の役割、英語に関連する文化	日本と韓国における英語と文化についての予習・復習 (4時間)
14	東アジアにおける英語と文化②	中国とモンゴルにおける英語の役割、英語に関連する文化	中国とモンゴルにおける英語と文化についての予習・復習 (4時間)
15	期末プレゼンテーション	期末プレゼンテーション、フィードバック	期末プレゼンテーションの準備と、授業内容の総復習 (4時間)

関連科目	地域研究プロジェクト (英語と諸地域)
------	---------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	World Englishes 入門	大石晴美・今村洋美編	昭和堂
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	English around the World: An Introduction	Edgar W. Schneider	Cambridge University Press
	2	Global Englishes	Jennifer Jenkins	Routledge
	3			

評価方法 (基準)	授業への積極的な参加 20% 課題 10% 授業内テスト 40% 期末プレゼンテーション 30%
-----------	---

学生へのメッセージ	英語は世界の様々な地域で使われています。世界に広がる英語の現状や特徴、英語に関連する文化について学んでみましょう。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館4階 高橋研究室
----------	-------------

備考	授業内容については、進度等により調整する場合があります。毎回の授業のための教科書の読み込み、担当者からの課題、発表の準備などに要する事前・事後学習総時間は60時間程度とする。
----	---

科目名	グローバルスタディーズ (英語と諸地域)	科目名 (英文)	Global Studies (English-Speaking World)
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	フーバー トッド
ディプロマポリシー (DP)	DP1Δ, DP6Δ		
科目ナンバリング	LDL2528c0		

授業概要・目的	このコースの目的は、英語圏の国々を紹介し、これらの国々に存在するさまざまな文化の概要を理解することです。 *この科目は「地域研究プロジェクト (英語と諸地域)」の対応科目です。
到達目標	英語圏の文化について理解を深めます。
授業方法と留意点	英語圏の文化のさまざまな側面に焦点を当てた資料が紹介されます。授業で扱ったトピックに関連したディスカッションやプレゼンテーションに参加します。 フィードバックは授業内で適宜行います。
科目学習の効果 (資格)	教員養成 異文化理解 教養

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	シラバスの概要と世界英語の紹介	レビューのための活動 1時間
2	文化論: 違いを発見する	本質主義的な文化観について学び、議論する。	授業資料のプレビューとレビュー 1時間
3	文化論: つながりを見つける	非本質主義的な文化観について学び、議論する。	授業資料のプレビューとレビュー 1時間
4	英語圏の文化・映画	英語圏の文化を映画で学び、議論する。	授業資料のプレビューとレビュー 1時間
5	英語圏の文化・映画	英語圏の文化を映画で学び、議論する。	授業資料のプレビューとレビュー 1時間
6	英語圏の文化・映画	英語圏の文化を映画で学び、議論する。	授業資料のプレビューとレビュー 1時間
7	英語圏の文化・文学	英語圏の文化を文学で学び、議論する。	授業資料のプレビューとレビュー 1時間
8	英語圏の文化・文学	英語圏の文化を文学で学び、議論する。	授業資料のプレビューとレビュー 1時間
9	英語圏の文化・文学	英語圏の文化を文学で学び、議論する。	授業資料のプレビューとレビュー 1時間
10	英語圏の文化・コミック	英語圏の文化について、コミックで学び、議論する。	授業資料のプレビューとレビュー 1時間
11	英語圏の文化・コミック	英語圏の文化について、コミックで学び、議論する。	授業資料のプレビューとレビュー 1時間
12	英語圏の文化・コミック	英語圏の文化について、コミックで学び、議論する。	授業資料のプレビューとレビュー 1時間
13	英語圏の文化・習慣	英語圏の文化や習慣について学び、議論する。	授業資料のプレビューとレビュー 1時間
14	英語圏の文化・習慣	英語圏の文化や習慣について学び、議論する。	授業資料のプレビューとレビュー 1時間
15	英語圏の文化・習慣	英語圏の文化や習慣について学び、議論する。	授業資料のプレビューとレビュー 1時間

関連科目	地域研究プロジェクト (英語と諸地域)
------	---------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業への積極的な参加 30% 小テストとアクティビティ 30% プレゼンテーション 40%
-----------	---

学生へのメッセージ	このクラスでは、英語圏の文化について多くを学び、世界のどの国の人とも簡単につながりを持つことができる異文化間コミュニケーションのアプローチを学びます。
-----------	---

担当者の研究室等	フーバー研究室 (7号館 3階)
----------	------------------

備考	授業内容については、進度等により調整する場合があります。毎回の授業のための資料を読み込み、担当者からの課題、発表の準備などに要する事前・事後学習総時間は60時間程度とします。テストやプレゼンテーションに関するフィードバックは随時、授業内で行います。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応します。
----	--

科目名	グローバルスタディーズ (東アジア世界)	科目名 (英文)	Global Studies (East Asia)
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	中西 正樹
ディプロマポリシー (DP)	DP1Δ, DP6Δ		
科目ナンバリング	LDL2529e0		

授業概要・目的	日本では「アジア雑貨」「アジアンフード」のように日本をアジアの外側と位置づける立場もあります。しかし実際には地図の上で日本は東アジアの一部に位置するうえ、古くから中国や台湾、朝鮮、モンゴル、ベトナムなどの東アジア地域と文化的なつながりを持ってきました。とりわけ関西地方は東アジア地域と密接につながっていたことから、古いものから新しいものまでを身近なところで目にすることができます。この授業は、それぞれの地域のことを個々に切り分けて学ぶのではなく、日本との関係を出発点にこれら地域の歴史や文化を探ることが目的です。 ※この科目は「地域研究プロジェクト (東アジア世界)」の対応科目です。
到達目標	東アジア各地域が文化的な多様性を展開するとともに、常に連携し、時に対立しながら一つの世界を形成していたことに関心を寄せ、日本とこれら地域とのつながりに関して課題を探求することができる。また、その過程で学んだことを第三者に明確かつ具体例を示しながら説明することができる。
授業方法と留意点	授業は主に演習形式で行います。学期中に2回の学外授業を実施しますので、そのための事前調査および事後の報告が授業の中心になります。これらの活動はグループを単位として実施しますので、グループの各メンバーは自分に与えられた役割を確実に果たすことを求められます。報告や提出物 (報告に使ったPPT) に対して授業の中でフィードバックを行います。※すでに学外授業の日程を決めています。土曜日などに実施しますので、必ず下の「授業計画」で日程を確認してスケジュールしておいてください。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験、ハングル能力検定試験のそれぞれ4級程度、および通訳案内士資格取得に必要な文化的知識。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業のスケジュール (講義と校外学習 10/7・現地調査 11/16)	授業の下調べおよび 学生同士のディスカッションをしておくこと 1 時間
2	国立民族学博物館の概要と実習課題	報告例を聞いたあとと質疑応答。展示の概要を把握したあと、調査グループを作る。	授業の下調べおよび 学生同士のディスカッションをしておくこと 1 時間
3	10/7 民博実習の事前調査	グループごとに調査のテーマを決め、まとめた案を報告する。役割分担を決めたうえ PPT の雛形を作成し、共有設定する。	授業の下調べおよび 学生同士のディスカッションをしておくこと 1 時間
4	発表資料の作成と報告の準備①	グループごとに資料を作成し、報告の手順を打ち合わせる。	授業の下調べおよび 学生同士のディスカッションをしておくこと 1 時間
5	発表資料の作成と報告の準備②	グループごとに資料を作成し、報告の手順を打ち合わせる。	授業の下調べおよび 学生同士のディスカッションをしておくこと 1 時間
6	民博実習報告①中国・台湾	10/7 民博実習および文献で調査したことをグループ単位で報告する。	授業の下調べおよび 学生同士のディスカッションをしておくこと 1 時間
7	民博実習報告②朝鮮・極東	10/7 民博実習および文献で調査したことをグループ単位で報告する。	授業の下調べおよび 学生同士のディスカッションをしておくこと 1 時間
8	民博実習報告③モンゴル・ベトナム	10/7 民博実習および文献で調査したことをグループ単位で報告する。	授業の下調べおよび 学生同士のディスカッションをしておくこと 1 時間
9	11/16 現地調査の方法	東アジアに関連する調査地の選定と報告。	授業の下調べおよび 学生同士のディスカッションをしておくこと 1 時間
10	発表資料の作成と報告の準備①	グループごとに資料を作成し、報告の手順を打ち合わせる。	授業の下調べおよび 学生同士のディスカッションをしておくこと 1 時間
11	発表資料の作成と報告の準備②	グループごとに資料を作成し、報告の手順を打ち合わせる。	授業の下調べおよび 学生同士のディスカッションをしておくこと 1 時間
12	現地調査報告①	11/16 現地調査および文献調査の結果をグループ単位で報告・質疑応答・講評する。	授業の下調べおよび 学生同士のディスカッションをしておくこと 1 時間
13	現地調査報告②	11/16 現地調査および文献調査の結果をグループ単位で報告・質疑応答・講評する。	授業の下調べおよび 学生同士のディスカッションをしておくこと 1 時間
14	現地調査報告③	11/16 現地調査および文献調査の結果をグループ単位で報告・質疑応答・講評する。	授業の下調べおよび 学生同士のディスカッションをしておくこと 1 時間
15	現地調査報告④	11/16 現地調査および文献調査の結果をグループ単位で報告・質疑応答・講評する。	授業の下調べおよび 学生同士のディスカッションをしておくこと 1 時間

関連科目 地域研究プロジェクト (東アジア世界)

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準) 授業への参加度 (プレゼンへの貢献や他の発表に対する発言) : 70%
テスト : 30%

学生へのメッセージ あらゆる物や事に対して「なぜ?」と問うこと、その答えを模索する態度を大切にしたいと考えています。

担当者の 中西研究室 (7号館3階)

研究室等	
備考	

科目名	グローバルスタディーズ (スペイン語と諸地域)	科目名 (英文)	Global Studies (Spanish-Speaking World)
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	安達 直樹
ディプロマポリシー (DP)	DP1Δ, DP6Δ		
科目ナンバリング	LDL2530e0		

授業概要・目的
本講義ではスペインの歴史および「スペイン語圏」が形成される経緯を概観する。すなわち、古代ローマからルネサンス・大航海時代とその後の植民地支配に関する基礎知識を得る。また、現代にもおよぶスペインとラテンアメリカ諸国との関係についても考える。

※国際学部では、この科目は「地域研究プロジェクト (スペイン語と諸地域)」の対応科目です。

到達目標
講義内容を自らの思考を介してノートに書きとめることができる。スペインの歴史の概要と、現代の社会のありようを知ることができる。

授業方法と留意点
※この科目は「地域研究プロジェクト (スペイン語と諸地域)」の対応科目です。
講義を主体とするが、学生によるグループワークおよびプレゼンテーションも行いうる。講義は、毎回聞き流さずにきちんとノートをとること。その際、聴覚で得た情報を要約しながら自分の言葉で文字化することを心掛けること。プリントなどの資料を対面講義でも Webfolder でも配布する。
フィードバックは授業内で適宜行う。

科目学習の効果 (資格)
対応するプロジェクトのための基礎知識

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業概要の説明	シラバス、カリキュラムを確認しておく
2	スペインの地理①	ヨーロッパの地図 スペイン語で国名をいう 地形 (山脈・河川など) の名称	予習復習
3	スペインの地理②	スペインの自治州の位置と名称および各州都の名称	予習復習
4	スペインの歴史①	先史時代、ケルト・イベリア、フェニキア、ギリシア、ローマ	予習復習
5	スペインの歴史②	古代ローマ、ヒスパニア、現在に残る遺跡	予習復習
6	スペインの歴史③	ローマ、西ゴート王国、イスラーム、レコンキスタ	予習復習
7	中間テストとその概説	1～6回目までの講義内容	予習復習
8	スペインの歴史④	中世ヨーロッパ、キリスト教、学問と大学	予習復習
9	スペインの歴史⑤	ルネサンス、大航海時代	予習復習
10	スペインの歴史⑥	スペイン帝国、植民地支配	予習復習
11	スペインの歴史⑦	近現代のスペイン	予習復習
12	スペインの社会①	スペインの諸言語、社会言語学の問題	予習復習
13	スペインの社会②	スペイン語圏の中のスペイン、スペインとラテンアメリカ諸国	予習復習
14	スペインの社会③	スペインとヨーロッパ、EU	予習復習
15	期末テストとその概説	8～14回目の講義内容	振り返り

関連科目
地域研究プロジェクト (スペイン語と諸地域)

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)
中間テストおよび期末テスト70%、プレゼンを含む毎回の受講態度30%

学生へのメッセージ
予備知識 (世界史等) が必要なのでとにかく読書する習慣をつけよう。
プリントなどは対面でも Webfolder などでも一度しか配布しない。欠席により不利益を被らないよう意識的に努めること。

担当者の研究室等
7号館5階 安達研究室

備考
クラスの規模や学習の状況に応じて、プレゼンテーションの実施の有無なども含め、授業計画および方法を変更しうる。参考図書などは随時提示する。

科目名	グローバルスタディーズ (東南アジア世界)	科目名 (英文)	Global Studies (Southeast Asia)
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	浦野 崇央
ディプロマポリシー (DP)	DP1Δ, DP6Δ		
科目ナンバリング	LDL2531e0		

授業概要・目的
本講義の目的は、「東南アジア世界」に関する知見を広げ、深めることである。「東南アジア世界」とは、インドネシア・カンボジア・シンガポール・タイ・東ティモール・フィリピン・ブルネイ・ベトナム・マレーシア・ミャンマー・ラオスの11カ国を指すが、本授業ではその中でも特にインドネシアを取り上げ、アプローチすることとしたい。ただし、インドネシアと結びつきの深い、東南アジアの他の国々、さらには日本との関係性についても適宜言及する。

※国際学部では、この科目は「地域研究プロジェクト (東南アジア世界)」の対応科目です。

到達目標
インドネシア語が話されている地域のことを学ぶ意義が理解できる。
インドネシア語が話されている地域に関する基本的な知識を得ることができる。
社会・文化的多様性をもつインドネシアを知ることで、柔軟な思考を養うことができる。

授業方法と留意点
プリント教材や映像資料を用いての講義形式を中心としつつも、受講生が主体的にグループディスカッションやプレゼンテーションを行い、さらにはレポート課題をこなしてもらうこととする。
本授業は、遅刻厳禁である。その点を十分に理解したうえで受講すること。
授業で課した課題のフィードバックは授業時間中に行う。

科目学習の効果 (資格)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業内容、授業の進め方、評価基準等についての説明を行う。 また、東南アジア世界を知ることの意味を考える。	「地域研究」という研究手法を確認しておくこと。
2	東南アジア世界の特徴	東南アジア世界の基本的知識を確認する。	最近の新聞報道から「東南アジア」関連のものを探してみる。
3	インドネシアのイメージ	インドネシアの魅力は何なのかを探る。	回りの人に「インドネシア」についてイメージすることを尋ねてみる。
4	インドネシアの特徴	インドネシアの概要について理解する。	インドネシアの地理を把握しておくこと。
5	インドネシアの歴史	インドネシアの建国の歴史を把握する。	中学・高校の歴史の授業でインドネシアについて何を学んだのかを復習しておくこと。
6	インドネシアの教育事情	インドネシアの教育事情について把握する。	インドネシアの教育と日本の教育の違いを把握すること。
7	インドネシアの文化と①	インドネシアの民族や言語事情を理解する。	インドネシア語の成り立ちを確認しておくこと。
8	インドネシアの文化と②	インドネシアの宗教事情を理解する。	インドネシアの宗教地図を作製すること。
9	インドネシア社会の風景	映画を通じて、インドネシア社会を捉えてみる。	インドネシアの社会風景についての小レポートをこなすこと。
10	インドネシアの交通・通信事情	インドネシアの交通や通信の状況について把握する。	インドネシアのインフラ事情を調べてみる。
11	日本との関係	インドネシアと日本のつながりを把握する。	インドネシアに暮らす日本人、日本に暮らすインドネシア人の滞在背景を探ってみよう。
12	インドネシアにおけるニッポン 日本におけるインドネシア	インドネシアの中の「ニッポン」、日本の中の「インドネシア」を探し出し、それらが何を象徴しているのかを把握する。	モノ、ヒト、コトのそれぞれにおいての「ニッポン」あるいは「インドネシア」としてどういったものが挙げられるでしょうか。考えてみましょう。
13	学生によるプレゼンテーション①	プレゼン発表会を実施する。	プレゼン資料を作成すること。
14	学生によるプレゼンテーション②	プレゼン発表会を実施する。	プレゼンの予行演習をすること。
15	まとめ	総括として、最終試験を実施し、インドネシアに関する知見を確認する。	これまでに学んだことを再確認すること。

関連科目
地域研究プロジェクト (東南アジア世界)、世界を学ぶ、エリアスタディーズ 東南アジア、インドネシア語科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	インドネシアの事典	石井米雄監修	同朋舎出版
2	東南アジア文化事典	信田敏宏編	丸善	
3	地図で見る東南アジアハンドブック	ユーク・テルトレ	原書房	

評価方法 (基準)
プレゼン課題への取り組み (30%)、授業への積極的な参加姿勢 (20%)、最終試験の結果 (50%) から総合的に判断する。

学生へのメッセージ
普段あまり接することのない「インドネシア」から何が見えてくるのかを考えてみましょう。必ずや新たな発見があるはずです。

担当者の研究室等
7号館4階 浦野研究室

備考
本授業のやり方は、受講者数によって一部変更する場合があります。初回の授業でそのことを説明します。
この授業の事前・事後学習は、総計60時間を目安とします。

科目名	英語で考える環境問題	科目名 (英文)	Environmental Issues in English
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	カーティス チュウ
ディプロマポリシー (DP)	DP1△, DP6△		
科目ナンバリング	LDL2532b0		

授業概要・目的	地球環境に関する情報を入手し、英語で意見を述べるできるようになります。
到達目標	CEFR-J[B1-1]を目標とし、地球環境な社会問題について、英語を使って自分の考えを表現し、他者とコミュニケーションをとることができる。
授業方法と留意点	リスニング、リーディング、ディスカッションに重点を置いた課題をこなしながら、地球環境における出来事について学習する。日本および世界の環境問題に精通していることが必要です。授業は、グループワークを中心としたアクティブラーニングスタイルで行います。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	SDGs and environmental issues SDGsと環境問題	SDGsと環境問題についてあつかった英語講義を聞き、理解を深める。	SDGsと環境問題に関する英語表現を勉強する (1時間)。
3	Climate change and global warming 気候変動・地球温暖化	気候変動・地球温暖化についてあつかった英語講義を聞き、理解を深める。	気候変動・地球温暖化に関する英語表現を勉強する (1時間)。
4	Nuclear and renewable energy 原子力・再生可能エネルギー	原子力と再生可能エネルギーについてあつかった英語講義を聞き、理解を深める。	原子力と再生可能エネルギーに関する英語表現を勉強する (1時間)。
5	Food production 食糧生産	食糧生産についてあつかった英語講義を聞き、理解を深める。	食糧生産に関する英語表現を勉強する (1時間)。
6	オンライン国際協働学習 (1) (Date might change)	世界的な問題を取り上げ、グループでプレゼンテーションを行い、他国の学生と交流します。	他国のパートナーからのプレゼンテーションを勉強する。
7	オンライン国際協働学習 (2) (Date might change)	世界的な問題を取り上げ、グループでプレゼンテーションを行い、他国の学生と交流します。	他国のパートナーからのプレゼンテーションを勉強する。
8	オンライン国際協働学習 (3) (Date might change)	世界的な問題を取り上げ、グループでプレゼンテーションを行い、他国の学生と交流します。	他国のパートナーからのプレゼンテーションを勉強する。
9	オンライン国際協働学習 (4) (Date might change)	世界的な問題を取り上げ、グループでプレゼンテーションを行い、他国の学生と交流します。	他国のパートナーからのプレゼンテーションを勉強する。
10	Deforestation 森林破壊	森林破壊についてあつかった英語講義を聞き、理解を深める。	森林破壊に関する英語表現を勉強する (1時間)。
11	Ocean pollution 海洋汚染	海洋汚染についてあつかった英語講義を聞き、理解を深める。	海洋汚染に関する英語表現を勉強する (1時間)。
12	Plastic waste 廃プラスチック	廃プラスチックについてあつかった英語講義を聞き、理解を深める。	廃プラスチックに関する英語表現を勉強する (1時間)。
13	Air pollution 空気汚染	空気汚染についてあつかった英語講義を聞き、理解を深める。	空気汚染に関する英語表現を勉強する (1時間)。
14	Sustainable City 持続可能な都市	持続可能な都市についてあつかった英語講義を聞き、理解を深める。	持続可能な都市に関する英語表現を勉強する (1時間)。
15	最終プレゼンテーションと振り返り	最終プレゼンテーションを行い、これまでの学びを振り返ります。	授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること (2時間)

関連科目	英語で考える社会問題
------	------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	SDGs x Discussion	Reiko Yoshihara, Chiyo Hayashi, Emi Itoi, Noriko Iwamoto, Audrey Morrell	Kinseido
	2	Think Smart - Critical Thinking in Critical Times	Michael Hood	Kinseido
	3			

評価方法 (基準)	平常点 (授業態度、宿題、発話活動等) 75% 共通課題 (プレゼンテーション) 25%
-----------	---

学生へのメッセージ	We will learn about a wide range of environmental issues across the globe in this course. In addition to learning about problems, we will also learn about potential solutions. Please be prepared to work in groups and research on different issues on a week
担当者の	カーティス講師室 (2号館2階)

研究室等	
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間を 60 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はチューデントアワーにて対応する。

科目名	英語で考える社会問題	科目名 (英文)	Social Issues in English
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	カーティス チュウ
ディプロマポリシー (DP)	DP1△, DP6△		
科目ナンバリング	LDL2533b0		

授業概要・目的	国際社会についての情報を英語で入手できるようになる。
到達目標	CEFR-J[BI-1]を目標とし、グローバルな社会問題について、英語を使って自分の考えを表現し、他者とコミュニケーションをとることができる。
授業方法と留意点	リスニング、リーディングとディスカッションを中心としたタスクをこなしながら、国際社会での出来事や教養を学んでいく。耳から入る英語の情報を漠然と聞き流すのではなく、集中して聞くタスクをこなしていくことで、グローバル化していく社会で起こる様々な出来事を整理して理解できるようにする。また日ごろから、日本語によるニュースや時事問題に習熟しておくことが必要になる。授業はペアワークを中心とした active learning 形式で実施する。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方など。社会問題に関わるトピックについての英語講義を聞きながら、自らの意見を英語で述べてみる。	社会問題に関わるトピックの英文記事をリサーチする (1時間)。
2	SDGs と社会問題	SDGs についてあつかった英語講義を聞き、理解を深める。	SDGs に関する英語表現を勉強する (1時間)。
3	SDGs と社会問題	SDGs についてあつかった英語講義を聞き、理解を深める。	SDGs に関する英語表現を勉強する (1時間)。
4	女性に優しい社会	女性に優しい社会についてあつかった英語講義を聞き、理解を深める。	女性に優しい社会に関する英語表現を勉強する (1時間)。
5	女性に優しい社会	女性に優しい社会についてあつかった英語講義を聞き、理解を深める。	女性に優しい社会に関する英語表現を勉強する (1時間)。
6	オンライン国際協働学習 (1) (Date might change)	世界的な問題を取り上げ、グループでプレゼンテーションを行い、他国の学生と交流します。	他国のパートナーからのプレゼンテーションを勉強する。
7	オンライン国際協働学習 (2) (Date might change)	世界的な問題を取り上げ、グループでプレゼンテーションを行い、他国の学生と交流します。	他国のパートナーからのプレゼンテーションを勉強する。
8	オンライン国際協働学習 (3) (Date might change)	世界的な問題を取り上げ、グループでプレゼンテーションを行い、他国の学生と交流します。	他国のパートナーからのプレゼンテーションを勉強する。
9	オンライン国際協働学習 (4) (Date might change)	世界的な問題を取り上げ、グループでプレゼンテーションを行い、他国の学生と交流します。	他国のパートナーからのプレゼンテーションを勉強する。
10	人口増加	人口増加についてあつかった英語講義を聞き、理解を深める。	人口増加に関する英語表現を勉強する (1時間)。
11	質の高い教育	質の高い教育についてあつかった英語講義を聞き、理解を深める。	質の高い教育に関する英語表現を勉強する (1時間)。
12	ブラック企業	ブラック企業についてあつかった英語講義を聞き、理解を深める。	ブラック企業に関する英語表現を勉強する (1時間)。
13	フードロス	フードロスについてあつかった英語講義を聞き、理解を深める。	フードロスに関する英語表現を勉強する (1時間)。
14	フードロス	フードロスについてあつかった英語講義を聞き、理解を深める。	フードロスに関する英語表現を勉強する (1時間)。
15	最終プレゼンテーションと振り返り	最終プレゼンテーションを行い、これまでの学びを振り返ります。	授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること (2時間)

関連科目	英語で考える環境問題
------	------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	SDGs x Discussion	Reiko Yoshihara, Chiyo Hayashi, Emi Itoi, Noriko Iwamoto, Audrey Morrell	Kinseido
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	平常点 (授業態度、宿題、発話活動等) 75% 共通課題 (プレゼンテーション) 25%
-----------	---

学生へのメッセージ	As our English improves to a certain level, we can start to use English to communicate serious issues, and this course provides the opportunity to do so. We will be using English to discuss issues in the global society so that we will become prepared to e
-----------	---

担当者の研究室等	カーティス講師室 (2号館2階)
----------	------------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は学生アワーにて対応する。
----	--

科目名	中国語を通して見る世界	科目名 (英文)	Global Issues in Chinese
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	孫 輝
ディプロマポリシー (DP)	DP1△, DP6△		
科目ナンバリング	LDL2534e0		

授業概要・目的	世界の動きは地球規模の問題を中国語のメディアを通して読み取り、日本メディアの態度と対比することで多角的な視野を身につける。災害や貧困、戦争、エネルギー、スポーツ、芸術などさまざまなトピックについて日本と中国語圏の間で関心の対象が同じなのか違うのか、どのような部分に着目し、何を発信しようとしているかについて議論する。また、メディアの政治的な立場によって取り上げる重点や評価が大きく異なることを知るとともに、その背景について考える。 本講義は中国語の文献の講読を通して、現代中国社会を理解することを目的とする。																																																																		
到達目標	現代中国の文化、社会的な背景知識が分かるようになる。 中国の社会現象、社会問題に対する理解が深められるようになる。																																																																		
授業方法と留意点	この科目は「地域言語科目」のうち、1年後期、2年前期、及び2年後期開講の中国語の授業を履修している学生を対象とする。 各テーマを中心に、理解度を把握するとともに、タイムリーな内容を加えて講義形式で授業を進める。授業はテキストを用意する必要がない、授業用資料は事前に Teams で配布する。授業内で課した課題に対して、口頭または文書でフィードバックを行う。																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>授業の進め方、成績の評価 雑誌・新聞・書籍の読解 (1)</td> <td>単語、本文の朗読、翻訳</td> <td>授業の内容を復習、次の内容を予習する。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>雑誌・新聞・書籍の読解 (2)</td> <td>単語、本文の朗読、翻訳</td> <td>授業の内容を復習、次の内容を予習する。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>雑誌・新聞・書籍の読解 (3)</td> <td>単語、本文の朗読、翻訳</td> <td>授業の内容を復習、次の内容を予習する。</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>雑誌・新聞・書籍の読解 (4)</td> <td>単語、本文の朗読、翻訳</td> <td>授業の内容を復習、次の内容を予習する。</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>雑誌・新聞・書籍の読解 (5)</td> <td>単語、本文の朗読、翻訳</td> <td>授業の内容を復習、次の内容を予習する。</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>雑誌・新聞・書籍の読解 (6)</td> <td>単語、本文の朗読、翻訳</td> <td>授業の内容を復習、次の内容を予習する。</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>雑誌・新聞・書籍の読解 (7)</td> <td>単語、本文の朗読、翻訳</td> <td>授業の内容を復習、次の内容を予習する。</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>復習、中間テスト</td> <td>これまでの内容を復習する</td> <td>授業の内容を復習、次の内容を予習する。</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>雑誌・新聞・書籍の読解 (8)</td> <td>単語、本文の朗読、翻訳</td> <td>授業の内容を復習、次の内容を予習する。</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>雑誌・新聞・書籍の読解 (9)</td> <td>単語、本文の朗読、翻訳</td> <td>授業の内容を復習、次の内容を予習する。</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>雑誌・新聞・書籍の読解 (10)</td> <td>単語、本文の朗読、翻訳</td> <td>授業の内容を復習、次の内容を予習する。</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>雑誌・新聞・書籍の読解 (11)</td> <td>単語、本文の朗読、翻訳</td> <td>授業の内容を復習、次の内容を予習する。</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>雑誌・新聞・書籍の読解 (12)</td> <td>単語、本文の朗読、翻訳</td> <td>授業の内容を復習、次の内容を予習する。</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>雑誌・新聞・書籍の読解 (13)</td> <td>単語、本文の朗読、翻訳</td> <td>授業の内容を復習、次の内容を予習する。</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめ、発表</td> <td>後半の内容を復習する</td> <td>授業の内容を復習、次の内容を予習する。</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	授業の進め方、成績の評価 雑誌・新聞・書籍の読解 (1)	単語、本文の朗読、翻訳	授業の内容を復習、次の内容を予習する。	2	雑誌・新聞・書籍の読解 (2)	単語、本文の朗読、翻訳	授業の内容を復習、次の内容を予習する。	3	雑誌・新聞・書籍の読解 (3)	単語、本文の朗読、翻訳	授業の内容を復習、次の内容を予習する。	4	雑誌・新聞・書籍の読解 (4)	単語、本文の朗読、翻訳	授業の内容を復習、次の内容を予習する。	5	雑誌・新聞・書籍の読解 (5)	単語、本文の朗読、翻訳	授業の内容を復習、次の内容を予習する。	6	雑誌・新聞・書籍の読解 (6)	単語、本文の朗読、翻訳	授業の内容を復習、次の内容を予習する。	7	雑誌・新聞・書籍の読解 (7)	単語、本文の朗読、翻訳	授業の内容を復習、次の内容を予習する。	8	復習、中間テスト	これまでの内容を復習する	授業の内容を復習、次の内容を予習する。	9	雑誌・新聞・書籍の読解 (8)	単語、本文の朗読、翻訳	授業の内容を復習、次の内容を予習する。	10	雑誌・新聞・書籍の読解 (9)	単語、本文の朗読、翻訳	授業の内容を復習、次の内容を予習する。	11	雑誌・新聞・書籍の読解 (10)	単語、本文の朗読、翻訳	授業の内容を復習、次の内容を予習する。	12	雑誌・新聞・書籍の読解 (11)	単語、本文の朗読、翻訳	授業の内容を復習、次の内容を予習する。	13	雑誌・新聞・書籍の読解 (12)	単語、本文の朗読、翻訳	授業の内容を復習、次の内容を予習する。	14	雑誌・新聞・書籍の読解 (13)	単語、本文の朗読、翻訳	授業の内容を復習、次の内容を予習する。	15	まとめ、発表	後半の内容を復習する	授業の内容を復習、次の内容を予習する。
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	授業の進め方、成績の評価 雑誌・新聞・書籍の読解 (1)	単語、本文の朗読、翻訳	授業の内容を復習、次の内容を予習する。																																																																
2	雑誌・新聞・書籍の読解 (2)	単語、本文の朗読、翻訳	授業の内容を復習、次の内容を予習する。																																																																
3	雑誌・新聞・書籍の読解 (3)	単語、本文の朗読、翻訳	授業の内容を復習、次の内容を予習する。																																																																
4	雑誌・新聞・書籍の読解 (4)	単語、本文の朗読、翻訳	授業の内容を復習、次の内容を予習する。																																																																
5	雑誌・新聞・書籍の読解 (5)	単語、本文の朗読、翻訳	授業の内容を復習、次の内容を予習する。																																																																
6	雑誌・新聞・書籍の読解 (6)	単語、本文の朗読、翻訳	授業の内容を復習、次の内容を予習する。																																																																
7	雑誌・新聞・書籍の読解 (7)	単語、本文の朗読、翻訳	授業の内容を復習、次の内容を予習する。																																																																
8	復習、中間テスト	これまでの内容を復習する	授業の内容を復習、次の内容を予習する。																																																																
9	雑誌・新聞・書籍の読解 (8)	単語、本文の朗読、翻訳	授業の内容を復習、次の内容を予習する。																																																																
10	雑誌・新聞・書籍の読解 (9)	単語、本文の朗読、翻訳	授業の内容を復習、次の内容を予習する。																																																																
11	雑誌・新聞・書籍の読解 (10)	単語、本文の朗読、翻訳	授業の内容を復習、次の内容を予習する。																																																																
12	雑誌・新聞・書籍の読解 (11)	単語、本文の朗読、翻訳	授業の内容を復習、次の内容を予習する。																																																																
13	雑誌・新聞・書籍の読解 (12)	単語、本文の朗読、翻訳	授業の内容を復習、次の内容を予習する。																																																																
14	雑誌・新聞・書籍の読解 (13)	単語、本文の朗読、翻訳	授業の内容を復習、次の内容を予習する。																																																																
15	まとめ、発表	後半の内容を復習する	授業の内容を復習、次の内容を予習する。																																																																
関連科目	「中国語で読み解くⅢ」「中国語で表現するⅢ」「中国語で会話するⅢ」「中国語圏の地域と共生」																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	小テスト、発表、授業に取り込む姿勢などを総合して評価する。 授業への参加度と発表：40% テスト：60%																																																																		
学生へのメッセージ	フレーズをたくさん覚えてコミュニケーション力を伸ばしましょう。 事前・事後に各60分の学習を要する。																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室																																																																		
備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日の昼休み時間に非常勤講師室を訪ねること。																																																																		

科目名	中国語圏の地域と共生	科目名 (英文)	Regional Issues and Inclusive Societies in the Chinese-Speak
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	兪 鳴蒙
ディプロマポリシー (DP)	DP1△, DP6△		
科目ナンバリング	LDL2535e0		

授業概要・目的	「中国語圏」と呼ばれる地域は中国大陸だけではなく、台湾や世界中に散らばる「華人」たちの生活圏も意味する。「中国語圏」はまた「中華圏」とも言う。この授業では、中国の南北文化をはじめに、少数民族、香港、台湾、華人世界の歴史・社会・文化について考える。
到達目標	中国語圏の各地域の歴史・社会・文化についての知識を習得し、その多様性を知り、それぞれの地域とその交流について理解を深めることができる。
授業方法と留意点	この科目は「地域言語科目」のうち、1年後期、2年前期、及び2年後期開講の中国語の授業を履修している学生を対象とする。講義形式で授業を行う。資料を配布するが、講義を聞きながらメモをすること。授業で課した課題については
科目学習の効果 (資格)	中国語圏への理解向上、中国語検定試験の合格などに役立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
			資料を読み、練習問題に解答する。事前学習に1時間、事後学習に1時間を要する。
1	中国の南北文化 (1)	北方文化	資料を読み、練習問題に解答する。事前学習に1時間、事後学習に1時間を要する。
2	中国の南北文化 (2)	南方文化	資料を読み、練習問題に解答する。事前学習に1時間、事後学習に1時間を要する。
3	中国の経済地域の区分	各地域の現状	資料を読み、練習問題に解答する。事前学習に1時間、事後学習に1時間を要する。
4	中国の少数民族 (1)	朝鮮族、満州族、モンゴル族	資料を読み、練習問題に解答する。事前学習に1時間、事後学習に1時間を要する。
5	中国の少数民族 (2)	ウイグル族、チベット族、その他	資料を読み、練習問題に解答する。事前学習に1時間、事後学習に1時間を要する。
6	台湾 (1)	台湾の歴史	資料を読み、練習問題に解答する。事前学習に1時間、事後学習に1時間を要する。
7	台湾 (2)	台湾の社会と生活	資料を読み、練習問題に解答する。事前学習に1時間、事後学習に1時間を要する。
8	香港・マカオ	香港・マカオの歴史・社会・生活	資料を読み、練習問題に解答する。事前学習に1時間、事後学習に1時間を要する。
9	まとめ (1)	今までの講義をまとめたり、補足したりする。	資料を読み、練習問題に解答する。事前学習に1時間、事後学習に1時間を要する。
10	華人世界 (1)	華人のルーツ	資料を読み、練習問題に解答する。事前学習に1時間、事後学習に1時間を要する。
11	華人世界 (2)	チャイナタウン	資料を読み、練習問題に解答する。事前学習に1時間、事後学習に1時間を要する。
12	華人世界 (3)	新華僑	資料を読み、練習問題に解答する。事前学習に1時間、事後学習に1時間を要する。
13	外編 (1) : 中華文明	儒教・漢字・官僚制	資料を読み、練習問題に解答する。事前学習に1時間、事後学習に1時間を要する。
14	外編 (2) : 日中の「亥」	「イノシシ」なのか「ブタ」なのか	資料を読み、練習問題に解答する。事前学習に1時間、事後学習に1時間を要する。
15	まとめ (2)	今までの講義をまとめたり、補足したりする。	資料を読み、練習問題に解答する。事前学習に1時間、事後学習に1時間を要する。

関連科目	中国語で読み解くⅢ、中国語で表現するⅢ、中国語で会話するⅢ、中国語と生活文化、中国語圏での地域と共生
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	プリント配布		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	Farms への回答 60%、課題提出 40%。
-----------	--------------------------

学生へのメッセージ	中華圏に対する関心をより高め、中華圏に対する理解をより深めましょう。
-----------	------------------------------------

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	
----	--

科目名	スペインから世界を見る	科目名 (英文)	Spain as a Microcosm of Europe
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	安達 直樹
ディプロマポリシー (DP)	DP1Δ, DP6Δ		
科目ナンバリング	LDL2536e0		

授業概要・目的	スペイン語の基礎文法の学習を通して、スペインの諸地域の言語、文化、歴史について学ぶ。スペインの食、祭り、芸術、文学などのテーマごとに概観する。
到達目標	初級文法の基礎が分かるようになる。簡単な文章を正確に読み理解するとともに、スペインの文化を知ることができる。
授業方法と留意点	*この科目は「地域言語科目」のうち、1年後期、2年前期、及び2年後期開講のスペイン語の授業を履修している学生を対象とします。
科目学習の効果 (資格)	スペイン語検定 5 級レベル

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	第8課	点過去、副詞	予習復習
3	第9課	線過去、職業・施設に関する表現	予習復習
4	8, 9課のまとめと応用	世界遺産の映像とそのテキストの読解: マドリッド、アルカラ・デ・エナレス	予習復習
5	第10課	未来、過去未来	予習復習
6	第11課	現在分詞、過去分詞、現在完了、不定語・否定語、不定詞	予習復習
7	10, 11課のまとめと応用	世界遺産の映像とそのテキストの読解: トレド、グラナダ	予習復習
8	中間テスト	8~11課の内容	予習復習
9	第12課	能動文と受動文、2つの受動文、序数詞、疑問詞、宗教の表現	予習復習
10	第13課	関係詞、情報機器の語彙、複文、縮小辞・増大辞	予習復習
11	12, 13課のまとめと応用	世界遺産の映像とそのテキストの読解: コルドバ、セビリア	予習復習
12	第14課	命令法、接続法現在	予習復習
13	14課のまとめと応用	世界遺産の映像とそのテキストの読解: バレンシア	予習復習
14	期末テスト	12~14課の内容	予習復習
15	後期の学主内容のまとめ 期末テストのフィードバック	学習内容および方法についての質疑応答	予習復習

関連科目	スペイン語の科目、「スペインの言語と文化」
------	-----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	世界遺産で学ぶスペイン語	福嶋教隆ほか	朝日出版社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	臨時試験および中間テスト 70%、受講態度・授業中の受け答え 30%
学生へのメッセージ	予習復習自習を必ず行うこと。特に辞書を用いてテキストの文の意味を調べて授業に臨むこと。
担当者の研究室等	7号館5階 安達研究室
備考	前期開講の接続科目「スペインの言語と文化」と併せて受講すると効果的である。 事前・事後学習の総時間数として30時間以上を要す。

科目名	ラテンアメリカから世界を見る	科目名 (英文)	Contemporary Global Issues from Latin American Perspectives
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	北條 ゆかり
ディプロマポリシー (DP)	DP1Δ, DP6Δ		
科目ナンバリング	LDL2537e0		

授業概要・目的	現代世界の地球規模課題をめぐるラテンアメリカの前向きな取り組みについて、日本語文献とスペイン語の平易な文献を読み解きながら学ぶ。テーマの理解を深めるための視聴覚教材を用いる。
到達目標	グローバルサウスから眺めた世界の見え方が日本や欧米先進諸国とは異なることを知る。スペイン語で比較的平易な論文の内容を理解できるようになる。
授業方法と留意点	※この科目は「地域言語科目」のうち、1年後期、2年前期、及び2年後期開講のスペイン語の授業を履修している学生を対象とします。事前に配布される資料を読んだうえで授業に臨むこと。いずれのテーマについても、「日本ではどうか」という省察を加えてほしい。
科目学習の効果 (資格)	スペイン語技能検定5級

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業概要説明、ラテンアメリカとは？ (地域の概念とさまざまな呼称)	1年後期、2年前期に学習したスペイン語の文法を見直しておく
2	現代ラテンアメリカの政治・経済・社会状況：民主化とその後の課題、経済の市場化と貧困、国際社会のなかのラテンアメリカ	日本語及びスペイン語資料の読解と解説	事前に配布された資料を読んでおく 用語や語彙を日本語とスペイン語両言語で整理する
3	地球規模課題とは：人間の安全保障、MDGs と SDGs	日本語及びスペイン語資料の読解と解説	事前に配布された資料を読んでおく 用語や語彙を日本語とスペイン語両言語で整理する
4	非核兵器地帯の創設と世界の軍縮への貢献	日本語及びスペイン語資料の読解と解説	事前に配布された資料を読んでおく 用語や語彙を日本語とスペイン語両言語で整理する
5	地球環境政治におけるラテンアメリカの役割	日本語及びスペイン語資料の読解と解説	事前に配布された資料を読んでおく 用語や語彙を日本語とスペイン語両言語で整理する
6	草の根から世界を変える：世界社会フォーラムにみる国際的連帯	日本語及びスペイン語資料の読解と解説	事前に配布された資料を読んでおく 用語や語彙を日本語とスペイン語両言語で整理する
7	セクシュアリティの多様性をめぐるラテンアメリカ社会の変容	日本語及びスペイン語資料の読解と解説	事前に配布された資料を読んでおく 用語や語彙を日本語とスペイン語両言語で整理する
8	中間レポート提出	前半のまとめ	ここまでで取り組んだテーマのなかからひとつを選び、さらに調べ、考察を深める。
9	グローバル世界を生きる先住民：権利回復から自己表象へ	レポートに対するコメント 日本語及びスペイン語資料の読解と解説	事前に配布された資料を読んでおく 用語や語彙を日本語とスペイン語両言語で整理する
10	多民族・複文化国家における教育の平等化	日本語及びスペイン語資料の読解と解説	事前に配布された資料を読んでおく 用語や語彙を日本語とスペイン語両言語で整理する
11	貧困問題への取り組み：ラテンアメリカの社会保障制度	日本語及びスペイン語資料の読解と解説	事前に配布された資料を読んでおく 用語や語彙を日本語とスペイン語両言語で整理する
12	メキシコの「麻薬戦争」と国際社会	日本語及びスペイン語資料の読解と解説	事前に配布された資料を読んでおく 用語や語彙を日本語とスペイン語両言語で整理する
13	国際人権レジームとラテンアメリカの人権保護	日本語及びスペイン語資料の読解と解説	事前に配布された資料を読んでおく 用語や語彙を日本語とスペイン語両言語で整理する
14	期末レポート提出	後半のまとめ	事前に配布された資料を読んでおく 用語や語彙を日本語とスペイン語両言語で整理する
15	学習内容の振り返り	レポートに対するコメントと参考文献案内	総復習

関連科目 全てのスペイン語関連の科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	資料を配布		
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準) 授業への参加度、予習、復習 50%、中間、期末レポート 50%

学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	7号館5階 北條研究室
備考	事前・事後学習の総時間数として30時間以上を要す。 クラスの規模や習熟度に応じて授業計画を適宜修正しうる。

科目名	インドネシア語で世界を知る	科目名 (英文)	Understanding the World in Indonesian
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	金子 正徳
ディプロマポリシー (DP)	DP1Δ, DP6Δ		
科目ナンバリング	LDL2538e0		

授業概要・目的	本講義は、特に、宗教・政治・経済・社会問題を取り上げ、インドネシアの人々がどのように世界を捉えているかをインドネシア語で理解することを学修の到達目標とする。本講義では、各回それぞれのトピックスを設定し、日本・インドネシア・その他の国/地域（さらには個々の国・地域の中で、個々の国・地域を横断して）存在する多様な立場や関係性を認識することで、グローバル化の中での世界をより深く理解し、多様性の中で生きるための思考力を養成する。
到達目標	インドネシアの人々が捉えている世界のさまざまな事象について、インドネシア語で理解できる。
授業方法と留意点	※この科目は「地域言語科目」のうち、1年後期、2年前期、及び2年後期開講のインドネシア語の授業を履修している学生を対象とします。
科目学習の効果 (資格)	インドネシア語技能検定C級に向けた、社会や文化の基礎知識

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	はじめに	本講義の目的・概要・進め方、など	事前学習：インドネシアと日本の関係について調べる。 事後学習：講義の内容について関心を持った点について、関連するインドネシア語の言葉を調べる。
2	香辛料とカカオ	私たちが当たり前のように消費している香辛料やカカオは、インドネシアのような熱帯地域で作られている。生産者としてのインドネシア人にとって、このような一次産品がどのような意味を持つのかを考える	事前学習：インドネシアで栽培されている「香辛料」について調べる。 事後学習：講義の内容について関心を持った点について、関連するインドネシア語の言葉を調べる。
3	コメと小麦	米はインドネシアの多くの地域で主食として食べられている。他方で、インドネシアでは栽培できない小麦もまた、インドネシアでは非常に多く消費されている。穀物の社会的・文化的影響を考える。	事前学習：インドネシアでよく食べられている「小麦製品」について調べる。 事後学習：講義の内容について関心を持った点について、関連するインドネシア語の言葉を調べる。
4	木材・木炭	自宅にある家具の生産地を見てみよう。特にカラーボックスのような安価な家具は、インドネシア（マレーシア）などが生産地であることも多い。また、キャンプで用いる木炭もまたインドネシア（マレーシア、あるいはベトナムなど）のマングローブ林が焼かれて輸入されている。ものを介する国際関係を再考する。	事前学習：自宅にあるインドネシア製家具について調べる。 事後学習：講義の内容について関心を持った点について、関連するインドネシア語の言葉を調べる。
5	化石燃料（石油/天然ガス）	「インドネシアの生活文化」で学んだことを発展させて、国際的な石油や天然ガスの流通がインドネシアにもたらす影響について考える。	事前学習：インドネシアにおける石油・天然ガスについて調べる。 事後学習：講義の内容について関心を持った点について、関連するインドネシア語の言葉を調べる。
6	パームオイル	油ヤシは、ヤシ油（パームオイル）を作り出すために必要な植物であり、環境保護の側面から多用される一方で、環境破壊にもつながる問題を孕んでいる。日本では育たない油ヤシに大きく依存している私たちの生活を振り返りながら、インドネシアの人々が抱える課題を考える。	事前学習：日本で用いられているパームオイル由来の製品とその産地について調べる。 事後学習：講義の内容について関心を持った点について、関連するインドネシア語の言葉を調べる。
7	国際政治（G20 など）	東南アジア最大の人口を抱える国として、インドネシアは国際社会での地位を高めつつある。国際政治の中でのインドネシアの立ち位置と課題を考える。	事前学習：2022年にバリ島で開催されたG20会合について調べる。 事後学習：講義の内容について関心を持った点について、関連するインドネシア語の言葉を調べる。
8	国際スポーツ	サッカー世界大会やオリンピックなどで、インドネシアはどのような競技に力を入れているのか、あるいは日本との選手交流はどうなっているのか、などを考える。	事前学習：インドネシア選手がメダルをとった過去のオリンピック競技について調べる。 事後学習：講義の内容について関心を持った点について、関連するインドネシア語の言葉を調べる。
9	宗教	「インドネシアの生活文化」で学んだことを発展させて、国際的な文脈で「宗教」がインドネシアに及ぼす影響について考える。	事前学習：「メッカ巡礼」について調べる。 事後学習：講義の内容について関心を持った点について、関連するインドネシア語の言葉を調べる。
10	海洋	日本と同様に広大な海域と多数の島で構成されるインドネシアにとって、海洋は非常に重要な意味を持つ。その多様な意味と、その海を生活の場とする人々について考える。	事前学習：海を住処とするインドネシアの人々について調べる。 事後学習：講義の内容について関心を持った点について、関連するインドネシア語の言葉を調べる。
11	アート	今、モダンアートの世界や、映画音楽の世界などにおいて、インドネシア人のアーティストが注目を集めている。クリエイティビティについて考えていく。	事前学習：インドネシアのモダンアートについて調べる。 事後学習：講義の内容について関心を持った点について、関連するインドネシア語の言葉を調べる。
12	開発援助	日本とインドネシアの戦後史の中で、開発援助は非常に重要な意味を持っていた。その歴史の変遷と将来の可能性について調べる。	事前学習：日本がインドネシアに対して行った開発援助について調べる。 事後学習：講義の内容について関心を持った点について調べる。

			いて考える。	いて、関連するインドネシア語の言葉を調べる。																
	13	災害	多様な災害が国際的な関係の中で、インドネシアにとってどのような課題を突きつけているのかを考える。	事前学習：近年インドネシアを襲った自然災害について調べる。 事後学習：講義の内容について関心を持った点について、関連するインドネシア語の言葉を調べる。																
	14	伝統文化	近代化が進む中で、伝統文化の継承が今大きな課題となっている。「インドネシアの生活文化」で学んだ内容を発展させながら、インドネシアにおける伝統文化をめぐり課題を考える。	事前学習：インドネシアの「伝統文化」について調べる。 事後学習：講義の内容について関心を持った点について、関連するインドネシア語の言葉を調べる。																
	15	まとめ	全体のまとめ																	
関連科目	1年次・2年次の各インドネシア語科目、2年次・3年次の各接続科目（インドネシア・マレーシア関連）																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	平常点 (30%) 課題 (30%) 最終課題のレポート (40%) で評価する。																			
学生への メッセージ	2年生前期の「インドネシア語と生活文化」では人々の生活の視線からインドネシアを捉え直しましたが、この講義では、まさに今私たちが日本で見ている世界の動きが、インドネシアの人々の立場からはどう見えるのか、あるいはそれに対してどのようなアクションを起こしているのかを学ぶことを目的としています。教員にとってもかなりチャレンジングな授業ですから、一緒にこの時代を多角的に読み解いていきましょう。																			
担当者の 研究室等	金子研究室 (7号館5階)																			
備考																				

科目名	マレー語圏の地域を知る	科目名 (英文)	Understanding the Malay World
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	エニ レスタリ
ディプロマポリシー (DP)	DP1△, DP6△		
科目ナンバリング	LDL2539e0		

授業概要・目的	マレー語は、古くから東南アジア海域社会での共通語として広く使用されてきた。現在、マレー語を国語と定めている国はマレーシア、ブルネイ、シンガポールの三国だが、インドネシアやフィリピン南部、タイ南部、東ティモールなどは、広くマレー語圏として捉えることが可能である。本授業では、マレー語がどのような広がりを見せてきたのかを、まず歴史的に捉えることから始める。その上で、現代においてマレー語がそれぞれの国でどのような使われ方をしているのかを見ていく。																																																																		
到達目標	さまざまな国におけるマレー語の役割について、より深い知識が得られることができる。																																																																		
授業方法と留意点	この科目は「地域言語科目」のうち、1年後期、2年前期及び2年後期開講のインドネシア語の授業を履修している学生を対象とします。																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>マレー語の歴史</td> <td>マレー語について</td> <td>授業に学習した内容を復習する。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>マレー語の文学</td> <td>マレー語の文学作品の紹介</td> <td>授業に学習した内容を復習する。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>インドネシアにおけるマレー語</td> <td>インドネシアの地域に使われているマレー語</td> <td>授業に学習した内容を復習する。</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>マレーシアにおけるマレー語</td> <td>マレーシアでのマレー語の現状</td> <td>授業に学習した内容を復習する。</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>シンガポールにおけるマレー語</td> <td>シンガポールについてのマレー語現状</td> <td>授業に学習した内容を復習する。</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>ブルネイ王国におけるマレー語</td> <td>ブルネイ王国にてのマレー語現状</td> <td>授業に学習した内容を復習する。</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>フィリピンやタイにおけるマレー語</td> <td>フィリピンやタイにてのマレー語現状</td> <td>授業に学習した内容を復習する。</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>第1回目～7回目までのまとめ。</td> <td>レポートの発表</td> <td>レポート提出と発表内容の学習。</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>マレー語の新聞記事</td> <td>マレー語の新聞記事を読む</td> <td>授業で学習した内容を復習する。</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>マレー語のニュース</td> <td>マレー語のニュースを聞く</td> <td>授業で学習した内容を復習する。</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>マレー語の歌</td> <td>マレー語の歌を聞く</td> <td>授業で学習した内容を復習する。</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>様々な国におけるマレー語の類似点と相違点</td> <td>様々な国におけるマレー語の類似点と相違点を学習する</td> <td>授業で学習した内容を復習する。</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>マレー語の映画</td> <td>マレー語の映画を見る</td> <td>授業で学習した内容を復習する。</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>第9回目～13回目のまとめ</td> <td>第9回目～13回目のまとめ・議論</td> <td>授業で学習した内容を復習する。</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>第9回目～13回目のまとめのレポートの発表</td> <td>第9回目～13回目のまとめの発表。</td> <td>レポートを提出と発表の学習。</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	マレー語の歴史	マレー語について	授業に学習した内容を復習する。	2	マレー語の文学	マレー語の文学作品の紹介	授業に学習した内容を復習する。	3	インドネシアにおけるマレー語	インドネシアの地域に使われているマレー語	授業に学習した内容を復習する。	4	マレーシアにおけるマレー語	マレーシアでのマレー語の現状	授業に学習した内容を復習する。	5	シンガポールにおけるマレー語	シンガポールについてのマレー語現状	授業に学習した内容を復習する。	6	ブルネイ王国におけるマレー語	ブルネイ王国にてのマレー語現状	授業に学習した内容を復習する。	7	フィリピンやタイにおけるマレー語	フィリピンやタイにてのマレー語現状	授業に学習した内容を復習する。	8	第1回目～7回目までのまとめ。	レポートの発表	レポート提出と発表内容の学習。	9	マレー語の新聞記事	マレー語の新聞記事を読む	授業で学習した内容を復習する。	10	マレー語のニュース	マレー語のニュースを聞く	授業で学習した内容を復習する。	11	マレー語の歌	マレー語の歌を聞く	授業で学習した内容を復習する。	12	様々な国におけるマレー語の類似点と相違点	様々な国におけるマレー語の類似点と相違点を学習する	授業で学習した内容を復習する。	13	マレー語の映画	マレー語の映画を見る	授業で学習した内容を復習する。	14	第9回目～13回目のまとめ	第9回目～13回目のまとめ・議論	授業で学習した内容を復習する。	15	第9回目～13回目のまとめのレポートの発表	第9回目～13回目のまとめの発表。	レポートを提出と発表の学習。
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	マレー語の歴史	マレー語について	授業に学習した内容を復習する。																																																																
2	マレー語の文学	マレー語の文学作品の紹介	授業に学習した内容を復習する。																																																																
3	インドネシアにおけるマレー語	インドネシアの地域に使われているマレー語	授業に学習した内容を復習する。																																																																
4	マレーシアにおけるマレー語	マレーシアでのマレー語の現状	授業に学習した内容を復習する。																																																																
5	シンガポールにおけるマレー語	シンガポールについてのマレー語現状	授業に学習した内容を復習する。																																																																
6	ブルネイ王国におけるマレー語	ブルネイ王国にてのマレー語現状	授業に学習した内容を復習する。																																																																
7	フィリピンやタイにおけるマレー語	フィリピンやタイにてのマレー語現状	授業に学習した内容を復習する。																																																																
8	第1回目～7回目までのまとめ。	レポートの発表	レポート提出と発表内容の学習。																																																																
9	マレー語の新聞記事	マレー語の新聞記事を読む	授業で学習した内容を復習する。																																																																
10	マレー語のニュース	マレー語のニュースを聞く	授業で学習した内容を復習する。																																																																
11	マレー語の歌	マレー語の歌を聞く	授業で学習した内容を復習する。																																																																
12	様々な国におけるマレー語の類似点と相違点	様々な国におけるマレー語の類似点と相違点を学習する	授業で学習した内容を復習する。																																																																
13	マレー語の映画	マレー語の映画を見る	授業で学習した内容を復習する。																																																																
14	第9回目～13回目のまとめ	第9回目～13回目のまとめ・議論	授業で学習した内容を復習する。																																																																
15	第9回目～13回目のまとめのレポートの発表	第9回目～13回目のまとめの発表。	レポートを提出と発表の学習。																																																																
関連科目	インドネシア語関係の講義や授業																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>授業前に配布する。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	授業前に配布する。			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	授業前に配布する。																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	授業参加及びクラス活動に積極的な取り込み：60% レポート&発表：40% 詳細は初回授業で指示する。																																																																		
学生へのメッセージ																																																																			
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室																																																																		
備考	連絡方法は初回授業時に通知する。																																																																		

科目名	国際社会と経済	科目名 (英文)	International Community and Economy
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	藤井 嘉祥
ディプロマポリシー (DP)	DP1Δ, DP6Δ		
科目ナンバリング	LDL2580a0		

授業概要・目的	経済のグローバル化が進み、国境を越えた企業活動が活発になっている。この授業では、海外直接投資と企業の立地戦略の視点に立って、国境を越えて活動する企業（多国籍企業、グローバル企業）と地域の関係を、①国や地域の投資環境の分析、②企業の立地戦略、③途上国における貧困問題解決志向ビジネス (BOP ビジネス) の3つの側面から学ぶことを目的とする。この3点についてグループワークとプレゼンテーションを行う。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 投資環境、企業の立地戦略、BOP ビジネスに関して理論と事例を説明できる。 投資環境や企業の立地選択の指標を用いて分析できる。 グループワークに意欲的に参加し、グループとしての結論を導くことができる。 グループ討論の成果を明快に発表できる。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> 理論と事例の解説はレジュメを配布して講義形式で行う。またテーマに沿ってグループワークとプレゼンテーションを行う。 講義の回には内容に関して考えたことをリアクションペーパーとして提出する。 学期末には、投資環境、企業の立地戦略、BOP ビジネスのいずれかを選んで、学期末レポートを作成・提出する。 課題に対するフィードバックは授業内で行う。
科目学習の効果 (資格)	<ul style="list-style-type: none"> 企業のグローバル戦略の着眼点を知ることができる。 経済やビジネスに関心のある履修者にとっては文化演習や卒業研究の手がかりとなる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
			1
2	海外直接投資	国境を越えた企業活動を量的に把握するための海外直接投資を知る。	紹介する資料を読んで海外直接投資の役割の理解を深める。
3	海外直接投資データベースの使い方	海外直接投資の統計データを用いて国の国際投資状況を調べる。	UNCTAD Stat の使い方を覚え、いくつかの国について調べて図表化する。
4	Doing Business 指標による投資環境の分析	Doing Business 指標をもとに直接投資に適した国・地域を発見し、その理由を考察する。	Doing Business の各指標の意味を調べ、グループワークのための下調べをしておく。
5	グループワーク (1) : 投資環境分析	海外直接投資と Doing Business 指標をもとに直接投資に適した国・地域を発見し、その理由を考察し、発表する。	討論内容を整理し、発表の準備をしておく。
6	プレゼンテーション (1)	前週の討論内容の発表と講評	発表へのフィードバックをもとにスライドを修正し、提出する。
7	国際分業、バリューチェーン、立地優位性	国際分業とバリューチェーンの概念を踏まえて、国の立地優位性と企業の立地戦略を学ぶ。	紹介する資料を読んで立地優位性の理解を深めておく。
8	企業の立地選択の事例	インドの IT 産業から企業の立地戦略を考察する。	紹介する資料を読んで企業の立地戦略の理解を深めておく。
9	グループワーク (2) : 海外進出の際の立地戦略	仮定の日本企業を考案し、国の立地優位性と国際分業を踏まえて、海外進出の計画を考える。	討論内容を整理し、発表の準備をしておく。
10	プレゼンテーション (2)	前週の討論内容の発表と講評	発表へのフィードバックをもとにスライドを修正し、提出する。
11	途上国における BOP ビジネス	貧困層を対象とする BOP ビジネスとは何かを学ぶ。	紹介する資料を読んで BOP ビジネスの概要について理解を深めておく。
12	BOP ビジネスの事例	日系企業を中心とした BOP ビジネスの事例を紹介する。	グループワークに備えて情報収集をしておく。また期末レポートの作成に着手する。
13	グループワーク (3) : BOP ビジネス	困りごとを解決するビジネスを立案する。	討論内容を整理し、発表の準備をしておく。
14	プレゼンテーション (3)	前週の討論内容の発表と講評 (期末レポートの提出)	発表へのフィードバックをもとにスライドを修正し、提出する。また、期末レポートを完成させる。
15	まとめと期末レポートの講評	講義の要点の整理と期末レポートへのフィードバックを行う。	期末レポートを提出し、フィードバックを確認する。

関連科目	経済学入門 経営学入門 国際ビジネス論 地域とビジネスプロジェクト
------	-----------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	はじめての国際経営	中川功一ほか	有斐閣
2	新興市場ビジネス入門	今井雅和	中央経済社	
3	BOP ビジネス入門	菅原秀幸ほか	中央経済社	

評価方法 (基準)	期末レポート (40%)、グループワークへの取り組みとプレゼンテーションの内容 (40%)、リアクションペーパー (20%) で評価する。
-----------	---

学生へのメッセージ	普段の生活では世界の動きに注目することは少ないかもしれませんが、グローバル化の時代を生きる私たちの生活は世界の変動の影響を強く受けています。履修者のみなさんが世界に目を向け、その変化に関心を持ち、自分たちの生活とのかかわりのなかで世界における企業の活動を考えられるようになることを願っています。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館5階 藤井研究室
----------	-------------

備考	参考書の読み込み、プレゼンテーションの準備、レポート作成などにかかる事前・事後学習の総時間数は約60時間を目安とする。
----	---

科目名	メディアリテラシー論	科目名 (英文)	Media Literacy
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	有馬 善一
ディプロマポリシー (DP)	DP1Δ, DP6Δ		
科目ナンバリング	LDL2581a0		

授業概要・目的	この科目は、「メディアビジネス」プログラム対応科目（外国語学部の場合）である。 現代社会においては、インターネットの発達に伴い、メディアからの情報の量も質も大きく様変わりしている。文字通り、情報の洪水の奔流の中で、嘘と真実を見分ける能力が必要とされている。また、ソーシャルメディアを通じて、自ら情報発信をする機会も格段に増えており、情報を読みとる力と発信する力の両方が必要とされているのである。 この講義では、メディアの社会的特性を理解し、適切な情報読解と発信をするために必要な知識とスキルを修得することを目標とする。
到達目標	新聞・テレビの情報が歪んでしまうメカニズムを理解する。 インターネットの情報の真偽を見抜くためのスキルを修得する。 インターネットでの発信を正しく行うための倫理とスキルを身につける。
授業方法と留意点	講義方式で行う。適宜、資料を配布・紹介する。 レポートはMoodleを通じて提出してもらい、これにフィードバックをする。
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	メディアとメディアリテラシー	メディアとは何か メディアリテラシーとは何か メディアリテラシーのレベル	メディアリテラシーという言葉の意味についてまとめる。
2	新聞とニュースについて (1)	新聞と世論形成 新聞の中立性と「偏向」	新聞各紙のニュースの取り上げ方の違いについて調べる。
3	新聞とニュースについて (2)	日本の新聞の経営面における問題 新聞とインターネット 新聞のデジタル化とニュースサイト	ニュースサイトのまとめと新聞記事の違いについて調べる。
4	新聞とニュースについて (3)	事例研究。朝日新聞における「慰安婦報道」について	朝日新聞と読売・産経新聞の対立の本当の理由は何かを考える。
5	テレビについて (1)	テレビの映像の特性 番組編集 「やらせ」の問題 「ムスタン王国」について	テレビの「やらせ」の事例について、さらに各自で調べてみる。
6	テレビについて (2)	NHKと民放 NHKの受信料問題 テレビの番組編成・広告における問題 ニュース番組における報道の問題	NHKと民放の違いについて考えてみる。 NHKの受信料問題についての各自の考えをまとめる。
7	テレビについて (3)	事例研究。「発掘!あるある大事典」捏造事件	テレビの捏造事件が起きる背景についてまとめる。
8	メディアと広告	広告・CMの影響力和価値 産業としてのメディアと広告	テレビCMが喚起するイメージについて、各自で調べてみる。
9	メディアと（権力）	新聞・テレビの権力との関わり メディアの支配者としての（資本）	授業内容をまとめる。 権力によるメディアへの介入について他の事例を調べる。
10	インターネット社会について	インターネット社会の過去 インターネット社会の現在 インターネット社会の今後のあり方	授業内容をまとめる。 インターネットの将来について議論する。
11	インターネットと倫理	ネット社会とリアル社会の倫理のズレ インターネットとプライバシー 著作権の問題 匿名性の問題	ネット社会での倫理的逸脱について各自で調べる。
12	ソーシャルメディアについて (1)	コミュニケーション空間としてのSNS 電子掲示板の問題 ブログ、ホームページ ネット炎上の問題	電子掲示板やブログでの炎上の事例を調べる。
13	ソーシャルメディアについて (2)	まとめサイト フェイスブック ツイッター ソーシャルメディアと情報の商業的利用	フェイスブック、ツイッターについて、各自の利用法について報告する。
14	ソーシャルメディアについて (3)	まとめサイト閉鎖の問題 アメリカ大統領選挙におけるフェイク・ニュース問題	インターネットにおける嘘と本当を見抜くために何が必要かについて各自の考えをまとめる。
15	まとめ	メディアリテラシーについてのまとめ	

関連科目 メディアビジネスプログラム科目 (外国語学部)

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ネット炎上の研究	田中辰雄・山口真一	勁草書房
2	池上彰に聞くどうなってるの?ニッポンの新聞	池上彰	東京堂出版	
3	信じてはいけない: 民主主義を壊すフェイクニュ	平和博	朝日新聞出版	

	ースの正体		
評価方法 (基準)	授業内のレポート・平常点 (40%) と授業後のレポート課題 (60%)		
学生への メッセージ			
担当者の 研究室等	7号館4階 (有馬研究室)		
備考	事前事後学習 計60時間		

科目名	現代社会論	科目名 (英文)	Modern Society
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	浦野 崇央
ディプロマポリシー (DP)	DP1Δ, DP6Δ		
科目ナンバリング	LDL2582a0		

授業概要・目的	<p>昨今、わたしたちの日常において、「ブラック企業」「婚活」「インスタ映え」「イクメン」「パワハラ」といった新しい概念をもった言葉が頻繁に使われ、それをめぐる言説が展開されている。これらの言葉や言説はまさに、現代社会を象徴しているものであるといえよう。本授業では、こういった言葉や言説をめぐる現象について、さまざまな観点から再確認することを通じて、私たちの社会の構造がいかなるものであるのかを明らかにする。なお、本講義ではとりわけ社会と人との関わり合いに焦点を当てることとしたい。</p>
到達目標	<p>本講義を通じて、現代社会の姿を明らかとできると同時に、自身のふるまい方あるいは立ち位置を再確認することが可能となる。そして、報道されるニュースの奥深い考察をすることができる。</p>
授業方法と留意点	<p>本授業は、一方的な講義形式に終わらせること無く、出来るかぎり、学生諸君の生の声を取り入れていきたい。 なお、本授業においては、遅刻は厳禁であるので、その点を留意されたい。 毎授業時にリアクションペーパーにコメントを記入してもらい、翌週の授業でフィードバックを行う。</p>
科目学習の効果 (資格)	<p>現代の社会現象を改めて見直すことを通じて、社会人としての基礎教養の獲得につながるであろう。</p>

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	プロローグ 「現代社会論」の目指すこと①	授業内容や授業の進め方、評価基準等について説明する。また、現代社会を捉える意味を考える。	新聞から「現代社会」を象徴していると思われる事柄を抜き出してみましょう。
2	「現代社会論」の目指すこと②	「現代社会」の概念を把握し、今後へのステップとする。	現代社会のキーワードを考えてみましょう。
3	ことばについて考える	社会において重要な要素である「ことば」について考察する。	今の流行り言葉を挙げてみましょう。
4	社会のなかの「人」	「人」をテーマに、現代社会を捉えることの意義を考える。そして、現代社会における人間関係を客観的なまなざしをもって捉えなおす。	自身のアイデンティティは何なのかを考えてみましょう。
5	血液型性格判断からみえるもの①	現代社会における血液型性格判断の現実を把握する。	人の性格の作られ方を考えてみましょう。
6	血液型性格判断からみえるもの②	血液型性格判断の誕生から浸透までを把握し、先入観の作られ方を探る。	配布プリントをよく読んでおきましょう。
7	占いからみえるもの	現代社会における各種占いの存在意義を探索する。	いろいろな「占い」の結果で使われている表現を抜き出してみましょう。
8	「ジェンダー」の現実	現代社会における「ジェンダー」の現実を把握し、「ジェンダー」概念の作られ方の背景を探索する。	「ジェンダー」という用語を説明できるようにしておきましょう。
9	男と女の関係性	男・女といった「性」に対する認識を再確認し、男と女をめぐる固定観念について考察する。	男の立場および女の立場でメリット・デメリットを考えてみましょう。
10	性の多様化	「男・女」という区別を超えた性の多様化を考える。	配布プリントをよく読んでおきましょう。
11	差別をめぐる問題の構造	社会における「差別」の構造を探索。特に、人が人を区別し、ひいてはそれが差別にいたることについての意味と構造を考える。	回りで起こっている「差別」を挙げてみましょう。
12	ハラスメントの構造	男と女、男と男、女と女の場面をめぐるセクシュアル/アカデミック/アルコール・ハラスメントにみられる権力構造についての考察を行なう。	世の中に出没している「〇〇ハラスメント」を探してみましょう。
13	人口減少社会の構造と問題点	日本における少子化現象を題材に、人口減少社会の問題点について考察する。	「少子化」を説明できるようにしましょう。また、日本以外の国の人口構造を把握しましょう。
14	「モノ」に翻弄される人びと	現代におけるコミュニケーション・ツール (たとえば、電話、携帯メール、インターネット、Facebook、LINE 等) の意味と役割を考える。	自身のコミュニケーション・ツールの使い方を見つめ直してみましょう。
15	まとめ	「人」・「モノ」・「コト」のかかわり合いの意味について考え、「現代社会」の意味づけおよびそれにあたって必要とされる眼差しについて総括する。 (最終試験)	これまでに何を学んだのかをまとめてみましょう。

関連科目	時事問題 I・II			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法	毎回の課題 (10%) および最終試験 (90%) により評価する。			

(基準)	詳細は、第1回目の授業で伝える。
学生へのメッセージ	本講義を通じて、わたしが期待することは、受講生諸君に先入観や固定観念といったものを打ち崩してもらうことです。そのためには、積極的に発言をし、議論を交わしていく必要があります。ともに切磋琢磨していきましょう。
担当者の研究室等	7号館4階 浦野研究室
備考	<p>本授業は、現代社会の事象を題材に進めていく。よって、突発的な事件や事故が発生した際は、シラバスの授業計画に伴わず、題材として取り上げることがあることを留意されたい。特にコロナ禍においては、社会変容を引き起こすような事例が多く浮上するため、各回のテーマが変更される可能性が高いことを了承いただきたい。</p> <p>また、受講者数（50名以下の場合）によっては学生諸君にプレゼンテーションをしてもらいながら授業を進めることとしたい。</p> <p>なお、授業の方法等の詳細は第1回目の授業で伝える。</p> <p>本授業における事前・事後学習は、総</p>

科目名	地域と観光	科目名 (英文)	Regional Tourism
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	大谷 侑也
ディプロマポリシー (DP)	DP1Δ, DP6Δ		
科目ナンバリング	LDL2583a0		

授業概要・目的
 エコツーリズムとは、地域の自然や文化、歴史などの魅力を活かしながら、それらの資源の持続的な利用を前提とする観光の形であり、今後の観光を考えていく上で重要な概念です。本講義では、エコツーリズムの背景や理念を学ぶとともに、国内外の様々な事例を通じて、エコツーリズムの現状と課題、今後の展望について考えます。
 本授業では、自らエコツーリズムを企画するなど、能動的に授業に取り組むことを求めます。そして、受講者が持続可能な観光・地域のあり方について自ら考えることが出来るようになることを期待します。

なお、この科目は外国語学部では「観光ホスピタリティ」プログラム対応科目です。

到達目標
 1. エコツーリズムについて理解し、説明できる
 2. 持続可能な観光・地域のあり方について自ら考えることが出来る

授業方法と留意点
 講義を中心とするが、ディスカッションやグループワーク、プレゼンテーション等を実施する時間を設ける。また、講義時間内に質疑応答時間を設ける他、授業内で課された課題に対しては解説を行う。また、Moodle等のオンラインツールを授業時間・授業外学習時に利用するためスマートフォンやタブレット、PC等を各自用意すること。
 リアクションペーパーやレポート等の提出物に対してはコメントや質問回答といったフィードバックを行います。

科目学習の効果 (資格)
 旅行業務取扱管理者等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の進め方、テキスト、採点方法等について把握する	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める (1時間以上)
2	マストツーリズムとエコツーリズム1	オルタナティブツーリズムの概念を理解する	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める (1時間以上)
3	マストツーリズムとエコツーリズム2	オルタナティブツーリズムの概念を理解する	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める (1時間以上)
4	地域の自然とエコツーリズム1	地域の自然資源と観光の関係について知る	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める (1時間以上)
5	地域の自然とエコツーリズム2	地域の自然資源と観光の関係について知る	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める (1時間以上)
6	エコツーリズムのさまざまな展開1	国内外の事例から、エコツーリズムと地域の自然資源のよりよい関係について考える	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める (1時間以上)
7	エコツーリズムのさまざまな展開2	国内外の事例から、エコツーリズムと地域の自然資源のよりよい関係について考える	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める (1時間以上)
8	エコツーリズムのさまざまな展開3	国内外の事例から、エコツーリズムと地域の自然資源のよりよい関係について考える	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める (1時間以上)
9	エコツーリズムを体験する1	国内外の事例から、エコツーリズムと地域の自然資源のよりよい関係について考える	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める (1時間以上)
10	エコツーリズムを体験する2	国内外の事例から、エコツーリズムと地域の自然資源のよりよい関係について考える	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める (1時間以上)
11	エコツーリズムを体験する3	国内外の事例から、エコツーリズムと地域の自然資源のよりよい関係について考える	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める (1時間以上)
12	エコツーリズムを企画する1	グループに別れて、実際に特定の地域でエコツーリズムを企画する	エコツーリズム企画の発表に関わる準備を行う (1時間以上)
13	エコツーリズムを企画する2	グループに別れて、実際に特定の地域でエコツーリズムを企画する	エコツーリズム企画の発表に関わる準備を行う (1時間以上)
14	エコツーリズムを企画する3	グループに別れて、実際に特定の地域でエコツーリズムを企画する	エコツーリズム企画の発表に関わる準備を行う (1時間以上)
15	総括・企画の発表	企画案を発表し、ディスカッションを行う	エコツーリズム企画の発表について準備を行うとともに、ディスカッションをふまえて内容を修正する (1時間以上)

関連科目
 観光ホスピタリティプログラム関連科目 (ホスピタリティ論、アーバンツーリズム論等)

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)
 授業への取り組み (リアクションペーパーの内容、受講態度、プレゼンテーションの内容、議論やグループワークへの参加状況等) (60%) とレポート (40%) で評価します。

学生へのメッセージ

担当者の研究室等	7号館5階（大谷研究室）
備考	事前・事後の学習は、全体で60時間を目安とします。

科目名	英語意味論・語用論	科目名 (英文)	English Semantics and Pragmatics
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	船本 弘史
ディプロマポリシー (DP)	DP1△, DP6△		
科目ナンバリング	LDL2593a0		

授業概要・目的	「文法構造」「形式 (音声・文字)」「意味」という言語がもつ3つの側面のうち、「意味」は分かったように思えてもそれを記述するとなるとなかなか難しい領域である。しかし、意味が変化したり他の言語表現と関連しあったりする現象には一定の規則性がある。また、辞書に定義される意味というレベルを超えて具体的な場面でなされる個々の発話を観察してみると、「意味」に関する理解を深めるためのアプローチはさらにいくつかあることがわかる。言語使用によるコミュニケーションが成立するためには、その基礎となっている語彙や表現がどのような意味を持ち、それが実際の場面でどのように使われ、どのような意図を伝えているかということを理解することが重要になる。さらに、学期の終盤には意味論・語用論に関する最新の研究動向も紹介する。この講義では、英語の意味・用方を様々な角度から見わたすことで、「ことばの不思議」に興味を持ち、その疑問に対して「なぜか」という問いを深める姿勢を涵養する。
到達目標	1. 同意語、上位語・下位語といった語彙どうしの意味的關係を理解できるようになる。 2. 意味とコンテキストの關係を理解できるようになる。 3. 意味変化のメカニズムを理解できるようになる。 4. 場面に応じた言葉の使われ方や会話の成立について理解できるようになる。
授業方法と留意点	この講義では、英語に焦点を当てながら、ことばの意味、場面との關係、意味の変化などについて学ぶ (日本語をはじめとするいくつかの言語にも触れる)。英語が表す「意味」の側面を扱う意味論と、言語が実際の場面でどのように使われ、どのような意味を伝えるのかといった「言語使用」を扱う語用論について見ていく。主に講義形式となるが、授業時に課題やアンケート等により理解度を測ったり、興味のある点について簡単な論述を課すこともある。授業時に行う課題等に関するフィードバックは、次回以降の授業内で行う。
科目学習の効果 (資格)	教員の免許状取得のための選択科目

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の内容・進め方に関する説明。英語学のいくつかの分野を振り返りながら、日常に見られるさまざまな意味にかかわる現象を紹介し、意味への興味を喚起する。	英語学の諸分野について復習をしておく。(2時間)
2	英語の意味論と語用論	英語学における意味の扱いと位置づけを明らかにする。意味論と語用論がそれぞれ何を問題としているか、さらに両者が互いにどう関連しあうかを考え、本科目で扱う内容の全体像をつかむ。	「意味」の意味について調べておく。(2時間)
3	意味と指示物	意味と指示物の關係を考えながら、誤用、比喩、うそ、皮肉といった言葉遣いにかかわるメカニズムを考える。	うそと誤用はどのように違うのか、考えておく。(2時間)
4	意味と辞書	辞書に意味がどのように掲載されるかを考えながら、意味記述の難しさを考えていく。	多義語の get の意味分類がどのようになっているのか、辞書で調べておく。(2時間)
5	語の意味的關係①	多義性、類犠性、同音性、反義性などの意味に関わる性質について学ぶ。	英語の多義語、反義語の例を調べておく。(2時間)
6	語の意味的關係②	語彙の持つ關係性を考察しながら、意味の構成性や語彙の意味關係の多様性を考えていく。その過程で、意味をどのように形式化できるのか、またはできないのかについても考える。	「ゲシュタルト理論」について調べておく。(2時間)
7	文法と意味	文法は意味と構造を結びつける記号体系の根幹をなす領域であるが、なかでも「構文」と呼ばれる現象から文法と意味の關係を具体的事例をもとに考える	文法と意味の「レベル」とはどのような概念であるか調べておく。(2時間)
8	意味の変化	意味の向上、意味の下落といった意味変化の規則性を考え、その要因を社会的、言語的に探っていく。	意味の向上の例が日本語にないか調査しておく。(2時間)
9	意味の習得	ことばの習得、主に意味にかかわる習得について考え、カテゴリー化、プロトタイプについて学ぶ。	幼児の言語習得がどのように進んでいくのかを調べておく。(2時間)
10	意味の普遍性と相対性	色名や親族關係の用語などの例を見ながら、多言語間の単語の指示物の相違を考えて、意味が相対的であることを考える。	色名が他言語ではどのようにあらわされるのかを調べておく。(2時間)
11	意味とコンテキスト	意味の成立が文脈や使用場面に依存していることを考える。また話の情報構造について考察し、旧情報、新情報といった談話を成立させる情報の価値について考察する。	話といった具体的なテキストを使って、新情報、旧情報がどのようにあらわされているのか、考えてみる。(2時間)
12	会話の成立	P. H. グライスの「強調の原理」という考え方を学び、「会話の格率」(量 (Quantity)、質 (Quality)、關係 (Relation)、様態 (Manner)) という点から会話の成立要件となる理論を学ぶ。	意味のある会話を成り立たせるにはどのようなことが必要かを考える。(2時間)
13	発話行為	具体的な事例を使用して、発話が状況や対人關係に及ぼす影響を語用論的に分析していく。	語や表現がコンテキストの中で具体的に使用されるとまったく別の意味を表す事例を考えておく。(2時間)
14	意味論・語用論の新しいアプローチ	機能主義言語学における意味と言語使用に関する考え方を紹介する。	日常的に使用する言語表現をいくつか取り上げ、それらが具現する機能を説明できるようにする。(2時間)

	15	まとめテスト	授業時間内に実施する。	この授業をとおして学んだ内容に関するテスト。
関連科目	スピーキング・リスニング・オーラルコミュニケーション・イングリッシュ・プレゼンテーション			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	英語の意味	池上嘉彦(編)	大修館書店
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	各回の課題等への取り組み (40%) まとめテスト (60%)			
学生への メッセージ	普段から使っている言葉の意味がどうやって生まれてくるのかを考えてみよう。			
担当者の 研究室等	7号館5階 船本研究室			
備考	配布資料の読み込みなど、事前・事後学習にかかる総時間数を60時間程度とする。			

科目名	日本語音韻論	科目名 (英文)	Japanese Phonology
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	橋本 正俊
ディプロマポリシー (DP)	DP1Δ, DP6Δ		
科目ナンバリング	LDL2594a0		

授業概要・目的	全部で四科目開設している日本語学関係の授業では日本語の体系を考える。 「日本語音韻論」では日本語の音韻について学ぶ。 音韻というのは、日本語の「音」に関すること。発音やアクセントなどについて、具体的に考える。 外国語を学ぶ上でも重要な、日本語の音について正しく理解する。
到達目標	日本語の発音やアクセントの特徴について、正確な知識をもとに説明することができる。
授業方法と留意点	スライドおよび配布するプリントに基づいて講義する。講義後、ペーパー（コメントや課題）を提出する。 授業中には、はっきりと声に出して発音をすること。 毎回のコメント・課題については次回にフィードバックする
科目学習の効果 (資格)	日本語に対する理解を深める。日本語を相対的に観察し、外国語と比較する視点が身につく。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の進め方 日本語の「音」について、考えてみる	外国語の音と日本語の音の違いを考える
2	言語体系の諸単位 調音器官	言語の要素について 調音器官について知る	調音器官について調べる
3	母音	母音をどのように発音しているか考える	日本語、外国語の母音について調べる
4	子音1	子音をどのように発音しているか考える	授業で取り上げた子音について、徹底的に復習する
5	子音2	子音をどのように発音しているか考える	授業で取り上げた子音について、徹底的に復習する
6	清音・濁音	清音・濁音をどのように発音しているか考える	濁音の調音について、徹底的に復習する
7	前半のまとめ 《確認小テスト》	ここまでのまとめ 子音の発音の復習問題	ここまでの学習を振り返る
8	撥音・促音・長音 日本語の発音の諸問題	撥音・促音・長音について 日本語の発音の諸問題を取り上げる	撥音・促音・調音について調べる
9	拍、音節 五十音図	日本語の拍と音節について考える 日本語の拍の一覧表を作成する	拍の一覧表をまとめる
10	日本語のリズム	日本語が持つリズムの特徴について考える	日本語と外国語のリズムの違いを考える
11	アクセント1	高低アクセントと強弱アクセント アクセントの東西比較	アクセントの東西の違いをまとめる
12	アクセント2	アクセントの高低配分	アクセントの法則を整理し、調べる
13	アクセント3	活用語のアクセント イントネーションとアクセント	アクセント以外の発音方法について調べる
14	音の交替	母音交替・連濁	母音交替、連濁の例を調べる
15	《最終確認テスト》 まとめ	これまでの総括をし、復習テストを行う	これまでの復習をする

関連科目	音声学 日本語史概論、日本語語彙論、日本語文法論
------	-----------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	最終確認テスト (60%)、確認小テスト (10%)、講義時のペーパー (30%)。 単位認定には最終確認テストの受験を必須とする。 (遠隔授業となった場合は、最終確認課題 (50%)、確認小課題 (10%)、講義時のペーパー (40%) とします。)
-----------	--

学生へのメッセージ	日頃何気なく発している日本語は、どのようにして発音されているのか。 実際に発音しながら、発音やアクセントについて考えてみましょう。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館4階 (橋本研究室)
----------	---------------

備考	事前・事後学習に要する総時間数は、約60時間。
----	-------------------------

科目名	英語構造論	科目名 (英文)	English Syntax
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	藤原 崇
ディプロマポリシー (DP)	DP1Δ, DP6Δ		
科目ナンバリング	LDL2595a0		

授業概要・目的	英語の構造について概観し、英語がほかの言語とどのように異なっているのかを理解し説明できるようになることを目的とする。特に、文法用語として頻繁に使われるものがどういった概念であるのかを把握し、そうした用語がなぜ必要なのかまでを理解することを目指す。
到達目標	英語の基礎知識や教養に加え、英語（構造）に関わる諸問題について理解を深めたい。特に、コミュニケーションとの関わりの中で英語の構造を理解できるようになる。同時に日本語との比較を行うことで、英語の構造について深い考察ができるようになる。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> 基本的には講義形式で進めるが、ペアワークやグループでの討議の時間も設ける。 本講義は受講生として言語（とりわけ構造や意味）に興味がある学生を想定している。「英語学概論（英語学Ⅰ）」や「英語意味論・語用論（英語学Ⅱ）」を履修済みであることが望ましい。 テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はチューデントアワーにて対応する。毎週小テストを行い、また単元ごとにもテストを実施する。原則として出席点なるものは存在しないので、出席していたからといって合格できるわけ
科目学習の効果（資格）	<ul style="list-style-type: none"> 言語の構造・意味の理解 大学院進学 教員の免許状取得のための選択科目

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方と評価方法の説明	授業の計画・内容の確認と、機能（言語学）的アプローチの予習（2時間）
2	機能（言語学）的アプローチ	機能（言語学）的アプローチについて理解を深め、グループで議論を行う。	機能（言語学）的アプローチの復習と、言い換え表現の予習（2時間）
3	言い換え表現（本当に言い換え可能か？）	言い換え表現について理解を深め、グループで議論を行う。	言い換え表現の復習と、トピック（とコメント）・主題（と題述）の予習（2時間）
4	トピック（とコメント）・主題（と題述）	トピック（とコメント）・主題（と題述）について理解を深め、グループで議論を行う。	トピック（とコメント）・主題（と題述）の復習と、旧情報と新情報（there 構文など）の予習（2時間）
5	旧情報と新情報（there 構文など）	旧情報と新情報（there 構文など）について理解を深め、グループで議論を行う。	旧情報と新情報（there 構文など）の復習と、焦点と強調（倒置表現など）の予習（2時間）
6	焦点と強調（倒置表現など）	焦点と強調（倒置表現など）について理解を深め、グループで議論を行う。	焦点と強調（倒置表現など）の復習と、照応と代用（代名詞など）の予習（2時間）
7	照応と代用（代名詞など）	照応と代用（代名詞など）について理解を深め、グループで議論を行う。	照応と代用（代名詞など）の復習と、中間のまとめ（テスト）の準備（2時間）
8	中間のまとめ（テストなど）	これまでの授業内容の総括を行い、理解をより一層深める。	これまでの授業内容の復習と、認知（言語学）的アプローチの予習（2時間）
9	認知（言語学）的アプローチ	認知（言語学）的アプローチについて理解を深め、グループで議論を行う。	認知（言語学）的アプローチの復習と、類像性（恣意性の有無）の予習（2時間）
10	類像性（恣意性の有無）	類像性（恣意性の有無）について理解を深め、グループで議論を行う。	類像性（恣意性の有無）の復習と、類義語（英語）の予習（2時間）
11	類義語①（英語）	類義語（英語）について理解を深め、グループで議論を行う。	類義語（英語）の復習と、類義語（日本語との比較）の予習（2時間）
12	類義語②（日本語との比較）	類義語（日本語との比較）について理解を深め、グループで議論を行う。	類義語（日本語との比較）の復習と、文法化と意味変化（英語）の予習（2時間）
13	文法化と意味変化①（英語）	文法化と意味変化（英語）について理解を深め、グループで議論を行う。	文法化と意味変化（英語）の復習と、文法化と意味変化（日本語との比較）の予習（2時間）
14	文法化と意味変化②（日本語との比較）	文法化と意味変化（日本語との比較）について理解を深め、グループで議論を行う。	文法化と意味変化（日本語との比較）の復習と、総まとめ（確認テスト）の準備（2時間）
15	まとめ（確認テスト）	これまでの授業で扱ったトピックについて総括し、まとめの確認テストにて、理解度を測る。	総まとめ（確認テスト）の準備と、授業後の振り返り（2時間）

関連科目	英語学概論（英語学Ⅰ）、英語意味論・語用論（英語学Ⅱ）
------	-----------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Oxford Modern English Grammar	Bas Aarts	Oxford University Press
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	The Cambridge Grammar of the English Language	Rodney Huddleston, Geoffrey K. Pullum	Cambridge University Press
	2			
	3			

評価方法（基準）	小テスト（50%） 確認試験（50%）
----------	------------------------

学生へのメッセージ	ただ単に単位が欲しい学生は履修しないように。いわゆるコスパからすると良くない授業だと思います。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館4階 藤原研究室
----------	-------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、担当者からの課題、議論や小テストの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ60時間程度とする。
----	---

科目名	日本の文学	科目名 (英文)	Japanese Literature
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	古矢 篤史
ディプロマポリシー (DP)	DP1△, DP6△		
科目ナンバリング	LDL2598a0		

授業概要・目的	<p>【日本近代文学とマスメディア】</p> <p>本講義では、文学作品をただ読むのではなく、その作品が掲載された雑誌や新聞などといった媒体（メディア）を通じて読者へと至るプロセスを検証する。近代日本のメディアのなかでも特に文学との関係が深い「新聞」「雑誌」「映画」を取り上げ、これらを時系列的にはなく各メディアごとに確認していく。</p> <p>扱う作家や作品は、坪内逍遙、尾崎紅葉、夏目漱石、菊池寛、横光利一、吉川英治、吉屋信子など多岐にわたる。これらが、同時代においてはどのようなメディアを通じて登場したか、テキストだけを読んででは考察することのできないその文学の「場」を知る機会としてほしい。</p>																																																																		
到達目標	日本の近代小説とマスメディアとの関係について説明し、考察をまとめることができる。																																																																		
授業方法と留意点	講義を中心に進める。 毎回、講義後にコメントを提出してもらう。 コメントに対しては授業内でフィードバックを行う。																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション</td> <td>本講義の概要、目標、評価方法について説明する</td> <td>配布プリントの確認</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>文学とマスメディア (1)</td> <td>近代文学と出版メディアの概要</td> <td>配布プリントの確認</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>文学とマスメディア (2)</td> <td>昭和初期の円本ブームについて</td> <td>配布プリントの確認</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>文学とマスメディア (3)</td> <td>文芸復興期の出版メディアについて</td> <td>配布プリントの確認</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>文学とマスメディア (4)</td> <td>大正・昭和初期のラジオ、映画等について</td> <td>配布プリントの確認</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>新聞と文学 (1)</td> <td>近代の新聞メディアの発展について</td> <td>配布プリントの確認</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>新聞と文学 (2)</td> <td>夏目漱石と新聞について</td> <td>配布プリントの確認</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>新聞と文学 (3)</td> <td>芥川龍之介と新聞について</td> <td>配布プリントの確認</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>新聞と文学 (4)</td> <td>横光利一と新聞について</td> <td>配布プリントの確認</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>女性雑誌と文学 (1)</td> <td>近代の女性雑誌メディアの発展について</td> <td>配布プリントの確認</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>女性雑誌と文学 (2)</td> <td>大正期の女性雑誌と文学について</td> <td>配布プリントの確認</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>女性雑誌と文学 (3)</td> <td>昭和初期 (戦前) の女性雑誌と文学について</td> <td>配布プリントの確認</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>女性雑誌と文学 (4)</td> <td>昭和初期 (戦時中) の女性雑誌と文学について</td> <td>配布プリントの確認</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>総括・試験の説明</td> <td>授業の総括を行い、試験の説明を行う</td> <td>配布プリントの確認</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>試験</td> <td>レポートを提出する (人数が多い場合は教場試験を実施する)</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション	本講義の概要、目標、評価方法について説明する	配布プリントの確認	2	文学とマスメディア (1)	近代文学と出版メディアの概要	配布プリントの確認	3	文学とマスメディア (2)	昭和初期の円本ブームについて	配布プリントの確認	4	文学とマスメディア (3)	文芸復興期の出版メディアについて	配布プリントの確認	5	文学とマスメディア (4)	大正・昭和初期のラジオ、映画等について	配布プリントの確認	6	新聞と文学 (1)	近代の新聞メディアの発展について	配布プリントの確認	7	新聞と文学 (2)	夏目漱石と新聞について	配布プリントの確認	8	新聞と文学 (3)	芥川龍之介と新聞について	配布プリントの確認	9	新聞と文学 (4)	横光利一と新聞について	配布プリントの確認	10	女性雑誌と文学 (1)	近代の女性雑誌メディアの発展について	配布プリントの確認	11	女性雑誌と文学 (2)	大正期の女性雑誌と文学について	配布プリントの確認	12	女性雑誌と文学 (3)	昭和初期 (戦前) の女性雑誌と文学について	配布プリントの確認	13	女性雑誌と文学 (4)	昭和初期 (戦時中) の女性雑誌と文学について	配布プリントの確認	14	総括・試験の説明	授業の総括を行い、試験の説明を行う	配布プリントの確認	15	試験	レポートを提出する (人数が多い場合は教場試験を実施する)	
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション	本講義の概要、目標、評価方法について説明する	配布プリントの確認																																																																
2	文学とマスメディア (1)	近代文学と出版メディアの概要	配布プリントの確認																																																																
3	文学とマスメディア (2)	昭和初期の円本ブームについて	配布プリントの確認																																																																
4	文学とマスメディア (3)	文芸復興期の出版メディアについて	配布プリントの確認																																																																
5	文学とマスメディア (4)	大正・昭和初期のラジオ、映画等について	配布プリントの確認																																																																
6	新聞と文学 (1)	近代の新聞メディアの発展について	配布プリントの確認																																																																
7	新聞と文学 (2)	夏目漱石と新聞について	配布プリントの確認																																																																
8	新聞と文学 (3)	芥川龍之介と新聞について	配布プリントの確認																																																																
9	新聞と文学 (4)	横光利一と新聞について	配布プリントの確認																																																																
10	女性雑誌と文学 (1)	近代の女性雑誌メディアの発展について	配布プリントの確認																																																																
11	女性雑誌と文学 (2)	大正期の女性雑誌と文学について	配布プリントの確認																																																																
12	女性雑誌と文学 (3)	昭和初期 (戦前) の女性雑誌と文学について	配布プリントの確認																																																																
13	女性雑誌と文学 (4)	昭和初期 (戦時中) の女性雑誌と文学について	配布プリントの確認																																																																
14	総括・試験の説明	授業の総括を行い、試験の説明を行う	配布プリントの確認																																																																
15	試験	レポートを提出する (人数が多い場合は教場試験を実施する)																																																																	
関連科目	文学およびメディアに関する科目 (「メディア文化論」など)																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	平常点 (コメントシートの内容、積極性) 60% 試験 (レポート) 40%																																																																		
学生へのメッセージ																																																																			
担当者の研究室等	7号館4階 (古矢研究室)																																																																		
備考	事前事後学習に要する総時間の目安は60時間。																																																																		

科目名	中国の文学	科目名 (英文)	Chinese Literature
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	馮 艶
ディプロマポリシー (DP)	DP1Δ, DP6Δ		
科目ナンバリング	LDL2599a0		

授業概要・目的	中国文化の中で文学は最も輝かしいものの一部です。中国文学は中国文化の基本的精神を内包し、中国人の美的な追及を表している。古代の神話から唐詩、宋詞、明清の小説などの作品、背景及び作者の紹介により中国の歴史、文化を知る。																																																																		
到達目標	古代から近代に至る中国文学の基本的な流れを理解できる。																																																																		
授業方法と留意点	各時代の主要作品の特徴を把握し、時代や社会との関わりを理解できる。 映像、資料を用いて授業を進める。課題や確認テストは返却時、または実施後の授業、あるいは後日、ICT ツールを通してフィードバックを行います。																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>中国文学概論</td> <td>映像、資料を学習する</td> <td>講義内容およびフィードバックを整理して次の授業に備える (事前・事後にそれぞれ1時間)</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>中国神話</td> <td>映像、資料を学習する</td> <td>要点整理 (事前・事後にそれぞれ1時間)</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>楚辞 屈原</td> <td>映像、資料を学習する</td> <td>一回目の課題 (事前・事後にそれぞれ1時間)</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>唐詩① 李白</td> <td>映像、資料を学習する</td> <td>要点整理 (事前・事後にそれぞれ1時間)</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>唐詩② 杜甫</td> <td>映像、資料を学習する</td> <td>要点整理 (事前・事後にそれぞれ1時間)</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>元雜劇</td> <td>映像、資料を学習する</td> <td>二回目の課題 (事前・事後にそれぞれ1時間)</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>明清小説① 西遊記</td> <td>映像、資料を学習する</td> <td>要点整理 (事前・事後にそれぞれ1時間)</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>明清小説② 三国演義</td> <td>映像、資料を学習する</td> <td>要点整理 (事前・事後にそれぞれ1時間)</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>明清小説③ 聊齋志異</td> <td>映像、資料を学習する</td> <td>三回目の課題 (事前・事後にそれぞれ1時間)</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>四大民間伝説</td> <td>映像、資料を学習する</td> <td>要点整理 (事前・事後にそれぞれ1時間)</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>現代中国文学 魯迅</td> <td>映像、資料を学習する</td> <td>要点整理 (事前・事後にそれぞれ1時間)</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>当代文学① 改革文学</td> <td>映像、資料を学習する</td> <td>四回目の課題 (事前・事後にそれぞれ1時間)</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>当代文学② 知青文学</td> <td>映像、資料を学習する</td> <td>要点整理 (事前・事後にそれぞれ1時間)</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>ノーベル賞受賞者 莫言の作品</td> <td>映像、資料を学習する</td> <td>最後の課題 (事前・事後にそれぞれ1時間)</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめ</td> <td>資料を学習する</td> <td>課題の再提出 (事前・事後にそれぞれ1時間)</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	中国文学概論	映像、資料を学習する	講義内容およびフィードバックを整理して次の授業に備える (事前・事後にそれぞれ1時間)	2	中国神話	映像、資料を学習する	要点整理 (事前・事後にそれぞれ1時間)	3	楚辞 屈原	映像、資料を学習する	一回目の課題 (事前・事後にそれぞれ1時間)	4	唐詩① 李白	映像、資料を学習する	要点整理 (事前・事後にそれぞれ1時間)	5	唐詩② 杜甫	映像、資料を学習する	要点整理 (事前・事後にそれぞれ1時間)	6	元雜劇	映像、資料を学習する	二回目の課題 (事前・事後にそれぞれ1時間)	7	明清小説① 西遊記	映像、資料を学習する	要点整理 (事前・事後にそれぞれ1時間)	8	明清小説② 三国演義	映像、資料を学習する	要点整理 (事前・事後にそれぞれ1時間)	9	明清小説③ 聊齋志異	映像、資料を学習する	三回目の課題 (事前・事後にそれぞれ1時間)	10	四大民間伝説	映像、資料を学習する	要点整理 (事前・事後にそれぞれ1時間)	11	現代中国文学 魯迅	映像、資料を学習する	要点整理 (事前・事後にそれぞれ1時間)	12	当代文学① 改革文学	映像、資料を学習する	四回目の課題 (事前・事後にそれぞれ1時間)	13	当代文学② 知青文学	映像、資料を学習する	要点整理 (事前・事後にそれぞれ1時間)	14	ノーベル賞受賞者 莫言の作品	映像、資料を学習する	最後の課題 (事前・事後にそれぞれ1時間)	15	まとめ	資料を学習する	課題の再提出 (事前・事後にそれぞれ1時間)
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	中国文学概論	映像、資料を学習する	講義内容およびフィードバックを整理して次の授業に備える (事前・事後にそれぞれ1時間)																																																																
2	中国神話	映像、資料を学習する	要点整理 (事前・事後にそれぞれ1時間)																																																																
3	楚辞 屈原	映像、資料を学習する	一回目の課題 (事前・事後にそれぞれ1時間)																																																																
4	唐詩① 李白	映像、資料を学習する	要点整理 (事前・事後にそれぞれ1時間)																																																																
5	唐詩② 杜甫	映像、資料を学習する	要点整理 (事前・事後にそれぞれ1時間)																																																																
6	元雜劇	映像、資料を学習する	二回目の課題 (事前・事後にそれぞれ1時間)																																																																
7	明清小説① 西遊記	映像、資料を学習する	要点整理 (事前・事後にそれぞれ1時間)																																																																
8	明清小説② 三国演義	映像、資料を学習する	要点整理 (事前・事後にそれぞれ1時間)																																																																
9	明清小説③ 聊齋志異	映像、資料を学習する	三回目の課題 (事前・事後にそれぞれ1時間)																																																																
10	四大民間伝説	映像、資料を学習する	要点整理 (事前・事後にそれぞれ1時間)																																																																
11	現代中国文学 魯迅	映像、資料を学習する	要点整理 (事前・事後にそれぞれ1時間)																																																																
12	当代文学① 改革文学	映像、資料を学習する	四回目の課題 (事前・事後にそれぞれ1時間)																																																																
13	当代文学② 知青文学	映像、資料を学習する	要点整理 (事前・事後にそれぞれ1時間)																																																																
14	ノーベル賞受賞者 莫言の作品	映像、資料を学習する	最後の課題 (事前・事後にそれぞれ1時間)																																																																
15	まとめ	資料を学習する	課題の再提出 (事前・事後にそれぞれ1時間)																																																																
関連科目	特になし。																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	教材の視聴 (出席) 五割、課題五割																																																																		
学生へのメッセージ	中国文化、中国文学を知りたい学生の参加を歓迎します。中国語を受講していない学生の受講も歓迎します。																																																																		
担当者の研究室等備考	7号館2階 非常勤講師室																																																																		

科目名	ホテルビジネス論	科目名 (英文)	Hotel Business
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	塩崎 裕司
ディプロマポリシー (DP)	DP1△, DP6△		
科目ナンバリング	LDL2601a0		

授業概要・目的	本来であれば訪日外国人の増加や、一昨年開催された東京オリンピック・パラリンピック、2025年に開かれる大阪関西万博に向け、注目されるホテル産業であったが、今般の新型コロナウイルスにより大きな影響を受けた。ホテル・宿泊業は航空産業と同じく、在庫の出来ないサービス財を扱っており、また固定費比率の高い産業であるが故に、大きな影響を受けているその産業特性や歴史的経緯、日系・外資系ホテルの相違、現在の様々な課題について社会的・経済的背景を含めて学習し、将来展望を考察することができる。観光業界の一角を担う航空会社の現業部門や本社人事、総務部門を担当した実務経験者の教員が企業経営や会社収支分析も含め、事例を挙げながら、基礎的な事業知識や具体的な業務の実態について解説する。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ホテル事業の基礎的な事業知識や、その実態について理解する。 在庫の出来ないサービス財、固定費比率の高い産業特性を理解し、その課題や将来展望を受講者自身の考えのもと説明できる知識を身につける。 様々なホテル経営方式の違いを学習し、チェーンビジネスの特性を理解する。 ホテル・宿泊産業に関心を持つ受講生については、この授業で得た知識を契機に業界や企業研究をふかめ、進路選択に積極的に活用することを目指す。
授業方法と留意点	対面授業を前提にパワーポイントを使用して授業する。指定する教科書はないが、授業内容に沿った資料を毎回配布し、受講者自身が重要な部分をパワーポイントから読み取り、資料に記入する。また、理解を深めるため関連する動画資料も活用する。授業内容にかかわる質問については、授業終了時に毎回提出する出席票をかねた小レポートに質問を記入してもらい、次回の授業時に解説する。プリントの空欄となっている要点について、パワーポイントから読み取り、次回講義までに自らの知識として復習しておくことが重要。日頃からホテル関連の報道等に関
科目学習の効果 (資格)	観光産業に深く関わるホテル事業を学習、理解することにより、将来の進路の判断材料として役立てる事ができる。(特に公的資格取得には繋がるものではない)。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	講師紹介。授業方法の説明。授業概要、到達点の説明。成績評価、履修上の注意点を説明。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める(2時間)。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと(2時間)。
2	世界の宿泊業の歴史	世界の宿泊業の歴史は古代ギリシャやローマの時代に遡る。そのような宿泊施設からホテルに発展し、その後様々な形に変化して現在に至るまでを解説する。	キーワード：グランドホテル、セザール・リッツ、スタットラーについて事前に調べる。関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める(2時間)。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと(2時間)。
3	日本の宿泊業の歴史(1)第二次世界大戦まで	日本のホテルはどのような背景で誕生し、その後発展していったのか、またその時代の社会や経済的情勢との関係を含めて、日本のホテルの歴史について説明を行う。	キーワード：築地ホテル館、帝国ホテル、Frank・Lloyd・Wright、小林一三について事前に調べる。関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める(2時間)。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと(2時間)。
4	日本の宿泊業の歴史(2)終戦から現代まで	前回は引き続き、太平洋戦争後から現在に至るまでのホテルの歴史について、東京オリンピックや大阪万博など様々な時代背景を交えて説明を行う。	キーワード：ホテルニューグランド、東京ヒルトンホテル、国際観光ホテル整備法について事前に調べる。関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める(2時間)。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと(2時間)。
5	日本のホテル業界の現況	日本のホテル業界は、時代の変化と共に様々な課題が生じており、決して楽観視できるような環境ではない。こうした状況について説明を行う。	キーワード：ラグジャリーホテル、宿泊特化型ホテルについて事前に調べる。関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める(2時間)。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと(2時間)。
6	ホテルビジネスの特性	ホテル事業をより解り易く理解してもらうために、ホテル事業の「特性」について、様々な事例や他の事業との比較を交えながら説明を行う。	キーワード：装置産業、労働集約的産業、固定費と変動費について事前に調べる。関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める(2時間)。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと(2時間)。
7	ホテルの経営方式	ホテルの経営についても様々な種類があり、他産業に比較し、独自の方式・形態も存在する。そうした方式・形態の特徴や問題点について説明を行う。	キーワード：運営受託方式、フランチャイズ方式、経営と運営について事前に調べる。関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める(2時間)。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと(2時間)。
8	チェーンビジネスの基本	ホテルは、何故チェーン化を進めるのか、またチェーンを統括する本部に必要な機能はどのようなものなのかについて説明する。	キーワード：スケールメリット、チェーンビジネス、ブランド、Royaltyについて事前に調べる。関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める(2時間)。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと(2時間)。
9	世界のホテルチェーン	世界の主要なホテルチェーンの展開方式や現状を解説し、外資系ホテルチェーンの日本進出を読み解く。	キーワード：市場細分化戦略、マルチブランド戦略、マリオットインターナショナルについて事前に調べる。関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める(2時間)。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと(2時間)。
10	日本のホテルチェーン	日本にも多くのホテルチェーンが存在	キーワード：ホテルオークラ、五島慶太、プリンス

			するが、世界のホテルチェーンとは様々な面で異なる特徴を持っている。そうした特徴や今後の方向性がどのように予測されるかを説明し、主要なホテルチェーンの概要についての説明を行う。	ホテル、星のリゾートについて事前に調べる。関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める(2時間)。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと(2時間)。
11	日本の宿泊産業		日本の宿泊施設には、ホテル、旅館、民宿やペンションなど実に多くの宿泊施設があり、それぞれの特徴や相違点などを説明する。現在、導入されつつある民泊の現状や課題についても考察する。	キーワード：旅館業法、簡易宿泊所、民泊新法、約款について事前に調べる。関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める(2時間)。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと(2時間)。
12	ホテルの収入構成と収益構造について		ホテルの収入構成で営業施設毎の比率・指数、ホテルの費用構成、収益構造を中心に講義を行う。	キーワード：ユニフォームシステム、客室稼働率、客室単価、Revperについて事前に調べる。関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める(2時間)。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと(2時間)。
13	ホテルの組織と仕事(1) 宿泊部門		ホテル全体の組織の説明のあと、部門別にそれぞれの組織、具体的な業務内容について講義する。今回は宿泊部門。	キーワード：総支配人、ドアマン、コンシェルジュについて事前に調べる。関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める(2時間)。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと(2時間)。
14	ホテルの組織と仕事(2) 料飲・宴会部門など		前回に引き続き、料飲部門、宴会部門、管理部門の組織と業務内容について説明を行う。	キーワード：Food and Beverage Division、ソムリエについて事前に調べる。関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める(2時間)。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと(2時間)。
15	まとめと特別講義		我が国の主要ホテルを例に貫かれたアイデンティティやホスピタリティーに対する考え方について考察する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める(2時間)。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと(2時間)。

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新ホテル総論	財団法人日本ホテル教育センター	プラザ出版
	2	宿を支える女将たち	岩崎信也	柴田書店
	3	帝国ホテル物語	武内孝夫	現代書館

評価方法 (基準)
 授業計画に示した各回のキーワードについて事前に調べ、授業終了後のレポートに反映すること。
 10回以上の出席票をかねたレポート提出がない場合は評価の対象とならない。
 定期試験60%、授業後に提出するレポート、授業参加姿勢40%で総合的に評価する。
 20分以上の遅刻・早退は3回で1回の欠席とする。
 (定期試験は幅広い範囲への対応が求められるので、各回授業で配布される資料のポイントを復習して、自らの知識として整理しておくことが重要となる)

学生へのメッセージ
 新型コロナ終息後の訪日外国人の回復、2025年大阪関西万博に向け業績の回復が期待されるホテル業界。その事業の実態と課題について学習します。
 また、仕事の内容や求められる資質について考察します。将来の進路として考えている学生諸君にも参考になる内容です。一緒に研究しましょう。

担当者の研究室等
 7号館4階(塩崎・沖中研究室)

備考
 毎回の授業で出席票をかねたレポートを提出していただきます。そこに記載された授業内容にかかわる質問については、次回授業でフィードバックいたします。

科目名	ホスピタリティ基礎論	科目名 (英文)	Introduction to Hospitality
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	沖中 美喜
ディプロマポリシー (DP)	DP1△, DP6△		
科目ナンバリング	LDL2602a0		

授業概要・目的

・現代社会では多種多様な場面でホスピタリティの重要性が高まっている。特に観光や旅行、ショッピング等、ホスピタリティが重視される場面や産業は幅広い。航空会社の客室乗務員として現業部門を担当した教員による、ホスピタリティを言語、文化そして、個人（消費者）からの視点など多角的にアプローチをし、ホスピタリティを生み出す為には何が求められるかについて考察し、理解を深めていく授業である。それぞれが自分なりに「ホスピタリティ」について考え表現できることを目指す。

※外国語学部所属生のみ、この授業は観光ホスピタリティプログラム科目の一つである。

到達目標

- ・現代社会において、ホスピタリティの意味と果たす役割を理解することが出来る。(知識・理解)
- ・ホスピタリティが生み出す要素を理解できる。(知識・理解)
- ・実務社会で求められる意識・態度（ビジネスマナーの基本）を取得できる。

授業方法と留意点

Power point と配布資料で主に講義形式で授業を進めていく。適宜、受講生同士がコミュニケーションを行うようディスカッションも取り入れる。授業内で毎回、資料を配布。授業の最後に、小レポートを課し提出。フィードバックは必要に応じて授業内で行う。

科目学習の効果 (資格)

ホスピタリティがいかに重要なものかを実感し、今後のホスピタリティ産業への就職に役立つものとする。ビジネスマナーの基本も身につける。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業履修にあたっての説明。本講義で取り上げるホスピタリティへのアプローチ方法を理解する。	ホスピタリティに関する文献を読む (4時間)
2	ホスピタリティの原義	「ホスピタリティ」を語源からアプローチし、「ホスピタリティ」が持つ意味を考察する。「もてなし」や「サービス」と比較する。	ホスピタリティとサービスの違いを学生同士ディスカッションしておく (4時間)
3	ホスピタリティと人間	人を思いやる「感情」面からアプローチし、人を思いやり伝えることの大切さを理解する。	相手の気持ちを理解するにはどうするか考えてみる。(4時間)
4	ホスピタリティと文化	ホスピタリティの表出の仕方感じ方などに文化や時代による違いを考察してみる。	文化の違いを感じたことはあるか考えてみる。(4時間)
5	事例研究1 「感動はこうして生まれる」	外食産業におけるホスピタリティの実例を考察する。	実例を見て感じたことを自分の言葉で表現する (4時間)
6	ホスピタリティと産業	サービス産業、ホスピタリティ産業が求める時代背景を産業構造の変化を追いながら考える。	サービス産業にはどのようなものがあるか考えてみる。(4時間)
7	事例研究2 「ホテル産業の変化予測」	代表的なホスピタリティ産業「ホテル」の事例を研究する。	実例を見て感じたことを自分の言葉で表現する (4時間)
8	エアラインにおけるホスピタリティ	ホスピタリティ産業といわれる実際の企業を取り上げて、ホスピタリティと産業の関係性を考察する。	ANAのニュースを読む (4時間)
9	ホスピタリティとチームワーク	企業がホスピタリティをチームで生み出すために必要な要素は何かを考えていく。	チームワーク経験 (スポーツ、アルバイトなど) を振り返る。(4時間)
10	ホスピタリティとコミュニケーション1	ホスピタリティを相手に伝える為にはコミュニケーション能力が重要となることを理解する。	自分のコミュニケーション能力を客観的に見てみる。(4時間)
11	ホスピタリティとコミュニケーション2	ホスピタリティを相手に伝えるための具体的なコミュニケーション方法やビジネスマナーについて理解する。	授業で学んだビジネスマナーを復習し、体得する。
12	事例研究3「地域に愛されるカフェ」	地域に溶け込むカフェの秘密を探る。	実例を見て感じたことを自分の言葉で表現する (4時間)
13	現代社会におけるホスピタリティ (ダイバーシティ&インクルージョン)	現代社会の中で求められる多様性を受け入れることの重要性をホスピタリティの観点から理解する。	ダイバーシティに力を入れている企業を調べる (4時間)
14	ユニバーサルサービス	「あらゆる人の立場に立った公平な情報とサービスを提供する」というユニバーサルサービスについて考える。	ユニバーサルサービスに関する文献を読む。(4時間)
15	まとめ	授業全体のまとめ	15回分の復習をする (4時間)

関連科目

エアライン・ホスピタリティプログラム科目 (～2014年度入学生)
観光ホスピタリティプログラム科目 (2015年度～入学生) エアラインビジネス論 ホテルビジネス論

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	参加態度 10% 毎回の小レポート 40% 期末テスト 50%
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・授業には適宜”社会人になる為の心得”も盛り込んでいきます。 ・自分の考えをまとめ、コミュニケーションを取ることは難しいと思います。誰も最初からできる人はいません。力まずに、まずは積極的に参加する！という気持ちを持って参加して下さい。する！という気持ちを大切に、受講して下さい。 ・この授業を終えた頃には、周りの様々なことに「気づく」ということが身についているはずです。
担当者の 研究室等 備考	7号館4階(塩崎・沖中研究室)

科目名	エアラインサービス論	科目名 (英文)	Airline Service
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	塩崎 裕司
ディプロマポリシー (DP)	DP1△, DP6△		
科目ナンバリング	LDL2604a0		

授業概要・目的	日本の主要航空会社で空港接客部門、整備管理部門、グランドハンドリング会社や予約販売会社で長年にわたり、人事、総務、経営部門を担った実務経験者の教員が、社会インフラの一つである公共交通機関としての航空産業の役割を説明する。 PilotやCA、グランドスタッフ以外にも航空機を安全、定時に運航するために多種多様な職種の仕事や協力体制について、実務経験をおととして講義することにより、航空企業での業務実態を説明する。
到達目標	航空産業の企業活動を通し、企業の事業運営に貢献する意義を身につける。 また、企業の社会的貢献や責任、顧客満足、従業員満足について学習することを通し、将来の進路選択に際しての判断材料に資することを目標とする。 客室乗務員やグランドスタッフというイメージにはしがちな航空会社の公共交通機関としての社会的使命を正確に理解するとともに、航空機を運航するための様々な職種の存在を認識し、進路選択の幅を広げる。 将来、航空産業を目指すための知識や意識を修得する。
授業方法と留意点	対面授業を前提にパワーポイントを使用し授業をする。指定する教科書はないが、授業内容に沿った資料を毎回配布し、受講者自身が重要な部分をパワーポイントから読み取り、資料に記入する。また、理解を深めるための動画資料も活用する。 授業内容にかかわる質問については、授業終了時に毎回提出する出席票をかねた小レポートに質問を記入してもらい、次の授業時に解説する。プリントの空欄になっている要点についてパワーポイントから読み取り、次回講義までに自らの知識として復習しておくことが重要。受講にあたっては、日ごろから航空業
科目学習の効果 (資格)	航空産業の様々な職種を知る事により、将来の進路の判断材料に資する (特に公的資格取得には直接繋がるものではない)。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	講師紹介。授業方法の説明。授業概要、到達点の説明。成績評価、履修上の注意点などの説明。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める(2時間)。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと(2時間)。
2	航空運送事業の特性	在庫ができないサービス財、固定費比率の高さをはじめ航空運送事業の特性とイベントリスクの影響の大きさについて解説する。	キーワード; 45・47体制、定期航空運送事業、固定費と変動費について事前に調べる。関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める(2時間)。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと(2時間)。
3	安全	航空会社にとって安全とは経営の基盤であり社会への責務である。安全を守りつづけるための努力について説明する。また、安全と保安の違いについても解説する。	キーワード; 国際民間航空機関、ハインリッヒの法則、インシデントについて事前に調べる。関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める(2時間)。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと(2時間)。
4	営業・販売	誰に何をどうやって売っているの? インターネットの進歩に伴い、大きく形態が変わりつつある営業・販売部門の実態について解説する。	キーワード; イールド・マネジメント、ダイナミック・パッケージについて事前に調べる。関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める(2時間)。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと(2時間)。
5	予約業務	飛行機を利用しようとする顧客がまず最初に接する航空会社の代表。第一印象がすべてを決める、声だけの接客。あらゆる問い合わせに正確、迅速に対応しなければならない予約業務について説明する。	キーワード; CRS、GDSについて事前に調べる。関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める(2時間)。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと(2時間)。
6	旅客ハンドリン (GS)	この次も選んでいただくために、顧客満足を追求するグランドスタッフの業務について説明する。	キーワード; C. I. Q、eチケットについて事前に調べる。関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める(2時間)。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと(2時間)。
7	グランドハンドリング	目立たないが、グランドハンドリングがいなければ航空機は飛べない重要な仕事。定時運航を守るため、到着から出発まで安全第一に時間との闘いの業務について解説する。	キーワード; G. S. E、マーシャリングについて事前に調べる。関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める(2時間)。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと(2時間)。
8	航空機整備	ひとくちに航空機整備といっても、役割や目的にいろいろ違いがある。何のためにどういう整備が行われているのか、安全運航に直結する仕事について説明する。	キーワード; 一等航空整備士、C整備について事前に調べる。関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める(2時間)。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと(2時間)。
9	オペレーション	運航方式、管制、飛行ルートについて説明。地上のパイロットとも呼ばれる航空機の飛行計画、監視を担う運航管理者について説明する。	キーワード; フライトプラン、ディスパッチャーについて事前に調べる。関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める(2時間)。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと(2時間)。
10	運航乗務員 (Pilot)	多くの命を預かる運航乗務員の職業意識や具体的業務・訓練について説明する。また、航空機が飛ぶ飛行の原理についても解説する。	キーワード; 航空大学校、自社養成パイロットについて事前に調べる。関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める(2時間)。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと(2時間)。
11	客室乗務員 (CA) I	客室乗務員の最大の業務は保安業務。乗	キーワード; キャビン、安全阻害行為について事前

			客の命と安全を守る仕事と職業意識について説明する。	に調べる。関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める(2時間)。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと(2時間)。
12	客室乗務員(CA)Ⅱ		客室乗務員の具体的な業務の流れとキャリアパスについて説明。CAになるための訓練の厳しさについても紹介する。	キーワード; プリーフィング、チーフパーサー、について事前に調べる。関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める(2時間)。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと(2時間)。
13	機内サービス		機内で提供される食事を担当するケータリング会社や機内エンターテインメント、機内販売について解説する。	キーワード; ケータリング、ギャレイ、HACCPについて事前に調べる。関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める(2時間)。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと(2時間)。
14	国際航空貨物		新型コロナ禍で旅客運送は低迷したが、その裏で経営を支え、今注目を集めている国際航空貨物事業の実態について説明する。	キーワード; フォワード、インテグレーターについて事前に調べる。関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める(2時間)。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと(2時間)。
15	まとめと特別講義		ここまで説明してきた航空会社の業務についてのまとめとポイントについて解説する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める(2時間)。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと(2時間)。

関連科目 ホテルビジネス論、ホスピタリティ基礎論

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	航空産業入門第2版	ANA 総合研究所	東洋経済新報社
2	エアラインオペレーション入門改定新版	ANA 総合研究所	イカロス出版
3	数字で見る航空(2021)	国土交通省航空局	航空振興財団

評価方法 (基準)
 授業計画に示した各回のキーワードについて事前に調べ、授業終了後に提出するレポートに反映すること。
 10回以上の出席票をかねたレポートの提出がない場合は評価の対象とならない。
 定期試験60%、授業後に提出するレポート、授業参加姿勢40%で総合的に評価する。
 20分以上の遅刻・早退は3回で1回の欠席とする。
 (定期試験は幅広い範囲の対応が求められるので、各回配布される資料のポイントを復習して、自らの知識として整理しておくことが重要となる)

学生へのメッセージ
 航空産業に携わる人はパイロットとCAだけと思いませんか?実際には業務は多岐にわたり、パイロットやCAたちはほんの一部です。航空産業にはどのような仕事があってどのような人が向いているのかを実務者の観点から分かり易く解説します。現在新型コロナの影響を受けている航空産業ですが、着実に回復しつつあります。航空業界に関心を持っている学生には興味深い講義ですし、将来の進路と考えている学生諸君には大変参考になるとと思います。

担当者の研究室等
 7号館4階(塩崎・沖中研究室)

備考
 毎回の授業で出席票をかねたレポートを提出していただきます。そこに記載された授業内容にかかわる質問については、次回授業でフィードバックいたします。

科目名	ミュージアムコレクション論	科目名 (英文)	Studies on Museum Collections
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	杉山 博昭
ディプロマポリシー (DP)	DP1Δ, DP6Δ		
科目ナンバリング	LDL2607a0		

授業概要・目的	【博物館資料の価値とはなにか】 博物館資料の種類・特質・収集・整理・保管について「理論」を学ぶ。博物館になくてはならない博物館資料は、美術・歴史・民俗・考古などさまざまな領域に属し、さらに絵画・彫刻・工芸・映像など豊富なジャンルにわたる。その分類法をふまえて、まずは具体的な作品の魅力や鑑賞法に触れ、個々の資料が持つかけがえのない価値とはなにかを考える。その考察をとおして、個々人が抱く作品への興味や関心を大きく育み、博物館資料を仕事として取り扱う際の基本的知識を裏打ちする。		
到達目標	【以下の3点を自分の言葉で説明できるようになること】 1. 博物館資料が有するふたつの資料価値 2. 博物館資料の構造的特性と資料価値の関係 3. 上述のふたつの資料価値が衝突する際の対応策		
授業方法と留意点	【なにを問うべきかを考えること】 1. 講義に出席する。 2. 講義中の制限時間内に、Moodle 経由で質問を入力する。 3. 講義前に配布される Q&A シートを確認し、講義でフィードバックを受ける。 4. 校外実習に参加する。		
科目学習の効果 (資格)	学芸員資格の取得 (必修科目)		
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等 事前・事後学習課題
	1	はじめに	授業の概要と博物館資料の定義について解説する。 事前:Moodle から資料をダウンロードし、レジュメ掲載作品を検索して確認する (60分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90分)。
	2	絵画資料#1	絵画資料のうち、フレスコ画の歴史、特性と価値を解説する。 事前:Moodle から資料をダウンロードし、前回質問への応答内容を確認し、レジュメ掲載作品を検索して確認する (90分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90分)。
	3	絵画資料#2	絵画資料のうち、テンペラ画の歴史、特性と価値を解説する。 事前:Moodle から資料をダウンロードし、前回質問への応答内容を確認し、レジュメ掲載作品を検索して確認する (90分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90分)。
	4	絵画資料#3	絵画資料のうち、油彩画の歴史、特性と価値を解説する。 事前:Moodle から資料をダウンロードし、前回質問への応答内容を確認し、レジュメ掲載作品を検索して確認する (90分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90分)。
	5	絵画資料#4	絵画資料のうち、水彩画の歴史、特性と価値を解説する。 実習は2コマを充当する。別の曜日に2コマ連続で実施する。 事前:絵画資料の特性をもういちど復習しておく (90分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90分)。
	6	絵画資料#5	絵画資料のうち、現代美術、ミクストメディアの歴史、特性と価値を解説する。 実習は2コマを充当する。別の曜日に2コマ連続で実施する。 事前:絵画資料の特性をもういちど復習しておく (90分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90分)。
	7	彫刻資料#1	彫刻資料のうち、木像と銅像の特性と価値を解説する。 事前:Moodle から資料をダウンロードし、前回質問への応答内容を確認し、レジュメ掲載作品を検索して確認する (90分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90分)。
	8	彫刻資料#2	彫刻資料のうち、現代美術とインスタレーションの特性と価値を解説する。 事前:Moodle から資料をダウンロードし、前回質問への応答内容を確認し、レジュメ掲載作品を検索して確認する (90分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90分)。
	9	自然史資料	自然史資料である、生体資料などの特性と価値を解説する。 事前:Moodle から資料をダウンロードし、前回質問への応答内容を確認し、レジュメ掲載作品を検索して確認する (90分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90分)。
	10	資料収集	博物館資料の収集をめぐる意義と問題点を解説する。 事前:Moodle から資料をダウンロードし、前回質問への応答内容を確認し、レジュメ掲載作品を検索して確認する (90分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90分)。
	11	資料活用	博物館資料の活用をめぐる意義と問題点を解説する。 事前:Moodle から資料をダウンロードし、前回質問への応答内容を確認し、レジュメ掲載作品を検索して確認する (90分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90分)。
	12	博物館見学	[校外実習] 実際の展示を見学し、資料価値がどのように展開されているのかを確認する。 見学は3コマ分に相当する。 事前:見学する博物館のサイトを確認し、作品の傾向や展示の方針を確認する (60分) 事後:実地の経験をふまえてワークシートを完成させる (120分)。
	13	博物館見学	[校外実習] 実際の展示を見学し、資料価値がどのように展開されているのかを確認する。 見学は3コマ分に相当する。 事前:見学する博物館のサイトを確認し、作品の傾

			を確認する。	向や展示の方針を確認する (60分) 事後：実地の経験をふまえてワークシートを完成させる (120分)。																
	14	博物館見学	[校外実習] 実際の展示を見学し、資料価値がどのように展開されているのかを確認する。	見学は3コマ分に相当する。 事前：見学する博物館のサイトを確認し、作品の傾向や展示の方針を確認する (60分) 事後：実地の経験をふまえてワークシートを完成させる (120分)。																
	15	おわりに	実習課題の振り返りと授業内容を総括する。	事前：Moodleから資料をダウンロードし、前回質問への応答内容を確認し、レジュメ掲載作品を検索して確認する (90分)。 事後：博物館資料の価値が衝突する事例を複数考える。その事例に該当する作品を探し、鑑賞しに行く (240分?)。																
関連科目	「他の学芸員課程の科目」/表象と感性プロジェクト/表象文化論/暮らしの中の文化																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	【質問内容による評価】 1. 毎回の質問内容 [80%] 2. ワークシートの内容 [20%] 3. いずれも「好奇心」と「論理性」を基準とする。																			
学生への メッセージ	【コンディションを整えること】 1. 資格取得の要件であるため、当然、出席は大切にする。 2. さらに、より良い質問をするために、講義に集中できるコンディションを整える。 3. 校外実習は貴重な機会なので、かならず参加する。																			
担当者の 研究室等	7号館5階 杉山研究室																			
備考	【自分の質問に自分で応答すること】 1. 事前・事後学習は総時間60時間が目安となる。 2. 図書館やウェブ、その他の手段を使ってみずからの質問に回答を試みる。																			

科目名	博物館資料保存論	科目名 (英文)	Preservation of Museum Collections
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	赤澤 春彦
ディプロマポリシー (DP)	DP1Δ, DP6Δ		
科目ナンバリング	LDL2608a0		

授業概要・目的	博物館にとって資料はなくてはならないものです。資料がなければ博物館は成り立たないと言っても過言ではありません。したがって資料の収集、管理、保存は学芸員にとって最も重要な仕事の1つとなります。また、一口に「資料」といっても例えば考古、歴史、民俗など様々な種類があります。本授業では学芸員の職務の経験を活かし、講義だけでなく、実際の技術も身に付けることを目的とする。			
到達目標	資料の種類、取り扱い方、整理・管理・保存・修復の方法などの基礎的な知識と技能を習得できる。			
授業方法と留意点	対面で行います。 座学と実習を行います。 本授業は学芸員資格取得に必須となる授業であるため欠席は認めません。必ず毎回参加してください。 連絡事項や課題の提出は Teams で行います。フィードバックは講義の中で行います。			
科目学習の効果 (資格)	学芸員資格の取得 (必修科目)			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	資料とは何か、資料保存とは何か	講義の進め方、自己紹介、博物館に関する話などをします。 資料の定義、種類について解説し、資料保存の基本的な考えについて講義します。	資料の分類と内容について復習する
	2	考古資料の保存 (1)	埋蔵文化財、考古資料の保存方法について講義します。	文化財保護法について復習する
	3	考古資料の保存 (2)	遺物の接合実習をします。	考古の接合の事例を書籍や web で調べる
	4	考古資料の保存 (3)	遺物の接合の続きと実測をします。	実測図を完成させ、次週までに提出する。
	5	民俗資料の保存	民俗資料の保存の方法について講義します。	さまざまな民俗資料について博物館の HP から調査する
	6	石造物の保存 (1)	石造物の保存方法について講義し、実測とスケッチをします。	実測図、スケッチの続きを行う。
	7	石造物の保存 (2)	石造物の実測、スケッチの続きをします。	実測図、スケッチを完成させ、次週までに提出する。
	8	歴史資料の保存 (1)	歴史資料の整理方法、保存方法について講義します。	授業で課した語句、地名について辞書で調べる
	9	歴史資料の保存 (2)	古文書修復の実習をします。	裏打ちの方法について復習する
	10	歴史資料の保存 (3)	和本の装丁の実習をします。	和本の装丁をもう一度やってみる。
	11	燻蒸と I P M	虫損から資料を守る燻蒸と I P M (総合的有害生物管理) という 2 つの方法を比較検討します。	燻蒸と虫干しについて復習する
	12	資料保存の現場	博物館見学	3 コマ分です。 日程は講義中に決めます。
	13	資料保存の現場	博物館見学	3 コマ分です。 日程は講義中に決めます。
	14	資料保存の現場	博物館見学	3 コマ分です。 日程は講義中に決めます。
	15	まとめ (確認テスト)	授業のまとめと筆記試験を行います (持ち込み不可)	今までのノートをまとめておく。
関連科目	他の学芸員課程の講義。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	課題および実技テスト (40%)、確認テスト (60%)			
学生へのメッセージ	学芸員を目指す方にとって必須の科目です。単に知識を得るだけでなく、私の経験をもとに資料保存の実現について一緒に考えたり、また保存に関わる基礎的な技能を身につけましょう。積極的な姿勢を望みます。			
担当者の研究室等	赤澤研究室 (7 号館 4 階)			
備考	事前・事後学習は総時間 60 時間を目安とする。 課外実習の日程は天候などによって変更する場合があります。			

科目名	ディスプレイ論	科目名 (英文)	Museum Display Planning
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	細田 慈人
ディプロマポリシー (DP)	DP1△, DP6△		
科目ナンバリング	LDL2609a0		

授業概要・目的	博物館施設における展示とは何か。展示の意義と役割について理解し、効果的な展示手法に関する理論の裏付けと実践に活用できる技術を身につけることをめざす。博物館施設の展示に関する基礎的知識の習得と実践的作業の演習。
到達目標	博物館施設における展示とは何かを説明することができる。また、具体的な展示物に即した効果的な展示を自ら考え、実施することが出来る。博物館施設の展示に関する基礎的な知識と技術の習得。
授業方法と留意点	博物館施設における展示の概要を講義形式で学び、具体的な展示の形態や手法については、実践的な演習を通して理解できるようにする。展示は単なる知識ではなく、実際の作業そのものである。その作業には、作業全体に関わる展示計画の策定が必要であるが、その策定の基礎となるのは、展示対象物や展示補助具等についての正しい知識とそれらを適切に取り扱う技術である。展示を実際に企画することで、実際に展示を担当する際に必要な技能や知識を養う。また、展示の企画立案を最終目標とするので博物館を見学し、レポートを作成する。また、レポートに
科目学習の効果 (資格)	学芸員資格認定のため必修の科目。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	受講上の注意と博物館展示の前提知識	授業のねらいと受講上の諸注意、また博物館における展示を学ぶ上での前提知識を理解する。	事前:博物館施設の活動について調べておくこと(1時間)。 事後:授業を振り返り、授業のねらいと受講上の諸注意についてまとめておくこと(1時間)。
2	博物館施設の歴史	博物館施設の歴史について理解する。	事前:博物館施設の歴史について調べておくこと(1.5時間)。 事後:授業を振り返り、博物館施設の歴史についてまとめておくこと(2時間)。
3	博物館施設の定義と役割	博物館施設の定義と役割について理解する。	事前:博物館の定義と役割について調べておくこと(1.5時間)。 事後:授業を振り返り、博物館の定義と役割についてまとめておくこと(2時間)。
4	学芸員の役割	博物館における学芸員の役割について理解する。	事前:学芸員の職務について調べておくこと(1.5時間)。 事後:授業を振り返り、学芸員の役割、実際の職務についてまとめておくこと(2時間)。
5	展示論の提唱と発展	博物館における展示を学問的に理解する。	事前:展示論について調べておくこと(1.5時間)。 事後:授業を振り返り、展示の形態と手法についてまとめておくこと(2時間)。
6	展示の意義	展示の意義について理解する。	事前:博物館施設における展示について調べておくこと(1.5時間)。 事後:授業を振り返り、展示の意義についてまとめておくこと(2時間)。
7	展示計画の立案から実施まで	展示に至るまでの立案・資料借用・陳列の三工程について、実例をもとに展示企画を実行する上での留意点を理解する。	事前:事前に自身の展示テーマを考え、どのような資料を展示するか考えておくこと(5時間)。 事後:授業を振り返り展示計画立案から実施までについてその手順、内容をまとめておくこと(2時間)。
8	展示の形態・手法	様々な展示形態について実例をもとに具体的に把握し、展示の手法について理解する。	事前:博物館施設を見学し、実際の展示について理解を深めておくこと(2時間)。 事後:授業を振り返り、様々な展示形態、手法についてまとめておくこと(2時間)。
9	展示のための設備と補助具	展示作業に必要な設備と補助具について理解する。	事前:展示作業に必要な設備と補助具について調べておくこと(1.5時間)。 事後:授業を振り返り、展示のための設備と補助具についてまとめておくこと(2時間)。
10	展示資料調査と借用・返却	展示資料の調査方法や資料を借用・返却する際の留意点、資料の運搬方法などについて理解する。	事前:博物館資料論について調べておくこと(1.5時間)。 事後:授業を振り返り、調査作成の方法、資料の梱包方法についてまとめておくこと(1.5時間)。
11	展示資料の取り扱い①～美術品・工芸品～	展示資料(美術資料と工芸品)の取り扱いについて理解する。	事前:絵画、陶磁器、漆芸品、茶道具、刀剣、鎧、彫刻などの諸資料について確認しておくこと(5時間)。 事後:授業を振り返り、各資料について理解を深めておくこと(3時間)。
12	展示資料の取り扱い②～考古資料・歴史～	展示資料(考古資料・歴史資料)の取り扱いについて理解する。	事前:土器、石器、木簡などの考古資料、古文書・典籍ほか文字資料、民俗資料などを含む歴史資料について調べておくこと(5時間)。 事後:授業を振り返り各資料についての理解を深めておくこと(3時間)。
13	展示の広報	展示の広報手段、その内容、配慮すべき事項など展示に関する広報について理解する。	事前:展示で使用される広報手段について調べておくこと(1.5時間)。 事後:授業を振り返り、現在の展示広報についてまとめておくこと(2時間)。
14	展示の評価	展示の評価について理解する。	事前:展示評価の手法、情報入手のツールについて確認しておくこと(1.5時間)。 事後:授業を振り返り、展示評価の基準についてまとめておくこと(2時間)。
15	授業のまとめ	後半の授業内容について理解度を確認する。	事前:自身が企画した展示について確認しておくこと(5時間)。 事後:授業を振り返り、展示の重要事項についてまとめておくこと(3時間)。

関連科目	学芸員資格に必要な各科目。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	展示論—博物館の展示をつくる—	日本展示学会	雄山閣
	2	博物館展示論	黒沢浩	講談社
	3	博物館展示・教育論 (博物館シリーズ3)	小原巖	樹村房
評価方法 (基準)	授業参加度 (30%)、博物館展示見学レポート (30%)、期末課題 (40%) によって評価する。 博物館実務を学ぶための必須となる授業であるため、出席7割以上、または博物館展示見学レポート及び展示企画書を提出しなかった場合、不合格または評価不能とする。			
学生への メッセージ	第1回の授業において、受講心得と成績評価について資料を配布するので必ず確認すること。 各種博物館施設に足を運び、実際の展示に接するとともに、展示の形態や手法について理解に努めること。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	質問・相談等は当該授業の前後に対応する。 見学レポートについては博物館施設・相当施設・類似施設のいずれか2館を見学したうえでレポートを作成すること。作成を指示する展示企画案は、必ず提出すること。			

科目名	Japanese Society and Culture	科目名 (英文)	Japanese Society and Culture
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	A
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	カーティス チュウ
ディプロマポリシー (DP)	DP1Δ, DP6Δ		
科目ナンバリング	LDL2627c0		

授業概要・目的	国際社会の中の日本という視点から、英語をコミュニケーションツールとして活用し、社会や文化について以下のような内容を講義・演習形式を通じて学習する。①文化・社会的なトピックについて英語で書かれた文章やデータを理解し分析する力を高める。②国際社会の多様性に注意を払いながら日本の社会と文化を英語によって表現するための知識とスキルを実践的に学ぶ。
到達目標	この科目は、主として国際学部の2年次の学生を対象とし、日本文化およびグローバル化する社会の異文化理解に関する英語を聞き、読み、多様な背景を有する人々と、身近な話題から社会問題まで適切な英語表現を用いてコミュニケーションや議論を展開し意見交換ができるようになることをテーマ及び目標とする。
授業方法と留意点	教科書を中心に英語表現を練習するとともに、ディスカッションや発表を通じて表現力を身につける。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	身の回りの具体的な物や習慣から日本の社会や文化について	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること (1時間)
2	国際社会における人の移動や交流について	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること (1時間)
3	企業と消費者という視点から社会や文化のありようについて	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること (1時間)
4	食品および食習慣に関する事例を取り上げる	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること (1時間)
5	学生と社会との関わりについて	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること (1時間)
6	日本から外国へ、外国から日本へという2つの視点から旅行することを想定する	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること (1時間)
7	グローバル社会の一員として見た日本の社会と文化の姿を考える	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること (1時間)
8	日本の教育システムを諸外国のそれとの対比によって考察する	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること (1時間)
9	芸術や音楽を通じた日本と世界のつながりを学ぶ	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること (1時間)
10	コンピュータやAIの普及が日本の社会のありようによ及ぼす影響を考える	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること (1時間)
11	日本におけるジェンダーやセクシュアリティに関する議論を他国との対比によって考察する	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること (1時間)
12	国際社会の平和と安全を維持するために日本が世界とどう関わるかを考える	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること (1時間)
13	通信システムや SNS を使ったコミュニケーションを通して日本と世界のつながりについて学ぶ	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること (1時間)
14	疫病や災害を通じた日本と世界のつながりについて学ぶ	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること (1時間)
15	上記のテーマを踏まえて総括する	授業で学んだ内容について発表する。	発表の準備をするとともに、授業で学んだ内容について総復習すること (1時間)

関連科目 Topic Studies I a, b; Topic Studies II a, b など

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	CLIL 英語で培う文化間意識	笹島茂、工藤泰三、荊紅濤、Larry Joe, Hannah Haruna	三修社
2				
3				

評価方法 (基準)	小テスト (40%)、課題やレポートなどの提出物 (30%)、授業中の発表や取り組む姿勢など (30%) を合わせて総合的に評価する。
学生への メッセージ	Dear ELHT students: We will be working together in this course to explore Japanese culture and society from both local and international perspectives. Please be prepared to do group work, discussions, and express your opinions in English. If you stay com
担当者の 研究室等	カーティス講師室 (2号館2階)
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間を15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは週週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。

科目名	Japanese Society and Culture	科目名 (英文)	Japanese Society and Culture
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	B
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	高橋 真理子
ディプロマポリシー (DP)	DP1Δ, DP6Δ		
科目ナンバリング	LDL2627c0		

授業概要・目的	国際社会の中の日本という視点から、英語をコミュニケーションツールとして活用し、社会や文化について以下のような内容を講義・演習形式を通じて学習する。①文化・社会的なトピックについて英語で書かれた文章やデータを理解し分析する力を高める。②国際社会の多様性に注意を払いながら日本の社会と文化を英語によって表現するための知識とスキルを実践的に学ぶ。
到達目標	この科目は、主として国際学部の2年次の学生を対象とし、日本文化およびグローバル化する社会の異文化理解に関する英語を聞き、読み、多様な背景を有する人々と、身近な話題から社会問題まで適切な英語表現を用いてコミュニケーションや議論を展開し意見交換ができるようになることをテーマ及び目標とする。
授業方法と留意点	教科書を中心に英語表現を練習するとともに、ディスカッションや発表を通じて表現力を身につける。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	身の回りの具体的な物や習慣から日本の社会や文化について	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること (1時間)
2	国際社会における人の移動や交流について	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること (1時間)
3	企業と消費者という視点から社会や文化のありようについて	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること (1時間)
4	食品および食習慣に関する事例を取り上げる	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること (1時間)
5	学生と社会との関わりについて	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること (1時間)
6	日本から外国へ、外国から日本へという2つの視点から旅行することを想定する	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること (1時間)
7	グローバル社会の一員として見た日本の社会と文化の姿を考える	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること (1時間)
8	日本の教育システムを諸外国のそれとの対比によって考察する	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること (1時間)
9	芸術や音楽を通じた日本と世界のつながりを学ぶ	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること (1時間)
10	コンピュータやAIの普及が日本の社会のありように及ぼす影響を考える	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること (1時間)
11	日本におけるジェンダーやセクシュアリティに関する議論を他国との対比によって考察する	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること (1時間)
12	国際社会の平和と安全を維持するために日本が世界とどう関わるかを考える	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること (1時間)
13	通信システムや SNS を使ったコミュニケーションを通して日本と世界のつながりについて学ぶ	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること (1時間)
14	疫病や災害を通じた日本と世界のつながりについて学ぶ	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること (1時間)
15	上記のテーマを踏まえて総括する	授業で学んだ内容について発表する。	発表の準備をするとともに、授業で学んだ内容について総復習すること (1時間)

関連科目 Topic Studies I a, b; Topic Studies II a, b など

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	CLIL 英語で培う文化間意識	笹島茂、工藤泰三、荊紅濤、Larry Joe, Hannah Haruna	三修社
2				
3				

評価方法 (基準)	小テスト (40%)、課題やレポートなどの提出物 (30%)、授業中の発表や取り組む姿勢など (30%) を合わせて総合的に評価する。
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	7号館4階 高橋研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間を15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。

科目名	Japanese Society and Culture	科目名 (英文)	Japanese Society and Culture
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	C
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	齋藤 安以子
ディプロマポリシー(DP)	DP1Δ, DP6Δ		
科目ナンバリング	LDL2627c0		

授業概要・目的	国際社会の中の日本という視点から、英語をコミュニケーションツールとして活用し、社会や文化について以下のような内容を講義・演習形式を通じて学習する。①文化・社会的なトピックについて英語で書かれた文章やデータを理解し分析する力を高める。②国際社会の多様性に注意を払いながら日本の社会と文化を英語によって表現するための知識とスキルを実践的に学ぶ。
到達目標	この科目は、主として国際学部の2年次の学生を対象とし、日本文化およびグローバル化する社会の異文化理解に関する英語を聞き、読み、多様な背景を有する人々と、身近な話題から社会問題まで適切な英語表現を用いてコミュニケーションや議論を展開し意見交換ができるようになることをテーマおよび目標とする。
授業方法と留意点	教科書を中心に英語表現を練習するとともに、ディスカッションや発表を通じて表現力を身につける。
科目学習の効果(資格)	TOEIC、英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	身の回りの具体的な物や週間から日本の社会や文化について	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること(1時間)
2	国際社会における人の移動や交流について	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること(1時間)
3	企業と小使者という視点から社会や文化のありようについて	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること(1時間)
4	食品および食習慣に関する事例を取り上げる	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること(1時間)
5	学生と社会の関わりについて	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること(1時間)
6	日本から外国へ、外国から日本へという2つの視点から旅行することを想定する	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること(1時間)
7	グローバル社会の一員として見た日本の社会と文化の姿を考える	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること(1時間)
8	日本の教育システムを諸外国のそれとの対比によって考察する	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること(1時間)
9	芸術や音楽を通じた日本と世界のつながりを学ぶ	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること(1時間)
10	コンピュータやAIの普及が日本の社会のありようによ及ぼす影響を考える	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること(1時間)
11	日本におけるジェンダーやセクシュアリティに関する議論を他国との対比によって考察する	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること(1時間)
12	国際社会の平和と安全を維持するために日本が世界とどう関わるかを考える	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること(1時間)
13	通信システムやSNSを使ったコミュニケーションを通して日本と世界のつながりについて学ぶ	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること(1時間)
14	疫病や災害を通じた日本と世界のつながりについて学ぶ	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること(1時間)
15	上記のテーマを踏まえて総括する	授業で学んだ内容について発表する。	発表の準備をするとともに、授業で学んだ内容について総復習すること(1時間)

関連科目 Topic Studies Ia, b; Topic Studies IIa, b など

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	handout		
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	CLIL 英語で培う文化間意識	笹島茂、工藤泰三、荊紅濤、Larry Joe, Hannah Haruna	三修社
2				
3				

評価方法 (基準)	小テスト (40%)、課題やレポートなどの提出物 (30%)、授業中の発表や取り組む姿勢など (30%) を合わせて総合的に評価する。
学生への メッセージ	このクラスの教材の半分は、みんなで探して作り上げていきます。日本で暮らす自分の視点と、日本の外にいる人たちの視点を、意識できるようになるでしょう！
担当者の 研究室等	7号館4階 齋藤研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はチューデントアワーにて対応する。

科目名	Japanese Society and Culture	科目名 (英文)	Japanese Society and Culture
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	D
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	後藤 一章
ディプロマポリシー (DP)	DP1Δ, DP6Δ		
科目ナンバリング	LDL2627c0		

授業概要・目的	国際社会の中の日本という視点から、英語をコミュニケーションツールとして活用し、社会や文化について以下のような内容を講義・演習形式を通じて学習する。①文化・社会的なトピックについて英語で書かれた文章やデータを理解し分析する力を高める。②国際社会の多様性に注意を払いながら日本の社会と文化を英語によって表現するための知識とスキルを実践的に学ぶ。
到達目標	この科目は、主として国際学部の2年次の学生を対象とし、日本文化およびグローバル化する社会の異文化理解に関する英語を聞き、読み、多様な背景を有する人々と、身近な話題から社会問題まで適切な英語表現を用いてコミュニケーションや議論を展開し意見交換ができるようになることをテーマ及び目標とする。
授業方法と留意点	教科書を中心に英語表現を練習するとともに、ディスカッションや発表を通じて表現力を身につける。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	身の回りの具体的な物や習慣から日本の社会や文化について	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること (1時間)
2	国際社会における人の移動や交流について	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること (1時間)
3	企業と消費者という視点から社会や文化のありようについて	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること (1時間)
4	食品および食習慣に関する事例を取り上げる	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること (1時間)
5	学生と社会との関わりについて	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること (1時間)
6	日本から外国へ、外国から日本へという2つの視点から旅行することを想定する	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること (1時間)
7	グローバル社会の一員として見た日本の社会と文化の姿を考える	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること (1時間)
8	日本の教育システムを諸外国のそれとの対比によって考察する	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること (1時間)
9	芸術や音楽を通じた日本と世界のつながりを学ぶ	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること (1時間)
10	コンピュータやAIの普及が日本の社会のありようによ及ぼす影響を考える	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること (1時間)
11	日本におけるジェンダーやセクシュアリティに関する議論を他国との対比によって考察する	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること (1時間)
12	国際社会の平和と安全を維持するために日本が世界とどう関わるかを考える	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること (1時間)
13	通信システムや SNS を使ったコミュニケーションを通して日本と世界のつながりについて学ぶ	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること (1時間)
14	疫病や災害を通じた日本と世界のつながりについて学ぶ	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること (1時間)
15	上記のテーマを踏まえて総括する	授業で学んだ内容について発表する。	発表の準備をするとともに、授業で学んだ内容について総復習すること (1時間)

関連科目 Topic Studies I a, b; Topic Studies II a, b など

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Portraits of Japan	Paul Stapleton, Atsuko Uemura	センゲージラーニング
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	CLIL 英語で培う文化間意識	笹島茂、工藤泰三、荊紅涛、Larry Joe, Hannah Haruna	三修社
2				
3				

評価方法 (基準)	小テスト (40%)、課題やレポートなどの提出物 (30%)、授業中の発表や取り組む姿勢など (30%) を合わせて総合的に評価する。
学生への メッセージ	予習を重視した形で行います。がんばった分だけ TOEIC などのスコア向上につながるでしょう。
担当者の 研究室等	7 号館 5 階 後藤研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はチュードントアワーにて対応する。

科目名	Japanese Society and Culture	科目名 (英文)	Japanese Society and Culture
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	E
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	中島 直嗣
ディプロマポリシー (DP)	DP1Δ, DP6Δ		
科目ナンバリング	LDL2627c0		

授業概要・目的	国際社会の中の日本という視点から、英語をコミュニケーションツールとして活用し、社会や文化について以下のような内容を講義・演習形式を通じて学習する。①文化・社会的なトピックについて英語で書かれた文章やデータを理解し分析する力を高める。②国際社会の多様性に注意を払いながら日本の社会と文化を英語によって表現するための知識とスキルを実践的に学ぶ。
到達目標	この科目は、主として国際学部の2年次の学生を対象とし、日本文化およびグローバル化する社会の異文化理解に関する英語を聞き、読み、多様な背景を有する人々と、身近な話題から社会問題まで適切な英語表現を用いてコミュニケーションや議論を展開し意見交換ができるようになることをテーマ及び目標とする。
授業方法と留意点	教科書を中心に英語表現を練習するとともに、ディスカッションや発表を通じて表現力を身につける。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	国際社会における人の移動や交流について	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること (1時間)
3	企業と消費者という視点から社会や文化のありようについて	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること (1時間)
4	食品および食習慣に関する事例を取り上げる	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること (1時間)
5	学生と社会との関わりについて	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること (1時間)
6	日本から外国へ、外国から日本へという2つの視点から旅行することを想定する	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること (1時間)
7	グローバル社会の一員として見た日本の社会と文化の姿を考える	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること (1時間)
8	日本の教育システムを諸外国のそれとの対比によって考察する	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること (1時間)
9	芸術や音楽を通じた日本と世界のつながりを学ぶ	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること (1時間)
10	コンピュータやAIの普及が日本の社会のありよう及ぼす影響を考える	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること (1時間)
11	日本におけるジェンダーやセクシュアリティに関する議論を他国との対比によって考察する	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること (1時間)
12	国際社会の平和と安全を維持するために日本が世界とどう関わるかを考える	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること (1時間)
13	通信システムや SNS を使ったコミュニケーションを通して日本と世界のつながりについて学ぶ	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること (1時間)
14	疫病や災害を通じた日本と世界のつながりについて学ぶ	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること (1時間)
15	上記のテーマを踏まえて総括する	授業で学んだ内容について発表する。	発表の準備をするとともに、授業で学んだ内容について総復習すること (1時間)

関連科目 Topic Studies I a, b; Topic Studies II a, b など

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Outstanding Monozukuri Companies in Japan (知られざる日本の「ものづくり」企業の世界)	井上 治、吉野成美、Paul Leeming, Justin Harris	松柏社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	CLIL 英語で培う文化間意識	笹島茂、工藤泰三、荊紅涛、Larry Joe, Hannah Haruna	三修社
2				

	3		
評価方法 (基準)	小テスト (40%)、課題やレポートなどの提出物 (30%)、授業中の発表や取り組み姿勢など (30%) を合わせて総合的に評価する。		
学生への メッセージ	予習を重視した形で行います。がんばった分だけ TOEIC などのスコア向上につながるでしょう。		
担当者の 研究室等	7号館 4階 中島研究室		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。		

科目名	Japanese Society and Culture	科目名 (英文)	Japanese Society and Culture
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	F
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	スコット ライリー
ディプロマポリシー (DP)	DP1Δ, DP6Δ		
科目ナンバリング	LDL2627c0		

授業概要・目的	国際社会の中の日本という視点から、英語をコミュニケーションツールとして活用し、社会や文化について以下のような内容を講義・演習形式を通じて学習する。①文化・社会的なトピックについて英語で書かれた文章やデータを理解し分析する力を高める。②国際社会の多様性に注意を払いながら日本の社会と文化を英語によって表現するための知識とスキルを実践的に学ぶ。
到達目標	この科目は、主として国際学部の2年次の学生を対象とし、日本文化およびグローバル化する社会の異文化理解に関する英語を聞き、読み、多様な背景を有する人々と、身近な話題から社会問題まで適切な英語表現を用いてコミュニケーションや議論を展開し意見交換ができるようになることをテーマ及び目標とする。
授業方法と留意点	教科書を中心に英語表現を練習するとともに、ディスカッションや発表を通じて表現力を身につける。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	身の回りの具体的な物や習慣から日本の社会や文化について	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること (1時間)
2	国際社会における人の移動や交流について	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること (1時間)
3	企業と消費者という視点から社会や文化のありようについて	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること (1時間)
4	食品および食習慣に関する事例を取り上げる	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること (1時間)
5	学生と社会との関わりについて	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること (1時間)
6	日本から外国へ、外国から日本へという2つの視点から旅行することを想定する	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること (1時間)
7	グローバル社会の一員として見た日本の社会と文化の姿を考える	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること (1時間)
8	日本の教育システムを諸外国のそれとの対比によって考察する	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること (1時間)
9	芸術や音楽を通じた日本と世界のつながりを学ぶ	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること (1時間)
10	コンピュータやAIの普及が日本の社会のありようによ及ぼす影響を考える	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること (1時間)
11	日本におけるジェンダーやセクシュアリティに関する議論を他国との対比によって考察する	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること (1時間)
12	国際社会の平和と安全を維持するために日本が世界とどう関わるかを考える	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること (1時間)
13	通信システムや SNS を使ったコミュニケーションを通して日本と世界のつながりについて学ぶ	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること (1時間)
14	疫病や災害を通じた日本と世界のつながりについて学ぶ	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること (1時間)
15	上記のテーマを踏まえて総括する	授業で学んだ内容について発表する。	発表の準備をするとともに、授業で学んだ内容について総復習すること (1時間)

関連科目 Topic Studies I a, b; Topic Studies II a, b など

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Hot Topics Japan 1	Alexander, S.	Compass
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	小テスト x 2 (60%)、課題やレポートなどの提出物や授業中の発表 (30%)、取り組む姿勢など (10%) を合わせて総合的に評価する。
学生への メッセージ	皆さん、英語を話すことを楽しんでください。Good Luck! In order to pass this course, you must attempt ALL assessment tasks. Absence is not an excuse for incomplete homework tasks. Ask a classmate or email the instructor for homework details. Any student who is absent for
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	Japanese Society and Culture	科目名 (英文)	Japanese Society and Culture
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	G
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ジョン カール
ディプロマポリシー (DP)	DP1Δ, DP6Δ		
科目ナンバリング	LDL2627c0		

授業概要・目的	国際社会の中の日本という視点から、英語をコミュニケーションツールとして活用し、社会や文化について以下のような内容を講義・演習形式を通じて学習する。①文化・社会的なトピックについて英語で書かれた文章やデータを理解し分析する力を高める。②国際社会の多様性に注意を払いながら日本の社会と文化を英語によって表現するための知識とスキルを実践的に学ぶ。
到達目標	この科目は、主として国際学部の2年次の学生を対象とし、日本文化およびグローバル化する社会の異文化理解に関する英語を聞き、読み、多様な背景を有する人々と、身近な話題から社会問題まで適切な英語表現を用いてコミュニケーションや議論を展開し意見交換ができるようになることをテーマ及び目標とする。
授業方法と留意点	教科書を中心に英語表現を練習するとともに、ディスカッションや発表を通じて表現力を身につける。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	身の回りの具体的な物や習慣から日本の社会や文化について	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること (1時間)
2	国際社会における人の移動や交流について	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること (1時間)
3	企業と消費者という視点から社会や文化のありようについて	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること (1時間)
4	食品および食習慣に関する事例を取り上げる	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること (1時間)
5	学生と社会との関わりについて	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること (1時間)
6	日本から外国へ、外国から日本へという2つの視点から旅行することを想定する	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること (1時間)
7	グローバル社会の一員として見た日本の社会と文化の姿を考える	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること (1時間)
8	日本の教育システムを諸外国のそれとの対比によって考察する	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること (1時間)
9	芸術や音楽を通じた日本と世界のつながりを学ぶ	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること (1時間)
10	コンピュータやAIの普及が日本の社会のありようによ及ぼす影響を考える	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること (1時間)
11	日本におけるジェンダーやセクシュアリティに関する議論を他国との対比によって考察する	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること (1時間)
12	国際社会の平和と安全を維持するために日本が世界とどう関わるかを考える	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること (1時間)
13	通信システムや SNS を使ったコミュニケーションを通して日本と世界のつながりについて学ぶ	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること (1時間)
14	疫病や災害を通じた日本と世界のつながりについて学ぶ	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること (1時間)
15	上記のテーマを踏まえて総括する	授業で学んだ内容について発表する。	発表の準備をするとともに、授業で学んだ内容について総復習すること (1時間)

関連科目 Topic Studies I a, b; Topic Studies II a, b など

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	The English Gym II with Digital Workbook	Jon Charles	Oak Hills Press
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	小テスト (40%)、課題やレポートなどの提出物 (30%)、授業中の発表や取り組み姿勢など (30%) を合わせて総合的に評価する。
学生への メッセージ	予習を重視した形で行います。がんばった分だけ TOEIC などのスコア向上につながるでしょう。
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	Japanese Society and Culture	科目名 (英文)	Japanese Society and Culture
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	I
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	玉井 美香
ディプロマポリシー (DP)	DP1Δ, DP6Δ		
科目ナンバリング	LDL2627c0		

授業概要・目的	国際社会の中の日本という視点から、英語をコミュニケーションツールとして活用し、社会や文化について以下のような内容を講義・演習形式を通じて学習する。①文化・社会的なトピックについて英語で書かれた文章やデータを理解し分析する力を高める。②国際社会の多様性に注意を払いながら日本の社会と文化を英語によって表現するための知識とスキルを実践的に学ぶ。
到達目標	この科目は、主として国際学部の2年次の学生を対象とし、日本文化およびグローバル化する社会の異文化理解に関する英語を聞き、読み、多様な背景を有する人々と、身近な話題から社会問題まで適切な英語表現を用いてコミュニケーションや議論を展開し意見交換ができるようになることをテーマ及び目標とする。
授業方法と留意点	教科書を中心に英語表現を練習するとともに、ディスカッションや発表を通じて表現力を身につける。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	身の回りの具体的な物や習慣から日本の社会や文化について	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること (1時間)
2	国際社会における人の移動や交流について	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること (1時間)
3	企業と消費者という視点から社会や文化のありようについて	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること (1時間)
4	食品および食習慣に関する事例を取り上げる	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること (1時間)
5	学生と社会との関わりについて	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること (1時間)
6	日本から外国へ、外国から日本へという2つの視点から旅行することを想定する	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること (1時間)
7	グローバル社会の一員として見た日本の社会と文化の姿を考える	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること (1時間)
8	日本の教育システムを諸外国のそれとの対比によって考察する	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること (1時間)
9	芸術や音楽を通じた日本と世界のつながりを学ぶ	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること (1時間)
10	コンピュータやAIの普及が日本の社会のありようによ及ぼす影響を考える	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること (1時間)
11	日本におけるジェンダーやセクシュアリティに関する議論を他国との対比によって考察する	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること (1時間)
12	国際社会の平和と安全を維持するために日本が世界とどう関わるかを考える	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること (1時間)
13	通信システムや SNS を使ったコミュニケーションを通して日本と世界のつながりについて学ぶ	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること (1時間)
14	疫病や災害を通じた日本と世界のつながりについて学ぶ	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること (1時間)
15	上記のテーマを踏まえて総括する	授業で学んだ内容について発表する。	発表の準備をするとともに、授業で学んだ内容について総復習すること (1時間)

関連科目 Topic Studies I a, b; Topic Studies II a, b など

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	World of Wonders :A Brave New World	Anthony Sellick / John Barton / Ai Ogasawara	成美堂
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	小テスト (40%)、課題やレポートなどの提出物 (30%)、授業中の発表や取り組む姿勢など (30%) を合わせて総合的に評価する。
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	Japanese Society and Culture	科目名 (英文)	Japanese Society and Culture
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	H
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ダニエル マリンズ
ディプロマポリシー (DP)	DP1Δ, DP6Δ		
科目ナンバリング	LDL2627c0		

授業概要・目的	国際社会の中の日本という視点から、英語をコミュニケーションツールとして活用し、社会や文化について以下のような内容を講義・演習形式を通じて学習する。①文化・社会的なトピックについて英語で書かれた文章やデータを理解し分析する力を高める。②国際社会の多様性に注意を払いながら日本の社会と文化を英語によって表現するための知識とスキルを実践的に学ぶ。
到達目標	この科目は、主として国際学部の2年次の学生を対象とし、日本文化およびグローバル化する社会の異文化理解に関する英語を聞き、読み、多様な背景を有する人々と、身近な話題から社会問題まで適切な英語表現を用いてコミュニケーションや議論を展開し意見交換ができるようになることをテーマ及び目標とする。
授業方法と留意点	教科書を中心に英語表現を練習するとともに、ディスカッションや発表を通じて表現力を身につける。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	身の回りの具体的な物や習慣から日本の社会や文化について	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること (1時間)
2	国際社会における人の移動や交流について	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること (1時間)
3	企業と消費者という視点から社会や文化のありようについて	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること (1時間)
4	食品および食習慣に関する事例を取り上げる	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること (1時間)
5	学生と社会との関わりについて	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること (1時間)
6	日本から外国へ、外国から日本へという2つの視点から旅行することを想定する	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること (1時間)
7	グローバル社会の一員として見た日本の社会と文化の姿を考える	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること (1時間)
8	日本の教育システムを諸外国のそれとの対比によって考察する	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること (1時間)
9	芸術や音楽を通じた日本と世界のつながりを学ぶ	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること (1時間)
10	コンピュータやAIの普及が日本の社会のありようによ及ぼす影響を考える	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること (1時間)
11	日本におけるジェンダーやセクシュアリティに関する議論を他国との対比によって考察する	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること (1時間)
12	国際社会の平和と安全を維持するために日本が世界とどう関わるかを考える	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること (1時間)
13	通信システムや SNS を使ったコミュニケーションを通して日本と世界のつながりについて学ぶ	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること (1時間)
14	疫病や災害を通じた日本と世界のつながりについて学ぶ	テーマに関連する英語表現を音声と文章によって練習し、ディスカッションを通じて表現力を身につける。	教科書を中心に授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること (1時間)
15	上記のテーマを踏まえて総括する	授業で学んだ内容について発表する。	発表の準備をするとともに、授業で学んだ内容について総復習すること (1時間)

関連科目 Topic Studies I a, b; Topic Studies II a, b など

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Hot Topics Japan 1	Alexander, S.	Compass
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	小テスト x 2 (60%)、課題やレポートなどの提出物や授業中の発表 (30%)、取り組む姿勢など (10%) を合わせて総合的に評価する。
学生への メッセージ	皆さん、英語を話すことを楽しんでください。Good Luck! In order to pass this course, you must attempt ALL assessment tasks. Absence is not an excuse for incomplete homework tasks. Ask a classmate or email the instructor for homework details. Any student who is absent for
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	Academic Reading & Listening	科目名 (英文)	Academic Reading & Listening
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	あ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	高橋 真理子
ディプロマポリシー (DP)	DP1△, DP6△		
科目ナンバリング	LDL2628c0		

授業概要・目的	文学作品を素材とした多読、精読活動を行う。週ごとに1つの文学的要素に焦点を当ててゆくが、発展的学習として他の作品との比較分析も行う。
到達目標	文学作品に現れる英文、あるいは文学的要素を持つ英文を教材とし、様々な修辭法やことばが持つ多義性を学ぶ。また、多様な文学作品に触れることで文学を読むことの楽しさを理解し、文化的なコミュニケーションに必要な、彩り豊かな英語を操る能力を養う。さらに読解だけにとどまらず、映画などの映像化された作品に触れながら、オーセンティックな英語をリスニングする。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・事前・事後学習として、授業時間外でも読解およびリスニングにしっかりと取り組む必要がある ・授業時間内には、読解およびリスニングにもとづいたペアワークおよびグループワークも多く行う ・辞書を持参することを推奨する
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検など

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	Introduction、文学の手ほどきとしての言葉遊び	オリエンテーション、英語の言葉遊びについて	英語の言葉遊びに関する復習 (1 時間程度)
2	笑いのツボを理解する	英語のコメディについて読む、英語のコメディ番組を視聴する	英語のコメディに関する予習、復習 (1 時間程度)
3	戯曲の英語で会話と発音を学ぶ	George Bernard Shaw, "Pygmalion" など	第 3 週に扱う作品の事前読解、復習 (1 時間程度)
4	日本語の作品を英訳で読む	Japanese stories in translation: "Kenji and Ryunosuke" など	第 4 週に扱う作品の事前読解、復習 (1 時間程度)
5	歌詞に隠された物語を読む	Suzanne Vega, "Luke" など	第 5 週に扱う作品の事前読解、復習 (1 時間程度)
6	自分の思い出を語る	Two autobiographies: Martin Luther King Jr. and Ellen Glasgow など	第 6 週に扱う作品の事前読解、復習 (1 時間程度)
7	小説風の自伝を読む	Graham Green, "A Sort of Life" など	第 7 週に扱う作品の事前読解、復習 (1 時間程度)
8	短編小説、小説の結末部分を読む	Raymond Carver など	第 8 週に扱う作品の事前読解、復習 (1 時間程度)
9	言葉のリズムを楽しもう	Haiku and Japanese poems など	第 9 週に扱う作品の事前読解、復習 (1 時間程度)
10	気軽に英詩を楽しもう	Robert Frost, "The Road Not Taken" など	第 10 週に扱う作品の事前読解、復習 (1 時間程度)
11	会話の意図をつかみとる	Tennessee Williams, "The Street Named Desire" など	第 11 週に扱う作品の事前読解、復習 (1 時間程度)
12	モットーを書く	Benjamin Franklin, "Thirteen Virtues" and "Poor Richard's Maxims" など	第 12 週に扱う作品の事前読解、復習 (1 時間程度)
13	事実と虚構の狭間を読む	Tim O'Brian, "Ambush" など	第 13 週に扱う作品の事前読解、復習 (1 時間程度)
14	逸話を語る	Lori Peikoff, "Table for Two" など	第 14 週に扱う作品の事前読解、復習 (1 時間程度)
15	名作の原文を読む	Charles Dickens, "Great Expectations" など	第 15 週に扱う作品の事前読解、復習 (1 時間程度)

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1																
	2																
3																	

参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>English through Literature</td> <td>斎藤兆史・中村哲子</td> <td>研究社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Graded Readers シリーズ (Pearson Readers, Oxford Bookworms Library, Macmillan Readers, Cambridge English Readers など)</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	English through Literature	斎藤兆史・中村哲子	研究社	2	Graded Readers シリーズ (Pearson Readers, Oxford Bookworms Library, Macmillan Readers, Cambridge English Readers など)			3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1	English through Literature	斎藤兆史・中村哲子	研究社													
	2	Graded Readers シリーズ (Pearson Readers, Oxford Bookworms Library, Macmillan Readers, Cambridge English Readers など)															
3																	

評価方法 (基準)	速読・多読活動 (30%) 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 (70%)
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	7 号館 4 階高橋研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間を 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスケジュールアワーにて対応する。

科目名	Academic Reading & Listening	科目名 (英文)	Academic Reading & Listening
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	い
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	マイケル ハーキー
ディプロマポリシー(DP)	DP1△, DP6△		
科目ナンバリング	LDL2628c0		

授業概要・目的	文学作品を素材とした多読、精読活動を行う。週ごとに1つの文学的要素に焦点を当ててゆくが、発展的学習として他の作品との比較分析も行う。		
到達目標	文学作品に現れる英文、あるいは文学的要素を持つ英文を教材とし、様々な修辭法やことばが持つ多義性を学ぶ。また、多様な文学作品に触れることで文学を読むことの楽しさを理解し、文化的なコミュニケーションに必要な、彩り豊かな英語を操る能力を養う。さらに読解だけにとどまらず、映画などの映像化された作品に触れながら、オーセンティックな英語をリスニングする。		
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・事前・事後学習として、授業時間外でも読解およびリスニングにしっかりと取り組む必要がある ・授業時間内には、読解およびリスニングにもとづいたペアワークおよびグループワークも多く行う ・辞書を持参することを推奨する 		
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検など		
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等 事前・事後学習課題
	1	Introduction、文学の手ほどきとしての言葉遊び	オリエンテーション、英語の言葉遊びについて Concerning the Sound of a Train Whistle... 英語の言葉遊びに関する復習(1時間程度)
	2	笑いのツボを理解する	A Little Darkness 英語のコメディに関する予習、復習(1時間程度)
	3	戯曲の英語で会話と発音を学ぶ	A Little Darkness 第3週に扱う作品の事前読解、復習(1時間程度)
	4	日本語の作品を英訳で読む	Genjitsu House 第4週に扱う作品の事前読解、復習(1時間程度)
	5	歌詞に隠された物語を読む	Genjitsu House 第5週に扱う作品の事前読解、復習(1時間程度)
	6	自分の思い出を語る	The Silent Traders 第6週に扱う作品の事前読解、復習(1時間程度)
	7	小説風の自伝を読む	The Silent Traders 第7週に扱う作品の事前読解、復習(1時間程度)
	8	短編小説、小説の結末部分を読む	Mogera Wogura 第8週に扱う作品の事前読解、復習(1時間程度)
	9	言葉のリズムを楽しもう	Mogera Wogura 第9週に扱う作品の事前読解、復習(1時間程度)
	10	気軽に英詩を楽しもう	The Maiden in the Manger 第10週に扱う作品の事前読解、復習(1時間程度)
	11	会話の意図をつかみとる	The Maiden in the Manger 第11週に扱う作品の事前読解、復習(1時間程度)
	12	モットーを書く	Where the Bowling Pin Stands 第12週に扱う作品の事前読解、復習(1時間程度)
	13	事実と虚構の狭間を読む	Where the Bowling Pin Stands 第13週に扱う作品の事前読解、復習(1時間程度)
	14	逸話を語る	Love Suicide at Kamaara 第14週に扱う作品の事前読解、復習(1時間程度)
	15	名作の原文を読む	Love Suicide at Kamaara 第15週に扱う作品の事前読解、復習(1時間程度)
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名 出版社名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名 出版社名
	1	New Penguin Parallel Text Short Stories in Japanese 日本語の短編小説	Michael Emmerich, Ed. Penguin
	2		
	3		
評価方法(基準)	速読・多読活動(30%) 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等(70%)		
学生へのメッセージ	Although reading is a solitary interiorizing activity, it can simultaneously open us up to new worlds, ideas and people.		
担当者の研究室等	7号館3階 Herke 研究室		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間を15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。		

科目名	Academic Reading & Listening	科目名 (英文)	Academic Reading & Listening
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	う
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	コンデン ロバート
ディプロマポリシー (DP)	DP1Δ, DP6Δ		
科目ナンバリング	LDL2628c0		

授業概要・目的	文学作品を素材とした多読、精読活動を行う。週ごとに1つの文学的要素に焦点を当ててゆくが、発展的学習として他の作品との比較分析も行う。		
到達目標	文学作品に現れる英文、あるいは文学的要素を持つ英文を教材とし、様々な修辭法やことばが持つ多義性を学ぶ。また、多様な文学作品に触れることで文学を読むことの楽しさを理解し、文化的なコミュニケーションに必要な、彩り豊かな英語を操る能力を養う。さらに読解だけにとどまらず、映画などの映像化された作品に触れながら、オーセンティックな英語をリスニングする。		
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・事前・事後学習として、授業時間外でも読解およびリスニングにしっかりと取り組む必要がある ・授業時間内には、読解およびリスニングにもとづいたペアワークおよびグループワークも多く行う ・辞書を持参することを推奨する 		
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検など		
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等
	1	Introduction、文学の手ほどきとしての言葉遊び	オリエンテーション、英語の言葉遊びについて
	2	笑いのツボを理解する	英語のコメディについて読む、英語のコメディ番組を視聴する
	3	戯曲の英語で会話と発音を学ぶ	George Bernard Shaw, "Pygmalion"など
	4	日本語の作品を英訳で読む	Japanese stories in translation: "Kenji and Ryunosuke"など
	5	歌詞に隠された物語を読む	Suzanne Vega, "Luke"など
	6	自分の思い出を語る	Two autobiographies: Martin Luther King Jr. and Ellen Glasgowなど
	7	小説風の自伝を読む	Graham Green, "A Sort of Life"など
	8	短編小説、小説の結末部分を読む	Raymond Carver など
	9	言葉のリズムを楽しもう	Haiku and Japanese poems など
	10	気軽に英詩を楽しもう	Robert Frost, "The Road Not Taken" など
	11	会話の意図をつかみとる	Tennessee Williams, "The Street Named Desire"など
	12	モットーを書く	Benjamin Franklin, "Thirteen Virtues" and "Poor Richard's Maxims" など
	13	事実と虚構の狭間を読む	Tim O'Brian, "Ambush"など
	14	逸話を語る	Lori Peikoff, "Table for Two"など
	15	名作の原文を読む	Charles Dickens, "Great Expectations"など
			事前・事後学習課題
			英語の言葉遊びに関する復習 (1時間程度)
			英語のコメディに関する予習、復習 (1時間程度)
			第3週に扱う作品の事前読解、復習 (1時間程度)
			第4週に扱う作品の事前読解、復習 (1時間程度)
			第5週に扱う作品の事前読解、復習 (1時間程度)
			第6週に扱う作品の事前読解、復習 (1時間程度)
			第7週に扱う作品の事前読解、復習 (1時間程度)
			第8週に扱う作品の事前読解、復習 (1時間程度)
			第9週に扱う作品の事前読解、復習 (1時間程度)
			第10週に扱う作品の事前読解、復習 (1時間程度)
			第11週に扱う作品の事前読解、復習 (1時間程度)
			第12週に扱う作品の事前読解、復習 (1時間程度)
			第13週に扱う作品の事前読解、復習 (1時間程度)
			第14週に扱う作品の事前読解、復習 (1時間程度)
			第15週に扱う作品の事前読解、復習 (1時間程度)
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1	English through Literature	斎藤兆史・中村哲子
	2	Graded Readers シリーズ (Pearson Readers, Oxford Bookworms Library, Macmillan Readers, Cambridge English Readers など)	
	3		
評価方法 (基準)	速読・多読活動 (30%) 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 (70%)		
学生へのメッセージ	Although reading is a solitary interiorizing activity, it can simultaneously open us up to new worlds, ideas and people.		
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。		

科目名	Academic Reading & Listening	科目名 (英文)	Academic Reading & Listening
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	え
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	グランド パーシム
ディプロマポリシー (DP)	DP1△, DP6△		
科目ナンバリング	LDL2628c0		

授業概要・目的	文学作品を素材とした多読、精読活動を行う。週ごとに1つの文学的要素に焦点を当ててゆくが、発展的学習として他の作品との比較分析も行う。																																																																		
到達目標	文学作品に現れる英文、あるいは文学的要素を持つ英文を教材とし、様々な修辞法やことばが持つ多義性を学ぶ。また、多様な文学作品に触れることで文学を読むことの楽しさを理解し、文化的なコミュニケーションに必要な、彩り豊かな英語を操る能力を養う。さらに読解だけにとどまらず、映画などの映像化された作品に触れながら、オーセンティックな英語をリスニングする。																																																																		
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・事前・事後学習として、授業時間外でも読解およびリスニングにしっかりと取り組む必要がある ・授業時間内には、読解およびリスニングにもとづいたペアワークおよびグループワークも多く行う ・辞書を持参することを推奨する 																																																																		
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検など																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Introduction、文学の手ほどきとしての言葉遊び</td> <td>オリエンテーション、英語の言葉遊びについて Concerning the Sound of a Train Whistle...</td> <td>英語の言葉遊びに関する復習 (1 時間程度)</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>笑いのツボを理解する</td> <td>A Little Darkness</td> <td>英語のコメディに関する予習、復習 (1 時間程度)</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>戯曲の英語で会話と発音を学ぶ</td> <td>A Little Darkness</td> <td>第3週に扱う作品の事前読解、復習 (1 時間程度)</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>日本語の作品を英訳で読む</td> <td>Genjitsu House</td> <td>第4週に扱う作品の事前読解、復習 (1 時間程度)</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>歌詞に隠された物語を読む</td> <td>Genjitsu House</td> <td>第5週に扱う作品の事前読解、復習 (1 時間程度)</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>自分の思い出を語る</td> <td>The Silent Traders</td> <td>第6週に扱う作品の事前読解、復習 (1 時間程度)</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>小説風の自伝を読む</td> <td>The Silent Traders</td> <td>第7週に扱う作品の事前読解、復習 (1 時間程度)</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>短編小説、小説の結末部分を読む</td> <td>Mogera Wogura</td> <td>第8週に扱う作品の事前読解、復習 (1 時間程度)</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>言葉のリズムを楽しもう</td> <td>Mogera Wogura</td> <td>第9週に扱う作品の事前読解、復習 (1 時間程度)</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>気軽に英詩を楽しもう</td> <td>The Maiden in the Manger</td> <td>第10週に扱う作品の事前読解、復習 (1 時間程度)</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>会話の意図をつかみとる</td> <td>The Maiden in the Manger</td> <td>第11週に扱う作品の事前読解、復習 (1 時間程度)</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>モットーを書く</td> <td>Where the Bowling Pin Stands</td> <td>第12週に扱う作品の事前読解、復習 (1 時間程度)</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>事実と虚構の狭間を読む</td> <td>Where the Bowling Pin Stands</td> <td>第13週に扱う作品の事前読解、復習 (1 時間程度)</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>逸話を語る</td> <td>Love Suicide at Kamaara</td> <td>第14週に扱う作品の事前読解、復習 (1 時間程度)</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>名作の原文を読む</td> <td>Love Suicide at Kamaara</td> <td>第15週に扱う作品の事前読解、復習 (1 時間程度)</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	Introduction、文学の手ほどきとしての言葉遊び	オリエンテーション、英語の言葉遊びについて Concerning the Sound of a Train Whistle...	英語の言葉遊びに関する復習 (1 時間程度)	2	笑いのツボを理解する	A Little Darkness	英語のコメディに関する予習、復習 (1 時間程度)	3	戯曲の英語で会話と発音を学ぶ	A Little Darkness	第3週に扱う作品の事前読解、復習 (1 時間程度)	4	日本語の作品を英訳で読む	Genjitsu House	第4週に扱う作品の事前読解、復習 (1 時間程度)	5	歌詞に隠された物語を読む	Genjitsu House	第5週に扱う作品の事前読解、復習 (1 時間程度)	6	自分の思い出を語る	The Silent Traders	第6週に扱う作品の事前読解、復習 (1 時間程度)	7	小説風の自伝を読む	The Silent Traders	第7週に扱う作品の事前読解、復習 (1 時間程度)	8	短編小説、小説の結末部分を読む	Mogera Wogura	第8週に扱う作品の事前読解、復習 (1 時間程度)	9	言葉のリズムを楽しもう	Mogera Wogura	第9週に扱う作品の事前読解、復習 (1 時間程度)	10	気軽に英詩を楽しもう	The Maiden in the Manger	第10週に扱う作品の事前読解、復習 (1 時間程度)	11	会話の意図をつかみとる	The Maiden in the Manger	第11週に扱う作品の事前読解、復習 (1 時間程度)	12	モットーを書く	Where the Bowling Pin Stands	第12週に扱う作品の事前読解、復習 (1 時間程度)	13	事実と虚構の狭間を読む	Where the Bowling Pin Stands	第13週に扱う作品の事前読解、復習 (1 時間程度)	14	逸話を語る	Love Suicide at Kamaara	第14週に扱う作品の事前読解、復習 (1 時間程度)	15	名作の原文を読む	Love Suicide at Kamaara	第15週に扱う作品の事前読解、復習 (1 時間程度)
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	Introduction、文学の手ほどきとしての言葉遊び	オリエンテーション、英語の言葉遊びについて Concerning the Sound of a Train Whistle...	英語の言葉遊びに関する復習 (1 時間程度)																																																																
2	笑いのツボを理解する	A Little Darkness	英語のコメディに関する予習、復習 (1 時間程度)																																																																
3	戯曲の英語で会話と発音を学ぶ	A Little Darkness	第3週に扱う作品の事前読解、復習 (1 時間程度)																																																																
4	日本語の作品を英訳で読む	Genjitsu House	第4週に扱う作品の事前読解、復習 (1 時間程度)																																																																
5	歌詞に隠された物語を読む	Genjitsu House	第5週に扱う作品の事前読解、復習 (1 時間程度)																																																																
6	自分の思い出を語る	The Silent Traders	第6週に扱う作品の事前読解、復習 (1 時間程度)																																																																
7	小説風の自伝を読む	The Silent Traders	第7週に扱う作品の事前読解、復習 (1 時間程度)																																																																
8	短編小説、小説の結末部分を読む	Mogera Wogura	第8週に扱う作品の事前読解、復習 (1 時間程度)																																																																
9	言葉のリズムを楽しもう	Mogera Wogura	第9週に扱う作品の事前読解、復習 (1 時間程度)																																																																
10	気軽に英詩を楽しもう	The Maiden in the Manger	第10週に扱う作品の事前読解、復習 (1 時間程度)																																																																
11	会話の意図をつかみとる	The Maiden in the Manger	第11週に扱う作品の事前読解、復習 (1 時間程度)																																																																
12	モットーを書く	Where the Bowling Pin Stands	第12週に扱う作品の事前読解、復習 (1 時間程度)																																																																
13	事実と虚構の狭間を読む	Where the Bowling Pin Stands	第13週に扱う作品の事前読解、復習 (1 時間程度)																																																																
14	逸話を語る	Love Suicide at Kamaara	第14週に扱う作品の事前読解、復習 (1 時間程度)																																																																
15	名作の原文を読む	Love Suicide at Kamaara	第15週に扱う作品の事前読解、復習 (1 時間程度)																																																																
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Reading Explorer 1A 3rd edition, Split Edition</td> <td>Nancy Douglas and David Bohlke</td> <td>National Geographic Learning</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Reading Explorer 1A 3rd edition, Split Edition	Nancy Douglas and David Bohlke	National Geographic Learning	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	Reading Explorer 1A 3rd edition, Split Edition	Nancy Douglas and David Bohlke	National Geographic Learning																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	速読・多読活動 (30%) 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 (70%)																																																																		
学生へのメッセージ	Although reading is a solitary interiorizing activity, it can simultaneously open us up to new worlds, ideas and people.																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室																																																																		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間を15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。																																																																		

科目名	Academic Reading & Listening	科目名 (英文)	Academic Reading & Listening
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	お
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	松吉 翔也
ディプロマポリシー (DP)	DP1Δ, DP6Δ		
科目ナンバリング	LDL2628c0		

授業概要・目的	文学作品を素材とした多読、精読活動を行う。週ごとに1つの文学的要素に焦点を当ててゆくが、発展的学習として他の作品との比較分析も行う。 ※詳細は初回授業時に説明をします。		
到達目標	文学作品に現れる英文、あるいは文学的要素を持つ英文を教材とし、様々な修辭法やことばが持つ多義性を学ぶ。また、多様な文学作品に触れることで文学を読むことの楽しさを理解し、文化的なコミュニケーションに必要な、彩り豊かな英語を操る能力を養う。さらに読解だけにとどまらず、映画などの映像化された作品に触れながら、オーセンティックな英語をリスニングする。 ※詳細は初回授業時に説明をします。		
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・事前・事後学習として、授業時間外でも読解およびリスニングにしっかりと取り組む必要がある ・授業時間内には、読解およびリスニングにもとづいたペアワークおよびグループワークも多く行う ・辞書を持参することを推奨する ※詳細は初回授業時に説明をします。		
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検など		
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等
	1	Introduction、文学の手ほどきとしての言葉遊び	オリエンテーション、英語の言葉遊びについて
	2	笑いのツボを理解する	英語のコメディについて読む、英語のコメディ番組を視聴する
	3	戯曲の英語で会話と発音を学ぶ	George Bernard Shaw, "Pygmalion"など
	4	日本語の作品を英訳で読む	Japanese stories in translation: "Kenji and Ryunosuke"など
	5	歌詞に隠された物語を読む	Suzanne Vega, "Luke"など
	6	自分の思い出を語る	Two autobiographies: Martin Luther King Jr. and Ellen Glasgowなど
	7	小説風の自伝を読む	Graham Green, "A Sort of Life"など
	8	短編小説、小説の結末部分を読む	Raymond Carverなど
	9	言葉のリズムを楽しもう	Haiku and Japanese poemsなど
	10	気軽に英詩を楽しもう	Robert Frost, "The Road Not Taken"など
	11	会話の意図をつかみとる	Tennessee Williams, "The Street Named Desire"など
	12	モットーを書く	Benjamin Franklin, "Thirteen Virtues" and "Poor Richard's Maxims"など
	13	事実と虚構の狭間を読む	Tim O'Brian, "Ambush"など
	14	逸話を語る	Lori Peikoff, "Table for Two"など
	15	名作の原文を読む	Charles Dickens, "Great Expectations"など
			事前・事後学習課題
			英語の言葉遊びに関する復習 (1時間程度)
			英語のコメディに関する予習、復習 (1時間程度)
			第3週に扱う作品の事前読解、復習 (1時間程度)
			第4週に扱う作品の事前読解、復習 (1時間程度)
			第5週に扱う作品の事前読解、復習 (1時間程度)
			第6週に扱う作品の事前読解、復習 (1時間程度)
			第7週に扱う作品の事前読解、復習 (1時間程度)
			第8週に扱う作品の事前読解、復習 (1時間程度)
			第9週に扱う作品の事前読解、復習 (1時間程度)
			第10週に扱う作品の事前読解、復習 (1時間程度)
			第11週に扱う作品の事前読解、復習 (1時間程度)
			第12週に扱う作品の事前読解、復習 (1時間程度)
			第13週に扱う作品の事前読解、復習 (1時間程度)
			第14週に扱う作品の事前読解、復習 (1時間程度)
			第15週に扱う作品の事前読解、復習 (1時間程度)
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1	『随時プリント配布』	
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1	English through Literature	斎藤兆史・中村哲子
	2	Graded Readers シリーズ (Pearson Readers, Oxford Bookworms Library, Macmillan Readers, Cambridge English Readers など)	
	3		
評価方法 (基準)	速読・多読活動 (30%) 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 (70%) ※詳細は初回授業時に説明をします。		
学生へのメッセージ	英文学と聞くと少し堅苦しいイメージを持つかもしれませんが、 ですが、文学はその国の文化、生活、社会を反映するとも言われとても興味深い一面もあります。 映画やドラマなど皆さんの馴染みのある映像作品を用いながら学習を進めていきます。		
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。		

科目名	Academic Reading & Listening	科目名 (英文)	Academic Reading & Listening
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	か
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	齋藤 安以子
ディプロマポリシー(DP)	DP1△, DP6△		
科目ナンバリング	LDL2628c0		

授業概要・目的	文学作品を素材とした多読、精読活動を行う。週ごとに一つの文学的要素に焦点を当ててゆくが、発展的学習として他の作品との比較分析も行う。
到達目標	文学作品に現れる英文、あるいは文学的な要素を持つ英文を教材とし、様々な修辞法やことばが持つ多義性を学ぶ。また、多様な文学作品に触れることで文学を読むことの楽しさを理解し、文化的なコミュニケーションに必要な、彩り豊かな英語を練る能力を養う。さらに読解だけにとどまらず、映画などの映像化された作品に触れながら、オーセンティックな英語をリスニングする。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・事前・事後学習として、授業時間外でも読解およびリスニングにしっかりと取り組む必要がある ・授業時間内には、読解およびリスニングにもとづいたペアワークおよびグループワークも多く行う ・辞書を持参することを推奨する
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検など

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	Introduction 文学の手ほどきとしての言葉遊び	オリエンテーション: 英語の言葉遊びについて	英語の言葉遊びに関する復習 (1時間程度)
2	笑いのツボを理解する	英語のコメディについて読む。英語のコメディ番組を視聴する	英語のコメディに関する予習 (1時間程度)
3	戯曲の英語で会話と発音を学ぶ	George Bernard Shaw "Pigmalion" など	第3週に扱う作品の事前読解、演習 (1時間程度)
4	日本語の作品を英訳で読む	Japanese stories in translation "Kenji and Ryunosuke" など	第4週に扱う作品の事前読解、演習 (1時間程度)
5	歌詞に隠された物語を読む	Suzanne Vega "Luke" など	第5週に扱う作品の事前読解、演習 (1時間程度)
6	自分の思い出を語る	Two autobiographies: Martin Luther King Jr. and Ellen Glasgow など	第6週に扱う作品の事前読解、演習 (1時間程度)
7	小説風の自伝を読む	Graham Green "A Sort of Life" など	第7週に扱う作品の事前読解、演習 (1時間程度)
8	短編小説、小説の結末部分を読む	Raymond Carver など	第8週に扱う作品の事前読解、演習 (1時間程度)
9	言葉のリズムを楽しもう	Haiku and Japanese poems など	第9週に扱う作品の事前読解、演習 (1時間程度)
10	気軽に英詩を楽しもう	Robert Frost "The Road Not Taken" など	第10週に扱う作品の事前読解、演習 (1時間程度)
11	会話の意図をつかみとる	Tennessee Williams "The Streetcar Names Desire" など	第11週に扱う作品の事前読解、演習 (1時間程度)
12	モットーを書く	Benjamin Franklin "Thirteen Virtues" and "Poor Richard's Maxims" など	第12週に扱う作品の事前読解、演習 (1時間程度)
13	事実と虚構の狭間を読む	Tim O'Brien "Ambush" など	第13週に扱う作品の事前読解、演習 (1時間程度)
14	逸話を語る	Lori Peikaff "Table for Two" など	第14週に扱う作品の事前読解、演習 (1時間程度)
15	名作の原文を読む	Charles Dickens "Great Expectations" など	第15週に扱う作品の事前読解、演習 (1時間程度)

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	English through Literature	齋藤兆史、中村哲子	研究社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Graded readers シリーズ (Pearson Readers, Oxford Bookworms Library, Macmillan Readers, Cambridge English Readers など)		
	2			
	3			

評価方法 (基準)	速読・多読活動 (30%) 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 (70%)
学生へのメッセージ	Reading is like meeting people who lives/lived away from you. It's encouraging to find that somebody in the history has felt the same as you did yesterday. The more you read, the more "friends" you will gain all over the world, through out the history. Th
担当者の研究室等	7号館4階 齋藤研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間を15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。そのほかの質問等はスチューデントアワーにて対応する。

科目名	Academic Writing Workshop	科目名 (英文)	Academic Writing Workshop
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	あ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	西川 眞由美
ディプロマポリシー(DP)	DP1△, DP6△		
科目ナンバリング	LDL2629c0		

授業概要・目的	To give students the basic skills leading towards writing an essay, starting from the paragraph level and including free-writing tasks, note-taking, planning, mind-mapping (listing) and draft-writing.
到達目標	Students will be able to develop their English fluency and accuracy writing skills.
授業方法と留意点	This class will focus on writing skills, but will also develop students' vocabulary and ability to research and write.

科目学習の効果 (資格)	TOEIC
--------------	-------

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Orientation	An overall look at the course, and getting to know one another.	Writing assignment
	2	Unit 1 Topic: Introductions	Narrative Paragraphs (Fluency)	Writing assignment
	3	Unit 2 Topic: Memories	Narrative Paragraphs (Accuracy)	Writing assignment
	4	Unit 3 Topic: Friends	Descriptive Paragraphs (Fluency)	Writing assignment
	5	Unit 4 Topic: Places	Descriptive Paragraphs (Accuracy)	Writing assignment
	6	Unit 5 Topic: Pets	Compare and Contrast Paragraphs (Fluency)	Writing assignment
	7	Unit 6 Topic: Schools	Compare and Contrast Paragraphs (Accuracy)	Writing assignment
	8	Review Units 1-6	Review the different types of paragraph writing and what improvements can be made in your writing.	
	9	Unit 7 Topic: Habits	Cause and Effect Paragraphs (Fluency)	Writing assignment
	10	Unit 8 Topic: Relationships	Cause and Effect Paragraphs (Accuracy)	Writing assignment
	11	Unit 9 Topic: Routines	Summary Paragraphs (Fluency)	Writing assignment
	12	Unit 10 Topic: Jobs	Summary Paragraphs (Accuracy)	Writing assignment
	13	Unit 11 Topic: Issues	Opinion Paragraphs (Fluency)	Writing assignment
	14	Unit 12 Topic: Smartphones	Opinion Paragraphs (Accuracy)	Writing assignment
15	Review tasks Units 7-12	Review the different types of paragraph writing and what improvements can be made in your writing.		

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Writing for Fluency and Accuracy	Andy Boon	Cengage Learning
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	B5 Notebook for writing		
	2			
	3			

評価方法 (基準)	Evaluation: Vocabulary challenges 20% Weekly writing, homework, presentation, and attitude 80%
-----------	---

学生へのメッセージ	You will need to bring a notebook (B5 size) to every class, from Class 1 to write in, pen - your tool and the textbook. You need to buy the textbook as part of taking this class. Try to write as much as you can. You learn by doing. Don't worry about maki
-----------	--

担当者の研究室等	Nishikawa's office is in Building 7, 4th floor
----------	--

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。
----	---

科目名	Academic Writing Workshop	科目名 (英文)	Academic Writing Workshop
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	い
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	田浦 アマンダ
ディプロマポリシー (DP)	DP1△, DP6△		
科目ナンバリング	LDL2629c0		

授業概要・目的	To give students the basic skills leading towards writing an essay, starting from the paragraph level and including free-writing tasks, note-taking, planning, mind-mapping (listing) and draft-writing.
到達目標	Students will be able to develop their English fluency and accuracy writing skills.
授業方法と留意点	This class will focus on writing skills, but will also develop students' vocabulary and ability to research and write.
科目学習の効果 (資格)	TOEIC

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Orientation	An overall look at the course, and getting to know one another.	Writing assignment
	2	Unit 1 Topic: Introductions	Narrative Paragraphs (Fluency)	Writing assignment
	3	Unit 2 Topic: Memories	Narrative Paragraphs (Accuracy)	Writing assignment
	4	Unit 3 Topic: Friends	Descriptive Paragraphs (Fluency)	Writing assignment
	5	Unit 4 Topic: Places	Descriptive Paragraphs (Accuracy)	Writing assignment
	6	Unit 5 Topic: Pets	Compare and Contrast Paragraphs (Fluency)	Writing assignment
	7	Unit 6 Topic: Schools	Compare and Contrast Paragraphs (Accuracy)	Writing assignment
	8	Review Units 1-6	Review the different types of paragraph writing and what improvements can be made in your writing.	
	9	Unit 7 Topic: Habits	Cause and Effect Paragraphs (Fluency)	Writing assignment
	10	Unit 8 Topic: Relationships	Cause and Effect Paragraphs (Accuracy)	Writing assignment
	11	Unit 9 Topic: Routines	Summary Paragraphs (Fluency)	Writing assignment
	12	Unit 10 Topic: Jobs	Summary Paragraphs (Accuracy)	Writing assignment
	13	Unit 11 Topic: Issues	Opinion Paragraphs (Fluency)	Writing assignment
	14	Unit 12 Topic: Smartphones	Opinion Paragraphs (Accuracy)	Writing assignment
15	Review tasks Units 7-12	Review the different types of paragraph writing and what improvements can be made in your writing.		

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Writing for Fluency and Accuracy	Andy Boon	Cengage Learning
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	B5 Notebook for writing		
	2			
	3			

評価方法 (基準)	Evaluation: Vocabulary challenges 20% Weekly writing, homework, presentation, and attitude 80%
学生へのメッセージ	You will need to bring a notebook (B5 size) to every class, from Class 1 to write in, pen - your tool and the textbook. You need to buy the textbook as part of taking this class. Try to write as much as you can. You learn by doing. Don't worry about making mistakes.
担当者の研究室等	Amanda Taura's office is in Building 7, 5th floor
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。

科目名	Academic Writing Workshop	科目名 (英文)	Academic Writing Workshop
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	う
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ブライアン スレーター
ディプロマポリシー (DP)	DP1△, DP6△		
科目ナンバリング	LDL2629c0		

授業概要・目的	To give students the basic skills leading towards writing an essay, starting from the paragraph level and including free-writing tasks, note-taking, planning, mind-mapping (listing) and draft-writing.
到達目標	Students will be able to develop their English fluency and accuracy writing skills.
授業方法と留意点	This class will focus on writing skills, but will also develop students' vocabulary and ability to research and write.
科目学習の効果 (資格)	TOEIC

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Orientation	An overall look at the course, and getting to know one another.	Writing assignment
	2	Unit 1 Topic: Introductions	Narrative Paragraphs (Fluency)	Writing assignment
	3	Unit 2 Topic: Memories	Narrative Paragraphs (Accuracy)	Writing assignment
	4	Unit 3 Topic: Friends	Descriptive Paragraphs (Fluency)	Writing assignment
	5	Unit 4 Topic: Places	Descriptive Paragraphs (Accuracy)	Writing assignment
	6	Unit 5 Topic: Pets	Compare and Contrast Paragraphs (Fluency)	Writing assignment
	7	Unit 6 Topic: Schools	Compare and Contrast Paragraphs (Accuracy)	Writing assignment
	8	Review Units 1-6	Review the different types of paragraph writing and what improvements can be made in your writing.	
	9	Unit 7 Topic: Habits	Cause and Effect Paragraphs (Fluency)	Writing assignment
	10	Unit 8 Topic: Relationships	Cause and Effect Paragraphs (Accuracy)	Writing assignment
	11	Unit 9 Topic: Routines	Summary Paragraphs (Fluency)	Writing assignment
	12	Unit 10 Topic: Jobs	Summary Paragraphs (Accuracy)	Writing assignment
	13	Unit 11 Topic: Issues	Opinion Paragraphs (Fluency)	Writing assignment
	14	Unit 12 Topic: Smartphones	Opinion Paragraphs (Accuracy)	Writing assignment
15	Review tasks Units 7-12	Review the different types of paragraph writing and what improvements can be made in your writing.		

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Writing for Fluency and Accuracy	Andy Boon	Cengage Learning
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	B5 Notebook for writing		
	2			
	3			

評価方法 (基準)	Evaluation: Vocabulary challenges 20% Weekly writing, homework, presentation, and attitude 80%
学生へのメッセージ	You will need to bring a notebook (B5 size) to every class, from Class 1 to write in, pen - your tool and the textbook. You need to buy the textbook as part of taking this class. Try to write as much as you can. You learn by doing. Don't worry about making mistakes.
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	Academic Writing Workshop	科目名 (英文)	Academic Writing Workshop
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	え
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	近 大志
ディプロマポリシー (DP)	DP1△, DP6△		
科目ナンバリング	LDL2629c0		

授業概要・目的	エッセイの執筆を目標として、本授業ではパラグラフライティングの基本的なスキルを実践的に指導する。 To give students the basic skills leading towards writing an essay, starting from the paragraph level and including free-writing tasks, note-taking, planning, mind-mapping (listing) and draft-writing.																																																																		
到達目標	Students will be able to develop their English fluency and accuracy writing skills.																																																																		
授業方法と留意点	This class will focus on writing skills, but will also develop students' vocabulary and ability to research and write.																																																																		
科目学習の効果 (資格)	TOEIC																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Orientation</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> Introduce yourself! Course guidance The Art of Paragraph Writing (pt. 1) </td> <td>Writing assignment</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Unit 1 Topic: Introductions</td> <td>Narrative Paragraphs</td> <td>Writing assignment</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>Unit 2 Topic: Memories</td> <td>Narrative Paragraphs</td> <td>Writing assignment</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>Unit 3 Topic: Friends</td> <td>Descriptive Paragraphs</td> <td>Writing assignment</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>Unit 4 Topic: Places</td> <td>Descriptive Paragraphs</td> <td>Writing assignment</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>Unit 5 Topic: Pets</td> <td>Compare and Contrast Paragraphs</td> <td>Writing assignment</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>Unit 6 Topic: Schools</td> <td>Compare and Contrast Paragraphs</td> <td>Writing assignment</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>Review Units 1-6</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> Review The Art of Paragraph Writing (pt. 2) </td> <td>Writing assignment</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>Unit 7 Topic: Habits</td> <td>Cause and Effect Paragraphs</td> <td>Writing assignment</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>Unit 8 Topic: Relationships</td> <td>Cause and Effect Paragraphs</td> <td>Writing assignment</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>Unit 9 Topic: Routines</td> <td>Summary Paragraphs</td> <td>Writing assignment</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>Unit 10 Topic: Jobs</td> <td>Summary Paragraphs</td> <td>Writing assignment</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>Unit 11 Topic: Issues</td> <td>Opinion Paragraphs</td> <td>Writing assignment</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>Unit 12 Topic: Smartphones</td> <td>Opinion Paragraphs</td> <td>Writing assignment</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>Review tasks Units 7-12</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> Review The Art of Paragraph Writing (pt.3) </td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	Orientation	<ul style="list-style-type: none"> Introduce yourself! Course guidance The Art of Paragraph Writing (pt. 1) 	Writing assignment	2	Unit 1 Topic: Introductions	Narrative Paragraphs	Writing assignment	3	Unit 2 Topic: Memories	Narrative Paragraphs	Writing assignment	4	Unit 3 Topic: Friends	Descriptive Paragraphs	Writing assignment	5	Unit 4 Topic: Places	Descriptive Paragraphs	Writing assignment	6	Unit 5 Topic: Pets	Compare and Contrast Paragraphs	Writing assignment	7	Unit 6 Topic: Schools	Compare and Contrast Paragraphs	Writing assignment	8	Review Units 1-6	<ul style="list-style-type: none"> Review The Art of Paragraph Writing (pt. 2) 	Writing assignment	9	Unit 7 Topic: Habits	Cause and Effect Paragraphs	Writing assignment	10	Unit 8 Topic: Relationships	Cause and Effect Paragraphs	Writing assignment	11	Unit 9 Topic: Routines	Summary Paragraphs	Writing assignment	12	Unit 10 Topic: Jobs	Summary Paragraphs	Writing assignment	13	Unit 11 Topic: Issues	Opinion Paragraphs	Writing assignment	14	Unit 12 Topic: Smartphones	Opinion Paragraphs	Writing assignment	15	Review tasks Units 7-12	<ul style="list-style-type: none"> Review The Art of Paragraph Writing (pt.3) 	
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	Orientation	<ul style="list-style-type: none"> Introduce yourself! Course guidance The Art of Paragraph Writing (pt. 1) 	Writing assignment																																																																
2	Unit 1 Topic: Introductions	Narrative Paragraphs	Writing assignment																																																																
3	Unit 2 Topic: Memories	Narrative Paragraphs	Writing assignment																																																																
4	Unit 3 Topic: Friends	Descriptive Paragraphs	Writing assignment																																																																
5	Unit 4 Topic: Places	Descriptive Paragraphs	Writing assignment																																																																
6	Unit 5 Topic: Pets	Compare and Contrast Paragraphs	Writing assignment																																																																
7	Unit 6 Topic: Schools	Compare and Contrast Paragraphs	Writing assignment																																																																
8	Review Units 1-6	<ul style="list-style-type: none"> Review The Art of Paragraph Writing (pt. 2) 	Writing assignment																																																																
9	Unit 7 Topic: Habits	Cause and Effect Paragraphs	Writing assignment																																																																
10	Unit 8 Topic: Relationships	Cause and Effect Paragraphs	Writing assignment																																																																
11	Unit 9 Topic: Routines	Summary Paragraphs	Writing assignment																																																																
12	Unit 10 Topic: Jobs	Summary Paragraphs	Writing assignment																																																																
13	Unit 11 Topic: Issues	Opinion Paragraphs	Writing assignment																																																																
14	Unit 12 Topic: Smartphones	Opinion Paragraphs	Writing assignment																																																																
15	Review tasks Units 7-12	<ul style="list-style-type: none"> Review The Art of Paragraph Writing (pt.3) 																																																																	
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Writing for Fluency and Accuracy</td> <td>Andy Boon</td> <td>Cengage Learning</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Writing for Fluency and Accuracy	Andy Boon	Cengage Learning	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	Writing for Fluency and Accuracy	Andy Boon	Cengage Learning																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	Vocabulary quiz: 20% Weekly writing, homework, presentation, and attitude: 80%																																																																		
学生へのメッセージ	Try to write as much as you can. Don't worry about making mistakes. Mistakes are an important part of learning another language.																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室																																																																		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。																																																																		

科目名	Academic Writing Workshop	科目名 (英文)	Academic Writing Workshop
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	お
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	バナム マシュー
ディプロマポリシー(DP)	DP1△, DP6△		
科目ナンバリング	LDL2629c0		

授業概要・目的	To give students the basic skills leading towards writing an essay, starting from the paragraph level and including free-writing tasks, note-taking, planning, mind-mapping (listing) and draft-writing.
到達目標	Students will be able to develop their English fluency and accuracy writing skills.
授業方法と留意点	This class will focus on writing skills, but will also develop students' vocabulary and ability to research and write.

科目学習の効果 (資格)	TOEIC
--------------	-------

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Orientation	An overall look at the course, and getting to know one another.	Writing assignment
	2	Unit 1 Topic: Introductions	Narrative Paragraphs (Fluency)	Writing assignment
	3	Unit 2 Topic: Memories	Narrative Paragraphs (Accuracy)	Writing assignment
	4	Unit 3 Topic: Friends	Descriptive Paragraphs (Fluency)	Writing assignment
	5	Unit 4 Topic: Places	Descriptive Paragraphs (Accuracy)	Writing assignment
	6	Unit 5 Topic: Pets	Compare and Contrast Paragraphs (Fluency)	Writing assignment
	7	Unit 6 Topic: Schools	Compare and Contrast Paragraphs (Accuracy)	Writing assignment
	8	Review Units 1-6	Review the different types of paragraph writing and what improvements can be made in your writing.	
	9	Unit 7 Topic: Habits	Cause and Effect Paragraphs (Fluency)	Writing assignment
	10	Unit 8 Topic: Relationships	Cause and Effect Paragraphs (Accuracy)	Writing assignment
	11	Unit 9 Topic: Routines	Summary Paragraphs (Fluency)	Writing assignment
	12	Unit 10 Topic: Jobs	Summary Paragraphs (Accuracy)	Writing assignment
	13	Unit 11 Topic: Issues	Opinion Paragraphs (Fluency)	Writing assignment
	14	Unit 12 Topic: Smartphones	Opinion Paragraphs (Accuracy)	Writing assignment
15	Review tasks Units 7-12	Review the different types of paragraph writing and what improvements can be made in your writing.		

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Writing for Fluency and Accuracy	Andy Boon	Cengage Learning
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	B5 Notebook for writing		
	2			
	3			

評価方法 (基準)	Evaluation: Vocabulary challenges 20% Weekly writing, homework, presentation, and attitude 80%
-----------	---

学生へのメッセージ	You will need to bring a notebook (B5 size) to every class, from Class 1 to write in, pen - your tool and the textbook. You need to buy the textbook as part of taking this class. Try to write as much as you can. You learn by doing. Don't worry about maki
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	Academic Writing Workshop	科目名 (英文)	Academic Writing Workshop
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	カ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	藤原 久仁子
ディプロマポリシー(DP)	DP1△, DP6△		
科目ナンバリング	LDL2629c0		

授業概要・目的	To give students the basic skills leading towards writing an essay, starting from the paragraph level and including free-writing tasks, note-taking, planning, mind-mapping (listing) and draft-writing.
到達目標	Students will be able to develop their English fluency and accuracy writing skills.
授業方法と留意点	This class will focus on writing skills, but will also develop students' vocabulary and ability to research and write.
科目学習の効果 (資格)	TOEIC

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Orientation	An overall look at the course, and getting to know one another.	Writing assignment
	2	Unit 1 Topic: Introductions	Narrative Paragraphs (Fluency)	Writing assignment
	3	Unit 2 Topic: Memories	Narrative Paragraphs (Accuracy)	Writing assignment
	4	Unit 3 Topic: Friends	Descriptive Paragraphs (Fluency)	Writing assignment
	5	Unit 4 Topic: Places	Descriptive Paragraphs (Accuracy)	Writing assignment
	6	Unit 5 Topic: Pets	Compare and Contrast Paragraphs (Fluency)	Writing assignment
	7	Unit 6 Topic: Schools	Compare and Contrast Paragraphs (Accuracy)	Writing assignment
	8	Review Units 1-6	Review the different types of paragraph writing and what improvements can be made in your writing.	
	9	Unit 7 Topic: Habits	Cause and Effect Paragraphs (Fluency)	Writing assignment
	10	Unit 8 Topic: Relationships	Cause and Effect Paragraphs (Accuracy)	Writing assignment
	11	Unit 9 Topic: Routines	Summary Paragraphs (Fluency)	Writing assignment
	12	Unit 10 Topic: Jobs	Summary Paragraphs (Accuracy)	Writing assignment
	13	Unit 11 Topic: Issues	Opinion Paragraphs (Fluency)	Writing assignment
	14	Unit 12 Topic: Smartphones	Opinion Paragraphs (Accuracy)	Writing assignment
15	Review tasks Units 7-12	Review the different types of paragraph writing and what improvements can be made in your writing.		

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Writing for Fluency and Accuracy	Andy Boon	Cengage Learning
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	B5 Notebook for writing		
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業で実施する課題 (グループディスカッション、単語テスト等) に対する評価 (50%) とエッセイ (50%) をもとに、総合的に判断します。
学生へのメッセージ	You will need to bring a notebook (B5 size) to every class, from Class 1 to write in, pen - your tool and the textbook. You need to buy the textbook as part of taking this class. Try to write as much as you can. You learn by doing. Don't worry about making mistakes.
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	Debate	科目名 (英文)	Debate
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	A
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	マイケル ハーキー
ディプロマポリシー (DP)	DP1△, DP6△		
科目ナンバリング	LDL2630c0		

授業概要・目的	授業での活動は原則として全て英語で行う。毎回異なるテーマを設定し、それに関連するスキルを学ぶことによって自分の意見を述べられるよう準備したうえで、プレゼンテーションおよびディベートを英語で実施する。これらの言語活動をととして他者との双方向的な英語コミュニケーションが必要とされる知識とスキルを実践的に学ぶ。			
到達目標	主に国際学部の2年次の学生を対象とし、英語によるプレゼンテーションやディベートを実践することをとおして、自分の意見を発信するだけでなく、相手の意見もよく聞いて、対話による相互理解の姿勢を身につける。授業の活動ではテーマに関する情報の収集方法とスキルを学び、考えを組み立てて表現することができるようになる。意見の不一致が起りやすい状況設定のもとで、双方が根拠を挙げながら分かりやすいことばでテーマに沿った議論ができるようになる。			
授業方法と留意点	ソクラテス式問答法と現代の修辞学的手法により、学生は主張を疑い、その根底にある仮定を明らかにする方法を学びます。			
科目学習の効果 (資格)				
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	第一原理	これまでの発表経験をふりかえり、これからめざしたい発表を考える	練習と復習
	2	描写 (1)	時系列にそって出来事を伝える	練習と復習
	3	描写 (2)	位置関係がわかるように伝える	練習と復習
	4	比較 (1)	本物と偽物の違いを述べる	練習と復習
	5	比較 (2)	文書などの引用と盗用の違いなどについて述べる	練習と復習
	6	プロセスを伝える (1)	使い方を説明する	練習と復習
	7	プロセスを伝える (2)	作り方を説明する	練習と復習
	8	総合実践 (1)	グループ対抗のプレゼンテーション大会	練習と復習
	9	メリットとデメリットを述べる (1)	オール電化は得か損か	練習と復習
	10	メリットとデメリットを述べる (2)	外見の美しさは得か損かなど	練習と復習
	11	相手の意見を引き出す質問 (1)	話を方向づける Yes/No の質問など	練習と復習
	12	相手の意見を引き出す質問 (2)	話を展開する 5WH の質問など	練習と復習
	13	異なる立場で考える (1)	片思いする人 vs 追われて困惑する人	練習と復習
	14	異なる立場で考える (2)	消費者と製造者にとっての商品価格	練習と復習
	15	総合実践 (2)	グループ対抗のディベート大会	練習と復習
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	プレゼンテーションおよびディベートの総合的評価 (20%) 授業中の小テスト、発言・討論への参加姿勢、宿題、提出物等 (80%)			
学生へのメッセージ	Debate is the beating heart of a democratic, free society. It is the mechanism by which people overcome their differences, reach agreement and move forward.			
担当者の研究室等	Bldg 7 3F Herke 研究室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はチュードントアワーにて対応する。			

科目名	Debate	科目名 (英文)	Debate
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	B
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ダニエル マリンズ
ディプロマポリシー (DP)	DP1Δ, DP6Δ		
科目ナンバリング	LDL2630c0		

授業概要・目的	授業での活動は原則として全て英語で行う。毎回異なるテーマを設定し、それに関連するスキルを学ぶことによって自分の意見を述べられるよう準備したうえで、プレゼンテーションおよびディベートを英語で実施する。これらの言語活動とおして他者との双方向的な英語コミュニケーションで必要とされる知識とスキルを実践的に学ぶ。
到達目標	主に国際学部の2年次の学生を対象とし、英語によるプレゼンテーションやディベートを実践することとおして、自分の意見を発信するだけでなく、相手の意見もよく聞いて、対話による相互理解の姿勢を身につける。授業の活動ではテーマに関する情報の収集方法とスキルを学び、考えを組み立てて表現することができるようになる。意見の不一致が起りやすい状況設定のもとで、双方が根拠を挙げながら分かりやすいことばでテーマに沿った議論ができるようになる。
授業方法と留意点	ソクラテス式問答法と現代の修辞学的手法により、学生は主張を疑い、その根底にある仮定を明らかにする方法を学びます。
科目学習の効果 (資格)	

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	第一原理	これまでの発表経験をふりかえり、これからめざしたい発表を考える	練習と復習
	2	描写 (1)	時系列にそって出来事を伝える	練習と復習
	3	描写 (2)	位置関係がわかるように伝える	練習と復習
	4	比較 (1)	本物と偽物の違いを述べる	練習と復習
	5	比較 (2)	文書などの引用と盗用の違いなどについて述べる	練習と復習
	6	プロセスを伝える (1)	使い方を説明する	練習と復習
	7	プロセスを伝える (2)	作り方を説明する	練習と復習
	8	総合実践 (1)	グループ対抗のプレゼンテーション大会	練習と復習
	9	メリットとデメリットを述べる (1)	オール電化は得か損か	練習と復習
	10	メリットとデメリットを述べる (2)	外見の美しさは得か損かなど	練習と復習
	11	相手の意見を引き出す質問 (1)	話を方向づける Yes/No の質問など	練習と復習
	12	相手の意見を引き出す質問 (2)	話を展開する 5WH の質問など	練習と復習
	13	異なる立場で考える (1)	片思いする人 vs 追われて困惑する人	練習と復習
	14	異なる立場で考える (2)	消費者と製造者にとっての商品価格	練習と復習
	15	総合実践 (2)	グループ対抗のディベート大会	練習と復習

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Global Issues: An Introduction to Discussion Skills	Pearson et al.	Seibido
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	A comprehensive evaluation will be made of quizzes (40%), submissions such as assignments and reports, presentations in class (50%), and attitude toward work (10%).
学生へのメッセージ	Debate is the beating heart of a democratic, free society. It is the mechanism by which people overcome their differences, reach agreement and move forward. In order to pass this course, you must attempt ALL assessment tasks. Absence is not an excuse f
担当者の研究室等	Part-time Lecturer's Room, 2nd Floor, Building No. 7
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	Debate	科目名 (英文)	Debate
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	CD
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	スコット ライリー
ディプロマポリシー (DP)	DP1Δ, DP6Δ		
科目ナンバリング	LDL2630c0		

授業概要・目的	授業での活動は原則として全て英語で行う。毎回異なるテーマを設定し、それに関連するスキルを学ぶことによって自分の意見を述べられるよう準備したうえで、プレゼンテーションおよびディベートを英語で実施する。これらの言語活動とおして他者との双方向的な英語コミュニケーションで必要とされる知識とスキルを実践的に学ぶ。
到達目標	主に国際学部の2年次の学生を対象とし、英語によるプレゼンテーションやディベートを実践することをとおして、自分の意見を発信するだけでなく、相手の意見もよく聞いて、対話による相互理解の姿勢を身につける。授業の活動ではテーマに関する情報の収集方法とスキルを学び、考えを組み立てて表現することができるようになる。意見の不一致が起りやすい状況設定のもとで、双方が根拠を挙げながら分かりやすいことばでテーマに沿った議論ができるようになる。
授業方法と留意点	ソクラテス式問答法と現代の修辞学的手法により、学生は主張を疑い、その根底にある仮定を明らかにする方法を学びます。
科目学習の効果 (資格)	

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	第一原理	これまでの発表経験をふりかえり、これからめざしたい発表を考える	練習と復習
	2	描写 (1)	時系列にそって出来事を伝える	練習と復習
	3	描写 (2)	位置関係がわかるように伝える	練習と復習
	4	比較 (1)	本物と偽物の違いを述べる	練習と復習
	5	比較 (2)	文書などの引用と盗用の違いなどについて述べる	練習と復習
	6	プロセスを伝える (1)	使い方を説明する	練習と復習
	7	プロセスを伝える (2)	作り方を説明する	練習と復習
	8	総合実践 (1)	グループ対抗のプレゼンテーション大会	練習と復習
	9	メリットとデメリットを述べる (1)	オール電化は得か損か	練習と復習
	10	メリットとデメリットを述べる (2)	外見の美しさは得か損かなど	練習と復習
	11	相手の意見を引き出す質問 (1)	話を方向づける Yes/No の質問など	練習と復習
	12	相手の意見を引き出す質問 (2)	話を展開する 5WH の質問など	練習と復習
	13	異なる立場で考える (1)	片思いする人 vs 追われて困惑する人	練習と復習
	14	異なる立場で考える (2)	消費者と製造者にとっての商品価格	練習と復習
	15	総合実践 (2)	グループ対抗のディベート大会	練習と復習

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Global Issues: An Introduction to Discussion Skills	Pearson et al.	Seibido
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	A comprehensive evaluation will be made of quizzes (40%), submissions such as assignments and reports, presentations in class (50%), and attitude toward work (10%).
学生へのメッセージ	Debate is the beating heart of a democratic, free society. It is the mechanism by which people overcome their differences, reach agreement and move forward. In order to pass this course, you must attempt ALL assessment tasks. Absence is not an excuse f
担当者の研究室等	Part-time Lecturer's Room, 2nd Floor, Building No. 7
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	Debate	科目名 (英文)	Debate
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	E F
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ブルース ライリー
ディプロマポリシー(DP)	DP1Δ, DP6Δ		
科目ナンバリング	LDL2630c0		

授業概要・目的	このコースは、世界について議論し、自分の意見を効果的に表現できるようにすることを目的としています。																																																																		
到達目標	<p>*様々なトピックについて英会話ができるようになります。</p> <p>*社会、健康、技術、芸術、文化などのトピックを議論するために語彙を使用することができるようになります。</p> <p>*世界からの英語を話すことを聞くことより快適になります。</p> <p>*あなたの意見を表現し、英語でより長い会話を持つことができるようになります。</p>																																																																		
授業方法と留意点	クラスメートと様々な意見を出し合いながら、ディスカッションをすることができる。																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション</td> <td>オリエンテーション</td> <td>事後学習・・・教科書の説明</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Unit 1</td> <td>説明文問題、短文穴埋め-語彙・文法問題、長文穴埋め、読解問題</td> <td>事前学習・・・Unit 1の 事後学習・・・Unit 1の復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>Unit 2</td> <td>説明文問題、短文穴埋め-語彙・文法問題、長文穴埋め、読解問題</td> <td>事前学習・・・Unit 2の予習 事後学習・・・Unit 2の復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>Unit 3</td> <td>説明文問題、短文穴埋め-語彙・文法問題、長文穴埋め、読解問題</td> <td>事前学習・・・Unit 3の予習 事後学習・・・Unit 3の復習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>Unit 4</td> <td>説明文問題、短文穴埋め-語彙・文法問題、長文穴埋め、読解問題</td> <td>事前学習・・・Unit 4の予習 事後学習・・・Unit 4の復習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>Unit 5</td> <td>説明文問題、短文穴埋め-語彙・文法問題、長文穴埋め、読解問題</td> <td>事前学習・・・Unit 5の予習 事後学習・・・Unit 5の復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>Unit 6</td> <td>説明文問題、短文穴埋め-語彙・文法問題、長文穴埋め、読解問題</td> <td>事前学習・・・Unit 6の予習 事後学習・・・Unit 6の復習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>中間試験、(Units 1-6)</td> <td>試験と振り返り</td> <td>事前学習・・・Unit 1-6の復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>Unit 7</td> <td>説明文問題、短文穴埋め-語彙・文法問題、長文穴埋め、読解問題</td> <td>事前学習・・・Unit 7の予習 事後学習・・・Unit 7の復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>Unit 8</td> <td>説明文問題、短文穴埋め-語彙・文法問題、長文穴埋め、読解問題</td> <td>事前学習・・・Unit 8の予習 事後学習・・・Unit 8の復習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>Unit 9</td> <td>説明文問題、短文穴埋め-語彙・文法問題、長文穴埋め、読解問題</td> <td>事前学習・・・Unit 9の予習 事後学習・・・Unit 9の復習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>Unit 10</td> <td>説明文問題、短文穴埋め-語彙・文法問題、長文穴埋め、読解問題</td> <td>事前学習・・・Unit 10の予習 事後学習・・・Unit 10の復習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>Unit 11</td> <td>説明文問題、短文穴埋め-語彙・文法問題、長文穴埋め、読解問題</td> <td>事前学習・・・Unit 11の予習 事後学習・・・Unit 11の復習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>最終試験、(Units 7-11)</td> <td>試験と振り返り</td> <td>事前学習・・・Unit 7-11の復習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>復習</td> <td>課程の復習</td> <td>事前学習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション	オリエンテーション	事後学習・・・教科書の説明	2	Unit 1	説明文問題、短文穴埋め-語彙・文法問題、長文穴埋め、読解問題	事前学習・・・Unit 1の 事後学習・・・Unit 1の復習	3	Unit 2	説明文問題、短文穴埋め-語彙・文法問題、長文穴埋め、読解問題	事前学習・・・Unit 2の予習 事後学習・・・Unit 2の復習	4	Unit 3	説明文問題、短文穴埋め-語彙・文法問題、長文穴埋め、読解問題	事前学習・・・Unit 3の予習 事後学習・・・Unit 3の復習	5	Unit 4	説明文問題、短文穴埋め-語彙・文法問題、長文穴埋め、読解問題	事前学習・・・Unit 4の予習 事後学習・・・Unit 4の復習	6	Unit 5	説明文問題、短文穴埋め-語彙・文法問題、長文穴埋め、読解問題	事前学習・・・Unit 5の予習 事後学習・・・Unit 5の復習	7	Unit 6	説明文問題、短文穴埋め-語彙・文法問題、長文穴埋め、読解問題	事前学習・・・Unit 6の予習 事後学習・・・Unit 6の復習	8	中間試験、(Units 1-6)	試験と振り返り	事前学習・・・Unit 1-6の復習	9	Unit 7	説明文問題、短文穴埋め-語彙・文法問題、長文穴埋め、読解問題	事前学習・・・Unit 7の予習 事後学習・・・Unit 7の復習	10	Unit 8	説明文問題、短文穴埋め-語彙・文法問題、長文穴埋め、読解問題	事前学習・・・Unit 8の予習 事後学習・・・Unit 8の復習	11	Unit 9	説明文問題、短文穴埋め-語彙・文法問題、長文穴埋め、読解問題	事前学習・・・Unit 9の予習 事後学習・・・Unit 9の復習	12	Unit 10	説明文問題、短文穴埋め-語彙・文法問題、長文穴埋め、読解問題	事前学習・・・Unit 10の予習 事後学習・・・Unit 10の復習	13	Unit 11	説明文問題、短文穴埋め-語彙・文法問題、長文穴埋め、読解問題	事前学習・・・Unit 11の予習 事後学習・・・Unit 11の復習	14	最終試験、(Units 7-11)	試験と振り返り	事前学習・・・Unit 7-11の復習	15	復習	課程の復習	事前学習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション	オリエンテーション	事後学習・・・教科書の説明																																																																
2	Unit 1	説明文問題、短文穴埋め-語彙・文法問題、長文穴埋め、読解問題	事前学習・・・Unit 1の 事後学習・・・Unit 1の復習																																																																
3	Unit 2	説明文問題、短文穴埋め-語彙・文法問題、長文穴埋め、読解問題	事前学習・・・Unit 2の予習 事後学習・・・Unit 2の復習																																																																
4	Unit 3	説明文問題、短文穴埋め-語彙・文法問題、長文穴埋め、読解問題	事前学習・・・Unit 3の予習 事後学習・・・Unit 3の復習																																																																
5	Unit 4	説明文問題、短文穴埋め-語彙・文法問題、長文穴埋め、読解問題	事前学習・・・Unit 4の予習 事後学習・・・Unit 4の復習																																																																
6	Unit 5	説明文問題、短文穴埋め-語彙・文法問題、長文穴埋め、読解問題	事前学習・・・Unit 5の予習 事後学習・・・Unit 5の復習																																																																
7	Unit 6	説明文問題、短文穴埋め-語彙・文法問題、長文穴埋め、読解問題	事前学習・・・Unit 6の予習 事後学習・・・Unit 6の復習																																																																
8	中間試験、(Units 1-6)	試験と振り返り	事前学習・・・Unit 1-6の復習																																																																
9	Unit 7	説明文問題、短文穴埋め-語彙・文法問題、長文穴埋め、読解問題	事前学習・・・Unit 7の予習 事後学習・・・Unit 7の復習																																																																
10	Unit 8	説明文問題、短文穴埋め-語彙・文法問題、長文穴埋め、読解問題	事前学習・・・Unit 8の予習 事後学習・・・Unit 8の復習																																																																
11	Unit 9	説明文問題、短文穴埋め-語彙・文法問題、長文穴埋め、読解問題	事前学習・・・Unit 9の予習 事後学習・・・Unit 9の復習																																																																
12	Unit 10	説明文問題、短文穴埋め-語彙・文法問題、長文穴埋め、読解問題	事前学習・・・Unit 10の予習 事後学習・・・Unit 10の復習																																																																
13	Unit 11	説明文問題、短文穴埋め-語彙・文法問題、長文穴埋め、読解問題	事前学習・・・Unit 11の予習 事後学習・・・Unit 11の復習																																																																
14	最終試験、(Units 7-11)	試験と振り返り	事前学習・・・Unit 7-11の復習																																																																
15	復習	課程の復習	事前学習																																																																
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Global Issues</td> <td>Garry Pearson, Graham Skerritt, Adrian Francis, Yoshizuka Hiroshi</td> <td>Seibido</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Global Issues	Garry Pearson, Graham Skerritt, Adrian Francis, Yoshizuka Hiroshi	Seibido	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	Global Issues	Garry Pearson, Graham Skerritt, Adrian Francis, Yoshizuka Hiroshi	Seibido																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	35% Test 1 35% Test 2 30% Participation, In-class assignments, etc.																																																																		
学生へのメッセージ																																																																			
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室																																																																		
備考																																																																			

科目名	Debate	科目名 (英文)	Debate
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	G H I
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	玉井 美香
ディプロマポリシー(DP)	DP1△, DP6△		
科目ナンバリング	LDL2630c0		

授業概要・目的	毎回異なるテーマを設定し、それに関連するスキルを学ぶことによって自分の意見を述べられるよう準備したうえで、プレゼンテーションおよびディベートを英語で実施する。これらの言語活動をとおして他者との双方向的な英語コミュニケーションが必要とされる知識とスキルを実践的に学ぶ。
到達目標	主に国際学部の2年次の学生を対象とし、英語によるプレゼンテーションやディベートを実践することをとおして、自分の意見を発信するだけでなく、相手の意見もよく聞いて、対話による相互理解の姿勢を身につける。授業の活動ではテーマに関する情報の収集方法とスキルを学び、考えを組み立てて表現することができるようになる。意見の不一致が起りやすい状況設定のもとで、双方が根拠を挙げながら分かりやすいことばでテーマに沿った議論ができるようになる。
授業方法と留意点	授業での活動は原則として全て英語で行う。
科目学習の効果(資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	Introduction	これまでの発表経験をふりかえり、これからめざしたい発表を考える	授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること
2	描写(1)	時系列にそって出来事を伝える	授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること
3	描写(2)	位置関係がわかるように伝える	授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること
4	比較(1)	本物と偽物の違いを述べる	授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること
5	比較(2)	文書などの引用と盗用の違いなどについて述べる	授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること
6	プロセスを伝える(1)	使い方を説明する	授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること
7	プロセスを伝える(2)	作り方を説明する	授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること
8	総合実践(1)	グループ対抗のプレゼンテーション大会	授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること
9	メリットとデメリットを述べる(1)	オール電化は得か損か	授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること
10	メリットとデメリットを述べる(2)	外見の美しさは得か損かなど	授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること
11	相手の意見を引き出す質問(1)	話を方向づける Yes/Noの質問など	授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること
12	相手の意見を引き出す質問(2)	話を展開する 5W1Hの質問など	授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること
13	異なる立場で考える(1)	片思いする人 vs 追われて困惑する人	授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること
14	異なる立場で考える(2)	消費者と製造者にとっての商品価格	授業テーマに関する内容を下調べしておくとともに、授業で学んだ英語表現を復習すること
15	総合実践(2)	グループ対抗のディベート大会	発表の準備をするとともに、授業で学んだ内容について総復習すること

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法	プレゼンテーションおよびディベートの総合的評価(20%)			

(基準)	授業中の小テスト、発言・討論への参加姿勢、宿題、提出物等（80%）
学生へのメッセージ	参考書・参考資料等は、授業時に適宜指示・配布する。
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	Presentation	科目名 (英文)	Presentation
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	あ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	マイケル ハーキー
ディプロマポリシー (DP)	DP1Δ, DP6Δ		
科目ナンバリング	LDL2631c0		

授業概要・目的	ハンドアウトなどの資料や ICT を用いて、英語でプレゼンテーションを行うためのスキルを修得する。プレゼンテーションを円滑に進めるスキル (身振り、姿勢、話し方など) や発表構成 (導入・展開・結論) を修得する。
到達目標	CEFR-J [A1. 1-3] を目標とし、前もって発表原稿を準備すれば、自分に関連する情報 (自己紹介、趣味、関心事、学校、家族・友達に関すること) を簡単な語句や基本構文を用いて発表できるようになる。
授業方法と留意点	ハンドアウトや ICT を使って、1人5分程度以上の英語プレゼンテーションを行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	Introduction	Orientation and self introduction	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
2	Exercises: Description and Layout	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
3	Exercises: Description and Layout	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
4	Exercises: Description and Layout	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
5	Exercises: Definition, Comparison and Contrast	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
6	Exercises: Definition, Comparison and Contrast	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
7	Exercises: Definition, Comparison and Contrast	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
8	Exercises: Visual Support Materials	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
9	Exercises: Visual Support Materials	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
10	Exercises: Visual Support Materials	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
11	Exercises: Giving Presentations	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
12	Exercises: Giving Presentations	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
13	Exercises: Peer evaluation	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
14	Exercises: Peer evaluation	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
15	Review	Feedback session	...

関連科目	ドラマ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	プレゼンテーション 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
学生へのメッセージ	The quality of your voice and pronunciation is just as important as the content of your speech. Audiences listen to passionate speakers. Let's present from the heart.
担当者の研究室等	7号館3階 Herke 研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はチュードントアワーにて対応する。

科目名	Presentation	科目名 (英文)	Presentation
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	い
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	藤澤 宜広
ディプロマポリシー (DP)	DP1△, DP6△		
科目ナンバリング	LDL2631c0		

授業概要・目的	ハンドアウトなどの資料や ICT を用いて、英語でプレゼンテーションを行うためのスキルを修得する。プレゼンテーションを円滑に進めるスキル (身振り、姿勢、話し方など) や発表構成 (導入・展開・結論) を修得する。
到達目標	CEFR-J [A1. 1-3] を目標とし、前もって発表原稿を準備すれば、自分に関連する情報 (自己紹介、趣味、関心事、学校、家族・友達に関すること) を簡単な語句や基本構文を用いて発表できるようになる。
授業方法と留意点	ハンドアウトや ICT を使って、1人5分程度以上の英語プレゼンテーションを行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction	Orientation and self introduction	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	2	Exercises: Description and Layout	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	3	Exercises: Description and Layout	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	4	Exercises: Description and Layout	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	5	Exercises: Definition, Comparison and Contrast	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	6	Exercises: Definition, Comparison and Contrast	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	7	Exercises: Definition, Comparison and Contrast	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	8	Exercises: Visual Support Materials	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	9	Exercises: Visual Support Materials	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	10	Exercises: Visual Support Materials	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	11	Exercises: Giving Presentations	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	12	Exercises: Giving Presentations	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	13	Exercises: Peer evaluation	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	14	Exercises: Peer evaluation	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	15	Review	Feedback session	...

関連科目	ドラマ
------	-----

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Speaking of Speech, Premium Edition, Basic Presentation Skills for Beginners	Charles LeBeau	Cengage Learning
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Mastering the American Accent, 2nd. ed.	Lisa Mojsin	Barron's Educational Series
	2			
	3			

評価方法 (基準)	プレゼンテーション 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
学生へのメッセージ	The quality of your voice and pronunciation is just as important as the content of your speech. Audiences listen to passionate speakers. Let's present from the heart.
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	Presentation	科目名 (英文)	Presentation
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	う
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	スタンシュー アレクサンドロ
ディプロマポリシー (DP)	DP1△, DP6△		
科目ナンバリング	LDL2631c0		

授業概要・目的	ハンドアウトなどの資料や ICT を用いて、英語でプレゼンテーションを行うためのスキルを修得する。プレゼンテーションを円滑に進めるスキル (身振り、姿勢、話し方など) や発表構成 (導入・展開・結論) を修得する。
到達目標	CEFR-J [A1. 1-3] を目標とし、前もって発表原稿を準備すれば、自分に関連する情報 (自己紹介、趣味、関心事、学校、家族・友達に関すること) を簡単な語句や基本構文を用いて発表できるようになる。
授業方法と留意点	ハンドアウトや ICT を使って、1人5分程度以上の英語プレゼンテーションを行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	Introduction	Orientation and self introduction	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
2	Exercises: Description and Layout	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
3	Exercises: Description and Layout	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
4	Exercises: Description and Layout	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
5	Exercises: Definition, Comparison and Contrast	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
6	Exercises: Definition, Comparison and Contrast	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
7	Exercises: Definition, Comparison and Contrast	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
8	Exercises: Visual Support Materials	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
9	Exercises: Visual Support Materials	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
10	Exercises: Visual Support Materials	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
11	Exercises: Giving Presentations	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
12	Exercises: Giving Presentations	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
13	Exercises: Peer evaluation	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
14	Exercises: Peer evaluation	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
15	Review	Feedback session	...

関連科目	ドラマ
------	-----

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Ready to Present: A Guide to Better Presentations	Malcolm Kostiuik, Herman Bartelen	センゲージ ラーニング株式会社
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	プレゼンテーション 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
学生へのメッセージ	This course aims to provide students with the skills necessary to deliver effective presentations at university and in their future careers. Students will learn how to research, plan, organize and present their ideas on a variety of themes. Students are e
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。

科目名	Presentation	科目名 (英文)	Presentation
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	え
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ダンカン ホワイト
ディプロマポリシー (DP)	DP1△, DP6△		
科目ナンバリング	LDL2631c0		

授業概要・目的	ハンドアウトなどの資料や ICT を用いて、英語でプレゼンテーションを行うためのスキルを修得する。プレゼンテーションを円滑に進めるスキル (身振り、姿勢、話し方など) や発表構成 (導入・展開・結論) を修得する。
到達目標	CEFR-J [A1. 1-3] を目標とし、前もって発表原稿を準備すれば、自分に関連する情報 (自己紹介、趣味、関心事、学校、家族・友達に関すること) を簡単な語句や基本構文を用いて発表できるようになる。
授業方法と留意点	ハンドアウトや ICT を使って、1人5分程度以上の英語プレゼンテーションを行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	Introduction	Orientation and self introduction	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
2	Exercises: Description and Layout	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
3	Exercises: Description and Layout	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
4	Exercises: Description and Layout	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
5	Exercises: Definition, Comparison and Contrast	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
6	Exercises: Definition, Comparison and Contrast	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
7	Exercises: Definition, Comparison and Contrast	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
8	Exercises: Visual Support Materials	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
9	Exercises: Visual Support Materials	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
10	Exercises: Visual Support Materials	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
11	Exercises: Giving Presentations	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
12	Exercises: Giving Presentations	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
13	Exercises: Peer evaluation	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
14	Exercises: Peer evaluation	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
15	Review	Feedback session	...

関連科目	ドラマ
------	-----

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	SCD Revised	Richard Rowat	Weissman Press
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	プレゼンテーション 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
-----------	---

学生へのメッセージ	The quality of your voice and pronunciation is just as important as the content of your speech. Audiences listen to passionate speakers. Let's present from the heart.
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	Presentation	科目名 (英文)	Presentation
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	お
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	担当者未定
ディプロマポリシー (DP)	DP1△, DP6△		
科目ナンバリング	LDL2631c0		

授業概要・目的	ハンドアウトなどの資料や ICT を用いて、英語でプレゼンテーションを行うためのスキルを修得する。プレゼンテーションを円滑に進めるスキル (身振り、姿勢、話し方など) や発表構成 (導入・展開・結論) を修得する。
到達目標	CEFR-J [A1. 1-3] を目標とし、前もって発表原稿を準備すれば、自分に関連する情報 (自己紹介、趣味、関心事、学校、家族・友達に関すること) を簡単な語句や基本構文を用いて発表できるようになる。
授業方法と留意点	ハンドアウトや ICT を使って、1人5分程度以上の英語プレゼンテーションを行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	Introduction	Orientation and self introduction	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
2	Exercises: Description and Layout	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
3	Exercises: Description and Layout	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
4	Exercises: Description and Layout	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
5	Exercises: Definition, Comparison and Contrast	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
6	Exercises: Definition, Comparison and Contrast	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
7	Exercises: Definition, Comparison and Contrast	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
8	Exercises: Visual Support Materials	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
9	Exercises: Visual Support Materials	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
10	Exercises: Visual Support Materials	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
11	Exercises: Giving Presentations	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
12	Exercises: Giving Presentations	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
13	Exercises: Peer evaluation	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
14	Exercises: Peer evaluation	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
15	Review	Feedback session	...

関連科目	ドラマ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	プレゼンテーション 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
学生へのメッセージ	The quality of your voice and pronunciation is just as important as the content of your speech. Audiences listen to passionate speakers. Let's present from the heart.
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	Presentation	科目名 (英文)	Presentation
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	か
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	グランド パーシム
ディプロマポリシー (DP)	DP1Δ, DP6Δ		
科目ナンバリング	LDL2631c0		

授業概要・目的	ハンドアウトなどの資料や ICT を用いて、英語でプレゼンテーションを行うためのスキルを修得する。プレゼンテーションを円滑に進めるスキル (身振り、姿勢、話し方など) や発表構成 (導入・展開・結論) を修得する。
到達目標	CEFR-J [A1. 1-3] を目標とし、前もって発表原稿を準備すれば、自分に関連する情報 (自己紹介、趣味、関心事、学校、家族・友達に関すること) を簡単な語句や基本構文を用いて発表できるようになる。
授業方法と留意点	ハンドアウトや ICT を使って、1人5分程度以上の英語プレゼンテーションを行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction	Orientation and self introduction	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	2	Exercises: Description and Layout	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	3	Exercises: Description and Layout	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	4	Exercises: Description and Layout	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	5	Exercises: Definition, Comparison and Contrast	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	6	Exercises: Definition, Comparison and Contrast	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	7	Exercises: Definition, Comparison and Contrast	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	8	Exercises: Visual Support Materials	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	9	Exercises: Visual Support Materials	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	10	Exercises: Visual Support Materials	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	11	Exercises: Giving Presentations	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	12	Exercises: Giving Presentations	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	13	Exercises: Peer evaluation	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	14	Exercises: Peer evaluation	Individual task, pair work, and group work	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
	15	Review	Feedback session	...

関連科目	ドラマ
------	-----

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Ready to Present	Herman Bartelen / Malcolm Kostiuk	Engage Learning K. K.
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	プレゼンテーション 20% 授業中の小テスト・発言・討論、小プレゼンテーション、宿題、提出物等 80%
-----------	--

学生へのメッセージ	The quality of your voice and pronunciation is just as important as the content of your speech. Audiences listen to passionate speakers. Let's present from the heart.
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	Discussion a	科目名 (英文)	Discussion a
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	イ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	フーバー トッド
ディプロマポリシー(DP)	DP1△, DP6△		
科目ナンバリング	LDL2634c0		

授業概要・目的	このクラスの目的は、英語でディスカッションする能力と、トピックを様々な視点から検討する批判力を養うことである。また、学生の生活や興味に関連した様々なトピックについて知識を深めることを目的としている。
到達目標	1年次に履修した英語科目を踏襲し、CEFR-J[A2.1]を目標に、複数の英文を連続して話すことができるスピーキング力を身につける。また、スピーキング力を活かして、より論理的に構成された長い英文を発話する能力を身につけることを目標とする。
授業方法と留意点	このコースでは、トピックに基づいたディスカッションを行います。テキストや画像から観察結果を収集するトレーニングが行われます。また、これらの観察結果をもとに、ディスカッションで自分の考えをサポートすることができるようになります。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	自己紹介と概要説明	テキスト全体に目を通しておく (1時間)
2	大学について語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
3	技術について語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
4	ルールについて語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
5	責任について語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
6	投票について語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
7	世界の国語について語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
8	借用語について語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
9	ジャブリッシュについて語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
10	仕事について語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
11	残業の話	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
12	グループプロジェクトプランニング	グループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
13	グループプロジェクト制作	グループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
14	グループプロジェクト発表実習	グループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
15	グループプロジェクトプレゼンテーションと振り返り活動	プレゼンテーションとディスカッション	総復習を行う (1時間)

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Anne of Green Gables: A Graphic Novel	Mariah Marsden, Brenna Thummler	Andrews McMeel
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	グループプロジェクトプレゼンテーション 15% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 85%
学生へのメッセージ	In this class, we will be using Anne of Green Gables to discuss a wide variety of topics. Please bring your imagination and your willingness to speak to the classroom. If you do, you are sure to find kindred spirits there.
担当者の研究室等	7号館3階 フーバー研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に研究室にて対応する。

科目名	Discussion a	科目名 (英文)	Discussion a
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	ロ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	リチャード・グアイアス
ディプロマポリシー(DP)	DP1△, DP6△		
科目ナンバリング	LDL2634c0		

授業概要・目的	このクラスの目的は、英語でディスカッションする能力と、トピックを様々な視点から検討する批判力を養うことである。また、学生の生活や興味に関連した様々なトピックについて知識を深めることを目的としている。
到達目標	1年次に履修した英語科目を踏襲し、CEFR-J[A2.1]を目標に、複数の英文を連続して話すことができるスピーキング力を身につける。また、スピーキング力を活かして、より論理的に構成された長い英文を発話する能力を身につけることを目標とする。
授業方法と留意点	このコースでは、トピックに基づいたディスカッションを行います。テキストや画像から観察結果を収集するトレーニングが行われます。また、これらの観察結果をもとに、ディスカッションで自分の考えをサポートすることができるようになります。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	自己紹介と概要説明	テキスト全体に目を通しておく (1時間)
2	大学について語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
3	技術について語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
4	ルールについて語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
5	責任について語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
6	投票について語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
7	世界の国語について語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
8	借用語について語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
9	ジャブリッシュについて語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
10	仕事について語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
11	残業の話	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
12	グループプロジェクトプランニング	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
13	グループプロジェクト制作	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
14	グループプロジェクト発表実習	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
15	グループプロジェクトプレゼンテーションと振り返り活動	ペアワークとグループワーク	総復習を行う (1時間)

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Discussion Process and Principles	Charles LeBeau	Language Solutions
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	グループプロジェクトプレゼンテーション 15% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 85%
学生へのメッセージ	In English discussion, we often have different opinions. We often try to persuade the others that we are right and they are wrong by introducing new information and using logic. This may feel uncomfortable or even aggressive. However it is a part of English.
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	Discussion a	科目名 (英文)	Discussion a
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	ハ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	アイビス ウィリアム
ディプロマポリシー (DP)	DP1△, DP6△		
科目ナンバリング	LDL2634c0		

授業概要・目的	このクラスの目的は、英語でディスカッションする能力と、トピックを様々な視点から検討する批判力を養うことである。また、学生の生活や興味に関連した様々なトピックについて知識を深めることを目的としている。
到達目標	1年次に履修した英語科目を踏襲し、CEFR-J[A2.1]を目標に、複数の英文を連続して話すことができるスピーキング力を身につける。また、スピーキング力を活かして、より論理的に構成された長い英文を発話する能力を身につけることを目標とする。
授業方法と留意点	このコースでは、トピックに基づいたディスカッションを行います。テキストや画像から観察結果を収集するトレーニングが行われます。また、これらの観察結果をもとに、ディスカッションで自分の考えをサポートすることができるようになります。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	自己紹介と概要説明	テキスト全体に目を通しておく (1時間)
2	大学について語る	ペアワーク、グループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
3	技術について語る	ペアワーク、グループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
4	ルールについて語る	ペアワーク、グループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
5	責任について語る	ペアワーク、グループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
6	投票について語る	ペアワーク、グループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
7	世界の国語について語る	ペアワーク、グループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
8	借用語について語る	ペアワーク、グループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
9	ジャブリッシュについて語る	ペアワーク、グループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
10	仕事について語る	ペアワーク、グループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
11	残業の話	ペアワーク、グループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
12	グループプロジェクトプランニング	グループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
13	グループプロジェクト制作	グループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
14	グループプロジェクト発表実習	グループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
15	グループプロジェクトプレゼンテーションと振り返り活動	プレゼンテーションとディスカッション	総復習を行う (1時間)

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Solutions	Shawn M. Clankie	Cengage
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	グループプロジェクトプレゼンテーション 15% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 85%
-----------	---

学生へのメッセージ	You will need a notebook and writing materials. If you have any questions, come see me anytime.
-----------	---

担当者の研究室等	非常勤講師室 (7号館2階) william.ives@edu.setsunan.ac.jp
----------	--

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	Discussion a	科目名 (英文)	Discussion a
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	二
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	アサヒ ロンガス
ディプロマポリシー (DP)	DP1Δ, DP6Δ		
科目ナンバリング	LDL2634c0		

授業概要・目的	このクラスの目的は、英語でディスカッションする能力と、トピックを様々な視点から検討する批判力を養うことである。また、学生の生活や興味に関連した様々なトピックについて知識を深めることを目的としている。
到達目標	1年次に履修した英語科目を踏襲し、CEFR-J[A2.1]を目標に、複数の英文を連続して話すことができるスピーキング力を身につける。また、スピーキング力を活かして、より論理的に構成された長い英文を発話する能力を身につけることを目標とする。
授業方法と留意点	このコースでは、トピックに基づいたディスカッションを行います。テキストや画像から観察結果を収集するトレーニングが行われます。また、これらの観察結果をもとに、ディスカッションで自分の考えをサポートすることができるようになります。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	自己紹介と概要説明	テキスト全体に目を通しておく (1時間)
2	大学について語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
3	技術について語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
4	ルールについて語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
5	責任について語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
6	投票について語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
7	世界の国語について語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
8	借用語について語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
9	ジャブリッシュについて語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
10	仕事について語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
11	残業の話	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
12	グループプロジェクトプランニング	グループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
13	グループプロジェクト制作	グループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
14	グループプロジェクト発表実習	グループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
15	グループプロジェクトプレゼンテーションと振り返り活動	プレゼンテーションとディスカッション	総復習を行う (1時間)

関連科目	英語科目全般
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	none		
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	グループプロジェクトプレゼンテーション 15% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 85%
-----------	---

学生へのメッセージ	語学学習は「継続は力なり」です。苦手な人も多いかもしれませんが、就職活動の際にも英語は重要な科目です。こつこつ続けることによって徐々にスコアアップを狙いましょう。また、授業には辞書を持参するようにして下さい。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	Discussion a	科目名 (英文)	Discussion a
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	ホ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ダグラス ラッセル
ディプロマポリシー (DP)	DP1△, DP6△		
科目ナンバリング	LDL2634c0		

授業概要・目的	このクラスの目的は、英語でディスカッションする能力と、トピックを様々な視点から検討する批判力を養うことである。また、学生の生活や興味に関連した様々なトピックについて知識を深めることを目的としている。
到達目標	1年次に履修した英語科目を踏襲し、CEFR-J[A2.1]を目標に、複数の英文を連続して話すことができるスピーキング力を身につける。また、スピーキング力を活かして、より論理的に構成された長い英文を発話する能力を身につけることを目標とする。
授業方法と留意点	このコースでは、トピックに基づいたディスカッションを行います。テキストや画像から観察結果を収集するトレーニングが行われます。また、これらの観察結果をもとに、ディスカッションで自分の考えをサポートすることができるようになります。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	自己紹介と概要説明	テキスト全体に目を通しておく (1時間)
2	大学について語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
3	技術について語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
4	ルールについて語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
5	責任について語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
6	投票について語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
7	世界の国語について語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
8	借用語について語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
9	ジャブリッシュについて語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
10	仕事について語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
11	残業の話	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
12	グループプロジェクトプランニング	グループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
13	グループプロジェクト制作	グループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
14	グループプロジェクト発表実習	グループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
15	グループプロジェクトプレゼンテーションと振り返り活動	プレゼンテーションとディスカッション	総復習を行う (1時間)

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Talking Point 1	Justin Harris / Paul Leeming	ABAX ELT Publishers
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	グループプロジェクトプレゼンテーション 15% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 85%
学生へのメッセージ	This course focuses on topic-based listening and speaking activities. Active participation is required. Conversation strategies and debate skills will be taught in class.
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	Discussion a	科目名 (英文)	Discussion a
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	へ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	オチエ クリスティン
ディプロマポリシー(DP)	DP1△, DP6△		
科目ナンバリング	LDL2634c0		

授業概要・目的	このクラスの目的は、英語でディスカッションする能力と、トピックを様々な視点から検討する批判力を養うことである。また、学生の生活や興味に関連した様々なトピックについて知識を深めることを目的としている。
到達目標	1年次に履修した英語科目を踏襲し、CEFR-J[A2.1]を目標に、複数の英文を連続して話すことができるスピーキング力を身につける。また、スピーキング力を活かして、より論理的に構成された長い英文を発話する能力を身につけることを目標とする。
授業方法と留意点	このコースでは、トピックに基づいたディスカッションを行います。テキストや画像から観察結果を収集するトレーニングが行われます。また、これらの観察結果をもとに、ディスカッションで自分の考えをサポートすることができるようになります。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	自己紹介と概要説明	テキスト全体に目を通しておく (1時間)
2	大学について語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
3	技術について語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
4	ルールについて語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
5	責任について語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
6	投票について語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
7	世界の国語について語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
8	借用語について語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
9	ジャブリッシュについて語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
10	仕事について語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
11	残業の話	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
12	グループプロジェクトプランニング	グループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
13	グループプロジェクト制作	グループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
14	グループプロジェクト発表実習	グループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
15	グループプロジェクトプレゼンテーションと振り返り活動	プレゼンテーションとディスカッション	総復習を行う (1時間)

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Solutions - A Topic-based Communication and Discussion Text	Shawn M. Clankie, Yuki Maekawa, Masanobu Nakatsugawa and Tomohiro Endo	Cengage
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	グループプロジェクトプレゼンテーション 15% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 85%
-----------	---

学生へのメッセージ
We are going to practice speaking about many different topics in this class. Please try your best and don't be afraid to make mistakes.

担当者の研究室等
7号館2階 非常勤講師室

備考
毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	Discussion a	科目名 (英文)	Discussion a
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	ト
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	内山 知美
ディプロマポリシー(DP)	DP1△, DP6△		
科目ナンバリング	LDL2634c0		

授業概要・目的	このクラスの目的は、英語でディスカッションする能力と、トピックを様々な視点から検討する批判力を養うことである。また、学生の生活や興味に関連した様々なトピックについて知識を深めることを目的としている。
到達目標	1年次に履修した英語科目を踏襲し、CEFR-J[A2.1]を目標に、複数の英文を連続して話すことができるスピーキング力を身につける。また、スピーキング力を活かして、より論理的に構成された長い英文を発話する能力を身につけることを目標とする。
授業方法と留意点	このコースでは、トピックに基づいたディスカッションを行います。テキストや画像から観察結果を収集するトレーニングが行われます。また、これらの観察結果をもとに、ディスカッションで自分の考えをサポートすることができるようになります。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	自己紹介と概要説明	テキスト全体に目を通しておく (1時間)
2	大学について語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
3	技術について語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
4	ルールについて語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
5	責任について語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
6	投票について語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
7	世界の国語について語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
8	借用語について語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
9	ジャブリッシュについて語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
10	仕事について語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
11	残業の話	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
12	グループプロジェクトプランニング	グループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
13	グループプロジェクト制作	グループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
14	グループプロジェクト発表実習	グループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
15	グループプロジェクトプレゼンテーションと振り返り活動	プレゼンテーションとディスカッション	総復習を行う (1時間)

関連科目	他の英語関連科目
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	English with Pop Hits ヒットソングで学ぶ総合英語	角山照彦	成美堂
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	グループプロジェクトプレゼンテーション 15% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 85%
-----------	--

学生へのメッセージ	教科書の音声ダウンロードして自宅学習を行いましょう。 予習・復習を怠らないようにし、良い辞書を持って積極的な授業への参加を期待しています。 地道な努力により英語力は伸びてゆきます。 教科書の他、ニュースや歌、映画も視聴して楽しく学びましょう。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	Discussion a	科目名 (英文)	Discussion a
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	チ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	関山 博久
ディプロマポリシー(DP)	DP1Δ, DP6Δ		
科目ナンバリング	LDL2634c0		

授業概要・目的	このクラスの目的は、英語でディスカッションする能力と、トピックを様々な視点から検討する批判力を養うことである。また、学生の生活や興味に関連した様々なトピックについて知識を深めることを目的としている。
到達目標	1年次に履修した英語科目を踏襲し、CEFR-J[A2.1]を目標に、複数の英文を連続して話すことができるスピーキング力を身につける。また、スピーキング力を活かして、より論理的に構成された長い英文を発話する能力を身につけることを目標とする。
授業方法と留意点	このコースでは、トピックに基づいたディスカッションを行います。テキストや画像から観察結果を収集するトレーニングが行われます。また、これらの観察結果をもとに、ディスカッションで自分の考えをサポートすることができるようになります。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	自己紹介と概要説明	テキスト全体に目を通しておく (1時間)
2	大学について語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
3	技術について語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
4	ルールについて語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
5	責任について語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
6	投票について語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
7	世界の国語について語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
8	借用語について語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
9	ジャブリッシュについて語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
10	仕事について語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
11	残業の話	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
12	グループプロジェクトプランニング	グループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
13	グループプロジェクト制作	グループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
14	グループプロジェクト発表実習	グループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
15	グループプロジェクトプレゼンテーションと振り返り活動	プレゼンテーションとディスカッション	総復習を行う (1時間)

関連科目

番号	書籍名	著者名		出版社名
1	Voice Your Opinion	飯野厚 / 中村さよ / Brian Wistner / 和田俊彦 / 藪田由己子		金星堂
2				
3				

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	グループプロジェクトプレゼンテーション 15% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 85%
学生へのメッセージ	・シラバスの詳細は、初回の授業にてお知らせします。 ・授業にただ出席するのではなく、積極的な参加が求められます。
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	Topic Studies IIa	科目名 (英文)	Topic Studies IIa
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	湊 由妃子
ディプロマポリシー(DP)	DP1Δ, DP6Δ		
科目ナンバリング	LDL2635c0		

授業概要・目的	テキストはアメリカの学生向けニュース番組から、日本の学習者がリーディング力、リスニング力、ライティング力をつけやすいように編集されています。アメリカのニュース英語になれるとともに、今の世界のニュースにも関心をもてるようにします。
到達目標	今の英語を学習し、英語力の向上とともに、日本を含めた世界のニュースに関心をもってもらいたいです。CNN ニュースですからアメリカ英語ですが、何度もニュースを聴き、リスニングだけではなく、音読して正しい発音を習得できるようにします。
授業方法と留意点	予習は終わっているものとして、音読や訳出を指名しながら授業を進めていきます。また、Unit が終わると次の時間に単語テスト、また、Teams で内容把握ができていないかの確認テストを実施します。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC や英検

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	Unit 1: Can Babies Choose between Good and Bad?	精読活動: Unit 1 の後半部を終える。 Unit 2 にはいる。	Unit 1 を最後までと Unit2 の予習。
3	Unit 2: Half-Empty or Half-Full?	Unit 1 の単語テスト 精読活動: 楽観思考と悲観思考についてのニュース記事	テキストの予習 (1 時間)
4	Unit 3: How to Pass a Test	Unit 2 の単語テスト 精読活動: テストを受けるための心構えや受け方についてのニュース記事	テキストの予習 (1 時間)
5	Unit 4: Soccer Brain Study	Unit 3 の単語テスト 精読活動: サッカーを例にとりプレー中の頭への衝撃についてのニュース	テキストの予習 (1 時間)
6	Unit 5: Google Glass for Firefighters	Unit 4 の単語テスト 精読活動: コンピューターの役割をもつ Google Glass についてのニュース	テキストの予習 (1 時間)
7	Unit 6: Women on Submarine	Unit 5 の単語テスト 精読活動: 海軍での任務を選択したアメリカ人女性のニュース	テキストの予習 (1 時間)
8	Unit 7: iPhone Musician	Unit 6 の単語テスト 精読活動: iPhone で作曲を始めて有名になったミュージシャンのニュース	テキストの予習 (1 時間)
9	Unit 8: Bringing People Back to Baseball	Unit 7 の単語テスト 精読活動: 集客率をあげる工夫をした日本の球団、横浜 Bay Stars のニュース	テキストの予習 (1 時間)
10	Unit 9: Smell of Success	Unit 8 の単語テスト 精読活動: 食品の売り上げを伸ばすために香りを出すマシーンを導入したスーパーのニュース	テキストの予習 (1 時間)
11	Unit 10: Octocopter	Unit 9 の単語テスト 精読活動: Amazon が模索する新たな配送方法についてのニュース	テキストの予習 (1 時間)
12	Unit 11: Staying Safe Online	Unit 10 の単語テスト 精読活動: フリーWi-Fi 地域での危険についてのニュース	テキストの予習 (1 時間)
13	Unit 12: Air Pollution in Asian Cities	Unit 11 の単語テスト 精読活動: 香港、インド、東京をとりあげアジアの大気汚染を伝えるニュース	テキストの予習 (1 時間)
14	unit 15: Light Pollution	Unit 12 の単語テスト 精読活動: 夜の都市の明かりが引き起こす汚染やその他の問題についてのニュース	テキストの予習と来週のテストの準備
15	前期学習内容の復習とまとめのテスト	これまで読んだ記事の理解を確認しまとめのテストを実施する	テストのための学習

関連科目	トピックスタディーズ IIb
------	----------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	CNN Student News for Reading & Writing	関戸冬彦 他	朝日出版社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	平常点 60% (小テスト、提出物、授業参加度等) まとめのテスト 40% 詳しくは 1 回目の授業でプリントを配布し説明します。
-----------	---

学生へのメッセージ	テキストは前期使用です。しっかり予習をして授業に臨んでください。授業は予習が終わっているものとして進めていきます。アメリカのニュース英語を視聴することにより、ニュース英語の表現法を学び、リスニング力を向上させてください。
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	教科書の進度は変わることがあります。 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	Topic Studies IIa	科目名 (英文)	Topic Studies IIa
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	スタンシュー アレサント ^ロ
ディプロマポリシー (DP)	DP1△, DP6△		
科目ナンバリング	LDL2635c0		

授業概要・目的

Scrapbooking is a method of arranging and preserving one's personal history in the form of a book. Typical materials used are photographs, printed materials, and other memorabilia. Scrapbook albums often contain detailed written descriptions which help the maker to more accurately preserve the memory.

In this class, students will be introduced to the art of digital scrapbooking, which allows for a greater diversity of materials, the ability to finish pages more quickly on the internet, and the use of image editing software. Students will be expected to complete and submit their assignments digitally on Teams. Students will be asked to bring a laptop computer or tablet device to class, in order to complete the assignments. Activities will be collaborative in nature, so students will be expected to participate in pair work and group work on a regular basis.

到達目標 特定の話題について短いプレゼンテーションやディスカッションができる。

授業方法と留意点 授業は'Active Participation in Class' (授業への前向きな参加) が大前提である。双方向の全員参加の活発な授業を展開するので、予習が必須で辞書は必ず持ってくる。使用言語: 日本語・英語の併用

科目学習の効果 (資格) 予習・復習を欠かさず、英語に触れる絶対量を増やせば、英検2級以上、TOEIC550点以上は必ず取れるはず。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
			1
2	Topic 1: Hometown - continued	Individual and pair/group activities.	1. Review new vocabulary, grammar and expressions. 2. Finish classroom assigned tasks. 3. Prepare Topic 1 presentation
3	Topic 1 Hometown Presentations	1. Topic 1 Class Presentations 2. Individual and pair/group activities.	1. Review new vocabulary, grammar and expressions. 2. Finish classroom assigned tasks.
4	Topic 1 Vocab & Culture Activity	Individual and pair/group activities.	1. Review new vocabulary, grammar and expressions. 2. Finish classroom assigned tasks.
5	Topic 2: Music	Individual and pair/group activities.	1. Review new vocabulary, grammar and expressions. 2. Finish classroom assigned tasks.
6	Topic 2: Music - continued	Individual and pair/group activities.	1. Review new vocabulary, grammar and expressions. 2. Finish classroom assigned tasks. 3. Prepare Topic 2 presentation
7	Topic 2 Music Presentations	1. Topic 2 Class Presentations 2. Individual and pair/group activities.	1. Review new vocabulary, grammar and expressions. 2. Finish classroom assigned tasks.
8	Topic 2 Vocab & Culture Activity	Individual and pair/group activities.	1. Review new vocabulary, grammar and expressions. 2. Finish classroom assigned tasks. 3. Review for Topic 1 and Topic 2 Short Test
9	1) Topic 1 and Topic 2 Short Test 2) Topic 3: Books	Individual and pair/group activities.	1. Review new vocabulary, grammar and expressions. 2. Finish classroom assigned tasks.
10	Topic 3: Books - continued	Individual and pair/group activities.	1. Review new vocabulary, grammar and expressions. 2. Finish classroom assigned tasks. 3. Prepare Topic 3 presentation
11	Topic 3 Books Presentations	1. Topic 3 Class Presentations 2. Individual and pair/group activities.	1. Review new vocabulary, grammar and expressions. 2. Finish classroom assigned tasks.
12	Topic 3 Vocab & Culture Activity	Individual and pair/group activities.	1. Review new vocabulary, grammar and expressions. 2. Finish classroom assigned tasks.
13	Topic 4: Family / Famous People	Individual and pair/group activities.	1. Review new vocabulary, grammar and expressions. 2. Finish classroom assigned tasks. 3. Prepare Topic 4 presentation
14	Topic 4 Family / Famous People Presentations	1. Topic 4 Class Presentations 2. Individual and pair/group activities.	1. Review new vocabulary, grammar and expressions. 2. Finish classroom assigned tasks. 3. Review for Topic 3 and Topic 4 Short Test
15	1) Topic 3 and Topic 4 Short Test 2) Final Communicative Activity	Individual and pair/group activities.	1. Review new vocabulary, grammar and expressions. 2. Finish classroom assigned tasks.

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Scraps	Cullen	Perceptia Press

	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業内課題 40% 口頭発表 40% 小テスト 20%			
学生への メッセージ	In this class, you will improve your reading, writing, listening and speaking skills. You will also acquire skills to give good presentations at university and in your future career. It is important to be prepared for class, participate actively and have			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	Topic Studies IIa	科目名 (英文)	Topic Studies IIa
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	森 類臣
ディプロマポリシー(DP)	DP1Δ, DP6Δ		
科目ナンバリング	LDL2635c0		

授業概要・目的	本授業の目的は次の3つである。 (1) 4技能 (Listening・Speaking・Reading・Writing) の向上 (2) 英語によるディスカッション能力の向上 (3) SDGs (Sustainable Development Goals)、地球規模の問題への理解
到達目標	(1) 4技能をバランス良く向上させる。CEFR-J[A2-2]～[B1-1]が到達レベル目標。 (2) 与えられた英語の問いについて、自分で考えを整理しそれを英語で表現できる。 (3) SDG s について、事例を通して考察することができる。
授業方法と留意点	(1) 各 Unit に対する予習 (関連知識の事前学習、本文の大意把握、単語の把握) をしてることが求められる。 (2) 辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	(1) 4技能の向上。 (2) TOEIC、英検

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	Introduction	授業の進め方、成績評価、学習方法の説明	授業の復習 (60分)
2	Unit1 Clean Energy Transition1	①Warm Up Quizzes ②Reading Activities	授業の予習・復習 (120分)
3	Unit1 Clean Energy Transition1	③Video Activities ④Exchanging Ideas and Thoughts ⑤Further Activity	授業の予習・復習 (120分)
4	Unit2 Clean Energy Transition2	①Warm Up Quizzes ②Reading Activities	授業の予習・復習 (120分)
5	Unit2 Clean Energy Transition2	③Video Activities ④Exchanging Ideas and Thoughts ⑤Further Activity	授業の予習・復習 (120分)
6	Unit3 Recycling Issues in Developing Countries	①Warm Up Quizzes ②Reading Activities	授業の予習・復習 (120分)
7	Unit3 Recycling Issues in Developing Countries	③Video Activities ④Exchanging Ideas and Thoughts ⑤Further Activity	授業の予習・復習 (120分)
8	中間のまとめと理解度確認テスト	Unit1-3の復習 理解度確認テスト	理解度確認テストの準備 (120分)
9	Unit4 Hair Recycling	①Warm Up Quizzes ②Reading Activities	授業の予習・復習 (120分)
10	Unit4 Hair Recycling	③Video Activities ④Exchanging Ideas and Thoughts ⑤Further Activity	授業の予習・復習 (120分)
11	Unit5 Zero Waste Grocery Store	①Warm Up Quizzes ②Reading Activities	授業の予習・復習 (120分)
12	Unit5 Zero Waste Grocery Store	③Video Activities ④Exchanging Ideas and Thoughts ⑤Further Activity	授業の予習・復習 (120分)
13	Unit6 Planktons with a Global Impact	①Warm Up Quizzes ②Reading Activities	授業の予習・復習 (120分)
14	Unit6 Planktons with a Global Impact	③Video Activities ④Exchanging Ideas and Thoughts ⑤Further Activity	授業の予習・復習 (120分)
15	期末のまとめと理解度確認テスト	Unit4-6の復習 理解度確認テスト	理解度確認テストの準備 (120分)

関連科目 トピック スタディーズIIb など

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	SDGs and Challenges We Face/映像メディアで考えるSDGs	山本五郎・Jonathan D. Brown・Jaime Selwood	松柏社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準) 課題, 提出物 30%
中間の理解度確認テスト 35%
期末の理解度確認テスト 35%

学生へのメッセージ 1) 予習・復習は欠かさず行うこと。
2) 進捗については、受講学生の理解度を鑑みながら多少変更する可能性がある。

	3) 特段の事情なく授業回数の3分の1以上を欠席した学生は、基本的に評価の対象としない。
担当者の研究室等	7号館5階 森研究室
備考	<ul style="list-style-type: none"> 1) 事前・事後学習総時間はおおよそ15時間を目安とする。ただし、受講生によって必要な学習時間に差があるので、各自適切に調整する必要がある。 2) フィードバックは基本的に翌週以降の授業内で行う。 3) 質疑については、授業の前後の時間またはオフィスアワーで対応する。

科目名	Topic Studies IIa	科目名 (英文)	Topic Studies IIa
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	コンデン ロバート
ディプロマポリシー (DP)	DP1△, DP6△		
科目ナンバリング	LDL2635c0		

授業概要・目的	<p>Class outline / purpose The main topic of this class is academic listening and note taking. The secondary topic is Presentation skills. To this end students in this class will do the following:</p> <p>(1) Listen to a series of academic lectures in English and take appropriate notes of the lecture content. (2) Prepare an academic lecture to present in front of the class for the other students to take notes from.</p>
---------	---

到達目標	<p>Attainment target</p> <p>(1) Be able to catch key ideas from a lecture delivered in English. (2) Be able to organise your own ideas in a logical manner to share with other students.</p>
------	--

授業方法と留意点	<p>(1) Each week we will: ① Preview Vocabulary ② Pair/Group Work ③ Listening ④ Discussion strategies</p> <p>(2) It is required to prepare for discussion (understanding the meaning of sentences, grasping words) and discussion for each unit. (3) Be sure to bring a</p>
----------	--

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	Class Introduction	Course Overview Introduce Important Skills Organize Groups for presentations	Read through the syllabus, and view the textbook. (1 hour)
	2	Unit 1 Happiness	Pair/Group Discussion Presentation Skills	Preview the unit vocabulary before the class. Watch the unit lecture, take notes and answer the questions. Practice the discussion skills with your partners after the class. (1 hour)
	3	Unit 2 A Time to Learn	Pair/Group Discussion Presentation Skills	Preview the unit vocabulary before the class. Watch the unit lecture, take notes and answer the questions. Practice the discussion skills with your partners after the class. (1 hour)
	4	Unit 3 Sleep	Pair/Group Discussion Presentation Skills	Preview the unit vocabulary before the class. Watch the unit lecture, take notes and answer the questions. Practice the discussion skills with your partners after the class. (1 hour)
	5	Unit 4 Negotiating for Success	Pair/Group Discussion Class lectures and note taking	Preview the unit vocabulary before the class. Watch the unit lecture, take notes and answer the questions. Practice the discussion skills with your partners after the class. (1 hour)
	6	Unit 5 Modern Art	Pair/Group Discussion Class lectures and note taking	Preview the unit vocabulary before the class. Watch the unit lecture, take notes and answer the questions. Practice the discussion skills with your partners after the class. (1 hour)
	7	Unit 6 Robots	Pair/Group Discussion Class lectures and note taking	Preview the unit vocabulary before the class. Watch the unit lecture, take notes and answer the questions. Practice the discussion skills with your partners after the class. (1 hour)
	8	Mid-Term Evaluation	A test for the vocabulary you have studied so far from Units 1 - 6 Academic Listening exam	Revise notes (1 hour)
	9	Unit 7 Interactive Games	Pair/Group Discussion Class lectures and note taking	Preview the unit vocabulary before the class. Watch the unit lecture, take notes and answer the questions. Practice the discussion skills with your partners after the class. (1 hour)
	10	Unit 8 Genetically Modified Food	Pair/Group Discussion Class lectures and note taking	Preview the unit vocabulary before the class. Watch the unit lecture, take notes and answer the questions. Practice the discussion skills with your partners after the class. (1 hour)
	11	Unit 9 Design Thinking	Pair/Group Discussion Class lectures and note taking	Preview the unit vocabulary before the class. Watch the unit lecture, take notes and answer the

				questions. Practice the discussion skills with your partners after the class. (1 hour)																
	12	Unit 10 Shackleton	Pair/Group Discussion Class lectures and note taking	Preview the unit vocabulary before the class. Watch the unit lecture, take notes and answer the questions. Practice the discussion skills with your partners after the class. (1 hour)																
	13	Unit 11 Ethics	Pair/Group Discussion Class lectures and note taking	Preview the unit vocabulary before the class. Watch the unit lecture, take notes and answer the questions. Practice the discussion skills with your partners after the class. (1 hour)																
	14	Unit 12 Big Data	Pair/Group Discussion Class lectures and note taking	Preview the unit vocabulary before the class. Watch the unit lecture, take notes and answer the questions. Practice the discussion skills with your partners after the class. (1 hour)																
	15	End-Term Evaluation	A test for the vocabulary you have studied so far from Units 7 - 12 Academic Listening exam	Prepare presentations (1 hour)																
関連科目																				
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Contemporary Topics 1</td> <td>Helen Solorzano and Laurie Frazier</td> <td>Pearson</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Contemporary Topics 1	Helen Solorzano and Laurie Frazier	Pearson	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	Contemporary Topics 1	Helen Solorzano and Laurie Frazier	Pearson																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	Mid-term Evaluation 25% End-Term Evaluation 25% Group Presentation 50%																			
学生への メッセージ	Hello everyone. In this course we will look at a lot of interesting topics and learn how to share our opinions on those topics.																			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室																			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。そのほかの質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。																			

科目名	Topic Studies IIa	科目名 (英文)	Topic Studies IIa
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	チャン エノク
ディプロマポリシー(DP)	DP1△, DP6△		
科目ナンバリング	LDL2635c0		

授業概要・目的	This course will help you understand the complex nature of American culture. We will explore America's unique and interesting history and culture from the speech spoken by Dr. Martin Luther King which tells us about the wrong aspects of segregation to the popular cultural icons of Walt Disney and his beloved characters. We will explore the vibrant history that makes America the melting pot nation that it is today, with its vast international history and deep cultural heritage. America is a nation that was built on various different aspects that make it a unique case study for globalization and internationalization.
到達目標	Everyone will be able to understand more about America and how America became the modern country it is today. You will be able to understand and learn about this topic in English and be able to read, write, and speak about it too.
授業方法と留意点	You'll be working together with your classmates during each lesson, and outside of class you'll have discussion homework that helps you to learn about the topic. There will be a quiz at the end of every chapter and a final test at the end of the course.

科目学習の効果 (資格)

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	Course Introduction Introduction of Classroom procedures and the topic	Explanation of the course and the Introduction of the book	N/A
2	Unit 1: American Indians	Study of Native American history in the United States-Introduction-	Homework assigned in class
3	Unit 1: American Indians	Study of several Native American writings	Homework assigned in class
4	Unit 1: American Indians	Review of the Native American history and writings	Review sheet handed out in class
5	Unit 1: American Indians (Quiz) Unit 2: Immigration	Quiz over Unit 1 materials Discussion of immigration in the United States of America	Study for the quiz and prepare for unit 2
6	Unit 2: Immigration	Study of the immigration system in America	Homework assigned in class
7	Unit 2: Immigration	Study of the writings about immigration in the USA	homework assigned in class
8	Unit 2: Immigration (Quiz) Unit 1 and 2 Test (Midterm Test)	Small quiz over US immigration Knowledge test over the first 2 units of the book	Review for quiz and midterm test
9	Unit 3: African Americans	Introduction to African American history in the USA	Homework assigned in class
10	Unit 3: African Americans	Study of select writings from prominent African Americans in the USA	Homework assigned in class
11	Unit 3: African Americans (Quiz) Unit 7: Geography, Regions, and the Environment	Quiz over unit 3 materials Introduction over Unit 7 materials	Study for Unit 3 quiz Homework assigned in class
12	Unit 7: Geography, Regions, and the Environment	Study select writings over the topic of unit 7	Homework assigned in class
13	Unit 7: Geography, Regions, and the Environment (Quiz) Unit 8: Art, Film, Music, and Popular Culture	Quiz over unit 7 materials Introduction to unit 8 materials	Review for unit 7 Homework assigned in class
14	Unit 8: Art, Film, Music, and Popular Culture	Study at a few writings that demonstrate unit 8 materials	Homework assigned in class Review sheet handed out in class
15	Unit 8: Art, Film, Music, and Popular Culture Final Exam	Last review over unit 8 materials Final exam over Units 1, 2, 3, 7, and 8 materials in the course.	Study for the final exam and do the final exam

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	American Culture: An Anthology	Bridled, Anders, Blogger, Fredrik, Gulliksen, Oyvind, et al.	Routledge
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 Participation 10%

(基準)	Homework 20% Quizzes 20% Mid-term Exam 20 % Final Exam 30%
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等 備考	7号館2階 非常勤講師室

科目名	Discussion b	科目名 (英文)	Discussion b
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	あ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	内山 知美
ディプロマポリシー (DP)	DP1Δ, DP6Δ		
科目ナンバリング	LDL2636c0		

授業概要・目的	このクラスの目的は、英語でディスカッションする能力と、トピックを様々な視点から検討する批判力を養うことである。また、学生の生活や興味に関連した様々なトピックについて知識を深めることを目的としている。
到達目標	春学期に履修した Discussion a に続き、CEFR-J[A2.2] を目標に、複数の英文を連続して発話できるスピーキング能力を身につける。また、スピーキング力を用いて、より論理的に構成された長い英文を発話する能力を身につけることを目標とする。
授業方法と留意点	このコースでは、トピックに基づいたディスカッションを行います。テキストや画像から観察結果を収集するトレーニングが行われます。また、これらの観察結果をもとに、ディスカッションで自分の考えをサポートすることができるようになります。

科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検
--------------	-----------

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	グループワーク	自己紹介と概要説明	テキスト全体に目を通しておく (1時間) 今回の学習内容と語彙・表現を確認する
2	汚職について語る	ペアワークとグループワーク	(1時間) 今回の学習内容と語彙・表現を確認する
3	地方について語る	ペアワークとグループワーク	(1時間) 今回の学習内容と語彙・表現を確認する
4	高齢化社会について語る	ペアワークとグループワーク	(1時間) 今回の学習内容と語彙・表現を確認する
5	政治について語る	ペアワークとグループワーク	(1時間) 今回の学習内容と語彙・表現を確認する
6	環境について語る	ペアワークとグループワーク	(1時間) 今回の学習内容と語彙・表現を確認する
7	インフラについて語る	ペアワークとグループワーク	(1時間) 今回の学習内容と語彙・表現を確認する
8	代替エネルギーについて語る	ペアワークとグループワーク	(1時間) 今回の学習内容と語彙・表現を確認する
9	携帯電話について語る	ペアワークとグループワーク	(1時間) 今回の学習内容と語彙・表現を確認する
10	カリキュラムを語る	ペアワークとグループワーク	(1時間) 今回の学習内容と語彙・表現を確認する
11	試験について語る	ペアワークとグループワーク	(1時間) 今回の学習内容と語彙・表現を確認する
12	グループプロジェクトプランニング	グループワーク	(1時間) 今回の学習内容と語彙・表現を確認する
13	グループプロジェクト制作	グループワーク	(1時間) 今回の学習内容と語彙・表現を確認する
14	グループプロジェクト発表実習	グループワーク	(1時間) 今回の学習内容と語彙・表現を確認する
15	グループプロジェクトプレゼンテーションと振り返り活動	プレゼンテーションとディスカッション	総復習を行う (1時間)

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Take a Stance	Ichizo Ueda	Cengage
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	グループプロジェクトプレゼンテーション 15% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 85%
-----------	---

学生へのメッセージ	教科書の音声ダウンロードして自宅学習を行いましょう。 予習・復習を怠らないようにし、良い辞書を持って積極的な授業への参加を期待しています。 地道な努力により英語力は伸びてゆきます。
-----------	--

	教科書の他、ニュースや歌、映画も視聴して楽しく学びましょう。
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	Discussion b	科目名 (英文)	Discussion b
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	い
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	リチャード・グアイース
ディプロマポリシー (DP)	DP1Δ, DP6Δ		
科目ナンバリング	LDL2636c0		

授業概要・目的	このクラスの目的は、英語でディスカッションする能力と、トピックを様々な視点から検討する批判力を養うことである。また、学生の生活や興味に関連した様々なトピックについて知識を深めることを目的としている。
到達目標	春学期に履修した Discussion a に続き、CEFR-J[A2.2]を目標に、複数の英文を連続して発話できるスピーキング能力を身につける。また、スピーキング力を用いて、より論理的に構成された長い英文を発話する能力を身につけることを目標とする。
授業方法と留意点	このコースでは、トピックに基づいたディスカッションを行います。テキストや画像から観察結果を収集するトレーニングが行われます。また、これらの観察結果をもとに、ディスカッションで自分の考えをサポートすることができるようになります。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	自己紹介と概要説明	テキスト全体に目を通しておく (1時間)
2	汚職について語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
3	地方について語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
4	高齢化社会について語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
5	政治について語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
6	環境について語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
7	インフラについて語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
8	代替エネルギーについて語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
9	携帯電話について語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
10	カリキュラムを語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
11	試験について語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
12	グループプロジェクトプランニング	グループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
13	グループプロジェクトプランニング	グループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
14	グループプロジェクトプランニング	グループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
15	グループプロジェクトプレゼンテーションと振り返り活動	プレゼンテーションとディスカッション	総復習を行う (1時間)

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Discussion Process and Principles	Charles LeBeau	Language Solutions
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	グループプロジェクトプレゼンテーション 15% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 85%
-----------	---

学生へのメッセージ	In English discussion, we often have different opinions. We often try to persuade the others that we are right and they are wrong by introducing new information and using logic. This may feel uncomfortable or even aggressive. However it is a part of English.
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	Discussion b	科目名 (英文)	Discussion b
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	う
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	アイビス ウィリアム
ディプロマポリシー (DP)	DP1△, DP6△		
科目ナンバリング	LDL2636c0		

授業概要・目的	このクラスの目的は、英語でディスカッションする能力と、トピックを様々な視点から検討する批判力を養うことである。また、学生の生活や興味に関連した様々なトピックについて知識を深めることを目的としている。
到達目標	春学期に履修した Discussion a に続き、CEFR-J[A2.2]を目標に、複数の英文を連続して発話できるスピーキング能力を身につける。また、スピーキング力を用いて、より論理的に構成された長い英文を発話する能力を身につけることを目標とする。
授業方法と留意点	このコースでは、トピックに基づいたディスカッションを行います。テキストや画像から観察結果を収集するトレーニングが行われます。また、これらの観察結果をもとに、ディスカッションで自分の考えをサポートすることができるようになります。

科目学習の効果 (資格)	TOEIC 英検
--------------	----------

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	自己紹介と概要説明	テキスト全体に目を通しておく (1時間)
2	汚職について語る	ペアワーク、グループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
3	地方について語る	ペアワーク、グループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
4	高齢化社会について語る	ペアワーク、グループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
5	政治について語る	ペアワーク、グループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
6	環境について語る	ペアワーク、グループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
7	インフラについて語る	ペアワーク、グループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
8	代替エネルギーについて語る	ペアワーク、グループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
9	携帯電話について語る	ペアワーク、グループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
10	カリキュラムを語る	ペアワーク、グループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
11	試験について語る	ペアワーク、グループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
12	グループプロジェクトプランニング	グループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
13	グループプロジェクト制作	グループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
14	グループプロジェクト発表実習	グループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
15	グループプロジェクトプレゼンテーションと振り返り活動	プレゼンテーションとディスカッション	総復習を行う (1時間)

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Solutions	Shawn M. Clankie	Cengage
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	グループプロジェクトプレゼンテーション 15% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 85%
-----------	---

学生へのメッセージ	Have fun. Study hard. Speak English.
-----------	--------------------------------------

担当者の研究室等	非常勤講師室 (7号館2階) william.ives@edu.setsunan.ac.jp
----------	--

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	Discussion b	科目名 (英文)	Discussion b
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	え
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	アサヒ ロンガス
ディプロマポリシー (DP)	DP1Δ, DP6Δ		
科目ナンバリング	LDL2636c0		

授業概要・目的	このクラスの目的は、英語でディスカッションする能力と、トピックを様々な視点から検討する批判力を養うことである。また、学生の生活や興味に関連した様々なトピックについて知識を深めることを目的としている。
到達目標	春学期に履修した Discussion a に続き、CEFR-J[A2.2]を目標に、複数の英文を連続して発話できるスピーキング能力を身につける。また、スピーキング力を用いて、より論理的に構成された長い英文を発話する能力を身につけることを目標とする。
授業方法と留意点	このコースでは、トピックに基づいたディスカッションを行います。テキストや画像から観察結果を収集するトレーニングが行われます。また、これらの観察結果をもとに、ディスカッションで自分の考えをサポートすることができるようになります。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	自己紹介と概要説明	テキスト全体に目を通しておく (1時間)
2	汚職について語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
3	地方について語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
4	高齢化社会について語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
5	政治について語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
6	環境について語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
7	インフラについて語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
8	代替エネルギーについて語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
9	携帯電話について語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
10	カリキュラムを語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
11	試験について語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
12	グループプロジェクトプランニング	グループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
13	グループプロジェクト制作	グループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
14	グループプロジェクト発表実習	グループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
15	グループプロジェクトプレゼンテーションと振り返り活動	プレゼンテーションとディスカッション	総復習を行う (1時間)

関連科目	英語科目全般
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	none		
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	グループプロジェクトプレゼンテーション 15% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 85%
-----------	---

学生へのメッセージ	語学学習は「継続は力なり」です。苦手な人も多いかもしれませんが、就職活動の際にも英語は重要な科目です。こつこつ続けることによって徐々にスコアアップを狙いましょう。また、授業には辞書を持参するようにして下さい。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	Discussion b	科目名 (英文)	Discussion b
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	お
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ダグラス ラッセル
ディプロマポリシー (DP)	DP1△, DP6△		
科目ナンバリング	LDL2636c0		

授業概要・目的	このクラスの目的は、英語でディスカッションする能力と、トピックを様々な視点から検討する批判力を養うことである。また、学生の生活や興味に関連した様々なトピックについて知識を深めることを目的としている。
到達目標	春学期に履修した Discussion a に続き、CEFR-J[A2.2]を目標に、複数の英文を連続して発話できるスピーキング能力を身につける。また、スピーキング力を用いて、より論理的に構成された長い英文を発話する能力を身につけることを目標とする。
授業方法と留意点	このコースでは、トピックに基づいたディスカッションを行います。テキストや画像から観察結果を収集するトレーニングが行われます。また、これらの観察結果をもとに、ディスカッションで自分の考えをサポートすることができるようになります。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	自己紹介と概要説明	テキスト全体に目を通しておく (1時間)
2	汚職について語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
3	地方について語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
4	高齢化社会について語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
5	政治について語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
6	環境について語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
7	インフラについて語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
8	代替エネルギーについて語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
9	携帯電話について語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
10	カリキュラムを語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
11	試験について語る	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
12	グループプロジェクトプランニング	グループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
13	グループプロジェクト制作	グループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
14	グループプロジェクト発表実習	グループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
15	グループプロジェクトプレゼンテーションと振り返り活動	プレゼンテーションとディスカッション	総復習を行う (1時間)

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Talking Point 1	Justin Harris / Paul Leeming	ABAX ELT Publishers
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	グループプロジェクトプレゼンテーション 15% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 85%
学生へのメッセージ	This course focuses on topic-based listening and speaking activities. Active participation is required. Conversation strategies and debate skills will be taught in class.
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	Discussion b	科目名 (英文)	Discussion b
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	か
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	村田 幸一
ディプロマポリシー (DP)	DP1△, DP6△		
科目ナンバリング	LDL2636c0		

授業概要・目的	このクラスの目的は、英語でディスカッションする能力と、トピックを様々な視点から検討する批判力を養うことである。また、学生の生活や興味に関連した様々なトピックについて知識を深めることを目的としている。
到達目標	春学期に履修した Discussion a に続き、CEFR-J[A2.2]を目標に、複数の英文を連続して発話できるスピーキング能力を身につける。また、スピーキング力を用いて、より論理的に構成された長い英文を発話する能力を身につけることを目標とする。
授業方法と留意点	このコースでは、トピックに基づいたディスカッションを行います。トピックに関連した表現、知識を学ぶとともに、積極的にクラスメイトと意見交換、議論することが望まれます。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	自己紹介と概要説明	テキスト全体に目を通しておく (1時間)
2	9月入学、学校独自のカリキュラム	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
3	全国学力テスト	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
4	外来語、日本人英語	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
5	外国人投票権	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
6	給与格差、サービス残業	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
7	総復習	ペアワークとグループワーク	総復習を行う (1時間)
8	地方の医師不足、過疎化する地方	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
9	一票の価値	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
10	ごみの有料回収、代替エネルギー	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
11	自転車免許、飲酒運転	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
12	電子マネー	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
13	子供と携帯電話	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
14	グループプロジェクト発表実習	ペアワークとグループワーク	今回の学習内容と語彙・表現を確認する (1時間)
15	総復習	ペアワークとグループワーク	総復習を行う (1時間)

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Solutions	Shawn Clankie	Cengage
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業中の小テスト 20% 発言、討論等 40% 宿題、提出物 40%
-----------	--

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等備考	7号館2階 非常勤講師室
------------	--------------

科目名	Topic Studies IIb	科目名 (英文)	Topic Studies IIb
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	マイケル ハーキー
ディプロマポリシー (DP)	DP1Δ, DP6Δ		
科目ナンバリング	LDL2637c0		

授業概要・目的	This is a course in cross cultural studies and how our identity is expressed through different cultural behaviors. Students will learn about and discuss different behavior which form people's identity.
到達目標	Students will learn to express themselves in English concerning a variety of topics which make up people's identity.
授業方法と留意点	As this is a communication class, students are expected to actively participate in communication activities such as pair work, small group work, as well as to try to use English as much as possible.
科目学習の効果 (資格)	Students will learn to express themselves in English concerning a variety of topics which make up people's identity.

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Orientation	Introduction, overview.	Preview vocabulary for pages 2-5. (2 hours)
	2	Unit 1.1 Is working part time good or bad for university students?	Advantages and disadvantages of working part time.	Review vocabulary for pages 2-5. (2 hours)
	3	Unit 1.2 Should university students work part time?	What kind of work and how much is appropriate for university students?	Preview vocabulary for pages 6-9. (2 hours)
	4	Unit 2.1 Workplace Automation: What is it?	Technological innovations through history.	Preview vocabulary for pages 10-13. (2 hours)
	5	Unit 2.2 Should workplaces be more or less automated?	How do technological innovations effect work life?	Preview vocabulary for pages 14-17. (2 hours)
	6	Unit 3.1 Mass Tourism	What is mass tourism?	Preview vocabulary for pages 18-21. (2 hours)
	7	Unit 3.2 Mass Tourism	How does mass tourism affect local ways of living and working?	Preview vocabulary for pages 22-25. Study for vocabulary quiz. (2 hours)
	8	Midterm Evaluation	Midterm Evaluation Units 1-3	Review Units 1-3
	9	Unit 4.1 What should we eat? Vegetarianism or Veganism.	Different food lifestyles.	Preview vocabulary for pages 30-33. (2 hours)
	10	Unit 4.2 What should we eat? Vegetarianism or Veganism.	Should everyone adopt a vegetarian lifestyle?	Preview vocabulary for pages 34-37. (2 hours)
	11	Unit 5.1 Is it better to be married or single? Who should I marry?	Marriage customs over time.	Preview vocabulary for pages 39-41. (2 hours)
	12	Unit 5.2 Is it better to be married or single? Who should I marry?	What makes a marriage successful or not? Is marriage necessary?	Preview vocabulary for pages 42-45. (2 hours)
	13	Unit 6.1 Should immigration be increased or decreased?	Immigrants or temporary workers?	Preview vocabulary for pages 46-49. (2 hours)
	14	Unit 6.2 Should immigration be increased or decreased?	The question of mass immigration for Japan.	Review vocabulary for pages 46-49. (2 hours)
15	Final Evaluation	Final Evaluation Units 4-6	Review Units 4-6	

関連科目	トピック スタディーズIIa など
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	Active participation, attitude and attendance 40%. Vocabulary tests 25%. Final test 35%.
-----------	--

学生へのメッセージ	毎回の授業に必ず必要な物・教科書、辞書です。出席率そして積極的な授業参加発言、態度等を重要視する。Attitude, participation and attendance are considered important in this class for getting a good grade. Please bring your textbook and a dictionary to each class. If you forget your text one day, please
-----------	---

担当者の研究室等	7号館3階 Herke 研究室
----------	-----------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はチューデントアワーにて対応する。
----	--

科目名	Topic Studies IIb	科目名 (英文)	Topic Studies IIb
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	井岡 詩子
ディプロマポリシー (DP)	DP1△, DP6△		
科目ナンバリング	LDL2637c0		

授業概要・目的	20 世紀半ばのフランス文化を中心に、それと関連のある文化、芸術、思想を論じた英語のテキストを読解します。それによって、現代の文化や生活に影響を及ぼしている近代文化への理解を深めます。
到達目標	(1) 英語の文章を読解し、内容を正しく理解すること。 (2) 20 世紀フランスをはじめとする近代の文化に関する術語、概念を正確に理解すること。 (3) 関心のある事柄について、英語の情報を収集、読解できること。
授業方法と留意点	英文テキストの読解と併せて、テキストの前提となる文化、芸術、思想の説明をおこないます。テキストはこちらで指定し配布しますが、学生の関心に合わせて追加、変更する場合があります。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	芸術 (1)	シュルレアリスム運動の概観、Cathrin Klingsohr-Leroy "Surrealism" の読解	テキストに目を通し、知らない単語を調べる (事前学習)。授業内容を復習し、テキストへの理解を深める (事後学習)。
3	芸術 (2)	Cathrin Klingsohr-Leroy "Surrealism" の読解	テキストに目を通し、知らない単語を調べる (事前学習)。授業内容を復習し、テキストへの理解を深める (事後学習)。
4	芸術 (3)	シュルレアリスム運動と同時代の批評言説、Dawn Ades and Simon Baker "Undercover Surrealism" の読解	テキストに目を通し、知らない単語を調べる (事前学習)。授業内容を復習し、テキストへの理解を深める (事後学習)。
5	写真 (1)	写真の発明と初期写真の概観、William Henry Fox Talbot "The Pencil of Nature" の読解	テキストに目を通し、知らない単語を調べる (事前学習)。授業内容を復習し、テキストへの理解を深める (事後学習)。
6	写真 (2)	フォト・ジャーナリズムの概観、ウェブアーカイブ版 "LIFE" 誌の読解	テキストに目を通し、知らない単語を調べる (事前学習)。授業内容を復習し、テキストへの理解を深める (事後学習)。
7	写真 (3)	ウェブアーカイブ版 "LIFE" 誌の読解	テキストに目を通し、知らない単語を調べる (事前学習)。授業内容を復習し、テキストへの理解を深める (事後学習)。
8	小テスト、プレゼンテーション	前半のまとめテスト、学生によるプレゼンテーション	前半の授業内容の復習とプレゼンテーションの準備 (事前学習)。
9	哲学、思想 (1)	ジョルジュ・バタイユとフレンチ・セオリー、Will Stronge "Georges Bataille and Contemporary Thought" の読解	テキストに目を通し、知らない単語を調べる (事前学習)。授業内容を復習し、テキストへの理解を深める (事後学習)。
10	哲学、思想 (2)	Will Stronge "Georges Bataille and Contemporary Thought" の読解	テキストに目を通し、知らない単語を調べる (事前学習)。授業内容を復習し、テキストへの理解を深める (事後学習)。
11	哲学、思想 (3)	Rosalind E. Krauss and Yve-Alain Bois "Formless : A User's Guide" の読解	テキストに目を通し、知らない単語を調べる (事前学習)。授業内容を復習し、テキストへの理解を深める (事後学習)。
12	ジェンダーと表現 (1)	セルフ・ポートレート作品の概観、Rosalind E. Krauss "Bachelors" の読解	テキストに目を通し、知らない単語を調べる (事前学習)。授業内容を復習し、テキストへの理解を深める (事後学習)。
13	ジェンダーと表現 (2)	Rosalind E. Krauss "Bachelors" の読解	テキストに目を通し、知らない単語を調べる (事前学習)。授業内容を復習し、テキストへの理解を深める (事後学習)。
14	ジェンダーと表現 (3)	Rosalind E. Krauss "Bachelors" の読解	テキストに目を通し、知らない単語を調べる (事前学習)。授業内容を復習し、テキストへの理解を深める (事後学習)。
15	小テスト、プレゼンテーション	後半のまとめテスト、学生によるプレゼンテーション	後半の授業内容の復習とプレゼンテーションの準備 (事前学習)。授業内容の総復習 (事後学習)。

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	平常点 (授業への参加度、コメントシート) 50%、小テスト 20%、プレゼンテーション 30%
学生へのメッセージ	
担当者の	7号館2階 非常勤講師室

研究室等	
備考	教科書は定めません。テーマごとにテキストを配布します。 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表の準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	Topic Studies IIb	科目名 (英文)	Topic Studies IIb
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	グランド パーシム
ディプロマポリシー (DP)	DP1△, DP6△		
科目ナンバリング	LDL2637c0		

授業概要・目的	The Topic is Food. From the diet of the Stone Age to the environmental consequences of modern food production.
到達目標	Students should gain a deeper Insight into what they eat.
授業方法と留意点	Weekly sessions include lecture, reading, discussion and student presentations.
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	Understanding the true cost of food.	Lecture, reading, discussion.	Review the materials of the week. 1 hour
3	The Modern v the Stone Age Diet.	Lecture, reading, discussion, review.	Review the materials of the week. 1 hour
4	Agriculture	Lecture, reading, discussion, review.	Review the materials of the week. 1 hour
5	Animal Domestication	Lecture, reading, discussion, review, student presentation.	Review the materials of the week. 1 hour
6	Life on the Farm	Lecture, reading, discussion, review, student presentation.	Review the materials of the week. 1 hour
7	The Kill	Lecture, reading, discussion, review, student presentation.	Review the materials of the week. 1 hour
8	Meat	Lecture, reading, discussion, review, student presentation.	Review the materials of the week. 1 hour
9	Corn	Lecture, reading, discussion, review, student presentation.	Review the materials of the week. 1 hour
10	Food from the Sea	Lecture, reading, discussion, review, student presentation.	Review the materials of the week. 1 hour
11	Preservatives and Culture	Lecture, reading, discussion, review, student presentation.	Review the materials of the week. 1 hour
12	Plant Domestication	Lecture, reading, discussion, review, student presentation.	Review the materials of the week. 1 hour
13	The complexity of taste	Lecture, reading, discussion, review, student presentation.	Review the materials of the week. 1 hour
14	Eating Oil	Lecture, reading, discussion, review, student presentation.	Review the materials of the week. 1 hour
15	Review Test	Lecture, review.	Review the materials of the week. 1 hour

関連科目	トピックスタディーズIIa
------	---------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Food- Some Deeper Insights into What We Eat	Paul Stapleton	Cengage
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	Grades will be determined by, answering questions in class, tasks done in class and for homework, small quizzes, cooperation, teamwork, and bearing. 80% Presentation, 20%.
-----------	--

学生へのメッセージ	Please come to class with your textbook and ready to participate.
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。
----	---

科目名	Topic Studies IIb	科目名 (英文)	Topic Studies IIb
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	スタンシュー アレサント ^ロ
ディプロマポリシー (DP)	DP1△, DP6△		
科目ナンバリング	LDL2637c0		

授業概要・目的

Scrapbooking is a method of arranging and preserving one's personal history in the form of a book. Typical materials used are photographs, printed materials, and other memorabilia. Scrapbook albums often contain detailed written descriptions which help the maker to more accurately preserve the memory.

In this class, students will be introduced to the art of digital scrapbooking, which allows for a greater diversity of materials, the ability to finish pages more quickly on the internet, and the use of image editing software. Students will be expected to complete and submit their assignments digitally on Teams. Students will be asked to bring a laptop computer or tablet device to class, in order to complete the assignments. Activities will be collaborative in nature, so students will be expected to participate in pair work and group work on a regular basis.

到達目標 特定の話題について短いプレゼンテーションやディスカッションができる。

授業方法と留意点 授業は'Active Participation in Class' (授業への前向きな参加) が大前提である。双方向の全員参加の活発な授業を展開するので、予習が必須で辞書は必ず持ってくる。使用言語: 日本語・英語の併用

科目学習の効果 (資格) 予習・復習を欠かさず、英語に触れる絶対量を増やせば、英検 2 級以上、TOEIC550 点以上は必ず取れるはず。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
			1
2	Topic 1: Travel - continued	Individual and pair/group activities.	1. Review new vocabulary, grammar and expressions. 2. Finish classroom assigned tasks. 3. Prepare Topic 1 presentation
3	Topic 1 Travel Presentations	1. Topic 1 Class Presentations 2. Individual and pair/group activities.	1. Review new vocabulary, grammar and expressions. 2. Finish classroom assigned tasks.
4	Topic 1 Vocab & Culture Activity	Individual and pair/group activities.	1. Review new vocabulary, grammar and expressions. 2. Finish classroom assigned tasks.
5	Topic 2: School	Individual and pair/group activities.	1. Review new vocabulary, grammar and expressions. 2. Finish classroom assigned tasks.
6	Topic 2: School - continued	Individual and pair/group activities.	1. Review new vocabulary, grammar and expressions. 2. Finish classroom assigned tasks. 3. Prepare Topic 2 presentation
7	Topic 2 School Presentations	1. Topic 2 Class Presentations 2. Individual and pair/group activities.	1. Review new vocabulary, grammar and expressions. 2. Finish classroom assigned tasks.
8	Topic 2 Vocab & Culture Activity	Individual and pair/group activities.	1. Review new vocabulary, grammar and expressions. 2. Finish classroom assigned tasks. 3. Review for Topic 1 and Topic 2 Short Test
9	1) Topic 1 and Topic 2 Short Test 2) Topic 3: Food	Individual and pair/group activities.	1. Review new vocabulary, grammar and expressions. 2. Finish classroom assigned tasks.
10	Topic 3: Food - continued	Individual and pair/group activities.	1. Review new vocabulary, grammar and expressions. 2. Finish classroom assigned tasks. 3. Prepare Topic 3 presentation
11	Topic 3 Food Presentations	1. Topic 3 Class Presentations 2. Individual and pair/group activities.	1. Review new vocabulary, grammar and expressions. 2. Finish classroom assigned tasks.
12	Topic 3 Vocab & Culture Activity	Individual and pair/group activities.	1. Review new vocabulary, grammar and expressions. 2. Finish classroom assigned tasks.
13	Topic 4: Friends	Individual and pair/group activities.	1. Review new vocabulary, grammar and expressions. 2. Finish classroom assigned tasks. 3. Prepare Topic 4 presentation
14	Topic 4 Friends Presentations	1. Topic 4 Class Presentations 2. Individual and pair/group activities.	1. Review new vocabulary, grammar and expressions. 2. Finish classroom assigned tasks. 3. Review for Topic 3 and Topic 4 Short Test
15	1) Topic 3 and Topic 4 Short Test 2) Final Communicative Activity	Individual and pair/group activities.	1. Review new vocabulary, grammar and expressions. 2. Finish classroom assigned tasks.

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Scraps	Cullen	Perceptia Press

	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業内課題 40% 口頭発表 40% 小テスト 20%			
学生への メッセージ	In this class, you will improve your reading, writing, listening and speaking skills. You will also acquire skills to give good presentations at university and in your future career. It is important to be prepared for class, participate actively and have			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	Topic Studies IIb	科目名 (英文)	Topic Studies IIb
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	宇佐美 達朗
ディプロマポリシー (DP)	DP1Δ, DP6Δ		
科目ナンバリング	LDL2637c0		

授業概要・目的	西洋哲学のなかで扱われてきたいくつかの問いを、関連する英文テキスト（一部を除いて原典の英訳）を読みながら検討する。そうした検討を通じて、英文テキストを読解してまとめる練習をするとともに、西洋哲学の大きな流れをつかむ。
到達目標	(1) 英語のテキストをそのコンテキストを踏まえて読解し、まとめることができるようになる (2) 哲学のいくつかの基本的な概念や考え方について理解する (3) 哲学の情報を英語で調べることができるようになる
授業方法と留意点	テキストはこちらで準備し配布する。必要な前提知識についても授業内で説明するとともに、そうした知識や情報を調べる手段も適宜紹介する。なお参加者の希望や理解度に応じて授業の進度やトピックが変更する可能性がある。

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の進め方、成績評価、学習方法の説明	シラバスの確認
2	異なる人が同じことを理解できるのはなぜか (1)	古代ギリシアの哲学者プラトンの紹介とテキストの検討	テキストの予習・復習
3	異なる人が同じことを理解できるのはなぜか (2)	古代ギリシアの哲学者プラトンの紹介とテキストの検討	テキストの予習・復習
4	幸福を実現するにはどうすればよいか (1)	古代ギリシアの哲学者アリストテレスの紹介とテキストの検討	テキストの予習・復習
5	幸福を実現するにはどうすればよいか (2)	古代ギリシアの哲学者アリストテレスの紹介とテキストの検討	テキストの予習・復習
6	確かな指針はどうすれば得られるのか (1)	17世紀フランスの哲学者ルネ・デカルトの紹介とテキストの検討	テキストの予習・復習
7	確かな指針はどうすれば得られるのか (2)	17世紀フランスの哲学者ルネ・デカルトの紹介とテキストの検討	テキストの予習・復習
8	中間のまとめと理解度確認テスト	第2回から第7回までのまとめと確認テスト	第2回から第7回までの復習
9	わたしたちは何を知ることができるか (1)	18世紀ドイツの哲学者イマヌエル・カントの紹介とテキストの検討	テキストの予習・復習
10	わたしたちは何を知ることができるか (2)	18世紀ドイツの哲学者イマヌエル・カントの紹介とテキストの検討	テキストの予習・復習
11	わたしたちの生きている時間は計測できるか (1)	19-20世紀フランスの哲学者アンリ・ベルクソンの紹介と検討	テキストの予習・復習
12	わたしたちの生きている時間は計測できるか (2)	19-20世紀フランスの哲学者アンリ・ベルクソンの紹介と検討	テキストの予習・復習
13	わたしたちは哲学的な概念をどのように評価するのか (1)	19-20世紀アメリカの哲学者ウィリアム・ジェイムズの紹介と検討	テキストの予習・復習
14	わたしたちは哲学的な概念をどのように評価するのか (2)	19-20世紀アメリカの哲学者ウィリアム・ジェイムズの紹介と検討	テキストの予習・復習
15	期末のまとめと理解度確認テスト	第9回から第14回までのまとめと確認テスト	第9回から第14回までの復習

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	平常点 (コメントシート) 60%、中間: 20%、期末: 20%
-----------	-----------------------------------

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	中国語で読み解くⅡ	科目名 (英文)	Chinese Reading II
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	1
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小都 晶子
ディプロマポリシー (DP)	DP1△, DP6△		
科目ナンバリング	LDL2653e0		

授業概要・目的	1年生の中国語科目で学習した内容を定着させるとともに、それを応用して読む力を発展させる。基本構文や語彙を習得するとともに、中国語を読んで正確に内容を理解できるように訓練する。
到達目標	中国語検定試験4級レベルの文法・語彙を習得して、これらを使いこなせるようにし、この検定試験の筆記で6割以上を正解する読解力を身につけることができる。
授業方法と留意点	授業では、本文の日本語訳に、文法・語彙表現の解説を加える。さらに朗読や練習問題を通して、これらを定着させる。この科目は「地域言語科目」のうち、1年後期開講の中国語の授業を履修している学生を対象とします。
科目学習の効果 (資格)	「中国語で会話するⅡ」および「中国語で表現するⅡ」とあわせて履修した場合、中国語検定試験4級レベルの中国語力を習得する。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	第1課 大学生生活 ポイント、ドリル	重要表現の解説と練習問題	事前に練習問題を解く。事後に例文と練習問題を復習し、基本構文を覚える。
3	第2課 大学的作息時間 課文	本文の日本語訳と解説、朗読	事前に本文を日本語訳する。事後に本文を復習し、新出単語を覚える。
4	第2課 大学的作息時間 ポイント、ドリル	重要表現の解説と練習問題	事前に練習問題を解く。事後に例文と練習問題を復習し、基本構文を覚える。
5	テスト 第3課 早飯 課文	第1回単元テスト 本文の日本語訳と解説、朗読	第1～2課の内容を復習し、単元テストにそなえる。事前に本文を日本語訳する。事後に本文を復習し、新出単語を覚える。
6	第3課 早飯 ポイント、ドリル	テストのフィードバック 重要表現の解説と練習問題	事前に練習問題を解く。事後に例文と練習問題を復習し、基本構文を覚える。
7	第4課 喝茶 課文	本文の日本語訳と解説、朗読	事前に本文を日本語訳する。事後に本文を復習し、新出単語を覚える。
8	第4課 喝茶 ポイント、ドリル	重要表現の解説と練習問題	事前に練習問題を解く。事後に例文と練習問題を復習し、基本構文を覚える。
9	テスト 第5課 飲食 課文	第2回単元テスト 本文の日本語訳と解説、朗読	第3～4課の内容を復習し、単元テストにそなえる。事前に本文を日本語訳する。事後に本文を復習し、新出単語を覚える。
10	第5課 飲食 ポイント、ドリル	テストのフィードバック 重要表現の解説と練習問題	事前に練習問題を解く。事後に例文と練習問題を復習し、基本構文を覚える。
11	第6課 生活習慣 課文	本文の日本語訳と解説、朗読	事前に本文を日本語訳する。事後に本文を復習し、新出単語を覚える。
12	第6課 生活習慣 ポイント、ドリル	重要表現の解説と練習問題	事前に練習問題を解く。事後に例文と練習問題を復習し、基本構文を覚える。
13	第7課 交通 課文	本文の日本語訳と解説、朗読	事前に本文を日本語訳する。事後に本文を復習し、新出単語を覚える。
14	第7課 交通 ポイント、ドリル	重要表現の解説と練習問題	事前に練習問題を解く。事後に例文と練習問題を復習し、基本構文を覚える。
15	まとめとテスト	第3回単元テスト テストのフィードバックと文法・語彙の総復習	第5～7課の内容を復習し、単元テストにそなえる。

関連科目	「中国語で表現するⅠ」「中国語で会話するⅠ」「中国語で読み解くⅠ」「中国語で表現するⅡ」「中国語で会話するⅡ」 (「中国語を読むⅠb」の関連科目は「中国語を話すⅠb」「中国語を聞くⅠb」「中国語を書くⅠb」)
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ことばと文化 “一挙両得” 中級中国語	陳淑梅・陸薇	朝日出版社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中日辞典		
	2	日中辞典		
	3			

評価方法 (基準)	授業および課題への取り組み：40% 単元テスト：60%
-----------	--------------------------------

学生へのメッセージ	課文、ポイント、ドリルは事前に予習してください。
-----------	--------------------------

担当者の研究室等	小都研究室 (7号館3階)
----------	---------------

備考	授業の事前・事後に1時間の学習を要する。 単元テストは返却時、あるいは実施後の授業等で間違いの多かったところを復習し、必ずフィードバックを行う。
----	---

科目名	中国語で読み解くⅡ	科目名 (英文)	Chinese Reading II
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	2
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	段 飛虹
ディプロマポリシー(DP)	DP1△, DP6△		
科目ナンバリング	LDL2653e0		

授業概要・目的	1年生の中国語科目で学習した内容を定着させるとともに、それを応用して読む力を発展させる。基本構文や語彙を習得するとともに、中国語を読んで正確に内容を理解できるように訓練する。
到達目標	中国語検定試験4級レベルの文法・語彙を習得して、これらを使いこなせるようにし、この検定試験の筆記で6割以上を正解する読解力を身につけることができる。
授業方法と留意点	授業では、本文の日本語訳に、文法・語彙表現の解説を加える。さらに朗読や練習問題を通して、これらを定着させる。この科目は「地域言語科目」のうち、1年後期開講の中国語の授業を履修している学生を対象とします。
科目学習の効果 (資格)	「中国語で会話するⅡ」および「中国語で表現するⅡ」とあわせて履修した場合、中国語検定試験4級レベルの中国語力を習得する。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	第1課 大学生活 ポイント、ドリル	重要表現の解説と練習問題	事前に練習問題を解く。事後に例文と練習問題を復習し、基本構文を覚える。
3	第2課 大学的作息時間 課文	本文の日本語訳と解説、朗読	事前に本文を日本語訳する。事後に本文を復習し、新出単語を覚える。
4	第2課 大学的作息時間 ポイント、ドリル	重要表現の解説と練習問題	事前に練習問題を解く。事後に例文と練習問題を復習し、基本構文を覚える。
5	テスト① 第3課 早飯 課文	第1回単元テスト 本文の日本語訳と解説、朗読	第1～2課の内容を復習し、単元テストにそなえる。事前に本文を日本語訳する。事後に本文を復習し、新出単語を覚える。
6	第3課 早飯 ポイント、ドリル	テストのフィードバック 重要表現の解説と練習問題	事前に練習問題を解く。事後に例文と練習問題を復習し、基本構文を覚える。
7	第4課 喝茶 課文	本文の日本語訳と解説、朗読	事前に本文を日本語訳する。事後に本文を復習し、新出単語を覚える。
8	第4課 喝茶 ポイント、ドリル	重要表現の解説と練習問題	事前に練習問題を解く。事後に例文と練習問題を復習し、基本構文を覚える。
9	テスト② 第5課 飲食 課文	第2回単元テスト 本文の日本語訳と解説、朗読	第3～4課の内容を復習し、単元テストにそなえる。事前に本文を日本語訳する。事後に本文を復習し、新出単語を覚える。
10	第5課 飲食 ポイント、ドリル	テストのフィードバック 重要表現の解説と練習問題	事前に練習問題を解く。事後に例文と練習問題を復習し、基本構文を覚える。
11	第6課 生活習慣 課文	本文の日本語訳と解説、朗読	事前に本文を日本語訳する。事後に本文を復習し、新出単語を覚える。
12	第6課 生活習慣 ポイント、ドリル	重要表現の解説と練習問題	事前に練習問題を解く。事後に例文と練習問題を復習し、基本構文を覚える。
13	第7課 交通 課文	本文の日本語訳と解説、朗読	事前に本文を日本語訳する。事後に本文を復習し、新出単語を覚える。
14	第7課 交通 ポイント、ドリル	重要表現の解説と練習問題	事前に練習問題を解く。事後に例文と練習問題を復習し、基本構文を覚える。
15	まとめとテスト③	第3回単元テスト テストのフィードバックと文法・語彙の総復習	第5～7課の内容を復習し、単元テストにそなえる。

関連科目	「中国語で表現するⅠ」「中国語で会話するⅠ」「中国語で読み解くⅠ」「中国語で表現するⅡ」「中国語で会話するⅡ」
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ことばと文化 “一挙両得” 中級中国語	陳淑梅・陸薇	朝日出版社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中日辞典		
2	日中辞典			
3				

評価方法 (基準)	授業および課題への取り組み：40% 単元テスト：60%
-----------	--------------------------------

学生へのメッセージ	課文、ポイント、ドリルは事前に予習してください。
-----------	--------------------------

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	授業の事前・事後に1時間の学習を要する。 単元テストは返却時、あるいは実施後の授業等で間違いの多かったところを復習し、必ずフィードバックを行う。 授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員(中西、小都)を通じて問い合わせることもできる。
----	--

科目名	中国語で表現するⅡ	科目名 (英文)	Chinese Expressions II
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	1
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	曹 櫻
ディプロマポリシー (DP)	DP1△, DP6△		
科目ナンバリング	LDL2654e0		

授業概要・目的	1年生の中国語科目で学習した内容を定着させるとともに、それを応用して表現する力を発展させる。基本構文や語彙を習得するとともに、これらを用いて中国語で正確に表現できるように訓練する。
到達目標	中国語検定試験4級レベルの文法・語彙を習得して、これらを使いこなせるようにし、この検定試験の筆記で6割以上を正解する読解力を身につけることができる。
授業方法と留意点	演習形式で授業を行う。授業時に、積極的にペア練習と発表を行う。試験や課題に対して用紙上または次回授業で必ずフィードバックを行う。この科目は「地域言語科目」のうち、1年後期開講の中国語の授業を履修している学生を対象とします。
科目学習の効果 (資格)	「中国語で会話するⅡ」および「中国語で読み解くⅡ」とあわせて履修した場合、中国語検定試験4級レベルの中国語の表現力を習得する。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	第1課 虹橋空港にて	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する (2時間)。
3	第2課 地下鉄に乗って	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する (2時間)。
4	第3課 上海の交通は便利です	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する (2時間)。
5	第4課 2週間上海にいます	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する (2時間)。
6	第5課 豫園でショッピング	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する (2時間)。
7	復習1、総合練習、小テスト	第5課までの内容を復習する	第5課までの内容を復習、次の内容を予習する (2時間)。
8	第6課 道を探す	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する (2時間)。
9	第7課 オールドジャズバンド	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する (2時間)。
10	第8課 ジャズバーで飲みながら	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する (2時間)。
11	第9課 上海人の友達の家で	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する (2時間)。
12	第10課 朝食後は何をしますか?	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する (2時間)。
13	第11課 市場にて	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する (2時間)。
14	復習2、総合練習、小テスト、作文を書く	第6課から第11課までの内容を復習する	第6課から第11課までの内容を復習、発表の内容を準備する (2時間)。
15	発表会	発表の内容をチェックする	発表の内容を暗唱する (2時間)。

関連科目	「中国語で表現するⅠ」「中国語で会話するⅠ」「中国語で読み解くⅠ」「中国語で会話するⅡ」「中国語で読み解くⅡ」
------	---

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法 (基準)	テスト、課題、授業に取り組む姿勢などを総合して評価する。 授業への参加度と発表：40% テスト：60%
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	事前・事後に各60分の学修を要する。 授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員(中西、小都)を通じて問い合わせることできる。

科目名	中国語で表現するⅡ	科目名 (英文)	Chinese Expressions II
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	2
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	孫 輝
ディプロマポリシー (DP)	DP1△, DP6△		
科目ナンバリング	LDL2654e0		

授業概要・目的	1年生の中国語科目で学習した内容を定着させるとともに、それを応用して表現する力を発展させる。基本構文や語彙を習得するとともに、これらを用いて中国語で正確に表現できるように訓練する。
到達目標	中国語検定試験4級レベルの文法・語彙を習得して、これらを使いこなせるようにし、この検定試験の筆記で6割以上を正解する読解力を身につけることができる。
授業方法と留意点	演習形式で授業を行う。授業時に、積極的にペア練習と発表を行う。試験や課題に対して用紙上または次回授業で必ずフィードバックを行う。この科目は「地域言語科目」のうち、1年後期開講の中国語の授業を履修している学生を対象とします。
科目学習の効果 (資格)	「中国語で会話するⅡ」および「中国語で読み解くⅡ」とあわせて履修した場合、中国語検定試験4級レベルの中国語の表現力を習得する。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	第1課 虹橋空港にて	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する (2時間)。
3	第2課 地下鉄に乗って	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する (2時間)。
4	第3課 上海の交通は便利です	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する (2時間)。
5	第4課 2週間上海にいます	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する (2時間)。
6	第5課 豫園でショッピング	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する (2時間)。
7	復習1、総合練習、小テスト	第5課までの内容を復習する	第5課までの内容を復習、次の内容を予習する (2時間)。
8	第6課 道を探す	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する (2時間)。
9	第7課 オールドジャズバンド	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する (2時間)。
10	第8課 ジャズバーで飲みながら	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する (2時間)。
11	第9課 上海人の友達の家で	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する (2時間)。
12	第10課 朝食後は何をしますか?	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する (2時間)。
13	第11課 市場にて	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する (2時間)。
14	復習2、総合練習、小テスト、作文を書く	第6課から第11課までの内容を復習する	第6課から第11課までの内容を復習、発表の内容を準備する (2時間)。
15	発表会	発表の内容をチェックする	発表の内容を暗唱する (2時間)。

関連科目	「中国語で表現するⅠ」「中国語で会話するⅠ」「中国語で読み解くⅠ」「中国語で会話するⅡ」「中国語で読み解くⅡ」
------	---

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	LOVE! 上海2 初級～中級編	楊凱榮・張麗群	朝日出版社
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	テスト、課題、授業に取り組む姿勢などを総合して評価する。 授業への参加度と発表：40% テスト：60%
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	事前・事後に各60分の学修を要する。 授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員(中西、小都)を通じて問い合わせることできる。

科目名	中国語で会話するⅡ	科目名(英文)	Chinese Conversation II
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	1
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	曹 櫻
ディプロマポリシー(DP)	DP1△, DP6△		
科目ナンバリング	LDL2655e0		

授業概要・目的	基礎中国語科目で学習した内容を復習しつつ、日頃の会話でよく見られるワンランク上の表現を習得する。読む、聴く、書くと言う総合的な学習をバランスよく行います。
到達目標	中国語を使って日常会話ができるようになる。中国語検定試験4級レベルの文法・語彙を習得して、これらを使いこなせるようにし、この検定試験の筆記で6割以上を正解する読解力を身につけることができる。
授業方法と留意点	中国語を「話す」、「使う」ことを重視する。文法を理解する上で、正しい発音で会話できるように指導する。
科目学習の効果(資格)	「中国語で読み解くⅡ」および「中国語で表現するⅡ」とあわせて履修した場合、中国語検定試験4級レベルの中国語力を習得する。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	第1課 再会する	文法 ①反語文の表現 ②積極的な姿勢を示す「来」	事前に、第1課の単語を覚える。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
2	第2課 入学する手続き	文法 ①兼語文 ②介詞「跟～」	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
3	第3課 リスニング授業	文法 ①形容詞の重ね型 ②助動詞「会」	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
4	第4課 朝市を見物する	文法 ①存現文(場所詞+動詞+名詞) ②複文「除了A～還B」	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
5	第5課 動物園	文法 ①様態補語「得」 ②副詞「再」と「又」	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
6	第6課 中秋の名月	文法 ①「快要～了」 ②複文「一边A～一边B」	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
7	復習課 単元テスト1	・第1課～第6課の復習 ・単元テスト1	第1課～第6課の復習すること。
8	第7課 国慶節	文法 ①複文「因為A～所以B」 ②可能補語	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと
9	第8課 京劇を見る	文法 ①「沒想到～」 ②動詞「像」	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと
10	第9課 本を借りる	文法 ①副詞「剛剛」 ②複文「一A～就B」	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと
11	第10課 助け合い	文法 ①動詞「覺得」 ②指示代名詞	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと
12	第11課 ホテルを探す	文法 ①量詞「～宿」 ②複合方向補語「～出来」	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと
13	第12課 端午の節句	文法 ①複文「雖然A～但是B」 ②助詞「什麼的」	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと
14	第13課 日の出を見る	文法 ①動詞「打算」 ②複文「即使A, 也B」	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文をじよ繰り返して読むこと
15	復習課 単元テスト2	単元テスト2	事前に、第7課～第13課の復習すること。

関連科目	「中国語で表現するⅠ」「中国語で会話するⅠ」「中国語で読み解くⅠ」「中国語で読み解くⅡ」「中国語で表現するⅡ」
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	We Can 中国語	徐 送迎	朝日出版社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中日辞典 第3版	北京商務印書館・小学館	小学館
	2			
	3			
評価方法 (基準)	参加度と課題：50% テスト：50%で評価する			
学生への メッセージ	教科書は必ず購入してください。購入していない者には単位が認定できません。 授業中の私語は他の受講生の迷惑になりますので、控えてください。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	授業の事前・事後に1時間の学習を要します。 単元テストは返却時、あるいは実施後の授業等で間違いの多かったところを復習し、必ずフィードバックを行います。			

科目名	中国語で会話するⅡ	科目名(英文)	Chinese Conversation II
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	2
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	馮 艶
ディプロマポリシー(DP)	DP1△, DP6△		
科目ナンバリング	LDL2655e0		

授業概要・目的	基礎中国語で学んだものを復習しつつ、ワンランク上の聴く、話す、読む、書く力をバランスよく身につけられるよう授業を進める。
到達目標	中国語を使って日常会話ができるようになる。中国語検定試験4級レベルの文法・語彙を習得して、これらを使いこなせるようにし、この検定試験の筆記で6割以上を正解する読解力を身につけることができる。
授業方法と留意点	この科目は「地域言語科目」のうち、1年後期開講の中国語の授業を履修している学生を対象とする。 聴くと話すことを一体にして演習する。
科目学習の効果(資格)	「中国語で読み解くⅡ」および「中国語で表現するⅡ」とあわせて履修した場合、中国語検定試験4級レベルの中国語力を習得する。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	第一課	①反語文 ②「来る」	単語を予習で覚える 本文の音読練習
2	第二課	①兼語文 ②「跟」	前回内容の復習、練習問題の解答 新しい単語を覚える
3	第三課	①形容詞の重ね型 ②「会」	前回内容の復習、練習問題の解答 新しい単語を覚える
4	第四課	①存現文 ②「除了～還～」	前回内容の復習、練習問題の解答 新しい単語を覚える
5	第五課	①様態補語 ②「再」	前回内容の復習、練習問題の解答 新しい単語を覚える
6	第六課	①「快要～了」 ②「一边～一边～」	前回内容の復習、練習問題の解答 新しい単語を覚える
7	復習	単元「第一課～第六課」復習 テスト	前回までの内容を復習する
8	第七課	①「因為～所以～」 ②可能補語	前回内容の復習、練習問題の解答 新しい単語を覚える
9	第八課	①「没想到～」 ②「像」	前回内容の復習、練習問題の解答 新しい単語を覚える
10	第九課	①「剛剛」 ②「一～就～」	前回内容の復習、練習問題の解答 新しい単語を覚える
11	第十課	①「覺得」 ②指示代名詞	前回内容の復習、練習問題の解答 新しい単語を覚える
12	第十一課	①量詞「宿」 ②複合方向補語	前回内容の復習、練習問題の解答 新しい単語を覚える
13	第十二課	①「sui 然～但是～」 ②助詞「shenme 的」	前回内容の復習、練習問題の解答 新しい単語を覚える
14	第十三課	①「即使～也～」 ②「打算」	前回内容の復習、練習問題の解答 新しい単語を覚える
15	復習 テスト	第七課～第十三課単元テスト	復習

関連科目 「中国語で表現するⅠ」「中国語で会話するⅠ」「中国語で読み解くⅠ」「中国語で読み解くⅡ」「中国語で表現するⅡ」

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	WE CAN 中国語	徐 送迎	朝日出版社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	授業態度と課題 50% テスト 50%
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	授業の事前・事後に1時間の学習を要する。 単元テストは返却時、あるいは実施後の授業等で間違いの多かったところを復習し、必ずフィードバックを行う。

科目名	中国語で読み解くⅢ	科目名 (英文)	Chinese Reading III
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	1
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小都 晶子
ディプロマポリシー(DP)	DP1Δ, DP6Δ		
科目ナンバリング	LDL2656e0		

授業概要・目的	2年生前期までの中国語科目で学習した内容を定着させるとともに、それを応用して読む力を発展させる。基本構文や語彙を習得するとともに、中国語を読んで正確に内容を理解できるように訓練する。
到達目標	中国語検定試験3級レベルの文法・語彙を習得して、これらを使いこなせるようにし、この検定試験の筆記で6〜7割以上を正解する読解力を身につけることができる。
授業方法と留意点	授業では、本文の日本語訳に、文法・語彙表現の解説を加える。さらに朗読や練習問題を通して、これらを定着させる。この科目は「地域言語科目」のうち、1年後期、2年前期開講の中国語の授業を履修している学生を対象とします。
科目学習の効果 (資格)	「中国語で会話するⅢ」および「中国語で表現するⅢ」とあわせて履修した場合、中国語検定試験3級レベルの中国語力を習得する。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	第8課 校園節 ポイント、ドリル	重要表現の解説と練習問題	事前に練習問題を解く。事後に例文と練習問題を復習し、基本構文を覚える。
3	第9課 体育 課文	本文の日本語訳と解説、朗読	事前に本文を日本語訳する。事後に本文を復習し、新出単語を覚える。
4	第9課 体育 ポイント、ドリル	重要表現の解説と練習問題	事前に練習問題を解く。事後に例文と練習問題を復習し、基本構文を覚える。
5	テスト 第10課 歌舞伎和京劇 課文	第1回単元テスト 本文の日本語訳と解説、朗読	第8〜9課の内容を復習し、単元テストにそなえる。事前に本文を日本語訳する。事後に本文を復習し、新出単語を覚える。
6	第10課 歌舞伎和京劇 ポイント、ドリル	テストのフィードバック 重要表現の解説と練習問題	事前に練習問題を解く。事後に例文と練習問題を復習し、基本構文を覚える。
7	第11課 方言 課文	本文の日本語訳と解説、朗読	事前に本文を日本語訳する。事後に本文を復習し、新出単語を覚える。
8	第11課 方言 ポイント、ドリル	重要表現の解説と練習問題	事前に練習問題を解く。事後に例文と練習問題を復習し、基本構文を覚える。
9	テスト 第12課 飯桌上的習慣 課文	第2回単元テスト 本文の日本語訳と解説、朗読	第10〜11課の内容を復習し、単元テストにそなえる。事前に本文を日本語訳する。事後に本文を復習し、新出単語を覚える。
10	第12課 飯桌上的習慣 ポイント、ドリル	テストのフィードバック 重要表現の解説と練習問題	事前に練習問題を解く。事後に例文と練習問題を復習し、基本構文を覚える。
11	第13課 過年 課文	本文の日本語訳と解説、朗読	事前に本文を日本語訳する。事後に本文を復習し、新出単語を覚える。
12	第13課 過年 ポイント、ドリル	重要表現の解説と練習問題	事前に練習問題を解く。事後に例文と練習問題を復習し、基本構文を覚える。
13	第14課 年輕人的婚事 課文	本文の日本語訳と解説、朗読	事前に本文を日本語訳する。事後に本文を復習し、新出単語を覚える。
14	第14課 年輕人的婚事 ポイント、ドリル	重要表現の解説と練習問題	事前に練習問題を解く。事後に例文と練習問題を復習し、基本構文を覚える。
15	まとめとテスト	第3回単元テスト テストのフィードバックと文法・語彙の総復習	第12〜14課の内容を復習し、単元テストにそなえる。

関連科目	「中国語で表現するⅠ」「中国語で会話するⅠ」「中国語で読み解くⅠ」「中国語で表現するⅡ」「中国語で会話するⅡ」「中国語で読み解くⅡ」「中国語で表現するⅢ」「中国語で会話するⅢ」 (「中国語を読むⅡa」の関連科目は「中国語を話すⅡa」「中国語を聞くⅡa」「中国語を書くⅡa」)
------	--

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ことばと文化 “一挙兩得” 中級中国語	陳淑梅・陸薇	朝日出版社
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中日辞典		
2	日中辞典		
3			

評価方法 (基準)	授業および課題への取り組み：40% 単元テスト：60%
-----------	--------------------------------

学生へのメッセージ	課文、ポイント、ドリルは事前に予習してください。
-----------	--------------------------

担当者の研究室等	小都研究室 (7号館3階)
----------	---------------

備考	授業の事前・事後に1時間の学習を要する。 単元テストは返却時、あるいは実施後の授業等で間違いの多かったところを復習し、必ずフィードバックを行う。
----	---

科目名	中国語で読み解くⅢ	科目名 (英文)	Chinese Reading III
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	2
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	左 虹
ディプロマポリシー(DP)	DP1△, DP6△		
科目ナンバリング	LDL2656e0		

授業概要・目的	2年生前期までの中国語科目で学習した内容を定着させるとともに、それを応用して読む力を発展させる。基本構文や語彙を習得するとともに、中国語を読んで正確に内容を理解できるように訓練する。
到達目標	中国語検定試験3級レベルの文法・語彙を習得して、これらを使いこなせるようにし、この検定試験の筆記で6〜7割以上を正解することのできる読解力を身につける。
授業方法と留意点	授業では、本文の日本語訳に、文法・語彙表現の解説を加える。さらに朗読や練習問題を通して、これらを定着させる。
科目学習の効果 (資格)	「中国語で会話するⅢ」および「中国語で表現するⅢ」とあわせて履修した場合、中国語検定試験3級レベルの中国語力を習得する。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	第8課 校園節 ポイント、ドリル	重要表現の解説と練習問題	事前に練習問題を解く。事後に例文と練習問題を復習し、基本構文を覚える。
3	第9課 体育 課文	本文の日本語訳と解説、朗読	事前に本文を日本語訳する。事後に本文を復習し、新出単語を覚える。
4	第9課 体育 ポイント、ドリル	重要表現の解説と練習問題	事前に練習問題を解く。事後に例文と練習問題を復習し、基本構文を覚える。
5	単元テスト① 第10課 歌舞伎和京劇 課文	第1回単元テスト 本文の日本語訳と解説、朗読	8〜9課の内容を復習し、単元テストにそなえる。事前に本文を日本語訳する。事後に本文を復習し、新出単語を覚える。
6	第10課 歌舞伎和京劇 ポイント、ドリル	テストのフィードバック 重要表現の解説と練習問題	事前に練習問題を解く。事後に例文と練習問題を復習し、基本構文を覚える。
7	第11課 方言 課文	本文の日本語訳と解説、朗読	事前に本文を日本語訳する。事後に本文を復習し、新出単語を覚える。
8	第11課 方言 ポイント、ドリル	重要表現の解説と練習問題	事前に練習問題を解く。事後に例文と練習問題を復習し、基本構文を覚える。
9	テスト 第12課 飯卓上の習慣 課文	第2回単元テスト 本文の日本語訳と解説、朗読	第10〜11課の内容を復習し、単元テストにそなえる。事前に本文を日本語訳する。事後に本文を復習し、新出単語を覚える。
10	第12課 飯卓上の習慣 ポイント、ドリル	テストのフィードバック 重要表現の解説と練習問題	事前に練習問題を解く。事後に例文と練習問題を復習し、基本構文を覚える。
11	第13課 過年 課文	本文の日本語訳と解説、朗読	事前に本文を日本語訳する。事後に本文を復習し、新出単語を覚える。
12	第13課 過年 ポイント、ドリル	重要表現の解説と練習問題	事前に練習問題を解く。事後に例文と練習問題を復習し、基本構文を覚える。
13	第14課 年輕人的婚事 課文	本文の日本語訳と解説、朗読	事前に本文を日本語訳する。事後に本文を復習し、新出単語を覚える。
14	第14課 年輕人	重要表現の解説と練習問題	事前に練習問題を解く。
15	まとめとテスト	テストのフィードバックと文法・語彙の総復習	第12〜14課の内容を復習し、単元テストにそなえる。

関連科目 「中国語で表現するⅠ」「中国語で会話するⅠ」「中国語で読み解くⅠ」「中国語で表現するⅡ」「中国語で会話するⅡ」「中国語で読み解くⅡ」「中国語で表現するⅢ」「中国語で会話するⅢ」

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ことばと文化 “一挙両得” 中級中国語	陳淑梅・陸薇	朝日出版社
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中日辞典		
2	日中辞典		
3			

評価方法 (基準) 授業および課題への取り組み：40%
単元テスト：60%

学生へのメッセージ 課文、ポイント、ドリルは事前に予習してください。

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	授業の事前・事後に1時間の学習を要する。単元テストは返却時、あるいは実施後の授業等で間違いの多かったところを復習し、必ずフィードバックを行う。授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員（中西、小都）を通じて問い合わせることもできる。

科目名	中国語で表現するⅢ	科目名 (英文)	Chinese Expressions III
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	1
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	孫 輝
ディプロマポリシー (DP)	DP1△, DP6△		
科目ナンバリング	LDL2657e0		

授業概要・目的	2年生前期までの中国語科目で学習した内容を定着させるとともに、それを応用して表現する力を発展させる。基本構文や語彙を習得するとともに、これらを用いて中国語で正確に表現できるように訓練する。
到達目標	中国語検定試験3級レベルの文法・語彙を習得して、これらを使いこなせるようにし、この検定試験の筆記で6~7割以上を正解する読解力を身につけることができる。
授業方法と留意点	演習形式で授業を行う。授業時に、積極的にペア練習と発表を行う。試験や課題に対して用紙上または次回の授業で必ずフィードバックを行う。この科目は「地域言語科目」のうち、1年後期、2年前期開講の中国語の授業を履修している学生を対象とします。
科目学習の効果 (資格)	「中国語で会話するⅢ」および「中国語で読み解くⅢ」とあわせて履修した場合、中国語検定試験3級レベルの中国語力を習得する。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	授業内容、履修方法、評価方法の紹介、第12課 上海人も好きです	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する (2時間)。
	2	第13課 日本料理を食べてみたい	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する (2時間)。
	3	第14課 お寺に興味はありますか	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する (2時間)。
	4	第15課 日本料理を食べて	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する (2時間)。
	5	復習1、総合練習、小テスト	第12課から第15課までの内容を復習する	テストを準備、次の内容を予習する (2時間)。
	6	第16課 散歩から帰って	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する (2時間)。
	7	第17課 列車のチケット	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する (2時間)。
	8	第18課 周庄は遠いですか	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する (2時間)。
	9	第19課 帰国前のひととき	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する (2時間)。
	10	復習2、総合練習、小テスト	第16課から第19課までの内容を復習する	テストを準備、次の内容を予習する (2時間)。
	11	第20課 留学したいですか	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する (2時間)。
	12	第21課 何時に出発しますか	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する (2時間)。
	13	第22課 また来てください	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する (2時間)。
	14	復習3、総合練習、小テスト、作文を書く	第20課から第22課までの内容を復習する	テストと発表の内容を準備する (2時間)。
	15	発表会	発表の内容をチェックする	発表の内容を暗唱する (2時間)。

関連科目	「中国語で表現するⅠ」「中国語で会話するⅠ」「中国語で読み解くⅠ」「中国語で表現するⅡ」「中国語で会話するⅡ」「中国語で読み解くⅡ」「中国語で会話するⅢ」「中国語で読み解くⅢ」
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	LOVE! 上海2 初級～中級編	楊凱榮・張麗群	朝日出版社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	テスト、発表、授業に取り組む姿勢(課題)などを総合して評価する。 授業への参加度と発表：40% テスト：60%
-----------	---

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	学期中は事前および事後に合計60時間の学習時間を必要とする。 授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員(中西、小都)を通じて問い合わせることもできる。
----	---

科目名	中国語で表現するⅢ	科目名 (英文)	Chinese Expressions III
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	2
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小都 晶子
ディプロマポリシー (DP)	DP1Δ, DP6Δ		
科目ナンバリング	LDL2657e0		

授業概要・目的	2年生前期までの中国語科目で学習した内容を定着させるとともに、それを応用して表現する力を発展させる。基本構文や語彙を習得するとともに、これらを用いて中国語で正確に表現できるように訓練する。
到達目標	中国語検定試験3級レベルの文法・語彙を習得して、これらを使いこなせるようにし、この検定試験の筆記で6~7割以上を正解する読解力を身につけることができる。
授業方法と留意点	演習形式で授業を行う。授業時に、積極的にペア練習と発表を行う。試験や課題に対して用紙上または次回の授業で必ずフィードバックを行う。この科目は「地域言語科目」のうち、1年後期、2年前期開講の中国語の授業を履修している学生を対象とします。
科目学習の効果 (資格)	「中国語で会話するⅢ」および「中国語で読み解くⅢ」とあわせて履修した場合、中国語検定試験3級レベルの中国語力を習得する。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	授業内容、履修方法、評価方法の紹介、第12課 上海人も好きです	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する (2時間)。
	2	第13課 日本料理を食べてみたい	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する (2時間)。
	3	第14課 お寺に興味はありますか	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する (2時間)。
	4	第15課 日本料理を食べて	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する (2時間)。
	5	復習1、総合練習、小テスト	第12課から第15課までの内容を復習する	テストを準備、次の内容を予習する (2時間)。
	6	第16課 散歩から帰って	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する (2時間)。
	7	第17課 列車のチケット	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する (2時間)。
	8	第18課 周庄は遠いですか	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する (2時間)。
	9	第19課 帰国前のひととき	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する (2時間)。
	10	復習2、総合練習、小テスト	第16課から第19課までの内容を復習する	テストを準備、次の内容を予習する (2時間)。
	11	第20課 留学したいですか	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する (2時間)。
	12	第21課 何時に出発しますか	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する (2時間)。
	13	第22課 また来てください	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する (2時間)。
	14	復習3、総合練習、小テスト、作文を書く	第20課から第22課までの内容を復習する	テストと発表の内容を準備する (2時間)。
	15	発表会	発表の内容をチェックする	発表の内容を暗唱する (2時間)。

関連科目	「中国語で表現するⅠ」「中国語で会話するⅠ」「中国語で読み解くⅠ」「中国語で表現するⅡ」「中国語で会話するⅡ」「中国語で読み解くⅡ」「中国語で会話するⅢ」「中国語で読み解くⅢ」 (「中国語を話すⅡa」の関連科目は「中国語を聞くⅡa」「中国語を書くⅡa」「中国語を読むⅡa」)
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	LOVE! 上海2 初級～中級編	楊凱榮・張麗群	朝日出版社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	テスト、発表、授業に取り組む姿勢 (課題) などを総合して評価する。 授業への参加度と発表: 40% テスト: 60%
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	小都研究室 (7号館3階)
備考	学期中は事前および事後に合計60時間の学習時間を必要とする。

科目名	中国語で会話するⅢ	科目名(英文)	Chinese Conversation III
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	1
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	馮 艶
ディプロマポリシー(DP)	DP1△, DP6△		
科目ナンバリング	LDL2658e0		

授業概要・目的	基礎中国語で学んだものを復習しつつ、ワンランク上の聴く、話す、読む、書く力をバランスよく身につけられるよう授業を進める。
到達目標	日常会話レベルの中国語力を身につけるとともに、中国語検定試験3級レベルの文法・語彙を習得して、これらを使いこなせるようにし、この検定試験の筆記で6〜7割以上を正解する読解力を身につけることができる。
授業方法と留意点	この科目は「地域言語科目」のうち、1年後期、及び2年前期開講の中国語の授業を履修している学生を対象とする。聴くと話すことを一体にして演習する。
科目学習の効果(資格)	「中国語で読み解くⅡ」および「中国語で表現するⅡ」とあわせて履修した場合、中国語検定試験3級レベルの中国語力を習得する。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	第十四課	①「如果～就～」 ②助動詞「願意」	前期内容の復習 新しい単語を覚える 練習問題の解答
2	第十五課	①「为了～、为」 ②助動詞「應該」	新しい単語を覚える 練習問題の解答
3	第十六課	①「既是～又～」 ②「据说～」	新しい単語を覚える 練習問題の解答
4	第十七課	①受け身文 ②「可是」	新しい単語を覚える 練習問題の解答
5	第十八課	①「把」構文 ②「連～都～」	新しい単語を覚える 練習問題の解答 復習
6	第十九課	①「～起来」 ②助詞「地」	新しい単語を覚える 練習問題の解答 復習
7	復習回	単元テスト	新しい単語を覚える 練習問題の解答
8	第二十課	①「既～又～」 ②動詞＋一下兒	新しい単語を覚える 練習問題の解答
9	第二十一課	①「早就」 ②「向～」	新しい単語を覚える 練習問題の解答
10	第二十二課	①「去～zenme 走？」 ②「往～」	新しい単語を覚える 練習問題の解答
11	第二十三課	①「就像～一樣」 ②助動詞「得」	新しい単語を覚える 練習問題の解答
12	第二十四課	①「建議～」 ②「通過～」	新しい単語を覚える 練習問題の解答
13	第二十五課	①「zhe 様」 ②「不知道～」	新しい単語を覚える 練習問題の解答
14	第二十六課	①可能補語 ②「对～來說」	新しい単語を覚える 練習問題の解答 復習
15	復習回 単元テスト	単元テスト	復習

関連科目	中国語で読み解くⅡ、中国語で表現するⅡ、中国語で会話するⅡ 中国語で読み解くⅢ、中国語で表現するⅢ
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	WE CAN 中国語	徐 送迎	朝日出版社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業態度及び課題 50% テスト 50%
----------	-------------------------

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	授業の事前・事後に1時間の学習を要する。 単元テストは返却時、あるいは実施後の授業等で間違いの多かったところを復習し、必ずフィードバックを行う。
----	---

科目名	中国語で会話するⅢ	科目名 (英文)	Chinese Conversation III
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	2
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	段 飛虹
ディプロマポリシー (DP)	DP1△, DP6△		
科目ナンバリング	LDL2658e0		

授業概要・目的	基礎中国語科目で学習した内容を復習しつつ、日頃の会話でよく見られるワンランク上の表現を習得する。読む、聴く、書くと言う総合的な学習をバランスよく行います。
到達目標	日常会話レベルの中国語力を身につけるとともに、中国語検定試験3級レベルの文法・語彙を習得して、これらを使いこなせるようにし、この検定試験の筆記で6〜7割以上を正解する読解力を身につけることができます。
授業方法と留意点	この科目は「地域言語科目」のうち、1年後期、及び2年前期開講の中国語の授業を履修している学生を対象とします。中国語を「話す」、「使う」ことを重視する。大体、前の週に新しい文法と語彙を習い、次の週に完全に覚えるように指導します。
科目学習の効果 (資格)	「中国語で読み解くⅡ」および「中国語で表現するⅡ」とあわせて履修した場合、中国語検定試験3級レベルの中国語力を習得します。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	第14課 ボランティア	文法 ①複文「如果A, 就B」 ②助動詞「願意」	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと
2	第15課 運動会	文法 ①介詞「為了〜」「為〜」 ②助動詞「應該」	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと
3	第16課 孔子廟を参拝する	文法 ①複文「既是A〜又是B」 ②挿入語「据说〜」	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと
4	第17課 スピーチコンクール	文法 ①受身文「被〜」 ②接続詞「可是」	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと
5	第18課 農家を訪問する	文法 ①「把」構文 ②「連A都(也)B」	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと
6	第19課 試験	文法 ①複合方向補語「〜起来」 ②助詞「地」	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと
7	復習課 単元テスト1	・第14課〜第19課の復習 ・単元テスト1	事前に、第14課〜第19課を復習すること
8	第20課 コートを買う	文法 ①複文「既A、又B」 ②動量補語「一下兒」	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと
9	第21課 懇親会	文法 ①副詞「早就」 ②介詞「向〜」	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと
10	第22課 道を尋ねる	文法 ①「去〜怎麼走？」 ②介詞「往〜」	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと
11	第23課 九樂溝	文法 ①「就像〜一樣」 ②助動詞「得」	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと
12	第24課 兵馬俑	文法 ①動詞「建議」 ②介詞「通過〜」	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと
13	第25課 仕事を探す	文法 ①指示代名詞「這樣」 ②「不知道〜」	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと
14	第26課 見送り	文法 ①可能補語 ②「对〜來說」	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。 練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと
15	復習課 単元テスト2	・第20課〜第26課の復習 ・単元テスト2	事前に、第20課〜第26課の復習すること。

関連科目	中国語で読み解くⅡ、中国語で表現するⅡ、中国語で会話するⅡ 中国語で読み解くⅢ、中国語で表現するⅢ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	We Can 中国語	徐 送迎	朝日出版社
	2			

	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中日辞典 第3版	北京商務印書館・小学館	小学館
	2			
	3			
評価方法 (基準)	出席と課題の提出 50% テスト 50%で評価する。			
学生への メッセージ	教科書は必ず購入してください。購入していない者には単位が認定できません。 授業中の私語は他の受講生の迷惑になりますので、控えてください。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	授業の事前・事後に1時間の学習を要します。 単元テストは返却時、あるいは実施後の授業等で間違いの多かったところを復習し、必ずフィードバックを行います。			

科目名	スペイン語文法Ⅱ	科目名 (英文)	Spanish Grammar II
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	磯野 吉美
ディプロマポリシー (DP)	DP1△, DP6△		
科目ナンバリング	LDL2663e0		

授業概要・目的	スペイン語は、スペインやラテンアメリカを中心に、4億人を超える人びとが使い、20カ国の公用語となっている国際語です。国連の公用語でもあります。同じスペイン語圏でも歴史、文化、暮らしは多様で、地域差のある文化に親しんだり経験したりできる点は、スペイン語学習の醍醐味の一つといえます。この授業ではスペイン語文法Ⅰで学んだ基礎文法をさらに発展させます。直説法現在の動詞だけでなく直説法点過去、線過去、現在完了などを用いた文の構造を理解し、短文を正確に読み書きできる力を養います。
到達目標	スペイン語の基礎的な文法事項のうち、動詞の直説法現在の活用だけでなく直説法点過去、線過去、現在完了の活用を正確に身につけ、用法を理解したうえで適切に肯定文、否定文、疑問文を作ることができるようになることを目標とします。
授業方法と留意点	※この科目は「地域言語科目」のうち、1年後期開講のスペイン語の授業を履修している学生を対象とします。 教科書（文法Ⅰで使用した教科書）の前半を復習し、第14課までを学習範囲とし、練習問題を通じて理解を図る。 ・毎回予習したうえで授業に臨み、予習段階での疑問点をまとめておくこと。
科目学習の効果（資格）	・スペイン語の文法、語彙、発音の基礎を修得し、基本的な運用能力が身につく。 ・辞書の使用を含めて外国語の学習方法が身につく。 ・スペイン語検定5級

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 既習項目の復習	名詞の性・数、冠詞、hay+名詞、ser動詞、estar動詞、疑問文と否定文、形容詞、指示詞	教科書第1課～第5課に目を通していき、授業後には応用練習問題を解く。(1時間)
2	既習項目の復習	直説法現在の規則活用と不規則活用、目的格人称代名詞、所有形容詞の前置形と後置形	教科書6課～第8課に目を通していき、授業後には応用練習問題を解く。(1時間)
3	復習項目のテスト 第9課 Me llamo Maria.	復習項目のテスト実施と解説 再帰動詞の活用（直説法現在）と用法	直説法現在の活用を暗記する。第1課～第8課を復習しテストに備える。教科書第9課に目を通していき、授業後には応用練習問題を解く。(1時間)
4	第9課 Me llamo Maria. 第10課 Hemos llegado ahora.	seの受身、基数(21～99) 過去分詞の規則形と不規則形、過去分詞の形容詞的用法	教科書第9課と第10課に目を通していき、授業後には応用練習問題を解く。(1時間)
5	第10課 Hemos llegado ahora.	直説法現在完了の用法、時刻表現	教科書第10課に目を通していき、授業後には応用練習問題を解く。基数(1～30)を復習する。(1時間)
6	第9課と第10課のテスト	再帰動詞と直説法現在完了を用いた文の理解度確認と解説	テスト範囲の総復習とテスト後の見直し。(1時間)
7	第11課 Ayer comi con mis amigos.	直説法点過去の規則活用と用法	教科書第11課に目を通していき、授業後には応用練習問題を解く。直説法点過去の規則活用の復習。(1時間)
8	第11課 Ayer comi con mis amigos. 第12課 El fin de semana Maria y yo hicimos tortilla.	無人称表現、日付の表現、直説法点過去の不規則活用	教科書第11課と第12課に目を通していき、授業後には応用練習問題を解く。直説法点過去の不規則活用の復習。(1時間)
9	第12課 El fin de semana Maria y yo hicimos toritilla.	動詞 gustar、定冠詞の代名詞的用法	教科書第12課に目を通していき、授業後には応用練習問題を解く。間接目的格人称代名詞の復習。(1時間)
10	第11課と第12課のテスト	直説法点過去、動詞 gustar を用いた文の理解度確認と解説	テスト範囲の総復習とテスト後の見直し。(1時間)
11	第13課 Lo esperaba en un bar.	直説法線過去の活用と用法、曜日の表現、現在分詞	教科書第13課に目を通していき、授業後には応用練習問題を解く。(1時間)
12	第14課 Este ordenador es mejor.	形容詞と副詞の比較級、-menteの副詞、所有代名詞	教科書第14課に目を通していき、授業後には応用練習問題を解く。所有形容詞の後置形の復習。(1時間)
13	第13課と第14課のテスト	直説法線過去、現在分詞、比較級を用いた文の理解度確認と解説	テスト範囲の総復習とテスト後の見直し。(1時間)
14	総復習と難解な事項の質疑応答	学習範囲を丁寧に見直し、疑問点をすべて明らかにする。	学習した文法項目の総復習を行い、臨時試験に備える。(1時間)
15	臨時試験 臨時試験の解説	臨時試験の実施、返却、解説。学期を通じた理解度の確認と要点の復習	全学習範囲の総復習を行う。(1時間)

関連科目	スペイン語読解 スペイン語会話Ⅱ
------	------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	基礎から学ぼう！スペイン語 初級	西川 喬	朝日出版社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	西和辞典	高垣敏博ほか	小学館
2				
3				

評価方法（基準）	臨時試験（期末の試験と小テスト） 80%、課題 20%
----------	-----------------------------

学生への	・最初から間違えずにできる人はいません。何度かつまずき失敗から学ぶ姿勢が大切です。単語ひとつ、活用ひとつを大切に地道に修得して
------	---

メッセージ	<p>いきましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予習、復習、自習（教科書や授業以外での取り組み）が大事です。自分の学習ペースを身につけるように心掛けてください。 ・「覚える」ということに中高生の時以上に時間と労力を費やしてください。 <p>スペイン語は日本語話者にとって発音と聞き取りが容易な言語ですから、間違いを恐れず能動的に楽しく学ぶ姿勢を持ち続けることが大切です。</p>
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・事前・事後学習に要する総時間数は約15時間。 ・授業内で行う試験についてはすべて、返却後、解答の提示と解説を受ける。 ・毎回の授業の始めに、前回の学習内容に関する質問を準備しておき、解説を受ける。

科目名	スペイン語読解	科目名 (英文)	Spanish Reading
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	安達 直樹
ディプロマポリシー(DP)	DP1△, DP6△		
科目ナンバリング	LDL2664e0		

授業概要・目的	1年次後期に続き、スペイン語の基礎文法の知識を身につけ、それをもとに簡単な文章を読解する。語彙も正確に適切に使えるよう、ニュアンスを含めた語義解釈を文章理解を通して行う。
到達目標	モデルとなる文をしっかりと記憶し、語彙を変えるなどして、異なる文を作れるようになる。平明なスペイン語の文が読めるようになる。辞書を有効に使えるようになる。
授業方法と留意点	※この科目は「地域言語科目」のうち、1年後期開講のスペイン語の授業を履修している学生を対象とします。文や語彙を正確に覚えて（声でも文字でも）再現することを目指すため、毎回きちんと予習・暗記した状態で授業に臨むこと。
科目学習の効果 (資格)	すべての学習の基礎たる暗記・暗唱、予習・自習・復習を徹底すること。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	講義の説明	テキストを購入しておくこと 語句・文の意味を辞書で調べ覚える
2	第7課	目的格代名詞、gustar型動詞、不定語・否定語ほか	語句・文の意味を辞書で調べ覚える
3	第8課	語幹母音変化動詞、基数、時刻表現、従属節	語句・文の意味を辞書で調べ覚える
4	第7、8課 復習	第7、8課の内容	語句・文の意味を辞書で調べ覚える
5	第9課	過去分詞、現在完了、月名、曜日・日付の表現	語句・文の意味を辞書で調べ覚える
6	第10課	再帰動詞、seの受身、非人称表現、受動態ほか	語句・文の意味を辞書で調べ覚える
7	第9、10課 復習	第9、10課の内容	語句・文の意味を辞書で調べ覚える
8	筆記テスト 第7～10課の内容	第7～10課の内容 テスト後内容のフィードバック	語句・文の意味を辞書で調べ覚える
9	第11課	点過去、所有形容詞（後置形）、現在分詞、不定詞ほか	語句・文の意味を辞書で調べ覚える
10	第12課	点過去不規則活用動詞、序数、天候表現ほか	語句・文の意味を辞書で調べ覚える
11	第11、12課 復習	第11、12課の内容	語句・文の意味を辞書で調べ覚える
12	第13課	線過去、形容詞・副詞の比較級ほか	語句・文の意味を辞書で調べ覚える
13	第14課	過去完了、形容詞・副詞の最上級ほか	語句・文の意味を辞書で調べ覚える
14	筆記テスト	第11～14課までの学習内容 テスト前に第13、14課の復習	語句・文の意味を辞書で調べ覚える
15	テストの解説 本科目の振り返り	何がどこまで覚えられたか、できるようになったかを考える	語句・文の意味を辞書で調べ覚える

関連科目	スペイン語表現、その他のスペイン語科目
------	---------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	スペイン語パスポート	西川喬	弘学社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	(ポケット) プロGRESSIVE西和・和西辞典		小学館
	2			
	3			

評価方法 (基準)	暗記・暗唱の小テスト30% + 中間・期末の筆記テスト70%
-----------	--------------------------------

学生へのメッセージ	本科目は、よく読み、よく聴き、よく覚え、よく唱えることを基礎にします。
-----------	-------------------------------------

担当者の研究室等	安達研究室 (7号館5階)
----------	---------------

備考	授業内容および進捗は、あくまでも計画です。クラスの規模や理解度に応じて、随時計画を修正・変更します。事前・事後学習の総時間数は、15時間以上を要する。辞書を用意すること (ここに挙げたものをはじめ、初回授業時にいくつか紹介する)。
----	---

科目名	スペイン語会話Ⅱ	科目名 (英文)	Spanish Conversation II
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	モンセラート ロイデ
ディプロマポリシー (DP)	DP1△, DP6△		
科目ナンバリング	LDL2665e0		

授業概要・目的	学びつつある文法の知識を活かしながら、日常的によく使う表現をまずは身につける。スペイン語を聞きとり、自分から積極的に話しかけることを実践する この授業ではスペイン語の基本的な単語を覚え、聴く・話すことに重点をおいて授業を進める。
到達目標	スペイン語で日常の簡単な会話ができるようになる。スペイン語独特のリズムに慣れ、基本的な動詞を適切に活用させて簡単な問いかけや応答ができるようになることをめざす。
授業方法と留意点	※この科目は「地域言語科目」のうち、1年後期開講のスペイン語の授業を履修している学生を対象とします。 第5課から第12課まで学習する予定です。受講にあたっては教科書、配布されたプリント等を持参すること。ただし、以下の授業計画は目安であり、受講生の理解度により進度を調整する。

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	前期で学習内容の確認 第5課 (前半)	前期で学習したことの確認	授業前に前期で学習したことを総復習しておくこと 授業後は動詞の活用の確認
2	前期で学習内容の確認 第5課 (前半)	前期で学習したことの確認	授業前に前期で学習したことを総復習しておくこと 授業後は動詞の活用の確認
3	5課 La familia	指示詞 2 所有 2 動詞 Tener 数字 30-100 人の記述 家族の紹介	ご家族について話すこと 人の性格や案姿について話すこと 会話文を声に出して繰り返し練習する
4	第6課 En vacaciones voy a ir a...	Hay と Estar の用法 動詞 Ir, querer, tener que 月と季節 有名な場所 旅の計画 理由と目的	有名な場所について話す。場所ややりたい生活について情報をやり取りする 旅の計画や簡単な行程について皆の前に話す
5	第6課 En vacaciones voy a ir a...	Hay と Estar の用法 動詞 Ir, querer, tener que 月と季節 有名な場所 旅の計画 理由と目的	有名な場所について話す。場所ややりたい生活について情報をやり取りする 旅の計画や簡単な行程について皆の前に話す
6	第7課 Me gusta mucho la musica... Y a ti?	前置詞を伴う人称代名詞 好みの一致と不一致 動詞 Gustar, Encantar, Interesar 予定と招待	好み、趣味、興味について話す 計画と義務について話す イベントについて話す 会話文を声に出して繰り返し練習する
7	第7課 Me gusta mucho la musica... Y a ti?	前置詞を伴う人称代名詞 好みの一致と不一致 動詞 Gustar, Encantar, Interesar 予定と招待	好み、趣味、興味について話す 計画と義務について話す イベントについて話す 会話文を声に出して繰り返し練習する
8	復習 小テスト 『オラル』	第5課 から第7課までに学習した文法や 語彙・会話・表現の確認期末試験	授業前に第5課 から第7課までに学習した文法および語彙、会話での表現を総確認しておくこと
9	第8課 De compras	不規則活用する動詞 1 直接目的人称代名詞 数字 100-1000000 序数 不定詞 買い物の語彙	市場や店頭について話す。 会話文を声に出して繰り返し練習する
10	第8課 De compras	不規則活用する動詞 1 直接目的人称代名詞 数字 100-1000000 序数 不定詞 買い物の語彙	市場や店頭について話す。 会話文を声に出して繰り返し練習する
11	第9課 A comer!	直接目的人称代名詞と間接目的人称代名詞 動詞 Saber Poder 動詞 Ser / Estar + 形容詞 料理、食べ物、飲み物の語彙	食べたいもの飲みたいものを話す。 会話文を声に出して繰り返し練習する
12	第9課 A comer!	直接目的人称代名詞と間接目的人称代名詞 動詞 Saber Poder 動詞 Ser / Estar + 形容詞 料理、食べ物、飲み物の語彙	食べたいもの飲みたいものを話す。 会話文を声に出して繰り返し練習する
13	第10課 Los mexicanos se levantan pronto	代名動詞 天気 日常生活 日本や他の国々の習慣	1日の生活について話す 天候について話す スペイン、ラテンアメリカ、日本の日常生活について話す 会話文を声に出して繰り返し練習する
14	第10課 Los mexicanos se levantan pronto	代名動詞 天気 日常生活 日本や他の国々の習慣	1日の生活について話す 天候について話す スペイン、ラテンアメリカ、日本の日常生活について話す 会話文を声に出して繰り返し練習する
15	期末試験 『オラル』	後期に学習した文法や語彙・会話・表現の確認期末試験	授業前に後期に学習した文法や語彙 会話や表現を総確認しておくこと。

関連科目	スペイン語文法Ⅱ
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	『Muy Bien! 1(いいね!スペイン語)』	Juan Carlos Moyano Lopez, Carlos Garcia Ruiz- Castillo, Yoshimi Hiroyasu	朝日出版
2				

	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<p>課題への取り組み姿勢、スペイン語の課題の質および語彙力によって総合的に評価する。 授業における課題(50%) 期末試験 『オラル』(50%)から総合的に評価する。 Tareas y participacion (50%) Examen oral final (50%)</p>			
学生への メッセージ	<p>スペイン語は日本語話者にとって聞き取りも発話もとても簡単な言語です。教員とも同級生とも積極的に 対話してください。 授業中は間違いを恐れず、スペイン語で積極的に発言すること。疑問点があれば何なりと質問し、理解で きるまで説明を求めること。</p>			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	<p>事前・事後学習の総時間数として15時間以上を要する。 毎回の授業の始めに、前回の学習内容に関する質問を受け付けフィードバックを行う。 試験の後、時間中に解説を行う。</p>			

科目名	スペイン語圏社会講読 (南欧)	科目名 (英文)	Readings on the Spanish-Speaking World (Southern Europe)
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	林 安紀子
ディプロマポリシー (DP)	DP1△, DP6△		
科目ナンバリング	LDL2666e0		

授業概要・目的	スペインを中心とする南欧の文化、地理、社会についてスペイン語で読みながら知識を得る。主に新聞やインターネット上の記事、エッセイ、評論などの読解を通して、南欧の社会問題を考える。
到達目標	スペイン語の文法知識が深まり、長文の内容を正確に読み解くことができる。語彙を修得し、辞書の使用で比較的平易な文章の内容が理解できる。
授業方法と留意点	※この科目は「地域言語科目」のうち、1年後期、2年前期開講のスペイン語の授業を履修している学生を対象とする。事前に配布されたプリントを、辞書を使い自力で訳す。受講生の理解度によっては、授業内容を変更する可能性もある。
科目学習の効果 (資格)	スペイン語検定 5～6級

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション 文法の復習	授業概要の説明 文法事項の復習	1年後期、2年前期に学習したスペイン語の文法を見直しておく
	2	地理、歴史 (1)	西文の読解	事前に配布されたプリントに目を通し、指定された箇所を和訳しておく 語彙の整理
	3	地理、歴史 (2)	西文の読解	事前に配布されたプリントに目を通し、指定された箇所を和訳しておく 語彙の整理
	4	地理、歴史 (3)	西文の読解	事前に配布されたプリントに目を通し、指定された箇所を和訳しておく 語彙の整理
	5	文化 (1)	西文の読解	事前に配布されたプリントに目を通し、指定された箇所を和訳しておく 語彙の整理
	6	文化 (2)	西文の読解	事前に配布されたプリントに目を通し、指定された箇所を和訳しておく 語彙の整理
	7	文化 (3)	西文の読解	事前に配布されたプリントに目を通し、指定された箇所を和訳しておく 語彙の整理
	8	前半のまとめ	既習項目の確認	前半の復習
	9	世界遺産 (1)	西文の読解	事前に配布されたプリントに目を通し、指定された箇所を和訳しておく 語彙の整理
	10	世界遺産 (2)	西文の読解	事前に配布されたプリントに目を通し、指定された箇所を和訳しておく 語彙の整理
	11	世界遺産 (3)	西文の読解	事前に配布されたプリントに目を通し、指定された箇所を和訳しておく 語彙の整理
	12	社会問題 (1)	西文の読解	事前に配布されたプリントに目を通し、指定された箇所を和訳しておく 語彙の整理
	13	社会問題 (2)	西文の読解	事前に配布されたプリントに目を通し、指定された箇所を和訳しておく 語彙の整理
	14	社会問題 (3)	西文の読解	事前に配布されたプリントに目を通し、指定された箇所を和訳しておく 語彙の整理
	15	総まとめ	既習項目の確認	総復習

関連科目	全てのスペイン語関連の科目
------	---------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	プリント配布		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	西和中辞典	高垣敏博ほか	小学館
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業への参加度、予習、復習 50% 中間、確認テスト 50%
-----------	-----------------------------------

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	事前・事後学習の総時間数として15時間以上を要す。
----	---------------------------

科目名	スペイン語圏社会講読 (ラテンアメリカ)	科目名 (英文)	Readings on the Spanish-Speaking World (Latin America)
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	北條 ゆかり
ディプロマポリシー (DP)	DP1Δ, DP6Δ		
科目ナンバリング	LDL2667e0		

授業概要・目的	ラテンアメリカの豊かな歴史、文化、社会、人びとの暮らしなどについて、スペイン語で読みながら知識を得る。報道記事や評論、ときには文学作品の一部の読解を通して、ラテンアメリカの社会問題を考える。
到達目標	スペイン語の文法知識が深まり、まとまりのある文章内容を正確に理解することができる。辞書の助けを得れば平易な文章を読みこなせるようになる。
授業方法と留意点	※この科目は「地域言語科目」のうち、1年後期、2年前期開講のスペイン語の授業を履修している学生を対象とします。クラスの規模や習熟度に応じて授業計画を適宜修正することがあります。
科目学習の効果 (資格)	スペイン語技能検定 5～6級

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	地理・歴史 (1)	スペイン語文の読解とテーマの解説	事前に配布された資料に目を通し、指定された箇所を和訳しておく 語彙の整理
3	地理・歴史 (2)	スペイン語文の読解とテーマの解説	事前に配布された資料に目を通し、指定された箇所を和訳しておく 語彙の整理
4	地理・歴史 (3)	スペイン語文の読解とテーマの解説	事前に配布された資料に目を通し、指定された箇所を和訳しておく 語彙の整理
5	文化 (1)	スペイン語文の読解とテーマの解説	事前に配布された資料に目を通し、指定された箇所を和訳しておく 語彙の整理
6	文化 (2)	スペイン語文の読解とテーマの解説	事前に配布された資料に目を通し、指定された箇所を和訳しておく 語彙の整理
7	文化 (3)	スペイン語文の読解とテーマの解説	事前に配布された資料に目を通し、指定された箇所を和訳しておく 語彙の整理
8	前半のまとめ	既習内容の確認	前半の復習
9	世界遺産 (1)	スペイン語文の読解とテーマの解説	事前に配布された資料に目を通し、指定された箇所を和訳しておく 語彙の整理
10	世界遺産 (2)	スペイン語文の読解とテーマの解説	事前に配布された資料に目を通し、指定された箇所を和訳しておく 語彙の整理
11	世界遺産 (3)	スペイン語文の読解とテーマの解説	事前に配布された資料に目を通し、指定された箇所を和訳しておく 語彙の整理
12	社会問題 (1)	スペイン語文の読解とテーマの解説	事前に配布された資料に目を通し、指定された箇所を和訳しておく 語彙の整理
13	社会問題 (2)	スペイン語文の読解とテーマの解説	事前に配布された資料に目を通し、指定された箇所を和訳しておく 語彙の整理
14	社会問題 (3)	スペイン語文の読解とテーマの解説	事前に配布された資料に目を通し、指定された箇所を和訳しておく 語彙の整理
15	総まとめ	既習内容の確認	総復習

関連科目	すべてのスペイン語関連の科目
------	----------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	教材資料を配布		
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ポケット・プログレッシブ西和・和西辞典	高垣敏博ほか	小学館
2				
3				

評価方法 (基準)	授業への参加度、予復習 50%、中間、期末の臨時試験 50%
-----------	--------------------------------

学生へのメッセージ	これからも長く使える辞書としては、『西和中辞典』(高垣敏博ほか、小学館)を強くお勧めします。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館5階 北條研究室
----------	-------------

備考	事前・事後学習の総時間数として15時間以上を要す。
----	---------------------------

科目名	スペイン語文章構成	科目名 (英文)	Spanish Composition
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	林 安紀子
ディプロマポリシー (DP)	DP1△, DP6△		
科目ナンバリング	LDL2668e0		

授業概要・目的	文の要素と構造を正しく理解することを通して、スペイン語で作文することを学ぶ。 文法の精度を高めながら、論理的な文章になるよう推敲を重ねる。 モデルとなる文章を分析し、その暗記と模倣をもとにスペイン語の文構築が正確に出来る力を養う。
到達目標	基本文型を理解し、正確なスペイン語での文章表現ができる。 語彙力を高め、多様な表現を作ることができる。
授業方法と留意点	※この科目は「地域言語科目」のうち、1年後期、2年前期開講のスペイン語の授業を履修している学生を対象とする。 和西辞典は必須です。必ず購入し、事前学習で使用すること。 必ず与えられた練習問題を解いたうえで授業に臨み、スペイン語の文の構造と構文についての理解を深める。 受講生の理解度によっては、授業計画の進捗が変更する可能性がある。

科目学習の効果 (資格)	スペイン語検定 6 級
--------------	-------------

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション 文法の復習	授業の概要についての説明 直説法現在形、直説法現在完了の復習	テキストを購入しておく 1年後期、2年前期に学習したスペイン語の文法を見直しておく
2	ser, estar, haber, 冠詞 (1)	和文西訳	テキストの解説を読み、練習問題を西訳しておくこと 語彙の整理
3	ser, estar, haber, 冠詞 (2)	和文西訳	テキストの解説を読み、練習問題を西訳しておくこと 語彙の整理
4	一般の動詞 (1)	和文西訳	テキストの解説を読み、練習問題を西訳しておくこと 語彙の整理
5	一般の動詞 (2)	和文西訳	テキストの解説を読み、練習問題を西訳しておくこと 語彙の整理
6	形容詞と副詞 (1)	和文西訳	テキストの解説を読み、練習問題を西訳しておくこと 語彙の整理
7	形容詞と副詞 (2)	和文西訳	テキストの解説を読み、練習問題を西訳しておくこと 語彙の整理
8	前半のまとめ	既習項目の復習	前半の復習
9	間違えやすい品詞 (1)	和文西訳	テキストの解説を読み、練習問題を西訳しておくこと 語彙の整理
10	間違えやすい品詞 (2)	和文西訳	テキストの解説を読み、練習問題を西訳しておくこと 語彙の整理
11	代名詞 (1)	和文西訳	テキストの解説を読み、練習問題を西訳しておくこと 語彙の整理
12	代名詞 (2)	和文西訳	テキストの解説を読み、練習問題を西訳しておくこと 語彙の整理
13	代名詞 se, 再帰代名詞, gustar 型動詞 (1)	和文西訳	テキストの解説を読み、練習問題を西訳しておくこと 語彙の整理
14	代名詞 se, 再帰代名詞, gustar 型動詞 (2)	和文西訳	テキストの解説を読み、練習問題を西訳しておくこと 語彙の整理
15	これまでの学習内容の確認	既習項目の復習	総復習

関連科目	全てのスペイン語関連の科目
------	---------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	スペイン語作文初級コース	木村琢也、中西智恵美	同学社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	西和中辞典	高垣敏博ほか	小学館
2	和西辞典	小池和良ほか	小学館	
3	ポケットプログレッシブ西和・和西辞典	高垣敏博ほか	小学館	

評価方法 (基準)	授業への参加度、予習、復習 50% 中間、確認テスト 50%
-----------	-----------------------------------

学生へのメッセージ	主語と動詞、形容詞や副詞といった品詞の使い方、文型をよく理解することが大切です。これらにこだわって取り組んでください。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	授業スケジュールやテーマは一応の目安であり、状況により変更が生じ得る。 事前・事後学習に要する総時間数は約15時間。

科目名	総合インドネシア語	科目名 (英文)	Comprehensive Indonesian
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	浦野 崇央
ディプロマポリシー(DP)	DP1△, DP6△		
科目ナンバリング	LDL2673e0		

授業概要・目的	<p>これまでに学んだインドネシア語 (Bahasa Indonesia) の基礎的運用能力を踏まえ、総合的な運用能力の一層の向上を目指す。授業では、あらゆる文体の文章を取り上げ、幅広く「生きた」インドネシア語の「読む・書く・聴く・話す」の能力を高めていく。</p>			
到達目標	<p>インドネシア語運用能力のスキルアップが可能となる。</p>			
授業方法と留意点	<p>授業で取り上げる文章はプリント教材を準備するので、予習や復習をしっかりとこなすこと。 授業時にはインドネシア語辞書を必ず携帯すること。 授業内で実施する中間テストや最終テストの総括や学んだ事項に関する質問については、授業時間中にフィードバックする。</p> <p>※この科目は「地域言語科目」のうち、1年後期・2年前期開講のインドネシア語の授業を履修している学生を対象とします。</p>			
科目学習の効果 (資格)	<p>インドネシア語技能検定試験</p>			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	基礎力確認演習①	既習事項の復習を行い、インドネシア語基礎的な運用能力を確認する。	学んだことについての復習をすること (1時間程度)。
	2	基礎力確認演習②	既習事項を踏まえた単文の講読や作文を行い、インドネシア語基礎的な運用能力を確認する。	学んだことについての復習をすること (1時間程度)。
	3	基礎力確認演習③	受動文や能動文の構文を復習し、インドネシア語基礎的な運用能力を確認する。	学んだことについての復習をすること (1時間程度)。
	4	会話文演習①	会話文の講読や作文を通じて、実践的なインドネシア語のスキルアップを図る。	プリント教材を予習し、学んだことについての復習をすること (1時間程度)。
	5	会話文演習②	会話文の講読や作文を通じて、実践的なインドネシア語のスキルアップを図る。	プリント教材を予習し、学んだことについての復習をすること (1時間程度)。
	6	短編小説に触れる①	簡単な短編小説の講読を通じて、あらゆる表現法を学ぶ。	プリント教材を予習し、学んだことについての復習をすること (1時間程度)。
	7	短編小説に触れる②	短編小説の講読を通じて、あらゆる表現法を学ぶ。	プリント教材を予習し、学んだことについての復習をすること (1時間程度)。
	8	復習	これまでに学んだことを復習し、中間テスト実施する。それにより、自身のインドネシア語運用能力を再確認する。	これまでに学んだことの復習をすること (1時間程度)。
	9	インドネシアの教科書に触れる①	インドネシアで実際に使用されている教科書の講読を通じて、インドネシア語のスキルアップを図ると同時にインドネシアの教育事情について学ぶ。	プリント教材を予習し、学んだことについての復習をすること (1時間程度)。
	10	インドネシアの教科書に触れる②	インドネシアで実際に使用されている教科書の講読を通じて、インドネシア語のスキルアップを図ると同時にインドネシアの教育事情について学ぶ。	プリント教材を予習し、学んだことについての復習をすること (1時間程度)。
	11	インドネシアの教科書に触れる③	インドネシアで実際に使用されている教科書の講読を通じて、インドネシア語のスキルアップを図ると同時にインドネシアの教育事情について学ぶ。	プリント教材を予習し、学んだことについての復習をすること (1時間程度)。
	12	エッセイに触れる①	インドネシア人の書いたエッセイの講読を通じて、ものの考え方や表現法について学ぶ。	プリント教材を予習し、学んだことについての復習をすること (1時間程度)。
	13	エッセイに触れる②	インドネシア人の書いたエッセイの講読を通じて、ものの考え方や表現法について学ぶ。	プリント教材を予習し、学んだことについての復習をすること (1時間程度)。
	14	ことわざの文章	インドネシア語のことわざを知り、その概念を通じて、インドネシア文化に触れる。	プリント教材を予習し、学んだことについての復習をすること (1時間程度)。
	15	総復習とまとめ	これまでに学んだことの総復習を行い、最終テストを実施する。	これまでに学んだことの復習を行うこと (1時間程度)。
関連科目	インドネシア語科目すべて			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	プログレッシブインドネシア語辞典	舟田京子・高殿良博・左藤正範編	小学館
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	2回の復習テスト [中間テスト・最終テスト] (80%)、授業への取り組み姿勢 (20%) 詳細は初回授業で指示する。			
学生へのメッセージ	インドネシア語をモノにするために一生懸命に取り組みましょう。			
担当者の	7号館4階 浦野研究室			

研究室等	
備考	

科目名	インドネシア語表現Ⅱ	科目名 (英文)	Indonesian Expressions II
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	金子 正徳
ディプロマポリシー (DP)	DP1Δ, DP6Δ		
科目ナンバリング	LDL2674e0		

授業概要・目的
本講義は、インドネシア語の基礎的な運用能力を既に習得している学生を対象とし、日常生活レベルでの、インドネシア語によるフォーマル/インフォーマルな表現能力の修得を学修の到達目標とする。
インドネシア語で書かれた短い物語や簡単な雑誌記事などの読解、フォーマルな招待状や短いレポートなどのインドネシア語での作文、個別課題によるインドネシア語での情報収集及びプレゼンテーションに取り組むことで、実践的に表現力を養成する。

到達目標
日常生活レベルでの、インドネシア語によるフォーマル/インフォーマルな表現能力の修得。

授業方法と留意点
※この科目は「地域言語科目」のうち、1年後期開講のインドネシア語の授業を履修している学生を対象とします。
基本的には講義形式で行うが、都度グループワークをすることで学習内容の定着を図る。
本講義は独自教材を用いる (各回配布)。
授業時に課した課題については授業内でフィードバックを行う。

科目学習の効果 (資格)
インドネシア語技能検定試験 E 級に合格可能な知識を得る。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	はじめに	授業の進め方について説明するとともに、インドネシアの社会と文化についての概要を学ぶ。	事後に学習内容を復習する。
2	読解 (その1)	インドネシア語で書かれた絵本を読む。	事前に前回の学習内容を復習する。 事後に当日の学習内容を復習する。
3	読解 (その2)	インドネシア語で書かれた絵本を読む。	事前に前回の学習内容を復習する。 事後に当日の学習内容を復習する。
4	読解 (その3)	インドネシア語で書かれた絵本を読む。	事前に前回の学習内容を復習する。 事後に当日の学習内容を復習する。
5	動画で学ぶインドネシア文化 (1)	伝統文化に関わる動画の内容を聞き取りながら、インドネシア文化を学ぶ	事前に前回の学習内容を復習する。 事後に当日の学習内容を復習する。
6	動画で学ぶインドネシア文化 (2)	伝統文化に関わる動画の内容を聞き取りながら、インドネシア文化を学ぶ	事前に前回の学習内容を復習する。 事後に当日の学習内容を復習する。
7	動画で学ぶインドネシア文化 (3)	伝統文化に関わる動画の内容を聞き取りながら、インドネシア文化を学ぶ	事前に前回の学習内容を復習する。 事後に当日の学習内容を復習する。
8	インドネシアのライフスタイル (1)	ライフスタイルに関わる易しいニュース記事を読む 小テストを実施する	事前に前回の学習内容を復習する。 事後に当日の学習内容を復習する。
9	インドネシアのライフスタイル (2)	ライフスタイルに関わる易しいニュース記事を読む	事前に前回の学習内容を復習する。 事後に当日の学習内容を復習する。
10	インドネシアのライフスタイル (3)	ライフスタイルに関わる易しいニュース記事を読む	事前に前回の学習内容を復習する。 事後に当日の学習内容を復習する。
11	インドネシア語で情報収集 (1)	グループでテーマを決めてインドネシア語で情報収集	事前に前回の学習内容を復習する。 事後に当日の学習内容を復習する。
12	インドネシア語で情報収集 (2)	グループでテーマを決めてインドネシア語で情報収集	事前に前回の学習内容を復習する。 事後に当日の学習内容を復習する。
13	インドネシア語でプレゼンテーション	集めた情報をもとにグループで発表	事前に前回の学習内容を復習する。 事後に当日の学習内容を復習する。
14	映画のあらすじを読む	インドネシア映画のあらすじを訳してみる	事前に前回の学習内容を復習する。 事後に当日の学習内容を復習する。
15	まとめとテスト	これまでの学習の総合的な振り返りを行う。 到達度確認テストを行う。	事後にこれまでの学習内容を復習する。

関連科目
「諸言語論講」(1年次前期)、「インドネシア語文法」(1年次後期)、「インドネシア語会話Ⅰ」(1年次後期)、「インドネシア語表現Ⅰ」(1年次後期)、「インドネシア語会話Ⅱ」(2年次前期)、「総合インドネシア語」(2年次前期)、「総合マレー語」(2年次後期)

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ニューエクスプレス+インドネシア語	降幡正志・原真由子	白水社
2				
3				

評価方法 (基準)
平常点 20%、課題 30%、到達度確認テスト 50%
詳細は初回授業で指示する。

学生へのメッセージ
インドネシア語を学ぶと、世の中の動きをこれまでとは別の角度から読み解いていくことができます。
すでに1年生の時に経験しているようにインドネシア語はとても学びやすい言語なので、ぜひ楽しみながら学んでください。

担当者の研究室等
7号館5階金子研究室

備考
予習・復習は「授業計画」の「事前・事後学習課題」に従い、計15時間以上行うこと。

科目名	インドネシア語会話Ⅱ	科目名 (英文)	Indonesian Conversation II
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	エニ レスタリ
ディプロマポリシー (DP)	DP1△, DP6△		
科目ナンバリング	LDL2675e0		

授業概要・目的	これまでのインドネシア語学修通じて獲得した、単語力や文法を理解を踏まえインドネシア語によるコミュニケーション能力を一層高めることを目的とする。授業では旅行や日常生活などあらゆる場面を想定しシーンに応じたふさわしい自然な会話出来るように実践練習を行っていく。
到達目標	インドネシアの様々な生活習慣や文化が理解できる。 日常会話のように自然な会話ができる。
授業方法と留意点	この科目は「地域言語科目」の内、1年後期開講のインドネシア語の授業を履修している学生を対象とします。 この科目はの授業方法は、各授業に一つのテーマの会話を行います。 授業時に課した課題については授業内でフィードバックを行う。

科目学習の効果 (資格)

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	インドネシアへ行く①	空港から飛行機に乗るまでの会話。CDを聞いて会話の実践練習を行う。	聞き取り会話練習・新しい単語収集
2	インドネシアへ行く②	アテンダントとの会話。CDを聞いて、会話の実践練習を行う。	聞き取り会話練習・新しい単語収集
3	インドネシアへ行く③	機内で買い物の会話。CDを聞いて会話の実践練習を行う。	聞き取り会話練習・新しい単語収集
4	インドネシアに上陸する①	到着ビザを取得する会話。CDを聞いて会話の実践練習をおこなう。	聞き取り会話練習・新しい単語収集
5	インドネシアに上陸する②	入国管理局にての会話。CDを聞いて会話の実践練習を行う。	聞き取り会話練習・新しい単語収集
6	インドネシアに上陸する③	スーツケース紛失の場面。CDを聞いて会話の実践練習を行う。	聞き取り会話練習・新しい単語収集
7	インドネシアに上陸する④	税関にて。CDを聞いて会話の実践練習を行う。	聞き取り会話練習・新しい単語収集
8	第1回目～7回目の実践会話テスト	第1回目～7回目の実践会話テストを行う。	聞き取り会話練習・新しい単語収集
9	ホテルに泊まる①	ホテルを予約する。CDを聞いて会話の実践練習を行う。	聞き取り会話練習・新しい単語収集
10	ホテルに泊まる②	ホテルに到着する。CDを聞いて会話の実践練習を行う。	聞き取り会話練習・新しい単語収集
11	ホテルに泊まる③	クリーニングを頼む。CDを聞いて会話の実践練習を行う。	聞き取り会話練習・新しい単語収集
12	ホテルに泊まる④	現地ツアーに参加するの予約。CDを聞いて会話の実践練習を行う。	聞き取り会話練習・新しい単語収集
13	電話をかける①	会う約束のための電話。CDを聞いて会話の実践練習を行う。	聞き取り会話練習・新しい単語収集
14	電話をかける②	電話で料理を注文する。CDを聞いて会話の実践練習を行う。	聞き取り会話練習・新しい単語収集
15	第9回目～14回目の実践会話のテスト	第9回目～14回目の全ての内容を実践会話テストを行う。	聞き取り会話練習・新しい単語収集

関連科目 インドネシア語関連の諸科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	インドネシア語スピーキング	ホラス由美子	三修社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業参加及び積極的なクラス活動：70% 実践会話テスト：30% 詳細は初回授業で指示する。
学生へのメッセージ	出来る限り挨拶から日常的な会話はインドネシア語で話しましょう。
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	連絡方法は初回授業時に通知する。

科目名	総合マレー語	科目名 (英文)	Comprehensive Malay
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	上田 達
ディプロマポリシー (DP)	DP1△, DP6△		
科目ナンバリング	LDL2676e0		

授業概要・目的	本講義はマレーシアなどで話されるマレー語 (Bahasa Melayu) の基礎的な運用能力の習得を目指す。インドネシア語とマレー語は相互に意思疎通が可能ほどに近い言葉であるが、歴史的背景の違いや社会構成の違いから、異なる点を多く含む。本講義ではインドネシア語との相違に適宜言及しつつ、実際にマレー語に触れる機会を多く持つことで、マレー語学習の礎を築くことを目指す。			
到達目標	インドネシア語とマレー語の違いを知る マレー語の運用能力の基礎を得ることができる。			
授業方法と留意点	この科目は「地域言語科目」のうち、1年後期開講のインドネシア語の授業を履修している学生を対象とします。確認テストの他にも課題を出すので、予習と復習をしっかりと行うこと。授業の進め方の詳細は初回授業画指示する。授業時に課した課題については授業内でフィードバックを行う。			
科目学習の 効果 (資格)				
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	講義概要および講義の進め方について説明する。マレー語がどのような国で話され、どのような歴史的背景をもつ言語であるのかを概説する。	練習問題に取り組むこと。
	2	あいさつ、呼びかけ	マレー語の挨拶について学習する。	該当箇所の予習と、既習事項の練習問題
	3	単語、綴り、発音 1	語彙と発音に注目しながら、マレー語の特徴を概説する。	該当箇所の予習と、既習事項の練習問題
	4	単語、綴り、発音 2	語彙と発音に注目しながら、マレー語の特徴を概説する。	該当箇所の予習と、既習事項の練習問題
	5	表現	マレー語独特の言い回しについて解説する。	該当箇所の予習と、既習事項の練習問題
	6	文法 1	マレー語の名詞について解説する。	該当箇所の予習と、既習事項の練習問題
	7	文法 2	マレー語の形容詞について解説する。	該当箇所の予習と、既習事項の練習問題
	8	復習 1	既習事項 (表現、語彙) について復習するとともに、理解度を問うための確認テストを行う。	既習事項の確認
	9	文法 3	マレー語の動詞について解説する。	該当箇所の予習と、既習事項の練習問題
	10	文法 4	マレー語の動詞について解説する。	該当箇所の予習と、既習事項の練習問題
	11	文法 5	マレー語の動詞について解説する。	該当箇所の予習と、既習事項の練習問題
	12	演習 1	既習事項をふまえてマレー語で自己紹介文を作成する。	該当箇所の予習と、既習事項の練習問題
	13	演習 2	マレーシアの小学生程度を読者に想定した簡単なマレー語文を講読する。	該当箇所の予習と、既習事項の練習問題
	14	復習 2	既習事項 (発音、文法、表現、語彙) について復習する。	既習事項の確認
15	総合復習	理解度を問うための確認テストを行う。確認テストに対する講評と、既習事項についてのフォローアップを行う。	確認テストのための復習に取り組むこと。	
関連科目	インドネシア語関連のすべての授業 エリアスタディーズ (東南アジア)			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	旅の指さし会話帳 15 マレーシア	戸加里康子	情報センター出版局
	2			
	3			
評価方法 (基準)	理解度の確認課題 (70%)、提出物等の授業への取り組み (30%) から評価する。詳細は一回目の授業時に指示する。			
学生への メッセージ	わからないことがあれば、いつでも質問してください。			
担当者の 研究室等	7号館5階 (上田研究室)			
備考	事前・事後学習の総時間数は、15時間以上とする。 連絡方法は初回授業時に通知する。			

科目名	実践インドネシア語	科目名 (英文)	Practical Indonesian
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	金子 正徳
ディプロマポリシー (DP)	DP1△, DP6△		
科目ナンバリング	LDL2677e0		

授業概要・目的	本講義は、日常生活レベルでの、インドネシア語によるフォーマル/インフォーマルな表現能力を習得している学生を対象とし、インドネシア語で社会生活を送る上で必要不可欠な表現能力の修得を学修の到達目標とする。文化・社会・政治・経済等の多様な分野のインドネシア語の新聞記事や論説などの読解のほか、個別課題によるインドネシア語での情報収集、グループ・ディスカッション、及びプレゼンテーションなどを取り入れることで、実践的にインドネシア語の運用能力を養成する。
到達目標	インドネシア語で社会生活を送る上で必要不可欠な表現能力の修得。
授業方法と留意点	※この科目は「地域言語科目」のうち、1年後期、2年前期開講のインドネシア語の授業を履修している学生を対象とします。 基本的に講義形式で行う。 資料は各回配布する。 授業時に課した課題については授業内でフィードバックを行う。
科目学習の効果 (資格)	インドネシア語技能検定試験 D 級、C 級

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	はじめに	授業の進め方、学習上の注意点など	指示した資料に目を通す。
2	ライフスタイルに関する新聞記事を読む (1)	ファッションに関するインドネシア語の平易な記事を読む	事前学習：前回学んだ内容を復習するとともに、テーマに関する単語を予習する 事後学習：今回学んだ内容を整理し、復習する
3	ライフスタイルに関する新聞記事を読む (2)	グルメツアーに関するインドネシア語の平易な記事を読む	事前学習：前回学んだ内容を復習するとともに、テーマに関する単語を予習する 事後学習：今回学んだ内容を整理し、復習する
4	ライフスタイルに関する新聞記事を読む (3)	海外旅行に関するインドネシア語の平易な記事を読む	事前学習：前回学んだ内容を復習するとともに、テーマに関する単語を予習する 事後学習：今回学んだ内容を整理し、復習する
5	ライフスタイルに関する新聞記事を読む (4)	アウトドアに関するインドネシア語の平易な記事を読む	事前学習：前回学んだ内容を復習するとともに、テーマに関する単語を予習する 事後学習：今回学んだ内容を整理し、復習する
6	ライフスタイルに関する新聞記事を読む (5)	映画に関するインドネシア語の平易な記事を読む	事前学習：前回学んだ内容を復習するとともに、テーマに関する単語を予習する 事後学習：今回学んだ内容を整理し、復習する
7	ライフスタイルに関する新聞記事を読む (6)	日本のアニメに関するインドネシア語の平易な記事を読む	事前学習：前回学んだ内容を復習するとともに、テーマに関する単語を予習する 事後学習：今回学んだ内容を整理し、復習する
8	振り返り学習	これまでに学んだ内容を振り返るとともに、インドネシア語能力に関する小テストを行う。	事前学習：前回学んだ内容を復習するとともに、テーマに関する単語を予習する 事後学習：今回学んだ内容を整理し、復習する
9	政治・経済・社会に関する記事を読む (1)	SDGs に関するインドネシア語の平易な記事を読む	事前学習：前回学んだ内容を復習するとともに、テーマに関する単語を予習する 事後学習：今回学んだ内容を整理し、復習する
10	政治・経済・社会に関する記事を読む (2)	ジャカルタの都市政策に関するインドネシア語の平易な記事を読む	事前学習：前回学んだ内容を復習するとともに、テーマに関する単語を予習する 事後学習：今回学んだ内容を整理し、復習する
11	政治・経済・社会に関する記事を読む (3)	ジョグジャカルタの文化に関するインドネシア語の平易な記事を読む	事前学習：前回学んだ内容を復習するとともに、テーマに関する単語を予習する 事後学習：今回学んだ内容を整理し、復習する
12	政治・経済・社会に関する記事を読む (4)	貧困問題に関するインドネシア語の平易な記事を読む	事前学習：前回学んだ内容を復習するとともに、テーマに関する単語を予習する 事後学習：今回学んだ内容を整理し、復習する
13	政治・経済・社会に関する記事を読む (5)	「起業」に関するインドネシア語の平易な記事を読む	事前学習：前回学んだ内容を復習するとともに、テーマに関する単語を予習する 事後学習：今回学んだ内容を整理し、復習する
14	政治・経済・社会に関する記事を読む (6)	交通に関するインドネシア語の平易な記事を読む	事前学習：前回学んだ内容を復習するとともに、テーマに関する単語を予習する 事後学習：今回学んだ内容を整理し、復習する
15	おわりに	授業内容のまとめをおこなう。	授業で学んだことの復習をする。

関連科目 1 年次・2 年次の各インドネシア語科目、2 年次・3 年次の各接続科目 (インドネシア・マレーシア関連)

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準) 平常点 (30%) 課題 (30%) 到達確認度テスト (40%) で評価する。

学生へのメッセージ この講義を受ける頃には、インドネシアについての知識も増え、インドネシア語もかなり使えるようになって自信ができてきたことだろうと思います。もうワンステップ上を目指して、インドネシアの大学生と簡単なディスカッションもできるような語彙力、表現力をつけることができれば

	な、と思っています。
担当者の 研究室等	金子研究室 (7号館5階)
備考	

科目名	旅行インドネシア語	科目名 (英文)	Indonesian for Travel
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	大坪 紀子
ディプロマポリシー (DP)	DP1△, DP6△		
科目ナンバリング	LDL2678e0		

授業概要・目的	日常生活レベルでの、インドネシア語によるフォーマル/インフォーマルな表現能力を修得している学生を対象とし、インドネシア語で社会生活を送る上で必要不可欠な表現能力の修得を学修の到達目標とする。 本授業は、個人旅行を想定した講義構成とし、「旅」のさまざまな場面に応じた実践的なインドネシア語の会話表現や語彙の学修とともに、インドネシア語の旅行案内や旅行関連記事などの多様な読解に取り組むことで、実践的にインドネシアの社会や文化について学び、インドネシア語の運用能力を養成する。
到達目標	個人でインドネシアへ観光旅行に行っても困らないインドネシア語の運用能力と、インドネシア社会に関する知識を修得することができる。
授業方法と留意点	本授業は、場面ごとの表現について、「読む・聴く・話す・書く」の総合的能力を活かして授業を進めていく。 テキストはプリント教材を配付する。 授業時には必ず辞書を携行すること。 中間テストと理解度確認テスト終了後に教室で全問の解説をおこなう。また理解が足りないところの復習方法も説明する。 授業時に課した課題については授業内でフィードバックを行う。 ※この科目は「地域言語科目」のうち、1年後期、2年前期開講のインドネシア語の授業を履修している学生を対象とします。

科目学習の効果 (資格)	インドネシア語技能検定試験
--------------	---------------

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	プロローグ	授業の進め方、1年次後期と2年次前期で学んだことの再確認。	いままでにインドネシア語の授業で学んだ文法事項を確認しておくこと。 授業で学んだことを復習すること。
	2	基本的な表現	基本的な日常表現について、1年次後期と2年次前期の復習を兼ねて修得する。	いままでに学んだ会話表現を確認しておくこと。 旅行にも用いられる会話表現の復習をすること。
	3	搭乗する	飛行機内での会話表現を習得する。	配布資料を事前学習すること。 新しく学んだ表現や単語を身に付けること。
	4	空港にて①	イミグレーションや税関、両替所等で必要な表現を習得する。	配布資料を事前学習すること。 新しく学んだ表現や単語を身に付けること。
	5	空港にて②	イミグレーションや税関、両替所等で必要な表現を習得する。	配布資料を事前学習すること。 新しく学んだ表現や単語を身に付けること。
	6	交通機関を利用する①	タクシーやバス、列車等に乗って移動する際に必要な表現を習得する。	配布資料を事前学習すること。 新しく学んだ表現や単語を身に付けること。
	7	交通機関を利用する②	タクシーやバス、列車等に乗って移動する際に必要な表現を習得する。	配布資料を事前学習すること。 新しく学んだ表現や単語を身に付けること。
	8	復習	これまでに修得したフレーズの再確認を行い、中間テストを実施する。	これまでに学んだことの復習
	9	ホテルにて①	チェックインからチェックアウトまで、ホテルで過ごす際に必要な表現を習得する。	配布資料を事前学習すること。 新しく学んだ表現や単語を身に付けること。
	10	ホテルにて②	チェックインからチェックアウトまで、ホテルで過ごす際に必要な表現を習得する。	配布資料を事前学習すること。 新しく学んだ表現や単語を身に付けること。
	11	レストランにて	レストランや飲食施設を利用する際に必要な表現を習得する。	配布資料を事前学習すること。 新しく学んだ表現や単語を身に付けること。
	12	買い物をする	買い物をする際の表現を習得する。	配布資料を事前学習すること。 新しく学んだ表現や単語を身に付けること。
	13	トラブルに巻き込まれる	トラブルに巻き込まれたり、病気に罹ったときに必要とされる表現を習得する。	配布資料を事前学習すること。 新しく学んだ表現や単語を身に付けること。
	14	観光をする	観光地を巡る際の会話表現を習得する。	配布資料を事前学習すること。 新しく学んだ表現や単語を身に付けること。
	15	総まとめ	これまでに習得した表現を再確認し、理解度確認テスト実施する。	これまで学んだ表現や単語を復習すること。

関連科目	インドネシア語・マレー語関係科目、東南アジア関係の講義科目。
------	--------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	プログレッシブインドネシア語辞典	舟田京子・高殿良博・左藤正範編	小学館
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	中間テスト 40%、理解度確認テスト 40%、授業への前向きな取り組み姿勢 20% 詳細は、第1回目の授業で伝える。
-----------	---

学生へのメッセージ	この授業で「生きたインドネシア語」を学び、一層の自信をつけましょう。
-----------	------------------------------------

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	随時、下調べなどの事前学習や「まとめ」などの事後学習について指示するが、この授業における事前・事後学習の総時間数は、60時間以上である。
----	--

連絡方法は初回授業時に通知する。

科目名	心理学	科目名 (英文)	Psychology
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	吉田 佐治子
ディプロマポリシー (DP)	DP1Δ, DP6Δ		
科目ナンバリング	LHU2804a1		

授業概要・目的	心理学のうち、特に「ことばとコミュニケーション」に関わる領域を中心に扱う。 私達はことばを用いて思考し、情報伝達を行う。その過程において、私達はどのようにしてことばを理解し、あるいは産出しているのか。また、他者とのやりとりの中では、ことばそのものの意味だけではなく、その状況に対する知識や判断、相手の意図の推測なども不可欠である。 本科目ではこのような話題について議論する。また、私達がどのようにしてこのようなことばを使えるようになったのかという観点から、ことばの言語獲得、第二言語修得についても考察する。
到達目標	言語心理学の基本的な考え方、基礎的な知識を得ることができる。そのことにより、日常生活の中で行われている言語活動やコミュニケーションについて、心理学的に説明し、考えることができるようになる。さらに、専攻言語の学習に活かすことができる。
授業方法と留意点	講義中心で行う。講義で用いる資料は、事前に moodle 上で配付するので、各自入手しておくこと。 授業内で、ミニレポートのフィードバックを行う。
科目学習の 効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	言語とは何か 言語の機能	配付資料にもとづいた本時の復習 期末レポートの準備
2	こどもの言語発達 1	ことばの獲得 発話の発達 ことばの発達を支えるもの	配付資料にもとづいた本時の予習と復習 期末レポートの準備
3	こどもの言語発達 2	ことばの発達の個人差 ことばと思考 新しいことばの世界へ	配付資料にもとづいた本時の予習と復習 期末レポートの準備
4	単語の理解 1	単語の認知 心的辞書の構造	配付資料にもとづいた本時の予習と復習 期末レポートの準備
5	単語の理解 2	単語の処理 単語認識と身体 心的辞書と外的語彙	配付資料にもとづいた本時の予習と復習 期末レポートの準備
6	文の理解 1	文の理解とは 意味表象の形成	配付資料にもとづいた本時の予習と復習 期末レポートの準備
7	文の理解 2	文理解の実験的研究	配付資料にもとづいた本時の予習と復習 期末レポートの準備
8	文章理解 1	文章理解とは 一貫性の確立 照応解決	配付資料にもとづいた本時の予習と復習 期末レポートの準備
9	文章理解 2	文章理解における推論 文章理解と知識	配付資料にもとづいた本時の予習と復習 期末レポートの準備
10	文章産出	作文の過程 作文の意義 読みやすい文章とは	配付資料にもとづいた本時の予習と復習 期末レポートの準備
11	会話 1	会話の成立 対人配慮	配付資料にもとづいた本時の予習と復習 期末レポートの準備
12	会話 2	攻撃、皮肉 誤解	配付資料にもとづいた本時の予習と復習 期末レポートの準備
13	比喩の理解	比喩の理解と認知過程 比喩の機能	配付資料にもとづいた本時の予習と復習 期末レポートの準備
14	第二言語習得 1	生活の中の学習	配付資料にもとづいた本時の予習と復習 期末レポートの準備
15	第二言語修得 2	学校などでの学習	配付資料にもとづいた本時の予習と復習 期末レポートの準備

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	毎回のミニレポート 50%, 期末レポート 50%
-----------	---------------------------

学生へのメッセージ	ふだん何気なく使っていることばについて、少し意識的になってみてください。
-----------	--------------------------------------

担当者の研究室等	7号館3階
----------	-------

備考	・各授業のはじめに、前回の「授業内レポート」から抜粋して紹介します。 ・事前事後学習時間の目安は総計 60 時間。
----	--

科目名	経済学入門	科目名 (英文)	Introduction to Economics
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	原田 裕治
ディプロマポリシー (DP)	DP1△, DP6△		
科目ナンバリング	LS02808a1		

授業概要・目的	経済現象を理解するために必要な基本的知識や経済学的な考え方、現実の経済現象を事例として参照しながら、解説することを目的とする。 SDGs-1, 3, 8, 9, 10
到達目標	1) 戦後日本経済の歴史の大きな流れについて説明できる。 2) 雇用、企業組織、財政、社会保障といった日本経済の動きに関わる基本的な事項について説明でき、日々の経済ニュースを理解できるようになる。 3) 日本経済が抱える問題について、その重要性を説明することができ、それにかんする異なる立場の議論を比較することができる。
授業方法と留意点	反転授業形式で行う。 受講者は事前に授業動画を視聴して課題に解答してください。また動画を視聴した上での質問を出してもらいます。 授業当日は、提出された質問について解説したり、受講者の関心にあわせてテーマを決めてディスカッションを行ったりします。またディベート形式の討論も行います。 事前の動画視聴など事前の準備を行わないと授業に参加することができないことがありますので気を付けてください。
科目学習の効果 (資格)	日々の経済ニュースを理解できるようになることで、就職活動において企業を選択する際や、企業で働く際に客観的な判断ができるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	現代経済で起きていることを概観する一方で、この授業の進め方について紹介する。	Moodle に掲載されたオンデマンド授業の動画を視聴して課題に取り組む (2.5 時間)。
2	経済とは	経済の基本的な仕組みについて概説する	授業の復習 (0.5 時間) Moodle に掲載されたオンデマンド授業の動画を視聴して課題に取り組む (2.5 時間)。
3	戦後日本経済の歩み (1)	終戦から戦後復興期における日本経済の動きについて解説する	授業の復習 (0.5 時間) Moodle に掲載されたオンデマンド授業の動画を視聴して課題に取り組む (2.5 時間)。
4	戦後日本経済の歩み (2)	高度経済成長期における日本経済の動きについて解説する	授業の復習 (0.5 時間) Moodle に掲載されたオンデマンド授業の動画を視聴して課題に取り組む (2.5 時間)。
5	戦後日本経済の歩み (3)	高度経済成長の終焉から安定成長期への移行について説明する	授業の復習 (0.5 時間) Moodle に掲載されたオンデマンド授業の動画を視聴して課題に取り組む (2.5 時間)。
6	戦後日本経済の歩み (4)	安定成長期からバブル期にかけての日本経済の動きについて解説する	授業の復習 (0.5 時間) Moodle に掲載されたオンデマンド授業の動画を視聴して課題に取り組む (2.5 時間)。
7	戦後日本経済の歩み (5)	バブル崩壊後における日本経済の動きについて解説する	授業の復習 (0.5 時間) Moodle に掲載されたオンデマンド授業の動画を視聴して課題に取り組む (2.5 時間)。
8	雇用のしくみ	企業と労働者の関係について、日本的雇用慣行を例にとりながら解説する。また、正規雇用と非正規雇用の関係についても説明する	授業の復習 (0.5 時間) Moodle に掲載されたオンデマンド授業の動画を視聴して課題に取り組む (2.5 時間)。
9	企業のしくみ	所有・経営・労働の観点から企業を捉えて、その統治の仕組みについて解説する	授業の復習 (0.5 時間) Moodle に掲載されたオンデマンド授業の動画を視聴して課題に取り組む=討論のための準備 (2.5 時間)。
10	授業内討論 (1) 日本の雇用問題	授業で学んだ内容、および受講者が独自に調べた事項にもとづいて、受講者間でディベート形式のオンライン討論を行う	討論内容の振り返り (0.5 時間) Moodle に掲載されたオンデマンド授業の動画を視聴して課題に取り組む (2.5 時間)。
11	財政のしくみ (1)	日本の財政構造、とりわけ財政支出の現状と課題について解説する	授業の復習 (0.5 時間) Moodle に掲載されたオンデマンド授業の動画を視聴して課題に取り組む (2.5 時間)。
12	財政のしくみ (2)	日本の財政構造、とりわけ租税と国債発行についての現状と課題を説明する	授業の復習 (0.5 時間) Moodle に掲載されたオンデマンド授業の動画を視聴して課題に取り組む (2.5 時間)。
13	社会保障のしくみ	日本における社会保障のしくみ、とりわけ公的年金制度について解説する	授業の復習 (0.5 時間) Moodle に掲載されたオンデマンド授業の動画を視聴して課題に取り組む=討論のための準備 (2.5 時間)。
14	授業内討論 (2) 日本の社会保障	授業で学んだ内容、および受講者が独自に調べた事項にもとづいて、受講者間でディベート形式のオンライン討論を行う	討論内容の振り返り (0.5 時間) Moodle に掲載されたオンデマンド授業の動画を視聴して課題に取り組む (2.5 時間)。
15	まとめ	全体の総括	講義内容全体の復習、期末レポートの作成

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書																	

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	日本経済の常識	中原隆幸編	ナカニシヤ出版
	2	図解雑学 資本主義のしくみ	八木紀一郎他	ナツメ社
	3			
評価方法 (基準)	授業時間内外の課題 (50%), 期末レポート(50%)で総合的に評価する。授業時間内外の課題および期末レポートは Moodle 上で出題する。Moodle への登録には期限を設けます。期限以降の登録は受け付けないので注意してください。			
学生への メッセージ	日々のニュースなどで目にする「経済」に関する事柄は、小難しく自分には関係のないことのように思えてしまいますが、実際にはみなさんの身の回りで起こっていることと密接に結びついています。そうしたことをこの授業で感じ取ってもらえればと思います。そのためには、少々難しく感じても、日々の新聞やニュースで目にする経済的な事象に関心を持つことから始めてもらいたいと思います。			
担当者の 研究室等	1号館7階 原田研究室			
備考	受講生の理解度によって、講義の内容と進行に変更があります。 事前事後学習の総時間の目安は 45 時間です。課題への解答については、課題解答期間後に正答と解説が公開されます。また各回で授業への質問や感想を書いてもらいますが、それに対する回答は適宜行います。それらを使って学習をさらに深めてください。			

科目名	経営学入門	科目名 (英文)	Introduction to Management
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	西之坊 穂
ディプロマポリシー (DP)	DP1Δ, DP6Δ		
科目ナンバリング	LS02809a1		

授業概要・目的	<p>[授業概要]</p> <p>働き方が多様化した現代の企業経営において、人のマネジメントはますます重要な意義を有するようになっていきます。本講義では、「人のマネジメント」として人的資源管理の基本的な考え方を学ぶことによって、組織を活かし個人も活きるための知的・実践的スキルを身につけることを目指します。人的資源管理 I では、組織や戦略と人的資源管理の関わりなど人的資源管理の総論を中心に講義します。</p> <p>なお、授業担当者の企業人事における実務経験を通じた解説および体験談を用いて説明することで、より深い学生の理解を促します。</p> <p>[授業目的]</p> <p>企業経営における人的資源とそのマネジメントに関する理解を深めることを目的としています。</p>
---------	---

到達目標	<p>[到達目標]</p> <p>①人的資源管理の基礎的な概念について理解できるようになる。</p> <p>②組織と人に関わる経営現象について、人のマネジメントの視点から説明できるようになる (DP3)。</p>
------	--

授業方法と留意点	主として講義形式になります。必要に応じてパワーポイントやプリントを活用し、企業における人的資源管理の実態についても紹介します。中間テストのフィードバックは授業内に行う。
----------	--

科目学習の効果 (資格)	中小企業診断士、社会保険労務士
--------------	-----------------

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	この講義の概要、進め方について説明します。	シラバスを読んでください。また、速やかに教科書の手配をしてください。 事前課題: 配付資料および教科書の第1章を1時間程度読むこと
2	人的資源管理入門	「人を管理する」ということの意味を考えます。	事後学習: 配付資料および教科書の第1章を1時間程度読むこと
3	人間モデル	人はなぜなんのために働くのでしょうか。人事管理が対象としてきた人間観の変容について説明します。	事前課題: 配付資料および教科書の第2章を1時間程度読むこと 事後学習: 配付資料および教科書の第2章を1時間程度読むこと
4	戦略的人的資源管理	企業の戦略と人的資源管理の関係について説明します。	事前課題: 配付資料および教科書の第3章を1時間程度読むこと 事後学習: 配付資料および教科書の第3章を1時間程度読むこと
5	組織構造	組織・職場のデザインという観点から人的資源管理を検討します。	事前課題: 配付資料および教科書の第5章を1時間程度読むこと 事後学習: 配付資料および教科書の第5章を1時間程度読むこと
6	リーダーシップ(1)	働く人のモチベーションを引き出す様々なリーダーシップの考え方を説明します。	事前課題: 配付資料および教科書の第7章を1時間程度読むこと 事後学習: 配付資料および教科書の第7章を1時間程度読むこと
7	リーダーシップ(2)	自律型人材には、どういったリーダーシップが有効だと考えられるのでしょうか。現代の人的資源管理の課題として検討します。	事前課題: 配付資料および教科書の第7章を1時間程度読むこと 事後学習: 配付資料および教科書の第7章を1時間程度読むこと
8	LMX、フォロワーシップ	組織の成果はリーダーとフォロワーの相互作用のプロセスで生まれます。したがって、リーダーとフォロワーを1対1で見る LMX とリーダーに影響を与えるフォロワーについて説明します。	事前課題: 配付資料を1時間程度読むこと 事後学習: 配付資料を1時間程度読むこと
9	組織コミットメントと心理的契約	コミットメントおよび心理的契約の内容を理解し、各々がどのように規定されるか (独立変数)、各々が何に影響を与えるのか (従属変数) について学びます。	事前課題: 配付資料および教科書の第8章を1時間程度読むこと 事後学習: 配付資料および教科書の第8章を1時間程度読むこと
10	中間テスト	これまでの学習内容を踏まえ、企業はどのような人的資源管理を行うべきなのか考えます。	事前課題: これまでの配付資料および教科書を1時間程度読むこと 事後学習: 中間テストの内容を1時間程度復習すること
11	雇用	人と職務のマッチングにはどのような種類があり、それぞれどのような特徴があるのかを学びます。また、グローバル化が展している昨今、企業はどのような工夫をしているのか学びます。	事前課題: 配付資料および教科書の第9章を1時間程度読むこと 事後学習: 配付資料および教科書の第9章を1時間程度読むこと
12	評価	人事評価の目的は何でしょうか。また、誰が誰をどのように評価するのでしょうか。評価にはどのような種類があるのか等について学びます。	事前課題: 配付資料および教科書の第11章を1時間程度読むこと 事後学習: 配付資料および教科書の第11章を1時間程度読むこと

				間程度読むこと 事前課題：配付資料および教科書の第 12, 13 章を 1 時間程度読むこと 事後学習：配付資料および教科書の第 12, 13 章を 1 時間程度読むこと
	13	昇進・賃金	前回で学んだ評価は、昇進・昇格や賃金にどのように反映されるのでしょうか。また、それぞれにはどのような特徴や機能があるのかについて学びます。	
	14	労使関係、国際人的資源管理	労使関係は人的資源管理の中でどのような役割を担っているのかについて学びます。 また、なぜ企業はグローバル化を目指すのでしょうか。また、グローバル化している現在、企業はこれまでと違ってどのような人的資源管理をしているのかについて学びます。	事前課題：配付資料および教科書の第 14, 15 章を 1 時間程度読むこと 事後学習：配付資料および教科書の第 14, 15 章を 1 時間程度読むこと
	15	期末テストまとめ	これまでの学習内容を踏まえ、企業はどのような人的資源管理を行うべきなのか考えます。	事前課題：これまでの配付資料および教科書を 1 時間程度読むこと 事後学習：期末テストの内容を 1 時間程度復習すること
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	人的資源管理	上林憲雄	中央経済社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	経験から学ぶ人的資源管理	上林憲雄他	有斐閣ブックス
	2	入門人的資源管理	奥林康司他	中央経済社
	3			
評価方法 (基準)	中間テスト 50 点、期末テスト 50 点、合計 100 点 なお、授業態度等が望ましくない場合や出席率が 8 割に満たない場合は単位を認めない場合がある。			
学生への メッセージ	人的資源管理論の対象は、「人」そのものです。そのため、講義を受けるにあたっては、日頃から組織と人間に対する関心を持ち続けることが何より大切になってきます。自分自身の感性も磨きながら、主体的に受講するようにしてください。			
担当者の 研究室等 備考	11 号館 8 階(西之坊研究室)			

科目名	人体の構造と機能	科目名 (英文)	Human Anatomy and Physiology
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	宇野 恭介
ディプロマポリシー (DP)	DP1Δ, DP6Δ		
科目ナンバリング	LNA2812a1		

授業概要・目的	我々は案外、自分のからだの中で行われている現象を知らない。この科目では、ヒトのからだは細胞からなること、細胞が集まり組織が、組織が集まり器官（臓器）が出来ていること、さらにヒトという個体は10の器官系からなることを学習する。また、その中を往來したり反応したりする分子のはたらき（機能）について取り上げ、からだの中で営まれている現象について学習する。併せて最近話題となっている関連トピックスについても解説したい。
到達目標	新聞・ニュース等にてでくような、人体の構造や機能に関する用語を理解し、簡単に概略を説明できる。
授業方法と留意点	ノート・講義方式。授業は対面で行う。小テストや教科書およびビデオ教材を参照に、ビジュアルを用いてイメージを膨らませながら学習できるように進める。ほとんど毎回前回の授業に関する小テストを実施するため、復習は必須となる。さらに、次回授業の予習をすると、理解度が増す。小テストのフィードバックは授業内で行う。
科目学習の効果（資格）	一般教養の充実。生物・医学関連に関する記事あるいは専門書を読む際の助けとなるような知識の向上をめざす。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業中のルール説明・試験方法についてアンケート・生物の基礎知識を問う	該当する項目について教科書をもとに復習を行うこと。
2	細胞・組織・器官・器官系	ビデオ「動物の体」。ヒトは約60兆個の細胞から構成されている。細胞は組織を構成し、組織は器官を造る。生物における個体と細胞の関係を理解する。	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
3	細胞説・・・細胞は生物の基本単位	ビデオ「細胞説」。自然発生説から細胞説への転換。レディの実験とパスツールの実験を通して細胞の概念を理解する。	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
4	細胞膜	ビデオ高校生物「細胞膜」。細胞膜とシャボン玉の類似点と相違点。細胞膜は脂質で構成され、様々な物質を選択的に通過することができる。	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
5	原形質と原形質流動	ビデオ高校生物「細胞小器官」。細胞の内部に様々な小器官が存在することを理解する。植物の細胞質を観察し、「原形質」と「原形質流動」のイメージをつかむ。	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
6	細胞小器官	ビデオ「細胞と組織」。細胞の核と細胞質の概念を理解するとともに細胞内のミトコンドリアを初めとする様々な細胞小器官の名前とその機能を覚える。	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
7	胃の構造と機能	ビデオ「人体-消化吸収の妙」。消化器系について基礎知識を身につける。	該当する項目について授業内容をもとに復習を行うこと
8	循環器系	循環器系について基礎知識を身につける。	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
9	循環器系	ビデオ高校生物「体液」。生物の循環器系についてのしくみを理解する。	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
10	循環器系	ビデオ「人体②しなやかなポンプ心臓・血管」。ヒトの心臓の構造と機能について理解する。	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
11	肝臓の構造と機能	ビデオ「人体-壮大な化学工場・・・肝臓」	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
12	生殖器官・性周期・排卵・妊娠・出産のしくみ	男性と女性のそれぞれの生殖器官の基本的な器官とそのしくみを覚える。	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
13	生殖器官	ビデオ「人体①生命誕生・・・驚異の小宇宙」。生命の神秘とともに生殖器官のしくみを理解する。	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
14	総括質問とプレゼンテーション	すべての授業内容に関する質問について答えるとともに、難解だった部分を詳細に解説する。	該当する項目について教科書をもとに復習を行うこと。
15	まとめと習熟度試験	すべての授業範囲について総括試験を実施する。	該当する項目について教科書をもとに復習を行うこと。

関連科目	自然科学 II
------	---------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新生物図表	浜島書店編集部	浜島書店
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	機能形態学	櫻田忍・櫻田司編	南江堂
2				
3				

評価方法（基準）	小テストを50%、習熟度試験を50%で評価する
学生への	社会人としての一般教養の幅を広げる授業です。次週に小テストを実施するので十分に復習してください。

メッセージ	講義担当者<宇野恭介>は、薬剤師免許を有し臨床及び薬事行政の一端携わった経験がある。また、国立大学及び欧州研究機関において薬学の基礎研究に従事してきた。これらの経験から基礎生物から臨床薬理学に渡る広い視野で生理学及び解剖学の教授を行う。
担当者の研究室等	枚方学舎（薬学部）1号館3階 機能形態学研究室（宇野講師室）
備考	講義前の予習（教科書を読む1時間×15回）、復習（ノートをまとめる、重要単語を暗記する1時間×15回）

科目名	公衆衛生学	科目名 (英文)	Public Health
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	立山 由紀子
ディプロマポリシー (DP)	DP1Δ, DP6Δ		
科目ナンバリング	LNA2813a1		

授業概要・目的	公衆衛生学とは、人々（集団）の健康を維持増進するための学問です。本講義では、公衆衛生の歴史や概念、健康の指標や統計、人々の健康を守るための方法論（疫学）、疾病予防の考え方とその具体例（感染症、生活習慣病など）について地域および国際的な視点を踏まえて学びます。また、集団の健康を維持・改善するための制度や施策の概要についても学修します。
到達目標	1) 公衆衛生の概念を理解できる。 2) 公衆衛生と疾病の関係について説明ができる。 3) 人々の健康と様々な制度や公衆衛生活動の関係を説明できる。 4) 人々の健康が社会や環境から受ける影響について理解できる。
授業方法と留意点	パワーポイントを用いた講義を中心としますが、適宜、身近な社会課題に関する視聴覚教材や時事ニュース等を活用します。 1回目の講義で授業の進め方や成績評価方法について説明します。 授業内にフィードバックを行います。
科目学習の効果（資格）	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	公衆衛生とは	公衆衛生の歴史と概要	事前学習をしておく（教科書第1章）。健康とは何かについて自分の考えをまとめておく。（60分）
2	保健統計（1）	人口統計	事前学習をしておく（教科書第2章）。日本の社会的課題（少子化・高齢化・出生率・死亡率等）について情報収集してみる。（60分）
3	保健統計（2）	健康指標	事前学習をしておく（教科書第2章）。日本の健康課題について考えておく。（60分）
4	疫学	疫学の歴史と指標	事前学習をしておく（教科書第3章）。わからない点をまとめておく。（60分）
5	疾病予防と健康増進	疾病予防と健康増進の考え方	事前学習をしておく（教科書第4章）。日本の疾病予防対策について情報収集してみる。（60分）
6	感染症	感染症の疫学と予防	事前学習をしておく（教科書第5章）。日本の感染症の課題について情報収集してみる。（60分）
7	非感染性疾患（1）	生活習慣病の疫学と予防	事前学習をしておく（教科書第5章）。日本の生活習慣病の現状について情報収集してみる。（60分）
8	非感染性疾患（2）	がんおよびその他疾患の疫学と予防	事前学習をしておく（教科書第5章）。日本のがんの現状について情報収集してみる。（60分）
9	環境保健	地球規模の環境問題と取り組み	事前学習をしておく（教科書第6章）。地球環境問題について情報収集してみる。（60分）
10	地域保健	地域社会と地域保健活動	事前学習をしておく（教科書第7章）。日本の地域保健活動について情報収集してみる。（60分）
11	母子保健	女性と子供の健康	事前学習をしておく（教科書第8章）。女性と子供を取り巻く健康問題について情報収集してみる。（60分）
12	国際保健（1）	世界の健康・日本の健康	事前学習をしておく（教科書第13章）。世界の健康問題について情報収集してみる。（60分）
13	国際保健（2）	日本の保健医療の国際協力	事前学習をしておく（教科書第13章）。国際保健分野の取り組みについて情報収集してみる。（60分）
14	倫理と人権	健康と人権の考え方	事前学習をしておく（教科書第1章）。公衆衛生における倫理的配慮について考えてみる。（60分）
15	健康教育とヘルスプロモーション	健康教育とヘルスプロモーションの概念と考え方	事前学習をしておく（教科書第4章）。日本または世界のヘルスプロモーション活動について情報収集してみる。（60分）

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>シンプル衛生公衆衛生学 2022</td> <td>辻一郎他</td> <td>南江堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	シンプル衛生公衆衛生学 2022	辻一郎他	南江堂	2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1	シンプル衛生公衆衛生学 2022	辻一郎他	南江堂													
	2																
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名												
	番号	書籍名	著者名	出版社名													

	1	国民衛生の動向 2022/2023	厚生労働統計協会	厚生労働統計協会
	2	基礎から学ぶ 楽しい疫学 第4版	中村 好一	医学書院
	3	グローバルヘルス 世界の健康と対処戦略の最新動向	木原正博/木原雅子 (監訳)	メディカルサイエンスインターナショナル
評価方法 (基準)	課題および/または小テスト(100%)で評価します (60%以上を合格とします)。 出席は、学生便覧にある履修の規定に従います (出席状況が好ましくない場合は、単位を認めないことがあります)。			
学生への メッセージ	公衆衛生学を理解するうえで最低限必要な知識について講義します。 教科書だけでなく、ニュースや新聞等を読み、日本や世界で起きている出来事について関心を持って授業に臨んでください。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考				

科目名	韓国語Ⅱ a	科目名 (英文)	Korean IIa
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	1
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	森 類臣
ディプロマポリシー(DP)	DP1Δ, DP6Δ		
科目ナンバリング	LK02818e1		

授業概要・目的	この授業では、「韓国語Ⅰ」で養成した基礎力を踏まえたうえで、ハングル能力検定5級もしくは韓国語能力試験 (TOPIK) 1級合格水準に達する実力を養成する。この授業では、文法や読解などを中心とした総合的な内容を扱う。教科書は『チュクチュク チャラネ ぐんぐん伸びる韓国語 初級』(朴恩珠・森類臣・権世美著、白帝社、2021年)を使用する。教科書に沿って授業を進めていく。 語学としての韓国語の学習はもちろんだが、教科書の内容に関連する文化的な背景もできる限り紹介するようにする。
到達目標	ハングル能力検定5級もしくは韓国語能力試験 (TOPIK) 1級合格程度の実力を培う。主に、①文法事項・単語力 (基本的な文法と表現、単語数約700語程度) ②読解力と作文能力の2点を養う。具体的には次の通りである。 ・単語数700語 ・簡単な日記や手紙、メールなどの短い文を読み、内容を把握する。 ・100～150語程度の簡単な文章を読み、内容を把握できる。
授業方法と留意点	1) 文法事項・語彙の予習・復習の時間を充分にとりて着実に学習を重ねること。 2) 進度については、受講学生の理解度を鑑みながら多少調整する可能性がある。 3) 受講学生の理解を助けるため、適宜プリントを配布することもある。 4) フィードバックは基本的に授業内で行う。
科目学習の効果 (資格)	ハングル能力検定5級もしくは韓国語能力試験 (TOPIK) 1級合格

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	1) ガイダンス 2) II話してみよう! 第4課「いくらですか」	漢数詞	予習・復習 (120分)
2	II話してみよう! 第4課「いくらですか」	漢数詞の使い方	予習・復習 (120分)
3	II話してみよう! 第5課「モツアレラチーズドッグを2つください」	・固有数詞 ・助数詞	予習・復習 (120分)
4	II話してみよう! 第5課「モツアレラチーズドッグを2つください」	助詞: -を	予習・復習 (120分)
5	II話してみよう! 第6課「私たち今日はどこに行きますか」	～です、ます (ハヨ体)	予習・復習 (120分)
6	II話してみよう! 第6課「私たち今日はどこに行きますか」	順序、並列: ～して、～くて、～で	予習・復習 (120分)
7	II話してみよう! 第7課「木曜日はスジさんに会いません」	・否定形 (前置否定) ・否定形 (後置否定)	予習・復習 (120分)
8	II話してみよう! 第7課「木曜日はスジさんに会いません」	・年、月、曜日 ・～ますね、～です ・～が好きです	予習・復習 (120分)
9	II話してみよう! 第8課「どこで韓国語を学びましたか」	・過去形 ・原因、理由: ～して、～ので	予習・復習 (120分)
10	II話してみよう! 第8課「どこで韓国語を学びましたか」	不規則活用	予習・復習 (120分)
11	II話してみよう! 第9課「梨泰院に行きたいです」	・願望: ～したいです ・助詞: ～より	予習・復習 (120分)
12	II話してみよう! 第9課「梨泰院に行きたいです」	・助詞: ～に ・助詞: ～から	予習・復習 (120分)
13	II話してみよう! 第10課「ミュージカルを見に行きます」	・～しに行く/来る ・～しようとする	予習・復習 (120分)
14	II話してみよう! 第10課「ミュージカルを見に行きます」	・～だが、～けれど ・～ですよね、～でしょう ・助詞: ～の	予習・復習 (120分)
15	後半のまとめと理解度確認テスト (期末評価)	期末の総まとめ	理解度確認テストの準備 (120分)

関連科目	「韓国語Ⅰ」「韓国語Ⅱb」「韓国語Ⅲa」「韓国語Ⅲb」など韓国語関連科目
------	--------------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	チュクチュク チャラネ ぐんぐん伸びる韓国語 初級	朴恩珠・森類臣・権世美	白帝社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典 第2版	油谷幸利ほか編	小学館

	2			
	3			
評価方法 (基準)	課題の遂行 20% 小テスト 40% 期末の理解度確認テスト 40%			
学生への メッセージ	1) 特段の事情なく授業回数の3分の1以上を欠席した学生は、基本的に評価の対象としない。 2) 1年次後期の「韓国語Ⅰ」を履修した学生、もしくは同等レベルの韓国語学習(独習も含む)の経験がある学生が対象となる。「韓国語Ⅰ」履修程度の実力がない全くの初学者は、本授業を履修しても授業についていけない可能性が高いので要相談となる。 3) 「韓国語Ⅱa」と「韓国語Ⅱb」を両方履修することが望ましい。			
担当者の 研究室等	7号館5階森研究室			
備考	質問は授業の前後の時間やオフィスアワーに受け付ける。Teamsやメールで質問してくれてもかまわない。			

科目名	韓国語Ⅱ a	科目名 (英文)	Korean IIa
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	2
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	沈 明姫
ディプロマポリシー(DP)	DP1Δ, DP6Δ		
科目ナンバリング	LK02818e1		

授業概要・目的	この授業では、「韓国語Ⅰ」で養成した基礎力を踏まえたうえで、ハングル能力検定5級もしくは韓国語能力試験 (TOPIK) 1級合格水準に達する実力を養成する。この授業では、文法や読解などを中心とした総合的な内容を扱う。教科書は『チュクチュク チャラネ ぐんぐん伸びる韓国語 初級』(朴恩珠・森類臣・権世美著、白帝社、2021年)を使用する。教科書に沿って授業を進めていく。 語学としての韓国語の学習はもちろんだが、教科書の内容に関連する文化的な背景もできる限り紹介するようにする。
到達目標	ハングル能力検定5級もしくは韓国語能力試験 (TOPIK) 1級合格程度の実力を培う。主に、①文法事項・単語力 (基本的な文法と表現、単語数約700語程度) ②読解力と作文能力の2点を養う。具体的には次の通りである。 ・単語数700語 ・簡単な日記や手紙、メールなどの短い文を読み、内容を把握する。 ・100～150語程度の簡単な文章を読み、内容を把握できる。
授業方法と留意点	1) 文法事項・語彙の予習・復習の時間を充分にとりて着実に学習を重ねること。 2) 進度については、受講学生の理解度を鑑みながら多少調整する可能性がある。 3) 受講学生の理解を助けるため、適宜プリントを配布することもある。 4) フィードバックは基本的に授業内で行う。
科目学習の効果 (資格)	ハングル能力検定5級もしくは韓国語能力試験 (TOPIK) 1級合格

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	1) ガイダンス 2) II話してみよう! 第4課「いくらですか」	漢数詞	予習・復習 (120分)
2	II話してみよう! 第4課「いくらですか」	漢数詞の使い方	予習・復習 (120分)
3	II話してみよう! 第5課「モツァレラチーズドッグを2つください」	・固有数詞 ・助数詞	予習・復習 (120分)
4	II話してみよう! 第5課「モツァレラチーズドッグを2つください」	助詞: -を	予習・復習 (120分)
5	II話してみよう! 第6課「私たち今日はどこに行きますか」	～です、ます (ハヨ体)	予習・復習 (120分)
6	II話してみよう! 第6課「私たち今日はどこに行きますか」	順序、並列: ～して、～くて、～で	予習・復習 (120分)
7	II話してみよう! 第7課「木曜日はスジさんに会いません」	・否定形 (前置否定) ・否定形 (後置否定)	予習・復習 (120分)
8	II話してみよう! 第7課「木曜日はスジさんに会いません」	・年、月、曜日 ・～ますね、～です ・～が好きです	予習・復習 (120分)
9	II話してみよう! 第8課「どこで韓国語を学びましたか」	・過去形 ・原因、理由: ～して、～ので	予習・復習 (120分)
10	II話してみよう! 第8課「どこで韓国語を学びましたか」	不規則活用	予習・復習 (120分)
11	II話してみよう! 第9課「梨泰院に行きたいです」	・願望: ～したいです ・助詞: ～より	予習・復習 (120分)
12	II話してみよう! 第9課「梨泰院に行きたいです」	・助詞: ～に ・助詞: ～から	予習・復習 (120分)
13	II話してみよう! 第10課「ミュージカルを見に行きます」	・～しに行く/来る ・～しようとする	予習・復習 (120分)
14	II話してみよう! 第10課「ミュージカルを見に行きます」	・～だが、～けれど ・～ですよね、～でしょう ・助詞: ～の	予習・復習 (120分)
15	後半のまとめと理解度確認テスト (期末評価)	期末の総まとめ	理解度確認テストの準備 (120分)

関連科目	「韓国語Ⅰ」「韓国語Ⅱb」「韓国語Ⅲa」「韓国語Ⅲb」など韓国語関連科目
------	--------------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	チュクチュク チャラネ ぐんぐん伸びる韓国語 初級	朴恩珠・森類臣・権世美	白帝社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ポケットプログレッシブ韓国語・日韓辞典 第2版	油谷幸利ほか編	小学館

	2			
	3			
評価方法 (基準)	課題の遂行 20% 小テスト 40% 期末の理解度確認テスト 40%			
学生への メッセージ	1) 特段の事情なく授業を3回以上を欠席した学生は、基本的に評価の対象としない。 2) 1年次後期の「韓国語Ⅰ」を履修した学生、もしくは同等レベルの韓国語学習(独習も含む)の経験がある学生が対象となる。「韓国語Ⅰ」履修程度の実力がない全くの初学者は、本授業を履修しても授業についていけない可能性が高いので要相談となる。 3) 「韓国語Ⅱa」と「韓国語Ⅱb」を両方履修することが望ましい。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	質問は授業の前後の時間に受け付ける。			

科目名	韓国語Ⅱb	科目名(英文)	Korean IIb
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	1
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	北島 由紀子
ディプロマポリシー(DP)	DP1△, DP6△		
科目ナンバリング	LK02819e1		

授業概要・目的	この授業では、「韓国語Ⅰ」で養成した基礎力を踏まえた上で、ハングル能力検定5級もしくは韓国語能力試験(TOPIK)1級に合格できる実力を養う。「韓国語Ⅱa」が文法や読解などを中心とした総合的な内容を扱う一方、本科目「韓国語Ⅱb」は韓国語での発話コミュニケーション、つまり発音・リスニング・会話表現などを中心に行う。 教科書は『チュクチュク チャラネ ぐんぐん伸びる韓国語 初級』(朴恩珠・森類臣・権世美著、白帝社、2021年)を使用する。また、別途プリントや視聴覚教材の活用なども並行して行う。 語学としての韓国語の学習はもちろんだが、教科書の内容に関連する文化的な背景もできる限り紹介するようにする。
到達目標	ハングル能力検定5級もしくは韓国語能力試験(TOPIK)1級合格程度の実力を培う。 主に、次の2点を養う。 ①連音化されている単語や文章を把握しつつ、6～10語程度の文章を聞いて理解できる。 ②決まり文句を用いて様々な場面に対応できる。(自己紹介、買い物、飲食店での注文など)
授業方法と留意点	1) 予習をした上で授業に臨むこと。 2) 進度については、受講学生の理解度を鑑みながら多少調整する可能性がある。 3) 受講学生の理解を助けるため、適宜プリントを配布することもある。 4) フィードバックは基本的に授業内で行う。
科目学習の効果(資格)	ハングル能力検定5級もしくは韓国語能力試験(TOPIK)1級に合格する水準の実力養成

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	1) ガイダンス 2) II話してみよう! 第4課「いくらですか」	リスニング ディクテーション 表現応用	予習・復習(120分)
2	II話してみよう! 第4課「いくらですか」	リスニング ディクテーション 表現応用	予習・復習(120分)
3	II話してみよう! 第5課「モツァレラチーズ ドッグを2つください」	リスニング ディクテーション 表現応用	予習・復習(120分)
4	II話してみよう! 第5課「モツァレラチーズ ドッグを2つください」	リスニング ディクテーション 表現応用	予習・復習(120分)
5	II話してみよう! 第6課「私たち今日はどこに 行きますか」	リスニング ディクテーション 表現応用	予習・復習(120分)
6	II話してみよう! 第6課「私たち今日はどこに 行きますか」	リスニング ディクテーション 表現応用	予習・復習(120分)
7	II話してみよう! 第7課「木曜日はスジさんに 会いません」	リスニング ディクテーション 表現応用	予習・復習(120分)
8	II話してみよう! 第7課「木曜日はスジさんに 会いません」	リスニング ディクテーション 表現応用	予習・復習(120分)
9	II話してみよう! 第8課「どこで韓国語を学び ましたか」	リスニング ディクテーション 表現応用	予習・復習(120分)
10	II話してみよう! 第8課「どこで韓国語を学び ましたか」	リスニング ディクテーション 表現応用	予習・復習(120分)
11	II話してみよう! 第9課「梨泰院に行きたいで す」	リスニング ディクテーション 表現応用	予習・復習(120分)
12	II話してみよう! 第9課「梨泰院に行きたいで す」	リスニング ディクテーション 表現応用	予習・復習(120分)
13	II話してみよう! 第10課「ミュージカルを見 に行きます」	リスニング ディクテーション 表現応用	予習・復習(120分)
14	II話してみよう! 第10課「ミュージカルを見 に行きます」	リスニング ディクテーション 表現応用	予習・復習(120分)
15	後半のまとめと理解度確認 テスト(期末評価)		理解度確認テストの準備(120分)

関連科目	「韓国語Ⅰ」「韓国語Ⅱa」「韓国語Ⅲa」「韓国語Ⅲb」など韓国語関連科目
------	--------------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	チュクチュク チャラネ ぐんぐん伸びる韓国語 初級	朴恩珠・森類臣・権世美	白帝社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1	ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典 第2版	油谷幸利ほか編	小学館
	2			
	3			
評価方法 (基準)	課題の遂行 20% 小テスト 40% 期末の理解度確認テスト 40%			
学生への メッセージ	1) 特段の事情なく授業の3分の1以上を欠席した学生は、基本的に評価の対象としない。 2) 1年次後期の「韓国語Ⅰ」を履修した学生、もしくは同等のレベルの韓国語学習(独習も含む)の経験がある学生が対象となる。 「韓国語Ⅰ」履修程度の実力がない全くの初学者は、本授業を履修しても授業についていけない可能性が高いので要相談となる。 3) 「韓国語Ⅱa」と「韓国語Ⅱb」を両方履修することが望ましい。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	質問がある場合は、授業の前後の時間に受け付ける。			

科目名	韓国語Ⅱb	科目名(英文)	Korean IIb
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	2
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	沈明姫
ディプロマポリシー(DP)	DP1Δ, DP6Δ		
科目ナンバリング	LK02819e1		

授業概要・目的
 この授業では、「韓国語Ⅰ」で養成した基礎力を踏まえた上で、ハングル能力検定5級もしくは韓国語能力試験(TOPIK)1級に合格できる実力を養う。「韓国語Ⅱa」が文法や読解などを中心とした総合的な内容を扱う一方、本科目「韓国語Ⅱb」は韓国語での発話コミュニケーション、つまり発音・リスニング・会話表現などを中心に行う。
 教科書は『チュクチュク チャラネ ぐんぐん伸びる韓国語 初級』(朴恩珠・森類臣・権世美著、白帝社、2021年)を使用する。また、別途プリントや視聴覚教材の活用なども並行して行う。
 語学としての韓国語の学習はもちろんだが、教科書の内容に関連する文化的な背景もできる限り紹介するようにする。

到達目標
 ハングル能力検定5級もしくは韓国語能力試験(TOPIK)1級合格程度の実力を培う。主に、次の2点を養う。
 ①連音化されている単語や文章を把握しつつ、6~10語程度の文章を聞いて理解できる。
 ②決まり文句を用いて様々な場面に対応できる(自己紹介、買い物、飲食店での注文など)

授業方法と留意点
 1) 予習をした上で授業に臨むこと。
 2) 進度については、受講学生の理解度を鑑みながら多少調整する可能性がある。
 3) 受講学生の理解を助けるため、適宜プリントを配布することもある。
 4) フィードバックは基本的に授業内に行う。

科目学習の効果(資格)
 ハングル能力検定5級もしくは韓国語能力試験(TOPIK)1級に合格する水準の実力養成

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	1) ガイダンス 2) II話してみよう! 第4課「いくらですか」	・リスニング ・ディクテーション ・表現応用	予習・復習(120分)
2	II話してみよう! 第4課「いくらですか」	・リスニング ・ディクテーション ・表現応用	予習・復習(120分)
3	II話してみよう! 第5課「モッツァレラチーズ ドッグを2つください」	・リスニング ・ディクテーション ・表現応用	予習・復習(120分)
4	II話してみよう! 第5課「モッツァレラチーズ ドッグを2つください」	・リスニング ・ディクテーション ・表現応用	予習・復習(120分)
5	II話してみよう! 第6課「私たち今日はどこに 行きますか」	・リスニング ・ディクテーション ・表現応用	予習・復習(120分)
6	II話してみよう! 第6課「私たち今日はどこに 行きますか」	・リスニング ・ディクテーション ・表現応用	予習・復習(120分)
7	II話してみよう! 第7課「木曜日はスジさんに 会いませんか」	・リスニング ・ディクテーション ・表現応用	予習・復習(120分)
8	II話してみよう! 第7課「木曜日はスジさんに 会いませんか」	・リスニング ・ディクテーション ・表現応用	予習・復習(120分)
9	II話してみよう! 第8課「どこで韓国語を学び ましたか」	・リスニング ・ディクテーション ・表現応用	予習・復習(120分)
10	II話してみよう! 第8課「どこで韓国語を学び ましたか」	・リスニング ・ディクテーション ・表現応用	予習・復習(120分)
11	II話してみよう! 第9課「梨泰院に行きたいで す」	・リスニング ・ディクテーション ・表現応用	予習・復習(120分)
12	II話してみよう! 第9課「梨泰院に行きたいで す」	・リスニング ・ディクテーション ・表現応用	予習・復習(120分)
13	II話してみよう! 第10課「ミュージカルを見 に行きます」	・リスニング ・ディクテーション ・表現応用	予習・復習(120分)
14	II話してみよう! 第10課「ミュージカルを見 に行きます」	・リスニング ・ディクテーション ・表現応用	予習・復習(120分)
15	後半のまとめと理解度確認 テスト(期末評価)	・リスニング ・ディクテーション ・表現応用	理解度確認テストの準備(120分)

関連科目
 「韓国語Ⅰ」「韓国語Ⅱa」「韓国語Ⅲa」「韓国語Ⅲb」など韓国語関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	『チュクチュク チャラネ ぐんぐん伸びる韓国語 初級』	朴恩珠・森類臣・権世美	白帝社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1	『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典 第2版』	油谷幸利ほか編	小学館
	2			
	3			
評価方法 (基準)	課題の遂行 20% 小テスト 40% 期末の理解度確認テスト 40%			
学生への メッセージ	1) 特段の事情なく授業を3回以上を欠席した学生は、基本的に評価の対象としない。 2) 1年次後期の「韓国語Ⅰ」を履修した学生、もしくは同等レベルの韓国語学習(独習も含む)の経験がある学生が対象となる。「韓国語Ⅰ」履修程度の実力がない全くの初学者は、本授業を履修しても授業についていけない可能性が高いので要相談となる。 3) 「韓国語Ⅱa」と「韓国語Ⅱb」を両方履修することが望ましい。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	質問は、授業の前後の時間に受け付ける。			

科目名	韓国語Ⅲ a	科目名 (英文)	Korean IIIa
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	1
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	安 昭炫
ディプロマポリシー(DP)	DP1Δ, DP6Δ		
科目ナンバリング	LK02820e1		

授業概要・目的	この授業では、「韓国語Ⅱa」もしくは「韓国語Ⅱb」で養成した韓国語運用能力を踏まえた上で、ハングル能力検定4級（および3級）もしくは韓国語能力試験（TOPIK）2級（および3級）合格水準に達する実力を培う。文法や読解などを中心とした総合的な内容（発音なども含む）を扱う。 教科書は『チュクチュク チャラネ ぐんぐん伸びる韓国語 初級』（朴恩珠・森類臣・権世美著、白帝社、2021年）を使用する。教科書に沿って授業を進めていく。 語学としての韓国語の学習はもちろんだが、教科書の内容に関連する文化的な背景もできる限り紹介するようにする。
到達目標	ハングル能力検定4級（および3級）もしくは韓国語能力試験（TOPIK）2級（および3級）合格程度の実力を培う。主に、①文法事項・単語力 ②読解力と作文能力の2点を養う。具体的には次の通りである。 ・単語数1200語 ・指示・命令、依頼、誘いの受諾や拒否などにおける基礎的な文法や表現を理解し表現できる。
授業方法と留意点	1) 文法事項・語彙の予習および復習の時間を充分にとりて着実に学習を重ねること。 2) 進度については、受講学生の理解度を鑑みながら多少調整する可能性がある。 3) 受講学生の理解を助けるため、適宜プリントを配布することもある。 4) フィードバックは基本的に授業内を行う。
科目学習の効果（資格）	ハングル能力検定4級（および3級）もしくは韓国語能力試験（TOPIK）2級（および3級）合格

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	1) ガイダンス 2) II話してみよう！ 第11課「157番のバスに乗って下さい」	・助詞：～から～まで ・位置名詞 ：丁寧な命令、指示：～して下さい	予習・復習（120分）
2	II話してみよう！ 第11課「157番のバスに乗って下さい」	・条件、仮定：～ば、～たら、～と ・不規則活用	予習・復習（120分）
3	II話してみよう！ 第12課「ここから景福宮に行けますか」	・助詞：～へ、～で、～として ・可能：～することができる ・不可能：～することができない	予習・復習（120分）
4	II話してみよう！ 第12課「ここから景福宮に行けますか」	・～しなければならない ・前置否定（不可能）	予習・復習（120分）
5	II話してみよう！ 第13課「コンサートと一緒に行きましょうか」	提案・勧誘：～しましょうか	予習・復習（120分）
6	II話してみよう！ 第13課「コンサートと一緒に行きましょうか」	・提案・勧誘：～しましょう	予習・復習（120分）
7	II話してみよう！ 第14課「まず、この写真から見ます」	・意志・約束：～します ・動詞の連体形の過去形	予習・復習（120分）
8	II話してみよう！ 第14課「まず、この写真から見ます」	動詞の連体形の現在形	予習・復習（120分）
9	II話してみよう！ 第15課「友達とカラオケに行くつもりです」	予定、意志、推測：～するつもりです	予習・復習（120分）
10	II話してみよう！ 第15課「友達とカラオケに行くつもりです」	連体形：形容詞、指定詞、存在詞	予習・復習（120分）
11	II話してみよう！ 第16課「インターネットで検索してみてください」	行為の勧め：～してみてください	予習・復習（120分）
12	II話してみよう！ 第16課「インターネットで検索してみてください」	・理由、原因：～から、～ので	予習・復習（120分）
13	II話してみよう！ 第17課「別の部屋に変えてください」	・依頼：～してください ・不規則活用	予習・復習（120分）
14	II話してみよう！ 第17課「別の部屋に変えてください」	病状を表す表現	予習・復習（120分）
15	期末のまとめと理解度確認テスト（期末評価）	期末の総まとめ	理解度確認テストの準備（120分）

関連科目	「韓国語Ⅱa」「韓国語Ⅱb」「韓国語Ⅲb」など韓国語関連科目
------	--------------------------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	チュクチュク チャラネ ぐんぐん伸びる韓国語 初級	朴恩珠・森類臣・権世美	白帝社
2			
3			

参考書	
-----	--

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典 第2版	油谷幸利ほか編	小学館
	2			
	3			
評価方法 (基準)	課題の遂行 20% 小テスト 40% 期末の理解度確認テスト 40%			
学生への メッセージ	1) 特段の事情なく授業回数の3分の1以上を欠席した学生は、基本的に評価の対象としない。 2) 2年次前期の「韓国語Ⅱa」「韓国語Ⅱb」を履修した学生、もしくは同等レベルの韓国語学習(独習も含む)の経験がある学生が対象となる。 3) 「韓国語Ⅲa」と「韓国語Ⅲb」を両方履修することが望ましい。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	質問は、授業の前後の時間やオフィスアワーに受け付ける。Teams やメールで質問してくれてもかまわない。			

科目名	韓国語Ⅲ a	科目名 (英文)	Korean IIIa
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	2
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	沈 明姫
ディプロマポリシー(DP)	DP1Δ, DP6Δ		
科目ナンバリング	LK02820e1		

授業概要・目的	この授業では、「韓国語Ⅱa」もしくは「韓国語Ⅱb」で養成した韓国語運用能力を踏まえた上で、ハングル能力検定4級（および3級）もしくは韓国語能力試験（TOPIK）2級（および3級）合格水準に達する実力を培う。文法や読解などを中心とした総合的な内容（発音なども含む）を扱う。 教科書は『チュクチュク チャラネ ぐんぐん伸びる韓国語 初級』（朴恩珠・森類臣・権世美著、白帝社、2021年）を使用する。教科書に沿って授業を進めていく。 語学としての韓国語の学習はもちろんだが、教科書の内容に関連する文化的な背景もできる限り紹介するようにする。
到達目標	ハングル能力検定4級（および3級）もしくは韓国語能力試験（TOPIK）2級（および3級）合格程度の実力を培う。主に、①文法事項・単語力 ②読解力と作文能力の2点を養う。具体的には次の通りである。 ・単語数1200語 ・指示・命令、依頼、誘いの受諾や拒否などにおける基礎的な文法や表現を理解し表現できる。
授業方法と留意点	1) 文法事項・語彙の予習および復習の時間を充分にとりて着実に学習を重ねること。 2) 進度については、受講学生の理解度を鑑みながら多少調整する可能性がある。 3) 受講学生の理解を助けるため、適宜プリントを配布することもある。 4) フィードバックは基本的に授業内で行う。
科目学習の効果（資格）	ハングル能力検定4級（および3級）もしくは韓国語能力試験（TOPIK）2級（および3級）合格

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	1) ガイダンス 2) II話してみよう！ 第11課「157番のバスに乗って下さい」	・助詞：～から～まで ・位置名詞 ：丁寧な命令、指示：～して下さい	予習・復習（120分）
2	II話してみよう！ 第11課「157番のバスに乗って下さい」	・条件、仮定：～ば、～たら、～と ・不規則活用	予習・復習（120分）
3	II話してみよう！ 第12課「ここから景福宮に行けますか」	・助詞：～へ、～で、～として ・可能：～することができる ・不可能：～することができない	予習・復習（120分）
4	II話してみよう！ 第12課「ここから景福宮に行けますか」	・～しなければならない ・前置否定（不可能）	予習・復習（120分）
5	II話してみよう！ 第13課「コンサートと一緒に行きましょうか」	提案・勧誘：～しましょうか	予習・復習（120分）
6	II話してみよう！ 第13課「コンサートと一緒に行きましょうか」	・提案・勧誘：～しましょう	予習・復習（120分）
7	II話してみよう！ 第14課「まず、この写真から見ます」	・意志・約束：～します ・動詞の連体形の過去形	予習・復習（120分）
8	II話してみよう！ 第14課「まず、この写真から見ます」	動詞の連体形の現在形	予習・復習（120分）
9	II話してみよう！ 第15課「友達とカラオケに行くつもりです」	予定、意志、推測：～するつもりです	予習・復習（120分）
10	II話してみよう！ 第15課「友達とカラオケに行くつもりです」	連体形：形容詞、指定詞、存在詞	予習・復習（120分）
11	II話してみよう！ 第16課「インターネットで検索してみてください」	行為の勧め：～してみてください	予習・復習（120分）
12	II話してみよう！ 第16課「インターネットで検索してみてください」	・理由、原因：～から、～ので	予習・復習（120分）
13	II話してみよう！ 第17課「別の部屋に変えてください」	・依頼：～してください ・不規則活用	予習・復習（120分）
14	II話してみよう！ 第17課「別の部屋に変えてください」	病状を表す表現	予習・復習（120分）
15	後期のまとめと理解度確認テスト（期末評価）	期末の総まとめ	理解度確認テストの準備（120分）

関連科目	「韓国語Ⅱa」「韓国語Ⅱb」「韓国語Ⅲb」など韓国語関連科目
------	--------------------------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	チュクチュク チャラネ ぐんぐん伸びる韓国語 初級	朴恩珠・森類臣・権世美	白帝社
2			
3			

参考書	
-----	--

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典 第2版	油谷幸利ほか編	小学館
	2			
	3			
評価方法 (基準)	課題の遂行 20% 小テスト 40% 期末の理解度確認テスト 40%			
学生への メッセージ	1) 特段の事情なく授業を3回以上を欠席した学生は、基本的に評価の対象としない。 2) 2年次前期の「韓国語Ⅱa」「韓国語Ⅱb」を履修した学生、もしくは同等レベルの韓国語学習(独習も含む)の経験がある学生が対象となる。 3) 「韓国語Ⅲa」と「韓国語Ⅲb」を両方履修することが望ましい。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	質問は、授業の前後の時間に受け付ける。			

科目名	韓国語Ⅲb	科目名(英文)	Korean IIIb
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	1
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	北島 由紀子
ディプロマポリシー(DP)	DP1Δ, DP6Δ		
科目ナンバリング	LK02821e1		

授業概要・目的	この授業では、「韓国語Ⅱa」もしくは「韓国語Ⅱb」で養成した韓国語運用能力を踏まえた上で、ハングル能力検定4級(および3級)もしくは韓国語能力試験(TOPIK)2級(および3級)合格水準に達する実力を培う。「韓国語Ⅲa」では文法や読解などを中心とした総合的な内容を扱う一方、本科目「韓国語Ⅲb」では韓国語での発話コミュニケーション、つまり発音・リスニング・会話表現などを中心に学ぶ。教科書は『チュクチュク チャラネ ぐんぐん伸びる韓国語 初級』(朴恩珠・森類臣・権世美著、白帝社、2021年)を使用する。教科書に沿って授業を進めていく。 語学としての韓国語の学習はもちろんだが、教科書の内容に関連する文化的な背景もできる限り紹介するようにする。
到達目標	ハングル能力検定4級(および3級)もしくは韓国語能力試験(TOPIK)2級(および3級)合格程度の実力を培う。 主に、次の2点を養う。 ①社会的な出来事について、簡単な文章を作ることができる。 ②電話や公共機関における簡単な会話ができる。
授業方法と留意点	1) 予習をした上で授業に臨むこと。 2) 進度については、受講学生の理解度を鑑みながら多少調整する可能性がある。 3) 受講学生の理解を助けるため、適宜プリントを配布することもある。 4) フィードバックは基本的に授業内を行う。
科目学習の効果(資格)	ハングル能力検定4級(および3級)もしくは韓国語能力試験(TOPIK)2級(および3級)合格

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	1) ガイダンス 2) II話してみよう! 第11課「157番のバスに乗ってください」	リスニング ディクテーション 表現応用	復習(120分)
2	II話してみよう! 第11課「157番のバスに乗ってください」	リスニング ディクテーション 表現応用	予習・復習(120分)
3	II話してみよう! 第12課「ここから景福宮に行けますか」	リスニング ディクテーション 表現応用	予習・復習(120分)
4	II話してみよう! 第12課「ここから景福宮に行けますか」	リスニング ディクテーション 表現応用	予習・復習(120分)
5	II話してみよう! 第13課「コンサートと一緒に行きましょうか」	リスニング ディクテーション 表現応用	予習・復習(120分)
6	II話してみよう! 第13課「コンサートと一緒に行きましょうか」	リスニング ディクテーション 表現応用	予習・復習(120分)
7	II話してみよう! 第14課「まず、この写真から見ます」	リスニング ディクテーション 表現応用	予習・復習(120分)
8	II話してみよう! 第14課「まず、この写真から見ます」	リスニング ディクテーション 表現応用	予習・復習(120分)
9	II話してみよう! 第15課「友達とカラオケに行くつもりです」	リスニング ディクテーション 表現応用	予習・復習(120分)
10	II話してみよう! 第15課「友達とカラオケに行くつもりです」	リスニング ディクテーション 表現応用	予習・復習(120分)
11	II話してみよう! 第16課「インターネットで検索してみてください」	リスニング ディクテーション 表現応用	予習・復習(120分)
12	II話してみよう! 第16課「インターネットで検索してみてください」	リスニング ディクテーション 表現応用	予習・復習(120分)
13	II話してみよう! 第17課「別の部屋に変えてください」	リスニング ディクテーション 表現応用	予習・復習(120分)
14	II話してみよう! 第17課「別の部屋に変えてください」	リスニング ディクテーション 表現応用	予習・復習(120分)
15	後半のまとめと理解度確認テスト(期末評価)		理解度確認テストの準備(120分)

関連科目	「韓国語Ⅱa」「韓国語Ⅱb」「韓国語Ⅲa」など韓国語関連科目
------	--------------------------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	チュクチュク チャラネ ぐんぐん伸びる韓国語 初級	朴恩珠・森類臣・権世美	白帝社
2			
3			

参考書	
-----	--

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典 第2版	油谷幸利ほか編	小学館
	2			
	3			
評価方法 (基準)	課題の遂行 20% 小テスト 40% 期末の理解度確認テスト 40%			
学生への メッセージ	1) 特段の事情なく授業の3分の1以上を欠席した学生は、基本的に評価の対象としない。 2) 2年次前期の「韓国語Ⅱa」「韓国語Ⅱb」を履修した学生、もしくは同等のレベルの韓国語学習(独習も含む)の経験がある学生が対象となる。 3) 「韓国語Ⅲa」と「韓国語Ⅲb」を両方履修することが望ましい。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	質問がある場合は、授業の前後の時間に受け付ける。			

科目名	韓国語Ⅲb	科目名(英文)	Korean IIIb
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	2
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	沈 明姫
ディプロマポリシー(DP)	DP1△, DP6△		
科目ナンバリング	LK02821e1		

授業概要・目的
この授業では、「韓国語Ⅱa」もしくは「韓国語Ⅱb」で養成した韓国語運用能力を踏まえた上で、ハングル能力検定4級(および3級)もしくは韓国語能力試験(TOPIK)2級(および3級)合格水準に達する実力を培う。「韓国語Ⅲa」では文法や読解などを中心とした総合的な内容を学ぶ一方、本科目「韓国語Ⅲb」では韓国語での発話コミュニケーション、つまり発音・リスニング・会話表現などを中心に学ぶ。教科書は『チュクチュク チャラネ(ぐんぐん伸びる)韓国語 初級』(朴恩珠・森類臣・権世美著、白帝社、2021年)を使用する。教科書に沿って授業を進めていく。
語学としての韓国語の学習はもちろんだが、教科書の内容に関連する文化的な背景もできる限り紹介するようにする。

到達目標
ハングル能力検定4級(および3級)もしくは韓国語能力試験(TOPIK)2級(および3級)合格程度の実力を培う。主に、次の2点を養う。
①社会的な出来事について、簡単な文章を作ることができる。
②電話や公共機関における簡単な会話ができる。

授業方法と留意点
1) 予習をした上で授業に臨むこと。
2) 進度については、受講学生の理解度を鑑みながら多少調整する可能性がある。
3) 受講学生の理解を助けるため、適宜プリントを配布することもある。
4) フィードバックは基本的に授業内に行う。

科目学習の効果(資格)
ハングル能力検定4級(および3級)もしくは韓国語能力試験(TOPIK)2級(および3級)合格

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	1) ガイダンス 2) II話してみよう! 第11課「157番のバスに乗って下さい」	・リスニング ・ディクテーション ・表現応用	予習・復習(120分)
2	II話してみよう! 第11課「157番のバスに乗って下さい」	・リスニング ・ディクテーション ・表現応用	予習・復習(120分)
3	II話してみよう! 第12課「ここから景福宮に行けますか」	・リスニング ・ディクテーション ・表現応用	予習・復習(120分)
4	II話してみよう! 第12課「ここから景福宮に行けますか」	・リスニング ・ディクテーション ・表現応用	予習・復習(120分)
5	II話してみよう! 第13課「コンサートと一緒に行きましょうか」	・リスニング ・ディクテーション ・表現応用	予習・復習(120分)
6	II話してみよう! 第13課「コンサートと一緒に行きましょうか」	・リスニング ・ディクテーション ・表現応用	予習・復習(120分)
7	II話してみよう! 第14課「まず、この写真から見ます」	・リスニング ・ディクテーション ・表現応用	予習・復習(120分)
8	II話してみよう! 第14課「まず、この写真から見ます」	・リスニング ・ディクテーション ・表現応用	予習・復習(120分)
9	II話してみよう! 第15課「友達とカラオケに行くつもりです」	・リスニング ・ディクテーション ・表現応用	予習・復習(120分)
10	II話してみよう! 第15課「友達とカラオケに行くつもりです」	・リスニング ・ディクテーション ・表現応用	予習・復習(120分)
11	II話してみよう! 第16課「インターネットで検索してみてください」	・リスニング ・ディクテーション ・表現応用	予習・復習(120分)
12	II話してみよう! 第16課「インターネットで検索してみてください」	・リスニング ・ディクテーション ・表現応用	予習・復習(120分)
13	II話してみよう! 第17課「別の部屋に変えてください」	・リスニング ・ディクテーション ・表現応用	予習・復習(120分)
14	II話してみよう! 第17課「別の部屋に変えてください」	・リスニング ・ディクテーション ・表現応用	予習・復習(120分)
15	後半のまとめと理解度確認テスト(期末評価)		理解度確認テストの準備(120分)

関連科目
「韓国語Ⅱa」「韓国語Ⅱb」「韓国語Ⅲb」など韓国語関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	『チュクチュク チャラネ ぐんぐん伸びる韓国語 初級』	朴恩珠・森類臣・権世美	白帝社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1	『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典 第2版』	油谷幸利ほか編	小学館
	2			
	3			
評価方法 (基準)	課題の遂行 20% 小テスト 40% 期末の理解度確認テスト 40%			
学生への メッセージ	1) 特段の事情なく授業を3回以上を欠席した学生は、基本的に評価の対象としません。 2) 2年次前期の「韓国語Ⅱa」「韓国語Ⅱb」を履修した学生、もしくは同等レベルの韓国語学習(独習も含む)の経験がある学生が対象となる。 3) 「韓国語Ⅲa」と「韓国語Ⅲb」を両方履修することが望ましい。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	質問は、授業の前後の時間に受け付ける。			

科目名	コミュニケーション I	科目名 (英文)	Communication I
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	津村 忠、橋本 朗子
ディプロマポリシー (DP)	DP1Δ, DP6Δ		
科目ナンバリング	LJA2824a1		

授業概要・目的
 社会に必要なコミュニケーションスキルを習得するための授業です。読む・書く・話す・聴くの4技能は常に求められるスキルですが、それらは「技術」として認識し、訓練することによってより実践的なものに高めることが可能です。この授業では毎回「こちらの意図を的確に伝える」技術や「相手の意図を十分に理解する」技術、すなわち「話す」「聴く」技術を高める練習をします。普段、ディスカッションをしたり、プレゼンテーションを練習する機会はありません。講義を通じてこれら社会で求められる力を身につけたい人は受講をお勧めします。講師陣はそれぞれが、人材採用・社会人教育の前線で長年実務を経験したり、航空業界で多種多様な価値観触れた経験や、様々な業界で実務経験を持ち、「話す」「聴く」技術を活用してきました。そういう経験も活かして、社会で使えるコミュニケーション能力の獲得を目指します。

到達目標
 高度なコミュニケーションスキルを身につけることを目標とします。具体的には社会活動において、自らが望む相応の結果を出すためのスキルを身につけることが目標です。
 SDGs4
 SDGs10

授業方法と留意点
 授業は理論と実践で構成されています。コミュニケーション能力は理論を知ったうえで、アウトプットする訓練が必要です。実践については授業の性質上、ペアワーク、グループワーク、プレゼンテーションになることもあります。対面時は必ずマスク着用、適度な距離を保つことに留意してください。社会状況によってはオンラインになることもあります。情報はMicrosoft Teamsにて発信しますので、必ず確認するようにしてください。

科目学習の効果 (資格)

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	コミュニケーションとは	コミュニケーションの本質を考える。	シラバス熟読
2	傾聴力、質問力を高める	聴くための技術の基本的な方法と聞いた内容を深めるための質問方法について学ぶ。	講義内容を復習し、実践すること(目安:30分)。
3	ロジカルコミュニケーション	論理的に会話するための基礎を学ぶ。	講義内容を復習し、実践すること(目安:1時間)。
4	コミュニケーションの技法	相手により伝わるための非言語コミュニケーションについて学ぶ。	講義内容を復習し、実践すること(目安:1時間)。
5	プレゼンテーション①	プレゼンテーションの基礎について学ぶ。	講義内容を復習し、実践すること(目安:1時間)。
6	プレゼンテーション②	プレゼンテーション(個人プレゼンの準備)	講義内容を復習し、実践すること(目安:1時間)。
7	プレゼンテーション③	プレゼンテーション(個人プレゼン完成) ※評定あり	講義内容を復習し、各自プレゼンテーションの準備とシナリオ作成を行うこと(目安:2時間)。
8	言語理解①	社会で必要とされる言語理解の基礎について学ぶ。	今までの範囲を復習しておくこと(目安:30分)。
9	言語理解②	社会で必要とされる言語理解の応用について学ぶ。	講義内容を復習し、実践すること(目安:30分)。
10	言語理解③	社会で必要とされる言語理解の基礎と応用の演習問題を解く。 ※評定あり	講義内容を復習し、実践すること(目安:1時間)。
11	グループディスカッション①	グループディスカッションの基礎について学ぶ。	講義内容を復習し、実践すること(目安:30分)。
12	グループディスカッション②	グループディスカッションの演習(基本編)で学ぶ。	講義内容を復習し、実践すること(目安:30分)。チームで実践を行う(目安:1時間)。
13	グループディスカッション③	グループディスカッション実践演習(模擬選考) ※評定あり	講義内容を復習し、実践すること(目安:30分)。個人で実践を行う(目安:1時間)。
14	ダイバーシティ・コミュニケーション	多様性社会の中、望まれるコミュニケーションスキルを学ぶ。	講義内容を復習し、実践すること(目安:2時間)。
15	総合演習	これまで実施した授業の内容を踏まえ、自分を的確に且つ効果的に表現すること学び、実践する。 ※評定あり	全ての範囲を確認しておくこと(目安:2時間)。

関連科目 キャリアデザインⅡ、数的能力開発、就職実践基礎

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準) 毎回の小レポート 30点、プレゼンテーション 15点、言語理解 20点、グループディスカッション 10点、総合演習レポート 25点

学生へのメッセージ
 人間は「社会的動物」です。他者との関係の中で生きていかなければなりません。他者との関係性を良好に保つことは、豊かな人生を送るための重要な条件になります。そのために求められるものが「コミュニケーション能力」と言われており、これはビジネスシーンにおいても同様です。コミュニケーションを楽しみながら、適切に行えるようになっていきたいと思います。

担当者の 研究室等	7号館3階 教育イノベーションセンター
備考	

科目名	エンプロイメントデザインⅡ	科目名 (英文)	Employment Design II
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	石井 三恵, 水野 武
ディプロマポリシー (DP)	DP1Δ, DP6Δ		
科目ナンバリング	LCA2830a1		

授業概要・目的	外部講師 (本学卒業生を含む) をお招きし、仕事・職業観・人生経験やキャリア・パス等についてのお話を聴く。質疑応答の時間を設けているので、勇気を持って講師に質問をするだけでなく、質問時の態度や表現の仕方を学ぶ。 この科目を通じて、学生はさまざまな職業について理解し、多様な仕事術についての知識を得ること、さらには仕事観や人生観の涵養に役立てることが期待される。
到達目標	さまざまな職業についての知識を得て、多様な仕事術を理解できるようになることを講義の目標とする。
授業方法と留意点	話を聴くことが主となるため、社会人としての真摯な態度での話の聴き方、メモの取り方、積極的に質問すること等の習慣を身に付けること。
科目学習の効果 (資格)	人や社会に関わること、仕事力の伸ばし方について考えるきっかけとなる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	警察官として、生きていく。大阪府警察は、この街を、人を、そしてキミの人生を、全力で守り続ける。(警察官)	・採用担当者が大阪府警察の仕事、働く上でのやりがいなどを紹介いたします。	・事後学修: 講義の内容を振り返ること (0.5 時間)
3	しあわせのまちづくり ～主役は地域住民! 『こどもからおとしよりまで笑顔あふれる地域づくり』の支え方～ (社会福祉協議会職員)	・地域住民にもっとも近い社会福祉法人である社会福祉協議会の仕事と理念についてお話しします	・事後学修: 講義の内容を振り返ること (0.5 時間)
4	面接担当をして気付いた学生のうちしておくべき事 (摂大 OB/人事担当者)	就活、キャリアデザインをする上で本当にしておくべきと感じた事を経験談を基に、営業職として、採用担当として、OBとして、お話しします。	・事後学修: 講義の内容を振り返ること (0.5 時間)
5	プログラマを目指して摂南大学に入学してから NPO 代表になるまで (摂大 OB/NPO 法人代表)	・理系学部でプログラマーを目指しながらもスタープログラマーになれなかった男が、“公共性”を武器に NPO 法人を設立するまでのキャリア構築の過程をお話しします。	・事後学修: 講義の内容を振り返ること (0.5 時間)
6	「ビジネス創造に必要な力」を実例から学ぶ (IT/役員)	・現役のビジネスパーソンが日々実践している「ビジネスに必要な力」を事例を通じて解説します。	・事後学修: 講義の内容を振り返ること (0.5 時間)
7	ホームレス状態を生み出さない日本を目指して (NPO 法人事務局長)	・大阪府で活動をする NPO 法人 Homedoor の実践を通じて、ホームレス問題や NPO の運営の方法を学ぶ。 年間 1000 名以上の生活相談に対応するなかで見えてきたホームレス問題の課題や今後の展望についても触れる。	・事後学修: 講義の内容を振り返ること (0.5 時間)
8	お坊さんから後輩のみなさんへ (摂大 OB/住職)	・一人の学生が僧侶として歩みだすまでの過程を自身の学生生活の経験談を交えながらお話しします。	・事後学修: 講義の内容を振り返ること (0.5 時間)
9	講義の中間まとめと就職活動の現状について	・講義の中間まとめ ・就職活動について (就職部)	・事前学修: 講義全体を振り返り、ノートにまとめること (2 時間) ・事後学修: 講義の内容を振り返ること (0.5 時間) ・事後学修: 中間レポートを作成すること (2 時間)
10	働くことってどんなこと? 日本で働くことと SDGs、みんなで持続可能な働き方を探していこう! (デジタルサービス)	・日本を取り巻く環境、仕事に必要なスキル、SDGs との繋がり、キャリアを自分ごととして考えるという内容をお話しします。	・事後学修: 講義の内容を振り返ること (0.5 時間)
11	ともに強いまちを創る～公務員という選択～ (摂南大学 OB/市役所職員)	・仕事を通して社会や地域に貢献ができる、自らが成長できる、公務員のやりがいについて熱くお話しします。	・事後学修: 講義の内容を振り返ること (0.5 時間)
12	信用金庫の仕事と期待される人材 (金融/人材開発)	・仕事のやりがいとキャリアを学生の皆さんにイメージしていただけるよう、講義します。	・事後学修: 講義の内容を振り返ること (0.5 時間)
13	社会人になって学んだことと、企業経営で大切にしているモノ (摂南大学 OB/経営者)	・社会人となる学生へ、体験談を通じて企業の中で誠実に生き抜くことを伝えます。	・事後学修: 講義の内容を振り返ること (0.5 時間)
14	先人 (企業家) に学ぶ仕事への心構え (商工会議所/職員)	・企業家から学ぶ、仕事の心構えについてお話しします。	・事後学修: 講義の内容を振り返ること (0.5 時間)
15	講義のおさらい	・講義全体のおさらい	・事前学修: 講義の全体を振り返ること (0.5 時間) ・事後学修: 最終課題を作成すること (1.5 時間)

関連科目	キャリアデザインⅠ、キャリアデザインⅡ、エンプロイメントデザインⅠ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	毎回の感想レポート (30%)、中間レポート1回 (30%)、期末レポート1回(40%)を総合的に判断する。			
学生への メッセージ	講師の多様な仕事に対する意識や成果の上げ方等を聴くことで、職業観の形成に役立ててほしい。また、撰大生として誠実な態度で質疑応答に臨んでほしい。			
担当者の 研究室等	石井三恵 (7号館5F) 水野武 (7号館3F) 坂口有芸 (7号館5F)			
備考	講師・内容は都合により変更することもある。 教科書：各回の講師が必要に応じ、プリント配布する。 参考書：各回の講師が必要に応じ、授業中に示す。			

科目名	スポーツと健康	科目名 (英文)	Sports and Health
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	瀬川 智広
ディプロマポリシー (DP)	DP1Δ, DP6Δ		
科目ナンバリング	LPH2835a1		

授業概要・目的	人生 100 年といわれる現代社会において、豊かな人生を送るためには健康的で活気に満ちた生活を末長く送ることが大切とされている。本講義ではスポーツが心身の健康にもたらす様々な効果について学習し、生涯にわたり健康の保持・増進にむけた取り組みを実践するために必要な基礎知識を身につける。 SDGs-3, 5, 10, 11, 16, 17
到達目標	(1) 現代社会における健康問題について理解できる。 (2) 健康づくりのための基礎知識を習得し、健康の保持・増進にむけた取り組みを実践することができる。 (3) 持続可能な社会を実現するためにスポーツの効果や影響力を活用するための基礎知識を身につけている。 (4) 身近な社会問題や健康づくりをテーマとして議論や発表をすることで、主体的に学ぶ姿勢を身につけている。
授業方法と留意点	パワーポイントや資料を用いた講義形式で行う。授業テーマにそった議題についてディスカッションを行ったり、自らの考えをプレゼンテーションする機会を取り入れる。小レポートを課す。 授業内にフィードバックを行う。
科目学習の効果 (資格)	心身の健康保持増進に関する知識が身につく、受講者自身の健康管理ができるようになる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	スポーツと健康について	オリエンテーション スポーツと健康とは 講義全体の概要、到達目標および成績評価について説明する	事後：授業で指示する課題に取り組み、学習内容を復習する (2 時間以上)
2	現代社会の健康問題	健康の定義と現代社会が抱える健康問題について学習する (講義・個人ワーク・小レポート)	事前：指定されたテーマについて調べておく (1 時間以上) 事後：授業で指示する課題に取り組み、学習内容を復習する (1 時間以上)	
3	運動習慣が身体にもたらす効果	人間にとって体を動かすことの意義や効果について理解する (講義・個人ワーク・小レポート)	事前：指定されたテーマについて調べておく (1 時間以上) 事後：授業で指示する課題に取り組み、学習内容を復習する (1 時間以上)	
4	適切な体重と食生活	適切な体重について理解する 健康に良い食生活について考える (講義・個人ワーク・小レポート)	事前：指定されたテーマについて調べておく (1 時間以上) 事後：授業で指示する課題に取り組み、学習内容を復習する (1 時間以上)	
5	生活習慣病	現代生活と生活習慣病の関係について学習する (講義・個人ワーク・小レポート)	事前：指定されたテーマについて調べておく (1 時間以上) 事後：授業で指示する課題に取り組み、学習内容を復習する (1 時間以上)	
6	飲酒・喫煙・薬物が身体に及ぼす影響	飲酒、喫煙、薬物が身体におよぼす影響について学習する (講義・個人ワーク・小レポート)	事前：指定されたテーマについて調べておく (1 時間以上) 事後：授業で指示する課題に取り組み、学習内容を復習する (1 時間以上)	
7	睡眠・休息・ストレス	睡眠や休息が身体にもたらす影響について学習する。 またストレス発生のメカニズムを理解し、心の健康について学習する (講義・個人ワーク・小レポート)	事前：指定されたテーマについて調べておく (1 時間以上) 事後：授業で指示する課題に取り組み、学習内容を復習する (1 時間以上)	
8	安全で効果的にスポーツを楽しむための基礎知識 (1)	安全で効果的に運動をするための基礎知識を学習する (講義・個人ワーク・小レポート)	事前：指定されたテーマについて調べておく (1 時間以上) 事後：授業で指示する課題に取り組み、学習内容を復習する (1 時間以上)	
9	安全で効果的にスポーツを楽しむための基礎知識 (2)	安全で効果的な運動を実際に体験する (実技・小レポート)	事前：指定されたテーマについて調べておく (1 時間以上) 事後：実技で得た知識や情報について振り返る (1 時間以上)	
10	スポーツの意義と社会的役割 (1)	スポーツを通じた共生社会のあり方について考える (講義・グループディスカッション)	事前：指定されたテーマについて調べておく (1 時間以上) 事後：授業で指示する課題に取り組み、学習内容を復習する (1 時間以上)	
11	スポーツの意義と社会的役割 (2)	スポーツの意義と社会的役割について自ら調べ発表する (グループディスカッション・発表)	事前：指定されたテーマについて調べておく (1 時間以上) 事後：講義・グループディスカッションで得られた知識や情報について振り返る (1 時間以上)	
12	スポーツと SDGs (1)	SDGs に関する基礎知識や SDGs におけるスポーツの効果や影響力について学習する (講義・グループディスカッション)	事前：指定されたテーマについて調べておく (1 時間以上) 事後：講義・グループディスカッションで得られた知識や情報について振り返る (1 時間以上)	
13	スポーツと SDGs (2)	SDGs におけるスポーツの効果や影響力について自ら調べ発表する (個人発表)	事前：発表の準備をする (1 時間以上) 事後：他者の発表の要点をまとめる (1 時間以上)	
14	スポーツと SDGs (3)	SDGs におけるスポーツの効果や可影響力についてグループでまとめて発表する (グループ発表)	事前：発表の準備をする (1 時間以上) 事後：他者の発表の要点をまとめる (1 時間以上)	
15	スポーツと健康まとめ	授業のまとめ 自身の健康づくりのた	事前：指定されたテーマについて予習する (2 時間)	

			めの取り組みや持続可能な社会実現に向けた関わり方について考える (レポート)	以上) 事後：自身の健康づくりの取り組みを实践する
関連科目	スポーツ科学実習、生涯スポーツ実習、スポーツ文化論			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	これからの健康とスポーツの化学	阿部孝・琉子友男	講談社
	2	大学生の健康・スポーツ化学	片桐文子 他	道と書院
	3			
評価方法 (基準)	小レポート (50%)、グループワーク・発表 (20%) 最終授業終了後のレポート課題 (30%)			
学生への メッセージ	持続可能な社会の実現に向けてスポーツがもたらす様々な効果や期待される可能性について共に考えましょう。グループディスカッションや発表にも積極的に参加しましょう。			
担当者の 研究室等	総合体育館1階			
備考	学習の効果を高めることを目的とし、授業の進捗状況や理解度、時事問題と関連して授業テーマの順序を変更する場合があります。			

科目名	数的能力開発 I	科目名 (英文)	Development of Mathematical Ability I
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	津村 忠
ディプロマポリシー (DP)	DP1Δ, DP6Δ		
科目ナンバリング	LKY2844a1		

授業概要・目的	<p>数的分野 (算数・数学) を学習します。数的能力は社会に出てから活用する場面が多くあります。また数的能力を高めることは、論理的思考力を高めることにも繋がります。よってこの授業では、将来のキャリア形成に活かせるよう数的能力を高めることを目的とします。講師陣は様々な実務経験を有しています。仕事上で数学を活用してきた経験を元に数的能力を高めていくことを目指します。</p> <p>前期は、数的能力の基礎を中心に学習します。算数・数学の基礎知識、公式など、使わないと忘れがちな内容にも取り組みます。中学や高校の授業で数学が嫌い・苦手だったという人の学び直しにも適しています。</p>
到達目標	<p>授業で取り組んだ数理問題が概ね解けるようになっている。</p> <p>論理的に考える習慣が身につけている。</p>
授業方法と留意点	<p>まずは自力で解く→講師による解説→類題を解くという流れで、問題を確実に理解し、解けるようにしていきます。授業に集中して臨むことで、社会で必要とされる算数・数学の力が向上するでしょう。</p> <p>毎回異なる内容に取り組むため、講義で取り扱った問題の復習を必ず行い、学んだことを確実に定着させるようにしてください。</p> <p>なお、履修者数によっては、2回目以降の授業を複数クラスに分けて行います。</p> <p>初回の実力テストの結果および本人の希望を考慮してクラス分けを行います。</p>
科目学習の効果 (資格)	<p>大学生・社会人として必要最低限の数学の素養を身につける。</p>

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 実力テスト	講義概要説明、実力テストの実施	実力テストの復習
	2	計数問題①	割合と比	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	3	計数問題②	割合の応用問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	4	計数問題③	損益算	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	5	計数問題④	速度算①	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	6	計数問題⑤	速度算②	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	7	総復習①	計数問題復習	今まで学習した問題全てを事前に復習
	8	中間テスト	中間テスト	今まで学習した問題全てを事前に復習
	9	論理問題①	集合	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	10	論理問題②	場合の数	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	11	論理問題③	確率	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	12	論理問題④	表の読み取り	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	13	論理問題⑤	推論①	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	14	論理問題⑥	推論②	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	15	総復習②	論理問題復習	全ての問題を事前に復習

関連科目	コミュニケーション能力開発、就職実践基礎
------	----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	厳選！数学的リテラシー問題集	PS 出版事業部	PS 出版事業部
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	小テスト 40%、中間テスト・最終テスト 50%、SmartSPI 10%
学生へのメッセージ	社会で使うことのできる算数や数学を身につけていただければと思います。また、質問はどんなことでも遠慮なく質問してください。毎回の復習なくして数的能力の向上はありません。毎週 1 時間程度の予習復習を必ず行ってください。
担当者の研究室等	7 号館 3 階 教育イノベーションセンター
備考	Teams コードは、コピー&ペーストでの入力をオススメします。

科目名	数的能力開発 I	科目名 (英文)	Development of Mathematical Ability I
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	山岡 亮太
ディプロマポリシー(DP)	DP1△, DP6△		
科目ナンバリング	LKY2844a1		

授業概要・目的	数的分野(算数・数学)を学習します。数的能力は社会に出てから活用する場面が多くあります。また数的能力を高めることは、論理的思考力を高めることにも繋がります。よってこの授業では、将来のキャリア形成に活かせるよう数的能力を高めることを目的とします。講師陣は様々な実務経験を有しています。仕事上で数学を活用してきた経験を元に数的能力を高めていくことを目指します。
到達目標	授業で取り組んだ問題を概ね解けるようになっていくこと
授業方法と留意点	まずは自力で解く→講師による解説→類題を解くという流れで、問題を確実に理解し、解けるようになっていきます。授業に集中して臨むことで、社会で必要とされる算数・数学の力が向上するでしょう。毎回異なる内容に取り組むため、講義で取り扱った問題の復習を必ず行い、学んだことを確実に定着させるようにしてください。なお、履修者数によっては、2回目以降の授業を複数クラスに分けて行うことがあります。初回の実力テストの結果および本人の希望を考慮してクラス分けを行います。

科目学習の効果(資格)	大学生・社会人として必要最低限の数学の素養を身につける。
-------------	------------------------------

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 実力テスト	講義概要説明、実力テストの実施	実力テストの復習
	2	計数問題①	割合と比	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	3	計数問題②	割合の応用問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	4	計数問題③	損益算	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	5	計数問題④	速度算①	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	6	計数問題⑤	速度算②	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	7	総復習①	計数問題復習	今まで学習した問題全てを事前に復習
	8	中間テスト	中間テスト	今まで学習した問題全てを事前に復習
	9	論理問題①	集合	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	10	論理問題②	場合の数	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	11	論理問題③	確率	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	12	論理問題④	表の読み取り	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	13	論理問題⑤	推論①	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	14	論理問題⑥	推論②	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	15	総復習②	論理問題復習	全ての問題を事前に復習

関連科目	キャリアデザイン
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	厳選! 数学的リテラシー問題集	PS 出版事業部	PS 出版事業部
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	小テスト 40%、中間テスト・最終テスト 50%、SmartSPI 10%
----------	---------------------------------------

学生へのメッセージ	社会で使うことのできる算数や数学を身につけていただければと思います。また、質問はどんなことでも遠慮なく質問してください。毎回の復習なくして数的能力の向上はありません。毎週1時間程度の予習復習を必ず行ってください。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館3階 教育イノベーションセンター
----------	---------------------

備考	Teams コードは、コピー&ペーストでの入力をお勧めします。
----	---------------------------------

科目名	時事問題Ⅰ	科目名 (英文)	Current Issues Ⅰ
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	斉藤 徳高
ディプロマポリシー (DP)	DP1△, DP6△		
科目ナンバリング	LKY2846a1		

授業概要・目的	時事問題を取り上げて講義する。時事問題とは、現代社会における様々な出来事やニュースをいう。時事問題について関心を持ち、理解し、考える力を養うことで、国際学部生として、日本と世界を取り巻く諸問題に対して、適切に思考し判断を下すことが可能となる。「時事問題Ⅰ」では特に、「政治・経済」「暮らし」のテーマを取り上げる。
到達目標	時事問題について、正確に理解し、説明することができる。 時事問題について、「ニュース時事能力検定」3級相当の知識を有する。
授業方法と留意点	主に講義形式で行う。 話題となっているニュースを取り上げ、新聞や資料を用いながら解説する。 毎回30分程度、「ニュース時事能力検定試験」の教科書を用いた小テストを行い解説する。 小テストのフィードバックは授業中に行う。 また、授業内において「ニュース時事能力検定」(http://www.newskentei.jp/)を受験する。 合格・不合格にかかわらず、「ニュース時事能力検定」の受験を必須とする。受験日程はシラバスとは異なることもあり得るので、留意のこと。 時間があれば授業で検定のフィードバック

科目学習の 効果 (資格)	ニュース時事能力検定 3級
------------------	---------------

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	最近の時事問題について議論し考える	・関心を持った時事問題について学生ディスカッション ・最近の時事問題について解説 ・ニュース検定小テストと解説	・事前に新聞の一面やニュースに目を通し、気になった記事について簡単にまとめておく ・授業で解説した基礎知識の復習 ・小テストの復習
3	最近の時事問題について議論し考える	・関心を持った時事問題について学生ディスカッション ・最近の時事問題について解説 ・ニュース検定小テストと解説	・事前に新聞の一面やニュースに目を通し、気になった記事について簡単にまとめておく ・授業で解説した基礎知識の復習 ・小テストの復習
4	最近の時事問題について議論し考える	・関心を持った時事問題について学生ディスカッション ・最近の時事問題について解説 ・ニュース検定小テストと解説	・事前に新聞の一面やニュースに目を通し、気になった記事について簡単にまとめておく ・授業で解説した基礎知識の復習 ・小テストの復習
5	最近の時事問題について議論し考える	・関心を持った時事問題について学生ディスカッション ・最近の時事問題について解説 ・ニュース検定小テストと解説	・事前に新聞の一面やニュースに目を通し、気になった記事について簡単にまとめておく ・授業で解説した基礎知識の復習 ・小テストの復習
6	最近の時事問題について議論し考える	・関心を持った時事問題について学生ディスカッション ・最近の時事問題について解説 ・ニュース検定小テストと解説	・事前に新聞の一面やニュースに目を通し、気になった記事について簡単にまとめておく ・授業で解説した基礎知識の復習 ・小テストの復習
7	最近の時事問題について議論し考える	・関心を持った時事問題について学生ディスカッション ・最近の時事問題について解説 ・ニュース検定小テストと解説	・事前に新聞の一面やニュースに目を通し、気になった記事について簡単にまとめておく ・授業で解説した基礎知識の復習 ・小テストの復習
8	中間確認テスト	・講義内容や小テストをもとにした中間確認テストを行う ・最近の時事問題について解説	・事前に新聞の一面やニュースに目を通し、気になった記事について簡単にまとめておく ・授業で解説した基礎知識の復習 ・小テストの復習
9	ニュース検定に向けて準備する	・関心を持った時事問題について学生ディスカッション ・最近の時事問題について解説 ・ニュース検定に向けての準備	・事前に新聞の一面やニュースに目を通し、気になった記事について簡単にまとめておく ・苦手分野を明確にし、ニュース検定に向けて学習する。
10	「ニュース時事能力検定3級」受験	・「ニュース時事能力検定3級」を受検する。	・事前に新聞の一面やニュースに目を通し、気になった記事について簡単にまとめておく ・検定に向けて学習する。
11	最近の時事問題について議論し考える	・関心を持った時事問題について学生ディスカッション ・最近の時事問題について解説 ・ニュース検定小テストと解説 ・プレゼンテーションの説明	・事前に新聞の一面やニュースに目を通し、気になった記事について簡単にまとめておく ・授業で解説した基礎知識の復習 ・小テストの復習 ・プレゼンテーションの準備
12	学生による時事問題プレゼンテーション	・個別の時事問題を取り上げて学生に発表してもらい、議論を行う ・適宜質問時間を設け、議論を深める	・事前に新聞の一面やニュースに目を通しておく ・プレゼンテーションの準備
13	学生による時事問題プレゼンテーション	・個別の時事問題を取り上げて学生に発表してもらい、議論を行う ・適宜質問時間を設け、議論を深める	・事前に新聞の一面やニュースに目を通しておく ・プレゼンテーションの準備
14	学生による時事問題プレゼンテーション	・個別の時事問題を取り上げて学生に発表してもらい、議論を行う ・適宜質問時間を設け、議論を深める	・事前に新聞の一面やニュースに目を通しておく ・プレゼンテーションの準備
15	最終確認テスト	・小テストや講義内容を踏まえて、四択ないし記述式の試験を行う	・事前に新聞の一面やニュースに目を通しておく ・最終確認テストの準備

関連科目	時事問題Ⅱ
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	『2022 年度版ニュース検定公式テキスト&問題集 基礎編』		毎日新聞社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業への参加度(発言、発表など) 50% 小テスト 10% 中間・最終確認テスト 20% ニュース時事能力検定成績 20%			
学生への メッセージ	時事問題を理解し説明できるスキルは、現代社会を生きる我々にとって不可欠なものです。一緒に学んでいきましょう。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	事前事後学習時間の目安は60時間。			

科目名	時事問題 I	科目名 (英文)	Current Issues I
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	西垣 有
ディプロマポリシー (DP)	DP1△, DP6△		
科目ナンバリング	LKY2846a1		

授業概要・目的	時事問題を取り上げて講義する。時事問題とは、現代社会における様々な出来事やニュースをいう。時事問題について関心を持ち、理解し、考える力を養うことで、外国語学部生として、日本と世界を取り巻く諸問題に対して、適切に思考し判断を下すことが可能となる。 「時事問題 I」では特に、「政治・経済」「暮らし」のテーマを取り上げる。
到達目標	時事問題について、正確に理解し、説明することができる。 時事問題について、「ニュース時事能力検定」3級相当の知識を有する。
授業方法と留意点	主に講義形式で行う。 話題となっているニュースを取り上げ、新聞や資料を用いながら解説する。 毎回30分程度、「ニュース時事能力検定試験」の教科書を用いた小テストを行い解説する。小テストのフィードバックは授業中に行う。 また、授業内において「ニュース時事能力検定」(http://www.newskentei.jp/)を受験する。合格・不合格にかかわらず、「ニュース時事能力検定」の受験を必須とする。受験日程はシラバスとは異なることもあり得るので、留意のこと。時間があれば授業で検定のフィードバックを行う。
科目学習の効果 (資格)	ニュース時事能力検定 3級

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 最近のニュースを知り、その背景を考える。	授業の進め方についての説明 ニュース検定とは？	新聞・テレビが取り上げている直近のニュースの内容把握 (1時間) 過去問等の回答 (1時間)
2	最近のニュースを知り、その背景を考える。	ニュース検定小テストと解説 話題のニュースを取り上げ、解説する	新聞・テレビが取り上げている直近のニュースの内容把握 (1時間) 理解力アップシート・練習問題 小テストの回答・復習 (1時間)
3	最近のニュースを知り、その背景を考える。	ニュース検定小テストと解説 話題のニュースを取り上げ、解説する	新聞・テレビが取り上げている直近のニュースの内容把握 (1時間) 理解力アップシート・練習問題 小テストの回答・復習 (1時間)
4	最近のニュースを知り、その背景を考える。	ニュース検定小テストと解説 話題のニュースを取り上げ、解説する	新聞・テレビが取り上げている直近のニュースの内容把握 (1時間) 理解力アップシート・練習問題 小テストの回答・復習 (1時間)
5	最近のニュースを知り、その背景を考える。	ニュース検定小テストと解説 話題のニュースを取り上げ、解説する	新聞・テレビが取り上げている直近のニュースの内容把握 (1時間) 理解力アップシート・練習問題 小テストの回答・復習 (1時間)
6	最近のニュースを知り、その背景を考える。	ニュース検定小テストと解説 話題のニュースを取り上げ、解説する	新聞・テレビが取り上げている直近のニュースの内容把握 (1時間) 理解力アップシート・練習問題 小テストの回答・復習 (1時間)
7	最近のニュースを知り、その背景を考える。	ニュース検定小テストと解説 話題のニュースを取り上げ、解説する	新聞・テレビが取り上げている直近のニュースの内容把握 (1時間) 理解力アップシート・練習問題 小テストの回答・復習 (1時間)
8	中間確認テスト 最近のニュースを知り、その背景を考える。	中間確認テスト (小テスト・授業内容にもとづく) を行う 話題のニュースを取り上げ、解説する	新聞・テレビが取り上げている直近のニュースの内容把握 (1時間) 理解力アップシート・練習問題 小テストの復習 (1時間)
9	最近のニュースを知り、その背景を考える。	中間確認テストの解説 話題のニュースを取り上げ、解説する	新聞・テレビが取り上げている直近のニュースの内容把握 (1時間) 理解力アップシート・練習問題 小テストの回答・復習 (1時間)
10	「ニュース時事能力検定」受験	「ニュース時事能力検定」を受験する	「ニュース時事能力検定」受験に向けた準備学習を行う (2時間)
11	学生による時事問題発表 (1)	政治、経済、暮らしにかかわるテーマからとくに気になるものを選び、発表によって整理してもらったうえで、議論する。	時事問題発表準備 (2時間) 新聞・テレビが取り上げている直近のニュースの内容把握 (1時間)
12	学生による時事問題発表 (2)	政治、経済、暮らしにかかわるテーマからとくに気になるものを選び、発表によって整理してもらったうえで、議論する。	時事問題発表準備 (2時間) 新聞・テレビが取り上げている直近のニュースの内容把握 (1時間)
13	学生による時事問題発表 (3)	政治、経済、暮らしにかかわるテーマからとくに気になるものを選び、発表によって整理してもらったうえで、議論する。	時事問題発表準備 (2時間) 新聞・テレビが取り上げている直近のニュースの内容把握 (1時間)
14	学生による時事問題発表 (4)	政治、経済、暮らしにかかわるテーマからとくに気になるものを選び、発表によって整理してもらったうえで、議論する。	時事問題発表準備 (2時間) 新聞・テレビが取り上げている直近のニュースの内容把握 (1時間)
15	学生による時事問題発表 (5) 最終確認テスト	政治、経済、暮らしにかかわるテーマからとくに気になるものを選び、発表によって整理してもらったうえで、議論する。	小テスト・授業内容を復習をする

			最終確認テスト。	
関連科目	時事問題Ⅱ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	2023 年度版ニュース検定公式テキスト&問題集 基礎編		毎日新聞社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業への参加度 (提出物、発言、発表など) 50% 小テスト 10% 中間・最終確認テスト 20% ニュース時事能力検定成績 20%			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	事前事後学習時間の目安は60時間。 授業時間外の対応については、授業時に指示する。			

科目名	時事問題 I	科目名 (英文)	Current Issues I
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	鄭 倣民
ディプロマポリシー (DP)	DP1△, DP6△		
科目ナンバリング	LKY2846a1		

授業概要・目的	時事問題を取り上げて講義する。時事問題とは、現代社会における様々な出来事やニュースをいう。時事問題について関心を持ち、理解し、考える力を養うことで、外国語学部生として、日本と世界を取り巻く諸問題に対して、適切に思考し判断を下すことが可能となる。「時事問題 I」では特に、「政治・経済」「暮らし」のテーマを取り上げる。
到達目標	時事問題について、正確に理解し、説明することができる。 時事問題について、「ニュース時事能力検定」3級相当の知識を有する。
授業方法と留意点	主に講義形式で行う。 話題となっているニュースを取り上げ、新聞や資料を用いながら解説する。 毎回30分程度、「ニュース時事能力検定試験」の教科書を用いた小テストを行い解説する。小テストのフィードバックは授業中に行う。 また、授業内において「ニュース時事能力検定」(http://www.newskentei.jp/)を受験する。合格・不合格にかかわらず、「ニュース時事能力検定」の受験を必須とする。受験日程はシラバスとは異なることもあり得るので、留意のこと。時間があれば授業で検定のフィードバックを行う。
科目学習の効果 (資格)	ニュース時事能力検定 3級

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	授業のガイダンス 時事問題を理解し、その背景を考える。	授業の目的及び進め方を説明する。教科書の時事問題を解説する。	最近、新聞で取り上げているニュースの内容を把握。(1時間) 授業内容の復習。(2時間)
2	時事問題を理解し、その背景を考える。	教科書及び小テストの解説。 学習テーマに関連する話題のニュースを取り上げ、理解を深める。	最近、新聞で取り上げているニュースの内容を把握。(1時間) 授業内容、小テストの復習。(2時間)
3	時事問題を理解し、その背景を考える。	教科書及び小テストの解説。 学習テーマに関連する話題のニュースを取り上げ、理解を深める。	最近、新聞で取り上げているニュースの内容を把握。(1時間) 授業内容、小テストの復習。(2時間)
4	時事問題を理解し、その背景を考える。	教科書及び小テストの解説。 学習テーマに関連する話題のニュースを取り上げ、理解を深める。	最近、新聞で取り上げているニュースの内容を把握。(1時間) 授業内容、小テストの復習。(2時間)
5	時事問題を理解し、その背景を考える。	教科書及び小テストの解説。 学習テーマに関連する話題のニュースを取り上げ、理解を深める。	最近、新聞で取り上げているニュースの内容を把握。(1時間) 授業内容、小テストの復習。(2時間)
6	時事問題を理解し、その背景を考える。	教科書及び小テストの解説。 学習テーマに関連する話題のニュースを取り上げ、理解を深める。	最近、新聞で取り上げているニュースの内容を把握。(1時間) 授業内容、小テストの復習。(2時間)
7	時事問題を理解し、その背景を考える。	教科書及び小テストの解説。 学習テーマに関連する話題のニュースを取り上げ、理解を深める。	最近、新聞で取り上げているニュースの内容を把握。(1時間) 授業内容、小テストの復習。(2時間)
8	時事問題を理解し、その背景を考える。	教科書及び小テストの解説。 学習テーマに関連する話題のニュースを取り上げ、理解を深める。	最近、新聞で取り上げているニュースの内容を把握。(1時間) 授業内容、小テストの復習。(2時間)
9	中間確認テスト	中間確認テストを行う。 最新のニュースを取り上げ、解説する。	授業内容の復習。(1時間) 「ニュース時事能力検定」に向けての準備学習を行う。(2時間)
10	「ニュース時事能力検定」受験	「ニュース時事能力検定」を受検する。	「ニュース時事能力検定」に向けての準備学習を行う。(3時間)
11	時事問題を理解し、その背景を考える。 プレゼンテーションの概説	最新のニュースを取り上げ、解説する。 時事問題の発表方法について概説する。	最近、新聞で取り上げているニュースの内容を把握。(1時間) 時事問題発表の準備。(2時間)
12	学生によるプレゼンテーション (1)	時事問題の中から個別のテーマを学生に発表してもらったうえ、議論する。	最近、新聞で取り上げているニュースの内容を把握。(1時間) 時事問題発表の準備。(2時間)
13	学生によるプレゼンテーション (2)	時事問題の中から個別のテーマを学生に発表してもらったうえ、議論する。	最近、新聞で取り上げているニュースの内容を把握。(1時間) 時事問題発表の準備。(2時間)
14	学生によるプレゼンテーション (3)	時事問題の中から個別のテーマを学生に発表してもらったうえ、議論する。	最近、新聞で取り上げているニュースの内容を把握。(1時間) 時事問題発表の準備。(2時間)
15	最終確認テスト	最終確認テストを行う。	最近、新聞で取り上げているニュースの内容を把握。(1時間) 授業内容を復習する。(2時間)

関連科目	時事問題 II
------	---------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	2023 年度版ニュース検定公式テキスト&問題集 基礎編		毎日新聞社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業への参加度（発言、発表など） 50% 小テスト 10% 中間・最終確認テスト 20% ニュース時事能力検定成績 20%
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	事前事後学習時間の目安は60時間。 小テストについては授業中にフィードバックをします。

科目名	時事問題 I	科目名 (英文)	Current Issues I
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	松永 健聖
ディプロマポリシー (DP)	DP1Δ, DP6Δ		
科目ナンバリング	LKY2846a1		

授業概要・目的	時事問題を取り上げて講義する。時事問題とは、現代社会における様々な出来事やニュースをいう。時事問題について関心を持ち、理解し、考える力を養うことで、国際学部生として、日本と世界を取り巻く諸問題に対して、適切に思考し判断を下すことが可能となる。「時事問題 I」では特に、「政治・経済」「暮らし」のテーマを取り上げる。
到達目標	時事問題について、正確に理解し、説明することができる。 時事問題について、「ニュース時事能力検定」3級相当の知識を有する。
授業方法と留意点	主に講義形式でおこなう。また、第 12 回から 14 回では、個人またはグループでのプレゼンテーションをおこなう予定である。話題となっているニュースを取り上げ、新聞や資料を用いながら解説する。毎回 30 分程度、「ニュース時事能力検定試験」の教科書を用いた小テストを行い解説する。小テストのフィードバックは授業中に行う。 また、授業内において「ニュース時事能力検定」(http://www.newskentei.jp/)を受験する。合格・不合格にかかわらず、「ニュース時事能力検定」の受験を必須とする。受験日程はシラ
科目学習の効果 (資格)	ニュース時事能力検定 3 級

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	授業の進め方についての説明 時事問題を学習する意義と方法を理解できるようにする	新聞に目を通す (2 時間) 授業で取り上げたニュースについて調べる (2 時間)
2	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞に目を通す (2 時間) 授業で取り上げたニュースについて調べる (2 時間)
3	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞に目を通す (2 時間) 授業で取り上げたニュースについて調べる (2 時間)
4	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞に目を通す (2 時間) 授業で取り上げたニュースについて調べる (2 時間)
5	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞に目を通す (2 時間) 授業で取り上げたニュースについて調べる (2 時間)
6	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞に目を通す (2 時間) 授業で取り上げたニュースについて調べる (2 時間)
7	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞に目を通す (2 時間) 授業で取り上げたニュースについて調べる (2 時間)
8	中間確認テスト	中間確認テストをおこなう	新聞に目を通す (2 時間) これまでの復習をする (2 時間)
9	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞に目を通す (2 時間) 授業で取り上げたニュースについて調べる (2 時間)
10	「ニュース時事能力検定」受験	「ニュース時事能力検定」を受験する	検定に向けて学習する (4 時間)
11	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞に目を通す (2 時間) 授業で取り上げたニュースについて調べる (2 時間)
12	学生によるプレゼンテーション (1)	政治、経済、暮らしにかかわるテーマからとくに気になるものを選び、その背景を整理した上でプレゼンテーションをおこなう。その後、参加者全体でディスカッションをおこなう。	新聞に目を通す (2 時間) プレゼンテーションの準備 (2 時間)
13	学生によるプレゼンテーション (2)	政治、経済、暮らしにかかわるテーマからとくに気になるものを選び、その背景を整理した上でプレゼンテーションをおこなう。その後、参加者全体でディスカッションをおこなう。	新聞に目を通す (2 時間) プレゼンテーションの準備 (2 時間)
14	学生によるプレゼンテーション (3)	政治、経済、暮らしにかかわるテーマからとくに気になるものを選び、その背景を整理した上でプレゼンテーションをおこなう。その後、参加者全体でディスカッションをおこなう。	新聞に目を通す (2 時間) プレゼンテーションの準備 (2 時間)
15	最終確認テスト 復習	最終確認テスト (これまでの小テスト・授業内容にもとづく) を行う	新聞に目を通す (2 時間) 最終確認テストの復習をする (2 時間)

関連科目 時事問題 II

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	2023 年度版ニュース検定公式テキスト&問題集 基礎編		毎日新聞社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	授業への参加度 (発言、発表など) 50% 小テスト 10% 中間・最終確認テスト 20%
-----------	---

	ニュース時事能力検定成績 20%
学生へのメッセージ	受講生の皆さんには、授業への積極的な参加と、受講生同士の協力が求められます
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	事前事後学習時間の目安は60時間。 各種テスト、検定については授業中にフィードバックをします。

科目名	時事問題Ⅱ	科目名(英文)	Current Issues II
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	斉藤 徳高
ディプロマポリシー(DP)	DP1△, DP6△		
科目ナンバリング	LKY2847a1		

授業概要・目的
時事問題を取り上げて講義する。時事問題とは、現代社会における様々な出来事やニュースをいう。時事問題について関心を持ち、理解し、考える力を養うことで、外国語学部生として、日本と世界を取り巻く諸問題に対して、適切に思考し判断を下すことが可能となる。「時事問題Ⅱ」では特に、「社会環境」「国際問題」のテーマを取り上げる。

到達目標
時事問題について、正確に理解し、説明することができる。
時事問題について、「ニュース時事能力検定」準2級相当の知識を有する。

授業方法と留意点
主に講義形式で行う。
話題となっているニュースを取り上げ、新聞や資料を用いながら解説する。
毎回30分程度、「ニュース時事能力検定試験」の教科書を用いた小テストを行い解説する。
小テストのフィードバックは授業中に行う。
また、授業内において「ニュース時事能力検定」(<http://www.newskentei.jp/>)を受験する。
合格・不合格にかかわらず、「ニュース時事能力検定」の受験を必須とする。
受験日程はシラバスとは異なることもあり得るので、留意のこと。
時間があれば授業で検定のフィー

科目学習の効果(資格)
ニュース時事能力検定 準2級

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	最近の時事問題について議論し考える	・関心を持った時事問題について学生ディスカッション ・最近の時事問題について解説 ・ニュース検定小テストと解説	・事前に新聞の一面やニュースに目を通し、気になった記事について簡単にまとめておく ・授業で解説した基礎知識の復習 ・小テストの復習
3	最近の時事問題について議論し考える	・関心を持った時事問題について学生ディスカッション ・最近の時事問題について解説 ・ニュース検定小テストと解説	・事前に新聞の一面やニュースに目を通し、気になった記事について簡単にまとめておく ・授業で解説した基礎知識の復習 ・小テストの復習
4	最近の時事問題について議論し考える	・関心を持った時事問題について学生ディスカッション ・最近の時事問題について解説 ・ニュース検定小テストと解説	・事前に新聞の一面やニュースに目を通し、気になった記事について簡単にまとめておく ・授業で解説した基礎知識の復習 ・小テストの復習
5	最近の時事問題について議論し考える	・関心を持った時事問題について学生ディスカッション ・最近の時事問題について解説 ・ニュース検定小テストと解説	・事前に新聞の一面やニュースに目を通し、気になった記事について簡単にまとめておく ・授業で解説した基礎知識の復習 ・小テストの復習
6	最近の時事問題について議論し考える	・関心を持った時事問題について学生ディスカッション ・最近の時事問題について解説 ・ニュース検定小テストと解説	・事前に新聞の一面やニュースに目を通し、気になった記事について簡単にまとめておく ・授業で解説した基礎知識の復習 ・小テストの復習
7	最近の時事問題について議論し考える	・関心を持った時事問題について学生ディスカッション ・最近の時事問題について解説 ・ニュース検定小テストと解説	・事前に新聞の一面やニュースに目を通し、気になった記事について簡単にまとめておく ・授業で解説した基礎知識の復習 ・小テストの復習
8	中間確認テスト	・講義内容や小テストをもとにした中間確認テストを行う ・「ニュース時事能力検定準2級」に向けて準備	・事前に新聞の一面やニュースに目を通し、気になった記事について簡単にまとめておく ・授業で解説した基礎知識の復習 ・小テストの復習
9	「ニュース時事能力検定準2級」受検	・「ニュース時事能力検定準2級」を受検する	・苦手分野を明確にし、ニュース検定に向けて学習する ・事前に新聞の一面やニュースに目を通しておく
10	学生による時事問題プレゼンテーション	・個別の時事問題を取り上げて学生に発表してもらい、議論を行う ・適宜質問時間を設け、議論を深める	・事前に新聞の一面やニュースに目を通しておく ・プレゼンテーションの準備
11	学生による時事問題プレゼンテーション	・個別の時事問題を取り上げて学生に発表してもらい、議論を行う ・適宜質問時間を設け、議論を深める	・事前に新聞の一面やニュースに目を通しておく ・プレゼンテーションの準備
12	学生による時事問題プレゼンテーション	・個別の時事問題を取り上げて学生に発表してもらい、議論を行う ・適宜質問時間を設け、議論を深める	・事前に新聞の一面やニュースに目を通しておく ・プレゼンテーションの準備
13	学生による時事問題プレゼンテーション	・個別の時事問題を取り上げて学生に発表してもらい、議論を行う ・適宜質問時間を設け、議論を深める	・事前に新聞の一面やニュースに目を通しておく ・プレゼンテーションの準備
14	学生による時事問題プレゼンテーション	・個別の時事問題を取り上げて学生に発表してもらい、議論を行う ・適宜質問時間を設け、議論を深める	・事前に新聞の一面やニュースに目を通しておく ・プレゼンテーションの準備
15	最終確認テスト	・小テストや講義内容を踏まえて、四択ないし記述式の試験を行う	・事前に新聞の一面やニュースに目を通しておく ・最終確認テストの準備

関連科目
時事問題Ⅱ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
------------	----	-----	-----	------

	1	『2022 年度版ニュース検定公式テキスト 発展編』		毎日新聞社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業への参加度 (発言、発表など) 50% 小テスト 10% 中間・最終確認テスト 20% ニュース時事能力検定成績 20%			
学生への メッセージ	時事問題を理解し説明できるスキルは、現代社会を生きる我々にとって不可欠なものです。一緒に学んでいきましょう。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	事前事後学習時間の目安は60時間。 履修者数によっては時事問題プレゼンテーションから、適宜講義などに変更する可能性がある。			

科目名	時事問題Ⅱ	科目名(英文)	Current Issues II
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	西垣 有
ディプロマポリシー(DP)	DP1△, DP6△		
科目ナンバリング	LKY2847a1		

授業概要・目的	時事問題を取り上げて講義する。時事問題とは、現代社会における様々な出来事やニュースをいう。時事問題について関心を持ち、理解し、考える力を養うことで、外国語学部生として、日本と世界を取り巻く諸問題に対して、適切に思考し判断を下すことが可能となる。 「時事問題Ⅱ」では特に、「社会環境」「国際問題」のテーマを取り上げる。
到達目標	時事問題について、正確に理解し、説明することができる。 時事問題について、「ニュース時事能力検定」準2級相当の知識を有する。
授業方法と留意点	主に講義形式で行う。 話題となっているニュースを取り上げ、新聞や資料を用いながら解説する。 毎回30分程度、「ニュース時事能力検定試験」の教科書を用いた小テストを行い解説する。 小テストのフィードバックは授業中に行う。 また、授業内において「ニュース時事能力検定」(http://www.newskentei.jp/)を受験する。 合格・不合格にかかわらず、「ニュース時事能力検定」の受験を必須とする。受験日程はシラバスとは異なることもあり得るので、留意のこと。 時間があれば授業で検定のフィードバック
科目学習の効果(資格)	ニュース時事能力検定 準2級

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 最近のニュースを知り、その背景を考える。	授業の進め方についての説明 時事問題とは？ ニュース検定とは？ 難易度の確認(過去問など)	新聞・テレビが取り上げている直近のニュースの内容把握(1時間) 過去問等の回答(1時間)
2	最近のニュースを知り、その背景を考える。	ニュース検定小テストと解説 最近のニュースを取り上げ、解説する	新聞・テレビが取り上げている直近のニュースの内容把握(1時間) 理解力アップシート・練習問題 小テストの回答・復習(1時間)
3	最近のニュースを知り、その背景を考える。	ニュース検定小テストと解説 最近のニュースを取り上げ、解説する	新聞・テレビが取り上げている直近のニュースの内容把握(1時間) 理解力アップシート・練習問題 小テストの回答・復習(1時間)
4	最近のニュースを知り、その背景を考える。	ニュース検定小テストと解説 最近のニュースを取り上げ、解説する	新聞・テレビが取り上げている直近のニュースの内容把握(1時間) 理解力アップシート・練習問題 小テストの回答・復習(1時間)
5	最近のニュースを知り、その背景を考える。	ニュース検定小テストと解説 最近のニュースを取り上げ、解説する	新聞・テレビが取り上げている直近のニュースの内容把握(1時間) 理解力アップシート・練習問題 小テストの回答・復習(1時間)
6	最近のニュースを知り、その背景を考える。	ニュース検定小テストと解説 最近のニュースを取り上げ、解説する	新聞・テレビが取り上げている直近のニュースの内容把握(1時間) 理解力アップシート・練習問題 小テストの回答・復習(1時間)
7	最近のニュースを知り、その背景を考える。	ニュース検定小テストと解説 最近のニュースを取り上げ、解説する	新聞・テレビが取り上げている直近のニュースの内容把握(1時間) 理解力アップシート・練習問題 小テストの回答・復習(1時間)
8	中間確認テスト 最近のニュースを知り、その背景を考える。	中間確認テストを行う 話題のニュースを取り上げ、解説する	新聞・テレビが取り上げている直近のニュースの内容把握(1時間) 理解力アップシート・練習問題 小テストの回答・復習(1時間)
9	「ニュース時事能力検定」受験	「ニュース時事能力検定」を受験する	「ニュース時事能力検定」受験に向けた準備学習を行う(2時間)
10	学生による時事問題発表(1)	社会環境、国際問題にかかわるテーマからとくに気になるものを選び、発表によって整理してもらったうえで、議論する。	時事問題発表準備(2時間) 新聞・テレビが取り上げている直近のニュースの内容把握(1時間)
11	学生による時事問題発表(2)	社会環境、国際問題にかかわるテーマからとくに気になるものを選び、発表によって整理してもらったうえで、議論する。	時事問題発表準備(2時間) 新聞・テレビが取り上げている直近のニュースの内容把握(1時間)
12	学生による時事問題発表(3)	社会環境、国際問題にかかわるテーマからとくに気になるものを選び、発表によって整理してもらったうえで、議論する。	時事問題発表準備(2時間) 新聞・テレビが取り上げている直近のニュースの内容把握(1時間)
13	学生による時事問題発表(4)	社会環境、国際問題にかかわるテーマからとくに気になるものを選び、発表によって整理してもらったうえで、議論する。	時事問題発表準備(2時間) 新聞・テレビが取り上げている直近のニュースの内容把握(1時間)
14	学生による時事問題発表(5)	社会環境、国際問題にかかわるテーマからとくに気になるものを選び、発表によって整理してもらったうえで、議論する。	時事問題発表準備(2時間) 新聞・テレビが取り上げている直近のニュースの内容把握(1時間)

	15	学生による時事問題発表 (6) 最終確認テスト	社会環境、国際問題にかかわるテーマからとくに気になるものを選び、発表によって整理してもらったうえで、議論する。 最終確認テスト。	時事問題発表準備 (2 時間) 新聞・テレビが取り上げている直近のニュースの内容把握 (1 時間)
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	2023 年度版ニュース検定公式テキスト 発展編		毎日新聞社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業への参加度 (発言、発表など) 50% 小テスト 10% 中間・最終確認テスト 20% ニュース時事能力検定成績 20%			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室			
備考	事前事後学習時間の目安は 60 時間。 小テストについては授業中にフィードバックをします。			

科目名	時事問題Ⅱ	科目名(英文)	Current Issues II
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	鄭 倣民
ディプロマポリシー(DP)	DP1△, DP6△		
科目ナンバリング	LKY2847a1		

授業概要・目的	時事問題を取り上げて講義する。時事問題とは、現代社会における様々な出来事やニュースをいう。時事問題について関心を持ち、理解し、考える力を養うことで、外国語学部生として、日本と世界を取り巻く諸問題に対して、適切に思考し判断を下すことが可能となる。「時事問題Ⅱ」では特に、「社会環境」「国際問題」のテーマを取り上げる。
到達目標	時事問題について、正確に理解し、説明することができる。 時事問題について、「ニュース時事能力検定」準2級相当の知識を有する。
授業方法と留意点	主に講義形式で行う。 話題となっているニュースを取り上げ、新聞や資料を用いながら解説する。 毎回30分程度、「ニュース時事能力検定試験」の教科書を用いた小テストを行い解説する。小テストのフィードバックは授業中に行う。 また、授業内において「ニュース時事能力検定」(http://www.newskentei.jp/)を受験する。合格・不合格にかかわらず、「ニュース時事能力検定」の受験を必須とする。受験日程はシラバスとは異なることもあり得るので、留意のこと。時間があれば授業で検定のフィードバックを行う。
科目学習の効果(資格)	ニュース時事能力検定 準2級

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	授業ガイダンス 最近のニュースを知り、その背景を理解する。	授業の目的と進め方についての説明する。 教科書を解説する。	最近、新聞で取り上げているニュースの内容を把握する。(1時間) 授業内容の復習を行う。(2時間)
2	最近のニュースを知り、その背景を理解する。	教科書及び小テストの解説。 学習テーマに関連する話題のニュースを取り上げ、理解を深める。	最近、新聞で取り上げているニュースの内容を把握する。(1時間) 授業内容、小テストの復習を行う。(2時間)
3	最近のニュースを知り、その背景を理解する。	教科書及び小テストの解説。 学習テーマに関連する話題のニュースを取り上げ、理解を深める。	最近、新聞で取り上げているニュースの内容を把握する。(1時間) 授業内容、小テストの復習を行う。(2時間)
4	最近のニュースを知り、その背景を理解する。	教科書及び小テストの解説。 学習テーマに関連する話題のニュースを取り上げ、理解を深める。	最近、新聞で取り上げているニュースの内容を把握する。(1時間) 授業内容、小テストの復習を行う。(2時間)
5	最近のニュースを知り、その背景を理解する。	教科書及び小テストの解説。 学習テーマに関連する話題のニュースを取り上げ、理解を深める。	最近、新聞で取り上げているニュースの内容を把握する。(1時間) 授業内容、小テストの復習を行う。(2時間)
6	最近のニュースを知り、その背景を理解する。	教科書及び小テストの解説。 学習テーマに関連する話題のニュースを取り上げ、理解を深める。	最近、新聞で取り上げているニュースの内容を把握する。(1時間) 授業内容、小テストの復習を行う。(2時間)
7	最近のニュースを知り、その背景を理解する。	教科書及び小テストの解説。 学習テーマに関連する話題のニュースを取り上げ、理解を深める。	最近、新聞で取り上げているニュースの内容を把握する。(1時間) 授業内容、小テストの復習を行う。(2時間)
8	中間確認テスト	中間確認テストを行う。 教科書及び小テストの解説。	授業内容、小テストをまとめ予習を行う。(1時間) 「ニュース時事能力検定」に向けた学習を行う。(2時間)
9	「ニュース時事能力検定」受験	「ニュース時事能力検定」を受検する。	「ニュース時事能力検定」に向けた学習を行う。(3時間)
10	最近のニュースを正確に知り、その背景を考える。 発表方法の概説	最近、話題のニュースを取り上げ、解説する。 時事問題の発表を行う方法を概説する。	最近、新聞で取り上げているニュースの内容を把握する。(1時間) プレゼンテーションの準備をする。(2時間)
11	学生によるプレゼンテーション(1)	時事問題の中から個別のテーマを学生に発表してもらったうえ、議論する。	最近、新聞で取り上げているニュースの内容を把握する。(1時間) プレゼンテーションの準備をする。(2時間)
12	学生によるプレゼンテーション(2)	時事問題の中から個別のテーマを学生に発表してもらったうえ、議論する。	最近、新聞で取り上げているニュースの内容を把握する。(1時間) プレゼンテーションの準備をする。(2時間)
13	学生によるプレゼンテーション(3)	時事問題の中から個別のテーマを学生に発表してもらったうえ、議論する。	最近、新聞で取り上げているニュースの内容を把握する。(1時間) プレゼンテーションの準備をする。(2時間)
14	学生によるプレゼンテーション(4)	時事問題の中から個別のテーマを学生に発表してもらったうえ、議論する。	最近、新聞で取り上げているニュースの内容を把握する。(1時間) プレゼンテーションの準備をする。(2時間)
15	最終確認テスト	最終確認テストを行う。	最近、新聞で取り上げているニュースの内容を把握する。(1時間) 授業内容の整理・復習を行う。(2時間)

関連科目	時事問題Ⅰ
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	2023年度版ニュース検定公式テキスト 発展編		毎日新聞社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業への参加度 (発言、発表など) 50% 小テスト 10% 中間・最終確認テスト 20% ニュース時事能力検定成績 20%
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	事前事後学習時間の目安は60時間。 小テストについては授業中にフィードバックをします。

科目名	時事問題Ⅱ	科目名 (英文)	Current Issues II
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	松永 健聖
ディプロマポリシー (DP)	DP1Δ, DP6Δ		
科目ナンバリング	LKY2847a1		

授業概要・目的	時事問題を取り上げて講義する。時事問題とは、現代社会における様々な出来事やニュースをいう。時事問題について関心を持ち、理解し、考える力を養うことで、国際学部生として、日本と世界を取り巻く諸問題に対して、適切に思考し判断を下すことが可能となる。「時事問題Ⅱ」では特に、「社会環境」「国際問題」のテーマを取り上げる。
到達目標	時事問題について、正確に理解し、説明することができる。 時事問題について、「ニュース時事能力検定」準2級相当の知識を有する。
授業方法と留意点	主に講義形式でおこなう。また、第12回から14回では、個人またはグループでのプレゼンテーションをおこなう予定である。話題となっているニュースを取り上げ、新聞や資料を用いながら解説する。毎回30分程度、「ニュース時事能力検定試験」の教科書を用いた小テストを行い解説する。小テストのフィードバックは授業中に行う。 また、授業内において「ニュース時事能力検定」(http://www.newskentei.jp/)を受験する。合格・不合格にかかわらず、「ニュース時事能力検定」の受験を必須とする。受験日程はシラ
科目学習の効果 (資格)	ニュース時事能力検定 準2級

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	授業の進め方についての説明 時事問題を学習する意義と方法を理解できるようにする	新聞に目を通す (2時間) 授業で取り上げたニュースについて調べる (2時間)
2	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞に目を通す (2時間) 授業で取り上げたニュースについて調べる (2時間)
3	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞に目を通す (2時間) 授業で取り上げたニュースについて調べる (2時間)
4	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞に目を通す (2時間) 授業で取り上げたニュースについて調べる (2時間)
5	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞に目を通す (2時間) 授業で取り上げたニュースについて調べる (2時間)
6	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞に目を通す (2時間) 授業で取り上げたニュースについて調べる (2時間)
7	中間確認テスト	中間確認テストをおこなう	新聞に目を通す (2時間) これまでの復習をする (2時間)
8	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞に目を通す (2時間) 授業で取り上げたニュースについて調べる (2時間)
9	「ニュース時事能力検定」受験	「ニュース時事能力検定」を受験する	検定に向けて学習する (4時間)
10	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞に目を通す (2時間) これまでの復習をする (2時間)
11	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説	新聞に目を通す (2時間) 授業で取り上げたニュースについて調べる (2時間)
12	学生によるプレゼンテーション (1)	社会環境、国際問題にかかわるテーマからとくに気になるものを選び、その背景を整理した上でプレゼンテーションをおこなう。その後、参加者全体でディスカッションをおこなう。	新聞に目を通す (2時間) プレゼンテーションの準備 (2時間)
13	学生によるプレゼンテーション (2)	社会環境、国際問題にかかわるテーマからとくに気になるものを選び、その背景を整理した上でプレゼンテーションをおこなう。その後、参加者全体でディスカッションをおこなう。	新聞に目を通す (2時間) プレゼンテーションの準備 (2時間)
14	学生によるプレゼンテーション (3)	社会環境、国際問題にかかわるテーマからとくに気になるものを選び、その背景を整理した上でプレゼンテーションをおこなう。その後、参加者全体でディスカッションをおこなう。	新聞に目を通す (2時間) プレゼンテーションの準備 (2時間)
15	最終確認テスト 復習	最終確認テスト (これまでの小テスト・授業内容にもとづく) を行う	新聞に目を通す (2時間) 最終確認テストの復習をする (2時間)

関連科目 時事問題Ⅱ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	2023年度版ニュース検定公式テキスト 発展編		毎日新聞社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	授業への参加度 (発言、発表など) 50% 小テスト 10% 中間・最終確認テスト 20% ニュース時事能力検定成績 20%
-----------	---

学生へのメッセージ	受講生の皆さんには、授業への積極的な参加と、受講生同士の協力が求められます
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	事前事後学習時間の目安は60時間。 各種テスト、検定については授業中にフィードバックをします。

科目名	地域と私	科目名 (英文)	Introduction to Regional Science
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	上野山 裕士
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1o, E科: Ao, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL01452a1, L科: LL01354a1, D科・S科: IL01361a1, P科: YL01417a2, J科: JL01363a1, W科: WL01342a1, N科: NL01343a1		

授業概要・目的	地域に関わるさまざまな視点を学び、それについて他者と対話することを通じて、受講生一人ひとりがこれから地域とどのように向き合い、どのように行動していくかを考えていきます。 本講義は、対話、グループワーク、プレゼンテーションを積極的に取り入れながら進めます。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のことを学ぶ意義を理解する。 ・地域が抱えるさまざまな課題を把握する。 ・グループ内で相互理解を図りながら活動できる。 ・グループにおける自分の役割を理解しながら活動できる。 ・地域の担い手としての自覚を持ち、自身と地域との今後の関わり方を具体的に描くことができる。 			
授業方法と留意点	グループでの対話や発表、レポートの作成といったグループワークが中心の授業です。 グループワークで学習を進めますので、グループのメンバーに迷惑がかからないよう責任のある行動をしてください。 講義は基本的に土曜日に不定期開催します。なお、講義の日程は変更となる場合があります。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後、学習課題	<p><4月8日(土) 1~3限> 第1回 「地域と私」への取り組み方; オリエンテーション 授業の進め方/ひとこと自己紹介 第2回 地域との関わり方 ~『調査されるという迷惑』を読む~ グループディスカッション/教室内での共有 第3回 地域のいまとその担い手 地域福祉の視点から概説/グループディスカッション/教室内での共有</p> <p><5月20日(土) 1~3限> 第4回 インタビューにチャレンジ ~聴く、掘り下げる、まとめる~ グループづくり/グループ内での相互インタビュー/インタビューで聞いた内容をメモする 第5回 質的データの分析にチャレンジ メモの内容を整理する/分析する 第6回 「身近な地域の課題解決・魅力磨き」をグループ、教室でシェアしよう 「身近な地域の課題解決・魅力磨き」について教室内プレゼンテーション&ディスカッション</p> <p><6月3日(土) 1, 2限> 第7回 地域に関するテーマを選定しよう 『『地域』に関する文献の整理』についてのグループ内プレゼンテーション/グループで取り組むテーマの決定/グループワークの実施スケジュールの検討 第8回 グループワークについてシェアしよう グループワークテーマの教室内での共有・対話</p> <p><6月17日(土) 1, 2限> 第9回 グループワークの中間報告会 第10回 グループワークに「具体的な地域」の視点を盛り込もう 「地域福祉」の実践事例から考える/選定したテーマを「具体的な地域」から考える</p> <p><7月1日(土) 1, 2限> 第11回 グループワークに「担い手」の視点を盛り込もう テーマごとに「登場人物」を考える 第12回 大学生は地域のためになにができるかを考えよう 地域と学生の協働の実践について概説/地域の担い手としての大学生の可能性/地域の担い手としての大学生の強みと弱みについて考える 個人ワーク/グループディスカッション/教室内での共有</p> <p><7月15日(土) 1~3限> 第13回 最終報告会① 第14回 最終報告会② 第15回 講義のふりかえり</p>			
関連科目	ソーシャル・イノベーション副専攻科目群			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	学びレポート (個人ワーク) 30% 「身近な地域の課題解決・魅力磨き」『『地域』に関する文献の整理』成果物 (個人ワーク) 20% 学びのグループワークレポート 30% 最終報告会でのプレゼンテーション 20% (ルーブリック評価)			

	なお、60%で合格とする。
学生への メッセージ	地域で起きていることを自分ごとにしていくための基礎を形成する授業です。また、副専攻科目を履修していくうえでの、基本的な学びができる科目でもあります。基本をしっかり身につけ、さらに学びを深めるためにも、主体的な学びの姿勢を期待します。
担当者の 研究室等	3号館3階 上野山研究室
備考	

科目名	地域貢献実践演習	科目名(英文)	Practical Training for Social Innovation
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	水野 武, 植杉 大, 坂口 有芸, 橋本 はる美
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: A○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N; DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL03457a1, L科: LL03366a1, D科・S科: IL03366a1, P科: YL03422a2, J科: JL03368a1, W科: WL0347a1, N科: NL03348a1		

授業概要・目的	この科目はソーシャル・イノベーション副専攻過程における実践科目です。4月・5月の半ばまではこれまでの講義やフィールドワークで見つけた学びを総合的に活かして、地域の課題により深く関与し、課題の解決を導くための計画策定から、実施、検証に至るまでを主体的に学ぶための準備を行います。5月後半(予定)からは連携先ご担当者様と密に連携しながら、課題の抽出、要因の理解、活動計画の立案を行い、課題解決・低減に向けて実践を行います。現地で実践と振り返りを繰り返しながら、当初立てた目標達成に向けた知識と技術の向上と責任ある行動を続けられる姿勢の確立を目的とします。 SDGs 全般																
到達目標	①これまで学んだ理論を実践に結びつけて、考察し行動することができる。 ②課題派遣から解決までのPDCAサイクルを回すことができる ③チームで活動することができる ④チーム内での役割を理解し協調的な行動ができる。 ⑤連携先の多様性、独自性などを理解した上で、解決策を提示することができる。																
授業方法と留意点	4月・5月までは座学とディスカッションを行うため、講義内で課題が出ることもある。 また前期の途中より各連携先のフィールドに赴き、活動を行う。																
授業テーマ・内容・方法・事前・事後学習課題	1. オリエンテーション/副専攻修了者のイメージ、受講方法 : 4月19日(水)6限 ※2回目以降の講義の日時は初回の講義にて提示する。なお開講曜日は水曜日6限を予定しているが履修学生の時間割次第で変更になることもある。 2. 連携先様によるプレゼンテーションと質疑応答 3. S科 橋本先生 公開情報を表計算ソフトで分析する/回帰分析、相関分析、平均の比較などを行う 4. W科 植杉先生 オンライン・データベースを活用した分析手法を学ぶ 5. プレゼンテーション連携先について調べたことを報告 7. 以降は 現地に赴き、実践を繰り返す。 ※概ね3週間に一回、全員で集合し途中経過の報告会を行う。日時に関しては担当教員の指示に従うこと。 ※12月末(日時未定)に成果報告会を行う																
関連科目	ソーシャルイノベーション副専攻課程関連科目																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	課題提出物 30% 活動の取り組み状況 50% 最終報告等 20%																
学生へのメッセージ	副専攻で学修した成果を実践勝つとどうで発揮しつつ、更に成長できるように主体的に取り組んでくんでほしい。																
担当者の研究室等	7号館3階 1号館7階植杉研究室																
備考																	

科目名	地域実習	科目名 (英文)	Introductory Training for Regional Study
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	朝田 康禎, 古矢 篤史
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科: R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01374a1~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	<p>地域での課題を発見し、それを解決できる力を養うには、まず「地域」というものを体験を通じ理解することから始まります。本科目は、ソーシャルイノベーション副専攻課程1年次の必修科目で、主としてフィールドワークを中心に授業を実施します。また、本科目は2年次の「摂南大学PBLプロジェクト」、3年次の「地域貢献実践演習」等の基礎となる科目として位置づけられています。地域の人々とのコミュニケーションや協働を通じて、目標の設定から達成までの過程を体験学習により学び、地域での課題等について理解を図ります。</p> <p>【重要】第1回授業は4月11日(火)6時限(18:20)にあります(教室は新学期に案内されます)。この日に出席できない場合は事前にTeamsのチャット機能で担当教員に連絡してください。</p>																
到達目標	<p>①地域での実態を理解する。 ②チームで働く意義を理解する。 ③役割行動のあり方について理解する。 ④地域の方々とのコミュニケーションができるようになる。</p>																
授業方法と留意点	<p>教室での授業とグループワーク、フィールドワークです。通年授業なので毎週、教室で授業があるのではなく、詳しいスケジュールは第1回授業で案内します。</p> <p>【重要】第1回授業は4月11日(火)6時限(18:20)にあります(教室は新学期に案内されます)。この日の授業で前期の班決めなどをしますので、必ず出席してください。もし、出席できない時は必ず事前にTeamsのチャット機能で担当教員に連絡してください。また、授業の性質上、授業開始後、2~3回たつてから参加するというのもできません。授業開始後、欠席が続いたままの場合は単位認定できませんので、必ず初回から出席してください。</p> <p>【授業内容】 1 チーム10名以内のチームを作り、地域での活動に取り組みます。 1. 年間計画を作成する。 2. 役割を決める。 3. 地域等で活動を行う。 4. 活動報告をまとめ、ふりかえる。 5. スケジュール管理をする。 6. 課題があれば、チームで話し合い解決に導く。 上記の1~6の活動を通じて自分たちの計画を自ら評価したり改善したりしながら、当初に設定した目標を達成できるよう、チームで協力して計画を実行していきます。第1回授業はで詳しい内容やスケジュールを説明し、受講者がどの取組内容に参加するかなどを決定します。この授業の実習先は寝屋川市の社会教育施設を予定しています。社会教育施設とは図書館、博物館、体育館、ホールなど市民なら誰でも学習にいくことのできる公的施設のことです。このような施設に実習に行くことによって市民が社会教育に参加する意義や運営の課題などを学んでいきます。</p> <p>【前期】 開講時間はいずれも6時間目です。通年授業なので毎週教室で授業があるのではなく、前期は2週間に1回程度です。実習や実習先挨拶以外の日は学内教室での授業です。具体的な日には調整中ですので、第1回授業で案内します。</p> <p>第1回「ガイダンス(授業概要の説明)」 第2回「寝屋川市の現状を考える(1)」 第3回「寝屋川市の現状を考える(2)」 第4回「寝屋川市まちあるき」(学外) 第5回「社会教育とは(1)」 第6回「社会教育とは(2)」 第7回「まちあるき報告会」 第8回「実習先挨拶」(学外) 第9回「実習先挨拶の結果報告とそのふりかえり」 第10回~第18回 「実習」(学外)(主に夏季休暇中に行います)</p> <p>【後期】 後期の詳しい日程・発表方法等は改めてお知らせします。 第19回「実習ふりかえり(1)」 第20回「実習ふりかえり(2)」 第21回「全体報告会」</p>																
関連科目	ソーシャルイノベーション副専攻課程科目																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	提出物(20%)、活動への参画の程度(40%)、最終報告プレゼンテーション(20%)、最終レポート(20%)																
学生へのメッセージ	地域創生の第一歩を踏み出してみよう!																
担当者の研究室等	朝田研究室 1号館7階																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	村瀬 憲昭
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科: R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01374a1~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	<p>市役所(町役場)の職員、自治会の役職者、市民(町民)などの組織・活動グループと学生が直接関わることで、学生の社会人基礎力やプロジェクトの推進・運営などの人間力の向上を図る。プロジェクトを推進し、積極的に行動する経験を基本に就業力の向上を目指す。また、学生のレベルや必要に応じて担当教員が必要な情報の収集方法や、技術の習得方法について指導を行う。実践で習得するものは「段取り」といわれるもので、プロジェクトの中長期的な役割や仕事について、締め切りを設定し、そこから逆算して、いつ何をやるべきか、仕事の道筋を立てる知識と技術、仕事全体をひとつひとつの細かいタスクに分割し、そこで必要な時間をゴール(締切日)から逆算する。</p> <p>①調査: 地域で予定されているプロジェクトを調査し、実現可能を探る。 ②企画: 具体案を立て、評価(実現可能性、コスト、実施期間、有効性)を行い、詳細な実施計画を立てる。 ③関連する団体に企画をプレゼンテーションし、プロジェクトの妥当性を評価する。 ④実施: 実施計画に従いプロジェクトを実施する。途中に実施状況を関連機関に報告し計画の修正を行う ⑤結果報告: プロジェクトの終了時に関連機関に実施結果と次年度以降でのプロジェクトの展開について報告を行う。</p> <p>なお、担当教員は国際協力・地域開発に関する実務経験を活かして、これらのプロジェクト運営に関する指導を行う。</p>																
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。																
授業方法と留意点	基本的には対面授業とするが、オンライン授業になった場合は、ICTツールを活用した遠隔授業とする。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>社会人として必要な「主体性・実行力・課題発見力・発言力」を連携先との協働作業によって実践的に学ぶ。仕事全体をひとつひとつの細かいタスクに分割し、そこで必要な時間をゴール(締切日)から逆算することで、これらのタスクをいつこなすべきなのかを明確にし、仕事を前倒しでやる習慣を身につける。</p> <p>具体的には①優先順位を付け、作業手順決定する、②仕事の全体像を把握する、③仕事の準備と計画など。役割分担された内容について、各グループで責任を持って実施し、自分たちで評価・改善ができるようにする。グループをまとめる役割の人は、リーダーシップ能力、その他の人はサポート者の重要性を体感する。</p> <p>活動対象の地方自治体: 大阪府寝屋川市、交野市、和歌山県すさみ町</p> <p>SDGsゴール: 9・11・17</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	参加態度40%、企画力20%、コミュニケーション能力20%、発表能力20%で評価する。																
学生へのメッセージ	仲間とともに現状打破をしていくチーム学習へと意識を変革する必要が求められる。																
担当者の研究室等	1号館7階 村瀬研究室																
備考	履修登録をする前に、必ず、活動内容を問い合わせ、相談してから履修して下さい。問い合わせ・相談をせずに履修登録をした場合、登録を取り消すことがありますので注意してください。																

科目名	摂南大学PBLプロジェクトⅡ	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	村瀬 憲昭
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01374a1~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	<p>市役所(町役場)の職員、自治会の役職者、市民(町民)などの組織・活動グループと学生が直接関わることで、学生の社会人基礎力やプロジェクトの推進・運営などの人間力の向上を図る。プロジェクトを推進し、積極的に行動する経験を基本に就業力の向上を目指す。また、学生のレベルや必要に応じて担当教員が必要な情報の収集方法や、技術の習得方法について指導を行う。実践で習得するものは「段取り」といわれるもので、プロジェクトの中長期的な役割や仕事について、締め切りを設定し、そこから逆算して、いつ何をやるべきか、仕事の道筋を立てる知識と技術、仕事全体をひとつひとつの細かいタスクに分割し、そこで必要な時間をゴール(締切日)から逆算する。</p> <p>①調査: 地域で予定されているプロジェクトを調査し、実現可能を探る。 ②企画: 具体案を立て、評価(実現可能性、コスト、実施期間、有効性)を行い、詳細な実施計画を立てる。 ③関連する団体に企画をプレゼンテーションし、プロジェクトの妥当性を評価する。 ④実施: 実施計画に従いプロジェクトを実施する。途中に実施状況を関連機関に報告し計画の修正を行う ⑤結果報告: プロジェクトの終了時に関連機関に実施結果と次年度以降でのプロジェクトの展開について報告を行う。</p> <p>なお、担当教員は国際協力・地域開発に関する実務経験を活かして、これらのプロジェクト運営に関する指導を行う。</p>																
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。																
授業方法と留意点	基本的には対面授業とするが、オンライン授業になった場合は、ICT ツールを活用した遠隔授業とする。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>社会人として必要な「主体性・実行力・課題発見力・発言力」を連携先との協働作業によって実践的に学ぶ。仕事全体をひとつひとつの細かいタスクに分割し、そこで必要な時間をゴール(締切日)から逆算することで、これらのタスクをいつこなすべきなのかを明確にし、仕事を前倒しでやる習慣を身につける。</p> <p>具体的には①優先順位を付け、作業手順決定する、②仕事の全体像を把握する、③仕事の準備と計画など。役割分担された内容について、各グループで責任を持って実施し、自分たちで評価・改善ができるようにする。グループをまとめる役割の人は、リーダーシップ能力、その他の人はサポート者の重要性を体感する。</p> <p>活動対象の地方自治体: 大阪府寝屋川市、交野市、和歌山県すさみ町</p> <p>SDGs ゴール: 9・11・17</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	参加態度 40%、企画力 20%、コミュニケーション能力 20%、発表能力 20%で評価する。																
学生へのメッセージ	仲間とともに現状打破をしていくチーム学習へと意識を変革する必要が求められる。																
担当者の研究室等	1号館7階 村瀬研究室																
備考	履修登録をする前に、必ず、活動内容を問い合わせ、相談してから履修して下さい。問い合わせ・相談をせずに履修登録をした場合、登録を取り消すことがありますので注意してください。																

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	石田 裕子
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科: R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01374a1~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	<p>授業概要：摂南大学が進める淀川水系の総合研究の実践的な担い手として、寝屋川市内での子どもたちへの環境学習支援および淀川水系での流域連携活動を実施する。流域内の様々な団体と連携し、河川での親水活動や交流会を通じて、流域住民、一般市民へ環境問題や流域の諸問題について普及・啓発する。</p> <p>目的：寝屋川市自然体験学習室の活動に関わり、子どもへの環境学習支援を行う。天若湖アートプロジェクトへの参加を中心に、淀川水系での流域連携を向上させる。</p>																
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <p>地域の子どもの環境学習支援プログラムの企画・実践の手法を体得する。また、流域連携活動を通じて、淀川水系を中心とした環境保全と河川管理について問題を理解するとともに、その解決策について考察する。特に、淀川水系での環境保全活動や水辺再生の現場を題材に学習・調査を進める。プロジェクト全体を通して、世代を超えた人々と交流することでコミュニケーション力を学び、自分たちで企画・実践する力を身につける。</p>																
授業方法と留意点	<p>連携内容・方法：自然体験学習室では、環境学習支援の補助から始め、学生たち自身による企画と実践を行う。天若湖アートプロジェクト実行委員会や淀川愛好会に所属し、淀川水系内の市民団体や行政機関と連携し、活動を実施する。</p> <p>留意点：学外の連携先等と関わるので、大学生らしいマナーと最低限のコミュニケーション力が必要で。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>テーマ：寝屋川市における環境学習支援と淀川水系を中心とした流域連携プロジェクト</p> <p>内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 寝屋川市自然体験学習室における環境学習支援 2. 点野水辺再生地区を中心とした水辺再生学習の実施 3. 淀川水系を中心とした流域連携イベントの企画・実践 4. 天若湖アートプロジェクトにおけるイベントの企画・実践 5. 環境保全活動（天然アユ復活、木津川での伝統工法を用いた環境改善）の学習 6. いい川・いい川づくりワークショップ等での発表 <p>方法：授業のうち半分（月1回）は原則として平常授業期間内の土曜日1・2限に行い、自然体験学習室の活動に参加して、地域ボランティアおよび子どもたちと接して、必要な知識・技術を習得する。9月と12月に予定している子ども教室において、自分たちで企画した環境学習プログラムを実施する。</p> <p>他の半分（月1回）は、学外の流域連携イベントに参加し、流域問題について学習する。特に、天若湖アートプロジェクトを中心に、淀川水系での流域連携を行う。</p> <p>学外発表の場として、天若湖アートプロジェクト（6月）、近畿水環境交流会（8月）、いい川・いい川づくりワークショップ（9-11月）を予定し、各活動段階における成果発表を行い、自己評価および外部評価を受けることで活動内容を振り返り、次の活動に向けてステップアップを図る。作業の実施に当たっては、理工学部都市環境工学科生態環境学研究室、および文化会エコシビル部の協力を得る。</p> <p>授業および活動スケジュールは、学校行事等の関係で受講者と相談の上、変更することがある。</p> <p>事前事後学習課題：内容ごとに参考資料を配布するので、熟読しておくこと。また、年度末にレポート課題を課す。</p>																
関連科目	<p>自然・都市環境論、流域・沿岸域工学（以上、C科）</p> <p>科学技術教養C</p> <p>教養特別講義「SDGsで読み解く淀川流域」</p>																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法（基準）	<p>授業（イベントを含む）に積極的に参加し、水辺環境の再生および流域連携活動に加わること。（60%）</p> <p>水辺再生・流域連携の意義を正しく理解し、それを他者に伝えられること。（40%）</p>																
学生へのメッセージ	<p>子どもたちへの環境学習支援や流域連携活動においては、学生のみさんの若いパワーが必要です。ぜひ私たちと一緒に活動を盛り上げててください。文系・理系問わず、やる気のある人は大歓迎です。</p>																
担当者の研究室等備考	<p>1号館3階 石田研究室</p>																

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	石田 裕子
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科: R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	<p>授業概要：摂南大学が進める淀川水系の総合研究の実践的な担い手として、寝屋川市内での子どもたちへの環境学習支援および淀川水系での流域連携活動を実施する。流域内の様々な団体と連携し、河川での親水活動や交流会を通じて、流域住民、一般市民へ環境問題や流域の諸問題について普及・啓発する。</p> <p>目的：寝屋川市自然体験学習室の活動に関わり、子どもへの環境学習支援を行う。天若湖アートプロジェクトへの参加を中心に、淀川水系での流域連携を向上させる。</p>																
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <p>地域の子どもの環境学習支援プログラムの企画・実践の手法を体得する。また、流域連携活動を通じて、淀川水系を中心とした環境保全と河川管理について問題を理解するとともに、その解決策について考察する。特に、淀川水系での環境保全活動や水辺再生の現場を題材に学習・調査を進める。プロジェクト全体を通して、世代を超えた人々と交流することでコミュニケーション力を学び、自分たちで企画・実践する力を身につける。</p>																
授業方法と留意点	<p>連携内容・方法：自然体験学習室では、環境学習支援の補助から始め、学生たち自身による企画と実践を行う。天若湖アートプロジェクト実行委員会や淀川愛好会に所属し、淀川水系内の市民団体や行政機関と連携し、活動を実施する。</p> <p>留意点：学外の連携先等と関わるので、大学生らしいマナーと最低限のコミュニケーション力が必要で。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>テーマ：寝屋川市における環境学習支援と淀川水系を中心とした流域連携プロジェクト</p> <p>内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 寝屋川市自然体験学習室における環境学習支援 2. 点野水辺再生地区を中心とした水辺再生学習の実施 3. 淀川水系を中心とした流域連携イベントの企画・実践 4. 天若湖アートプロジェクトにおけるイベントの企画・実践 5. 環境保全活動（天然アユ復活、木津川での伝統工法を用いた環境改善）の学習 6. いい川・いい川づくりワークショップ等での発表 <p>方法：授業のうち半分（月1回）は原則として平常授業期間内の土曜日1・2限に行い、自然体験学習室の活動に参加して、地域ボランティアおよび子どもたちと接して、必要な知識・技術を習得する。9月と12月に予定している子ども教室において、自分たちで企画した環境学習プログラムを実施する。</p> <p>他の半分（月1回）は、学外の流域連携イベントに参加し、流域問題について学習する。特に、天若湖アートプロジェクトを中心に、淀川水系での流域連携を行う。</p> <p>学外発表の場として、天若湖アートプロジェクト（6月）、近畿水環境交流会（8月）、いい川・いい川づくりワークショップ（9-11月）を予定し、各活動段階における成果発表を行い、自己評価および外部評価を受けることで活動内容を振り返り、次の活動に向けてステップアップを図る。作業の実施に当たっては、理工学部都市環境工学科生態環境学研究室、および文化会エコシビル部の協力を得る。</p> <p>授業および活動スケジュールは、学校行事等の関係で受講者と相談の上、変更することがある。</p> <p>事前事後学習課題：内容ごとに参考資料を配布するので、熟読しておくこと。また、年度末にレポート課題を課す。</p>																
関連科目	<p>自然・都市環境論、流域・沿岸域工学（以上、C科）</p> <p>科学技術教養C</p> <p>教養特別講義「SDGsで読み解く淀川流域」</p>																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法（基準）	<p>授業（イベントを含む）に積極的に参加し、水辺環境の再生および流域連携活動に加わること。（60%）</p> <p>水辺再生・流域連携の意義を正しく理解し、それを他者に伝えられること。（40%）</p>																
学生へのメッセージ	<p>子どもたちへの環境学習支援や流域連携活動においては、学生のみさんの若いパワーが必要です。ぜひ私たちと一緒に活動を盛り上げててください。文系・理系問わず、やる気のある人は大歓迎です。</p>																
担当者の研究室等備考	<p>1号館3階 石田研究室</p>																

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	鎌田 美保
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	寝屋川市や周辺地域には、工場などで働く外国人が多くなります。その人たちがよりよい生活を送るには何が必要なのか。受け入れ側である地域の人たちがどのような意識を持ち、どう関わればいいのかを考え、様々な文化の人たちが共生していくための活動を考え、実践します。(プロジェクト参加にあたり、外国語力は不問です)																
到達目標	①多文化共生をめぐる課題や外国人住民、外国人労働者がかかえる現状と課題を理解し、課題を自分事としてとらえることができる。 ②多文化共生をめぐる課題や外国人住民、外国人労働者がかかえる課題の解決に向けて、具体的な行動計画を立てるうえで、提案し、実施することができる。 ③異なる文化的背景を持つ多様な人々と対話し、相手の意見を尊重しながら、自身の考えを構築し、説明し、一定の合意形成を図ることができる。																
授業方法と留意点	グループでの活動が中心となり、外部機関(寝屋川市国際交流協会)とも連携し、活動を行う。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多文化共生の現状と課題 ・やさしい日本語 ・在住外国人との交流、インタビュー活動 ・箕面市国際交流協会見学 ・寝屋川市国際交流協会多文化共生フェスタへの参加 <p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多文化共生の現状と課題、やさしい日本語: 講義+演習形式 ・その他の内容: グループで話し合い、活動を行う <p>【事後学習】</p> <p>受講生には活動日誌を配布する。ミーティングおよび各活動後に話し合いや活動の内容、感想、反省点を記録すること。プロジェクト終了時に最終レポートを提出してもらう。レポートはプロジェクトを通して学んだこと、自身が貢献できた点、不足していた点を振り返るものとする。</p>																
関連科目	グローバル・シチズンシップ論(入門)、グローバルシチズンシップ論(応用)																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	各活動への貢献度60%、活動日誌・最終レポート40%																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	鎌田講師室(2号館2階)																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	鎌田 美保
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1～TT01465a1, L科: LT01366a1～LT01370a1, D科・S科: IT01371a1～IT01375a1, J科: JT01374a～JT01378a1, W科: WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	寝屋川市や周辺地域には、工場などで働く外国人が多くなります。その人たちがよりよい生活を送るには何が必要なのか。受け入れ側である地域の人たちがどのような意識を持ち、どう関わればいいのかを考え、様々な文化の人たちが共生していくための活動を考え、実践します。(プロジェクト参加にあたり、外国語力は不問です)																		
到達目標	①多文化共生をめぐる課題や外国人住民、外国人労働者がかかえる現状と課題を理解し、課題を自分事としてとらえることができる。 ②多文化共生をめぐる課題や外国人住民、外国人労働者がかかえる課題の解決に向けて、具体的な行動計画を立てるうえで、提案し、実施することができる。 ③異なる文化的背景を持つ多様な人々と対話し、相手の意見を尊重しながら、自身の考えを構築し、説明し、一定の合意形成を図ることができる。																		
授業方法と留意点	グループでの活動が中心となり、外部機関(寝屋川市国際交流協会)とも連携し、活動を行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多文化共生の現状と課題 ・やさしい日本語 ・在住外国人との交流、インタビュー活動 ・箕面市国際交流協会見学 ・寝屋川市国際交流協会多文化共生フェスタへの参加 <p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多文化共生の現状と課題、やさしい日本語: 講義+演習形式 ・その他の内容: グループで話し合い、活動を行う <p>【事後学習】</p> <p>受講生には活動日誌を配布する。ミーティングおよび各活動後に話し合いや活動の内容、感想、反省点を記録すること。プロジェクト終了時に最終レポートを提出してもらう。レポートはプロジェクトを通して学んだこと、自身が貢献できた点、不足していた点を振り返るものとする。</p>																		
関連科目	グローバル・シチズンシップ論(入門)、グローバルシチズンシップ論(応用)																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	各活動への貢献度60%、活動日誌・最終レポート40%																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	鎌田講師室(2号館2階)																		
備考																			

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	朝田 康禎
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科: R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	<p>プロジェクト名: 音楽イベントを創ろう!</p> <p>【概要】 寝屋川市の地域交流センターであるアルカスホールの自主事業を企画から実施まで担当する。2023年度は、観客数50-60名程度の比較的小規模なコンサートについて、スタッフのご指導のもと、企画から出演者との交渉・経理・準備・実施・事後処理までを行う。</p> <p>【目的】 アルカスホールでは、毎年自主事業としてさまざまなイベントを企画・運営している。学生の発想・感覚を活かしたものにしたいとのことから、企画段階から学生の参画が求められている。指定管理者が行う自主事業運営に興味をもつ学生と現場スタッフが協働で事業を企画し、運営を行うことにより、企業がもつノウハウを学生が学ぶとともに、学生などの若い世代が参加できる自主事業を実現する。</p>																								
到達目標	<p>【PBLプロジェクト到達目標(共通)】 本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <p>上記に加えて、本プロジェクトでは以下のことも到達目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 市民のニーズを把握した上で自由な発想に基づき、新しい音楽イベントを企画・運営する。 十分な準備を行った上でイベントを成功に導く。 イベント後の処理を適切に行う。 																								
授業方法と留意点	<p>連携先や学生同士など、人と関わりながら学ぶことが中心となる。積極的に関わることが求められる。</p>																								
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業計画】</p> <table border="0"> <tr><td>4月</td><td>ご挨拶</td></tr> <tr><td>5月</td><td>企画会議</td></tr> <tr><td>6月</td><td>自主事業内容の決定および出演交渉</td></tr> <tr><td>7月</td><td>中間報告会</td></tr> <tr><td></td><td>寝屋川市に報告、寝屋川市広報に記事掲載依頼</td></tr> <tr><td>8月</td><td>チラシのデザイン作業</td></tr> <tr><td>9月</td><td>チラシの印刷・配付およびチケット作成</td></tr> <tr><td>10月</td><td>ポスターセッション</td></tr> <tr><td></td><td>チケット発売開始</td></tr> <tr><td>11月</td><td>打ち合わせ(出演者、舞台スタッフ、学生関係者)</td></tr> <tr><td>12月</td><td>最終報告会</td></tr> <tr><td></td><td>準備および本番</td></tr> </table> <p>この他に「基礎講座」全9回を受講すること</p> <p>これらの活動を通じて、以下のことを身につける。</p> <ol style="list-style-type: none"> イベントがどのように企画・運営されているのか、体験的に知る。 企画したイベントが実行されるまでのスケジュール管理を身につける。 連携先・出演者との交渉をする中で、社会人として必要なマナーを身につける。 メンバー及び連携先とのディスカッションを通じて、「質の高い意思決定」ができるようになる。 他のイベント等に活用可能な一般的知識を得る。 	4月	ご挨拶	5月	企画会議	6月	自主事業内容の決定および出演交渉	7月	中間報告会		寝屋川市に報告、寝屋川市広報に記事掲載依頼	8月	チラシのデザイン作業	9月	チラシの印刷・配付およびチケット作成	10月	ポスターセッション		チケット発売開始	11月	打ち合わせ(出演者、舞台スタッフ、学生関係者)	12月	最終報告会		準備および本番
4月	ご挨拶																								
5月	企画会議																								
6月	自主事業内容の決定および出演交渉																								
7月	中間報告会																								
	寝屋川市に報告、寝屋川市広報に記事掲載依頼																								
8月	チラシのデザイン作業																								
9月	チラシの印刷・配付およびチケット作成																								
10月	ポスターセッション																								
	チケット発売開始																								
11月	打ち合わせ(出演者、舞台スタッフ、学生関係者)																								
12月	最終報告会																								
	準備および本番																								
関連科目	すべての科目																								
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3											
番号	書籍名	著者名	出版社名																						
1																									
2																									
3																									
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3											
番号	書籍名	著者名	出版社名																						
1																									
2																									
3																									
評価方法(基準)	<p>普段のグループワークへの参加状況・貢献度(50%)、フィールドワーク当日の参加状況・貢献度(30%)、発表会における評価(20%)を総合して判断する。</p>																								
学生へのメッセージ	<p>みなさまがこれからイベントを創り上げていくプロジェクトです。イベントの成功はみなさまにかかっています。主体的に取り組んでくださることを望みます。</p>																								
担当者の研究室等	1号館7階(朝田)																								
備考																									

科目名	摂南大学PBLプロジェクトⅡ	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	朝田 康禎
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1～TT01465a1, L科: LT01366a1～LT01370a1, D科・S科: IT01371a1～IT01375a1, J科: JT01374a～JT01378a1, W科: WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	<p>プロジェクト名: 音楽イベントを創ろう!</p> <p>【概要】 寝屋川市の地域交流センターであるアルカスホールの自主事業を企画から実施まで担当する。2023年度は、観客数50-60名程度の比較的小規模なコンサートについて、スタッフのご指導のもと、企画から出演者との交渉・経理・準備・実施・事後処理までを行う。</p> <p>【目的】 アルカスホールでは、毎年自主事業としてさまざまなイベントを企画・運営している。学生の発想・感覚を活かしたものにしたいとのことから、企画段階から学生の参画が求められている。指定管理者が行う自主事業運営に興味をもつ学生と現場スタッフが協働で事業を企画し、運営を行うことにより、企業がもつノウハウを学生が学ぶとともに、学生などの若い世代が参加できる自主事業を実現する。</p>																								
到達目標	<p>【PBLプロジェクト到達目標(共通)】 本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <p>上記に加えて、本プロジェクトでは以下のことも到達目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 市民のニーズを把握した上で自由な発想に基づき、新しい音楽イベントを企画・運営する。 十分な準備を行った上でイベントを成功に導く。 イベント後の処理を適切に行う。 																								
授業方法と留意点	<p>連携先や学生同士など、人と関わりながら学ぶことが中心となる。積極的に関わることが求められる。</p>																								
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業計画】</p> <table border="0"> <tr><td>4月</td><td>ご挨拶</td></tr> <tr><td>5月</td><td>企画会議</td></tr> <tr><td>6月</td><td>自主事業内容の決定および出演交渉</td></tr> <tr><td>7月</td><td>中間報告会</td></tr> <tr><td></td><td>寝屋川市に報告、寝屋川市広報に記事掲載依頼</td></tr> <tr><td>8月</td><td>チラシのデザイン作業</td></tr> <tr><td>9月</td><td>チラシの印刷・配付およびチケット作成</td></tr> <tr><td>10月</td><td>ポスターセッション</td></tr> <tr><td></td><td>チケット発売開始</td></tr> <tr><td>11月</td><td>打ち合わせ(出演者、舞台スタッフ、学生関係者)</td></tr> <tr><td>12月</td><td>最終報告会</td></tr> <tr><td></td><td>準備および本番</td></tr> </table> <p>この他に「基礎講座」全9回を受講すること</p> <p>これらの活動を通じて、以下のことを身につける。</p> <ol style="list-style-type: none"> イベントがどのように企画・運営されているのか、体験的に知る。 企画したイベントが実行されるまでのスケジュール管理を身につける。 連携先・出演者との交渉をする中で、社会人として必要なマナーを身につける。 メンバー及び連携先とのディスカッションを通じて、「質の高い意思決定」ができるようになる。 他のイベント等に活用可能な一般的な知識を得る。 	4月	ご挨拶	5月	企画会議	6月	自主事業内容の決定および出演交渉	7月	中間報告会		寝屋川市に報告、寝屋川市広報に記事掲載依頼	8月	チラシのデザイン作業	9月	チラシの印刷・配付およびチケット作成	10月	ポスターセッション		チケット発売開始	11月	打ち合わせ(出演者、舞台スタッフ、学生関係者)	12月	最終報告会		準備および本番
4月	ご挨拶																								
5月	企画会議																								
6月	自主事業内容の決定および出演交渉																								
7月	中間報告会																								
	寝屋川市に報告、寝屋川市広報に記事掲載依頼																								
8月	チラシのデザイン作業																								
9月	チラシの印刷・配付およびチケット作成																								
10月	ポスターセッション																								
	チケット発売開始																								
11月	打ち合わせ(出演者、舞台スタッフ、学生関係者)																								
12月	最終報告会																								
	準備および本番																								
関連科目	すべての科目																								
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3											
番号	書籍名	著者名	出版社名																						
1																									
2																									
3																									
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3											
番号	書籍名	著者名	出版社名																						
1																									
2																									
3																									
評価方法(基準)	<p>普段のグループワークへの参加状況・貢献度(50%)、フィールドワーク当日の参加状況・貢献度(30%)、発表会における評価(20%)を総合して判断する。</p>																								
学生へのメッセージ	<p>みなさまがこれからイベントを創り上げていくプロジェクトです。イベントの成功はみなさまにかかっています。主体的に取り組んでくださることを望みます。</p>																								
担当者の研究室等	1号館7階(朝田)																								
備考																									

科目名	摂南大学PBLプロジェクト I	科目名 (英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	増田 知也
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科: R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	自治会等において、LINEによる情報共有が主流となりつつあるが、全員が活用できていない状況がある。本プロジェクトでは、学生が中心となってLINE等のSNS活用方法の説明会を開催し、地域コミュニティのデジタル化および世代間の交流を実現することを目指す。 SNSという新たなコミュニケーションの方法を活用することにより、コロナ禍における地域活動の閉塞状況を打開し、地域コミュニティの活性化につなげることが目的である。																
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。																
授業方法と留意点	定期的に会議を開催し、プロジェクトの進捗や課題について確認しながら、プロジェクトの目的達成を目指す。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後、学習課題	4月 オリエンテーション 5月 寝屋川市・自治会との打ち合わせ 6~7月 説明会準備 8~9月 説明会実施 10月 ポスターセッション 11月 最終報告会準備 12月 最終報告会 説明会では、SNSの使い方やセキュリティについてプレゼンテーションを行った上で、参加者との座談会形式でSNSの使い方に親しんでもらう。																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	主体性 25% 協調性 25% 課題発見・解決力 25% プロジェクトへの貢献 25%																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	11号館10階																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	増田 知也
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	自治会等において、LINEによる情報共有が主流となりつつあるが、全員が活用できていない状況がある。本プロジェクトでは、学生が中心となってLINE等のSNS活用方法の説明会を開催し、地域コミュニティのデジタル化および世代間の交流を実現することを目指す。 SNSという新たなコミュニケーションの方法を活用することにより、コロナ禍における地域活動の閉塞状況を打開し、地域コミュニティの活性化につなげることが目的である。																
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。																
授業方法と留意点	定期的に会議を開催し、プロジェクトの進捗や課題について確認しながら、プロジェクトの目的達成を目指す。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後、学習課題	4月 オリエンテーション 5月 寝屋川市・自治会との打ち合わせ 6~7月 説明会準備 8~9月 説明会実施 10月 ポスターセッション 11月 最終報告会準備 12月 最終報告会 説明会では、SNSの使い方やセキュリティについてプレゼンテーションを行った上で、参加者との座談会形式でSNSの使い方に親しんでもらう。																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	主体性 25% 協調性 25% 課題発見・解決力 25% プロジェクトへの貢献 25%																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	11号館10階																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	小林 基
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01374a1~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	<p>枚方市東部地域は、大都市圏内の近郊住宅地に隣接しながらも、美しい農地や里山景観を残している。一方、高齢化と人口減少による地域衰退も危惧され、現地の人々により地域を活性化するという認識が生じている。</p> <p>このプロジェクトでは、今後の当該地域の社会経済の持続的な発展に資することを旨とし、2025年日本国際博覧会（「大阪・関西万博」）および「ひらかた万博」の時期に合わせて当該地域の魅力を発信するため、以下の二点を目的として設定する。</p> <p>(1) 枚方市東部地域における多様な地域資源を探索し、フィールドワークと実体験を通じてその魅力を自分なりに再発見し、表現する。</p> <p>(2) 当該地域の魅力を国内の他地域の人々および海外からの来訪者に向けて発信するために妥当な方策を提案する。</p>
到達目標	<p>(1) 主体的に課題を設定し調査から報告までに至る計画を立て、実行する姿勢・能力を身に付ける。</p> <p>(2) チームワークに必要な能力（リーダーシップ/フォロワーシップ、スケジューリング/リスケジューリング、メンバーや教員、協力先との調整能力等）を身に付ける。</p> <p>(3) 現地での体験・観察・聞き取りを通じて、自らの言葉で地域の魅力を発見し、表現（報告）することができる。</p> <p>(4) 現地の課題や条件および現地の人々が積み上げてきた成果を踏まえ、具体性・実現可能性のある企画を提案できる。</p> <p>(5) 海外からの訪問者に対して魅力ある、また、国際的にみて有意義な情報発信を行うための知識・視点を身につける。</p>
授業方法と留意点	<p>本授業は、おおまかに(1)学内での事前準備、(2)フィールドワーク、(3)成果の共有および企画提案、(4)成果発表の準備、(5)成果発表の五つのフェーズによって構成される。前期・後期と一連のサイクルを繰り返すことにより報告・提案内容をブラッシュアップしてゆく。</p> <p>なお、場合によっては、複数の日程にわたり同じフェーズを繰り返す場合、同日に複数のフェーズが行われる場合、一つのフェーズを二回以上に分けて行う場合など、臨機応変にプロセスを再編することもある。</p> <p>(1) 事前準備 [学内]</p>
授業テーマ・内容・方法・事前・事後学習課題	<p>授業テーマごとの実施回数や日程については、進捗や現地との交渉などを勘案し、柔軟かつ臨機応変に決定する。</p> <p>【前期】</p> <p>(1) オリエンテーション</p> <p>授業の概要説明や自己紹介・アイスブレイク、グループ分け等を行う。事前・事後学習：枚方東部についての情報収集、各自扱いたいテーマを検討しておく。</p> <p>(2) テーマ設定、フィールドワークの準備</p> <p>グループごとの課題設定とフィールドワークの準備にとりかかる。事前・事後学習：枚方東部についての情報収集、各自扱いたいテーマを検討しておく。</p> <p>(3) フィールドワーク（インタビュー、散策、各種活動への参加等）</p> <p>フィールドワークを実施する。事前・事後学習：現地についての情報収集、メンバー間・現地とのスケジュールの共有、成果についてのメモ作成</p> <p>(4) 成果の共有と方策の提案</p> <p>フィールドワークの成果を共有し、整理しておく。成果を踏まえ、提案についてのアイデアをまとめる。事前・事後学習：成果についてのメモ作成、検討したい提案についてのアイデアを各自考えておく。</p> <p>(5) 発表資料作成</p> <p>グループごとに提案内容を検討し発表資料を作成する。事前・事後学習：発表のリハーサル</p> <p>(6) 中間発表会</p> <p>グループごとに成果を報告する。事前・事後学習：発表のリハーサル、聴衆からのフィードバックをまとめる。</p> <p>【夏季休暇期間～後期】</p> <p>(1) フィールドワークの準備</p>

	<p>グループごとの課題の調整とフィールドワークの準備にとりかかる。事前・事後学習：枚方東部についての情報収集、各自扱いたいテーマを検討しておく。</p> <p>(2) フィールドワーク</p> <p>フィールドワークを実施する。事前・事後学習：現地についての情報収集、メンバー間・現地とのスケジュールの共有、成果についてのメモ作成</p> <p>(3) 提案のブラッシュアップと発表資料作成</p> <p>成果を踏まえ、提案についてのアイデアを改良する。事前・事後学習：成果についてのメモ作成、提案の改善についてを各自検討しておく。</p> <p>(4) 大学祭での発表</p> <p>グループごとに成果を報告する。事前・事後学習：発表のリハーサル、聴衆からのフィードバックをまとめる。</p> <p>(5) 最終発表会</p> <p>グループごとに成果を報告する。事前・事後学習：発表のリハーサル、聴衆からのフィードバックをまとめる。</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	<p>(1) グループワークへの貢献度 (40%)：フィールドワーク、ディスカッション、成果物の制作から発表に至るプロセスへの積極的な参加。</p> <p>(2) 成果報告・企画・制作物の完成度 (60%)：テーマ設定と報告・提案内容および方法の妥当性、具体性、実現可能性、調査の精度、表現の工夫・巧みさ、オリジナリティ。</p>																
学生への メッセージ	<p>本授業は履修生が主体となり、自らプロジェクトを動かす気持ちで積極的に参加・貢献することに期待している。教員はサポートに徹し、履修生の希望にできる限り答えたいと考えている。</p>																
担当者の 研究室等	<p>寝屋川キャンパス7号館5階 小林研究室</p>																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトⅡ	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	小林 基
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1～TT01465a1, L科: LT01366a1～LT01370a1, D科・S科: IT01371a1～IT01375a1, J科: JT01374a1～JT01378a1, W科: WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	<p>枚方市東部地域は、大都市圏内の近郊住宅地に隣接しながらも、美しい農地や里山景観を残している。一方、高齢化と人口減少による地域衰退も危惧され、現地の人々により地域を活性化するという認識が生じている。</p> <p>このプロジェクトでは、今後の当該地域の社会経済の持続的な発展に資することを旨とし、2025年日本国際博覧会（「大阪・関西万博」）および「ひらかた万博」の時期に合わせて当該地域の魅力を発信するため、以下の二点を目的として設定する。</p> <p>(1) 枚方市東部地域における多様な地域資源を探索し、フィールドワークと実体験を通じてその魅力を自分なりに再発見し、表現する。</p> <p>(2) 当該地域の魅力を国内の他地域の人々および海外からの来訪者に向けて発信するために妥当な方策を提案する。</p>
到達目標	<p>(1) 主体的に課題を設定し調査から報告までに至る計画を立て、実行する姿勢・能力を身に付ける。</p> <p>(2) チームワークに必要な能力（リーダーシップ／フォロワーシップ、スケジューリング／リスケジューリング、メンバーや教員、協力先との調整能力等）を身に付ける。</p> <p>(3) 現地での体験・観察・聞き取りを通じて、自らの言葉で地域の魅力を発見し、表現（報告）することができる。</p> <p>(4) 現地の課題や条件および現地の人々が積み上げてきた成果を踏まえ、具体性・実現可能性のある企画を提案できる。</p> <p>(5) 海外からの訪問者に対して魅力ある、また、国際的にみて有意義な情報発信を行うための知識・視点を身につける。</p>
授業方法と留意点	<p>本授業は、おおまかに（1）学内での事前準備、（2）フィールドワーク、（3）成果の共有および企画提案、（4）成果発表の準備、（5）成果発表の五つのフェーズによって構成される。前期・後期と一連のサイクルを繰り返すことにより報告・提案内容をブラッシュアップしてゆく。</p> <p>なお、場合によっては、複数の日程にわたり同じフェーズを繰り返す場合、同日に複数のフェーズが行われる場合、一つのフェーズを二回以上に分けて行う場合など、臨機応変にプロセスを再編することもある。</p> <p>(1) 事前準備 [学内]</p>
授業テーマ・内容・方法・事前・事後学習課題	<p>授業テーマごとの実施回数や日程については、進捗や現地との交渉などを勘案し、柔軟かつ臨機応変に決定する。</p> <p>【前期】</p> <p>(1) オリエンテーション</p> <p>授業の概要説明や自己紹介・アイスブレイク、グループ分け等を行う。事前・事後学習：枚方東部についての情報収集、各自扱いたいテーマを検討しておく。</p> <p>(2) テーマ設定、フィールドワークの準備</p> <p>グループごとの課題設定とフィールドワークの準備にとりかかる。事前・事後学習：枚方東部についての情報収集、各自扱いたいテーマを検討しておく。</p> <p>(3) フィールドワーク（インタビュー、散策、各種活動への参加等）</p> <p>フィールドワークを実施する。事前・事後学習：現地についての情報収集、メンバー間・現地とのスケジュールの共有、成果についてのメモ作成</p> <p>(4) 成果の共有と方策の提案</p> <p>フィールドワークの成果を共有し、整理しておく。成果を踏まえ、提案についてのアイデアをまとめる。事前・事後学習：成果についてのメモ作成、検討したい提案についてのアイデアを各自考えておく。</p> <p>(5) 発表資料作成</p> <p>グループごとに提案内容を検討し発表資料を作成する。事前・事後学習：発表のリハーサル</p> <p>(6) 中間発表会</p> <p>グループごとに成果を報告する。事前・事後学習：発表のリハーサル、聴衆からのフィードバックをまとめる。</p> <p>【夏季休暇期間～後期】</p> <p>(1) フィールドワークの準備</p>

	<p>グループごとの課題の調整とフィールドワークの準備にとりかかる。事前・事後学習：枚方東部についての情報収集、各自扱いたいテーマを検討しておく。</p> <p>(2) フィールドワーク</p> <p>フィールドワークを実施する。事前・事後学習：現地についての情報収集、メンバー間・現地とのスケジュールの共有、成果についてのメモ作成</p> <p>(3) 提案のブラッシュアップと発表資料作成</p> <p>成果を踏まえ、提案についてのアイデアを改良する。事前・事後学習：成果についてのメモ作成、提案の改善についてを各自検討しておく。</p> <p>(4) 大学祭での発表</p> <p>グループごとに成果を報告する。事前・事後学習：発表のリハーサル、聴衆からのフィードバックをまとめる。</p> <p>(5) 最終発表会</p> <p>グループごとに成果を報告する。事前・事後学習：発表のリハーサル、聴衆からのフィードバックをまとめる。</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	<p>(1) グループワークへの貢献度 (40%)：フィールドワーク、ディスカッション、成果物の制作から発表に至るプロセスへの積極的な参加。</p> <p>(2) 成果報告・企画・制作物の完成度 (60%)：テーマ設定と報告・提案内容および方法の妥当性、具体性、実現可能性。調査の精度、表現の工夫・巧みさ、オリジナリティ。</p>																
学生への メッセージ	<p>本授業は履修生が主体となり、自らプロジェクトを動かす気持ちで積極的に参加・貢献することに期待している。教員はサポートに徹し、履修生の希望にできる限り答えたいと考えている。</p>																
担当者の 研究室等	<p>寝屋川キャンパス7号館5階 小林研究室</p>																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	水野 武
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科: R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	<p>「門真市子ども LOBBY」は、子どもたちの日常に寄り添う居場所になることを目的とする施設である。本プロジェクトは、施設を利用する子どもたち及び不登校児童に対して、大学生は何かできるのかについて考え、支援の実践を行うプロジェクトであり、活動内容は参加できる曜日・時間帯に子どもたちと一緒に遊び、学習を行うための居場所を作ること、イベントの準備やお手伝いを行うことである。門真市子ども LOBBY を利用する子どもには、彼ら彼女らの日常に寄り添い一緒に遊ぶ、考える、学ぶことをしてくれる大人・大学生が必要であり、大学生の皆さんには活動を通して、子どもたちにとって「お手本＝ロールモデル」となることが期待される。</p>																		
到達目標	<p>■PBLプロジェクト到達目標(共通) 本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけると共に、新しい価値の想像を目指す。</p> <p>■「子どもの居場所で大学生ができることを考える」プロジェクトの到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・貧困問題への理解等、社会状況の理解できる ・メンバーおよび子どもたちと相互受容できる関係を築く ・子どもたちの非認知能力の向上に務める 																		
授業方法と留意点	<p>現地での活動を必ず内省すること。 能動的に参加すること。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後、学習課題	<p>4月：連携先さまとの顔合わせ 5月：門真市の子ども現状および子ども政策について学ぶ(仮)、活動にあたっての諸研修 6月・7月：子ども lobby での子ども支援活動 7月：中間報告 (PBL 基礎講座内でここまでの活動を振り返る) 8月・9月：子ども lobby での子ども支援活動 10月：子ども lobby でのハロウィンイベントの企画立案と実施(仮) 11月：子ども lobby での子ども支援活動 12月：クリスマスイベントの企画立案と実施(仮)、最終報告会</p>																		
関連科目	地域貢献実践演習など副専攻科目。																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	日々の活動 40%, アセスメントの受検 10%, 中間報告 20%, 最終報告 30%																		
学生へのメッセージ	地域に貢献できるようにメンバー全員で知恵を絞って進めていきましょう。																		
担当者の研究室等	水野講師室 (7号館3階)																		
備考																			

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	水野 武
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科: R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	<p>「門真市子ども LOBBY」は、子どもたちの日常に寄り添う居場所になることを目的とする施設である。本プロジェクトは、施設を利用する子どもたち及び不登校児童に対して、大学生は何かできるのかについて考え、支援の実践を行うプロジェクトであり、活動内容は参加できる曜日・時間帯に子どもたちと一緒に遊び、学習を行うための居場所を作ること、イベントの準備やお手伝いを行うことである。門真市子ども LOBBY を利用する子どもには、彼ら彼女らの日常に寄り添い一緒に遊ぶ、考える、学ぶことをしてくれる大人・大学生が必要であり、大学生の皆さんには活動を通して、子どもたちにとって「お手本＝ロールモデル」となることが期待される。</p>																		
到達目標	<p>■PBLプロジェクト到達目標(共通) 本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけると共に、新しい価値の想像を目指す。</p> <p>■「子どもの居場所で大学生ができることを考える」プロジェクトの到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・貧困問題への理解等、社会状況の理解できる ・メンバーおよび子どもたちと相互受容できる関係を築く ・子どもたちの非認知能力の向上に務める 																		
授業方法と留意点	<p>現地での活動を必ず内省すること。 能動的に参加すること。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>4月：連携先さまとの顔合わせ 5月：門真市の子ども現状および子ども政策について学ぶ(仮)、活動にあたっての諸研修 6月・7月：子ども lobby での子ども支援活動 7月：中間報告 (PBL 基礎講座内でここまでの活動を振り返る) 8月・9月：子ども lobby での子ども支援活動 10月：子ども lobby でのハロウィンイベントの企画立案と実施(仮) 11月：子ども lobby での子ども支援活動 12月：クリスマスイベントの企画立案と実施(仮)、最終報告会</p>																		
関連科目	地域貢献実践演習など副専攻科目。																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	日々の活動 40%, アセスメントの受検 10%, 中間報告 20%, 最終報告 30%																		
学生へのメッセージ	地域に貢献できるようにメンバー全員で知恵を絞って進めていきましょう。																		
担当者の研究室等	水野講師室 (7号館3階)																		
備考																			

科目名	体験型特別実習	科目名(英文)	Experience-Based Training Program
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	通年集中	授業担当者	沖中 美喜
ディプロマポリシー(DP)	DP3o, DP4o, DP8Δ		
科目ナンバリング	LDL1565a0		

授業概要・目的	観光立国を目指す日本において、エアラインの役割はますます重要となってきた。 まず、交通インフラの拠点である空港の役割を把握する。そして、航空機を運航するための機能と多様な職種の役割、協力を理解し、さらに、お客様満足「安全」「安心」「定時制」「快適性」「顧客満足」を得るための努力を理解する。 その後の空港研修により、授業で得た知識を実際の目で確認するとともに、将来の就業意識を高める。 なお、この科目は、航空会社の客室乗務員として現業部門を担当した教員による、パッケージプログラム実習・演習科目の一つです。																
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> エアラインの仕事の多様性を理解する。 空港見学により、1機の飛行機を飛ばすために各部門がどのように連携し、どのような想いを持っているのか感じ取る。 自らの将来像を描くことができる。 																
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> 本学内での事前・事後授業と中部空港研修(2泊3日)による。 空港見学の際は、細かい身だしなみ基準に従うこと。 ※実習に参加可能な人数に制限がありますので、注意してください。(詳細は事前の説明会にて) プレゼンテーションに関するフィードバックは発表時に、レポートに関するフィードバックは授業のなかで実施する。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	事前事後授業と空港研修39時間から成る。 <ul style="list-style-type: none"> 説明会 事前授業 2日間 <ol style="list-style-type: none"> ①オリエンテーションとマナー ②エアラインの現状 ③空港の役割 ④GSの仕事 ⑤グランドハンドリングとオペレーション ⑥CAの仕事 神戸・関空・伊丹の3空港について自主学習 中部空港研修(2泊3日でGSの仕事を経験) 研修報告会 																
関連科目	ホスピタリティ基礎論 エアラインビジネス論																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	小レポート20%, 自主学習レポート30%, 授業への参加態度30%, プレゼンテーション20%																
学生へのメッセージ	空港の裏側は普段見ることができません。グランドスタッフが、CAがどのように働いているのか見てみませんか。ホスピタリティ産業の最前線の現場を知るいい機会です。																
担当者の研究室等	7号館4階(エアライン・ホスピタリティプログラムルーム)																
備考																	

科目名	体験型特別実習	科目名 (英文)	Experience-Based Training Program
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	通年集中	授業担当者	檜山 和司
ディプロマポリシー (DP)	DP3o, DP4o, DP8Δ		
科目ナンバリング	LDL1565a0		

授業概要・目的	<p>新型コロナウイルスの感染拡大と長期化により、日本におけるホテルビジネスを取り巻く環境が大きく変化し、生き残りをかけたホテルの運営と戦略が求められることを学生とともに考え学ぶ授業内容とする。</p> <p>ホテルの経営特性を理解し、運営に必要な基礎知識と各部門の役割を認識、また、実際のホテル内覧研修により各部門の特徴と業務内容を体験し、求められる知識、経験、技能等の素養を理解して、意識変容を図り、経営者視点での思考能力育成を目指す。</p> <p>シティホテルやスモール・ラグジュアリー・ホテルでの長年の総支配人としての実務経験を生かし、ホテルでの実例を挙げながら実践的かつ具体的に講義を進行する。</p>																
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ホテルの経営特性を理解し、運営に必要な基礎知識と接遇の基本を習得する。 ・ホテル各部門の役割と業務内容を理解する。 ・顧客満足度を高めるための様々なマネジメント手法を理解する。 ・幅広い視野、察知力、観察力、分析力、問題解決能力の基本を習得する。 																
授業方法と留意点	<p>本学内での事前・事後授業とホテル内覧及び研修</p> <p>ホテル内覧、研修の際は、身嗜み基準に従うこと</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>ホテルの経営特性と組織 接遇の基本と求められる各種素養 ホテル各部門の役割と業務内容 顧客満足度を高める様々なマネジメント手法 ホテルに於けるリスクマネジメント インターンシップマナー ホテル内覧と研修 報告会での学生によるプレゼンテーション</p> <p>自主学習：授業に関連する事前課題への学習 (6時間) レポート作成 (3時間) プレゼンテーション準備 (3時間)</p> <p>提出物へのフィードバック：プレゼンテーション終了時に各自のレポートを講評</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	授業への参加態度 50%、自主学習レポート 30%、プレゼンテーション 20%																
学生へのメッセージ	ホスピタリティ産業の最前線であるホテルのなかでも高品質を誇るスモール・ラグジュアリーホテルの現状を視察し、ハイスペックな施設や高品質なアメニティー、顧客満足度の高い接遇を体験、理解する絶好の機会です。																
担当者の研究室等	問い合わせは、7号館2階 外国語学部事務室・国際学部事務室で受け付けます。																
備考	質問等は、授業の前後の時間に受け付ける。																

科目名	体験型特別実習	科目名 (英文)	Experience-Based Training Program
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	通年集中	授業担当者	中西 正樹
ディプロマポリシー (DP)	DP3o, DP4o, DP8Δ		
科目ナンバリング	LDL1565a0		

授業概要・目的	<p>本学部のパッケージプログラムは、学生の主体性・自主性を喚起し、将来のキャリアについて体系的に学ぶことを目的としている。この「体験型特別演習 B」科目では、学生自身が主体的に計画、参加した社会的活動についてその活動内容や成果を日誌やプレゼン、レポートの形式（授業内容の項目で詳述）で事後に報告し、審査を経て単位を取得するが認定される。ここでいう社会的活動とは、上で述べたパッケージプログラムの趣旨に合致する授業外の研究活動やインターンシップ、ボランティア活動などを指す。事後申請型の科目なので事前に履修登録は行わない。</p> <p>この科目は、パッケージプログラムの実習・演習科目の一つです。</p>																		
到達目標	<p>事前授業によってこの科目の趣旨と評価基準を十分理解したうえで、自ら立てた活動計画に基づいて活動できる自主性、積極性の獲得を目指す。さらにその活動内容とそこで得られたものについて詳細かつ分かりやすく表現できる力をつける。</p>																		
授業方法と留意点	<p>学内で行われる事前授業や事後授業の実施日は追ってポータル等で案内する。単位申請の対象となるのは申請時から遡って2年以内の活動（ただし、本学在学中のものに限る）とする。また、事前授業や事後授業、単位申請の受け付け、審査、認定はすべて外国語学部が行うが、活動そのものには関与しないので、活動への申し込みや先方への問い合わせも学生自身が行い、主催団体等の規定やスケジュールに従いながら行動すること。</p> <p>プレゼンテーションに関するフィードバックは発表時に、レポートに関するフィードバックは授業のなかで実施する。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>授業は以下の順に進める。単位申請は事前、事後すべての授業への参加を条件とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 事前授業（4月～5月） 本科目の申請対象となる活動について、必要時間数や安全面での注意事項などについて理解する。科目の趣旨や到達目標、申請方法、評価の方法や基準、事後授業のスケジュール、さらに日誌ノートの書き方などについて学ぶ。 活動への参加（時期は活動によって異なる） 主催団体等の広報資料を集めるなどして、自分で活動計画を立てたうえで、活動に必要な手続きを進める。主催団体等によるガイダンスや審査を経て活動に参加することになれば、現地での滞在期間に日誌を書く。 事後授業（11月上旬予定） 審査のスケジュールや方法について学び、プレゼンテーションやレポート作成作業に備える。また、日誌など単位申請に必要な文書について確認し、不備があれば指導を受ける。 事後授業2（11月下旬予定） 申請者が現地で活動した内容やその成果を示す写真や映像を用いながら報告を行う。授業担当および数名の学部教員が審査に当たる。このあと、参加した活動の内容やそこで得られた成果をテーマとして2,000字程度のレポートを指定された締め切り日までに提出する。なお、ここでのプレゼンテーションやレポートが活動を主催する団体が求めるとは別のものであることに注意。 事後授業3（2月上旬予定） プレゼンテーションやレポートの審査にあたった教員が講評を行う。 																		
関連科目	海外実習、海外インターンシップなど																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	事前事後授業での取り組み、日誌（60%）、プレゼンテーション、レポート（40%）をもとに総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	問い合わせは、7号館2階 外国語学部事務室・国際学部事務室で受け付けます。																		
備考	単位認定が成績に反映されるのは、実習実施の半期後になる。																		

科目名	世界を学ぶ	科目名 (英文)	Learning about the World
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	大谷 侑也, 加来 奈奈, 森 類臣
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1566a0		

授業概要・目的	<p>本学部で学ぶ前提として、世界と向き合うために必要な考え方の基礎を身に付けることを目的とする。現下の国際情勢は、一層混迷の度合いを深めている。今後、世界が向かう先を考える上で足掛かりになるのは、世界各地の地理、歴史、文化に関する基礎的な知見である。それを得ることで、私たちは自らと世界のあいだの距離を測り、世界にかかわる道を拓くことができる。本授業では、講義と演習を交互に組み合わせ、単なる知識の修得に留まらず、自らの言葉で発信できるようにする。</p>																		
到達目標	<p>世界と向き合うために必要な考え方の基礎を身に付けられる</p>																		
授業方法と留意点	<p>3クラスに分かれて行う。各クラスとも3名の教員が交替で担当する。 1回目は導入、14・15回目はまとめとする。 2～5回、6～9回、10～13回はそれぞれテーマに沿った講義と演習を組み合わせた授業を行う。 数名ずつに分かれてのグループでの作業やディスカッションが中心となる。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>第1回 授業・進め方の説明 Teamsの説明 導入のレポートをまとめる。</p> <p>※第2～13回は、クラスによって順番が異なる。</p> <p>第2～5回 (担当：加来) 世界の食文化を、各地域の歴史、地理、観光、経済など様々な面から考える。世界の食文化を概観したうえで、特定の地域に関する食文化や食材について深く調べ、発表・議論する。この過程で、世界の食文化の多様性を理解するとともに、食を通して見える世界を捉える。</p> <p>第6～9回 (担当：大谷) 世界を理解する上で欠かせない地図を使って考える。地理学的な視点から物事を考察し、議論し、そして、発表することで、多様な人々が暮らしている世界の理解を深める。</p> <p>第10～13回 (担当：森) 日本と東アジア諸国(諸地域)―南北朝鮮、中国、台湾―の関係を考えてみる。キーワードは「歴史(主に近現代史)」と「記憶」である。東アジアにおいてキーポイントとなった重要な出来事や人物が、それぞれの国・地域で現在どのように記憶され語られているのか。共通点と違いを見つけ出し、その理由を考察してみる。</p> <p>第14回 これまでの学習を振り返りディスカッションする。 第15回 前回のディスカッションを踏まえて、レポートをまとめる。</p> <p>事前事後学習では、ディスカッションやプレゼンの準備を進める、レポートをまとめることが必要である。</p>																		
関連科目	<p>日本を学ぶ すべてのプロジェクト科目</p>																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	<p>演習での取り組み60%(20%×3)、初回課題10%、最終課題30%</p>																		
学生へのメッセージ	<p>考えて意見を言ってみたり、他人の話を聞いてみたり、楽しんで取り組んでみましょう。</p>																		
担当者の研究室等	<p>加来(7号館4階) 大谷(7号館) 森(7号館5階)</p>																		
備考	<p>事前事後学習時間の目安は60時間。</p>																		

科目名	日本を学ぶ	科目名(英文)	Learning about Japan
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	橋本 正俊, 有馬 善一, 田中 悟
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1567a0		

授業概要・目的	本学部で学ぶ前提として、日本の文化・社会と向き合うために必要な考え方の基礎を身に付けることを目的とする。国際社会を学ぶ上で、自らの立ち位置である日本について知ることは必須である。地理、歴史、社会、文化といったさまざまな視角から日本について学び、世界の国々と比較することで社会や人について考察を深める。本授業では講義と演習を交互に組み合わせ、単なる知識の取得に留まらず、自らの言葉で発信できるようにする。																		
到達目標	日本の文化・社会と向き合うために必要な考え方の基礎を身に付けられる。																		
授業方法と留意点	3クラスに分かれて行う。各クラスとも3名の教員が交替で担当する。 1回目は導入、14・15回目はまとめとする。 2～5回、6～9回、10～13回はそれぞれテーマに沿った講義と演習を組み合わせた授業を行う。 数名ずつに分かれてのグループでの作業やディスカッションが中心となる。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>第1回 授業・進め方の説明 Teamsの説明 導入のレポートをまとめる</p> <p>※第2～13回は、クラスによって順番が異なる。</p> <p>第2～5回 (有馬) 「日本の風景」をテーマとする。風景と言ってもさまざまな角度から考えることができる。日本の原風景、ふるさとの風景、日常の風景、未来の風景等々。風景と風土の関連も重要な問題となる。風景から見えてくる日本についてともに考えていく。</p> <p>第6～9回 (田中) 「日本人と労働」というテーマで考える。歴史上、人間はさまざまな形で働き続けてきたが、現代社会で私たちが働くときには、法に定められたルールに従わなければならない。そこにはどのようなルールが、なぜ存在しているのか。主として労働法の観点から、「日本で働くこと」について考えていく。</p> <p>第10～13回 (橋本) 「日本人と信仰」というテーマで考える。しばしば日本人は信仰心が薄いと指摘され、また宗教を忌避する若者も多い。一方で冠婚葬祭や祭りは、宗教と深く関わっている。様々な材料から、日本人と信仰について考えていく。</p> <p>第14回 これまでの学習を振り返り、ディスカッションする。 第15回 前回のディスカッションを踏まえて、レポートをまとめる。</p> <p>事前事後学習では、ディスカッション、プレゼンの準備や、レポートの作成に取り組む。</p>																		
関連科目	世界を学ぶ すべてのプロジェクト科目																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	演習での取り組み60% (20%×3)、初回課題10%、最終課題30%																		
学生へのメッセージ	自分の意見を言ったり、他人の考えに耳を傾けたり、楽しんで取り組んでいきましょう。																		
担当者の研究室等	有馬研究室(7号館4階) 田中研究室(7号館4階) 橋本研究室(7号館4階)																		
備考	事前事後学習時間の目安は60時間。																		

科目名	諸言語輪講	科目名 (英文)	Introduction to Chinese, Indonesian, and Spanish
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	中西 正樹, 金子 正徳, 藤井 嘉祥
ディプロマポリシー (DP)	DP2Δ, DP7◎		
科目ナンバリング	LDL1633c0		

授業概要・目的	インドネシア語、スペイン語、中国語の入門およびそれらを使う地域の文化についてそれぞれ5週にわたって学ぶ。これにより、3言語のうちのいずれか一つを1年次後期以降も継続して学ぶための関心を深め、世界の言語や文化の多様性に意識を向けることを目指す。																
到達目標	それぞれの言語の発音や文字表記、挨拶や自己紹介などの初歩的な表現と語彙を学び、その背景となる文化と結びつけながら各地域への関心を深めることができる。また、ここで得た知識や関心をもとに、語圏の歴史や文化に関する基礎的な事項を調べるスキルを身につけることができる。																
授業方法及び留意点	学年全体を6つのクラスに分割したうえ、それぞれのクラスでインドネシア語、スペイン語、中国語の授業にアクティブラーニングの手法を取り入れながら行う。提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行う。インドネシア語担当：金子、スペイン語担当：藤井、中国語担当：中西。 第1週～第5週→第6週～第10週→第11週～第15週 Aクラス 中国語 → スペイン語 → インドネシア語 Bクラス スペイン語 → インドネシア語 → 中国語 Cクラス インドネシア語 → 中国語 → スペイン語 Dクラス																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	インドネシア語・スペイン語・中国語をそれぞれ5回ずつ下記の内容について学ぶ。 第1回目：その言語が使われる地域・歴史・生活について知る 第2回目：その言語の音と文字に触れたり日常のあいさつを体験する 第3回目：その言語で文を組み立てて自分を表現する 第4回目：その言語で身の回りの物や行動を表現する 第5回目：第1回～第4回で学んだことの振り返りとこの5回を範囲とするテスト ※それぞれの言語特有の事情により、上とは違った順で授業を行うことがある。また、授業終わりに小テストを実施したりレポートの提出を求めることもある。 【事前・事後学習課題】 出された課題に取り組む 予習・復習をする 事前事後学習は1回あたり1時間を目安とする。																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	授業および課題への取り組み (40%)、各言語で実施するテスト (20%×3)																
学生へのメッセージ	日本語と英語以外の言語にも触れることで今まで知らなかった世界が見えてくるはずです。この授業がその入り口になることを願っています。																
担当者の研究室等	スペイン語：藤井研究室 (7号館5階) インドネシア語：金子研究室 (7号館5階) 中国語：中西研究室 (7号館3階)																
備考	1年次後期では3つの言語のうちどれかを選択したうえで週3回の必修科目を履修します。そのためこの科目の授業が終了する7月下旬に言語選択調査を実施し、これらの科目は自動履修になります。なお調査の結果、学年全体で選択言語に極端な偏りがあった場合は、選択理由や適性 (この科目の成績) をもとに後期に履修する言語を調整することもあります。																

科目名	初年次ゼミナール	科目名 (英文)	First Year Seminar
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	安達 直樹
ディプロマポリシー (DP)	DP3○, DP4○, DP5○, DP6○, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1680a0		

授業概要・目的	<p>【概要】 大学で学ぶための基本的な能力を身につける。</p> <p>【目的】 ①大学を知る ②ゼミの仲間を互いに理解し合い、コミュニケーション能力を高める ③日本語の「読む」「書く」能力を向上させる ④社会に関心を持つ</p>																		
到達目標	<p>摂南大学で学ぶ意味を理解する。 大学生が守るルールを知る。 論理的な文章を読み、書くことができる。 最近のニュースについて話ができる。</p>																		
授業方法と留意点	<p>【授業方法】 1クラスあたり10数名の編成で、教材に沿って、発表や意見交換を交えて進める。また、「時事問題テスト」(プリントを配布する)を通して、社会問題に関心を持つようにする。</p> <p>【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、2年次に進級できない。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容】 第1回目：授業の目的、自己紹介 第2回目：履修登録・単位取得・GPAについて、試験について、シラバスについて</p> <p>第3回目以降：内容は前後することがある</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学生生活・大学生の守るべきルールについて ・摂南大学を知る (沿革、教育の特色、さまざまな施設) ・3つのポリシーを知る ・ノートの取り方 ・図書館の活用方法 ・メディア・リテラシー (本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点など) ・ICT教育 (ポータルサイトやメールを用いた連絡の方法、Teams、Moodle、WebFolderの使用法) の実施 ・レポートの書き方 (パソコンによる文章作成) ・大学生生活の目標 ・海外プログラムの説明 ・国際学部の学びについて知る ・その他 <p>【事前事後学習】 出された課題に取り組む 時事問題テストの予習・復習をする レポートを作成する</p>																		
関連科目	1～4年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	授業および課題への取り組み (100%)																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	各教員の研究室																		
備考																			

科目名	初年次ゼミナール	科目名 (英文)	First Year Seminar
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	天野 貴史
ディプロマポリシー(DP)	DP3○, DP4○, DP5○, DP6○, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1680a0		

授業概要・目的	<p>【概要】 大学で学ぶための基本的な能力を身につける。</p> <p>【目的】 ①大学を知る ②ゼミの仲間を互いに理解し合い、コミュニケーション能力を高める ③日本語の「読む」「書く」能力を向上させる ④社会に関心を持つ</p>																
到達目標	<p>摂南大学で学ぶ意味を理解する。 大学生が守るルールを知る。 論理的な文章を読み、書くことができる。 最近のニュースについて話ができる。</p>																
授業方法と留意点	<p>【授業方法】 1クラスあたり10数名の編成で、教材に沿って、発表や意見交換を交えて進める。また、「時事問題テスト」(プリントを配布する)を通して、社会問題に関心を持つようにする。</p> <p>【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、2年次に進級できない。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容】 第1回目：授業の目的、自己紹介 第2回目：履修登録・単位取得・GPAについて、試験について、シラバスについて</p> <p>第3回目以降：内容は前後することがある ・大学生活・大学生の守るべきルールについて ・摂南大学を知る(沿革、教育の特色、さまざまな施設) ・3つのポリシーを知る ・ノートの取り方 ・図書館の活用方法 ・メディア・リテラシー(本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点など) ・ICT教育(ポータルサイトやメールを用いた連絡の方法、Teams、Moodle、WebFolderの使用法)の実施 ・レポートの書き方(パソコンによる文章作成) ・大学生活の目標 ・海外プログラムの説明 ・国際学部の学びについて知る ・その他</p> <p>【事前事後学習】 出された課題に取り組む 時事問題テストの予習・復習をする レポートを作成する</p>																
関連科目	1～4年次の各ゼミ																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	授業および課題への取り組み(100%)																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	各教員の研究室																
備考																	

科目名	初年次ゼミナール	科目名(英文)	First Year Seminar
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	有馬 善一
ディプロマポリシー(DP)	DP3○, DP4○, DP5○, DP6○, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1680a0		

授業概要・目的	<p>【概要】 大学で学ぶための基本的な能力を身につける。</p> <p>【目的】 ①大学を知る ②ゼミの仲間を互いに理解し合い、コミュニケーション能力を高める ③日本語の「読む」「書く」能力を向上させる ④社会に関心を持つ</p>																
到達目標	<p>摂南大学で学ぶ意味を理解する。 大学生が守るルールを知る。 論理的な文章を読み、書くことができる。 最近のニュースについて話ができる。</p>																
授業方法と留意点	<p>【授業方法】 1クラスあたり10数名の編成で、教材に沿って、発表や意見交換を交えて進める。また、「時事問題テスト」(プリントを配布する)を通して、社会問題に関心を持つようにする。</p> <p>【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、2年次に進級できない。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容】 第1回目：授業の目的、自己紹介 第2回目：履修登録・単位取得・GPAについて、試験について、シラバスについて</p> <p>第3回目以降：内容は前後することがある ・大学生活・大学生の守るべきルールについて ・摂南大学を知る(沿革、教育の特色、さまざまな施設) ・3つのポリシーを知る ・ノートの取り方 ・図書館の活用方法 ・メディア・リテラシー(本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点など) ・ICT教育(ポータルサイトやメールを用いた連絡の方法、Teams、Moodle、WebFolderの使用法)の実施 ・レポートの書き方(パソコンによる文章作成) ・大学生活の目標 ・海外プログラムの説明 ・国際学部の学びについて知る ・その他</p> <p>【事前事後学習】 出された課題に取り組む 時事問題テストの予習・復習をする レポートを作成する</p>																
関連科目	1～4年次の各ゼミ																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	授業および課題への取り組み(100%)																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	各教員の研究室																
備考																	

科目名	初年次ゼミナール	科目名 (英文)	First Year Seminar
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	浦野 崇央
ディプロマポリシー (DP)	DP3○, DP4○, DP5○, DP6○, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1680a0		

授業概要・目的	<p>【概要】 大学で学ぶための基本的な能力を身につける。</p> <p>【目的】 ①大学を知る ②ゼミの仲間を互いに理解し合い、コミュニケーション能力を高める ③日本語の「読む」「書く」能力を向上させる ④社会に関心を持つ</p>																
到達目標	<p>摂南大学で学ぶ意味を理解する。 大学生が守るルールを知る。 論理的な文章を読み、書くことができる。 最近のニュースについて話ができる。</p>																
授業方法と留意点	<p>【授業方法】 1クラスあたり10数名の編成で、教材に沿って、発表や意見交換を交えて進める。また、「時事問題テスト」(プリントを配布する)を通して、社会問題に関心を持つようにする。</p> <p>【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、2年次に進級できない。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容】 第1回目：授業の目的、自己紹介 第2回目：履修登録・単位取得・GPAについて、試験について、シラバスについて</p> <p>第3回目以降：内容は前後することがある</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学生生活・大学生の守るべきルールについて ・摂南大学を知る (沿革、教育の特色、さまざまな施設) ・3つのポリシーを知る ・ノートの取り方 ・図書館の活用方法 ・メディア・リテラシー (本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点など) ・ICT教育 (ポータルサイトやメールを用いた連絡の方法、Teams、Moodle、WebFolderの使用法) の実施 ・レポートの書き方 (パソコンによる文章作成) ・大学生生活の目標 ・海外プログラムの説明 ・国際学部の学びについて知る ・その他 <p>【事前事後学習】 出された課題に取り組む 時事問題テストの予習・復習をする レポートを作成する</p>																
関連科目	1～4年次の各ゼミ																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	授業および課題への取り組み (100%)																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	各教員の研究室																
備考																	

科目名	初年次ゼミナール	科目名(英文)	First Year Seminar
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小都 晶子
ディプロマポリシー(DP)	DP3○, DP4○, DP5○, DP6○, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1680a0		

授業概要・目的	<p>【概要】 大学で学ぶための基本的な能力を身につける。</p> <p>【目的】 ①大学を知る ②ゼミの仲間を互いに理解し合い、コミュニケーション能力を高める ③日本語の「読む」「書く」能力を向上させる ④社会に関心を持つ</p>																		
到達目標	<p>摂南大学で学ぶ意味を理解する。 大学生が守るルールを知る。 論理的な文章を読み、書くことができる。 最近のニュースについて話ができる。</p>																		
授業方法と留意点	<p>【授業方法】 1クラスあたり10数名の編成で、教材に沿って、発表や意見交換を交えて進める。また、「時事問題テスト」(プリントを配布する)を通して、社会問題に関心を持つようにする。</p> <p>【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、2年次に進級できない。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容】 第1回目：授業の目的、自己紹介 第2回目：履修登録・単位取得・GPAについて、試験について、シラバスについて</p> <p>第3回目以降：内容は前後することがある</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学生活・大学生の守るべきルールについて ・摂南大学を知る(沿革、教育の特色、さまざまな施設) ・3つのポリシーを知る ・ノートの取り方 ・図書館の活用方法 ・メディア・リテラシー(本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点など) ・ICT教育(ポータルサイトやメールを用いた連絡の方法、Teams、Moodle、WebFolderの使用法)の実施 ・レポートの書き方(パソコンによる文章作成) ・大学生活の目標 ・海外プログラムの説明 ・国際学部の学びについて知る ・その他 <p>【事前事後学習】 出された課題に取り組む 時事問題テストの予習・復習をする レポートを作成する</p>																		
関連科目	1～4年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	授業および課題への取り組み(100%)																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	各教員の研究室																		
備考																			

科目名	初年次ゼミナール	科目名 (英文)	First Year Seminar
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	柏原 郁子
ディプロマポリシー (DP)	DP3○, DP4○, DP5○, DP6○, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1680a0		

授業概要・目的	<p>【概要】 大学で学ぶための基本的な能力を身につける。</p> <p>【目的】 ①大学を知る ②ゼミの仲間を互いに理解し合い、コミュニケーション能力を高める ③日本語の「読む」「書く」能力を向上させる ④社会に関心を持つ</p>																
到達目標	<p>摂南大学で学ぶ意味を理解する。 大学生が守るルールを知る。 論理的な文章を読み、書くことができる。 最近のニュースについて話ができる。</p>																
授業方法と留意点	<p>【授業方法】 1クラスあたり10数名の編成で、教材に沿って、発表や意見交換を交えて進める。また、「時事問題テスト」(プリントを配布する)を通して、社会問題に関心を持つようにする。</p> <p>【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、2年次に進級できない。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容】 第1回目：授業の目的、自己紹介 第2回目：履修登録・単位取得・GPAについて、試験について、シラバスについて</p> <p>第3回目以降：内容は前後することがある</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学生生活・大学生の守るべきルールについて ・摂南大学を知る (沿革、教育の特色、さまざまな施設) ・3つのポリシーを知る ・ノートの取り方 ・図書館の活用方法 ・メディア・リテラシー (本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点など) ・ICT教育 (ポータルサイトやメールを用いた連絡の方法、Teams、Moodle、WebFolder の使用方法) の実施 ・レポートの書き方 (パソコンによる文章作成) ・大学生生活の目標 ・海外プログラムの説明 ・国際学部の学びについて知る ・その他 <p>【事前事後学習】 出された課題に取り組む 時事問題テストの予習・復習をする レポートを作成する</p>																
関連科目	1～4年次の各ゼミ																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	授業および課題への取り組み (100%)																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	各教員の研究室																
備考																	

科目名	初年次ゼミナール	科目名 (英文)	First Year Seminar
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	後藤 一章
ディプロマポリシー (DP)	DP3○, DP4○, DP5○, DP6○, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1680a0		

授業概要・目的	<p>【概要】 大学で学ぶための基本的な能力を身につける。</p> <p>【目的】 ①大学を知る ②ゼミの仲間を互いに理解し合い、コミュニケーション能力を高める ③日本語の「読む」「書く」能力を向上させる ④社会に関心を持つ</p>																
到達目標	<p>摂南大学で学ぶ意味を理解する。 大学生が守るルールを知る。 論理的な文章を読み、書くことができる。 最近のニュースについて話ができる。</p>																
授業方法と留意点	<p>【授業方法】 1クラスあたり10数名の編成で、教材に沿って、発表や意見交換を交えて進める。また、「時事問題テスト」(プリントを配布する)を通して、社会問題に関心を持つようにする。</p> <p>【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、2年次に進級できない。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容】 第1回目：授業の目的、自己紹介 第2回目：履修登録・単位取得・GPAについて、試験について、シラバスについて</p> <p>第3回目以降：内容は前後することがある</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学生生活・大学生の守るべきルールについて ・摂南大学を知る (沿革、教育の特色、さまざまな施設) ・3つのポリシーを知る ・ノートの取り方 ・図書館の活用方法 ・メディア・リテラシー (本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点など) ・ICT教育 (ポータルサイトやメールを用いた連絡の方法、Teams、Moodle、WebFolderの使用法) の実施 ・レポートの書き方 (パソコンによる文章作成) ・大学生生活の目標 ・海外プログラムの説明 ・国際学部の学びについて知る ・その他 <p>【事前事後学習】 出された課題に取り組む 時事問題テストの予習・復習をする レポートを作成する</p>																
関連科目	1～4年次の各ゼミ																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	授業および課題への取り組み (100%)																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	各教員の研究室																
備考																	

科目名	初年次ゼミナール	科目名 (英文)	First Year Seminar
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	大谷 侑也
ディプロマポリシー (DP)	DP3○, DP4○, DP5○, DP6○, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1680a0		

授業概要・目的	<p>【概要】 大学で学ぶための基本的な能力を身につける。</p> <p>【目的】 ①大学を知る ②ゼミの仲間を互いに理解し合い、コミュニケーション能力を高める ③日本語の「読む」「書く」能力を向上させる ④社会に関心を持つ</p>																
到達目標	<p>摂南大学で学ぶ意味を理解する。 大学生が守るルールを知る。 論理的な文章を読み、書くことができる。 最近のニュースについて話ができる。</p>																
授業方法と留意点	<p>【授業方法】 1クラスあたり10数名の編成で、教材に沿って、発表や意見交換を交えて進める。また、「時事問題テスト」(プリントを配布する)を通して、社会問題に関心を持つようにする。</p> <p>【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、2年次に進級できない。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容】 第1回目：授業の目的、自己紹介 第2回目：履修登録・単位取得・GPAについて、試験について、シラバスについて</p> <p>第3回目以降：内容は前後することがある</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学生活・大学生の守るべきルールについて ・摂南大学を知る (沿革、教育の特色、さまざまな施設) ・3つのポリシーを知る ・ノートの取り方 ・図書館の活用方法 ・メディア・リテラシー (本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点など) ・ICT教育 (ポータルサイトやメールを用いた連絡の方法、Teams、Moodle、WebFolder の使用方法) の実施 ・レポートの書き方 (パソコンによる文章作成) ・大学生活の目標 ・海外プログラムの説明 ・国際学部の学びについて知る ・その他 <p>【事前事後学習】 出された課題に取り組む 時事問題テストの予習・復習をする レポートを作成する</p>																
関連科目	1～4年次の各ゼミ																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	授業および課題への取り組み (100%)																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	各教員の研究室																
備考																	

科目名	初年次ゼミナール	科目名(英文)	First Year Seminar
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	中島 直嗣
ディプロマポリシー(DP)	DP3○, DP4○, DP5○, DP6○, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1680a0		

授業概要・目的	<p>【概要】 大学で学ぶための基本的な能力を身につける。</p> <p>【目的】 ①大学を知る ②ゼミの仲間を互いに理解し合い、コミュニケーション能力を高める ③日本語の「読む」「書く」能力を向上させる ④社会に関心を持つ</p>																
到達目標	<p>摂南大学で学ぶ意味を理解する。 大学生が守るルールを知る。 論理的な文章を読み、書くことができる。 最近のニュースについて話ができる。</p>																
授業方法と留意点	<p>【授業方法】 1クラスあたり10数名の編成で、教材に沿って、発表や意見交換を交えて進める。また、「時事問題テスト」(プリントを配布する)を通して、社会問題に関心を持つようにする。</p> <p>【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、2年次に進級できない。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容】 第1回目：授業の目的、自己紹介 第2回目：履修登録・単位取得・GPAについて、試験について、シラバスについて</p> <p>第3回目以降：内容は前後することがある</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学生生活・大学生の守るべきルールについて ・摂南大学を知る(沿革、教育の特色、さまざまな施設) ・3つのポリシーを知る ・ノートの取り方 ・図書館の活用方法 ・メディア・リテラシー(本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点など) ・ICT教育(ポータルサイトやメールを用いた連絡の方法、Teams、Moodle、WebFolderの使用法)の実施 ・レポートの書き方(パソコンによる文章作成) ・大学生生活の目標 ・海外プログラムの説明 ・国際学部の学びについて知る ・その他 <p>【事前事後学習】 出された課題に取り組む 時事問題テストの予習・復習をする レポートを作成する</p>																
関連科目	1～4年次の各ゼミ																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	授業および課題への取り組み(100%)																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	各教員の研究室																
備考																	

科目名	初年次ゼミナール	科目名(英文)	First Year Seminar
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	中西 正樹
ディプロマポリシー(DP)	DP3○, DP4○, DP5○, DP6○, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1680a0		

授業概要・目的	<p>【概要】 大学で学ぶための基本的な能力を身につける。</p> <p>【目的】 ①大学を知る ②ゼミの仲間を互いに理解し合い、コミュニケーション能力を高める ③日本語の「読む」「書く」能力を向上させる ④社会に関心を持つ</p>																
到達目標	<p>摂南大学で学ぶ意味を理解する。 大学生が守るルールを知る。 論理的な文章を読み、書くことができる。 最近のニュースについて話ができる。</p>																
授業方法と留意点	<p>【授業方法】 1クラスあたり10数名の編成で、教材に沿って、発表や意見交換を交えて進める。また、「時事問題テスト」(プリントを配布する)を通して、社会問題に関心を持つようにする。</p> <p>【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、2年次に進級できない。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容】 第1回目：授業の目的、自己紹介 第2回目：履修登録・単位取得・GPAについて、試験について、シラバスについて</p> <p>第3回目以降：内容は前後することがある ・大学生活・大学生の守るべきルールについて ・摂南大学を知る(沿革、教育の特色、さまざまな施設) ・3つのポリシーを知る ・ノートの取り方 ・図書館の活用方法 ・メディア・リテラシー(本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点など) ・ICT教育(ポータルサイトやメールを用いた連絡の方法、Teams、Moodle、WebFolderの使用法)の実施 ・レポートの書き方(パソコンによる文章作成) ・大学生活の目標 ・海外プログラムの説明 ・国際学部の学びについて知る ・その他</p> <p>【事前事後学習】 出された課題に取り組む 時事問題テストの予習・復習をする レポートを作成する</p>																
関連科目	1～4年次の各ゼミ																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	授業および課題への取り組み(100%)																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	各教員の研究室																
備考																	

科目名	初年次ゼミナール	科目名 (英文)	First Year Seminar
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	藤井 嘉祥
ディプロマポリシー (DP)	DP3○, DP4○, DP5○, DP6○, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1680a0		

授業概要・目的	<p>【概要】 大学で学ぶための基本的な能力を身につける。</p> <p>【目的】 ①大学を知る ②ゼミの仲間を互いに理解し合い、コミュニケーション能力を高める ③日本語の「読む」「書く」能力を向上させる ④社会に関心を持つ</p>																
到達目標	<p>摂南大学で学ぶ意味を理解する。 大学生が守るルールを知る。 論理的な文章を読み、書くことができる。 最近のニュースについて話ができる。</p>																
授業方法と留意点	<p>【授業方法】 1クラスあたり10数名の編成で、教材に沿って、発表や意見交換を交えて進める。また、「時事問題テスト」(プリントを配布する)を通して、社会問題に関心を持つようにする。</p> <p>【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、2年次に進級できない。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容】 第1回目：授業の目的、自己紹介 第2回目：履修登録・単位取得・GPAについて、試験について、シラバスについて</p> <p>第3回目以降：内容は前後することがある</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学生活・大学生の守るべきルールについて ・摂南大学を知る (沿革、教育の特色、さまざまな施設) ・3つのポリシーを知る ・ノートの取り方 ・図書館の活用方法 ・メディア・リテラシー (本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点など) ・ICT教育 (ポータルサイトやメールを用いた連絡の方法、Teams、Moodle、WebFolderの使用法) の実施 ・レポートの書き方 (パソコンによる文章作成) ・大学生活の目標 ・海外プログラムの説明 ・国際学部の学びについて知る ・その他 <p>【事前事後学習】 出された課題に取り組む 時事問題テストの予習・復習をする レポートを作成する</p>																
関連科目	1～4年次の各ゼミ																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	授業および課題への取り組み (100%)																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	各教員の研究室																
備考																	

科目名	初年次ゼミナール	科目名(英文)	First Year Seminar
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	藤原 崇
ディプロマポリシー(DP)	DP3○, DP4○, DP5○, DP6○, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1680a0		

授業概要・目的	<p>【概要】 大学で学ぶための基本的な能力を身につける。</p> <p>【目的】 ①大学を知る ②ゼミの仲間を互いに理解し合い、コミュニケーション能力を高める ③日本語の「読む」「書く」能力を向上させる ④社会に関心を持つ</p>																
到達目標	<p>摂南大学で学ぶ意味を理解する。 大学生が守るルールを知る。 論理的な文章を読み、書くことができる。 最近のニュースについて話ができる。</p>																
授業方法と留意点	<p>【授業方法】 1クラスあたり10数名の編成で、教材に沿って、発表や意見交換を交えて進める。また、「時事問題テスト」(プリントを配布する)を通して、社会問題に関心を持つようにする。</p> <p>【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、2年次に進級できない。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容】 第1回目：授業の目的、自己紹介 第2回目：履修登録・単位取得・GPAについて、試験について、シラバスについて</p> <p>第3回目以降：内容は前後することがある</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学生生活・大学生の守るべきルールについて ・摂南大学を知る(沿革、教育の特色、さまざまな施設) ・3つのポリシーを知る ・ノートの取り方 ・図書館の活用方法 ・メディア・リテラシー(本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点など) ・ICT教育(ポータルサイトやメールを用いた連絡の方法、Teams、Moodle、WebFolderの使用法)の実施 ・レポートの書き方(パソコンによる文章作成) ・大学生生活の目標 ・海外プログラムの説明 ・国際学部の学びについて知る ・その他 <p>【事前事後学習】 出された課題に取り組む 時事問題テストの予習・復習をする レポートを作成する</p>																
関連科目	1～4年次の各ゼミ																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	授業および課題への取り組み(100%)																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	各教員の研究室																
備考																	

科目名	初年次ゼミナール	科目名(英文)	First Year Seminar
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	船本 弘史
ディプロマポリシー(DP)	DP3○, DP4○, DP5○, DP6○, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1680a0		

授業概要・目的	<p>【概要】 大学で学ぶための基本的な能力を身につける。</p> <p>【目的】 ①大学を知る ②ゼミの仲間を互いに理解し合い、コミュニケーション能力を高める ③日本語の「読む」「書く」能力を向上させる ④社会に関心を持つ</p>																
到達目標	<p>摂南大学で学ぶ意味を理解する。 大学生が守るルールを知る。 論理的な文章を読み、書くことができる。 最近のニュースについて話ができる。</p>																
授業方法と留意点	<p>【授業方法】 1クラスあたり10数名の編成で、教材に沿って、発表や意見交換を交えて進める。また、「時事問題テスト」(プリントを配布する)を通して、社会問題に関心を持つようにする。</p> <p>【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、2年次に進級できない。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容】 第1回目：授業の目的、自己紹介 第2回目：履修登録・単位取得・GPAについて、試験について、シラバスについて</p> <p>第3回目以降：内容は前後することがある</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学生活・大学生の守るべきルールについて ・摂南大学を知る(沿革、教育の特色、さまざまな施設) ・3つのポリシーを知る ・ノートの取り方 ・図書館の活用方法 ・メディア・リテラシー(本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点など) ・ICT教育(ポータルサイトやメールを用いた連絡の方法、Teams、Moodle、WebFolderの使用方法)の実施 ・レポートの書き方(パソコンによる文章作成) ・大学生活の目標 ・海外プログラムの説明 ・国際学部の学びについて知る ・その他 <p>【事前事後学習】 出された課題に取り組む 時事問題テストの予習・復習をする レポートを作成する</p>																
関連科目	1～4年次の各ゼミ																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	授業および課題への取り組み(100%)																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	各教員の研究室																
備考																	

科目名	初年次ゼミナール	科目名 (英文)	First Year Seminar
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	北條 ゆかり
ディプロマポリシー (DP)	DP3○, DP4○, DP5○, DP6○, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1680a0		

授業概要・目的	<p>【概要】 大学で学ぶための基本的な能力を身につける。</p> <p>【目的】 ①大学を知る ②ゼミの仲間を互いに理解し合い、コミュニケーション能力を高める ③日本語の「読む」「書く」能力を向上させる ④社会に関心を持つ</p>																
到達目標	<p>摂南大学で学ぶ意味を理解する。 大学生が守るルールを知る。 論理的な文章を読み、書くことができる。 最近のニュースについて話ができる。</p>																
授業方法と留意点	<p>【授業方法】 1クラスあたり10数名の編成で、教材に沿って、発表や意見交換を交えて進める。また、「時事問題テスト」(プリントを配布する)を通して、社会問題に関心を持つようにする。</p> <p>【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、2年次に進級できない。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容】 第1回目：授業の目的、自己紹介 第2回目：履修登録・単位取得・GPAについて、試験について、シラバスについて</p> <p>第3回目以降：内容は前後することがある</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学生活・大学生の守るべきルールについて ・摂南大学を知る (沿革、教育の特色、さまざまな施設) ・3つのポリシーを知る ・ノートの取り方 ・図書館の活用方法 ・メディア・リテラシー (本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点など) ・ICT教育 (ポータルサイトやメールを用いた連絡の方法、Teams、Moodle、WebFolderの使用法) の実施 ・レポートの書き方 (パソコンによる文章作成) ・大学生活の目標 ・海外プログラムの説明 ・国際学部の学びについて知る ・その他 <p>【事前事後学習】 出された課題に取り組む 時事問題テストの予習・復習をする レポートを作成する</p>																
関連科目	1～4年次の各ゼミ																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	授業および課題への取り組み (100%)																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	各教員の研究室																
備考																	

科目名	初年次ゼミナール	科目名 (英文)	First Year Seminar
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	森 類臣
ディプロマポリシー (DP)	DP3○, DP4○, DP5○, DP6○, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1680a0		

授業概要・目的	<p>【概要】 大学で学ぶための基本的な能力を身につける。</p> <p>【目的】 ①大学を知る ②ゼミの仲間を互いに理解し合い、コミュニケーション能力を高める ③日本語の「読む」「書く」能力を向上させる ④社会に関心を持つ</p>																
到達目標	<p>摂南大学で学ぶ意味を理解する。 大学生が守るルールを知る。 論理的な文章を読み、書くことができる。 最近のニュースについて話ができる。</p>																
授業方法と留意点	<p>【授業方法】 1クラスあたり10数名の編成で、教材に沿って、発表や意見交換を交えて進める。また、「時事問題テスト」(プリントを配布する)を通して、社会問題に関心を持つようにする。</p> <p>【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、2年次に進級できない。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容】 第1回目：授業の目的、自己紹介 第2回目：履修登録・単位取得・GPAについて、試験について、シラバスについて</p> <p>第3回目以降：内容は前後することがある</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学生活・大学生の守るべきルールについて ・摂南大学を知る (沿革、教育の特色、さまざまな施設) ・3つのポリシーを知る ・ノートの取り方 ・図書館の活用方法 ・メディア・リテラシー (本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点など) ・ICT教育 (ポータルサイトやメールを用いた連絡の方法、Teams、Moodle、WebFolder の使用方法) の実施 ・レポートの書き方 (パソコンによる文章作成) ・大学生活の目標 ・海外プログラムの説明 ・国際学部の学びについて知る ・その他 <p>【事前事後学習】 出された課題に取り組む 時事問題テストの予習・復習をする レポートを作成する</p>																
関連科目	1～4年次の各ゼミ																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	授業および課題への取り組み (100%)																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	各教員の研究室																
備考																	

科目名	基礎ゼミナール	科目名(英文)	Basic Seminar
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	赤澤 春彦
ディプロマポリシー(DP)	DP3○, DP4○, DP5○, DP6○, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1681a0		

授業概要・目的	<p>【概要】 大学生として、また社会人になるために必要な能力を身につける。</p> <p>【目的】 日本語の「読む」「書く」能力の向上に加えて、「話す」「聴く」能力を向上させる。すなわち、「テーマに沿って調べ」「わかりやすく発表し」「意見交換をする」ことができるようにする。また、社会への関心を高める。</p>																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・他者と話し合うことができる。 ・必要な情報を調べ、整理することができる。 ・わかりやすく発表することができる。 																		
授業方法及び留意点	<p>【授業方法】 1クラス当たり10数名の編成で、発表や意見交換も交えて進めていく。個人またグループでテーマを設定し、成果を発表する。「時事問題テスト」(プリントを配布)などを実施し、世界情勢や社会問題に関心を持つようにする。</p> <p>【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、2年次に進級できない。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】 第1回：授業の目的、自己紹介 第2回以降： ・本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点について再確認する ・取り組むテーマを集める ・資料を作成する ・グループで話し合う ・発表する ・発表内容をもとにレポートをまとめる ・環境マネジメントについて学ぶ ・その他</p> <p>【事前・事後学習】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・時事問題テストの予習・復習をする。 ・発表のための資料作成・準備をする。</p>																		
関連科目	1～4年次ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	授業および課題への取り組み(100%)																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等備考	各教員の研究室(7号館3～5階)																		

科目名	基礎ゼミナール	科目名(英文)	Basic Seminar
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	天野 貴史
ディプロマポリシー(DP)	DP3○, DP4○, DP5○, DP6○, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1681a0		

授業概要・目的	<p>【概要】 大学生として、また社会人になるために必要な能力を身につける。</p> <p>【目的】 日本語の「読む」「書く」能力の向上に加えて、「話す」「聴く」能力を向上させる。すなわち、「テーマに沿って調べ」「わかりやすく発表し」「意見交換をする」ことができるようにする。また、社会への関心を高める。</p>																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・他者と話し合うことができる。 ・必要な情報を調べ、整理することができる。 ・わかりやすく発表することができる。 																		
授業方法及び留意点	<p>【授業方法】 1クラス当たり10数名の編成で、発表や意見交換も交えて進めていく。個人またグループでテーマを設定し、成果を発表する。「時事問題テスト」(プリントを配布)などを実施し、世界情勢や社会問題に関心を持つようにする。</p> <p>【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、2年次に進級できない。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】 第1回：授業の目的、自己紹介 第2回以降： <ul style="list-style-type: none"> ・本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点について再確認する ・取り組むテーマを集める ・資料を作成する ・グループで話し合う ・発表する ・発表内容をもとにレポートをまとめる ・環境マネジメントについて学ぶ ・その他 </p> <p>【事前・事後学習】 <ul style="list-style-type: none"> ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・時事問題テストの予習・復習をする。 ・発表のための資料作成・準備をする。 </p>																		
関連科目	1～4年次ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	授業および課題への取り組み(100%)																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等備考	各教員の研究室(7号館3～5階)																		

科目名	基礎ゼミナール	科目名(英文)	Basic Seminar
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	有馬 善一
ディプロマポリシー(DP)	DP3○, DP4○, DP5○, DP6○, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1681a0		

授業概要・目的	<p>【概要】 大学生として、また社会人になるために必要な能力を身につける。</p> <p>【目的】 日本語の「読む」「書く」能力の向上に加えて、「話す」「聴く」能力を向上させる。すなわち、「テーマに沿って調べ」「わかりやすく発表し」「意見交換をする」ことができるようにする。また、社会への関心を高める。</p>																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・他者と話し合えることができる。 ・必要な情報を調べ、整理することができる。 ・わかりやすく発表することができる。 																		
授業方法及び留意点	<p>【授業方法】 1クラス当たり10数名の編成で、発表や意見交換も交えて進めていく。個人またグループでテーマを設定し、成果を発表する。「時事問題テスト」(プリントを配布)などを実施し、世界情勢や社会問題に関心を持つようにする。</p> <p>【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、2年次に進級できない。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】 第1回：授業の目的、自己紹介 第2回以降： ・本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点について再確認する ・取り組むテーマを集める ・資料を作成する ・グループで話し合う ・発表する ・発表内容をもとにレポートをまとめる ・環境マネジメントについて学ぶ ・その他</p> <p>【事前・事後学習】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・時事問題テストの予習・復習をする。 ・発表のための資料作成・準備をする。</p>																		
関連科目	1～4年次ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	授業および課題への取り組み(100%)																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等備考	各教員の研究室(7号館3～5階)																		

科目名	基礎ゼミナール	科目名 (英文)	Basic Seminar
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	加来 奈奈
ディプロマポリシー (DP)	DP3○, DP4○, DP5○, DP6○, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1681a0		

授業概要・目的	<p>【概要】 大学生として、また社会人になるために必要な能力を身につける。</p> <p>【目的】 日本語の「読む」「書く」能力の向上に加えて、「話す」「聴く」能力を向上させる。すなわち、「テーマに沿って調べ」「わかりやすく発表し」「意見交換をする」ことができるようにする。また、社会への関心を高める。</p>																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・他者と話し合うことができる。 ・必要な情報を調べ、整理することができる。 ・わかりやすく発表することができる。 																		
授業方法及び留意点	<p>【授業方法】 1クラス当たり10数名の編成で、発表や意見交換も交えて進めていく。個人またグループでテーマを設定し、成果を発表する。「時事問題テスト」(プリントを配布)などを実施し、世界情勢や社会問題に関心を持つようにする。</p> <p>【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、2年次に進級できない。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】 第1回：授業の目的、自己紹介 第2回以降： ・本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点について再確認する ・取り組むテーマを集める ・資料を作成する ・グループで話し合う ・発表する ・発表内容をもとにレポートをまとめる ・環境マネジメントについて学ぶ ・その他</p> <p>【事前・事後学習】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・時事問題テストの予習・復習をする。 ・発表のための資料作成・準備をする。</p>																		
関連科目	1～4年次ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	授業および課題への取り組み (100%)																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等備考	各教員の研究室 (7号館3～5階)																		

科目名	基礎ゼミナール	科目名(英文)	Basic Seminar
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	門脇 薫
ディプロマポリシー(DP)	DP3○, DP4○, DP5○, DP6○, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1681a0		

授業概要・目的	<p>【概要】 大学生として、また社会人になるために必要な能力を身につける。</p> <p>【目的】 日本語の「読む」「書く」能力の向上に加えて、「話す」「聴く」能力を向上させる。すなわち、「テーマに沿って調べ」「わかりやすく発表し」「意見交換をする」ことができるようにする。また、社会への関心を高める。</p>																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・他者と話し合うことができる。 ・必要な情報を調べ、整理することができる。 ・わかりやすく発表することができる。 																		
授業方法及び留意点	<p>【授業方法】 1クラス当たり10数名の編成で、発表や意見交換も交えて進めていく。個人またグループでテーマを設定し、成果を発表する。「時事問題テスト」(プリントを配布)などを実施し、世界情勢や社会問題に関心を持つようにする。</p> <p>【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、2年次に進級できない。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】 第1回：授業の目的、自己紹介 第2回以降： ・本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点について再確認する ・取り組むテーマを集める ・資料を作成する ・グループで話し合う ・発表する ・発表内容をもとにレポートをまとめる ・環境マネジメントについて学ぶ ・その他</p> <p>【事前・事後学習】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・時事問題テストの予習・復習をする。 ・発表のための資料作成・準備をする。</p>																		
関連科目	1～4年次ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	授業および課題への取り組み(100%)																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等備考	各教員の研究室(7号館3～5階)																		

科目名	基礎ゼミナール	科目名(英文)	Basic Seminar
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	後藤 一章
ディプロマポリシー(DP)	DP3○, DP4○, DP5○, DP6○, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1681a0		

授業概要・目的	<p>【概要】 大学生として、また社会人になるために必要な能力を身につける。</p> <p>【目的】 日本語の「読む」「書く」能力の向上に加えて、「話す」「聴く」能力を向上させる。すなわち、「テーマに沿って調べ」「わかりやすく発表し」「意見交換をする」ことができるようにする。また、社会への関心を高める。</p>																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・他者と話し合うことができる。 ・必要な情報を調べ、整理することができる。 ・わかりやすく発表することができる。 																		
授業方法及び留意点	<p>【授業方法】 1クラス当たり10数名の編成で、発表や意見交換も交えて進めていく。個人またグループでテーマを設定し、成果を発表する。「時事問題テスト」(プリントを配布)などを実施し、世界情勢や社会問題に関心を持つようにする。</p> <p>【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、2年次に進級できない。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】 第1回：授業の目的、自己紹介 第2回以降： ・本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点について再確認する ・取り組むテーマを集める ・資料を作成する ・グループで話し合う ・発表する ・発表内容をもとにレポートをまとめる ・環境マネジメントについて学ぶ ・その他</p> <p>【事前・事後学習】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・時事問題テストの予習・復習をする。 ・発表のための資料作成・準備をする。</p>																		
関連科目	1～4年次ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	授業および課題への取り組み(100%)																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等備考	各教員の研究室(7号館3～5階)																		

科目名	基礎ゼミナール	科目名(英文)	Basic Seminar
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小林 基
ディプロマポリシー(DP)	DP3○, DP4○, DP5○, DP6○, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1681a0		

授業概要・目的	<p>【概要】 大学生として、また社会人になるために必要な能力を身につける。</p> <p>【目的】 日本語の「読む」「書く」能力の向上に加えて、「話す」「聴く」能力を向上させる。すなわち、「テーマに沿って調べ」「わかりやすく発表し」「意見交換をする」ことができるようにする。また、社会への関心を高める。</p>																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・他者と話し合うことができる。 ・必要な情報を調べ、整理することができる。 ・わかりやすく発表することができる。 																		
授業方法及び留意点	<p>【授業方法】 1クラス当たり10数名の編成で、発表や意見交換も交えて進めていく。個人またグループでテーマを設定し、成果を発表する。「時事問題テスト」(プリントを配布)などを実施し、世界情勢や社会問題に関心を持つようにする。</p> <p>【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、2年次に進級できない。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】 第1回：授業の目的、自己紹介 第2回以降： ・本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点について再確認する ・取り組むテーマを集める ・資料を作成する ・グループで話し合う ・発表する ・発表内容をもとにレポートをまとめる ・環境マネジメントについて学ぶ ・その他</p> <p>【事前・事後学習】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・時事問題テストの予習・復習をする。 ・発表のための資料作成・準備をする。</p>																		
関連科目	1～4年次ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	授業および課題への取り組み(100%)																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等備考	各教員の研究室(7号館3～5階)																		

科目名	基礎ゼミナール	科目名(英文)	Basic Seminar
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	杉山 博昭
ディプロマポリシー(DP)	DP3○, DP4○, DP5○, DP6○, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1681a0		

授業概要・目的	<p>【概要】 大学生として、また社会人になるために必要な能力を身につける。</p> <p>【目的】 日本語の「読む」「書く」能力の向上に加えて、「話す」「聴く」能力を向上させる。すなわち、「テーマに沿って調べ」「わかりやすく発表し」「意見交換をする」ことができるようにする。また、社会への関心を高める。</p>																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・他者と話し合うことができる。 ・必要な情報を調べ、整理することができる。 ・わかりやすく発表することができる。 																		
授業方法及び留意点	<p>【授業方法】 1クラス当たり10数名の編成で、発表や意見交換も交えて進めていく。個人またグループでテーマを設定し、成果を発表する。「時事問題テスト」(プリントを配布)などを実施し、世界情勢や社会問題に関心を持つようにする。</p> <p>【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、2年次に進級できない。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】 第1回：授業の目的、自己紹介 第2回以降： ・本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点について再確認する ・取り組むテーマを集める ・資料を作成する ・グループで話し合う ・発表する ・発表内容をもとにレポートをまとめる ・環境マネジメントについて学ぶ ・その他</p> <p>【事前・事後学習】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・時事問題テストの予習・復習をする。 ・発表のための資料作成・準備をする。</p>																		
関連科目	1～4年次ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	授業および課題への取り組み(100%)																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等備考	各教員の研究室(7号館3～5階)																		

科目名	基礎ゼミナール	科目名(英文)	Basic Seminar
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	中島 直嗣
ディプロマポリシー(DP)	DP3○, DP4○, DP5○, DP6○, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1681a0		

授業概要・目的	<p>【概要】 大学生として、また社会人になるために必要な能力を身につける。</p> <p>【目的】 日本語の「読む」「書く」能力の向上に加えて、「話す」「聴く」能力を向上させる。すなわち、「テーマに沿って調べ」「わかりやすく発表し」「意見交換をする」ことができるようにする。また、社会への関心を高める。</p>																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・他者と話し合うことができる。 ・必要な情報を調べ、整理することができる。 ・わかりやすく発表することができる。 																		
授業方法及び留意点	<p>【授業方法】 1クラス当たり10数名の編成で、発表や意見交換も交えて進めていく。個人またグループでテーマを設定し、成果を発表する。「時事問題テスト」(プリントを配布)などを実施し、世界情勢や社会問題に関心を持つようにする。</p> <p>【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、2年次に進級できない。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】 第1回：授業の目的、自己紹介 第2回以降： ・本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点について再確認する ・取り組むテーマを集める ・資料を作成する ・グループで話し合う ・発表する ・発表内容をもとにレポートをまとめる ・環境マネジメントについて学ぶ ・その他</p> <p>【事前・事後学習】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・時事問題テストの予習・復習をする。 ・発表のための資料作成・準備をする。</p>																		
関連科目	1～4年次ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	授業および課題への取り組み(100%)																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等備考	各教員の研究室(7号館3～5階)																		

科目名	基礎ゼミナール	科目名(英文)	Basic Seminar
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	中西 正樹
ディプロマポリシー(DP)	DP3○, DP4○, DP5○, DP6○, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1681a0		

授業概要・目的	<p>【概要】 大学生として、また社会人になるために必要な能力を身につける。</p> <p>【目的】 日本語の「読む」「書く」能力の向上に加えて、「話す」「聴く」能力を向上させる。すなわち、「テーマに沿って調べ」「わかりやすく発表し」「意見交換をする」ことができるようにする。また、社会への関心を高める。</p>																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・他者と話し合えることができる。 ・必要な情報を調べ、整理することができる。 ・わかりやすく発表することができる。 																		
授業方法と留意点	<p>【授業方法】 1クラス当たり10数名の編成で、発表や意見交換も交えて進めていく。個人またグループでテーマを設定し、成果を発表する。「時事問題テスト」(プリントを配布)などを実施し、世界情勢や社会問題に関心を持つようにする。</p> <p>【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、2年次に進級できない。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】 第1回：授業の目的、自己紹介 第2回以降： <ul style="list-style-type: none"> ・本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点について再確認する ・取り組むテーマを集める ・資料を作成する ・グループで話し合う ・発表する ・発表内容をもとにレポートをまとめる ・環境マネジメントについて学ぶ ・その他 </p> <p>【事前・事後学習】 <ul style="list-style-type: none"> ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・時事問題テストの予習・復習をする。 ・発表のための資料作成・準備をする。 </p>																		
関連科目	1～4年次ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	授業および課題への取り組み(100%)																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等備考	各教員の研究室(7号館3～5階)																		

科目名	基礎ゼミナール	科目名(英文)	Basic Seminar
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	橋本 正俊
ディプロマポリシー(DP)	DP3○, DP4○, DP5○, DP6○, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1681a0		

授業概要・目的	<p>【概要】 大学生として、また社会人になるために必要な能力を身につける。</p> <p>【目的】 日本語の「読む」「書く」能力の向上に加えて、「話す」「聴く」能力を向上させる。すなわち、「テーマに沿って調べ」「わかりやすく発表し」「意見交換をする」ことができるようにする。また、社会への関心を高める。</p>																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・他者と話し合えることができる。 ・必要な情報を調べ、整理することができる。 ・わかりやすく発表することができる。 																		
授業方法及び留意点	<p>【授業方法】 1クラス当たり10数名の編成で、発表や意見交換も交えて進めていく。個人またグループでテーマを設定し、成果を発表する。「時事問題テスト」(プリントを配布)などを実施し、世界情勢や社会問題に関心を持つようにする。</p> <p>【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、2年次に進級できない。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】 第1回：授業の目的、自己紹介 第2回以降： ・本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点について再確認する ・取り組むテーマを集める ・資料を作成する ・グループで話し合う ・発表する ・発表内容をもとにレポートをまとめる ・環境マネジメントについて学ぶ ・その他</p> <p>【事前・事後学習】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・時事問題テストの予習・復習をする。 ・発表のための資料作成・準備をする。</p>																		
関連科目	1～4年次ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	授業および課題への取り組み(100%)																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等備考	各教員の研究室(7号館3～5階)																		

科目名	基礎ゼミナール	科目名(英文)	Basic Seminar
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	藤原 崇
ディプロマポリシー(DP)	DP3○, DP4○, DP5○, DP6○, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1681a0		

授業概要・目的	<p>【概要】 大学生として、また社会人になるために必要な能力を身につける。</p> <p>【目的】 日本語の「読む」「書く」能力の向上に加えて、「話す」「聴く」能力を向上させる。すなわち、「テーマに沿って調べ」「わかりやすく発表し」「意見交換をする」ことができるようにする。また、社会への関心を高める。</p>																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・他者と話し合うことができる。 ・必要な情報を調べ、整理することができる。 ・わかりやすく発表することができる。 																		
授業方法及び留意点	<p>【授業方法】 1クラス当たり10数名の編成で、発表や意見交換も交えて進めていく。個人またグループでテーマを設定し、成果を発表する。「時事問題テスト」(プリントを配布)などを実施し、世界情勢や社会問題に関心を持つようにする。</p> <p>【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、2年次に進級できない。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】 第1回：授業の目的、自己紹介 第2回以降： ・本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点について再確認する ・取り組むテーマを集める ・資料を作成する ・グループで話し合う ・発表する ・発表内容をもとにレポートをまとめる ・環境マネジメントについて学ぶ ・その他</p> <p>【事前・事後学習】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・時事問題テストの予習・復習をする。 ・発表のための資料作成・準備をする。</p>																		
関連科目	1～4年次ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	授業および課題への取り組み(100%)																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等備考	各教員の研究室(7号館3～5階)																		

科目名	基礎ゼミナール	科目名(英文)	Basic Seminar
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	船本 弘史
ディプロマポリシー(DP)	DP3○, DP4○, DP5○, DP6○, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1681a0		

授業概要・目的	<p>【概要】 大学生として、また社会人になるために必要な能力を身につける。</p> <p>【目的】 日本語の「読む」「書く」能力の向上に加えて、「話す」「聴く」能力を向上させる。すなわち、「テーマに沿って調べ」「わかりやすく発表し」「意見交換をする」ことができるようにする。また、社会への関心を高める。</p>																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・他者と話し合えることができる。 ・必要な情報を調べ、整理することができる。 ・わかりやすく発表することができる。 																		
授業方法及び留意点	<p>【授業方法】 1クラス当たり10数名の編成で、発表や意見交換も交えて進めていく。個人またグループでテーマを設定し、成果を発表する。「時事問題テスト」(プリントを配布)などを実施し、世界情勢や社会問題に関心を持つようにする。</p> <p>【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、2年次に進級できない。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】 第1回：授業の目的、自己紹介 第2回以降： ・本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点について再確認する ・取り組むテーマを集める ・資料を作成する ・グループで話し合う ・発表する ・発表内容をもとにレポートをまとめる ・環境マネジメントについて学ぶ ・その他</p> <p>【事前・事後学習】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・時事問題テストの予習・復習をする。 ・発表のための資料作成・準備をする。</p>																		
関連科目	1～4年次ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	授業および課題への取り組み(100%)																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等備考	各教員の研究室(7号館3～5階)																		

科目名	基礎ゼミナール	科目名(英文)	Basic Seminar
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	古矢 篤史
ディプロマポリシー(DP)	DP3○, DP4○, DP5○, DP6○, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1681a0		

授業概要・目的	<p>【概要】 大学生として、また社会人になるために必要な能力を身につける。</p> <p>【目的】 日本語の「読む」「書く」能力の向上に加えて、「話す」「聴く」能力を向上させる。すなわち、「テーマに沿って調べ」「わかりやすく発表し」「意見交換をする」ことができるようにする。また、社会への関心を高める。</p>																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・他者と話し合うことができる。 ・必要な情報を調べ、整理することができる。 ・わかりやすく発表することができる。 																		
授業方法及び留意点	<p>【授業方法】 1クラス当たり10数名の編成で、発表や意見交換も交えて進めていく。個人またグループでテーマを設定し、成果を発表する。「時事問題テスト」(プリントを配布)などを実施し、世界情勢や社会問題に関心を持つようにする。</p> <p>【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、2年次に進級できない。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】 第1回：授業の目的、自己紹介 第2回以降： ・本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点について再確認する ・取り組むテーマを集める ・資料を作成する ・グループで話し合う ・発表する ・発表内容をもとにレポートをまとめる ・環境マネジメントについて学ぶ ・その他</p> <p>【事前・事後学習】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・時事問題テストの予習・復習をする。 ・発表のための資料作成・準備をする。</p>																		
関連科目	1～4年次ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	授業および課題への取り組み(100%)																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等備考	各教員の研究室(7号館3～5階)																		

科目名	基礎ゼミナール	科目名(英文)	Basic Seminar
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	森 類臣
ディプロマポリシー(DP)	DP3○, DP4○, DP5○, DP6○, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1681a0		

授業概要・目的	<p>【概要】 大学生として、また社会人になるために必要な能力を身につける。</p> <p>【目的】 日本語の「読む」「書く」能力の向上に加えて、「話す」「聴く」能力を向上させる。すなわち、「テーマに沿って調べ」「わかりやすく発表し」「意見交換をする」ことができるようにする。また、社会への関心を高める。</p>																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・他者と話し合えることができる。 ・必要な情報を調べ、整理することができる。 ・わかりやすく発表することができる。 																		
授業方法及び留意点	<p>【授業方法】 1クラス当たり10数名の編成で、発表や意見交換も交えて進めていく。個人またグループでテーマを設定し、成果を発表する。「時事問題テスト」(プリントを配布)などを実施し、世界情勢や社会問題に関心を持つようにする。</p> <p>【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、2年次に進級できない。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】 第1回：授業の目的、自己紹介 第2回以降： ・本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点について再確認する ・取り組むテーマを集める ・資料を作成する ・グループで話し合う ・発表する ・発表内容をもとにレポートをまとめる ・環境マネジメントについて学ぶ ・その他</p> <p>【事前・事後学習】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・時事問題テストの予習・復習をする。 ・発表のための資料作成・準備をする。</p>																		
関連科目	1～4年次ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	授業および課題への取り組み(100%)																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等備考	各教員の研究室(7号館3～5階)																		

科目名	基礎ゼミナール	科目名(英文)	Basic Seminar
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	大谷 侑也
ディプロマポリシー(DP)	DP3○, DP4○, DP5○, DP6○, DP7○, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1681a0		

授業概要・目的	<p>【概要】 大学生として、また社会人になるために必要な能力を身につける。</p> <p>【目的】 日本語の「読む」「書く」能力の向上に加えて、「話す」「聴く」能力を向上させる。すなわち、「テーマに沿って調べ」「わかりやすく発表し」「意見交換をする」ことができるようにする。また、社会への関心を高める。</p>																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・他者と話し合うことができる。 ・必要な情報を調べ、整理することができる。 ・わかりやすく発表することができる。 																		
授業方法及び留意点	<p>【授業方法】 1クラス当たり10数名の編成で、発表や意見交換も交えて進めていく。個人またグループでテーマを設定し、成果を発表する。「時事問題テスト」(プリントを配布)などを実施し、世界情勢や社会問題に関心を持つようにする。</p> <p>【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、2年次に進級できない。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】 第1回：授業の目的、自己紹介 第2回以降： ・本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点について再確認する ・取り組むテーマを集める ・資料を作成する ・グループで話し合う ・発表する ・発表内容をもとにレポートをまとめる ・環境マネジメントについて学ぶ ・その他</p> <p>【事前・事後学習】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・時事問題テストの予習・復習をする。 ・発表のための資料作成・準備をする。</p>																		
関連科目	1～4年次ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	授業および課題への取り組み(100%)																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等備考	各教員の研究室(7号館3～5階)																		

科目名	表象と感性プロジェクト	科目名 (英文)	Project on Representation and Aesthetics
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	杉山 博昭
ディプロマポリシー(DP)	DP1△, DP6△		
科目ナンバリング	LDL2501a0		

授業概要・目的	<p>【イメージをいかに見て語るのか】</p> <p>講義と演習を組み合わせ、インプットとアウトプットを繰り返しながら、学生が主体となって課題解決や目標達成のための計画を立案する。テーマは「視覚と言葉」の関係である。人は自分に不案内なものが視界をよぎったとき、往々にして「自分には関係ないもの」「なんだか気持ち悪いもの」「どうせつまらないもの」と片付けてしまう。それどころか、なにかを見たことそれ自体を無かったことにしてしまうこともある。ここで抹消される経験は、視覚と言葉が紐付けられなかったから引き起こされたと考えられるだろう。「視覚と言葉が紐づくことで、人の経験はどこまで豊かになるのだろうか。」これが「芸術批評」の出発点となる問題であり、このプロジェクトで検討する課題である。</p>																
到達目標	<p>【以下の2点を実践できるようになること】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 肖像画や風景画など芸術作品の視覚情報を言語化できる 2. マンガやアニメなどポップカルチャーの視覚情報を言語化できる 																
授業方法と留意点	<p>【講義と演習を組み合わせた授業】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 講義を受ける。 2. グループワークに取り組む。 3. フィードバックを確認する。 4. 校外実習に取り組む。 5. プレゼンテーションをする。 																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>第1回 インTRODククション 「作品記述」というスキルの概要を学ぶ。</p> <p>第2回 「近世以前の肖像画」 第3回 「近代以降の肖像画」 肖像画の歴史をふまえて「作品記述」を実践する。</p> <p>第4回 「宗教画・福音書」 第5回 「宗教画・聖女」 宗教画の主題をふまえて「作品記述」を実践する。</p> <p>第6回 「ゼロ年代以前のアニメ作品」 絵画の「作品記述」をふまえてアニメの作画を言語化する。</p> <p>第7回 「近世以前の風景画」 第8回 「近代以降の風景画」 風景画の発展をふまえて「作品記述」を実践する。</p> <p>第9回 「20世紀前半の現代絵画」 第10回 「20世紀後半の現代絵画」 モダニズムという転機をふまえて「作品記述」を実践する。</p> <p>第11回 「2010年代以降のアニメ作品」 絵画の「作品記述」をふまえてアニメの作画を言語化する</p> <p>第12-14回 校外実習・プレゼンテーション 美術館の展示を鑑賞したうえで作品を選び「作品記述」を実践する。</p> <p>第15回 コンクルージョン 「作品記述」と芸術批評の関係を学ぶ。</p> <p>事前事後学習では、作品画像の検索と確認、校外実習への取り組み、プレゼンテーションの準備に取り組む。</p>																
関連科目	表象文化論/世界を学ぶ/日本を学ぶ/暮らしの中の文化/「学芸員課程の科目」																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	<p>【グループワークと校外実習による評価】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. グループワーク [80%] 2. 校外実習・プレゼンテーション [20%] 3. いずれも「好奇心」と「論理性」を基準とする。 																
学生へのメッセージ	<p>【コンディションを整えること】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. より良いワークにするために、授業に集中できるコンディションを整える。 2. 校外実習は貴重な機会なので、かならず取り組む。 																
担当者の	7号館5階 杉山研究室																

研究室等	
備考	<p>【各回のレジユメ確認と画像の検索】</p> <ol style="list-style-type: none">1. 事前・事後学習は総時間 60 時間が目安となる。2. 各回のレジユメを確認し、取り扱う作品の画像を検索する。

科目名	歴史学プロジェクト	科目名 (英文)	Project on History
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	赤澤 春彦
ディプロマポリシー (DP)	DP1Δ, DP6Δ		
科目ナンバリング	LDL2502a0		

授業概要・目的	<p>講義と演習を組み合わせ、インプットとアウトプットを繰り返しながら、学生が主体となって課題解決や目標達成のための計画を立案する。人類が誕生してから今日まで私たちは「歴史」という時間軸の中で生きている。国家や民族などの共同体しかり、一個人しかり、人間が行う事象の積み重ねが「歴史」を形成している。また、「歴史」とは単なる時間の積み重ねではない。これを「語り」「書きとどめ」「伝える」人間の行為が「歴史」を創ってきたのである。当然そこにはさまざまなバイアスがかかり、故に「歴史に正解はない」と言われるのである。歴史を学ぶということは、過去に起きた出来事を「暗記する」のではない。「記された」あるいは「語られてきた」ことを、いかにして「解釈する」かである。</p> <p>このプロジェクトでは、単に過去にあった出来事を掘り起こすのではなく、そこに介在する人、あるいは集団の意図を読み取りながら、様々な視点から歴史を読み解いていくことを目的とする。具体的には2つの課題を設定する。1つは「人はなぜ集団で生きていかなければならないのか」、もう1つは「人はなぜ争うのか」である。</p>																		
到達目標	<p>人々や共同体の営みについて、歴史的観点から課題や問題点を見つけることができるようになること。 人が共生してゆくためにはどうしたらよいのかについて考える力を身につけること。</p>																		
授業方法と留意点	<p>テーマに沿った講義と演習を組み合わせた授業を行う。 グループでの作業やディスカッション、プレゼンテーションを繰り返す。 テーマによってはフィールドワークも行う。 フィードバックは授業内で適宜行う。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>第1回 授業の進め方・評価の方法などの説明 第2～7回 テーマ① 日本の地域の中から具体的なフィールドを設定し、中央（国家や権力）とその地域との関係、その地域における人々の暮らしや文化について調査し、地域や人について歴史的な視座から考察する。これらをパワーポイントにまとめ、発表・討論を行い、それぞれの地域社会と比較しつつ、地域の特質について考える。 第8回 テーマ①の振り返り、テーマ②の導入 第9～14回 テーマ② 日本、あるいは世界の様々な宗教、信仰、思想の中から選択し、政治的・文化的・民族的など多角的な視点から、それらが発生・展開した背景や経緯を調査し、発表・議論する。歴史的な視座から人々と宗教・信仰・思想との関係、また人々にとってこれらはいかなる意義を持つのかを現代社会の問題とも照らし合わせながら考える。 第15回 テーマ②の振り返り。総括 事前事後学習では、資料の作成、ディスカッションやプレゼンの準備、レポートの作成に取り組む。</p>																		
関連科目	<p>「世界を学ぶ」、「日本を学ぶ」、「地域と歴史」</p>																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	<p>授業での取り組み (30%)、プレゼンテーション (40%)、レポート (30%)</p>																		
学生へのメッセージ	<p>歴史学は「暗記科目」ではありません。 お互いに議論を重ねながら、自分たちの考えをまとめましょう。</p>																		
担当者の研究室等備考	<p>赤澤研究室 (7号館4階)</p>																		

科目名	地理学プロジェクト	科目名(英文)	Project on Geography
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	大谷 侑也
ディプロマポリシー(DP)	DP1Δ, DP6Δ		
科目ナンバリング	LDL2503a0		

授業概要・目的	<p>現代社会は多様で複雑な問題を抱えているが、これらを「地域」という枠組みで切り取って考えることで、私達は自らの身の回りの問題として理解することができる。では、地域に関する学びはどのように深めることができるだろうか? 「地理学」は、地域で生じているさまざまな現象について、さまざまな時間・空間スケールを対象に、ひと(が形成する社会や文化)や自然環境、そしてひとと自然の関係性といったことを総合的に理解することを特徴としている(≠中高の社会科地理)。したがって、地理学を学ぶことを通して、地域を深く知ることができたり、課題解決に貢献する基礎力を身に付けたりすることができる。</p> <p>このプロジェクトでは、地理学的な考え方の基礎を習得することを目的として、地域・地理学に関連する様々なトピックについて学ぶ。その際には地図や地理情報システム(GIS)といったツール、そして実際に町や自然の中を歩き、みて、考える手法であるフィールドワークを活用していく。</p>																
到達目標	<p>1. 【プロジェクトテーマを設定する】</p> <ul style="list-style-type: none"> ある任意の地域について、インターネットや文献等で概要を知ることができる。 上記の情報収集から、任意の地域におけるプロジェクトテーマ(仮説)を立てることができる。 <p>2. 【フィールドワーク、文献調査からデータを収集する】</p> <ul style="list-style-type: none"> 図書館や博物館、資料館等の文献・資料から必要な情報を収集することができる。 フィールドワークから、自然環境に関するデータを収集することができる。 フィールドワークを実施し、その中でのインタビュー調査から地域の方々の言葉を引き出し、情報をまとめることができる。 <p>3. 【収集データを表現する】</p> <ul style="list-style-type: none"> 収集したデータを文章として表現することができる。 収集したデータを図表、地図、写真、映像等で表現できる。 調べてきたことの全体を通して、考察することができる。 																
授業方法と留意点	<p>本プロジェクトではグループに分かれた上でのディスカッションやグループワーク、フィールドワーク、プレゼンテーション等がメインとなります。また、講義時間内に質疑応答時間を設けます。また、授業中にグループごとに調べ物をしてもらうのでスマートフォンやタブレット、PC等を各自用意してください。リアクションペーパーやレポート等の提出物に対してはコメントや質問回答といったフィードバックを行います。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>本プロジェクトでは、次の7つのステップで実施します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 地域における問題の探求・仮説化・課題の確認 調査、情報収集方法の習得 調査計画の策定 実地調査(フィールドワーク、文献調査) 新しく収集したデータのグループにおける共有 データの表現(文章、図表、地図) 明らかになったことのまとめ、考察 <p>最初の複数回の授業では、地理学における調査手法(文献調査、フィールドワーク、聞き取り調査の方法)を紹介し、実際の研究事例等を講義します。</p> <p>中盤の授業ではグループに別れた上で、パソコン・タブレット・スマートフォンを使って、任意の地域について調べ、「気になったこと」や「調べたいこと」を見つけ、プロジェクトテーマを設定してもらいます。</p> <p>後半の授業ではグループごとに図書館や博物館、資料館での情報収集やフィールドワークを行い、自分たちのテーマに沿った情報収集を行います。調査終了後の授業回では、収集してきたデータのまとめ方や、文章での表現方法、エクセルでの解析方法、GIS(地理情報システム)を用いた地図の作成方法を伝えた上で、グループごとにレポートを作成してもらいます。</p> <p>質問やコメント等は授業中や、授業後、メール等で受け付けます。</p>																
関連科目	環境と社会																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	<p>授業への取り組み(ディスカッション・グループワーク・フィールドワークへの取り組みや参加状況、プレゼンテーションの内容)(50%)とグループレポート(50%)で評価します。</p>																
学生へのメッセージ	<p>本プロジェクトでは、教員から学生に1方向的に講義する通常のものとは違い、学生が主体となって情報を収集したりプレゼンテーションを行うものとなっています。このプロジェクトで得られる、自分で仮説を立てて、調査を行い、レポートとしてまとめる能力は卒業研究にも必ず生きてきます。</p>																
担当者の研究室等備考	7号館5階																

科目名	比較文化プロジェクト	科目名 (英文)	Project on Comparative Cultural Studies
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	橋本 正俊
ディプロマポリシー(DP)	DP1△, DP6△		
科目ナンバリング	LDL2504a0		

授業概要・目的	講義と演習を組み合わせ、インプットとアウトプットを繰り返しながら、学生が主体となって課題解決や目標達成のための計画を立案する。「日本文化」という言葉は日常的に目にするが、「日本文化」とは何かという問いに明確な答えは出せない。日本に限らず「〇〇文化」を簡単に定義することはできないのである。そうであれば、「日本と中国の文化的な違い」など軽々しく論じられるはずがない。まず大切なのは、その文化について正しく知ることである。本プロジェクトでは、多文化共生社会の中で、どのように文化を捉え考察することが可能なのか、課題を見出し、議論を重ねていく。																
到達目標	世間で語られる文化論に対して、問題点や課題を見出すことができる。 自分を取り巻く文化や異文化について考える方法が身に付く。																
授業方法と留意点	テーマに沿った講義と演習を組み合わせた授業を行う。 グループでの作業やディスカッション、プレゼンテーションを繰り返す。 フィードバックはその場で行う。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	第1回 授業・進め方の説明 第2～7回 テーマ①日本の文化発信 「日本文化」はどのようなものとして考えられ、今日発信されているのか。また、海外からどのように理解されているのか。それは正しく発信され、理解されているのか。「日本文化」をめぐる通説を批判的に読み取り、課題を見付ける。 第8回 テーマ①の振り返り、テーマ②の導入 第9～14回 テーマ②文化の差異を乗り越える 文化摩擦という言葉がある。ある文化の常識・価値観と、他の文化の常識・価値観とが衝突することをいう。そのような様々な文化の差異を取り上げて、そこから生じる課題を見出し、それを乗り越えていくための方策を考える。 第15回 テーマ②の振り返り 事前事後学習では、ディスカッション、プレゼンの準備や、レポートの作成に取り組む。																
関連科目	世界を学ぶ 日本を学ぶ 思想と文化																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	授業時の取り組み (30%)、経過報告 (30%)、プレゼンテーション (40%)																
学生へのメッセージ	プロジェクト科目ですので、授業中に積極的に主体的に取り組むことはもちろん、事前準備も必要です。いい加減な態度で受講しないで下さい。																
担当者の研究室等	7号館4階 橋本研究室																
備考	事前・事後学習に必要な総時間数は、約60時間。																

科目名	人間存在論プロジェクト	科目名 (英文)	Project on Humanities
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	有馬 善一
ディプロマポリシー (DP)	DP1△, DP6△		
科目ナンバリング	LDL2505a0		

授業概要・目的	<p>講義と演習を交互に組み合わせ、インプットとアウトプットを繰り返しながら、学生が主体となって課題解決や目標達成のための計画を立案する。</p> <p>人間とは何かという問いは、古代から人間自身にとって大きな謎であった。それは、科学の進歩によって人間の脳に関する研究が大きく飛躍した現代においても変わらないと言える。</p> <p>本プロジェクトでは、人間とは何かを見定める上でいくつかの視点を設定して、そこから浮かび上がる人間像について、講義とディスカッションを通じて検討する。</p>																		
到達目標	<p>人間についての常識的な見解に対して、どこが問題なのかを考える力を身につける。</p> <p>発表とディスカッションを通じて、各自の問題意識を深めていき、人間とは何かという問いに対する自分なりの見方（人間観）を獲得する。</p>																		
授業方法と留意点	<p>講義と演習を交互に組み合わせ、インプットとアウトプットを繰り返しながら、学生が主体となって課題解決や目標達成のための計画を立案する。</p> <p>フィードバックは授業内において適宜行う。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>第1回 授業・進め方の説明</p> <p>第2-7回 テーマ①「心」をめぐる問題 扱う予定の問題は以下の通り。 心は脳と同じだろうか。意識とは何か。私とは何か。心と身体の関係はいかなるものか。他者とは何か。 講義とディスカッション、さらに、あるテーマに対する自分の考えをまとめて発表する。</p> <p>第8回 テーマ①を振り返り、議論を総括する</p> <p>第9-14回 テーマ②自由をめぐる問題 扱う予定の問題は以下の通り。 決定論と運命論。自由意志は幻想か。進化論と決定論 講義とディスカッション、さらに、あるテーマに対する自分の考えをまとめて発表する。</p> <p>第15回 テーマ②の振り返り 事前事後学習では、ディスカッション、プレゼンの準備や、レポートの作成に取り組む。</p>																		
関連科目	世界を学ぶ 日本を学ぶ テクノロジーと人間																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	授業時の取り組み (30%) 経過報告 (30%) プレゼンテーション (40%)																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7号館4階 有馬研究室																		
備考	本授業の事前事後学習は、総計で60時間を目安とする。																		

科目名	都市と周縁プロジェクト	科目名 (英文)	Project on the Urban and the Marginal
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	上田 達
ディプロマポリシー (DP)	DP1△, DP6△		
科目ナンバリング	LDL2506a0		

授業概要・目的	文化人類学は、遠いところに住む他者の暮らしを描き出してきた。いわば、私たちから見て遠くにあるものを、理解可能な (=近い) ものとする枠組みを示す試みである。本プロジェクトは、こうした文化人類学の知見に拠つつ、わたしたちにとって近い存在である「都市」を新たな視点で捉え直す試みである。摂南大学は大阪という大きな「都市」の一角に位置する。「都市」には多くの人々が暮らし、社会生活を営んでいる。ただ、通学やアルバイトなど、毎日の暮らしの場であるために、さまざまなことが「あたりまえ」に映っていないだろうか。まずは平板に見える日常や、何気ない出来事を、見慣れた風景から対象化するところから始めてみたい。「都市」に暮らす人々が織りなす社会生活がどのようなものであるのか、そこに何が生起しているのか。世界の他の地域における同様の事例との比較検討を進めて、理解を深めていきたい。こうした作業を通じて、見慣れた「都市」の姿を、文化人類学的なパースペクティブのもとで捉え直す視座の構築を目指す。																		
到達目標	文化や社会といった概念についての理解を新たにする。 人間の暮らしのありようを新たな視点で捉えられるようになる。																		
授業方法と留意点	授業の掲げるテーマに沿って、講義と演習を組み合わせた授業を行う。受講者個人に課す課題と、グループに課す課題の発表・報告を組み合わせる。 フィードバックは授業内で適宜行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後 学習課題	第1回 授業・進め方の説明 第2～7回 テーマ①暮らす、テーマ②繋がる 第8回 まとめ 第9～14回 テーマ③集まる テーマ④信じる 第15回 まとめ 事前事後学習では、発表素材の探索と準備、ならびにレポート作成に取り組む。																		
関連科目	「世界を学ぶ」「日本を学ぶ」「異文化の理解」																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	授業時の課題発表 (40%)、授業への関与 (30%)、最終課題 (30%) から総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7号館5階																		
備考																			

科目名	国際社会と日本語プロジェクト	科目名 (英文)	Project on Japanese Language and International Community
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	門脇 薫
ディプロマポリシー (DP)	DP1△, DP6△		
科目ナンバリング	LDL2507a0		

授業概要・目的	<p>講義と演習を組み合わせ、インプットとアウトプットを繰り返しながら、学生が主体となって課題解決や目標達成のための計画を立案する。</p> <p>世界各国で日本語を外国語として学ぶ外国人（日本語ノンネイティブスピーカー）学習者は、年々増加している。海外における日本語学習者数の増減は、そのときの現地の政策及び日本の政治・経済・文化やその国との関係に大きく関わっている。また、グローバル社会においては日本国内でも今後も更に在住外国人の数は増加していくことが予想され、日本語学習のニーズが高まるであろう。本授業では、普段使用している日本語について客観的に観察し、国際社会で起こっているさまざまなことを身近なこととして捉え、日本語教育学を通して日本語学習者の学習支援を実践することを目的とする。</p>																		
到達目標	<p>言葉や文化の違う人たちとどのように接すればよいのか、日本や日本語に関心を持ってもらうにはどうしたらよいのか、多文化共生社会で生きるために自分は何をしたらよいのか・何ができるのか等について、調査やディスカッション、また日本語学習者との異文化交流等を通して考察し行動することができる。</p>																		
授業方法と留意点	<p>テーマに沿った講義と演習を組み合わせた授業を行う。 グループでの作業やディスカッション、発表を行う。 フィードバックは授業内で適宜行う。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>第1回 授業についてオリエンテーション</p> <p>第2～3回 テーマ①海外の日本語教育 海外の事情から日本語・言語政策等について考察する</p> <p>第4～7回 テーマ②日本国内の多文化共生と日本語教育 「外国人」にかかわる重要なテーマについて各ワークを通して考察する。</p> <p>第8～9回 テーマ③異文化コミュニケーション 各ワークを通して多様性・コミュニケーション等について考察する。</p> <p>第10～12回 多文化共生のためのプロジェクトワーク グループでのディスカッション、調査、作業</p> <p>第13～14回 成果物についての発表</p> <p>第15回 全体のふり返り</p> <p>事前事後学習では、各テーマに関するワーク、プロジェクトワークにおける調査や成果物の作成、発表の準備等に取り組む。</p>																		
関連科目	基幹科目「多文化社会と日本語」																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	授業への参加度 (30%) 各ワーク (30%) 発表・成果物 (40%)																		
学生へのメッセージ	本授業で扱う海外・日本国内の日本語教育に関連する様々なテーマは、国際学部の学生としてぜひ学んでほしい内容です。各テーマのワーク、グループワークには積極的に参加してください。																		
担当者の研究室等	7号館4階 門脇研究室																		
備考	教科書・参考書については、文献・資料を配布する。																		

科目名	地域研究プロジェクト (英語と諸地域)	科目名 (英文)	Area Study Project (English-Speaking World)
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	齋藤 安以子
ディプロマポリシー (DP)	DP1Δ, DP6Δ		
科目ナンバリング	LDL2523c0		

授業概要・目的	講義と演習 (英語での上演・ロールプレイ・番組制作) を組み合わせ、インプットとアウトプットを繰り返しながら、学生が主体となって課題解決や目標達成のための計画を立案する。																
到達目標	・現代社会における英語の役割を知り、英語と日本語の言語能力を自他の役に立てられるようになるための、思考力と判断力を身につける。 ・身の回りにある文化の多様性に関心を持ち、複数の視点に立って、また俯瞰して物事を理解しようとする意欲と態度を養う。演劇や番組制作という、複数の人がチームで何かを作り上げる経験を積む。																
授業方法と留意点	テーマに沿った講義と演習を組み合わせた授業を行う。 グループでの作業やディスカッション、プレゼンテーションを通して、互いから学び、各々の強みを引き出す。 フィードバックは授業内で適宜行う。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	まず、現代社会に英語がなぜこんなに普及したのか、その背景となる英語史を教養として学ぶ。 と同時に、報道記事や文学 (映像含む) 作品の英語を題材に、①言語と翻訳の比較 ②パロディ作成 ③多言語による番組・作品上演を行う。 学生一人ひとりが注目すべき翻訳例を探し出す個人ベースの活動と、グループでプロダクションを運営する活動を行う。 身の回りにある文化の多様性を理解し、同時に複数の視点に立って考える俯瞰的な視野を身につける。 第1回 オリエンテーション「英語はいつから『英語』なのか」 第2-7回: 英語の歴史: 今と昔、本国と異国が共存し、拡張し続けることば 第8回: あなたの第一言語と英語の関係 第9-14回: 翻訳・パロディ・多言語での番組制作 第15回: これからの英語 事前・事後学習では、ディスカッション・プレゼンの準備や、レポート作成に取り組む。																
関連科目	「世界を学ぶ」「日本を学ぶ」																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>The History of the English Language</td> <td>Brigit Viney</td> <td>Oxford University Press</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	The History of the English Language	Brigit Viney	Oxford University Press	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	The History of the English Language	Brigit Viney	Oxford University Press														
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	授業時の取り組み 30% プレゼンテーション 30% レポート 40%																
学生へのメッセージ	・あなたの語学力を、自分以外の人のためにも役立てられるようになろう! ・学校は、同級生という「自分とちがう能力・感性の持ち主たち」と出会うこと & 教員という「先に生まれて、違う時間・場所でいろいろ見てきた情報源」がいっぱいいるところ。遠慮なく、誰とでもいっぱいやり取りしてください。 ・英語科教職課程の志望者にもおすすめです。																
担当者の研究室等	7号館4階 齋藤研究室																
備考	教職課程を目指す学生にとっては、教材研究・授業案作成と類似性のある「発話行為分析」「イベントの進行表作成」などを経験する機会となる (英語史の知識もちろん、教職に必須です)。 なお、参考書については授業内で紹介する。																

科目名	地域研究プロジェクト (英語と諸地域)	科目名 (英文)	Area Study Project (English-Speaking World)
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	鳥居 祐介
ディプロマポリシー (DP)	DP1Δ, DP6Δ		
科目ナンバリング	LDL2523c0		

授業概要・目的	講義と演習を組み合わせ、インプットとアウトプットを繰り返しながら、学生が主体となって課題解決や目標達成のための計画を立案する。このプロジェクト(英語と諸地域 II)では、日本語と英語の対訳教材の作成とパフォーマンス(実演的)なプレゼンテーションの作成という協働プロジェクトを通じ、アメリカ合衆国を拠点に世界に広がる多様なポピュラー音楽ジャンル(ジャズ、ヒップホップ、ロック、ラテン、K-Pop など)について、演者の人種、民族、ジェンダー、階級アイデンティティの表現という観点から学ぶ。																
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 英語圏のポピュラー音楽の諸ジャンルの中に、現代社会が抱える問題、課題を見出すことができる。 英語圏のポピュラー音楽の諸ジャンルのうちいくつかについて、歴史的、地理的、社会的な背景知識を持ち、他者に説明することができる。 英語圏のポピュラー音楽の諸ジャンルのうちいくつかについて、身体的、情動的、感覚的な理解を得る。 教育的なプレゼンテーションの作成を通じ、教育を通じた課題解決への関心、意欲、態度を育てる。 協働でのプレゼンテーションとパフォーマンスを経験し、コミュニケーション能力を向上させる 英語圏の大学教科書を翻訳ツールを適切に用いて読解できるようになる。作業に必要となる英語力と日本語力を向上させる。 翻訳ツール活用、情報検索、ファクトチェック、文書作成、動画編集など、職業能力に直結する ICT 技能全般を向上させる。 																
授業方法と留意点	講義と演習を組み合わせる授業になる。受講生はグループに分かれ、学期の前半のうちに(1)英語圏の大学で用いられている音楽研究の教科書を素材に、日本語と英語の対訳教材を作成し、学期の中盤以降に(2)制作した対訳教材に基づいた教育的プレゼンテーションを考案し、実演する。プレゼンテーションは、グループのメンバーの技能や嗜好を反映した何らかのパフォーマンス(楽器演奏、歌唱、ダンス、独自に編集した音源や映像の提示など)を取り入れ、動画やパワーポイントの形で制作物、データとして残せるものにする。 ・プレゼンテーション																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ul style="list-style-type: none"> ・スケジュールの概観(実際のスケジュールは受講人数や各グループが計画するプレゼンテーション内容により調整する) Class 01 導入・仮グループ分け・テキストのダウンロードほか Class 02 本グループ分け、対象とする音楽ジャンル(資料とする教科書のセクション)の策定、翻訳ツール使用法ほか Class 03 対訳教材作成開始・情報検索とファクトチェックの方法ほか Class 04-06 対訳教材作成と検証 Class 07 プレゼンテーション、パフォーマンス計画 Class 08-11 プレゼンテーション作成、パフォーマンス練習・撮影 Class 12-14 プレゼンテーション/パフォーマンスの共有、フィードバック Class 15 全体の振り返り・振り返りフォーム記入&提出 ・対訳教材の素材としては、インターネット上で公開され、無料で利用できるオープン教科書(Open Textbook と呼ばれるもの)を利用する。今年度は次のものを予定している。 Lee, Dr. Heeseung and Yamprai, Dr. Jittapim, "Open Listener: Cross-Cultural Experience and Identity in American Music" (2021). UNC Faculty Open Textbooks. 2. https://digscholarship.unco.edu/textbooks/2 ・各回の事前、事後学習課題として、各個人でコンピュータにアクセスすれば進めることが可能な翻訳、情報検索、修正を行うこと、学期中盤以降は、プレゼンテーション、パフォーマンスの練習や修正を自発的に行い、疑問点や教員への報告、相談があれば Teams 上の指定の場所で共有することが求められる。 																
関連科目	「世界を学ぶ」、「日本を学ぶ」、対応する基幹科目として「グローバルスタディーズ(英語と諸地域)」が指定されている。その他、関連する科目として「エリアスタディーズ(北アメリカ)」「英語圏比較文化論」など																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	成果物(対訳教材+プレゼンテーション) 40% 質疑への貢献(Teams 投稿、出席時の口頭での質問やコメント) 40% 振り返りフォーム 20%																
学生へのメッセージ	音楽が好きなのが、その興味を、音楽を作ってきた人々の言語とアイデンティティの問題への興味へとつなげていけるような、その過程で、将来の仕事に役立つ ICT 技能やコミュニケーション能力も上がるような、そんな授業にできればいいと思います。今年初めてやる授業ですので、一緒に作っていきましょう。																
担当者の研究室等	7号館3階 鳥居研究室																
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ60時間程度とする。レポート、その他課題に関する質問等はスチューデントアワーまたは電子メールによるアポイントメントにて対応する。																

科目名	地域研究プロジェクト（東アジア世界）	科目名（英文）	Area Study Project (East Asia)
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	小都 晶子
ディプロマポリシー(DP)	DP1Δ, DP6Δ		
科目ナンバリング	LDL2524e0		

授業概要・目的	<p>講義と演習を組み合わせ、インプットとアウトプットを繰り返しながら、学生が主体となって課題解決や目標達成のための計画を立案する。この授業は、中国のほか、香港・マカオや台湾、華僑・華人社会を含む中国語圏を対象とする。中国は広大で、多様な自然環境をもち、多民族国家でもある。近年は急速な経済発展を遂げ、国際社会でも存在感を高めている。他方で、中国・台湾・香港の兩岸三地には、中台関係や香港における「一国二制度」などの政治的論点も存在する。この授業では政治、経済、民族、環境など複数の視点から、中国語圏の社会や文化に対する理解を深め、日本とこれらの地域の関係を考える。調査やディスカッションを通して、中国語圏、さらにこれらの地域と日本の間にある課題をみつけ、解決するための方法を検討する。</p>																		
到達目標	<p>中国語圏の地域の多様性を知ることによって、異文化に対する柔軟性を身につけることができる。またその社会の特徴を知ることによって、これらの地域と日本の間にある課題を見出すことができる。</p>																		
授業方法と留意点	<p>講義と演習を組み合わせた授業を行う。講義ではテーマの論点を提示し、受講者はそれぞれのテーマにそってグループワークやディスカッションを行い、その成果を発表（プレゼンテーション）する。 フィードバックは授業内で適宜行う。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>第1回 ガイダンスと導入</p> <p>第2～6回 テーマ①中国語圏の地域の魅力 中国語圏の地域の多様性を学ぶ。各地域別リサーチし、それぞれの地域の魅力を紹介する。</p> <p>第7回 テーマ①の成果について、「地域研究プロジェクト（スペイン語と諸地域）」および「地域研究プロジェクト（東南アジア世界）」との合同発表会を開催する。</p> <p>第8～13回 テーマ②中国語圏の社会の特徴と課題 中国語圏の社会を政治、経済、民族、環境など複数の視点から学ぶ。各領域別リサーチし、それぞれの領域における特徴と課題を考える。</p> <p>第14回 テーマ②の成果について、「地域研究プロジェクト（スペイン語と諸地域）」および「地域研究プロジェクト（東南アジア世界）」との合同発表会を開催する。</p> <p>第15回 ふりかえり 中国語圏の多様性と独自性を考える</p>																		
関連科目	<p>「世界を学ぶ」「日本を学ぶ」「エリアスタディーズ 東アジア」「グローバルスタディーズ（東アジア世界）」および中国語関連の接続科目</p>																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>中国を知るための52章【第6版】</td> <td>藤野彰</td> <td>明石書店</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>台湾を知るための72章【第2版】</td> <td>赤松美和子・若松大祐</td> <td>明石書店</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>香港を知るための60章</td> <td>吉川雅彦・倉田徹</td> <td>明石書店</td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	中国を知るための52章【第6版】	藤野彰	明石書店	2	台湾を知るための72章【第2版】	赤松美和子・若松大祐	明石書店	3	香港を知るための60章	吉川雅彦・倉田徹	明石書店
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	中国を知るための52章【第6版】	藤野彰	明石書店																
2	台湾を知るための72章【第2版】	赤松美和子・若松大祐	明石書店																
3	香港を知るための60章	吉川雅彦・倉田徹	明石書店																
評価方法（基準）	<p>授業に対する取り組み（50%）、成果発表（50%）</p>																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	<p>小都研究室（7号館3階）</p>																		
備考																			

科目名	地域研究プロジェクト（スペイン語と諸地域）	科目名（英文）	Area Study Project（Spanish-Speaking World）
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	藤井 嘉祥
ディプロマポリシー（DP）	DP1Δ, DP6Δ		
科目ナンバリング	LDL2525e0		

授業概要・目的	講義と演習を組み合わせ、インプットとアウトプットを繰り返しながら、学生が主体となって課題解決や目標達成のための計画を立案する。この授業では、(1)文化の融合、(2)移民やマイノリティの民族問題の2つの観点からスペイン語圏の特徴と課題を学ぶ。受講生はトピックごとにグループに分かれ、スペイン語圏の多民族・多文化共生の問題を調査し、解決のための方法を立案し、プレゼンテーションする。スペイン語圏はヨーロッパ（スペイン）とアメリカ大陸（ラテンアメリカ）にまたがる。スペインはイスラーム文化の影響を受けて発展し、ラテンアメリカは先住民文明の繁栄の後にスペイン植民地となり、ヨーロッパ文化とアフリカ文化が流入し、文化の融合が進んだ。こうした融合がパエリアなどの豊かな食文化やルンパなどの新しい音楽やダンスを生み出した。一方で、スペインのカタルーニャ州の独立運動などの民族問題もある。またアメリカ合衆国ではヒスパニックと呼ばれるラテンアメリカ系移民が急増し、新たな民族問題となっている。スペイン語圏の事例から多文化・多民族共生について深く考える機会にしたい。																
到達目標	多文化なスペイン語圏の特徴と課題を複眼的・客観的に理解し、表現できる。 スペイン語圏が抱える課題を柔軟な思考と判断で認識し、解決のために必要な方法を提案できる。																
授業方法と留意点	基本的に受講生主体で授業を進める。具体的にはスペイン班とラテンアメリカ班に分かれたグループワークやディスカッション、さらには成果発表（プレゼンテーション）を行う。 授業においては、可能であれば、パソコンを毎回持参すること。 グループワークが多いので、遅刻・欠席は厳禁とする。 フィードバックは授業内で適宜行う。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	第1回目：プロローグ（授業概要、評価方法、授業の進め方等の説明） 第2～6回目：テーマ①「スペイン／ラテンアメリカの特徴と魅力」 ヨーロッパとアメリカ大陸にまたがる広大なスペイン語圏の「多文化性」と「多民族性」に焦点をあてて、スペイン語圏の特徴を調べ、地域の魅力を紹介する。 第7回目：テーマ①の成果について、「地域研究プロジェクト（東アジア世界）」および「地域研究プロジェクト（東南アジア世界）」との合同発表会を開催する。 第8～13回目：テーマ②「文化の融合と人の移動から見るスペイン／ラテンアメリカ」 スペイン語圏における歴史的な文化の融合と現代の移民（主にラテンアメリカから米国への移民）についてのリサーチを通じて、スペイン語圏の文化の特異性や民族問題に関する理解を深め、発表する。 第14回目：テーマ②の成果について、「地域研究プロジェクト（東アジア世界）」および「地域研究プロジェクト（東南アジア世界）」との合同発表会を開催する。 第15回目：総括（この授業で学んだことや得たことをまとめる）																
関連科目	「世界を学ぶ」「日本を学ぶ」「グローバルスタディーズ（スペイン語と諸地域）」「エリアスタディーズ ラテンアメリカ」 その他スペイン語関連の接続科目																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>新版 ラテンアメリカを知る事典</td> <td>大貫良夫ほか編</td> <td>平凡社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>改訂版 現代スペイン情報ハンドブック</td> <td>板東省二ほか編</td> <td>三修社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>ラテンアメリカ文化事典</td> <td>ラテンアメリカ文化事典編集委員会</td> <td>丸善出版社</td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	新版 ラテンアメリカを知る事典	大貫良夫ほか編	平凡社	2	改訂版 現代スペイン情報ハンドブック	板東省二ほか編	三修社	3	ラテンアメリカ文化事典	ラテンアメリカ文化事典編集委員会	丸善出版社
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	新版 ラテンアメリカを知る事典	大貫良夫ほか編	平凡社														
2	改訂版 現代スペイン情報ハンドブック	板東省二ほか編	三修社														
3	ラテンアメリカ文化事典	ラテンアメリカ文化事典編集委員会	丸善出版社														
評価方法（基準）	授業時の積極的な取り組み姿勢（50%）、成果発表（50%）																
学生へのメッセージ	スペイン語圏は広大で、文化も多様で、経済発展のレベルも多様です。スペイン語圏の多様性を通して、世界の多様性への視野を広げてください。																
担当者の研究室等	7号館5階 藤井研究室																
備考	本授業における事前・事後学習時間の目安は総計60時間以上とする。																

科目名	地域研究プロジェクト(東南アジア世界)	科目名(英文)	Area Study Project (Southeast Asia)
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	浦野 崇央
ディプロマポリシー(DP)	DP1Δ, DP6Δ		
科目ナンバリング	LDL2526e0		

授業概要・目的	<p>講義と演習を組み合わせ、インプットとアウトプットを繰り返しながら、学生が主体となって課題解決や目標達成のための計画を立案する。「東南アジア」は、一般的にはASEAN(東南アジア諸国連合)加盟10か国(具体的には、インドネシア、カンボジア、シンガポール、タイ、フィリピン、ブルネイ、ベトナム、マレーシア、ミャンマー、ラオスの国々)に2002年に独立した東ティモールを含めた11か国からなる地理的地域を指す。この授業では、これら11か国をとりまく世界に焦点をあてることとする。「東南アジア世界」の特徴として挙げられるキーワードの一つに「多様性」がある。ここでいう「多様性」とは具体的にはどういったものであろうか。「東南アジア世界」は「多様性」が鮮明でありながらも、「協調」や「一体性」あるいは「統合性」を見出そうとしている。「一体性」は「多様性」と相反する概念なのだろうか。本授業ではこれらのキーワードについて、「人びと」や「モノ」を物差しとして捉えていき、「東南アジア世界」の現代の姿を探るとともに、日本との関係性も考えることとしたい。</p>																
到達目標	<p>文化的背景や価値観の多様な東南アジア世界を知ること、柔軟な思考が可能となる。 異文化理解の方法や実践について深く考えることができる。</p>																
授業方法と留意点	<p>基本的に受講生主体で授業を進める。具体的にはグループワークやディスカッション、さらには成果発表(プレゼンテーション)を行う。授業においては、可能であれば、パソコンを毎回持参すること。グループワークが多いので、遅刻・欠席は厳禁とする。フィードバックは授業内で適宜行う。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>第1回目：プロローグ(授業概要、評価方法、授業の進め方等の説明)</p> <p>第2～6回目：テーマ①「東南アジアの魅力」 東南アジア世界を語る上でのキーワード「多様性」に焦点をあてて、東南アジア観光の旅行プランを作成することで、東南アジアの魅力を引き出す。</p> <p>第7回目：テーマ①の成果について、「地域研究プロジェクト(東アジア世界)」および「地域研究プロジェクト(スペイン語と諸地域)」との合同発表会を開催する。</p> <p>第8～13回目：テーマ②「モノからみる東南アジア」 モノを通じて、東南アジア世界を捉えてみる。その作業を通じて、東南アジア世界の「多様性」や「一体性」を明らかにする。</p> <p>第14回目：テーマ②の成果について、「地域研究プロジェクト(東アジア世界)」および「地域研究プロジェクト(スペイン語と諸地域)」との合同発表会を開催する。</p> <p>第15回目：総括(この授業で学んだことや得たことをまとめる)</p>																
関連科目	「世界を学ぶ」「日本を学ぶ」「グローバルスタディーズ(東南アジア世界)」「エリアスタディーズ 東南アジア」																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>新版 東南アジアを知る事典</td> <td>桃木至朗ほか編</td> <td>平凡社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>東南アジア文化事典</td> <td>信田敏宏ほか編</td> <td>丸善出版</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	新版 東南アジアを知る事典	桃木至朗ほか編	平凡社	2	東南アジア文化事典	信田敏宏ほか編	丸善出版	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	新版 東南アジアを知る事典	桃木至朗ほか編	平凡社														
2	東南アジア文化事典	信田敏宏ほか編	丸善出版														
3																	
評価方法(基準)	授業時の積極的な取り組み姿勢(50%)、成果発表(50%)																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	7号館4階 浦野研究室																
備考	本授業における事前・事後学習時間の目安は総計60時間以上とする。																

科目名	海外特別プロジェクト I	科目名 (英文)	Special Overseas Project I
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期集中	授業担当者	鳥居 祐介
ディプロマポリシー (DP)	DP1Δ, DP6Δ		
科目ナンバリング	LDL2527a0		

授業概要・目的	講義と演習を組み合わせ、インプットとアウトプットを繰り返しながら、学生が主体となって課題解決や目標達成のための計画を立案する。本プロジェクトは、海外協定校（機関）へ留学中の国際学部生を対象とする。学生は、留学中であることを生かし、現地で出会うなんらかの社会課題とその解決に関する調査プロジェクトを立ち上げ、実施し、調査結果に関する口頭発表と報告書の作成を行う。インタビューやアンケート調査等の情報収集、ファクトチェック、プレゼンテーション、文書作成への習熟、英語その他の外国語能力の向上、自身の留学生活の意義に関するメタ認知（自分の学び、経験を客観的に観察し、理解すること）の獲得を目指す。																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・留学先の地域、社会が抱える社会問題、社会課題を自ら行動して発見し、探求する意欲、態度を身につける。 ・協定校が実施している授業における学習以外に、留学中の成果として帰国後に報告できる体験、実績をつくる。 ・留学中ならではの調査を行い、その過程で現地の言語、文化、社会への理解、コミュニケーション能力を高める。 ・留学中の学生同士での非同期での協働学習を通じ、コミュニケーション力、ICT 技能を向上させる。 																		
授業方法及び留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・講義と演習を組み合わせた授業となりますが、互いに離れた地域、異なる協定校に滞在する学生同士が協働して学ぶことを想定していますので、多くの時間は Teams を用いて非同期で講義、質疑、議論を行います。履修者同士、および教員の時間の都合が合致する時のみ、リアルタイムでのオンラインミーティングを行います。 ・非同期でのコミュニケーションも、動画のアップロードや共有を活用してできるだけ「顔の見える」形にしていきたいと思ひます。調査計画や、途中経過の発表を動画の形でアップロードしてもらおう機会があるでしょう。ICT 																		
授業テーマ・内容・方法・事前・事後学習課題	<ul style="list-style-type: none"> ・学期序盤、教員と相談しながら各自の調査プロジェクトを決めます。同一の地域や協定校に複数の学生がいる場合は、チームでのプロジェクトも可能です。テーマや方法は様々な可能性がありますが、何らかの話題を決めて、現地でなければ出会えない相手（地元の人や、他の国から来た学生など）にじっくりと時間をかけてお話を聞く、許可がもらえれば録音させてもらって文字起こす、といった少数、長時間のインタビュープロジェクトをお勧めします。学期中盤以降は、各自の発表と他の学生からのフィードバックを共有していきます。学期終了時には、発表内容やフィードバックを報告書にまとめます。 																		
関連科目	「世界を学ぶ」「日本を学ぶ」ほか																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	授業参加 (Teams 投稿、動画アップロードなど) 60% 成果物 (プレゼンテーション、報告書) 40%																		
学生へのメッセージ	留学中は、留学中でなければできない学びに全力を注ぎたいものです。この授業のためのプロジェクトも、現地にいるからこそできるようなプロジェクト、留学生生活をさらに意義深いものにするようなプロジェクトを考え、実行しましょう。																		
担当者の研究室等	7号館3階鳥居研究室																		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。レポート、その他課題に関する質問等はスケジュールアワーまたは電子メールによるアポイントメントにて対応する。																		

科目名	基礎演習 I	科目名 (英文)	Second Year Seminar I
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	安達 直樹
ディプロマポリシー (DP)	DP1Δ, DP6Δ		
科目ナンバリング	LDL2682a0		

授業概要・目的	「基礎演習」では、国際学部で取り組む研究について知る。 「基礎演習 I」では、様々な研究の方法について知る。研究とはどういうものであるのかを知り、またその面白さを実感する。																		
到達目標	人文学的・社会科学的研究を行う上での必要な研究方法の基礎について、説明することができる。またそれらの手法に基づいて、基本的な作業ができる。																		
授業方法と留意点	1クラス当たり20名程度の編成とし、3クラス合同で4つの研究方法について、アクティブラーニング形式で学んでいく。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行う。 【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、3年次に進級できない。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 第1、2回 クラスごとのガイダンスおよび研究について学ぶ 第3～5、6～8、9～11、12～14回 3回ずつに分けて、次の研究方法を学ぶ。 ①図書館やwebを使用した文献収集の方法 ②文献の読み方 ③web上の多様なデータベースや情報を活用した研究の方法 ④インタビュー調査の方法 第15回 クラスごとの総括、成果発表 【事前・事後学習課題】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・発表のための資料作成・準備をする。																		
関連科目	1～4年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	授業および課題への取り組み (100%)																		
学生へのメッセージ	あなたの感性やアイデアを、同級生の誰かと共有して、「えええ?!」「うあ」「なんで??」「ほんま?」 ってなるの、想像してみよう。 それを、「時代や場所を超えたところにいる誰か」とも出来ちゃうのが、研究です!! 様々な研究方法を学んでいきましょう。																		
担当者の研究室等	7号館3～5階 各研究室																		
備考	総学習時間の目安は60時間。																		

科目名	基礎演習 I	科目名 (英文)	Second Year Seminar I
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	天野 貴史
ディプロマポリシー (DP)	DP1Δ, DP6Δ		
科目ナンバリング	LDL2682a0		

授業概要・目的	「基礎演習」では、国際学部で取り組む研究について知る。 「基礎演習 I」では、様々な研究の方法について知る。研究とはどういうものであるのかを知り、またその面白さを実感する。																		
到達目標	人文学的・社会科学的研究を行う上での必要な研究方法の基礎について、説明することができる。またそれらの手法に基づいて、基本的な作業ができる。																		
授業方法と留意点	1クラス当たり20名程度の編成とし、3クラス合同で4つの研究方法について、アクティブラーニング形式で学んでいく。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行う。 【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、3年次に進級できない。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 第1、2回 クラスごとのガイダンスおよび研究について学ぶ 第3～5、6～8、9～11、12～14回 3回ずつに分けて、次の研究方法を学ぶ。 ①図書館やwebを使用した文献収集の方法 ②文献の読み方 ③web上の多様なデータベースや情報を活用した研究の方法 ④インタビュー調査の方法 第15回 クラスごとの総括、成果発表 【事前・事後学習課題】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・発表のための資料作成・準備をする。																		
関連科目	1～4年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	授業および課題への取り組み (100%)																		
学生へのメッセージ	あなたの感性やアイデアを、同級生の誰かと共有して、「えええ?!」「うあ」「なんで??」「ほんま?」 ってなるの、想像してみよう。 それを、「時代や場所を超えたところにいる誰か」とも出来ちゃうのが、研究です!! 様々な研究方法を学んでいきましょう。																		
担当者の研究室等	7号館3～5階 各研究室																		
備考	総学習時間の目安は60時間。																		

科目名	基礎演習 I	科目名 (英文)	Second Year Seminar I
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	有馬 善一
ディプロマポリシー (DP)	DP1Δ, DP6Δ		
科目ナンバリング	LDL2682a0		

授業概要・目的	「基礎演習」では、国際学部で取り組む研究について知る。 「基礎演習 I」では、様々な研究の方法について知る。研究とはどういうものであるのかを知り、またその面白さを実感する。																		
到達目標	人文学的・社会科学的研究を行う上での必要な研究方法の基礎について、説明することができる。またそれらの手法に基づいて、基本的な作業ができる。																		
授業方法と留意点	1クラス当たり20名程度の編成とし、3クラス合同で4つの研究方法について、アクティブラーニング形式で学んでいく。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行う。 【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、3年次に進級できない。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 第1、2回 クラスごとのガイダンスおよび研究について学ぶ 第3～5、6～8、9～11、12～14回 3回ずつに分けて、次の研究方法を学ぶ。 ①図書館やwebを使用した文献収集の方法 ②文献の読み方 ③web上の多様なデータベースや情報を活用した研究の方法 ④インタビュー調査の方法 第15回 クラスごとの総括、成果発表 【事前・事後学習課題】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・発表のための資料作成・準備をする。																		
関連科目	1～4年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	授業および課題への取り組み (100%)																		
学生へのメッセージ	あなたの感性やアイデアを、同級生の誰かと共有して、「えええ?!」「うあ」「なんで??」「ほんま?」 ってなるの、想像してみよう。 それを、「時代や場所を超えたところにいる誰か」とも出来ちゃうのが、研究です!! 様々な研究方法を学んでいきましょう。																		
担当者の研究室等	7号館3～5階 各研究室																		
備考	総学習時間の目安は60時間。																		

科目名	基礎演習 I	科目名 (英文)	Second Year Seminar I
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小都 晶子
ディプロマポリシー (DP)	DP1△, DP6△		
科目ナンバリング	LDL2682a0		

授業概要・目的	「基礎演習」では、国際学部で取り組む研究について知る。 「基礎演習 I」では、様々な研究の方法について知る。研究とはどういうものであるのかを知り、またその面白さを実感する。																		
到達目標	人文学的・社会科学的研究を行う上での必要な研究方法の基礎について、説明することができる。またそれらの手法に基づいて、基本的な作業ができる。																		
授業方法と留意点	1クラス当たり20名程度の編成とし、3クラス合同で4つの研究方法について、アクティブラーニング形式で学んでいく。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行う。 【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、3年次に進級できない。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 第1、2回 クラスごとのガイダンスおよび研究について学ぶ 第3～5、6～8、9～11、12～14回 3回ずつに分けて、次の研究方法を学ぶ。 ①図書館やwebを使用した文献収集の方法 ②文献の読み方 ③web上の多様なデータベースや情報を活用した研究の方法 ④インタビュー調査の方法 第15回 クラスごとの総括、成果発表 【事前・事後学習課題】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・発表のための資料作成・準備をする。																		
関連科目	1～4年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	授業および課題への取り組み (100%)																		
学生へのメッセージ	あなたの感性やアイデアを、同級生の誰かと共有して、「えええ?!」「うあ」「なんで??」「ほんま?」 ってなるの、想像してみよう。 それを、「時代や場所を超えたところにいる誰か」とも出来ちゃうのが、研究です!! 様々な研究方法を学んでいきましょう。																		
担当者の研究室等	7号館3～5階 各研究室																		
備考	総学習時間の目安は60時間。																		

科目名	基礎演習 I	科目名 (英文)	Second Year Seminar I
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	加来 奈奈
ディプロマポリシー (DP)	DP1Δ, DP6Δ		
科目ナンバリング	LDL2682a0		

授業概要・目的	「基礎演習」では、国際学部で取り組む研究について知る。 「基礎演習 I」では、様々な研究の方法について知る。研究とはどういうものであるのかを知り、またその面白さを実感する。																		
到達目標	人文学的・社会科学的研究を行う上での必要な研究方法の基礎について、説明することができる。またそれらの手法に基づいて、基本的な作業ができる。																		
授業方法と留意点	1クラス当たり20名程度の編成とし、3クラス合同で4つの研究方法について、アクティブラーニング形式で学んでいく。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行う。 【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、3年次に進級できない。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 第1、2回 クラスごとのガイダンスおよび研究について学ぶ 第3～5、6～8、9～11、12～14回 3回ずつに分けて、次の研究方法を学ぶ。 ①図書館やwebを使用した文献収集の方法 ②文献の読み方 ③web上の多様なデータベースや情報を活用した研究の方法 ④インタビュー調査の方法 第15回 クラスごとの総括、成果発表 【事前・事後学習課題】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・発表のための資料作成・準備をする。																		
関連科目	1～4年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	授業および課題への取り組み (100%)																		
学生へのメッセージ	あなたの感性やアイデアを、同級生の誰かと共有して、「えええ?!」「うあ」「なんで??」「ほんま?」 ってなるの、想像してみよう。 それを、「時代や場所を超えたところにいる誰か」とも出来ちゃうのが、研究です!! 様々な研究方法を学んでいきましょう。																		
担当者の研究室等	7号館3～5階 各研究室																		
備考	総学習時間の目安は60時間。																		

科目名	基礎演習 I	科目名 (英文)	Second Year Seminar I
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	柏原 郁子
ディプロマポリシー (DP)	DP1Δ, DP6Δ		
科目ナンバリング	LDL2682a0		

授業概要・目的	「基礎演習」では、国際学部で取り組む研究について知る。 「基礎演習 I」では、様々な研究の方法について知る。研究とはどういうものであるのかを知り、またその面白さを実感する。																		
到達目標	人文学的・社会科学的研究を行う上での必要な研究方法の基礎について、説明することができる。またそれらの手法に基づいて、基本的な作業ができる。																		
授業方法と留意点	1クラス当たり20名程度の編成とし、3クラス合同で4つの研究方法について、アクティブラーニング形式で学んでいく。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行う。 【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、3年次に進級できない。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 第1、2回 クラスごとのガイダンスおよび研究について学ぶ 第3～5、6～8、9～11、12～14回 3回ずつに分けて、次の研究方法を学ぶ。 ①図書館やwebを使用した文献収集の方法 ②文献の読み方 ③web上の多様なデータベースや情報を活用した研究の方法 ④インタビュー調査の方法 第15回 クラスごとの総括、成果発表 【事前・事後学習課題】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・発表のための資料作成・準備をする。																		
関連科目	1～4年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	授業および課題への取り組み (100%)																		
学生へのメッセージ	あなたの感性やアイデアを、同級生の誰かと共有して、 「えええ?!」「うあ」「なんで??」「ほんま?」 ってなるの、想像してみよう。 それを、「時代や場所を超えたところにいる誰か」とも出来ちゃうのが、研究です!! 様々な研究方法を学んでいきましょう。																		
担当者の研究室等	7号館3～5階 各研究室																		
備考	総学習時間の目安は60時間。																		

科目名	基礎演習 I	科目名 (英文)	Second Year Seminar I
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	門脇 薫
ディプロマポリシー (DP)	DP1Δ, DP6Δ		
科目ナンバリング	LDL2682a0		

授業概要・目的	「基礎演習」では、国際学部で取り組む研究について知る。 「基礎演習 I」では、様々な研究の方法について知る。研究とはどういうものであるのかを知り、またその面白さを実感する。																		
到達目標	人文学的・社会科学的研究を行う上での必要な研究方法の基礎について、説明することができる。またそれらの手法に基づいて、基本的な作業ができる。																		
授業方法と留意点	1クラス当たり20名程度の編成とし、3クラス合同で4つの研究方法について、アクティブラーニング形式で学んでいく。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行う。 【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、3年次に進級できない。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 第1、2回 クラスごとのガイダンスおよび研究について学ぶ 第3～5、6～8、9～11、12～14回 3回ずつに分けて、次の研究方法を学ぶ。 ①図書館やwebを使用した文献収集の方法 ②文献の読み方 ③web上の多様なデータベースや情報を活用した研究の方法 ④インタビュー調査の方法 第15回 クラスごとの総括、成果発表 【事前・事後学習課題】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・発表のための資料作成・準備をする。																		
関連科目	1～4年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	授業および課題への取り組み (100%)																		
学生へのメッセージ	あなたの感性やアイデアを、同級生の誰かと共有して、「えええ?!」「うあ」「なんで??」「ほんま?」 ってなるの、想像してみよう。 それを、「時代や場所を超えたところにいる誰か」とも出来ちゃうのが、研究です!! 様々な研究方法を学んでいきましょう。																		
担当者の研究室等	7号館3～5階 各研究室																		
備考	総学習時間の目安は60時間。																		

科目名	基礎演習 I	科目名 (英文)	Second Year Seminar I
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	後藤 一章
ディプロマポリシー (DP)	DP1Δ, DP6Δ		
科目ナンバリング	LDL2682a0		

授業概要・目的	「基礎演習」では、国際学部で取り組む研究について知る。 「基礎演習 I」では、様々な研究の方法について知る。研究とはどういうものであるのかを知り、またその面白さを実感する。																		
到達目標	人文学的・社会科学的研究を行う上での必要な研究方法の基礎について、説明することができる。またそれらの手法に基づいて、基本的な作業ができる。																		
授業方法と留意点	1クラス当たり20名程度の編成とし、3クラス合同で4つの研究方法について、アクティブラーニング形式で学んでいく。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行う。 【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、3年次に進級できない。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 第1、2回 クラスごとのガイダンスおよび研究について学ぶ 第3～5、6～8、9～11、12～14回 3回ずつに分けて、次の研究方法を学ぶ。 ①図書館やwebを使用した文献収集の方法 ②文献の読み方 ③web上の多様なデータベースや情報を活用した研究の方法 ④インタビュー調査の方法 第15回 クラスごとの総括、成果発表 【事前・事後学習課題】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・発表のための資料作成・準備をする。																		
関連科目	1～4年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	授業および課題への取り組み (100%)																		
学生へのメッセージ	あなたの感性やアイデアを、同級生の誰かと共有して、 「えええ?!」「うあ」「なんで??」「ほんま??」 ってなるの、想像してみよう。 それを、「時代や場所を超えたところにいる誰か」とも出来ちゃうのが、研究です!! 様々な研究方法を学んでいきましょう。																		
担当者の研究室等	7号館3～5階 各研究室																		
備考	総学習時間の目安は60時間。																		

科目名	基礎演習 I	科目名 (英文)	Second Year Seminar I
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	高橋 真理子
ディプロマポリシー (DP)	DP1Δ, DP6Δ		
科目ナンバリング	LDL2682a0		

授業概要・目的	「基礎演習」では、国際学部で取り組む研究について知る。 「基礎演習 I」では、様々な研究の方法について知る。研究とはどういうものであるのかを知り、またその面白さを実感する。																		
到達目標	人文学的・社会科学的研究を行う上での必要な研究方法の基礎について、説明することができる。またそれらの手法に基づいて、基本的な作業ができる。																		
授業方法と留意点	1クラス当たり20名程度の編成とし、3クラス合同で4つの研究方法について、アクティブラーニング形式で学んでいく。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行う。 【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、3年次に進級できない。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 第1、2回 クラスごとのガイダンスおよび研究について学ぶ 第3～5、6～8、9～11、12～14回 3回ずつに分けて、次の研究方法を学ぶ。 ①図書館やwebを使用した文献収集の方法 ②文献の読み方 ③web上の多様なデータベースや情報を活用した研究の方法 ④インタビュー調査の方法 第15回 クラスごとの総括、成果発表 【事前・事後学習課題】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・発表のための資料作成・準備をする。																		
関連科目	1～4年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	授業および課題への取り組み (100%)																		
学生へのメッセージ	あなたの感性やアイデアを、同級生の誰かと共有して、「えええ?!」「うあ」「なんで??」「ほんま?」 ってなるの、想像してみよう。 それを、「時代や場所を超えたところにいる誰か」とも出来ちゃうのが、研究です!! 様々な研究方法を学んでいきましょう。																		
担当者の研究室等	7号館3～5階 各研究室																		
備考	総学習時間の目安は60時間。																		

科目名	基礎演習 I	科目名 (英文)	Second Year Seminar I
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	橋本 正俊
ディプロマポリシー (DP)	DP1Δ, DP6Δ		
科目ナンバリング	LDL2682a0		

授業概要・目的	「基礎演習」では、国際学部で取り組む研究について知る。 「基礎演習 I」では、様々な研究の方法について知る。研究とはどういうものであるのかを知り、またその面白さを実感する。																		
到達目標	人文学的・社会科学的研究を行う上での必要な研究方法の基礎について、説明することができる。またそれらの手法に基づいて、基本的な作業ができる。																		
授業方法と留意点	1クラス当たり20名程度の編成とし、3クラス合同で4つの研究方法について、アクティブラーニング形式で学んでいく。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行う。 【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、3年次に進級できない。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 第1、2回 クラスごとのガイダンスおよび研究について学ぶ 第3～5、6～8、9～11、12～14回 3回ずつに分けて、次の研究方法を学ぶ。 ①図書館やwebを使用した文献収集の方法 ②文献の読み方 ③web上の多様なデータベースや情報を活用した研究の方法 ④インタビュー調査の方法 第15回 クラスごとの総括、成果発表 【事前・事後学習課題】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・発表のための資料作成・準備をする。																		
関連科目	1～4年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	授業および課題への取り組み (100%)																		
学生へのメッセージ	あなたの感性やアイデアを、同級生の誰かと共有して、「えええ?!」「うあ」「なんで??」「ほんま?」 ってなるの、想像してみよう。 それを、「時代や場所を超えたところにいる誰か」とも出来ちゃうのが、研究です!! 様々な研究方法を学んでいきましょう。																		
担当者の研究室等	7号館3～5階 各研究室																		
備考	総学習時間の目安は60時間。																		

科目名	基礎演習 I	科目名 (英文)	Second Year Seminar I
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	船本 弘史
ディプロマポリシー (DP)	DP1Δ, DP6Δ		
科目ナンバリング	LDL2682a0		

授業概要・目的	「基礎演習」では、国際学部で取り組む研究について知る。 「基礎演習 I」では、様々な研究の方法について知る。研究とはどういうものであるのかを知り、またその面白さを実感する。																		
到達目標	人文学的・社会科学的研究を行う上での必要な研究方法の基礎について、説明することができる。またそれらの手法に基づいて、基本的な作業ができる。																		
授業方法と留意点	1クラス当たり20名程度の編成とし、3クラス合同で4つの研究方法について、アクティブラーニング形式で学んでいく。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行う。 【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、3年次に進級できない。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 第1、2回 クラスごとのガイダンスおよび研究について学ぶ 第3～5、6～8、9～11、12～14回 3回ずつに分けて、次の研究方法を学ぶ。 ①図書館やwebを使用した文献収集の方法 ②文献の読み方 ③web上の多様なデータベースや情報を活用した研究の方法 ④インタビュー調査の方法 第15回 クラスごとの総括、成果発表 【事前・事後学習課題】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・発表のための資料作成・準備をする。																		
関連科目	1～4年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	授業および課題への取り組み (100%)																		
学生へのメッセージ	あなたの感性やアイデアを、同級生の誰かと共有して、「えええ?!」「うあ」「なんで??」「ほんま?」 ってなるの、想像してみよう。 それを、「時代や場所を超えたところにいる誰か」とも出来ちゃうのが、研究です!! 様々な研究方法を学んでいきましょう。																		
担当者の研究室等	7号館3～5階 各研究室																		
備考	総学習時間の目安は60時間。																		

科目名	基礎演習 I	科目名 (英文)	Second Year Seminar I
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	古矢 篤史
ディプロマポリシー (DP)	DP1Δ, DP6Δ		
科目ナンバリング	LDL2682a0		

授業概要・目的	「基礎演習」では、国際学部で取り組む研究について知る。 「基礎演習 I」では、様々な研究の方法について知る。研究とはどういうものであるのかを知り、またその面白さを実感する。																		
到達目標	人文学的・社会科学的研究を行う上での必要な研究方法の基礎について、説明することができる。またそれらの手法に基づいて、基本的な作業ができる。																		
授業方法と留意点	1クラス当たり20名程度の編成とし、3クラス合同で4つの研究方法について、アクティブラーニング形式で学んでいく。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行う。 【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、3年次に進級できない。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 第1、2回 クラスごとのガイダンスおよび研究について学ぶ 第3～5、6～8、9～11、12～14回 3回ずつに分けて、次の研究方法を学ぶ。 ①図書館やwebを使用した文献収集の方法 ②文献の読み方 ③web上の多様なデータベースや情報を活用した研究の方法 ④インタビュー調査の方法 第15回 クラスごとの総括、成果発表 【事前・事後学習課題】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・発表のための資料作成・準備をする。																		
関連科目	1～4年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	授業および課題への取り組み (100%)																		
学生へのメッセージ	あなたの感性やアイデアを、同級生の誰かと共有して、「えええ?!」「うあ」「なんで??」「ほんま?」 ってなるの、想像してみよう。 それを、「時代や場所を超えたところにいる誰か」とも出来ちゃうのが、研究です!! 様々な研究方法を学んでいきましょう。																		
担当者の研究室等	7号館3～5階 各研究室																		
備考	総学習時間の目安は60時間。																		

科目名	基礎演習 II	科目名 (英文)	Second Year Seminar II
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	赤澤 春彦
ディプロマポリシー(DP)	DP1Δ, DP6Δ		
科目ナンバリング	LDL2683a0		

授業概要・目的	「基礎演習」では、国際学部で取り組む研究について知る。 「基礎演習 II」では、「基礎演習 I」に引き続いて様々な研究の方法について知る。研究とはどういうものであるのかを知り、またその面白さを実感する。																		
到達目標	人文学的・社会科学的研究を行う上での必要な研究方法の基礎について、説明することができる。またそれらの手法に基づいて、基本的な作業ができる。																		
授業方法と留意点	1クラス当たり20名程度の編成とし、3クラス合同で4つの研究方法について、アクティブラーニング形式で学んでいく。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行う。 【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、3年次に進級できない。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】</p> <p>第1、2回 クラスごとのガイダンスおよび研究について学ぶ 第3～5、6～8、9～11、12～14回 3回ずつに分けて、次の研究方法を学ぶ。 ①海外の資料・文献の探し方・使い方 ②アンケートを用いた調査の方法 ③フィールドワーク調査の方法 ④視覚資料（写真・絵画など）の活用 第15回 クラスごとの総括、成果発表</p> <p>【事前・事後学習課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・発表のための資料作成・準備をする。 																		
関連科目	1～4年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	授業および課題への取り組み (100%)																		
学生へのメッセージ	あなたの感性やアイデアを、同級生の誰かと共有して、「えええ?!」「うあ」「なんで??」「ほんま?」ってなるの、想像してみよう。 それを、「時代や場所を超えたところにいる誰か」とも出来ちゃうのが、研究です!! 様々な研究方法を学んでいきましょう。																		
担当者の研究室等	7号館3～5階 各研究室																		
備考	総学習時間の目安は60時間。																		

科目名	基礎演習 II	科目名 (英文)	Second Year Seminar II
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小林 基
ディプロマポリシー (DP)	DP1Δ, DP6Δ		
科目ナンバリング	LDL2683a0		

授業概要・目的	「基礎演習」では、国際学部で取り組む研究について知る。 「基礎演習 II」では、「基礎演習 I」に引き続いて様々な研究の方法について知る。研究とはどういうものであるのかを知り、またその面白さを実感する。																		
到達目標	人文学的・社会科学的研究を行う上での必要な研究方法の基礎について、説明することができる。またそれらの手法に基づいて、基本的な作業ができる。																		
授業方法と留意点	1クラス当たり20名程度の編成とし、3クラス合同で4つの研究方法について、アクティブラーニング形式で学んでいく。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行う。 【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、3年次に進級できない。																		
授業テーマ・内容・方法・事前・事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 第1、2回 クラスごとのガイダンスおよび研究について学ぶ 第3～5、6～8、9～11、12～14回 3回ずつに分けて、次の研究方法を学ぶ。 ①海外の資料・文献の探し方・使い方 ②アンケートを用いた調査の方法 ③フィールドワーク調査の方法 ④視覚資料（写真・絵画など）の活用 第15回 クラスごとの総括、成果発表 【事前・事後学習課題】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・発表のための資料作成・準備をする。																		
関連科目	1～4年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	授業および課題への取り組み (100%)																		
学生へのメッセージ	あなたの感性やアイデアを、同級生の誰かと共有して、「えええ?!」「うあ」「なんで??」「ほんま?」ってなるの、想像してみよう。 それを、「時代や場所を超えたところにいる誰か」とも出来ちゃうのが、研究です!! 様々な研究方法を学んでいきましょう。																		
担当者の研究室等	7号館3～5階 各研究室																		
備考	総学習時間の目安は60時間。																		

科目名	基礎演習 II	科目名 (英文)	Second Year Seminar II
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	齋藤 安以子
ディプロマポリシー (DP)	DP1Δ, DP6Δ		
科目ナンバリング	LDL2683a0		

授業概要・目的	「基礎演習」では、国際学部で取り組む研究について知る。 「基礎演習 II」では、「基礎演習 I」に引き続いて様々な研究の方法について知る。研究とはどういうものであるのかを知り、またその面白さを実感する。																		
到達目標	人文学的・社会科学的研究を行う上での必要な研究方法の基礎について、説明することができる。またそれらの手法に基づいて、基本的な作業ができる。																		
授業方法と留意点	1クラス当たり20名程度の編成とし、3クラス合同で4つの研究方法について、アクティブラーニング形式で学んでいく。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行う。 【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、3年次に進級できない。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 第1、2回 クラスごとのガイダンスおよび研究について学ぶ 第3～5、6～8、9～11、12～14回 3回ずつに分けて、次の研究方法を学ぶ。 ①海外の資料・文献の探し方・使い方 ②アンケートを用いた調査の方法 ③フィールドワーク調査の方法 ④視覚資料（写真・絵画など）の活用 第15回 クラスごとの総括、成果発表 【事前・事後学習課題】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・発表のための資料作成・準備をする。																		
関連科目	1～4年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	授業および課題への取り組み (100%)																		
学生へのメッセージ	あなたの感性やアイデアを、同級生の誰かと共有して、「えええ?!」「うあ」「なんで??」「ほんま?」ってなるの、想像してみよう。 それを、「時代や場所を超えたところにいる誰か」とも出来ちゃうのが、研究です!! 様々な研究方法を学んでいきましょう。																		
担当者の研究室等	7号館3～5階 各研究室																		
備考	総学習時間の目安は60時間。																		

科目名	基礎演習 II	科目名 (英文)	Second Year Seminar II
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	杉山 博昭
ディプロマポリシー (DP)	DP1Δ, DP6Δ		
科目ナンバリング	LDL2683a0		

授業概要・目的	「基礎演習」では、国際学部で取り組む研究について知る。 「基礎演習 II」では、「基礎演習 I」に引き続いて様々な研究の方法について知る。研究とはどういうものであるのかを知り、またその面白さを実感する。																		
到達目標	人文学的・社会科学的な研究を行う上での必要な研究方法の基礎について、説明することができる。またそれらの手法に基づいて、基本的な作業ができる。																		
授業方法と留意点	1クラス当たり20名程度の編成とし、3クラス合同で4つの研究方法について、アクティブラーニング形式で学んでいく。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行う。 【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、3年次に進級できない。																		
授業テーマ・内容・方法・事前・事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 第1、2回 クラスごとのガイダンスおよび研究について学ぶ 第3～5、6～8、9～11、12～14回 3回ずつに分けて、次の研究方法を学ぶ。 ①海外の資料・文献の探し方・使い方 ②アンケートを用いた調査の方法 ③フィールドワーク調査の方法 ④視覚資料（写真・絵画など）の活用 第15回 クラスごとの総括、成果発表 【事前・事後学習課題】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・発表のための資料作成・準備をする。																		
関連科目	1～4年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	授業および課題への取り組み (100%)																		
学生へのメッセージ	あなたの感性やアイデアを、同級生の誰かと共有して、「えええ?!」「うあ」「なんで??」「ほんま??」ってなるの、想像してみよう。 それを、「時代や場所を超えたところにいる誰か」とも出来ちゃうのが、研究です!! 様々な研究方法を学んでいきましょう。																		
担当者の研究室等	7号館3～5階 各研究室																		
備考	総学習時間の目安は60時間。																		

科目名	基礎演習 II	科目名 (英文)	Second Year Seminar II
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	田中 悟
ディプロマポリシー (DP)	DP1Δ, DP6Δ		
科目ナンバリング	LDL2683a0		

授業概要・目的	<p>「基礎演習」では、国際学部で取り組む研究について知る。 「基礎演習 II」では、「基礎演習 I」に引き続いて様々な研究の方法について知る。研究とはどういうものであるのかを知り、またその面白さを実感する。</p>																		
到達目標	<p>人文学的・社会科学的研究を行う上での必要な研究方法の基礎について、説明することができる。またそれらの手法に基づいて、基本的な作業ができる。</p>																		
授業方法と留意点	<p>1クラス当たり20名程度の編成とし、3クラス合同で4つの研究方法について、アクティブラーニング形式で学んでいく。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行う。</p> <p>【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、3年次に進級できない。</p>																		
授業テーマ・内容・方法・事前・事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】 第1、2回 クラスごとのガイダンスおよび研究について学ぶ 第3～5、6～8、9～11、12～14回 3回ずつに分けて、次の研究方法を学ぶ。 ①海外の資料・文献の探し方・使い方 ②アンケートを用いた調査の方法 ③フィールドワーク調査の方法 ④視覚資料（写真・絵画など）の活用 第15回 クラスごとの総括、成果発表</p> <p>【事前・事後学習課題】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・発表のための資料作成・準備をする。</p>																		
関連科目	1～4年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	授業および課題への取り組み (100%)																		
学生へのメッセージ	<p>あなたの感性やアイデアを、同級生の誰かと共有して、 「えええ?!」「うあ」「なんで??」「ほんま??」 ってなるの、想像してみよう。 それを、「時代や場所を超えたところにいる誰か」とも出来ちゃうのが、研究です!! 様々な研究方法を学んでいきましょう。</p>																		
担当者の研究室等	7号館3～5階 各研究室																		
備考	総学習時間の目安は60時間。																		

科目名	基礎演習 II	科目名 (英文)	Second Year Seminar II
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	マイケル ハーキー
ディプロマポリシー (DP)	DP1Δ, DP6Δ		
科目ナンバリング	LDL2683a0		

授業概要・目的	「基礎演習」では、国際学部で取り組む研究について知る。 「基礎演習 II」では、「基礎演習 I」に引き続いて様々な研究の方法について知る。研究とはどういうものであるのかを知り、またその面白さを実感する。																		
到達目標	人文学的・社会科学的研究を行う上での必要な研究方法の基礎について、説明することができる。またそれらの手法に基づいて、基本的な作業ができる。																		
授業方法と留意点	1クラス当たり20名程度の編成とし、3クラス合同で4つの研究方法について、アクティブラーニング形式で学んでいく。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行う。 【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、3年次に進級できない。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 第1、2回 クラスごとのガイダンスおよび研究について学ぶ 第3～5、6～8、9～11、12～14回 3回ずつに分けて、次の研究方法を学ぶ。 ①海外の資料・文献の探し方・使い方 ②アンケートを用いた調査の方法 ③フィールドワーク調査の方法 ④視覚資料（写真・絵画など）の活用 第15回 クラスごとの総括、成果発表 【事前・事後学習課題】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・発表のための資料作成・準備をする。																		
関連科目	1～4年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	授業および課題への取り組み (100%)																		
学生へのメッセージ	あなたの感性やアイデアを、同級生の誰かと共有して、「えええ?!」「うあ」「なんで??」「ほんま?」ってなるの、想像してみよう。それを、「時代や場所を超えたところにいる誰か」とも出来ちゃうのが、研究です!! 様々な研究方法を学んでいきましょう。																		
担当者の研究室等	7号館3～5階 各研究室																		
備考	総学習時間の目安は60時間。																		

科目名	基礎演習 II	科目名 (英文)	Second Year Seminar II
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	フーパー トッド
ディプロマポリシー (DP)	DP1Δ, DP6Δ		
科目ナンバリング	LDL2683a0		

授業概要・目的	「基礎演習」では、国際学部で取り組む研究について知る。 「基礎演習 II」では、「基礎演習 I」に引き続いて様々な研究の方法について知る。研究とはどういうものであるのかを知り、またその面白さを実感する。																		
到達目標	人文学的・社会科学的研究を行う上での必要な研究方法の基礎について、説明することができる。またそれらの手法に基づいて、基本的な作業ができる。																		
授業方法と留意点	1クラス当たり 20名程度の編成とし、3クラス合同で4つの研究方法について、アクティブラーニング形式で学んでいく。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行う。 【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、3年次に進級できない。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 第1、2回 クラスごとのガイダンスおよび研究について学ぶ 第3～5、6～8、9～11、12～14回 3回ずつに分けて、次の研究方法を学ぶ。 ①海外の資料・文献の探し方・使い方 ②アンケートを用いた調査の方法 ③フィールドワーク調査の方法 ④視覚資料（写真・絵画など）の活用 第15回 クラスごとの総括、成果発表 【事前・事後学習課題】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・発表のための資料作成・準備をする。																		
関連科目	1～4年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	授業および課題への取り組み (100%)																		
学生へのメッセージ	あなたの感性やアイデアを、同級生の誰かと共有して、「えええ?!」「うあ」「なんで??」「ほんま?」ってなるの、想像してみよう。 それを、「時代や場所を超えたところにいる誰か」とも出来ちゃうのが、研究です!! 様々な研究方法を学んでいきましょう。																		
担当者の研究室等	7号館3～5階 各研究室																		
備考	総学習時間の目安は60時間。																		

科目名	基礎演習Ⅱ	科目名(英文)	Second Year Seminar II
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	藤井 嘉祥
ディプロマポリシー(DP)	DP1△, DP6△		
科目ナンバリング	LDL2683a0		

授業概要・目的	<p>「基礎演習」では、国際学部で取り組む研究について知る。 「基礎演習Ⅱ」では、「基礎演習Ⅰ」に引き続いて様々な研究の方法について知る。研究とはどういうものであるのかを知り、またその面白さを実感する。</p>																		
到達目標	<p>人文学的・社会科学的研究を行う上での必要な研究方法の基礎について、説明することができる。またそれらの手法に基づいて、基本的な作業ができる。</p>																		
授業方法と留意点	<p>1クラス当たり20名程度の編成とし、3クラス合同で4つの研究方法について、アクティブラーニング形式で学んでいく。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行う。</p> <p>【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、3年次に進級できない。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】 第1、2回 クラスごとのガイダンスおよび研究について学ぶ 第3～5、6～8、9～11、12～14回 3回ずつに分けて、次の研究方法を学ぶ。 ①海外の資料・文献の探し方・使い方 ②アンケートを用いた調査の方法 ③フィールドワーク調査の方法 ④視覚資料(写真・絵画など)の活用 第15回 クラスごとの総括、成果発表</p> <p>【事前・事後学習課題】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・発表のための資料作成・準備をする。</p>																		
関連科目	1～4年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	授業および課題への取り組み(100%)																		
学生へのメッセージ	<p>あなたの感性やアイデアを、同級生の誰かと共有して、「えええ?!」「うあ」「なんで??」「ほんま?」ってなるの、想像してみよう。 それを、「時代や場所を超えたところにいる誰か」とも出来ちゃうのが、研究です!!様々な研究方法を学んでいきましょう。</p>																		
担当者の研究室等	7号館3～5階 各研究室																		
備考	総学習時間の目安は60時間。																		

科目名	基礎演習 II	科目名 (英文)	Second Year Seminar II
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	藤原 崇
ディプロマポリシー (DP)	DP1Δ, DP6Δ		
科目ナンバリング	LDL2683a0		

授業概要・目的	「基礎演習」では、国際学部で取り組む研究について知る。 「基礎演習 II」では、「基礎演習 I」に引き続いて様々な研究の方法について知る。研究とはどういうものであるのかを知り、またその面白さを実感する。																		
到達目標	人文学的・社会科学的研究を行う上での必要な研究方法の基礎について、説明することができる。またそれらの手法に基づいて、基本的な作業ができる。																		
授業方法と留意点	1クラス当たり20名程度の編成とし、3クラス合同で4つの研究方法について、アクティブラーニング形式で学んでいく。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行う。 【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、3年次に進級できない。																		
授業テーマ・内容・方法・事前・事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 第1、2回 クラスごとのガイダンスおよび研究について学ぶ 第3～5、6～8、9～11、12～14回 3回ずつに分けて、次の研究方法を学ぶ。 ①海外の資料・文献の探し方・使い方 ②アンケートを用いた調査の方法 ③フィールドワーク調査の方法 ④視覚資料（写真・絵画など）の活用 第15回 クラスごとの総括、成果発表 【事前・事後学習課題】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・発表のための資料作成・準備をする。																		
関連科目	1～4年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	授業および課題への取り組み (100%)																		
学生へのメッセージ	あなたの感性やアイデアを、同級生の誰かと共有して、「えええ?!」「うあ」「なんで??」「ほんま?」ってなるの、想像してみよう。それを、「時代や場所を超えたところにいる誰か」とも出来ちゃうのが、研究です!! 様々な研究方法を学んでいきましょう。																		
担当者の研究室等	7号館3～5階 各研究室																		
備考	総学習時間の目安は60時間。																		

科目名	基礎演習 II	科目名 (英文)	Second Year Seminar II
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	北條 ゆかり
ディプロマポリシー (DP)	DP1Δ, DP6Δ		
科目ナンバリング	LDL2683a0		

授業概要・目的	「基礎演習」では、国際学部で取り組む研究について知る。 「基礎演習 II」では、「基礎演習 I」に引き続いて様々な研究の方法について知る。研究とはどういうものであるのかを知り、またその面白さを実感する。																		
到達目標	人文学的・社会科学的研究を行う上での必要な研究方法の基礎について、説明することができる。またそれらの手法に基づいて、基本的な作業ができる。																		
授業方法と留意点	1クラス当たり 20名程度の編成とし、3クラス合同で4つの研究方法について、アクティブラーニング形式で学んでいく。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行う。 【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、3年次に進級できない。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 第1、2回 クラスごとのガイダンスおよび研究について学ぶ 第3～5、6～8、9～11、12～14回 3回ずつに分けて、次の研究方法を学ぶ。 ①海外の資料・文献の探し方・使い方 ②アンケートを用いた調査の方法 ③フィールドワーク調査の方法 ④視覚資料（写真・絵画など）の活用 第15回 クラスごとの総括、成果発表 【事前・事後学習課題】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・発表のための資料作成・準備をする。																		
関連科目	1～4年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	授業および課題への取り組み (100%)																		
学生へのメッセージ	あなたの感性やアイデアを、同級生の誰かと共有して、「えええ?!」「うあ」「なんで??」「ほんま?」ってなるの、想像してみよう。それを、「時代や場所を超えたところにいる誰か」とも出来ちゃうのが、研究です!! 様々な研究方法を学んでいきましょう。																		
担当者の研究室等	7号館3～5階 各研究室																		
備考	総学習時間の目安は60時間。																		

科目名	基礎演習 II	科目名 (英文)	Second Year Seminar II
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	森 類臣
ディプロマポリシー (DP)	DP1Δ, DP6Δ		
科目ナンバリング	LDL2683a0		

授業概要・目的	<p>「基礎演習」では、国際学部で取り組む研究について知る。 「基礎演習 II」では、「基礎演習 I」に引き続いて様々な研究の方法について知る。研究とはどういうものであるのかを知り、またその面白さを実感する。</p>																		
到達目標	<p>人文学的・社会科学的研究を行う上での必要な研究方法の基礎について、説明することができる。またそれらの手法に基づいて、基本的な作業ができる。</p>																		
授業方法と留意点	<p>1クラス当たり20名程度の編成とし、3クラス合同で4つの研究方法について、アクティブラーニング形式で学んでいく。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行う。</p> <p>【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、3年次に進級できない。</p>																		
授業テーマ・内容・方法・事前・事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】 第1、2回 クラスごとのガイダンスおよび研究について学ぶ 第3～5、6～8、9～11、12～14回 3回ずつに分けて、次の研究方法を学ぶ。 ①海外の資料・文献の探し方・使い方 ②アンケートを用いた調査の方法 ③フィールドワーク調査の方法 ④視覚資料（写真・絵画など）の活用 第15回 クラスごとの総括、成果発表</p> <p>【事前・事後学習課題】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・発表のための資料作成・準備をする。</p>																		
関連科目	1～4年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	授業および課題への取り組み (100%)																		
学生へのメッセージ	<p>あなたの感性やアイデアを、同級生の誰かと共有して、「えええ?!」「うあ」「なんで??」「ほんま?」ってなるの、想像してみよう。 それを、「時代や場所を超えたところにいる誰か」とも出来ちゃうのが、研究です!! 様々な研究方法を学んでいきましょう。</p>																		
担当者の研究室等	7号館3～5階 各研究室																		
備考	総学習時間の目安は60時間。																		

科目名	基礎演習 II	科目名 (英文)	Second Year Seminar II
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	大谷 侑也
ディプロマポリシー (DP)	DP1Δ, DP6Δ		
科目ナンバリング	LDL2683a0		

授業概要・目的	「基礎演習」では、国際学部で取り組む研究について知る。 「基礎演習 II」では、「基礎演習 I」に引き続いて様々な研究の方法について知る。研究とはどういうものであるのかを知り、またその面白さを実感する。																		
到達目標	人文学的・社会科学的研究を行う上での必要な研究方法の基礎について、説明することができる。またそれらの手法に基づいて、基本的な作業ができる。																		
授業方法と留意点	1クラス当たり20名程度の編成とし、3クラス合同で4つの研究方法について、アクティブラーニング形式で学んでいく。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行う。 【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、3年次に進級できない。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 第1、2回 クラスごとのガイダンスおよび研究について学ぶ 第3～5、6～8、9～11、12～14回 3回ずつに分けて、次の研究方法を学ぶ。 ①海外の資料・文献の探し方・使い方 ②アンケートを用いた調査の方法 ③フィールドワーク調査の方法 ④視覚資料（写真・絵画など）の活用 第15回 クラスごとの総括、成果発表 【事前・事後学習課題】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・発表のための資料作成・準備をする。																		
関連科目	1～4年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	授業および課題への取り組み (100%)																		
学生へのメッセージ	あなたの感性やアイデアを、同級生の誰かと共有して、「えええ?!」「うあ」「なんで??」「ほんま??」ってなるの、想像してみよう。 それを、「時代や場所を超えたところにいる誰か」とも出来ちゃうのが、研究です!! 様々な研究方法を学んでいきましょう。																		
担当者の研究室等	7号館3～5階 各研究室																		
備考	総学習時間の目安は60時間。																		

科目名	基礎演習Ⅱ	科目名(英文)	Second Year Seminar II
学部	国際学部	学科	国際学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	鳥居 祐介
ディプロマポリシー(DP)	DP1Δ, DP6Δ		
科目ナンバリング	LDL2683a0		

授業概要・目的	<p>「基礎演習」では、国際学部で取り組む研究について知る。 「基礎演習Ⅱ」では、「基礎演習Ⅰ」に引き続いて様々な研究の方法について知る。研究とはどういうものであるのかを知り、またその面白さを実感する。</p>																		
到達目標	<p>人文学的・社会科学的研究を行う上での必要な研究方法の基礎について、説明することができる。またそれらの手法に基づいて、基本的な作業ができる。</p>																		
授業方法と留意点	<p>1クラス当たり20名程度の編成とし、3クラス合同で4つの研究方法について、アクティブラーニング形式で学んでいく。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行う。</p> <p>【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、3年次に進級できない。</p>																		
授業テーマ・内容・方法・事前・事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法】 第1、2回 クラスごとのガイダンスおよび研究について学ぶ 第3～5、6～8、9～11、12～14回 3回ずつに分けて、次の研究方法を学ぶ。 ①海外の資料・文献の探し方・使い方 ②アンケートを用いた調査の方法 ③フィールドワーク調査の方法 ④視覚資料(写真・絵画など)の活用 第15回 クラスごとの総括、成果発表</p> <p>【事前・事後学習課題】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・発表のための資料作成・準備をする。</p>																		
関連科目	1～4年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	授業および課題への取り組み(100%)																		
学生へのメッセージ	<p>あなたの感性やアイデアを、同級生の誰かと共有して、「えええ?!」「うあ」「なんで??」「ほんま?」ってなるの、想像してみよう。 それを、「時代や場所を超えたところにいる誰か」とも出来ちゃうのが、研究です!! 様々な研究方法を学んでいきましょう。</p>																		
担当者の研究室等	7号館3～5階 各研究室																		
備考	総学習時間の目安は60時間。																		